公益財団法人

日本野球連盟
連盟報
2026

JABA
FAIR AND SQUARE
―正々堂々と。―



JAPAN AMATEUR
BASEBALL ASSOCIATION

公益財団法人 日本野球連盟
https://www.jaba.or.jp/ E-mail baseball@jaba.or.jp

スポーツくじ WINNER toto BIG
この事業は、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しています。

ヤマハ株式会社

文化系？
いやいや余裕で、
体育会系です！



音楽って、めんどくさい。

だから、好き。

YAMAHA
Make Waves

決勝戦　21年ぶりに優勝し、スタンドの声援に応える王子の選手たち



第96回
都市対抗
野球大会
決勝戦

王子 21年ぶりの 栄冠



決勝戦　黒獅子旗を受け取る
王子の宝島主将

決勝戦　本田記念メダルを授与される王子の選手たち



決勝戦　春日井市（王子）―岡崎市（三菱自動車岡崎）
八回表王子1死満塁、吉岡が犠飛を放つ





決勝戦　春日井市（王子）―岡崎市（三菱自動車岡崎）
力投する王子の先発・樋口

第96回
都市対抗
野球大会
決勝戦

史上初の愛知決戦
プライド激突

決勝戦　春日井市（王子）―岡崎市（三菱自動車岡崎）
力投する三菱自動車岡崎の先発・秋山翔





決勝戦　春日井市（王子）―岡崎市（三菱自動車岡崎）
四回裏三菱自動車岡崎1死一、二塁、
適時打を放ち塁上で声を上げる大手



準決勝　岡崎市（三菱自動車岡崎）―大阪市（日本生命）
六回裏日本生命2死一塁、打者・木倉の時、
一塁走者・松本（右）が二盗に成功



準決勝　岡崎市（三菱自動車岡崎）―大阪市（日本生命）
三回表三菱自動車岡崎2死二塁、平野が適時打を放つ

第96回
都市対抗
野球大会
準決勝

好投、快音
ハイレベルな戦い



準決勝　春日井市（王子）―浜松市（ヤマハ）
八回表王子2死一、二塁、細川の適時打で
生還した高垣（右）



準決勝　春日井市（王子）―浜松市（ヤマハ）
九回裏ヤマハ1死、右越え本塁打を放ち、声を上げる大本



横浜市（ENEOS）―千葉市（JFE東日本）

延長タイブレーク十一回裏JFE東日本1死一、二塁、サヨナラとなる適時二塁打を放ち喜ぶ平山（左から2人目）ら

第96回
都市対抗
野球大会

延長、サヨナラ、逆転
好ゲーム続々



マイナビキッズデーでヒーローインタビューを行う小学生



門真市（パナソニック）―春日井市（王子）

六回表パナソニック2死満塁、浦（手前）が3点三塁打を放ち、喜ぶパナソニックのベンチ



そろいのタオルを手に盛り上がるJR東日本東北のスタンド



応援団コンクールで最優秀賞に輝いたJFE西日本の応援団

札幌市（JR北海道クラブ）―鹿嶋市（日本製鉄鹿島）

八回表JR北海道クラブ2死一、三塁、打者・松井の時、捕逸の間に三塁走者・石川（右）が生還



大歓声で選手を後押し チーム、スタンドが一体に



大阪市（NTT西日本）―横浜市（三菱重工East）

九回表NTT西日本1死一塁、北條が2点本塁打を放つ



大阪市（NTT西日本）―横浜市（三菱重工East）

力投する三菱重工Eastの先発・本間



決勝戦　日本生命―ヤマハ
優勝し喜ぶヤマハの選手たち。
中央は完投した佐藤

第50回
社会人野球
日本選手権
大会

決勝戦　日本生命―ヤマハ
五回表ヤマハ1死満塁、
矢幡の右前打で生還し喜ぶ土山（右）

栄冠





決勝戦　日本生命―ヤマハ
八回裏日本生命1死一、三塁、竹村が適時打を放つ



決勝戦　日本生命―ヤマハ
力投する日本生命の真野

ヤマハ
8大会ぶりの



準々決勝　三菱自動車岡崎―NTT東日本
一回裏NTT東日本2死一、二塁、中村が適時打を放つ

準決勝　NTT西日本―日本生命
七回裏NTT西日本2死満塁、藤井の中前打で生還する成瀬





準々決勝　NTT西日本―Honda熊本
五回表Honda熊本2死一、三塁、打者・井上の時、江崎が重盗を決める（捕手・辻本）



1回戦　FedEx―NTT西日本
三回裏のピンチを無失点に抑えて喜ぶFedExの金井（右）



決勝戦
優勝し喜ぶ
マツゲン箕島の選手たち

第49回
全日本
クラブ野球
選手権大会

マツゲン箕島
2年連続7回目V



決勝戦　七回裏大和高田クラブ1死二塁、
適時打を放ち喜ぶ西浦（右）



準決勝　力投する福岡トヨタFTサンダース
先発の増木



準決勝　試合中に円陣を組む
兵庫県警桃太郎の選手たち

昨年をしのぐ熱いシーズンに期待

公益財団法人 日本野球連盟　会 長 清野 智



２０２５年は、まさに激動の1年でした。いわゆる「トランプ関税」による世界経済の混乱、不安定さが増す一方の中東情勢、国内でもエネルギーやコメ価格の高騰、夏の記録的猛暑、日本初の女性首相となる高市早苗内閣の発足――などなど、歴史の転換点を思わせる1年だったといえるでしょう。

そのような波乱の時期にあっても、社会人野球はすべての大会を無事に実施することができました。これも関係者の皆さまのご尽力によるものと厚く感謝いたします。

ＪＡＢＡ主催三大大会を振り返りますと、第96回都市対抗野球大会は春日井市・王子が21年ぶりに優勝し、２度目の黒獅子旗を手にしました。前年までクラブチームに所属していた九谷瑠投手が先発・救援にフル回転して橋戸賞に輝きました。

第49回全日本クラブ野球選手権大会は初の四国開催となる愛媛県で行われ、マツゲン箕島が２大会連続７回目の優勝を果たしました。大会は今年、第50回の節目を迎えることを記念して準決勝・決勝の3試合を東京ドームで行います。

秋の第50回社会人野球日本選手権大会ではヤマハが８大会ぶり２回目の優勝を飾りました。エースの佐藤廉投手が全5試合に登板と大車輪の活躍を見せました。また第50回の記念大会として「レジェンド始球式」など様々な企画を試み、お客さまに楽しんでいただきました。

都市対抗は王子、日本選手権はヤマハが優勝と東海勢の強さが目立つシーズンでした。日本選手権対象ＪＡＢＡ大会も11大会中６大会を東海勢が制しています。２０２６年は他地区のチームの皆さんにも奮起していただき、前年以上の熱いシーズンとなることを期待したいと思います。

また、今年の秋には愛知県でアジア競技大会が開かれ、野球競技には川口朋保監督が率いる社会人日本代表が出場します。地元大会で金メダルを獲得すべく、社会人野球界全体で代表チームをバックアップしてまいりましょう。

結びに加盟団体・企業・チーム、関係者の皆さまのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げて、ご挨拶といたします。

目次

◆巻頭の辞……1
◆第96回都市対抗野球大会……4
◇大会成績……6
◇対戦成績……46
◇決勝戦一覧……50
◇輝く四賞……51
◇代表チーム登録メンバー……53
◇地方予選成績……59
◆第50回社会人野球日本選手権大会……79
◇大会成績……80
◇対戦成績……121
◇決勝戦一覧……127
◇四賞選手……128
◇地方予選成績……130
◆第49回全日本クラブ野球選手権大会……140
◇大会成績……140
◇対戦成績……145
◇決勝戦一覧……146
◇地方予選成績……147
◆第79回東京スポニチ大会……152
◇大会成績……158
◇決勝戦一覧……159
◆第71回静岡大会……160
◇大会成績……166
◇決勝戦一覧……167
◆第53回四国大会……168
◇大会成績……174
◇決勝戦一覧……175
◆第67回岡山大会……176
◇大会成績……183
◇決勝戦一覧……183
◆第47回日立市長杯選抜野球大会……184
◇大会成績……190
◇優勝チーム一覧……191
◆第75回京都大会……192
◇大会成績……198
◇決勝戦一覧……199
◆第77回ベーブルース杯大会……200
◇大会成績……206
◇決勝戦一覧……207
◆第77回九州大会……208
◇大会成績……214
◇決勝戦一覧……215
◆第55回東北大会……216
◇大会成績……222
◇決勝戦一覧……223
◆第66回北海道大会……224
◇大会成績……230
◇決勝戦一覧……231
◆第66回長野県知事旗争奪大会……232
◇大会成績……238
◇決勝戦一覧……239
◆2025年JABA地方大会……240
◆第8回WBSC U-12ワールドカップ……254
◆第12回BFA U-15アジア選手権……257
◆第31回BFA アジア選手権……260
◆2025アジアウインターリーグ……263
◆2025社会人野球表彰……269
◇社会人野球ベストナイン一覧……273
◆2025年、社会人野球を振り返る……277
◆「東海強し」の1年 ルーキーが躍動
JABAアスリート委員会委員長　坂口裕之……278
◆2025地区連盟だより……279
◆ティーボール・野球教室……309
◆日本少年野球連盟……313
◆日本リトルリーグ野球協会……316
◆日本リトルシニア中学硬式野球協会……319
◆日本中学生野球連盟……321
◆全日本少年硬式野球連盟……323
◆日本ポニーベースボール協会……325
◆2025年度事業報告……330
◆2026年度事業計画……363

表紙

第96回都市対抗大会・決勝戦。優勝し喜ぶ春日井市・王子の選手たち（写真提供＝毎日新聞社）

日本野球連盟連盟報二〇二六

春日井市・王子が21年ぶりV

第96回　都市対抗野球大会



【春日井市（王子）―岡崎市（三菱自動車岡崎）】岡崎市を降して優勝し、マウンドに集まって喜ぶ春日井市の選手たち

橋戸賞に九谷瑠投手
先発、救援でフル回転

第96回都市対抗野球大会（主催・毎日新聞社、日本野球連盟、後援・総務省、スポーツニッポン新聞社、共同通信社）は、8月28日から9月8日までの12日間、東京ドームで行われた。前回覇者の横浜市・三菱重工Ｅａｓｔと大阪市・ＮＴＴ西日本との開幕戦を皮切りに、全32チームが黒獅子旗を目指して、熱戦を展開。春日井市・王子が第75回大会（２００４年）以来、21年ぶり2回目の優勝を果たした。

王子は右腕・九谷瑠投手と新人左腕・樋口新投手の2本柱が活躍。5試合で失策1という堅守が優勝を支えた。史上初、愛知勢同士の対決となった決勝は先発・樋口新投手が試合を作ると、八回に連打と敵失で追いつき、吉岡郁哉選手の犠飛で勝ち越しに成功。六回から救援した九谷瑠投手が反撃の芽を封じた。

橋戸賞には2試合で先発し、救援2試合を含め計23回とフル回転した九谷瑠投手が選ばれた。

大会は例年より1カ月ほど遅い日程で始まった。開会式では全32チームの選手たちがグラウンドに整列した。日本野球連盟の清野智会長が「選手の皆さんの日焼けした精悍（せいかん）な顔を見ると、大会への期待が高まる。真摯（しんし）なプレーは必ず、会社や地域に勇気、元気を与えてくれると信じている」とあいさつした。

横浜市・三菱重工Ｅａｓｔの矢野幸耶（ゆきや）主将が「夢中になってプレーする姿で皆さまを魅了し、感動を与えます。郷土を代表する誇りを持ち、野球界の発展と企業の成長に貢献することを目指します」と選手宣誓した。



開会式で選手宣誓をする横浜市（三菱重工Ｅａｓｔ）の矢野幸耶主将

マイナビキッズデー
子どもたちの笑顔あふれる

9月6、7日の土日は「マイナビキッズデー」と銘打って多彩な子ども向けファンサービスを実施し、９２３人の応募の中から選ばれた89人が参加した。社会人野球の魅力を知ってもらう「バックヤードツアー&野球勉強会」では、普段は入れないバックヤードを見学。野球勉強会ではバルセロナ、アトランタ、シドニー五輪代表で元日本生命監督の杉浦正則氏と元東京ガス監督の菊池壮光氏が講師を務め、参加者親子に試合のポイントなどを解説した。参

東京ドームで野球体験
王貞治さん、栗山英樹さんも視察

野球に親しんでもらおうと、大会期間中に小学1～3年生の児童と保護者を対象にした「グラウンドで遊ぼう」を東京ドームで開催した。野球振興事業などを企画、運営する「球心会」の王貞治代表と栗山英樹副代表も訪れ、約400人の参加者にメッセージを送った。

都市対抗野球大会の準決勝前に開かれた。普段はなかなか入れない東京ドームのグラウンドに立った子どもたちは目を輝かせ、キャッチボールやベースランニング、ティーボールを楽しんだ。

王代表は「せっかくの機会なので思いきって体を動かして。ボールを壊すくらいの気持ちで（バットを）振ってみてください。楽しいですよ」とあいさつ。日本代表前監督の栗山副代表は「将来、王さんや大谷翔平を超えるような選手がこの中から出てくれることを願っています」と語った。

王代表は視察後に取材に応じ、「野球人口が減っているからこそこういう機会が大事になる。親子で参加してもらい共通の話題ができて、今日も家に帰ってからいろいろな話ができると思う。スポーツ界を挙げて取り組んでいきたい」と意欲を示した。


野球勉強会で参加者に話をする杉浦正則氏

加者はその後、試合をスタンドで観戦し、試合後は試合後の勝利監督への「取材」も行い、最後は講師役との質疑応答も行った。また子どもたちは試合終了後のヒーローインタビュー体験や五回終了時のグラウンドでの「かけっこ」、試合前の選手紹介時のエスコートキッズ、試合前の始球式も務めた。試合前にはチアダンススクール「ファイブスターズダンススタジオ」のキッズチアリーダーたちがグラウンドで演技を披露した。マイナビキッズデーの2日間は特別席や外野席などの当日券の「こども料金」を無料に。1階コンコース一塁側奥のキッズスペース「あそびば」を開放し、野球観戦に来た子どもたちが休憩をしたり、体を動かせるスペースを設けた。球場外では野球体験ブースを設置し、ティーボールやボール当てを実施。多くの子どもたちの笑顔があふれる2日間となった。

応援団コンクール
最優秀賞はJFE西日本

都市対抗名物「応援団コンクール」を実施。1回戦の16試合が審査対象で、五回終了後に「SHOW TIME」と題し、両チームの応援団がそれぞれ2分間、パフォーマンスを披露した。コンクールの模様は東京ドームのビジョンや、毎日新聞デジタルの特設ページでライブ配信された。

60回目の節目に最優秀賞に輝いたのはJFE西日本（福山市・倉敷市）。福山のアイヤ節や倉敷の源平太鼓など、試合を通じて一つの物語のように展開した応援が印象的だったと評価された。JR東日本東北（仙台市）が優秀賞、西濃運輸（大垣市）が敢闘賞、JR東日本（東京都）がファン投票によるMIC（Most Impressive Cheer）賞にそれぞれ選ばれた。

「地域の元気」表彰式
門真市に総務大臣賞

社会人野球を通じて地域を盛り上げた自治体を表彰する「地域の元気 総務大臣賞」に門真市が選ばれた。賞は今回で11回目。近畿からの選出は初めて。

門真市は拠点を置くパナソニックの企業城下町として発展したが1990年以降は人口が減少傾向になり、2024年には「消滅可能性自治体」と指摘された。市は19年にパナソニック野球部と連携協定を結び、青少年の健全育成やスポーツを通じた地域活性化を進めてきた。28日の開会式では村上誠一郎総務相から宮本一孝市長に表彰状が贈られた。宮本市長はパナソニック野球部が地域の高齢者とも交流していることを紹介し、「高齢者や子どもたちと交流する中で、地域の元気につなげることができれば」とあいさつした。

10年連続出場選手

各試合前に10年連続出場選手が主催社から表彰された。今年から大会協賛社のラキールから副賞も贈呈された。表彰された選手は次の通り。

大野亨輔投手（横浜市・三菱重工East）北川利生外野手（さいたま市・日本通運）菊池大樹投手（高松市・JR四国、四国銀行から補強）渡辺和哉捕手（東京都・JR東日本）北村祥治内野手（豊田市・トヨタ自動車）河原右京内野手（豊田市・トヨタ自動車）畔上翔内野手（鈴鹿市・Honda鈴鹿）辻野雄大捕手（東京都・Honda）下川知弥内野手（東京都・Honda、NTT東日本から補強）▽斎藤弘志投手（門真市・パナソニック、日本新薬から補強）稲垣翔太外野手（大津町・Honda熊本）田村強内野手（広島市・JR西日本）

横浜市・連覇の夢消える

◇第1日（8月28日）　開幕試合があり、前回大会8強の大阪市・NTT西日本が前回王者の横浜市・三菱重工Eastに2―1で勝利し、2年連続で2回戦に進んだ。横浜市は、2012、13年の横浜市・JX―ENEOS（現ENEOS）以来となる史上6チーム目（7回目）の連覇はならなかった。前回優勝チームが初戦で敗れるのは、第92回大会（21年）の狭山市・Honda以来、4年ぶり。

大阪市、王者破る

▽第1試合＝1回戦

大阪市（NTT西日本）	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
横浜市（三菱重工East）	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

大阪市が投手戦を制した。九回に1死から北條が均衡を破る2ランを放った。先発の浜崎は六回途中まで無失点と好投し、救援した渡辺、大江も崩れなかった。横浜市は先発の本間が5回無失点と好投。投手陣が踏ん張ったものの、打線は九回に1点を返すのが精いっぱいだった。

NTT西日本、補強・北條が値千金2ラン

大きな放物線が左翼へと伸びていった。0―0の九回1死一塁、大阪市の7番・北條史也が放った決勝2ラン。プロ野球・阪神でも活躍した殊勲者は「よくてフェンス直撃かなと思っていた。たまたまです」とはにかんだ。

打線は横浜市の投手陣からあと一本が出ずに苦しんでいた。「なかなか均衡が破れなかった。仕掛けていくしかない」と大阪市の河本泰浩監督。八回には盗塁をたびたび仕掛け、試合を動かそうと試みた。

九回の北條へのサインもヒットエンドラン。代わったばかりの速球派・野中太陽に対し、河本監督は「スピードボールを大振りすると捉えられない」と考えた。

これに北條が応えた。2ボール1ストライクから、浮いた変化球をコンパクトなスイングで引っ張った。「（上から）たたこうと思って」。そんな思惑で最上級の結果を出した。

都市対抗大会での東京ドーム通算2100本塁打のメモリアルな一発は、チームにとっても大きな得点になった。

北條は社会人入りして2年目。自チームの三菱重工Westは予選で敗退したが、昨年も東京ドームで活躍した勝負強さを買われて補強選手に



【大阪市（NTT西日本）―横浜市（三菱重工East）】九回表大阪市1死一塁、北條史也が2点本塁打を放つ

大阪市	打	安	点	振	球
⑧ 串畑	3	2	0	0	0
⑥ 成瀬	4	0	0	1	0
D ⑤ 天井田	2	0	0	0	1
H 5 ③ 山田井	2	1	0	0	0
酒川	1	0	0	0	0
吉田村	4	1	0	0	0
浜中	3	1	0	1	1
⑦ ④ 北條	3	1	1	2	0
4 ② 後藤	3	0	0	2	0
⑨ 辻本井	4	1	0	1	0
犠盗失併残					
1 2 1 2 7	31	9	2	4	4

横浜市	打	安	点	振	球
⑥ 矢野	4	0	0	1	0
⑨ 7 汐月	3	2	0	0	1
⑧ 武田	3	0	0	2	1
D 小柳	3	0	0	0	1
⑦ 江越海	1	0	0	0	0
9 八戸	1	0	0	0	1
③ 中山	3	1	0	0	1
⑤ 中前	2	0	0	0	0
H 江越啓	1	0	0	0	0
5 南	0	0	0	0	0
H 印出	1	0	0	0	0
HR ② 白石	0	1	0	0	0
④ 対馬	4	1	0	1	0
川久保	4	0	0	1	0
犠盗失併残					
1 0 0 3 8	30	5	1	5	5

投手	回	打	安	振	球	責
浜崎	5⅔	24	4	5	0	0
渡辺	⅓	1	0	0	0	0
大江	3	11	3	1	0	1
本間	5	20	3	3	3	0
長島	3	11	3	1	1	0
野中	1	5	3	0	0	2

▽本塁打　北條1号②（野中）▽二塁打　汐月2、八戸、天井時（野中）、串畑、成瀬▽試合時間　2時47分▽審判（球審）高橋、（塁審）田中、菊川、小島、太田▽盗塁　成瀬▽失策　串畑



【大阪市（ＮＴＴ西日本）―横浜市（三菱重工Ｅａｓｔ）】力投する横浜市の先発・本間大暉

選ばれた。

社会人野球の水にも慣れてきた。本塁打の場面もダイヤモンドを走っていたから、スタンドインの瞬間は見ていない。脚がつっていたといい、全力疾走はできなかったが、一球に懸ける思いを体現した。

チームが掲げるテーマは「ポジティブ」。失敗があっても下を向かず、前を向き続ける姿勢を大事にする。この試合、盗塁失敗やミスもあったが、積極策を繰り出し続けた。

横浜市・三菱重工Ｅａｓｔ、エース力投実らず

「勝つのって本当に難しいことなんだな」

試合後、前回大会で橋戸賞（最優秀選手賞）を獲得した横浜市の先発・本間大暉はかみしめるように話した。昨夏、日本一まで駆け上がった横浜市は初戦ではね返された。

一回は先頭打者に安打を浴び、直後の打者から空振り三振を奪ったが、死球を与えるなどリズムに乗れずに1死一、二塁のピンチを背負った。

大阪市の4番・山田峻士との勝負を迎えたが、「この一打、という場面を抑えきれる投手を目指している」とギアを入れた。外角低めの速球で遊ゴロ併殺に打ち取り、窮地をしのいだ。

その後も四回まで毎回走者を背負いながら得点は許さず、エースの貫禄を見せつけた。

ただ、初戦の緊張もあったか、味方打線からもなかなか「みんないつも通り、ポジティブにやってくれた」と河本監督。やるべきことを貫いた先に、前回王者からの白星が待っていた。

あと一本が出なかった。2点を追う九回には中山遥斗、代打のルーキー・印出太一が連打で好機を作った。ベテランの対馬和樹が適時打を放って1点を返す意地を見せたが、届かなかった。

試合後、本間は「攻撃に流れを持ってこられなかったのは、僕の投球のリズムや勢い不足だった」と責任を背負った。

推薦出場のため予選が免除となった。「予選って正直苦しい。それを乗り越えたチームと何もしないで戦うのは気持ちの面で負けてしまう」。本間は夏場に多い日で1日20㌔弱の走り込みを行うなど心身を鍛えてきた。開幕投手を託され、エースの気概は確かに見せた。

「僕たちは常勝チームを目指している。去年はいい思いをしたが、今回は悔しい思いをした。またここから一つ、強くなっていきたい」。本間は最後までうつむくことはなかった。

ビデオ検証要求、一回の判定覆る

開幕試合の一回から紙一重の攻防が繰り広げられた。大阪市は一回、先頭の串畑勇誠が左前打で出塁すると、1死から3番打者の2球目で二盗を仕掛けた。ギリギリのタイミングで一度は「アウト」と判定されたが、河本泰浩監督がビデオ検証を要求。判定は覆って「セーフ」となった。

都市対抗では第92回大会（２０２１年）でビデオ検証が初めて導入され、前回大会からは全ての塁でのアウト、セーフの判定などに対象が拡大された。

その後、大阪市は1死一、二塁まで好機を広げたが、昨年の橋戸賞左腕、横浜市の本間大暉投手が冷静に併殺で窮地をしのいだ。



◇**第2日**（8月29日）

1回戦3試合があった。姫路市・日本製鉄瀬戸内は、さいたま市・日本通運の追い上げを振り切り、チーム名が新日鉄広畑だった第82回大会以来となる14年ぶりの白星を挙げた。前回大会8強のさいたま市は5年ぶりに初戦で敗れた。岡崎市・三菱自動車岡崎は高松市・JR四国に逆転勝ちし、2年ぶりに2回戦に進んだ。ともに優勝経験のあるチーム同士の対戦となった第3試合は、東京都・JR東日本が川崎市・東芝にサヨナラ勝ちし、4強入りした第94回大会以来2年ぶりに初戦を突破した。

姫路市・14年ぶり白星

▽第1試合＝1回戦

姫路市（日本製鉄瀬戸内）	1	1	0	2	0	0	0	0	0	**4**
さいたま市（日本通運）	0	0	0	0	1	2	0	0	0	**3**

姫路市は一回、内倉の適時打で先制。二回は福井の中前適時打、四回にも福井の左中間への2点二塁打で加点した。先発左腕・杉本は要所を締めて5回1失点と好投。さいたま市は六回に代打・木下の適時二塁打と木村の犠飛で1点差まで追い上げたが、終盤の好機を生かせなかった。

日鉄瀬戸内、「左対左」お手本打撃

野球にはセオリーが多い。そのうちの一つが「左打者には左投手をぶつける」だが、スタメン9人に左打者6人が並んだ姫路市打線にその手法は通用しない。左打者たちが奮闘し、さいたま市の好左腕・相馬和磨を打ち崩した。

象徴的だったのは1―0で迎えた二回2死三塁の場面だ。左打者の8番・福井圭祐は背中側から曲がってくるスライダーをじっくりと引きつけ、中前にはじき返す適時打とした。

「左対左」のお手本のような打撃だ。「引っ張りにかかっては駄目。センター中心に、ショートの頭を越えるイメージだった」と福井。2点リードの四回は真ん中付近の球を中堅左に運び、2点二塁打とした。

チームは相馬が四回途中に降板するまで計7安打を浴びせた。そのうち5安打は左打者によるもの。さいたま市の沢村幸明監督を「甘く入ったところをうまくシャープに打たれた。良い打線だった」と嘆かせた。相馬から挙げた4点を生かして逃げ切った。

さいたま市は相馬と本格派右腕・冨士隼斗が左右の二枚看板だ。沢村監督は初戦を相馬に託した理由として、姫路市打線の左打者の多さを挙げた。

だが、それは姫路市の望むところだった。今年の近畿2次予選では先発オーダーに左打者が7人並んでいたこともある。普段から左投手をぶつけられることが多いといい、福井は「左投手が来ることは常に想定している。元々は苦手だったが、経験を重ねたので今は嫌じゃない」と話す。

チームでは打撃練習から左投手を念頭に置き、左打者が右足をしっかりと踏み込み、中堅から逆方向にライナー性の打球を飛ばすことを徹底する。練習と試合で試行錯誤を積み重ね、苦手意識をなくしてきた。

沢村監督との熊本工高の同級生対決を制した米田真樹監督は「今までやってきたことが素直に出た」と穏やかな顔で振り返った。

自星は14年ぶり。当時は東日本大震災の影響により京セラドーム大阪での開催で、東京ドームでの勝利は2006年までさかのぼる。伝統ある「広畑」からチーム名を改めて2シーズン目。「瀬戸内」として待望の1勝は、常勝への確かな自信となるに違いない。



【姫路市（日本製鉄瀬戸内）―さいたま市（日本通運）】二回表姫路市2死三塁、福井圭祐が適時打を放つ

姫路市

	打	安	点	振	球
④ 市中内	0	0	0	0	0
⑧ 田銭内	0	0	0	0	0
⑤ 岡谷倉	0	0	0	0	0
③ 田川井	0	0	0	0	0
⑦ 原沢木	4	1	0	2	0
⑨ 広山井	4	1	0	2	0
D 猪野瀬	3	1	0	0	0
H 小山川	2	0	0	0	0
佐下田	0	0	0	0	0
② 福本井	2	0	0	0	0
⑥ 川瀬剛	2	0	0	0	0
6 朝日	0	0	0	0	0
犠盗失併残					
1 0 1 0 4	34	8	4	12	0

さいたま市

	打	安	点	振	球
④ 添田	5	2	0	1	0
⑧ 手銭	2	0	0	0	1
H 大谷	1	0	0	1	0
⑨ 北川	5	2	1	1	0
D 沢山	4	0	0	1	0
⑦ 横野	2	0	0	0	0
H 平山	2	2	0	0	0
③ 内下	2	0	0	0	0
H 木里	1	0	0	0	0
R 3 西垣	1	0	0	0	0
⑤ 稲村	3	1	0	1	0
⑥ 木空	1	0	0	0	2
② 山本	4	0	0	0	0
犠盗失併残					
4 1 1 0 9	32	8	3	4	3

	回	打	安	振	球	責
投杉下	5	22	4	2	0	2
本堂	1	5	2	0	0	1
西	2	5	2	0	1	0
川瀬航	1	3	3	0	1	0
相	3 2/3	17	7	5	0	4
清水	1/3	1	0	0	0	0
平元	4	14	1	7	0	0
山本晃	1	3	0	0	0	0

▽二塁打　市原、稲川、垣原、猪原、福井、北川▽三塁打　猪垣、平野、木下▽犠打　稲原、手銭、西里、稲川▽失策　木村▽盗塁　北川、木村▽試合時間　2時間48分▽審判（球審）鈴木、藤川（塁審）高橋、斎藤、菊

10年目、最前線で導く

北川利生外野手
さいたま市・日本通運

悔しさが残る10年目の夏になった。

日本通運の北川利生は、4点を追う五回2死一塁、フルカウントから内角直球を捉えた。左翼フェンス直撃の二塁打とし、チームに初得点をもたらした。

だが、1点差まで迫って迎えた七回の打席では、1死二塁の好機で高めのボール球に手が出て、空振り三振を喫した。「チャンスでチームを救えないと結果を出したとは言えない」。悔しさをにじませた。「これだけの方に応援されて、大舞台で野球ができることは幸せ。それは1年目でも10年目でも色あせない」

大阪桐蔭高、創価大を経て、入社してから都市対抗に出場できなかったことは一度もない。試合前には10年連続出場の表彰を受けた。1年目から4番に座った2016年の第87回都市対抗1回戦では「手が震えた」という。それでも第1打席で本塁打を放ってみせた。堂々のデビューは、昨日のことのように覚えている。

「野球が好きなので、試合に出たい。だから最前線で結果を出す」。どれだけ年数を重ねようとも、プレーで引っ張り続ける。



【姫路市（日本製鉄瀬戸内）―さいたま市（日本通運）】七回裏さいたま市1死二塁、空振り三振となり、悔しい表情を浮かべる北川利生

岡崎市、逆転勝ち

▽第2試合＝1回戦

岡崎市（三菱自動車岡崎）	0	0	0	1	2	0	0	0	3
高松市（JR四国）	0	0	1	0	0	0	0	0	1

岡崎市は四回に伊藤の適時打で同点とし、五回は豊住の適時三塁打と平野の適時打で2点を勝ち越した。四回途中から小刻みな継投で反撃をかわした。高松市は三回に大北の適時打で先行したものの、三回まで7奪三振と力投した先発・近藤が中盤につかまった。

三菱自動車岡崎、ベテランの力

どの打順で試合に出ても仕事をするから頼もしい。ベテランの一振りが岡崎市に勝利を呼び込んだ。

同点の五回2死三塁で、1番・豊住康太に3回目の打席が回った。相手投手は直球とスライダーを軸にした好右腕。第1、2打席ではうまく狙いを外されて連続での見逃し三振を喫していた。

「何も考えずに来た球に食らいついくイメージしかなかった」。2ボール2ストライクからの5球目、真ん中低めの変化球をフルスイングすると、打球は右中間を破った。勝ち越し三塁打に大きなガッツポーズを見せて喜びを爆発させた。

14年目のベテランは中軸を任されることもあれば、下位で起用されることもある。都市対抗の大事な初戦の打順は1番だった。

起用理由について、梶山義彦監督は「（予選で1番を打っていた選手の）調子がいまひとつ上がらなくて、豊住しか浮かばなかった。経験もあり、チームを勢いづかせてくれる」と言う。

豊住も準備を怠らなかった。「走者がいなければ自分が塁に出るし、走者がいれば還す。どの打順でもそれをやっているだけ」。梶山監督の起用に応えた。

昨年は1回戦で14失点し、打線も1点しかとれずに七回コールド負けという屈辱を味わった。

今季は3年目の古川智也を主将にするなど世代交代を進めている。だが、この試合でチームを引っ張ったのは、豊住のほかに四回に同点の適時打を放った12年目・伊藤大地といったベテラン勢だった。

豊住は「上で戦えるほどチーム力は上がっている」と手応えを語る。喜びと悔しさの両方を知るベテランの存在は、勝ち上がる上で欠かせない。

高松市・JR四国、強気の投球裏目に

水色に染まった三塁側スタンドからの声援を背に、高松市の先発右腕・近藤壱来はマウンドに向かった。状態は「絶好調」。だからこその欲が裏目に出た。

直球は140㌔台中盤を常時記録し、スライダーや

岡崎市

	打	安	点	振	球
Ｄ	豊水平古	4	1	2	0
⑨	住谷野川	3	0	1	1
⑤	東	4	2	0	0
④	藤奎	4	1	2	0
⑦	伊中斎西	4	1	1	0
③	村	4	1	1	0
⑧	藤奎	3	1	1	0
⑥	斎藤	2	0	0	0
②	西川	3	0	0	0
犠	盗失併残	30	7	3	10
	1 1 1 4				3

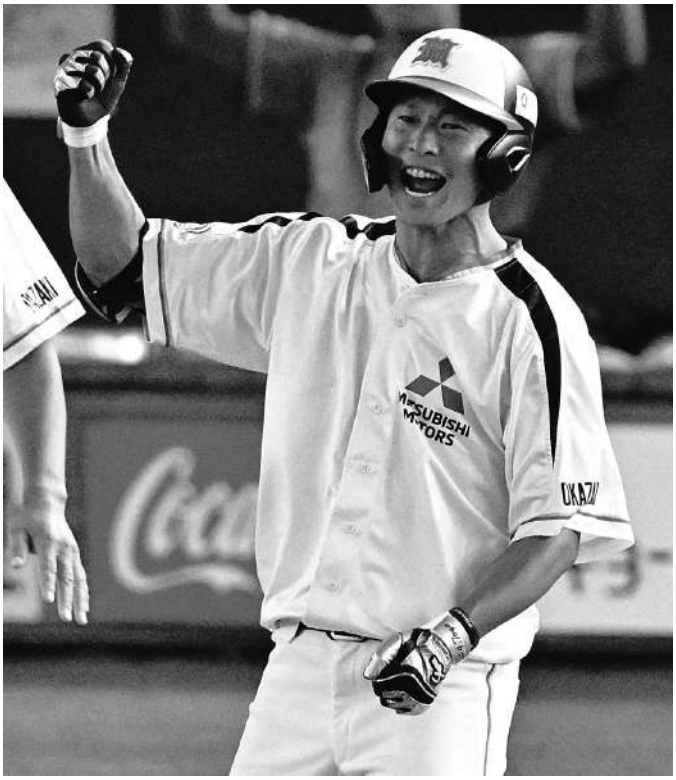
高松市

	打	安	点	振	球
⑧	井山山大	3	0	0	1
Ｈ	脇田根北	3	1	1	0
⑨	篠吉美北	4	0	0	1
⑥	崎岡濃尾	4	1	1	0
Ｄ	村野林田	3	0	0	0
⑦	仲神小笹	3	0	0	2
④	北	4	2	0	0
③	尾村	3	0	0	2
⑤	濃岡	4	0	0	0
②	崎	4	1	1	0
Ｈ	大篠	4	1	1	0
犠	盗失併残	31	7	1	7
	3 2 0 0				4

	回	打	安	振	球	責
投	手凌	3	4	3	0	1
秋	中	⅓	0	0	0	0
山	田翔	⅔	1	0	0	0
秋	山	2	0	2	1	0
清	川	2	2	2	0	0
近	藤	5	2	5	3	3
川	合	4	2	2	0	0

	打	安	振	球	責
秋田戸	1	3	0	0	0
秋山	2	7	0	2	0
清川	2	8	2	0	0
近藤	5	22	5	8	3
川合	4	12	2	2	0

▽三塁打　豊住、篠崎
▽二塁打　神野▽犠打　小井山
斎藤、井脇、吉岡、
林▽盗塁　中村奎、
脇、美濃▽失策　秋山
翔▽暴投　秋山凌▽試合時間　2時間40分　田原、和篠
▽審判（球審）斎藤太、
（塁審）
柿沼



【岡崎市（三菱自動車岡崎）－高松市（ＪＲ四国）】五回表岡崎市２死三塁、適時三塁打を放ち、塁上で拳を握る豊住康太

フォークの曲がりも鋭い。三回までに3者連続を含む7奪三振と最高の立ち上がりに「狙ってどんどん三振を取りにいけた」と乗った。

しかし、走者を背負うと、その強気な姿勢が精密な投球を微妙に狂わせた。「攻めようとした結果、球が浮き出して制御するのに精いっぱいになった」

四回2死から同点打を浴び、五回も2死から2本の適時打を許した。打たれたのはいずれも変化球。近藤は「直球で勝負すべき場面で変化球を投げて痛打された。やるべき投球と逆にいってしまった」と反省した。

今季に懸ける思いは強かった。昨秋の日本選手権は登板機会がないまま終わり、今年の春先も調子が上がらなかった。もがき苦しむ中で「何かを変えたい」と心機一転を図るため、5月下旬に妻に頼んでバリカンで髪を刈ってもらった。

周囲の言葉で後ろ向きになっていた考え方も変えた。投手陣の仲間からは「調子が悪いなんてない」という言葉を聞いた。肘や肩が痛いなど不調を言い訳にして「自分で勝手に調子を悪くしていた」と気づいた。前向きになるきっかけを与えてくれた仲間とともに、東京ドームで新たな歴史を刻む覚悟だった。結果は5回5安打3失点。到底満足できる内容ではなく「情けない」と悔しがった。

ただ、光明も差した。2番手で後を継いだ2年目右腕・川合慎磨が4回2安打無失点と好救援を見せた。

近藤は「兄弟のように仲が良く、ライバルでもある。負けていられない」と少しだけ笑った。まだまだ成長できる伸びしろがある。

東京都・ＪＲ東日本、熱狂サヨナラ

▽第3試合＝1回戦

川崎市（東芝）	3	0	0	0	0	3	0	1	1	8
東京都（ＪＲ東日本）	0	0	0	5	0	0	3	0	1	9

東京都が両チーム合わせて28安打の激しい打ち合いを制して、サヨナラ勝ちした。2度試合をひっくり返し、同点で迎えた九回1死一塁から篠田が適時二塁打を放ち、試合を決めた。川崎市は九回に中村の適時二塁打で追いつく粘りを見せたが、及ばなかった。

名門対決　逆転また逆転

歓喜とともにヘッドスライディングでホームに還ってきた。東京都は2度も許したリードをひっくり返し、最後は九回に追いつかれながらも劇的な展開で勝利をもぎ取った。

名門同士の激しい打撃戦に終止符を打ったのは、東京都の高卒6年目・篠田怜汰だった。

追いつかれた直後の九回裏。高橋隆慶が右前打で出塁すると、1死となって右打席

川崎市

	打	安	点	振	球
⑥ 山大	4	1	0	1	1
⑤ 斉下	4	1	0	1	1
④ 太金	4	2	0	0	0
③ 小光	5	3	1	1	0
⑨ 長諸	4	0	0	1	0
D 中	1	0	0	0	0
H 村	0	0	0	0	0
D 本沢	4	0	0	0	0
⑧ 橋妻	4	1	0	1	0
⑦ 南	2	0	0	0	0
H 村	2	0	0	0	0
田庭	4	1	0	0	0
藤山	4	1	0	1	0
田井	4	2	1	0	0
山本	5	2	1	0	0
沢橋	4	1	0	0	0
妻	4	2	1	0	0
中	2	0	0	0	0
村	2	0	0	0	1
失併残	4	2	2	2	1
盗	1	0	1	4	0

東京都

	打	安	点	振	球
③ 杉崎成	4	2	3	1	1
④ 杉崎輝	4	1	0	0	1
4 本	3	0	0	1	0
H 林	3	1	0	0	0
4 武	0	0	0	0	0
H 内	4	0	0	2	0
⑨ 橋	4	0	0	0	1
⑤ 高菅	5	3	0	1	0
D 篠	4	3	4	0	1
⑦ 8 田	4	2	2	0	1
⑥ 田	4	2	1	0	1
⑧ 崎	3	1	0	0	1
H 植	0	0	0	0	0
H 7 田	1	0	0	0	1
② 藤	2	2	0	0	1
2 小	2	2	1	0	1
草	0	0	0	0	0
失併残	2	1	1	0	1
盗	0	2	1	1	0

	回	打	安	振	球	責
投手	森	3⅔	19	6	1	2	5	0	3	0	1
笹野	山	1⅓	5	0	2	1	1	2	1	0	0
浅野	村	1⅓	9	3	3	0	2	1	1	0	0
松山	1	⅔	2	0	0	0	0	0	0	0	0
神藤	1	⅓	7	3	2	0	3	2	0	1	1
堀	5	⅓	25	9	4	0	2	2	2	2	2
西居	3	⅓	16	6	1	1	4	1	2	2	2
西田											

▽本塁打　菅田1号②大（笹森）▽三塁打　篠田2、下山（庭）▽二塁打　高橋2、光本、田中村、篠田、南、菅田、篠田合（杉崎成2、杉崎輝）▽盗塁　菅田、篠田▽失策　杉崎輝▽時間　3時間25分▽審判（球審）吉野（塁）枝、三宅、森口、弘中（球審）

に入った。外寄りに来た初球の変化球を空振りし、低めのボール球を見送った後の3球目だった。再び外角にきた直球がやや甘くなったところを逃さなかった。

うまくバットに乗せた打球は左中間を抜け、高橋が一塁から一気に生還。歓喜の瞬間が訪れた。実はこの時、サインはエンドランだったという。

「次につなぐ意味でヒットを打ちにいった結果。感触があった」。手応え十分で心地いい大歓声を浴びた。

16年連続出場の東京都と、歴代2位の優勝7回を誇る川崎市という名門対決。2万5000人近くの観客の中で序盤から打ち合いとなった。

盛り上がったのは、観客だけではない。浜岡武明監督も試合中、ベンチからグラウンド側に身を乗り出すなど興奮を隠せなかった。

試合後の勝利チームインタビューで浜岡監督は「（東芝は）社会人野球のトップに君臨するチーム。今日はたまたま勝てたけど、自信になります」と誇った。

ヒーローとなった篠田も「みんなでつないだ。自分にとってもいい試合になった」と興奮気味だった。選手だけでなく、ドームにいた全ての人が熱狂した。



【川崎市（東芝）－東京都（ＪＲ東日本）】九回裏東京都１死一塁、篠田怜汰（右端）のサヨナラ打で勝利し、喜ぶ東京都の選手たち

川崎市、4番が意地

日本一の経験が、新たな目標を作った。昨夏の都市対抗で横浜市・三菱重工Ｅａｓｔの補強選手として優勝に貢献した東芝の下山悠介は、2年ぶりに自チームの4番として戦った。

一回1死一、二塁で左打席に立つと、低く入った3球目をしっかり振り抜いた。打球は右翼手の頭上を越え、二塁走者が生還。試合開始から10分とたたずに先制点をもたらした。

逆転を許し、嫌なムードが漂った直後の五回には、2死から一塁線を鋭く破る打球を放ち、一気に二塁を陥れた。この回、得点には結びつかなかったが、主軸としてチームを背負う強い思いがにじんだ。しかし1点差に追い上げた八回は2死満塁の好機に遊飛に倒れ、「責任を感じている。あそこで打てれば勝っていた」と悔やんだ。

昨夏は東京ドームで輝いた。ただし、西関東のライバルのユニホームを身にまとって。東芝は予選で敗退し、同期の斉藤大輝、この日先発した1学年下の笹森公輔とともに三菱重工Ｅａｓｔの補強選手として出場。全5試合に「2番・指名打者」で出場し、1回戦で2本塁打を放つなど打率4割7分4厘をマークし、日本一に大きく貢献した。

優勝直後、喜びとともに固く誓った。「今度は自分のチームで、自分たちがしっかり引っ張って優勝に導きたい」

東芝を勝たせることだけを考えて冬の練習に取り組んできた。あと一歩、勝利に届かなかったが、「秋に向けて、勝負を決める一本を打てるようになりたい」。名門の4番として、責任感は増すばかりだ。

TOYO Kisyo
Order Made & Memorial
株式会社 東洋徽章
〒113-0021　東京都文京区本駒込 2-9-4　TEL 03-3941-0201　FAX 03-3941-0599

◇**第3日**（8月30日）

1回戦3試合があった。東京都・鷺宮製作所は、にかほ市・TDKの追い上げを振り切り、第91回大会以来、5年ぶりに初戦を突破した。前回準優勝の仙台市・JR東日本東北と豊田市・トヨタ自動車は、今大会初の延長戦に入り、十回タイブレークの末に仙台市が逆転勝ち。5年連続の2回戦進出を決めた。昨秋の日本選手権覇者である豊田市の「秋夏連覇」はならなかった。最多64回出場の大阪市・日本生命は前回大会4強の大垣市・西濃運輸に延長十二回タイブレークの末に競り勝ち、8強入りした第90回大会以来、6年ぶりに初戦を突破した。

東京都、5年ぶりの初戦突破

▽第1試合＝1回戦

にかほ市（TDK）	0	1	0	0	0	0	0	1	2	4
東京都（鷺宮製作所）	0	2	0	0	0	0	3	0	0	5

鷺宮製作所、「大補強」の存在感

社会人を代表する強打者は、やはり違う。どんな場所でも、どのユニホームでも、きっちり仕事を果たすからだ。東京都はNTT東日本からの補強選手の向山基生が2ランを含む3打点の活躍で、5年ぶりの勝利へと導いた。

最初の見せ場は、1点を先取された直後の二回だった。無死一塁で右打席に入った。「自分のチームで出ているように、いつも通りを心がけた」

にかほ市の先発は、JR東日本東北の補強選手だった前回大会で準優勝に貢献した小島康明だ。向山は外角高めの直球を強く振り抜いた。打球はバックスクリーンへ。3年ぶりとなる東京ドームでの一発は、殊勲の逆転2ランとなった。向山は六回にも二塁打を放って追加点を挙げ、幡野一男監督は「大補強です。『ありがとうございます』のひと言」と感心しきりだった。

1打席目から力を発揮できたのは、初めて補強選手として出場した2年前の経験が大きい。JR東日本の補強選手として出場した第94回大会は、1番打者として活躍した。

ただ、当時は「補強がうまく機能しなければいけない」と意識しすぎて硬くなった。1回戦の1打席目は内野ゴロで思うような打撃ができなかった。今年は「自分のやることをやれば結果は勝手についてくる」と平常心で打席に立った。

都市対抗は、同じ地区の予選で敗退したチームの選手を最大3人まで加えられる独自の制度がある。第1代表の鷺宮製作所は「長距離打者が欲しい」と迷わず向山を指名した。

東京都は昨季限りで大黒柱だった左腕・野口亮太や、茶谷良太ら投打のベテラン選手が引退した。若返ったチームは無敗で予選を勝ち抜いたが、都市対抗を経験した選手は半数にも満たない。それだけに、抜群の勝負強さを持ち、社会人日本代表にも呼ばれてきた向山の存在感が際立つ。



【にかほ市（TDK）―東京都（鷺宮製作所）】二回裏東京都無死一塁、向山基生が2点本塁打を放ち、指を突き上げる

にかほ市	打	安	点	振	球
④ 6 太北斎深関	4	0	0	1	0
⑧ 田畠田江口	4	1	0	1	0
⑨ 上木野藤浦	4	0	0	0	0
⑤ 川子村井村	2	0	0	0	1
H 7 水伊三打	1	0	0	0	0
⑦ 兼奥夏植	2	0	0	0	0
H 4 村井村	1	0	0	0	0
犠盗失併残	31	5	4	11	5

東京都	打	安	点	振	球
④ 中島優	5	2	0	2	0
⑥ 島野	2	1	0	1	1
H 6 石西藪	3	1	0	1	0
D D 井浦井	3	1	0	0	0
⑨ 野藤村	3	0	0	1	0
R 9 藤向原	3	0	0	0	1
⑧ 村木山	3	0	0	3	0
⑤ 花崎代	2	0	0	0	0
③ 戸保田	2	0	0	0	0
H 3 千佐葉	2	1	0	0	0
② 大竹藤	2	1	0	1	0
⑦ 井原	3	1	1	1	0
犠盗失併残	29	8	5	9	6

投	手	回	打	安	振	球	責
小島		5	21	4	5	3	2
高橋		⅓	3	1	0	2	2
鈴木	2	1	10	3	1	1	0
田中			3	0	3	0	0
竹	丸	6	20	2	8	0	1
菊	地	1	5	0	1	2	0
門中	島間	1	6	2	0	2	1
	隼	1			2		2

▽本塁打　水野1号①（竹丸）向山1号②（小島）打（中島隼）▽二塁打　佐村、木代、野口（藤原）、竹原（向山）▽犠打　島野、野村（藤原）▽盗塁　兼子2（藤原、木代）▽失策　兼子（策）▽捕逸　兼子（向山）▽時間　2時間45分▽審判（球審）鈴木、三枝、吉野（弘中、墨審）

金農魂、一発自信に

打川和輝内野手
にかほ市・ＴＤＫ

３点を追う九回２死一塁、代打を告げられた。にかほ市の打川和輝は、松田仁監督からこう言われて送り出された。「ホームランを打ってこい」

東京都は、直球が１５０㌔を超える中島隼也が抑えとして九回からマウンドに上がった。４球目だった。高めの直球が内寄りに来たところを強振した。打球は左翼スタンドに飛び込んだ。１点差に追い上げる豪快な一発。「ホームランを打つことしか考えていなかった」。大声援を全身で浴びながら何度も拳を握りしめた。「一生の思い出。今までで一番気持ち良かった」

秋田・金足農高時代は甲子園で「金農旋風」を巻き起こした一人だ。３年夏の甲子園に出場し、４番として吉田輝星（オリックス）とともに準優勝を経験した。卒業後は福島県の東日本国際大を経て、「最後に野球をやるのは秋田がいい」と地元のＴＤＫに入社した。

１８５㌢、９８㌔でがっちりとした体格が目を引く。入社後は度重なるけがで苦しみ、３年目の今季も東北２次予選では２打数無安打に終わった。出場機会が限られる中でも「（バットの）芯で捉えれば打球は飛ぶ。力まず振り遅れないように」。持ち前の長打力を生かすためにバットを振り込んだ。

都市対抗初安打が本塁打に。松田監督も「チャンスで使いたい」と機会を待っていたという。打川も「今日のようなバッティングを続けられるようにしていきたい」。「金農旋風」のときと同じような大きな自信を手にした。



【にかほ市（ＴＤＫ）―東京都（鷺宮製作所）】九回表にかほ市２死一塁、２点本塁打を放ち、拳を突き上げる代打・打川和輝

仙台市、延長戦を制す

▽第２試合＝１回戦

仙台市（ＪＲ東日本東北）	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2		5
豊田市（トヨタ自動車）	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0		3

（延長十回、十回からタイブレーク）

仙台市が逆転勝ちした。３点を追う八回に浦林、丸山の連続適時二塁打で同点。タイブレークの延長十回１死二、三塁から金沢の右前適時打で２点を勝ち越した。豊田市は三回、北村の左前適時打で先制。六、七回にも加点したが、救援陣が踏ん張れなかった。

ＪＲ東日本東北、狙い球ピタリ

待ち望んだ一球が来た。その時、仙台市・金沢龍介は「ヨシッ」と心拍数が上がるのを感じた。無死一、二塁から始まるタイブレークの延長十回は、バントで送って１死二、三塁とした。ここで打席に入った。

マウンドには豊田市の抑え右腕・嘉陽宗一郎。１４０㌔台中盤の直球は伸びが抜群だった。厳しいコースに制球されて、金沢は「真っすぐのチャンスボールは来ない」とみた。目を付けたのはフォークだ。「浮くことはなくても、直球よりは何か起きる可能性がある」と腹をくくった。

カウント１―１からの３球目に狙った球が来た。外角低めへの難しい球だったが「チャンスは二度とない」と食らいついた。打球が右中間を転々とする間に２人が生還。社会人屈指の右腕を打ち砕いたヒーローは、「絶対に自分が決める覚悟だった」と高々と右拳を突き上げた。

我慢と割り切り――。金沢の姿勢は、好投手といかに相対すべきかを示す。「やることは変えない。強引にならずいつも通り」。３点差を追いついた八回にも金沢が絡んだ。

１死一塁で打席を迎え、豊田市の先発・増居翔太の甘くなる制球に「チャンス」と感じた。直球を捉えて右翼線二塁打とし、二、三塁と好機を広げて増居を降板させた。チームはその後に長打で畳みかけ一気に追いついた。

西村亮監督は「ワンチャンスで２、３点なら取れると思っていた。とにかく粘ることを意識していた」と振り返った。

思い描いた接戦に持ち込めたのは、要所に光る質の高い守備のおかげでもある。五回無死二、三塁のピンチでは３者連続で内野ゴロをきっちり

仙台市	打	安	点	振	球
沢山（中）	5	5	4	0	0
林山（遊）	4	4	0	0	0
浦丸（左）	4	4	1	1	0
本橋（一）	4	0	0	3	0
西嶋（右）	3	1	0	1	0
大長（二）	4	3	1	1	0
鈴木（捕）	4	0	1	0	0
大保（ＤＨ）	4	0	1	0	0
工藤波（三）	4	3	0	0	0
小鷹（ＤＨ）	3	1	0	1	0
併残					
犠盗失	1	2	1	6	36

豊田市	打	安	点	振	球
熊田（中）	3	0	0	0	2
北村（遊）	4	2	1	0	0
佐藤（左）	4	1	1	0	1
逢沢（一）	4	1	0	0	1
小畑（二）	5	0	0	1	0
和田（ＤＨ）	4	0	0	0	1
武藤（捕）	4	2	0	0	1
坂巻（三）	2	1	0	0	1
福井（右）	4	1	0	2	1
徳本（三）	4	1	1	0	0
併残					
犠盗失	0	2	1	0	11

投手	回	打	安	振	球	責
早坂	6	27	5	4	1	1
津高	3	13	2	1	0	0
武田	1	2	0	1	0	0
増居	7 ⅓	28	5	6	2	1
川本	⅓	3	2	0	0	0
嘉陽	2 ⅓	8	1	3	0	0

▽二塁打　北村（仙）、逢沢（豊）、金打沢、浦林、丸山▽犠打　徳本、熊小鷹▽盗塁　金沢、佐藤▽失策　長田、和田▽試合時間　２時間51分▽審判（球審）中西（塁）嶋、小鷹、増居（塁）宮内、和田、森口（塁）



【仙台市（ＪＲ東日本東北）―豊田市（トヨタ自動車）】延長タイブレーク十回表仙台市１死二、三塁、２点適時打を放ち、喜ぶ金沢龍介（左）

豊田市・トヨタ自動車、降板の教訓糧に

七回までわずか被安打３という圧巻の投球だった。豊田市・増居翔太は、五回に失策が絡んでピンチを招いても得点だけは与えなかった。

だが、３点リードの八回に一変した。ボールが甘く入り、１死から連打を浴びて二、三塁とした。「次をどう抑えようか」。冷静に考えていたが、ベンチの決断は早かった。

藤原航平監督から投手交代を告げられ、「はい」とうなずいた。「ナイスピッチ」と言われても喜べなかった。「六、七回まで投げてゲームを作ってオッケーのピッチャーを目指してきたわけではない」。ギュッと強く握った左拳に悔しさを込めた。

代わった投手も打ち込まれて３点を取られ、追いつかれた。増居にも失点２がついた。東海２次予選では２試合計15回を投げて無失点だったが、東京ドームで失点が刻まれた。

滋賀・彦根東高から慶大を経て３年目。昨季から頭角を現し、昨年の日本選手権では最高殊勲選手賞に輝いて優勝に貢献し、今大会は「社会人ナンバーワン左腕」の評だった。

しかし、大会前は状態が上がらず、開幕１週間前のオープン戦では「メッタ打ちにされた」という。それでも藤原監督が初戦の先発に託したのは増居だった。

「もっと少ない球数で終盤を迎えるか、バットに当たらないボールを投げるかどちらかは必要ですね」。思い浮かべるのは、２０２３年の第94回大会でチームを頂点に導き、橋戸賞に輝いた先輩の嘉陽宗一郎だ。

「交代を我慢してもらえるような投手にならないといけない」。悔しさだけでなく、教訓にもなった先発マウンドだった。

大阪市、延長十二回逃げ切り

▽第３試合＝１回戦

大阪市	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	2	6
（日本生命）															
大垣市	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	5

（延長十二回、十回からタイブレーク）

大阪市が接戦を制した。タイブレークとなった延長十二回に三島のスクイズなどで２点を勝ち越して逃げ切った。

大垣市は九回に小中のソロで同点とし、延長に入って２度追いつく粘りを見せたが、最後に力尽きた。

日本生命、２年目右腕奮投

大阪市は歴代最多64回目の出場に、優勝４回を数える。その先発マウンドを任されたのは２年目の右腕・谷脇弘起だった。身長１８５㌢から投げ下ろす１５０㌔前後の直球と鋭く曲がるカーブで打者のタイミングを外す。

自身初となる本大会でのマウンドで、一回にいきなり大とさばき、追加点を許さなかった。

西村監督は「ミスが出たら苦しくなる。細かい部分を突き詰めて、我慢するところと一気に行くところ、抑揚をつけて戦えている」と語る。

初戦の相手が豊田市に決まった時、金沢は「正直、終わったなっていう感じでした」と苦笑したという。「まだ４試合あるので通過点として、目の前の一戦に集中したい」。優勝候補相手に鮮やかな逆転劇を演じ、前回の準優勝チームが勢いに乗りそうだ。

大阪市

	打	安	点	振	球
	5	2	2	5	4
⑧	中	松	藤	高	竹
⑦	7	9	9	R	⑤
Ｈ	⑥	⑨	⑨	⑤	③
６	４	４	４	３	３
４	４	４	４	３	３
Ｈ	Ｄ	Ｄ	Ｄ	Ｄ	Ｄ
４	４	４	４	３	３
Ｈ	４	４	４	３	３
②犠	盗	失	併	残	
3	1	0	2	11	38

	打	安	点	振	球
	5	2	2	5	4
⑧	中	松	藤	高	竹
⑦	7	9	9	R	⑤
Ｈ	⑥	⑨	⑨	⑤	③
６	４	４	４	３	３
４	４	４	４	３	３
Ｈ	Ｄ	Ｄ	Ｄ	Ｄ	Ｄ
４	４	４	４	３	３
Ｈ	４	４	４	３	３
②犠	盗	失	併	残	
3	1	0	2	11	38

	打	安	点	振	球
	津	本	田	村	野
	5	2	2	5	4
	1	0	0	1	1
	0	0	1	2	0
	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
	0	0	0	0



【大阪市（日本生命）―大垣市（西濃運輸）】三回裏を無失点で抑え、笑顔でベンチへ引き揚げる大阪市の先発・谷脇弘起

23（23歳以下）日本代表にも選ばれ、U23ワールドカップにも出場した。

近畿2次予選は全4試合に登板し、チーム最長の22回3分の1を投げて防御率0・40と安定した成績を残した。

昨年の本大会は、初戦でさいたま市・日本通運に1―2で敗れた。登板機会はなかった。

「ブルペンで待機していた。いつでも、いける状態だった。悔しい気持ちもあった」

1年前の悔しさを晴らすような谷脇の東京ドーム初マウンドだった。

大垣市・西濃運輸、流れ変えた4番弾

大垣市の4番が一発で流れを変えた。

1点を追う九回。先頭打者として左打席に入る小中健蔵の顔は冷静だった。

1ボールからの2球目。130キロ台の変化球を逆らわずに振り抜くと、打球はバックスクリーンに飛び込む同点弾。満面の笑みでホームベースを踏み、延長戦に持ち込んだ。

新人だった2023年から4番を任されている。23年の日本選手権で4強に入り、前回の都市対抗も主軸として準決勝まで進んで優秀選手に選ばれた。

全国の舞台で着実に重ねてきた経験が大一番で生きた。

大事にしているのは、目線がぶれないよう体の重心を下げた状態で投手と向き合うことだ。今回の東海2次予選でも打率3割6分8厘と好調を維持し、東京ドームに帰ってきた。

七回途中無失点で降板した。

和歌山・那賀高から立命大を経て日本生命に入社した。社会人で構成された昨年のU垣市の先頭打者に右前打を許した。次打者に送りバントを決められて、1死二塁とされたが、3番を140キロ台後半の直球で追い込み、最後は変化球で空振り三振を奪った。続く4番も変化球で中飛に打ち取り、ピンチを脱した。

三回には1死三塁、六回にも連打で無死一、三塁のピンチを招いたが、いずれも後続を断って、得点を許さない。

福山市・倉敷市

		打	安	点	振	球
③	原	4	0	0	0	0
⑨	上	4	1	0	0	0
④	新綿	4	1	0	0	0
D	古屋	3	0	0	0	1
⑤	田	4	2	0	0	0
⑦	森	4	2	0	2	0
２	篠	2	2	0	1	0
⑥	河	3	3	0	0	1
⑧	田	3	2	0	1	0
②	後	4	2	0	1	0
7	永	1	0	0	1	0
H	藤	2	0	0	1	0
８	山	0	0	0	0	0
犠	盗	失	併	残		
1	1	2	2	4	33	9

4	5	2				

鈴鹿市

		打	安	点	振	球
⑧	長中	4	2	1	0	1
⑥	畔	5	0	0	1	0
D	藤	5	1	0	1	0
④	近	4	1	1	1	0
③	藤	4	1	0	0	0
R	西	3	0	0	0	0
３	阿	0	0	0	0	0
⑦	斎	2	0	0	1	0
７	田	2	0	0	0	0
⑨	岡	2	0	0	1	0
H	中	2	1	0	1	0
H	伊	1	0	0	0	1
R	栗	0	0	0	0	0
②	長	0	0	0	0	0
⑤	貞	4	1	0	0	0
犠	盗	失	併	残		
2	1	1	1	10	3	5

10	2	7	2			

		回	打	安	振	球	責
投	手	2	12	4	0	0	1
西	野	2⅔	10	3	4	0	1
筒	井	2⅔	8	2	2	1	0
岩	本	1⅓	3	1	0	0	0
津	山	1⅓	2	1	0	0	0
下	江	1⅓	2	0	1	0	0
本	田	1⅓	2	0	1	0	0
長	野	1⅓	4	0	1	0	0
井	村	7⅔	26	6	4	1	3
田	中	2	10	3	1	1	2

▽本塁打　藤江1号①①（西野）長野1号①（筒井）篠原1号①（井村）▽三塁打　新田▽二塁打　岡野、近藤、田中（西）▽犠打　永山、斎藤、田野▽盗塁　河内、栗原▽失策　新田、古田、貞光▽暴投　井村▽ボーク　井村▽試合時間　2時間43分▽審判（球審）中野良、斎藤太（塁審）須田、平田

◇**第4日**（8月31日）

1回戦3試合があった。福山市・倉敷市・JFE西日本は鈴鹿市・ホンダ鈴鹿に逆転勝ちして、3年ぶりに初戦を突破した。太田市・SUBARUは前回大会4強の東京都・東京ガスに快勝して、3年連続で2回戦に進んだ。千葉市・JFE東日本は東京都・ホンダの追い上げを振り切り、8強入りした第92回大会以来、4年ぶりに初戦を突破した。

福山市・倉敷市、3年ぶり初戦白星

▽第1試合＝1回戦

福山市・倉敷市（JFE西日本）	0	0	0	1	0	0	0	2	2
鈴鹿市（Honda鈴鹿）	0	1	0	0	1	0	0	0	0

打野選）を決めて勝ち越した。7人の継投も光った。鈴鹿市は藤江と長野のソロでリードしたが、六回以降の得点機を生かせなかったのが痛かった。

JFE西日本、スクイズ最適解

白星をたぐり寄せる打球が一塁側に転がった。福山市・倉敷市の9番・永山裕真が八回に決めたセーフティースク

イズ。自ら仕掛けるチームのあり方が凝縮した勝ち越し点だった。

場面は2―2の八回無死一、三塁。永山はバントがうまく、2人の走者は俊足で打球判断も的確だ。内田聡監督は「セーフティースクイズが確率が一番高い」。グラウンドの選手たちも同じ思いだったから、サインに驚きはなかった。



【福山市・倉敷市（ＪＦＥ西日本）―鈴鹿市（ホンダ鈴鹿）】八回表福山市・倉敷市無死一、三塁、永山裕真がスクイズを決める

代わったばかりの鈴鹿市の2番手・田中大聖（やまと）が投じた初球。永山は予定通り、バットを寝かせた。「打ちにいくぐらいの気持ち」でバットをやや投手寄りに構え、きっちりと打球を一塁方向に転がした。

河内愛哉（まなや）が頭から本塁に滑り込み、間一髪セーフ（記録は犠打野選）。ビデオ検証でも判定は覆らず、永山は歓声に包まれながら人さし指を突き上げた。

「自分から攻めていくつもりだった」と永山。最速150㌔超の田中の直球を懐に呼び込めば、バントは簡単にフライになる。事前に映像を見てイメージを膨らませ、準備万全だった。鈴鹿市もセーフティースクイズを想定していたが、永山の用意と技術が上回った。

就任3季目の内田監督のもと、チームはどんな時も積極的に仕掛けていく考えを共有する。「攻めた上での失敗は、反省して次に生かせばいい。受け身になると、どんどん後手に回ってしまい、悪循環になる」と永山は説明する。自身もかつてはバントミスを経験したが、改善点を洗い出し、この日につなげてきた。

小技一つにも意識の高さをうかがわせる3年ぶりの白星だ。「攻め」は強打だけにあらず。チームが今大会の目標とする、4強以上が受け取る「旗」の奪取も十分に射程圏内だ。

幻惑右腕、1球に泣く

井村勇介投手
鈴鹿市・ホンダ鈴鹿

腕を曲げ、胸の前にボールを置いてから投げる独特なフォームがトレードマークだ。打者のタイミングを微妙にずらし、七回までで失ったのは自らの暴投の1点のみ。鈴鹿市の右腕・井村勇介はエースらしく淡々と投げたが、終盤につかまった。

1点リードの八回。先頭打者に投じた初球を左翼席に運ばれて追いつかれた。さらに安打にボーク、そして安打を許す。無死一、三塁としたところでマウンドを降りた。

「本塁打を打たれたことが全てだった」

本調子ではなかったが、140㌔前後の直球と遅い変化球との緩急を生かした。「ボールが遅くても（コースに）刺せれば、打者のタイミングをずらせる」。2巡目以降は、球を長く持つなど投球リズムを変えて打者を幻惑させた。七回まで踏ん張っていただけに不用意な一発が痛かった。

入社7年目。「これまでゼロに抑えることにこだわりすぎて終盤につかまることが多かった」という。この日もやはり終盤にとらえられた。

都市対抗は1年目から経験してきた特別な舞台だ。第94回大会は王子の補強選手として4強入りに貢献した。そんな経験がありながらも抑えるのは簡単ではない。「9回を投げ抜くためには違うのも試していかないといけない」と言う。

「強くなるためにどんどん突き詰めてやっていきたい」。勝利への欲は失っていない。



【福山市・倉敷市（ＪＦＥ西日本）―鈴鹿市（Ｈｏｎｄａ鈴鹿）】鈴鹿市の先発・井村勇介

太田市、3年連続2回戦進出

▽第2試合＝1回戦

東京都（東京ガス）　000 000 300　3
太田市（SUBARU）　005 100 20×　8

太田市の強打が光った。三回に森下、藤原、後藤、古川の適時打で一気に5点を先取。四、七回も勝負強い打撃で加点した。先発・八野田は六回まで被安打1、8回3失点と試合を作った。東京都は七回に先頭から4連打などで3点を返すも投手陣が打ち込まれた。

SUBARU、止まらない快音

4年前に初優勝するなど、ここ数年の本大会の実績では東京都が上回っている。就任1季目の太田市・小川信監督は選手たちに声を掛けた。

「一泡吹かせてやろうぜ」

この監督の言葉に、選手たちも奮起した。

三回、先頭の新人・江川岳が四球を選んだのをきっかけに1死一、三塁を作った。江川は直前の右飛でタッチアップして三塁に進んでいた。

ここで調子の良さと長打力を買われて1番に起用された森下智之が打席に入る。「併殺にはなりたくなかった」。

東京都の右腕・伊東佳希の初球、内角直球138キロを引っ張ると、打球は一、二塁間を破った。チーム初安打となる適時打で待望の先取点をもたらした。

勢いづくと止まらないのが今年の太田市の打線だ。藤原龍之介も中前適時打で続く。投手が代わってからも、「積極的に振っていく」と5番・後藤克基が初球の真っすぐをとらえて中前適時打とすると、古川幸拓も中前適時打で続いた。

結局、この回、打者10人を送って2度の2連続適時打で一挙5得点を挙げて、主導権を握った。

打撃向上は今季からチーム全体で取り組んでいる筋力トレーニングの成果の表れでもある。さらに7年目の森下は、昨年までとの違いを口にする。

「今年は乗ってきたら複数得点が多い。昨年より一層一体感がある。ベンチが盛り上げてくれるので、乗ってくる感じがある」

優勝経験のあるチームを破っての3年連続の初戦突破を、小川監督は「本当にうれしい」と素直に喜んだ。過去2年はいずれも2回戦で敗れているだけに「2回戦突破に100％を持っていく」と気を引き締めることも忘れなかった。



【東京都（東京ガス）―太田市（SUBARU）】三回裏太田市1死一、三塁、森下智之が適時打を放つ

東京都・東京ガス　若手が一矢

六回まで太田市にほぼ完璧に抑えられ、東京都の安打は一回に楠研次郎が放った左前打のみだった。直球と変化球が同じ腕の振りで、テンポ良く投げ込む太田市の先発左腕・八野田龍司に苦しめられた。しかも四回までに6点を先行された。東京都の松田孝仁監督も「球の操り方がいい」と頭を悩ませていた。

沈黙した打線に勢いを与えたのは若き選手だった。七回、先頭の楠が二塁打で出塁すると、3番で新人の藤沢涼介が初球に浮いてきた変化球を逃さず振り切った。打球はレフト線を抜け、二塁打で1点を返したのが反撃の合図となった。

さらに2年目の2人が続く。4番・内海貴斗が右前打を放ち、5番・仲俣慎之輔の二塁打で2点目。4連打を浴びせ、犠飛も加えて計3得点を返した。3点差まで追い上げ、沈みかけたスタンドの盛り上がりは最高潮に。松田監督も「周りの後押しもあって、打線がつながってくれた」と振り返った。

予選から藤沢や内海ら若手が打線を勢いづけてきた。藤沢は全4試合で3本塁打を放ち、7打点とともにチーム最多。内海も3打点を挙げるなど代表切符獲得の立役者だった。

藤沢は初の東京ドームで二塁打1本。結局、太田市を追

東京都

	打	安	点	振	球
⑥北楠本	4	0	0	0	0
D藤沢	4	3	1	1	0
⑨内仲冨	4	3	1	0	1
③海俣岡	4	1	0	1	0
⑤野田尾	3	2	1	1	0
⑦小中飯	3	1	0	1	0
H森馬場	2	0	0	0	0
⑧H相丸	1	0	0	0	0
④H馬山	3	0	0	0	0
②4	3	0	0	0	0
犠盗失併残					
1 0 1 0	32	6	3	5	1

太田市

	打	安	点	振	球
D森下	5	2	2	0	0
⑦藤原	4	2	1	1	0
④日置	4	3	0	1	0
③外山	4	4	1	0	0
②後藤	4	3	1	1	0
⑧古川	4	3	1	0	1
⑨江秋	4	4	0	1	1
⑥中山	4	4	1	1	0
⑤里	4	4	1	0	1
犠盗失併残					
0 1 1 1	35	10	8	5	2

	回	打	安	振	球	責
投伊東	2	11	2	0	1	4
手保沢	⅓	5	2	1	1	1
伊藤	⅔	8	2	1	0	2
長沢	2	5	2	1	0	0
野嶋	1	8	3	1	0	0
寺沢	1	6	1	1	0	0
寺水	⅓	4	1	1	0	0
清	⅔	3	0	1	0	0
八八野	8	30	6	3	0	3
野田	1	4	0	2	1	0
谷内						

▽三塁打　中里▽二塁打　楠、藤沢、仲俣、後藤▽犠打　冨策寺間日置、外山▽盗塁　森下▽失策　秋山▽暴投　2時間岡▽試合時間　2時間27分▽審判（球審）八方（塁審）中西、仲俣、松尾沢▽審判（塁審）重樫、

い越せずに「自分が打てば点が入るという雰囲気は感じていた」と悔しがった。それでも松田監督は「彼が一本打つとベンチが盛り上がる」と存在の大きさを語った。

2021年の初優勝から4年。チームを引っ張ってきた笹川晃平さんらベテランが引退し、世代交代が進む。この敗戦は「いい経験になると思う」と松田監督。若きチームはこの悔しさを糧にする。

千葉市、4年ぶりに初戦突破

▽第3試合＝1回戦

千葉市（JFE東日本）	1	1	0	0	0	2	2	0	0	6
東京都（ホンダ）	1	2	0	0	0	0	0	0	2	5

千葉市が一進一退の攻防を制した。二回に大森のソロで勝ち越し。1点を追う六回に代打・平山の2ランで再逆転し、七回は4者連続四球などで加点した。投手陣は5人の継投で耐えた。東京都は九回に代打・三浦の2ランで1点差まで追い上げたが及ばなかった。

JFE東、7年生の逆転弾

頂点を知る千葉市の平山快は、代打での一球に全てを懸けた。

1点を追う六回、2死一塁で右打席に向かった。「低めは打てないと思い、高めの球に絞った」

東京都の好左腕・東野龍二に対して狙いを定めると、やや浮いた初球の外寄り変化球を逃さなかった。逆方向に伸びた打球は右翼スタンドに吸い込まれ、逆転の2ランになった。

出場7回目にして、都市対抗では初の本塁打だ。三塁を回りながら、ユニホームの胸元に書かれた「JFE」の文字を拳でたたき、帰ってきたベンチで喜びを爆発させた。

2019年の都市対抗大会では新人ながら4番に座り、初優勝に大きく貢献した。

しかし、7年目の今季は南関東2次予選での打率は1割を切るなど不振に陥り、「クビも覚悟した」という。

この日もスタメンを外れたが「あれこれ悩んでも仕方ない。何とか爪痕を残してやろうと頑張って良かった」。巡ってきた好機を見事にものにした。

1年目から知る落合成紀監督も「平山の持ち味の長打に懸けた結果が最高の答えになった。今でも中軸を打ってもらわないと困る選手です」。まだまだ戦力であることを証明した。



【千葉市（JFE東日本）―東京都（ホンダ）】六回表千葉市2死一塁、2点本塁打を放ち、拳を握る代打・平山快

東京都・ホンダ

どれだけ経験を重ねても野球は思い通りにいかない。

東京都の東野龍二は「余計な四球を与えず、一発も浴びない」と警戒して先発マウンドに上がったが、6回4失点で降板した。

二回1死から相手の7番、大森廉也にチェンジアップを右翼席に運ばれた。外角を狙ったが、やや甘く入ってしまった。直後に味方打線が逆転したものの、六回には2死から四球で走者を出し、代打の平山快に逆転の2ランを浴びた。

大阪・履正社高時代に甲子園のマウンドに立ち、駒大で

思わぬ一発浴び

は強豪ぞろいの東都リーグでもまれた。舞台が社会人に移っても第一線で投げ、昨季は日本選手権でチームの準優勝に貢献。社会人野球表彰では最多勝利投手賞にも輝いた。

8月で30歳を迎えても向上心は尽きない。トレーニングを重ね、昨季より直球の制球力は上がったと感じる。この日は相手打者の内外角を突いて毎回の9三振を奪った。

「気を付けていた長打を浴びて負けた。まだまだ力不足。さらにパワーアップしたい」。もう一回り大きくなって東京ドームに帰ってくることを誓った。

千葉市

	打	安	点	振	球
⑥ 小林	4	1	0	1	0
⑧ 内藤	3	1	0	1	1
Ｈ 猪俣	1	0	0	2	0
Ｄ 吉田	3	1	0	1	0
⑦ 梁川	4	2	1	2	0
③ 平大地	4	2	2	0	0
大中村	4	3	1	1	0
下田村	4	3	1	0	0
松間藤	3	1	0	1	1
田瀬山	3	2	0	0	1
松森沢	3	2	1	1	0
地村	3	1	0	1	0
計	36	15	5	11	3

	盗	失	併	残
	1	0	0	5

東京都

	打	安	点	振	球
③ 峯村	4	1	0	1	0
④ 檜村	4	0	1	0	0
Ｈ 三浦	4	1	1	2	0
⑧ 鈴木	4	1	0	0	2
ＤＲＤ 藤野	4	2	0	2	1
⑨ 金城	4	0	0	0	0
Ｈ 井上	3	0	0	0	0
Ｈ 村田	3	0	0	0	0
山本口	3	0	1	1	0
小野口	4	1	1	1	0
辻川	4	1	1	0	0
坂下村	4	3	1	0	0
中道原	4	1	0	0	0
村将	2	1	0	0	0
計	36	10	3	5	3

	盗	失	併	残
	4	0	0	10

	回	手	打	安	振	球	責
山田	2		10	3	2	1	3
蒔田	2		10	4	1	2	0
本金	2	2⅔	11	4	3	1	0
田林		⅓	1	0	1	0	0
	2		10	3	2	1	2

東上	6	24	5	9	1	4
千岡		⅔	6	1	3	2
野野		⅓	0	0	1	0
出葉	2	⅓	7	0	0	0

▽本塁打（東野）大森①号、平山①号、三浦①号（林）村将②号、中村②号、峯村②号▽二塁打 原田、道原、吉田、檜村、道原▽盗塁 峯村、鈴木2、道原▽試合時間 3時間15分▽審判（球審）篠原、（塁審）川崎、中方

◇**第5日**（9月1日）
1回戦3試合があった。春日井市・王子が延長十回タイブレークの末に門真市・パナソニックを降し、2年ぶりの勝利を挙げた。大阪市・大阪ガスは長野市・信越クラブに快勝し、4年ぶりに2回戦に進出した。
浜松市・ヤマハは大津町・Honda熊本に勝ち、準優勝した第94回大会以来、2年ぶりに2回戦に進んだ。

春日井市、タイブレーク制す

▽第1試合＝1回戦

門真市（パナソニック）	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	6
春日井市（王子）	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	4	7

（延長十回、十回からタイブレーク）

春日井市が逆転サヨナラ勝ち。九回2死から細川の適時打で2点差を追いついた。3点を先取された延長十回は1死満塁から山ノ井の適時打などで1点差に。さらに2死満塁から敵失でサヨナラ勝ちした。門真市は八回までリードしたが、投手陣が踏ん張れなかった。

王子、ヤマ的中

タイブレークに突入した延長十回、3点を追う春日井市の攻撃は四球と内野ゴロで、1死満塁。しびれる局面で、七回の守備から途中出場した春日井市・山ノ井隆雅に打席が回ってきた。「次の打者は（4番の）吉岡（郁哉）さんなので自分が試合を終わらせることはしないように、つなぐことだけを意識していた」。気負いはなかった。
東海2次予選の打率は1割5分。落ち着いたメンタルで打席に立てたのは、2次予選後約1カ月半で取り組んだ「対策」のおかげでもあった。本大会は最速140キロ台後半を投げる本格派が多い。打撃投手に通常のマウンドより手前から投げてもらい、直球への対応を磨いていた。8月下旬開幕と、例年より長い準備期間も味方した。
マウンドには力強い直球が持ち味の門真市・定本拓真。山ノ井はその直球にヤマを張っていた。「ストライクとボールがはっきりと見えていたので状態は悪くない。積極的に甘いボールを振る」
1ストライクからの2球目に狙い球が来た。外角の球に腕を伸ばして右方向に鋭く打ち返し、1点を奪った。予選で不調だった選手の活躍に、ベンチも大盛り上がり。湯浅貴博監督も「よく打った」と貴重な適時打を評価した。
吉岡の犠牲フライで1点差に迫り、最後は内野ゴロが悪送球を誘って山ノ井がサヨナラのホームを踏み、歓喜の輪に加わった。
今季は、ベンチからも試合の雰囲気をつくることで、劣勢の展開での粘り強さにつながっている。東海2次予選で開幕試合から最終戦となった第6代表決定戦までの25日間を戦い抜いたことで、タフさも身に付いた。九回に2点差を追いつき、十回に3点差を逆転したのは予選で培った力のたまものだった。
2年ぶりにつかんだ本大会の白星。諦めない姿勢で勝ち抜く野球を再認識した。山ノ井は「次戦も、一戦必勝で良い準備をしていく」。チームの目標とする頂点奪取に向け、気を引き締めた。



【門真市（パナソニック）―春日井市（王子）】延長タイブレーク十回裏春日井市1死満塁、山ノ井隆雅が適時打を放つ

門真市・パナソニック、新人右腕堂々と

183センチのすらっとした長身から、角度ある球を内外角に投げ分けた。門真市の新人右腕・柿本晟弥が堂々の都市対抗デビューを果たした。
「一番、試合を作ってくれる」と中本浩監督の信頼を受け、大事な初戦の先発を託された。
試合前から調子の良さを感じていたからこそ、意識しすぎず、無心でマウンドに上がった。
立ち上がりは「めちゃめちゃ緊張した」という。一回の先頭打者に安打と盗塁を許

	球	振	点	安	打		
門真市	101102	100200	000000	000000	000000		
④	1	0	0	0	0	田坂	
⑥	0	0	0	0	0	宮山	崎
⑧	1	2	0	0	0	小上	
⑦	1	1	0	0	0	本山	
⑨	0	0	1	3	0	田間	
9	2	1	0	1	0	浦下	
８	1	1	1	4	0	秀本	
③	1	0	0	3	0	山田	
Ｈ	0	0	0	0	0	永川	
３	0	1	1	2	0	上本	
②	0	0	0	1	0	江上	
5	0	1	0	0	0	塚宅	
法	0	0	0	0	0	田塚	
兼	1	1	0	0	0	西田	
浦	1	1	0	0	0	浦西	
崎	0	3	0	2	0	恭浦	
Ｄ	0	0	0	0	0	宮崎	
Ｄ	0	0	0	0	0	宮松	
⑤	0	0	0	1	0	大植	
５	0	0	0	0	0	手三	
Ｒ	0	0	0	0	0	永川	
Ｈ	0	1	0	1	0	上	
３	0	1	0	3	0	江上	
②	0	0	0	1	0	上	
犠	盗	失	併	残			
1	2	2	0	10	35	7	6

	球	振	点	安	打		
春日井市	101000	212000	000000	100000	455000		
⑧	0	0	0	1	1	柴崎	
④	0	0	0	0	0	山口	
⑨	0	0	0	1	0	三村	
９	0	1	0	2	0	山井	ノ
⑦	0	0	0	1	0	吉岡	
③	0	0	0	0	0	高垣	
Ｈ	0	0	0	0	0	広部	
３	0	0	0	0	0	木下	
Ｈ	1	0	0	0	0	平野	
Ｄ	1	0	0	0	0	神鳥	
⑤	1	1	0	0	0	中川	
Ｈ	0	1	0	0	0	鈴木	
５	0	0	0	0	0	大杉	
②	0	1	0	2	0	細川	
⑥	0	1	0	1	0	前田	
犠	盗	失	併	残			
1	1	0	1	8	37	7	5

	責	球	振	安	打	回	
柿本晟弥	1	201	1	3	5	6	
藤本拓真	1	111	1	2	5	⅔	
本浩一	0	110	0	1	5	⅓	
斎藤友貴哉	0	011	0	0	2	⅓	
定本拓真	0	010	0	0	1	⅔	
浅貴博	0	050	0	0	0	1	
柳雄大	0	001	0	0	0	1	
宮浦崎	0	001	1	0	0	1	
樋口	1	101	0	1	1	⅓	
井上	1	902	1	2	3	⅔	
谷崎	7	29	6	9	30	2	
橋崎		⅔	1	2	1	⅓	
口井		⅓	0	1	0	⅓	
九柳		⅔	1	2	0	⅔	
宮樋浅		1	0	1	0	1	

▽本塁打　前田1号①（柿本）▽三塁打　宮崎秀、浦上、吉岡▽二塁打　川部▽犠打　田浦、宮崎▽盗塁　田浦、宮崎▽失策　法兼、松柴崎▽試合時間　3時間30分▽審判（球審）中浦西（塁審）柿沼、中野雄、中野良

して得点圏に走者を置いたが、無失点で乗り切って波に乗った。

四回は2死から味方の失策で走者を出し、次の打者には3球連続でボール。崩れかけたが「失策は付きもの。自分が出した走者のつもりで」と切り替えた。最後は低めのスライダーで見逃し三振を奪った。

悔やまれるのは、五回に2死からソロ本塁打を浴びた1球だった。

際どいコースにバットを出してもらえず、最後は143㌔の直球が「甘く入った」。勝ちにはつながらなかったが、7回1失点と試合は作った。

最速151㌔を誇る本格派右腕。予選ではチーム最多27回あまりを投げて防御率1点台と新人離れした投球が光った。

本格的に投手に転向したのは東洋大姫路高時代だ。遊撃手だったが、投手のようなしなやかな腕の振りを見た当時の藤田明彦監督から勧められた。

藤田さんは「ボールが速い直球を投げられそうなきれいな縦回転だった」と振り返る。東洋大を経て社会人に進み、内角に力強い直球を投げ込めるように成長した。

「一人ずつの打者に集中できた。次は勝ちきれる投手になりたい」。手応えと悔しさの両方を得た23歳。将来が期待できそうなピッチングだった。

大阪市完投　直球キレ

▽第2試合＝1回戦

長野市（信越クラブ）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
大阪市（大阪ガス）	2	1	0	0	1	0	0	0	×	4

大阪市が快勝した。一回に清水、戸高の連続適時打で2点を先取し、二回には橋本典之の適時打、五回にも三井の適時打で突き放した。先発右腕・大宮は被安打4、1失点で今大会初完投。長野市は二回に永井の適時打で1点返した。

大ガスエース、成長示す101球

九回2死、101球目だった。最後の打者を直球で空振り三振に仕留めると、大阪市の大宮隆寛は雄たけびを上げた。9回1失点で今大会初完投となった。

二回に失点したものの、三回以降は全く危なげなかった。右サイドから140㌔台中盤のキレのある直球をテンポ良く投げ込む。ストライクゾーンで勝負できるほどキレと制球力は抜群だった。

直球主体の前半から徐々に変化球の割合を増やして狙い球を絞らせない。長野市の打者は積極的に振ってきたが巧みにかわした。

ファウルで追い込み、右打者には外に逃げていくスライダーも効いた。奪った三振7個は全て右打者から。自らの得意のパターンに引きずり込み、「予定通りというか、いつもの投球ができた」とうなずいた。

キレのある直球を投げるためにフォームにもこだわりがある。「（テークバックで）しっかり距離を取って、内（体の近く）を通して投げること」。2次予選では直前に左脇腹を痛めた影響もあり、思い通りのフォームではなかったという。本戦までの期間で調整を繰り返し、本来の球の強さを取り戻した。

東洋大から入社4年目だが、補強を除き大阪ガスのユニホームで都市対抗に出場したのは2022年の第93回大会が最後だ。

当時は1試合にリリーフで投げただけだったが、今回は



【長野市（信越クラブ）ー大阪市（大阪ガス）】大阪市の先発・大宮隆寛

長野市	打	安	点	振	球
⑧ 藤伊樫	4	0	0	0	0
⑥ 沢藤山	4	0	0	2	0
⑦ 崎川村	4	0	0	0	0
⑤ 山浪木	4	0	0	3	0
⑨ 井永中	3	0	0	0	0
④ 村中斎	3	1	0	0	0
D 道藤	3	0	0	1	0
③ 藤	3	0	0	1	0
② 藤	3	0	0	1	0
犠盗失併残					
1 0 0 0 3	30	4	1	7	0

大阪市	打	安	点	振	球
⑧ 橋本典	4	1	1	1	0
④ 峰下和	4	0	0	1	0
⑤ 橋本清	2	1	0	0	2
⑨ 水戸三	4	1	1	0	0
③ 高山高	4	2	1	1	0
D 井島袋	4	3	1	1	0
⑦ 川橋	4	0	0	3	0
② 島	3	1	0	1	0
⑥ 袋	3	2	0	0	0
犠盗失併残					
1 1 0 0 6	31	9	4	7	2

投	手	回	打	安	振	球	責
佐	渡	1 2/3	12	6	0	1	3
宮	野	1/3	1	0	0	0	0
松	田	6	21	3	7	1	1
大	宮	9	31	4	7	0	1

▽二塁打　清水、高橋
▽犠打　木村、島袋
盗塁　橋本典
▽試合時間　1時間51分
▽審判（球審）高橋進（塁寿）松尾、湯本、福

永井敦士外野手
長野市・信越クラブ

元プロ、粘りの初打点

元プロの意地だった。低めの球に食らいついた。二回1死二塁の場面。長野市の7番・永井敦士は、外一辺倒で攻められていたが、4球目に内寄りにきたところを逃さなかった。

引っ張って左前に落とし自身の大会初安打が初打点に。「なんとか走者を還そうと思った」と一塁上で控えめに笑った。

埼玉県草加市出身。東京・二松学舎大付高3年生だった2017年にチームの主軸として夏の甲子園に出場。秋のプロ野球ドラフト会議で広島から4位指名を受けて入団したが4年目の秋に戦力外通告を受けた。その後に東京のJ Pアセット証券に入ったものの、昨季限りで休部となった。

野球は諦められなかった。JPアセット証券のスタッフと縁のあった信越クラブに今季加入すると、再び心が躍った。

「打席に入るとどこまでも粘り、けがを恐れず全力疾走する。何が何でも勝つという泥くさいスタイルは自分に合っている」。チームのがむしゃらにプレーする姿勢にひかれた。

2次予選では、3試合で2本塁打を放って持ち前の長打力を発揮し、チームの6年ぶりとなる本大会出場に貢献した。

「敗れたが、楽しかった。もう少し長くやりたかった」。この試合は指名打者で出場し、第2打席以降は快音を響かせることはできなかった。壁にぶつかっても夢中で取り組み、今のチームと巡り合ってつかんだ都市対抗の舞台だった。25歳。野球人生はまだまだ続く。

ある。18年にも1回戦で長野市と対戦しており、勝利してそのまま頂点に駆け上がった。「それも前向きに捉えて、良いイメージで試合に入れた」と峯岡格監督。7年ぶりの優勝に向け、「験担ぎ」にもなるエースの快投だった。

エースとして成長を遂げて東京ドームに戻ってきた。「大役を任せてもらってこういう結果になったのはうれしい」と話す表情は自信に満ちていた。

チームは4年ぶりの初戦突破だが、縁起の良い白星でも



【長野市（信越クラブ）―大阪市（大阪ガス）】二回表長野市１死二塁、永井敦士が適時打を放つ

浜松市・ヤマハ、初戦快勝

▽第3試合＝1回戦

浜松市（ヤマハ）	0	3	0	0	1	0	0	0	0	4
大津町（Honda熊本）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

浜松市は序盤の一発で主導権を握った。二回に矢幡の3ランで先制し、五回には網谷の内野ゴロの間に1点を追加した。先発・佐藤廉は要所を打たせて取り、1失点で完投。大津町は先発・横川が2回3失点と精彩を欠き、打線も反撃の糸口がつかめなかった。

ヤマハ、35歳の一振り

さすが、日本有数の楽器メーカーによる演奏だ。美しい大迫力の音量を響かせた浜松市の三塁側スタンド。その応援をさらに熱く、大きくしたのがコーチ兼任として13年目を迎えたベテランの一振りだった。

浜松市は二回、2死二、三塁の好機をつかんだ。右打席に入ったのは、1番・矢幡勇人だ。ボールが三つ続き、ス

浜松市

	打	安	点	振	球
⑦ 矢幡	5	2	3	1	0
③ 秋網	4	2	1	0	0
⑨ 森谷	4	4	1	0	0
Ｄ 永川	4	3	0	1	0
⑤ 野浜	3	0	0	0	1
Ｒ５ 藤沢	0	0	0	0	0
⑥ 相岡	0	0	0	0	0
② 大羽	4	2	1	0	0
⑧ 西本	2	2	1	0	0
Ｈ８ 若村	1	0	0	1	0
④ 前林	0	0	0	0	0
土野山	4	0	0	2	0
犠	盗	失	併	残	
1	0	1	0	6	33

	8	4	9	3

大津町

	打	安	点	振	球
⑦ 中島	4	2	1	1	1
⑨ 山本	3	1	0	0	1
⑤ 田場	4	1	0	1	0
③ 古寺	4	0	0	2	0
⑧ 稲垣	4	0	0	0	0
⑥ 小浜	4	1	0	0	0
Ｄ 宮川	2	1	0	0	0
ＨＤ 青柳	1	0	0	1	0
ＨＤ 和田	1	1	0	0	0
② 丸山	4	2	0	0	0
Ｒ④ 江崎	0	0	0	0	0
ＨＲ 江頭	2	0	0	0	0
竹井葉	1	0	0	0	0
犠	盗	失	併	残	
1	1	0	0	9	34

	7	1	9	2

	投	回	打	安	振	球	責
佐藤廉	9		37	7	9	2	1
横寺	川	2		11	4	2	1	3
安	沢	2	⅓	10	2	3	1	1
片	里		⅔	1	0	1	0	0
	山	4		15	2	3	1	0

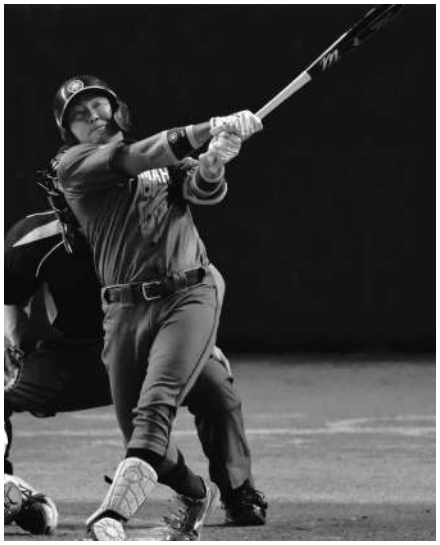
▽本塁打　矢幡1号③①（横川）　中島1号二塁打　西田（佐藤廉）▽二塁打　大場、大本▽犠打　江崎▽盗塁　江頭村、江頭▽盗塁　藤岡▽試合時間　2時間33分▽失策　藤岡▽審判（球審）佐藤（塁審）須山、玉置、藤

トライクを一つ挟んだ後に「狙っていた」という直球が真ん中に入り、逃さなかった。「上がりすぎたかな……」という打球は左翼席中段にまで届いた。ダイヤモンドを回りながら応援団に感謝を伝えるため、右手人さし指を高々と突き上げた。

五回は先頭で内野安打を放ち、貴重な追加点のホームを踏んだ。勢いに乗った先発・佐藤廉は多彩な変化球で相手打線に的を絞らせず、1失点完投。投打がかみ合い2年ぶりの勝利をつかみ取った。

チームの合言葉は常に前を見るという意味を込めた「ネクスト」。第94回大会（2023年）には準優勝を果たしたが、前回大会は初戦で敗退した。

申原直樹監督は「この先の5年、10年と本当に強いチームにするのが使命」と語り、常勝チームを見据える。35歳の矢幡はフルスイングに全力疾走と後輩たちにアグレッシブなヤマハ野球をプレーで伝える存在だ。試合後は「腰が痛いっす」と笑いながらも、「迷わず積極的にいく姿勢をこれからも示していきたい」ときっぱり。頼もしいリードオフマンが、浜松市にはいる。



【浜松市（ヤマハ）―大津町（ホンダ熊本）】二回表浜松市2死二、三塁、矢幡勇人が3点本塁打を放つ

大津町・ホンダ熊本、魔球に苦しみ

全国屈指と評される強打の歯車は、最後までかみ合わなかった。大津町の得点は中島準矢が八回に放ったソロ本塁打の1点のみ。浜松市の先発左腕・佐藤廉に幻惑された。

特に苦しんだのが、120㌔台の落ちる「魔球」だ。渡辺正健監督が「横から見ても全く違うところを振っていた。よほど真っすぐと同じ腕の振りに見えたのだろう」と舌を巻くほどだった。

何とか粘って走者をためたが、決定打が出なかった。二つの見逃し三振など4打数無安打に終わった4番・古寺宏輝も「思った以上の球でした」と振り返った。

チームは昨年、2次予選で敗退して都市対抗大会の連続出場が「8」で途切れた。要因の一つは「慢心」だった。細かい基本がおろそかになったり、必死さに欠けたりする場面が目立つようになった。渡辺監督は「慣れが悪い方向に出た」と表現する。

今季は原点にかえり、投打ともに肉体強化によって力強さに磨きをかけた。泥臭さや貪欲さを前面に出すことを全体で共有してきた。2年ぶりの東京ドーム。選手はワンプレーごとに歓声を上げ、胸の「Honda」の文字を何度も強調した。復活の歩みは道半ば。ナインの意識は確実に変わりつつあることを感じさせた。

福岡市	打	安	点	振	球
⑨	樋永井八安松柴山遼田野井川木	0	0	1	0
⑦	口利手木永山田田野井川木	1	0	2	1
⑤	6	0	0	0	0
D	木永山田田野井川木	0	0	1	0
②	永山田田野井川木	0	0	0	0
⑥	山田田野井川木	0	0	1	0
⑧	5 田遼田野井川木	0	0	2	0
8	横平笹古正木	0	0	0	0
H	平笹古正木	0	0	1	0
③	笹古正木	0	0	0	0
④	古正木	1	0	1	0
③	8正木	0	0	2	1
犠	盗	失	併	残	
1	3	0	0	6	3

日立市	打	安	点	振	球
⑧	鵜沼	3	0	0	2
⑨	清水	3	3	0	0
⑦	吉川	4	0	0	1
⑤	谷内	3	0	0	3
H	金原	1	0	1	0
⑥	5 宮	4	1	0	0
D	竹内	3	0	0	2
H	D松下	3	1	1	0
③	山下	4	2	0	1
②	佐藤	4	2	0	0
H	2鮎ケ瀬	2	0	0	0
④	野中	2	0	0	2
4	森田	2	0	0	2
犠	盗	失	併	残	
0	1	1	0	9	3

投	手	回	打	安	振	球	責
村	田	7	26	5	12	0	0
岩	崎	1	6	1	2	0	0
大	畑	1	4	1	1	0	0
宮	下	4⅔	17	4	2	1	3
田	川	3	10	1	4	0	0
生	井	1⅓	7	1	2	1	0
河	北	⅔	3	0	1	1	0

▽本塁打　古川1号①（宮下）▽二塁打　山下、永利、平野、松下▽盗塁　樋口2、松山、清水▽犠打　井手▽盗失　宮▽試合時間3時間1分▽審判（球審）須田（塁審）佐藤、片山、中野良

◇**第6日**（9月2日）

1回戦最後の3試合があった。福岡市・西部ガスは日立市・日立製作所に零封勝ちし、5年ぶりの白星を飾った。鹿嶋市・日本製鉄鹿島は、延長十回タイブレークの末に札幌市・JR北海道クラブにサヨナラ勝ちし、3年ぶりに初戦を突破した。最多優勝12回の横浜市・ENEOSが広島市・JR西日本に勝ち、6年連続で初戦を突破した。第7日の3日は2回戦3試合が行われる。

福岡市、鉄壁投球術

▽第1試合＝1回戦

福岡市（西部ガス）	1	0	1	0	1	0	0	0	1	4
日立市（日立製作所）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

福岡市が零封勝ち。先発の村田は変化球がさえ、7回12奪三振で三塁を踏ませなかった。一回に井手の犠飛で先制すると、三回は永利が適時二塁打、五回は古川が左越えソロを放つなど小刻みに加点した。日立市は7安打を放ちながらも打線がつながりを欠いた。

西部ガス、勝利招く「特別な1球」



【福岡市（西部ガス）―日立市（日立製作所）】力投する福岡市の先発・村田健

とっておきの一球で、嫌な空気を一掃した。福岡市の先発・村田健と捕手・松山翔太のバッテリーが、シンクロするようにガッツポーズを見せたのは六回だ。

1死一塁から三ゴロ併殺を完成させたかに見えたがビデオ検証の結果、判定が変わり一塁に走者を残した。打席には日立市の4番・谷内優斗。リードは3点あったが、松山は「ここで打線をつながれると厄介な流れになる」と感じた。

入社10年目、右横手投げで抜群の制球力を誇る村田の組み立てはシンプルだ。外角低めを丁寧に攻めて右打者にはスライダー、左打者にはシンカーと外に逃げる変化球で打者を惑わす。

松蔭史敏監督は、若手が多い日立市打線が「真っすぐ中心に打ってくるのかなと。村田のかわす投球にはまってくれれば」とみていた。村田は想定通り外角への変化球で簡単に追い込み、投手優位の状態で余裕を持ちながら勝負できたことで、相手のバットはクルクルと回った。

同じ球種でも曲げ幅や変化の方向をこまめに変える。基本は外角中心の配球だが要所では強気に内角を攻める。足の上げ方やクイックでタイミングをずらす。細かな工夫は数え切れない。

六回の谷内との勝負。決め球に選んだのは、あまり投げていなかった左打者の内角へのスライダーだった。村田が「左の膝元はここぞの場面での狙い所」と言えば、松山も「特別なボールを取っておいた」。

フルカウントからの8球目、谷内の膝元に鋭く落ちる1球でバットに空を切らせると、村田と松山の雄たけびが共鳴するように球場内に響いた。

村田は7回100球を投げて5安打無失点、12奪三振の力投。「記憶にないくらい、できすぎです」と笑った。バトンを受けた2番手・岩崎皓介と3番手・大畑蓮も、走者を出しながら無失点リレーでつないで、守備からリズムを作る西部ガスの伝統を体現した。

注目右腕、ほろ苦デビュー

宮下大地投手 日立市・日立製作所

高校時代から「プロ注目」と期待されてきた新人右腕が、社会人野球の厳しさを学んだ。日立市は1年目の宮下大地が先発したが、5回途中3失点と踏ん張れなかった。

北関東2次予選は2試合、計6イニングを投げて5失点と自分の力を発揮できなかった。それでも林治郎監督から夏場の調子の良さを買われ、本人も「びっくり」の大役を任された。

「緊張感から力んでしまった」という一回にいきなり1失点。三回に追加点を許し、五回はカットボールを左翼席まで運ばれ、直後に交代を告げられた。要所で制球の甘さに課題を残したが、「自分の武器」と位置づける最速152キロの直球を主体に押し込む場面もあった。試合後は悔しがりながらも「自分が出せるものは出せた」と振り返った。

東京・日体大荏原高時代に注目される存在になったが、日体大ではなかなか登板機会がなかった。更なるレベルアップを求め、社会人の世界に飛び込んだ。社会人野球のレベルの高さを感じながらも、直球へのこだわりは捨てず、投げ込みと経験値を増やしてきた。「東京ドームのマウンドは大きな財産にしなきゃいけない。成長してほしい」と林監督。プロ入りを目指す22歳は「都市対抗で圧倒するような投手になりたい」と前進を誓った。



【福岡市（西部ガス）―日立市（日立製作所）】日立市の先発・宮下大地

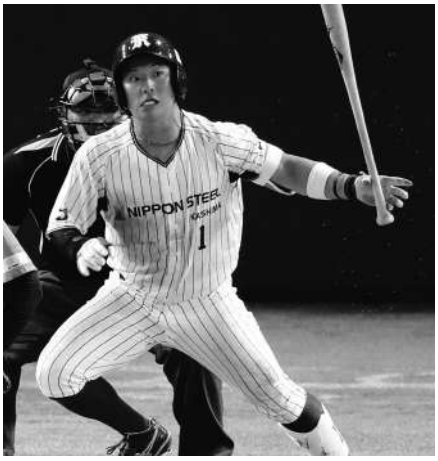
鹿嶋市、延長サヨナラ

▽第2試合＝1回戦

札幌市（JR北海道クラブ）	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	4
鹿嶋市（日本製鉄鹿島）	0	0	0	0	1	1	2	0	0	1	5

（延長十回、十回からタイブレーク）

鹿嶋市がサヨナラ勝ち。タイブレークの延長十回に生田目の内野安打で無死満塁とし、今里の犠飛で試合を決めた。2番手の金城は5回1失点と粘投した。札幌市は先発の内沢が5回1失点と好投。高橋の右越えソロなどで六回までに3点を奪ったが、救援陣が踏ん張れなかった。



【札幌市（ＪＲ北海道クラブ）―鹿嶋市（日本製鉄鹿島）】延長タイブレーク十回裏鹿嶋市無死一、二塁、生田目忍が内野安打を放つ

日本製鉄鹿島、中軸のバットで雪辱

鹿嶋市にとって、札幌市はＪＲ北海道だった第87回大会で1―2で敗れている相手だ。鹿嶋市は、クラブチームになった札幌市との延長タイブレークを制し、9年ぶりに雪辱を果たした。

就任1季目の藤沢英雄監督は「本当に勝ててホッとしています」。試合を決めたのは、中軸のバットだった。

延長十回、相手を無得点に抑えた直後の無死一、二塁で、3番・生田目忍が打席に入った。6年目で主将を務める生田目は、前の打席で適時打を放っている。藤沢監督は「生田目、今里が打たないと勝てない。腹をくくって任せた」と振り返る。

生田目はバントの構えを見せながら、三遊間への打球が遊撃内野安打となり、満塁に好機を広げた。「いいところに飛んでくれた。藤沢監督に『ホームランを打ってこい』と言われて、ああいうヒットにつながった」

都市対抗初出場の3年目の4番・今里凌は力みすぎてそれまでの4打数で無安打、2三振と精彩を欠いていた。それでも「4番の仕事が来たなと思った。ゴロではなく、外野フライのイメージで打席に入れた。積極的に初球から振っていこう」。札幌市の3番手・村上大芽（北海道ガスからの補強）の初球、139キロをとらえる。打球は中堅への飛球となり、俊足の池間誉人（たかと）がサヨナラのホームを踏んだ。

中盤までリードを許す苦しい展開だった。七回に相手のミスに乗じて勝ち越したが、直後の八回にバッテリーミスで追いつかれた。藤沢監督は「1回戦は簡単じゃない。ミスが出ると、流れが来ない」と初戦の難しさを口にした。

2回戦は太田市・ＳＵＢＡＲＵと対戦する。北関東2次予選の第1代表決定戦で4―5で敗れている相手だ。藤沢監督は「挑戦者としてぶつかっていきたい」。雪辱を果たす舞台は整った。



【札幌市（ＪＲ北海道クラブ）―鹿嶋市（日本製鉄鹿島）】延長タイブレーク十回裏鹿嶋市無死満塁、今里凌がサヨナラの犠飛を放つ

札幌市・JR北海道ク、磨いた制球力

相手打者からすると、まるで上から降ってくるような感覚だったろう。

札幌市の先発右腕・内沢航大は195センチの長身から角度のある140キロ台の直球と落差のあるスライダー、フォークを織り交ぜた。強打の鹿嶋市を相手に5回4安打1失点と堂々たる投球を披露した。

ただ長身から投げ下ろすだけではない。捕手が構える地面すれすれのミットに目がけて投げ込むからこそ、角度が際立った。

四回まで許した安打はわずか。雪辱を果たす舞台は整った。

札幌市	打	安	点	振	球
⑥ 石川	5	1	0	1	0
⑦ 高橋	4	2	1	0	0
③ 南木	4	2	0	0	1
D 松井	3	0	0	2	0
② 村北	4	0	1	2	1
⑨ 山本	4	2	0	1	1
④ 南	2	2	0	0	0
H 4 5 4					
冨田	2	0	0	1	0
⑧ 内藤	3	1	0	0	1
⑤ 俵藤	1	0	0	1	0
H 大槻	1	0	0	0	0
4 西山	0	0	0	0	0
H 5 冨山	1	0	0	0	0
久後	0	0	0	0	0
犠盗失併残					
2 0 1 0 5	32	6	3	11	3

鹿嶋市	打	安	点	振	球
⑥ 池間	3	1	1	0	1
④ 田崎	2	0	0	1	0
H 4 小林	1	0	0	0	0
⑦ 生田目	5	2	1	1	0
③ 今樫	4	0	1	2	0
⑤ 村田	3	0	0	2	1
D ⑨ 松田	4	1	0	1	0
山口	3	1	1	1	0
H 8 山田	1	0	0	0	0
陶山	0	0	0	0	0
⑧ 9 山本	4	2	0	1	0
② 揚村	4	2	0	0	0
犠盗失併残					
3 0 0 0 9	34	9	4	9	3

投	手	回	打	安	振	球	責
内	沢	5	21	4	6	2	1
岩	崎	1	5	2	1	1	1
村	上	3⅓	14	3	2	0	0
土	屋	5⅔	20	4	6	3	3
金	城	5	17	2	5	0	0

▽本塁打　高橋1号①（土屋）▽二塁打　山本（鹿）、松田、揚村▽犠打　山本（北）、内藤、池間、冨田（鹿）、今里▽失策　村上▽捕逸　村北、揚村▽試合時間　3時間16分▽審判（球審）杉本（塁審）藤田、深沢、野尻

か1本と好投を続けた中、2点リードの五回に正念場を迎えた。

球がやや浮き始めるのを相手打線は見逃してくれない。3連打で1点を返され、なお1死一、二塁。

大粒の汗を流しながら、ギアを上げた。2番・冨田慎太郎は2ボール2ストライクから厳しい内角の変化球で空振り三振に仕留めた。続く打者も早々に追い込み、最後はスライダーでタイミングを外し捕邪飛に打ち取ると、グラブをバチンとたたき表情を崩した。

青森・八戸工大一高、法大を経て入社6年目。JR札幌駅で駅員として勤務する。入社当時はプロを目指し、球速を追い求めた。しかし、けがもあって思うようにはいかず、制球難にも苦しんだ。入れ替わりの激しい社会人で生きていくために磨いたのが制球力だった。

制球を安定させるため、体を傾けながら力感のないフォームへ改善し、チームとして5年ぶりの都市対抗で先発の座をつかんで期待に応えた。

試合に敗れ、内沢は悔しさをにじませながらも、言い聞かせるように語った。

「身長からしたらそんなにスピードはないのかもしれないけど、抑えられたのは正しいことをやってきたからなのかな……」。確かな手応えをつかみ、ドームを後にした。

横浜市、6年連続初戦突破

▽第3試合＝1回戦

横浜市（ENEOS）	0	0	3	0	0	0	1	2	0	6
広島市（JR西日本）	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2

横浜市が快勝した。1点を追う三回、3連打で好機を作ると山田の犠飛と有馬、川口の適時打で3点を奪った。終盤にも長打で加点して突き放した。投手陣は3投手がつないでリードを守った。広島市は田村、桜井のソロでの2得点にとどまり、打線のつながりを欠いた。

ENEOS・2年目が殊勲打

1年前は「見ているだけだった」という舞台で、横浜市の2年目・有馬諒が躍動した。

1点を追う三回、先頭の瀬戸西純から3連打と犠飛で追いついた。しかし4番・丸山壮史は中飛に倒れた。勢いが止まるかと思われたが、再びエンジンをかけたのが有馬だった。

「流れがどうとかではなく、大事なところでヒットを打つことだけ考えていた」。2打席目で2球目の高く浮いた直球を左前に引っ張り、勝ち越しの走者が生還した。守備でも先発マスクをかぶり、3投手をリードして最少失点で切り抜けた。

滋賀・近江高では3度、甲子園に出場するなど大舞台での経験は豊富だ。それでも社会人1年目は苦労した。昨夏の都市対抗では2回戦で守備から途中出場したが、打席は回ってこなかった。冬の間はウエートトレーニングで体を大きくし、打ち方も試行錯誤してきた。そして今季、西関東2次予選からチームを勝利に導く活躍を見せてきた。東京ドームでも先発出場を果たし、たくさんの社員の応援の中で堂々とプレーした。「チームが勝つことしか見ていない」。13度目の頂点を目指す名門にとって、頼もしい存在だ。



【横浜市（ENEOS）―広島市（JR西日本）】三回表横浜市2死一、二塁、有馬諒が適時打を放つ

広島市・JR西日本主将、不屈の一発

最後まで諦めない。そんなメッセージの詰まった意地の一振りだった。6―1の八回1死、広島市の9番・桜井涼が放ったソロ本塁打。主将がバットでチームを鼓舞した。

マウンドには横浜市の2番手・加藤三範。出塁して上位打線につなごうと意識していたが、甘いスライダーに反応した。コンパクトなスイングで引っ張ると、打球は左翼席

横浜市

	打	安	点	振	球
⑧ 飯松	5	2	0	0	0
⑥ 山浦	5	1	0	2	0
Ｄ 田渡	4	1	0	2	0
Ｒ 山馬	4	0	0	0	0
③ 丸有	5	0	0	2	0
② 川村	4	1	1	1	1
⑤ 口上	3	1	1	0	1
⑨ 与石	4	1	1	2	0
⑦ 倉飛	4	0	0	0	0
④ 瀬戸西	4	0	0	1	0
犠 盗 失 併 残	3	1	0	0	1
1 0 0 0	37	8	2	11	3

広島市

	打	安	点	振	球
⑥ 杉本	4	0	0	1	0
③ 田村	4	1	1	2	0
⑧ 大村	4	1	0	0	0
⑤ 土倉	4	1	0	1	0
⑨ 林居	2	0	0	1	0
Ｈ 9 植本	2	0	0	0	0
⑦ 岡野	2	0	0	2	0
Ｈ 黒川	1	0	0	0	0
７ 西村	3	0	0	0	0
Ｄ ② 戸田	3	1	0	0	0
Ｈ ② 安藤	2	0	0	2	0
④ 加藤	1	0	0	0	0
桜井	2	1	0	1	1
犠 盗 失 併 残	3	1	0	0	1
0 1 0 0	31	4	2	14	1

	回	打	安	振	球	責
手部	5	19	3	8	1	1
藤部	3	10	1	5	0	0
投阿加渡	1	3	0	1	0	0
岡	3	16	7	1	0	3
村川	3	10	1	3	0	1
谷本	⅔	3	0	1	0	0
松高大中花長 田畑	0⅓ 1⅓ 2	1 4 7	1 1 1	0 0 4	2 0 0	2 0 0

▽本塁打 ①桜井1号（阿部）①山田1号（加藤）
▽二塁打 村上2、田中大時間（畑）
▽暴投 ２（球平）
▽盗塁 戸田2（盗）
▽試合時間 2時間37分
▽審判（塁審）勇田、和田、太田

へ大きな弧を描いた。

社会人6年目で都市対抗初アーチ。無我夢中でダイヤモンドを駆けていたから、歓喜に沸く客席も、スタンドインの瞬間も見えなかった。「必死だった」。本塁打を大歓声で知ると、自然と拳を握っていた。だが、その後は打線が抑え込まれ敗戦。悔しさをかみしめた。

田村亮監督が全幅の信頼を置く28歳。地元にこだわって野球を続けてきた。広島市出身で、広島商高、近大工学部を経て、広島市を本拠としていた三菱重工広島に入社した。1年目に三菱重工グループの野球部再編があったが、地元に残ることを選んだ。

それだけに「広島市」を背負って戦う都市対抗への思いは強い。九回、ベンチから客席を見上げた。青く染まったスタンドで、立ち上がって応援してくれている人たちの姿が目に入った。「ありがたい気持ちと、応援してもらって勝てなかった悔しさがすごくある。何が足りないのか。もう一度考えたい」。初戦敗退は3年連続。巻き返しを誓った。

◇**第7日**（9月3日）

2回戦3試合があった。大阪市・NTT西日本が東京都・JR東日本に逆転勝ちし、2年連続で8強入り。岡崎市・三菱自動車岡崎は前回大会準優勝の仙台市・JR東日本東北に競り勝ち、2年ぶりに8強に進出した。東京都・鷺宮製作所は姫路市・日本製鉄瀬戸内に零封勝ちし、7年ぶりに準々決勝に進んだ。

大阪市、2年連続ベスト8

▽第1試合＝2回戦

大阪市（NTT西日本）	0	0	0	2	3	0	0	0	5
東京都（JR東日本）	3	1	0	0	0	0	0	0	4

大阪市が中盤の集中打で逆転勝ち。2点を追う五回に山田の2点適時打で同点とし、浜田の適時打で勝ち越した。3番手の遠藤が三回から4回3分の1を無失点と好投。東京都は二回までに2本塁打などで4点を奪って先手を取ったが、投手陣が踏ん張れなかった。

NTT西日本、頼れる1、2番

「想定外」の事態でも大阪市の1、2番コンビは頼りになる。

大阪市の選手たちは口をそろえた。

「正直、想定していなかった」

東京都の先発は、東京都予選での登板が計2イニングに満たない新人の大型右腕・森畑侑大。データの少ない相手投手に苦しみ、三回まではいずれも3者凡退と手も足も出なかった。

4点を追いかける展開で、嫌なムードを断ち切ったのが四回の攻撃だ。角度のある直球に振り負けないことをチー



【大阪市（NTT西日本）―東京都（JR東日本）】五回表大阪市2死一塁、成瀬脩人の左前打で三塁へ進塁する一塁走者・串畑勇誠

大阪市	打	安	点	振	球
⑧	串畑勇誠	1	0	0	1
⑥	成瀬脩人	0	0	1	0
D	天山俊輔	0	0	0	0
⑤	吉浜遼平	0	0	0	0
R	5 中北陽大	0	0	0	0
③	後藤凌平	0	0	0	0
⑦	小岩井翔	0	0	0	0
④	田村俊介	0	0	0	0
R	4 條藤巧弥	0	0	0	0
②	泉井亮	0	0	0	0
⑨	藤井亮太	0	0	0	1
犠	盗	失	併	残	
2	1	0	0	9	3

東京都	打	安	点	振	球
③	杉崎成	3	1	0	0
④	杉崎輝	3	0	0	1
⑨	山内大	5	2	0	1
⑤	高橋直	5	2	1	2
D	田中貴	4	1	1	2
⑦	8 篠田純	3	1	0	0
H	佐藤龍	3	0	0	0
⑥	海崎翔	4	1	0	0
⑧	植田海	2	1	0	0
H	7 倉石大	1	0	0	0
H	2 草部桂	0	0	0	0
②	小藤翼	0	0	0	0
H	2 岩栗哲	1	0	0	0
H	7 本林大	1	0	0	0
犠	盗	失	併	残	
3	2	0	0	12	3

投	手	回	打	安	振	球	責
高	井	1	⅔ 9	5	1	1	4
田	村	1	5	2	1	0	0
遠	藤	4	⅓ 17	3	5	1	0
渡	辺	1	4	0	1	0	0
大	江	1	⅔ 8	0	3	3	0
森	畑	4	⅔ 20	6	1	0	4
児	玉		⅓ 2	1	0	1	1
古	谷	1	⅔ 7	1	1	3	0
西	田	1	⅔ 8	1	1	2	0
	堀	1	4	1	1	0	0

▽本塁打　菅田2号②（高井）小藤1号①（高井）▽二塁打　山内（天井、草部）▽犠打　天井、山田、杉崎輝▽盗塁　串畑、篠田、海崎▽試合時間　3時間12分▽審判（球審）野尻、佐川崎（塁審）藤、坂上

ムで確認し、先頭の1番・串畑勇誠が打席に向かった。第1打席では直球に見逃し三振を喫したが「（狙いを）絞れたので、見え方も違った」。2ボール2ストライクから外角高めの直球を中前にはじき返し、突破口を開いた。

2番・成瀬脩人も直球を狙っていたが、変化球を続けられ3球で追い込まれた。それでも「しぶとくつなごうという意識に変えた」と4球目の外角のカットボールに対応し、右前打で続く。勢いづいた打線はこの回、犠飛と適時打で2点差に迫った。

五回は2死から内野安打で出塁した串畑が、成瀬の安打で快足を飛ばし三塁へ。再び好機を作り森畑を降板させると、中軸の連続適時打で3点を奪い試合をひっくり返した。

俊足巧打の串畑と勝負強さが光る成瀬。近畿2次予選から不動の1、2番コンビの活躍に、河本泰浩監督は「うちは1、2番の出塁が鍵を握る。一人塁に出たら一気に流れが変わった」と信頼を置く。

「劣勢のゲームでも追いつくことができるのがNTTの強み」と成瀬。目の覚めるような逆転劇で8強一番乗りを果たした。

東京都・JR東日本 5番、2戦連発 先輩の金言胸に

憧れの先輩の言葉に、一回にバットで応えた。東京都の5番・菅田大介は1回戦に続く本塁打を放った。

4番の高橋隆慶が先制の左前適時打を放った勢いに乗り、「積極的に打つ」というスタイルを貫いた。

「変化球が主体」という相手投手の情報を意識し、初球の緩いカーブを引きつけて強振した。「フェンスまで行くかどうか」という手応えだったが、打球は右翼スタンドに入った。

2試合連続となる本塁打は「状態の良さが打球に表れた」と振り返る。例年より遅い本大会に向け、夏場に自分を追い込むことができた。6年目で27歳となり、東京ドームのグラウンドは「景色が見やすい」と思える心の余裕もあった。

1年目から名門で中軸を担った。だが、中堅世代に差しかかり、心持ちに変化が生まれた。きっかけはしぶとい打撃で、4強入りした2年前の本大会で首位打者賞に輝き、今大会は10年連続出場の表彰も受けた渡辺和哉からの言葉だった。

「お前の打撃が勝敗を決めるぞ」――。自分の結果だけに一喜一憂していた、これまでの自分を見直した。「チームが勝つためにどんな打撃が必要か」を最優先に考え、打席に立つようになった。

ただ、チームは逆転負けを喫した。「このチームでもっと東京ドームにいたかった」。これまでと少し違う気持ちで、強打者は敗戦の悔しさをかみ締めた。

岡崎市、絆の完投劇

▽第2試合＝2回戦

仙台市（JR東日本東北）	0	0	0	0	0	0	0	0	1
岡崎市（三菱自動車岡崎）	0	0	0	0	0	0	2	0	1×

岡崎市が投手戦を制した。先発の秋山翔は両コーナーを丁寧に突き、5安打1失点完投。五回に西川の2ランで先行し、八回には古川の適時打で突き放した。仙台市は先発の竹本が7回2失点と好投したが、打線は六回に1点を返すのが精いっぱいだった。

仙台市

	打	安	点	振	球
⑧	9	金	小	浦	丸
⑤	4	沢	山	林	山
⑥	4	西	山	嶋	吏
⑦	3	聖	波	鷹	
③	3	本	木	藤	鈴
H	0	3	2	3	
⑨	3	大	古	長	橋
8	0	3	2	3	
D	0	0	0	0	
④	0	0	0	0	
②	0	0	0	0	
犠	盗	失	併	残	
1	0	0	0	4	31

	球	振	点	安	打
工	0	0	0	0	0
小	0	0	0	0	0
失	0	0	0	0	0
併	0	0	0	0	0
残	0	0	0	0	0
	5	1	8	0	

岡崎市

	打	安	点	振	球
D	豊	菅	村	東	
H	3	0	0	2	0
D	住	原	谷	野	川
⑨	3	0	1	0	0
⑤	4	水	平	古	奎
④	4	4	0	2	0
⑧	4	中	村	東	
⑦	3	1	1	0	0
③	3	伊	藤	木	室
R	3	2	0	0	0
②	3	茂	小	西	川
⑥	3	3	0	0	0
犠	盗	失	併	残	
1	2	1	0	5	29

	球	振	点	安	打
1	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
残	併	失	盗	犠	
2	7	3	6	2	9

	回	打	安	振	球	責
投	手	26	4	6	1	2
竹	本	6	2	1	1	1
武	田	7	1			
秋山翔	9	32	5	8	0	1

▽本塁打　西川1号②（竹本）▽犠打　工藤古川波、中村奎▽盗塁　古川川、茂木▽失策　古川▽暴投　竹本▽試合時間　2時間7分▽審判（球審）高田（塁審）本太田和、玉置、湯

三菱岡崎、無四球8K バッテリー成熟

109球目。岡崎市の秋山翔は最後の打者を左飛に打ち取ると、捕手の西川尚希とほぼ同じタイミングでガッツポーズを見せた。無四球8奪三振1失点での完投勝利。「入社してから一番良かった」と静かに喜んだ好投で、チームを2年ぶりの準々決勝に導いた。

制球力とテンポの良さがさえた。左打者が5人並ぶ仙台市打線に対し、序盤は内角を攻め、さらに低めに集める。丁寧に打たせて取りつつ、要所では「走っていた」という



【仙台市（JR東日本東北）―岡崎市（三菱自動車岡崎）】試合に勝利し捕手・西川尚希（左）と喜ぶ岡崎市の先発・秋山翔

ツーシームで三振を奪い、五回まで完璧に抑えた。

先制点をプレゼントしたのは西川だ。五回2死一塁、真ん中低めの直球を左翼スタンドに運んだ。「後につなごうとしたのがたまたま入ってくれた」と謙遜する、値千金の一発だった。

グラウンド整備を挟んだ六回。秋山が初安打を許し、犠打と適時打で1点を返された。クイックモーションでの制球が甘くなった。

だが、そこから冷静だった。相手の2番打者に6球ファウルで粘られながら、秋山は「低めにしっかり直球を投げれば抑えられる」と我慢する。西川の構えた外角低めで狙い通り内野ゴロとし、最少失点にとどめた。

秋山は入社7年目、西川は6年目。主力としてバッテリーを組んで4年ほどになる。

秋山は西川を「物腰が柔らかく誰からも慕われる。本当にキャッチャー向き」といい、西川は「練習の取り組みでも素晴らしい部分があり、安心して見ていられる」と話す。

昨夏は1回戦で先発した秋山が打ち込まれ、二回途中7失点。強い球を投げようとして力んだ反省から、今季はストライクゾーンで勝負するための制球力を磨いた。西川は「バランス良く3球で2ストライク1ボールのカウントをつくれている」と変化を感じる。

この日は最後まで複数の球種を織り交ぜて打者の目線を外し、走者が出た局面では西川がマウンドに駆け寄り一呼吸つかせた。全国の舞台で成長を示した2人に、守りを身上とするチームを率いる梶山義彦監督は「うちらしい勝ち方」と目を細めた。

エース返り咲きへ一歩

竹本祐瑛投手
仙台市・JR東日本東北

仙台市の先発・竹本祐瑛（ひろあき）は、2年ぶりに東京ドームのマウンドに立った。「もっと緊張するかと思ったけど、意外と気持ちよく投げられる」。試合前に感じていた重圧は、いつの間にか消えていた。

186㌢の長身からテンポ良く投げ込む直球を中心に相手打線を抑え込む。1―2の七回には2死二、三塁とされるも、「きっと打線がこの後追いついてくれる。ここは絶対（点を）やらない」とギアを上げた。

ボールが先行したが、2―2の平行カウントに戻し、最後は捕手が構えた外角低めギリギリに直球を投じた。五回に「決めにいって力んでしまった」と2ランを浴びた相手を見逃し三振に仕留め、7回2失点と試合を作った。

2021年の入社1年目から投手陣の大黒柱としてチームを支えてきた右腕だ。しかし、準優勝した24年の都市対抗は、春先に腰を疲労骨折した影響で登板がなかった。

TDKから補強の小島康明がエースとしてチームに勝利をもたらす様子を「すごい悔しい思いで見ていた」。それだけに「去年の分もしっかり働こう」と再起を期したシーズンだった。

東北2次予選では調子が上がらなかったが、改めて自身の強みである直球に重点を置いて調整を重ねた結果、今回の好投につながったという。

「今日の試合は自分の中でも良い収穫になったので、引き続きストレートには自信を持って、日本選手権の予選に向かいたい」。誰もが認めるエースに返り咲く日は近い。



【仙台市（JR東日本東北）―岡崎市（三菱自動車岡崎）】七回裏、打者を三振に抑えて声を上げる仙台市の先発・竹本祐瑛

東京都、7年ぶりの8強

▽第3試合＝2回戦

姫路市（日本製鉄瀬戸内）　000 000 000　0
東京都（鷺宮製作所）　002 000 11×　4

東京都が零封勝ち。先発・門間がキレのある直球を軸に6回2安打無失点と好投した。三回に野村の2ランで先制。七回には遊ゴロ野選、八回には代打・藪井の適時三塁打で着実に加点した。姫路市は再三の好機を生かせず、投手陣を援護できなかった。

姫路市

	打	安	点	振	球
④	原	3	1	0	1
⑧	井木	2	0	0	1
Ｈ	藤倉	1	0	0	0
８	岡	0	0	0	0
⑤	井田	4	0	1	1
③	原	4	1	0	0
Ｈ	戎	0	0	0	0
⑦	川出	2	0	1	1
⑨	井上	2	0	1	0
ＲＤＨ	日	3	0	2	0
Ｄ	江小	0	0	0	0
②	福島	2	0	0	0
②	朝	3	0	1	0
⑥	日	3	0	1	0
犠	盗	失	併	残	
0	0	0	0	8	5

	投手	回	打	安	振	球	責
杉	本	4	19	5	6	2	2
西		1⅔	6	1	2	0	0
下	堂	1⅓	1	0	0	0	0
川瀬	航	1	4	1	1	0	1
西	本	⅔	4	1	0	1	1
吉	岡	⅓	2	0	0	0	0
門	間	6	21	2	4	2	0
中	島	3	14	2	5	3	0

東京都

	打	安	点	振	球
④	中島	優	0	1	0
⑥	石井	4	1	2	0
⑤	木代	4	0	0	1
５	米田	3	1	0	1
⑨	野村	3	0	2	0
⑧	向山	4	3	0	1
Ｄ	保戸田	3	0	1	0
③	千葉	3	0	0	1
Ｈ	藪井	2	1	1	0
３	花崎	1	0	0	1
②	佐藤	3	0	1	0
⑦	竹原	4	2	0	1
犠	盗	失	併	残	
1	4	0	0	8	4

▽本塁打　野村1号②（杉本）▽三塁打　市戸山、保向山、原、藪井▽犠打　野村、向山、田竹原2▽試合時間　2時間32分▽審判　（球審）福寿（塁審）清水、吉田、野島

鷺宮製作所主将　特大2ラン

本当に頼もしい存在だ。東京都の4番で主将・野村工の東京ドーム初本塁打は、球場の誰もが目を奪われるような当たりだった。

三回2死一塁、2球目の直球を豪快に振り抜き、「完璧だった」。左翼スタンド上部の看板に届きそうな特大アーチに、日本航空石川高の2年後輩でもある姫路市の先発・杉本壮志は「あそこまで飛ばされたらすがすがしかった」と脱帽した。

東京都は4日前の1回戦でNTT東日本からの補強・向山基生が2ランを含む3打点の活躍でけん引しただけに、野村は「今日は俺がヒーローだ」と試合前から決めていたという。

拓大から入社5年目。プロ野球・ソフトバンクで活躍する勇を兄に持つ。昨季まで2年連続で都市対抗、日本選手権の2大大会を逃し、再起を期すチームで今季、主将を任された。

幡野一男監督は「野球に対する姿勢が素晴らしい」と指名した理由を語る。背中で引っ張る主将の求心力は強く、チームは同じ方向を向いてまとまってきた。

3年ぶりに自チームのユニホームで出場した東京ドームで、バットでも価値を示す1本を放ち、「社員の皆さんと喜びを分かち合えて最高です」。もっと高い所まで、チームを引っ張る。



【姫路市（日本製鉄瀬戸内）―東京都（鷺宮製作所）】三回裏東京都２死一塁、野村工が２点本塁打を放つ

姫路市・日本製鉄瀬戸内、創意工夫の59球

真っすぐは130㌔台。魔球もない。それでも、知恵と工夫で打者を抑えることができる。姫路市の左腕・杉本壮志が追い求めるのはそんな姿だ。

二回1死一、二塁のピンチで「らしさ」を発揮した。8、9番に対し、真っすぐと球速差の少ないカットボール、直球と同じ軌道から沈むチェンジアップを織りまぜた。2者連続の空振り三振で窮地を脱し、悠々と引き揚げた。

だが、三回に2ランを浴び、4回5安打2失点で降板。わずかな制球の甘さを見逃してくれなかった。5回1失点だった1戦に続いて先発を任されたが、悔しさの残る59球だった。

大体大から入社3年目。学生時代は140㌔を超える直球を投げ、昨年も都市対抗のマウンドに立ったが、昨夏から今春まで満足に投げられなかった。左肩を痛めていた。医師からは「肩の骨が削れている。痛みと付き合うしかない」と告げられた。

復帰までの時間で自分を見つめ直し、「球が遅いなりにできることがある」と行き着いた。直球は力を入れるだけでなく、あえて遅くして変化球との球速差を少なくする。変化球こそ腕を振り、打者を惑わせる。投球術を磨き、大舞台に戻ってきた。

◇**第8日**（9月4日）

2回戦3試合があった。大阪市・日本生命が福山市・倉敷市・JFE西日本に延長十三回タイブレークの末に逆転サヨナラ勝ちし、6年ぶりの8強入りを果たした。浜松市・ヤマハは大阪市・大阪ガスに快勝し、2年ぶりに準々決勝に進んだ。太田市・SUBARUは鹿嶋市・日本製鉄鹿島を降し、11年ぶりの準々決勝進出を決めた。

チームは復活の途上だ。1回戦で14年ぶりの白星。1991年以来の8強が次の目標となる。「僕も負けないピッチングをしたい」と杉本。25歳の挑戦は続く。

大阪市、再び激闘制す

▽第1試合＝2回戦

福山市・倉敷市（JFE西日本）	000 000 100	1
大阪市（日本生命）	100 000 000 012	2

（延長十三回、十回からタイブレーク）

大阪市が逆転サヨナラ勝ち。

1点を追うタイブレークの延

福山市・倉敷市

		打	安	点	振	球
⑦	鳥上	5	1	0	0	1
⑨	井西	6	1	0	1	0
④	新綿田	5	2	1	0	1
D	屋	5	1	0	1	2
⑤	3 古篠	5				
	田原	4	1	0	2	0
②	4	4	1	0	2	0
⑥	5 6 河田	3	1	1	0	2
	内中	2	0	0	1	0
⑧	田山	1	1	0	0	0
H	高永	1	1	0	1	0
8	原	1	1	0	0	0
③	岡	2	0	0	0	1
H	6 森	0	0	0	0	1
H	土井	1	0	0	0	0
3	土井	1	0	0	0	0
犠	盗	失	併	残		
3	3	1	1	14	4	0

		7	5	9	7

大阪市

		打	安	点	振	球
⑧	中	6	2	2	0	0
⑦	松上	4	2	1	0	0
7	高西	1	1	0	0	0
⑥	竹田	6	2	0	3	0
⑨	山村	3	0	1	0	1
⑤	木田	5	1	0	1	1
③	竹倉	5	2	0	1	1
D	早中	5	2	0	0	1
H	西野	2	3	0	1	0
D	岡	3	1	0	2	0
H	池上	1	2	0	0	0
D	武田	2	2	1	0	0
H	三島	2	3	0	0	1
4	4	3	0	0	1	0
②						
犠	盗	失	併	残		
5	1	1	2	17	4	3

		12	6	8	4

		責	打	安	振	球
投手	回					
長尾	7	2⅔	32	8	2	1
筒井	3	2⅔	14	2	5	0
尾田		⅔	1	1	0	0
山久	1		4	0	1	0
西野		⅔	1	1	0	0
藤	5		19	2	3	4
真井	2		9	2	2	1
武野	4	1⅓	16	2	2	1
高次	1	1⅓	5	1	1	1
斎木		⅓	1	0		

▽本塁打　篠原2号①（真野）▽二塁打　中西（生）、高田（津）、綿屋（岡）▽犠打　篠村（原）、永山、松本、竹田、武田、三島▽盗塁2、鳥井、新田、河内、松本▽失策　河内、中津（本）▽捕逸　三島▽試合時間　3時46分▽審判（球審）吉田（塁）、平野、吉島（線）

日本生命、延長十三回逆転サヨナラ

長十三回1死満塁で、代打・西岡が中越え2点二塁打を放った。延長十一、十二、十三回と3度勝ち越されたが、打線が粘りを見せた。福山市・倉敷市は七回に篠原のソロで追いつくなどしたものの、救援陣が踏ん張れなかった。



【福山市・倉敷市（ＪＦＥ西日本）―大阪市（日本生命）】延長タイブレーク十三回裏大阪市１死満塁、サヨナラとなる中越え２点二塁打を放ち、笑顔でナインに迎えられる西岡武蔵（右端）

打球は前に守っていた中堅手の頭上を大きく越えて弾んだ。大阪市の選手たちはベンチを一斉に飛び出しサヨナラの走者を出迎えた。

３時間46分に及ぶ延長十三回の激闘。１回戦も４時間を超える延長十二回の末の勝利だっただけに、梶田茂生監督は「ああ、やっと終わったと。ちょっと腰から下がガクッと（落ちました）。選手は元気ですよね」とねぎらった。

勝ち越されても、食らいついた。無死一、二塁から始まる延長タイブレーク。十回は両チーム無得点に終わり、十一回は1点リードを許したが、1死二、三塁で山田健太が「なんとか食らいつこう」と左前適時打を放って、振り出しに戻した。

十二回も2点を奪われたが、中津大和の適時打で再び追いついた。ようやく追い抜いたのは、1点を追う十三回だった。

大阪市は、1死満塁で三菱重工Ｗｅｓｔから補強した西岡武蔵を代打に送った。西岡は「狙っていた」という3球目のチェンジアップを振り抜き、サヨナラ勝ち。「試合を決めるつもりで強い気持ちで入った」と振り返った。

投手陣も力投した。1―1の八回から3番手としてマウンドに上がった左腕・武次春哉は、八、九回を3者凡退で切り抜けた。延長十回も得点を与えず、追いつかれた直後の嫌な流れを振り払った。

タフな試合を勝ち切れるのは、ある試合を経験したからだった。

近畿2次予選の第1代表決定戦も、延長タイブレークだった。十回に2点を勝ち越し、裏の守りでは勝利まであと1人のところまでいったものの追いつかれた。結果は延長十一回サヨナラ負け。選手たちは最後のアウト一つを取り切れず、「あの負けがあったからこそ今のチームがある」と口をそろえる。

一球にこだわり、束になって1点を積み重ねることを意識する。主将の木倉朋輝は「調子が良い、悪いに関係なく、自分の置かれた場所で仕事を全うしよう」と声を掛けてきた。

試合終了の瞬間に相手よりもわずかでも前に出ていればいい――。そんな今季の大阪市を象徴するような戦いぶりだった。

「いつも以上に緊張していた」という一回に、中堅前へのポテンヒット（記録は二塁打）で1点を失った。しかし、これで「逆に力みが取れた」と長野。１４０㌔台中盤の直球に得意のカットボール、緩急をつけるためのスライダーも交え、大阪市打線に的を絞らせなかった。

1―1で迎えた八回に1死二塁とピンチを迎えたが、カットボールで勝負。遊飛に仕留めたところで、救援陣に後を託した。

長野・松商学園高から天理大に進んだが、大学1年時に肘の靱帯（じんたい）を修復するトミー・ジョン手術を受けた。大学4年の秋には阪神大学リーグで最優秀選手賞と最優秀投手賞を獲得するほど回復したが、「プロを目指していても、大学で出遅れてしまった。元々そんなに実力もなかった」。プロ志望届は出さず、社会人野球の舞台に飛び込んだ。

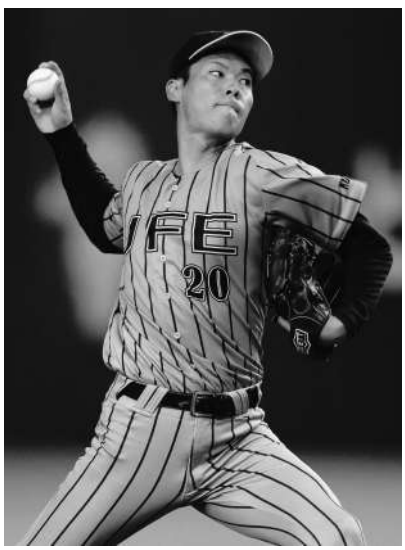
まずは競争の激しいチーム内で結果を出そうと、がむしゃらに腕を振る日々だ。「初戦は先発を任せてもらえなかったが、そこを任されるように信用を勝ち取っていきたい」

大舞台で好投し、誰からも信頼されるエースへの成長途上であることを示した。

長野健大投手
福山市・倉敷市・ＪＦＥ西日本

発展途上、1年目右腕が粘投

福山市・倉敷市の先発は、中国2次予選で2完封した新人右腕の長野健大（けんと）。八回途中まで投げて1失点と役目を果たし、「思った通りの投球じゃなくても、粘れたのは収穫だった」と語った。



【福山市・倉敷市（ＪＦＥ西日本）―大阪市（日本生命）】力投する福山市・倉敷市の先発・長野健大

浜松市、大勝

▽第2試合＝2回戦

浜松市（ヤマハ）	013 000 008	12
大阪市（大阪ガス）	000 000 010	1

浜松市が15安打で大勝した。二回に土山の適時打で先行すると、三回には森川の2ランなどで3点を挙げた。九回には前野の3ランなどで一挙8点を奪った。先発右腕・梅田は無四球で8回1失点と好投。大阪市は投手陣が崩れ、打線も1点を返すのがやっとだった。

ヤマハ新人「最高」2ラン

強力打線の4番に座るルーキーが一振りで決めた。浜松市の森川凌が東京ドームで豪快な初アーチをかけた。

1点リードの三回、無死一塁。「ストライクゾーンに来たら自分のスイングをする」と初球、外角寄りの直球を迷いなく振り抜いた。打球は右中間を越えてスタンドに飛び込んだ。

打った瞬間に本塁打を「確信した」というほど手応えは十分だった。「やっぱり気持ちが良い。最高です」とはにかんだ。

1回戦は4打数無安打。持ち前の長打どころか安打も出なかった。2回戦までの中2日では、フィットネスジムに行き、刺激を与えるなど下半身のトレーニングを重点的に行った。2回戦で放った一発は、下半身にしっかりと体重を乗せてフルスイング。森川の「次こそは自分がチームを勝たせる」という強い気持ちが最高の結果となった。

入社してすぐに4番の座を勝ち取った。東海2次予選では1本塁打で打率は3割を超え、主軸として活躍した。森川は「大事なところで打つのが4番の仕事。新人、ベテランは関係なく、任された以上は結果を出さないといけない」と言う。

その姿勢に申原直樹監督も「『今日は1本打てよ』って言って、プレッシャーに感じる選手ではない。逆に『打ちます』と言って、その通りだった。頼もしい」と感心しきりだった。



【浜松市（ヤマハ）―大阪市（大阪ガス）】三回表浜松市無死一塁、2点本塁打を放ち、声を上げる森川凌

この試合ではいずれも森川と同じ新人の9番・土山翔生が先制打を放ち、投げては先発の梅田健太郎が8回1失点の好投で勝利を引き寄せた。これからを背負う若手がチームを勢いづけた。

大阪市・大阪ガス　元プロが苦杯

自チームのミキハウスではなく、今年の東京ドームは他チームのユニホームだった。大阪市の補強選手として先発した桜井俊貴は、三回途中3失点。ほろ苦いマウンドになった。

立ち上がりの投球は、気持ちがこもっていた。一回に四球と失策で1死二、三塁のピンチを背負う。「味方のミスは自分がカバーする」と、4番の森川凌から空振り三振を奪い、永浜晃汰は見逃し三振に。2者連続三振で切り抜けた。

森川は「どこのチームが相手だろうと、自分たちの野球をすれば勝てる自信がある。大事な場面で1本打って勝利に貢献したい」。若き主砲は言葉に力を込めた。

だが、二回に適時打で先制を許し、三回は森川に中越え2ランを浴びた。打たれたのはともに直球。「真っすぐを狙われていると感じていたところだった。もうちょっと注意深くいけば良かった」と肩を落とした。

2022年にプロ野球・巨人から戦力外通告を受け、一度は巨人のスカウトに転向。24年にミキハウスで現役復帰を果たした。

前回大会で「都市対抗デビュー」を果たし、巨人時代に慣れ親しんだ東京ドームの

浜松市

	球	振	点	安	打		
⑦	0	1	0	0	0	矢秋	
③	1	1	0	0	0	野藤	網
RH⑨	0	0	0	0	0	森	小
DRD⑤	1	0	0	1	1	永相	大
⑥	1	0	0	1	2	清	西
②	0	0	0	0	0	柴	前
2	0	0	0	0	0	土	失
⑧	0	0	0	0	0	併	残
H8	0	1	0	0	1	山	
④	1	1	0	0	1	本	
犠	0	0	0	0	0	盗	
1	6	7	1	1	5	9	4

	打	安	点	振	球		
	6	4	0	1	0	幡	
	4	0	1	0	0	利	
	0	1	0	0	0	沢	
	1	3	0	0	0	岡	
	3	2	0	1	0	谷	
	2	0	1	1	0	川	
	1	1	0	0	0	林	
	0	2	0	0	1	浜	
	1	0	0	1	1	羽	
	0	0	0	0	0	本	
	0	1	0	0	0	智	
	0	0	0	0	0	村	
	2	1	0	0	0	田	
	4	2	1	1	0	野	
	1	0	0	1	1	山	
1	5	11	2	5	4	1	1

大阪市

	球	振	点	安	打		
⑧	1	0	0	1	4	橋	
④	0	1	0	0	3	峰	下
⑤	0	3	0	0	4	橋	和
6	0	1	0	1	4	本	水
⑨	0	0	0	0	3	清	高
③	0	0	0	0	0	戸	内
2	0	0	0	0	0	杉	下
R	0	0	0	0	1	城	井
2	0	1	0	0	0	三	川
D	0	1	0	0	0	山	川
⑦	0	1	0	0	0	高	橋
3	0	1	0	0	0	山	本
②	0	0	0	0	1	島	袋
H	0	0	0	0	0	石	橋
7	0	0	0	0	0	失	
⑥	0	1	0	0	0	併	
H	0	0	0	0	0	残	
5	0	1	0	0	0	失	
犠	0	1	0	0	0	盗	
0	3	6	1	3	31	4	1

	責	振	球	安	打	回		
投	1	0	7	4	26	8	田	手
梅	0	1	1	2	6	1	山	沢
桜	3	1	3	5	13	⅔	井	2
本	1	2	2	0	12		間	3
木	2	2	3	3	13	⅓	下	3
秋	3	2	1	0	3	⅓	山	
小	2	0	0	1	3	⅓	松	
稲	0	0	0	2	4	⅔	垣	

▽本塁打　森川1号②（桜井）前野1号③（小松）
▽二塁打　戸髙、矢幡2、大本
▽盗塁　相羽
▽失策　島袋2、玉置
▽試合時間　2時間53分
▽審判（球審）岩崎、（塁審）山本、須藤、緒方

マウンドに上がった。八回途中5失点で勝利にはつながらなかった。

「新たな挑戦を楽しめている。社員の方とのつながりも今までなかったこと。人生の経験としても良い時間を過ごしています」。社会人2年目の今季は充実しているという。

補強選手として他チームに「期間限定」で加わるのも、プロ時代にはなかった経験だ。8月中旬に合流した当初は不安もあったが「みんなフレンドリーで、前からいたチームみたいにスッとなじめた」という。

試合後、「戦力として取ってもらった。勝ちにつながる活躍をしないといけなかった」と悔しさを隠さなかった。「ミキハウスに帰って今回の経験を伝えたい」。昨年とは違う新しい経験がさらなる成長を促す。



【浜松市（ヤマハ）―大阪市（大阪ガス）】三回途中までに浜松市に3失点し、険しい表情を見せる大阪市の先発・桜井俊貴（右）

太田市、11年ぶりの8強

▽第3試合＝2回戦

鹿嶋市（日本製鉄鹿島）	0 1 0 0 0 0 0 0 0	1
太田市（SUBARU）	1 0 0 0 0 0 1 3 0×	5

太田市が中盤以降に着実に加点し、快勝した。一回に外山の適時二塁打で先行し、同点の六回には江川の右越えソロで勝ち越した。七回にも3点を加えて突き放した。投手陣は3人が継投して1失点と粘投した。鹿嶋市は、再三の得点機にあと1本が出なかった。

SUBARU、主砲が先制打

決してチャンスボールには見えない一球だった。しかし太田市の4番・外山優希は力強いスイングで捉えて先制点を生んだ。

2次予選の第1代表決定戦と同じカードとなった「北関東対決」は初回に試合が動いた。2死一塁から左打席に立ったのが、2年目の外山だった。

2ボール1ストライクから鹿嶋市の左腕・諸見里俊の4球目、136キロの直球は外角高めに伸びてきた。難しいコースへの一球も外山は迷うことなくバットを出し、打球は逆方向にぐんぐんと伸びて左中間を破る先制適時二塁打になった。

この一打が今大会初安打の外山は「打席では必死だった。芯で捉えて一本で走者を還す理想的な打撃ができた」と振り返った。

大学までの野球人生は苦労も多かった。開星高3年夏の島根大会決勝は延長十三回の末、石見智翠館高に逆転サヨナラ負けして甲子園出場を逃した。専大では4年間、2部でのプレーだった。SUBARU入社後は巧みなバットコントロールに加え、身長18



【鹿嶋市（日本製鉄鹿島）―太田市（SUBARU）】一回裏太田市2死一塁、外山優希が適時二塁打を放つ（捕手・松田彪瑠）

鹿嶋市	打	安	点	振	球
⑥ 池冨田	4	1	0	0	0
④ 間崎山	3	0	0	1	0
H 杉山田	3	0	0	1	0
H 生目	3	1	0	0	1
⑦ 今村田	3	0	0	0	1
③ 樫松山	3	0	0	0	2
⑤ 口駿岡	4	1	0	0	0
② 山高山	3	1	0	0	0
D 本田山	3	1	0	0	1
H D	3	1	0	0	0
⑨ 山山田	3	1	0	0	1
H ⑧ 陶山水	2	1	0	0	1
H 穴	1	0	0	1	0
犠盗失併残					
2 1 0 0	30	4	0	10	6

太田市	打	安	点	振	球
⑦ 藤原	4	2	0	0	0
④ 日森下	3	3	0	0	1
D 玉山	3	0	0	0	1
H D	1	0	0	0	1
③ 外藤川	4	1	1	1	0
② 後古根	3	1	1	0	1
⑧ 海老山	3	1	1	2	0
8 秋山田	3	0	0	0	0
⑥ 秋山上	3	0	0	1	0
H 6 江中	2	1	0	0	0
⑨ 中里	3	0	0	0	1
⑤	4	0	3	1	1
犠盗失併残					
3 4 1 0	31	13	1	10	5

投	手	回	打	安	振	球	責
諸見里	4	2/3	22	6	3	2	1
山口直	1	1/3	5	1	0	0	1
佐田		1/3	6	2	0	0	3
古川		2/3	3	2	0	0	1
池田		1/3	3	1	1	0	0
守屋		2/3	3	2	0	1	0
山本	4	2/3	21	1	3	5	0
手塚	3	1/3	12	1	1	5	0
金城	1		5	2	2	2	0

▽本塁打　江川1号①（山口直）▽二塁打　外山、池間、高岡▽犠打　樫村2、藤原、日置、古川（S）▽盗塁　陶山、藤原2、森下▽失策　秋山▽試合時間　3時間5分▽審判（球審）斎藤田、（塁審）池田、須勝小泉

6㌢、体重96㌔の体格を存分に生かしたパワーアップにも励み成長を図った。

2次予選の第1代表決定戦でも3点本塁打を含む計4打点の活躍。チーム全体で注力する筋力トレーニングで調子を上げて、「芯を外してもボールが飛びそう」との境地にまで達した。

若手ながら、小川信監督に「打順を下げるくらいなら使わない」と言われるほど信頼は厚い。「目の前の成績に一喜一憂せず、自信を持ってどっしり打席に立ち続けたい」。チームの新時代を引っ張っていく未来の看板打者の一打を号砲に、太田市が2年連続で阻まれていた2回戦の壁を打ち破った。

点取られ後手に

鹿嶋市・藤沢英雄監督

（打線は）積極性がうまく機能しなかった。先に点を取られて後手後手になってしまった。速球への対応が課題。最後まで諦めないところは見せられたと思うが、上を目指すにはまだまだやることがたくさんある。

◇**第9日**（9月5日）

2回戦2試合と準々決勝1試合があった。春日井市・王子は福岡市・西部ガスに零封勝ちし、4強入りした第94回大会（2023年）以来、2年ぶりの準々決勝進出。千葉市・JFE東日本は横浜市・ENEOSに延長十一回タイブレークの末にサヨナラ勝ちし、第92回大会（21年）以来、4年ぶりに8強入りした。第3試合から準々決勝に入り、岡崎市・三菱自動車岡崎が大阪市・NTT西日本に零封勝ちし、第74回大会（03年）以来22年ぶりとなる4強入りを一番乗りで決めた。

春日井市、逆襲の新章

▽第1試合＝2回戦

春日井市（王子）	1	0	1	0	0	0	1	0	1	4
福岡市（西部ガス）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

小刻みに加点した春日井市が快勝した。一回に吉岡の中前適時打で1点を先取し、三回は神鳥の右前適時打、七回は柴崎の右越えソロ本塁打で突き放した。投げては新人の樋口が走者を出しながら10三振を奪うなど要所を締め、142球で完封した。福岡市は好機であと1本が出なかった。

王子・樋口 初戦3失点→完封勝利

春日井市の先発左腕・樋口新（しん）は、リベンジに燃えていた。救援で登板した1回戦は制球が定まらずに3失点を喫した。「下を向いている場合じゃない」。一段と強い気持ちで、先発のマウンドに上がった。一回から毎回のように走者を出したが、大きく変化してストライクゾーンに収まる変化球を効果的に使い、要所を締めた。

ハイライトは2―0の五回。2死からの連打で一、三塁とされ、相手の3番打者を迎えた。内角も使って追い込んでから、「大体良いところにスライダーを投げれば抑えられる」。鋭く曲がって外角低めに収まるスライダーで見逃し三振を奪い、ピンチを脱した。

「今日は真っすぐは死んでいた」と自虐するほど直球に手応えはなかったというが、カーブやチェンジアップなど他の変化球も駆使し、142球で完封勝ち。「前回は雰囲気にのまれて自分と戦ってしまっていた。今回で少しは取り返せたかな」と安堵（あんど）の表情を浮かべた。

千葉経大付高から愛知工大を経て入社1年目。昨秋のドラフト会議でヤクルトから1位指名を受けた中村優斗は大学時代の同級生だ。理想は「真っすぐで勝負したい」というが、社会人では「工夫しないと勝てない」と、変化球も多く交えての投球が光る。

ルーキーの樋口と、クラブチームから加入1年目で1回戦に先発した九谷瑠（りゅう）が、投手陣の両輪として結果を残しているのが今季の春日井市だ。

「（決勝までの）5試合を



【春日井市（王子）ー福岡市（西部ガス）】福岡市に完封勝利してナインとハイタッチする春日井市の樋口新（右）

春日井市	打	安	点	振	球
④ 山前	4	1	0	0	1
⑥ 柴吉	3	0	0	0	1
⑧ 神高	3	2	0	1	2
⑦ 広木	4	2	0	1	1
D 宝三	3	0	0	0	0
③ 山細	4	1	0	0	0
H 口田	4	0	0	0	0
3 崎岡	3	0	0	0	0
⑨ 鳥垣	4	0	0	0	0
9 部下	4	1	0	0	0
9 島村	4	0	0	0	0
② ノ井	3	0	0	0	0
⑤ 川川	3	1	0	0	0
犠盗失併残					
2 2 0 1	12	3	5	1	0

福岡市	打	安	点	振	球
⑨ 樋口	4	2	0	0	1
⑦ 永利	3	1	0	1	0
⑤ 井手	4	2	0	1	0
D 安永	4	3	0	0	1
② 松山	3	2	1	0	0
⑥ 柴田	2	1	0	2	0
H 八木	1	1	0	0	0
H 金沢	1	0	0	0	0
R 園田	0	0	0	0	0
⑧ 山遼	2	0	0	2	0
H 笹井	1	0	0	0	0
8 横田	1	1	0	1	0
4 古川	1	1	0	0	0
③ 正木	2	0	0	1	0
H 平野					
犠盗失併残					
0 0 0 0	8	33	9	0	10

投	回	打	安	振	球	責
樋口	9	35	9	10	2	0
松本	2⅔	16	5	2	3	2
西山	3⅓	12	2	0	1	0
岩崎	1	5	1	0	1	1
大畑	1	3	1	0	0	0
大久保	⅓	4	1	0	2	1
田中	⅔	3	1	1	0	0

▽本塁打　柴崎1号①（岩崎）▽二塁打　松山、安永▽犠打　前田、中川▽盗塁　前田、柴崎▽試合時間　2時間52分▽審判（球審）佐竹（塁審）小泉、岩崎、片山

戦う中で、樋口の力は欠かせない。（前回登板では失点したが）腹をくくって彼に託した」と湯浅貴博監督。チームが目指す優勝への鍵は、躍進を続ける新戦力が握っている。

いつでもドームの夢を

西山大成投手　福岡市・西部ガス＝KMGホールディングスから補強

走者を背負っての救援にも、福岡市の2番手・西山大成はかすかに笑った。この瞬間のために、いくつもの逆境を乗り越えてきた。

三回、リードを2点に広げられてなお2死一、三塁のピンチ。「フルカウントになってもいいから厳しいコースを攻め続ける」と腹をくくった。打者の手元で鋭く曲がるカットボールを外角低めに集め、次打者を左飛に打ち取りしのいだ。

その後もギアを上げ六回まで2安打無失点。三振こそなかったが、打たせて取る投球で強みを発揮した。

福岡大から「いつかプロへ」と2023年、大福ロジスティクスに入社。1年目から主戦として期待されたが、秋に肘の靱帯（じんたい）を再建する「トミー・ジョン手術」を受けた。

1年に及ぶリハビリに励む中、逆境に追い打ちをかける出来事が起きた。所属先が24年シーズン限りで活動休止することが決まったのだ。

それでもKMGホールディングスから声がかかり現役続行。6月の都市対抗2次予選、チームは敗退したが、強気な投球が評価され福岡市の補強に選ばれた。

「東京ドームで投げる日だけを思い描いて、耐えてきた。感慨深い気持ち」と振り返る西山。「もっといい投球をしたい、もっと勝ちたい。ここに立てたら満足だと思ったけれど、欲が出てきました」と語った。

夢舞台で芽生えた新たな感情を、次のステージへの一歩とする。



【春日井市（王子）－福岡市（西部ガス）】
力投する福岡市の2番手・西山大成

千葉市、延長サヨナラ勝ち

▽第2試合＝2回戦

横浜市（ENEOS）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
千葉市（JFE東日本）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2

（延長十一回、十回からタイブレーク）

千葉市が延長タイブレークの接戦を制した。1点を追う七回、代打・関の左前適時打で同点とし、十一回に平山がサヨナラの中越え適時二塁打を放った。九回途中から救援した林ら5人の継投で三回以降は無失点。横浜市は二回に先制したがその後は好機を生かせず、好投の4番手・加藤は最後に力尽きた。

JFE東日本、鉄壁火消し人

サヨナラの瞬間、グラウンドに駆け出す仲間たちを千葉市の林桂大（けいた）はベンチで見つめていた。「走って行きたかったんですけど、疲れちゃって」。息詰まる接戦でチームを救った右腕は、穏やかにほほえんだ。

1―1の九回表、1死二、三塁のピンチで5番手でマウンドに送り込まれた。

横浜市の打者は、この試合で既に3安打を放っていた3番・山田陸人。「（山田は）相当状態も良かったので、意識していた。ボールが続くのが一番良くないと思った」。スライダーで内角を攻め、1球で一邪飛に仕留めると次打者は直球で中飛に打ち取った。

抑えの役割は「他の投手の頑張りを潰さないこと」。それまで4人が最少失点で踏ん張ってきた。仲間のために集中力を保ち続けた。

延長タイブレークに入った十回表を無失点で切り抜けると、十一回は1死から四球で満塁のピンチを背負ったが、冷静にコーナーに投げ分けた。得点を許さず、サヨナラの舞台を整えた。

十一回のマウンドでは2021年の都市対抗準々決勝の記憶がよぎった。中継ぎで登板し、タイブレークの延長十回は無失点に抑えたが、十一回に5失点しチームも敗

横浜市	打	安	点	振	球
⑧飯篠	4	0	0	1	0
H8猿松	0	0	0	0	0
⑥山滝	0	0	0	0	0
D丸有	0	0	0	0	0
R川村	0	0	0	0	0
③与石	0	0	0	1	0
②倉飛	0	0	0	0	1
⑤西戸	0	0	0	1	0
⑨瀬戸	0	0	0	0	1
⑦石井	0	0	0	1	0
H7上馬	1	0	0	0	1
④山原	4	1	0	0	1
渡浦田	3	0	0	1	0
沢山馬	4	0	0	1	0
口上倉	4	1	0	0	1
残飛西	1	0	0	0	0
併戸瀬	1	0	0	0	0
失併残	1	0	0	1	0
盗失併	0	0	0	0	0
犠盗失	1	0	0	0	0
計	32	4	0	6	5

千葉市	打	安	点	振	球
⑥小本	4	1	0	0	1
⑧中山	2	0	0	1	0
H9内猪	2	0	0	0	0
H9吉梁	1	0	0	0	0
D平大	0	0	0	1	0
⑦③松森	4	1	0	0	0
H3地村	4	1	0	1	0
⑤大下	3	1	0	0	0
⑨8田	4	1	0	0	0
②④関	4	2	1	0	0
H和	1	0	0	1	0
R4残	0	0	0	0	0
犠盗失	1	0	0	0	0
計	32	9	2	3	2

投	手回	打	安	振	球	責
関	根5⅔	21	4	6	1	0
渡	部1	5	2	1	0	0
柏	原⅓	2	1	0	0	0
加	藤3⅓	13	2	1	0	0
藤	田4⅓	22	7	1	2	1
加	藤1⅔	6	0	2	0	0
蒔	田2⅓	9	1	3	0	0
本	定1⅓	7	2	1	0	0
金	田0⅔	8	3	0	0	1
	林2⅔					

▽二塁打　山篠、倉与（横浜市）▽犠打　松合（千葉市）▽和盗　平山▽試合時間　3時17分▽審判（球審）藤吉（塁田原、山田策▽失策　下地▽審）坂上、清水、池浦▽併殺　田原

れた。「絶対にゲームセットの瞬間まで気持ちを切らさない」。苦い経験が力になった。

国際武道大から入社7年目。南関東2次予選では主に抑えを任され、何度もチームを助けてきた。同期で十一回裏に決勝打を放った平山快が「林が投げている時に点を取って勝つのがうちのスタイル」と話せば、落合成紀監督も「林で負けたら仕方がない」。南関東2次予選から粘り強さが際立つ今季のチームにとって、林の力投こそが逆転勝利の原動力だ。

横浜市・ENEOS、好機一本出ず

勝負どころでのあと一本が遠かった。同点のまま迎えた九回、1死二、三塁の好機で、横浜市は中軸に打席が回ってきた。

3番・山田陸人が初球を振り抜いたが、打球は高々と上がり、一邪飛に。続く丸山壮史は長打力と勝負強さを兼ね備える不動の4番打者だが、中飛に倒れた。

延長タイブレークでは十回、十一回と先頭打者の送りバントが決まらない。快音も響かず、10安打を放ちながら三回以降はスコアボードに「0」が並び、最後はサヨナラ負けした。

山田は1回戦で4打数4安打、この日も5打数3安打と〝絶好調〟だった。しかし、最大の好機に一本が出ず、「チームが勝たなければ意味がない。打ちたかった」と肩を落とした。

初戦は無安打で本調子ではなかった丸山は全5打席とも走者のいる場面だったが、五回の左前打を除いて4度凡退した。

相手の隙（すき）をついた走塁や、四球を奪う姿勢など、今季から指揮を執る宮沢健太郎監督の下で大切にしてきた「最後まであきらめない姿」は見せた。だが、あと1点が遠く、「あと一つ、押し切れるためには何が必要なのか、もう一度自問自答してやっていきたい」と丸山。この悔しさを無駄にはしない。



【横浜市（ENEOS）―千葉市（JFE東日本）】延長タイブレーク十回表の横浜市の攻撃を抑えて、笑顔を見せる千葉市の5番手・林桂大

岡崎市、4強一番乗り

▽第3試合＝準々決勝

大阪市（NTT西日本）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岡崎市（三菱自動車岡崎）	1	0	2	0	0	0	0	0	3

岡崎市が零封勝ち。四回に中村奎太の右越えソロ本塁打で先手を取り、六回は2死満塁から代打・宮野が右前2点適時打を放った。先発の秋山凌祐は緩急を巧みに使い、7回無失点の好投。救援陣も無失点でしのいだ。大阪市は再三にわたって走者を出したが、併殺などでホームが遠かった。

三菱岡崎、中軸が先制ソロ

ルーキーとして東京ドームを沸かせたのが2年前。岡崎市の主軸に定着した5番・中村奎太（けいた）が、四回に貴重な先制ソロを放った。

2死走者なしの打席の4球目。相手先発・浜崎浩大（こうだい）の内角高めの直球に「自然と反応できた」。引っ張った打球は右翼スタンドへ届き「1本出て良かった」と、ほっとした表情を浮かべた。

今季の打撃のテーマは「とにかく無駄を省く」だ。体の必要以上の動きを抑え、シンプルにバットを出すことを心がける。さらに、ティーバッティングで内角高めを意識的に振り込んでいるという。

この試合のソロは、両肘をコンパクトにたたみ、体をうまく回転させてボールを捉えた。無駄のないスイングに「やってきたことが結果につながっている」と手応えを口にした。

東京・日大三高では3年時に春夏の甲子園を経験。エースナンバーを背負い、打撃でも貢献する「二刀流」だった。

明大に進学後は打者に専念。社会人1年目の2023年の都市対抗は8打数4安打と力を発揮し、新人賞に当たる「若獅子賞」に選ばれた。

母校の日大三は今夏の甲子

大阪市	打	安	点	振	球
⑧	串畑	0	0	2	0
⑥	成瀬	0	0	3	0
6	水島	0	0	0	0
HD	天井	0	0	1	0
⑤	山田	0	0	0	0
③	浜川	0	0	0	0
R	吉村	0	0	0	0
⑦	中井	0	0	1	0
H	酒條	0	0	0	1
④	北藤	0	0	0	0
R	後本	0	0	0	1
②	辻目	0	0	0	1
H	夏井	0	0	0	2
⑨	藤残	1	0	1	0
犠	盗	失	併		
0	0	1	1	10	4

岡崎市	打	安	点	振	球
⑤	菅原	4	2	0	0
⑨	水谷	4	2	0	0
③	平野	4	1	0	1
④	古川	4	3	0	0
⑧	中村	3	1	1	1
⑦	奎東	3	2	0	1
H	太野	2	1	1	0
R	宮手	1	0	2	0
HR	大藤	0	0	0	0
②	伊川	3	0	0	0
⑥	西藤	3	2	0	2
7	斎藤	2	0	0	1
犠	盗	失	併	残	
0	0	0	2	5	2

投	回	打	安	振	球	責
浜渡大	5⅔	22	5	3	2	3
手崎辺江	⅔	1	0	0	1	0
	⅓	0	0	0	0	0
2	2	9	2	2	0	0
秋山	7	26	5	6	2	0
凌中川	1	4	0	2	1	0
田清	1	5	1	2	0	0

号時審塁
1合▽（篠
奎試分屋勝、
村29土藤
中▽間斎
打崎）時審）
墨（浜島、
本2球小
▽①間判審）
原

園で準優勝した。「すごく誇らしいし、（気持ちが）熱くなった」。22年ぶりに進んだ準決勝。自分たちも負けるわけにはいかない。

大阪市・NTT西日本、鬼門で涙 8度目挑戦、突破ならず

大阪市にとって準々決勝は、ここ半世紀にわたっての鬼門だった。電電近畿時代の第42回大会（1971年）に4強入りした後は、昨年まで数えること計7度にわたってはね返され、今年も阻まれた。

先に点を許したのは大阪市だった。右腕・浜崎浩大が四回2死から「狙った所より高くなった」とソロ本塁打を浴びた。ここまで劣勢をはね返してきた打線だったが、この日はつながりを欠いた。無安打に終わった4番・山田峻士は「いつもハマ（浜崎）さんに助けてもらっている。（点が）取れず申し訳なかった」と声を落とした。

14年目の浜崎は「今年のチームは違う」と手応えを持っていただけに敗戦を受け入れられなかった。試合後のミーティング中には自然とほおに涙が伝った。「（35歳でそう思えるのは）幸せなことなんですけど……めちゃくちゃ悔しいです」。一球、一打の重みを改めて知る大会となった。



【大阪市（NTT西日本）―岡崎市（三菱自動車岡崎）】四回裏岡崎市2死、中村奎太が本塁打を放つ

◇**第10日**（9月6日）

準々決勝があり、4強が出そろった。歴代最多出場64回目の大阪市・日本生命は東京都・鷺宮製作所に競り勝ち、優勝した第86回大会以来、10年ぶりの準決勝進出を決めた。

大阪市、10年ぶりの準決勝進出

▽第1試合＝準々決勝

東京都（鷺宮製作所）	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
大阪市（日本生命）	3	0	0	0	0	0	0	0	1×	4

大阪市が逃げ切った。山田が一回に先制3ラン、1点差に迫られた八回にもソロを放って全4打点をたたき出した。先発の谷脇が六回途中まで2失点と粘り、継いだ2投手も無失点と好投した。東京都は保戸田の適時打などで追い上げたが、終盤の好機を生かせなかったのが痛かった。

日本生命3年目スラッガー、迷いなし

チームだけでなく、自身にとっても価値ある2発だった。大阪市の5番・山田健太が先制3ランに、終盤に相手を突き放す貴重なソロと全4打点をマーク。社会人でくすぶっていたスラッガーがついに覚醒した。

初めの一発は技ありだった。一回2死一、二塁で右打席に入った。続けて緩い変化球を見せられた後の4球目。内角高めの直球に対し、うまく腕をたたんで体にバットを巻き付けるように回転でスイングした。

打球は左翼スタンド中段に飛び込んだ。入社3年目で都市対抗での自身初のアーチとなった。

ここで終わらない。1点リードの八回。大阪市は先頭打者が出塁したが、併殺打であっさり2死となり、流れが相手に傾きかけたところで打席が回ってきた。

「流れがよくない。中途半端なスイングだけはしないように」。狙いは第1打席と変わらない真っすぐ一本だった。

外角中心の変化球で攻められた後の4球目。やや甘く入った直球を思い切り振り抜くと、打球は左翼スタンド上段まで届いた。

ここまでは、9打数1安打と当たりが止まっていただけに「チームメートのおかげで勝ち上がってこられた。今日は自分の打点で勝利に導けた」と顔をほころばせた。

大阪桐蔭高時代は、史上初となる2度目の春夏甲子園連覇を成し遂げた「最強世代」の一人だ。東京六大学リーグの立大でも1年時から4番を任された。

「世代を代表するスラッガー」と評され、プロ野球ドラフト会議では指名確実と言われながら、まさかの指名漏れ。日本生命でもドラフト指名が解禁となる2年目での指名はなかった。

東京都	打	安	点	振	球
⑧ 敷島	4	0	0	1	1
Ⅾ 石井	2	0	0	0	1
⑥ 中野	1	0	0	0	0
Ｈ 向井	5	1	0	2	1
④ 木戸	4	1	0	0	0
⑨ 保佐	3	1	0	1	0
⑧ 西浦	4	2	0	0	0
⑤ 大村	3	1	0	1	0
③ 竹山	3	0	0	0	0
② 村田	1	0	0	0	0
Ｈ 上原	0	0	0	0	0
Ｈ 井島	2	0	0	0	0
⑦ 優村	1	0	0	0	0
Ｈ 山代	1	0	0	0	0
犠 盗 失 併残					
1 0 0 1 1	32	9	2	4	6

大阪市	打	安	点	振	球
⑧ 中津	3	0	0	0	1
⑦ 松本	4	2	1	0	1
③ 木倉	3	1	0	0	1
⑨ 竹村	3	0	0	1	1
⑤ 山田	4	2	2	1	0
Ⅾ 西岡	4	2	0	0	1
Ｄ 早野	1	0	0	0	1
Ｒ 高田	2	0	0	0	1
⑥ 池上	2	0	0	1	0
④ 三島	3	0	0	2	0
② 谷脇	0	0	0	0	0
犠 盗 失 併残					
1 1 0 2 5	27	5	4	5	5

	投	回	打	安	振	球	責
竹丸	手	5	20	3	7	2	3
渡部	丸	1⅓	5	0	1	2	0
松下	前	1	4	2	0	1	0
谷	脇	5⅔	25	6	2	5	2
高	木	1	5	1	0	1	0
斎	藤	2⅓	9	2	2	0	0

▽本塁打　山田1号③（前田・竹丸）2号①（保戸田）▽二塁打　保戸田、池上合▽（土田）▽犠打　木代、松本▽時間　2時間37分▽試合　松崎（球審）岩崎、佐竹、湯本、



【東京都（鷺宮製作所）―大阪市（日本生命）】１試合２本塁打を放った大阪市の山田健太。写真左は一回裏大阪市２死一、二塁での３点本塁打。写真右は八回裏大阪市２死での本塁打

梶田茂生監督は「プロに行きたいと思いながらもなかなか結果が出ず、モヤモヤしていたんでしょう」と心中を察する。今季は守備位置が二塁から三塁に変わり、副将にも任命された山田は「冷静に舞い上がらずにプレーできているのかな」と振り返る。

この日はキッズデーでヒーローインタビューは小学生が務めた。「どうやったらうまくなりますか」と聞かれた山田は、照れくさそうにこう答えた。

「毎日どんなことでもいいので少しずつ継続したらうまくなります」。その表情は完全に吹っ切れていた。

竹丸和幸投手 東京都・鷺宮製作所

度胸一番、磨いた速球

大会屈指の好左腕が初回にいきなり3ランを浴びたが、すぐに立ち直った。

東京都の先発・竹丸和幸は、チームが1点を返した後の二回、1死から2者連続三振を奪って無失点。三回も得点圏に走者を背負いながら連続三振に切って取り、追加点は許さなかった。

１４０キロ後半の直球に切れのあるチェンジアップやスライダーを制球良く操る。マウンドではポーカーフェースで、幡野一男監督が「見習いたい」というマウンド度胸も魅力だ。城西大を経て入社2年目で、ドラフト指名が解禁となる今季は最速１５０キロのプロ注目左腕と評される。

学生時代は救援での登板が多かったが、昨秋に先発の一角として台頭した。冬場はウエートトレーニングを中心に体作りに励むと、力みなく速球を投げ込めるようになった。

1回戦では6回1失点、8奪三振と好投し、この日も5回3失点で7個の三振を奪って試合は作った。だが、初回にとられた3点が最後まで響いた。チームを優勝に導くことはできず、東京ドームで勝つ難しさを味わった。「1球に対する責任を持ってこれからやっていきたい」。最後まで表情を崩さなかった。


【東京都（鷺宮製作所）―大阪市（日本生命）】力投する東京都の先発・竹丸和幸

太田市

	打	安	点	振	球
D	5	2	1	0	0
⑦	5	2	1	1	1
④	4	0	0	2	0
③	4	1	1	1	0
②	3	1	0	1	0
⑧	2	0	0	0	0
⑨	3	1	0	2	0
H	1	0	0	1	0
⑤	2	1	0	0	0
H	1	0	0	0	0
⑥	1	0	0	1	0
H	1	0	0	0	0
６	1	1	0	1	0
犠	0	0	0	0	0
盗	2	0	0	0	0
失	0	0	0	0	0
併	0	0	0	0	0
残	9	3	1	4	1

下原置山藤川川神瀬田里根山海秋老

浜松市

	打	安	点	振	球
⑦	3	1	0	0	1
③	2	0	0	0	2
⑨	4	1	1	2	0
D	4	1	1	1	1
⑤	4	4	2	0	0
⑥	4	3	0	1	0
②	3	0	0	1	0
⑧	2	1	0	0	1
H	1	0	0	0	0
R	1	0	0	0	0
④	1	0	0	0	0
H	1	0	0	0	0
５	0	0	0	0	0
犠	0	0	0	0	0
盗	0	0	0	0	0
失	0	0	0	0	0
併	0	0	0	0	0
残	7	3	1	5	3

岡部村田野山林小

投	回	打	安	振	球	責
手田	2⅓	13	5	1	2	5
野浦	1	7	2	1	0	0
八城	2⅔	9	1	2	0	0
三嶋	2	7	1	0	0	0
金田						
佐藤廉	9	40	9	10	2	4

▽本塁打　網谷１号②（八野田）　森川２号②（八野田）　▽三塁打　古川、大相羽、土山　▽盗塁　森下、本、土山　▽失策　土山２　▽時間　２時間37分　▽審判（球審）美野川崎（塁審）大都、藤吉、藤原

ヤマハ、覚悟の１４８球

▽第2試合＝準々決勝

太田市（SUBARU）	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
浜松市（ヤマハ）	3	0	2	0	0	0	0	0	×	5

浜松市が終盤の追い上げを振り切った。一回に網谷の2ランと相羽の適時三塁打で3点を先行し、三回には森川の2ランで突き放した。先発の佐藤廉は九回に4失点したが、１４８球で完投した。太田市は、九回に4連打などで4点を返したが反撃が遅かった。

浜松市、エース2連続完投

5点リードで九回に入る前、浜松市のエース・佐藤廉の球数は１１５球だった。交代も考えられる場面だったが、八回まで被安打4で無失点の快投を続けていた左腕は九回もマウンドに向かった。

さすがに疲れから球が走らない。4連打を浴びてあっという間に3点を失い、内野ゴロの間に点差は1点となった。2死三塁となって次の打者は太田市の4番・外山優希だったが、浜松市の申原直樹監督は「あの場面では次に投げる投手に相当な重圧がかかる」と佐藤に託した。

佐藤は、何度も天を仰ぎ、



【太田市（ＳＵＢＡＲＵ）―浜松市（ヤマハ）】九回表太田市２死三塁、外山優希（左）を三振に打ち取って完投勝利し、捕手・大本拓海（右）に寄りかかる浜松市の先発・佐藤廉

額に流れる大粒の汗を拭った。それでも「完投する」と腹は決まっていた。

３ボール１ストライクから、内角でファウルを誘ってフルカウントとした。７球目。外角への得意のスライダーで空振り三振を奪った。１４８球。力を使い果たし、控えめなガッツポーズを作るのがやっとだった。

５年目で投手陣の柱として成長した。原点は前回大会の苦い経験にある。東京都・明治安田戦は６回１失点と試合こそ作ったが、救援陣が崩れてチームは１―11でコールド負け。マウンドを降りた後だったが「自分が完投しないと勝てない」と痛感した。「完投できる投手になる」と誓って今季は始まった。

力の出し入れを意識し、ピンチの時に力を入れる「ギアチェンジ」を取り入れ、最後まで投げきれるようになった。この試合でも八回まで味方の失策でピンチを背負っても粘り強かった。初戦の１４１球に続いて最後までマウンドに立ち続け、佐藤は「僕はチームが勝つために投げているので」ときっぱり。準々決勝からは連戦となるチームにとっても頼もしい完投だった。

太田市・SUBARU、直球走らず

明らかに直球が走っていなかった。多彩な変化球を駆使しても緩急が利かない。太田市の先発左腕・八野田龍司が浜松市の強打の前に三回途中５失点で降板した。エースの役割を果たせず、「力負け。相手が一枚も二枚も上だった」。

一回、先頭打者にいきなり安打を許す。１死後、３番・網谷圭将を２球で追い込んだものの、チェンジアップを軽々と左翼席まで運ばれた。２死後に連打を許してさらに１点を失った。三回には４番・森川凌に真っすぐをとらえられて、右越え２ランを浴びた。

11年ぶりの４強入りを逃した小川信監督は「八野田で負けたらしょうがないと誰もが思っているので、悔いはない」と話した。

５年目で27歳の八野田は強豪の東京都・東京ガスとの１回戦に先発し８回３失点で、白星を挙げた。22日に中国で開幕するアジア選手権に出場する社会人日本代表にも選ばれている。

両チームは10月28日に京セラドーム大阪で開幕する日本選手権への出場を既に決めている。

「対戦できたらリベンジしたい」。ゼロで抑えることにこだわり、制球と変化球の精度を見つめ直す。



太田市（ＳＵＢＡＲＵ）―浜松市（ヤマハ）】力投する太田市の先発・八野田龍司

春日井市、11安打快勝

▽第3試合＝準々決勝

千葉市（ＪＦＥ東日本）　000 000 010　1
春日井市（王子）　202 032 00×　9

春日井市が11安打9得点で快勝した。2点リードの三回に神鳥が2ランを放ち、五回も神鳥の適時二塁打などで3得点。六回は柴崎の2ランで突き放した。先発の九谷は要所を抑えて8回1失点。千葉市は相手を上回る13安打を放ったが、好機を生かせなかった。

王子、新人離れの23歳、2戦連発

新人とは思えない活躍ぶりである。春日井市・柴崎聖人が2戦連発となる豪快なアーチを描いてドームを沸かせた。

7点リードの六回だった。1死一塁から左打席に入り、浮いた変化球を捉えた。右手でバットを高く掲げて走り出し、打球は右中間席の上段へと吸い込まれた。前日の2回戦に続く一発に「いい形でボールに入っていけている」と手応えを語った。

岐阜第一高から進んだ大阪経済大では、走攻守三拍子そろい、関西六大学リーグ史上15人目の通算100安打を達成した。プロ注目選手だったが、ドラフトでの指名はなかった。

今春から社会人に進むと、長打力が一気に開花した。

大学時代は肉体強化を打撃に生かし切れなかった。王子では同じ左打者の先輩で、2度の首位打者に輝いた吉岡郁哉から左手の使い方を学んだ。ボールに対してのバットの入れ方など練習し、飛距離が伸びたという。

1年目にして中軸を担う機会も多く、湯浅貴博監督は「初めての全国でこれだけの力を発揮できるのは素晴らしい」と称賛する。柴崎は「将来的にはプロが目標。走攻守でもっと躍動したい」。規格外の23歳がチームの勢いを加速させている。



【千葉市（ＪＦＥ東日本）―春日井市（王子）】六回裏春日井市１死一塁、柴崎聖人が２点本塁打を放つ

千葉市	打	安	点	振	球
⑥	小山内	4	2	1	0
ＤＨ	猪中	4	1	1	0
⑦	吉本	4	1	2	0
Ｈ	平大	3	0	0	0
⑨	梁大	4	0	1	0
Ｈ	下桜	3	0	0	0
⑧	志田	2	0	0	0
②	関	1	0	0	0
Ｈ	松本	4	1	1	0
２	藤田	4	1	2	0
④	沢田	3	1	0	0
Ｈ	間山	3	0	0	1
⑤	松瀬	3	0	1	0
Ｈ	森地	2	0	0	0
⑧	井賀	2	0	0	0
②	村	1	0	0	0
Ｈ	関	1	0	0	0
犠	盗	失	併	残	
0	2	0	1	13	

春日井	打	安	点	振	球
④	山口	5	1	0	0
⑥	前田	3	2	0	0
⑧	柴崎	5	2	1	0
⑦	吉岡	5	3	1	2
ＤＨ	神鳥	4	2	2	0
ＤＨ	平野	4	1	0	0
③	高垣	3	0	1	0
⑨	山ノ井	3	1	1	0
Ｈ	三村	3	1	0	0
②	細川	2	0	1	0
⑤	中川	2	2	2	1
犠	盗	失	併	残	
1	0	1	2	8	

投	回	打	安	振	球	責
渡辺	1	7	2	2	2	1
立石	2	10	2	3	2	2
蒔田	2	10	5	0	1	3
金田	1	6	2	2	1	2
山田	1	4	0	1	1	0
本定	1	4	0	0	1	0
九谷	8	35	11	8	1	1
宮崎	⅔	2	1	0	0	0
柳橋	1	4	1	0	0	0

▽本塁打　神鳥１号②（立石）　柴崎２号②（金田）▽二塁打　平川、山、柴崎、神鳥、中川▽盗塁　前田村▽犠打　大森▽失策　小松、田▽捕逸　下地▽試合時間　3時間10分▽審判（球審）　深沢（塁上審）　高橋進、杉田、坂

千葉市・ＪＦＥ東、走攻守で全開

先頭打者が奮闘

「勝ちたい」。その一心だった。千葉市のリードオフマン・小松勇輝が打って走って守ってと走攻守で奮闘した。

一回、先頭打者として打席に立つと、2球目を右前打にして出塁。ヘッドスライディングで二盗を決め、試合開始からエンジン全開だった。三回には、絶妙なセーフティーバントも決めた。遊撃の守備では後ろに下がりながら難しい飛球を好捕。「何とか投手を助けたかった」と振り返った。

神奈川・東海大相模高では森下翔太（阪神）らとセンバツで4強入り。東海大3年の春に右膝の靱帯（じんたい）を断裂した。失意に暮れていた時に連絡をくれたのが、落合成紀監督だった。「面倒を見るからうちでどうだ」と声をかけられ、入社を決意した。

1年目からレギュラーをつかんだが、都市対抗での勝利は今回が初めて。「勝つほど会社の人も喜んでくれるし、チームの雰囲気も良くなる」と勝利に貪欲になった。

この日は大応援団を前に勝利を届けられなかった。「（大会を通じて）いい部分も悪い部分もあった。今後に生かしてチームを引っ張っていける存在になりたい」。一回り成長して次に向かう。

◇**第11日**（9月7日）

準決勝2試合があり、3年連続15回目出場の岡崎市・三菱自動車岡崎と3年連続20回目出場の春日井市・王子が決勝に進んだ。岡崎市は、準優勝した第72回大会（2001年）以来、24年ぶりの決勝進出。春日井市は準優勝した第79回大会（08年）以来17年ぶりに決勝に勝ち上がった。愛知県勢同士の決勝カードは初めてで、東海勢同士の決勝は第94回大会（23年）以来2年ぶり。

第1試合は岡崎市が大阪市・日本生命に競り勝ち、第2試合は春日井市が浜松市・ヤマハを降した。決勝は8日に行われる。

岡崎市、接戦勝ち抜く

▽第1試合＝準決勝

岡崎市（三菱自動車岡崎）	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
大阪市（日本生命）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

岡崎市が逃げ切った。三回に平野の適時打で先行すると、六回には菅原の押し出し四球で追加点を挙げた。先発の戸田は緩急を生かして6回無失点と好投した。大阪市は、継投した投手陣が12四死球と制球に苦しみ、打線も八回に松本の二塁打で1点を返すのがやっとだった。

三菱岡崎、威風堂々37歳・補強右腕

岡崎市の先発右腕は37歳。大一番のマウンドでもどっしり構え、風格すらあった。JR東海からの補強で加わった戸田公星だ。ハイライトは2点リードの六回だった。

立ち上がりからテンポ良くアウトを重ねていたが、中盤を過ぎて直球が浮き始めた。六回は2死から安打とこの試合初めてとなる四球を与えた。

続く大阪市の4番・竹村陸には3ボール2ストライクから死球。「全体的に高めになり、思ったような球が投げられなかった」と満塁のピンチを背負った。ここで打席を迎えたのは、前の試合で2本塁打を放っている山田健太だ。

だが、戸田は「中途半端な高さに投げて、長打にされるのが一番良くない」と冷静だった。制球を誤らないように多彩な球種をコーナーに散らした。

戸田の持ち味は140キロ台の直球と落差のあるフォークだ。山田にはカーブやツーシームを織り交ぜて追い込み、最後は外角のフォークで右飛に打ち取った。

無失点でベンチに帰る戸田はしてやったりの表情で白い歯をのぞかせた。6回無失点でマウンドを降り、梶山義彦監督も「戸田君は完璧だった」とうなった。

大分・日田林工高からJR北海道を経て、JR東海に移籍。社会人野球は19年を数える。JR東海では昨季から兼任コーチを務めるベテランだ。前回大会も岡崎市の補強選手に選ばれ、今回も「緊張しないとアドレナリンが出ないので、みんなにプレッシャーをかけてもらってマウンドに上がれたのが良かったのかな」と頼もしかった。

優勝までの5試合を見据える上で補強選手の先発は、どのチームもぜひとも計算に入れたいところ。梶山監督も「補強選手に頼らないといけない試合が必ずある。それが今日だった」と、準決勝で迷わず戸田を指名した。戸田も「大事な試合で先発として使ってもらい、いい緊張感の中で試合に臨めた結果が出た」と振り返った。

2001年以来、24年ぶり



【岡崎市（三菱自動車岡崎）―大阪市（日本生命）】六回裏大阪市2死満塁、山田を右飛に打ち取り、ベンチに引き揚げながらナインに笑顔で合図を送る岡崎市の先発・戸田公星

岡崎市	球	振	点	安	打
⑤菅水平古中	3	0	1	1	2
⑨③村東手室住川藤	3	1	0	2	5
④⑧⑦原谷野川奎	0	1	0	1	2
⑧大小豊西斎	0	0	0	0	0
⑦HDR②⑥DD	2	0	0	0	0
犠盗失併残	1	0	1	0	1
	12	5	2	6	28

大阪市	球	振	点	安	打
⑧中松木竹山西早武池三	0	2	0	1	4
⑦③⑨⑤DH⑥④②津本倉村田岡野田上島	0	0	0	1	3
	1	1	0	1	4
	1	0	0	0	3
	0	0	0	0	3
	0	1	1	0	1
	0	0	0	0	0
犠盗失併残	0	1	0	0	0
	2	5	1	3	32

投手	回	打	安	振	球	責
戸田	6	23	3	4	2	0
中原	1⅓	6	2	0	0	1
川	2⅔	3	0	0	1	0
藤井	3	12	1	1	1	1
真野木	2⅔	15	2	1	4	1
高次	⅓	2	1	1	0	0
武藤	2	10	1	2	3	0
斎	1	4	1	1	0	0

▽二塁打　平野、松本村（岡）▽犠打　菅原、中盗（岡）▽奎、斎藤（岡）▽塁　菅原、中村奎、松倉、本、木倉▽試合時間　3時間4分▽審判（球審）杉田、太田勇、美野大都（塁審）

の決勝にたどり着き、「意地でも取りたい」と梶山監督。

投手を乗せる好リード

三島有貴捕手
大阪市・日本生命

プレーボール直後、連続四球でいきなりのピンチを迎えた。大阪市の捕手・三島有貴はすぐさま球審にタイムを求めてマウンドに向かった。補強選手の力も借りて初優勝をつかみにいく。



【岡崎市（三菱自動車岡崎―大阪市（日本生命）】六回表、マウンドでナインに声をかける大阪市の捕手・三島有貴（右から2人目）

「（アウト）1個ずつでいいから、（ストライク）ゾーンにしっかり投げ込んでくれたらいいよ」

先発の新人左腕・藤井基（もとき）（三菱重工Westから補強）に柔らかい語り口で声を掛け、落ち着かせた。3番打者に対し、2ボール1ストライクから要求通りの外いっぱいの直球で二ゴロ併殺。続く打者も内野ゴロに仕留め、窮地を脱した。

二回以降もマウンドに上がった投手陣は制球に苦しんだ。四死球は12個にも上った。毎回得点圏に走者を置きながらも、三島は相手の打ち気をそらしたり、タイミングを外したりするリードで接戦を演出した。

愛知・享栄高、愛知学院大を経て入社2年目。昨季は石伊雄太（中日）の陰に隠れていたが、今季は近畿2次予選から全試合でマスクをかぶる。

梶田茂生監督は「投手のその日の軸になる球を探すことができる。そこは石伊よりも上」と評する。例えば、軸の直球が操れていないとみると、変化球でリズムを作りながら直球をうまく生かすようにする。そうしているうちに投手は乗っていく。今大会の大阪市の投手陣はそうやって三島に乗せられながら好投を続けてきた。

10年ぶりの4強に導いて確かな自信を得た一方、課題も明確になった。延長十二回までもつれた1回戦はスクイズを決めたが、4試合で無安打に終わった。「自分のバットで投手陣を助けたかった」と悔しさをにじませた。

息つく暇もなく、9月中旬から日本選手権近畿最終予選がスタートする。「苦しい場面を乗り越えてきた経験を生かし、秋にはもう一段階レベルアップし日本選手権で優勝したい」。最後は爽やかな表情だった。

制球に苦しみ
大阪市・梶田茂生監督

投手陣は制球に苦しみすぎた。もっと思い切り勝負してほしかったが、それでもよく2点に収まったなと思っている。前半で攻撃へのリズムが作れなかった。もう一個上に行きたかったが、そんな甘くなかった。

春日井市、会心アーチ

▽第2試合＝準決勝

春日井市（主）	0	0	0	0	0	0	4	2	6
浜松市（ヤマハ）	0	0	0	0	1	0	0	0	1

春日井市が逆転勝ち。1点を追う八回2死から細川の適時打で追いつき、代打・大杉の3ランで勝ち越した。九回も高垣の適時打などで突き放し、2投手の継投でしのいだ。浜松市は3番手の梅田が一発に泣き、九回は大本のソロで1点を返すにとどまった。

春日井市

	打	安	点	振	球
④	5	3	0	0	1
⑥	4	0	0	2	0
⑧	5	2	0	0	1
⑦	4	1	0	2	1
D	4	2	1	1	0
③	4	1	0	0	0
⑨	3	0	0	1	0
H	1	0	0	0	0
⑨	4	1	0	0	1
②	4	1	0	0	0
⑤	3	1	0	1	0
H	1	1	0	0	0
犠	0	0	0	0	0
盗	1	0	0	0	0
失	0	0	0	0	0
併	0	0	0	0	0
残	3	1	1	3	0
	38	13	6	9	4

口田―崎岡―鳥垣井―野村川川杉／山前柴吉神高山平三細中大

浜松市

	打	安	点	振	球
⑦	3	1	0	1	1	0
③	2	0	0	1	0	0
H	3	0	0	1	0	0
⑨	3	0	0	0	0	0
D	5	4	3	0	0	0
⑥	4	3	2	0	0	1
②	3	2	1	0	1	0
⑧	4	2	1	0	1	0
④	2	1	0	0	1	0
H	1	0	0	0	0	0
犠	0	0	0	0	0	0
盗	2	0	1	7	2	2
失	0	1	7	3	7	2
併	1	0	0	0	1	0
残	3	1	0	0	1	0
	31	7	2	7	2	

幡利林岡谷川浜羽本野山田―矢秋小藤網森永相大前土柴

	回	打	安	振	球	責
投手	5	21	5	4	1	1
樋口谷	4	15	2	3	1	1
吉田	3	14	4	4	2	0
金原	3	12	2	2	1	0
梅田	1⅔	10	4	3	1	4
波多野	1⅓	1	0	0	0	0
有本	1	6	3	0	0	2

▽本塁打　大杉1号③（梅田）　大本1号①（九谷）▽二塁打　矢幡、細川、前野、神鳥、山口、高垣2▽犠打　高垣、小林、永浜、山▽盗塁　山口、前田、柴崎、矢幡、相羽▽試合時間　3時間3分▽審判（球審）清水（塁審）土屋、福寿、小島

王子ベテラン、振り続けたバット

この一打のために、来る日も来る日も、バットを振り続けてきた。春日井市のベテランが、驚く一発で勝利をたぐり寄せた。

八回に2死から細川勝平の右前適時打で同点に追いつき、なおも二、三塁で、9年目・大杉諒暢（あきのぶ）が代打で打席に入った。

3球目の変化球を振り抜いた打球は右翼スタンドへ。「どこに飛んだのかわからなくて、とにかく全力で走らないといけないと思って」。必死にベースを回りながら、スタンドの歓声で勝ち越しの3ランと気づいた。何度も右腕をつき上げ、仲間に向かって思わず両手でピースを作った。「興奮して、覚えていない」。チームを17年ぶりの決勝の舞台へと導く一打に、興奮は冷めやらなかった。

青森・光星学院高、中部学院大を経て入社。社会人入り後、記憶にある本塁打は「5本程度」という。

昨季はほとんど途中出場だったが、湯浅貴博監督は「試合に出ても出なくても、朝早くから練習している」と陰の努力を見ていた。今季も春先は守備での途中出場が多かったが、コツコツと練習を続けてきた。

序盤は息詰まる投手戦となり、五回に先制を許した。それでも試合前から「どうにか僅差で終盤に持ちこむ」とチームで意思統一はできていた。焦りはなかった。21年ぶりの頂点まであと1勝。「僕たちは一人一人では勝てない。チーム全員で倒しにいく」と大杉。若手の活躍と、頼もしいベテランの存在。日本一になるためのピースはそろっている。



【春日井市（王子）―浜松市（ヤマハ）】八回表春日井市2死二、三塁、代打・大杉が3点本塁打を放つ（投手・梅田）

浜松市・ヤマハ 主将、執念の一発

ダイヤモンドを一周した主将はゆっくりと本塁を踏み、ベンチに向かって数度、手をたたいた。「まだまだいくぞ」。そう仲間に伝えたかった。浜松市の大本拓海は1―6の九回、1死で打席を迎えた。「とにかく塁に出る。絶対にアウトにはならない」

粘り続けた末、やや甘く入った球を強振した。打球は右翼へのソロ本塁打。申原直樹監督も「最後にまだまだいくぞ、と結果を出してベンチを盛り上げた。本当に良い主将です」と目を細めた。

劣勢のチームを勇気づけたが、反撃の糸口とするには点差が開きすぎていた。投手陣をリードした捕手として、大本は「みんなよく投げてくれたが、無失点になるよう持っていってやれなかった」と反省した。

「経験は大事にしつつ、でも、過去を追いかけてもいけない。どんな相手やどんな場面でも勝ちに持っていけるような強いチームを作って、またここに戻る」

悔しい負けだが、決意も新たにした。

勝負した結果

浜松市・申原直樹監督

相手投手は要所で球が低めに来ていた。最後に大本（拓海）が（ソロ本塁打を放ち）意地を見せてくれた。梅田（健太郎）は打たれたが、勝負した結果。これを糧にしていくしかない。



【春日井市（王子）―浜松市（ヤマハ）】九回裏浜松市1死、本塁打を放って生還し、声を上げる大本拓海

春日井市、団結力でV

◇第12日（9月8日）

21年ぶりに頂点に上り詰めた。春日井市・王子が岡崎市・三菱自動車岡崎に2―1で逆転勝ちし、第75回大会（2004年）以来、2回目の優勝を果たした。愛知県勢同士の決勝は史上初。東海勢同士の対決は第94回大会（23年）以来、2年ぶりだった。岡崎市は第72回大会（01年）以来、2回目の決勝で初優勝はならなかった。

橋戸賞（最優秀選手賞）は春日井市の九谷瑠投手が輝いた。投手陣の柱として、先発と中継ぎでフル回転。3連投となった決勝も六回から救援し、無失点の好投で優勝の原動力となった。久慈賞（敢闘賞）は岡崎市の秋山翔投手が受賞。2回戦では完投勝利を挙げ、決勝でも八回途中2失点と試合を作った。

顕著な活躍を見せたチームや個人に贈られる小野賞は、初優勝時は主将として、今大会は監督で優勝を果たした春日井市の湯浅貴博監督に決まった。前回大会では第78回大会（07年）以来、17年ぶりに該当者なしだった若獅子賞（新人賞）は、今大会2本塁打の春日井市・柴崎聖人外野手が選ばれた。

首位打者賞は、打率4割6分7厘をマークした浜松市・ヤマハの相羽寛太内野手（15打数7安打）、打撃賞は春日井市の吉岡郁哉外野手が獲得した。

愛知県勢対決制す

▽決勝

春日井市	0	0	0	0	0	0	2	0	2
（王子）									
岡崎市（三菱自動車岡崎）	0	0	0	1	0	0	0	0	1

春日井市は1点を追う八回、連打に敵失も絡んで同点とすると、続く好機で吉岡が犠飛を放ち逆転。投げては六回から救援した九谷が、被安打1の好投で勝利を呼び込んだ。岡崎市は守備の乱れに加え、四回の先制後の好機で追加点を取りきれなかったのが響いた。

若手も伸び伸び、全員野球

全員で束になる野球を体現してきた春日井市・王子。最大の強みはベテラン、中堅、若手が「全員で同じ方向を向く」ことにある。

2020年からは3年連続で本大会出場を逃し、優勝して以降は最長ブランクとなるなど苦しんだ。21年秋から率いる湯浅貴博監督の下で意識改革が始まったが、22年途中から主将に就任した宝島（ほうしま）史貴は当時を「どうしたら勝てるのか分からなかった。能力が高い選手は多いのに、目は死んでいた」と振り返る。

野球以外の面で、環境美化の担当を設けるなど規律を正した。シートノックやゲーム前のノックは投手も野手も一緒にこなし、全員で1球を追いかけることで、一体感を高めてきた。

手応えを感じたのは2年前の第94回大会。4年ぶりの東京ドームで4強入りした。昨年は好投手を相手に1回戦で惜敗。湯浅監督は「ドームで5連勝できるチームをつくる」と誓った。

チームを押し上げた要素の一つが新戦力だ。11月に26歳になる右腕・九谷瑠（りゅう）はクラブチームの「矢場とんブースターズ」から入り、今大会は1回戦と準々決勝で先発し、準決勝と決勝は好救援した。地元・愛知工大から入った新人左腕・樋口新（しん）は2回戦で10三振を奪って完封するなど、九谷とともに投手陣を支えた。



【春日井市（王子）―岡崎市（三菱自動車岡崎）】岡崎市を降して優勝し、マウンドに集まって喜ぶ春日井市の選手たち

春日井市

	打	安	点	振	球
④ 山前	5	1	0	0	0
⑥ 口田	3	1	0	0	1
⑧ 崎	4	3	0	2	0
⑦ 岡	4	3	0	0	0
Ｄ 鳥垣	4	4	1	1	0
③ 井	4	4	1	0	0
⑨ ノ	3	1	0	0	0
② 川	3	3	0	0	1
⑤ 川細中	4	2	0	0	0
犠盗失併残					
2 0 0 0	33	7	1	4	2

岡崎市

	打	安	点	振	球
⑤ 菅	4	0	0	2	0
⑨ 原谷	4	1	0	0	1
③ 野川	4	3	0	1	0
④ 村	4	3	0	1	1
⑧ 中大宮	3	3	1	1	0
⑦ 奎手野	3	1	0	0	0
Ｈ 室川	3	0	0	0	0
Ｄ 小西斎	3	2	0	0	1
② 川藤	2	2	0	0	0
⑥ 残					
犠盗失併残					
1 0 1 0	29	3	1	1	3

	回	打	安	振	球	責
投 手						
樋口	3⅔	16	2	6	3	1
柳橋	1⅓	4	0	1	0	0
九谷	4	13	1	4	0	0
秋山翔	7⅔	27	5	3	1	0
神原	1	5	1	1	0	0
清川	1	5	1	0	1	0

▽二塁打　水谷、細川井、山ノ井（以上岡崎）▽犠打　吉岡、菅原▽試合時間　2時間48分▽審判（球審）高橋進（塁審）深沢、杉本、緒方

に先発の柱になった。大ベテランの近藤均（ひとし）に頼ることが多かった投手陣は、コーチ兼任の近藤の登板機会がないほど充実した。

打者でも大経大から入った新人の柴崎聖人（まさと）が3番に入り、2回戦と準々決勝で2試合連続本塁打を放つなど活躍し、若獅子賞に輝いた。

若手が力を出せる環境は、中堅やベテランが整えた。扇の要、10年目の細川勝平はこの日、1点を追う八回、気迫あふれるヘッドスライディングを見せて二塁打で出塁。「センターの捕球体勢を見て思い切って滑り込んだが、ちょっと止まっても良かったかなと反省している」という

先発・救援、フル回転で栄誉

九谷瑠投手 春日井市・王子

ほんの少し前までみそカツ店の店員だった青年が、大会の主役になった。春日井市の右腕・九谷瑠はクラブチームから移籍1年目で、社会人野球最高の栄誉である橋戸賞（最優秀選手賞）に輝いた。

キレのある速球に多彩な変化球を操り、先発・救援とフル回転でチームを支えてきた。この日は1点を追う六回から救援で登場し、スコアボードに「0」を並べた。

九回も危なげなかった。わずか3球で2人を抑え、岡崎市の代打・宮野峻も早いカウントで追い込んだ。「最後は真っすぐがいい」と外角低めをめがけ、力いっぱい投げ込んだ直球は151キロを計測した。

「こんな大舞台で最後の投手になれるとは。最高の景色が見られました」

見逃し三振を奪い、両手を天に突き上げた九谷の周りに歓喜の輪ができた。

滋賀・堅田高、大阪大谷大を経て、昨季までの3年間は名古屋市を本拠地とするクラブチーム「矢場とんブースターズ」に所属。在籍中はみそカツ店「矢場とん」のホールスタッフとして働いた。キッズデーだった準々決勝のヒーローインタビューでは、子どもに店員時代のことを聞かれ「お客さんがたくさん来て、ぐちゃぐちゃで大変でした！」と、場内を笑わせた。

憧れのプロを目指し、今季から春日井市へ移籍した。いきなり手にした都市対抗優勝と橋戸賞に「ちょっと混乱している」。新たなシンデレラストーリーの主人公は、少し困ったような表情で笑った。

プレーだったが、勢いづいた打線がつながり、2点を奪って逆転。勝ち越しの犠飛は主砲で7年目の吉岡郁哉が放った。試合前、「僕たちはそんなに強豪ではない。全員で束になり、チーム力で勝たないと勝ち上がれない」と話していた細川。ヒーローインタビューでは「若手の選手がすごく頑張ってくれて、ベテランはそれをサポートしているようなチームだが、この最高の景色が見られて本当にうれしく思う」と語った。

東海2次予選で最後の6枠目に滑り込んだチームは、誰が出ても役割を果たすチームへと成長し、21年ぶりの黒獅子旗を手にした。

2人の指導者、技術と執念注入 粘り強く隙ないチームに

投手戦の中で四回に先取点を取り、流れはつかみかけていた。しかし、岡崎市は八回に投手陣を中心に踏ん張ってきた守備にほころびが出た。内野の失策をきっかけにひっくり返され、反撃もできなかった。梶山義彦監督は「終盤であなるとだいたい負ける。ヒット3本ではなかなか勝てない」と敗戦を受け止めた。

日本一になるために必要なことは何か――。

現役時代に都市対抗大会で優勝を経験している梶山監督は、「5回戦うために必要なことは何か、何となくわかっているつもり。それをどうやって選手に浸透させるか」と語っていた。

チームは1993年に創部。2001年に準優勝を果たしたが、04、16年には会社の不祥事を受けて、予選出場を辞退する事態に見舞われた。17年にコーチとしてチームに



【春日井市（王子）―岡崎市（三菱自動車岡崎）】岡崎市を降して優勝し、喜ぶ春日井市の3番手・九谷瑠（手前）

やってきたのが、三菱ふそう川崎時代に強打の外野手として活躍した梶山監督だった。

同じ時にマネジャーに就任した助監督の斉藤陽太さんを中心に、選手のスカウト活動にも力を入れた。斉藤さんは「勝ちを知る梶山さんが来て、新しい風が吹いた」と振り返る。

梶山監督が21年11月に就任後は「隙（すき）を見せずにやろう」と口酸っぱく言い続け、朝食をしっかり食べるなど私生活から見直した。

全力疾走、ベースカバー、バックアップなど、グラウンドでは「当たり前のことを当たり前にやれるチーム」を目指してきた。

コーチ兼任の13年目、小室和弘は「梶山監督になって、野球がさらに細かくなった」と話す。打撃練習では、「低めは振らない」「変化球だけ打つ」など制限のある中でバットを振らせ、対応力を磨いた。

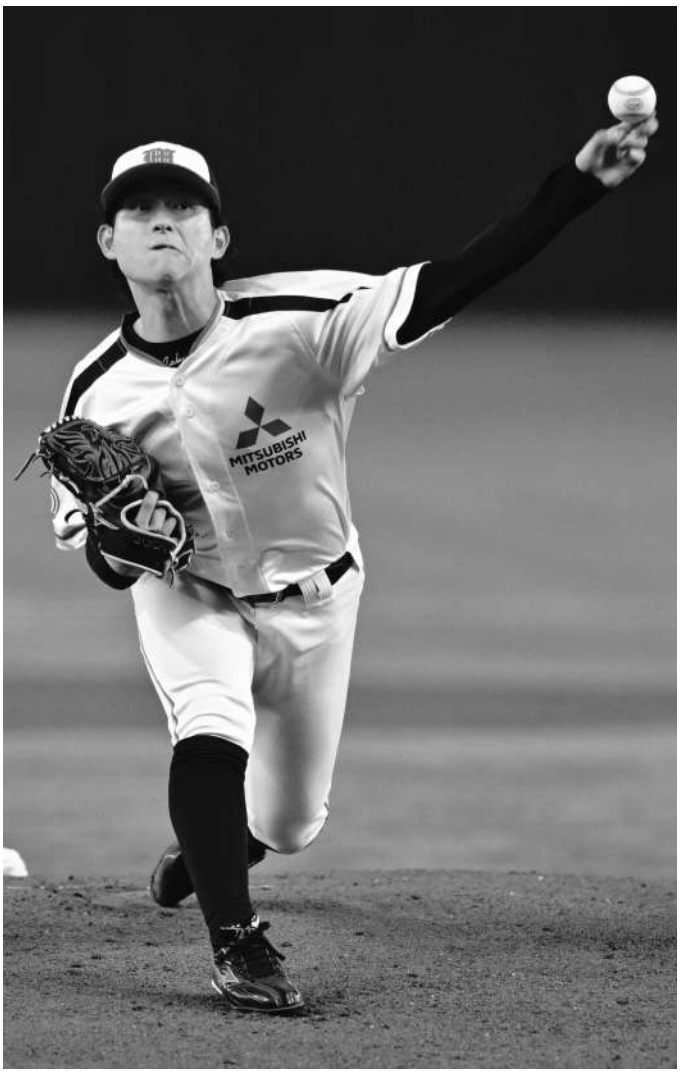
チームに与えた影響力は梶山監督だけではない。現在、日産自動車を指揮する伊藤祐樹さんもその一人だ。22年に出向する形でヘッドコーチとなり、一球への執念が植え付けられた。

伊藤さんは都市対抗大会は補強選手も含めて13回出場し、優勝も経験している。球際の強さなど、日産自動車の伝統的なしぶとい野球が注入された。

小室は「監督が来て野球が変わり、伊藤さんが来て、野球の見方が変わった。それまでざっくりやっていたが、守り勝てるようになってきた」と振り返る。2年前には、20年ぶりの8強入りを果たした。

今大会は準決勝までの4試合でわずか3失点。前回大会に14失点でコールド負けした屈辱を晴らすかのように、投手陣を中心に粘り強さを発揮した。ただ、あと一歩、頂点に届かなかった。

梶山監督は「やってきたことは間違いではなかった」と一定の手応えは得た。外からきた指導者が伝えてきた技術や執念が詰まった隙のないチームは、確かな強さを見せた。



【春日井市（王子）―岡崎市（三菱自動車岡崎）】力投する岡崎市の先発・秋山翔

今夜の主人公は相手だった

秋山翔投手
岡崎市・三菱自動車岡崎

主人公だなって」。八回途中2失点の岡崎市の先発左腕・秋山翔は試合後、こんな言葉で対戦相手をたたえた。

七回まで春日井市打線に二塁を踏ませない快投を見せていたが、1点リードの八回にリズムが崩れた。

先頭打者に6球目のチェンジアップを中前に運ばれた。一時は打者が二塁でタッチアウトかと思われたが、ビデオ判定の結果、判定が覆り無死二塁に。さらに次打者が三塁側に転がしたバントが内野安打となった。

動揺はなかったが「終盤で体も動かなくなってきて、バント処理に行くのが遅くなった」。少しだけ顔をゆがめ、マウンドを降りた。その後、味方の失策と犠飛で2点を奪われ逆転を許した。

「今日は直球が走らず、チェンジアップが生きなかった。もう一回原点に戻って直球を磨きたい」。試合後は吹っ切れた表情で課題を口にした。

前回大会は先発した1回戦で7失点するなど「東京ドームには苦手意識があった」。それでも制球力を磨いた今季は、2回戦で無四球の1失点で完投勝利を挙げるなど確かな自信も手にした。「八回に完封してマウンドにいる自分をイメージしてしまったのが良くなかった」。今年はかな

えられなかった夢を現実にするまで、久慈賞左腕は歩みを止めない。

春日井市・湯浅貴博監督

選手がその気になって、ドームで5連勝するんだという強い気持ちで戦ってくれた。このような結果になって本当にうれしく思う。

5試合、諦めない姿勢というか、ベンチスタートの選手、そしてグラウンドでプレーしている選手、一丸となって一体感のあるベンチワークだった。

岡崎市・梶山義彦監督

守りの部分で八回にミスが連発した。終盤であああなるとだいたい負ける。ヒット3本ではなかなか勝てない。今後の課題だ。

向こうはきっちりミスなくやっていた。相手の方が力が上だった。こういう（大勢の観客の）中で野球ができただけでも幸せだった。

春日井市・王子

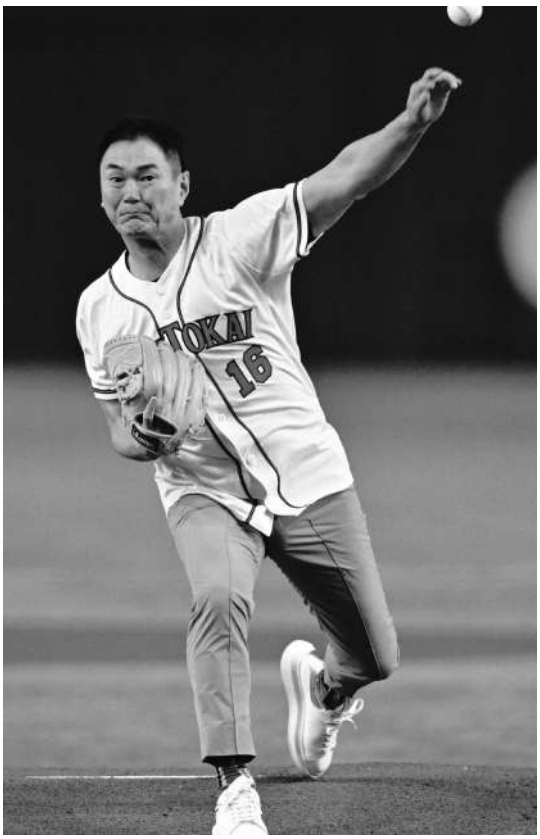
1957年、王子製紙春日井として創部。第63回大会（92年）に初出場で4強入り。2002年に王子製紙に名称変更した。第75回大会（04年）で初優勝。第79回大会（08年）は準優勝。OBに黒木知宏（元ロッテ）、西川龍馬（オリックス）ら。

殿堂入りの岩瀬さんが始球式

決勝の8日、プロ野球で通算1002試合登板と407セーブの歴代最多記録を持ち、今年に野球殿堂入りを果たした元中日の岩瀬仁紀さんが、東京ドームでの始球式に登場した＝写真・西夏生撮影。

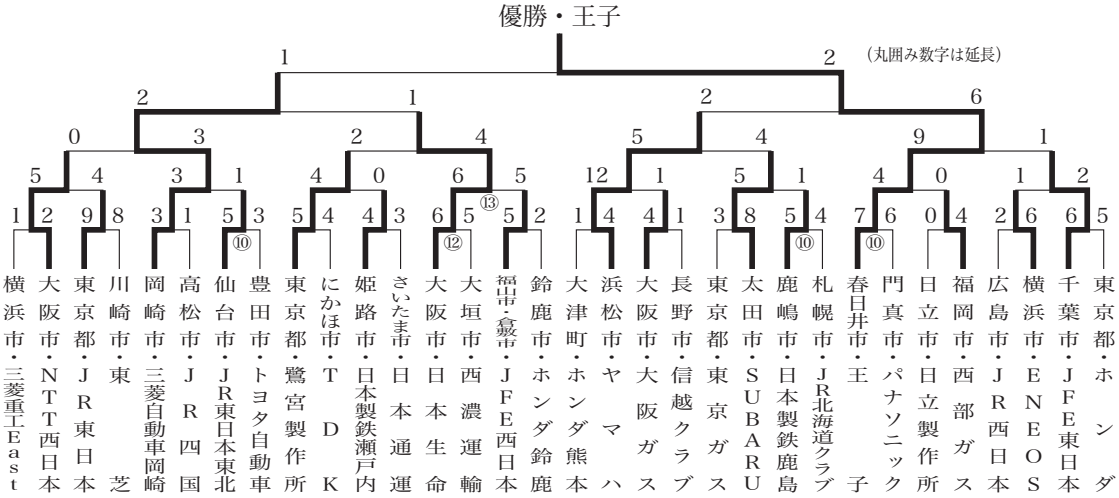
所属していたNTT東海（1999年にクラブ化し、2002年解散）のユニホーム姿で、セットポジションから現役時と変わらないフォームで投げ込んだ。スタンドから大きな拍手が送られると、「ちょっと滑ってどこいくかなと思ったけど、届いて良かったです」とホッとした表情を浮かべた。

決勝は、岩瀬さんの地元の愛知勢同士の対決となった。岡崎市は川上憲伸さん、春日井市は荒木雅博さんと中日時代の同僚がコーチとして携わっていることもあり、岩瀬さんは「どっちを応援していいか分からない。片や憲伸、片や荒木なんでね」と笑った。



【春日井市（王子）―岡崎市（三菱自動車岡崎）】始球式で投球する岩瀬仁紀さん

◇第96回都市対抗野球大会 戦いの軌跡◇



マスク姿で貫いた「無」

湯浅貴博監督
春日井市

顔を覆う青いマスクの下で、想像以上のプレーを見せる選手の姿に何度も笑みが出たり、雄たけびをあげたりしそうになった。作戦がうまくいかず、唇をかむこともある。それでも春日井市の湯浅貴博監督（52）は試合中は感情を抑え、「無」を貫き指揮を執った。



【春日井市（王子）―岡崎市（三菱自動車岡崎）】マスクをつけた春日井市の湯浅貴博監督

「どんな展開でもやっぱり監督は表情に出さない方がいい。満面の笑みを見せるのは優勝した時だけ」

２０２１年秋、監督就任にあたり、同じ愛知県を拠点とするプロ野球・中日の監督として黄金期を築いた落合博満さんの本をひもといた。喜怒哀楽を出さずに、一点を見つめてどっしりと構える。「何事にも動じず冷静に的確な対応をしていく。そういう監督になりたいと思った」と指導者としての原点になった。

教えを請うのは野球界の先輩だけではない。時間を見つけては歴史の本を読み、先人がいかにして強い組織を作り、自分たちより強いとされる相手に立ち向かったかを学んだ。「大切なのは準備。その上で自分の個性や強み、特徴を生かした集団でありたい」とチーム作りの基盤とした。

好きな武将は三英傑と称される織田信長、豊臣秀吉、徳川家康。鳴かないホトトギスに対する「殺してしまえ」「鳴くまで待とう」「鳴くまで待とう」という三者三様の性格を踏まえ「家康のように我慢強くありたいと思うが、時に信長のように熱く、時に秀吉のように知恵を絞って成り上がることも必要。３人のいいところをチーム作りに生かしていきたい」と語る。

春先には体調を崩し、満足にチームに携われない時期があった。それでも自覚十分なスタッフ、選手に支えられてチームは前進を続けた。「誰かが抜けても代わりにその役割を担う人が出てきて。変わらずに力を発揮できるのが強い組織」。監督就任当初からの理想にまた一歩近付いた。

初優勝した04年は主将としてチームを引っ張り、黒獅子旗を手に帰った時の盛り上がりは、今も忘れられない。会社では約４００人が出迎え、同僚や地域住民らが笑顔で祝福とねぎらいの言葉をかけてくれた。「うちの職場のこいつが日本一になったんだぞ、とか皆さんが盛り上がってくださった。社会人野球っていいな、頑張って良かったなとしみじみと思いました」

長い年月を経て、今度は優勝監督として地元に戻る。「いつかはこういう景色を見せられると信じていた。明日への活力、そして感動を与えて、明日も頑張ろうという思いを届けたい一心でやってきた。届いているとうれしい」。再び古里を包んでいるであろう熱気に思いをはせ、マスクを取り、穏やかにほほえんだ。

第96回都市対抗野球大会 優勝チーム登録メンバー

春日井市・王子

監督	㊸	湯浅　貴博	52	享栄高	左	左	右
投手	⑪	三島　安貴	24	愛知学院大	右	右	右
	⑫	九谷　瑠	25	大阪大谷大	右	右	右
	⑭	浅井　佑介	25	筑波大	右	右	右
	⑮	登坂　真	23	東海大札幌	右	右	右
	⑯	中島　航	24	横浜商工	左	左	左
	⑰	樋口　新	23	愛知大	左	左	左
	⑲	近藤　均	35	関大	右	右	右
	⑳	田中　湧也	24	関大	右	右	右
	㉑	宮崎　隼輔	26	関大	右	左	左
	54○	柳橋　巧人	25	龍谷大	右	左	左
		（JR東海）					
	㊸	奥村　孝一	48	岐阜工高	左	左	右
捕手	㉒	細川　勝平	31	中部大	右	右	右
	㉓	石崎　創大	24	創価大	右	右	右
	㉗	横山　裕也	29	京産大	右	右	右
	㉘	鈴木　大智	27	駒大	右	右	右
内野手	⓪	木下　大我	23	東北福祉大	右	右	右
	②◎	宝島　史貴	30	愛知学院大	右	右	右
	③	大杉　諒暢	30	中部学院大	右	右	左
	④	山口　乃義	26	立命大	右	右	右
	⑤	前田　滉平	31	駒大	右	右	右
	⑦	中川　壱生	24	東北福祉大	右	右	右
	⑩	平野　陽大	24	東北福祉大	右	右	左
	㉔	広部　就平	26	中部学院大	右	右	右
	㉕	神鳥　猛流	31	中部大	右	右	左
	55○	高垣　鋭次	27	日体大	右	右	右
		（東邦ガス）					
外野手	①	横井　一樹	24	岐阜聖徳学園大	右	右	右
	⑥	吉岡　郁哉	29	法大	右	右	右
	⑧	山ノ井　隆雅	27	桐蔭横浜大	右	右	右
	⑨	柴崎　聖人	23	大経大	右	右	右
	㉙	賀部　秀平	31	創価大	右	右	右
	㉛	亀山　一平	34	近大	右	右	右
	53○	三村　政喜	28	東海学園大	右	右	右
		（JR東海）					

■人物略歴

ゆあさ・たかひろ　１９７３年４月２日生まれ。愛知・享栄高出身で94年に王子製紙入社。強打の外野手として都市対抗は選手で12回出場（うち補強５回）。主将だった２００４年に初優勝、選手兼コーチの08年に準優勝を果たした。18年に一度現場を離れ、21年秋に監督に就任した。

第96回大会受賞選手一覧

橋戸賞

九谷瑠投手
春日井市・王子

１５０キロ近い直球にスライダーやチェンジアップなど多彩な変化球を操る右腕。２試合で先発し、救援２試合を含め計23回を投げるタフさが際立った。滋賀・堅田高から大阪大谷大を経て、愛知県が拠点のクラブチーム「矢場とんブルースターズ」で３年間プレー。移籍１年目の今季は投手陣の柱として活躍し、優勝した５月のＪＡＢＡ九州大会で最高殊勲選手賞を獲得した。

久慈賞

秋山翔投手
岡崎市・三菱自動車岡崎

制球力の高さを武器にテンポ良く投げ込む左腕。仙台市・ＪＲ東日本東北との２回戦では無四球の１失点で完投勝利した。東京・日大鶴ケ丘高時代はエースとして３年夏の甲子園出場。武蔵大を経て入社７年目。９月に中国で開催されるアジア選手権で社会人日本代表に選ばれた。

小野賞

湯浅貴博監督
春日井市・王子

チームを21年ぶりの頂点に導いた。現役時代は外野手で１９９４年に入社。主将で４番だった２００４年の都市対抗で優勝した。21年秋に監督に就任。クラブチームで活躍していた九谷瑠を今季獲得した。準決勝の浜松市・ヤマハ戦では代打で起用した大杉諒暢が勝ち越し３ランを放つなど采配が的中した。

打撃賞

吉岡郁哉外野手
春日井市・王子

奈良・智弁学園高、法大を経て入社７年目。２０２４年度は２度目となる年間首位打者賞と初のベストナインに輝いた社会人を代表する左の好打者。今大会は相手投手から厳しいマークを受けながらも、準決勝までの全４試合で安打を放ち、四死球でも出塁を重ね、頼りになる４番打者としてチームをけん引した。

首位打者賞

相羽寛太内野手
浜松市・ヤマハ

静岡高を経て入社５年目の強打の内野手。２回戦の大阪市・大阪ガス戦では二回にチーム初安打を放ち、すかさず盗塁を決めて先制のホームを踏んだ。準々決勝の太田市・ＳＵＢＡＲＵ戦では一回に適時三塁打を放つなど３安打。全４試合で安打を放ち、４強入りの原動力となった。15打数７安打で打率４割６分７厘、１打点。

若獅子賞

柴崎聖人外野手
春日井市・王子

高いミート力と長打力を兼ね備える左打者。新人ながら中軸に定着し、東海２次予選から打線をけん引した。２回戦と準々決勝で２試合連続の本塁打を放つなど、５試合で21打数７安打で３割を超える打率をマークした。岐阜第一高から大経大を経て入社。関西六大学リーグでは史上15人目となる通算１００安打を達成した。

優秀選手

【投手】秋山凌祐、秋山翔＝以上、岡崎市・三菱自動車岡崎▽九谷瑠、樋口新＝以上、春日井市・王子▽斎藤礼二、谷脇弘起＝以上、大阪市・日本生命▽佐藤廉＝浜松市・ヤマハ**【捕手】**西川尚希＝岡崎市・三菱自動車岡崎▽細川勝平＝春日井市・王子▽大本拓海＝浜松市・ヤマハ**【一塁手】**木倉朋輝＝大阪市・日本生命▽浜田竜之祐＝大阪市・ＮＴＴ西日本（日本新薬から補強）▽平山快＝千葉市・ＪＦＥ東日本**【二塁手】**北條史也＝大阪市・ＮＴＴ西日本（三菱重工Ｗｅｓｔから補強）▽日置翔兼＝太田市・ＳＵＢＡＲＵ**【三塁手】**平野英丸＝岡崎市・三菱自動車岡崎（ＪＲ東海から補強）**【遊撃手】**相羽寛太＝浜松市・ヤマハ**【外野手】**中村奎太＝岡崎市・三菱自動車岡崎▽柴崎聖人、吉岡郁哉＝以上、春日井市・王子▽松本渉＝大阪市・日本生命▽矢幡勇人＝浜松市・ヤマハ▽向山基生＝東京都・鷺宮製作所（ＮＴＴ東日本から補強）▽野村工＝東京都・鷺宮製作所▽藤原龍之介＝太田市・ＳＵＢＡＲＵ▽大森廉也＝千葉市・ＪＦＥ東日本**【指名打者】**神鳥猛流＝春日井市・王子▽森下智之＝太田市・ＳＵＢＡＲＵ

高い投手力、接戦演出

平均防御率「３」下回る

大会総括

第96回都市対抗野球大会は決勝で春日井市・王子が岡崎市・三菱自動車岡崎に勝ち、21年ぶり２回目の優勝を果たした。１回戦は16試合のうち半分の８試合が１点差で、４試合が延長タイブレークにもつれるなど接戦が目立った。

接戦を演出した一つが投手力だった。大会全体の平均防御率は２・99で４年ぶりに「３」を切り、本塁打数は４年ぶりに30本台となって前回大会の44本から減った。

完投数は前回より２減の「５」で、継投で勝ち上がるチームが目立った。決勝に進んだ２チームは軸となる投手を複数そろえた。

春日井市は橋戸賞（最優秀選手賞）の右腕・九谷瑠と新人左腕・樋口新、岡崎市は左腕・秋山翔と右腕・秋山凌祐の２本柱が活躍した。

春日井市は、５試合で失策１という堅守が優勝を支えた。本塁打５本、二塁打は唯一２桁の10本と長打力が光り、投打がかみあった。準優勝の岡崎市は５試合でわずか５失点、

防御率は唯一０点台という投手力の高さが際立った。

全31試合のうち3点差以内が22試合で、全体の7割を占めた。九回までに決着せず、無死一、二塁から始める延長タイブレークに突入した試合は計6試合。互いに譲らず十三回までもつれた試合もあった。

日本野球連盟アスリート委員会の坂口裕之委員長は、接戦が多かった要因について、例年より開幕が1カ月遅かった大会日程を挙げた。「予選から調整期間があり、万全の調整と相手の戦力分析ができたはず。勝つためのプランを作って大会に臨んだことが接戦につながったのではないか」と分析した。

春先からのJABA11大会のうち6大会を制した東海勢の躍進も印象的だった。東北大会と北海道大会を制した浜松市・ヤマハは、最多6本塁打と強打が際立ち、ベスト4入り。4強のうち3チームが東海勢だった。

社会人日本代表の川口朋保監督は「（前々回大会優勝の）トヨタ自動車やヤマハを倒すために他のチームも選手強化、野球技術の向上を進めてきた。東海地区内の相乗効果は大きい」と話す。

前回大会から全ての塁での打球、アウト、セーフの判定まで対象が広がったビデオ検証は、16回の検証があり、判定が覆ったケースが8回あった。

◇第96回都市対抗野球大会　出場32チームの記録◇

	◆投手成績◆									◆打撃成績◆												
	試合数	完投数	回数	被安打	奪三振	四死球	失点	自責点	防御率	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	打点	三振	四死球	犠打飛	盗塁	失策	打率
春日井市・王子	5	1	46	39	49	17	10	8	1.57	175	28	48	10	0	5	24	34	24	7	6	1	.274
岡崎市・三菱自動車岡崎	5	1	45	30	34	12	5	3	0.60	145	12	29	2	1	2	12	38	23	6	5	3	.200
大阪市・日本生命	4	0	43	30	26	30	14	6	1.26	140	17	29	5	0	3	17	31	17	9	5	3	.207
浜松市・ヤマハ	4	2	36	35	36	9	12	12	3.00	136	23	39	6	1	6	22	26	14	7	3	3	.287
大阪市・NTT西日本	3	0	26	22	21	14	8	8	2.77	97	7	25	0	0	1	7	22	12	3	3	1	.258
東京都・鷺宮製作所	3	0	26	14	28	15	8	8	2.77	92	11	25	2	1	2	11	22	16	4	9	0	.272
太田市・SUBARU	3	0	26	19	18	10	9	8	2.77	103	17	29	3	1	1	17	20	10	4	7	2	.282
千葉市・JFE東日本	3	0	28	33	23	18	15	14	4.50	109	9	28	4	0	2	9	32	9	2	2	1	.257
東京都・JR東日本	2	0	18	26	14	8	13	11	5.50	70	13	22	6	0	3	13	19	12	3	4	1	.314
仙台市・JR東日本東北	2	0	18	13	9	9	6	5	2.50	67	6	13	3	0	0	6	17	2	2	1	2	.194
姫路市・日本製鉄瀬戸内	2	0	17	16	13	7	7	7	3.71	64	4	12	3	1	0	4	21	5	1	0	1	.188
福山市・倉敷市・JFE西日本	2	0	21⅓	22	15	6	8	3	1.27	73	10	16	1	1	2	9	14	9	4	4	3	.219
大阪市・大阪ガス	2	1	18	19	14	6	13	12	6.00	62	5	15	3	0	0	5	15	3	1	1	3	.242
鹿嶋市・日本製鉄鹿島	2	0	18	16	16	9	9	8	4.00	64	6	13	5	0	0	4	19	9	5	1	0	.203
福岡市・西部ガス	2	0	18	17	18	8	4	4	2.00	66	4	15	4	0	1	4	19	5	1	3	0	.227
横浜市・ENEOS	2	0	19⅓	13	27	3	4	3	1.40	77	7	21	5	0	0	7	15	8	2	1	0	.273
横浜市・三菱重工East	1	0	9	9	4	4	2	2	2.00	30	1	5	1	0	0	1	5	5	1	0	0	.167
川崎市・東芝	1	0	8⅓	12	8	6	9	9	9.72	41	8	16	5	1	0	7	6	4	0	0	0	.390
高松市・JR四国	1	0	9	7	10	3	3	3	3.00	31	1	7	1	1	0	1	7	4	3	2	0	.226
豊田市・トヨタ自動車	1	0	10	8	9	2	5	3	2.70	35	3	7	2	1	0	3	2	7	0	2	1	.200
にかほ市・TDK	1	0	8	8	9	6	5	4	4.50	31	4	5	0	0	2	4	11	5	0	0	1	.161
さいたま市・日本通運	1	0	9	8	12	0	4	4	4.00	32	3	8	4	0	0	3	4	3	4	1	1	.250
大垣市・西濃運輸	1	0	12	7	10	6	6	2	1.50	37	5	8	1	0	1	5	8	5	5	0	0	.216
鈴鹿市・Honda鈴鹿	1	0	9	9	5	2	5	5	5.00	35	2	10	2	0	2	2	7	2	2	1	1	.286
大津町・Honda熊本	1	0	9	8	9	3	4	4	4.00	34	1	7	1	0	1	1	9	2	1	1	0	.206
長野市・信越クラブ	1	0	8	9	7	2	4	4	4.50	30	1	4	0	0	0	1	7	0	1	0	0	.133
東京都・東京ガス	1	0	8	10	5	2	8	8	9.00	32	3	6	3	0	0	3	5	1	1	0	1	.188
札幌市・JR北海道クラブ	1	0	9⅓	9	9	3	5	2	1.93	32	4	6	0	0	1	3	11	3	2	0	1	.188
門真市・パナソニック	1	0	9⅔	7	10	4	7	4	3.72	35	6	7	0	2	0	6	13	8	1	2	2	.200
日立市・日立製作所	1	0	9	6	9	3	4	3	3.00	34	0	7	2	0	0	0	15	2	0	1	1	.206
広島市・JR西日本	1	0	9	11	9	3	6	6	6.00	31	2	4	0	0	2	2	14	1	0	1	0	.129
東京都・Honda	1	0	9	6	11	5	6	6	6.00	36	5	12	2	2	1	5	9	5	1	4	0	.333
計	31	5	569	498	497	235	228	189	2.99	2076	228	498	86	13	38	218	497	235	83	70	33	.240
第95回大会	31	7	543⅓	503	465	235	242	210	3.48	2008	242	503	91	10	44	229	465	235	70	46	41	.250
第94回大会	31	7	542⅓	497	428	213	222	198	3.29	1992	222	497	77	9	40	209	428	213	83	50	38	.249
第93回大会	31	3	542⅓	501	463	215	217	201	3.34	1982	217	501	79	13	49	203	463	215	71	33	27	.253
第92回大会	31	2	547⅔	474	465	190	200	173	2.84	1973	200	474	80	4	35	192	465	190	99	40	35	.240
第91回大会	31	7	541⅔	482	474	172	200	177	2.94	1970	200	482	91	11	31	191	474	172	83	48	23	.245

◇都市対抗野球大会　決勝戦一覧◇

第１回	大連・満州倶楽部	3―0	大阪・全　大　阪
第２回	大連・大連実業	1―0	東京・東京クラブ
第３回	大連・満州倶楽部	5―0	名古屋・名　鉄　局
第４回	東京・東京クラブ	10―5	名古屋・名　鉄　局
第５回	東京・東京クラブ	12―6	横浜・全　横　浜
第６回	神戸・全　神　戸	1―0	大連・満州倶楽部
第７回	東京・東京クラブ	6―5	京城・全　京　城
第８回	大阪・全　大　阪	7―6	八幡・八幡製鉄
第９回	東京・東京クラブ	3―0	川崎・コロムビア
第10回	門司・門　鉄　局	5―1	大連・満州倶楽部
第11回	八幡・八幡製鉄	3―1	東京・東京クラブ
第12回	東京・藤倉電線	4―1	京城・全　京　城
第13回	東京・藤倉電線	3―0	庄内・田　村　駒
第14回	京城・全　京　城	4―0	大連・大連実業
第15回	（本大会は中止）		
第16回	京城・全　京　城	12―6	大阪・大同製鋼
第17回	岐阜・大日本土木	3―0	桐生・全　桐　生
第18回	岐阜・大日本土木	8―2	高砂・鐘　　紡
第19回	福岡・西日本鉄道	8―1	別府・星　野　組
第20回	別府・星　野　組	8―2	吉原・大昭和製紙
第21回	大阪・全　鐘　紡	6―1	東京・熊　谷　組
第22回	大阪・全　鐘　紡	3―2	大阪・南海土建
第23回	大阪・全　鐘　紡	11―5	二瀬・日鉄二瀬
第24回	吉原・大昭和製紙	3―0	大阪・全　鐘　紡
第25回	八幡・八幡製鉄	5―2	東京・全　藤　倉
第26回	大阪・全　鐘　紡	5―1	高砂・鐘淵化学
第27回	横浜・日本石油	3―2	東京・熊　谷　組
第28回	東京・熊　谷　組	4―0	浦和・日本通運
第29回	横浜・日本石油	4―0	二瀬・日鉄二瀬
第30回	松山・丸善石油	6―4	釜石・富士製鉄釜石
第31回	東京・熊　谷　組	3―2	門真・松下電器
第32回	横浜・日本石油	4―2	名古屋・新三菱重工名古屋
第33回	横浜・日本石油	12―0	名古屋・日本通運
第34回	京都・積水化学	4―3	室蘭・富士製鉄室蘭
第35回	浦和・日本通運	2―0	川崎・コロムビア
第36回	大阪・電電近畿	4―0	和歌山・住友金属
第37回	東京・熊　谷　組	4―3	和歌山・住友金属
第38回	横浜・日本石油	6―0	浜松・日本楽器
第39回	姫路・富士鉄広畑	1―0	浜松・河合楽器
第40回	千葉・電電関東	2―1	太田・富士重工業
第41回	富士・大昭和製紙	3―0	神戸・三菱重工神戸
第42回	姫路・新日鐵広畑	6―2	松山・丸善石油
第43回	浜松・日本楽器	4―0	川崎・三菱自動車川崎
第44回	川崎・日本鋼管	11―2	横須賀・日産自動車
第45回	白老・大昭和製紙北海道	4―0	北九州・新日鐵八幡
第46回	千葉・電電関東	3―0	白老・大昭和製紙北海道
第47回	川崎・日本鋼管	1―0	札幌・拓殖銀行
第48回	神戸・神戸製鋼	3―0	東京・熊　谷　組
第49回	川崎・東　　芝	4―0	川崎・日本鋼管
第50回	広島・三菱重工広島	6―4	東京・熊　谷　組
第51回	富士・大昭和製紙	8―3	札幌・トヨペット
第52回	東京・電電東京	3―2	川崎・東　　芝
第53回	和歌山・住友金属	5―4	福山・日本鋼管福山
第54回	川崎・東　　芝	8―3	東海・新日鐵名古屋
第55回	横須賀・日産自動車	10―9	川崎・日本鋼管
第56回	大阪・日本生命	4―3	川崎・東　　芝
第57回	横浜・日本石油	9―7	金沢・ＮＴＴ北陸
第58回	浜松・ヤ　マ　ハ	4―3	川崎・東　　芝
第59回	川崎・東　　芝	3―2	名古屋・ＮＴＴ東海
第60回	東京・プリンスホテル	8―3	白老・大昭和製紙北海道
第61回	浜松・ヤ　マ　ハ	12―11	姫路・新日鐵広畑
第62回	川崎・東　　芝	16―6	長崎・三菱重工長崎
第63回	大阪・日本生命	4―2	東京・熊　谷　組
第64回	横浜・日本石油	7―5	浦和・日本通運
第65回	鈴鹿・本田技研鈴鹿	5―3	大垣・西濃運輸
第66回	横浜・日本石油	8―7	福山・ＮＫＫ
第67回	和光・本田技研	8―7	広島・三菱重工広島
第68回	大阪・日本生命	5―3	浦和・日本通運
第69回	横須賀・日産自動車	15―3	千葉・川崎製鉄千葉
第70回	川崎・東　　芝	12―0	長崎・三菱重工長崎
第71回	川崎・三菱自動車川崎	9―3	大阪・大阪ガス
第72回	浜松・河合楽器	6―3	岡崎・三菱自動車岡崎
第73回	藤沢・いすゞ自動車	2―0	大津町・Ｈｏｎｄａ熊本
第74回	川崎・三菱ふそう川崎	5―4	調布・シダックス
第75回	春日井・王子製紙	6―5	狭山・Ｈｏｎｄａ
第76回	川崎・三菱ふそう川崎	6―3	横須賀・日産自動車
第77回	にかほ・ＴＤＫ	4―3	横須賀・日産自動車
第78回	川崎・東　　芝	7―5	東京・ＪＲ東日本
第79回	横浜・新日本石油ENEOS	4―1	春日井・王子製紙
第80回	狭山・Ｈｏｎｄａ	4―2	豊田・トヨタ自動車
第81回	川崎・東　　芝	2―0	北九州・ＪＲ九州
第82回	東京・ＪＲ東日本	2―1	東京・ＮＴＴ東日本
第83回	横浜・JX-ENEOS	6―3	東京・ＪＲ東日本
第84回	横浜・JX-ENEOS	3―1	東京・ＪＲ東日本
第85回	大垣・西濃運輸	2―0	太田・富士重工業
第86回	大阪・日本生命	5―3	大阪・大阪ガス
第87回	豊田・トヨタ自動車	4―0	日立・日立製作所
第88回	東京・ＮＴＴ東日本	10―4	さいたま・日本通運
第89回	大阪・大阪ガス	2―0	神戸市・三菱重工神戸・高砂市・高砂
第90回	千葉・ＪＦＥ東日本	6―4	豊田・トヨタ自動車
第91回	狭山・Ｈｏｎｄａ	4―1	東京・ＮＴＴ東日本
第92回	東京・東京ガス	6―5	大津町・Ｈｏｎｄａ熊本
第93回	横浜・ＥＮＥＯＳ	5―4	東京・東京ガス
第94回	豊田・トヨタ自動車	4―2	浜松・ヤ　マ　ハ
第95回	横浜・三菱重工East	3―1	仙台・ＪＲ東日本東北
第96回	春日井市・王　　子	2―1	岡崎市・三菱自動車岡崎

都市対抗野球を飾る四賞

久慈賞
（第18回から設定）

18回	中原　宏	（大日本土木）	投手
19回	永利　勇吉	（星野組）	捕手
20回	大道　信敏	（大昭和製紙）	内野手
21回	櫛田由美彦	（熊谷組）	捕手
22回	野口　勝美	（南海土建）	外野手
23回	野見山　博	（日鉄二瀬）	投手
24回	種田　吉富	（全鐘紡）	捕手
25回	大館　盈六	（全藤倉）	内野手
26回	山本　治	（鐘淵化学）	投手
27回	大沢　貞義	（熊谷組）	投手
28回	堀本　律雄	（日本通運）	投手
29回	井　洋雄	（日鉄二瀬）	投手
30回	出沢　政雄	（富士鉄釜石）	内野手
31回	松浦三千男	（松下電器）	投手
32回	鬼頭　忠雄	（新三菱重工名古屋）	投手
33回	鬼頭　忠雄	（日本通運名古屋）	投手
34回	佐藤　進	（富士鉄室蘭）	投手
35回	近藤　重雄	（コロムビア）	投手
36回	清沢　忠彦	（住友金属）	投手
37回	清沢　忠彦	（住友金属）	投手
38回	中野　孝征	（日本楽器）	内野手
39回	堀内　嗣郎	（河合楽器）	内野手
40回	石幡　信弘	（富士重工業）	投手
41回	橘谷　健	（三菱重工業）	投手
42回	久玉　清人	（丸善石油）	投手
43回	池田　善吾	（三菱自動車川崎）	投手
44回	須藤　和彦	（日産自動車）	捕手
45回	萩野　友康	（新日鐵八幡）	投手
46回	加藤　英美	（大昭和製紙北海道）	投手
47回	千藤　和久	（北海道拓殖銀行）	投手
48回	伊藤　友幸	（熊谷組）	内野手
49回	木田　勇	（日本鋼管）	投手
50回	中尾　孝義	（熊谷組）	捕手
51回	樋口　博美	（札幌トヨペット）	投手
52回	黒紙　義弘	（東芝）	投手
53回	田村　忠義	（日本鋼管福山）	投手
54回	渡辺　剛	（新日鐵名古屋）	投手
55回	前川　善裕	（日本鋼管）	外野手
56回	菊池　総	（東芝）	投手
57回	杉山　孝一	（ＮＴＴ北陸）	外野手
58回	菊池　総	（東芝）	投手
59回	上原　勝男	（ＮＴＴ東海）	投手
60回	渡部　勝美	（大昭和製紙北海道）	投手
61回	足達　尚人	（新日鐵広畑）	投手
62回	小島　啓民	（三菱重工長崎）	外野手
63回	向山　隆康	（熊谷組）	内野手
64回	田中　泰	（日本通運）	外野手
65回	中ノ瀬幸泰	（西濃運輸）	投手
66回	舩木　聖士	（ＮＫ）	投手
67回	横井　辰文	（三菱重工広島）	外野手
68回	川中　基嗣	（日本通運）	内野手
69回	田中　泰	（川崎製鉄千葉）	指名打者
70回	伊藤　大輔	（三菱重工長崎）	外野手
71回	山田幸二郎	（大阪ガス）	投手
72回	後藤　勝喜	（三菱自動車岡崎）	投手
73回	平野　佑介	（Ｈｏｎｄａ熊本）	投手
74回	ｵﾚｽﾃｽ・ｷﾝﾃﾞﾗﾝ	（シダックス）	指名打者
75回	橋本　義隆	（Ｈｏｎｄａ）	投手
76回	梵　英心	（日産自動車）	内野手
77回	吉浦　貴志	（日産自動車）	外野手
78回	片岡　昭吾	（ＪＲ東日本）	内野手
79回	座喜味大河	（王子製紙）	内野手
80回	佐野比呂人	（トヨタ自動車）	内野手
81回	濱野　雅慎	（ＪＲ九州）	投手
82回	小石　博孝	（ＮＴＴ東日本）	投手
83回	吉田　一将	（ＪＲ東日本）	投手
84回	片山　純一	（ＪＲ東日本）	投手
85回	小野　和博	（富士重工業）	投手
86回	酒居　知史	（大阪ガス）	投手
87回	梅野　無我	（日立製作所）	投手
88回	北川　利生	（日本通運）	内野手
89回	守安　玲緒	（三菱重工神戸・高砂）	投手
90回	佐竹　功年	（トヨタ自動車）	投手
91回	向山　基生	（ＮＴＴ東日本）	外野手
92回	片山　雄貴	（Ｈｏｎｄａ熊本）	投手
93回	益田　武尚	（東京ガス）	投手
94回	網谷　圭将	（ヤマハ）	外野手
95回	小島　康明	（ＪＲ東日本東北）	投手
96回	秋山　翔	（三菱自動車岡崎）	投手

橋戸賞
（第10回から設定）

10回	井野川利春	（門司鉄道局）	捕手
11回	角地孫之助	（八幡製鉄）	投手
12回	土井　寿蔵	（藤倉電線）	投手
13回	吉田　正男	（藤倉電線）	投手
14回	野村　武止	（全京城）	投手
15回	中		
16回	該当者なし		
17回	中原　宏	（大日本土木）	投手
18回	村瀬　保夫	（大日本土木）	内野手
19回	宮崎　要	（西日本鉄道）	内野手
20回	荒巻　淳	（星野組）	投手
21回	高橋　久雄	（全鐘紡）	外野手
22回	松井　実	（全鐘紡）	内野手
23回	松井　実	（全鐘紡）	内野手
24回	黒柳　巽	（大昭和製紙）	投手
25回	井原　数己	（八幡製鉄）	内野手
26回	松本　豊	（全鐘紡）	内野手
27回	藤田　元司	（日本石油）	投手
28回	島津　四郎	（熊谷組）	投手
29回	伊藤　正敏	（日本石油）	投手
30回	西　三雄	（丸善石油）	投手
31回	高林　恒夫	（熊谷組）	外野手
32回	杉本和喜代	（日本石油）	投手
33回	佐々木吉郎	（日本石油）	投手
34回	堤　亨	（積水化学）	投手
35回	田中　章	（日本通運）	投手
36回	小弓場　保	（電電近畿）	投手
37回	古田　昌幸	（熊谷組）	内野手
38回	平松　政次	（日本石油）	投手
39回	神部　年男	（富士鉄広畑）	投手
40回	若宮　秀雄	（電電関東）	投手
41回	安田　猛	（大昭和製紙）	投手
42回	佐々木恭介	（新日鐵広畑）	内野手
43回	新美　敏	（日本楽器）	投手
44回	宇賀山　徹	（日本鋼管）	内野手
45回	柳　俊之	（大昭和製紙北海道）	投手
46回	丹　利男	（電電関東）	投手
47回	樋野　和寿	（日本鋼管）	内野手
48回	増岡　義教	（神戸製鋼）	投手
49回	黒紙　義弘	（東芝）	投手
50回	大町　定夫	（三菱重工広島）	投手
51回	杉本　正	（大昭和製紙）	投手
52回	竹舛　和也	（電電東京）	投手
53回	石井　毅	（住友金属）	投手
54回	宮崎　剛	（東芝）	内野手
55回	若山　哲男	（日産自動車）	内野手
56回	島田　行雄	（日本生命）	外野手
57回	岡田　邦彦	（日本石油）	投手
58回	劉　秋農	（ヤマハ）	投手
59回	高見　泰範	（東芝）	捕手
60回	瀬戸山満年	（プリンスホテルヤマハ）	捕手
61回	吉田　篤史	（ヤマハ）	投手
62回	丹波　健二	（東芝）	内野手
63回	杉浦　正則	（日本生命）	投手
64回	谷口　英功	（日本石油）	内野手
65回	森　昌彦	（本田技研鈴鹿）	投手
66回	高橋　憲幸	（日本石油）	投手
67回	入来　祐作	（本田技研）	投手
68回	杉浦　正則	（日本生命）	投手
69回	川越　英隆	（日産自動車）	投手
70回	須田　喜照	（東芝）	投手
71回	西郷　泰之	（三菱自動車川崎）	内野手
72回	奥村　幸司	（河合楽器）	外野手
73回	長谷高成泰	（いすゞ自動車）	内野手
74回	谷村　逸郎	（三菱ふそう川崎）	投手
75回	田中　明	（王子製紙）	投手
76回	植山　幸亮	（三菱ふそう川崎）	内野手
77回	野田　正義	（ＴＤＫ）	投手
78回	磯村　秀人	（東芝）	投手
79回	田澤　純一	（新日本石油ＥＮＥＯＳ）	投手
80回	筑川利希也	（Ｈｏｎｄａ）	投手
81回	藤田　卓史	（東芝）	投手
82回	松本　晃	（ＪＲ東日本）	外野手
83回	大城　基志	（ＪＸ−ＥＮＥＯＳ）	投手
84回	大城　基志	（ＪＸ−ＥＮＥＯＳ）	投手
85回	佐伯　尚治	（西濃運輸）	投手
86回	藤井竹　貴之	（日本生命）	投手
87回	佐竹　功年	（トヨタ自動車）	投手
88回	福田　周平	（ＮＴＴ東日本）	内野手
89回	近本　光司	（大阪ガス）	外野手
90回	須田　幸太	（ＪＦＥ東日本）	投手
91回	井上　彰吾	（Ｈｏｎｄａ）	外野手
92回	臼井　浩	（東京ガス）	投手
93回	度会　隆輝	（ＥＮＥＯＳ）	外野手
94回	嘉陽宗一郎	（トヨタ自動車）	投手
95回	本間　大暉	（三菱重工Ｅａｓｔ）	投手
96回	九谷　瑠	（王子）	投手

若獅子賞

（第44回から設定）

44回	中山　俊之	昭和北海道（投手）
45回	工藤　博義	日鉄（外野手）
46回	丹藤　利男	関ツ（投手）
47回	後藤　寿彦	島マ（内野手）
48回	林　文博	谷鐵（投手）
49回	山本　雄久	日室（内野手）
50回	中屋恵　聖	谷ヨ（外野手）
51回	辻野　一弘	幌トッペカ（投手）
52回	黒田西　光清	トッハ発動古（投手）
53回	中野口　恭弘	マ日鐵名（外野手）
54回	小川　隆浩	新大東（外野手）
55回	岩切　利	新鐵T（外野手）
56回	真壁井　基安	NT本石（内野手）
57回	岩木城　慶弘	日本石（内野手）
58回	鈴木城　裕樹	日東楽（内野手）
59回	葛田　幸英	東河合楽鐵（投手）
60回	平田　茂雄	新日下電（指名打者）
61回	野中本　浩史	松ヤマT東（投手）
62回	中吉田　篤健	NT東住友金石（内野手）
63回	森本山　吾人	住日本石（捕手）
	杉内　洋仁	日谷（投手）
	宮桧山　昭行	日熊（投手）
64回	小久山　雅喜	日本（投手）
65回	須田　照彦	本技研鈴（内野手）
66回	鯉渕　一佳	日本新鐵名（内野手）
67回	谷口　知司	田本技生（内野手）
	田留　介浩	本ック千（捕手）
68回	福田　孝二	日ダッ製鉄（内野手）
69回	坂田藤　精尊	川ダ崎製鉄千（投手）
70回	後藤　光尚	松崎製電水（投手）
	愛敬　一史	三ヤ自動車（投手）
	賀斎　慎竜	菱自動マ川（内野手）
	辻沢　太郎	三ヤ日自動車川（外野手）
71回	西宮　祐介	日菱自動車川崎（内野手）
	四之宮　洋介	日産自動車（内野手）
72回	武田本　久一	河本合自動車（投手）
	村田本　祐教	三菱自動車岡崎（内野手）
73回	平野井　佑介	三HいNすズ自動d川本車K（投手）
	酒井田　泰志	日本直人Kそうdクス崎（投手）
	稲田　直貴	三HシHシ三ダoダッnッスス崎（外野手）
74回	五嶋間口　幸彦	菱ふふ川（投手）
	野金子　貴洋	菱ふ（投手）
75回	中村辺　真人	菱（外野手）
	池崎　啓二	菱（外野手）
76回	岩崎　哲也	菱（投手）
	田口当　篤史	T D K（投手）
77回	該者	
78回	川口田　盛幸	王子製紙（投手）
79回	須田田　太樹	Hondaスポーツ（内野手）
80回	榎尾　賢吾	東日本京ガス（内野手）
	村尾　賢平	日住友金属鹿島（内野手）
81回	小島　脩典	住友重工横浜（内野手）
	五十嵐　大了	三菱東日本（内野手）
82回	安達岡　涼太	東日本（内野手）
83回	石田中　将輔	東日本（投手）
	吉田原　平駿	日本生命（内野手）
84回	吉川　輔太	JENEOS（内野手）
	石野　裕	東日本（投手）
	萩川　桜	東西濃運輸（内野手）
85回	石藤　匠博	西富士重工日本（投手）
	伊野　和弘	富士TT東日本（投手）
	小山　樹史	NT大阪ガス（投手）
86回	横居　和裕	大ト日ヨタ自動車（内野手）
87回	洒岡　裕大	日立製作所（内野手）
	藤中野　俊剛	日立製作所本（内野手）
88回	田菅　士誠	NTT東日本（投手）
	堀室　湧来	R東日本（内野手）
	小橋　俊翔	日本通運（外野手）
89回	高深田　大	大阪ガス（内野手）
	小田　龍馬	JRR東日本（投手）
90回	太田川　優	JJJ東日本（外野手）
	今本　匠人	FFE東作所（投手）
	峯岡　憲也	立製作所a（投手）
91回	朝山　広敦	Hondo三菱自動車倉敷オーシャンズ（投手）
	畑　健平	TT西日本（外野手）
	廣藤井　輝	NHNETE東日本（内野手）
92回	古寺田　宏作	ondaTOTA東日本（投手）
	多瀧澤　朗	TNNOOSS（外野手）
	虎　太輝	EEJミ日本一（外野手）
93回	度会　隆	東ガス化（内野手）
	山内　慧章	RサJセ（外野手）
	黒川　貴己	東海理化（外野手）
94回	門叶　直綺	東海理化（外野手）
	福本　羅太	東海自動車（外野手）
	中村　奎な	三菱
95回	該当者	
96回	柴崎　聖人	王子（外野手）

小野賞

（第27回から設定）

27回	日鉱日立チーム	
28回	村上　峻介	（日鉄二瀬）投手
29回	増山　桂一郎	（日本石油）監督
30回	富士鉄釜石チーム	
31回	大沢　貞義	（熊谷組）監督
32回	大工　勝	（富士鉄広畑）投手
33回	今西　良雄	（日本石油）外野手
34回	積水化学チーム	
35回	田中　公雄	（北海道拓殖銀行）投手
36回	大分鉄道管理局チーム	
37回	平松　政次	（日本石油）投手
38回	日本楽器チーム	
39回	後藤　晃吾	（八幡製鉄）投手
40回	佐藤　昭	（電電関東）投手
41回	三菱重工神戸チーム	
42回	三沢　淳	（新日鐵広畑）投手
	中山　拓郎	（新日鐵広畑）捕手
43回	細川　昌俊	（西濃運輸）外野手
44回	内藤　博	（日本鋼管）内野手
45回	山口　高志	（新日鐵堺）投手
46回	大昭和北海道チーム	
47回	日本鋼管チーム	
48回	藤井栄一郎	（丸善石油）投手
49回	本田技研鈴鹿チーム	
50回	三菱重工広島チーム	
51回	札幌トヨペットチーム	
52回	工藤　真	（東京ガス）投手
53回	明治生命チーム	
54回	東鉄チーム	
55回	北海道拓殖銀行チーム	
56回	スリーボンドチーム	
57回	大阪ガスチーム	
58回	川嶋　勝司	（ヤマハ）監督
59回	三菱重工横浜チーム	
60回	野茂　英雄	（新日鐵堺）投手
61回	ＪＲ東日本チーム	
62回	三菱重工長崎チーム	
63回	王子製紙春日井チーム	
64回	中山製鋼チーム	
65回	杉山　孝一	（西濃運輸）内野手
66回	ＪＲ東日本東北チーム	
67回	朝日生命チーム	
68回	川崎製鉄千葉チーム	
69回	川崎製鉄千葉チーム	
70回	三菱自動車水島チーム	
71回	新日鐵君津チーム	
72回	三菱自動車岡崎チーム	
73回	Ｈｏｎｄａ熊本チーム	
74回	シダックスチーム	
75回	七十七銀行チーム	
76回	垣野　多鶴	（三菱ふそう川崎）監督
77回	ＴＤＫチーム	
78回	鷺宮製作所チーム	
79回	阿部　次男	（富士重工業）投手
80回	東京ガスチーム	
81回	ＪＲ九州チーム	
82回	森内　寿春	（ＪＲ東日本東北）投手
83回	ＪＲ東日本チーム	
84回	大久保　秀昭	（ＪＸ-ＥＮＥＯＳ）監督
	日本製紙石巻チーム	
85回	富士重工業チーム	
86回	近藤　均	（王子）投手
87回	日立製作所チーム	
88回	阿部　良亮	（日本通運）投手
89回	セガサミーチーム	
90回	ＪＦＥ東日本チーム	
91回	四国銀行チーム	
	西部ガスチーム	
92回	ＪＲ東日本東北チーム	
93回	大久保　秀昭	（ＥＮＥＯＳ）監督
94回	東海理化チーム	
95回	三菱重工Ｅａｓｔチーム	
96回	湯浅　貴博	（王子）監督

第96回 都市対抗野球大会
代表チーム登録メンバー

左からポジション、背番号、氏名、年齢、出身校、投打。◎印主将、○印補強選手、チーム名横の○囲み数字は出場回数。優勝の春日井市・王子は47ページに掲載。
※名簿は登録選手で、ベンチ入り選手は毎試合ごと25人に絞られる。

札幌市（ＪＲ北海道クラブ）⑰

監督	⑯⑥	乙須 正太	42	関大		
投手	⑪	松村 尚汰	27	関大大	右	左
	⑬	木島 広輔	22	札幌国際大	右	左
	⑭	伊藤 勝大	30	北翔大	左	右
	⑮	山田 翔太	22	北明富士大	右	右
	⑯	夏井 吉康	32	立命大	左	左
	⑰	ユエン 賢	25	富士大	右	右
	⑱	内沢 航大	27	法政大	右	左
	⑲	大崎 黎	26	愛知学院大	右	左
	㉑	中川 健翔	24	愛知学院大	左	左
	㉛○	岩崎 巧	30	法政大	左	左
		（日本製鉄室蘭シャークス）				
	㉟○	村上 大芽	26	立命大	右	右
		（北海道ガス）				
	㊼	巻 大地	25	関大	左	左
捕手	⑤	南木 寿也	26	青学大	右	右
	⑨	村北 翔哉	23	愛知学院大	右	両
	⑩	今西 直輝	28	東北福祉大	右	左
内野手	⓪◎	久後 健太	26	天大理大	右	右
	①	石川 雅規	23	八戸学院大	右	左
	③	松井 祐紀	27	大中京大	右	右
	④	冨田 勇輝	27	八戸学院大	右	左
	⑥	西山 裕貴	28	東北福祉大	右	右
	㉕	南 泰成	22	北海学園大	右	右
	㉗	小林 遥陽	22	関東学院大	右	右
外野手	②	俵藤 夏歩	25	天理大	右	右
	⑦	山本 昂城	29	東北福祉大	右	左
	⑧	大槻 龍也	24	大体大	右	左
	㉓	冨山 翔哉	24	阪南大	左	左
	㉔	山波 瑛一	23	中国学院大	右	左
	㉖	内藤 諒	27	国学大	左	左
	㉝○	髙橋 謙太	29	学大	右	左
		（北海道ガス）				

仙台市（ＪＲ東日本東北）㉛

監督	㊿	西村 亮	51	駒大		
投手	⑪	鈴木 翔也	25	帝京大	左	左
	⑫	川村 駿平	26	横浜商大	右	左
	⑬	浦野 冬聖	23	仙台大	左	左
	⑭	小野寺 輝	23	国士舘大	左	左
	⑮	津高 弘樹	25	日大大	左	左
	⑯	早坂 一希	23	東日本国際大	左	左
	⑰	竹本 祐瑛	27	駒大	右	右
	⑱	武田 龍成	27	専大	右	右
	⑳	工藤 陽平	25	上田西高	右	左
	㉙	佐藤 旦有夢	23	中越高	右	右
捕手	㉒	久保田 廉太朗	22	北海学園大	右	右
	㉖	佐々木 隼	23	城西国際大	右	右
	㉗	小鷹 葵	25	青学大	右	右
内野手	⓪	工藤 波音	22	駒大	右	左
	③	小山 倭誠	28	亜帝大	右	右
	④	山本 晃聖	22	帝京大	右	左
	⑤	瀬川 航騎	25	東洋大	右	左
	⑥	浦林 祐佑	23	亜細亜大	右	左
	⑩	大西 蓮	23	正社商大	右	右
	㉕	須田 敬人	24	横浜商大	右	右
	㉛○	橋本 優哉	31	桐蔭横浜大	右	右
		（日本製紙石巻）				
	㊼	佐藤 政仁	38	明大	右	右
外野手	①○	長嶋 亮磨	27	神奈川工大	右	右
		（七十七銀行）				
	②	矢吹 栄希	24	東洋大	右	左
	⑦	大保 優真	30	星槎道都大	右	左
	⑧	古山 慎悟	23	亜細亜大	右	左
	⑨	金沢 龍介	26	専大	右	左
	㉓	橋本 吏功	23	東洋大	右	左
	㉔	鈴木 聖歩	28	桐蔭横浜大	右	左
	㉘	野本 壮	20	中越高	右	左
	㉝	丸山 大	26	中亜大	左	左

にかほ市（ＴＤＫ）⑱

監督	㊴	松田 仁	50	東北福祉大		
投手	⑪	藤井 優矢	22	東日本国際大	右	右
	⑬	石井 将吾	23	神奈川大	右	右
	⑭	高橋 凱	24	八戸学院大	右	右
	⑮	川原 直貴	27	富士大	右	右
	⑯	鈴木 貴蓮	28	流通経大	右	右
	⑰	佐藤 亜蓮	24	仙台大	右	右
	⑱	田中 裕人	25	立正大	右	右
	⑲	阿部 優竜	24	流通経大	右	右
	⑳	大関 登	27	白鷗大	右	右
	㉑	佐藤 開陸	25	能代松陽高	左	左
	㉕	前田 一輝	21	鳴門高	右	右
	㉘	松橋 裕次郎	18	明桜高	左	左
	㉚	小島 康明	33	東農大	右	右
	㉟○	中里 優介	30	花巻東高	左	左
		（トヨタ自動車東日本）				
	㊼	高森 陽生	22	東北福祉大	左	右
捕手	⑫	奥村 幸太朗	27	神奈川大	右	右
	㉒	兼子 将	24	日大	右	右
	㉙	神坂 哲矢	23	由利高	右	右
内野手	⓪	植村 祐介	28	東海大	右	右
	②◎	夏井 脩吉	29	神奈川大	右	左
	③	坪山 大雄	23	大経大	右	右
	④	深江 大晟	28	東北福祉大	右	右
	⑥	伊藤 平	26	八戸学院大	右	両
	⑧	三浦 大輝	23	神奈川大	右	左
	⑨	下沢 斗	23	ノースアジア大	右	右
	㉝	打川 和輝	25	東日本国際大	右	右
	㊺○	三上 竜誠	24	日本ウェルネススポーツ大	右	右
		（七十七銀行）				
外野手	①	北畠 栞人	28	八戸学院大	右	左
	⑤	太田 翔梧	24	日大	右	左
	⑦	斎藤 海斗	26	東日本国際大	右	左
	⑩	青木 龍成	29	東日本国際大	右	左
	㉗○	水野 隼翔	31	桐蔭横浜大	右	右
		（日本製紙石巻）				
	㉛	関口 諒	26	東農大	右	左
	㉞	佐藤 龍太	20	花巻東高	左	左

長野市（信越クラブ）㉕

監督	㉑	酒井 仁汰	28	日本文理大		
投手	⑪	田中 開誠	24	新潟医療福祉大	右	右
	⑭○	松田 賢大	23	日大鶴ケ丘高	左	左
		（バイタルネット）				
	⑮	大沢 優人	23	大東大	右	右
	⑯	加藤 大雅	23	福井工大	右	左
	⑰	佐渡 俊太	29	明星大	左	左
	⑱	佐藤 孝輔	24	関東学院大	左	左
	⑲	大島 瑠綺	24	中京学院大	右	右
	⑳	宮野 結希	24	堀越高	右	右
	㉑	酒井 大輝	28	拓大	左	左
捕手	⑤	藤本 海	23	東洋大	右	左
	㉒	斎藤 優乃	26	一関学院高	右	左
	㉗	中込 大雅	23	日大国際関係学部	右	左
	㉘	原 雄士	29	東海大	右	右
内野手	①	伊藤 駿	24	日大国際関係学部	右	右
	④○	木村 俊輔	24	常磐大	右	左
		（伏木海陸運送）				
	⑥	中道 大波	28	帝京高	右	右
	⑨	小池 充	23	城西大	右	右
	⑩	木谷 駿	24	専大	右	右
	㉕◎	山崎 慎ノ介	23	日本文理大	右	右
外野手	②	川崎 周哉	29	日本プロスポーツ専	右	左
	③	藤沢 潤哉	22	桜美林大	右	左
	⑦	樫山 瑠	27	日本福祉大	右	左
	⑧	永井 敦士	25	二松学舎大付高	右	左
	㉔	若林 奏楽	23	明星大	右	左
	㉖○	浪川 広之	24	城西国際大	右	左
		（バイタルネット）				

日立市（日立製作所）㊶

監　督㊼	林　　治郎	52	日　体　大				
投　手⑪	岡　　直人	28	徳　山　大	左	左・左		
⑫	生井　惇己	25	慶　　大	左	左・左		
⑬	多間　隼介	26	桜美林大	右	右・右		
⑭	片山　　維	23	大　商　大	右	右・右		
⑮	新川　朝耶	23	びわこ成蹊スポーツ大	右	右・右		
⑯	青木　快人	26	国際武道大	右	右・右		
⑰	宮下　大地	22	日　体　大	右	右・右		
⑱	田川　賢吾	31	高知中央高	右	右・右		
⑲	原田　桂吾	25	国際武道大	左	左・左		
⑳	北爪　　魁	23	筑　波　大	右	右・右		
㉑	山田　怜卓	24	白　鷗　大	右	右・右		
㉞	和久井達也	23	東　海　大	左	左・左		
㊽○	河北　将太	25	東　洋　大	右	右・右		
（エイジェック）							
捕　手⓪◎	鮎ケ瀬一也	27	国際武道大	右	右・左		
㉒	佐藤　琉河	23	東北福祉大	右	右・右		
㉙	渡辺　翔太	28	東北学院大	右	右・右		
㊵	桂　依央利	34	大　商　大	右	右・右		
内野手②	森　　球紀	23	東　海　大	右	右・右		
③	山下　龍斗	25	白　鷗　大	右	右・右		
④	森田　智貴	25	桜美林大	右	右・左		
⑤	永戸　涼世	23	筑　波　大	右	右・左		
⑥	宮　慎太朗	27	立　　大	右	右・右		
⑦	野中　祐也	33	国際武道大	右	右・右		
⑨	斎藤　快太	23	慶　　大	右	右・右		
㉗	谷内内　優斗	24	国際武道大	右	右・右		
㉝	金原　　昱	23	大　商　大	右	右・右		
㊹	難波　真史	35	大　法　大	右	右・左		
外野手①	森下　翔平	31	東　海　大	右	右・右		
⑧	吉川　海斗	24	慶　　大	左	左・左		
⑩	清水　大海	25	筑　波　大	左	左・左		
㉓	竹内内　翔汰	22	立　命　大	右	右・右		
㉖	鵜沼　魁斗	23	東　海　大	右	右・右		
㉘	松下　　豪佑	24	武　　蔵	左	左・左		

鹿嶋市（日本製鉄鹿島）㉓

監　督㊽	藤沢　英雄	51	法　　大				
投　手⑪	塙　雄　　裕	23	法　　大	右	右・右		
⑫	土屋　大和	23	立　正　大	右	右・右		
⑬	佐田　健介	26	九　産　大	右	右・左		
⑭	諸見里　俊	27	国　学　大	左	左・左		
⑯	印南　伊吹	22	星槎道都大	右	右・左		
⑰	楠本　宏武	24	九　産　大	右	右・左		
⑱	山口　直哉	24	九　産　大	右	右・右		
⑲	坂本　颯太	25	国　学　大	右	右・右		
⑳	金城　伶於	24	青　学　大	右	右・右		
㉑	古川　風勝	24	創　価　大	左	左・左		
㉚○	池田　康平	23	白　鷗　大	左	左・左		
（エイジェック）							
㉛	山井　佑太	34	日　　大	右	右・右		
㊸	守屋　功輝	31	倉敷工高	右	右・右		
捕　手⑨	揚村　彰斗	26	九　産　大	右	右・右		
㉓	松田　彪瑠	26	星槎道都大	右	右・右		
㉗	穴水　芳喜	24	帝　京　大	右	右・左		
㊱	片茸　翔太	39	八九産大	右	右・右		
内野手⓪	柳内　一輝	28	九　産　大	右	右・左		
②	田崎　誠也	26	拓　　大	右	右・左		
⑤	小林　龍憲	25	東日本国際大	右	右・左		
⑥	樫村　昌樹	25	常　磐　大	右	右・左		
⑦	池間　誉人	27	専　　大	右	右・左		
⑧	今里　　凌	24	星槎道都大	左	右・左		
㉒	福島　一茶	23	星槎道都大	右	右・右		
㉖	冨田慎太郎	26	関東学院大	右	右・右		
㉝○	高岡　佳将	24	上　武　大	右	右・右		
（エイジェック）							
外野手①◎	生田　目忍	28	星槎道都大	右	右・右		
③	杉山　　尊	22	拓　　大	右	右・左		
④	平山　敦規	29	東　海　大	右	右・左		
⑩	山口駿太郎	26	東日本国際大	右	右・右		
㉔	山田　克志	28	専　　大	右	右・左		
㉕	陶山　勇軌	26	明　　大	右	右・左		
㉘	山本　健斗	23	専　　大	右	右・左		
㉙	菅谷真之介	22	立　　大	右	右・左		
㊶	堀越　　匠	37	東　洋　大	右	右・左		

太田市（SUBARU）㉚

監　督㊸	小川　　信	42	日　　大				
投　手⑪○	金城　乃亜	28	専　　大	右	右・左		
（エイジェック）							
⑬	東恩　納音	22	日本ウェルネス高沖縄	右	右・右		
⑭	小沢　颯太	25	流　通　経　大	右	右・右		
⑮	田嶋　俊輔	24	日　　大	右	右・左		
⑰	八野田龍司	27	流　通　経　大	左	左・左		
⑱	箱山　　優	22	日立体大	右	右・左		
⑲◎	手塚　　周	29	立　　大	右	右・右		
⑳	山本龍之介	28	日　　大	右	右・右		
㉑	渡部慎之介	23	明　　大	左	左・左		
㉙	阿部　博光	28	東　洋　大	左	左・左		
㉞○	谷内　隆悟	25	同　　大	左	左・左		
（エイジェック）							
㊶	川上雄太朗	31	道　都　大	右	右・左		
㊼	三浦　克暉	22	清　　大	左	左・左		
捕　手⑤	後藤　克基	26	東北福祉大	右	右・右		
⑫	中山　琉唯	23	明　　大	右	右・右		
㉒	新出　篤史	24	中京学院大	右	右・右		
㉕	馬場　　翼	26	中京学院大	右	右・左		
内野手⓪	上田　　甲	22	桐蔭横浜大	右	右・左		
②	横瀬山　辰樹	25	東　農　大	右	右・右		
③	秋山　岳士	24	桐蔭横浜大	右	右・右		
④	日置　翔兼	34	立　東　大	右	右・右		
⑥	小玉　佳吾	26	東　海　大	右	右・右		
⑧	森下　智之	30	東　明　大	右	右・右		
⑩	吉田　晃誠	24	桐蔭横浜大	右	右・右		
㉓	中里　亮太	25	筑　波　大	右	右・右		
㉔	外山　優希	23	専　　大	右	右・右		
外野手①	古川　幸拓	30	白　鷗　大	右	右・左		
⑦	藤原龍之介	25	東　農　大	右	右・左		
⑨	江川　　岳	22	東　東　大	右	右・左		
㉖	山田　知輝	27	東　洋　大	右	右・左		
㉗○	石神　悠樹	23	松　　本	右	右・右		
（エイジェック）							
㉘	海老根優大	20	大阪桐蔭高	右	右・右		

東京都（鷺宮製作所）⑰

監　督㊿	幡野　一男	56	創　価　大				
投　手⑪	岩瀬　　風馬	23	横浜商大	左	左・左		
⑬	扇谷　　莉	25	法　　大	右	右・右		
⑭	渡部翔太郎	25	明　　大	右	右・右		
⑮	前田　秀紀	26	神奈川大	右	右・右		
⑯	中島　隼也	27	城西国際大	右	右・右		
⑰	竹丸　和幸	24	城　西　大	右	右・左		
⑲	菊地　郁也	25	創　価　大	右	右・右		
⑳	山越　健司	25	拓　　大	右	右・右		
㉑	木村　樹生	23	平成国際大	右	右・右		
㉖	門間　滉介	26	清　和　大	左	左・左		
㉞	渡辺　純太	21	履正社高	右	右・右		
㊲○	松下　瑛亮	23	専　　大	左	右・右		
（明治安田）							
捕　手⑫	西浦　謙太	24	筑　波　大	右	右・右		
㉔	大井　光来	24	東北福祉大	右	右・右		
㉗	佐藤　大雅	25	富　士　大	右	右・左		
内野手⓪	島野　圭太	23	帝　京　大	右	右・右		
③	保戸田則裕	31	青　森　大	右	右・右		
④	千葉　　龍	25	横浜商大	右	右・左		
⑥	谷　　直	24	関東学院大	右	右・右		
⑦	木代　　成仁	25	創　価　大	右	右・左		
⑨	中島　優仁	24	日　　体	右	右・両		
㉓	米田虎太郎	27	立　　正	右	右・右		
㉛	花崎　成海	24	日　　中	右	右・左		
㊱○	石井　　巧	23	中　　中	右	右・右		
（ＮＴＴ東日本）							
外野手①◎	野村　　工	27	拓　　大	右	右・左		
②	竹原　祐太	29	東　洋　大	右	右・左		
㉕	村上　公康	26	城西国際大	右	右・左		
㉘	藪井　幹大	26	国士舘大	右	右・左		
㉙	藤原　太郎	23	関　　大	右	右・右		
㉟○	向山　基生	29	法　　大	右	右・右		
（ＮＴＴ東日本）							

千葉市（ＪＦＥ東日本）㉗

監　督㊶	落合　成紀	43	東　海　大				
投　手⑪	立石　　健	25	福井工大	右	右・右		
⑫	宇賀神陸玖	26	富　士　大	左	左・左		
⑬	林　　桂大	29	国際武道大	右	右・左		
⑭	新谷　　晴	25	上　武　大	左	左・左		
⑮	山田　啓太	27	白　鷗　大	左	左・左		
⑯	本定　史好	27	上　武　大	右	右・右		
⑰	加藤孝太郎	23	上　早　大	右	右・右		
⑱	福山　優希	25	駒　　大	右	右・右		
⑲	蒔田　　稔	24	明　　大	右	右・右		
㉑	高根　匠人	23	横浜商大	右	右・右		
㉔	中村晃太朗	23	東海大菅生高	右	右・右		
㊱○	渡辺　力哉	26	桐蔭横浜大	左	左・左		
（日本製鉄かずさマジック）							
㊼○	金田　泰成	28	上　武　大	左	左・左		
（日本製鉄かずさマジック）							
捕　手②	志賀　巧朗	28	環太平洋大	右	右・右		
㉒	下地　滉太	28	富　士　大	右	右・右		
㉖	山本健太朗	24	大　経　大	右	右・右		
内野手③	梁瀬慶次郎	24	九州共立大	右	右・右		
④	小松　勇輝	24	東　海　大	右	右・右		
⑤	平山　　快	29	東　海　大	右	右・右		
⑥	山田　和哉	27	白　鷗　大	右	右・右		
⑦	折尾　昂靖	25	白亜紀大	右	右・左		
⑧	山城　　響	26	富　士　大	右	右・左		
㉗	田村　大哉	23	拓　　大	右	右・右		
㉘	大松　柾貴	22	東　海　大	右	右・右		
㉝	岡本　伊織	22	東　明　大	右	右・右		
外野手⓪	大森　廉也	23	駒　　大	左	左・左		
①	中沢井　彰太	30	早　　大	右	右・左		
⑨	桜井　亨佑	23	拓　　大	右	右・左		
⑩◎	内藤　大樹	34	青　学　大	左	左・左		
㉓	本間　巧真	24	日　体　大	左	左・左		
㉔	関　　龍摩	27	関東学院大	右	右・右		
㉕	猪田　和希	26	神戸国際大付高	右	右・右		
㊴○	吉田　　開	27	富　士　大	右	右・左		
（日本製鉄かずさマジック）							

さいたま市（日本通運）㊿

監　督㊼	沢村　幸明	45	法　　大				
投　手⑪	川船　龍星	25	拓　　大	右	右・左		
⑫	佐々木　康	22	拓　　大	右	右・左		
⑬	板川　佳矢	25	国際武道大	左	左・左		
⑭	相馬　和磨	31	国際武道大	左	左・左		
⑮	清水　力斗	26	亜　白　大	右	右・右		
⑯	原野　雄大	23	白　鷗　大	右	右・右		
⑰	松沢　海渡	25	東　洋　大	右	右・右		
⑱	前田　敬太	28	専　　大	右	右・右		
⑲	冨士　隼斗	23	平成国際大	右	右・右		
⑳	ジャクソン海	24	仙　台　大	右	右・右		
㉑	中田　浩貴	29	東　洋　大	左	左・左		
㉞	平元銀次郎	25	東　法　大	左	左・左		
㉟○	山本　晃希	29	九州国際大	右	右・右		
（日本製鉄かずさマジック）							
㊶	西村　卓真	23	専　　大	左	左・左		
㊽	阿部　良亮	32	東　洋　西	右	右・左		
捕　手⑨	山本　　空	24	城　　西	右	右・右		
⑩	横山　陽樹	22	明　　大	右	右・右		
㉗	横沼　隆汰	22	桐蔭横浜大	右	右・右		
内野手②	稲垣　誠也	29	中部学院大	右	右・右		
③	木村　翔大	26	東　洋　大	右	右・右		
④◎	添田　真海	28	立　正　大	右	右・左		
⑤	大谷　昇吾	33	上　武　大	右	右・左		
⑥	近岡里　英訓	23	明治学院大	右	右・右		
⑦	西里　　颯	22	専　　大	右	右・右		
⑧	磯網　栄登	27	国際武道大	右	右・右		
㉒	木下　　朗	29	立　正　大	右	右・左		
㉔	楠本　晃希	26	東北福祉大	右	右・左		
㉜○	内山　翔太	29	桐蔭横浜大	右	右・右		
（日本製鉄かずさマジック）							
㉜	松本　歩己	36	早　　大	右	右・両		
外野手⓪	手銭　竜汰	33	九州共立大	右	右・左		
①	平野　裕亮	23	仙　台　大	右	右・左		
㉕	沓沢中　侑輝	28	独　創　価	右	右・左		
㉘	田中　滉伸	24	創　価　大	右	右・右		
㉛	宮崎　　湧	25	東　東　大	右	右・右		
㉝	北川　利生	32	創　価　大	右	右・右		
㊿	高橋　　俊	30	流　通　経　大	右	右・左		

都市対抗野球大会

東京都（ＪＲ東日本）㉘

監　督	㉜	浜岡　武明	52	駒　　大				
投　手	⑪	山崎　　凪	26	中央学院大	右	・	右
	⑫	谷　幸之助	24	国　学　大	右	・	左
	⑬	古谷龍之介	23	東北学院大	右	・	右
	⑭	児玉　悠紀	22	青　学　大	左	・	左
	⑮	西居　建陽	29	中部学院大	左	・	左
	⑯	森畑　侑大	23	創　価　大	左	・	右
	⑰	高山　陽成	24	明　　大	右	・	右
	⑱	坂根　佑真	25	東北福祉大	左	・	左
	⑲	石上　祐介	23	東　洋　大	左	・	左
	⑳	西田　光汰	27	大体大浪商高	右	・	右
	㉑	小谷野楽夕	27	日　　大	右	・	右
	㉙	諸隈　惟大	23	東　立　正	右	・	右
	㉚○	堀　　誠		（ＮＴＴ東日本）			
	㊱	柄沢　祥雄	41	東　農　大	左	・	左
	㊶	小川　哲平	19	作新学院高	右	・	右
	㊷	洗平　比呂	18	八戸学院光星高	左	・	左
	㊼○	沖田龍之丞	24	日　本　経　大	左	・	左
		（明治安田）					
捕　手	⑤	渡辺　和哉	31	専　　大	右	・	右
	⑨	岩本　皓多	24	駒　　大	右	・	左
	㉒	草部　真秀	25	亜　　大	右	・	右
	㉖	小藤　翼	28	早　　大	右	・	右
	㉘	栗田　勇雅	22	上　　大	右	・	右
	㊽	石川　修平	38	法　　大	右	・	右
	㊿	西野　真也	28	明　　大	右	・	右
内野手	②	山本　　聖	23	中　　大	右	・	右
	③	高橋　隆慶	23	中立命館大	右	・	右
	④	福武　　修	27	海　　大	右	・	左
	⑥	杉崎　成輝	28	東　　大	右	・	左
	⑦	海崎　雄太	24	法　　大	右	・	左
	㉕	杉崎　　成	22	明　　大	右	・	左
	㊹	菅田　大介	27	奈良学園大	右	・	左
	㊻	木本　　徹	40	東　　大	右	・	右
外野手	①	佐藤　拓也	31	立　　大	右	・	右
	⑧	栗林　泰三	25	慶　　大	右	・	右
	⑩◎	山内　慧	25	専　　大	右	・	右
	㉓	篠田　怜汰	23	羽　黒　高	右	・	左
	㉔	倉石　匠己	27	中　　大	右	・	左
	㉗	内野　裕太	25	波　佐　見　高	右	・	右
	㉛○	植田　匡哉	27	大　　商	右	・	右
		（セガサミー）					

東京都（Honda）㊳

監　督	㉚	多幡　雄一	43	立　　大				
投　手	⑪	千葉　汐凱	23	明　　大	左	・	左
	⑫	岡野　佑大	26	帝　京　大	左	・	左
	⑭	中山　大太	23	駒　　大	左	・	左
	⑮	中村上　颯	24	筑　波　大	左	・	左
	⑯	中村　伊吹	27	亜　　大	左	・	左
	⑰	中本田　悟	24	名古屋大	右	・	右
	⑱	福島　健登	35	青　学　大	右	・	右
	⑲	有村　大誠	26	立　命　大	右	・	右
	⑳	武者倫太郎	23	仙　台　大	右	・	右
	㉑	東野　龍二	30	駒　　大	左	・	左
	㉞	片山　皓心	26	桐蔭横浜大	左	・	右
	㉟○	上出　拓真	27	国　学　大	左	・	右
		（ＮＴＴ東日本）					
	㊶	磯貝　和賢	24	中　京　大	右	・	右
捕　手	㉒	藤野　隼大	27	立　　大	右	・	右
	㉓◎	辻野　雄大	32	日　　大	右	・	右
	㉗	岩本　久重	26	日早稲田大	右	・	右
内野手	③	中村　将己	28	亜　　大	右	・	右
	④	津田　翔希	28	東　洋　大	右	・	右
	⑤	三浦　良裕	27	大　　大	右	・	右
	⑧	檜村　篤史	27	早　　大	右	・	右
	⑬	坂口　　渉	22	城　　西	右	・	右
	㉖	峯村　貴希	26	日　　大	右	・	左
	㉙	山下　雄介	26	亜　　大	右	・	左
	㉛	三井　雄心	19	浦和学院高	右	・	左
	㉝	村田　雄大	27	法　　大	左	・	左
	㊱○	田沢　知弥	32	駒　　大	右	・	左
		（ＮＴＴ東日本）					
	㊶	篠塚　宜政	36	青　学　大	右	・	左
	㊾	西銘　生悟	34	東　洋　大	右	・	右
外野手	⓪	野尻　幸輝	24	中　法　大	右	・	右
	①	金城　飛龍	24	東　海　大	右	・	右
	②	山本　兼三	31	東　上　大	右	・	右
	⑦	小口仁太郎	24	東　洋　大	右	・	右
	⑨	上ノ山倫太朗	24	関東学院大	右	・	左
	⑩	井上　彰吾	24	日　国　学	右	・	左
	㉔	鈴木　　薫	31	日　国　亜	右	・	左
	㉕	右田　稜真	23	亜　　大	右	・	左
	㊲○	道原　　慧	24	（ＮＴＴ東日本）			

東京都（東京ガス）㉖

監　督	㊾	松田　孝仁	44	関　　大				
投　手	⑪	松崎　公亮	22	武　蔵　大	右	・	左
	⑫	皆川　喬涼	25	中　　大	右	・	右
	⑬	村上　幸人	24	福　岡　大	右	・	右
	⑭	伊東　佳希	24	星槎道都大	右	・	右
	⑮	臼井　　浩	31	中央学院大	右	・	左
	⑯○	寺嶋　大希	22	愛工大名電高	右	・	右
		（ＮＴＴ東日本）					
	⑰	野沢　秀伍	23	東　洋　大	左	・	左
	⑱	稲葉　直哉	29	琉　球　大	左	・	左
	⑲	清水　一真	22	中央学院大	右	・	右
	㉑	寺沢　星耶	28	上　　武	左	・	左
	㉞	高橋　佑樹	27	慶　　大	左	・	左
	㊼○	長久保滉成	24	仙　　台　大	左	・	左
		（ＮＴＴ東日本）					
捕　手	⑳	馬場　龍星	27	日　　体　大	右	・	右
	㉒	津原　瑠斗	25	亜　　大	右	・	左
	㉗	薩美進之介	23	駒　　大	右	・	左
	㉘	越川　海翔	23	関　　大	右	・	左
内野手	②	北本　一樹	27	明　　大	右	・	右
	③	相馬　優人	27	法　　大	右	・	左
	④	石川　裕也	30	日大国際関係学部	右	・	左
	⑤	竹村　光司	30	中央学院大	右	・	左
	⑥	山崎　晃太	25	国　学　大	右	・	右
	⑦	仲俣慎之輔	23	中央学院大	右	・	右
	⑩○	丸山　雅史	30	国士舘大	右	・	右
		（ＮＴＴ東日本）					
	㉓	中川　卓也	25	早　　大	右	・	左
	㉕	内海　貴斗	23	法　　大	右	・	左
外野手	⓪◎	冨岡　泰宏	28	神奈川大	右	・	左
	①	楠　研次郎	28	富　士　大	右	・	左
	⑧	加藤　雅樹	28	早　　大	右	・	左
	⑨	飯森　太慈	23	慶　　大	右	・	左
	㉔	藤沢　涼介	23	横浜国大	右	・	右
	㉖	小野田俊介	32	早　　大	右	・	右
	㉝	中尾　勇介	24	日　　大	右	・	右

川崎市（東芝）㊺

監　督	㊶	大河原正人	42	亜　　大				
投　手	⑪	西村　王雅	21	智弁学園高	左	・	左
	⑫	善　　武士	29	多良木高	右	・	左
	⑬	東田　健臣	22	駒　　大	左	・	左
	⑭	松山　仁彦	26	東　海　大	右	・	右
	⑮	笹　森　公輔	24	上　武　大	右	・	右
	⑯	工藤　佑太	24	神奈川工大	右	・	右
	⑰	藤村　哲之	26	横浜商大	左	・	左
	⑱	神野　竜紀	24	神奈川大	右	・	左
	⑲	北村　智紀	25	学　　大	右	・	左
	⑳	浅野川　駿吾	23	東北福祉大	右	・	右
	㉑	谷川　刀麻	27	近　　大	右	・	右
	㉚	中島　鶴我	23	大　　商	右	・	右
	㉞	吉崎　翔瑛	23	法　　大	左	・	左
捕　手	⑨	萩原　義輝	24	流通経大	右	・	左
	㉗◎	中村　浩人	28	法　　大	右	・	右
	㉝	小山　　忍	25	上　　武	右	・	右
	㊽	柴原　健介	34	日　　大	右	・	右
内野手	⓪	山田　拓也	24	青　学　大	右	・	左
	①	斉藤　大輝	24	法　　大	右	・	右
	④	天野幹太郎	24	高専知工大	右	・	右
	⑥	大庭　樹也	27	専　　大	右	・	右
	⑧	田中　達朗	25	慶　　大	右	・	右
	⑩	下中　悠介	25	亜　　大	右	・	右
	㉖	岡部　祐太	31	国　学　大	右	・	左
	㉛	松本幸一郎	35	日　　大	右	・	左
外野手	②	長沢　吉貴	28	日帝京大	右	・	左
	③	光本　将大	24	亜　　大	右	・	右
	⑤	南　　大輔	23	日横浜体	左	・	左
	⑦	金井慎之介	22	横浜商大	左	・	左
	㉓	中妻　　翔	23	立　　大	左	・	左
	㉔	太田　英毅	26	日立明法	右	・	左
	㉕	水谷　公省	22	亜　　大	右	・	左
	㉘	諸橋　　駿	25	大　　大	右	・	左

横浜市（ＥＮＥＯＳ）㊺

監　督	㉚	宮沢健太郎	45	明　　大				
投　手	⑪	阿部　雄輝	25	酒　田　南	左	・	左
	⑮	関根　智輝	26	慶　　大	左	・	右
	⑯	林　　翔	23	経　　大	右	・	左
	⑰	加藤　三範	27	筑波大	右	・	左
	⑱	柏原　陽太	32	同志社大	右	・	右
	⑲	楠茂　将太	25	国　学　大	左	・	右
	㉑	飯田　琉斗	26	横浜商大	右	・	右
	㉗	ハップス大起	24	北海道大	右	・	右
	㉙	長屋　竣太	22	亜　　大	右	・	右
	㉞	若杉　晟汰	23	明　　大	左	・	右
	㊱	田沢　純一	39	横浜商大	左	・	左
	㊴	大城　基志	38	名古屋大	左	・	左
	㊶	渡部　淳一	24	慶　　大	左	・	左
捕　手	⑨	有馬　諒	24	関　　大	右	・	右
	⑫	植田　将介	27	慶　　大	右	・	右
	⑳	菅原　謙伸	24	明　　大	右	・	右
	㉓	神里　陸人	23	国　学　大	右	・	右
	㉛	日高　一晃	39	筑波大	右	・	右
内野手	⓪	川口　凌	28	法　　大	右	・	右
	①	松浦　佑星	23	日本体大	右	・	右
	⑤	山田　陸人	25	明　　大	右	・	右
	⑥	瀬戸西　純	27	慶　　大	右	・	右
	⑦	篠原　　涼	28	波　　大	右	・	右
	⑩◎	丸山　壮史	26	早　　大	右	・	右
	㉛	片山　昂星	25	青　学　大	右	・	右
	㉜○	角田　　蓮	23	駒　　大	右	・	右
		（日産自動車）					
	㊵	渡辺貴美男	36	国　学　大	右	・	左
外野手	②	与倉　良介	24	駒　　大	右	・	左
	④	飯山　志夢	22	正　　大	右	・	左
	㉔	滝沢虎太朗	26	早　　大	右	・	左
	㉕	猿渡　　颯	23	太平洋大	右	・	左
	㉖	村上裕一郎	24	九州共立大	右	・	右
	㉘	姫木　陸斗	22	法　　大	右	・	左
	㉝○	石飛　智洋	22	天　　理	右	・	左
		（日産自動車）					

横浜市（三菱重工East）⑮

監　督	㉛	佐伯　　功	50	東北福祉大				
投　手	⑪	池内　瞭馬	26	国　学　大	右	・	左
	⑬	川和田悠汰	24	仙　台　大	右	・	右
	⑭	原　　綜治	26	東北福祉大	右	・	左
	⑮	畠中　　優	27	中　　大	右	・	左
	⑯	長大野　　彰	27	中京学院大	右	・	左
	⑰	大野　亨輔	31	専　　大	右	・	右
	⑱	森　　圭名	26	青　学　大	右	・	右
	⑲	池岡　陽佑	23	立　　大	右	・	右
	⑳	関谷　航平	27	慶　　大	右	・	右
	㉑	野本中間　太陽	24	大　　商	右	・	右
	㉘	本間　大暉	30	専　　大	左	・	左
	㉞	安達　壮樹	23	法　　大	左	・	左
捕　手	⑨	対馬　和佑	33	九州共立大	右	・	右
	⑩	友田出所　卓也	24	日　　大	右	・	右
	㉗	印出　太一	23	早　　大	右	・	右
	㉝	田所　宗幸	23	法　　大	右	・	右
内野手	②◎	矢野　幸耶	31	北　　陸	右	・	右
	③	川久保瞭太	22	同　　大	右	・	右
	④	中前　祐也	23	中　　大	右	・	右
	⑥	中中山　遥斗	26	国　学　大	右	・	右
	⑦	江越　啓太	28	神奈川大	右	・	右
	⑧	久木田雄介	31	第一工大	右	・	右
	㉓	南　　亮介	30	中京学院大	右	・	右
	㉛	藪井駿之裕	23	大　　商	右	・	右
外野手	⓪	八戸　勝登	32	西南学院大	右	・	右
	①	小柳田　卓也	33	日　　体　大	右	・	右
	⑤	武田　健吾	31	自由ケ丘高	右	・	右
	㉔	白石　晃大	23	近　　大	右	・	左
	㉙	江越　海地	30	長崎・海星高	右	・	左
	㉜	菅　　力也	28	駒　　大	右	・	左
	㉟	汐月　祐太郎	31	筑　波　大	右	・	左

鈴鹿市（Honda鈴鹿）㉗

監　督	㊼	真鍋 健太郎	45	駒　　大			
投　手	⑪	寺瀬　太紀	22	中　部　大	大	左	左
	⑫	藤本　竜輝	23	立　命　大	大	右	右
	⑬	漢人　友也	25	中　京　大	大	右	左
	⑭	堀　　陸人	22	関西国際大	大	左	左
	⑮	川原 仲祥	21	大阪桐蔭高	高	右	右
	⑯	今仲　泰一	21	健大高崎高	高	右	右
	⑰	井村　勇介	28	至学館大	大	右	右
	⑱	井岩　大聖	23	名　城　大	大	右	左
	⑲	太田　悠凪	22	東北福祉大	大	左	左
	⑳	花城 都輝	29	中　中　大	大	右	右
	㉑	佐藤　智宏	25	山形中央高	高	右	右
	㉒	布施 聖基	27	富　士　大	大	左	左
	㉔	田中　大聖	23	太成学院大	大	右	左
	㉞○	池戸　昇太	26	名　城　大	大	右	左
		（日本製鉄東海ＲＥＸ）					
	㊼○	不後　祐将	23	関西国際大	大	左	左
		（ＪＲ東海）					
捕　手	㉓	佐藤　海都	25	関　学　大	大	右	右
	㉗	長　壱成	29	駒　　大	大	右	右
	㉘	岡沢 智基	27	大　商　大	大	右	右
内野手	⓪	阿部 大弥	26	亜　　大	大	右	左
	②	堀内 祐我	24	亜　明　大	大	右	左
	⑤	貞光 広登	28	国　学　大	大	右	左
	⑥	藤原 亮太	24	亜　　大	大	右	右
	⑦	中川 拓紀	26	亜　中　大	大	右	右
	⑧	近藤 遼一郎	23	天　理　大	大	右	右
	⑨	西山 虎太郎	25	亜　明　大	大	右	左
	⑩	畔上　翔	32	法　　大	大	左	左
	㉜	伊藤 雄紀斗	23	名　城　大	大	右	左
外野手	①◎	長野 勇孔	29	青　学　大	大	右	左
	③	田内 海斗	25	青　学　大	大	右	右
	㉕	中野 波来	24	青　学　大	大	右	右
	㉖	岡野原 大	25	青　学　大	大	右	左
	㉙	栗原　健太	27	亜　　大	大	右	左
	㊹○	斎藤　導久	32	駒　　大	大	右	右
		（東海理化）					

大垣市（西濃運輸）㊷

監　督	㊶	佐伯　尚治	42	九　産　大			
投　手	⑪	茶屋野 洋輝	22	西南学院大	右	右	
	⑫	池田　尚樹	26	大　商　大	左	左	
	⑬	山下　大輝	24	常葉大浜松	右	左	
	⑭	庄司　魁	25	石巻専大	右	右	
	⑮	田田　晃誠	26	愛知東邦大	右	右	
	⑯	高橋　直希	25	金沢学院大	右	右	
	⑰	奥　　誠也	24	京　産　大	左	右	
	⑱	川井 瑠輝	22	四国学院大	左	右	
	⑲	内藤　圭史	24	東　海　大	右	右	
	⑳	森岡 大輔	26	神戸学院大	左	左	
	㉑	摺石　達哉	25	奈良学園大	左	左	
	㉒	内山　京介	19	豊橋中央高	右	右	
	㉙	塩本　周平	27	東北福祉大	右	右	
	㉜	照屋　竜雅	24	朝　日　大	右	右	
	㉞○	喜久川 大輔	32	関東学院大	左	左	
		（ＪＲ東海）					
	㊴○	池田　大将	29	拓　　大	右	右	
		（東海理化）					
	㊼	堀田　晃	31	大　院　大	右	右	
捕　手	②	城野　達哉	26	中　部　大	右	左	
	⑨	誉田　貴之	22	福岡工大	右	右	
	㉗	粟　汰成	23	拓　　大	右	右	
	㊵	深大沢 元気	35	静岡産大	右	右	
内野手	⓪	大沢 仁也	33	九　産　大	右	右	
	③	大角尾 瞬光	25	金沢学院大	右	右	
	⑤	長北屋 達吾	23	鹿屋体大	右	右	
	⑥	北野　昭太	30	福　岡　大	右	左	
	⑦	宮田　蒼太	25	国　学　大	右	右	
	⑧	福山　大貴	30	京　産　大	右	右	
	⑩	小中　健蔵	25	西南学院大	右	右	
	㉕	河西　威飛	22	大　商　大	右	右	
	㉘◎	野崎　真吾	24	久留米工大	右	右	
	㊳	東名　匠輝	42	福岡工大	右	右	
	㊹	伊藤　匠	33	岐阜経大	右	右	
外野手	①	福島 大輝	23	大　商　大	右	右	
	㉓	渡辺　澪	24	松　本　大	左	左	
	㉔	左向　隆博	24	東　洋　大	右	左	
	㉖	河田 隆博	23	名　城　大	右	右	
	㉛	原田 大輔	30	福　岡　大	左	右	
	㉝	修行　恵大	24	大　商　大	右	左	
	㊶○	福本　綺羅	21	明石商高	左	左	
		（東海理化）					

豊田市（トヨタ自動車）㉗

監　督	㊽	藤原　航平	45	中　　大			
投　手	⑪	大栄　陽斗	23	中　　大	右	左	
	⑫	村上 川 凌久	18	玉野光南高	右	右	
	⑬	細川　拓哉	25	東北福祉大	右	右	
	⑭	増居　翔太	25	慶　　大	左	左	
	⑮	渕上　佳輝	28	星槎道都大	右	右	
	⑯	後藤 凌寿	23	東北福祉大	右	右	
	⑰	加藤 泰靖	24	上　武　大	右	右	
	⑱	磯村　峻平	25	明　　大	右	右	
	⑲	高尾　　響	19	広　陵　高	右	左	
	⑳	嘉陽 宗一郎	29	亜　　大	右	右	
	㉑	池村 健太郎	23	愛知学院大	左	左	
	㉚	山内　大輔	26	武　蔵　大	右	右	
	㉜○	川本　祐輔	31	亜　　大	右	右	
		（ＪＲ東海）					
	㉞○	吉川　大翔	25	専　　大	左	左	
		（日本製鉄東海ＲＥＸ）					
	⑥①	川尻　一旗	38	玉野光南高	右	左	
捕　手	⑩	福井　章吾	26	慶　　大	右	左	
	㉒	高祖　健輔	29	環太平洋大	右	右	
	㉓	箱山　遥人	19	健大高崎高	右	右	
	㉗	小畑　尋規	29	立　正　大	右	右	
内野手	①	熊田　任洋	24	早　　大	右	左	
	③	三塚　武蔵	24	中部学院大	左	左	
	④	北村　祥治	31	亜　　大	右	左	
	⑤	河原　右京	31	亜　早　大	右	左	
	⑥	佐藤 勇基	27	法　中　大	右	右	
	⑧	和田　佳大	28	中　　京	大	右	左
	⑨	今泉　颯太	23	中　法　大	右	右	
	㉕	今井　脩斗	26	早　中　大	右	右	
	㊻	小河　　諒	31	早　　大	右	右	
外野手	⓪	八木 健太郎	31	中　早　大	右	右	
	②◎	逢沢　峻介	28	明　　大	左	左	
	⑦	西村　友哉	23	中　　大	右	右	
	㉔	坂巻　尚哉	27	中　　大	右	右	
	㉖	西村　彰浩	22	東北福祉大	右	右	
	㉘	宮崎　仁斗	25	立　　大	右	左	
	㉙	徳本 健太朗	29	青　学　大	右	左	
	㉝○	武藤　健司	27	中部学院大	左	左	
		（東海理化）					
	㉟	辰巳　智大	35	慶　　大	右	左	

春日井市（王子）⑳

監　督	㉝	湯浅　貴博	52	享　栄　高			
投　手	⑪	三島　安貴	24	愛知学院大	右	左	
	⑫	九谷　瑠	25	大阪大谷大	右	右	
	⑭	浅井 佑介	25	筑　波　大	右	右	
	⑮	登坂 真大	23	東海大札幌	大	左	
	⑯	中島　航	24	横浜商大	大	左	
	⑰	樋口　新	23	愛　知　工	大	左	
	⑲	近藤　均	35	関　　大	大	右	
	⑳	田中 湧也	24	関　　大	大	右	
	㉑	宮崎　隼輔	26	関　　大	大	右	
	㊹○	柳橋　巧人	25	龍　谷　大	大	右	
		（ＪＲ東海）					
	㊸	奥村　孝一	48	岐阜工高	高	左	
捕　手	㉒	細川　勝平	31	中　部　大	大	右	
	㉓	石崎　創価	24	創　価　大	大	右	
	㉗	横山　裕也	29	京　産　大	大	右	
	㉘	鈴木　大智	27	駒　　大	大	右	
内野手	⓪	木下　大我	23	東北福祉大	大	右	
	②◎	宝島　史貴	30	愛知学院大	大	右	
	③	大杉　諒暢	30	中部学院大	大	右	
	④	山口　乃義	26	立　命　大	大	右	
	⑤	前田 洸平	31	駒　　大	大	右	
	⑦	中川　壱成	24	東北福祉大	大	右	
	⑩	平野部 陽大	24	東北福祉大	大	右	
	㉔	広神 就平	26	中部学院大	大	右	
	㉕	鳥垣　猛流	27	中　部　大	大	右	
	㊺○	高垣　鋭次	27	日　体　大	大	右	
		（東邦ガス）					
外野手	①	横井　一樹	24	岐阜聖徳学園大	右	右	
	⑥	吉岡　郁哉	29	法　　大	右	左	
	⑧	山ノ井 隆雅	27	桐蔭横浜大	右	左	
	⑨	柴崎　聖人	23	大　経　大	右	右	
	㉙	賀部　秀平	31	創　価　大	右	左	
	㉛	亀山　一平	34	近　　大	右	右	
	㊸○	三村　政喜	28	東海学園大	右	右	
		（ＪＲ東海）					

浜松市（ヤマハ）㊻

監　督	㊿	申原　直樹	46	中　　大			
投　手	⑪	有本　雄大	24	東北福祉大	右	右	
	⑫	佐藤　大善	24	東北福祉大	左	左	
	⑬	北田　智朗	23	中部学院大	右	左	
	⑭	佐藤　廉	26	共　栄　大	右	左	
	⑮	金原　祥太	25	東北福祉大	右	右	
	⑯○	吉田　大喜	28	日　体　大	右	右	
		（東邦ガス）					
	⑰	清水　蓮	27	共　栄　大	右	右	
	⑱	水野　匡貴	29	明　　大	右	右	
	⑲	梅田 健太郎	22	立　正　大	右	左	
	⑳	吉山　朝陽	23	富　士　大	右	右	
	㉑	波多野 陽介	31	東北福祉大	右	右	
	㉙	寺沢　孝多	23	近　　大	左	左	
	㉞	沢山　優介	21	掛川西高	左	左	
	㊺	九谷　青孝	35	東　農　大	左	左	
捕　手	⑨	高杯　　翼	28	中部学院大	右	右	
	㉒◎	大本　拓海	28	立　命　大	右	右	
	㉗	清水 智裕	23	中　部　大	右	右	
内野手	②	土山 翔生	22	国　学　大	右	右	
	③	藤岡 康樹	30	東　農　大	右	左	
	④	秋林 利雄	33	カリフォルニア州立大	右	左	
	⑥	小林　寛弥	24	専　　大	右	左	
	⑦	永浜 晃汰	27	東北福祉大	右	左	
	⑩	相羽　寛太	22	静岡高	右	右	
	㉓	野沢　洸	29	横浜国大	右	左	
	㉛	森川　凌	22	神戸学院大	右	左	
	㉝	笠松　悠哉	29	立　　大	右	左	
	㊷○	若林　俊充	32	日　体　大	右	左	
		（東邦ガス）					
	㊿○	柴田　圭輝	31	法　　大	右	右	
		（東邦ガス）					
外野手	⓪	西村 進之介	24	専　　大	右	左	
	①	矢幡　勇人	35	専　　大	右	右	
	⑤	網谷　圭将	27	千葉英和高	右	右	
	⑧	舟久保 秀稔	25	東京国際大	右	左	
	㉔	中田　悠斗	26	中　　大	右	左	
	㉕	前野　幹博	30	ＰＬ学園高	右	左	
	㉖	桃谷　惟吹	24	立　命　大	右	左	
	㊽	石野　雅之	40	国士舘大	左	左	

岡崎市（三菱自動車岡崎）⑮

監　督	㉚	梶山　義彦	55	静　岡　高			
投　手	⑪	秋山　凌祐	24	立　命　大	大	右	
	⑫	田中　啓斗	23	武　蔵　大	右	右	
	⑬	鈴木　翔也	24	関　　学	大	左	
	⑭	清川　大雅	22	同　　志	大	右	
	⑮	江南　怜	24	皇学館大	大	右	
	⑯	神原　友	30	東　海　大	大	右	
	⑰	中村　公祐	25	慶　　大	大	右	
	⑲	笠井　建吾	27	慶　　大	大	右	
	⑳	近藤　愛斗	20	浜松開誠館高	高	右	
	㉑	秋山　翔	29	武　蔵　大	大	左	
	㉞	坂巻　拳	28	東京情報大	大	左	
	㊶	飯島　孝平	23	北海道大	大	右	
	㊼	一井日向汰	23	筑　波　大	大	左	
	㊸○	戸田　公星	37	日田林工高	高	右	
		（ＪＲ東海）					
捕　手	⑩	西川　尚希	28	青　学　大	大	右	
	㉓	橋爪　成	21	下関国際高	高	右	
	㉗	山下　航汰	22	日　体　大	大	右	
	㉝	宮野　峻	31	愛知学院大	大	右	
内野手	③	菅原　裕太	26	日　　大	大	右	
	⑤	荒井 海斗	30	明　　大	大	右	
	⑥	小室　和弘	34	明　　大	大	左	
	⑦◎	古川 智也	24	慶　　大	大	右	
	⑧	内藤　幹太	27	東京情報大	大	右	
	⑨	斎藤　育輝	25	東北福祉大	大	右	
	㉕	井上　慶秀	29	東　　大	大	右	
	㉖	伊藤　大地	29	松　商　高	高	右	
	㊶○	平野　英丸	27	駒　　大	大	右	
		（ＪＲ東海）					
外野手	⓪○	水谷　祥平	24	東　洋　大	右	右	
		（ＪＲ東海）					
	①	東　　奏太	23	東京情報大	右	右	
	②	茂木　　陸	23	武　蔵　大	右	右	
	④	大手　　晴	23	青　学　大	右	右	
	㉔	豊住　康太	31	鹿児島実高	右	左	
	㉘	里見　治紀	28	東北福祉大	右	左	
	㉙	山田　将士	29	青　学　大	右	右	
	㉚	岳原　陵河	20	山梨学院高	右	左	
	㉛	中村　奎太	25	明　　大	右	左	

都市対抗野球大会

姫路市（日本製鉄瀬戸内）㉞

監督	㊼	米田　真樹	44	熊本工	高		
投手	⑪	川瀬　航作	28	京都学園	大	右	右
	⑭	下堂　翔史	22	日本文理	大	右	左
	⑮	伊藤　銀二	26	立志舎	高	左	左
	⑯	藤川　紘斗	24	京産	大	左	右
	⑰	神頭　剛	26	関西	高	右	右
	⑱	藤野　幹大	26	日本文理	大	右	左
	⑲	杉本　壮志	25	大体	大	左	左
	⑳	西本　晴人	23	近	大	右	左
	㉑	吉岡　大誓	22	天理	大	左	右
	㊱	○西　陸和	27	大経	大	右	右
		（大和高田クラブ）					
捕手	⑩	小出　凌太郎	27	日本文理	大	右	右
	㉒	島上　真綾	24	東京情報	大	右	右
	㉗	福井　圭祐	30	姫路独協	大	右	左
内野手	①◎	向井　地大	25	龍谷	大	右	右
	③	岡　勝輝	28	愛知学院	大	右	右
	④	重宮　涼	23	日体	大	右	右
	⑤	西川　雄大	28	関西国際	大	右	右
	⑥	市原　脩平	27	関西	高	右	左
	⑦	川瀬　剛志	25	近大工学部		右	右
	⑨	安芸　健太	19	生光学園	高	左	左
	㉓	井川　雅久人	18	明石商	高	右	右
	㉕	小深田　大地	22	履正社	高	右	左
	㉖	内倉　一冴	23	龍谷	大	右	左
	㊲	○朝日　晴人	24	慶	大	右	左
		（三菱重工West）					
外野手	⓪	遠藤　秀太	25	京産	大	左	左
	②	広田　太陽	24	立命	大	右	左
	⑧	中井　颯良	23	関	大	右	左
	㉔	江川　輝琉亜	23	東農大オホーツク		右	左
	㉞	戎　雄也	19	滝川二	高	右	左
	㊳	○猪原　隆雅	25	日体	大	右	右
		（ミキハウス）					
	㊴	佐々木　建介	31	京都学園	大	左	左

大阪市（日本生命）㊹

監督	㊽	梶田　茂生	57	筑波	大		
投手	⑪	佐伯　亮太朗	25	東京情報	大	右	左
	⑬	武次　春哉	26	関西国際	大	左	左
	⑭	高木　寛斗	23	同志	大	左	左
	⑮	谷脇　弘起	23	立命	大	右	左
	⑯	水江日々生	25	京	大	右	右
	⑰	小向　直樹	26	共栄	大	右	右
	⑱	吉高　壮	26	日体	大	右	左
	⑲	辻祐　希斗	24	環太平洋	大	右	左
	⑳	山本　広隆	28	関	大	右	左
	㉑	○藤井　基	22	神戸学院	大	左	左
		（三菱重工West）					
	㉔	斎藤　礼二	24	東海	大	右	左
	㉞	真野　凜風	23	東京	大	右	右
捕手	⑥	山崎　輝哉	26	東洋	大	右	右
	㉒	吉安　遼哉	23	法	大	右	左
	㉗	三島　有貴	24	愛知学院	大	右	右
内野手	⓪	池上　颯	25	立命	大	右	右
	①	山田　健太	25	立早	大	右	右
	②	梅村　和大	22	早	大	右	右
	③	船山　貴大	29	日体	大	右	右
	⑩◎	木倉　朋輝	26	関	大	右	右
	⑫	多田　桐吾	29	関	大	右	左
	㉖	高田　幸汰	24	関	大	右	左
	㉟	○西岡　武蔵	29	三重	高	右	右
		（三菱重工West）					
	㊲	○武田　登生	26	中央学院	大	右	左
		（日本新薬）					
	㊺	竹中　研人	23	東北福祉	大	右	左
外野手	④	松葉　叶矢	26	八戸学院	大	右	左
	⑤	越智　達矢	29	明	大	右	左
	⑦	松本　渉和	25	東洋	大	右	左
	⑧	中津　大僚	22	法	大	右	左
	⑨	早野　和馬	28	九州共立	大	右	左
	㉓	藤本　舜	25	中部学院	大	右	左
	㉕	竹村　陸	28	近	大	右	右
	㉝	上西　主起	33	中部学院	大	右	右

大阪市（ＮＴＴ西日本）㊱

監督	㊿	河本　泰浩	42	駒	大		
投手	⑪	松井　大輔	24	青学	大	右	右
	⑬	坂元　創	24	九州共立	大	右	右
	⑭	前田　竣也	24	大商	大	右	右
	⑮	田村　孝之介	27	日	大	右	左
	⑯	大江　克哉	29	花園	大	右	右
	⑰	茨木　篤哉	25	龍谷	大	左	左
	⑱	島田　直哉	25	立	大	右	左
	⑲	渡辺　友哉	25	東洋	大	左	左
	⑳	浜崎　浩大	35	東日本国際	大	左	左
	㉑	高井　駿介	23	駒	大	左	左
	㉙	井沢　駿介	25	東	大	右	右
	㉟	○遠藤　慎也	24	亜	大	右	右
		（日本新薬）					
捕手	㉒	小泉　航平	25	大阪桐蔭高		右	右
	㉔	夏目　大	25	専	大	右	左
	㉗	辻本　勇樹	29	仙台	大	右	右
	㊸	田中　孝宗	37	東農	大	右	右
内野手	②◎	水島　滉陽	24	東京情報	大	右	左
	④	後藤　貴大	26	亜	大	右	右
	⑤	徳丸　天晴	21	智弁和歌山高		右	右
	⑥	山田　峻士	29	亜	大	右	右
	⑨	成瀬　脩人	24	東海	大	右	右
	⑩	吉川　育真	24	国学	大	右	両
	㉖	山本　大地	24	環太平洋	大		
	㊱	○浜田　竜之祐	32	専	大	右	左
		（日本新薬）					
	㊲	○北條　史也	31	光星学院高		右	右
		（三菱重工West）					
	㊶	永松　孝太	40	東海	大	右	左
	㊷	梅津　正隆	38	九州共立	大	右	右
外野手	⓪	藤井　健平	27	東海	大	左	左
	①	天井　一輝	24	亜	大	右	右
	⑦	串畑　勇誠	26	東海	大	右	右
	⑧	中村井　篤人	33	亜	大	左	左
	㉓	酒井　良樹	29	駒	大	右	右
	㉕	井上　幹太	23	金沢学院	大	右	左

門真市（パナソニック）㊼

監督	㉚	中本　浩	59	亜	大		
投手	⑪	与座　健人	32	関西国際	大	右	右
	⑬	井奥　勘太	25	天理	大	左	左
	⑭	伊藤　岳斗	23	龍谷	大	右	左
	⑮	定本　拓真	25	関	大	右	左
	⑯	小倉　悠玲史	24	同	大	左	左
	⑰	北畑　央	23	東北福祉	大	右	右
	⑱	柿本　晟弥	23	東洋	大	右	右
	⑲	羽田野　温生	25	東洋	大	右	右
	㉑	○斎藤　弘志	32	中部学院	大	左	左
		（日本新薬）					
	㉞	榎本　亮	33	佛教	大	左	左
捕手	⑫	宮崎　恭輔	24	慶	大	右	右
	㉒	小山　翔暉	24	亜	大	右	左
	㉓	川上　翔	28	近	大	右	右
	㉗	久保田　拓真	26	関	大	右	右
内野手	⓪	手塚　悠己	24	青学	大	右	右
	②◎	松浦　隆己	23	亜	大	右	右
	④	山路　将太郎	22	東北福祉	大	右	左
	⑤	本間　颯太朗	23	慶	大	右	左
	⑥	坂下　翔馬	23	近	大	右	左
	⑩	法兼　駿	30	亜	大	右	左
	㉔	○田浦　由亮	24	九産	大	右	右
		（ミキハウス）					
	㉕	永江　大樹	26	福岡	大	右	右
	㉛	野波　祐太郎	24	明	大	右	左
	㊴	○大西　友也	31	同	大	右	右
		（ミキハウス）					
外野手	①	上田　隼也	29	亜	大	右	右
	③	宮崎　秀太	25	法	大	左	左
	⑦	植田　勝至	29	商	大	右	両
	⑧	浦　和博	24	大法	大	左	左
	⑨	三宅　浩史郎	27	立命	大	右	左
	㉖	鈴木　大照	22	法	大	右	両
	㉝	山本ダンテ武蔵	25	法国	学	右	右

大阪市（大阪ガス）㉙

監督	㊼	峯岡　格	51	早	大		
投手	⑫	林　虹太	25	東農大オホーツク		右	右
	⑬	大宮　隆寛	26	東洋	大	右	右
	⑭	江越　永輝	24	九産	大	右	右
	⑮	小松　章浩	26	東北福祉	大	右	右
	⑯	田中　瞬太朗	22	城西国際	大	右	左
	⑰	稲垣　豪人	26	東農	大	右	左
	⑲	本間　悠貴	23	天理	大	左	左
	⑳	勝本　樹	25	日体	大	右	右
	㉑	執行　大成	23	関学	大	右	右
	㉒	秋山　功太郎	23	青学	大	右	右
	㊳	○木下　隆也	25	佛教	大	左	左
		（日本新薬）					
	㊴	○桜井　俊貴	31	立命	大	右	右
		（ミキハウス）					
捕手	㉔	戸高　誠也	24	東北福祉	大	右	右
	㉗	田中　聡馬	23	拓	大	右	右
	㉘◎	高橋　佑八	28	関		右	右
	㉙	城下　拡	22	鹿児島実高		右	左
内野手	⓪	山本　大輔	25	国学	大	右	左
	②	島袋　皓平	23	東北福祉	大	右	右
	③	高波内　寛生	24	関学	大	右	左
	⑨	杉内　洸貴	27	同	大	右	右
	⑩	石橋　昂樹	23	北九州市大		右	右
	㉓	下林　源太	23	天理	大	右	左
	㉖	吉沢　一翔	27	早	大	右	右
	㉛	峰下　智弘	33	近	大	右	左
	㉜	花本　太紀	32	創価	大	右	右
	㊲	○橋本　和樹	26	立命	大	右	右
		（日本新薬）					
外野手	①	清水　聖也	27	東北福祉	大	右	右
	④	橋本　典之	25	慶	大	左	左
	⑤	山川　晃汰	27	近	大	右	左
	⑦	梶田　蓮	24	近	大	右	左
	⑧	三井　健右	27	立	大	右	左
	㉕	室屋　太郎	28	鹿児島実高		右	左

高松市（ＪＲ四国）⑭

監　督	㊺	杉山　洋一	50	鳴門商高		
投　手	⑪	川合　慎磨	23	神戸学院大	右	左
	⑬	寺崎　周大	27	関東学院大	右	右
	⑭	桑嶋　洋輔	22	吉備国際大	左	左
	⑮	山本　隼輔	25	国際武道大	右	右
	⑯	藤田　宗純	24	龍谷大	右	右
	⑰	鈴木　連	22	神戸医療未来大	右	右
	⑱	石丸慶次郎来	27	関学大	左	左
	⑲	近藤　壱来	27	鳴門渦潮高	右	右
	㉑○	菊池　大樹	32	龍谷大	右	右
		（四国銀行）				
捕　手	㉕	森下　蓮央	27	桐蔭横浜大	右	右
	㉗	小林　太郎	23	天理大	右	右
	㉛○	吉尾　竜一	25	広島工大	右	右
		（イワキテック）				
	㉝◎	篠崎　康	25	帝京第五高	右	右
内野手	①	北尾　勇人	28	龍谷大	右	右
	③	笹田　仁	31	流通経大	右	右
	④	高井　智也	26	青森大	右	左
	⑤	有持　泰成	24	神戸医療未来大	右	右
	⑥	美濃　晃成	27	近大	右	左
	⑨	山田虎太郎	22	駿河台大	右	左
	⑩	神野虎太朗	26	亜大	右	右
	㉓○	大北　海斗	27	拓大	右	右
		（四国銀行）				
	㉘	仲村　光陽	22	国学大	右	右
	㉙	岩部　匡良	36	香川中央高	右	右
外野手	⓪	山根　一輝	25	桐蔭横浜大	右	左
	②	吉岡　広貴	25	立道都大	大	
	⑦	高木ちから	31	天理大	右	右
	⑧	井脇　将誠	22	天理大	右	左
	㉔	山口　晃	23	山梨学院大	右	左

福山市・倉敷市（ＪＦＥ西日本）⑭

監　督	㊿	内田　聡	47	神奈川大		
投　手	⑪	尾田　恭平	28	大商大	左	左
	⑫	筒井　恒匡	25	日体大	右	右
	⑭	安岡　拳児	23	広島経大	右	右
	⑮	浜岡　拓海	25	京都先端科学大	右	右
	⑯	津山　裕希	27	中部学院大	右	右
	⑰	西野　知輝	24	山梨学院大	左	左
	⑱	大石　将斗	26	環太平洋大	右	右
	⑳	長野　健也	22	天理大	右	右
	㉑	本田　真也	22	神奈川大	右	右
	㉙	岩本　賢志	22	大阪桐蔭高	左	左
	㉞	岩本龍之介	23	亜大	左	左
	㊸○	下江　秀弥	24	明大	右	左
		（日本製鉄山口）				
	㊹○	山久　碧生	23	国学大	右	右
		（日本製鉄山口）				
捕　手	⑧	篠原　翔太	26	明大	右	右
	㉓	末田　龍祐	22	愛知学院大	右	右
	㉗	藪内　悠	181	丸亀城西高	右	右
	㉚◎	後藤　将太	27	帝京大	右	右
内野手	⓪	原　俊哉	23	鹿屋体大	右	右
	⑥	河内　愛哉	27	富士大	右	右
	⑦	岡　将吾	36	駒大	右	右
	⑨	新田田　旬希	25	駒大	右	左
	⑩	古田　塁	30	東洋大	右	右
	⑲	土井　克也	24	神奈川大	右	右
	㉕	綿屋　樹	27	鹿児島実高	右	左
	㉝	佐藤　翔	27	大商大	右	左
外野手	①	田中　多聞	20	大阪港高	左	左
	③	上西井　嵐満	27	日体大	右	左
	④	鳥井　凌	29	仙台大	右	右
	⑤	永山田　裕真	26	青学大	右	左
	⑬	高田　桐利	24	法大	右	左
	㉔	大西　良来	23	福井工大	右	右
	㉖	福島　貫太	21	倉敷工高	右	右
	㊺○	森田　貴	26	近大	右	
		（シティライト岡山）				

広島市（ＪＲ西日本）⑧

監　督	㊺	田村　亮	46	関大		
投　手	⑪	辰己　晴野	24	関大	左	左
	⑭	一ノ瀬幸稀	23	九産大	左	左
	⑮	大山　海	26	飯塚高	左	左
	⑯	船田　清志	23	松山大	右	右
	⑰	中岡　大河	23	富士大	右	右
	⑱	真城　翔大	24	天理大	右	左
	⑲	京極　翔也	22	立命大	右	左
	⑳	松本　寛太	24	朝日大	右	右
	㉑	大畑　理暉	26	奈良学園大	右	右
	㉖	花村　凌	25	大商大	左	左
	㉞○	長谷川康生	22	玉野商工高	左	左
		（三菱自動車倉敷オーシャンズ）				
	㉟○	高田　萌生	27	創志学園高	右	右
		（ショウワコーポレーション）				
捕　手	⑩	加藤　洋平	24	国学大	右	左
	㉒	黒川　直哉	24	近大	右	右
	㉗	御簗　龍己	23	福井工大	右	右
	㉛	安田　圭吾	25	和歌山大	右	右
	㊼	山岸　大起	30	同大	右	右
内野手	②◎	桜井　涼	28	近大工学部	右	右
	③	土居　拓海	24	広島新庄高	右	右
	④	西村　唯人	24	立命大	右	左
	⑦	田村　強	31	大体大	右	右
	⑨	本田　蒼空	23	九産大	右	右
	㉓	佐藤慶志朗	22	関大	右	右
	㉕	西野　力矢	22	大阪桐蔭高	右	右
	㉝	杉本　涼	25	近大工学部	右	左
外野手	⓪	植本　亮太	24	大商大	右	左
	①	大江　拓輝	23	中部学院大	右	左
	⑤	大倉　卓也	30	関学大	右	右
	⑥	戸田　航史	26	大商大	右	右
	⑧	岡野　翔海	23	佛教大	右	右
	㊱○	林　拓馬	24	日大	右	左
		（日本製鉄山口）				

大津町（Honda熊本）⑱

監　督	㉟	渡辺　正健	55	明大		
投　手	⑪	高橋　聖人	25	明大	右	右
	⑫	米倉　貫太	25	埼玉栄高	右	右
	⑬	横川　楓薫	28	東海大	左	左
	⑭	寺沢　神嶺	24	筑波大	左	右
	⑮	上村名　凌馬	24	上武大	右	右
	⑯	新名　星河	22	国学大	左	左
	⑰	藤江　一輝	22	明大	左	左
	⑱	柳沢　雄貴	30	早大	右	右
	⑲	片山　雄登	32	駒大	右	右
	⑳	中西　健太	23	国士舘大	右	右
	㉙	中村　太耀	24	城西国際大	左	左
	㊳○	安里　海	26	東海大	左	左
		（沖縄電力）				
	㊼	島袋　圭亮	31	九州共立大	左	左
捕　手	㉔◎	竹葉　章人	27	立大	右	右
	㉖	養尾　海斗	25	明大	右	右
	㉗	丸山　竜治	24	熊本工高	右	右
	㊹	浜岡　直人	40	亜大	右	右
内野手	⓪	江頭　且行	25	国士舘大	右	左
	②	江崎　大輔	27	関東学院大	右	左
	④	青柳　諄	22	桐蔭横浜大	右	右
	⑤	井上　剛	24	立大	右	右
	⑦	古寺　宏輝	27	関東学院大	右	右
	⑧	和田　裕生	30	専大	右	左
	⑨	森翔　太郎	23	中部学院大	右	左
	⑩	高垣　広大	24	日大	右	右
	㊱○	田場　亮平	33	前原高	右	右
		（沖縄電力）				
	㊲○	小浜　佑斗	23	中部商高	右	右
		（沖縄電力）				
	㊺	川嶋　克弥	35	明大	右	左
	㊼	白石　勇太	35	八代東高	右	右
外野手	①	山本　卓弥	27	亜大	右	右
	③	中島　準矢	28	筑波大	右	左
	⑥	稲垣　翔太	32	明豊高	右	左
	㉓	宮川　海斗	27	上武大	右	右
	㉕	山根　良太	24	広島経大	右	右
	㉘	正林　輝大	19	神村学園高	右	左

福岡市（西部ガス）⑧

監　督	㊾	松藺　史敏	35	九州共立大		
投　手	⑪	松本　翔	21	真颯館高	左	左
	⑭	高椋　俊平	29	九州国際大	右	右
	⑮	山田　義貴	31	亜大	右	右
	⑯	大畑　蓮	23	明豊高	右	右
	⑰	林田　夢大	22	津久見高	右	右
	⑱	岩崎　皓介	29	九州共立大	左	左
	⑲○	西山　大成	25	福岡大	右	左
		（ＫＭＧホールディングス）				
	⑳○	大久　保啓	23	東海大	右	右
		（宮崎梅田学園）				
	㉑	井口　涼大	19	城北高	左	左
	㊹	村田　健	31	東農大	右	右
	㊼	田中　和正	30	久留米大	左	左
捕　手	②	金沢　達弘	30	龍谷高	右	右
	㉒	松山　翔太	25	宮崎産経大	右	右
	㊺	野中　翔太	27	亜大	右	右
内野手	⓪	古川　朋樹	23	東農大	右	右
	①	八木　大輝	26	宮崎産経大	右	右
	④	柴田　恭佑	23	立大	右	左
	⑥	原田　拓也	34	亜大	右	左
	⑦◎	笹井健太郎	28	九州共立大	右	右
	⑩	井手　隼斗	31	同大	右	右
	㉜	平野　友都	26	亜大	右	右
外野手	③	樋口　昇樹	24	ホテルオークコンピュータ教育専門学校	右	右
	⑧	正木　慎也	30	関東学院大	右	左
	⑨○	山田　遼平	29	上武大	右	右
		（ＪＲ九州）				
	㉔	永利　拓也	31	西日本短大付高	右	左
	㉗	横田　翼	29	九産大	右	左
	㉛	安永　元也	26	日本文理大	左	左
	㊲	園田　恵大	23	福岡大	右	左

日本生命最多64回目の出場

クラブチームも5年ぶりに東京ドームへ

都市対抗予選

第96回都市対抗の予選は、3月22日に奈良1次から始まり、7月17日に西関東2次で東芝が第2代表に決まるまで、約4カ月にわたり熾烈な戦いを繰り広げ、推薦出場の三菱重工East（前回優勝）を加え、本大会に出場する32チームが出そろった。

最多出場は近畿第2代表の日本生命の64回（優勝4回）。JR東日本は東京最後の第4代表に滑り込み、連続出場記録を今大会最長の16に伸ばした。最多優勝12回を誇るENEOSは西関東第1代表として6年連続の出場を果たした。

初出場のチームはなく、JR北海道硬式野球クラブが5年ぶり、信越硬式野球クラブは6年ぶりと、かつての名門を継ぐクラブ2チームが本大会への復帰を果たした。クラブチームの出場は5年ぶりとなる。

JR北海道硬式野球クラブ5年ぶり17回目

北海道

（代表1＝前回は北海道ガス）

2次は4チームによるリーグ戦で行われ、JR北海道クラブが3連勝で5年ぶりの代表切符を手にした。初戦のWEEDしらおい戦では七回に一挙11点の猛攻でコールド勝ち。北海道ガス戦では夏井が完投し、Feather Home HORNETSとの最終戦も投打に圧倒した。北海道ガスは投手陣が踏ん張れず、5年連続の代表権を逃した。

○…1次…○（栗山町民ほか）

▽1回戦

東北海道サンライズ5―1オール苫小牧
江別ブルーインズ2―1北海ブルーウェーブトッキュウブルーローズ
8―0札幌倶楽部
Feather Home HORNETS4―0函館太洋倶楽部
ウイン北広島7―0TRANSYS
小樽協会20―0伊達ウォリアーズ
旭川グレート・ベアーズ10―3帯広倶楽部VICROSS
航空自衛隊千歳24―0ブレーブくしろ

▽2回戦

江別ブルーインズ6―1東北海道サンライズ
ウイン北広島10―7小樽協会
Feather Home HORNETS7―4トッキュウブルーローズ
航空自衛隊千歳7―0旭川グレート・ベアーズ

▽3回戦

北海道ガス10―3江別ブルーインズ
ウイン北広島11―10WEEDしらおい
Feather Home HORNETS10―8日本製鉄室蘭シャークス
JR北海道クラブ14―6航空自衛隊千歳

▽2次予選進出決定戦

北海道ガス10―3ウイン北広島
JR北海道クラブ5―4Feather Home HORNETS

（北海道ガス、JR北海道クラブは2次予選へ）

▽敗者復活1回戦

WEEDしらおい4―1江別ブルーインズ
日本製鉄室蘭シャークス8―3航空自衛隊千歳

▽2次予選進出決定戦

Feather Home HORNETS3―2ウイン北広島

（Feather Home HORNETSは2次予選へ）

▽敗者復活2回戦

WEEDしらおい4―0日本製鉄室蘭シャークス

▽2次予選進出決定戦

WEEDしらおい7―5ウイン北広島

（WEEDしらおいは2次予選へ）

○…2次…○（札幌円山）

▽代表決定リーグ戦

JR北海道クラブ（1勝）

	020	001	11
	103	000	0

14
4

WEEDしらおい（1敗）

（七回コールド）

（J）内沢、伊藤、夏井―村北

（W）太田、井出、岡本、加川―安岡

▽本塁打　南木（J）小山力、伊東（W）

北海道ガス（1勝）

001	011	110	5
030	000	001	4

Feather Home HORNETS（1敗）

（北）村上、北嶋、武笠、大城―中林

（F）宮沢、正岡、影山、高橋―中島

WEEDしらおい（1勝1敗）

000	302	23	10
300	000	00	3

Feather Home HORNETS（2敗）

（八回コールド）

（W）宮脇―吉田

（F）桜田、佐藤、正岡、伊藤、高橋、宮沢―中島、中村

▽本塁打　小山力（W）

北海道ガス（1勝1敗）

010	000	000	1
000	240	01×	7

JR北海道クラブ（2勝）

（北）村上、大城、武笠、北嶋―中林、東海林

（J）夏井―村北

WEEDしらおい（1勝2敗）

000	100	0	1
410	010	2	8

北海道ガス（2勝1敗）

（七回コールド）

（W）太田、井出、竹内、加川―安岡

（北）海老原、大城―中林

JR北海道クラブ（3勝）

205	001	4	12
000	000	0	0

Feather Home HORNETS（3敗）

（七回コールド）

（J）内沢、大崎、夏井―村北

（F）宮沢、影山、佐藤、桜田、高橋、徳橋、伊藤―中島、中村

（JR北海道クラブは5年ぶり17回目）

JR北海道

	点									
安	0	0	1	0	3	3	1	1	0	2
打	0	0	2	0	2	1	1	0	3	1
5	3	3	0	2	1	1	0	3	1	0
5	4	3	2	1	4	2	1	0	0	0

⑨	②	D	R	③	⑥	⑦	④	H	⑧	⑤	H
山村	南川	松石	大		南		冨内	俵小	西	
				D					5	4

計　3　3　1　2　1　1

HORNETS

	打	安	点
⑧	野	0	0
⑥	和木	0	0
⑦	スレ	0	0
H	田	0	0
④	馬	0	0
⑨	島	0	0
②	村	0	0
2	田	0	0
D	邉	0	0
③	原	0	0
⑤	川	0	0
H	3	1	0

⑧	⑥	⑦	H	④	⑨	②	2	D	③	⑤	H
平	大佐	ラミ	浦	相	中	中	成	渡	春	西	
									5	3	

計　23　1　0

J	6	7	1	3	0	8	0	8	0
振	球	犠		盗		失		残	併
H	9	2	0	0		2		4	1

投	内	大	夏		手	沢	崎	井	
				回		5	1	1	
				2			2/3	1/3	
				2			2	1	
							2/3	0/3	1/3

責	0	0	0		0	5	0	1	2	0
安	0	0	1		1	5	3	1	0	1
打	0	0	0		0	1	1	0	1	0
打	南木、大崎									
暴投	松井									
3、影山、櫻田										
2時間20分										

ＪＲ東日本東北５年連続31回目
ＴＤＫ３年ぶり18回目

東　北

（代表２＝前回はＪＲ東日本東北と日本製紙石巻）

ＪＲ東日本は２次の３試合中２試合で２桁得点と打線が好調だった。第１代表決定戦は早坂、津高のリレーで零封勝ちと投打がかみ合い、３年連続で第１代表に輝いた。ＴＤＫは小島、鈴木の両右腕に安定感があり、３年ぶりに代表の座をつかんだ。前回代表の日本製紙石巻、２年ぶりの東京ドームを狙った七十七銀行は投手陣が踏ん張れなかった。

○…１次…○

◇**青森**（岩木山総合公園野球場）

▽リーグ戦

弘前アレッズ11―２キングブリザード
全弘前倶楽部９―２キングブリザード
弘前アレッズ７―０全弘前倶楽部
（弘前アレッズは２次予選へ）

◇**秋田**（さきがけ八橋）

▽１回戦

ゴールデンバーズ10―０能代松陵クラブ
大曲クラブ10―７秋田クラブ
ＴＤＫ15―０ゴールデンバーズ

▽準決勝

ＪＲ秋田14―１互大設備ダイヤモンドクラブ
ＴＤＫ13―０大曲クラブ

▽決勝

ＴＤＫ９―２ＪＲ秋田
（ＴＤＫ、ＪＲ秋田は２次予選へ）

◇**山形**（山形県第二）

▽１回戦

Ｂｉｎｅｔ山形11―０片山商会ＢＣ
鶴岡クラブ14―９新庄球友クラブ

▽決勝

Ｂｉｎｅｔ山形11―４鶴岡クラブ
（Ｂｉｎｅｔ山形は２次予選へ）

◇**岩手**（しんきん森山ほか）

▽１回戦

ＭＫＳＩＢＣ８―１遠野クラブ
盛岡球友倶楽部８―１黒陵クラブ
一関クラブ12―３花巻東倶楽部
赤崎クラブ20―16宮古倶楽部
オール江刺10―０北上ＲＥＤＳ
高田クラブ９―４二戸桜陵クラブ
盛友クラブ13―６釜石野球団
久慈クラブ不戦勝滝沢スイカーズ

▽２回戦

ＭＫＳＩＢＣ７―５赤崎クラブ
オール江刺14―１一関クラブ
盛岡球友倶楽部11―１高田クラブ
久慈クラブ14―７盛友クラブ

▽準々決勝

トヨタ自動車東日本９―２オール江刺
水沢駒形倶楽部５―０ＭＫＳＩＢＣ
ＪＲ盛岡６―５盛岡球友倶楽部
久慈クラブ16―１住田クラブ

▽準決勝

トヨタ自動車東日本12―０水沢駒形倶楽部
ＪＲ盛岡９―０久慈クラブ
（トヨタ自動車東日本、ＪＲ盛岡は２次予選へ）

▽決勝

トヨタ自動車東日本９―２ＪＲ盛岡

▽第３代表決定戦

水沢駒形倶楽部８―０久慈クラブ
（水沢駒形倶楽部は２次予選へ）

◇**宮城**（仙台市民ほか）

▽１回戦

マルハン北日本カンパニー21―０ハクサン
青葉クラブ９―１石巻旧和倶楽部

▽２回戦

マルハン北日本カンパニー３―２東北マークス
日本製紙石巻14―１ＴＦＵクラブ
ＪＲ東日本東北10―０青葉クラブ
七十七銀行９―１大崎トリプルクラウン
（マルハン北日本カンパニー、日本製紙石巻、ＪＲ東日本東北、七十七銀行は２次予選へ）

◇**福島**（県営あづま）

▽１回戦

ＦＫ　Ｃ７―１小峰クラブ
オールいわきクラブ10―０郡山クラブ
エフコムＢＣ12―０ＡＬＬ北嶺
いわき菊田クラブ９―８全白河クラブ

▽準決勝

エフコムＢＣ16―０いわき菊田クラブ
オールいわきクラブ27―７ＦＫ　Ｃ

▽決勝

エフコムＢＣ９―０オールいわきクラブ
（エフコムＢＣは２次予選へ）

○…２次…○

（仙台市民ほか）

▽第１代表決定トーナメント１回戦

ＪＲ盛岡

	0	0	0		1	0	0	0	1
	1	0	0		0	0	2	×	3

マルハン北日本カンパニー
（Ｊ）金野、桜糀―湊
（マ）藤沢、鈴木―落合

▽本塁打　作本、石川（マ）

水沢駒形倶楽部

	0	0	0		0	4	0	2	6
	0	1	2		1	0	0	0	5

弘前アレッズ
（延長十回、十回からタイブレーク）
（水）遠藤、村上真、阿世知―松岡
（弘）松谷、塩倉、小田島―長牛

▽本塁打　伊藤海（エ）石井信（七）

ＪＲ東日本東北

	2	1	5		2	2	0	0	12
	0	0	0		1	0	0	0	1

Ｂ―ｎｅｔ山形
（七回コールド）
（Ｊ）早坂、川村、浦野―小鷹、佐々木
（Ｂ）本間秀、石川、斎、畑中―深瀬、杉山

▽本塁打　八百板飛、伊藤海（エ）

トヨタ自動車東日本

	0	0	0		0	1	0	0	2
	0	1	0		0	0	0	0	1

エフコムＢＣ
（延長十一回、十回からタイブレーク）
（ト）中村隆、小田、斎藤智―根来
（エ）山形、大内、長根、渡辺拓―武藤

▽本塁打　作本、石川（マ）

水沢駒形倶楽部

	0	0	0		0	4	0	2	6
	0	1	2		1	0	0	0	5

弘前アレッズ
（延長十回、十回からタイブレーク）
（水）遠藤、村上真、阿世知―松岡
（弘）松谷、塩倉、小田島―長牛

▽本塁打　伊藤海（エ）石井信（七）

ＪＲ東日本東北

	2	1	5		2	2	0	0	12
	0	0	0		1	0	0	0	1

Ｂ―ｎｅｔ山形
（七回コールド）
（Ｊ）早坂、川村、浦野―小鷹、佐々木
（Ｂ）本間秀、石川、斎、畑中―深瀬、杉山

▽本塁打　八百板飛、伊藤海（エ）

トヨタ自動車東日本

	0	0	0		0	1	0	0	2
	0	1	0		0	0	0	0	1

エフコムＢＣ
（延長十一回、十回からタイブレーク）
（ト）中村隆、小田、斎藤智―根来
（エ）山形、大内、長根、渡辺拓―武藤

▽本塁打　作本、石川（マ）

水沢駒形倶楽部

	0	0	0		0	4	0	2	6
	0	1	2		1	0	0	0	5

弘前アレッズ
（延長十回、十回からタイブレーク）
（水）遠藤、村上真、阿世知―松岡
（弘）松谷、塩倉、小田島―長牛

▽同２回戦

エフコムＢＣ

	0	0	0		0	0	1	0	1
	0	1	1		0	0	0	3	×	5

七十七銀行
（エ）小口、佐藤一―大川、武藤
（七）後藤、庭田―石井信

▽本塁打　伊藤海（エ）石井信（七）

ＪＲ東日本東北

	2	1	5		2	2	0	0	12
	0	0	0		1	0	0	0	1

Ｂ―ｎｅｔ山形
（七回コールド）
（Ｊ）早坂、川村、浦野―小鷹、佐々木
（Ｂ）本間秀、石川、斎、畑中―深瀬、杉山

▽本塁打　八百板飛、伊藤海（エ）

トヨタ自動車東日本

	0	0	0		0	1	0	0	2
	0	1	0		0	0	0	0	1

エフコムＢＣ
（延長十一回、十回からタイブレーク）
（ト）中村隆、小田、斎藤智―根来
（エ）山形、大内、長根、渡辺拓―武藤

▽本塁打　作本、石川（マ）

水沢駒形倶楽部

	0	0	0		0	4	0	2	6
	0	1	2		1	0	0	0	5

弘前アレッズ
（延長十回、十回からタイブレーク）
（水）遠藤、村上真、阿世知―松岡
（弘）松谷、塩倉、小田島―長牛

▽同２回戦

エフコムＢＣ

	0	0	0		1	0	0

都市対抗野球大会　地方予選

坂口
▽第２代表決定トーナメント１回戦
トヨタ自動車東日本
５１０　０００　０００　６
０００　０００　２００　２
マルハン北日本カンパニー
（ト）中里、斎藤智、小田―根来
（マ）粕谷、小松、山本、中村、石坂―山口
▽本塁打　佐々木一（ト）柄沢（マ）
水沢駒形倶楽部
０１３　０００　０００　４
０１０　０００　０１０　２
ＪＲ秋田
（水）阿世知―松岡
（Ｊ）熊谷、杉原、泉―山田
エフコムＢＣ
１００　０００　０１０　２
１２０　０００　００×　３
ＪＲ盛岡
（エ）長根、照井、渡辺拓―武藤、大川
（Ｊ）山崎、野中大、金野―湊
Ｂ―ｎｅｔ山形
００１　４００　００２　７
００２　０１０　０００　３
弘前アレッズ
（Ｂ）三浦―深瀬
（弘）小田島、塩倉、松谷―

長牛
▽第１代表決定トーナメント準決勝
日本製紙石巻
０００　０００　０００　０
１１０　０００　００×　２
ＴＤＫ
（日）生長、小寺、秋田―坂口
（Ｔ）鈴木、阿部、小島、田中―奥村
ＪＲ東日本東北
００２　３１１　２０１　１０
０１２　０００　２００　５
七十七銀行
（Ｊ）竹本、早坂、津高、武田―佐々木、小鷹
（七）柴崎、庭田、後藤、渋谷―石井信、越村

▽本塁打　金沢（Ｊ）
▽第２代表決定トーナメント１回戦
Ｂ―ｎｅｔ山形
０００　００１　０００　１
０００　０１１　２０×　４
ＪＲ盛岡
（Ｂ）先崎、金原、本間秀、佐藤―深瀬
（Ｊ）野中大―湊
水沢駒形倶楽部
２００　０００　０００　２
２０１　０４０　００×　７
トヨタ自動車東日本
（水）村上真、松本智、小沼―松岡
（ト）中村隆、斎藤智、中村彪、小田―根来
▽第２代表決定トーナメント１回戦
ＪＲ盛岡
０００　１００　０００　１
１２３　２０１　００×　９
日本製紙石巻
（Ｊ）金野、古川端、野中大、山崎、新沼―湊
（日）今村、平間、星野、塚本―坂口、小林尚
▽本塁打　丹呉（日）
トヨタ自動車東日本
０００　０００　０３０　３
０００　２２０　０１×　５
七十七銀行
（ト）中里、斎藤智―根来
（七）柴崎、庭田―石井信
▽本塁打　長嶋（七）
▽第２代表決定トーナメント１回戦
七十七銀行
００５　２０２　１１４　１５
０１０　２００　０２１　６
日本製紙石巻
（七）後藤、沖―石井信、越村
（日）生長、塚本、小寺、鈴木、秋田、星野、川合―坂口、佐藤
▽本塁打　長嶋、熱田（七）
佐藤、橋本（日）
▽第１代表決定戦
ＪＲ東日本東北
０１０　１００　０１１　４
０００　０００　０００　０
ＴＤＫ
（ＪＲ東日本東北は５年連続31回目）
▽第２代表決定戦
七十七銀行
０００　１００　０００　１
０５０　１０２　２０×　１０
ＴＤＫ
（ＴＤＫは３年ぶり18回目）

ＪＲ東北

	打	安	点
⑨	金沢	１	０
⑤	小浦	１	１
⑥	丸山	３	１
⑦	鈴木	２	１
Ｄ	大橋	１	１
③	山本	１	０
⑧	工藤	０	０
④	佐々木	１	１
Ｈ		１	０
②		３	０
	計	３４	１０

ＴＤＫ

	打	安	点
⑧	北植	３	０
④	齋	３	１
⑨	深	１	１
⑤	青	１	０
ＤＨ	前	３	０
③	打	０	０
Ｈ	太	１	０
⑦	伊	３	０
７	兼	３	０
②⑥		１	０
	計	３０	４

	投	回	安	責
早	坂	７	４	０
津	髙	２	０	０
小	島	７	７	３
阿	部	⅔	１	０
川	原	１⅓	２	１

	振	球	犠	盗	失	残	併
Ｊ	１０	１	０	１	２	４	１
Ｔ	２	１	１	０	０	５	１

▽本塁打　丸山（小島）　山口（三塁打）　工藤（二塁打）▽二塁打　林浦▽２時間22分

七十七銀行

	打	安	点
⑦	河田	１	０
⑧	根本	１	０
⑨	長嶋	１	０
Ｄ	三上	１	０
②	越村	１	０
③	石井	１	０
６	長谷川	０	０
⑤	宮崎	０	０
Ｈ５	千葉	０	０
⑥	大石	０	０
Ｈ３	熱田	０	０
④	松尾	０	０
	計	３３	１

ＴＤＫ

	打	安	点
⑧	北植	１	１
④	齋	１	０
⑨	深	０	２
⑤	打	０	１
ＤＨ	関	１	２
③	奥	０	１
②	伊藤	１	０
⑦	夏井	１	０
⑥		１	０
	計	３７	９

	振	球	犠	盗	失	残	併
七	４	１	０	０	２	６	０
Ｔ	２	４	６	０	０	１４	０

	投	回	安	責
投	手崎	１⅔	５	５
柴	田	３	４	１
庭	林		２⅔	２
小	谷		２⅔	２
渋	沖		０⅔	２
後	藤	２	１	０
鈴	木	８	５	１
田	中	１	１	０

▽本塁打　越村（鈴木）　三上打（植田）▽二塁打　深江、齋藤▽捕逸　後藤投村▽２時間43分

信越硬式野球クラブ6年ぶり25回目

北信越

（代表1＝前回は伏木海陸運送）

信越クラブが2次予選3連勝で6年ぶりの切符をつかんだ。3番樫山と6番永井が計5本塁打で流れを引き寄せ、継投も決まった。前回出場の伏木海陸運送は1回戦で今季のJABA東北大会準優勝のバイタルネットにサヨナラ勝ちしたものの、信越クラブに屈した。IMF BANDITS富山は初の本大会出場に1歩届かなかった。

○…1次…○

◇**長野**（長野オリンピック）

▽1回戦

FedEx 7―4上田倶楽部
佐久コスモスターズ 9―2長野好球倶楽部

▽準決勝

信越クラブ 5―1FedEx
千曲川クラブ 8―3佐久コスモスターズ

（信越クラブと千曲川クラブは2次予選へ）

▽第1、2代表決定戦

信越クラブ16―0千曲川クラブ

▽第3代表決定戦

FedEx 16―0佐久コスモスターズ

（FedExは2次予選へ）

▽第3代表決定戦

伏木海陸運送17―0Hard Ball Club 金沢

（伏木海陸運送は2次予選へ）

○…2次…○

（長野オリンピック）

▽1回戦

バイタルネット	0	0	0	0	0	0	1	2	3	6
伏木海陸運送	1	0	0	0	0	0	1	1	4	7

（延長十回、十回からタイブレーク）

（バ）松田、斎藤、長岡―菅井、高橋、五十嵐

（伏）山田、西納、西川―幸明

新潟コンマーシャル倶楽部	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
信越クラブ	0	0	0	4	2	0	1	0	×	7

（新）五十嵐樹、五十嵐翔、芦田、渡辺―宮村

（信）宮野、大沢―斎藤

▽本塁打　樫山（信）

	点									
	安	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	打	3	3	4	4	2	1	3	3	
出	木	丸	橋	藤	川	田	弘	川	村	
々										
⑥	④	⑨	D	③	②	⑦	H	⑤	⑧	

計　30　8　1

IMF

	点									
	安	0	2	2	1	0	1	0	0	1
	打	3	4	3	4	4	2	1	3	3
井	佐	西	高	須	大	園	徳	藤	中	
⑥	④	⑨	D	③	②	⑦	H	⑤	⑧	

計　31　7　4

信越野球クラブ

	点									
	安	1	0	1	0	0	2	0	0	0
	打	4	4	2	0	0	1	0	1	2
藤	伊	樫	山	中	永	原	小	齋		
⑧	⑥	⑦	⑤	③	⑨	D	④	②		

計　31　7　4

	1併	6	1
	2残	1	0
	6失	0	0
	1盗	3	0
	4犠	1	4
	1振	4	1
信	2球	4	2

		責	0	1	3	0
		安	3	2	2	0
		回	5	1	1	⅓
						⅔
投	手	味	崎	木	澤	
五	岩	元				
高	根					
						1
						0
						0
						⅓
						⅔
酒	井	藤				2
佐	佐	渡				2

▽本塁打　永井（元木）　樫山（元木）　井出（元木）　樫山▽二塁打　井（元木）▽二塁妨害　走者▽2時間20分

FedEx

	1	0	1	0	1	0	0	4
	0	4	0	1	1	1	0	0	×	7

ロキテクノ富山

（F）久留島、山登、杉内、金井―宮川

（ロ）飯塚、帯川、伊藤、佐藤―添田

千曲川クラブ	0	0	3	4	0	0	1	0	0	8
IMF BANDITS富山	2	0	4	0	1	0	0	1	1	9

（延長十回、十回からタイブレーク）

（千）和田、森井、井関、村松―永田皓

（I）水口、須田、岩崎、高根沢、五味―須藤、大川

▽本塁打　須藤（I）

▽準決勝

信越クラブ

	0	1	4	0	0	0	0	2	1	8
伏木海陸運送	0	1	0	0	0	2	0	0	1	4

（信）酒井大、佐渡―斎藤

（伏）西納、西川、山田―幸明

▽本塁打　永井、樫山（信）

幸明（伏）

IMF BANDITS富山	1	0	0	2	1	0	0	1	0	5
	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

ロキテクノ富山

（I）五味、岩崎―大川

（ロ）大坪、帯川、山本、伊藤、山川、佐藤―添田

▽本塁打　井出、西丸（I）

▽代表決定戦

IMF BANDITS富山	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
信越クラブ	0	0	0	0	0	0	0	1	3×	4

（信越クラブは6年ぶり25回目）

SUBARU3年連続30回目
日本製鉄鹿島2年ぶり23回目
日立製作所3年ぶり41回目

北関東

（代表3＝前回は2でエイジェックとSUBARU）

例年より1枠多い代表3を争った。群馬県太田市の地元開催で2次予選に臨んだSUBARUが、投打に粘り強さを発揮して3連勝で7年ぶりの第1代表を獲得した。第2代表決定戦は日本製鉄鹿島が日立製作所に競り勝った。昨年の第1代表、エイジェックに2戦2勝の日立製作所が最後の枠に滑り込んだ。エイジェックは決定打を欠いて連続出場を逃した。

○…1次…○

◇**群馬**（太田市運動公園）

▽1回戦

太田球友倶楽部 5―1伊勢崎硬庭クラブ
太田暁工業クラブ 14―3オール高崎倶楽部

▽準決勝
太田暁工業クラブ8―4太田球友倶楽部
（太田暁工業クラブは2次予選へ）
▽決勝
SUBARU13―0太田暁工業クラブ
（SUBARUは第1代表で2次予選へ）
◇栃木（エイジェックさくら）
▽1回戦
コットンウェイ倶楽部11―6全栃木クラブ
鹿沼 39 3―1TSK宇都宮
▽2回戦
全足利クラブ19―0全那北クラブ
宇都宮大学OBクラブ5―0UKクラブ
鹿沼 39 12―7コットンウェイ倶楽部
▽準決勝
エイジェック8―1鹿沼 39
全足利クラブ8―0宇都宮大学OBクラブ
（エイジェックと全足利クラブは2次予選へ）
▽決勝
エイジェック6―1全足利クラブ
◇茨城（常陸大宮市民）
▽1回戦
AgainBC10―0全水戸クラブ
茨城ゴールデンゴールズ12―2全神栖クラブ
茨城トヨペット7―0オール日立リーグ会
茨城 日産7―0全鹿嶋倶楽部
JR水戸4―3TSUKUBA CLUB
大宮クラブ10―2鹿レインボーズ
▽2回戦
日立製作所11―1AgainBC
茨城ゴールデンゴールズ4―3茨城トヨペット
（日立製作所、茨城ゴールデンゴールズは2次予選へ）
茨城 日産1―0JR水戸
日本製鉄鹿島12―2大宮クラブ
（茨城日産、日本製鉄鹿島は2次予選へ）
▽準決勝
日立製作所2―0茨城ゴールデンゴールズ
日本製鉄鹿島9―4茨城 日産
▽決勝
日本製鉄鹿島4―3日立製作所
▽第3、4代表決定戦
茨城 日産2―1茨城ゴールデンゴールズ
○…2次…○
（群馬・太田市運動公園）
▽第1代表決定トーナメント1回戦

茨城ゴールデンゴールズ
000 000 000 0
630 100 × 20

SUBARU
（七回コールド）
（茨）河原崎、清水聖、荒張、松田、田中―板津、臼井（S）川上、田嶋、阿部、小沢、三浦―後藤、新出
▽本塁打　森下、外山（S）

全足利クラブ
000 000 003 3
020 300 21× 8

日立製作所
（全）斎藤、岩崎海、山本―立石、岩崎昂
（日）北爪、山田、宮下―佐藤、鮎ケ瀬
▽本塁打　松濤（全）鵜沼、谷内（日）

茨城日産
000 000 000 0
011 100 00× 3

エイジェック
（茨）高木、坂本、小林嵩―青木
（全）金城―田島

太田暁工業クラブ
000 000 0 0
132 211 × 10

日本製鉄鹿島
（七回コールド）
（太）佐々木大、小笠原、上阪、熊倉―小林
（日）山口直、楠本、塙―揚村、穴水
▽本塁打　山本（日）

▽第2代表決定トーナメント1回戦

全足利クラブ
400 230 010 10
000 040 000 4

茨城ゴールデンゴールズ
（全）佐藤、山本、岩崎海―岩崎昂、立石
（茨）荒張、原、河原崎―臼井、板津
▽本塁打　二村（全）

太田暁工業クラブ
010 031 100 6
005 014 02× 12

茨城日産
（太）上阪、佐々木大、熊倉、小笠原―小林
（茨）岩附、浜崎、小林嵩、大西―青木、大下
▽本塁打　大城（太）
▽第1代表決定トーナメント準決勝

日鉄鹿島　打 安 点
⑥ 池間 3 0 1
⑥ 冨田 4 0 0
④ 田生 4 0 0
⑦ 平今 3 0 0
③ 山松 4 0 1
⑨ 里口 4 0 0
Ｄ⑤ 田村 2 0 1
⑧ 本田 2 1 0
ＨＲ⑧ 山陶 3 0 0
② 揚村 3 1 0
計 34 9 4

SUBARU　打 安 点
⑨ 江川 4 1 0
⑦ 藤原 3 1 1
④ 日置 2 1 0
③ 山下 4 2 1
② 藤里 4 1 0
Ｄ⑤ 山本 3 1 0
⑥ 川山 4 0 0
⑧ 古塙 3 1 0
計 31 10 5

日 2 5 0 1 0 8 0 併
S 4 1 3 0 0 6 1 残
振 球 犠 盗 失 失 併

投 手 回 安 責
佐 田口 4⅓ 9 5
古 川 2⅔ 0 0
塙 1 1 0

投 手 回 安 責
山 本 3⅓ 4 1
手 塚 3⅔ 2 1
澤 浦 2⅔ 0 2
三 1⅓ 3 0

▽本塁打　山本（佐田）
（手塚）外山（佐田）▽二塁打　生山田目、樫村、外山
▽2時間46分

日鉄鹿島　打 安 点
⑥ 池間 3 0 1
⑥ 冨田 4 0 0
④ 田生 4 0 0
⑦ 平今 3 0 0
③ 山松 4 0 1
⑨ 里口 4 0 0
Ｄ⑤ 田村 2 0 1
⑧ 本田 2 1 0
ＨＲ⑧ 山陶 3 0 0
② 揚村 3 1 0
計 29 5 3

日立製作所　打 安 点
⑧ 鵜沼 4 3 0
④ 森清 3 0 0
⑨ 谷宮 4 1 1
⑤ 内 3 0 0
⑥ 下 2 0 0
Ｄ⑦ 松吉 4 0 0
⑦ 佐鮎 3 1 0
② ヶ野 2 0 0
Ｈ③ 中 4 1 0
計 32 7 1

鹿 8 1 2 0 0 2 0 併
振 球 犠 盗 失 残 併
立 6 3 1 0 0 8 1

投 手 回 安 責
土 屋 6 6 1
金 城 3 1 0

宮 下 5 3 2
田 川 2 0 0
山 井 1 2 1
生 1 0 0

▽本塁打　樫村（宮下）今里（宮下）▽二塁打　山田、松下▽2時間9分

エイジェック　打 安 点
⑦ 京橋 4 1 0
⑧ 石神 3 1 0
⑨ 渡辺 4 2 0
⑤ 和田 3 0 0
④ 高岡 4 1 1
Ｄ③ 杉谷 4 1 0
② 高橋 4 2 1
Ｈ２⑥ 岡島 3 1 0
⑥ 高本 4 1 0
計 34 10 2

日立製作所　打 安 点
⑧ 鵜沼 4 0 0
③ 野中 4 0 0
⑨ 清水 4 1 0
⑤ 谷内 4 2 1
⑥ 宮 4 2 1
Ｄ⑦ 竹内 4 1 0
⑦ 吉川 3 1 0
② 佐藤 4 1 0
④ 森田 3 1 1
計 32 9 3

エ 10 2 2 0 2 9 2 併
振 球 犠 盗 失 残 併
日 9 3 0 3 0 7 0

投 手 回 安 責
金 城 1 3 2
河 北 3⅔ 6 2
安 藤 1⅓ 0 0
谷 内 3 0 0

北 爪 3⅔ 5 2
田 川 3⅓ 2 0
生 井 2 3 0

▽本塁打　谷内（河北）▽二塁打　杉谷、宮▽2時間39分

日立製作所
100 000 100 2
050 000 10× 6
SUBARU
（日）岡、田川、原田、青木、多間―佐藤、渡辺
（S）八野田―後藤
▽本塁打　鵜沼（日）

日本製鉄鹿島
220 302 000 9
010 010 002 4
エイジェック
（日）諸見里、金城、土屋―松田
（エ）谷内、池田、加藤、河北、安藤―田島
▽本塁打　池間（日）和田（エ）
▽第2代表決定トーナメント2回戦

全足利クラブ
110 000 000 2
210 120 01× 7
エイジェック
（全）佐藤、斎藤―岩崎昂、立石
（エ）金城、河北、谷内―田島
▽本塁打　松濤（全）

茨城日産
000 030 000 3
101 014 03× 10
日立製作所
（茨）高木、坂本、小林嵩、大西―青木
（日）北爪、田川、山田、生井―佐藤
▽本塁打　竹内（日）
▽第1代表決定戦

日本製鉄鹿島
001 000 120 4
100 040 00× 5
SUBARU
（SUBARUは3年連続30回目）
▽第2代表決定トーナメント3回戦

エイジェック
000 000 000 0
003 100 00× 4
日立製作所
（エ）谷内、安藤、池田、佐々木―田島
（日）岡、生井―鮎ケ瀬
▽第2代表決定戦

日本製鉄鹿島
001 100 010 3
000 010 000 1
日立製作所
（日本製鉄鹿島は2年ぶり23回目）
▽第3代表決定戦

エイジェック
000 200 000 2
210 010 00× 4
日立製作所
（日立製作所は3年ぶり41回目）

日本通運11年連続50回目
JFE東日本2年連続27回目

南関東

（代表2＝前回は3で日本通運、日本製鉄かずさマジック、JFE東日本）

代表枠は前年から1減の2に。2次予選を通して安定した投手力を発揮した日本通運が3年連続で第1代表の座をつかんだ。JFE東日本は土壇場での粘りが光り、延長タイブレークの末に最後の1枠をもぎ取った。創部6年目のテイ・エステックは、わずかに初出場に届かなかった。日本製鉄かずさマジックは5年連続の出場を逃した。

◇**埼玉**（県営大宮公園ほか）

▽1回戦
INVENTIVE New wave 6―5都幾川倶楽部
HOZENnet 7―2隼ZEROクラブ
レジェンズ 7―6新座ダイアモンドドッグス
全大宮野球団 9―2飛おおぞら野球団
▽2回戦
レジェンズ 20―10全三郷
INVENTIVE New wave 6―4川口ゴールデンドリームス
全浦和野球団 4―3全大宮野球団
所沢グリーンクラブ 5―4HOZENnet
▽県1次準決勝
INVENTIVE New wave 3―2所沢グリーンクラブ
レジェンズ 9―8全浦和野球団
▽同決勝
レジェンズ 4―3INVENTIVE New wave
（レジェンズ、INVENTIVE New waveは県2次予選へ）
▽県2次1回戦
SUNホールディングスEAST 16―3レジェンズ
オールフロンティア 6―1INVENTIVE New wave
（SUNホールディングスEAST、オールフロンティアは南関東2次予選へ）
▽県2次準決勝
日本通運 11―0SUNホールディングスEAST
テイ・エステック 4―2オールフロンティア
▽第1、第2代表決定戦
日本通運 2―1テイ・エステック
▽第3、第4代表決定戦
オールフロンティア 9―2SUNホールディングスEAST
（日本通運、テイ・エステック、オールフロンティア、SUNホールディングスEASTは南関東2次予選へ）
◇**千葉**（県野球場ほか）
▽県1次1回戦
ハナマウイ 10―0Oceans
千葉熱血MAKING 7―4スーベルクラブ
八千代Age 5―1BIGWINGS習志野
YBC柏 7―0サウザンリーフ市原
▽県1次2回戦
ハナマウイ 8―1千葉熱血MAKING
YBC柏 9―5八千代Ageクラブ
（ハナマウイ、YBC柏は県2次予選へ）
▽県1次1、2位決定戦
YBC柏 9―6ハナマウイ
▽同3位決定戦
千葉熱血MAKING 9―8八千代Ageクラブ
（千葉熱血MAKINGは県2次予選へ）
▽県2次1回戦
YBC柏 6―1千葉熱血MAKING
ハナマウイ 6―0JR千葉
▽県2次2回戦
JFE東日本 6―2YBC柏
日本製鉄かずさマジック 12―0ハナマウイ
（JFE東日本、日本製鉄かずさマジックは南関東2次予選へ）
▽県2次敗者復活戦
YBC柏 11―0JR千葉
千葉熱血MAKING 7―5ハナマウイ
（YBC柏、千葉熱血MAKINGは南関東2次予選へ）
▽県2次1、2位決定戦
日本製鉄かずさマジック 7―6JFE東日本
▽同3、4位決定戦
YBC柏 12―3千葉熱血MAKING
○…2次…○
（千葉・ZOZOマリンほか）
▽第1代表決定トーナメント1回戦

SUNホールディングスEAST
000 000 0 0
140 1 204 × 21
日本製鉄かずさマジック
（七回コールド）
（S）斉藤、若杉、芦内―宮谷
（日）渡辺力、金田、瀬崎、佐藤―上村

YBC柏
000 000 0 0
221 011 3 10
テイ・エステック
（七回コールド）
（Y）遠藤皓、斎藤、樋熊―野田、相茶
（テ）八木橋、森本―青木

オールフロンティア
011 031 000 6
010 001 005 7
JFE東日本
（オ）志水、落合、藤下、手島、三柴―島田
（J）立石、蒔田、新谷、福山、本定、林―下地、志賀
▽本塁打　小松（J）

日本通運
120 270 0 12
100 000 0 1
千葉熱血ＭＡＫＩＮＧ
（七回コールド）
（日）ジャクソン、板川、川船―山本、沼生
（千）山田、牧野、渡辺光―渡辺俊

▽本塁打　田中（日）
▽第２代表決定トーナメント１回戦
オールフロンティア
320 011 110 9
000 000 004 4
千葉熱血ＭＡＫＩＮＧ
（オ）下間、山崎、小森、川辺、手島、三柴―古川、藤原
（千）鈴木、米井、山田―渡辺俊

▽本塁打　小野（千）
ＳＵＮホールディングスＥＡＳＴ
000 000 000 0
000 001 00× 1
ＹＢＣ柏
（Ｓ）佐藤楓―宮谷
（Ｙ）野口―野田

▽第１代表決定トーナメント準決勝
テイ・エステック
001 102 000 4
000 110 010 3
日本製鉄かずさマジック
（テ）山崎―青木
（日）山本、渡辺匠、吉田哉、瀬崎、金田―上村、山崎

▽本塁打　三口（テ）
ＪＦＥ東日本
000 000 000 0
000 011 00× 2
日本通運
（Ｊ）加藤、本定―下地、志賀
（日）相馬―山本

▽本塁打　北川（日）
▽第２代表決定トーナメント２回戦
日本製鉄かずさマジック
000 060 000 6
000 100 000 1
オールフロンティア
（日）渡辺力―上村
（オ）志水、藤下、落合、手島―島田

▽本塁打　吉田開（日）喜屋武（オ）
ＹＢＣ柏
000 000 000 0
000 120 30× 6
ＪＦＥ東日本
（Ｙ）遠藤皓、斎藤、大森、野口―相茶、野田
（Ｊ）宇賀神、福山―志賀

▽本塁打　猪田（Ｊ）
▽第２代表決定トーナメント３回戦
ＪＦＥ東日本
000 100 020 3
100 000 100 2
日本製鉄かずさマジック
（Ｊ）山田啓、蒔田、林、福山、本定―下地
（日）金田、瀬崎、渡辺匠、山本―上村

▽本塁打　猪田（Ｊ）
▽第１代表決定戦
テイ・エステック
000 000 000 0
011 000 01× 3
日本通運
（日本通運は11年連続50回目）

▽第２代表決定戦
ＪＦＥ東日本
000 000 022 4
011 000 020 1 5
テイ・エステック
（延長十回、十回からタイブレーク）
（ＪＦＥ東日本は２年連続27回目）

鷺宮製作所３年ぶり17回目
東京ガス５年連続26回目
ホンダ２年ぶり38回目
ＪＲ東日本16年連続28回目

東京

（代表４＝前回はＮＴＴ東日本、明治安田生命、東京ガス、ＪＲ東日本）

第１代表の鷺宮製作所は投打に粘り強く、第１代表決定戦では劇的なサヨナラ勝ちで３年ぶりの出場権をつかんだ。

東京ガスは新人の活躍が光り第２代表入り、東京都連盟に所属を移して２年目のホンダが第３代表、ＪＲ東日本は第４代表で連続出場を死守した。昨年第１代表のＮＴＴ東日本は２年ぶりに予選で敗退し、セガサミー、明治安田も涙をのんだ。

○…１次…○

◇**東京**（府中市民）

▽１回戦

ＲＥＶＥＮＧＥ９９15―０武蔵野クラブ

エスプライド６―１東京弥生クラブ

ＪＦＥ東

	打	安	点
⑥	松	0	0
⑧	間	2	2
⑦	田	1	1
⑨	森	0	0
③	瀬	0	0
Ｈ	城	1	1
Ｄ	本	0	0
⑤	山	0	0
Ｈ	本	0	0
Ｈ	澤	0	0
５	田	0	0
②	地	0	0
Ｈ	井	0	0
２	賀	2	2
④	尾	2	0
Ｈ	村	0	0
4	田	0	0
	計	3	6

エステック

	打	安	点
④	三	0	0
⑦	口	0	0
Ｄ	滝	0	0
⑤	澤	0	0
③	保	0	0
⑨	田	0	0
⑥	木	0	0
⑧	木	0	0
②	関	0	0
Ｈ	木	0	0
2	澤	0	0
	計	0	0

日本通運

	打	安	点
④	添	3	1
⑧	手	0	0
⑨	北	1	0
Ｄ	田	0	0
③	大	1	0
⑦	横	0	0
⑤	稲	0	0
Ｒ	近	0	0
５	楠	0	0
⑥	木	1	0
②	山	0	0
	計	6	1

	打	安	点
④	三	1	0
⑦	口	1	0
Ｄ	滝	1	0
⑤	澤	2	2
③	保	2	2
⑨	田	0	0
⑥	木	1	0
⑧	木	1	0
②	関	1	0
	木	1	0
	計	11	4

	打	安	点
⑥	松	3	0
⑧	間	4	0
⑦	田	5	0
⑨	森	5	0
③	瀬	2	0
Ｈ	城	3	0
Ｄ	本	2	0
⑤	山	1	0
Ｈ	本	0	0
Ｈ	澤	0	0
５	田	0	0
②	地	1	0
Ｈ	井	0	0
２	賀	2	0
④	尾	3	0
Ｈ	村	0	0
4	田	0	0
	計	36	10

	打	安	点
④	三	1	0
⑦	口	1	0
Ｄ	滝	1	0
⑤	澤	2	2
③	保	2	2
⑨	田	0	0
⑥	木	1	0
⑧	木	1	0
②	関	1	0
	木	1	0
	計	37	9

	打	安	点
④	添	3	1
⑧	手	0	0
⑨	北	1	0
Ｄ	田	0	0
③	大	1	0
⑦	横	0	0
⑤	稲	0	0
Ｒ	近	0	0
５	楠	0	0
⑥	木	1	0
②	山	0	0
	計	26	6

	打	安	点
⑥	松	3	0
⑧	間	4	0
⑦	田	5	0
⑨	森	4	0
③	瀬	3	0
Ｈ	城	3	0
Ｄ	本	3	1
⑤	山	1	0
Ｈ	本	0	0
Ｈ	澤	2	0
５	田	2	0
②	地	2	0
Ｈ	井	1	0
２	賀	3	0
④	尾	3	0
Ｈ	村	0	0
4	田	0	0
	計	37	1

	打	安	点
④	三	0	0
⑦	口	0	0
Ｄ	滝	0	0
⑤	澤	0	0
③	保	0	0
⑨	田	0	0
⑥	木	0	0
⑧	木	0	0
②	関	0	0
Ｈ	木	0	0
2	澤	0	0
	計	0	0

	打	安	点
④	添	3	1
⑧	手	0	0
⑨	北	1	0
Ｄ	田	0	0
③	大	1	0
⑦	横	0	0
⑤	稲	0	0
Ｒ	近	0	0
５	楠	0	0
⑥	木	1	0
②	山	0	0
	計	27	1

	打	安	点
④	三	0	0
⑦	口	0	0
Ｄ	滝	0	0
⑤	澤	0	0
③	保	0	0
⑨	田	0	0
⑥	木	0	0
⑧	木	0	0
②	関	0	0
Ｈ	木	0	0
2	澤	0	0
	計	0	0

	打	安	点
④	添	3	1
⑧	手	0	0
⑨	北	1	0
Ｄ	田	0	0
③	大	1	0
⑦	横	0	0
⑤	稲	0	0
Ｒ	近	0	0
５	楠	0	0
⑥	木	1	0
②	山	0	0
	計	26	6

	打	安	点
⑥	松	3	0
⑧	間	4	0
⑦	田	5	0
⑨	森	4	0
③	瀬	3	0
Ｈ	城	3	0
Ｄ	本	3	1
⑤	山	1	0
Ｈ	本	0	0
Ｈ	澤	2	0
５	田	2	0
②	地	2	0
Ｈ	井	1	0
２	賀	3	0
④	尾	3	0
Ｈ	村	0	0
4	田	0	0
	計	37	1

	打	安	点
④	三	1	0
⑦	口	1	0
Ｄ	滝	1	0
⑤	澤	2	2
③	保	2	2
⑨	田	0	0
⑥	木	1	0
⑧	木	1	0
②	関	1	0
	木	1	0
	計	11	4

全府中倶楽部４―３全調布倶楽部
西多摩倶楽部11―４東京好球倶楽部
ＣＬＵＢＥＲＢＡＳＥ13―６警視庁野球部
Ｎｂｕｙ９―２ＨｏｇｒｅｉＢＣ
ＭＴＯＫＹＳＯ23―２多摩ＳＯＢＬＵＥ
▽２回戦
ＲＥＶＥＮＧＥ99３―２ＴＨＥＮＥＸＴ・ＧＯＬＤ・ＳＹＭＢＣ
全府中倶楽部３―２エスプライド
ＣＬＵＢＥＲ13―12西多摩倶楽部
ＭＴＯＫＹＳＯ13―６Ｎｂｕｙ
▽準決勝
全府中倶楽部２―１ＲＥＶＥＮＧＥ99
ＣＬＵＢＥＲ10―１ＭＴＯＫＹＳＯ
（全府中倶楽部とＣＬＵＢ ＲＥＢＡＳＥは２次予選へ）
▽決勝
ＣＬＵＢＥＲ10―２全府中倶楽部
▽２次予選進出決定戦
ＲＥＶＥＮＧＥ99 10―７ＭＴＯＫＹＳＯ
（ＲＥＶＥＮＧＥ99は２次予選へ）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
全府中倶楽部	0	0	1	0	0	0	0	2	1	3
西多摩倶楽部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

○…２次…○
（神宮ほか）
▽第１代表決定トーナメント１回戦
ＣＬＵＢ ＲＥＢＡＳＥ
全府中倶楽部
（Ｃ）正木、田口、中嶋―中村
（全）中村、平井、船谷、幡谷―松坂、加藤祐

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ＲＥＶＥＮＧＥ99	0	0	0	0	1	0	2			
明治安田	3	0	0	0	1	2	1×			7

（Ｒ）小屋、石川、杉岡、大岩―門間
（明）沖田、小玉、岡田、玉熊―森川
▽本塁打　菅藤（Ｒ）
▽第１代表決定トーナメント２回戦
ＣＬＵＢ ＲＥＢＡＳＥ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ＣＬＵＢ ＲＥＢＡＳＥ	0	0	0	0	0	0	0			
鷺宮製作所	0	0	0	1	0	0	1×			2

（Ｃ）山崎、川上―船木
（鷺）竹丸、渡部、門間、中島―佐藤
明治安田

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
明治安田	0	0	0	0	0	0	0			
ＪＲ東日本	0	0	0	0	0	0	1			1

（明）松下、中尾、中崎、小玉―森川
（Ｊ）古谷、西居、谷、西田―小藤

ＪＲ東日本

	打	安	点
③	杉崎成	5	0	0
⑨	8 山田	5	2	0
Ｄ	菅内	4	2	0
⑤	高田	4	0	0
⑥	橋	4	0	0
④	海崎	4	2	0
⑧	杉崎成	4	2	2
Ｈ	9 篠田	3	1	0
⑦	佐藤	1	0	0
Ｈ	7 倉石	2	1	0
②	栗林	1	0	0
Ｈ	内本	1	0	0
2	小野	0	0	0
	藤			
	計	36	10	2

Ｈｏｎｄａ

	打	安	点
③	峯	4	2	1
④	檜村	4	3	2
⑧	鈴村	4	3	3
Ｄ	藤木	4	2	4
②	辻野	4	1	0
⑨	小口	4	1	0
⑥	中村	4	0	0
⑤	山下	4	2	0
Ｈ	5 田津	1	0	0
⑦	金野	1	0	0
Ｈ	7 城尻	1	0	0
	計	34	11	9

	投	振	球	犠	盗	失	残	併
Ｊ	10	5	0	0	0	1	2	0
Ｈ	8	3	0	1	0	1	4	1

		回	安	責
投	手谷	2⅔	4	3
古	玉崎	2	1	2
児	限		1⅔	3
山	畑		⅔	1
諸			⅔	0
森			⅓	0
	谷			
片	山	6	4	1
福	島	1⅔	4	1
千	葉	1⅓	2	0

▽本塁打　杉崎成輝（福島）藤野（山崎）峯村（山崎）鈴木（諸限）
▽三塁打　藤野
▽二塁打　檜村、鈴木、辻野
▽暴投　古谷
▽２時間48分

ホンダ
セガサミー

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ホンダ	0	0	1	1	0	0	3	5		
セガサミー	0	0	0	0	0	0	0			0

（ホ）東野、岡野―辻野
（セ）尾崎、陶久、草海、伊波、下薗、長谷川、武冨―須田、広岡
▽本塁打　村田、小口（ホ）

東京ガス
ＮＴＴ東日本

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
東京ガス	2	3	0	0	0	2	0	0	0	7
ＮＴＴ東日本	2	0	0	0	0	0	2	0	0	4

（東）伊東、野沢、寺沢―馬場
（Ｎ）長久保、堀、多田、紫藤、上出―大柿、保坂
▽第３代表決定トーナメント１回戦

東京ガス

	打	安	点
⑥	北	2	1	0
Ｈ	8 中	0	1	0
Ｄ	楠	4	1	1
⑧	9 藤	4	1	1
③	内	4	1	1
⑤	仲	4	0	0
⑨	冨	3	0	0
６	山	1	0	0
②	馬	4	0	0
⑦	飯	3	2	0
④	相	4	1	0
	計	33	7	2

Ｈｏｎｄａ

	打	安	点
③	峯	4	1	0
⑧	鈴	3	0	0
⑤	山藤	4	0	0
Ｄ	野	3	1	0
②	辻	2	0	1
⑨	小	3	1	2
⑥	中	4	0	0
④	檜	3	2	0
⑦	金村	2	1	0
Ｈ	7 右	0	0	0
	計	29	6	2

	投	振	球	犠	盗	失	残	併
東	9	1	2	2	0	6	1	1
Ｈ	4	4	2	0	1	6	0	0

		回	安	責
投	手東	7	6	2
伊	澤	1⅔	0	0
野	水		⅓	0
清				
東	野	7	6	1
岡	野	2	1	1

▽本塁打　藤澤（岡野）
▽守備妨害　内海
▽二塁打　檜村
▽２時間18分

東京ガス

	打	安	点
⑥	北	2	1	0
６	本山	1	2	0
Ｄ	崎	2	2	1
⑨	楠	4	1	3
③	藤	4	1	1
⑤	澤	4	0	0
⑦	海	3	1	0
⑧	侯	4	0	0
④	岡	3	0	0
②	尾馬場	3	2	1
	計	28	7	4

鷺宮製作所

	打	安	点
⑦	藪	5	1	3
⑥	井	3	0	0
Ｈ	野田	1	0	0
６	谷	0	0	0
④	島	3	0	1
⑨	村	4	1	1
③	田	3	1	1
⑤	崎	3	1	1
Ｈ	戸	1	0	0
Ｄ	葉	4	1	3
②	浦	1	1	0
⑧	藤	2	0	0
Ｈ	8 花	2	0	1
	千西佐村竹			
	計	32	9	6

	投	振	球	犠	盗	失	残	併
東	2	8	1	0	0	6	2	2
鷺	7	5	0	1	0	5	3	3

		回	安	責
投	手井	7	5	2
臼	沢	1⅔	4	4
寺				
菊	地		⅓	2
渡	部	3	⅓	2
前	田	3	⅓	2
門	間	2		1

▽本塁打　藤澤（菊地）西浦（臼井）藪井（寺沢）
▽二塁打　楠、西浦、佐藤
▽２時間48分

全府中倶楽部
ＴＲＥＮＥＸＴ・ＧＯＬＤ・ＳＹＭＢＣ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
全府中倶楽部	0	0	0	3	0	0	2	0		
明治安田	4	0	0	2	1	0	0			7

（全）永野、木村―松坂
（明）三宮、玉熊、中尾、小玉、中崎、石毛、高杉―森川
▽本塁打　福岡（明）

ＣＬＵＢ ＲＥＢＡＳＥ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ＣＬＵＢ ＲＥＢＡＳＥ	1	0	3	2	0	0	3			
ＲＥＶＥＮＧＥ99	0	0	0	0	0	1	0			1

（Ｃ）川上、北島、中嶋、田口―中村琉
（Ｒ）大岩、石川、杉岡、小屋―門間
▽第１代表決定トーナメント準決勝
鷺宮製作所

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
鷺宮製作所	0	0	0	1	0	0	3	1	3	
ＴＨＥＮＥＸＴ・ＧＯＬＤ・ＳＹＭＢＣ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

ホンダ（延長十二回、十回からタイブレーク）

（鷺）竹丸、渡部、門間、中島隼―佐藤、大井
（ホ）片山、岡野、中村伊、有村、千葉―辻野
▽本塁打　野村（鷺）

東京ガス　220 000 100 5
020 010 001 4

JR東日本　000 400 000 4
000 000 000 0

（東）高橋、清水、寺沢、臼井―馬場
（J）西居、山崎、小谷野、諸隈、古谷、児玉―小藤、岩本
▽本塁打　藤沢、内海、馬場
（東）岩本（J）
▽第3代表決定トーナメント2回戦

セガサミー　310 000 000 4
300 010 40× 8

CLUB REBASE　000 000 000 0

（N）堀、山内、稲毛田―大柿、保坂
▽本塁打　伊東光（N）
▽4代表決定トーナメント1回戦

セガサミー　000 400 000 4

明治安田　（セ）草海、陶久、田中、尾崎、下薗―吉田、須田
（明）松下、三宮、玉熊、小玉、中崎―森川

CLUB REBASE　000 000 0 0
291 201 × 15

NTT東日本　（七回コールド）
（C）山崎、中嶋、正木―中村琉

（セ）下薗、武冨、草海、田中、長谷川、伊波―須田
（C）川上、山崎―中村琉
▽第3代表決定トーナメント3回戦

NTT東日本　000 000 001 1
000 001 10× 2

明治安田　（N）寺嶋、多田、上出―大柿、保坂
（明）沖田、中尾、石毛、中崎―森川
▽第4代表決定トーナメント2回戦

NTT東日本　003 200 002 7
020 000 300 5

セガサミー　（N）長久保、紫藤、上出―大柿
（セ）尾崎、陶久、下薗、伊波―須田、吉田
▽本塁打　植田（セ）

▽第2代表決定トーナメント1回戦

ホンダ　020 100 030 6
000 000 100 1

JR東日本　（H）東野―辻野
（J）児玉、小谷野、山崎、谷、諸隈―小藤、岩本
▽本塁打　高橋（J）
▽第3代表決定トーナメント4回戦

JR東日本　061 640 001 18
340 100 012 11

明治安田　（J）古谷、山崎、児玉、森畑、西田―岩本、小藤
（明）岡田、三宮、小玉、松下、中尾、玉熊、高杉、石毛―森川
▽本塁打　海崎（J）高瀬、伊藤（明）
▽第4代表決定トーナメント3回戦

NTT東日本　040 001 100 6
000 002 002 4

明治安田　（N）寺嶋、長久保、上出―大柿
（明）沖田、小玉、中崎―森川
▽本塁打　伊藤（明）
▽第1代表決定戦

東京ガス　301 000 000 4
020 000 004 6

鷺宮製作所　（鷺宮製作所は3年ぶり17回目）
▽第2代表決定戦

東京ガス　001 000 110 3
200 000 000 2

ホンダ　（東京ガスは5年連続26回目）
▽第3代表決定戦

JR東日本　000 001 010 2
003 030 30× 9

ホンダ　（ホンダは2年ぶり38回目）
▽第4代表決定戦

NTT東日本　000 111 001 4
010 031 01× 6

JR東日本　（JR東日本は16年連続28回目）

ENEOS6年連続55回目
東芝2年ぶり45回目

西関東

（代表2＝前回は三菱重工EastとENEOS）

を見せたが、復活元年の本大会出場は成らなかった。

○…1次…○

今季から活動を再開した日産自動車が加わり、2次予選を9チームがトーナメントで争った。ENEOSは第1代表決定戦で阿部雄大の好投と堅守が光り、東芝に零封勝ち。東芝は日産自動車と2度目の対戦となった第2代表決定戦で、中盤以降に突き放して2年ぶりの代表権を獲得した。日産自動車は投打に粘り

◇**神奈川**（等々力）

▽1回戦

横浜イブルース6―5（湘南ひらつかマルユウクラブ）
WENCLUB7―6相模原クラブ
金川崎クラブ4―1京浜倶楽部
国際総合伊勢原クラブ9―6横浜中央クラブ

▽2回戦

横浜金港クラブ2―1横浜ベイブルース
リベラック小出原5―4WIENBC
（横浜金港クラブ、リベラック小田原は2次予選へ）

NTT東	打	安	点
⑦道	5	2	1
⑧直	4	1	0
⑥石	4	1	0
⑨向	3	0	0
D井	4	0	0
④ノ	3	0	0
③山	4	1	0
⑤浦	4	0	0
②山	3	1	0
H本	1	1	0
柿	1	0	0
坂	1	0	1
計	33	9	3

JR東日本	打	安	点
③杉崎成	4	2	2
④杉崎成輝	5	2	0
D田	4	0	0
⑤菅	4	2	1
⑥高橋	5	3	1
⑨海崎	3	2	0
⑦山内	3	1	1
⑧佐藤	3	3	0
②篠田	4	1	0
小藤	4	0	0
計	33	9	6

N	8	6	1	2	4	9	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
J	10	4	3	1	1	10	2

投		回	安	責
寺	嶋	4⅓	5	4
長久保		2⅔	3	1
上	出	1	1	1
西	田	5⅔	7	2
西	居	3⅓	2	1

▽本塁打　保坂2
（西居）杉崎成（寺嶋、上出）
二塁打　道原、海崎、杉崎成輝
投　寺嶋
54分
▽海星間▽2時

全川崎クラブ15―8茅ケ崎サザンカイツ
国際総合伊勢原クラブ3―2横浜球友クラブ
（全川崎クラブ、国際総合伊勢原クラブは2次予選へ）
▽準決勝
横浜金港クラブ9―0リベラック小田原
（没収試合）
全川崎クラブ16―4国際総合伊勢原クラブ
▽決勝
全川崎クラブ8―1横浜金港クラブ
◇山梨（山日ＹＢＳ）
▽1回戦
山梨球友クラブ2―1Arts Interna tional Club
TSUKUMOBC9―2桂倶楽部
▽準決勝
南アルプス倶楽部6―1山梨球友クラブ
甲斐府中クラブ13―3TSUKUMOBC
▽決勝
甲斐府中クラブ7―2南アルプス倶楽部
（甲斐府中クラブ、南アルプス倶楽部は2次予選へ）
○…2次…○
（横浜ほか）
▽第1代表決定トーナメント1回戦
リベラック小田原
103 042 3 13
110 000 0 2
南アルプス倶楽部
（七回コールド）
（リ）中田、清水―深見
（南）諏訪、小野、福田―飯窪周
▽第1代表決定トーナメント2回戦
リベラック小田原
000 210 000 3
300 400 01× 8
ＥＮＥＯＳ
（リ）藤本、高瀬―深見
（Ｅ）関根、渡部、楠茂―有馬
▽本塁打　山岡（リ）
国際総合伊勢原クラブ
000 002 300 5
213 500 10× 12
全川崎クラブ
（国）塩田虎―石塚
（全）勝岡、金井、高橋雄、北出―岩永、松下
▽第2代表決定トーナメント1回戦
国際総合伊勢原クラブ
000 000 0 0
510 002 2 10
リベラック小田原
（七回コールド）
（国）工藤、渡辺、中里―稲葉、石塚
（リ）清水、武田―深見
▽本塁打　深見（リ）
▽第1代表決定トーナメント2回戦
甲斐府中クラブ
000 000 0 0
232 001 2 10
日産自動車
（七回コールド）
（甲）渡辺、深沢―一瀬充
（日）砂川、安藤―比嘉
横浜金港クラブ
000 000 0 0
006 020 2 10
東芝
（七回コールド）
（横）島村、田中―石丸
（東）北村、工藤、藤村―萩原
▽本塁打　光本、田中（東）
▽第2代表決定トーナメント1回戦
甲斐府中クラブ
000 011 021 7
100 000 003 4
横浜金港クラブ
（甲）前島、遠藤―一瀬充
（横）三橋、下妻、後藤、鈴木貫―石丸
▽第1代表決定トーナメント準決勝
全川崎クラブ
001 000 000 1
102 010 01× 5
ＥＮＥＯＳ
（全）入倉、河野、高橋雄、村上、北出―岩永
（Ｅ）加藤、阿部、関根、飯田、若杉、渡部―有馬
▽本塁打　丸山、神里（Ｅ）
東芝
023 100 210 9
020 040 000 6
日産自動車
（東）松山、笹森―萩原、中村
（日）島、安藤、領家、友野―比嘉
▽本塁打　太田2、下山
（東）比嘉、石飛（日）
▽第2代表決定トーナメント2回戦
甲斐府中クラブ
203 100 110 8
131 022 03× 12
全川崎クラブ
（甲）前島、深沢、遠藤―一瀬充
（全）松野、河野、勝岡、金井、高橋雄―岩永
リベラック小田原
000 000 010 1
200 310 02× 8
日産自動車
（リ）中田、藤本、高瀬、清水―深見
（日）砂川、阿部、領家―比嘉、川副
▽本塁打　山本（日）
▽第1代表決定戦
東芝
000 000 000 0
203 000 00× 5
ＥＮＥＯＳ
（ＥＮＥＯＳは6年連続55回目）
▽2代表決定トーナメント3回戦

点	安	打		
2	2	5	山齊金下光田太長諸中中	芝
0	1	2	田藤井山本中田沢橋妻村	
1	0	4	庭中山藤本原妻井田沢村	
0	0	1	大田下齊光萩中金太長中	
0	0	0	5	
0	0	0		
0	0	0		
0	0	0		
0	0	0		
3	5	30	計	

全川崎クラブ
000 000 002 2
010 010 10× 3
日産自動車
（全）入倉、高橋雄、河野、金井―岩永
（日）島、安藤―比嘉

トヨタ自動車11年連続27回目

西濃運輸5年連続42回目

ホンダ鈴鹿3年ぶり27回目

三菱自動車岡崎3年連続15回目

ヤマハ7年連続46回目

王子3年連続20回目

東　海

（代表6＝前回はヤマハ、三菱自動車岡崎、王子、東邦ガス、西濃運輸、東海理化。その他トヨタ自動車が前回優勝の推薦枠）

昨秋の日本選手権を制したトヨタ自動車は投打に盤石で接戦にも強く、第1代表を勝ち取った。劇的勝利が続いた西濃運輸が第2代表で、第3代表のホンダ鈴鹿は投打がかみ合い3年ぶりの出場。要所で勝負強さが光った三菱自動車岡崎が第4代表。ヤマハは決定戦2連敗と苦しみながら第5代表入り。土壇場で打線が目覚めた王子が最後の第6代表に滑り込んだ。

○…1次…○

◇**静岡**（浜松ほか）

▽1回戦

浜松ケイ・スポーツBC 14―1 山岸ジスターズ
静岡倶楽部 9―6 浜松ケイ・スポーツBC
焼津マリーンズ 4―1 ヤマハ発動機

▽決勝

▽第2代表決定戦

東芝
002 003 020 7
100 100 000 2
日産自動車
（東芝は2年ぶり45回目）

▽第2代表決定戦

焼津マリーンズ 8―1 静岡倶楽部
（焼津マリーンズは2次予選へ）

◇**愛知**（東邦ガス空見ほか）

▽1回戦

ジェイグループ 9―0 愛知倶楽部
寿々クラブ 10―2 CENTRAL ARCH
矢場とんブースターズ 4―3 ジェイグループ
寿々クラブ 12―9 BASEBALL ONE BLITZ

▽準決勝

▽決勝

寿々クラブ 5―2 矢場とんブースターズ
（寿々クラブは2次予選へ）

◇**岐阜・三重**（大垣北公園）

▽1回戦

日本プロスポーツ専門学校 10―2 岐阜倶楽部
三重高虎B・C 6―1 奥伊勢クラブ

▽決勝

三重高虎B・C 4―3 日本プロスポーツ専門学校
（三重高虎B・Cは2次予選へ）

○…2次…○

（愛知・岡崎レッドダイヤモンド）

▽第1代表決定トーナメント1回戦

三重高虎B・C
002 000 0 2
307 613 × 20
王子
（七回コールド）
（三）畑口、上床、高井、岡野、塚本、竹内稜―坂下
（王）九谷、樋口、田中、宮崎―細川、鈴木
▽本塁打　吉岡（王）

西濃運輸
100 000 009 10
012 030 001 7
東海理化
（西）池田、森岡、山下、野田、塩本―城野
（東）池田大、河野、生田目、上野―池間
▽本塁打　野崎、誉田、河田（西）

三菱自動車岡崎
010 010 021 5
000 100 002 3
焼津マリーンズ
（三）笠井、田中―西川
（焼）山本、嶋村、石田、池田、柳下―戸崎

ヤマハ
016 110 202 13
000 101 000 2
ジェイプロジェクト
（ヤ）金原、沢山、清水蓮、梅田―大本
（ジ）菅原、笈川、馬明、中川、満田慎、伊藤、飛渡、鎌田―神農
▽本塁打　小林（ヤ）

寿々クラブ
300 000 0 3
104 100 0× 15
トヨタ自動車
（七回コールド）
（寿）中尾、竹内、金藤、本田―井上
（ト）池村、細川、磯村―福井
▽本塁打　川上（寿）

ホンダ鈴鹿
011 011 100 5
000 000 000 0
日本製鉄東海REX
（ホ）井村、花城、川原―長木
▽本塁打　畔上（ホ）

▽第3代表決定トーナメント1回戦

三重高虎B・C
001 000 0 1
036 220 × 13
東海理化
（七回コールド）
（三）西本、畑口、山口、上床、岡野―坂下
（東）河野、高橋、新地、北添―池間、戸丸
▽本塁打　福本、武藤（東）

ジェイプロジェクト
001 000 102 4
201 002 00× 5
焼津マリーンズ
（ジ）鶴我、中川、菅原―神農、浅野
（焼）柳下、山本―戸崎
▽本塁打　望月（焼）

（日）吉川、荒木、池戸―室

西濃運輸

点	安	打		
0	0	3	田野崎	⑦
0	1	4	中田	⑥
0	2	4	田山	⑤
0	1	4	西野	③
0	1	4	向行	⑧
0	0	3	河北	D
0	0	4	野小	④
0	0	4	原譽	H
0	0	4	大河城	②
0	0	3	左修	⑨
0	0	1	H 9	
0	6	32	計	

トヨタ

点	安	打		
3	2	4	田村	⑤
0	0	1	村原	③
0	0	0	藤澤	R
2	2	3	畑田	③
0	1	4	井巻	④
2	3	4	崎本	⑧
0	0	3	熊北	D
0	1	4	西河	⑥
0	2	4	佐逢	②
0	0	4	小和	⑨
1	2	4	福坂	H
0	0	4	宮徳	⑦
9	11	32	計	

2	7	8	併
1	1	7	残
0	0	0	失
0	0	1	盗
2	8	0	犠
1	7	8	振
1	2	8	球
西			
ト			

責	安	回		
4	5	1	⅓	投
2	2	1	⅔	池
3	3	3		山
0	0	2		野
	4			森
0	6	9		増

▽本塁打　熊井（池下）　田（山）徳間（池）時打　福井（池）打　二塁打▽2澤▽逢本、49分

日本製鉄東海ＲＥＸ
000 140 040 9
000 000 000 0
寿々クラブ
（日）加藤、長倉、佐伯、奥田―室木、中川
（寿）竹内、本田、中尾、金原、金藤―井上
▽本塁打　阿保（日）
▽第１代表決定トーナメント２回戦
西濃運輸
012 010 000 05 9
100 100 020 00 4
三菱自動車岡崎
（延長十一回、十回からタイブレーク）
（西）庄司、森岡、山下、塩本―城野
（三）秋山凌、近藤、清川、神原―西川、橋爪
▽本塁打　小中（西）古川（三）
ヤマハ
410 000 000 5
000 000 000 0
ＪＲ東海
（ヤ）佐藤康―大本
（Ｊ）不後、辻井、林山―牛場

王子
000 102 020 5
100 000 001 2
東邦ガス
（王）樋口―細川
（東）吉田、大石、中川―氷見
▽本塁打　浦口（東）
トヨタ自動車
620 010 000 9
000 000 022 4
ホンダ鈴鹿
（ト）増居、渕上、細川―福井
（ホ）川原、寺瀬、漢人、田中、藤本―長、岡沢
▽本塁打　熊田（ト）

ヤマハ

		打	安	点
Ｄ	矢笠	4	3	3
ＨＤ	幡松	1	0	0
ＨＤ	杯濱	1	0	0
⑤	永濱	6	3	0
⑦	網谷	4	3	2
Ｒ７	澤田	0	0	0
③	中森	5	3	1
②	大相	4	3	3
⑥Ｈ５	清藤	1	1	2
⑨	水岡	0	0	0
⑧	舟久保	4	1	2
Ｈ８	西前	3	0	0
④	村野	2	0	0
Ｈ５４	土山	2	0	0
	小林	2	0	0

計　43 18 15

東邦ガス

		打	安	点
⑧	浦口	2	0	0
Ｈ７９	比嘉	2	0	0
④	金田	3	0	0
８	木村	1	0	0
⑤	宮下	4	1	0
Ｄ	若林	3	0	0
Ｈ	西脇	1	0	0
③	柴田	4	1	0
⑥	佐々木	3	2	0
⑨８	大木	2	0	0
Ｈ４	高垣	1	1	0
②	氷見	3	0	1
⑦９	松井	2	0	0
Ｈ７	虎谷	1	0	0

計　32 5 1

ヤ５ 10 0 4 0 11 0
振球犠盗失残併
東 11 0 0 0 2 4 0

投	手	回	安	責
佐	藤	9	5	1
榮		2⅔	5	5
大	石	1	1	1
吐	前	2	7	3
清	水	4	5	5

▽本塁打　網谷（吐前）▽二塁打　森川、大本、清水、宮下、柴田▽３時間15分

東邦ガス

		打	安	点
⑧	浦口	3	0	0
Ｈ	金木	1	0	0
Ｈ８	村垣	0	0	0
④	高宮	2	1	0
⑤	若柴	4	2	0
Ｄ	林田	4	0	1
③	木本	3	0	1
⑥	々木	4	0	0
⑨	大木	3	0	0
②	氷見	2	0	0
⑦	松井	3	0	0

計　29 3 1

王子

		打	安	点
⑧	柴崎	5	2	4
④	山口	5	1	1
⑨	吉岡	4	1	1
③	宝島	5	2	2
ＤＨ	神鳥	4	1	0
ＲＤ	横井	1	1	0
②	廣部	0	0	0
⑤	細川	3	0	0
⑦	大ノ山	3	1	0
⑥	前杉井田	4	2	1
		3	1	0

計　37 12 9

東 9 4 1 1 2 5 0
振球犠盗失残併
王 8 4 1 1 0 9 0

投	手	回	安	責
吉	田	4⅔	3	4
高	橋	2⅔	7	5
柳	川	2⅓	2	0
中	川	⅓	0	0
樋	口	6	3	2
九	谷	3	0	0

▽本塁打　柴崎（吉田）▽三塁打　宝島▽二塁打　宮下、高垣、柴崎▽暴投　樋口▽２時間53分

ヤマハ

		打	安	点
⑧	西村	4	0	0
Ｈ	中秋	0	0	1
③	笠田	3	0	0
Ｈ⑦	網利	1	0	0
Ｄ	森谷	5	0	0
④	永川	3	1	0
②	大濱	3	0	1
⑤	相本	4	1	0
⑥	土羽	4	2	0
Ｈ⑨	藤岡	2	1	0
	舟久保	3	0	0
		3	1	1

計　32 6 3

三菱岡崎

		打	安	点
⑤	菅原	4	1	0
⑨	茂木	3	1	0
ＤＨ	豊住	3	0	0
ＤＨ	宮野	0	0	0
④	古川	4	3	7
⑧	中村	3	0	0
⑦	東	3	0	0
③	伊藤	3	0	0
②	西内	3	1	0
⑥	内藤	2	1	0
Ｈ６	里斎	1	0	0
	見藤	0	0	0

計　29 8 7

ヤ８７０１１９０
振球犠盗失残併
三７３２０２３２

投	手	回	安	責
梅	田	7⅓	7	4
沢	山	⅔	1	2
波多野		⅔	0	0
笠	井	3⅔	5	2
田	中	6	1	0

▽本塁打　古川２（梅田、沢山）▽暴投　笠井▽２時間56分

Honda鈴鹿

		打	安	点
⑧	長野	3	1	1
Ｈ	堀内	1	0	0
９	田野	0	0	0
⑥	中畔	5	2	0
ＤＲＤ	上山	4	2	0
④	西藤	0	0	0
③	伊藤	4	2	2
３	阿部	5	1	1
⑨８	中野	0	0	0
⑦	栗原	4	1	0
７	岡野	3	0	0
②	長	1	0	0
⑤	貞光	4	1	0
		4	2	1

計　38 12 5

東邦ガス

		打	安	点
⑧	浦口	4	2	1
④	金田	3	2	1
⑤	宮下	3	0	1
Ｄ	若林	4	0	0
③	柴田	4	1	0
⑥	佐々木	4	0	0
⑨	大木	3	0	0
②	氷見	2	0	0
Ｈ	向井	1	0	0
２	山田	0	0	0
⑦	松井	3	2	0

計　31 7 3

Ｈ７３００１９０
振球犠盗失残併
東８０２１１３１

投	手	回	安	責
井	村	7	5	1
花	城	1	2	2
田	中	1	0	0
吉	田	4⅓	8	2
柳	川	⅔	0	0
高	橋	4	4	1

▽本塁打　長野（吉田）▽三塁打　貞光、浦口▽二塁打　中川、貞光、金田▽暴投　高橋▽捕逸　長、山田▽２時間46分

ヤマハ

		打	安	点
⑧	西村	4	0	0
③	秋利	5	0	0
Ｄ	網谷	2	0	0
⑤	森川	4	1	3
④	永濱	4	2	0
②	大本	3	1	0
Ｒ	野澤	0	0	0
⑨	前野	4	1	0
⑥	土山	3	1	0
Ｈ	藤岡	1	1	0
Ｒ	相羽	0	0	0
⑦	舟久保	2	0	0

計　32 7 3

西濃運輸

		打	安	点
⑦	福島	5	2	0
⑥	北野	3	1	0
⑤	野崎	2	1	1
③	小中	2	1	0
⑧	原田	3	0	0
Ｄ	譽田	4	2	0
④	大山	3	0	0
②	城野	3	0	0
⑨	左向	2	0	0
Ｈ	河田	1	1	1
Ｒ９	修行	1	0	0

計　29 8 2

ヤ６５１１１８１
振球犠盗失残併
西５５３０１９２

投	手	回	安	責
金	原	4	4	1
清	水	1⅓	3	1
沢	山	2⅔	1	0
森	岡	7	5	3
塩	本	2	2	0

▽本塁打　森川（森岡）▽二塁打　福島、河田▽２時間54分

▽第3代表決定トーナメント2回戦
東海理化
0 2 1 0 0 0 0 0 0 3
2 0 1 0 0 2 0 0 × 5
東邦ガス
（海）池田大、新地―池間
（邦）吉田、中村、中川、柳川、高橋―氷見
▽本塁打　宮下（邦）
三菱自動車岡崎
0 0 0 3 0 0 2 0 2 7
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
焼津マリーンズ
（三）秋山翔、田中、清川―西川
（焼）嶋村、山本、柳下、石田、池田―戸崎
JR東海
0 0 0 1 1 0 0 0 0 5 7
0 0 0 0 0 2 0 0 3 5
日本製鉄東海REX
（延長十回、十回からタイブレーク）
（J）川本、喜久川―牛場
（日）加藤、荒木、池戸、浦本―室木
▽第1代表決定トーナメント準決勝
西濃運輸
4 0 0 1 0 0 1 1 2 9
1 0 0 0 0 1 0 0 2 4
（西）塩本、奥、山下、庄司―城野
（王）九谷、宮崎、田中、登坂、中島―細川
▽本塁打　誉田（西）山口（王）
トヨタ自動車
0 0 0 0 0 0 0 0 2 3 5
0 0 0 0 0 1 0 1 0 2 4
ヤマハ
（延長十回、十回からタイブレーク）
（ト）池村、渕上、嘉陽―福井、高祖
（ヤ）梅田、沢山、水野、佐藤廉、有本―大本
▽第3代表決定トーナメント3回戦
東邦ガス
0 1 0 0 4 0 3 0 0 8
0 0 0 0 0 1 0 4 2 7
三菱自動車岡崎
（東）吉田、柳川、大石、中川、高橋―氷見
（三）笠井、田中、鈴木、近藤、中村公、清川―西川、橋爪
▽本塁打　古川（三）
JR東海
0 0 0 2 0 0 2 0 0 4
0 3 6 0 0 0 0 1 × 10
ホンダ鈴鹿
（J）戸田、辻井、柳橋、林山―牛場
（ホ）井村、田中、花城―長
▽本塁打　平野（J）
▽第2代表決定トーナメント1回戦
ヤマハ
0 0 0 0 0 0 5 3 0 8
0 0 0 1 0 0 0 0 0 1
王子
（ヤ）佐藤廉、波多野、清水蓮―大本
（王）樋口、宮崎、三島、中島、浅井、登坂―細川
▽本塁打　矢幡（ヤ）
▽第1代表決定戦
西濃運輸
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
0 4 2 3 0 0 0 0 × 9
トヨタ自動車
（トヨタ自動車は11年連続27回目）
▽第4代表決定トーナメント1回戦
三菱自動車岡崎
0 0 0 0 3 6 0 2 0 11
3 0 0 0 0 1 0 0 1 5
JR東海
（三）秋山凌、近藤、田中、清川、神原―西川
（J）川本、柳橋、辻井、林山、宮島―牛場、須永
▽本塁打　平野、山沢（J）
▽第6代表決定トーナメント1回戦
焼津マリーンズ
0 0 0 0 1 0 0 0 0 1
0 1 0 0 4 0 0 0 × 5
東海理化
（焼）山本、嶋村、石田―戸崎
（東）新地、河野、上野―池間
▽本塁打　斎藤（東）
▽第2代表決定戦
ヤマハ
3 0 0 0 0 0 0 0 3
0 0 1 0 0 3 0 0 × 4
西濃運輸
（西濃運輸は5年連続42回目）
▽第6代表決定トーナメント2回戦
東海理化
0 0 0 1 2 2 0 0 5
0 2 1 0 0 0 0 0 3
日本製鉄東海REX
（東）高橋、上野、池田大―池間
（日）吉川、池戸、荒木―室木
▽本塁打　武藤（東）
▽第3代表決定戦
ホンダ鈴鹿
2 0 0 0 1 1 0 0 1 5
1 0 0 0 0 0 0 2 0 3
東邦ガス
（ホンダ鈴鹿は3年ぶり27回目）
▽第4代表決定トーナメント2回戦
王子
0 1 0 0 0 0 0 0 0 1
0 1 0 0 1 0 0 0 × 2
三菱自動車岡崎
（王）樋口、九谷―細川
（三）秋山翔、清川―西川
▽第6代表決定トーナメント3回戦
東海理化
0 0 0 0 0 0 2 1 0 3
0 1 1 1 0 0 1 0 × 4
JR東海
（東）池田大、新地、上野―池間
（J）不後、喜久川―須永
▽本塁打　須永（J）
▽第4代表決定戦
ヤマハ
0 0 2 1 0 0 0 0 0 3
3 0 0 0 0 0 0 4 × 7
三菱自動車岡崎
（三菱自動車岡崎は3年連続15回目）
▽第5代表決定戦
ヤマハ
1 1 4 2 2 0 2 0 3 15
0 1 0 0 0 0 0 0 0 1
東邦ガス
（ヤマハは7年連続46回目）
▽第6代表決定トーナメント4回戦
王子
1 0 0 0 0 0 2 1 0 4
0 0 0 0 0 0 1 0 1 2
JR東海
（王）九谷―細川
（J）不後、川本、喜久川―須永、牛場
▽第6代表決定戦
東邦ガス
0 0 0 0 0 2 0 0 0 2
0 0 0 0 4 5 0 0 × 9
王子
（王子は3年連続20回目）

NTT西日本11年連続36回目
日本生命3年連続64回目
日本製鉄瀬戸内2年連続34回目
大阪ガス3年ぶり29回目
パナソニック2年ぶり57回目

近畿

（代表5＝前回は日本生命、ミキハウス、三菱重工Ｗｅｓｔ、日本製鉄瀬戸内、ＮＴＴ西日本）

ＮＴＴ西日本は堅守と切れ目のない打線で2年ぶりの第1代表となった。右腕、谷脇を擁する日本生命が第2代表。打線が活発だった日本製鉄瀬戸内が第3代表に入った。大阪ガスは第4代表で3年ぶりの出場。パナソニックは4度目の代表決定戦を制して最後の枠に入った。企業登録2年目のＹＢＳホールディングスは健闘するも初出場は成らなかった。

○…1次…○

◇**滋賀**（ＢＰＬベースボールパーク）

▽1回戦

ムラチグループ15―2湖南クラブ

全大津野球団6―3瀬田クラブ

▽準決勝

ムラチグループ3―1ＯＢＣ高島

（ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校）

14―4全大津野球団

▽決勝

ムラチグループ10―1ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校

（ムラチグループは京滋奈1次予選へ）

◇**京都**（わかさ京都ほか）

▽1回戦

京都フルカウンツ9―7京都ジャスティス

京都城陽ファイアーバーズ10―0山城クラブ

（三菱自動車京都ダイヤフェニックス）6―0ＤＢグラッズ

島津製作所27―1Ｂ―ＢＡＣＫＳ

▽準決勝

京都フルカウンツ7―0京都城陽ファイアーバーズ

島津製作所6―0三菱自動車京都ダイヤフェニックス

▽決勝

島津製作所8―0京都フルカウンツ

（島津製作所は京滋奈1次予選へ）

◇**奈良**（さとやくスタジアム）

▽1回戦

ムラチグループ15―2湖南クラブ

全大津野球団6―3瀬田クラブ

▽準決勝

ムラチグループ3―1ＯＢＣ高島

（ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校）

14―4全大津野球団

▽決勝

ムラチグループ10―1ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校

（ムラチグループは京滋奈1次予選へ）

◇**京都**（わかさ京都ほか）

▽1回戦

京都フルカウンツ9―7京都ジャスティス

京都城陽ファイアーバーズ10―0山城クラブ

（三菱自動車京都ダイヤフェニックス）6―0ＤＢグラッズ

島津製作所27―1Ｂ―ＢＡＣＫＳ

▽準決勝

京都フルカウンツ7―0京都城陽ファイアーバーズ

島津製作所6―0三菱自動車京都ダイヤフェニックス

▽決勝

島津製作所8―0京都フルカウンツ

（島津製作所は京滋奈1次予選へ）

◇**奈良**（さとやくスタジアム）

▽1回戦

ムラチグループ15―2湖南クラブ

全大津野球団6―3瀬田クラブ

▽準決勝

マツゲン箕島19―0履正社クラブ

▽準決勝

マツゲン箕島10―2関西クラブ

ＮＳＢクラブ7―1ＢＡＳＥＢＡＬＬＯＮＥＹＡＯ・ＢＣ

▽決勝

マツゲン箕島10―0ＢＡＳＥＢＡＬＬＯＮＥＹＡＯ・ＢＣ

（マツゲン箕島は2次予選へ）

◇**兵庫**（Ｇ7スタジアム神戸ほか）

▽1回戦

関メディ学院23―0ＫＣ兵庫

▽2回戦

ＮＯＭＯクラブ7―1ジェイエフエンジニアリングシステムズ

ＹＢＳホールディングス10―0兵庫県警桃太郎

金次郎・関西6―5ＪＲＳレールスターズ

アスミビルダーズ8―2関メディ学院

▽準決勝

アスミビルダーズ18―0ＮＯＭＯクラブ

ＹＢＳホールディングス8―0金次郎・関西

（アスミビルダーズとＹＢＳホールディングスは2次予選へ）

▽決勝

ＹＢＳホールディングス7―2アスミビルダーズ

○…2次…○

（わかさ京都）

▽第1代表決定トーナメント1回戦

ニチダイ

	0	0	0	0	3	0	0	1	4
	1	0	0	0	0	0	0	1	2

日本新薬

（二）浜田陸、小倉、酒井―薬師寺

（マ）石原、川畑、奥田、中田、坂本、近藤―湯浅、宮崎

▽決勝

マツゲン箕島10―0ＢＡＳＥＢＡＬＬＯＮＥＹＡＯ・ＢＣ

（マツゲン箕島は2次予選へ）

◇**兵庫**（Ｇ7スタジアム神戸ほか）

▽1回戦

関メディ学院23―0ＫＣ兵庫

▽2回戦

ＮＯＭＯクラブ7―1ジェイエフエンジニアリングシステムズ

ＹＢＳホールディングス10―0兵庫県警桃太郎

金次郎・関西6―5ＪＲＳレールスターズ

アスミビルダーズ8―2関メディ学院

▽準決勝

アスミビルダーズ18―0ＮＯＭＯクラブ

ＹＢＳホールディングス8―0金次郎・関西

（アスミビルダーズとＹＢＳホールディングスは2次予選へ）

▽決勝

ＹＢＳホールディングス7―2アスミビルダーズ

○…2次…○

（わかさ京都）

▽第1代表決定トーナメント1回戦

ニチダイ

	0	0	0	0	3	0	0	1	4
	1	0	0	0	0	0	0	1	2

日本新薬

（二）浜田陸、小倉、酒井―薬師寺

（マ）石原、川畑、奥田、中田、坂本、近藤―湯浅、宮崎

▽決勝

マツゲン箕島10―0ＢＡＳＥＢＡＬＬＯＮＥＹＡＯ・ＢＣ

（マツゲン箕島は2次予選へ）

◇**兵庫**（Ｇ7スタジアム神戸ほか）

▽1回戦

関メディ学院23―0ＫＣ兵庫

▽2回戦

ＮＯＭＯクラブ7―1ジェイエフエンジニアリングシステムズ

ＹＢＳホールディングス10―0兵庫県警桃太郎

金次郎・関西6―5ＪＲＳレールスターズ

アスミビルダーズ8―2関メディ学院

▽準決勝

アスミビルダーズ18―0ＮＯＭＯクラブ

ＹＢＳホールディングス8―0金次郎・関西

（アスミビルダーズとＹＢＳホールディングスは2次予選へ）

▽決勝

ＹＢＳホールディングス

	0	0	0	4	0	0	0	0	4
	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大阪ガス

（Ｙ）石本、柳原―平石

（大）秋山、稲垣、本間―高橋、戸高

島津製作所

	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	1	2	2	0	2	×	7

日本製鉄瀬戸内

（島）溝田、池田、川口―松田、村山、安井

（日）藤野、下堂、川瀬航―福井

三菱重工Ｗｅｓｔ

	0	0	0	0	1	0	5		7
	0	0	0	0	1	0	0		4

大和高田クラブ

（三）藤井、川上、辻垣、中沢―石井、碓井

（大）西、大森、松林―深尾、安岡

▽本塁打　西岡（三）

日本新薬

	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	1	0	1	0	0	1	0	1	4

パナソニック

（日）戸根、遠藤、斎藤―笹原

（パ）柿本、井奥、与座、榎本―川上

▽本塁打　本間（パ）

アスミビルダーズ

	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	2	0	0	3	0	5		10

ＮＴＴ西日本

（七回コールド）

（ア）三尾、駒井、内海―谷川

（Ｎ）浜崎、高井―辻本

▽本塁打　吉川、辻本（Ｎ）

▽第1代表決定トーナメント2回戦

ニチダイ

	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	0	0	0	0	1	1	×		3

日本生命

（二）吹本、小倉、酒井―井上

（日）谷脇―三島

ＹＢＳホールディングス

	0	0	0	1	0	0	0	3	4
	0	0	0	0	0	1	0	0	1

日本製鉄瀬戸内

（延長十回、十回からタイブレーク）

（Ｙ）加藤響、石本、柳原―平石

（日）杉本、下堂、川瀬航―福井

パナソニック

	0	0	0	0	0	0	1	2	3
	0	0	1	0	0	0	0	1	2

三菱重工Ｗｅｓｔ

（延長十回、十回からタイブ

レーク）
（パ）柿本、与座、榎本、定本―川上
（三）藤井、西、川上、中沢、辻垣―石井、碓井
ミキハウス
210 010 000 4
020 400 06× 12
NTT西日本
（ミ）桜井、松永、仲尾、浪越、高橋康―井上
（N）高井、田村、渡辺、大江、茨木、松井―辻本
▽第1代表決定トーナメント準決勝
日本生命
000 101 000 2
000 000 000 0
YBSホールディングス
（日）谷脇、武次―三島
（Y）石本、加藤響、柳原―平石
▽本塁打　山田（日）
パナソニック
000 000 000 0
000 000 10× 1
NTT西日本
（パ）榎本、与座―川上
（N）浜崎―辻本
▽第4代表決定トーナメント1回戦
マツゲン箕島
012 000 104 8
000 000 000 0
島津製作所
（マ）奥田、中田、坂本―湯浅、宮崎
（島）池田、溝田―松田
アスミビルダーズ
000 010 100 2
001 000 000 1
大和高田クラブ
（ア）駒井、山田、三尾、内海―谷川
（大）西、松林、大森、井田―深尾
▽第4代表決定トーナメント2回戦
大阪ガス
100 010 000 2
000 000 000 0
マツゲン箕島
（大）本間、大宮―戸高、高橋
（マ）近藤、川畑、石原、中田、坂本―湯浅、宮崎
アスミビルダーズ
000 002 00 2
000 250 32 12
日本新薬　（八回コールド）
（ア）三尾、駒井、内海―谷川
（日）戸根、木下―後藤

▽第1代表決定戦
日本生命
000 100 000 20 3
010 000 000 21 4
NTT西日本
（延長十一回、十回からタイブレーク）
（NTT西日本は11年連続36回目）
▽第3代表決定トーナメント1回戦
日本製鉄瀬戸内
011 701 02 12
100 000 00 1
ニチダイ　（八回コールド）
（日）藤野、下堂―福井
（ニ）浜田陸、吹本、小倉、家城―薬師寺、井上

日本生命　打 安 点
⑧ 中松越早藤竹山木三池船　津本西村田倉島上山梅　3 5 3 4 4 3 4 4 3 3 4 0　1 2 0 0 0 2 1 0 1 0 0 0
Ｄ 松藤上竹山木三池船　本本村田倉島上山　5 3 1 4 2 3 2 4 0　0 0 0 2 1 0 0 0 0
⑦ 藤上竹山木三池船　本西村田倉島上山　3 0 4 4 3 2 4 0　0 0 2 1 0 0 0 0
Ｈ 8 上竹山木三池船　西村田倉島上山　0 0 1 1 1 0 1 0　0 0 0 0 0 0 0 0
⑨ 竹山木三池船　村田倉島上山　2 2 1 1 0 1 0　0 0 0 0 0 0 0
⑤ 山木三池船　田倉島上山　1 1 1 0 1 0　0 0 0 0 0 0
③ 木三池船　倉島上山　4 5 3 3 4　0 0 0 0 0
② 三池船　島上山　3 3 4　0 0 0
④ 6 池船　上山　4　0
⑥ 船梅　山村　0　0
計　31 8 3

パナソニック　打 安 点
⑦ 宮崎秀　田下本宅恭　2 0 4 3 1 4 3 0　0 0 1 0 0 0 0
Ｈ 7 植坂山三宮崎浦　田本宅恭間田上川路　0 1 1 0 1 1 3 3　0 0 0 0 0 0 0
⑥ 坂山三宮崎浦　本宅恭間田上川路　4 4 3 1 4 3 4 2 1　1 0 0 0 0 0 0 0
Ｄ 山三宮崎浦　宅恭間田上川路　4 3 0 1 4 3 4 2 1　0 0 0 0 0 0 0 0
⑨ 三宮崎浦　恭間田上川路　3 0 1 4 3 4 2 1　0 0 0 0 0 0 0
Ｈ 3 宮崎浦　間田上川路　0 1 3 4 2 1　0 0 0 0 0 0
③ 9 崎浦　田上川路　1 3 4 2 1　0 0 0 0 0
⑤ 浦　上川路　3 4 2 1　0 0 0 0
⑧ 本上川松山　4 3 2 1　0 0 0 0
② 本川松山　3 2 1　0 0 0
Ｈ 本松山　3 1 1　0 0 0
④ 本山　3 1　0 0
計　32 6 0

日 8 6 1 1 2 8 1
振 球 犠 盗 失 残 併
パ 6 3 0 0 0 7 1

投 手 脇 藤木次　回 3 2　安 5 1 1 0　責 0 0 0 0
谷 脇 藤木次　3 ⅓ ⅔　5 1 0 0　0 1 0 0
齋 藤木次　⅓ ⅔　1 0 0　1 0 0
高 木次　⅔　0 0　0 0
武 次　2　0　0

柿 本 座本本奥　5 3　⅔ ⅓　1 4 2 1　0 1 2 0
本 座本本奥　⅔ ⅓　2 0　0 0
座本本奥　⅓　0　0
本本奥　⅔　0　0
井 奥　⅓　0　0

▽二塁打　竹村、船山、山本▽暴投　高木▽3時間

日本生命　打 安 点
⑧ 中松越早藤竹山木三池船　津本智野本村田倉島上山　4 2 1 2 5 3 4 5 3 3 4　0 0 0 1 1 1 0 1 1 0 2　0 0 0 1 0 0 1 0 0 0 1
Ｄ 松越早藤竹山木三池船　本智野本村田倉島上山　2 1 2 5 3 4 5 3 3 4　0 0 1 1 1 1 0 1 1 0 2　0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
Ｈ 中越早藤竹山木三池船　津智野本村田倉島上山　4 2 1 2 5 3 4 5 3 3 4　0 0 1 1 1 1 0 1 1 0 2　0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
⑦ 越早藤竹山木三池船　智野本村田倉島上山　2 1 2 5 3 4 5 3 3 4　0 1 1 1 1 0 1 1 0 2　0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
⑨ 早藤竹山木三池船　野本村田倉島上山　1 2 5 3 4 5 3 3 4　1 1 1 1 0 1 1 0 2　0 0 0 0 0 0 0 0 0
⑤ 藤竹山木三池船　本村田倉島上山　2 5 3 4 5 3 3 4　1 1 1 0 1 1 0 2　0 0 0 0 0 0 0 0
③ 竹山木三池船　村田倉島上山　5 3 4 5 3 3 4　1 1 0 1 1 0 2　0 0 0 0 0 0 0
② 山木三池船　田倉島上山　3 4 5 3 3 4　1 0 1 1 0 2　0 0 0 0 0 0
④ 木三池船　倉島上山　4 5 3 3 4　0 1 1 0 2　0 0 0 0 0
⑥ 三池船　島上山　3 3 4　1 1 2　0 0 1
計　36 8 3

ＮＴＴ西　打 安 点
⑧ 串成酒山中藤吉夏辻後　畑瀬井田村井川目本藤　5 5 4 5 4 5 4 1 3 1　1 1 0 3 0 0 1 3 2 0　0 0 0 2 0 0 0 1 0 0
⑥ 成酒山中藤吉夏辻後　瀬井田村井川目本藤　5 4 5 4 5 4 1 3 1　1 0 3 0 0 0 1 2 0　0 0 0 0 0 0 0 1 0
Ｄ 酒山中藤吉夏辻後　井田村井川目本藤　4 5 4 5 4 1 3 1　0 3 0 0 0 1 2 0　0 0 0 0 0 0 0
③ 7 山中藤吉夏辻後　田村井川目本藤　5 4 5 4 1 3 1　0 0 0 0 1 2 0　0 0 0 0 0 0
⑦ 山中藤吉夏辻後　村井川目本藤　4 5 4 1 3 1　0 0 0 1 2 0　0 0 0 0 0 0
⑨ 中藤吉夏辻後　井川目本藤　5 4 1 3 1　0 0 1 2 0　0 0 0 0 0 0
⑤ 藤吉夏辻後　川目本藤　4 1 3 1　0 1 2 0　0 0 0 0 0
Ｈ 吉夏辻後　目本藤　1 3 1　1 2 0　0 0 0
② 夏辻後　本藤　3 1　2 0　0 0
④ 辻後　藤　1　0　0
計　37 8 4

日 7 1 5 1 0 10 0 併
振 球 犠 盗 失 残 併
Ｎ 8 5 2 0 1 13 0

投 手 次木脇　回 6 ⅓ ⅔ 3　安 5 0 3　責 1 0 0
武 次木脇　⅔ ⅓　0 0　0 0
高 木脇　⅓　0　0
谷 脇　3　3　0
齋 藤　⅓　0　0

高 井 江邊井　6 ⅔ ⅓ 1　3 5 0 0　1 0 0 0
大 江邊井　⅔ ⅓　0 0　0 0
渡 邊井　⅓　0　0
松 井　1　0　0

▽本塁打　井（高）
（8分）

打 田間
▽3 山時

（日）
▽第3代表決定トーナメント2回戦
三菱重工West
000 000 002 2
000 000 021 3
日本製鉄瀬戸内
（三）藤井、西、辻垣―石井、拾尾
（日）杉本、下堂、神頭―福井
▽第4代表決定トーナメント4回戦
日本新薬
000 010 000 1
000 001 10× 2
大阪ガス
（日）戸根、斎藤、遠藤―後藤

▽本塁打　小深田（日）
三菱重工West
000 002 050 7
010 010 000 2
ミキハウス
（三）坂尾、西、鷲尾、藤井―石井
（ミ）桜井、野口、仲尾、高橋康―井上
▽第2代表決定トーナメント1回戦
YBSホールディングス
000 010 000 1
220 000 10× 5
パナソニック
（Y）石本、加藤響、柳原―平石
（パ）柿本、井奥、定本、榎本―川上

▽第4代表決定トーナメント3回戦
ミキハウス
002 000 001 3
000 031 00× 4
大阪ガス
（ミ）高橋優、高橋康、桜井―井上
（大）大宮、本間―高橋ニチダイ
010 010 20 4
000 320 63 14
日本新薬　（八回コールド）
（ニ）小倉、酒井、浜田陸、吹本―井上
（日）遠藤、木下、斎藤―後藤
▽本塁打　丹羽（ニ）武田

（大）大宮、本間―高橋
▽第2代表決定戦
日本生命
000 002 010 3
001 000 000 1
パナソニック
（日本生命は3年連続64回目）
▽第4代表決定トーナメント5回戦
YBSホールディングス
030 000 003 6
002 064 00× 12
大阪ガス
（Y）柳原、加藤響、右田、有正、永山、山川―平石
（大）本間、小松、秋山、執行、稲垣、大宮―高橋
▽本塁打 高橋、三井（大）
▽第3代表決定戦
日本製鉄瀬戸内
010 040 000 5
000 001 000 1
パナソニック
（日本製鉄瀬戸内は2年連続34回目）
▽第5代表決定トーナメント1回戦
三菱重工West
011 002 110 6
220 400 03× 11
YBSホールディングス
（三）坂尾、中沢、西、川上、藤井―石井
（Y）石本、柳原―平石
▽本塁打 山下（三）北口（Y）
▽第4代表決定戦
大阪ガス
010 100 000 2
000 001 000 1
パナソニック
（大阪ガスは3年ぶり29回目）
▽第5代表決定戦
パナソニック
020 006 000 8
000 000 000 0
YBSホールディングス
（パナソニックは2年ぶり57回目）

JR西日本4年連続8回目
JFE西日本4年連続14回目

中国

（代表2＝前回はJR西日本とJFE西日本）

JR西日本は安定した投手力で接戦を勝ち抜き、2年連続の第1代表。第2代表のJFE西日本は新人の長野が好投し、打線も力強さを見せた。両チームが代表を占めるのは4年連続。伯和ビクトリーズは粘りを発揮して第2代表決定戦に進んだが投手陣が踏ん張れず、ツネイシブルーパイレーツは延長タイブレークの2試合を落とし、初出場は成らなかった。

○…1次…○
◇岡山・島根（マスカット）
▽1回戦
ショウワコーポレーション 7―0 MJG島根
▽2回戦
三菱自動車倉敷オーシャンズ 3―0 倉敷ビーチジャックス
シティライト岡出 7―1 ショウワコーポレーション
▽敗者復活1回戦
倉敷ビーチジャックス 8―5 MJG島根
▽第1代表決定戦
シティライト岡出 5―4 三菱自動車倉敷オーシャンズ
▽敗者復活2回戦
ショウワコーポレーション 10―2 倉敷ビーチジャックス
▽第2代表決定戦
ショウワコーポレーション 1―0 三菱自動車倉敷オーシャンズ
（シティライト岡山とショウワコーポレーションは2次予選へ）
◇広島（エブリイ福山市民）
▽1回戦
広島クラブ 9―8 三原ヤサクラブ
JR西日本 8―7 ツネイシブルーパイレーツ
MSD医療専門学校 12―7 広島鯉城クラブ
（ツネイシブルーパイレーツは第3代表で2次予選へ）
▽第1、第2代表決定トーナメント1回戦
JFE西日本 6―2 伯和ビクトリーズ
（伯和ビクトリーズは第4代表で2次予選へ）
▽第5代表決定トーナメント準決勝
福山ローズファイターズ 7―0 広島クラブ

日鉄瀬戸内

	打	安	点
④ 市原	5	4	0
⑨ 井倉	2	3	1
⑤ 内岡	3	1	1
③ 川江	4	1	0
⑧ 小深	2	1	0
D 田井	1	0	1
H 向木	2	1	0
H 佐々	2	2	0
⑦ 広田	4	2	2
② 福井	4	2	0
⑥ 川瀬	3	0	0
計	35	12	5

パナソニック

	打	安	点
⑧ 宮崎秀	5	2	0
⑥ 坂下	4	2	0
⑦ 2 小山	3	0	0
③ 宮崎恭	5	1	0
D 山本	3	0	0
H D 久保田	1	0	0
⑨ 浦	4	1	0
⑤ 本間	3	1	0
H 5 法兼	1	0	0
② H 7 川上	3	1	0
④ 植山	1	0	0
計	36	7	0

	大	振	球	犠	盗	失	残	併
パ	7	3	1	1	1	4	1	

	日	振	球	犠	盗	失	残	併
パ	8	2	2	1	0	1	2	0

投	手	回	安	責
杉	本	5	4	0
下川	瀬	2	2	1
柿	本	1⅓	4	1
榎	本	3⅓	4	4
定	本	2⅓	3	0
井	奥	⅔	0	0
與	座	1⅓	1	0

▽本塁打 広田（柿本）▽二塁打向井、内倉、岡▽ボーク 杉本▽3時間8分

大阪ガス

	打	安	点
⑤ 杉	4	1	0
④ 峰	5	2	0
③ 7 川	5	3	0
⑨ 清水	4	3	0
D 井	2	0	0
⑦ 本	3	1	0
② 澤	4	0	0
⑥ 橋	4	0	1
⑧ 橋	4	4	1
計	35	8	2

パナソニック

	打	安	点
⑦ 植	2	0	0
⑥ 坂	4	1	1
⑧ 宮崎秀	4	0	0
③ 宮崎恭	2	0	0
H ⑨ 三	1	0	0
H ⑤ 小	1	0	0
D ② 法	2	0	0
④ 山	3	1	0
計	28	2	1

	大	振	球	犠	盗	失	残	併
	9	4	0	1	1	1	0	1

投	手	回	安	責
大	宮	9	2	0
定	本	8	⅔ 2	2
榎	本		⅓ 0	0

▽三塁打 清水、山本（大）▽2時間21分

パナソニック

	打	安	点
植	4	1	0
坂下宅	3	1	0
田	5	4	0
下	4	1	0
宅	4	1	0
田	4	2	0
間	3	1	0
恭	3	0	0
江	4	0	0
本	4	0	0
兼上	3	2	0
本	3	0	0
宮	3	0	0
永	3	0	0
山	3	0	0
法	3	0	0
川	3	0	0
計	33	10	8

YBS

	打	安	点
米野	4	0	0
③ 北加	3	0	0
⑧ 中口	4	3	0
⑥ 藤川	4	2	0
⑤ 田藤	2	2	0
D ⑨ 石高	2	1	0
H 佐宅	3	2	0
⑦ 新樫	2	1	0
④ 鈴見	0	0	0
H 城木	0	0	0
② 平須	3	0	0
計	27	2	0

	パ	振	球	犠	盗	失	残	併
	8	4	2	0	0	4	0	0
Y	9	3	1	0	1	4	2	

投	手	回	安	責
柿	本	9	2	0
柳	原	5	⅔ 6	3
山	山		⅓ 2	1
永	本	3	⅔ 1	0
石			1	0

▽本塁打 法兼（永山）▽二塁打 兼上、法兼、柿本▽坂下2、暴投 柿本▽2時間40分

▽第５代表決定戦
ＭＳＨ医療専門学校６―４福山ローズファイターズ
（ＭＳＨ医療専門学校は２次予選へ）
▽第１、２代表決定戦
ＪＦＥ西日本８―４ＪＲ西日本
◇山口（津田恒実メモリアル）
▽１回戦
山口防府クラブ15―１岩国五橋クラブ
日本製鉄山口15―０三和テクノイノベーション
▽決勝
日本製鉄山口７―４山口防府クラブ
（日本製鉄山口は２次予選へ）
○…２次…○
（マスカット）
▽第１代表決定トーナメント１回戦
ツネイシブルーパイレーツ
０００　００１　０００　１　２
００１　０００　０００　２　３
ＪＲ西日本
（延長十回、十回からタイブレーク）
（ツ）深田、松尾、東田―小林
（Ｊ）花村、大畑―安田
ＭＳＨ医療専門学校
００１　０００　０００　１
３０２　０３０　０１×　９
伯和ビクトリーズ
（Ｍ）田中、佐々木、広谷、坂本―砂田
（伯）飯田、成田、平岡、高橋、谷―橋
ショウワコーポレーション
０００　０００　０００　０
１００　０５０　１０×　７
ＪＦＥ西日本
（シ）高田、橋爪、蒲―内之倉、岩崎、桜木
（Ｊ）長野―後藤
シティライト岡山
００３　０１０　０００
２２０　３００　００×　７　４
日本製鉄山口
（シ）水谷、金津、森田輝、荒田―筒井
（日）武藤、山久、畝、下江―寺嶋
▽第２代表決定トーナメント１回戦
ＭＳＨ医療専門学校
００１　０１０　００　２
０００　４１３　２２　12
ツネイシブルーパイレーツ
（八回コールド）
（Ｍ）福島、佐々木、広谷、坂本、安田、田中―砂田
（ツ）原、藤原、田代―小林
▽本塁打　小南（ツ）

ＪＦＥ西	打	安	点
③	原	3	0	0
Ｈ	高土上新綿古鳥河氷後	1	0	0
Ｈ⑨	井西田屋田中井内山藤	1	0	0
④	田井西田屋田井内山藤	4	1	0
Ｄ	高土上新綿古鳥河氷後	4	2	0
⑤	井西田屋田中井内山藤	4	1	0
⑦	土上新綿古田鳥河氷後	3	0	0
⑥	井西田屋田中井内山藤	4	1	0
⑧	土上新綿古田鳥河氷後	3	0	0
②	井西田屋田中井内山藤	3	0	0
計		31	4	0

ＪＲ西日本	打	安	点
⑥	杉本	4	1	0
③	田村	3	1	0
⑧	大土西	3	1	0
⑤	倉居野	3	1	0
Ｄ	土西佐	4	2	0
ＲＤ	植藤本	4	0	0
⑦	戸本田	0	0	0
⑨	安田井	3	2	0
②	櫻	2	0	1
④		2	0	0
計		27	9	2

	Ｆ	振	球	犠	盗	失	残	併
Ｒ	6	4	3	4	1	0	7	0
	3	3	0	0	0	1	0	0

投	手	回	安	責
岩	山	3⅔	6	2
津	本	4⅓	3	0
花	村	9	4	0

▽二塁打　植本、田村▽２時間22分

▽第１代表決定トーナメント準決勝
伯和ビクトリーズ
０００　０００　０１０　１
０００　００１　０１×　２
ＪＲ西日本
（伯）平岡、高橋―橋本
（Ｊ）中岡、大畑―安田
日本製鉄山口
０００　２００　００　２
０００　８０２　０２　12
ＪＦＥ西日本
（八回コールド）
（日）中里、山久、加納、森、渋谷―寺嶋
（Ｊ）筒井、尾田、岩本龍―後藤
▽第２代表決定トーナメント１回戦
ショウワコーポレーション
１００　００１　０００　３　５
００１　００１　０００　０　２
シティライト岡山
（延長十回、十回からタイブレーク）
（コ）橋本、岸川、福島章、引地―内之倉
（岡）野林、荒田、稲葉―筒井
▽本塁打　堀（コ）
▽第２代表決定トーナメント２回戦
ショウワコーポレーション
１２０　０００　０００　３
００１　２１０　００×　４
伯和ビクトリーズ
（シ）寺田、岸川、磯村、高田―内之倉
（伯）飯田、成田―橋本
ツネイシブルーパイレーツ
００１　０００　３００　４
０００　００１　０００　１
日本製鉄山口
（ツ）深田、藤原、松尾、東田―小林
（日）武藤、加納、畝、下江―寺嶋
▽第１代表決定戦
ＪＦＥ西日本
０００　０００　０００　０
０１０　２００　００×　３
ＪＲ西日本
（ＪＲ西日本は４年連続８回目）
▽第２代表決定トーナメント３回戦
ツネイシブルーパイレーツ
０００　０００　２００　０　２
０００　１００　０１０　１　３
伯和ビクトリーズ
（延長十回、十回からタイブレーク）
（ツ）東田、藤原、松尾―小林
（伯）平岡、高橋、谷―橋本
▽第２代表決定戦
ＪＦＥ西日本
１００　００１　０１３　６
０００　０００　０００　０
伯和ビクトリーズ
（ＪＦＥ西日本は４年連続14回目）

ＪＦＥ西	打	安	点
③	原	3	1	0
Ｈ	高土上新綿古鳥河氷後	1	0	0
ＨＲ⑨	井西田屋田中井内山藤	4	1	0
④	田井西田屋田井内山藤	4	4	0
Ｄ	高土上新綿古鳥河氷後	4	2	0
⑤	井西田屋田中井内山藤	5	2	0
⑦	土上新綿古田鳥河氷後	3	0	0
⑥	井西田屋田井内山藤	4	1	0
⑧	土上新綿古田鳥河氷後	4	0	0
②	井西田屋田中井内山藤	4	1	0
計		34	10	4

伯和	打	安	点
⑤	新倉	4	1	0
④	徳吉	4	0	0
⑥	福元	4	0	0
⑦	山上	4	2	0
９	山本	4	1	0
③	古本	3	0	0
４	都宮	0	0	0
Ｄ	宇濱	3	0	0
ＲＤ	大野	3	0	0
⑨	矢川	3	0	0
７	好本	3	2	0
②	橋川	2	1	0
Ｈ	中井	3	1	0
⑧	向	0	0	0
計		30	3	0

	Ｊ	振	球	犠	盗	失	残	併
伯	3	9	10	0	3	1	14	1
	1	0	0	0	0	1	0	1

投	手	回	安	責
長	野	9	3	0
飯	田	3	3	1
高	橋	2	2	0
平	岡	3⅓	3	1
谷		2⅔	2	3

▽二塁打　新田、高田、原、後藤、谷▽暴投　大濱▽２時間35分

ＪＲ四国２年ぶり14回目

四　国

（代表１＝前回は四国銀行）

強力な投手陣を擁するＪＲ四国が２年ぶりに出場権を奪還した。２次予選の１回戦では、近藤が九回途中１失点の好投を見せて松山フェニックスに逆転勝ち。代表決定戦では、川合が昨年10月に創部したイワキテックを被安打５で完封した。イワキテックは１回戦で四国銀行に快勝したが、代表決定戦では２失策が響いた。四国銀行、松山フェニックスは打線が振るわなかった。

○…１次…○

◇**四国**（高知・春野）

▽リーグ戦

四国銀行９―３アークバリア
イワキテック６―２徳島倶楽部
ＪＲ四国８―０松山フェニックス
松山フェニックス17―０徳島倶楽部
イワキテック３―０アークバリア
四国銀行２―２ＪＲ四国
ＪＲ四国３―１イワキテック
四国銀行２―１松山フェニックス
徳島倶楽部３―２アークバリア
四国銀行18―１徳島倶楽部
ＪＲ四国６―０アークバリア
イワキテック５―４松山フェニックス
（四国銀行、ＪＲ四国、イワキテックは２次予選へ）

松山フェニックス６―１アークバリア
ＪＲ四国８―０徳島倶楽部
イワキテック３―１四国銀行
（松山フェニックスは２次予選へ）

○…２次…○

（高知・春野）

▽１回戦

松山フェニックス	000	010	000	1
ＪＲ四国	000	020	00×	2

（松）田中、高松、阿部―古和田
（Ｊ）近藤、山本―森下

四国銀行	000	000	100	1
イワキテック	000	120	10×	4

（四）菊池、佐田、田井―大河
（イ）佐藤大、塩田、加藤―吉尾

▽代表決定戦

イワキテック	000	000	000	0
ＪＲ四国	003	120	00×	6

（ＪＲ四国は２年ぶり14回目）

西部ガス２年ぶり８回目
ホンダ熊本２年ぶり18回目

九　州

（代表２＝前回はＫＭＧホールディングスと沖縄電力）

西部ガスが８年ぶりの第１代表。最高殊勲選手の松山が打線を引っ張り、投手陣も右腕の高椋を中心に安定感があり、投打がかみ合った。ホンダ熊本は初戦の黒星で第２代表決定トーナメントへ回ったが、ここで５連勝。５試合で10本塁打と強打を発揮した。昨年代表のＫＭＧホールディングスは打線の決定力を欠き、沖縄電力は投手陣が粘れずに連続出場を逃した。

○…１次…○

◇**福岡**（北九州市民ほか）

▽１回戦

エーアールライズ10―２ＡＲＣ九州

▽代表決定戦

ＪＲ九州７―５ＲＥＸパワーズ
日産自動車九州９―３嘉麻市バーニングヒーローズ
（ＪＲ九州と日産自動車九州は２次予選へ）
西部ガス６―０エーアールライズ
（西部ガスは２次予選へ）
ＧＥＮＥＳＩＳ２―０沖データコンピュータ教育学院
（ＧＥＮＥＳＩＳは２次予選へ）

◇**中九州**（さがみどりの森ほか）

▽１回戦

佐　賀　魂15―３ＳＵＮホールディングス長崎
宮崎梅田学園８―１九州工科自動車専門学校
佐伯市野球団５―１九州総合スポーツカレッジ

▽代表決定戦

日本製鉄九州22―０佐　賀　魂
佐伯市野球団３―２熊本ゴールデンラーク
ホンダ熊本18―０ＢＥＺＥＬ ｓｐｏｒｔｓ ａｃａｄｅｍｙ
（日本製鉄九州、佐伯市野球団、ホンダ熊本は２次予選へ）

◇**南九州**（宮崎・アイビースタジアム）

▽１回戦

宮崎福祉医療カレッジ９―０薩摩ライジング

▽準決勝

宮崎梅田学園８―１宮崎福祉医療カレッジ
鹿児島ドリームウエーブ７―０新　海　屋

▽代表決定戦

宮崎梅田学園７―０鹿児島ドリームウエーブ
（宮崎梅田学園は２次予選へ）

◇**沖縄**（沖縄セルラースタジアム那覇）

▽１回戦

300	000	000	3
000	002	000	2

ビッグ開発クラブ
（日）七俵、木村―与座、田中怜
（ビ）大山、護得久―比嘉、玉城
宮崎梅田学園

000	002	010	3
100	000	001	2

ホンダ熊本
（宮）徳永、仲道、田中、大久保―中里
（エナジックは２次予選へ）

○…２次…○

（福岡・小郡市野球場ほか）

▽第１代表決定トーナメント１回戦

佐伯市野球団

000	103	000	4
000	000	000	0

日産自動車九州
（佐）前薗、中矢―管原
（日）高比良、永本、白水、田村―三宅
日本製鉄九州

300	000	000	3
000	002	000	2

ビッグ開発クラブ
（日）七俵、木村―与座、田中怜
（ビ）大山、護得久―比嘉、玉城
宮崎梅田学園

000	002	010	3
100	000	001	2

ホンダ熊本
（宮）徳永、仲道、田中、大久保―中里

イワキ	打	安	点
⑥松	3	1	0
⑨重	4	1	0
⑧中	3	1	0
③石	4	0	0
④益	4	1	0
②吉	4	0	0
⑤杉	3	0	0
ＤＨ鳥	3	0	0
Ｄ片	3	1	0
⑦坂　田	3	1	0
見	3	1	0
村	3	0	0
原	3	0	0
田	3	0	0
尾	3	0	0
田	3	0	0
尾	3	0	0
山	3	0	0
本	3	0	0
計	30	5	0

ＪＲ四国	打	安	点
⑨根	4	1	0
⑧脇	4	2	1
⑦岡	4	1	0
Ｄ崎	4	1	0
⑥田	4	3	1
Ｈ持	3	1	0
③田	1	0	0
Ｈ尾	2	1	0
④濃	2	2	0
⑤村	3	2	0
②林	3	1	1
計	31	8	4

イ	10	2	0	0	2	5	1	併
振	球	暴	盗	失	残	併	2	
Ｊ	2	2	0	3	0	3	2	

投	加	高	塩	川	合	手	藤	畑	田	回	4	2/3	2/3	2/3	9	安	7	1	0	5	0	責	4	0	0

▽二塁打　片山、井脇　▽２時間25分

（H）島袋、片山―蓑尾、丸山
▽本塁打　中里（宮）

GENESIS
000 000 000 0
001 201 00× 4

エナジック
（G）徳川、井上、安里、藤本、今村―徳永
（エ）大嵩、仲本、宮城、仲尾次―佐久田
▽本塁打　宮平、田中（エ）
▽第1代表決定トーナメント2回戦

佐伯市野球団
000 010 000 1
100 032 30× 9

KMGホールディングス
（佐）塩見、都、中矢、安藤―管原
（K）西山、福田、平野、荻原―入江、角田
▽本塁打　高岸（佐）峯（K）

宮崎梅田学園
100 002 000 3
311 000 10× 6

西部ガス
（宮）大久保、名和―中里
（西）高椋、岩崎、大畑、村田―金沢、松山
▽本塁打　中里（宮）安永

（西）

日本製鉄九州
200 010 000 1 4
010 001 010 0 3

JR九州
（延長十回、十回からタイブレーク）
（日）金栗、七俵、鶴橋、山田拓―与座
（J）鷲崎、平野、井上―藤江、菊池
▽本塁打　菊池（J）

エナジック
320 001 000 6
020 024 00× 8

沖縄電力
（エ）古堅瑞、仲本、仲尾次―佐久田
（沖）当山、安里海―山川
▽本塁打　小浜、嘉数（沖）
▽第2代表決定トーナメント1回戦

宮崎梅田学園
020 010 000 3
100 200 040 7

日産自動車九州
（宮）仲道、田中、名和―中里、日野
（日）白水、田村、菊池、高比良、蛭子―三宅、房前、吉見
▽本塁打　松尾（日）

ビッグ開発クラブ
100 600 000 7
030 011 24× 11

エナジック
（ビ）護得久、大山―比嘉
（エ）宮城、上間―佐久田
▽本塁打　山口（ビ）

ホンダ熊本
020 025 05 14
000 000 00 0

佐伯市野球団
（八回コールド）
（ホ）寺沢、高橋、米倉―丸山、竹葉
（佐）前薗、立木、中矢、安藤、都―管原
▽本塁打　稲垣、古寺、高垣2（ホ）

GENESIS
001 020 001 4
030 203 00× 8

JR九州
（G）今村、徳川、赤司、安里、藤本―徳永
（J）植木、足立、平野、稲山、浦川―菊池
▽本塁打　徳永（G）山田（J）
▽第1代表決定トーナメント準決勝

日本製鉄九州
000 000 010 1
100 111 00× 4

KMGホールディングス
（日）金栗、七俵、中村―与座、田中怜
（K）西山―入江

西部ガス
302 241 0 12
000 000 1 1

沖縄電力
（七回コールド）
（西）高椋、松本、山田―松山
（沖）当山、山城悠、元、新垣、狩俣、内間―山川、具志頭
▽本塁打　松山（西）
▽第2代表決定トーナメント2回戦

宮崎梅田学園
000 020 020 4 8
030 000 100 0 4

エナジック
（延長十回、十回からタイブレーク）
（ホ）横川、島袋、片山―丸山
（J）鷲崎、井上―菊池
▽本塁打　稲垣（ホ）

（宮）名和、仲道、大久保―中里
（エ）大嵩、上間―佐久田
▽本塁打　片山（宮）田中、大原（エ）

ホンダ熊本
000 000 400 2 6
000 200 002 0 4

JR九州
（延長十回、十回からタイブレーク）
（ホ）横川、島袋、片山―丸山
（J）鷲崎、井上―菊池
▽本塁打　稲垣（ホ）

西部ガス

		打	安	点
⑨	樋口	3	0	0
⑦	永利	4	2	0
③	井手	4	1	0
D	安永	4	0	0
②	松山	4	3	1
⑤	柴田	3	1	0
⑥	八木	3	0	1
④	古川	3	1	0
⑧	正木	3	1	0
	計	32	9	2

KMG

		打	安	点
⑧	峯	4	0	0
⑥	風岡	3	2	0
④	三野原	4	1	0
⑤	仁木	2	0	0
⑦	河野	4	1	0
⑨	林	3	1	0
D	田中	4	0	0
②	入江	4	0	0
③	角田	3	1	0
H		1	0	0
	計	32	6	0

	3	1	2	0	1	6	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
K	9	4	2	0	0	10	1

	投手	回		安	責
大岩	畑崎	4	⅓	4	0
山高	田椋	1	⅔	0	0
		3		1	0
西	山	9		9	1

▽本塁打　松山（西山）▽三塁打　入江▽林▽捕逸　入江▽2時間30分

Honda熊本

		打	安	点
⑦	中島	3	1	0
⑤	江頭	3	0	0
⑨	山本	4	3	4
③	古寺	4	1	0
⑧	稲垣	4	2	0
D	根本	4	2	0
④	垣内	2	0	0
H	高田	2	0	0
4	和崎	2	0	0
②	江山	1	0	0
⑥	丸井	4	1	2
	上	3	1	0
	計	30	9	6

KMG

		打	安	点
⑧	峯	5	0	0
⑥	風岡	4	2	0
④	三野原	2	1	0
⑤	仁木	4	1	0
⑦	河野	4	2	0
⑨	林	3	1	0
D	田中	3	0	0
H	吉岡	1	0	0
②	入江	1	0	0
H2	角田	3	2	1
③	中島	4	0	0
	計	34	9	1

	5	7	4	0	0	8	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
K	8	3	0	0	1	9	2

	投手	回		安	責
投寺	澤	3	⅓	3	1
島	袋		⅓	1	0
片	山	5	⅓	5	0
福	田	2	⅔	3	3
荻	原	4	⅓	2	0
西	山		⅔	2	2
平	野	1		2	1
	中		⅓	0	0

▽本塁打　山本2（福田）丸山（西山）▽三塁打　山本▽二塁打　仁木▽暴投　福田▽2時間39分

▽第２代表決定トーナメント３回戦
宮崎梅田学園
100 000 003 4
100 300 33× 10
日本製鉄九州
（宮）田中、名和、仲道、大久保―中里
（日）木村、中村、浦岡―田中怜

▽本塁打　中野（日）
沖縄電力
000 110 001 3
000 410 10× 6
ホンダ熊本
（沖）安里海、狩俣、内間、亀里―山川
（ホ）寺沢、島袋、高橋、中村―丸山

▽本塁打　稲垣（ホ）
▽第１代表決定戦
西部ガス
000 100 001 2
000 001 000 1
KMGホールディングス
（西部ガスは２年ぶり８回目）

▽第２代表決定トーナメント４回戦
日本製鉄九州
000 000 000 0
000 110 21× 5
ホンダ熊本
（日）油布、七俵、金栗、山田拓―与座、田中怜
（ホ）横川、島袋、片山―丸山

▽本塁打　丸山（H）
▽第２代表決定戦
ホンダ熊本
102 000 021 6
000 100 000 1
KMGホールディングス
（ホンダ熊本は２年ぶり18回目）

◇第96回都市対抗野球大会出場チーム◇

代表地区		都市	チーム名	出場回数
推薦		横浜市	三菱重工East	（３年連続15回目）
北海道		札幌市	JR北海道硬式野球クラブ	（５年ぶり17回目）
東北	①	仙台市	JR東日本東北	（５年連続31回目）
	②	かほ市	TDK	（３年ぶり18回目）
北信越		長野市	信越硬式野球クラブ	（６年ぶり25回目）
北関東	①	太田市	SUBARU	（３年連続30回目）
	②	鹿嶋市	日本製鉄鹿島	（２年ぶり23回目）
	③	日立市	日立製作所	（３年ぶり41回目）
南関東	①	さいたま市	日本通運	（11年連続50回目）
	②	千葉市	JFE東日本	（２年連続27回目）
東京	①	東京都	鷺宮製作所	（３年ぶり17回目）
	②	東京都	東京ガス	（５年連続26回目）
	③	東京都	Honda	（２年ぶり38回目）
	④	東京都	JR東日本	（16年連続28回目）
西関東	①	横浜市	ENEOS	（６年連続55回目）
	②	川崎市	東芝	（２年ぶり45回目）
東海	①	豊田市	トヨタ自動車	（11年連続27回目）
	②	大垣市	西濃運輸	（５年連続42回目）
	③	鈴鹿市	Honda鈴鹿	（３年ぶり27回目）
	④	岡崎市	三菱自動車岡崎	（３年連続15回目）
	⑤	浜松市	ヤマハ	（７年連続46回目）
	⑥	春日井市	王子	（３年連続20回目）
近畿	①	大阪市	NTT西日本	（11年連続36回目）
	②	大阪市	日本生命	（３年連続64回目）
	③	姫路市	日本製鉄瀬戸内	（２年連続34回目）
	④	大阪市	大阪ガス	（３年ぶり29回目）
	⑤	門真市	パナソニック	（２年ぶり57回目）
中国	①	広島市	JR西日本	（４年連続８回目）
	②	福山市	倉敷市・JFE西日本	（４年連続14回目）
四国		高松市	JR四国	（２年ぶり14回目）
九州	①	福岡市	西部ガス	（２年ぶり８回目）
	②	大津町	Honda熊本	（２年ぶり18回目）

※丸囲み数字は代表順位

ヤマハが8大会ぶり2回目の優勝

第50回　社会人野球日本選手権大会

日本生命が準優勝
東海勢10チーム出場

第50回社会人野球日本選手権大会（毎日新聞社、日本野球連盟主催、大阪市共催）は11月12日、大阪市の京セラドーム大阪で決勝があり、ヤマハ（静岡）が日本生命（大阪）に2―1で勝ち、第42回大会（２０１６年）以来、８大会ぶり2回目の優勝を果たした。

最高殊勲選手には先発3試合を含む全5試合に登板し、決勝でも先発して1失点完投したヤマハの佐藤廉投手が選ばれた。日本生命は第41回大会（15年）以来、９大会ぶり4回目の優勝はならなかった。

閉会式では毎日新聞社の砂間裕之・取締役常務執行役員からヤマハの大本拓海主将に優勝旗「ダイヤモンド旗」が贈られた。

大会は、都市対抗を制した王子（愛知）、全日本クラブ選手権を連覇したマツゲン箕島硬式野球部（和歌山）、対象ＪＡＢＡ大会の優勝チームと、全国各地区の予選を勝ち上がった計32チームが出場し、10月28～30日、11月4～12日の12日間の日程で開催された。ＪＡＢＡ11大会のうち半数以上の６大会を制した東海勢から10チームが出場し、ヤマハと、東邦ガス（愛知）、三菱自動車岡崎（愛知）、Ｈｏｎｄａ鈴鹿（三重）の４チームがベスト8に進んだ。

Ｈｏｎｄａ鈴鹿の井村勇介投手が1回戦のＪＲ西日本戦で、史上２人目となる完全試合を達成した。第43回大会（２０１７年）で、ＪＲ東日本東北・西村祐太投手が新日鉄住金広畑戦で記録して以来。前回覇者のトヨタ自動車（愛知）は、住友金属を抜く歴代単独最多８回目の優勝を狙ったが、２回戦でＨｏｎｄａ鈴鹿との東海対決に敗れた。

第50回記念事業として、社会人出身のプロ選手らが始球式を務める「レジェンド始球式」が企画され、決勝では、大阪ガス出身で阪神の近本光司選手が登場した。


【日本生命―ヤマハ】優勝して喜ぶヤマハの選手たち

ミキハウス、応援団頂点

日本選手権で3度目を迎えた応援団コンクールは、ミキハウス（大阪）が最優秀賞、ＪＲ東海（愛知）が優秀賞に輝いた。

出場32チームの1回戦16試合の応援を対象に審査された。ミキハウスは同社を象徴するカラーの赤いタオルでスタンドを染めた。子供服メーカーらしく、ステージ上のパフォーマンスには子供たちも参加。手作り感のある応援が感じられ、２０２４年の優秀賞に続く受賞となった。

ＪＲ東海は応援団、ブラスバンドがほぼ会社のメンバーで構成され、五回終了時の演技はステージとスタンドに一体感があった。攻撃時は立ち上がっての応援で、勝利を呼び寄せたと評価された。


チームカラーの赤色のタオルを広げて
選手を後押ししたミキハウスの応援スタンド



【東京ガス―マツゲン箕島】七回表東京ガス2死二塁、仲俣が適時打を放つ

◇**第1日**（10月28日）

1回戦3試合が行われた。開幕試合は東京ガスがマツゲン箕島に5―2で勝ち、2大会ぶりに初戦突破した。鷺宮製作所は東海理化を7―6で破り、3大会ぶりに2回戦に進んだ。前回準優勝のHondaはミキハウスに6―0で零封勝ちし、3大会連続で初戦を突破した。

東京ガス、ミス帳消し打

▽第1試合＝1回戦

東京ガス（東京）	0	1	0	0	0	0	4	0	0	**5**
マツゲン箕島（和歌山）	1	0	0	0	0	0	0	1	0	**2**

東京ガスが終盤の集中打で逆転勝ちした。二回に中尾の適時打で追いつき、七回は仲俣の適時打を皮切りに5連打で一挙4点を奪った。先発の臼井は粘りの投球で、8回2失点。マツゲン箕島は八回に冨田の適時打で1点を返したが、反撃が遅かった。

勢いづき5連続安打

ミスを帳消しにし、沈んだムードを一掃するほど価値ある一打だった。

東京ガスは同点の七回、先頭打者から2者連続の四球で無死一、二塁の好機を作った。さらに好機を広げようとバントを試みた4番の内海貴斗だったが、前進してきた一塁手の前に転がしてしまい、併殺打に。最悪の結果となってしまい、ベンチの空気は重くなった。

2死二塁となって打席に向かったのは、5番の仲俣慎之輔だ。「逆境の時こそ、割り切れるというか。平常心で自分にできることをやろうと思った」と冷静だった。

追い込まれた後の5球目。140㌔の外寄りの直球をバットの先に乗せて中前に運び、待望の勝ち越し点をもたらした。仲俣の適時打を皮切りに勢いづき、この回5連続安打で4得点。勝負の流れを一気に引き寄せた。

クラブ王者のマツゲン箕島に先制され、打線も攻めあぐねた。それだけに松田孝仁監督は「（相手の）投手力は企業チームを上回ると思っていた。あそこ（七回）は4番の内海だが1点勝負だった。仲俣がよく応えてくれた。仲俣さまさまです」と胸をなで下ろした。

今季は「右肩上がり」がチームの合言葉だ。出塁時に選手が見せる指先を斜めに上げたポーズも合言葉が元になっている。

「打線もチーム状態もだんだん上がっていけばいい」と仲俣。勢いに乗れるかどうかは、3大会ぶりの2勝目が懸かる次の戦いで試される。

マツゲン箕島・白滝恵汰

（一回に先制の適時二塁打を放ち）初回の攻撃は勝つ上で大事だと思っていたので良かった。狙い通りに内角の直球を打てた。良い準備ができていたと思う。

2大会連続でこの舞台に立つことはできたが、（ともに初戦敗退と）悔しい思いで終わっている。来年こそは1勝したい。都市対抗出場も目標になるので、何とか達成できるよう頑張りたい。

滝、崎捕時▽屋、山▽合分大良、白、田試58）西田中▽間審中藤打冨　場時球）加塁、投馬2（審、二村暴　判塁藤、▽吉▽逸間審（近

東京ガス

点	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1
安	1	0	1	0	0	1	1	2	3	1	
打	5	0	3	0	3	5	4	5	3	5	4
尾田	野楠	森沢海俣岡崎馬場									
⑨	9	D	H								
中小	飯藤内仲冨山相馬										
⑧	③	⑤	⑦	⑥	④	②					
D											

計　37　11　5

マツゲン箕島

点	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
安	2	1	0	2	0	0	1	2	0	0	1
打	3	1	5	4	0	4	0	4	0	3	1
井	田滝田浦本中田	里	田谷浅本	林	崎村						
⑨	H	⑧	D	R	③	⑤	⑦	R	④	4	②
浅	岡	松白島杉山竹冨	藤中湯松	宮吉							
D		7									

計　37　11　2

0	併	1	0	1	0	1	3	0			
4	盗	2	0	1	3	2					
0	失	1	0	1	3	2					
0	犠	1									
7	球	0									
10	振	11									

責	2	0									
安	10	1									
回	8	1									
2	3	1	⅔	⅔	⅓						
2											

東マ　奥松中近坂
投臼松　手井崎　田村田藤本



【鷺宮製作所―東海理化】六回表鷺宮製作所２死一、二塁、３点本塁打を放ち喜ぶ花崎（右端）

鷺宮、チャンス逃さず

▽第２試合＝１回戦

									計
鷺宮製作所（東京）	0	0	0	1	0	3	0	0	7
東海理化（愛知）	0	0	1	0	0	0	2	3	6

鷺宮製作所が打ち勝った。四回に野村のソロ本塁打で追いつき、六回には花崎の３ランで勝ち越した。先発左腕・竹丸は七回途中まで投げて１失点。５人の継投で逃げ切った。東海理化は九回に武藤の３ランで１点差に詰め寄ったが、一歩及ばなかった。

ワンショット、勝ち越し弾

積極的に振りにいき、一発で仕留める。鷺宮製作所の花崎成海は、追い求めてきた打撃が最高の結果につながった。

同点の六回２死一、二塁、カウントは３ボール。打者は１球見送ってもいい状況だ。だが、花崎は外寄りに甘く入ってきた直球を振り抜いた。逆方向に高く上がった打球を左翼手が見上げた姿を視界にとらえ、ホームランと確信した。

日本選手権での初アーチが勝ち越しの３ラン。花崎は「今年は（チャンスの場面で）全然打てていなくてチームに迷惑をかけた。ここで打てたのはうれしかったです」とはにかんだ。

日大から入社２年目。高校、大学ではバッティングが評価されたが、社会人の高いレベルでは当初から苦戦した。

都市対抗や日本選手権のようにトーナメントで戦う社会人では、たった１球が勝負を左右する。わずかなチャンスをものにできない選手は試合に出られない。

その中で、チームでは「ワンショット」をテーマにしており、普段の練習から１球で仕留めることを大切にしているという。花崎も課題である打撃の練習に多くの時間を割く中で、「１球を逃さない」ことの大切さを意識してきた。

花崎がこの日放った本塁打を含む３安打は、すべてノーストライクから打った結果だった。相手がストライクを欲しいところで「１球を逃さない」打撃を体現できた。

幡野一男監督も「あれぐらい打てば、クリーンアップも打てる。（積極的に）振る勇気を次に生かしてほしい」と称賛した。

花崎は「２年目は軸になる代。僕も負けずにチームの核となる選手になれるよう頑張りたい」と言葉に力を込めた。

東海理化・武藤健司

（九回、１５４㌔の直球を

鷺宮製作所	打	安	点
⑦ 藪井	5	0	0
⑥ 島野	3	1	0
H 扇谷	1	1	0
6 谷	0	0	0
④ 島優	5	2	2
D 中村	2	2	2
R D 野田	1	0	0
③ 米戸	3	1	0
3 保田	3	1	0
⑤ 千葉	1	0	0
R 5 花崎	4	3	3
② 木代	0	0	0
⑨ 8 西浦	3	0	0
2 佐藤	0	0	0
⑧ 竹原	4	0	0
H 9 村上	3	0	0
藤原	1	0	0
計	36	10	7

東海理化	打	安	点
⑧ 木村	4	1	1
⑨ 福本	5	1	0
⑤ 川上	4	3	0
③ 武藤	4	2	3
D 斎藤	4	1	0
⑦ 鈴木	3	0	0
H 7 河田	2	1	0
④ 中野	2	0	0
H 門叶	1	0	0
4 杉浦	2	1	2
② 池間	4	3	0
⑥ 角田	4	0	0
H 井貝	1	0	0
6 近藤	0	0	0
計	36	13	6

	振	球	犠	盗	失	残	併
鷺	4	4	1	1	0	7	1
東	8	5	2	1	1	10	1

	責	安	打	振	球
竹丸	1	0	2	0	3
菊地	0	2	1	0	0
渡部	0	1	0	0	0
門間	0	0	0	0	0
中隼	0	0	0	0	0
島丸	1	0	2	0	0
手地	3	4	⅔	4	0
丸部	0	2	⅓	2	0
大橋	1	2	1	0	0
添隼	1	1	1	2	0
田地	1	1	1	2	0

本①崎１、田③塁塁▽合分五
▽号花大）（中打打暴時▽味亀
投間審多井、
打（池号③藤優）島上、丸時球）（審）横山
塁（池号武隼）島中川　３（球）（塁）
村野大）（池号三浦試11）野、
田③塁塁▽合分五
１▽▽杉▽間審小
投間審多井、
打（池号③藤優）島上、丸時球）（審）横山
塁（池号武隼）島中川　３（球）（塁）

引っ張り、1点差に迫る右越え3ランを放ち）真っすぐにやられていた試合だからこそ、1球は真っすぐが来ると思っていた。それを仕留められた。応援がすごく、ベンチも誰一人諦めていなかった。1点に泣いたが、良い攻撃だった。



【鷺宮製作所―東海理化】九回裏東海理化1死一、二塁、武藤が3点本塁打を放つ

Honda、要所締め零封

▽第3試合＝1回戦

Honda（東京）	0	1	4	0	0	0	0	0	1	6
ミキハウス（大阪）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Hondaが零封勝ち。先発の片山は緩急を巧みに使い、5回無失点。2番手の岡野も好投し、最後は磯貝が締めた。打線は二回に中村将己の適時打で先制し、三回には三浦、坂口の連続適時打などで一挙4点を奪った。ミキハウスは4失策と守りのミスが響いた。



【Honda―ミキハウス】力投するHondaの先発・片山

点	0	0	1	0	0	1	1	1	0	1
安	0	1	0	2	0	1	0	0	1	0
打	5	4	4	5	0	2	1	3	2	0
Honda		村	野	木	野	城	上	尻	口	浦
③		峯	辻	鈴	藤	金	井	野	小	三
②		村	田	将	口	浦	口	田	津	中
⑧		D								
R							7			
⑦										
H										
⑨										
④										
⑤										
5										
⑥										
計	35	5	0							

点	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安	1	0	1	2	0	0	0	0	0
打	4	4	3	4	2	3	1	3	1
ミキハウス	浦	藤	井	中	沢	原	殿	野	尾
④	田	伊	坂	田	島	猪	神	深	松
⑥	伊	坂	田	島	猪	神	深	松	井
⑧	坂	田	島	猪	神	深	松	井	松
③	田	島	猪	神	深	松	井	松	大
⑦	島	猪	神	深	松	井	松	大	三
⑨	猪	神	深	松	井	松	大	三	
H	神	深	松	井	松	大	三		
D	深	松	井	松	大	三			
D	松	井	松	大	三				
H	井	松	大	三					
②	松	井	松	大	三				
H	井	松	大	三					
⑤	松	井	松	大	三				
H	井	松	大	三					
計	33	5	0						

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
併	残	盗	失	球	振				
1	9	1	4	3	9				
	8	3	1	0	10				
	0	0	4	3	5				
責	安	回							
0	5	3							
0	0	1							
0	0	1							
1	6	⅔	2	2	2				
0	0	⅓	2	2	2				
1	3		2	2	2				
1	3		2	2	2				

投＝片岡磯、高仲松桜、橋本優尾、永井高、藤橋高、打＝野間（3打数1安）、村、吉和、藤葉、二＝遠藤、審＝三浦（球審）、間（塁審）、時合分（塁審）、試＝3時間3分

5年目左腕、5回無失点

DeNAからドラフト4位指名を受けたHondaの先発左腕・片山皓心（ひろみ）が走者を出しながらも要所を締めた。「いいものを見せようとするとよくない力が入る。いつも通りストライクを取っていこうと思った」。持ち前の緩急を駆使して5回無失点に抑えた。

五回も四回に続いて満塁のピンチを招いた。味方のエラーをきっかけにした1死満塁の場面で、ミキハウスの4番・田中秀政を迎えた。追い込んでから139キロで詰まらせた打球は、左翼への浅い飛球。深く守っていたコーチ兼任の井上彰吾がスライディングしながら好捕した。片山は「ベテランならではの球際の強さ」と感謝した。その後、次打者も二飛に打ち取った。

茨城・日立一高、桐蔭横浜大を経て入社5年目で、31日には27歳の誕生日を迎える。社会人になってから左肘の手術を2度受けた苦労人だ。片山のドラフト指名について、多幡雄一監督は「みんなが喜んだ。片山は試合以上にガッツポーズをしていた」と振り返る。

片山は、トヨタ自動車との昨年の日本選手権決勝で先発したが、一回に3ランを浴びて2回3失点でマウンドを降りた。

「野球人生で一番悔しい思いを経験した。その悔しさを晴らしたいと1年間、頑張ってきた。勝って終わりたい」

社会人最後となる大会、日本選手権の優勝旗をつかみにいく。

ミキハウス・高橋優貴

（体調不良の桜井俊貴投手に代わって先発し）今季最後

の大会で一つでも多く（白星を）と思っていたが、悔しい。



【Ｈｏｎｄａ―ミキハウス】力投するミキハウスの先発・高橋

基本重視、土台鍛えられた

レジェンド始球式

大阪ガス・能見篤史さん、2大会連続準Ｖ

プロ野球の阪神などで投手として活躍した能見篤史さん（46）が第3試合の始球式に登場した。

今大会は第50回の記念事業として、社会人野球出身の元プロ選手が「レジェンド始球式」を行う。能見さんはマウンドに立つと、左腕から現役時代さながらのフォームで球を投げ込み、スタンドを沸かせた。「ストライクが入って良かったです」と笑顔を見せた。

能見さんは鳥取城北高から大阪ガスに入社し、２００３、04年の日本選手権では投手陣の柱として2大会連続の準優勝に貢献した。大阪ガスでプレーした時間を「土台作りという意味で鍛えられた」と振り返り、「走る、投げるという基本を重要視しているのが社会人野球。育ててもらったし、もっと発展してほしい」と語った。

◇初のビデオ検証

今大会から採用しているビデオ検証が東京ガス―マツゲン箕島の1回戦で初めて実施された。東京ガスの七回表無死一塁の攻撃で、一塁走者・飯森太慈が二塁盗塁を試み、セーフと判定された。これに対し、マツゲン箕島からビデオ検証の要求があった。検証の結果、判定通りセーフとなった。ビデオ検証は、都市対抗大会では２０２１年の第92回大会から採用している。

◇Ｈｏｎｄａの福島、井上ら10回出場選手表彰

第50回社会人野球日本選手権の主催者は28日、第3試合で登場したＨｏｎｄａの福島由登投手と井上彰吾外野手を10回出場選手として表彰した。

その他の10回出場選手は次の通り。

戸田公星投手（ＪＲ東海）▽中村篤人外野手（ＮＴＴ西日本）▽上西主起外野手（日本生命）





㊤【Ｈｏｎｄａ―ミキハウス】レジェンド始球式をする能見篤史さん　㊦２００４年の日本選手権、シダックスとの準決勝で力投する大阪ガス時代の能見さん

◇第2日（10月29日）

1回戦3試合が行われた。Ｈｏｎｄａ熊本は日本製鉄東海ＲＥＸに7―2で勝ち、準優勝した第48回大会（２０２３年）以来、2大会ぶりに2回戦に進出した。前回大会4強のＪＦＥ西日本は北海道ガスを3―2で破り、3大会連続で初戦を突破した。今夏の都市対抗4強の日本生命はＳＵＢＡＲＵに5―4で逆転勝ちし、2大会ぶりに初戦突破を果たした。

Honda熊本、軽快粘投

▽第1試合＝1回戦

Ｈｏｎｄａ熊本（熊本）　000 020 032 ― 7
日本製鉄東海ＲＥＸ（愛知）　010 000 100 ― 2

Ｈｏｎｄａ熊本が競り勝った。同点とされた直後の八回、中島の犠飛や稲垣の適時打などで3点を奪取し、九回に井上の2点適時打で突き放した。

先発の島袋は7回2失点。日本製鉄東海ＲＥＸは先発の加藤が八回途中を被安打4と粘投も、3失策と守備が乱れた。

31歳、若手の手本　2失点

緩急を付け、テンポのいい投球で的を絞らせない。Ｈｏｎｄａ熊本のコーチ兼任の左腕、島袋圭亮が7回4安打2失点の粘投で勝利を呼び込んだ。

１４０キロ近い直球と球速差の少ないカットボールが有効

Honda熊本	打	安	点
⑨山中	5	1	0
⑦稲古	3	0	1
⑧宮和	4	1	1
③正江	3	1	0
ＤＨ森	1	0	0
Ｒ④江	0	0	0
⑤丸	3	1	0
②井	3	2	0
⑥上	3	0	3
計	29	8	5

東海ＲＥＸ	打	安	点
⑨本々	3	0	0
⑥木南	4	0	0
⑦田塚	3	2	0
Ｄ丸川	4	1	0
⑧保本	4	2	0
⑤村野	4	0	0
③川	3	0	0
Ｈ佐長岡	1	0	0
④大市石	2	0	0
Ｈ阿宮吉	1	0	0
②平中	3	0	0
計	33	6	2

投島片	回 7 2/3	失 1	自 3	責 2
加吉	手袋山 7 2	藤川	4 4	安 4 2
	0 6 0	1 4 0	併 0	0 2 1
	盗 0 1	残 6	振 8	球 2 0

▽時間　2時間31分
▽審判（球審）横藤市（丸市袋）、（一塁）武上昌（打島袋）、（二塁）丸井（①島袋）、（三塁）西山（①号本塁打）
▽良好
▽試合②号



【Ｈｏｎｄａ熊本―日本製鉄東海ＲＥＸ】五回裏日本製鉄東海ＲＥＸ２死三塁、佐々木を遊ゴロに抑え、笑顔を見せるＨｏｎｄａ熊本の先発・島袋

だった。「自分のリズムが作れていた」。ストライクゾーンを広く使い、凡打の山を築いた。

最大のピンチは０―１の四回２死一、三塁の場面。日本製鉄東海ＲＥＸの７番・石川雅晴を追い込み、４球目の外角直球で空振り三振を奪った。直後に味方打線が逆転し、流れを呼び込む投球だった。

10年目の今季からコーチを兼ねる。試合中、リリーフとしてマウンドに上がれば一選手として試合に集中し、交代すれば他の投手に肩を作るタイミングを指示するなどコーチとして忙しく過ごす。

９月の都市対抗１回戦ではハプニングに見舞われた。六回からマウンドに上がって投球練習を始めたが、試合に出場できる25人に登録されておらず交代が認められなかった。チームも敗れて悔しさを感じたものの、「この借りは日本選手権で返すしかない」と気持ちを切り替えた。

コーチ兼任となってからは「悪いピッチングはできない」と気を引き締めている。若手投手の手本になるような投球を見せた31歳に、渡辺正健監督は「島袋がしっかりと抑えてくれたことが、競り勝てたゲームにつながった」と目を細めた。

次戦以降もブルペンで後輩たちの様子を見つつ、島袋は自身の登板にも意欲を見せる。「いつでも行ける準備はしている」。ベテランの一言は頼もしい。

東海ＲＥＸ・市丸２発

日本製鉄東海ＲＥＸ・市丸紘樹

社会人の公式戦で本塁打は初めて。１本目はちょっと上がりすぎたかなと。ライトの人も足が止まっていたので、アウトかなと思ったけど、びっくりした。２本目の方がいったかなという感触だった。（２本塁打は）自分でもびっくりです。



【Ｈｏｎｄａ熊本―日本製鉄東海ＲＥＸ】七回裏日本製鉄東海ＲＥＸ無死、市丸が本塁打を放つ

JFE西、鉄壁救援陣

▽第2試合＝1回戦

北海道ガス（北海道）　001 000 010　2
JFE西日本（広島）　101 000 10×　3



【北海道ガス―JFE西日本】力投するJFE西日本の筒井

JFE西日本が逃げ切った。一回に綿屋の犠飛で1点を先取し、同点の三回には古田の適時打で勝ち越し。七回は暴投で1点を加えた。先発の長野が試合を作り、5人の継投でリードを守った。北海道ガスは三重殺でピンチをしのぐなど粘ったが、及ばなかった。

三重殺動じず、窮地脱す

まさかのプレーだった。JFE西日本は七回無死満塁の攻撃で、三ゴロ三重殺を完成させられた。押せ押せムードが一転した試合で踏ん張ったのは、3番手の右腕・筒井恒匡（つねまさ）だ。

三重殺はブルペンのモニターで見ていて「びっくりした」という。チームは八回に1点を失い、得点は3―2。2死二塁で筒井はマウンドへ向かった。2死を取ってからの失点で、登板を告げられたのは「一度肩を作って、もう一度キャッチボールをしようかなというタイミング」。準備は万全ではなかったが、動揺はなかった。

「打者2人でアウト一つを取ればいい」

北海道ガスの6番・長谷川寛を2球で追い込んだ後に1ボールを挟み、最後は持ち味のフォークで中飛に仕留めて窮地を脱した。九回は2死二塁のピンチを招いたが、後を受けた投手陣が本塁を踏ませなかった。

薄氷を踏むような展開でも救援陣が腹をくくれたのは、オープン戦から重要な試合を想定しているからだ。救援陣は予定イニングをきっちりと決めず、展開次第の柔軟な継投を準備することが多い。

筒井は「急にマウンドに行くことにみんな慣れている」と言う。日体大から入社4年目の今季は救援が中心。以前は完璧な準備を求めていたが、今では「ブルペンで一度良い感覚ができれば、あとはマウンドで合わせればいい」と割り切れるようになった。

今夏の都市対抗では1回戦で7人、2回戦で5人が登板したJFE西日本。「鉄壁の救援陣」は、日ごろの鍛錬でできている。



【北海道ガス―JFE西日本】一回裏JFE西日本1死満塁、犠飛で先制を許し汗をぬぐう北海道ガスの先発・村上

北海道ガス・村上大芽

（連打を浴びた七回は）カウントを悪くしてしまって、相手に（狙い球を）絞らせすぎたかもしれない。最後は打たれてしまったが、自分の持ち味の直球で勝負できたのはよかった。

北海道ガス	点	打	安
⑥ 武	0	4	2
⑨ 菱	0	3	0
Ｈ 佐	0	4	0
Ｈ 三	1	3	0
⑤ 安	0	3	1
⑦ 高	1	4	2
Ｄ 寺	0	3	2
⑧ 長	1	4	2
④ 小	0	3	1
Ｈ 竹	0	3	0
③ 浅	0	2	0
2 東	0	0	0
Ｈ 中	0	2	0
② 田	0	2	1
Ｈ 渡	0	2	0
3	0	0	0
計	2	37	7

JFE西日本	点	打	安
⑦ 上	0	4	2
⑥ 河	0	4	2
④ 新	1	4	2
⑤ 古	1	3	1
Ｄ 綿	0	4	0
② 篠	0	3	0
⑨ 原	0	4	0
③ 中	0	4	0
⑧ 井	0	3	0
土	0	2	1
永	0	0	0
計	2	29	9

	1併	0
北	9残	7
3	0失	1
5	0盗	1
3	1犠	1
振	球	4
J	6	4

投	責	安	回
村	3	9	6⅔
長	0	0	1
北	0	0	1

長	0	1	6⅔
岩	0	0	1
筒	0	0	1
岩	0	0	⅓
津	0	0	⅓

▽二塁打　寺田2
▽暴投　谷時2
▽合分稲江　審（塁）尻、審（球）士

試53
間審中、
時間審（
（塁）進



【日本生命―SUBARU】六回表日本生命2死二塁、2点本塁打を放ち喜ぶ竹中

日生スラッガー大暴れ

▽第3試合＝1回戦

									計
日本生命（大阪）	0	1	0	0	0	2	0	2	5
SUBARU（群馬）	2	0	0	0	0	2	0	0	4

日本生命がシーソーゲームを制した。1点を追う八回に竹中、高田の連続適時二塁打で逆転。竹中が2本塁打4打点を挙げるなど、打線が計12安打を放って打ち勝った。SUBARUは一回に藤原、外山の2者連続本塁打で2点を先行したが、投手陣が痛打された。

豪快2発と同点打

身長182㌢、体重110㌔。その恵まれた体格から放った豪快な2発のアーチで日本生命を救った。

先発のエース右腕・谷脇弘起が一回にまさかの2者連続本塁打を浴び、先手を許した。

直後の二回の攻撃はあっさりと打ち取られて2死。序盤とはいえ、相手にペースを持っていかれかねない中で左打席に入ったのが6番・竹中研人だった。

2ボールから真ん中に入ってきた直球を見逃さず、強振。「感触は良かった」と、ぐんぐんと伸びた打球が右翼席に届くと、背番号「55」は赤く染まった三塁側スタンドに向けて右手を振った。

さらに1点を追う六回の第3打席では、走者を二塁に置いた場面でフルカウントから浮いた変化球を強引に引っ張った。右翼席上段にたたき込む2ランで逆転に成功した。

再びリードされて迎えた八回には技ありの一打を見せた。2度にわたってけん制死で流れを止められかけたが、2死一塁から外角の直球を鮮やかに流し打った。同点の適時二塁打とし、後続の二塁打で勝ち越しのホームを踏んだ。

長打が魅力だが、今季は好不調の波があって出番が限られていた中、ようやくチャンスをものにした。梶田茂生監督も「もう（きょうは）何も言うことないですね」とほくほく顔だった。

9大会ぶり4度目の頂点に向けて初戦突破。竹中は「一打席一打席が勝負で、勝てれば個人の成績はどうでもいい」。頼もしい23歳がチームを上昇気流に乗せる。

SUBARU・藤原龍之介

（一回の先制本塁打は）真っすぐを狙っていった。長打は狙っていなかったが、いい感じで角度がついて、最高の結果になって良かった。（六回のスクイズ＝記録は内野安打＝は）あるだろうなとは思っていたので、スムーズにサインを実行することができた。

日本一を目標にしていたが、悔しい結果になってしまった。細かいところで日本生命さん

日本生命	打	安	点
⑧	中松	2	0
⑦	津本	3	0
H 7	上西	4	0
③	木倉	1	0
⑨	竹村	5	0
⑤	山田	4	0
D	竹中	4	4
⑥	高上	3	1
④	池本	4	1
H	藤山	2	0
4	船島	1	0
②	三	3	1
	計	36	12

SUBARU	打	安	点
④	日置	3	0
⑨	江川	4	0
⑦	藤原	4	2
③	外山	4	1
②	後藤	3	0
⑧	古川	3	0
D	山田	3	1
⑤	中里	3	0
H	森下	2	0
5	吉田	1	0
⑥	秋山	0	2
	計	30	6

日	5	2	1	3	0	7	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
S	7	1	0	0	0	0	0

		回	安	責
投	谷	5	6	4
投	脇	⅓	0	0
高	木	⅔	0	0
斎	藤	3	0	0
八	田	6	6	3
手	塚	1⅔	5	2
阿	部	1⅓	1	0

▽本塁打　原①（谷脇）
▽号外①（谷脇）
▽号竹①（八野）
▽号中①（田野）
▽号高②（田竹）
▽二塁打　藤山（谷脇）、木村（八野）
▽三塁打　竹中（投手）
▽暴投　高谷（時間合分）
▽試合時間　2（川端、矢石）
▽審判（球審）　川端（塁審）、和田（塁審）

に劣っていた。個々の能力を上げないと勝てないと思った。今年はもっと行けると思っていたので悔しさがある。悔しさをバネに頑張りたい。

◇1試合個人最多本塁打2本＝大会タイ

日本製鉄東海REXの市丸紘樹と日本生命の竹中研人が記録した。市丸はHonda熊本戦で、竹中はSUBARU戦で記録。1試合個人2本塁打は、第49回大会（2024年）でJR東海の吉田有輝が日立製作所戦で記録して以来。



【日本生命―SUBARU】一回裏SUBARU2死、藤原が本塁打を放つ

赤いスタンド、懐かしい

レジェンド始球式

福留孝介さん・中日などで活躍（日本生命）

プロ野球の中日や阪神のほか、米大リーグで野手としてプレーした福留孝介さん（48）が第3試合の始球式でマウンドに上がった。

福留さんはかつての所属先で、現在は特別コーチを務める日本生命のユニホーム姿で登場。低めの球をストライクゾーンに投げ込んだ。「無事に届いて良かった。練習に行った時は打撃投手をすることはあるけど、あれだけ遠くから投げることはないので。明日は肩が上がらないでしょう」と笑顔で振り返った。





㊤レジェンド始球式で投球する福留孝介さん
㊦1996年の日本生命時代の福留さん

福留さんは大阪・PL学園高時代から左のスラッガーとして注目を浴びた。1996年に日本生命に入社し、97年の都市対抗で優勝。98年の日本選手権では4本塁打を放ってチームを準優勝に導いた。「僕はこの球場が好き。（日本生命の）赤いスタンドを見て、すごく懐かしい」と感慨深げだった。

三菱自岡崎	点	打	安
原木奎	0	1	0
川室手	0	2	0
藤川藤	1	3	1
野藤村	0	1	0
菅茂中	0	4	1
古小大	1	5	2
伊西斎	0	4	1
宮内	0	3	1
H6	0	1	0
計	2	30	7

日本製鉄鹿島	点	打	安
本間目	1	4	1
里駿田	0	4	0
田村島	0	4	0
口内谷	0	2	0
林山田	0	4	0
山池生	0	3	0
今山山	0	3	0
松揚福	0	3	0
柳菅小	1	3	1
平冨	0	3	0
HD②	0	0	0
⑤HR4	0	3	0
H④	0	2	0
計	3	33	7

三菱自岡崎	0	併	2	責	2	0	0	時	2
	8	振	6	回	6	⅔	4	球	3
	2	球	1	安	7	⅔	3	審	0
	1	盗	1	失	1	0	0	判	0
	1	犠	1	残	6	1	3	塁	0
	9	打	2	投	手	凌	原	翔	
	7	併	0	秋	山		翔	山	
	3	失	0	神	秋	山	土	佐	金

日本製鉄鹿島	0	併	2	責	2	1	1	時	2
	8	振	6	回	6	⅔	4	球	3
	2	球	1	安	7	⅔	3	審	0
	1	盗	0	失	0	0	0	判	0
	1	犠	1	残	3	1	3	塁	0
	9	打	2	投	手	屋	田	城	
	7	併	0	秋	山		城	山	
	3	失	0	神	秋	山	土	佐	金

時＝2（審）東
球＝3（審）安
審＝0
判＝0（塁）井、
塁＝0
時＝2分、試合
50（審）藤、
審＝亀野▽
武間▽

◇**第3日**（10月30日）

1回戦3試合が行われた。今年の都市対抗準優勝の三菱自動車岡崎は、前回大会8強の日本製鉄鹿島を4―3で降し、3大会連続で初戦を突破した。都市対抗8強のNTT西日本は、7大会ぶり4回目出場で初勝利を目指したFedExに2―1で競り勝ち、5大会ぶりの白星を挙げた。東邦ガスは、8大会連続出場の三菱重工Westに3―2でサヨナラ勝ちし、4大会ぶりの2回戦に進んだ。

大会は11月4日に京セラドーム大阪で再開され、1回戦3試合が行われる。

三菱自岡崎、執念の先制

▽第1試合＝1回戦

三菱自動車岡崎（愛知）　3 1 0　0 0 0　0 0 0　4
日本製鉄鹿島（茨城）　1 0 0　0 0 0　2 0 0　3

三菱自動車岡崎が逃げ切った。一回に小室の適時打と連続押し出し四球で3点を先取。二回は中村奎の適時打で加点した。3番手・秋山翔が2回を無失点で締めた。日本製鉄鹿島は七回に代打・柳内の適時打などで1点差に迫ったが、先発・土屋の乱調が最後まで響いた。

夏の教訓、ベテラン体現

三菱自動車岡崎には、あと一歩、日本一に届かなかった夏の教訓がある。

一回、先頭の菅原裕太が



【三菱自動車岡崎―日本製鉄鹿島】一回表三菱自動車岡崎2死一、三塁、小室が適時打を放つ

ファーストストライクを積極的に振り、左前へ運んだ。そこから犠打などで2死一、三塁の先制機を作り、13年目の小室和弘が打席に立った。日本製鉄鹿島の先発・土屋大和は制球が安定せず、前の打者にストレートの四球を与えていたが、小室に迷いはなかった。1ボールからの2球目、甘く入ってきた直球を中前へはじき返し、先制点をたたき出した。

相手先発投手はストライクを容易に投げられなくなった。後続の打者も3者連続で四球を選び、押し出しでさらに2点を加えた。

梶山義彦監督は「（ストライクを）見ていくなんてことはない。初球からどんどん打ちにいくのがうちの野球。彼を使って良かった」と1点を奪う姿勢を体現したベテランをたたえた。

中盤以降は相手の継投策で追加点を取れず、1点差に迫られたが、今夏の都市対抗で久慈賞（敢闘賞）の左腕・秋山翔も投入し、リードを守り切った。

今夏の都市対抗では決勝まで5試合でわずか5失点。防御率は出場チーム唯一の0点台という高い投手力で勝ち上がった。一方、王子との決勝は3安打に抑えられて1点差で敗れるなど打撃が課題だった。

都市対抗後、コーチを兼任する小室を中心に「どんな形でもいいから1点を取りにいこう」と意識を高めてきたことが形になった。

「投手と野手が融合すれば（頂点を）狙える」と小室。24年ぶりに準優勝した夏のストーリーの続きは、大阪で紡ぐ。

日本製鉄鹿島・土屋大和

（一回は）厳しいところを狙ってボールになり、低めの変化球も見極められた。制球を修正できなかった。上体が突っ込んでいたので、バランスを補おうと、力に頼ったことが悪い方向に行ってしまった。冷静さが足りなかった。



【三菱自動車岡崎―日本製鉄鹿島】力投する日本製鉄鹿島の先発・土屋

| | 点 | 安 | 打 | | |



【ＦｅｄＥｘ―ＮＴＴ西日本】五回裏ＮＴＴ西日本２死三塁、天井が適時二塁打を放つ

同点打、逆転勝ち呼ぶ

迷いのないスイングで放ったライナーが右翼で弾んだ。ＮＴＴ西日本の２番・天井（あまい）一輝（いっぺい）が価値ある同点打を放った。１点を追う五回２死三塁。カウント１ボール２ストライク。５球目の内角高めの直球をコンパクトに引っ張り、適時二塁打とした。「外野手が下がっていた。低く強い打球を打とうと思っていた」。試合を振り出しに戻して後半を迎え、逆転勝ちを呼び込んだ。

迷いなくバットを振れたのは、好打者らしい読みがあったからだ。この打席は全て直球。最後の１球の直前、打席からマウンドの右腕・金井貴之が首を振るのが見えた。決め球のチェンジアップか直球の２択に狙いを絞っていたが、バッテリーの様子を見て「インコースの直球」と直感した。

強い思いで臨む大会だ。広島商高、亜大から入社した走攻守三拍子そろった外野手。２年目の今春、オープン戦で左手首を骨折して靱帯（じんたい）も損傷した。外野守備で前方の打球に飛び込むか迷い、「中途半端になってしまった」。スライディングキャッチを試み、グラブが芝生に引っかかっての大けがだった。

復帰は７月。都市対抗は近畿２次予選に出られず、「３番・指名打者」でスタメン起用された本大会でも思うような活躍はできなかった。「未熟さを感じた」。悔しさを晴らす覚悟で秋を迎えている。

会社がある大阪で開催される日本選手権。「たくさんの方が応援に来てくれる。期待に応えたい」。５大会ぶりの白星は通過点。頂点へ、迷いなく突き進む。

ＦｅｄＥｘ・東海林颯

今日は勝ちたかった。みんながチャンスを作ってくれて、自分が犠牲になってもいいぐらいの気持ちで打席に入った。最後は気持ちで押し負けたと思う。７大会ぶりの出場で、チームで「１勝」を掲げて今日まで頑張ってきた。（大会に連れてきてくれた）先輩方のためにもチャンスは作れた。

三菱重工West	打	安	点
⑨湯青	4	1	1
9北杉	0	0	0
Ｄ西田	4	0	0
⑧根中	4	0	0
③朝来	2	0	0
⑦坂山	1	0	0
Ｈ日下	3	2	0
④之口	3	2	0
⑥木條	3	1	0
⑤浦岡	3	0	0
②井確	2	0	1
7			
計	30	5	2

東邦ガス	打	安	点
⑨大木	3	1	0
ＨＲ松井	1	1	0
⑥⑤村田	0	1	0
Ｄ木下	4	1	1
③林谷	4	4	2
⑦田垣	5	0	0
④口見	4	1	0
⑧金宮	4	1	0
②若柴	4	2	0
虎高	4	1	0
浦氷	4	1	0
計	37	13	3

三	0	1	2
東	2	1	1

	併	犠	盗	残	失
	0	1	0	12	1

投	責	回	安	打	振	球
坂	0	6	7	3	7	2
鷲尾	2	⅓	3	1	1	1
西尾	1	2	3	1	3	0
吉田	1	9	5	1	13	2

▽試合時間　２時間28分
▽審判（塁審）村、本、橋山、内分
▽暴投　鷲尾（球吉）

東邦ガス、完投劇勝

▽第３試合＝１回戦

三菱重工Ｗｅｓｔ（兵庫）	0	0	1	0	1	0	0	0	2
東邦ガス（愛知）	0	0	0	0	0	0	2	0	1

東邦ガスがサヨナラ勝ち。七回に２安打と四球で無死満塁とし、宮下の遊ゴロで１点を返すなど計２点を挙げた。



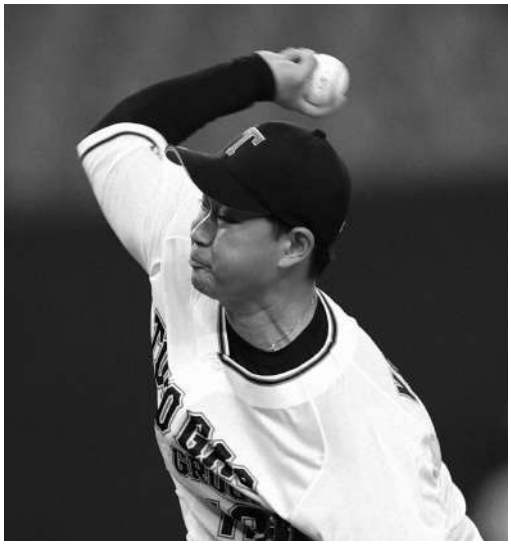
【ＦｅｄＥｘ－ＮＴＴ西日本】三回表ＦｅｄＥｘ１死一、三塁、東海林が犠飛を放つ

て同点。九回1死一、三塁から若林が決勝の左前打を放った。吉田が13三振を奪って完投した。三菱重工Ｗｅｓｔは2点を先行したものの、継投が裏目に出た。

13K、サヨナラ導く

投手陣の分業制が主流となった今の時代、最後までマウンドを守り続けるエースは頼もしく映る。

東邦ガスは元プロ野球・ヤクルトから加わった2年目の右腕・吉田大喜が、八回まで毎回の13奪三振で大会記録まであと二つに迫る力投。2失点で踏ん張り、サヨナラ勝ちを呼び込む大仕事を果たした。



【三菱重工Ｗｅｓｔ―東邦ガス】13奪三振で完投した東邦ガスの吉田

１４０㌔中盤のキレのある直球とスライダー、カットボールを強気にコースに投げ続けた。三回に失策が絡んで失点し、五回にも追加点を許したが、崩れなかった。

九回は6球で2人を打ち取った後、相手の4番・西岡武蔵を直球で押し込んで遊飛に打ち取った。「3人で終われたので良い結果で攻撃につなげられた」。グラブを大きくたたいてベンチへ引き揚げた。宇津野純一監督も「真っすぐで打者を差し込めていた。バタバタと三振を取るタイプではないが、気持ちが入っていた」とたたえた。

大阪・大冠高から日体大を経て、２０１９年のドラフト2位でヤクルトに入団したが、23年に戦力外通告を受けた。宇津野監督から「まだまだ通用する」と声をかけられた。

日ごろからスタンドに駆けつける社員の応援を背に受け、プロ時代から気持ちに変化があったという。「自分のため、家族のためにと思ってやってきたが他の人たちのために頑張りたいという思いは社会人になって強くなった」。淡々と語ったその内面に熱い闘志を秘めている。

三菱重工Ｗｅｓｔ・坂尾浩汰

大事な初戦を任せてもらって、とにかくチームを勝たせられる投球をしようと思ってマウンドに立った。四球も一つだけで制球良く投げられたが、追い込んでから甘く入って安打にされたのが今後の課題。（六回までで交代となり）疲れもあった。実力のなさを感じた。



【三菱重工Ｗｅｓｔ―東邦ガス】力投する三菱重工Ｗｅｓｔの先発・坂尾

ワンバウンドでも笑顔

レジェンド始球式

山口高志さん・阪急で活躍（松下電器）

第1回大会（１９７４年）に松下電器（現パナソニック）のエース右腕として出場し、後にプロ野球の阪急（現オリックス）で活躍した山口高志さん（75）が第3試合の始球式に登場した。

山口さんは振りかぶって投球したが、捕手のミットにおさまる直前でワンバウンドした。「力みましたね。直前のアナウンスで速い球を投げていたと紹介されたので、山なりは放れないなと……。『もう、こんな機会は最後やろ』と思いながら楽しみました」と笑みを浮かべた。





㊤レジェンド始球式の投球を終え、笑顔を見せる山口高志さん
㊦松下電器時代の山口さん

山口さんは兵庫・市神港高のエースとして１９６８年の甲子園大会に春夏連続出場。72年に関西大を全日本大学選手権優勝に導き、翌年に松下電器に入社した。74年の都市対抗では堺市・新日鉄堺の補強選手として、33イニング連続無失点をマークした。

75年に阪急に入団し、速球派投手として活躍。現役引退後は阪神や関西大で指導者を務めるなど、後進の育成に力を注いできた。「（社会人野球は）プロとは違った高揚感、緊張感がある。上のステージで野球を続けられる選手は数少ないが、一人でも多くの人に次のステージを狙ってほしいですね」とエールを送った。

◇**第4日**（11月4日）

ＮＴＴ東日本はＴＤＫに4―1で競り勝ち、2大会連続の2回戦進出を決めた。Ｈｏｎｄａ鈴鹿は、ＪＲ西日本を1―0で降し、6大会ぶりに初戦を突破した。

Ｈｏｎｄａ鈴鹿の先発・井村勇介は、大会史上2人目の完全試合を達成。完封は今大会第1号となった。

大会連覇を狙うトヨタ自動車は、四国銀行に10―0の八回コールドで快勝し、6大会連続で初戦を突破した。

ＮＴＴ東、会心の一撃

▽第1試合＝1回戦

ＮＴＴ東日本（東京）	1	0	0	0	0	0	0	3	4
ＴＤＫ（秋田）	0	0	0	0	1	0	0	0	1

ＮＴＴ東日本が競り勝った。一回に中村の適時二塁打で1点を先取。同点の九回には1死一、二塁から保坂の適時二塁打で2点を勝ち越し、相手の暴投で追加点を挙げた。投手陣は5人の継投で粘り強く守った。ＴＤＫは安打数で上回ったが、好機であと一本が出なかった。

九回、土壇場決勝打

ＮＴＴ東日本の6番・保坂淳介は、打席で腹をくくっていた。「消極的に入るとやられる。割り切ろう」。1―1の九回1死一、二塁。土壇場の積極性が、苦しい展開をはね返した。

マウンドには2番手の小島康明。昨年の都市対抗大会で敢闘賞に相当する久慈賞を獲得した好右腕だ。七回は粘って四球を選んでいたが、第1ストライクを見逃していた。

「制球がよくて、質のいい真っすぐと変化球がある格上の投手。手数を出していくしかない」

反省を生かし、九回は初球を狙い打った。外角の真っすぐに腕を伸ばして引っ張り、左中間フェンス直撃の2点二塁打だ。持ち前のパンチ力を披露し「ほぼ会心の当たり」と拳を突き上げた。中心打者の向山基生をコンディション不良で欠いて二回以降は無得点だっただけに、価値ある一振りだった。

栃木・佐野日大高、中大から入社8年目の正捕手。今年の都市対抗出場を逃したチームとともに、逆襲を誓う秋だ。都市対抗では補強選手としてチームから9人を送り出し、残った保坂らは再起に向けたミーティングを重ねた。

至った結論は「『自分のことをやっていればいい』ではなく、チームのために何ができ



【ＮＴＴ東日本―ＴＤＫ】九回表ＮＴＴ東日本1死一、二塁、保坂が2点二塁打を放つ

ＮＴＴ東日本	点	打	安	振	球	盗	失	残	併
⑦ 道	0	4	0	0	0	0	0	4	1
⑥ 石	0	4	0	0	0	0	0	2	0
⑧ 直	0	2	0	1	0	0	0	1	0
⑤ 中	1	4	1	0	1	0	0	3	0
D 下	0	3	0	1	0	0	0	0	0
② 保	0	4	1	0	0	0	0	1	0
③ 内	0	3	0	1	0	0	0	0	0
5 池	0	4	0	0	0	0	0	0	0
④ 伊	0	3	0	1	0	0	0	0	0
Ｈ 丸	0	1	0	0	0	0	0	0	0
⑨ 井	0	3	0	1	0	0	0	0	0
計	3	33	3	5	1	0	0	11	1

ＴＤＫ	点	打	安	振	球	盗	失	残	併
⑤ 植	0	4	0	0	0	0	0	2	0
④ 太	0	4	0	1	0	0	0	1	0
⑧ 北	0	4	0	0	0	0	0	0	0
⑨ 斎	0	4	0	1	0	0	0	0	0
③ 打	0	4	0	0	0	0	0	1	0
Ｈ 三	0	2	0	0	0	0	0	0	0
ＤＲ 青	0	3	0	1	0	0	0	0	0
Ｈ 下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
② 深	0	1	0	0	0	0	0	0	0
Ｈ 奥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦ 兼	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥ 伊	0	0	0	0	0	0	0	0	0
藤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
夏	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	33	0	4	0	0	0	9	1

	投手	回	安	責
投	嶋	3	4	0
寺	保	4	4	1
長	久井	⅔	0	0
石	崚	⅓	0	0
紫	藤	1	1	0
	堀	6	1	1
鈴	木	2	⅓	2
小	島		⅔	0
田	中			

▽保田、中村、太田▽寺嶋、鈴木、中田▽2塁打　保坂▽3塁打　中間▽暴投　寺嶋▽ボーク　鈴木▽試合時間　2時41分▽審判名（塁）和崎、久平（審）山大（球）間屋（審）三浦、普久

きるのかを突き詰めて全員が行動すること」。保坂自身、この試合の守りでは3者凡退のイニングをなかなか作れず苦心のリードが続いたが、前向きさを失わなかった。

就任1年目の北道貢監督は「『夏の悔しい経験があったから』と言える大会にしたい」。2017年の都市対抗を攻撃野球で制したNTT東日本。この秋も、失敗を恐れずに攻めていく。

TDK・鈴木大貴

あまり相手打線を過大評価せずに向き合った。立ち上がりにバタついたところをうまく得点されたという印象だが、その後はうまく修正できた。いろいろな球種でストライクが取れるようになって、本来のピッチングに戻せた。昨年はフォームがかみ合っていなかったが、今年はそのあたりを見つめ直した。これからまた一段と仕上げて、来季も完走したい。



【NTT東日本―TDK】一回表NTT東日本2死一塁、中村（奥）の打球の行方を見るTDKの先発・鈴木

井村、球史刻む99球 大会2人目、完全試合

▽第2試合＝1回戦

Honda鈴鹿（三重） 000 000 100 1
JR西日本（広島） 000 000 000 0

Honda鈴鹿は、先発・井村が切れのある球をテンポ良くストライク先行で投げ込み、完全試合を達成した。七回に長の中前適時打で奪った1点を守り抜いた。JR西日本は、先発左腕・花村が8回1失点と好投したが、攻撃の糸口を最後まで見いだせなかった。

Honda鈴鹿、エース覚悟

偉業達成が近づいても、トレードマークであるサングラスの下の表情は変わらなかった。

Honda鈴鹿の先発右腕・井村勇介の信条は「マウンドでは感情を出さない」。淡々と多彩な変化球をコーナーに集めて的を絞らせず、一人の走者も許さない快投を見せた。

初回。先頭から1、2番を2者連続で空振り三振に仕留めた。幸先の良い出だしに見えるが、本人の感覚は違った。「甘い球で序盤は打ち取りたかった。三振で乗っていくタイプではないので、三振は嫌だな。後半どうなるのか」。不安がよぎった。

しかし、それも杞憂（きゆう）だった。支えたのが精度の高い変化球だ。「鍵になると思った」とカーブとチェンジアップを効果的にコーナーに投げ分けた。「対策をしてきた」という相手打線から凡打の山を築いた。

ツーシームも効いた。JR西日本で10年目の強打者、田村強が「直球と同じような軌道で来て、少し沈んで、芯を外される。気づいたら（試合が）終わっていた」と脱帽したほど。中盤以降はカーブも増やしてストライクゾーンの奥行きを出した。

九回2死、最後の打者に投じた99球目はカーブ。三直に仕留め、ようやく笑顔が広がった。7年目にしての大会初勝利を史上2人目の完全試合で飾った。

井村は完投するつもりでマウンドに上がったという。これまでは「五回まで試合を作り、あとはいけるところまで」との意識だったが、考えを変えた。理由は「Honda鈴鹿のエースはそれではダメ」だから。それほど一人で投げ抜く強い覚悟を持っていた。

試合後は「記録はラッキー。こんなに（記者に）囲まれたことがないので、今のこの状況（の方）がすごい」と快挙の実感が湧かない様子。それでもサングラスを外して話す表情には、一皮むけたエースの充実感があふれていた。

JR西日本・花村凌

（七回に）1点を取られたところが今日の試合で一番、

Honda鈴鹿	点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
打	安	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	4	1
⑧	野	3	4	3	0	0	4	0	0	0	0	30	
⑥	川	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0		
Ｄ	上	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0		
Ｒ	山	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0		
④	江	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
③	藤	3	0	4	0	0	0	0	0	0	0		
⑨	部	3	4	3	0	0	0	0	0	0	0		
Ｈ	野	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0		
⑦	藤	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0		
②	原	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0		
⑤	野	3	3	2	1	0	0	0	0	0	0		
	長	3	3	2	1	0	0	0	0	0	0		
	内	3	3	2	1	0	0	0	0	0	0		

JR西日本	点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打	安	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥	杉	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	
③	本	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0		
⑧	村	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0		
Ｄ	倉	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0		
⑦	野	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0		
⑨	村	3	3	2	1	0	0	0	0	0	0		
Ｈ	田	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0		
⑤	本	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
②	居	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
Ｈ	田	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0		
④	藤	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0		
	井	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0		
	桜	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0		
	加	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0		
	安	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0		
	土	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0		
	植	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0		
	戸	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0		
	西	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0		
	大	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0		
	田	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0		
	村	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0		
	本	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0		
	杉	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0		

計												27	0

0	0	0	6	0	6	0	0	併
0	0	1	0	6	1	0	0	残
0	0	0	1	0	0	0	0	盗
0	0	0	4	0	0	0	0	犠
0	0	5	4	0	0	0	0	球
0	0	9	5	0	0	0	0	失

責	安	回	投手	村	8	4	1
0	0	9	投井	村	1	0	0
			花大	畑			

時球（審）山
2（審）内
判塁（村、
間審（本吉
時▽合分岩、
試2（田、
▽間審）和



【Ｈｏｎｄａ鈴鹿―ＪＲ西日本】完全試合を達成し、チームメートと喜ぶＨｏｎｄａ鈴鹿の先発・井村（右）

相手投手との差が出た部分。その1点で試合が決まってしまった。井村投手がすごい投球をしていて、いい刺激にはなっていた。ただ、意識はせずに、僕はそのまま自分の投球を（しよう）と思っていた。

◇井村の投球内容

▽投球数	99
▽空振り三振	6
▽見逃し三振	3
▽内野ゴロ	8
▽内野飛球	4
▽外野飛球	6

◇日本選手権での無安打無得点試合

回	年	達成者	所属チーム	相手チーム
36	2009	木林　敏郎	（三菱重工神戸）	鷺宮製作所
42	2016	加賀美希昇	（ＪＲ西日本）	ＪＲ東日本東北
〃	〃	猿渡　真之	（大阪ガス）	鷺宮製作所
43	2017※	西村　祐太	（ＪＲ東日本東北）	新日鉄住金広畑
50	2025※	井村　勇介	（Ｈｏｎｄａ鈴鹿）	ＪＲ西日本

※は完全試合。三菱重工神戸は現三菱重工Ｗｅｓｔ、新日鉄住金広畑は現日本製鉄瀬戸内

トヨタ、勝利導く絆

▽第3試合＝1回戦

四国銀行（高知）　000 000 000
トヨタ自動車（愛知）　020 004 04（八回コールド）　10

トヨタ自動車が15安打で快勝した。二回に福井の右越え2ランで先制し、六回には逢沢の三塁打などで計4得点。八回にも坂巻の三塁打などで加点した。先発・増居は7回3安打、無失点の好投。四国



【四国銀行―トヨタ自動車】七回表、マウンド上で言葉を交わすトヨタ自動車の先発・増居（左）と捕手・福井

四国銀行　打安点
⑨　川　田　4 0 0
⑦　大　谷　2 0 0
⑤　元　山　3 0 0
Ｄ　南　　2 0 0
⑥　大　北　3 1 0
③　藤　井　2 1 0
④　神　野　3 1 0
⑧　真　田　3 0 0
②　大　河　3 0 0
計　25 3 0

トヨタ自動車　打安点
⑥5熊　田　4 1 1
⑤　今　泉　3 2 0
Ｒ6和　田　1 0 0
④　佐　藤　4 1 0
Ｈ　河　原　1 0 0
⑧　逢　沢　3 1 2
③　北　村　4 2 1
Ｄ　三　塚　4 1 0
ＨＤ小　畑　1 1 0
ＲＤ西　村　彰　0 0 0
②　福　井　4 1 2
Ｈ　八　木　1 1 1
⑨　坂　巻　5 2 2
⑦　徳　本　3 2 1
計　38 15 10

	振	球	犠	盗	失	残	併
四	7	2	1	0	1	4	0
ト	7	6	1	5	0	12	0

投	手	回	安	責
田	井	5	6	2
菊	池	1	5	4
田	中	1⅔	4	4
増	居	7	3	0
後	藤	1	0	0

▽本塁打　福井1号②（田井）▽三塁打　逢沢、坂泉▽二塁打　今泉、北村▽試合時間2時間31分▽審判（球審）清水、榊原、川端、使河原

銀行は中継ぎが相手打線を止められず、打線も足がかりを得られなかった。

名門校バッテリー、躍動

名門期待のバッテリーが投打でチームを引っ張った。トヨタ自動車の3年目エース左腕・増居翔太と4年目捕手の福井章吾だ。

まずバットでみせたのは、福井だ。二回、フルカウントからの6球目。予想していた内角低めの直球を強振すると打球は、相手の右翼手が見上げたまま追うのを諦めるほど高く飛んだ。

「右方向に打球が飛んだ時はひと仕事ができたかなとは思ったけど、京セラドームで本塁打を打つとは」。自らも驚きの一発は貴重な先制2ランとなった。

増居も制球力と緩急で打ち取り、危なげなかった。七回まで許した安打はわずか3。「打者を見ながらバランス良く投げることができた。捕手と会話をしながら試合を作ることができた」。7回無失点で先発としての仕事を果たした。

福井は増居の1学年上で、大阪桐蔭高、慶大とアマチュア野球界の名門でプレー。増居も滋賀・彦根東で甲子園を経験し、慶大では福井とバッテリーを組んだ。全日本大学選手権では決勝で2人がバッテリーで先発し、34年ぶりの日本一を成し遂げたこともある。トヨタ自動車でもバッテリーを組み、昨秋の日本選手権で頂点に立った。

増居は、プロ野球ドラフト会議でヤクルトから4位指名を受けたため、2人のバッテリーは今大会が最後になる。福井は「一回でも多くバッテリーを組みたい」と言いつつも、「僕も彼も未熟な部分がある。もっと良いバッテリーになって相手を圧倒したい」と強調した。

目指すは史上初の2回目の連覇と単独最多8回目の優勝。慢心はない。

四国銀行・田井慥士

（5回2失点で）強いチームを相手にも試合を作ることができて自信になった。（二回の先制2ランは）フルカウントで走者をためたくなく、腕が振れなかった。今後の反省にしたい。



【四国銀行―トヨタ自動車】力投する四国銀行の先発・田井

緊張感独特、野球愛学ぶ

レジェンド始球式

オリックス・岸田護監督（NTT西日本）

社会人出身の元プロ選手らが始球式を務める第50回社会人野球日本選手権の「レジェンド始球式」で、オリックスの岸田護監督（44）が4日第3試合の始球式に登場した。

現役時代に慣れ親しんだマウンドで力強い速球を投げ込み、「アップしてきたので汗だくです。ボールでしたね。練習しておきます」と笑いを誘った。

岸田監督は、2004年にNTT西日本に入社。05年の日本選手権で準優勝して敢闘賞を受賞した。06年にオリックスに入団し、現役引退後の20年からはコーチを務め、今季から監督に就任した。

「会社を背負う社会人野球の緊張感は独特で、僕の野球人生でかなり大きな2年間だった。先輩たちの野球を愛する気持ちは勉強になった」と、NTT西日本時代を振り返った。



レジェンド始球式で投球するプロ野球・オリックスの岸田護監督

◇**第5日**（11月5日）

1回戦3試合が行われた。前回大会8強のJR東海は日本製鉄瀬戸内に延長十回タイブレークの末に3―2で競り勝ち、2大会連続で初戦を突破した。タイブレークは今大会初。今夏の都市対抗を制して「夏秋連覇」を目指す王子は日本製鉄山口に4―2で競り勝ち、3大会ぶりに2回戦に進んだ。明治安田は西濃運輸に4―2で逆転勝ちし、7大会ぶりの白星を挙げた。第6日の6日は1回戦1試合があり、第2試合から2回戦に入る。

JR東海、粘り合い制す

▽第1試合＝1回戦

JR東海（愛知）	1	0	0	0	0	0	0	2	3
日本製鉄瀬戸内（兵庫）（延長十回、十回からタイブレーク）	0	0	0	0	0	0	1	1	2

JR東海が競り勝った。同点の十回、捕逸と山崎の適時打で2点を勝ち越した。先発の柳橋は七回途中3安打無失点と好投し、救援陣も粘った。

日本製鉄瀬戸内は九回、代打・井川の適時打で同点。十回は内野ゴロで1点差としたが、あと一本が出なかった。

夏の鍛錬、導いた決勝打

目の失策が絡んで同点に追いつかれ、今大会初のタイブレークに突入。延長十回は無死一、二塁から先頭が送りバントを失敗した。

次打者が四球を選び、1死満塁。打席には守備から途中出場の3年目、山崎大輝が立った。「何が起こるか分からないのが全国。最後に1点勝っていればいい」と自分の中で負の感情は一掃した。ベンチを出る時には井上裕貴監督から「攻めるしかない。初は日本製鉄瀬戸内に延長十回は今大会初。今夏の都市対抗を制して「夏秋連覇」を目指す王子

JR東海は九回にチーム三つ



【JR東海―日本製鉄瀬戸内】延長タイブレーク十回表JR東海1死二、三塁、山崎が適時打を放つ

JR東海	打	安	点
⑨ 水谷	4	2	0
⑤ 祥沢	4	1	0
③ 野田	3	1	0
DR 野井	4	0	0
⑧ 隼田	4	0	0
⑥ 有村	3	2	0
⑦ 山木	2	1	0
H 7 下佐々本	2	1	0
④ 山晃	1	1	0
H 須崎	4	1	1
② 永	4	1	0
計	32	9	1

日本製鉄瀬戸内	打	安	点
④ 市原	4	1	0
⑨ 江川	4	0	0
⑦ 広田	5	1	1
⑤ 内倉	4	1	0
③ 向井	3	0	0
H 2 小出	2	0	0
② 福井	4	1	0
R 8 遠藤	0	0	0
⑧ 中井	3	0	0
H 3 西川	1	0	0
D 小田	1	0	0
RD 深戸	0	0	0
HD 木瀬	0	0	0
H 6 佐川	2	1	0
H 井川	1	1	1
計	36	6	2

J	5	3	1	0	3	5
振	球	犠	盗	失	残	併
日	7	4	1	1	0	11

責	安	回	
投 手橋	3	6	⅔
柳 川	0	2	⅓
喜 後	0	1	
不 久	0		
杉 本	1	7	⅔
下 堂	0	1	⅓
川 瀬航	0	1	

▽逸＝村（捕時）▽審＝間（球審）▽塁＝清水、▽暴＝二塁打＝柳出（勅使）▽投＝橋川（56分）▽合＝原（試合時間）▽審＝原、井亀



球からいこう」と発破をかけられた。

初球、外のスライダーを相手捕手が捕りきれず、捕逸で勝ち越すと、1死二、三塁となっての2球目。同じようなコースに少し甘くなったスライダーを捉え、鮮やかに中前にはじき返した。「投直かと思ったが抜けてくれてホッとしました」とベンチとスタンドからの大歓声にほおを緩めた。

直後の守備では1点を失ったが、山崎の言葉通り「1点差」できっちり勝ちきり、8強入りした前回大会に続き初戦を突破した。

「粘り合い」には自信を持つ。ベースにあるのは今夏の経験。都市対抗大会は2次予選で敗退したが、多くの主力が補強選手に選ばれ、決勝に残った王子と三菱自動車岡崎にはJR東海の計5選手が名を連ねた。頂上決戦のしびれる緊張感を肌で感じ、いかに普段通りの力を出すかを学んだ。

一方でチームに残った選手は投手も野手も地道な練習で基礎から鍛え直した。井上監督は「暑い中のしんどい練習が粘り強さにつながればと考えた」と語る。山崎は「自分自身もこの試合での一打をきっかけに乗っていきたい」という。薄氷の勝利を意味あるものにするためにも次戦の戦いぶりが重要になる。



【JR東海―日本製鉄瀬戸内】九回裏日本製鉄瀬戸内2死一、三塁、適時打を放ち喜ぶ代打・井川

日本製鉄瀬戸内・井川雅久人

（1点を追う九回2死一、三塁から代打で同点適時打を放った場面は）どんな形の安打でもいいから、つなごうという意識で打席に入った。2ボールから真っすぐだけを待った。（右翼手の前に）落ちてくれて良かった。

王子、夏王者の風格

▽第2試合＝1回戦

日本製鉄山口（山口）	0	0	0	2	0	0	0	0	2
王　子（愛知）	0	0	0	3	1	0	0	0	4

王子が逆転勝ち。四回に細川の3ランで試合をひっくり返し、五回は宝島の適時打で加点した。先発の樋口が6回2失点と好投し、九谷が締め

10年目　要、逆転3ラン

王子のユニホームの左袖につけられている黒獅子エンブレムは今年の都市対抗優勝の証しだ。頂点を経験したチームは先行されても慌てない。8番ながら入社10年目の細川勝平が勝負強い打撃で試合をひっくり返した。

2点を先制された直後の四回1死一、二塁の好機で打席に入った。「真っすぐがいいので、速い球に合わせていた」。日本製鉄山口の先発右腕・武藤祐介の高めの141キロを強振する。「入るとは思わなかった」と振り返った打球は、左中間への逆転3ランとなった。この日は二枚看板の一人、新人左腕・樋口新が先発していただけに「負けをつけさせられない気持ちがあった」という。

た。日本製鉄山口は2桁安打を放ったが、小池の2点二塁打による得点のみにとどまり、先発の武藤も踏ん張れなかった。

都市対抗では、三菱自動車岡崎との決勝で、八回に先頭だった細川の二塁打をきっかけに2点を奪って逆転に成功した。ヤマハとの準決勝は細川が八回に同点打を放って、直後の代打勝ち越し3ランを呼び込んだ。「試合前に相手投手を研究して狙い球を絞れていた。準備を怠らずやっていた」と勝負強さの秘訣（ひけつ）を口にする。

湯浅貴博監督は「さすが。都市対抗に続いて、結果を残せるのは立派。打撃でもすごく投手を助けてくれている。頼もしい」と賛辞を惜しまない。

細川は捕手でもある。五回1死満塁の守りでは、一塁への打球が併殺となり、ピンチを脱した。「球が浮いて捉えられたが、運も実力のうち」。七回からはプロ野球・楽天ドラフト6位指名の右腕・九谷瑠をリードして、五回以降は

点	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
安	1	1	3	0	1	2	0	1	1	0	0			
打	5	4	3	3	4	3	1	3	1	2	1			
日本製鉄山口	下斐	林	田	下	池	田	田	中	藤	本	分			
⑥	山甲	々												
⑨	林													
⑧	横野													
⑤	小													
⑦	黒													
D	橘													
③	田													
H	近													
②	坂													
H	国													
④	本													
H	分													

	計	3	4	11	2

点	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0
安	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0
打	3	3	4	4	0	4	3	3	3	3	0
王　子	口川	崎岡	島杉	鳥井	川田	ノ					
④	山甲	柴吉	宝大	神山	細前						
⑥	山										
⑧	中										
⑦	柴										
③	吉										
D	宝										
⑨	大										
②	神										
⑤	山										
	細										
	前										

	計	30	6	4	0
投	武	0	1	0	0
加	山	1	0	0	0
下	樋	1	0	0	0
九		1	0	0	0
併		0	1	0	0
残		1	0	0	0
失		0	1	0	0
盗		1	0	0	0
犠		0	2	0	0
球		5	1	0	0
振		4	8	0	0
日		2	0	0	0
王		3	3	0	0
責		4	4	0	0
安		6	6	0	0
回		4	1⅓	2⅔	0
		2	1	0	0
		6	3	0	0
		3	3	0	0

投	武	手藤	納	久	江	口	谷
加	山	樋	九				

判＝塁（本、細）藤▽中間審（武崎、試35）橋本③打池時（球高原）小2（審）小川▽塁（柴）田時▽丸岩打（合分金）和、塁小号



【日本製鉄山口―王子】四回裏王子1死一、二塁、3点本塁打を放ち喜ぶ細川



【日本製鉄山口―王子】四回表日本製鉄山口1死一、二塁、小池が2点二塁打を放つ

明治安田、打線に勢い

▽第3試合＝1回戦

西濃運輸（岐阜）	0	0	1	0	1	0	0	0	2
明治安田（東京）	0	0	0	0	2	0	0	2	×

苦節3年、復活の一打

高校時代に「ゴジラ超え」と名をはせた左の強打者が、バットで存在感を示した。明治安田の3年目・南保（なんぼ）良太郎が初出場で7大会ぶりの勝利を引き寄せる値千金の一打を放った。

同点の八回2死一、二塁。1ボールからの2球目だった。代わったばかりの4番手・森岡大輔のスライダーを迷わず振り抜いた。打球は左中間を割り、三塁まで駆け抜けた。勝ち越しの2点適時三塁打に一塁側スタンドは歓喜に沸いた。

南保はここまで3打席続けて凡退していたが「打てる自信はあった」という。チームは森岡を先発に予想していたため、対策はできていた。

石川・星稜高では高校通算

明治安田が好機を着実に生かして逆転勝ち。五回に森川、代打・岸本の連続適時打で同点とし、八回に南保の2点三塁打で勝ち越した。竹田は球威があり、九回途中2失点。西濃運輸は野崎の適時打などで2点をリードしたが、後半は打線がつながらなかった。

スコアボードにゼロを並べた。

2015年の日本生命以来となる史上4チーム目の「夏秋連覇」がかかる。「挑戦者の気持ちで目の前の一戦を戦っていくだけ」。扇の要、細川に気負いはない。

日本製鉄山口・小池悠平

都市対抗の動画を見ていて、（王子の先発・樋口は）直球が強く自信があり、ピンチでの勝負球だと思っていた。第1打席も直球で三振していたので、（先制の中越え2点二塁打を放った四回の打席は）狙っていた。少し詰まった感じがあったので、（外野を）抜けてよかった。

西濃運輸

	打									安	点
⑧	原	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0
⑨	修福	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨	左小	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0
⑨	野	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0
⑧	城	4	1	1	1	1	0	0	0	0	0
⑨	河	4	1	1	1	1	0	0	0	0	0
⑨	北	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨	河	4	1	1	1	1	0	0	0	0	0
⑨	大	4	1	1	1	1	0	0	0	0	0
⑨	宮	4	1	1	1	1	0	0	0	0	0
R	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	32	8	2							

明治安田

	打									安	点
④	新	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨	日	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
9	永	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥	高	4	2	1	0	0	1	0	0	0	0
③	福	4	2	1	0	0	1	0	0	0	0
⑦	森	4	2	1	0	0	1	0	0	0	0
D	南	4	2	1	0	0	1	0	0	0	0
⑧	伊	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0
②	森	4	2	1	0	0	1	0	0	0	0
⑤	水	4	2	1	0	0	1	0	0	0	0
H	岸	4	1	1	0	0	1	0	0	0	0
R	生	4	1	1	0	0	1	0	0	0	0
5	橘	4	1	1	0	0	1	0	0	0	0
	計	30	8	4							

	併	残	盗	失	振	球	犠	責	安	回
西濃運輸	0	6	0	0	1	3	1	2	4	1
明治安田	0	6	0	0	1	3	1	0	3	1

	回	安	責	残	盗	失	振	球	犠
竹田	8	8	2	0	0	0	1	2	0
中尾	⅓								
田	⅔	0	0	0	0	0	0	0	0

	回	安	責	残	盗	失	振	球	犠
投	⅓								
手石下藤岡	⅔	4	2	1	0	0	0	1	0
森	⅔	0	0	0	0	0	0	0	0
内	⅓	3	2	1	0	0	1	1	1
山	1	1	0	0	0	0	0	0	0

▽修＝南藤間伊時分遠沢、枝川（球審）蛭
▽保、審（沢、藤）智深
▽二塁打＝合沢34
▽三塁打＝間
▽二行時（塁審）



【西濃運輸―明治安田】八回裏明治安田２死一、二塁、南保が２点三塁打を放つ

29本塁打をマーク。３年夏の石川大会では大会通算５本塁打を記録し、高校ＯＢの松井秀喜さんの４本を超えて最多記録を更新した。専大でも３年秋には東都２部リーグで首位打者に輝いた実績もあった。

しかし、社会人では思うような結果を残せず、「通用しない」と自信を失った。ベンチ入りできずに「このまま終わっちゃうのかな」と思った時もあった。

それでも「自分にはバッティングしかない」と、フォームなど基礎から見直してバットを振った。その姿を見てきた岡村憲二監督も「野球の神様が打たせてくれたのかな」と喜んだ。

久々の大舞台で大歓声に包まれ「気持ち良かった。苦労した分、うれしい」と顔をほころばせた。若きスラッガーの覚醒は、チームを上位へと押し上げる力になる。

西濃運輸・野崎大地

（三回の適時打は）チャンスを作ってくれたので、思い切って迷いなく振れた。前半でもう一押し、二押しできるところがあったが、点を取りきれずワンチャンスで追いつかれた。どんな展開でも勝ちきれるチームを目指したい。



【西濃運輸―明治安田】三回表西濃運輸２死一、三塁、野崎が適時打を放つ

プロで戦う基礎、振り返る

レジェンド始球式

阪神・伊藤将司（ＪＲ東日本）

阪神の左腕・伊藤将司（29）が５日第３試合の始球式に登場した。現役プロ選手の登場は初めて。

普段のユニホーム姿とは異なり、大会記念Ｔシャツを着てマウンドから高めに直球を投げ込んだ。「緊張しました。京セラは高めに行きやすいのでしょうがないのかなと思います」と笑いを誘った。

伊藤は神奈川・横浜高、国際武道大を経て２０１９年にＪＲ東日本に入社した。社会人時代に日本選手権の出場はかなわなかっただけに、「京セラでの試合は社会人ではなかったので、投げられて良かったなと思います」と語った。

社会人での経験がプロとして戦う基礎となったといい、「社会人の選手もプロに近い力があり、レベルの高い中で野球ができていた」と振り返った。





左【西濃運輸―明治安田】レジェンド始球式で投球するプロ野球・阪神の伊藤将司
左２０２０年、ＪＲ東日本時代の伊藤

◇**第6日**（11月6日）

1、2回戦3試合があり、1回戦は今夏の都市対抗大会4強のヤマハが西部ガスに11―1で八回コールド勝ちし、2大会連続で2回戦に進んだ。2回戦では、NTT西日本が延長十一回タイブレークの末に3―1で東京ガスに辛勝。5大会ぶりの準々決勝進出を一番乗りで決めた。Honda熊本は鷺宮製作所に2―1で逆転勝ちし、2大会ぶりに8強に進んだ。

ヤマハ、大勝導く快音

▽第1試合＝1回戦

西部ガス（福岡）	0	0	0	0	1	0	0	0	1
ヤマハ（静岡）	1	2	0	2	0	4	1	1	11

（八回コールド）

ヤマハが17安打11得点でコールド勝ち。一回に失策絡みで先制。二回の永浜の2点適時三塁打や四回の舟久保の右前適時打、六回の森川の走者一掃の二塁打などで小刻みに加点。先発の佐藤廉が技巧的な投球で7回1失点の好投。西部ガスは、投打で力負けした。

中堅強振、復活の兆し

この日、ヤマハの9番に入ったのは、入社6年目の永浜晃汰だった。今季は主に5番を担っていたが、不調で打順を下げて今大会を迎えることになった。

その初打席はチャンスで回ってきた。1―0の二回2死二、三塁で初球ボールの後、永浜は「ファーストストライクは振りに行こう」。甘く入ったカットボールを強振すると、打球は右越えの2点適時三塁打に。「（大会）初戦は硬くなるところで、追加点を取れたのは大きかった」と笑顔を見せた。四回には犠飛でチームの4点目もたたき出し、コールド勝ちした打線を勢いに乗せた。

夏の都市対抗本大会から不振が続き、打順が下がったことに悔しさはあった。だが、「今の上位打線を見れば、僕は9番以外に行く場所はない」と冷静に受け止めていた。不振の原因は「ずっと単打になる打ち方ばかりしてしまっていた」。長打も狙えるよう、早くから軸足に体重を乗せ、バットを振り切ることを意識することで、打球が徐々に上がり始めた。

主砲の網谷圭将、正捕手で今季から主将の大本拓海とは同じ28歳で、ともにチームを支える立場だ。永浜は「ベテランにも新人にもとんでもない選手がいて、チームを引っ張る役割はまだ果たせていないと思う。負けないように頑張らなくては」。頼もしい中堅が復活すれば、優勝はぐっと近づく。

西部ガス・大畑蓮

ヤマハ打線は社会人トップクラスで、真っすぐに強いのは分かっていた。自信のあるクラスで、真っすぐに強いのは分かっていた。自信のあ



【西部ガス―ヤマハ】二回裏ヤマハ2死二、三塁、永浜が2点三塁打を放つ

西部ガス	打	安	点
⑨ 樋口	4	0	0
⑧ 横田	4	1	0
⑤ 井手	2	1	0
D 安沢	3	0	0
② 金山	3	0	0
2 松木	0	0	0
⑥ 八川	3	1	0
④ 古野	3	1	0
⑦ 平木	3	0	1
③ 正井	1	0	0
H 笹	2	0	0
計	28	4	1

ヤマハ	打	安	点
⑦ 矢野	3	3	0
H 小林	3	1	0
8 前川	0	0	0
⑧ 舟久保	4	1	2
⑥ 相羽	4	1	0
⑨ 7 網谷	4	1	1
森川	4	3	3
DH D 田中	1	0	0
③ 秋利	4	3	0
② 大本	4	1	1
④ 土山	3	2	1
⑤ 永浜	3	1	3
計	35	17	11

	振	球	犠	盗	失	残	併
西	11	1	0	0	1	4	0
ヤ	7	5	3	2	2	10	1

投	手	回	安	責
大	畑	3 ⅓	6	4
山	田	⅔	2	0
村	田	2	6	4
高	椋	1 ⅓	3	2
佐藤	廉	7	4	0
金	原	1	0	0

1塁打 本大
3塁打 三本（高橋）
2塁打 二川、畑時（審）
2塁打 森川（審）
投球 高橋（球審）
犠打 永浜（審）
盗塁 暴投（審）
合議 屋時（審）
試合時間 3分4秒
審判（塁審） 大藤（球審）
遠藤、古谷（塁審）
網本（高橋）
打撃妨害 ①
号球 ▽

直球を簡単にはじき返されて苦しい投球になった。慎重になりすぎて、変化球でかわそうとしすぎたのが反省点。コースに決めきる制球力と変化球の精度をもう一度磨いて、来年も戦っていきたい。


【西部ガスーヤマハ】力投する西部ガスの先発・大畑

NTT西、光る勝負強さ

▽第2試合＝2回戦

NTT西日本（大阪）	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3
東京ガス（東京）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

（延長十一回、十回からタイブレーク）

NTT西日本は延長十一回無死一、二塁で、水島が左中間2点二塁打を放って決勝点を奪った。投げては先発・渡辺が5回1失点でしのぎ、浜崎ら救援陣が無失点と好投した。東京ガスは先発・臼井が9回1失点と力投したものの、打線が追加点を奪えなかったのが痛かった。

主将、延長制す決勝打

無死一、二塁から始まる延長タイブレーク。十回は両チーム無得点に終わったことで、NTT西日本の河本泰浩監督は開き直り、迷いがなくなった。

「バントなしで打たせるぞ。投手との勝負を楽しめ」

十一回の攻撃で先頭の3番・水島滉陽に駆け寄り、そう声をかけた。

相手投手は十回から救援した速球派で、150㌔超の速球と鋭く落ちる球を得意とする。水島は「河本さんの言葉で割り切れた」。2球で追い込まれたが、どどうの粘りを見せた。

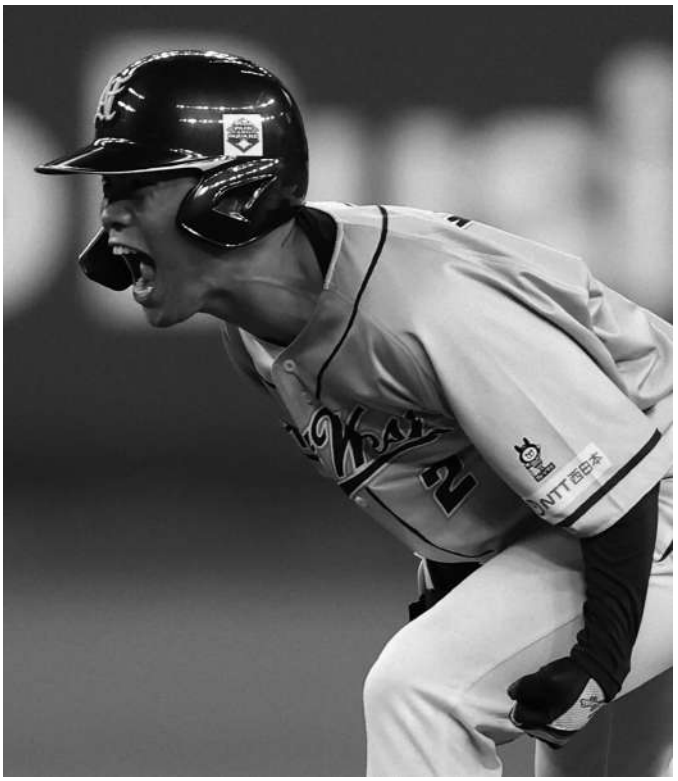
変化球を見極めながらカウント2―2。そこから直球にくらいつき4球連続でファウルとすると、「真っすぐの軌道がイメージできてきた」。

フルカウントとなった11球目。外の真っすぐを逆らわずにはじき返した。左中間を真っ二つに破り、走者2人を生還させた。

盛り上がる三塁ベンチに向かって、二塁の塁上で派手なガッツポーズで喜びを爆発させた。六回の同点に追いつく犠邪飛も含めて、全3打点をたたき出した。

「自信を失いかけた時もありました……」。試合後、そう振り返った言葉には今季の苦悩がにじんだ。

入社3年目になり主将を任されたが、3月末に腰を痛め


【NTT西日本―東京ガス】延長タイブレーク十一回表NTT西日本無死一、二塁、2点二塁打を放ち声を上げる水島

NTT西日本	打	安	点
⑧	畑	2	0
⑦	井	2	0
⑤	島	2	0
③	田	0	0
D	丸	0	0
H⑨	井	0	0
④	井	2	0
H	川	0	0
②	村	0	0
⑥	藤本瀬	0	0
	計	8	3

東京ガス	打	安	点
⑥	北竹山	0	0
R	本村崎	0	0
6	楠	0	0
D	沢	0	1
⑧	藤内仲	0	0
③	海俣冨	0	0
⑤	岡尾中	1	0
⑦	尾川石	0	0
⑨	川田小	0	0
H	野馬相	0	0
9	田馬	1	0
④	中場	3	0
②	計	5	1

	併	残	失	盗	犠	球	振
N	0	11	0	0	2	3	9
東	0	11	0	1	2	3	8

投	責	安	回
渡辺浜大	1	3	5
手辺崎江	0	2	5
井崎沢	0	0	1
臼松寺	1	7	9
	0	0	⅓
	0	0	⅔

▽時間　3時間
▽審判（球）島川、（塁）多、（審）蛭沢、（審）枝
▽試合分　2深味

た。しばらくは歩くこともままならなかった。サポートに回ったが、主将としてどう振る舞っていいか迷うこともあった。ただ、明るい仲間が支えてくれた。

練習に復帰できたのは8月上旬。約3週間後に開幕した都市対抗大会は代打の1打席のみだった。頂点を目指したチームも2年連続で8強止まりと不完全燃焼に終わった。

今大会は1、2回戦ともに「3番・三塁」で先発し、プレーで引っ張る。チームの目標である「日本一」に向け、水島は「チームに迷惑をかけてきた。プレーができるようになったからこそ、プレーで貢献したい」。

頼もしい主将がグラウンドに戻り、一丸となって夏の忘れ物を取りに行く。

東京ガス・藤沢涼介

（3安打の活躍）都市対抗が終わってから2カ月ぐらい、不調の時期が続いていたが、調整を続けて最低限の形にはなったと思う。社会人1年目は思ったより結果を残せたけれど、守備や、不調の時の引き出しを増やすなど、やることだらけ。（オフシーズンの）冬にできることはたくさんある。



【ＮＴＴ西日本―東京ガス】一回裏東京ガス無死一、二塁、藤沢が適時打を放つ

Honda熊本、九回逆転打

▽第3試合＝2回戦

									計
Honda熊本（熊本）	0	0	0	0	0	0	0	2	2
鷺宮製作所（東京）	0	0	0	0	0	0	1	0	1

4番、Gドラ1攻略

1点を追う九回2死二、三塁、Ｈｏｎｄａ熊本の4番・古寺宏輝は鷺宮製作所の主戦・竹丸和幸と相対した。

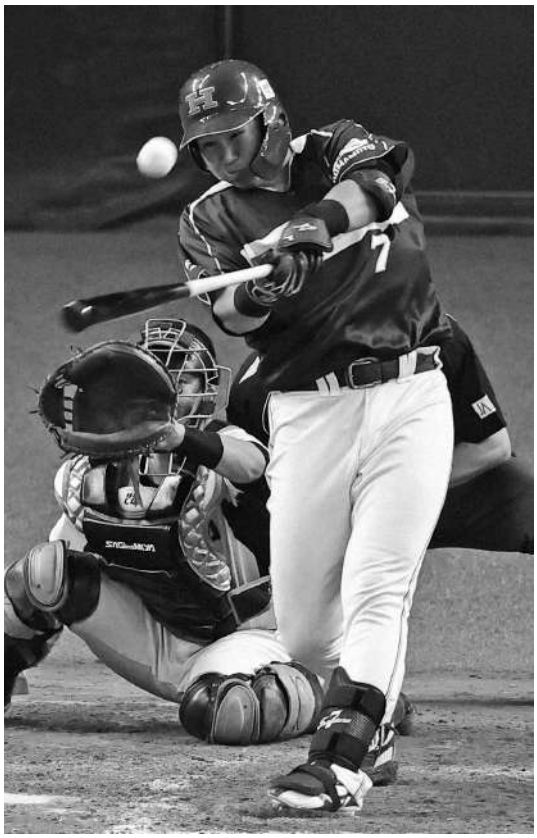
「やってやるぞ」と気合十分だった古寺は、その初球を見送ると、一段と闘志に火が付いた。

「避けられるかと思ったが勝負だった。なめんなよという気持ちになった」

2球目、浮いたスライダーを強振すると、打球はぐんぐん伸び前進守備の左翼手の頭上を越えた。

プロ野球・巨人のドラフト1位の竹丸から逆転の2点二塁打。「相手も4番が打点を挙げていた。自分も役割を果たせて良かった」と力強く拳

Ｈｏｎｄａ熊本が土壇場で逆転勝ちした。1点を追う九回、古寺が2点適時二塁打を放った。先発の片山が七回途中1失点と試合を作り、藤江ら救援陣も好投。鷺宮製作所は先発・菊地が八回途中1安打と快投を見せたが、救援した竹丸が2イニング目に痛打された。



【Ｈｏｎｄａ熊本―鷺宮製作所】九回表Ｈｏｎｄａ熊本2死二、三塁打を放つ

Honda熊本	打	安	点
⑨ 山本	3	0	0
⑦ 島中	3	1	0
⑧ 稲垣	4	0	0
③ 古寺	4	1	2
Ｄ 宮川	2	0	0
ＨＤ 和田	2	0	0
④ 江頭	2	0	0
Ｈ４ 江崎	1	0	0
⑤ 森	2	0	0
Ｈ５ 青柳	1	0	0
② 丸山	2	0	0
Ｈ２ 丸尾	1	0	0
⑥ 井上	3	1	0
計	30	4	2

鷺宮製作所	打	安	点
⑥ 島野	3	0	0
⑨ 竹原	4	1	0
④ 島優	2	1	0
Ｄ 中村	2	1	1
⑤ 野崎	3	0	0
③ 花田	3	0	0
⑦ 保戸	3	0	0
Ｈ 藤原	2	0	0
② 西浦	1	0	0
⑧ 佐藤	3	0	0
村上	3	2	0
計	27	5	1

	残	併	失	盗	犠	球	振
Ｈ	3	0	0	2	1	1	13
鷺	6	0	6	1	3	4	6

投手	回	安	責
片山	6	⅔ 4	1
藤江	1	⅓ 1	0
寺島		⅔ 0	0
袋		⅓ 0	0
菊地	7	⅓ 1	0
竹丸	1	⅔ 3	2

▽試合時間　2時間23分
▽審判（球審）古寺、（塁審）小山、橋本、加藤
▽時間　打撃妨害

を握った。

豪快な殊勲打に目が行きがちだが、その過程にも「Honda熊本らしさ」が詰まっていた。

九回は先頭打者が中前打で出塁し、送りバントや盗塁などを絡めて、ワンヒットで逆転できる舞台を整えていた。

古寺は「ベンチ内でも中軸に回せば大丈夫、と皆が言ってくれた。信頼されているんだなと実感した」。仲間のお膳立てに奮い立った。

七回1死まで一人の走者も出せず、チーム初安打は八回1死からだった。嫌な空気が漂ってもおかしくないが、古寺は「うちに限ってそんなことは絶対ない。ベンチでも仕方ない、どんどん攻めていこうと声が出ていた」と明かす。渡辺正健監督は常々「強打が注目されがちだが、Honda熊本のベースは泥臭さと粘り強さ」と語ってきた。

それらをベースに、劣勢でもワンチャンスでたたみかけることができる集中力を上乗せし、鮮やかな逆転劇につなげた。



【Honda熊本―鷺宮製作所】九回表、Honda熊本に逆転を許し、険しい表情でベンチへ引き揚げる鷺宮製作所の竹丸

社会人の経験、正解だった

レジェンド始球式

広島・栗林良吏（トヨタ自動車）

プロ野球・広島の栗林良吏（29）が第3試合の始球式に登場した。栗林は右腕から力強い球を投げ「ストライクを投げられてよかった」とにこやかに話した。

栗林は愛知黎明高、名城大を経て、2019年にトヨタ自動車に入社した。1年目は都市対抗で準優勝し、日本選手権1回戦ではマツゲン箕島から13三振を奪って完封し、毎回奪三振を達成した。21年に広島に入団し、通算134セーブをマークしている。

鷺宮製作所・竹丸和幸

悔しいです。（七回1死まで「完全投球」した先発の菊地郁也は）本当にすごく良かったので、その勝ちを消してしまったのは申し訳ない思いです。打たれた球はすべて甘かった。結局は技術不足なので、しっかりレベルアップして、プロに入っていきたい。

社会人では一球の重みを学んだという。「トーナメントなので、一球に泣くのは社会人の方が大きい。その経験が（プロでの）5年間のリリーフに合っていた」と話した。社会人を経てプロ入りしたことを「僕にとっては絶対に正解だった」と語った。「野球だけではなく、『社会人として』ということもすごく学べた」と感謝した。





㊤【Honda熊本―鷺宮製作所】レジェンド始球式で投球するプロ野球・広島の栗林良吏
㊦2019年の都市対抗野球大会決勝で力投するトヨタ自動車の栗林



【ＪＦＥ西日本―日本生命】五回裏日本生命１死一、三塁、竹村の右犠飛で生還する三塁走者・松本

ＪＦＥ西日本	打	安	点
⑨ 上　河	西	内	4	2	1	0
⑥ 新古綿	田	田	屋	4	2	0	1	0	0	0
④ 篠後鳥	原	藤	井	4	4	0	1	0	0	0
⑤ 高　田	田	中	4	4	0	0	1	0	0	0
Ｄ 原　岡	3	1	0	0	0	0	0
② 土　井	3	0	2	0	0	0	0
２	3	0	0	0	0	0	0
⑦	3	0	1	0	0	0	0
Ｈ 7	3	0	1	0	0	0	0
⑧	3	0	1	0	0	0	0
③	3	0	2	0	0	0	0
Ｈ	0	0	0	0	0	0	0
３	0	0	0	0	0	0	0
計	28	5	1

日本生命	打	安	点
⑧ 中　津	4	0	0	1	0
⑦ 松　本	3	2	1	0	1
③ 木倉村	2	0	0	1	0
⑨ 竹　村	3	1	2	1	2
⑤ 山竹高	4	3	2	1	1
Ｄ 田中田	3	1	0	0	0
⑥ 竹　上	3	2	0	0	0
④ 池智村	1	0	0	0	0
Ｈ 越　島	0	0	0	0	0
４ 梅　村	0	0	0	0	0
② 三　島	3	0	1	0	0
計	28	7	4

Ｊ	8	4	0	1	4	1
振	球	犠	盗	失	残	併
日	3	3	1	3	0	4	3

投	手	回	安	責
長	野	4	6	3
安	岡	1	0	1
西	野	3	1	0
武	次	5	3	1
真	野	4	2	0

▽本塁打　山田（１回・野島）
▽二塁打（長三２）
▽時間　２分
▽試合時間　20分
▽審判（塁審）藤良和、東、中
▽田安（遠西）

◇**第７日**（11月７日）
２回戦３試合が行われた。都市対抗大会で４強入りした日本生命が前回の日本選手権４強のＪＦＥ西日本に４―１で勝利し、２大会ぶりの準々決勝進出を決めた。東邦ガスは明治安田に５―２で逆転勝ち

日生、確信の走塁

▽第１試合＝２回戦

ＪＦＥ西日本（広島）	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
日本生命（大阪）	0	1	2	0	1	0	0	0	×	4

日本生命は二回に山田の左越えソロで先制。追いつかれた直後の三回は竹村の中前適時打などで２点を勝ち越した。五回も足を絡めて加点。先発の松本涉は「確信のある賭け」に打って出た。思い切りよくスタートを切り、投手の手からボールが離れるころには二、三塁間の真ん中近くまで進み、悠々と三塁を陥れた。捕手に送球すらさせない、鮮やかな三塁盗塁だった。

この回、２番の松本は１死から四球で出塁し、次打者の初球で二塁盗塁を決めていた。一人で好機を作り、４番・竹村陸の犠飛でホームを踏んだ。ノーヒットでリードを広げ、勝利を引き寄せた。

京都・龍谷大平安高、東洋大から入社３年目。寮長を務め、走塁のリーダー役との自覚もある。50メートル走で６秒を切る俊足の持ち主だが真価は情報収集力にある。

相手の新人右腕・安岡拳児は救援登板直後で、癖などの事前データもなかった。しかし、以前にＪＦＥ西日本とオープン戦で顔を合わせた際、走者を二塁に置いた場面で、二塁手と遊撃手が二塁から離れるのがわずかに早いと感じていた。

五回は、二塁盗塁を決めた次の一球で内野陣と投手の動きを改めてチェック。「イメージ通り。行ける」と確信していたから三塁への好スタートは必然だった。

都市対抗と日本選手権で計７回の優勝を数える日本生命は、常に頂点を目指す集団だ。トーナメントを勝ち上がるため、攻撃では調子に左右されにくい機動力を生かしたスタイルを大事にしてきた。

松本の二盗、三盗はともに

ノーヒットで追加点

２点リードで迎えた五回１死二塁、日本生命の二塁走者・松本涉は「確信のある賭け」に打って出た。思い切りよくスタートを切り、投手の手からボールが離れるころには二、三塁間の真ん中近くまで進み、悠々と三塁を陥れた。捕手に送球すらさせない、鮮やかな三塁盗塁だった。

この回、２番の松本は１死から四球で出塁し、次打者の初球で二塁盗塁を決めていた。一人で好機を作り、４番・竹村陸の犠飛でホームを踏んだ。ノーヒットでリードを広げ、勝利を引き寄せた。

京都・龍谷大平安高、東洋大から入社３年目。寮長を務め、走塁のリーダー役との自覚もある。50メートル走で６秒を切る俊足の持ち主だが真価は情報収集力にある。

相手の新人右腕・安岡拳児は救援登板直後で、癖などの事前データもなかった。しかし、以前にＪＦＥ西日本とオープン戦で顔を合わせた際、走者を二塁に置いた場面で、二塁手と遊撃手が二塁から離れるのがわずかに早いと感じていた。

五回は、二塁盗塁を決めた次の一球で内野陣と投手の動きを改めてチェック。「イメージ通り。行ける」と確信していたから三塁への好スタートは必然だった。

都市対抗と日本選手権で計７回の優勝を数える日本生命は、常に頂点を目指す集団だ。トーナメントを勝ち上がるため、攻撃では調子に左右されにくい機動力を生かしたスタイルを大事にしてきた。

松本の二盗、三盗はともに

東邦ガス、成長の満塁弾

▽第2試合＝2回戦

東邦ガス（愛知）	0	0	4	0	0	0	0	1	0	5
明治安田（東京）	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2

東邦ガスが逆転勝ち。1点を追う三回、無死満塁から宮下が左越え満塁本塁打を放った。先発の吉田が6回1失点と好投し、4人が小刻みに継投した。明治安田は二回に水鳥の犠飛で先制。七回には代打・岸本が適時三塁打を放つなど計10安打をマークしたが決定打を欠いた。

宮下、初球たたき逆転

磨いてきた長打力をここぞの場面で発揮した。大阪桐蔭高から加入4年目の宮下隼輔が、逆転の満塁本塁打を放った。打った瞬間それと分かる豪快弾に「うまくバットに当たれば行くと思った」と満足げだった。

宮下は無死満塁で打席が回ってきた三回、「三振してもいいから思い切り狙っていこう」と心に決めた。初球、高めに浮いた変化球を踏み込んで完璧に捉えた。

左翼手が追うのを諦めるほどの特大の一発は、大会36本目のグランドスラム。宇津野純一監督は「あそこであいうスイングができるのがすごい」と感心しきりだった。

高校時代は、中軸として2021年春のセンバツ、夏の甲子園に出場。卒業後は地元・愛知の東邦ガスに入社した。

鳴り物入りで入社したものの、けがに悩まされた。2年自己判断。「根拠を持った上で、次の塁、次の次の塁を積極的に狙うことがチームのテーマ」と松本は言う。首脳陣が選手の自主性を尊重し、選手はリスクへの備えとチャレンジする勇気でそれに応える。「西の名門」が名門たるゆえんの詰まった試合だった。

JFE西日本・上西颯満

（適時打は）初回に真っすぐを打った（右前打）後の打席だったので、（相手が直球を）投げにくいかなと思って変化球を狙い打った。相手の捕手が強肩で、どのような仕掛けができるかを考えた中での一戦だったが、あまり仕掛けられずに終わってしまった。



【JFE西日本―日本生命】三回表JFE西日本2死二塁、適時打を放ち喜ぶ上西



【東邦ガス―明治安田】三回表東邦ガス無死満塁、満塁本塁打を放ち声を上げる宮下

東邦ガス	打	安	点
⑨ 大金	1	0	0
⑥ 木田	4	0	0
Ｒ⑤ 田下	0	2	0
Ｄ 林	5	1	0
③ 田谷	5	1	0
⑦ 嘉垣	3	1	0
7 ④ 6 口見	2	1	0
⑧ 高浦	4	0	0
② 氷	4	2	1
計	39	10	1

明治安田	打	安	点
④ 新日	5	0	0
⑨ 城置	5	2	0
⑥ 瀬岡	5	2	0
③ 高福	4	0	0
⑦ 森	3	1	0
Ｈ 岸	1	0	1
ＨＲＤ 7 斎本	1	0	1
⑧ 南伊	0	1	0
② 藤森	4	2	0
⑤ 伊水	2	1	0
Ｈ 森永	1	0	0
5 橘	0	0	0
計	36	10	2

東	12	3	0
明	7	2	1

併	0	残	10
振	10	失	0
球	2	盗	0
犠	0		

	責	回	安	振	球
手田	1	6	8	2	0
石川	1	⅔	2	0	0
橋	0	⅓	0	0	0
水	0	1	0	0	0
清	0	1	0	0	0
田	4	2	6	3	0
本	0	⅔	3	0	0
玉	1	⅓	4	1	0
尾	0	2	1	1	0
崎	0	1	1	0	0

三塁▽合分小、下▽二田試6）昇、宮）▽金▽間審）橋
打（沖岸谷、尾時球）野
塁（本中3）審）小
本④打　虎　投間審）判（塁）本、
号塁打　暴時▽原岡

目は左膝のけがで1年を棒に振り、遊撃手に挑戦した3年目は、「失策もあって守備で考えることが多かった」と打撃不振に苦しんだ。今季は高校時代から慣れた三塁に戻り、打撃も見直した。

肉体改造で食事を1日5食に増やし、ウエートトレーニングを取り入れるなど昨年オフで体重は13キロ増やして90キロ台に。打撃練習でも直球に振り負けない意識で取り組んだ。

パワーアップした今季は3番を託され、宇津野監督から「もう当たり前のように中軸に立っている。あと10年くらいチームの中心選手としてプレーするところを見ていたい」と言われるほど成長した。

チームが掲げる「打ち勝つ野球」を体現し、過去最高成績に並ぶ8強入り。「4強入りして歴史を変えたい」という期待の長距離砲が打線を引っ張る。

明治安田・水鳥遥貴

大学生と速さは同じでも伸びてくるので、ボールの下を振ってしまうのが課題だったが、（先制犠飛の打席は）直球の上をたたく意識で打つことができた。社会人は学生と比べて重圧が一番違う。その中で野球ができることは幸せ。



【東邦ガス―明治安田】二回裏明治安田1死満塁、水鳥が犠飛を放つ

◇満塁本塁打

東邦ガス・宮下隼輔が7日、明治安田との2回戦で三回無死満塁、沖田龍之丞から左越えに放った。第49回大会（2024年）でＨｏｎｄａ・山本兼三が準々決勝の東芝戦、代打で記録して以来、36本目。

三菱自岡崎、サヨナラ勝ち

▽第3試合＝2回戦

Ｈｏｎｄａ（東京）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
三菱自動車岡崎（愛知）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2

（延長十回、十回からタイブレーク）

三菱自動車岡崎がサヨナラ勝ちした。六回に古川の二塁打で同点とし、タイブレークの延長十回は伊藤が決勝打を放った。先発・秋山翔が七回途中1失点と好投。十回を無失点に抑えた清川の好投も光った。Ｈｏｎｄａは先発・片山が6回1失点と粘投したが、打線が援護できなかった。

新人右腕、好救援

強心臓の新人右腕が息詰まる投手戦で輝きを放った。三菱自動車岡崎は、九回から登板した清川大雅（たいが）が好救援した。

九回はわずか6球で3者凡退に抑えると、タイブレークに突入した延長十回もマウンドに上がった。犠打で1死二、三塁とされたが、1番打者を2球で二ゴロに打ち取り、続く打者には得意のフォークを多投して見逃し三振に仕留めた。タイブレークを無失点に抑え、味方のサヨナラ劇を呼び込んだ。

タイブレークの経験はそれほど多くなかったが、梶山義彦監督は「ストライク先行で投げられて大崩れしない。あ



【Ｈｏｎｄａ―三菱自動車岡崎】延長タイブレーク十回表Ｈｏｎｄａ2死二、三塁、三浦を三振に仕留め声を上げる三菱自動車岡崎の清川

Ｈｏｎｄａ	打	安	点
③ 峯村	5	1	0
④ 三浦	3	0	0
⑧ 鈴木	2	0	0
Ｄ 藤野	3	1	0
⑦ 井上	2	0	0
Ｈ 山下	1	1	0
7 尻野	1	0	0
② 辻小口	3	1	0
⑨ 坂口	3	0	1
⑤ 中村将	2	0	0
Ｈ 村津田	1	0	0
6	0	0	0
計	29	4	1

三菱自岡崎	打	安	点
⑤ 菅原	3	0	0
⑨ 茂木	3	1	0
⑧ 中村奎	4	0	0
④ 古川	4	1	1
Ｄ 山下	3	1	0
ＨＤ 小室	1	0	0
ＨＲＤ 豊住	0	0	0
⑦ 大手	2	0	0
③ 伊藤	4	1	1
② 西川	2	0	0
⑥ 斎藤	3	0	0
計	29	4	2

	振	球	犠	盗	失	残	併
Ｈ	5	5	4	0	1	9	0
三	8	3	2	0	0	7	1

投	手	回	安	責
片	山	6	3	1
福	島	1	1	0
中	村伊	1	0	0
岡	野	1⅔	1	0
秋	山翔	6⅓	3	1
神	原	1⅔	1	0
清	川	2	0	0

▽三塁打　小口（球審）
▽試合時間　2時35分
▽二塁打　古川（球審）
▽本塁打　清川（球審）
▽審判（塁審）中、井上、田村

とは託すだけ」と全幅の信頼を置く。清川も「いろいろ考えてもたぶんダメ。怖いもの知らずで投げられたのが逆に良かったのかな」と振り返った。

岩手・花巻東高、同大を経て、今春加入。大学時代から救援での登板経験は豊富だった。「1点もやれない場面でマウンドに上がることが多く、少しずつメンタルが強くなってきた」と自覚する。準優勝した今夏の都市対抗は5試合中4試合で抑えを任されたことも自信になった。

都市対抗で防御率0点台だった盤石の投手陣がひしめくチームで「物おじせず投げきる気持ちだけは負けないようにしたい」と清川。夏に果たせなかった「5連勝」に向け、欠かせないピースになっている。

Honda・片山皓心

まだこのチームでやりたかった。初戦からいろいろと修正して臨んだので、準備してきたものは出せた。課題がたくさんある。1月の（DeNAへの）合流までに、野球がうまくなるように強化していきたい。



【Honda―三菱自動車岡崎】6回1失点と粘投したHondaの片山

試合出続ける体力、原点

レジェンド始球式

阪神・中野拓夢（三菱自動車岡崎）

今季のプロ野球セ・リーグを制した阪神の中野拓夢（29）が7日第3試合の始球式に登場した。

中野はストライクゾーンに力強い球を投げ込み、「マウンドから普段投げないので緊張したが、ノーバウンドで（球が）行ったので一安心」と笑顔を見せた。

中野は日大山形高、東北福祉大を経て、2019年に三菱自動車岡崎に入社。同年秋は日本選手権で4強入りして遊撃手の優秀選手に選ばれるなど活躍し、21年にドラフト6位で阪神に入団した。

社会人時代は「体の強さが大きく伸びた」という。セ・リーグでは今季で3年連続となる全試合出場を果たし、「当時の監督さんに練習試合からずっと出させていただいて、試合に出続ける体力は社会人でとても身についた」と振り返った。





㊤レジェンド始球式で投球するプロ野球・阪神の中野拓夢
㊦2019年、三菱自動車岡崎時代の中野

◇**第8日**（11月8日）

2回戦の残り3試合が行われ、8強が出そろった。8強のうち、東海勢が4チームと半数を占めた。

NTT東日本は、今夏の都市対抗を制した王子を6―1で破り、3大会ぶりの準々決勝に進んだ。王子の史上4チーム目の「夏秋連覇」はならなかった。Honda鈴鹿は、史上初となる2回目の連覇を目指したトヨタ自動車に2―1で競り勝ち、6大会ぶりに2回戦を突破した。

都市対抗4強のヤマハは前回大会8強のJR東海に10―4で勝ち、5大会ぶりに8強入りした。

第9日の9日は、準々決勝2試合が行われる。

NTT東、夏王者を撃破

▽第1試合＝2回戦

NTT東日本（東京）	0	3	0	1	1	0	1	0	0	6
王子（愛知）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

好機逃さず、つながる打線

難攻不落の右腕にどう立ち向かうか。王子の先発は予想通り、今夏の都市対抗大会でチームを優勝に導き、橋戸賞（最優秀選手賞）に輝いた九谷瑠。NTT東日本の選手は「いくら九谷投手でも全部が厳しい球はこないだろう」と割り切った。1点を追う二回、主将のチーム初安打が反撃の合図となった。

先頭の4番・向山基生が5球目の真ん中に入ってきた直球を強振。乾いた打球音を響かせて左前打で出塁すると、次打者も中前にはじき返して無死一、三塁と好機を広げた。

強打者の6番・保坂淳介は「隙（すき）をつこう」と、自身の判断で初球にセーフティースクイズを仕掛けたがファウルに。気持ちを落ち着かせて「外角ピタピタなら、ごめんなさい」と高めの変化球に絞った。

2球目の変化球はふわりと浮いた。強引にバットを出し、イメージ通りに中堅へ高々と打ち上げ、犠飛で追いついた。

ここで終わらない。甘い球を見逃さず、鮮やかな3連打で2点勝ち越しに成功。九谷を4回4失点でマウンドから降ろした。

チームは九谷の映像を見て徹底的に研究してきた。直球、チェンジアップ、スライダーを制球良く操るだけに、ボールを見極めていくとすぐに追い込まれる。中途半端な考えを三塁打、五回には向山の適時打でリードを広げた。王子は投手陣が踏ん張れず、打線も四回以降1安打に抑えられた。



【NTT東日本―王子】二回表NTT東日本無死、向山が左前打を放つ

NTT東日本	打	安	点
⑦道原	2	0	0
⑥石巧	0	0	0
⑧直井	0	0	1
D向山	2	2	1
⑤中村	2	2	0
②保坂	1	2	1
③内山	2	1	0
④伊光	1	1	2
H丸山	1	1	1
⑨井上	1	1	1
4 東			
計	13	7	6

王子	打	安	点
④山口	4	3	0
⑥中川	4	1	0
⑧柴崎	3	1	1
⑦吉岡	4	0	0
③宝島	4	0	0
D神鳥	3	0	0
H石崎	1	0	0
⑨山井	2	1	0
②細川	3	0	0
⑤前田	2	0	0
5 大杉	1	0	0
計	31	6	1

N	6	振	4
	4	球	1
王	4	犠	1
	1	盗	0
	0	失	1
	9	残	5
	0	併	2

投	責	安	回
手保	5	5	6
長久森	1	0	1
出	0	0	1
上石井峻	0	0	1
谷	7	7	4
崎	2	2	1
島	3	3	⅔
井口	1	1	⅓
九宮中浅樋	1	0	2

光、島時（球）端
東川、坂、中2（審）川
伊中保　判（塁）和、
打打崎、投間審（塁）藤時（塁）遠
▽柴暴▽村▽合分田、
三二山、原試41木、
▽▽内道▽間審一

は捨て、少しでも甘くなればバットを出す意識を統一したのが功を奏した。

ＮＴＴ東日本のブロックは好調の東海勢がひしめき合い、次戦の準々決勝は都市対抗準優勝の三菱自動車岡崎が相手だ。

就任1年目の北道貢監督は「1年間通して東海地区が社会人野球の先頭を走っている。何とか食らいついていきたい」。今年の都市対抗を逃したチームがさらに意地を見せるか。

王子エース、痛恨の一球 経験糧にプロの世界へ

制球力が特長の右腕にとって、痛恨の一球だった。

1―3の四回2死二塁、カウント1ボール2ストライク。王子の九谷瑠が投じた147㌔の直球は外角高めに浮いた。ＮＴＴ東日本の8番・伊東光亮に中越えの適時三塁打とされ、4点目を失った。この回限りで降板し、「思っていた球が投げられなかった」と悔やんだ。

シンデレラストーリーを地で行く社会人4年目だ。滋賀・堅田高では甲子園出場はかなわず、大阪大谷大では近畿学生リーグ2部でプレー。みそカツ専門店を展開する「矢場とん」（名古屋市）に入社し、店舗スタッフをしながらクラブチーム「矢場とんブースターズ」で白球を追った。

「プロの世界へ行きたい」と高い志を持ち続け、睡眠時間を削ってでも野球に打ち込んだ。チームでの活躍を認められ、今年1月に王子に異例の中途入社。エースとして都市対抗大会で頂点に立ち、最優秀選手に贈られる橋戸賞を獲得した。

プロ野球・楽天からドラフト6位指名を受け、夢の扉を開いた。「クラブチーム出身だからといって、プロになれないわけじゃない。自分のような選手が増えるように、お手本となれるようにやっていきたい」。人生は紙一重で変わる。これからは、憧れの舞台で物語を描き続けていく。



【ＮＴＴ東日本―王子】二回表に逆転を許し汗を拭う王子の先発・九谷

Honda鈴鹿、好救援

▽第2試合＝2回戦

トヨタ自動車（愛知） 000 010 000 1

Honda鈴鹿（三重） 000 100 10× 2

Ｈｏｎｄａ鈴鹿が接戦を制した。四回に岡野の適時打で先制し、同点の七回は堀内の適時打で勝ち越した。先発・井村は七回途中1失点。2番手・花城がリードを守った。トヨタ自動車は四～七回に好機を作ったが、五回の押し出し四球による1点にとどまった。



【トヨタ自動車―Ｈｏｎｄａ鈴鹿】２回３分の１を無失点で締めたＨｏｎｄａ鈴鹿の２番手・花城

トヨタ自動車	打	安	点
⑥ 熊今和佐	3	1	0
⑤ 田泉田藤	3	2	0
Ｈ ④ 沢村木塚	4	4	0
⑧ 逢北八三	4	4	0
③ 井祖巻本	4	3	1
ＲＤ 福高坂徳	3	3	2
② 井	0	0	0
Ｈ ⑨ 村	1	0	0
⑦ 本	3	3	2
計	33	8	1

Honda鈴鹿	打	安	点
⑧ 長野	4	1	0
⑥ 中川	2	1	0
Ｄ 畔上	4	1	0
ＲＤ 栗原	0	2	0
④ 藤江	3	2	0
③ 伊藤	4	1	0
3 阿部	0	0	0
⑨ 中野	4	1	0
⑦ 岡野	2	1	1
② 長内	2	0	0
⑤ 堀	3	2	1
計	28	10	2

	投球	犠	盗	失	残	併
トヨタ	51	0	0	0	6	1
Ｈ	34	1	0	1	7	1

	手	回	安	責
投池	村	5⅓	7	1
渕	上	1	0	1
嘉	陽	1⅔	3	0
井	村	6⅔	7	1
花	城	2⅓	1	0

▽二塁打　伊藤、佐藤（長野、熊田、池上）▽暴投　村時間2▽合分時間31▽審判（球審）和田、下山（塁審）丸藤原、金

揺るがぬ信頼応え

想定していた継投策がはまった。Ｈｏｎｄａ鈴鹿の30歳右腕・花城凪都（なぎと）が、終盤のピンチで見事な好救援。呼ばれたのは、七回２死二塁、トヨタ自動車の１番・熊田任洋を迎えた場面だった。

「ブルペンで直球は指をはじく感覚が良く、カーブも切れていた」。１５０㌔の直球で見逃しストライクを取り、２球目はふわっと浮いてから落ちるカーブで一ゴロに打ち取った。得点を許さずに流れを引き寄せ、その裏の攻撃でチームは勝ち越しに成功した。

九回は先頭打者に右前打を許したが、次打者を持ち味の直球で押して遊ゴロ併殺に。１回戦で完全試合を達成したエース右腕・井村勇介からバトンを受け継ぎ、２回３分の１を無失点で締めた。「井村が頑張っていたんで助けられて良かった」と喜んだ。

終盤、特定の打者で、花城を登板させることは決まっていた。真鍋健太郎監督は「熊田君はいい打者で、今日は合っていた。熊田君の打席では、どんな展開でも花城でいこうと決めていた」と明かす。五回に井村が熊田に押し出し四球を与えた場面で、投げづらそうにしていたことも見逃さなかった。

変化球を散らすタイプの井村に対し、花城は力感のないフォームから伸びのある直球を投じる。真鍋監督は、特徴の対照的な２人を生かした。プロ野球ドラフト会議でロッテから７位指名を受けた速球派の田中大聖（やまと）も控えていたが、花城に託した。

真鍋監督から「ベテランで安定感は一番ある」と評された中継ぎ右腕は、「しっかり準備し、全力でいいイメージを持って頑張ります」。前回王者を破り、さらなる高みを目指す上で鍵を握りそうだ。

前回王者敗退

トヨタ自動車・藤原航平監督

うまくいかなかったのは私の責任。（相手先発は）井村（勇介）投手を予想していた。どのボールを振りにいくかやってきたつもりだったが、予想以上に（落ちる球が）いい球だった。さすが、（１回戦で）完全試合をする投手で想像を超えていた。



【トヨタ自動車―Ｈｏｎｄａ鈴鹿】Ｈｏｎｄａ鈴鹿に敗れて涙を流すトヨタ自動車の先発・池村（中央）

ヤマハ	打	安	点
⑦	矢西舟相網森野笠秋小清大土藤永	2	2
⑧	9	0	0
⑧	7	0	5
⑥	5	3	0
⑨	3	2	5
７	D	1	0
ＤＨ	D	2	0
③	5	0	0
Ｈ	水	0	0
②	2	0	0
Ｈ	2	0	0
④	4	2	0
３	4	2	1
⑤	4	2	0
	計	14	10

ＪＲ東海	打	安	点
⑨	谷	0	1
⑤	祥沢	1	1
③	野田	0	0
ＤＨ	尾井	1	0
⑧	有村	1	0
⑥	田	2	0
⑦	山木	0	0
Ｈ	晃崎	0	0
④	永場	1	0
Ｈ	々本	0	0
Ｈ	山須牛	0	0
Ｒ	4	1	0
②	下佐藤吉三	1	0
Ｈ	7	0	0
	計	6	4

併	4	1
残	6	2
失	0	0
盗	0	0
犠	1	0
球	2	1
振	5	1

	責	安	回	打	本	塁	点
手田原廉野	4	5	6	⅓	1	1	3
梅金佐水	0	3	⅓	⅓	0	0	3
投	0	1	⅓	⅓	0	0	2
後井川本島	2	2	4	⅓	0	0	2
不辻喜川宮	0	0	2	⅔	0	0	1
久	1	2	⅔	0	0	0	
藤	1	2	⅓	0	0	0	

▽本塁打 野矢（平田）
▽二塁打 舟森（梅田）、間島（宮土幡）
▽三塁打 相投（矢羽田）
▽暴投 久川（梅田）
▽合分樋大（保、加藤）
▽号①（時球乗）
▽号②（梅田）
▽審金、判審（塁）
▽口屋、
▽試46）

ヤマハ、5大会ぶり8強

▽第3試合＝2回戦

ヤマハ（静岡）	1	0	0	1	0	0	4	4	0
ＪＲ東海（愛知）	0	0	0	0	0	0	3	0	0

ヤマハが14安打10得点で大勝した。１―１の四回に相羽の適時二塁打で勝ち越すと、七回は永浜の適時打と相羽の３点二塁打で計４点を加えた。

3番快打、鳴り響く

ヤマハが２試合連続の２桁得点をマーク。活発な打線で特に目立つのが相羽寛太だ。今大会からつかんだ「３番」の座で２安打５打点を挙げた。

同点の四回無死二塁。追い込まれた後にフルカウントまで粘って６球目をはじき返した。左中間を破って勝ち越し点を挙げ、二塁塁上でガッツポーズを見せた。

八回は矢幡の２ランなど４長短打を集めて４得点した。ＪＲ東海は七回に３点を返したものの、救援陣が痛打された。

七回には満塁から引っ張った打球が左翼手の頭を越し、走者一掃の適時二塁打に。終盤で相手を突き放す大きな追加点となった。「レフトに強い打球を打つイメージを持ち、良い感じで打てた」と振り返った。

静岡高から入社５年目の今季は課題の打撃を克服するため、体幹を強化するなどし、



【ヤマハ―ＪＲ東海】七回表ヤマハ２死満塁、相羽が３点二塁打を放つ

ボールに力を伝える感覚を養った。打球が失速せずに伸びるようになってきたのが成長の証だ。

６番だった今夏の都市対抗大会は、準々決勝で適時三塁打を放つなど全４試合で計７安打。４強入りの原動力となり、首位打者賞にも輝き自信をつけた。

申原直樹監督も「都市対抗の首位打者で余裕が出ている。実力がワンランク上がった。良い打者だから上位で使いたくなる」と期待を寄せる。

「ヤマハの３番を打てているのはうれしいが、試合ではやるべきことをやっていきたい」。中軸として存在感を示し、頼もしさは増している。

ＪＲ東海・平野英丸

（一回の左越えソロは）入ると思っていなかったので驚いた。昨年はバックスクリーンに本塁打を放って今年は逆方向。打撃の幅が広がっているなと感じた。元々、若い頃は引っ張った本塁打が多かった。年数を重ねて逆方向への長打が増え、今日の一発で自分の成長を再確認できた。



【ヤマハ―ＪＲ東海】一回裏ＪＲ東海２死、平野が本塁打を放つ

◇**第９日**（11月９日）

準々決勝２試合があった。ＮＴＴ西日本がＨｏｎｄａ熊本に延長十三回タイブレークの末、８―７でサヨナラ勝ちし、準優勝した第32回大会（２００５年）以来、18大会ぶりに準決勝に進出した。延長は４試合目で、十三回は今大会最長。

都市対抗４強の日本生命は東邦ガスに11―５で快勝し、第48回大会（23年）以来、２大会ぶりに準決勝に進んだ。

準決勝第１試合は近畿勢同士の対決となり、ＮＴＴ西日本と日本生命が11日に対戦する。

ＮＴＴ西丸、諦めぬ

▽第１試合＝準々決勝

Ｈｏｎｄａ熊本（熊本）　０００　０１０　１００　３０２　０　７
ＮＴＴ西日本（大阪）（延長十三回、十回からタイブレーク）　０００　０１０　００１　３０２　１　８

ＮＴＴ西日本が延長タイブレークの末にサヨナラ勝ち。九回に代打・夏目の適時打で追いつき、十三回は無死満塁から成瀬の犠飛で決めた。先発・浜崎が８回２失点と試合を作り、２番手・大江も粘り強く投げた。Ｈｏｎｄａ熊本は、４度リードするも救援陣が踏ん張れなかった。

ポジティブ貫き、延長制す

取られたら取り返す。ＮＴＴ西日本は、４度リードを許しても食らいついた。延長十三回の激闘に終止符を打った

Honda熊本	点	打	安	⑦	⑥	⑧	③	⑨	ＤＨ	⑤	Ｒ５	Ｈ②	④
島上垣寺本尾根　森林頭柳山崎	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中井稲古山蓑山　正江青丸江	2	4	2	0	0	0	0	0	Ｄ	0	0	0	0
計	10	43	6										

ＮＴＴ西日本	点	打	安	⑧	⑦	４	⑤	③	ＨＤ	Ｒ⑨	⑥	②	Ｈ２	④
畑井藤島田村井本井瀬本目泉川　串天後水山中酒山藤成辻夏小吉	8	46	14	1	0	0	3	0	1	1	0	0	0	0
計	8													

併	2	1	
残	15	13	
失	2	0	
盗	0	3	
犠	3	6	
球	3	2	
振	11	6	

	責	安	回				投
島	1	6	5	⅓			島
横	0	0		⅔			横
片	2	5	3	⅓			片
藤	0	0	1		⅔		藤
寺	0	3				⅓	寺
新	0	0					新
高	0	0					高
浜	2	4	8	5			浜
大	0	0					大

三合分藤、山村、丸山▽試44間審平田（浜崎）▽間審島時（球審）崎水３審山打者①打席本塁打▽原和名



【Ｈｏｎｄａ熊本―ＮＴＴ西日本】延長タイブレーク十三回裏ＮＴＴ西日本無死満塁、成瀬がサヨナラの犠飛を放つ

のは、プロ野球・ＤｅＮＡからドラフト5位指名を受けた7番・成瀬脩人だった。

タイブレークの延長十三回。無死満塁の好機で「絶対に自分が決める」と打席に入った。初球をコンパクトなスイングで捉えると、打球は右翼へ。犠牲フライには十分だった。三塁走者は楽々生還し、ドームは沸き立った。

1点を追う九回は1死から連打で一、三塁の好機を作り、代打の夏目大が同点適時打を放った。延長に入ってもしぶとかった。十回は表に3点を先行されたが、水島滉陽の2点適時打などで同点に。十二回は2点を取られたが、またしても追いついた。

Ｈｏｎｄａ熊本、伝統の粘り力尽き

驚異の送球が一直線に伸びた。同点の延長十二回、守るＨｏｎｄａ熊本は1死満塁の窮地に立たされた。相手の打球は中堅に高く上がり、誰もが「犠飛でのサヨナラ負け」を覚悟した。

中堅手の稲垣翔太は数歩下がって捕り、捕手のミットめがけて投げた。「細かいことを考えても仕方ない。思いきり腕を振るだけ」

ＮＴＴ西日本の三塁走者、俊足の串畑勇誠は捕手を避けるようにスライディングしたが、伸ばした左足がベースに届かなかった。ノーバウンドの返球を捕った捕手がタッチして併殺が完成。絶体絶命のピンチを切り抜け、渡辺正健監督は「伝統の粘りを発揮できた」と誇った。

投手が失点しても打線がカバーする。「ポジティブ」をテーマに掲げ、粘り強く互いを支えた。「頼もしくて雰囲気も良く、いつも助けてもらってばかり。今日は助けることができて良かった」。成瀬は試合後、涙で声を詰まらせながら仲間への思いを口にした。

4強入りは実に18大会ぶり。河本泰浩監督が入社1年目だった２００５年の第32回大会で準優勝して以降、準々決勝の壁に阻まれてきた。「全員で意識して厚い壁を破ることができて本当にうれしい」と河本監督。執念で扉をこじ開けた。

打撃では9番・江崎大輔が3犠打を成功させるなど、計6犠打で相手バッテリーに重圧をかけた。五回には2死一、三塁から重盗を仕掛けて先制点につなげた。大会前には、野手全員が初球でバントを成功させるまで終わらない練習が恒例だ。

ただ、持ち味を発揮しても勝利はつかめなかった。渡辺監督は延長での2度のバントミスを悔やみ、「細かい部分の精度がまだまだ足りない。冬場は肉体強化はもちろん小技も磨いて戻ってきたい」と誓った。



【Ｈｏｎｄａ熊本―ＮＴＴ西日本】延長タイブレーク十二回裏ＮＴＴ西日本1死満塁、山本の中飛で串畑が本塁を狙うもＨｏｎｄａ熊本の中堅手・稲垣の好返球でタッチアウト（捕手・丸山）



【東邦ガス―日本生命】4回無失点と好投した日本生命の2番手・真野

日生2番手、勝利呼ぶ

▽第2試合＝準々決勝

東邦ガス（愛知）　3 1 0　0 0 0　1 0 0　5
日本生命（大阪）　2 0 2　2 3 2　0 0 ×　11

日本生命が15安打11得点で大勝した。2点を追う三回に竹中の適時打などで追いつき、四回には相手投手の暴投で勝ち越すと六回まで毎回得点でリードを広げた。三回から登板した2番手・真野が4回無失点で流れを引き寄せた。東邦ガスは一回に若林の3ランで先制したが、投手陣が崩れた。

エース乱調救う好投

エースのまさかの乱調もなんのその。日本生命には頼りになる救援陣がそろう。その一角を担うのが2年目の最速152キロ右腕・真野凜風（りんか）だ。

2番手で三回から登板すると、2回戦に続き4回無失点と好投し、逆転勝利を呼び込んだ。

「（最初は）今日の出番はないかなと思っていたが、準備はできていた」

先発のエース右腕・谷脇弘起が一回に3ランを浴びるなど2回4失点で降板すると、名前がコールされた。189センチの長身で、マウンドでの立ち姿は速球派をイメージするが投球内容の多くは変化球。スライダーやフォークなど多彩な変化球を巧みに操り、的を絞らせなかった。

2点を勝ち越した直後の五回は1死から四球で走者を出し、先制3ランを放った東邦ガスの4番・若林俊充を迎えた。カウント2―2からスライダーを外角いっぱいに投げ込んで、イメージ通りの二ゴロ併殺に仕留めた。三～六回は相手打線をわずか1安打に抑えた。

奈良・天理高時代は軟式野球部で腕を磨き、同大で硬式に転向した異色の経歴を持つ。入社直前に右肘の靱帯（じんたい）を再建するトミー・ジョン手術を受け、今年4月に復帰した。

4強入りした今夏の都市対抗では2試合に救援し、4回あまりを投げて2失点。納得のいく投球とはいかず、「まだまだ自分の肘ではない感じ」と投げ込みの回数を増やした。

真野は「チームに迷惑をかけてきたので、恩返しをしたい」。新戦力が躍動し、9大会ぶりの頂点が見えてきた。

日本生命・梶田茂生監督

（打線のつながりは）春からやってきたことが徐々に形になってきた。諦めないでやっていると「なんか起こせるんちゃうか」と。ベンチで掛け合っている声を聞いているとすごく感じる。（近畿勢同士の準決勝は）お互い分かっているもの同士。NTT西日本には最後の最後でやられている。胸を借りるつもりで当たっていきたい。

東邦ガス、先制実らず

4番の豪快な一発で先制した。東邦ガスの10年目、若林俊充が価値ある一発を放った。

一回1死一、二塁。3球目の高め直球をフルスイングすると、中堅右の深いところまで飛ばした。3ランで先制したが、ベテランは冷静だった。

「このまますんなりといくわけがない」

その言葉は的中する。直後

東邦ガス	打	安	点
⑨	大金	1	0
⑥	木田	0	0
4	比嘉	1	0
H	飯田	0	0
⑤	宮下	2	1
D	若林	1	1
③	柴田	3	0
⑦	虎谷	0	0
④	高垣	0	0
H	佐木	0	0
⑧	浦口	0	0
6	松井	1	0
9	氷見	1	0
H	々	0	0
②	々	0	0
	計	11	1

日本生命	打	安	点
⑧	中津	0	0
⑦	松本	1	0
③	木倉	1	1
⑨	竹村	2	1
⑤	山田	1	2
D	竹中	1	1
⑥	高田	0	1
④	池上	1	0
4	梅村	0	1
②	三島	0	0
	計	10	7

| | | |



【東邦ガス－日本生命】一回表東邦ガス１死一、二塁、若林が３点本塁打を放つ

に１点差まで迫られ、三回に追いつかれると四回には勝ち越しを許した。得点も二回以降は２点止まり。手放した流れは戻ってこなかった。

若林は日体大を経て入社した強打者。２０２１年の第46回大会ではチームの過去最高成績に並ぶ８強入りを経験した。大会前には若手や中堅選手に「東になって戦おう」と伝えてチームで一つになった。１回戦でサヨナラ打を放つなど、バットで存在感を示したが、８強の壁は越えられなかった。「もう一個（勝って）上の景色を見たかった」。最後まで悔しさが晴れることはなかった。

◇**第10日**（11月10日）

準々決勝２試合があり、ＮＴＴ東日本とヤマハが勝って４強が出そろった。ＮＴＴ東日本は都市対抗準優勝の三菱自動車岡崎に７―５で逆転勝ちし、準優勝した第47回大会（２０２２年）以来、３大会ぶりに準決勝に進んだ。都市対抗４強のヤマハはＨｏｎｄａ鈴鹿との東海勢対決を４―２で制し、優勝した第42回大会（16年）以来、８大会ぶりのベスト４入りを決めた。11日の準決勝はＮＴＴ西日本―日本生命、ＮＴＴ東日本―ヤマハの顔合わせとなった。

ＮＴＴ東、二回に「救世主」

▽第１試合＝準々決勝

三菱自動車岡崎（愛知）　100 000 004＝5
ＮＴＴ東日本（東京）　114 000 10×＝7

ＮＴＴ東日本が11安打を放って逆転勝ち。一回に中村の適時打で同点とし、二回に石井巧の適時打で勝ち越し。三回に４点を加えて突き放した。５回無失点の多田の好救援も光った。三菱自動車岡崎は九回に荒井の３ランなどで追い上げたが、序盤の失策絡みの失点が痛かった。

多田投入、５回無失点

救世主のごとく現れた。ＮＴＴ東日本は５年目右腕・多田裕作が二回に好救援し、試合の流れを引き寄せた。



【三菱自動車岡崎―ＮＴＴ東日本】力投するＮＴＴ東日本の多田

三菱自動車岡崎	打	安	点
⑤ 菅原	5	2	0
⑨ 茂木	4	2	0
⑧ 中村	3	0	0
Ｈ 奎	1	0	0
７ 室	3	0	0
④ 田中	3	0	0
ＤＨ 川見	3	0	0
Ｒ 野	3	0	0
⑦ 爪	3	1	0
③ 藤川	3	1	1
② 手	3	0	0
Ｈ 藤原	1	0	0
⑥ 藤原	0	0	0
Ｈ 藤原	0	0	0
６ 住井	0	0	0
Ｈ 豊荒	1	1	3
計	33	7	4

ＮＴＴ東日本	打	安	点
⑦ 道井	5	1	0
⑥ 石原	4	2	1
Ｈ 丸山	4	0	0
⑧ 直井	1	0	0
Ｄ 向山	5	1	0
⑤ 中村	3	3	1
② 保坂	3	3	0
３ 大柿	3	0	0
２ 内山	4	0	1
③ 池本	3	2	1
Ｒ 伊光	0	2	1
④ 井上	5	4	2
⑨	6	1	2
計	35	11	6

三	10	4	0	1	2	5	0
Ｎ	振	球	犠	盗	失	残	併
	7	3	1	0	1	8	1

投	秋山	鈴木	田清	寺多	稲毛	紫上
責	3	1	0	1	0	0
安	6	1	0	0	0	0
回	2	1	1	1	1	0
手	⅓	⅓	⅓	⅔	⅔	⅓
凌	1	1	0	1	2	0
木				0	0	0
中	4	4	0	1	2	0
川	1	1	0	0	0	0
嶋	1	0	0	1	0	0
田	5	3	1	0	1	0
田	2	1	0	0	1	0
藤		0	0	0	2	0
出		0	0	0	0	0

▽本塁打　荒井③（紫藤）
▽二、三塁打　荒井（紫藤）
▽二塁打　東、中川、原井、石藤
▽暴投　原井
▽合計試合時間　２時間53分
▽審判（球審）　下、多田、井上、伊藤、村上、嶋寺
▽審判（塁審）　川、野口、吉間



【三菱自動車岡崎―ＮＴＴ東日本】力投する三菱自動車岡崎の先発・秋山

1―1の二回、先発右腕・寺嶋大希が先頭に二塁打を許した。さらに後続に四球を与え、無死一、二塁となったところで北道貢監督は交代を決断した。呼ばれたのが多田だ。

冷静だった。「寺嶋はあんまり調子がよくなかったので準備していた。ビックリした感じとかではなかった」。相手の8番・西川尚希は2球続けて送りバントを試みたが、多田はいずれもファウルで追い込んだ。

ヒッティングに変えた西川にファウルで粘られたが、8球目に渾身（こんしん）の146㌔ツーシームを内角に投げ込み、見逃し三振を奪った。さらに9番・内藤幹太にも変化球をうまく使って2者連続で三振に仕留めた。

1番・菅原裕太には右前打とされたが、井上大成の好返球で二塁走者がホームでタッチアウトに。流れは一気にチームに傾いた。

三回は得意のツーシームを低めに集めてゴロを打たせて無失点。その裏にチームは4得点を挙げて主導権を握った。

多田は今大会初登板。実は大会直前に肩に痛みが出て、登板機会がなかった。「迷惑をかけた。ここからは自分が流れを作る」と気合は十分だった。

千葉・日体大柏高から拓大を経て入社した。1年目の都市対抗大会から抑えとして活躍し、若獅子賞（新人賞）も獲得。その後は先発に挑戦するなど経験を積んできた。

チームは今季、都市対抗の出場を逃した。自身は2次予選で中継ぎで登板したが、投球回数は計3回にも満たなかった。夏以降は「『多田が投げれば大丈夫』と信頼を得られるように」と取り組んできた。

初の頂点まであと2戦。

三菱自岡崎、前向く右腕

悔しげな表情に、やり切った充実感がにじんだ。三菱自動車岡崎の先発右腕・秋山凌祐（りょうすけ）は三回途中で降板。右肘靱帯（じんたい）の再建手術から復帰し、今季最後となる公式戦の登板を終えた。

この日は「慎重にコースを突こう」という意識が裏目に出た。制球が定まらずに二回までに2本の適時打を浴びてリードを許した。三回はカウントを取りにいった直球を連打され、1死二、三塁で降板。この回で4失点。「大胆にゾーンを攻めても良かったかな」と振り返った。

「3連投も意識して一つでも多くのアウトを取れるように全員でやっていく」。頼もしい右腕の復活が、チームをさらに勢いづける。

手術に踏み切ったのは1年目の2023年夏。立命大時代から肘に痛みを抱え、「不安なく投げられるように」と決断した。翌年は「絶対に成長する」と、前向きにリハビリに取り組んだ。

「手術前なら部屋でゲームをしていた時間がストレッチに変わった。特にケアの面は大きな学びになった」。野球以外の時間の過ごし方を見直した。

復帰した今季は先発の柱としてチームを支え「野球をやっていて楽しかった」という。都市対抗も防御率0点台を誇った投手陣の一角として、24年ぶりの決勝進出に貢献した。

「今日は真っすぐを簡単に打たれた。球速も制球も切れも全てパワーアップしたい。『今日があったから』って言えるように頑張りたい」。年間通してプレーしたのは社会人で今季が初めて。やり切ったからこそ得られた課題を来季につなげる。

ヤマハ先制、電光石火

▽第2試合＝準々決勝

Ｈｏｎｄａ鈴鹿（三重）　000 001 010 ― 2

ヤ　マ　ハ（静岡）　202 000 00× ― 4

ヤマハが序盤のリードを守った。一回に舟久保、相羽の連続適時長短打で2点を先取。三回は暴投と網谷の適時打で2点を加えた。佐藤廉は制球力があり、2失点で完投した。Ｈｏｎｄａ鈴鹿は先発・川原が三回途中4失点。打線は5安打にとどまり、畔上のソロと犠飛による得点のみだった。

1、2番　わずか2球で

わずか2球で試合の主導権を握った。

ヤマハは一回、先頭の矢幡勇人が初球を引っ張り、二塁打されたが、井上大成の好返球で二塁走者がホームでタッチアウトに。流れは一気にチームに傾いた。

三回は得意のツーシームを低めに集めてゴロを打たせて無失点。その裏にチームは4得点を挙げて主導権を握った。

多田は今大会初登板。実は大会直前に肩に痛みが出て、登板機会がなかった。「迷惑をかけた。ここからは自分が流れを作る」と気合は十分だった。

千葉・日体大柏高から拓大を経て入社した。1年目の都市対抗大会から抑えとして活躍し、若獅子賞（新人賞）も獲得。その後は先発に挑戦するなど経験を積んできた。

チームは今季、都市対抗の出場を逃した。自身は2次予選で中継ぎで登板したが、投球回数は計3回にも満たなかった。夏以降は「『多田が投げれば大丈夫』と信頼を得られるように」と取り組んできた。

初の頂点まであと2戦。

三菱自岡崎、前向く右腕

悔しげな表情に、やり切った充実感がにじんだ。三菱自動車岡崎の先発右腕・秋山凌祐（りょうすけ）は三回途中で降板。右肘靱帯（じんたい）の再建手術から復帰し、今季最後となる公式戦の登板を終えた。

この日は「慎重にコースを突こう」という意識が裏目に出た。制球が定まらずに二回までに2本の適時打を浴びてリードを許した。三回はカウントを取りにいった直球を連打され、1死二、三塁で降板。この回で4失点。「大胆にゾーンを攻めても良かったかな」と振り返った。

「3連投も意識して一つでも多くのアウトを取れるように全員でやっていく」。頼もしい右腕の復活が、チームをさらに勢いづける。

手術に踏み切ったのは1年目の2023年夏。立命大時代から肘に痛みを抱え、「不安なく投げられるように」と決断した。翌年は「絶対に成長する」と、前向きにリハビリに取り組んだ。

「手術前なら部屋でゲームをしていた時間がストレッチに変わった。特にケアの面は大きな学びになった」。野球以外の時間の過ごし方を見直した。

復帰した今季は先発の柱としてチームを支え「野球をやっていて楽しかった」という。都市対抗も防御率0点台を誇った投手陣の一角として、24年ぶりの決勝進出に貢献した。

「今日は真っすぐを簡単に打たれた。球速も制球も切れも全てパワーアップしたい。『今日があったから』って言えるように頑張りたい」。年間通してプレーしたのは社会人で今季が初めて。やり切ったからこそ得られた課題を来季につなげる。

ヤマハ先制、電光石火

▽第2試合＝準々決勝

Ｈｏｎｄａ鈴鹿（三重）　000 001 010 ― 2

ヤ　マ　ハ（静岡）　202 000 00× ― 4

ヤマハが序盤のリードを守った。一回に舟久保、相羽の連続適時長短打で2点を先取。三回は暴投と網谷の適時打で2点を加えた。佐藤廉は制球力があり、2失点で完投した。Ｈｏｎｄａ鈴鹿は先発・川原が三回途中4失点。打線は5安打にとどまり、畔上のソロと犠飛による得点のみだった。

1、2番　わずか2球で

わずか2球で試合の主導権を握った。

ヤマハは一回、先頭の矢幡勇人が初球を引っ張り、二塁打された後で「初球の真っすぐを

| | 点 | 安 | 打 | | |



【ヤマハーＨｏｎｄａ鈴鹿】一回裏ヤマハ無死二塁、舟久保が適時二塁打を放つ

狙って思い切りいこう」。直球が真ん中付近に入ったのを逆らわずにはじき返し、左方向へ運んだ。

やや深めに守っていた左翼手を尻目に矢幡は本塁に生還し、舟久保も一気に二塁へ。さらに相羽寛太の右前打で生還して2点を先行した。

三回にも舟久保からの3連打などで2点を追加。打線を勢いづけた序盤の攻撃を「前の打者がガンガンいったほうが後ろも楽に打てると思うので、結果的に良かった」と喜んだ。

ヤマハは今大会、1、2回戦といずれも2桁得点で勝ち上がった。打線を活気づけているのが、1、2番だ。

4強入りした今夏の都市対抗で矢幡は打率4割を超え、今大会も好調をキープしている。舟久保は脇腹の肉離れで都市対抗ではベンチ外だった

Ｈｏｎｄａ鈴鹿、反撃届かず

4点のリードを許し、打線は五回まで2安打のみだった。味方を勇気付ける一発を放ったのがＨｏｎｄａ鈴鹿の3番・畔上翔だ。

0―4の六回2死。畔上は「うまく反応できた」と初球をすくい上げて右翼席まで運んだ。都市対抗も含めた2大大会での初アーチ。反撃の一発に、静まり返っていたベンチは活気づいた。

打線は、ヤマハの先発左腕・佐藤廉に手を焼いた。変化球に苦しみ、打ちあぐねていたが、畔上はその変化球を仕留めてみせた。真鍋健太郎監督も「ムードを変える効果的な一発だった」と目を細めた。

10年目となった今季からはチームを5大会ぶりの日本選手権出場に導いたのも畔上だった。5月のＪＡＢＡベーブルース杯決勝ではサヨナラ打を放った。最高殊勲選手賞と、打率4割7分1厘で首位打者賞に輝き、存在感を示した。

八回にも犠飛を放って全2打点を挙げたが、25大会ぶりの準決勝進出はならず、「4強に行きたかった」と悔しがった。最後まで諦めない姿勢で鼓舞し続けたベテランは、まだまだチームのために仕事をするつもりだ。

が、今大会は3試合で12打数6安打と頼もしい。

舟久保は「中軸にすごい打者が控えているので、後ろを信頼しているからこそ」と好調の理由を語る。上位打線に好循環が生まれ、都市対抗で果たせなかった頂点への原動力になっている。

コーチ兼任という肩書が加わった。「とにかく野球がうまくなりたい」と誰よりも基本練習をこなし、真鍋監督も全幅の信頼を置く。



【ヤマハーＨｏｎｄａ鈴鹿】六回表Ｈｏｎｄａ鈴鹿２死、畔上が右越え本塁打を放つ

「世の中のこと学べた」

レジェンド始球式

オリックス・田嶋大樹（JR東日本）

プロ野球・オリックスの田嶋大樹（29）が始球式に登場した。

田嶋は振りかぶり、左腕からふわりと投げ込んだ。「初めてで緊張した。いい経験をさせてもらった」とにこやかに話した。

田嶋は栃木・佐野日大高からJR東日本に入社し、2017年の都市対抗大会で8強入りに貢献。17年秋の日本選手権でも先発した。オリックスから1位指名を受け、18年に入団し、通算49勝を挙げている。

働きながら野球をするのが社会人野球。田嶋は「勤務時間は短かったが、社会勉強ができ、世の中のことを学べた」と振り返る。「社会人に行って、プロに行くという形を選んでよかった。野球のレベルも高く、プロに近い。経験はすごく生きている」と実感を込めて話した。

社会人時代の思い出として、大応援団の後押しを受けた都市対抗を挙げた。「プロに入っても都市対抗はまたやりたいと思うことが多い。JR東日本は会社のみんなが野球を大好きでいてくれて、すごくありがたい環境でやらせてもらった」と語った。





㊤【Honda鈴鹿―ヤマハ】レジェンド始球式で投球するプロ野球・オリックスの田嶋大樹
㊦2017年の都市対抗野球大会で力投するJR東日本時代の田嶋

日本生命

		打	安	点
⑧	中津	4	2	2
⑦	松本	5	2	2
7	上西	0	0	0
③	木倉	4	1	0
⑨	竹村	4	0	0
⑤	山田	2	1	0
D	高中	4	0	0
⑥	池田	4	2	0
④	早上	1	0	0
H	船野	1	0	0
4	三島	0	3	0
	計	32	8	4

NTT西日本

		打	安	点
⑧	串畑	3	2	0
⑥	成瀬	5	1	0
⑤	水島	4	2	0
③	山田	4	0	0
D	酒井	4	1	0
⑨	藤井	3	0	3
⑦	天村	4	1	0
H	中本	3	1	0
②	辻川	2	0	2
④	吉丸	1	0	0
H	徳藤	0	0	0
7	後			
	計	32	8	5

日本生命	3併1	6残10	0失1	2盗1	2犠1	5球9	6振4
NTT西日本	3併1	6残10	0失1	2盗1	2犠1	5球9	6振4

	責	安	回			
投	1	3	5	⅔	3	
武	2	2		⅓		
山	0	0				
高	2	3			3	
斎	2	3				
高	3	3	4			
茨	0	1	1			
井	2	1	1			
大	0	1	2			
浜	2	1	1			

打＝中津（高井）、松本斎（藤時）、井間（球内）
審＝三吉（合分）、金本（浦村）、乗（時浦）
判＝（昱審）
打②＝高井
▽暴＝藤時
▽間＝内
▽号＝浦村
▽昱＝乗
1三投試9

◇**第11日**（11月11日）

準決勝2試合が行われ、決勝は日本生命とヤマハの顔合わせに決まった。

都市対抗大会で4強入りした日本生命はNTT西日本との近畿勢対決を6―5で制し、準優勝した第45回大会（2019年）以来、5大会ぶりに決勝に進んだ。

日生、大阪勢対決制す

▽第1試合＝準決勝

日本生命（大阪）	0	0	2	1	0	0	6
NTT西日本（大阪）	0	0	0	1	0	2	5

日本生命が接戦を制した。三回に中津の2ランで先行し、四回は相手投手の暴投で追加点。同点の八回には相手の失策に乗じて勝ち越して逃げ切った。NTT西日本は六回に辻本、七回に藤井の適時打で2点差を2度追いつく粘りを見せたが、あと一歩及ばなかった。

新人勢い、先制2ラン

新人の目が覚めるような一発が打線を勢い付けた。日本生命のリードオフマン、中津大和が放った三回の先制2ランだ。プロで活躍したスラッガーの助言を生かした。

中津は一回の第1打席、2球で追い込まれ、一ゴロに打ち取られた。タイミングが合わずに凡退してベンチに戻ると、日米のプロの世界で活躍した福留孝介コーチから指摘された。

「（球をぎりぎりまで）見過ぎている。（バットが）泳ぐぐらいでも（引っ張って）ライトに打てるよ」。中津は、打つポイントが近すぎたために少し前にするように意識を変えた。

三回1死二塁。左打席に入った第2打席で早速、実践した。2ボールの後に来た高めのストライクのボールはファウルとなったが、4球目で甘く入ってきた直球を思い切り引っ張った。

打球は右翼スタンドへ。



【日本生命―ＮＴＴ西日本】三回表日本生命１死二塁、中津が２点本塁打を放つ

「振っていこうという結果が本塁打になったので良かった」と笑みを浮かべた。

理想は「打って走って守れる選手」という。法大では強打の選手だった。社会人では俊足を買われ、春先から1番を任されている。投手のレベルが高い社会人で結果が残せない時期もあったが、「試行錯誤して技術面や精神面で強くなっている」と対応力が目を引く。

１回戦は３打数２安打をマークし、準々決勝は６打数４安打３打点。この日も本塁打を含む２安打２打点と乗りに乗っている。さらに４試合で３盗塁と走力でも存在感を示し、今大会のキーマンとなっている。

チームは２度追いつかれながらも近畿のライバルを振り切り、４強で敗れた都市対抗の悔しさを晴らした。「なかなかベスト４以上に行けなかったけど、諦めずによくやってくれている」と梶田茂生監督。目指すは単独３位となる４回目の優勝。ルーキーが頂点に向けてチームを加速させる。

ＮＴＴ西　要、守備悔い

試合後、ＮＴＴ西日本・辻本勇樹の目は真っ赤だった。

「本気で日本一を狙っていた」。29歳の扇の要は頂点に至る厳しさを痛感した。

持ち味の打撃では存在感を発揮した。六回２死満塁。追い込まれていたが、甘く入った真っすぐをコンパクトに引っ張って右前に運び、同点の２点打とした。

「１年間やってきたことを信じて、後ろにつなぐ意識だった」

状況に応じた打撃がうまい辻本らしい一振りだった。

だが、捕手として重きを置く守備で失点を重ねてしまった。悔いが残るのは四回２死一、三塁の守り。先発の新人左腕・高井駿丞のカットボールが本塁の手前で弾み、暴投で三塁走者の生還を許した。精いっぱいのプレーだったが、



【日本生命―ＮＴＴ西日本】六回裏ＮＴＴ西日本２死満塁、辻本が２点適時打を放つ

ヤマハ、投打響き合う

▽第2試合＝準決勝

ヤ　マ　ハ（静岡）	0	0	0	3	0	0	3		6
NTT東日本（東京）	2	0	0	0	0	0	1	0	3

ヤマハが一発攻勢で逆転勝ちした。五回に相羽の2ランで同点とし、さらに1死二、三塁から内野ゴロで1点を追加。追いつかれた後の九回に網谷の3ランで試合を決めた。NTT東日本は一回に犠飛などで2点を先行したが、打線は2安打に抑えられて好機が作れなかった。

4投手、2安打に抑える

アグレッシブに攻めるのは打線だけではない。強打が注目されるヤマハだが、決勝進出がかかった一戦で流れを引き寄せたのは、相手をわずか2安打に抑えた投手陣だった。

先発を託されたのは新人右腕の梅田健太郎だ。「浮足立った」と一回は先頭から2者連続の四死球をきっかけにいきなり2点を失った。ベンチに戻るともう一度気持ちを整え、やるべきことを整理した。

「ストライクゾーンにどんどん攻める。自分の球は簡単には打たれない。打たれてもしゃーない」

二回からは見違えるように躍動した。140キロ台中盤の直球にフォーク、スライダー、カーブなどを織り交ぜ、四回まで無安打、5奪三振。守備からリズムを生み出すと、五回に相羽寛太の2ランなどで一気に畳み掛けて逆転した。

梅田は5回1安打2失点（自責点1）と粘投し、2番手・沢山優介も2回を完璧に救援。八回を任された水野匡貴は失策絡みのピンチを背負いながらも最少失点でしのいだ。九回に網谷圭将の劇的な3ランで勝ち越し、最後はエースの佐藤廉が締めた。まさに理想的な展開で、都市対抗で阻まれた決勝への扉を開いた。

投打の歯車ががっちりとかみ合って挑む8大会ぶりの頂上決戦。「投手と野手が役割を果たし、互いを活気づける

選手権の準々決勝で何度も悔しさを味わってきた。今大会でその壁を突破したが、残ったのは悔しさが大きい。

「まだまだ課題がある。もっと成長できる」

目標は自分がマスクをかぶり、日本一を達成すること。再び走り出す。

入社以来、都市対抗と日本

「ああいう球を止めることで、投手はもっと投げやすくなる」と責任を口にした。

北海道・北海高、仙台大から入社7年目で、プロ野球・中日の辻本倫太郎を弟に持つ。社会人の日本代表経験もある指折りの捕手だ。



【ヤマハ―NTT東日本】力投するヤマハの先発・梅田

ヤマハ	打	安	点
⑦	幡村	5	1	0
8	矢西	0	0	0
⑧	舟相	1	1	0
⑥	9 久保	2	1	2
⑨	7 網谷	4	2	3
D	森川	5	1	0
②	大本	5	0	1
③	秋利	4	1	0
④	土山	3	2	0
⑤	永浜	4	0	0
	計	35	9	6

NTT東日本	打	安	点
⑦	道原	2	1	0
⑥	石井	3	0	0
⑧	直井	3	0	1
D	向山	3	0	1
⑤	中村	4	0	0
②	保坂	4	0	0
③	内山	3	0	0
H	佐本	3	0	0
④	伊光	1	0	0
H	4 丸山	2	0	0
⑨	井上	1	0	0
	計	29	2	2

ヤ	5	5	1	0	4	8	0	併	1
N	12	3	2	2	1	4	1	残	0
	振	球	犠	盗	失	安	責		

投	手田	回	5	2	1	0	0
梅	山		2	1	0	0	0
沢	野		1		1	0	0
水	藤		1		0	0	0
佐	廉						
	堀		4	⅔	7	3	3
	久	保	3	⅔	1	0	1
長	田	峻		⅓	1	1	0
多	井			⅓	0	0	0
石							

打＝堀田原、道利、秋時、良脇田、丸山
二＝羽谷（多）
三＝相網（多）
本②（多）
打＝堀田原、道利、秋時、良脇田、丸山
二＝羽谷（球）
三＝相網（球）
本②（球）
打＝堀田原、道利、秋時、良脇田、丸山
審＝三間上井、金子、判間審、合分西
審＝三間上井、金子、判間審、合分西

ことができている」と梅田。2度目の「ダイヤモンド旗」獲得を目前にチーム状態は最高潮に達している。

NTT東、快進撃止まる

NTT東日本の快進撃は4強で止まった。

一回に2点を先行したが、終わってみれば、放った安打はわずか2本。最後は強打のヤマハに屈し、北道貢監督は「（投手陣は頑張ったが）やっぱり向こうの打撃が素晴らしかった」と唇をかみしめた。



【ヤマハ―NTT東日本】一回裏NTT東日本1死二、三塁、犠飛を放ち喜ぶ向山

ヤマハは今大会、これまでの3試合でいずれも一回に先制してきた。相手の強力打線をいきなり勢いづかせたくはなく、試合の入りが極めて重要だった。

一回の守りを無失点に抑えてリズムを作ると、その裏の攻撃で相手先発の不安定な立ち上がりにつけ込んだ。四死球と犠打で1死二、三塁のチャンスを作り、主将の4番・向山基生が右翼へ高々と打ち上げた犠飛で先制。さらに、相手の失策で追加点を奪い、無安打で2点を先行した。

社会人の活気、楽しい

レジェンド始球式

オリックス・杉本裕太郎（JR西日本）

プロ野球・オリックスの杉本裕太郎（34）が11日第2試合の始球式に登場した。

杉本はオリックスのユニホーム姿で登場。パナソニックからオリックス、巨人でプレーし、今季限りで引退を表明した近藤大亮さんから借りたグラブでマウンドに立った。

振りかぶって大きな声を上げながらストライクゾーンに力強い球を投げ込み、右腕を突き上げるお決まりの「昇天ポーズ」で盛り上げた。

オリックスの投手20人以上から助言をもらうなど入念な準備を積んできたという。「ど真ん中にストライクが入ったので、120点です」と笑顔で話した。

杉本は徳島商高、青学大を経てJR西日本に入社。2016年にオリックスに入団し、強打で活躍している。漫画「北斗の拳」のキャラクター「ラオウ」の愛称で親しまれている。社会人時代は都市対抗大会と日本選手権に1度ずつ出場。「社会人は思っている以上に熱い。学生時代より冷めているのかと思ったら、今までで一番活気があって楽しかった」と振り返った。

だが、打線がその後は沈黙。1点を追う八回に好機を作り、3番・直井宏路の適時内野安打で追いついた。しかし、直後の九回に3ランを浴びた。

それでも、今大会のしぶとい戦いぶりは印象的だった。2回戦で都市対抗王者の王子、準々決勝で都市対抗準優勝の三菱自動車岡崎を破った経験は今後の糧になるだろう。社会人1年目で中軸を担った直井は悔しさを押し殺しながら言った。「いかに、（他のチームと）違った強みを出せるか。自分たちの野球に磨きをかけていきたい」と。





右【ヤマハ―NTT東日本】レジェンド始球式で投球するプロ野球・オリックスの杉本裕太郎
上2014年、JR西日本時代の杉本

◇**最終日**（11月12日）

決勝があり、ヤマハが日本生命に勝利し、第42回大会（２０１６年）以来、８大会ぶり２回目の優勝を果たした。最高殊勲選手には先発３試合を含む全５試合に登板し、決勝でも先発して１失点完投したヤマハの佐藤廉が選ばれた。日本生命は第41回大会（15年）以来、９大会ぶり４回目の優勝はならなかった。

ヤマハV　常勝の序曲

▽決勝

ヤマハ（静岡）	0	0	0	0	2	0	0	0	2
日本生命（大阪）	0	0	0	0	0	0	1	0	1

ヤマハが投手戦を制した。先発の佐藤廉は11安打を許しながらも要所を締め、１失点で完投。打線は五回に２四球と永浜の安打で好機を作り、矢幡が右前に２点適時打を放った。日本生命は先発の谷脇が７回２失点と試合を作ったが、打線が援護できなかった。

コーチ兼任、粘って殊勲打

コーチ兼任、13年目のバットが均衡を破った。０―０で迎えた五回。ヤマハは、１死満塁の好機で矢幡勇人が打席に入った。

２球で追い込まれながらもファウルで粘りながらボールを見極めた。フルカウントからの７球目。外角低めの難しい直球を食らいついて右前に運んだ。

「振るというスタイルを忘れず、後悔しないようにと思ったら、体が勝手についていった」。後輩たちに伝えてきたことを大一番で貫いた。

ベテランも中堅も新人も関係ない。ヤマハは準決勝までの４試合で49安打31得点、長打は19本を数えた。「練習よりも試合での方が打撃が良い」という声が上がるほど、各打者が打ちまくった。

変化が起こったのは、２０２３年の都市対抗大会準優勝だった。強豪チームとも対等に戦える自信がつくと、日本選手権出場権が懸かったＪＡＢＡ大会での優勝も経験できるようになった。

しかし、甘くはなかった。24年都市対抗は１回戦で明治安田から１点しか奪えず、１―11で八回コールド負け。今季から主将を務める大本拓海は「ここから負け続けたら準優勝の意味がない。足りないものが何かを考え、本当に強いチームを作る」と再び立て直しを誓った。

伝統の打撃に磨きをかけるべく、体作りと並行してパワーの「出力」にこだわり、瞬発力を鍛えた。結果を数値化して足りない力を理解し、自らの体に合ったトレーニングを取り入れた。鍛える部分が明確になり、強い打球を打てるようになった。

今季は矢幡のほか５年目の相羽寛太、新人で中軸を張る森川凌らが引っ張った。ＪＡＢＡ大会は東北と北海道を制し、夏の都市対抗では再び準決勝に戻ってやってきたことが正しかったと証明した。

対戦した投手からは「どの打者もスイングスピードが他のチームとは桁違い」との声が漏れるほどの強力打線が完成した。申原直樹監督は「５試合を通じて毎日選手たちが成長している姿を見られた。本当にこんなにうれしいことはない」と感心しきりだった。

各世代の力ががっちりかみ合ってつかんだ優勝。ヤマハが常勝への道を歩み始めた。



【ヤマハ―日本生命】五回表ヤマハ１死満塁、矢幡が２点適時打を放つ

ヤマハ	点	安	打
⑦ 矢西舟	2	1	5
８ 幡村保	0	0	0
⑧ 久	0	1	3
⑥ 羽谷川	0	1	4
９ ⑨ 相本利	0	0	3
７ 網山浜	0	1	4
Ｄ 森大秋	0	0	2
② 土永	0	0	3
③	0	0	1
④	0	0	0
⑤	0	0	0
計	2	6	29

日本生命	点	安	打
⑧ 中津	0	1	5
⑦ 松本	0	0	4
③ 木倉	1	2	4
⑨ 竹村田	0	2	4
⑤ 山中田	0	1	4
Ｄ 竹上智	0	1	3
⑥ 高山西	0	0	4
④ 池越島	0	0	2
Ｈ 船上	0	1	0
４ 三	0	1	1
Ｈ ②	0	0	4
計	1	11	36

	残	失	盗	犠	球	振
ヤ	9	0	0	0	1	3
日	9	0	0	0	0	2

	併	責
	2	1

投	手	回	安	球	振
佐藤	廉	9	11	1	2
谷	脇	7	5	2	0
真	野	2	1	0	0

▽西時間　上
▽間審　2
▽球都、
▽審（球）大林
▽審（塁）東海
▽塁審　打
▽二塁時　上
▽試合分　2
37小野木、
一

全試合登板、左腕完投

最後の打者を三振に仕留めると、ヤマハの主戦左腕・佐藤廉は静かに拳を握った。「実感はまだない。あとで動画で見て、本当に優勝したんだなと思うのかな」

両手を広げて、仲間に抱きかかえられると、ようやく満面の笑みが広がった。

最大の山場は九回。1死から2連打を浴びて二、三塁とされた。リードはわずか1点で「三振を狙う場面」。ここで今季継続してきた、要所で出力を上げる「ギアチェンジ」が生きた。日本生命の三島有貴には四隅を丁寧に攻めて、最後はフルカウントから低めのスライダーで空振り三振。続く中津大和も追い込んだ後、低めのスライダーを振らせて試合を締めた。

「佐藤に任せたと言ってもらった。たくさんの期待に応えるためにも、絶対に点を与えない気持ちだった」

1回戦は6日に登場。準決勝までの6日間、全4試合で先発も救援もこなし、計18回あまりを投げた。それでも決勝後には「疲れは感じていない。もうちょい投げられる」とけろりと言ってのけた。申原直樹監督が「大エース」と信頼する26歳が、マウンドを一人で守りきった。



【ヤマハ―日本生命】1失点で完投したヤマハ・佐藤

日生、若手躍動及ばず

4強入りした今年の都市対抗は2試合を完投する熱投を見せたが、頂点には届かなかった。2カ月後につかんだのは優勝旗の「ダイヤモンド旗」と最高殊勲選手の栄誉。ヤマハと佐藤廉の円熟期がここから始まる。

4回目の頂点にあと一歩届かなかったが、日本生命は俊足の1、2番コンビが好機を演出し、粘り強く戦った。

最初の見せ場は三回だった。1死から1番・中津大和が甘く入った変化球を見逃さず右前打で出塁。2番・松本渉は1ストライクからの直球をたたきつけた。遊撃手の好プレーに阻まれて松本はアウトになったが、中津は悠々と二塁に進塁。無得点に終わったが足を生かした攻撃で併殺を阻止し、揺さぶった。

2点を追う八回には1死から松本が「自信のある逆方向を」と狙い澄ましたように三遊間を破って出塁すると、打線がつながり1点を返した。

春先から比べると見違えるほど粘り強いチームに成長した。昨季に正捕手を担った石伊雄太は中日、中軸打者だった立松由宇（ゆう）はロッテに入団して抜けた。攻守の要を欠き、春先はもがき苦しんだ。

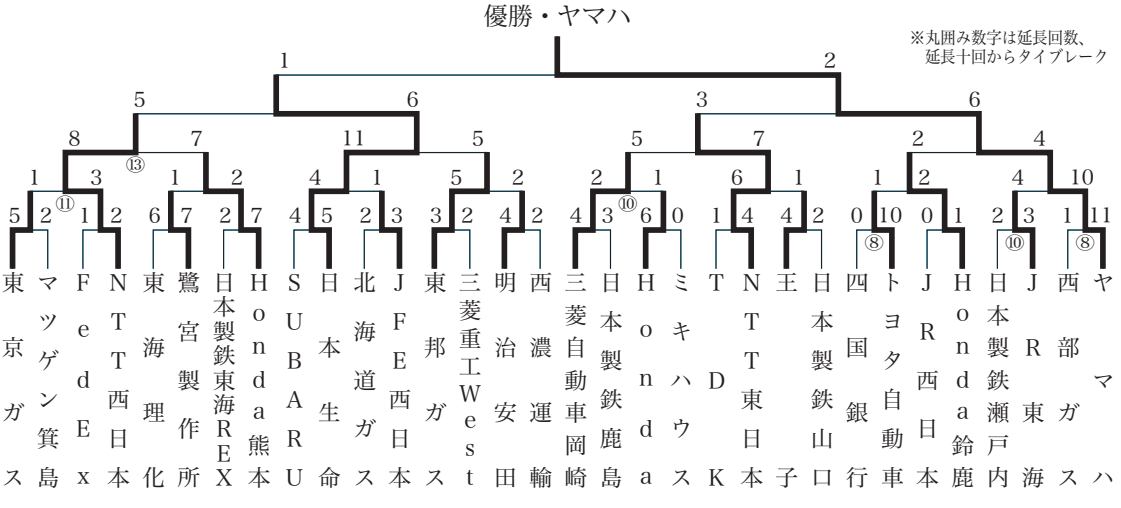
有望な大卒選手をスカウティングし、中核に据えてもプロ入りで抜けることがある。チーム作りの難しさに直面するが、梶田茂生監督は「宿命」と言う。

4月のJABA京都大会は投打がかみ合わずに1勝もできず、オープン戦でも負け続けた。軸となる投手やスタメン野手の大半が入社4年目までとなり、経験不足は明らかだった。

それでも、梶田監督は結果が出なくても若手を辛抱強く起用した。1番の新人・中津、2番の3年目・松本を不動とした。1、2番の走力を生かし、勝負強い中軸が打点を挙げる攻撃スタイルが定着した。

しかし、皮肉にも最後は若さが出た。九回2死二、三塁の一打サヨナラの場面。打席に入った中津は「弱さが出た」とバットを出せないまま3球で追い込まれ、最後は変

◇第50回社会人野球日本選手権　戦いの足跡◇



化球で空振り三振に倒れた。
　決勝を戦い終えた梶田監督は晴れやかな表情を浮かべ、「（1、2番の）彼らが機能し、こんなにも打線が活発になった。十分、チームを引っ張っていける存在になった」と目を細めた。負けから学んできたチームだからこそ、この敗戦は来シーズンの糧となる。



【ヤマハ―日本生命】三回裏日本生命1死、中津が右前打を放つ

ヤマハ・申原直樹監督
　最高です。（九回2死二、三塁での守りは）佐藤（廉）を信じていた。期待に応えてくれた。身上の制球力があった。安打を打たれても要所を締める丁寧な投球で、佐藤の真骨頂だった。

日本生命・梶田茂生監督
　選手は試合を捨てることなく、最後の最後までよく戦ってくれた。同点にするすべはいろいろあったのかもしれないが、追いつけなかったのは私の責任。

「レジェンド」大トリにトライ

レジェンド始球式

阪神・近本光司（大阪ガス）

　社会人出身のプロ選手らが始球式を務める「レジェンド始球式」にプロ野球・阪神の近本光司（31）が登場した。
　投じた球はストライクゾーンに収まり、「自分でもちょっとびっくりしている」。投げ終えた後は「社会人ならではの雰囲気を邪魔しないように（投げた）」とはにかんだ。
　兵庫・社高、関西学院大を経て2017年に大阪ガスに入社した。18年の都市対抗では優勝に貢献して橋戸賞（最優秀選手賞）と首位打者賞に輝いた。
　社会人時代は、野球以外でも学びを得たという。「特に僕らはインフラ系の会社で、野球を通じて地域を盛り上げていくことを一番教えてもらった」と振り返った。
　19年にドラフト1位で阪神に入団し、セ・リーグの新人シーズン最多安打を記録。盗塁王のタイトルも獲得するなど、俊足巧打の外野手として活躍を続けている。11日には今季取得した国内フリーエージェント（FA）権を行使せず、複数年契約を結んで阪神に残留することが決まった。





右レジェンド始球式で投球するプロ野球・阪神の近本光司
左2018年、大阪ガス時代の近本

社会人野球日本選手権で優勝したヤマハ監督

申原直樹さん（46）

　選手からは「ノブさん」と慕われる。心がけるのは「一人一人が力を発揮しやすい雰囲気を作ること」。若手に課題を伝えるのは大勢がいるグラウンドではなく、移動のバスの中。隣の席に座り、やんわりと思いを話す。穏やかで気遣いの人だ。
　神戸市出身。兵庫・報徳学園高3年だった1997年春夏の甲子園に「4番・二塁」で出場した。チーム内の風通しの良さを大事にするのは、主将を務めた中央大時代の経験からだ。
　自分より一つ上の代で主将だったのが、プロ野球・巨人監督の阿部慎之助さん。当時から勝負に厳しかったが、内実は「気付く人」。部内の無用なルールをなくし勝負に集中できる環境を整えると、チームの成績も上向いた。その過程を目の当たりにして「勝つために必要なことは何か」と考える癖がついた。
　2002年に入社したヤマハではレギュラーになれず、4年で現役引退した。マネジャーを経て社業に専念し、スタッフ部門で予算管理などを担った。
　「一つのことを成し遂げるには多くの人が関わっている。仕事も野球も一人では何もできない」。個々に寄り添い、能力を引き出す大切さを実感した。
　都市対抗大会で準優勝した23年にコーチ兼スカウトとしてチームに復帰し、24年シーズンから監督を務める。モットーは「全員野球」。決勝を終えると涙ながらに選手たちに駆け寄り、一人ずつ抱きしめた。「みんなの成長を毎試合見られた。僕は幸せ者です」。選手とベンチが響き合い、日本一になった。

◇**ヤマハ**　1958年創部。日本選手権は日本楽器時代の第3回大会（76年）で初出場し、第42回大会（2016年）で初優勝した。都市対抗大会は優勝3回。OBに池谷公二郎（元広島）、西村龍次（元ヤクルトなど）ら。

MVP　ヤマハ・佐藤廉



優勝し、ウイニングボールを手に笑顔を見せるヤマハの申原直樹監督

最高殊勲選手賞

佐藤　廉（ヤマハ）＝初

１４０㌔前後の直球と多彩な変化球は切れがあり、スタミナも抜群。決勝まで先発３試合を含む全５試合に登板。27回３分の１を投げて自責点３。修徳高―共栄大出身。26歳。

敢闘賞

中津　大和（日本生命）＝初

新人ながら俊足強打の１番打者として打線をけん引した。全５試合に出場し22打数９安打で打率４割９厘を記録。準決勝で先制２ランを放った。小松大谷高―法大出身。23歳。

特別賞

井村　勇介（Ｈｏｎｄａ鈴鹿）＝初

ＪＲ西日本との１回戦で史上２人目となる完全試合を達成。抜群の制球力とテンポの良い投球で走者を一人も出さず、９奪三振、99球で完封。高蔵寺高―至学館大出身。28歳。

首位打者賞

水島　滉陽（ＮＴＴ西日本）＝初

「３番・三塁」で全４試合に出場し、18打数９安打で打率５割を記録。２回戦と準々決勝で３打点をマークし、勝負強さが際立った。拓大紅陵高―東京情報大出身。24歳。

打撃賞

相羽　寛太（ヤマハ）＝初

２回戦は二塁打２本などで計５打点。準決勝では同点２ランを放つなど強力打線を引っ張った。５試合で20打数８安打８打点。打率４割。静岡高出身。23歳。

優秀選手

〈投手〉斎藤礼二（日本生命）佐藤廉（ヤマハ）大江克哉（ＮＴＴ西日本）長久保滉成（ＮＴＴ東日本）島袋圭亮（Ｈｏｎｄａ熊本）吉田大喜（東邦ガス）井村勇介（Ｈｏｎｄａ鈴鹿）

〈捕手〉三島有貴（日本生命）氷見泰介（東邦ガス）

〈一塁手〉木倉朋輝（日本生命）伊藤大地（三菱自動車岡崎）

〈二塁手〉土山翔生（ヤマハ）伊東光亮（ＮＴＴ東日本）

〈三塁手〉山田健太（日本生命）水島滉陽（ＮＴＴ西日本）中村迅（ＮＴＴ東日本）宮下隼輔（東邦ガス）

〈遊撃手〉相羽寛太（ヤマハ）井上剛（Ｈｏｎｄａ熊本）

〈外野手〉中津大和、松本渉（日本生命）網谷圭将、矢幡勇人、舟久保秀稔（ヤマハ）串畑勇誠、藤井健平（ＮＴＴ西日本）茂木陸（三菱自動車岡崎）

〈指名打者〉竹中研人（日本生命）森川凌（ヤマハ）若林俊充（東邦ガス）畔上翔（Ｈｏｎｄａ鈴鹿）

第50回社会人野球日本選手権大会 優勝チーム登録メンバー

ヤマハ㉙　（東海・静岡）

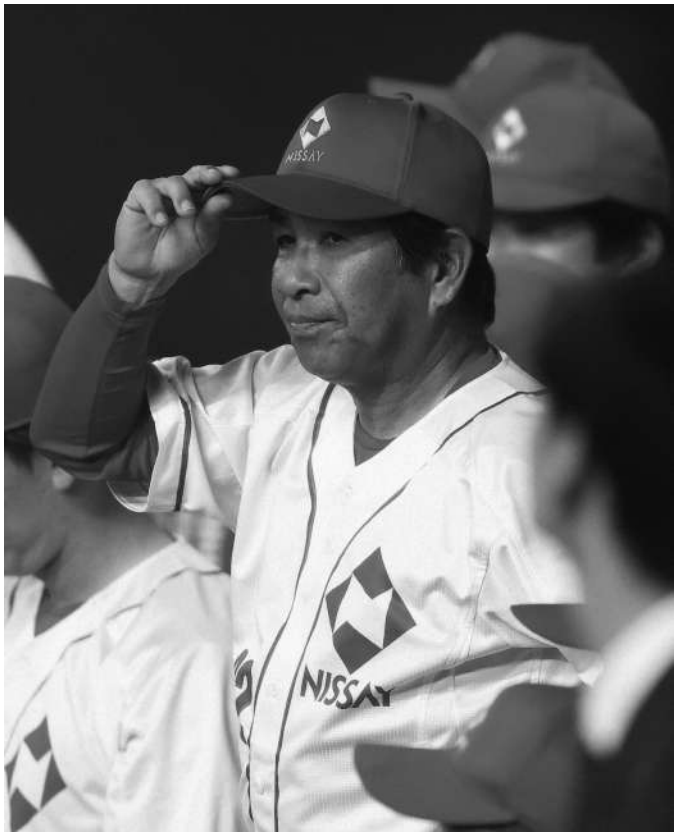
監督	㊽	中原　直樹	46	大中	
投手	⑪	有本　雄大	24	右・右	東北福祉大
	⑫	佐藤　大善	24	右・左	東北福祉大
	⑬	北田　智朗	23	右・左	中部学院大
	⑭	佐藤　廉太	26	右・右	共栄大
	⑮	金原　祥大	25	右・右	東北福祉大
	⑰	清水　蓮	28	右・右	共栄大
	⑱	水野　匡貴	30	右・右	明立正大
	⑲	梅田健太郎	23	右・右	立正大
	⑳	吉山　朝陽	23	右・右	富士大
	㉑	波多野陽介	31	右・右	東北福祉大
	㉙	寺沢　孝多	24	右・左	近大
	㉞	沢山　優介	22	左・左	掛川西高
	㉟	九谷　青孝	35	左・左	東農大
捕手	⑨	高杯　翼	28	右・右	中部学院大
	㉒◎	大本　拓海	28	右・右	立命大
	㉗	水本　裕智	23	右・右	中部大
内野手	②	土山　翔生	22	右・右	国学大
	③	藤岡　康樹	30	右・左	東農大
	④	秋利　雄佑	33	右・右	カリフォルニア州立大
	⑥	小林　寛弥	24	右・右	専大
	⑦	永浜　晃汰	28	右・右	東北福祉大
	⑩	相羽　寛太	23	右・右	静岡高
	㉓	野沢　洸	29	右・左	横浜国大
	㉛	森川　凌	22	右・左	神戸学院大
	㉝	笠松　悠哉	30	左・右	立大
外野手	⓪	西村　進之介	24	右・右	専大
	①	矢幡　勇人	35	右・右	専大
	⑤	網谷　圭将	28	右・右	千葉英和高
	⑧	舟久保秀稔	25	右・右	東京国際大
	㉔	中田　悠斗	26	右・右	中大
	㉕	前野　幹博	30	右・右	ＰＬ学園高
	㉖	桃谷　惟吹	24	右・右	立命大
	㊽	石野　雅之	40	左・左	国士舘大

「守り勝つ野球」手応え

準Ｖ日本生命

梶田茂生監督（57）

第50回社会人野球日本選手権大会は12日、京セラドーム大阪で決勝があり、梶田茂生監督（57）率いる日本生命はヤマハに1―2で敗れ、9大会ぶり4回目の優勝はならなかった。



日本生命の梶田茂生監督

胃がキリキリと痛み、食事も喉を通らない。都市対抗野球大会や日本選手権の予選が近づくと、そんな緊張感に襲われる。

全国の舞台に出るのは当たり前。周囲が期待するのは日本一。名門を率いる重圧と闘い、監督として初の決勝の舞台に立った。だが、頂点には一歩届かなかった。

「一つずつ、地道にいくしかないんだなって」

徳島県上板町出身。「小さな町のお山の大将だったのが、全国を知るきっかけになった」。徳島・池田高では、3年春にエース左腕としてセンバツで優勝した。チームは強打の「やまびこ打線」で知られ、打ち勝つ野球が染み付いていた。

筑波大に進み、違う野球を目の当たりにする。「余計な点をやらなければ勝てる」。正反対の意識に「来るとこ、ちゃうかったかな」。初めは戸惑ったが、守備力次第で格上相手にも接戦に持ち込めると実感するようになった。

それからは、守り勝つ野球が信条になった。「取れるアウトをちゃんと取るチームが、やっぱり勝つ」

日本生命の選手やコーチを経て、2021年秋に監督に就任。15年の夏秋連覇以来、2大大会の頂点から遠ざかったチームの再建を託された。バッテリーの強化に取り組むなど、守りの野球を浸透させていった。

迎えた日本選手権の決勝はロースコアの接戦に。相手のヤマハも強打と言われながら、決勝はエースを中心に守り勝った。「目指してきた守りの野球は、やっぱり間違いじゃなかった」。手応えも口にした。「選手は最後までよく戦ってくれました」

首にかかった銀メダルを見つめる顔に、悔しさと選手への思いがにじんでいた。

プロ入り前、最後の輝き　指名選手が躍動

第50回社会人野球日本選手権はプロ野球ドラフト会議で指名された選手らが大会を盛り上げた。プロ入り前、最後の大会だけに涙を見せる選手も。その雄姿を振り返る。

◇鷺宮製作所・竹丸和幸＝巨人1位

最も注目を集めたのが巨人1位指名、鷺宮製作所の左腕・竹丸和幸だった。東海理化との1回戦で先発して七回途中1失点。最少失点に抑えて勝利を呼び込み、ゲームメーク力の高さを示した。

Ｈｏｎｄａ熊本との2回戦では1点リードの八回途中から救援。九回2死二、三塁から逆転打を浴びて敗れた。竹丸は「技術不足。社会人では一球に対する集中力が求められることを学んだ。レベルアップしてプロに入りたい」と前を向いた。



鷺宮製作所の竹丸


Ｈｏｎｄａ鈴鹿の田中

◇Ｈｏｎｄａ鈴鹿・田中大聖＝ロッテ7位

８強のＨｏｎｄａ鈴鹿は、ロッテ7位の本格派右腕・田中大聖（やまと）が準々決勝のヤマハ戦の八回に４番手で登板し１６１㌔をマーク。自己最速を４㌔更新して剛腕ぶりを披露した。プロでは抑えを希望し「（社会人で）人として成長できた。球界を代表する抑えになれたらなと思います」と涙ながらに誓った。


Ｈｏｎｄａの片山

◇Ｈｏｎｄａ・片山皓心＝ＤｅＮＡ4位

Ｈｏｎｄａは、ＤｅＮＡ４位指名の左腕・片山皓心（ひろみ）が1回戦から2試合連続で先発し、コーナーを丁寧につく投球術を披露した。三菱自動車岡崎との2回戦は６回1失点と好投したが、チームは延長十回の末に敗れた。片山は「まだこのチームでやりたかったが準備してきたものは出せた。野球がうまくなるようにもっと強化したい」と語った。


ＮＴＴ西日本の成瀬

◇ＮＴＴ西日本・成瀬脩人＝ＤｅＮＡ5位

野手で存在感を示したのは、４強のＮＴＴ西日本でＤｅＮＡ５位の成瀬脩人だ。打撃では東京ガスとの2回戦で2安打をマーク。延長十三回までもつれた準々決勝のＨｏｎｄａ熊本戦はサヨナラ犠飛を放ち、「いつも（仲間に）助けてもらってばかり。今日は助けることができて良かった」と感極まった。敗れた日本生命との準決勝後は「ポジティブで前向きな良い方向に行くことができて成長できた。本当に感謝しかない」と振り返った。

◇第50回社会人野球日本選手権チーム成績◇

	◆投手成績◆									◆打者成績◆											
	試合数	完投数	回数	被安打	奪三振	与四死球	失点	自責点	防御率	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	打点	三振	四死球	犠打飛	盗塁	打率
ヤマハ	5	2	44	28	45	11	11	8	1.64	168	33	55	13	2	4	32	25	19	2	4	.327
日本生命	5	0	45	36	27	27	17	17	3.40	168	27	53	7	1	4	24	21	17	2	10	.315
NTT西日本	4	0	42	30	22	10	15	9	1.93	147	18	38	2	3	0	18	28	12	3	1	.259
NTT東日本	4	0	36	31	25	12	13	11	2.75	131	20	29	8	2	0	17	33	11	2	4	.221
Honda熊本	3	0	30⅓	25	25	9	11	6	1.78	102	16	22	1	0	1	13	24	5	1	5	.216
東邦ガス	3	1	26	30	25	9	15	12	4.15	110	13	39	4	0	2	13	24	5	1	3	.355
三菱自動車岡崎	3	0	27	22	18	10	11	8	2.67	92	11	18	4	0	1	10	26	13	0	2	.196
Honda鈴鹿	3	1	26	17	19	4	5	5	1.73	90	5	19	3	0	1	5	17	8	1	1	.211
東京ガス	2	0	20	19	20	3	5	3	1.35	73	6	16	1	0	0	6	18	9	0	5	.219
鷺宮製作所	2	0	18	17	21	6	8	8	4.00	63	8	15	0	1	2	8	10	5	0	2	.238
JFE西日本	2	0	17	14	6	8	6	5	2.65	57	4	14	0	0	0	3	14	7	1	2	.246
明治安田	2	0	18	23	17	8	7	7	3.50	66	6	18	1	2	0	6	11	4	1	0	.273
Honda	2	0	18	9	17	6	2	1	0.50	64	7	13	1	1	0	6	15	7	1	3	.203
王子	2	0	18	24	14	5	8	7	3.50	61	5	12	3	0	1	5	8	5	1	1	.197
トヨタ自動車	2	0	16	13	10	6	2	2	1.12	71	11	23	5	2	1	11	12	6	0	5	.324
JR東海	2	0	19	20	12	6	12	7	3.32	63	7	15	1	0	1	5	16	6	1	0	.238
マツゲン箕島硬式野球部	1	0	9	11	10	7	5	5	5.00	37	2	11	3	0	0	2	11	0	0	2	.297
FedEx	1	0	8	8	4	1	2	2	2.25	29	1	7	1	0	0	1	2	0	1	0	.241
東海理化	1	0	9	10	4	4	7	4	4.00	36	6	13	2	0	1	6	8	3	0	1	.361
日本製鉄東海REX	1	0	9	8	5	3	7	3	3.00	33	2	6	0	0	2	2	8	1	0	1	.182
SUBARU	1	0	9	12	5	2	5	5	5.00	30	4	6	0	0	2	3	7	1	0	0	.200
北海道ガス	1	0	8	9	6	4	3	3	3.38	30	2	7	2	0	0	2	3	5	1	0	.233
三菱重工West	1	0	8⅓	13	7	2	3	3	3.24	30	2	5	0	0	0	2	13	0	0	1	.167
西濃運輸	1	0	8	8	4	3	4	4	4.50	32	2	8	1	0	0	2	5	5	1	1	.250
日本製鉄鹿島	1	0	9	7	8	8	4	3	3.00	33	3	7	0	0	0	3	6	2	0	0	.212
ミキハウス	1	0	9	9	10	5	6	2	2.00	33	0	5	0	0	0	0	9	3	0	1	.152
TDK	1	0	9	3	8	5	4	4	4.00	33	1	9	0	1	0	1	6	2	0	0	.273
日本製鉄山口	1	0	8	6	4	5	4	4	4.50	34	2	11	2	0	0	2	8	0	0	0	.324
四国銀行	1	0	7⅔	15	7	6	10	10	11.74	25	0	3	0	0	0	0	7	2	0	0	.120
JR西日本	1	0	9	4	5	4	1	1	1.00	27	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	.000
日本製鉄瀬戸内	1	0	10	9	5	3	3	1	0.90	36	2	6	0	0	0	2	7	4	0	1	.167
西部ガス	1	0	7⅓	17	7	5	11	10	12.27	28	1	4	1	0	0	1	11	0	0	0	.143
計	62	4	557⅓	507	422	207	227	180	2.90	2032	227	507	66	15	23	211	422	167	20	56	0.250

決勝戦一覧

第１回	(昭49年)	三協精機	４－０	日本鋼管福山
第２回	(〃50年)	鐘淵化学	１－０	北海道拓殖銀行
第３回	(〃51年)	新日鐵名古屋	１－０	日鉱佐賀関
第４回	(〃52年)	住友金属	２－１	電電四国
第５回	(〃53年)	北海道拓殖銀行	１－０	東京ガス
第６回	(〃54年)	住友金属	２－０	松下電器
第７回	(〃55年)	日本鋼管福山	４－２	日本楽器
第８回	(〃56年)	富士重工業	１－０	大昭和製紙北海道
第９回	(〃57年)	ヤマハ発動機	３－１	日本通運
第10回	(〃58年)	住友金属	２－０	東芝
第11回	(〃59年)	住友金属	７－２	日本通運
第12回	(〃60年)	本田技研	７－１	日本楽器
第13回	(〃61年)	ＮＴＴ東海	５－１	阿部企業
第14回	(〃62年)	中山製鋼	５－２	熊谷組
第15回	(〃63年)	東芝	６－１	本田技研熊本
第16回	(平１年)	住友金属	５－４	日本石油
第17回	(〃２年)	日本生命	11－４	日本石油
第18回	(〃３年)	日本石油	４－３	大阪ガス
第19回	(〃４年)	東芝	７－１	プリンスホテル
第20回	(〃５年)	住友金属	６－０	日産自動車
第21回	(〃６年)	日本通運	９－８	日産自動車
第22回	(〃７年)	三菱自動車川崎	19－６	三菱自動車京都
第23回	(〃８年)	住友金属	７－５	西濃運輸
第24回	(〃９年)	三菱重工神戸	10－４	住友金属
第25回	(〃10年)	ＮＴＴ東日本	８－７	日本生命
第26回	(〃11年)	シダックス	６－２	松下電器
第27回	(〃12年)	松下電器	８－３	東芝
第28回	(〃13年)	三菱重工長崎	５－０	東芝
第29回	(〃14年)	日本生命	４－１	Honda
第30回	(〃15年)	日産自動車	６－５	大阪ガス
第31回	(〃16年)	ＪＦＥ西日本	１－０	大阪ガス
第32回	(〃17年)	松下電器	２－１	ＮＴＴ西日本
第33回	(〃18年)	富士重工業	４－２	日本生命
第34回	(〃19年)	トヨタ自動車	４－１	三菱重工名古屋
第35回	(〃20年)	トヨタ自動車	４－２	ＪＲ東海
第36回	(〃21年)	ＪＲ九州	３－２	Honda
第37回	(〃22年)	トヨタ自動車	４－２	ＪＲ九州
第38回	(〃24年)	ＪＸ－ＥＮＥＯＳ	５－１	ＪＲ東日本
第39回	(〃25年)	新日鐵住金かずさマジック	１－０	富士重工業
第40回	(〃26年)	トヨタ自動車	５－０	セガサミー
第41回	(〃27年)	日本生命	３－２	Honda
第42回	(〃28年)	ヤマハ	３－２	日本通運
第43回	(〃29年)	トヨタ自動車	３－１	日本生命
第44回	(〃30年)	三菱重工名古屋	２－１	ＪＦＥ西日本
第45回	(令１年)	大阪ガス	４－１	日本生命
第46回	(〃３年)	大阪ガス	４－２	三菱重工Ｅａｓｔ
第47回	(〃４年)	トヨタ自動車	８－１	ＮＴＴ東日本
第48回	(〃５年)	大阪ガス	９－７	Honda熊本
第49回	(〃６年)	トヨタ自動車	３－０	Honda
第50回	(〃７年)	ヤマハ	２－１	日本生命

※平成23年は東日本大震災のため大会中止
※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

日本選手権を飾る四賞

【最高殊勲選手賞】

第１回 大塚喜代美・投　手（三　協　精　機）
第２回 宮田　典計・投　手（鐘　淵　化　学）
第３回 水谷　啓昭・投　手（新日鐵名古屋）
第４回 森　　繁和・投　手（住　友　金　属）
第５回 高岡　茂夫・内野手（北海道拓殖銀行）
第６回 高橋　修二・投　手（住　友　金　属）
第７回 田村　忠義・投　手（日本鋼管福山）
第８回 向田　佳元・投　手（富　士　重　工　業）
第９回 鈴木　政明・投　手（ヤマハ発動機）
第10回 高橋　修二・投　手（住　友　金　属）
第11回 高橋　修二・投　手（住　友　金　属）
第12回 伊東　昭光・投　手（本　田　技　研）
第13回 笠井孝志登・投　手（ＮＴＴ東海）
第14回 藤野　悦勝・投　手（中　山　製　鋼）
第15回 南淵　時高・内野手（東　　芝）
第16回 尾山　　敦・投　手（住　友　金　属）
第17回 新谷　　博・投　手（日　本　生　命）
第18回 鈴木　　健・投　手（日　本　石　油）
第19回 三原　　昇・投　手（東　　芝）
第20回 尾山　　敦・投　手（住　友　金　属）
第21回 松田　　訓・内野手（日　本　通　運）
第22回 玉木　重雄・投　手（三菱自動車川崎）
第23回 宮内　　洋・内野手（住　友　金　属）
第24回 新井　正広・投　手（三菱重工神戸）
第25回 阿久根鋼吉・内野手（ＮＴＴ関東）
第26回 田中　善則・内野手（シダックス）
第27回 愛敬　尚史・投　手（松　下　電　器）
第28回 後藤　隆之・投　手（三菱重工長崎）
第29回 佐藤　　充・投　手（日　本　生　命）
第30回 伊藤　祐樹・内野手（日　産　自　動　車）
第31回 田中　敬人・投　手（ＪＦＥ西日本）
第32回 山本　隆之・投　手（松　下　電　器）
第33回 阿部　次男・投　手（富　士　重　工　業）
第34回 服部　泰卓・投　手（トヨタ自動車）
第35回 大谷　智久・投　手（トヨタ自動車）
第36回 浜野　雅慎・投　手（ＪＲ九州）
第37回 岩崎　　司・投　手（トヨタ自動車）
第38回 大城　基志・投　手（ＪＸ－ＥＮＥＯＳ）
第39回 岡本　　健・投　手（新日鐵住金かずさマジック）
第40回 佐竹　功年・投　手（トヨタ自動車）
第41回 古川　昌平・捕　手（日　本　生　命）
第42回 池田　　駿・投　手（ヤ　　マ　　ハ）
第43回 多木　裕史・外野手（トヨタ自動車）
第44回 勝野　昌慶・投　手（三菱重工名古屋）
第45回 阪本　大樹・投　手（大　阪　ガ　ス）
第46回 河野　　佳・投　手（大　阪　ガ　ス）
第47回 嘉陽宗一郎・投　手（トヨタ自動車）
第48回 稲垣　豪人・投　手（大　阪　ガ　ス）
第49回 増居　翔太・投　手（トヨタ自動車）
第50回 佐藤　　廉・投　手（ヤ　　マ　　ハ）

【敢闘賞】

第１回 田村　忠義・投　手（日本鋼管福山）
第２回 山口　敏男・投　手（北海道拓殖銀行）
第３回 藤沢　公也・投　手（日　鉱　佐　賀　関）
第４回 小原　慶司・投　手（電　電　四　国）
第５回 松沼　博久・投　手（東　京　ガ　ス）
第６回 鍛冶舎　巧・内野手（松　下　電　器）
第７回 久保真一郎・投　手（日　本　楽　器）
第８回 川瀬　隆俊・投　手（大昭和製紙北海道）
第９回 加藤　正次・投　手（日　本　通　運）
第10回 川端　　順・投　手（東　　芝）
第11回 伊藤由紀夫・内野手（日　本　通　運）
第12回 高田　博久・投　手（日　本　楽　器）
第13回 陽　　介仁・投　手（阿　部　企　業）
第14回 谷津田順一・投　手（熊　谷　組）
第15回 尾崎　定己・投　手（本田技研熊本）
第16回 金沢　健一・投　手（日　本　石　油）
第17回 五十嵐章人・外野手（日　本　石　油）
第18回 西岡　　洋・投　手（大　阪　ガ　ス）
第19回 佐藤　友昭・外野手（プリンスホテル）
第20回 川尻　哲郎・投　手（日　産　自　動　車）
第21回 北川　哲也・投　手（日　産　自　動　車）
第22回 森　　憲久・投　手（三菱自動車京都）
第23回 藤田　宗一・投　手（西　濃　運　輸）
第24回 金城　竜彦・投　手（住　友　金　属）
第25回 辻　　太一・投　手（日　本　生　命）
第26回 九鬼　義典・捕　手（松　下　電　器）
第27回 須田　喜照・投　手（東　　芝）
第28回 銭場　一浩・投　手（東　　芝）
第29回 藤井　稔也・投　手（Ｈｏｎｄａ）
第30回 能見　篤史・投　手（大　阪　ガ　ス）
第31回 坂本　健二・投　手（大　阪　ガ　ス）
第32回 岸田　　護・投　手（ＮＴＴ西日本）
第33回 下敷領悠太・投　手（日　本　生　命）
第34回 白倉　昌章・投　手（三菱重工名古屋）
第35回 川野　慎也・投　手（ＪＲ東海）
第36回 諏訪部貴大・投　手（Ｈｏｎｄａ）
第37回 浜野　雅慎・投　手（ＪＲ九州）
第38回 吉田　一将・投　手（ＪＲ東日本）
第39回 東明　大貴・投　手（富　士　重　工　業）
第40回 横田　　哲・投　手（セガサミー）
第41回 石橋　良太・投　手（Ｈｏｎｄａ）
第42回 浦部　剛史・内野手（日　本　通　運）
第43回 高橋　拓已・投　手（日　本　生　命）
第44回 河野　竜生・投　手（ＪＦＥ西日本）
第45回 廣本　拓也・内野手（日　本　生　命）
第46回 小柳　卓也・外野手（三菱重工Ｅａｓｔ）
第47回 多田　裕作・投　手（ＮＴＴ東日本）
第48回 片山　雄貴・投　手（Ｈｏｎｄａ熊本）
第49回 東野　龍二・投　手（Ｈｏｎｄａ）
第50回 中津　大和・外野手（日　本　生　命）

【首位打者賞】

第１回 酒井　信芳・内野手（三菱重工広島）
第２回 川内　幸男・外野手（鐘淵化学）
〃　宇山　秀明・外野手（住友金属）
第３回 福島　寿利・外野手（新日鐵名古屋）
第４回 吉田　和幸・内野手（神戸製鋼）
第５回 小林　達也・外野手（日産自動車）
第６回 清水　長寿・内野手（住友金属）
第７回 山崎　博行・外野手（神戸製鋼）
第８回 菊地　恭一・外野手（東芝）
第９回 辻　発彦・内野手（日本通運）
第10回 田辺　浩昭・外野手（東芝）
第11回 平岡　靖彦・外野手（松下電器）
第12回 雨堤　浩久・外野手（本田技研）
第13回 多田　浩・外野手（ＮＴＴ東北）
第14回 山本　真也・内野手（中山製鋼）
第15回 田辺　浩昭・外野手（東芝）
第16回 佐藤　雄樹・内野手（住友金属）
第17回 松原　和也・外野手（東芝）
第18回 湯川　素哉・外野手（大阪ガス）
第19回 小林　直人・指名打者（東芝）
〃　多田　勇二・外野手（東芝）
〃　佐藤　友昭・外野手（プリンスホテル）
第20回 恒吉　成樹・内野手（日立製作所）
第21回 中本　浩・内野手（松下電器）
第22回 永井　康彦・内野手（日本新薬）
〃　橋本　久・内野手（ＮＴＴ四国）
第23回 坪井　智哉・外野手（東芝）
第24回 ビクトル・メサ・外野手（ニコニコドー）
第25回 井上　大・外野手（松下電器）
第26回 上羽　功晃・内野手（神戸製鋼）
第27回 佐々木隆司・外野手（ＪＲ東海）
第28回 開田　博勝・外野手（三菱重工長崎）
第29回 原田　能英・内野手（三菱重工長崎）
第30回 中野　滋樹・捕手（ミキハウス）
第31回 西田　朋生・内野手（ＮＴＴ西日本）
第32回 重石　勝司・外野手（九州三菱自動車）
第33回 衣川　隆夫・指名打者（Ｈｏｎｄａ）
第34回 牧田　一晃・外野手（ＪＲ東日本東北）
第35回 大島　洋平・外野手（日本生命）
第36回 吉田　承太・外野手（日産自動車）
第37回 宮沢健太郎・内野手（ＪＸ－ＥＮＥＯＳ）
第38回 池辺　啓二・外野手（ＪＸ－ＥＮＥＯＳ）
第39回 船引　俊秀・内野手（富士重工業）
第40回 岩下　知永・内野手（日本生命）
第41回 後藤　大輝・外野手（伯和ビクトリーズ）
第42回 伊礼　翼・内野手（王子）
第43回 多木　裕史・外野手（トヨタ自動車）
第44回 小栁　卓也・外野手（三菱重工名古屋）
第45回 廣本　拓也・内野手（日本生命）
第46回 小栁　卓也・外野手（三菱重工Ｅａｓｔ）
第47回 矢野　幸耶・内野手（三菱重工Ｅａｓｔ）
第48回 三井　健右・外野手（大阪ガス）
第49回 佐藤　勇基・内野手（トヨタ自動車）
第50回 水島　滉陽・内野手（ＮＴＴ西日本）

【打撃賞】

第１回 酒井　信芳・内野手（三菱重工広島）
第２回 川内　幸男・外野手（鐘淵化学）
〃　宇山　秀明・外野手（住友金属）
第３回 福島　寿利・外野手（新日鐵名古屋）
第４回 吉田　和幸・内野手（神戸製鋼）
第５回 小林　達也・外野手（日産自動車）
第６回 清水　長寿・内野手（住友金属）
第７回 山崎　博行・外野手（神戸製鋼）
第８回 菊地　恭一・外野手（東芝）
第９回 辻　発彦・内野手（日本通運）
第10回 田辺　浩昭・外野手（東芝）
第11回 平岡　靖彦・外野手（松下電器）
第12回 山越　吉洋・内野手（本田技研）
第13回 木戸　均・外野手（ＮＴＴ東海）
第14回 森脇　勝二・内野手（中山製鋼）
第15回 高見　泰範・捕手（東芝）
第16回 佐藤　勇樹・内野手（住友金属）
第17回 十河　章浩・内野手（日本生命）
第18回 徳永　耕治・内野手（日本石油）
第19回 小林　直人・内野手（東芝）
第20回 川畑伸一郎・内野手（住友金属）
第21回 田中　泰・内野手（日本通運）
第22回 斉藤　秋博・内野手（三菱自動車川崎）
第23回 大良　道春・内野手（住友金属）
第24回 大谷慎一郎・内野手（三菱重工神戸）
第25回 阿久根鋼吉・内野手（ＮＴＴ関東）
第26回 ビクトル・メサ・外野手（シダックス）
第27回 上中　芳仁・外野手（松下電器）
第28回 村上竜太郎・外野手（三菱重工長崎）
第29回 竹間　容祐・外野手（日本生命）
第30回 柏野　浩二・内野手（ミキハウス）
第31回 福竹　政人・内野手（ＪＦＥ西日本）
第32回 吉田憲一郎・内野手（松下電器）
第33回 林　稔幸・外野手（富士重工業）
第34回 清水　明彦・内野手（トヨタ自動車）
第35回 田中　幸長・外野手（トヨタ自動車）
第36回 長野　久義・外野手（Ｈｏｎｄａ）
第37回 的場　寛一・内野手（トヨタ自動車）
第38回 松本　晃・外野手（ＪＲ東日本）
第39回 田中　健・内野手（新日鐵住金かずさマジック）
第40回 瀧野光太朗・内野手（トヨタ自動車）
第41回 廣本　拓也・内野手（日本生命）
〃　福富　裕・外野手（日本生命）
第42回 河野　拓郎・内野手（ヤマハ）
第43回 西潟　栄樹・外野手（トヨタ自動車）
第44回 三木　大知・外野手（ＪＦＥ西日本）
第45回 古川　昂樹・外野手（大阪ガス）
第46回 末包　昇大・外野手（大阪ガス）
第47回 中村　迅・内野手（ＮＴＴ東日本）
第48回 井上　剛・内野手（Ｈｏｎｄａ熊本）
第49回 古田　塁・内野手（ＪＦＥ西日本）
第50回 相羽　寛太・内野手（ヤマハ）

トヨタ自動車21大会連続出場
東海勢は10チーム

日本選手権予選

第50回を迎えた日本選手権の最終予選は9地区で行われ、10月5日に東北地区のTDKが5大会連続出場を決めて、出場全チームが出そろった。予選を経て出場権を獲得したのは21チーム。都市対抗覇者の王子、全日本クラブ選手権優勝のマツゲン箕島、JABA主要大会を制した9チームを加えた32チームで、本大会が争われた。

最多出場は都市対抗と同じく日本生命で40回を数える。連続出場の最長はトヨタ自動車の21大会。最も長いブランクを経て復活を果たしたのは北信越のFedExで、7大会ぶりとなった。

また、都市対抗などで好調ぶりが目立った東海勢は、11のJABA主要大会中6大会で優勝し、予選の勝ち上がりチームなどを合わせ、出場32チーム中10チームを占めた。

一方、神奈川勢は関東地区予選で敗れるなど、9大会ぶりに出場がなかった。

北海道ガス4大会ぶり2回目

北海道

（9月21～23日、27日、大和ハウスプレミストドーム。代表1＝前回はJR北海道クラブ）

▽リーグ戦

日本製鉄室蘭シャークス（1敗）

000	000	023	0	5
010	000	040	1	6

JR北海道クラブ（1勝）

（延長十回、十回からタイブレーク）

（日）山、岩崎、工藤、岡田―佐々木、大石広

（J）大崎、内沢、伊藤、木島、夏井―村北

北海道ガス（1敗）

100	000	010	2
000	000	003	3

航空自衛隊千歳（1勝）

（北）長谷、海老原、北嶋―東海林

（航）成田―石川、筏

▽本塁打　武井（北）

日本製鉄室蘭シャークス（1勝2敗）

610	001	0	8
000	000	0	0

航空自衛隊千歳（1勝2敗）

（七回コールド）

（日）工藤、岡田―大石広、丹代

（航）成田、佐藤、田代―石川、筏

▽本塁打　渡辺、永森（日）

JR北海道クラブ（2勝1敗）

000	000	000	0
000	010	01×	2

北海道ガス（2勝1敗）

（J）木島、伊藤、大崎、中川―村北

（北）村上、大城―田中

（JR北海道クラブ、北海道ガスは代表決定戦進出）

▽代表決定戦

北海道ガス

005	303	010	12
123	000	011	8

JR北海道クラブ

（北海道ガスは4大会ぶり2回目）

TDK5大会連続14回目

東北

（10月3～5日、仙台市民ほか。代表1＝前回は日本製紙石巻）

▽1回戦

JR盛岡

000	000	0	0
332	514	×	18

日本製紙石巻

（七回コールド）

（J）桜糀、金野、古川端、山崎―湊、菊池

（日）生長、鈴木、相内、川合―佐藤、小林尚

マルハン北日本カンパニー

000	010	010	2
000	031	11×	6

七十七銀行

（マ）林、中村、山本、市川―落合

（七）庭田、森―越村、石井信

▽本塁打　長嶋（七）

JR東日本東北

001	000	000	1
010	003	00×	4

トヨタ自動車東日本

（J）早坂、武田―小鷹

（ト）中里、斎藤智―根来

JR秋田

000	000	00	0
110	130	22	10

TDK

（八回コールド）

（J）佐々木利、杉原、鈴木雄―山田、伊東

（T）阿部、川原―兼子

▽準決勝

トヨタ自動車東日本

000	301	000	4
000	000	000	0

日本製紙石巻

（T）阿部、川原―兼子

▽準決勝

トヨタ自動車東日本

000	301	000	4
000	000	000	0

日本製紙石巻

（ト）中村隆―根来

（日）今村、小寺、星野、秋田―坂口、佐藤、水野

▽本塁打　瀬戸（ト）

北海道ガス

打		点	安	打									
⑥	武菱	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨	安高	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤	寺長	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦	小浅	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D	田	5	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧	井	5	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④	田	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③	田橋	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②	川栗	4	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	谷	5	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	賀中	4	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	42	18	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0

JR北海道

打		点	安	打									
⑨	山	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦	大	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥	本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
DH	槻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③	川	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	井	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②	山	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤	木	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧	田	4	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④	北	3	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H	藤	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	山	5	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	南	4	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	38	12	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0

併	1	0							
残	8	1	2	0					
失	1	0	盗	1	0				
犠	0	2	球	5	7				
振	13	1							

	責	3	3	0	0	1	1
	安	3	1	0	5	3	
	回	2	⅔	⅓			
				5	1		
			⅓	⅔	⅔	⅔	⅔
		2	⅔	⅔	⅔	⅔	⅔
		2	⅔	⅔	⅔	⅔	⅔
				2	1	1	2

T D K
010 010 021 5
000 000 000 0
七十七銀行
（T）小島、高橋、田中―奥村
（七）後藤、森、柴崎、庭田―越村

FedEx7大会ぶり4回目

北信越
（9月19～21日、ハードオフエコ新潟。代表1＝前回はバイタルネット）

▽1回戦
ロキテクノ富山
000 000 100 1
000 000 000 0
信越クラブ
（ロ）佐藤―添田
（信）佐藤、佐渡―斎藤

IMF BANDITS富山
000 200 100 3
100 130 00× 5
FedEx
（I）水口、須田、岩崎、五味―須藤
（F）金井、杉内、山登―宮川

▽本塁打　須藤（I）

▽代表決定戦
トヨタ自動車東日本
000 000 100 1
030 000 00× 3
TDK
（TDKは5大会連続14回目）

JR新潟
000 000 1 1
307 526 × 23
伏木海陸運送
（七回コールド）
（J）仙田、桐本、押見、後藤―光沢
（伏）三宅、山川、與座、黒田、藤原、高橋、西納―幸明、松田

▽本塁打　土田（J）
牧田、木村（伏）

▽準決勝
バイタルネット
000 000 010 1
012 000 00× 3
ロキテクノ富山
（バ）江村、平井、松田―菅井、高橋
（ロ）帯川―添田

FedEx
000 000 040 4
000 100 000 1
伏木海陸運送
（F）久留島、山登―宮川
（伏）山田、西納、西川―幸明

▽代表決定戦
FedEx
000 030 000 3
010 000 000 1
ロキテクノ富山
（FedExは7大会ぶり4回目）

明治安田2大会連続8回目
ホンダ3大会連続26回目
日本製鉄鹿島4大会連続13回目
NTT東日本2大会連続19回目

関東
（9月23～26、28、29日、東京・大田ほか。代表4＝前回は5で日立製作所、明治安田、東京ガス、JR東日本、ENEOS）

▽1回戦。

SUNホールディングスEAST
000 010 300 13 8
100 101 010 11 6
オールフロンティア
（延長十一回、十回からタイブレーク）
（S）佐藤楓、芦内、若杉―宮谷
（オ）落合、吉川、小森、山崎、川辺、手島―島田、古川

▽本塁打　佐藤旦（S）
日産自動車
021 000 000 3
100 000 000 1
茨城トヨペット
（日）砂川、安藤―川副
（茨）鈴木重、エーアン―大松、峯尾

▽本塁打　比留間（茨）
日本通運
000 011 010 3
102 000 01× 4
日立製作所
（本）冨士、平元、松沢、相馬―山本
（立）北爪、田川、生井―佐藤

▽本塁打　手銭（本）、清水（立）
日本製鉄鹿島
021 100 100 5
001 100 000 2
日本製鉄かずさマジック
（鹿）土屋、印南、金城―揚村
（か）吉田哉、渡辺匠、瀬崎、森本、佐藤、金田―上村、小関

トヨタ東
		打	安	点
⑦	8山崎	4	0	0
②	根来	3	0	0
⑤	齋藤大	3	1	0
⑨	植本	3	0	0
③	瀬戸	3	1	1
④	佐々木	4	2	0
D	渡部	2	0	0
DH	田中	2	0	0
⑥	D夷塚	4	1	0
⑧	瀬川	2	0	0
H	7馬躰	1	0	0
	計	32	5	1

TDK
		打	安	点
⑤	植村	4	0	0
④	太田	4	0	0
⑧	北畠	3	0	0
⑨	齋田	3	2	1
D	打川	3	1	0
③	深坪	2	1	0
R	三浦	0	0	0
②	奥村	2	0	0
⑦	伊藤	3	2	2
⑥	夏井	3	1	0
	計	26	6	2

トヨタ東	10	4	0	0	0	8	0	0
	振	球	犠	盗	失	残	併	
TDK	2	2	2	2	0	0	3	0

		回	安	責
投中	手里	5	3	3
齋藤	智田	2	3	0
小	田	1	0	0
鈴	木	7	3	1
高	橋	⅔	1	0
田	中	1⅓	1	0

▽本塁打　瀬戸（中）佐藤（鈴木）伊藤（里）▽二塁打　齋田▽中々木2、里、田中投2時間13分

FedEx
		打	安	点
⑨	河野	5	1	0
⑧	海林	4	2	0
D	東達	4	2	1
③	伊田	3	1	1
⑤	荻内	4	1	1
⑦	城橋	3	0	0
⑥	之石	4	1	0
②	藤田	3	0	0
④	宮川	4	0	0
	計	32	7	2

ロキテクノ
		打	安	点
⑤	櫻吉	5	1	0
⑨	河木	3	1	0
D	杉山	3	0	0
DH	前田	1	0	0
③	中井	4	0	0
⑧	渡部	4	0	0
④	清水	3	1	0
⑦	河野	4	4	1
②	添田	3	2	1
⑥	合屋	2	0	0
H	岡田	1	0	0
6	横山	1	0	0
	計	34	8	1

FedEx	8	3	2	0	1	7	0	併
	振	球	犠	盗	失	残	併	
ロキテクノ	11	1	2	0	1	9	1	

		回	安	責
投金	手井	9	8	1
伊	藤	5	7	3
佐	藤	4	0	0

▽暴投　伊藤▽2
時間25分

▽本塁打　樫村（鹿）

茨城日産	5	2	0	0	0	1	0	8
	0	0	0	0	0	0	0	0

（七回コールド）

JR千葉	0	0	0	0	0	0	3	3
	2	0	1	1	2	2	0×	8

テイ・エステック（J）鎮目、会沢、一條、西野、小泉―阿部（テ）関口、尾身、友利、穂坂―青木、松本

▽2回戦

JR東日本	0	0	1	0	2	0	1	5
	0	1	0	0	1	1	0	4

セガサミー（J）森畑、西居、西田、古谷―栗田、小藤（セ）尾崎、田中、伊波、陶久、草海―吉田、須田

▽本塁打　谷口、高本（セ）

SUNホールディングスEAST	0	1	0	0	0	1	0	2
	0	1	7	1	0	2	×	11

（七回コールド）

（S）佐藤楓、島崎、関本、芦内―宮谷（明）竹田、松下、沖田、中崎―森川、岸本

▽本塁打　佐藤旦（S）

日産自動車	0	2	0	0	0	0	0	2	4
	0	0	3	0	0	0	0	0	3

エイジェック（日）領家、安藤―川副、比嘉（エ）河北、安藤、谷内―鈴木

▽本塁打　鍛治園（日）

日本製鉄鹿島	0	1	0	0	0	0	2	0	3
	1	0	0	0	1	0	0	0	2

ENEOS（日）諸見里、古川、金城―揚村（E）阿部、関根、加藤―有馬

▽本塁打　山口駿（日）

茨城日産	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	1	0	2	0	3	0	1

（八回コールド）

東芝（茨）高木、浜崎―青木、永長（東）笹森、浅野―萩原

▽本塁打　光本（東）

日立製作所	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	2×	4

ホンダ（日）宮下、田川、生井―佐藤、渡辺

（ホ）片山―辻野

テイ・エステック

	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	0	2	1	0	0	0	0	3×	6

（テ）山崎、森本、熊谷、尾身―青木、松本

JR東日本	0	0	0	0	0	0	1	0
	0	0	0	0	0	1	0	1

（ホンダは3大会連続26回目）

日産自動車（ホンダは3大会連続8回目）

	3	0	0	0	1	0	0	0	1
	0	0	1	0	3	0	3	0	7

（明治安田は2大会連続13回目）

ホンダ

	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	1	0	0	0	0	0	0

明治安田

	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	0	0	0	2	0	1	0	0	3

（日本製鉄鹿島は4大会連続19回目）

東芝

	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	0	2	0	0	0	1	0	0	3

（NTT東日本は2大会連続13回目）

NTT東日本

	0	0	3	1	3	1	0	0	8
	0	0	0	0	2	0	0	0	2

三菱重工East（J）蒔田、本定、林―下地（三）安達、長島、本間―対馬

▽代表決定戦

NTT東日本	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0

（テ）山崎、森本、熊谷、尾身―青木、松本

三菱重工East	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0

（J）蒔田、本定、林―下地（三）安達、長島、本間―対馬

▽代表決定戦

JR東日本	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（ホンダは3大会連続26回目）

日産自動車（ホンダは3大会連続8回目）

	3	0	0	0	1	0	0	0	1
	0	0	1	0	3	0	3	0	7

（明治安田は2大会連続13回目）

ホンダ

	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	1	0	0	0	0	0	0

明治安田

	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	0	0	0	2	0	1	0	0	3

（日本製鉄鹿島は4大会連続19回目）

東芝

	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	0	2	0	0	0	1	0	0	3

（NTT東日本は2大会連続13回目）

NTT東日本

	0	0	3	1	3	1	0	0	8
	0	0	0	0	2	0	0	0	2

三菱重工East（NTT東日本は2大会連続19回目）

JR東日本

打	安	点
⑧ 篠田輝	1	0
④ 杉崎成	1	0
③ 杉崎	0	0
⑤ 高橋	0	0
D 菅田内	0	0
⑨ 山藤	2	0
⑦ 佐栗田	0	0
② 岩栗本	0	0
H 小海林	0	0
6 H 山崎本	0	0
計	6	1

明治安田

打	安	点
④ 新城	2	0
⑧ 伊藤	0	0
⑥ 高瀬	0	0
③ 福岡	2	1
⑦ 森	2	1
7 齋藤廣	0	0
⑨ 永保	0	0
D 南川	1	0
② 森鳥	0	0
⑤ 水	0	0
計	8	2

J振	7	2	0	3	2	7	4
明日	2	4	0	1	5	0	0
	球	振	犠	盗	失	残	併

		責	
投	森	3	2
諸	畑	1/3	0
古	隈	1	1
	谷	2	0
	尾	2/3	0
竹	下	1	0
中	毛	1/3	0
松	崎	2/3	0
石	中	0	0

▽二塁打　山内、森川、諸隈（明）▽三塁打　森（明）▽犠飛　内藤（日）▽暴投　古谷（明）▽ボーク　新城（明）▽時間　2時35分

Honda

打	安	点
③ 峯	2	0
④ 村	1	0
⑧ 檜原	1	0
D 木野	0	0
⑨ 山上	1	0
② 野口	1	0
⑤ 田村	1	1
⑥ 城	3	1
⑦ 金	1	1
計	13	7

日産自動車

打	安	点
⑨ 田中	0	0
⑤ 小柴	2	0
D 朝岡	2	0
⑦ 石飛	1	0
③ 鍛園	2	1
⑧ 石毛	0	0
H 山本	0	0
④ 玉置	0	0
H 角田	1	0
⑥ 宮原	0	0
② 梅川	0	0
H 宮比	0	0
計	8	1

H振	1	3	2	0	1	7	1
日	3	2	0	1	2	8	1
	球	振	犠	盗	失	残	併

		責	
投	手	7	1
東	野	7	1
岡	野	1	0
	川	6 2/3	2
砂	藤	7	3
安	島	0	0

▽三塁打　金城（日）▽犠飛　峯（H）▽暴投　村上（日）▽時間　2時35分

東芝

打	安	点
⑥ 田	1	0
⑤ 庭	2	0
④ 藤	0	0
③ 山	1	0
⑨ 田	0	0
H 橋	0	0
9 沢	0	0
⑧ 本	0	0
D 井	0	0
⑦ 南	0	0
H 中	0	0
② 原	0	0
計	6	1

日鉄鹿島

打	安	点
⑥ 池	1	0
6 小	0	0
④ 冨	1	0
⑦ 生	0	0
③ 今	0	0
⑤ 樫	1	1
⑨ 山	2	0
R 陶	0	0
D 松	0	0
H 福	0	0
R 田	1	0
D 山	1	0
⑧ 本	1	1
② 村	1	1
計	9	3

東	6	4	0	0	7	0
振	8	2	2	1	6	1
	球	振	犠	盗	失	残	併

		責	
投	手	6 1/3	3
松	山	2/3	0
浅	野	1	2
土	屋	5 2/3	1
金	城	4	0

▽本塁打　樫村（鹿）打（松山）▽二塁打　樫（鹿）2時間37分　山口▽2時

西濃運輸2大会ぶり20回目
東海理化4大会ぶり5回目
東邦ガス4大会ぶり11回目
日本製鉄東海REX2大会連続14回目
三菱自動車岡崎3大会連続11回目

東　海
（9月17～19、21～26日、愛知・岡崎レッドダイヤモンド。代表5＝前回は3で三菱自動車岡崎、JR東海、王子）
▽1回戦

日本製鉄東海REX
000 000 020 1251
110 000 000 1250
10 11

三菱自動車岡崎
000 002 012 5
102 001 000 4
（ジ）馬明、伊藤、中川―浅野

（三）笠井、一井、坂巻、清川―西川
▽準決勝

東邦ガス
000 010 300 4
002 000 000 2
日本製鉄東海REX
（東）高橋、中川、柳川、吉田―山田、氷見
（日）荒木、池戸、浦本、吉川―中川
▽本塁打　大木（東）

西濃運輸
100 011 102 6
300 000 020 5
ジェイプロジェクト
（西）森岡、池田、山下、塩本―城野
（ジ）菅原、笈川、中川、飛渡―浅野
▽本塁打　野崎、原田（西）
▽敗者復活1回戦

東海理化
100 001 010 3
000 000 000 0
三菱自動車岡崎
（東）北添、河野―池間
（三）近藤、田中、鈴木、一井―西川
▽本塁打　武藤（東）

ジェイプロジェクト
100 010 010 3
010 300 00× 4
日本製鉄東海REX
（ジ）鎌田、満田慎、大久保、　目）
▽敗者復活2回戦

笈川―浅野、神農
（日）中山、奥田、佐伯、長
東　海　理　化
倉―中川
▽代表決定戦

西濃運輸
000 000 004 3
001 002 001 0 4
日本製鉄東海REX
（東）池田大―池間
（日）加藤、池戸、吉川、佐伯、浦本―中川
▽本塁打　武藤（東）

東邦ガス
004 001 210 8
001 100 000 2
ジェイプロジェクト
（三）秋山凌、坂巻、神原、清川―西川、橋爪
（ジ）馬明、伊藤、大久保、中川、満田慎、飛渡―浅野、神農
▽本塁打　大手、小室（三）
▽代表決定戦

三菱自動車岡崎
203 001 110 8
000 110 010 3

（西濃運輸は2大会ぶり20回）

西濃運輸

		打	安	点
⑧	原	4	1	0
⑦	田島	5	3	1
97	福中	5	2	1
③	小野	5	2	1
⑤	中崎	5	1	1
D	河西	1	0	0
R	D渡邉	0	0	0
②	城野	1	0	0
H	7河田	2	1	0
R	9修行	0	0	0
⑥	北野	4	1	0
④	大山	4	0	0
⑨	佐向	4	0	0
2	譽田	2	0	0
	計	35	9	7

東邦ガス

		打	安	点
⑨	大木	5	1	0
⑥	金田	5	2	1
⑤	宮下	4	1	0
H	5松井	1	0	0
D	虎谷	0	0	0
H	D林	4	1	0
D	D佐木	0	0	0
H	々本	0	0	0
③	柴田	3	1	0
④	高垣	5	2	2
⑦	比嘉	4	1	1
②	山田	4	2	0
2	氷見	1	0	0
⑧	浦口	5	3	0
	計	41	14	4

	振	球	犠	盗	失	残	併
西	6	4	1	0	0	5	2
東	8	5	1	1	0	15	3

投手	回	安	責
奥	3	6	1
内藤	1	0	0
池田	2	4	2
山下	2	1	0
塩本	2	3	1
吉田	8	⅔ 6	4
柳川		⅓ 1	0
高橋	1	2	2

▽本塁打　高垣（池田）比嘉（池田）▽二塁打　小中、金田▽暴投　山下▽3時間8分

ＮＴＴ東

		打	安	点
⑦	道原	5	2	1
⑥	石井	2	0	0
⑧	直井	3	2	3
D	向山	4	2	0
⑤	3中村	4	1	0
⑨	井上	2	0	0
②	保坂	3	1	0
③	内山	4	3	2
5	池本	0	0	0
④	伊東	4	1	0
	計	31	12	6

三菱重工Ｅ

		打	安	点
③	中山	1	0	0
3	印出	3	0	0
⑥	南月	4	0	0
⑨	汐小	4	0	0
D	武柳	4	3	0
⑧	江越	4	1	0
⑦	対馬	4	1	2
②	前⑤	3	0	0
H	菅	1	0	0
④	川久保	2	1	0
	計	33	6	2

	振	球	犠	盗	失	残	併
N	7	6	1	1	1	3	1
三	6	2	0	0	1	6	3

投手	回	安	責
多田	5	3	2
長久保	3	2	0
寺嶋	1	1	0
本間	4	8	2
長島	2	3	4
安達	1	1	0
野中	2	0	0

▽本塁打　直井（長島）▽二塁打　内伊東、保坂、対馬▽暴投　山、寺嶋▽2時間35分

東海理化

		打	安	点
⑧	木村	5	1	0
⑨	福本	5	2	0
⑦	河田	5	1	0
H	鈴下	4	1	0
③	武田	3	0	0
D	齋木	3	0	0
5	川谷	3	2	1
H	中村	4	0	0
D	池垣	4	2	0
H	角嘉	4	2	0
③	井田	4	3	0
R	杉見	0	0	0
④	貝林	2	0	0
⑦	浦口	4	1	0
H	6	0	0	0
②	2	0	0	0
H	4	0	0	0
	計	38	11	6

	振	球	犠	盗	失	残	併
理	11	4	4	0	3	12	4
ガ	4	5	3	0	1	12	0

投手	回	安	責
高橋	1⅔	5	2
新地	6	5	2
北添	2⅓	0	0
高橋	3	8	4
清水	3	1	0
中村	1	0	0
竹田		⅔ 1	0
柳川	1	⅓ 1	0

▽二塁打　中野、大木、虎谷▽3時間50分

三菱重工West8大会連続29回目
日本製鉄瀬戸内4大会ぶり18回目
ミキハウス2大会連続4回目
日本生命2大会ぶり40回目

東海理化
0 2 2　0 0 0　0 0 2　6
1 1 0　0 0 0　0 2 0　0　4

東邦ガス
（延長十回、十回からタイブレーク）
（東海理化は4大会ぶり5回目）
▽敗者復活2回戦

三菱自動車岡崎
0 1 1　0 0 0　0 0 2
0 0 0　1 0 0　1 0 1　3

日本製鉄東海REX
（三）笠井、田中、神原―西川

三菱自動車岡崎
0 0 0　0 1 0　3 0 0　4
0 2 0　2 0 0　0 0 0　1　5

ジェイプロジェクト
（延長十回、十回からタイブレーク）
（三）近藤、一井、清川―西川、橋爪

東邦ガス
3 0 2　0 0 0　0 0 5
0 1 0　1 0 0　0 0 0　2

日本製鉄東海REX
（東邦ガス（日）荒木、池戸、加藤、吉川―中川
▽代表決定戦

日本製鉄東海REX
0 0 0　5 0 1　0 0 0　6
0 0 0　0 0 0　0 0 0　0

ジェイプロジェクト
（日本製鉄東海REXは2大会連続14回目）
（ジ）菅原、中川、伊藤、飛渡―神農
▽代表決定戦

三菱自動車岡崎
2 3 0　0 0 1　0 1 1　8
0 1 0　0 0 0　0 0 0　1

ジェイプロジェクト
（三菱自動車岡崎は3大会連続11回目）
▽敗者復活1回戦

東邦ガス
（9月15～19日、22～29日、わかさ京都ほか。代表4＝前回は日本新薬、NTT西日本、ミキハウス、三菱重工West）
▽1回戦
島津製作所
0 0 0　0 1 0　0 0 0　1
2 0 0　0 0 0　0 0 ×　2

近畿
（サ）尾仲、三木、堀、阪上、桑形―田島
▽2回戦
履正社スポーツ専門学校
ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校
0 0 0　0 0 2　0　2
1 0 1　4 7 4　×　17

山井
▽本塁打　坂之下、北條（三）
アスミビルダーズ
0 0 0　0 0 0　0 0 0　0
2 0 0　2 3 0　0 0 ×　7

三菱重工West
（七回コールド）
（ル）和田、高橋、橋本、福井―寺畑、塩川
（三）坂尾、中沢、鷲尾―碓井

ニチダイ
（七回コールド）
（履）高垣、石野森、平野―永井
（二）小倉、一文字、吹本―松吉、井上

大阪ガス
（ア）三尾、駒井、山田―谷川
（大）大宮、本間、秋山―高橋、戸高
▽本塁打　高橋、三井（大）

東邦ガス

		打	安	点
⑨	大木	3	1	0
⑥	金田	2	0	0
⑦	松井	3	2	0
③	柴田	4	2	1
D	佐々木	3	0	0
DH	西脇	1	0	0
④	高垣	4	3	2
⑤	虎谷	4	0	0
②	山田	3	0	0
2	氷見	1	0	0
⑧	浦口	4	0	0
	計	32	8	3

東海REX

		打	安	点
⑨	山本	5	1	0
④	平野	3	1	0
⑦	宮坂	1	0	0
H	吉長	5	0	0
⑦	橋南	4	0	0
D	岡田	4	0	0
⑧	大塚	4	2	0
⑤	丸市	3	2	0
③	石川	4	2	1
②	中川	3	2	0
⑥	佐々木	3	1	1
	計	35	11	2

	9	3	2	4	2	5	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
東	9	3	2	4	2	5	1
日	6	2	2	2	1	10	0

投	手	回	安	責
加	藤	9	7	0
笈	川	3 ⅓	7	5
中	川	2 ⅔	6	1
大久保		2	0	0
満田		1	0	0
中	山	1	2	3
浦	本	8	6	2

▽二塁打　柴田2、大塚▽2時間48分

日本製鉄瀬戸内

		打	安	点
⑨	大金	4	1	0
⑥	宮内	4	2	0
⑤	木内	4	2	0
④	片岡	4	3	0
⑦	橋本	4	4	0
⑨	吉森	4	0	0
③	今井	3	0	0
3	満田	3	1	0
D	颯田	3	1	0
②	神農	2	1	0
2	浅野	1	0	0
⑧	岡田	2	0	0
	計	32	7	0

	9	4	2	0	1	11	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
日	9	4	2	0	1	11	1
ジ	6	0	1	0	0	6	0

投	手	回	安	責
秋	山	7	7	1
笠	井	2	1	0
菅	原	1 ⅔	4	3
伊	藤	⅓	1	1
大	保	3	2	0
飛	渡	2 ⅔	6	2
鎌	田	1	0	0
満	田	1	2	1

▽二塁打　岡田（日）石川、中川（日）▽暴投　西川▽2時間43分

三菱岡崎

		打	安	点
D	豊田	4	0	1
⑥	斎藤	4	2	1
⑧	中村	5	3	1
⑦	大塚	4	2	1
R	7	0	0	0
④	菅原	3	2	0
③	小里	4	1	0
H	荒井	3	0	0
5	3	0	0	0
②	伊藤	4	4	2
⑨	西川	4	2	0
	計	35	15	8

ジェイプロ

		打	安	点
⑥	大宮	4	0	0
6	木内	1	0	0
⑤	片岡	4	2	0
④	橋本	4	4	0
⑦	吉森	4	4	0
⑨	今井	4	4	0
③	岡本	4	4	0
3	平田	4	0	0
D	神本	4	0	0
②	浅野	4	2	0
H	岡田	4	1	1
⑧	2	0	0	0
	計	36	8	1

	4	8	3	2	1	11	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
三	4	8	3	2	1	11	0
ジ	6	1	0	0	1	9	3

投	手	回	安	責
投	手山	井 7	7	1
秋	笠	井 2	1	0
菅	原	1 ⅔	4	3
伊	藤	⅓	1	1
大	保	3	2	0
飛	渡	2 ⅔	6	2
鎌	田	1	0	0
満	田	1	2	1

▽本塁打　坂之下、北條（三）▽2時間9分

ミキハウス
100 020 001 4
000 002 000 2
（Y）柳原、倉本、石本―平石
関メディ学院

000 000 0 0
000 740 × 11
パナソニック
（七回コールド）
（関）井上、橋本、北川―沢口
（パ）柿本、榎本、北畑、與座―久保田
ムラチグループ

011 000 000 2
001 000 11× 3
日本生命
（ム）林、山内、出岡、隼瀬―母利
（日）斎藤、武次―三島
SUNホールディングスWEST

100 010 001 3
000 400 13× 8
日本製鉄瀬戸内
（S）砂川、嶺、石川、戸次、矢田、川根―関本
（日）藤野、杉本、下堂―島上、福井
▽本塁打　川端（S）川瀬剛（日）

日本新薬

001 000 001 0 2
101 000 000 1 3
サムティ
（延長十回、十回からタイブレーク）
（日）遠藤、木下、斎藤―後藤、大橋、笹原
（サ）中森、桑形、尾仲、阪上、城間―田島
▽敗者復活1回戦

ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校

000 000 000 0
020 013 00× 6
島津製作所
（ル）和田、高橋、橋本―寺畑、塩川
（島）池田―村山
▽同2回戦

履正社スポーツ専門学校

000 000 0 0
200 105 2 10
アスミビルダーズ
（七回コールド）
（履）田中、高垣、石野森、平野―永井
（ア）内海―谷川

関メディ学院

005 000 0 5
401 044 2 15
YBSホールディングス
（七回コールド）
（関）井上、橋本、北川―沢口
（Y）加藤響、右田、永山―平石
▽本塁打　沼田（関）北口、石川（Y）

SUNホールディングスWEST

040 000 000 4
000 010 000 1
ムラチグループ
（S）砂川、嶺、石川、戸次―関本
（ム）林、隼瀬―母利

島津製作所

000 000 000 0
010 000 00× 1
日本新薬
（島）溝田―松田、村山
（日）奥村、斎藤―後藤
▽準決勝

三菱重工West

100 012 000 2 6
000 000 040 1 5
ニチダイ
（延長十回、十回からタイブレーク）
（三）坂尾、西、川上―碓井
（二）熊沢、酒井、小倉―松吉
ミキハウス

100 003 000 4
000 000 000 0
大阪ガス
（ミ）桜井―井上
（大）大宮、本間、秋山―高橋
▽本塁打　島沢（ミ）

日本生命

000 111 021 6
001 001 002 4
パナソニック
（日）谷脇、高木、武次、斎藤―三島
（パ）柿本、定本、井奥―久保田
▽本塁打　法兼（パ）

日本製鉄瀬戸内

000 110 310 6
000 000 001 1
サムティ
（日）川瀬航、下堂―福井
（サ）三木、尾仲、秋田―田島
▽本塁打　広田（日）
▽敗者復活3回戦

日本新薬

002 102 010 3 9
000 500 010 0 6
パナソニック
（延長十回、十回からタイブレーク）
（日）木下、遠藤、小松、斎藤―後藤、大橋
（パ）榎本、與座、柿本、定本―久保田、川上
▽本塁打　船曳（日）

アスミビルダーズ

002 100 000 3
000 000 010 1
サムティ
（ア）内海、三尾―谷川
（サ）中森、堀、西村、阪上、桑形、城間―田島

日鉄瀬戸内

		打	安	点
④	市江	5	0	0
⑨	8 広内	2	0	0
⑦	原	4	0	0
⑤	川田	3	0	0
D	倉川	4	1	0
③	西井	2	0	1
H	向木	0	0	0
3	佐々岡	0	0	0
⑧	中井出	2	0	1
H	小戎	0	0	0
R	9 井	3	0	1
②	福川瀬	4	1	1
⑥				
	計	29	4	4

日本生命

		打	安	点
⑧	中津	5	2	2
⑦	松本	3	1	0
③	木倉	4	0	0
⑨	竹村	4	0	0
⑤	山竹	4	1	0
D	田中	4	2	0
H	智田	2	0	0
R	D 越多	0	0	0
H	松葉	1	0	0
⑥	高田	3	1	0
R	藤本	0	0	0
④	池上	1	0	0
H	早野	0	0	0
②	三島	4	2	1
	計	31	7	3

	瀬	振	生
打	5	3	3
球	7	5	5
犠	1	1	1
盗	1	1	1
失	1	0	0
残	6	7	7
併	1	1	1

	投	手	回	安	責
杉	本		6⅔	5	2
下	堂		1⅓	2	0
川	瀬	航	1	0	0
齋	藤		5	2	2
武	次		3⅔	0	2
高	木		⅓	2	0

▽本塁打　中津間（杉本）
▽2時間50分

三菱重工W

		打	安	点
⑧	杉之	2	1	0
④	53坂	4	1	0
⑨	青	5	2	1
③	西	2	1	0
5	吉田	3	0	0
⑦	湯	3	1	0
H	根	0	0	0
7	北	3	0	0
⑤	中	3	1	0
4	朝	0	0	0
⑥	山	3	1	0
D	笹	0	0	0
H	D 碓	1	0	0
②		4	1	0
	計	31	9	5

ミキハウス

		打	安	点
④	田	2	1	0
⑥	伊	3	2	1
⑦	島	3	0	0
③	田	3	1	0
⑨	猪	4	1	0
⑤	大	4	0	0
D	菊	3	0	0
H	D 神	2	1	0
②	井	1	0	0
H	吉	3	1	0
⑧	坂	3	1	0
	計	29	5	1

	三	振	ミ
打	5	5	12
球	3	3	4
犠	4	4	2
盗	3	2	1
失	0	0	0
残	6	6	7
併	0	0	0

	投	手	回	安	責
鷲	尾		7	3	1
川	上		2	2	0
桜	井	尾	8	7	4
仲			⅔	2	1
浪		越	⅓	0	0

▽本塁打　打点　湯浅（桜井）
▽2時間43分

▽本塁打　谷川（ア）

YBSホールディングス　001 002 300 6
ニチダイ　110 011 000 4
（Y）石本、倉本、永山、山川―平石

（ニ）熊沢、吹本、小倉、酒井―松吉

SUNホールディングスWEST　002 011 0 4
大阪ガス　000 291 2 14
（七回コールド）

（S）石川、川根、嶺、戸次―関本

（大）秋山、本間、小松―戸高

▽本塁打　西川（S）

▽代表決定戦

三菱重工West　100 000 031 5
ミキハウス　001 000 000 1
（三菱重工Westは8大会連続29回目）

日本製鉄瀬戸内　000 200 002 4
日本生命　000 001 200 3
（日本製鉄瀬戸内は4大会ぶり18回目）

▽敗者復活4回戦

アスミビルダーズ　010 010 000 2
日本新薬　100 111 00× 4

（ア）内海、山田―谷川

（日）奥村、小松、戸根、斎藤―後藤、大橋

▽本塁打　大畑（日）

大阪ガス　610 100 003 11
YBSホールディングス　000 000 030 3

（大）本間、田中瞬、小松、秋山―戸高、高橋

（Y）加藤響、倉本、永山、山川―平石

▽本塁打　山川（大）

▽代表決定戦

ミキハウス　000 001 001 2
日本新薬　000 000 000 0
（ミキハウスは2大会連続4回目）

大阪ガス　000 302 000 5
日本生命　001 006 13× 11
（日本生命は2大会ぶり40回目）

ミキハウス

	打	安	点
④	浦田	4	1	0
⑥	藤井	4	0	0
D	中松	5	2	1
③	田本	4	1	0
6	花田	5	0	0
⑤	西澤	3	2	0
⑦	原内	4	0	0
⑨	猪俣	3	1	0
R	小神	0	0	0
9	殿上	0	0	0
②	井松	3	1	1
⑧	本	2	1	1
5	伊坂	4	0	1
3	大島	3	0	0
河	小神	0	0	0
計		32	9	2

日本新薬

	打	安	点
⑥	武田	3	2	0
⑨	内田	2	0	0
H9	竹梅	1	1	0
⑤	橋本	4	1	0
③	濱田	4	1	0
D	大畑	2	0	0
RDD	中田	0	0	0
H	石	1	0	0
⑦	根路	1	0	0
H7	若銘	1	0	0
⑧	舩林	2	1	0
②	後曳	3	0	0
H	植田	2	1	0
2	大橋	1	0	0
H	笹原	0	0	0
④	高館	2	0	0
H4	柳原	2	0	0
計		31	8	0

	投	手	回	安	責
ミ	大	宮	5	7	6
9	本	間	⅓	2	1
5	秋	山	1	2	1
3	小	松	⅓	3	3
1	田	中	⅓	0	0
1	稲	垣	⅓	0	0
0	谷	脇	5	4	3
併	真	野	1	4	2
0	齋	藤	3	1	0

	投	手	回	安	責
振	高	橋	6	⅓ 5	0
3	浪	越		⅓ 0	0
残	仲	尾		⅓ 0	0
0	桜	井	2	3	0
併	木	下	7	4	1
1	戸	根	1	⅓ 5	1
	齋	藤		⅔ 0	0

▽本塁打　坂井（木下）

▽2時間57分

大阪ガス

	打	安	点
⑧	橋	本	4	1	0
④	峰	本	4	1	0
⑨	清水	井	4	0	0
D	三戸	高	2	1	0
③	山	川	3	1	0
⑦	高島	橋	4	2	0
②	花杉	袋	2	2	0
⑥	田	本	2	0	0
H	中	内	3	0	0
⑤		聡	1	0	0
H					
計			30	9	5

日本生命

	打	安	点
⑧	中	津	4	1	2
⑦	松	本	5	2	1
③	木	倉	5	1	1
⑨	竹	村	5	2	3
⑤	山	田	3	0	0
D	竹	中	5	2	0
R	D	田	0	0	0
⑥	多	田	4	0	1
④	高	上	4	2	0
H	池	野	2	0	0
4	早	山	1	0	0
4	船	村	0	0	0
②	梅三	島	3	2	3
計			37	14	11

	投	手	回	安	責
大	大	本	6	5	2
振	秋	山	1	⅓ 1	0
6	小	松		⅓ 3	3
球	小田中	瞬		⅓ 0	0
5	稲	垣		⅓	0
盗	谷	脇	5	4	3
0	真	野	1	4	2
失	齋	藤	3	1	0
0					
残					
5					
併					
0					

▽本塁打　峰（真野）、高橋（大宮）

▽二塁打　高橋、間（谷脇）、竹村（大松本）

▽3時間9分

日鉄山口

	打	安	点
⑥	山甲	林	3	2	0
⑨	横野	々	3	1	1
⑧	小黒	坂	3	1	0
⑤	田寺	芦	3	0	0
⑦	坂芦	中	2	0	0
D	田		3	0	0
③	下斐	田	4	3	0
H	田下	池	3	3	1
②	池田	中	3	1	2
H	田中	嶋	1	2	1
④	嶋本	内	2	0	1
HR	内島		1	0	0
計			32	10	4

JR西日本

	打	安	点
⑥	杉本	村	3	2	0
③	田大	土	3	0	2
⑧	村倉	居	4	2	1
⑤	田村	野	4	3	0
D	戸西	岡	3	3	0
⑦	岡安	櫻	3	4	3
⑨			3	1	0
②			0	0	0
④			0	0	0
計			29	6	3

	投	手	回	安	責
日	投	武	5	6	3
7	山	加	2	0	0
振	下		1	0	0
11	花	中	7	5	4
7	辰	京	1	0	0
3					
球					
0					
盗					
0					
失					
0					
残					
9					
併					
1					

手藤久納江　回5　安6　責3
村岡己極　⅔3　0　0
打1　杉本

▽本塁打　田村（J）稲林（シ）

▽2時間1分

日本製鉄山口2大会ぶり8回目
JR西日本2大会連続10回目

中国（9月26～30日、広島・電）

JR西日本（1勝）　220 000 020 6
光石火きんさい三次。代表2＝前回はJFE西日本、三菱自動車倉敷オーシャンズ）

日本製鉄山口（1勝）　000 200 010 3
シティライト岡山（1敗）

（J）花村、中岡、大畑―安田

（シ）金津、水谷、森田輝、荒田―筒井

▽リーグ戦

【A組】

シティライト岡山（2敗）　200 000 000 2
ツネイシブルーパイレーツ（1敗）　000 000 000 0

（シ）野林、水谷、荒田―筒井

三菱自動車倉敷オーシャンズ（1勝）　100 002 10× 4
日本製鉄山口（1勝）　030 020 00× 5

（ツ）深田、松尾、藤原、東田―小林

（三）長谷川、末野―森、谷川

【B組】

（日）武藤―田中、寺嶋

▽本塁打　黒田（日）

【A組】

ツネイシブルーパイレーツ（2敗）
000 000 100 1
040 011 00× 6
伯和ビクトリーズ（1勝）
（ツ）深田、藤原、東田―小林
（伯）平岡、飯田、谷―橋本
（JR西日本、三菱自動車倉敷オーシャンズ、日本製鉄山口、伯和ビクトリーズは代表決定トーナメント進出）

【A組】
JR西日本（2勝）
000 200 202 6
000 000 000 0
三菱自動車倉敷オーシャンズ（1勝1敗）
（JR西日本、三菱自動車倉敷オーシャンズは2大会連続10回目）

【B組】
日本製鉄山口（2勝）
103 101 000 4
001 000 302 1 7
伯和ビクトリーズ（1勝1敗）
（延長十回、十回からタイブレーク）

四国銀行3大会ぶり24回目

四国
（10月2～3日、香川・レクザムボールパーク丸亀。代表1＝前回はJR四国）

四国銀行
010 001 000 2
000 000 000 0
▽四国銀行1勝
（日）中里、山久、畝、下江、加納―寺嶋
（伯）高橋、飯田、谷―橋本
▽代表決定戦
日本製鉄山口
000 000 040 4
001 020 000 3
JR西日本
（日本製鉄山口は2大会ぶり8回目）
▽代表決定トーナメント1回戦
伯和ビクトリーズ
000 000 000 0
000 200 00× 2
三菱自動車倉敷オーシャンズ
（伯）平岡、飯田―橋本
（三）末野―谷川
▽代表決定戦
JR西日本
000 100 002 2
003 000 000 1 4
三菱自動車倉敷オーシャンズ
（JR西日本は2大会連続10回目）
（J）川合―小林
▽本塁打　南（四）
▽四国銀行2勝
四国銀行
100 000 020 3
000 000 000 0
JR四国
（四国銀行は3大会ぶり24回目）

西部ガス6大会連続7回目
ホンダ熊本4大会連続17回目

九州
（9月24～28日、熊本・リブワーク藤崎台ほか。代表2＝前回はJR九州、ホンダ熊本）

沖データコンピュータ教育学院
000 000 000 0
ホンダ熊本
300 001 40× 8
（沖）竹ノ上―森
（ホ）高橋、藤江、中西、新名―丸山
▽1回戦
▽本塁打　古寺（ホ）
九州総合スポーツカレッジ
000 000 000 0
410 014 × 10
エナジック
（七回コールド）
（九）富盛、八田、脇田―満潮
（エ）上間、大嵩、加島、古堅瑞、仲本―山田、佐久田
宮崎梅田学園
021 100 000 4
000 100 000 1
佐伯市野球団
（宮）徳永、名和、大久保―中里
（佐）塩見、前薗―管原
▽本塁打　中里2（宮）上田（佐）
新海屋
000 000 000 0
010 004 00× 5
日本製鉄九州
（新）高木、黒田、野村、高木、野村―高岡
（日）油布―与座
熊本ゴールデンラークス
010 030 000 4
003 000 000 3
沖縄電力
（熊）早川、松江―松波
（沖）内間、狩俣、新垣瑠、安里海―石原、山川
▽本塁打　菅原（熊）
日産自動車九州
000 000 000 0
003 010 10× 5
KMGホールディングス

四国銀行

		打	安	点
⑨	川大元	5	0	0
⑦	田谷山	5	1	0
⑤	南	4	3	0
D	北井野	3	0	0
⑥	大藤神	4	2	2
③	真大	4	1	1
④		4	2	0
⑧		3	1	0
②		4	2	0
	計	36	10	3

JR四国

		打	安	点
⑧	井	4	0	0
⑨	山	2	0	0
D	篠	3	0	0
⑤	仲	4	0	0
⑦	吉	2	2	0
H	高	2	0	0
③	笹	3	0	0
H	北	1	0	0
④	美	3	1	0
⑥	有	2	0	0
H	山	1	0	0
②	小	2	0	0
H	森	1	1	0
	計	30	2	0

	併	残	失	盗	犠	球	振
四	0	9	1	2	1	2	7
J	2	6	3	2	0	3	7

	責	安	回	投
手井池	0	1	6	投
田菊	0	1	3	手
木本嶋田	1	6	7	井
	2	3	⅓	池
	0	1	⅔	回
	0	0	1	6
	1	3	⅓	3
	0	0	⅔	

▽二塁打　大谷、藤井、真森、北、鈴木
▽三塁打　北、暴投
▽暴投　下
▽2時間47分

JR西日本

		打	安	点
⑥	杉	5	1	2
③	本村倉	5	2	0
⑧	野藤	5	3	0
H	江居	1	0	0
R	田村	5	3	0
9	野川	4	2	1
⑤	本田	1	1	0
D	井	4	3	0
⑦	大西佐	3	0	0
⑨	大土戸	2	0	0
H	西岡黒	0	0	0
9	植安	1	0	0
②	櫻	1	0	0
④		3	1	0
	計	38	10	4

三菱倉敷

		打	安	点
⑧	猪	3	0	0
⑥	崎川	5	2	2
⑦	島	5	3	2
③	島堂	4	0	0
H	木野	1	0	0
④	下	4	0	0
D	村川	3	0	0
H	岩	1	0	0
D	村	4	1	0
⑨	杉	4	1	0
⑤	谷	3	1	0
②		4	1	0
	計	37	8	4

	併	残	失	盗	犠	球	振
J	0	7	1	1	2	0	3
三	1	8	1	0	2	1	8

	責	安	回	投
投大花	0	6	⅓	手
手畑村	0	2	⅔	畑
	0	0	4	村
	0	0	5	5
長末彦	2	5	8	川
川野坂	0	0	⅓	野
	0	0	⅔	坂
	0	1	1	1

▽三塁打　小川
▽2時間56分

（日）菊池、田村、蛭子―三宅、房前
（K）福田―角田

J R 九 州	0	0	3	1	3	1	0	0	11
エーアールライノス	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（七回コールド）
（J）植木、足立―菊池
（エ）森国、高野、猿渡、横山―富永
▽本塁打　山田2、山脇（J）
▽2回戦

日本製鉄九州	0	0	0	0	0	0	2	1	3
西部ガス	0	3	0	0	0	0	4	0×	7

（日）木村、七俵、金栗―与座、田中怜
（西）村田、松本、岩崎、山田―金沢

熊本ゴールデンラークス	1	1	0	0	0	0	1	0	3
KMGホールディングス	0	2	0	2	0	0	0	1	7

（熊）松江、牛島樹、源、早川―松波
（K）西山、平野―角田

ホンダ熊本	0	2	2	0	0	0	0	0	4
エナジック	0	0	0	0	0	0	0	1	1

（ホ）島袋、中村、片山―丸山
（エ）宮城、仲尾次―佐久田
▽本塁打　丸山（ホ）

宮崎梅田学園	0	0	1	0	0	0	3	0	4
J R 九 州	2	0	0	3	2	2	1	3×	13

（宮）徳永、仲道、大久保、名和―中里
（J）鷲崎、平野―菊池
▽準決勝

KMGホールディングス	0	0	0	0	0	0	1	0	1
西部ガス	6	0	0	0	0	0	0	1×	7

（K）荻原、平野、山岡、本田、牟田、中―角田、入江
（西）大畑、田中、高椋―金沢
▽本塁打　正木（西）

J R 九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ホンダ熊本	0	0	0	0	0	0	0	7×	7

（J）稲山、平野、足立―菊池
（ホ）横川―丸山
▽代表決定戦

ホンダ熊本	0	0	0	0	0	0	3	0	3
西部ガス	0	0	3	1	0	0	0	1×	5

（西部ガスは6大会連続7回目）
▽敗者復活1回戦

KMGホールディングス	0	0	0	0	1	0	0	2	3
J R 九 州	0	0	0	8	0	0	0	0×	8

（K）西山、福田、本田―角田
（J）井上、足立、植木―菊池
▽本塁打　山田（J）
▽代表決定戦

ホンダ熊本	1	0	0	2	0	0	1	1	5
J R 九 州	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（ホンダ熊本は4大会連続17回目）

Honda熊本

打		安	点
⑦	中　島	4	0
⑥	井上根	2	0
⑨	山宮古	2	0
H 9	川寺垣	4	0
③	井稲江	4	0
⑧	山　森	3	0
⑤ 4	江　丸	1	0
D	森　山	3	0
②	丸　尾	2	0
H 2	養高江	1	0
④	高和青	1	0
H 4	丸　柳	1	0
H	井　田	1	0
R 5	上　木	1	0
計		31	7

西部ガス

打		安	点
⑨	樋　口	5	2
⑦	横田手	4	1
⑤	井永澤	4	1
D	安金古	3	1
②	笹原正	4	0
④	川井田	4	2
③	3	3	0
⑧	田木木	2	0
⑥	八	3	1
計		32	9

H	6	5	2	0	1	8	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
西	4	5	1	0	0	9	1

投	手	回	安	責
寺高	澤橋	3	4	3
新米	名倉	⅔	1	1
藤島	江袋	⅔	1	0
		1⅓	0	0
		1⅓	0	0
		2	3	1
村	田	6	3	3
田	中	⅔	3	1
山	田	⅓	1	0
大	畑	1	1	0
		1	2	0

▽二塁打　和田、古川▽2時間35分

Honda熊本

打		安	点
⑦	中　島	4	1
④ 5	江　垣	3	0
⑧	稲古寺	3	2
③	古和田	4	1
D	江山崎	4	1
R D	山山根	4	0
⑨ 9	山　本	3	0
⑤	森　尾	0	0
H	養高垣	1	0
4	丸垣山	1	1
②	井　上	4	0
⑥	井　上	2	1
計		32	9

JR九州

打		安	点
⑦	山　脇	3	0
H	友岩利	1	0
7	岩切切	0	0
③	村上上	4	1
⑤	是枝枝	4	1
②	菊池池	3	0
H	宮崎崎	1	0
⑧	山田田	4	1
D	安齋齋	4	0
④	七條條	3	1
⑥	吉田田	2	0
⑨	美　澤	3	1
計		32	5

H	4	5	3	0	1	8	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
J	8	0	1	0	0	6	0

投	手	回	安	責
寺島	袋	8	5	0
片	山	1	0	0
鷲	崎	4	5	3
稲	山	5	4	2

▽二塁打　古寺、丸山、和田▽2時間29分

野球しようぜ！


ここにも、
そこにも、
どこにでも。
株式会社 イソノ運動具店
isono Since 1948
東京本社
名古屋営業所
仙台営業所
沖縄ブランチ
Instagram

◇第50回社会人野球日本選手権大会・出場チーム◇

代表地区	チーム名	出場回数
〈推薦枠〉		
都市対抗・九州大会優勝	☆王子	（２大会連続16回目）
全日本クラブ選手権優勝	マツゲン箕島	（２大会連続８回目）
〈JABA大会推薦枠〉		
東京スポニチ大会優勝	☆鷺宮製作所	（３大会ぶり15回目）
静岡大会優勝	JR東海	（４大会連続18回目）
四国大会優勝	☆JFE西日本	（７大会連続18回目）
岡山大会優勝	☆トヨタ自動車	（21大会連続24回目）
日立市長杯優勝	☆SUBARU	（３大会ぶり18回目）
京都大会優勝	☆NTT西日本	（２大会連続25回目）
長野大会優勝	☆東京ガス	（４大会連続14回目）
ベーブルース杯	☆Honda鈴鹿	（５大会ぶり14回目）
東北大会、北海道大会優勝	☆ヤマハ	（３大会連続29回目）
〈地区代表枠〉		
北海道	北海道ガス	（４大会ぶり２回目）
東北	☆TDK	（５大会連続14回目）
北信越	Fed Ex	（７大会ぶり４回目）
関東	明治安田	（２大会連続８回目）
	☆Honda	（３大会連続26回目）
	☆日本製鉄鹿島	（４大会連続13回目）
	NTT東日本	（２大会連続19回目）
東海	☆西濃運輸	（２大会ぶり20回目）
	東海理化	（４大会ぶり５回目）
	東邦ガス	（４大会ぶり11回目）
	日本製鉄東海REX	（２大会連続14回目）
	☆三菱自動車岡崎	（３大会連続11回目）
近畿	三菱重工West	（８大会連続29回目）
	☆日本製鉄瀬戸内	（４大会ぶり18回目）
	ミキハウス	（２大会連続４回目）
	☆日本生命	（２大会ぶり40回目）
中国	日本製鉄山口	（２大会ぶり８回目）
	☆JR西日本	（２大会連続10回目）
四国	四国銀行	（３大会ぶり24回目）
九州	☆西部ガス	（６大会連続７回目）
	☆Honda熊本	（４大会連続17回目）

※☆印は第９６回都市対抗大会出場チーム。王子が都市対抗と九州大会、ヤマハも東北大会と北海道大会を制したため、東海地区の出場枠は「２」増えて「５」になった。

マツゲン箕島硬式野球部2年連続V

第49回　全日本クラブ野球選手権

史上5チーム目連覇

最高殊勲選手賞は松村亮汰投手



優勝し胴上げされるマツゲン箕島の西川監督（中央）

第49回全日本クラブ野球選手権大会（毎日新聞社、日本野球連盟主催）は9月13日から16日まで、愛媛県松山市の坊っちゃんスタジアム、マドンナスタジアム、今治市の今治市営球場で、全国の予選を勝ち抜いた16代表が参加して行われ、マツゲン箕島硬式野球部（和歌山）が2大会連続7回目の優勝を果たした。全日本クラブ野球選手権の連覇は第32回大会（２００７年）、第33回大会（08年）の茨城ゴールデンゴールズ以来16大会ぶりで、史上5チーム目（6回目）。マツゲン箕島は2大会連続8回目となる日本選手権の出場権を得た。

マツゲン箕島は1回戦で、前回大会決勝でも戦ったエフコムＢＣ（福島）に３―２で逆転勝ち。２回戦は松山フェニックス（愛媛）を延長十回タイブレークの末、４―２で振り切った。準決勝で兵庫県警桃太郎に７―２で逆転勝ちすると、決勝は同じ近畿地区のライバル、大和高田クラブ（奈良）を５―３で降して頂点へ駆け上がった。大和高田クラブは3大会ぶり6回目の優勝はならなかった。近畿勢同士による決勝は5大会ぶりだった。

大会には地元から松山フェニックス（愛媛）と、今回から新設された開催地区枠（四国）で２０２４年10月結成のイワキテック（愛媛）が出場。トッキュウブルーローズ（北海道）、ＣＬＵＢ　ＲＥＢＡＳＥ（東京）、イワキテック（愛媛）、福岡トヨタＦＴサンダースの４チームが初出場を果たした。

最高殊勲選手賞には、松村亮汰投手（マツゲン箕島）が輝いた。敢闘賞、首位打者賞（12打数６安打、打率５割）は、西浦太智内野手（大和高田クラブ）が受賞した。

◇**第1日**（9月13日）
○…マドンナスタジアム…○
▽1回戦

兵庫県警桃太郎好機逃さず　トッキュウ追い上げ及ばず

兵庫県警桃太郎	0	0	0	2	2	0	0	6
トッキュウブルーローズ	1	0	1	0	0	2	0	5

兵庫県警桃太郎は六回2死二、三塁から山岡、前田の連続適時打で逆転すると、七回にも山口の適時打で突き放した。トッキュウブルーローズも八回、服部の2ランで追い上げたが、中盤以降に投手陣が捕まったことが響いた。

全足利小刻みに追加点　千曲川打線つながらず

全足利クラブ	0	1	1	1	0	1	0	0	4
千曲川硬式野球クラブ	0	0	0	0	0	1	0	0	1

全足利クラブは二回に立石の左前打で先制すると、六回には松濤がソロを放つなど、小刻みに加点した。先発の齋藤以下3投手も反撃を1失点に抑えた。千曲川硬式野球クラブは走者を出すものの、打線がつながらなかった。

大和高田代打松山2ラン 東北マークス反撃ならず

東北マークス
000 100 00 1
302 000 03 8
大和高田クラブ

（八回コールド）

大和高田クラブは八回、代打松山の2ランの後、走者を二塁に置いて深尾が右超え二塁打を放ち、コールド勝ちを決めた。東北マークスは四回に3安打を集めて1点を返したが、大和高田の継投に反撃を断たれた。

○…坊っちゃんスタジアム…○

▽1回戦

マツゲン箕島逆転勝ち エフコム山形好投も

マツゲン箕島
000 000 300 3
010 001 000 2
エフコムBC

マツゲン箕島は七回、安打と死球、敵失で1死満塁とし、内野ゴロと白瀧の左前打で逆転。3番手の近藤から坂本につないで逃げ切った。エフコムBCは二回に犠飛で先制し、六回には松嶋のソロでリードを広げたが、完投した先発山形の、七回の乱れが悔やまれる。

松山フェニックスが完勝 REBASE初勝利逃す

松山フェニックス
400 010 2 7
000 000 0 0
CLUB REBASE

（七回コールド）

松山フェニックスは一回、宇都の適時打や押し出しの死球などで4点を先制するなど、10安打でコールド勝ち。先発の高松も2安打に抑えた。初出場のCLUB REBASEは、先発の荒川が立ち上がりに制球を乱してしまった。

水沢駒形最後に振り切る 全鹿嶋救援陣踏ん張れず

全鹿嶋野球クラブ
000 200 201 5
100 200 13× 7
水沢駒形野球倶楽部

水沢駒形野球倶楽部は同点の八回2死二塁から、小田島が左前に勝ち越し打を放つなど、3連打で3点を挙げて接戦を制した。全鹿嶋は2度にわたってリードを奪ったものの、救援陣が捕まった。

兵庫県警

	打	安	点
⑧ 作本	5	1	0
8 京極	0	0	0
⑦ 有尾	5	2	0
③ 後崎	5	1	0
D RD 高橋	4	3	0
⑨ 口山	0	0	2
⑤ 山岡	3	1	1
5 田端	4	1	0
② 前江	3	2	2
2 中村	3	2	0
⑥ 岡瀬	2	0	0
6 大笠	2	1	1
④ 間橋	2	1	0
H 4 橋本	1	0	0
計	37	13	6

トッキュウ

	打	安	点
⑥ 長谷川	3	0	0
④ 服部	5	2	2
⑨ 磯崎	3	1	0
⑧ 伊丹	2	1	1
⑤ 小関	4	1	2
③ 平手	5	2	0
D 辻	5	2	0
② 西村	4	1	0
⑦ 佐藤	1	0	0
H 7 三好	3	1	0
計	35	11	5

	投手	回	安	責
兵	6	3	2	2
ト	8	7	2	2

	1	2	9	1
振球	1	2	盗失	残併
	1	1	0	0

	投手	回	安	責
	林	3	2	1
井	上	2	3	0
蓑	茂	2⅔	5	2
佐	野	1⅓	1	0
原	田	5⅔	8	4
望	月	1	3	2
西	田	2⅓	2	0

▽本塁打 服部（蓑茂）▽二塁打 後藤▽暴投 佐野▽3時間15分

全足利

	打	安	点
⑤ 長谷川	4	0	0
⑧ 岩崎浩	5	3	0
⑨ 松本涛	3	2	1
③ 北間	3	1	0
④ 小野	4	2	2
⑦ 二村	3	1	0
D 八代奨	2	0	0
HD 八代竜	1	0	0
② 立石	4	1	1
⑥ 宇賀神	3	0	0
計	32	10	4

千曲川

	打	安	点
⑨ 関	5	2	0
⑧ 鈴木	5	1	0
⑤ 圀府寺	4	1	0
④ 花岡	3	1	0
D 長島	3	0	0
HD 木下	0	0	1
⑥ 高城	4	3	0
③ 及川	4	2	0
② 永田皓	3	1	0
H 二瓶	1	0	0
⑦ 永田英	3	0	0
計	35	11	1

	投手	回	安	責
齋	藤	5	5	0
山	本	3	5	1
岩崎海		1	1	0
和	田	3	5	2
三	石	3	3	2
本	多	1	1	0
井	崎	1	1	0
井	関	1	0	0

	1	1	1	1	0
振球	1	1	盗失	残併	
	1	1	1	1	1

▽本塁打 松濤（三石）▽二塁打 及川、関▽暴投 山本、三石▽3時間3分

マークス

	打	安	点
④ 相澤	3	1	0
⑨ 浦田	4	0	1
⑤ 高田杜	4	1	0
③ 鈴木葉	3	3	0
⑦ 千小林	3	2	1
D 小久島	3	1	0
⑧ 只慈	3	1	0
② ⑥ 野	2	0	0
計	28	7	1

大和高田

	打	安	点
③ 口分田	3	0	0
H 松山	1	1	2
⑤ 中川	3	2	0
⑨ 山本	4	0	0
② 深尾	5	2	1
D 三藤	4	2	2
⑦ 犬飼	1	0	0
⑥ 井上	2	1	0
④ 西浦	3	1	0
H ⑧ 今岡里	1	2	2
計	29	11	7

	1	2	0	0	0	5	1
振球	犠	盗	失	残	併		
	2	8	3	2	0	9	1

	投手	回	安	責
	李	3	6	5
楠	本	3	1	0
鈴木天		1	0	0
鈴木康		⅔	4	3
井	田	4	5	1
楠	本	3	1	0
松	林	1	1	0

▽本塁打 松山（鈴木康）▽二塁打 鈴木杜、小林、三藤、岡、深尾▽暴投 李▽2時間29分

マツゲン

	打	安	点
⑨ 浅井	5	0	1
⑧ 松田瀧	4	2	2
D 白島田	4	0	0
RD 山本中	3	1	0
⑤ 竹浦	3	0	0
③ 杉田	3	1	0
⑦ 冨本田	3	2	0
7 松藤	3	1	0
④ 藤田	3	1	0
② 湯浅	2	1	0
⑥ 吉村	2	1	0
H 6 中谷	1	0	0
計	31	6	3

エフコム

	打	安	点
③ 島崎	4	0	0
⑧ 八百板卓	4	1	0
⑥ 松嶋	3	1	1
D 八百板飛	3	1	0
⑨ 伊藤海	4	3	0
⑦ 伊藤琉	3	2	0
② 高野	2	1	1
H 大吉	1	0	0
⑤ 4 茨田	3	1	0
④ 岩木	2	0	0
5 岩崎	1	0	0
H 河野	1	0	0
計	31	10	2

	1	2	9	1
振球	犠	盗	失	残併
	2	4	0	2

	投手	回	安	責
奥	田	5	6	1
中	田		⅓	3
近	藤	3	1	0
坂	本	1	0	0
山	形	9	6	0

▽本塁打 松嶋（中田）▽二塁打 藤田、八百板卓、伊藤海▽2時間32分

松山

	打	安	点
⑥ 前田	4	0	0
3 池上	0	0	0
⑦ 重松	4	1	0
7 片山	0	0	0
⑨ 河野	3	2	0
⑤ 田古	3	0	1
⑧ 都宇	3	1	1
③ 和樋	4	3	0
R 6 岡宗	3	1	0
④ 垣檢	2	0	1
D ② 島柳	4	3	0
計	30	10	6

REBASE

	打	安	点
⑨ 小木曽	3	0	0
③ 福山	3	1	0
D 杉山	1	0	0
HD 保科	2	0	0
⑦ 鈴木上	3	0	0
⑧ 村熊	2	0	0
H ⑥ 倉乗	1	0	0
⑤ 松須	2	0	0
② 永木	2	0	0
④ 船嶋中	1	0	0
計	22	2	0

	5	7	0	1	1	9	2
振球	犠	盗	失	残	併		
	1	0	0	2	2	2	

	投手	回	安	責
高	松	7	2	0
荒	川	⅔	3	4
山	崎	5	4	1
川	上	1⅓	3	2

▽二塁打 宇都▽暴投 川上▽2時間22分

○…今治市営球場…○
▽1回戦

イワキテック初勝利 11安打で焼津を圧倒

イワキテック	1	0	2	0	4	0	0	2	9
焼津マリーンズ	0	0	0	0	2	0	0	0	2

（八回コールド）

開催地枠で初出場のイワキテックが5本の長打を含む11安打でコールド勝ち。五回には中村の二塁打、杉田の三塁打などで突き放した。焼津マリーンズは五回の無死満塁の好機に適時打が出ず、敵失などによる2点にとどまった。

福岡トヨタ初出場初勝利 西多摩倶楽部先制及ばず

西多摩倶楽部	0	1	0	0	0	0	0	0	1
福岡トヨタFTサンダース	0	1	2	0	2	4	×		9

（七回コールド）

初出場の福岡トヨタFTサンダースは五回、4番石田、5番古川の連打でリードを広げ、六回にも三島の適時打などで4点を奪い、計13安打でコールド勝ち。西多摩倶楽部は二回に服部の犠飛で先制したが、投手陣が捕まった。

◇第2日（9月14日）
○…坊っちゃんスタジアム…○
▽準々決勝

大和高田西が13奪三振 全足利北間のソロのみ

大和高田クラブ	0	2	0	0	0	1	0	0	3
全足利クラブ	0	0	0	1	0	0	0	0	1

大和高田クラブが投手戦を制した。大和高田クラブは二回、西浦と口分田の適時打で先制し、六回には敵失から追加点を挙げた。先発の西は13三振を奪い、被安打3の完投勝ち。全足利クラブは北間のソロによる1点に終わり、完投した佐藤を援護できなかった。

福岡トヨタ福島が2ラン イワキテック救援崩せず

福岡トヨタFTサンダース	0	1	3	0	0	0	1	0	5
イワキテック	0	0	0	2	0	0	0	0	2

福岡トヨタが初出場対決を制した。二回、四球の走者を連続送りバントで三塁に進め、東城の右前打で先制。三回には福島の2ランなどで加点した。イワキテックも四回、神崎の適時二塁打などで追い上げたが、後半は福岡の救援陣に抑えられた。

○…マドンナスタジアム…○
▽準々決勝

明暗分けたタイブレーク マツゲン箕島ミスを突く

マツゲン箕島	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	
松山フェニックス	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	（延長十回）

互いの投手陣が好投し、無得点で延長戦へ。タイブレークの十回、マツゲン箕島は押し出しの四球や犠飛、適時打などで4点を奪った。松山フェニックスもその裏、2点を返したが、タイブレークの守りで失策や四死球のミスが出てしまった。

兵庫県警江端満塁本塁打 水沢駒形悔やまれる八回

兵庫県警桃太郎	0	0	0	0	0	0	0	8	0	8	
水沢駒形野球倶楽部	0	0	1	0	0	2	0	0	0	3	

兵庫県警桃太郎は八回無死満塁から、押し出しの死球と代打前田の適時打で追いつき、江端の満塁本塁打で突き放した。水沢駒形野球倶楽部は先発の小沼が八回に制球を突然乱し、救援の阿世知も本塁打を許してしまった。

全鹿嶋

	打	安	点
⑦ 吉額	5	2	1
⑨ 沢賀	3	0	1
ＨＲ 吉佐	1	0	0
9 藤	1	0	0
⑥ 大川	4	2	0
③ 敬	4	1	0
② 森作	4	5	3
ＲＤ 島野	3	0	1
⑧ 田取	0	2	2
④ 内口	3	1	0
Ｈ 大悠	3	0	0
⑤ 細川	1	2	0
計	37	12	5

水沢駒形

	打	安	点
⑥ 佐々木誉	5	2	1
⑧ 千葉	3	1	0
③ 吉田	4	2	2
⑦ 銅城	4	0	0
7 佐々木兵	0	0	1
⑨ 長原	4	1	1
② 松岡	3	2	0
⑤ 成田	2	0	0
④ 小田島	4	3	2
Ｄ 村上	4	1	1
計	33	12	7

	全	振	水
	6	球	3
	4	犠	2
	3	盗	2
	1	失	1
	0	残	3
	12	併	6
	0	0	0

	投	川	高	山
手		畑	野	本
回		7	⅔	⅓
安		8	2	2
責		4	2	1

	阿世知	小
	6⅔	2⅓
	10	2
	4	1

▽本塁打　長原（川畑）▽三塁打　佐々木誉▽二塁打　香取、森作、吉田（全）、大川敬、吉田（水）、小田島▽暴投　阿世知▽3時間5分

キワイ

	打	安	点
④ 松	4	0	0
⑨ 重	4	1	0
⑧ 田	2	3	0
③ 見	4	2	0
⑤ 村	3	3	1
⑥ 原	3	3	2
Ｄ 田	3	4	1
⑦ 田	4	4	2
② 崎	3	4	0
尾	3	3	0
計	30	11	4

焼津

	打	安	点
西	4	1	0
村	4	0	0
渕	4	2	0
山	3	0	0
崎	3	0	0
月	2	2	1
谷藤	0	0	0
優	2	1	0
増	1	0	0
岡	1	0	0
田本	1	3	0
谷藤	3	2	1
小	2	1	0
寺	2	1	0
計	24	3	1

	イ	振	焼
	6	球	6
	9	犠	5
	1	盗	0
	2	失	0
	3	残	1
	7	併	3
	4	1	1

	投	加	高
手		藤	畑
回		4⅔	3
安		1	1
責		1	0

	山	澤	嶋
	本	石	村
	2⅓	2	3⅔
	2	3	3
	2	2	2
	2	2	2

▽三塁打　杉田、中村▽二塁打　重見、中村、益田、小寺▽2時間40分

福岡トヨタ

	打	安	点
尾	3	1	0
棟	3	2	1
福	3	2	1
石	3	2	2
古	3	2	2
中	3	3	2
中	3	3	2
三	3	1	0
東	3	1	0
三	3	1	0
9			
計	26	13	8

西多摩

	点	安	打
Ｄ	0	0	0
④	0	0	0
⑤	0	0	0
③	0	1	0
⑦	0	0	0
⑧	0	1	0
⑥	0	0	0
⑨	0	0	0
②	0	0	0
ＨＲ	0	0	0
計	1	7	7

	西	振	福
	4	球	2
	2	犠	4
	1	盗	5
	1	失	3
	1	残	0
	8	併	8
	1	0	0

	投	甲	山
手		斐	下
回		4⅓	⅔
安		6	3
責		5	2

	増	武
	木	内
	6	1
	1	0
	0	0

	居	片	二	打	木	甲
	田	石	塁	田	、	分
	投	暴	打	、	2	
	8	間	、	原	塁	
		2	三	三	打	
		時	塁	2	斐	
		間	打	▽		
		0	2	2		
		分	▽			



【マツゲン箕島―大和高田クラブ】力投するマツゲン箕島の先発・松村

◇**第3日**（9月15日）
○…坊っちゃんスタジアム…○
▽準決勝

マツゲン奥田が好投 兵庫県警ミスに泣く

マツゲン箕島
000 130 210 7
002 000 000 2
兵庫県警桃太郎

マツゲン箕島は五回無死満塁から、犠飛と敵失で逆転すると、七回には白瀧と冨田の適時打で2点を追加。三回から登板の二番手の奥田が反撃を断った。兵庫県警桃太郎は三回、有本の適時打などで先制したものの、要所で守備にミスが出た。

大和高田中盤から猛攻 福岡トヨタ4安打のみ

福岡トヨタFTサンダース
000 000 00 0
010 002 31 7
大和高田クラブ

（八回コールド）

大和高田クラブは六回、犬飼の2ランでリードを広げると、七回には上位打線の連打で突き放した。福岡トヨタは

マツゲン 打安点
⑨ 浅松 5 1 0
⑧ 井田 5 3 0
Ｄ 瀧田 3 1 0
ＲＨ 白島 0 0 0
ＤＤ 岡 1 0 0
③ 杉 1 0 0
3 山 1 0 0
⑤ 竹 1 2 0
⑦ 冨 5 1 0
7 松 3 0 0
④ 藤 3 0 0
② 湯 3 0 0
⑥ 中 4 0 0
6 吉 0 0 0
計 35 10 4

兵庫県警 打安点
⑧ 作 3 0 0
8 京 0 0 0
Ｈ 大 0 0 0
7 高 0 0 0
⑨9 有 4 1 1
③ 尾 4 1 0
Ｄ 後 4 0 0
⑨8 山 4 2 0
⑤ 山 3 0 0
5 岩 0 0 0
Ｈ 前 1 0 0
② 江 3 1 0
⑥ 端 1 0 0
ＨＲ6 村 0 0 0
④ 橋 2 0 0
計 30 5 1

マ 7 4 3 3 0 8 0
振球犠盗失残併
兵 4 3 1 0 5 5 1

投 手 回 安責
石 原 2⅔ 0 2
奥 田 7 5 0

蓑 茂 3⅔ 4 0
井 上 ⅔ 3 1
佐 野 2⅓ 3 1
直 江 ⅓ 0 0
林 1 0 0
市 原 1 0 0

▽三塁打 中谷、冨田▽暴投 奥田▽ボーク 林▽2時間42分

兵庫県警 打安点
⑧ 京 極 3 0 0
⑦ 有 本 3 1 0
Ｈ7 笠 間 3 1 0
③ 尾 崎 3 1 0
3 岩 田 3 1 0
ＤＨ 後 藤 3 1 2
ＨＨ 前 田 1 1 0
⑨ 森 口 4 1 0
⑤ 山 岡 3 1 0
② 江 端 3 1 0
⑥ 中 岡 2 0 0
Ｈ4 村 瀬 2 0 0
4 大 西 1 0 0
太 橋 本 2 1 0
計 34 8 7

水沢駒形 打安点
⑥ 佐々木 3 1 0
⑧ 千 葉 4 1 0
⑤ 吉 田 3 0 0
⑦ 銅 城 4 2 2
⑨ 長 原 5 1 0
② 松 岡 3 2 1
③ 菅 原 4 0 0
④ 小田島 4 0 0
Ｄ 村 上 2 0 0
計 32 7 3

兵 2 6 0 0 2 5 1
振球犠盗失残併
水 10 8 1 1 1 11 0

投 手 回 安責
今 津 3 4 1
田 中 1⅓ 0 0
林 1⅔ 3 2
市 原 3 0 0

小 沼 7⅔ 7 4
阿世知 2 1 3

▽本塁打 江端（阿世知）▽二塁打 銅城▽ボーク 小沼▽3時間4分

マツゲン 打安点
⑨ 浅 井 4 1 0
⑧ 松 田 4 1 1
Ｄ 白 瀧 5 2 1
ＤＲ 山 城 0 0 0
⑤ 竹 中 3 0 1
③ 杉 浦 4 2 0
Ｈ 岡 本 0 0 0
3 山 冨 田 4 0 0
⑦ 7 松 本 1 1 1
④ 藤 田 4 2 0
② 湯 島 浅 3 0 0
Ｒ 島 田 0 0 0
2 林 谷 4 0 0
⑥ 中 吉 村 0 0 0
6 計 36 9 4

松 山 打安点
Ｄ 重 松 5 0 0
④6 4 前 田 3 1 0
⑨ 河 野 3 1 1
⑤ 古和田 0 0 0
4 桧 垣 1 0 0
Ｈ 高 尾 0 0 0
5 池 上 0 0 0
Ｈ 柳 島 1 1 1
⑧ 宇 都 5 0 0
③ 樋 口 4 1 0
⑥5 6 宗 岡 2 0 0
⑦ 片 山 3 1 0
② 塩 見 4 0 0
計 31 5 2

マ 5 5 2 1 1 11 1
振球犠盗失残併
松 7 7 3 0 1 11 1

投 手 回 安責
松 村 5⅔ 4 0
近 藤 2 0 0
中 田 1 0 0
坂 本 2 1 1

田 中 9 7 0
阿 部 ⅓ 1 2
高 松 ⅔ 1 0

▽二塁打 藤田、杉浦▽3時間

福岡トヨタ 打安点
⑧ 尾 石 4 0 0
⑦ 棟 田 4 0 0
Ｄ 福 島 4 3 2
⑤ 石 田 4 1 0
⑨ 中 溝 2 0 0
9 三 島 0 0 0
⑥ 中 村 4 3 1
④ 中古 川 3 0 0
③ 東 城 4 1 1
② 三 原 3 0 0
計 32 8 4

イワキ 打安点
④ 松 田 4 2 0
⑨ 重 見 4 0 0
⑧ 中 村 4 0 0
③ 石 原 3 1 0
⑤ 益 田 4 0 0
⑦ 鳥 尾 4 2 0
Ｄ 神 崎 4 2 1
② 吉 尾 3 0 0
Ｈ 坂 本 1 0 0
⑥ 杉 田 4 1 0
計 35 8 1

福 4 7 3 1 0 10 0
振球犠盗失残併
イ 8 3 0 0 2 9 1

投 手 回 安責
森 田 3⅔ 4 2
藤 崎 ⅓ 1 0
武 内 2 0 0
生 田 3 3 0

佐 藤 2⅔ 3 3
久 保 6⅔ 5 2
塩 田 ⅓ 0 0

▽本塁打 福島（佐藤）▽二塁打 神崎、杉田、松田▽暴投 藤崎、生田▽ボーク 佐藤▽2時間52分

大和高田 打安点
③ 口分田 3 2 1
⑤ 中 川 3 1 0
⑨ 山 本 3 0 0
Ｈ 松 山 1 0 0
9 松 下 0 0 0
② 深 尾 4 0 0
Ｄ 三 藤 3 0 0
⑦ 犬 飼 3 0 0
⑥ 井 上 4 1 0
④ 西 浦 3 2 1
⑧ 岡 3 0 0
計 30 6 2

全足利 打安点
⑤ 長谷川 4 0 0
⑧ 岩崎浩 4 0 0
⑨ 松 濤 4 0 0
③ 北 間 3 2 1
④ 小 野 3 0 0
⑦ 二 村 3 0 0
Ｄ 西 村 2 0 0
ＨＤ 山 崎 1 0 0
② 立 石 3 1 0
⑥ 宇賀神 3 0 0
計 30 3 1

大 4 4 2 0 1 6 0
振球犠盗失残併
全 13 0 0 0 2 2 0

投 手 回 安責
西 9 3 1

佐 藤 9 6 3

▽本塁打 北間（西）▽二塁打 口分田、井上▽2時間43分

相手先発の井田に七回2死まで無安打に抑えられるなど、打線が振るわなかった。

◇最終日（9月16日）
○…坊っちゃんスタジアム…○

マツゲン箕島打線つながる 大和高田九回反撃も及ばず

▽決勝
マツゲン箕島
001 110 002 5
000 010 101 3
大和高田クラブ

マツゲン箕島打線が好機につながった。三回、杉浦の犠飛で先制すると、四回には中谷、五回には冨田の適時打で追加点を挙げた。九回も竹中、松本の連打で突き放した。大和高田クラブは九回無死一、二塁のチャンスを作ったが、続く2者が三振に倒れ、死球の押し出しによる1点に終わった。

マツゲン箕島「恩返し」の連覇

タイムリーは「総菜担当」

外角低めの変化球に食らいついた。3―2の九回2死一、三塁、マツゲン箕島の5番・竹中夢翔がはじき返した打球は中前へ。三塁走者を迎え入れ、竹中は両手を高々と突き上げた。

「意識はセンター返し。体を開かないことだけ」と竹中。不調で打順を下げたが、本来は4番を担う好打者だ。腕の振りが鋭い大和高田クラブの左腕・松林勇志に対し、直球との両にらみではなく、割り切って変化球に重きを置いたことが奏功した。チームは3―0からじわじわと追い上げられ、攻撃でも五回途中から救援した松林に抑えられていただけに、優勝を大きくたぐり寄せる適時打だった。

恩返しの一振りだ。チームにはマネジャー兼任を含めて16人の投手がいて、実戦形式の打撃練習に次々と登板する。最速150㌔超の投手も複数擁し、打者たちは日ごろから対応力を磨いてきた。「生きた球を毎日のように見られるのはすごくプラス」と竹中は感謝する。チームは計12安打。うち10本が単打だが、難しい球でもきっちりと捉える技術が光った。

チームは和歌山県などで展開するスーパー「松源」の支援を受け、選手は主に店舗で業務をこなす。野球が好きで、働きながら硬式野球を継続したいと門をたたいた若者ばかりだ。

滋賀・八幡商、専大出身の24歳の竹中もその一人。総菜を担当し、普段は店舗内の調理場で弁当のおかずを作っている。「仕事も野球も全力。両方を頑張ることで職場の人も応援してくれるはず。野球で店舗を空けているので、結果で恩返ししたかった」と話した。

「野球王国」として名高い愛媛県で初開催の大会。仕事と野球の「二刀流」に取り組む選手たちが鍛錬の成果を披露し、クラブ野球の新たな歴史に「連覇」で彩りを添えた。

㊤…表彰選手…㊦

◇最高殊勲選手賞
松村亮汰・投手（マツゲン箕島硬式野球部）

◇敢闘賞
西浦太智・内野手（大和高田クラブ）

◇首位打者賞
西浦太智・内野手（大和高田クラブ）＝12打数6安打、打率5割



【マツゲン箕島―大和高田クラブ】九回表マツゲン箕島2死一、三塁、適時打を放ち喜ぶ竹中

	点	安	打
⑨	0	1	4
⑧	0	1	5
Ｄ	0	2	4
③	1	1	2
⑤	1	2	5
⑦	1	1	4
４	1	2	5
②	1	1	4
⑥	0	0	2
6	0	1	3
計	5	12	36

マツゲン
浅松白杉竹冨松藤湯中吉
井田瀧浦中田本田浅谷村

	点	安	打
③	1	1	3
⑤	1	0	4
⑨	0	0	2
Ｈ	0	0	1
９	0	0	3
Ｈ	0	0	1
②	0	0	4
Ｄ	0	1	3
⑦	0	2	3
⑥	0	1	4
④	0	2	3
⑧	0	1	3
計	3	10	37

大和高田
口中山今松松深三犬井西　岡
田川本里下山尾藤飼上浦
分

	責	安	回
手村藤田本田	1	4	5
投松近中坂奥	1	1	2
	0	0	⅔
	0	2	⅓
西	3	9	⅔
林	2	2	4
松楠本	0	1	⅓

	併	残	失	盗	犠	球	振
マ	0	9	1	0	0	3	4	7
大	0	9	1	0	0	2	5	9

▽三塁打　松田（犬飼）
▽二塁打　中谷、冨田（増木）
▽3時間10分

	点	安	打
⑨	0	0	3
⑧	0	0	4
Ｄ	0	0	4
⑤	0	0	4
⑨	0	0	3
Ｈ	0	0	1
⑥	0	0	3
④	0	0	3
③	0	0	3
２	0	0	3
計	0	4	30

福岡トヨタ
尾中棟福石中岩中古東三三郷
石西田島田溝切村川城原島地
８　３　９

	点	安	打
⑧	0	0	4
Ｈ	0	0	3
⑦	0	1	3
Ｄ	0	0	3
⑤	0	0	3
⑨	0	1	3
Ｈ	0	0	3
⑥	0	0	3
④	0	0	3
３	0	0	3
②	0	0	3
Ｈ	0	0	2
２	0	0	3
計	0	4	30

大和高田
口松中山今深三犬井西安野　岡
分
③９⑤⑨Ｈ②Ｄ⑦⑥④ＨＲ⑧

	点	安	打
③	0	0	4
９	1	2	4
⑤	0	1	4
⑨	0	0	3
Ｈ	0	1	3
②	0	0	3
Ｄ	0	1	4
⑦	0	1	4
⑥	0	0	4
④	0	0	3
ＨＲ	2	2	4
⑧	0	1	4
計	3	13	41

	併	残	失	盗	犠	球	振
福	0	8	1	0	0	2	6	7
大	2	8	2	0	1	3	3	9

	責	安	回
投増武藤恵杉	3	7	6
	3	2	⅔
	0	1	⅓
	1	1	⅓
	2	2	⅓
井田	0	0	8

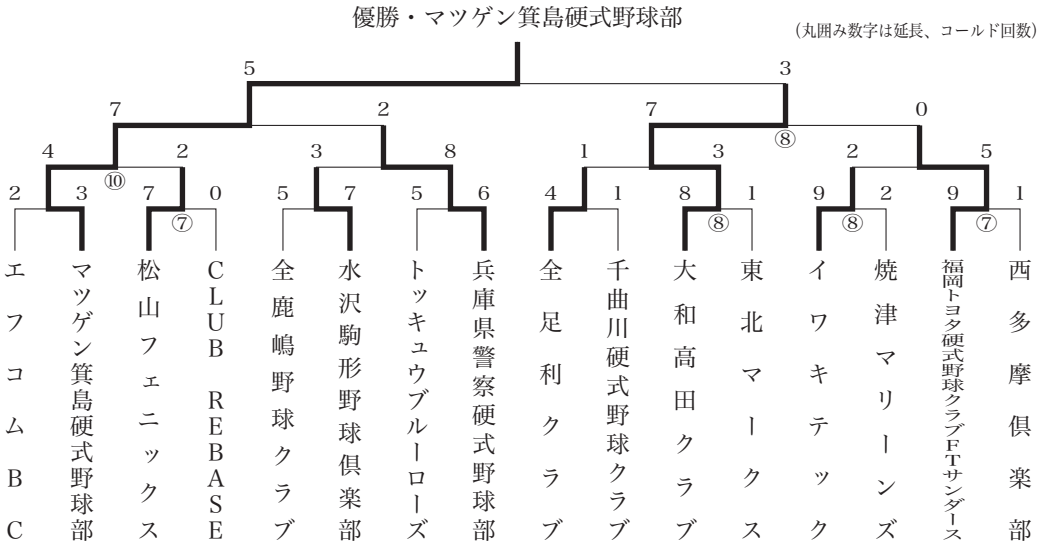
▽本塁打　犬飼（増木）
▽三塁打　今藤崎、三藤
▽二塁打　時間
▽暴投　2
▽田井里分

第49回全日本クラブ野球選手権大会
優勝チーム登録メンバー

マツゲン箕島硬式野球部

部長		桑原　太郎	45	耐久高				
監督	㊽	西川　忠宏	64	箕島高		178・88	右・右
投手	⑪	坂本　龍平	25	朝日大		174・74	右・右
	⑫	山元　魁人	24	太成学院大		175・75	右・左
	⑬	服部　遼馬	24	神戸学院大		172・75	左・左
	⑭	奥田　貫太	24	花園大		173・75	右・右
	⑮	川畑　大地	24	日本体育大		174・69	右・右
	⑯	橋本　昇樹	23	大阪商業大		178・77	左・左
	⑰	松村　亮汰	23	日本大		183・85	右・右
	⑱	森　悠祐	25	大阪商業大		177・77	右・右
	⑲	石原滉太郎	23	龍谷大		184・89	右・右
	⑳	後藤　丈海	24	東海大		170・76	右・右
	㉑	近藤　陽樹	23	和歌山大		174・78	左・左
	㉒	上羽　哲平	23	日本体育大		176・86	右・左
	㉓	石橋　武孝	23	大阪工業大		178・76	右・右
	㉔	中村　太星	20	履正社高		178・71	右・右
	㉕	乾　陽太	22	大阪商業大		177・72	右・左
	㉖	中田　惟斗	24	大阪桐蔭高		182・98	右・右
捕手	㉗	櫻井　仁生	24	日本体育大		173・80	右・右
	㉚	林　翔	20	佐賀学園高		167・72	右・右
	㉞	湯浅　公貴	24	びわこ成蹊スポーツ大		182・94	右・右
	㊲	宮崎　航大	24	神戸国際大		170・78	右・右
	㊹	木村　海	18	尼崎工業高		170・82	右・右
内野手	③	藤田　希和	24	名城大		178・81	右・左
	⑥	中谷　駿介	23	関西外国語大		170・70	右・左
	⑦	吉村　拓貢	22	和歌山大		180・77	右・右
	⑧	竹中　夢翔	24	専修大		176・84	右・左
	㉝	杉浦　玲吏	24	関西国際大		173・79	右・右
	㊴	山本　夕陽	24	神戸学院大		184・84	右・右
	㊺	白瀧　恵汰	25	立命館大		174・93	右・左
外野手	⓪	松田　陸斗	23	阪南大		175・76	右・左
	①	里　飛鳥	23	東洋大		186・90	右・右
	⑨	浅井　颯茉	22	皇學館大		167・70	右・左
	⑩	岡　悠貴	24	和歌山大		183・88	右・右
	㉘	松本　佳高	25	日本体育大		178・83	右・右
	㉙	山城奏太朗	22	阪南大		170・72	右・左
	㉛	冨田　泰生	25	明治大		173・85	右・右
	㉜	島田　愛叶	21	明石商業高		173・69	右・右

◇第49回大会・熱戦の軌跡◇



決勝戦一覧

第１回（昭51年）	全浦和野球団	7―4	全足利クラブ
第２回（〃52年）	全浦和野球団	3―1	山梨クラブ
第３回（〃53年）	全浦和野球団	4―1	全足利クラブ
第４回（〃54年）	山梨球友クラブ	9―4	全防府クラブ
第５回（〃55年）	オール常交	8―5	全足利クラブ
第６回（〃56年）	大和クラブ	11―0	全足利クラブ
第７回（〃57年）	全足利クラブ	10―0	全浦和野球団
第８回（〃58年）	全足利クラブ	3―0	全府中倶楽部
第９回（〃59年）	全府中倶楽部	7―5	全足利クラブ
第10回（〃60年）	全足利クラブ	9―3	オール常交
第11回（〃61年）	全足利クラブ	9―3	函館太洋倶楽部
第12回（〃62年）	全足利クラブ	2―1	函館太洋倶楽部
第13回（〃63年）	五大化学クラブ	7―6	静岡クラブ
第14回（平１年）	全足利クラブ	5―4	一関三星倶楽部
第15回（〃２年）	静岡硬式野球倶楽部	14―8	札幌倶楽部
第16回（〃３年）	天城ベースボールクラブ	8―1	一関三星倶楽部
第17回（〃４年）	一関三星倶楽部	12―4	郡山ベースボールクラブ
第18回（〃５年）	全足利クラブ	10―2	全太田野球倶楽部
第19回（〃６年）	全伊勢崎硬建クラブ	9―8	全太田野球倶楽部
第20回（〃７年）	全足利クラブ	12―6	ウィーンベースボールクラブ
第21回（〃８年）	鹿島レインボーズ	6―2	水沢駒形野球倶楽部
第22回（〃９年）	全足利クラブ	5―3	熊球クラブ
第23回（〃10年）	アムウェイレッドソックス	15―2	全府中野球倶楽部
第24回（〃11年）	WIEN'94	8―5	全伊勢崎硬建クラブ
第25回（〃12年）	全伊勢崎硬建クラブ	9―2	大和高田クラブ
第26回（〃13年）	大和高田クラブ	2―0	水沢駒形野球倶楽部
第27回（〃14年）	大和高田クラブ	12―9	全足利クラブ
第28回（〃15年）	札幌ホーネッツ	8―3	静岡硬式野球倶楽部
第29回（〃16年）	全足利クラブ	6―5	大和高田クラブ
第30回（〃17年）	ＮＯＭＯベースボールクラブ	8―1	大和高田クラブ
第31回（〃18年）	和歌山箕島球友会	7―6	大和高田クラブ
第32回（〃19年）	茨城ゴールデンゴールズ	4―0	ＮＯＭＯベースボールクラブ
第33回（〃20年）	茨城ゴールデンゴールズ	9―5	大和高田クラブ
第34回（〃21年）	トータル阪神	3―0	松山フェニックス
第35回（〃22年）	所沢グリーンベースボールクラブ	5―1	大和高田クラブ
第36回（〃23年）	大和高田クラブ	10―9	新日鐵大分ベースボールクラブ
第37回（〃24年）	滋賀・高島ベースボールクラブ	2―1	和歌山箕島球友会
第38回（〃25年）	和歌山箕島球友会	2―0	ミキハウスＲＥＤＳ
第39回（〃26年）	茨城ゴールデンゴールズ	8―7	松山フェニックス
第40回（〃27年）	和歌山箕島球友会	7―2	茨城ゴールデンゴールズ
第41回（〃28年）	ビッグ開発ベースボールクラブ	2―1	千曲川硬式野球クラブ
第42回（〃29年）	和歌山箕島球友会	3―2	大和高田クラブ
第43回（〃30年）	大和高田クラブ	9―7	和歌山箕島球友会
第44回（令１年）	マツゲン箕島硬式野球部	7―0	ＯＢＣ高島
第45回（〃３年）	全足利クラブ	3―2	千曲川硬式野球クラブ
第46回（〃４年）	大和高田クラブ	8―7	全足利クラブ
第47回（〃５年）	ショウワコーポレーション	6―3	矢場とんブースターズ
第48回（〃６年）	マツゲン箕島硬式野球部	9―1	エフコムＢＣ
第49回（〃７年）	マツゲン箕島硬式野球部	5―3	大和高田クラブ

※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため中止

全足利クラブ最多出場40回
トッキュウブルーローズら4チーム初出場

全日本クラブ選手権予選

第49回全日本クラブ選手権の予選は全国9地区で行われ、15チームが出場権を獲得した。本大会は愛媛・坊っちゃんスタジアムで開かれ、新設された開催地枠で創部1年目のイワキテックが出場し、全16チームで日本一を争った。

最多出場は3大会ぶりとなる全足利クラブ（栃木）の40回で、水沢駒形倶楽部（岩手）の26回が続く。前回優勝のマツゲン箕島（和歌山）、準優勝のエフコムBC（福島）も順当に出場を決めた。

初出場はトッキュウブルーローズ（北海道）、CLUB REBASE（東京）、イワキテック、福岡トヨタFTサンダース（福岡）の4チーム。西多摩倶楽部（東京）と全鹿嶋倶楽部（茨城）は18大会ぶりのうれしい本大会挑戦となった。

トッキュウブルーローズ初出場

北海道

（代表1＝前回は札幌ホーネッツ）

▽1回戦
WEEDしらおい5―4東北海道サンライズ
TRANSYS14―5伊達ウォリアーズ
トッキュウブルーローズ7―6Feather Home HORNETS
北海ブルーウェーブ2―0オール苫小牧
帯広倶楽部VICROSS5―4札幌倶楽部
小樽野球協会8―5江別ブルーインズ
旭川グレート・ベアーズ5―2函館大洋倶楽部
ウイン北広島29―2プレーブくしろ

▽準々決勝
トッキュウブルーローズ11―2北海ブルーウェーブ
小樽野球協会8―1帯広倶楽部VICROSS
WEEDしらおい9―0TRANSYS
ウイン北広島9―0旭川グレート・ベアーズ

（W）宮脇、井出、太田―吉田
（ト）大洞、望月、西田、原田―中川、西村

（トッキュウブルーローズは初出場）

▽決勝
WEEDしらおい　012　120　000　6
トッキュウブルーローズ　000　000　403　7

▽準決勝
トッキュウブルーローズ5―4小樽野球協会
WEEDしらおい2―1ウイン北広島

エフコムBC2大会連続8回目
水沢駒形野球倶楽部3大会連続26回目
東北マークス5大会連続14回目

東北

（代表3＝前回は4で弘前アレッズ、エフコムBC、東北マークス、水沢駒形野球倶楽部）

◇**青森**◇

▽リーグ戦
弘前アレッズ11―0キングブリザード
キングブリザード13―2全弘前倶楽部
弘前アレッズ9―0全弘前倶楽部

（弘前アレッズは2次予選へ）

◇**秋田**◇

▽1回戦
秋田GLANZ11―4互大設備ダイヤモンドクラブ
能代松陵クラブ11―3秋田ベースボールクラブ
大曲ベースボールクラブ3―2秋田王冠クラブ

▽準決勝
能代松陵クラブ8―0秋田GLANZ
ゴールデンリバース11―1大曲ベースボールクラブ

▽
ゴールデンリバース12―5能代松陵クラブ

（ゴールデンリバースは2次予選へ）

◇**岩手**◇

▽1回戦
黒陵クラブ15―5宮古倶楽部
高田クラブ11―3北上REDS
花巻硬友倶楽部14―7滝沢スイカーズ

▽2回戦
水沢駒形野球倶楽部11―4一関ベースボールクラブ
一戸桜陵クラブ11―3黒陵クラブ
盛岡球友倶楽部6―5赤崎野球クラブ
盛友クラブ9―8高田クラブ
住田硬式野球クラブ10―2MKSIBC
久慈クラブ23―6花巻硬友倶楽部
釜石野球団11―3遠野クラブ
オール江刺16―4雫石クラブ

▽準々決勝
釜石野球団5―2オール江刺
水沢駒形野球倶楽部19―1一戸桜陵クラブ
盛岡球友倶楽部9―8盛友クラブ
久慈クラブ12―2住田硬式野球クラブ

▽準決勝
水沢駒形野球倶楽部9―4盛岡球友倶楽部
釜石野球団5―4久慈クラブ

▽第3代表決定戦
久慈クラブ6―4盛岡球友倶楽部

（水沢駒形野球倶楽部、釜石野球団、久慈クラブは2次予選へ）

▽決勝
水沢駒形野球倶楽部6―0釜石野球団

◇**山形**◇

▽1回戦
片山商会BC12―8鶴岡野球クラブ
Bnet山形10―0新庄球友クラブ

▽決勝
片山商会BC6―5Bnet山形

（片山商会BCは2次予選へ）

◇**宮城**◇

▽1回戦
大崎トリプルクラウン11―5スターダスト
TFUクラブ14―0石巻日和倶楽部
青葉クラブ12―2ハクサン

▽準決勝
大崎トリプルクラウン11―4TFUクラブ
東北マークス11―1青葉クラブ

▽決勝
東北マークス6―0大崎トリプルクラウン

（東北マークスは2次予選へ）

◇**福島**◇

▽1回戦
エフコムBC12―0全白河クラブ
ALL北嶺12―1小峰クラブ
オールいわき2―1FKC
いわき菊田クラブ6―5郡山クラブ

▽準決勝
エフコムBC8―1ALL北嶺
オールいわきクラブ23―4いわき菊田クラブ

▽決勝
エフコムBC17―4オールいわきクラブ

▽第3代表決定戦
ALL北嶺9―8いわき菊田クラブ

（エフコムBC、オールいわきクラブ、ALL北嶺は第2次予選へ）

○…2次…○

▽1回戦
オールいわきクラブ3―2久慈クラブ
釜石野球団7―1ALL北嶺

▽準々決勝
水沢駒形野球倶楽部19―0ゴールデンリバース
オールいわきクラブ10―3片山商会BC
東北マークス10―8弘前アレッズ
エフコムBC18―4釜石野球団

▽準決勝
水沢駒形野球倶楽部　000　000　310　4
オールいわきクラブ　000　000　100　1

オールいわきクラブ（水）阿世知―松岡

（オ）国分、渡辺玲、高木―奈良田、大西
東北マークス
100 010 0 2
112 007 × 11
エフコムBC
（七回コールド）
（東）楠本、加賀谷、佐藤隆、細川―久慈
（エ）山形、渡辺拓―大川
（水沢駒形野球倶楽部は3大会連続26回目、エフコムBCは2大会連続8回目）
▽敗者復活1回戦
ゴールデンリバース14―5片山商会BC
弘前アレッズ4―1釜石野球団
▽決勝
エフコムBC
010 180 0 10
000 000 0 0
水沢駒形野球倶楽部

千曲川硬式野球クラブ6大会連続10回目

北信越

（代表1＝前回は千曲川硬式野球クラブ）
○…1次…○
◇長野◇
▽リーグ戦
長野好球倶楽部3―2佐久コスモスターズ
上田倶楽部11―8佐久コスモスターズ
上田倶楽部17―0長野好球倶楽部
（上田倶楽部、長野好球倶楽部と推薦の千曲川硬式野球クラブは2次予選へ）
◇新潟◇
▽1回戦
全新潟ブラックス10―5新潟クラブ野球団
野田サンダーズ7―0佐渡軍団
オール飯豊8―6五泉クラブ
▽準決勝
新潟コンマーシャル倶楽部9―2全新潟ブラックス
野田サンダーズ14―0オール飯豊
▽第3代表決定戦
全新潟ブラックス11―3オール飯豊
▽決勝
野田サンダーズ4―2新潟コンマーシャル倶楽部
（野田サンダーズ、新潟コンマーシャル倶楽部、全新潟ブラックスは2次予選へ）
◇富山・石川◇
HardBall Club金沢8―1富山ベースボールクラブ
（両チームとも2次予選へ）
○…2次…○
▽1回戦
千曲川硬式野球クラブ16―0富山ベースボールクラブ
HardBall Club金沢4―3新潟コンマーシャル倶楽部
野田サンダーズ10―0長野好球倶楽部
上田硬式野球倶楽部7―2全新潟ブラックス

CLUB REBASE初出場
西多摩倶楽部18大会ぶり2回目
全足利クラブ3大会ぶり40回目
全鹿嶋倶楽部18大会ぶり2回目

関東

（代表4＝前回は横浜金港クラブ、全府中野球倶楽部、川口ゴールデンドリームス、ハナマウイ）
○…1次…○
◇群馬◇
※県春季大会でクラブの上位二つに入った太田球友硬式野球倶楽部と太田暁工業硬式野球倶楽部が2次予選へ
◇栃木◇
▽1回戦
全足利クラブ15―0全那北クラブ
コットンウェイ倶楽部7―0TSK宇都宮
鹿沼 39 6―2全栃木クラブ
宇都宮大学OBクラブ5―0UKクラブ
▽準決勝
千曲川硬式野球クラブ12―0HardBall Club金沢
上田硬式野球倶楽部4―3野田サンダーズ
▽代表決定戦
千曲川硬式野球クラブ
100 102 020 6
000 000 001 1
上田硬式野球倶楽部
（千）三石、本多、井崎―永田皓、黒沢
（上）千葉、宮入、宇多村―坂口
▽本塁打　及川（千）、小林令（上）
（千曲川硬式野球クラブは6大会連続10回目）
▽準決勝
全足利クラブ11―0コットンウェイ倶楽部
鹿沼 39 8―1宇都宮大学OBクラブ
▽決勝
全足利クラブ11―0鹿沼 39
（全足利クラブと鹿沼39は2次予選へ）
◇茨城◇
▽1回戦
鹿島レインボーズ7―0大宮クラブ
▽2回戦
AgainBC13―0全神栖クラブ
全鹿嶋倶楽部13―2全水戸クラブ
オール日立7―4TSUKUBACクラブ
茨城ゴールデンゴールズ5―3鹿島レインボーズ
▽準決勝
茨城ゴールデンゴールズ5―1AgainBC
全鹿嶋倶楽部7―0オール日立ドリームス
▽決勝
全鹿嶋倶楽部11―9茨城ゴールデンゴールズ
（全鹿嶋倶楽部と茨城ゴールデンゴールズは2次予選へ）
◇埼玉◇
▽1回戦
HOZENnit7―2所沢グリーンクラブ
都幾川倶楽部9―5飛行ZEROクラブ
INVENTIVE Newwave3―2全大宮野球団
レジェンズ4―3全浦和野球団
▽2回戦
INVENTIVE Newwave8―2熟おおぞら野球団
新座ダイアモンドドッグス5―0レジェンズ
川口ゴールデンドリームス7―4HOZENnit
都幾川倶楽部25―13全三郷硬式野球部
▽準決勝
川口ゴールデンドリームス8―7都幾川倶楽部
INVENTIVE Newwave10―1新座ダイアモンドドッグス
▽決勝
川口ゴールデンドリームス5―4INVENTIVE Newwave
（川口ゴールデンドリームスとINVENTIVE Newwaveは2次予選へ）
◇千葉◇
▽1回戦
YBC柏8―1ヌーベルベースボールクラブ
八千代Ag eクラブ10―0Oceans
サウザンリーフ市原4―3千葉熱血GM
ハナマウイ11―5NBSGW印西
▽準決勝
YBC柏10―5八千代Agクラブ
ハナマウイ5―4サウザンリーフ市原
▽決勝
ハナマウイ1―0YBC柏
（ハナマウイとYBC柏は2次予選へ）
◇東京◇
▽1回戦
エスプライド16―0東京好球倶楽部
全府中野球倶楽部9―0全調布硬式野球倶楽部
西多摩倶楽部12―2夕凪SOBLUE
HogreiBC6―0武蔵野クラブ
REVENGE995―3東京弥生クラブ
MTOKYO9―2Nbuy
▽準々決勝
CLUB REBASE10―3THINKフィットネス・GOLD'S GYM BC
全府中倶楽部12―1エスプライド
西多摩倶楽部7―3HogreiBC
REVENGE995―1MTOKYO METS

▽準決勝
CLUBR EBASE 1―0府中野球倶楽部
西多摩倶楽部9―1REVENGE99
▽決勝
西多摩倶楽部11―4CLUBR EBASE
（西多摩倶楽部とREBASEは2次予選へ）
◇神奈川◇
※都市対抗1次予選を兼ね
横浜金港クラブと全川崎クラブが2次予選へ
◇山梨◇
▽1回戦
Arts International Club 7―1TSUKUMO BASEBALL CLUB
南アルプス硬式野球倶楽部 7―3桂倶楽部
▽準決勝
甲斐府中クラブ 9―4Arts International Club
南アルプス硬式野球倶楽部 3―2山梨球友クラブ
▽決勝
甲斐府中クラブ 8―1南アルプス硬式野球倶楽部
（甲斐府中クラブと南アルプス硬式野球倶楽部は2次予選へ）
○…2次…○
▽1回戦
CLUBR EBASE 8―0全川崎クラブ
川口ゴールデンドリームス 5―4南アルプス硬式野球倶楽部
西多摩倶楽部19―12茨城ゴールデンゴールズ
鹿沼 39 10―8甲斐府中クラブ
ハナマウイ5―1横浜金港クラブ
全足利クラブ8―0太田球友硬式野球倶楽部
YBC柏6―0太田暁工業硬式野球クラブ
全鹿嶋野球倶楽部7―3ENVENTIV ENewave
▽代表決定戦
CLUB REBASE
200 310 3 9
200 000 0 2
川口ゴールデンドリームス
（七回コールド）
（C）山崎、中嶋―船木
（川）及川、山下、橋井、須藤、山本―小澤
（CLUB REBASEは初出場）
鹿沼39
100 000 000 1
020 020 10× 5
西多摩倶楽部
（鹿）齋藤、二瓶―田口
（西）山下―楠木
▽本塁打　片居木（西）
（西多摩倶楽部は18大会ぶり2回目）

全足利クラブ
520 000 034 14
000 305 001 9
ハナマウイ
（全）齋藤、岩崎海、佐藤―立石、岩崎昂
（ハ）和田、舟久保、常世田、磯野、小栗、田中―鏑木、柳原
▽本塁打　北間（全）
（全足利クラブは3大会ぶり40回目）
全鹿嶋野球倶楽部
000 000 015 6
000 110 020 4
YBC柏
（全）川畑、佐藤―田島
（Y）遠藤、野口―相茶、野田
▽本塁打　伊井（Y）
（全鹿嶋野球倶楽部は18大会ぶり2回目）

焼津マリーンズ2大会連続2回目

東海
（代表1＝前回は焼津マリーンズ）
○…1次…○
◇静岡◇
▽リーグ戦
▽Aブロック
焼津マリーンズ10―0富士クラブ
富士クラブBC4―2浜松ケイ・スポーツBC
焼津マリーンズ10―2浜松ケイ・スポーツBC
▽Bブロック
静岡硬式野球倶楽部 1―0山岸ジスターズ
山岸ジスターズ4―2ヤマハ発動機
静岡硬式野球倶楽部 7―2ヤマハ発動機
▽決勝
焼津マリーンズ4―0静岡硬式野球倶楽部
▽3位決定戦
富士クラブ5―2山岸ジスターズ
（焼津マリーンズ、静岡硬式野球倶楽部、富士クラブは2次予選へ）
◇愛知◇
▽1回戦
BASEBALL ONE BLITZ 2―0Fast Style 名古屋
寿々硬式野球クラブ 6―0愛知ベースボール倶楽部
▽2次進出決定戦
BASEBALL ONE BLITZ 10―6矢場とんプレスターズ
ジェイグループ4―3寿々硬式野球クラブ
寿々硬式野球クラブ 7―6矢場とんプレスターズ
（BASEBALL ONE BLITZ、ジェイグループ、寿々硬式野球クラブは2次予選へ）
◇岐阜・三重◇
▽1回戦
岐阜硬式野球倶楽部 4―0奥伊勢クラブ
三重高虎B・C 9―7日本プロスポーツ専門学校
（岐阜硬式野球倶楽部と三重高虎B・Cは2次予選へ）

大和高田クラブ11大会連続23回目
マツゲン箕島3大会連続13回目
県警桃太郎4大会ぶり3回目

近畿
（東近畿・代表1＝前回は大和高田クラブ／西近畿・代表2＝前回は1でマツゲン箕島硬式野球部）
【東近畿】
○…2次予選…○
▽1回戦
静岡硬式野球倶楽部 11―3富士クラブ
BASEBALL ONE BLITZ 8―0岐阜硬式野球倶楽部
焼津マリーンズ4―3三重高虎B・C
寿々硬式野球クラブ 7―4ジェイグループ
▽準決勝
BASEBALL ONE BLITZ 4―3静岡硬式野球倶楽部
焼津マリーンズ5―4寿々硬式野球クラブ
▽決勝
BASEBALL ONE BLITZ
100 001 110 4
201 310 01× 8
焼津マリーンズ
（B）田口、小坂、原田、上村―中村
（焼）池田、嶋村、沢田、石田、柳下、山本―戸崎
（焼津マリーンズは2大会連続2回目）
○…1次…○
◇滋賀◇
▽1回戦
ルネス紅葉アカデミークラブ 17―7瀬田クラブ
▽準決勝
OBC高島14―0ルネス紅葉アカデミークラブ
全大津野球団22―10湖南クラブ
▽決勝
OBC高島12―0全大津野球団
▽3位決定戦
ルネス紅葉アカデミークラブ 10―7湖南クラブ
（OBC高島は2次予選へ）
◇京都◇
▽1回戦
DBグラッズ 14―6BBBACKS
山城ベースボールクラブ 7―2京都ジャスティス
三菱自動車京都ダイヤフェニックス 8―1京都城陽ファイアーバーズ
▽準決勝
三菱自動車京都ダイヤフェニックス 9―0山城ベースボールクラブ
DBグラッズ2―1京都フルカウンツ
▽決勝
三菱自動車京都ダイヤフェニックス 10―0DBグラッズ
（三菱自動車京都ダイヤフェニックスは2次予選へ）
◇奈良◇
▽1回戦
NineF 11―4一城クラブ
NARA Ambitions club 12―2関西HANG団
奈良Jメンテナンスクラブ 10―3奈良FriendBC
GXAジェッツ10―1豪outOBクラブ
▽2回戦
NARA Ambitions club 13―3NineF
奈良Jメンテナンスクラブ 9―2GXAジェッツ
▽準決勝
奈良Jメンテナンスクラブ 5―4NARA Ambitions club
▽代表決定戦
大和高田クラブ10―3奈良Jメンテナンスクラブ
（大和高田クラブは2次予選へ）

○…2次…○

▽リーグ戦

OBC高島　0 0 0　0 0 0　0
大和高田クラブ　0 0 4　1 2 2　×　9

（七回コールド）

（O）井上、山崎、酒井―金山
（大）大森、溝尾―深尾、安岡

▽本塁打　犬飼（大）

OBC高島　0 0 2　0 0 0　0 1 1　4
三菱自動車京都ダイヤフェニックス　0 0 0　0 3 0　0 2×　5

（七回コールド）

（O）橋本―金山
（三）安井、吉原、西田―八鍬

▽本塁打　長岡（三）

大和高田ク　0 0 1　0 0 7　6　14
三菱自動車京都ダイヤフェニックス　0 0 2　0 0 0　0　2

（七回コールド）

（大）西―深尾、安岡
（三）小野、猿渡、安井、吉原、金重、西田―八鍬

▽本塁打　井上、山本、犬飼（大）

（大和高田クラブは11大会連続23回目）

【西近畿】

○…1次…○

◇**大阪・和歌山**◇

▽1回戦

NSBクラブ7―6大阪ウイングクラブ
大阪ホークスドリーム9―8泉州大阪野球団
履正社クラブ14―7関西クラブ

▽準決勝

NSBクラブ6―3大阪ホークスドリーム
NSBクラブ5―3BASEBALLONE YAO!BC
（NSBクラブは2次予選へ）
BASEBALLONE YAO・BC4―0履正社クラブ

▽決勝

BASEBALLONE YAO・BC7―6履正社クラブ
（BASEBALL ONE YAO・BCは2次予選へ）

◇**兵庫**◇

▽1回戦

JRSレールスターズ6―3KC兵庫
NOMOクラブ3―1金次郎・関西

▽準決勝

県警桃太郎15―0JRSレールスターズ
NOMOクラブ6―0ジェイエフエフシステムズ

▽敗者復活1回戦

ジェイエフエフシステムズ15―2KC兵庫
金次郎・関西14―0JRSレールスターズ

▽第1代表決定戦

NOMOクラブ6―3県警桃太郎
（NOMOクラブは2次予選へ）

▽敗者復活2回戦

金次郎・関西9―1ジェイエフエフシステムズ

▽第2代表決定戦

県警桃太郎8―2金次郎・関西
（県警桃太郎は2次予選へ）

○…2次…○

▽1回戦

県警桃太郎8―1BASEBALLONE YAO!BC

▽準決勝

NOMOクラブ8―2NSBクラブ
マツゲン箕島5―0県警桃太郎

▽代表決定戦

マツゲン箕島　0 0 0　4 0 0　2 0 1　7
NOMOクラブ　0 0 0　0 0 0　0 0 0　0

松山フェニックス2大会連続8回目

中国・四国

（代表1＝前回は2でショウワコーポレーションと松山フェニックス）

○…1次…○

◇**中国**◇

▽1回戦

倉敷ピーチジャックス8―1広島鯉城クラブ
三和テクノイノベーション8―2岩国五橋クラブ
福山ローズファイターズ3―2三原ヤッサクラブ
MS医療専門学校12―8広島クラブ
山口防府クラブ4―3MJG島根

（マ）川畑、松村、中田、坂本―湯浅、桜井
（N）中田―坪井

（マツゲン箕島は3大会連続13回目）

▽敗者復活1回戦

県警桃太郎4―1NSBクラブ

▽敗者復活代表決定戦

NOMOクラブ　0 0 0　0 0 0　0
県警桃太郎　2 0 2　0 0 0　0 0×　4

（N）工藤―坪井
（県）蓑茂―江端

（県警桃太郎は4大会ぶり3回目）

▽代表決定戦

福山ローズファイターズ6―2MS医療専門学校
山口防府クラブ11―2倉敷ピーチジャックス
ショウワコーポレーション12―1三和テクノイノベーション

（福山ローズファイターズ、山口防府クラブ、ショウワコーポレーションは2次予選へ）

◇**四国**◇

※都市対抗1次と兼ね、松山フェニックスが2次予選へ

○…2次…○

▽1回戦

福山ローズファイターズ7―1ショウワコーポレーション
松山フェニックス7―3山口防府クラブ

▽決勝

福山ローズファイターズ　0 0 0　0 0 0　1 0 0　1
松山フェニックス　0 0 1　0 3 2　0 0×　6

福岡トヨタFTサンダース初

九州

（代表1＝前回はSNアームズベースボールクラブ）

○…1次…○

◇**福岡**◇

▽1回戦

GENESIS FUKUOKA6―3福岡BC
福岡トヨタFTサンダース8―7ARC九州
REXパワーズ2―0嘉麻市バーニングヒーローズ

▽代表決定戦

北九州市民硬式クラブ5―4GENESIS FUKUOKA
福岡トヨタFTサンダース6―5REXパワーズ

（北九州市民硬式クラブと福岡トヨタFTサンダースは2次予選へ）

◇**中九州**◇

▽1回戦

BEZEL sports academy3―2ビクトリークロウBAN BASEBALL CLUB不戦勝SUNホールディングス長崎

▽代表決定戦

佐賀魂4―1BEZEL sports academy
九州工科自動車専門学校8―0BAN BASEBALL CLUB

（福）山田、高柳、浜崎、末道、白井―吉田、山根
（松）田中、大槻―塩見

（松山フェニックスは2大会9連続8回目）

▽総当たりリーグ戦

宮崎福祉医療カレッジ8―1薩摩ライジング
鹿児島ドリームウェーブ11―4薩摩ライジング
鹿児島ドリームウェーブ2―1宮崎福祉医療カレッジ

（鹿児島ドリームウェーブと宮崎福祉医療カレッジは2次予選へ）

◇**沖縄**◇

▽代表決定戦

SNアームズBC4―1てるクリニックビッグ開発BC9―0クリード安仁屋

（SNアームズBCとビッグ開発BCは2次予選へ）

○…2次…○

ビッグ開発BC12―3北九州市民硬式クラブ
福岡トヨタFTサンダース6―0SNアームズBC
宮崎福祉医療カレッジ8―3佐賀魂
鹿児島ドリームウェーブ17―5九州工科自動車専門学校

▽準決勝
ビッグ開発ＢＣ８―１宮崎福祉医療カレッジ
福岡トヨタＦＴサンダース８―５鹿児島ドリームウェーブ
▽代表決定戦
ビッグ開発ＢＣ　000 000 200　2
福岡トヨタＦＴサンダース　010 002 10×　4
（ビ）護得久、国吉、宮城―玉城、比嘉羽
（福）増木、生田―三原
（福岡トヨタＦＴサンダースは初出場）

◇第49回全日本クラブ野球選手権大会・出場チーム◇

代表地区	都道府県	チーム名	出場回数
北海道	北海道	トッキュウブルーローズ	（初出場）
東北	福島	エフコムＢＣ	（２大会連続８回目）
	岩手	水沢駒形野球倶楽部	（３大会連続26回目）
	宮城	東北マークス	（５大会連続14回目）
北信越	長野	千曲川クラブ	（６大会連続10回目）
関東	東京	ＣＬＵＢ　ＲＥＢＡＳＥ	（初出場）
		西多摩倶楽部	（18大会ぶり２回目）
	栃木	全足利クラブ	（３大会ぶり40回目）
	茨城	全鹿嶋倶楽部	（18大会ぶり２回目）
東海	静岡	焼津マリーンズ	（２大会連続２回目）
東近畿	奈良	大和高田クラブ	（11大会連続23回目）
西近畿	和歌山	マツゲン箕島	（３大会連続13回目）
	兵庫	兵庫県警桃太郎	（４大会ぶり３回目）
中国・四国	愛媛	松山フェニックス	（２大会連続８回目）
開催地区	愛媛	イワキテック	（初出場）
九州	福岡	福岡トヨタＦＴサンダース	（初出場）

鷺宮製作所が初優勝

第79回　JABA東京スポニチ大会



JABAスポニチ大会で優勝し喜ぶ鷺宮製作所の選手たち

2試合連続サヨナラ勝ちで初の栄冠
MVPは救援で3勝の中島

社会人野球2025年シーズンの幕開けとなる第79回JABA東京スポニチ大会は3月8日から11日までの4日間、神宮球場、等々力球場、横浜スタジアム、大田スタジアムで行われ、鷺宮製作所が大阪ガスを決勝で破り、初優勝を果たした。

大会は16チームを4ブロックに分けて予選リーグを行い、各組1位が決勝トーナメントに進出。準決勝では大阪ガスがNTT西日本、鷺宮製作所がJFE東日本をそれぞれ降して決勝に進んだ。決勝では鷺宮製作所の4番野村が同点の九回、サヨナラ3ランを放つ、劇的な幕切れとなった。鷺宮製作所は準決勝、決勝と2試合連続サヨナラ勝ちの快挙を演じた。

最高殊勲選手には鷺宮製作所の中島隼也投手、敢闘賞には大阪ガスの大宮隆寛投手が選ばれた。

予選リーグのブロック分けは次の通り。なお、Bブロックの日本製鉄かずさマジックが出場を辞退したため、他の3チームと同チームとの対戦は、すべて不戦勝（1―0）とした。

【A】ENEOS、鷺宮製作所、JR西日本、ホンダ鈴鹿

【B】日本製鉄かずさマジック、ホンダ、大阪ガス、東邦ガス

【C】茨城トヨペット、JR東日本、トヨタ自動車東日本、NTT西日本

【D】セガサミー、JFE東日本、三菱自動車岡崎、ホンダ熊本

◇**第1日**（3月8日）
（予選リーグ）
○…神宮球場…○

ENEOS長打攻勢
投手陣も反撃許さず

▽Aブロック
ENEOS（1勝）
010 002 310 7
001 001 000 2
JR西日本（1敗）

ENEOSは六回に村上の2点本塁打で勝ち越すと、七回には2死満塁から篠原が走者一掃の三塁打を放ち、突き放した。JR西日本は六回、田村のソロ本塁打で追い上げを見せたものの、相手3投手の前に2安打に終わった。

ミスを逃さない鷺宮
3投手継投で逃げ切る

ホンダ鈴鹿（1敗）
001 102 000 4
400 000 10× 5
鷺宮製作所（1勝）

鷺宮製作所は一回、相手失策に乗じて犠飛を挟み4連打で大量リードを奪い、七回にも四死球を足場に確実に加点した。ホンダ鈴鹿は長野、田

		点	安	打									
ENEOS		0	1	0	0	2	0	0	3	0	1	0	0
⑥	松山	1	2	1	0	2	2	0	1	0	1	0	0
⑤	川丸	5	3	5	4	3	2	1	1	0	1	0	0
④	村片	3	5	4	3	2	1	1	3	1	4	1	3
③	篠姫	0	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1
⑨	濱与	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D	有植												
R	飯												
H		2	2	2	1	3	2	1	7	1	3	1	4
⑦	浦												
H	田口												
②	山上												
H	山原												
⑧	木渡												
	倉馬												
	田山												
計		11	7	36									

		点	安	打									
JR西日本		2	2	2	6	3	1	0	5	2	2	0	0
③	田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥	杉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧	大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤	土	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨	戸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦	岡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	植	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D	西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②	加	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H	西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	安	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④	佐	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H	本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	櫻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		2	2	26									

		併	残	失	盗	犠	球	振	
E		0	0	1	1	0	7	6	
J		1	2	0	1	2	3	6	
責	2	0	0	3	4	0			
安	2	0	0	7	4	0			
回	6	2	1	5	⅔	⅓	⅔	1	
手	部	藤	田	村	畑	瀬	ノ		
投	阿	加	飯	花	大	一			

上（阿部）、片田、村打（花村）、山間打、田墨打、時墨山、2三墨村）▽二飯▽本▽（西原山）

野の本塁打などで粘りを見せたが、終盤は鷺宮の3番手、中島に抑えられた。

高本が5打点の活躍 セガサミーが大量点

▽Dブロック

セガサミー（1勝）

000	000	028		10
000	000	100		1

三菱自動車岡崎（1敗）

セガサミーは八回、代打高本の2点適時打で逆転すると、九回にも高本が走者一掃の二塁打を放つなど、終盤に大量点を挙げ、勝負を決めた。三菱自動車岡崎は七回に先制点を奪ったものの、継投に失敗した。

○…等々力球場…○

トヨタ東の中里完投 大谷監督へ初勝利贈る

▽Cブロック

茨城トヨペット（1敗）

000	000	001		1
002	000	01×		3

トヨタ自動車東日本（1勝）

トヨタ自動車東日本は三回、瀬戸の二塁打で2点を先制。その後は抑えられていたが、八回に佐々木一の適時打で突き放した。今季から指揮を執る大谷監督が、初陣で初勝利を挙げた。茨城トヨペットはチャンスに一押しがなかった。

NTT西投手陣好投 3安打のみに抑える

NTT西日本（1勝）

000	120	000		3
000	000	100		1

JR東日本（1敗）

NTT西日本は四回に藤井の二塁打で先制すると、続く五回には水島の適時打などで2点を追加。先発の松井以下3投手の継投で逃げ切った。JR東日本は七回、高橋の本塁打でようやく1点を返したが、計3安打に抑えられた。

○…横浜スタジアム…○

▽Bブロック

大阪ガス（1勝）

不戦勝

日本製鉄かずさマジック（1敗）

ホンダ機動力光る 重圧かけて適時打

東邦ガス（1敗）

000	030	000		3
000	123	00×		6

ホンダ（1勝）

ホンダは五回2死満塁から藤野の二塁打で追いつき、六回にも辻野の二塁打などで3点を勝ち越した。1、2番打者で計5盗塁と機動力で揺さぶった。東邦ガスは先制したものの、六回以降、1安打に抑えられた。

JFE東が集中打 ホンダ熊本届かず

▽Dブロック

ホンダ熊本（1敗）

000	401	000		5
060	000	00×		6

JFE東日本（1勝）

JFE東日本は二回、四死球などでつかんだチャンスに、3番猪田以下、主軸の3連続適時打などで6点を先制。その後はホンダ熊本の2番手、島袋を崩せなかったが、救援陣の好投

Honda鈴鹿

	打	安	点
⑧ 長野	4	2	2
⑥ 中川	4	1	0
④ 藤江	5	0	0
③ 伊藤	4	0	0
R3 栗原	0	4	0
⑦ 田野	4	2	1
D 近藤	3	1	0
DR 堀内	4	0	0
⑨ 岡野	4	0	0
② 長	4	2	1
⑤ 貞光	3	1	0
R 西山	3	0	1
5 阿部	1	0	0
計	36	9	4

鷺宮製作所

	打	安	点
⑦ 藪井	5	1	0
⑥ 島野	3	1	0
6 谷	0	0	0
④ 中島	5	1	1
⑨ 野木	3	1	1
D 優村	3	1	1
③ 代木	3	2	0
⑤ 千葉	3	2	1
H5 花崎	3	0	0
② 米田	3	1	0
2 佐藤	4	2	0
⑧ 西浦	4	0	1
村上	3	2	0
計	32	10	5

H	10	6	0	2	1	13	1		
振	球	犠	盗	失	残	併			
鷺	8	5	2	1	0	10	0		

投	手		回		安	責			
川	原		6	⅔	10	4			
岩	井		1	⅓	0	0			
渡	部		4		5	2			
渡	邊		1	⅔	4	2			
中	島	隼	3	⅓	0	0			

▽本塁打 長野（渡部）田野打 野（渡邊）▽二塁打 田野 2時間9分 村▽3時間

▽三塁打 神山 本▽3 二塁打 高 時間50分

セガサミー

	打	安	点
⑨ 高神	5	0	0
⑧ 島山	5	3	2
⑦ 田川	5	2	0
⑤ 黒福	5	3	1
D 宮片	3	3	1
③ 中高	4	1	0
R4 北吉	3	1	0
⑥ 森川	4	0	1
H3 岡川	4	0	0
④ 本川	3	2	0
② 田	4	5	0
計	39	9	9

三菱自動車

	打	安	点
④ 菅原	3	1	0
H 井上	3	1	0
⑧ 中村	3	0	0
H 宮野	1	0	0
③ 古川	4	0	0
D 山下	4	0	0
⑨ 東	2	2	0
H9 木戸	2	1	0
⑦ 茂原	2	1	0
R7 岳田	3	1	0
⑤ 山井	3	0	0
H5 荒藤	3	1	0
② 伊川	2	0	1
H 西斎	2	0	0
⑥ 橋里	2	0	0
H 内藤	1	0	0
6 大見	0	0	0
H 手	0	0	0
計	32	5	1

セ	10	9	0	0	1	11	0		
振	球	犠	盗	失	残	併			
三	14	5	1	0	4	10	0		

投	手		回		安	責			
岩	本	中	5	⅔	1	0			
田	伊	波		⅓	0	0			
長	谷	川		⅓	1	0			
草		海	1	⅔	2	0			
近	藤	木	5		2	0			
鈴	木	川	2		0	0			
清	原	中		⅓	2	2			
神	田		1		3	2			
				⅔	2	0			

茨城トヨペ

	打	安	点
D 高	5	0	0
⑥ 牧	2	0	0
H64 斎藤	2	1	0
⑨ 留	4	0	0
H 比	1	0	0
③ 板谷	3	0	0
⑤ 酒巻	3	1	0
④ 松本	3	0	0
H6 藤	3	2	0
R 伊間	2	1	0
5 所	0	0	0
⑧ 田里	0	0	0
② 藤	1	0	0
H 松	4	2	0
R 杉	2	0	0
7 織	1	1	0
宮	1	0	0
武	0	0	0
大	3	1	0
上	1	0	0
峯	3	1	0
大	0	0	0
近	0	0	0
計	35	7	1

トヨタ東

	打	安	点
⑧ 崎	3	1	0
⑤ 山藤	3	0	2
D 大戸	3	1	0
⑨ 茂本	3	1	0
⑦ 瀬中	3	0	0
④ 植一	2	3	1
② 田木	3	3	0
③ 佐々来	3	2	0
H6 根部	2	0	0
6 渡麗	2	0	0
3 佐々木	2	3	1
夷塚	2	1	0
計	26	4	3

投	手		回		安	責			
鈴	木	本	3		2	0			
山	本		2		0	0			
エース	アン		2		1	1			
中	島		1		1	1			
中	里		9		7	1			

▽二塁打 武藤、瀬尾、木、間 三塁打 峯 鈴木▽2 暴投 アンエース 36分

振	球	犠	盗	失	残	併			
NJ	6 9	3 1	1 0	0 1	5 3	0 1			

投	手		回		安	責			
松	井	遥	6	⅓	3	1			
渡	島	田	2	⅔	0	0			
古	谷	根	4	⅔	4	1			
坂	谷		2	1	1	0			
石	高	上	1	⅔	0	0			
				⅓	0	0			

▽本塁打 打 高橋 墨 暴 打投分 （松井、藤井）▽2 時 二▽井間 24分 酒古

で序盤の大量点を守り切った。

◇**第2日**（3月9日）
（予選リーグ）
○…神宮球場…○

NTT西確実に得点 2投手で零封リレー

▽Cブロック
トヨタ自動車東日本（1勝1敗）
000 000 000 0
010 011 00× 3
NTT西日本（2勝）

NTT西日本は二回、送りバントと犠飛で先制すると、六回にはスクイズで3点目をあげるなど、手堅い攻めを見せた。トヨタ自動車東日本はDHの瀬戸が一回に放った1安打のみに抑えられ、三塁を踏めなかった。

JFE東完勝 五回5長短打

▽Dブロック
セガサミー（1勝1敗）
000 100 0 1
002 060 × 8
JFE東日本（2勝）
（七回コールド）

JFE東日本は五回、猪田の3点本塁打の後、2死満塁から山本も走者一掃の二塁打とたたみかけ6点を挙げ、試合を決めた。セガサミーは四回の中川の適時打による1点のみで、4安打に抑えられた。

ホンダ熊本逆転勝ち 山本が殊勲の三塁打

ホンダ熊本（1勝1敗）
100 000 022 5
100 102 000 4
三菱自動車岡崎（2敗）

ホンダ熊本は八回に稲垣の2点本塁打で追い上げ、九回2死二、三塁から1番山本の右越え三塁打で逆転。5番手の片山がその裏を3者凡退に抑えた。三菱自動車岡崎は小刻みな継投で逃げ切りを図ったが、終盤につかまった。

○…等々力球場…○

▽Bブロック
ホンダ（2勝）
不戦勝
日本製鉄かずさマジック（2敗）

茨城トヨペット大勝 JR東の投手陣崩壊

▽Cブロック
茨城トヨペット（1勝1敗）
000 404 4 12
001 002 0 3
JR東日本（2敗）
（七回コールド）

茨城トヨペットは四回、1点を返した後、比留間の3点本塁打で勝ち越し。六回には2死満塁から連続の四球押し出しなど、相手の乱れに乗じて流れをつかんだ。JR東日本は投手陣が力を出せなかった。

ガス対決共に譲らず 大阪最後に追いつく

▽Bブロック
大阪ガス（1勝1分け）
002 000 001 3
000 201 000 3
東邦ガス（1分け1敗）

東邦ガスは六回、3番宮下

東邦ガス

	打	安	点
⑧	浦松宮	2	1
⑦	若柴佐	0	0
⑤	大木氷	1	0
D	高金	0	0
③	口井下	1	0
⑥	林田木	1	0
⑨	木村見	0	0
H	垣田	0	0
②	々	0	0
④	々	0	0
H	々	0	0
計		9	2

Honda

	打	安	点
⑧	鈴	3	1
⑥	中坂津	1	0
H	辻山井	0	0
6	口藤峯	0	0
②	田野山	1	2
⑤	下上檜	0	0
⑨	野村金	1	0
③	下村城	3	2
3	野本村	0	0
R	村本村	2	0
D	村本村	0	0
④	木村城	1	1
⑦	村	3	0
計		31	6

	併	残	失	盗	犠	球	振
東	0	7	1	0	0	3	11
H	1	11	1	6	3	7	7

	投手	回	安	責
大	石	5	6	3
	榮	⅓	3	3
中	川	⅔	0	0
柳	川	1	0	0
東	野	⅔	8	1
岡	野	⅓	1	0

▽二塁打　木村、野辻
▽三塁打　村、檜野
▽2時間59分

Honda熊本

	打	安	点
⑨	山	1	0
⑦	中稲古	2	0
⑧	正和高	0	0
③	江	0	0
D	森	0	0
DH		0	0
④	丸	0	0
H	山	0	0
⑤	根	1	0
②	葉	0	1
H	上	0	0
2	井	0	0
⑥	竹	0	0
計		9	4

JFE東

	打	安	点
⑥	小本猪	3	1
⑧	松間田	3	0
⑦	瀬山城	4	2
③	梁平山	4	3
D	中岡田	3	1
⑤	澤本村	0	0
⑨	山折大	0	0
H	本尾森	1	0
4	村	0	0
②	本	0	1
④	尾	3	0
R	森	0	0
計		32	10

	併	残	失	盗	犠	球	振
H	0	11	0	0	8	8	8
J	2	7	2	0	1	4	5

	投手	回	安	責
投	倉	1⅔	3	6
米	袋	6⅓	7	0
島				
	神	⅔	9	3
	賀	⅔	0	0
中	定	⅔	0	0
宇	谷		0	0
本	山	2	0	0
新		1	0	0
福	林			

▽二塁打　猪田2
▽三塁打　時間16分

トヨタ東

	打	安	点
⑥	佐々木	0	0
⑤	齋瀬植	0	0
D	山田松	0	0
⑨	麗大戸	0	0
⑧	本崎中	0	0
⑦	々木一	0	0
④	佐夷塚	0	0
③	根来	0	0
②		0	0
計		8	0

NTT西

	打	安	点
⑦	天井	2	0
④	成瀬	0	0
⑥	水島	1	0
③	酒井上	1	0
D	井村	0	0
DH	中藤	0	0
⑨	吉小	1	0
⑤	串	0	0
②		0	0
⑧		0	0
計		9	1

	併	残	失	盗	犠	球	振
ト	2	5	2	0	0	4	6
N	1	8	1	1	4	2	5

	投手	回	安	責
投	村	5⅔	9	1
中	村	3	1	0
齋	藤智			
田	村	5	1	0
井	澤	4	0	0

▽2時間7分

セガサミー

	打	安	点
D	黒神植	0	0
⑧	川山田	0	0
⑨	松谷藤	0	0
⑦	笠竹加	0	0
H	7 宮高中	0	0
⑤	北宮吉	0	0
③	廣	0	0
3		0	0
⑥	川本川	1	0
④	川浦田	0	0
H	岡	0	0
②	2	0	0
計		4	1

JFE東

	打	安	点
⑥	小本猪	2	0
⑧	松間田	2	1
⑦	瀬山井	2	2
③	梁平櫻	1	0
D	山井城	0	0
DH	D 森本尾	1	0
⑤	山大山	0	0
⑨	折	0	0
②		1	0
④		3	0
計		24	9

	併	残	失	盗	犠	球	振
セ	1	4	1	0	0	3	2
J	1	6	1	0	1	8	4

	投手	回	安	責
投	手崎	4	3	1
尾	中薗	⅔	3	4
田	波海	⅓	1	2
下		⅓	1	0
伊草		1	1	0
高	根	5	4	1
本	定谷	1	0	0
新		1	0	0

▽本塁打　猪田（中）
▽二塁打　吉田、山本
▽三塁打　加藤
▽暴投　2時間13分

のソロ本塁打で勝ち越したが、大阪ガスも九回2死三塁から、戸高が右前に運んで引き分けた。東邦ガス先発投手の高橋は最後まで投げきったものの、あと一人というところで勝利を逃した。

○…横浜スタジアム…○

鷺宮が接戦を制す 投手陣持ち味発揮

▽Aブロック

ENEOS（1勝1敗）

0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
0	0	0	0	0	1	1	0	×	2

鷺宮製作所（2勝）

鷺宮は六回に野村が先制のソロ本塁打。七回にも村上の三塁打で追加点を挙げ、ENEOSの反撃を犠飛による1点のみに抑えて逃げ切った。ENEOSは鷺宮の3投手の前に、散発の4安打に終わった。

鈴鹿五回に集中打 4投手で逃げ切る

JR西日本（2敗）

0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
0	0	0	1	3	0	0	0	×	4

ホンダ鈴鹿（1勝1敗）

ホンダ鈴鹿は同点の五回、1死二塁から、1番長野以下の3連続長短打で3点を勝ち越した。先発の井村が六回まで好投し、終盤は1回ずつ投手をつぎ込み、リードを守り切った。JR西日本は打線がつながらなかった。

◇**第3日**（3月10日）

（予選リーグ）

○…神宮球場…○

大阪ガス逆転勝ち ホンダ一歩及ばず

▽Bブロック

大阪ガス（2勝1分け）

0	0	0	0	0	4	0	2	0	6
0	0	1	0	1	0	0	1	2	5

ホンダ（2勝1敗）

大阪ガスは六回、ホンダ先発の片山をようやくとらえ、

Honda熊本

	打	安	点
⑨ 山中	5	2	2
⑦ 本島	4	1	0
⑧ 稲垣	4	1	2
③ 古寺	3	2	1
D 根頭	4	3	0
⑥ 林上	3	0	0
H 6	1	0	0
⑤ 森	4	1	0
④ 高宮	2	0	0
H 4	1	1	0
② 江竹	1	0	0
H 2	0	0	0
山 丸	0	0	0
計	35	9	5

三菱岡崎

	打	安	点
④ 菅原	4	2	0
⑧ 中村	3	2	2
③ 古川	5	2	2
D 山下	4	1	0
H 宮野	1	0	0
⑨ 7 東	4	3	0
⑦ 岳原	2	0	0
H 9 井上	1	0	0
9 木井	2	0	0
⑤ 茂荒	4	0	0
② 西斎	4	2	0
⑥ 川藤	2	0	0
計	36	12	4

	7	2	1	1	6	0
	振球	犠	盗	失	残	併
三	10	4	2	2	0	1

投	手	回	安	責
藤		3	5	1
米	江倉	1 ⅓	2	1
新	名	1	3	0
柳	澤	1 ⅔	1	0
片	山	2	1	0
笠		5	4	1
鈴	井木	1	0	0
清	川	1	0	0
秋	山	1	2	2
神	原	1	3	2

▽本塁打　稲垣（秋山）▽三塁打　西山本▽二塁打　柳澤、川▽暴投　3時間4分　片山▽3時間

茨城トヨペ

		打	安	点
D	所	2	0	0
H	杉	0	0	1
H	松	0	0	2
④	大伊	3	2	2
⑥	斎酒	5	1	1
③	宮	4	1	1
⑤	牧	4	2	0
H 5	留	1	0	0
⑨	間	4	2	3
⑧	比藤	4	3	1
②	武尾	4	2	0
⑦	峯藤	4	2	1
計		31	11	10

JR東日本

		打	安	点
D	菅	4	0	0
⑧	篠田	3	1	0
H	内野	1	0	0
④	杉崎成輝	1	0	0
H 4	福武	1	0	0
⑤	高橋	3	2	0
⑥	海崎	2	0	1
⑨	山内	3	2	2
③	杉崎成田	3	0	0
②	栗草部	1	0	0
H 2	栗林	2	0	0
⑦	倉石	2	0	0
7		0	0	0
計		26	5	3

茨	6	7	2	1	0	7	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
J	3	5	0	0	2	7	0

投	手	回	安	責
小	野	3	3	1
南		3	2	2
杉	山	1	0	0
森	畑	4	4	4
山諸	崎隅	1 ⅓	3	2
		⅓	0	0
小石	谷野上	⅔	2	2
		⅔	2	1

▽本塁打　比留山内（森畑）▽三塁打　伊藤（南）▽二塁打　武藤▽暴投　杉山、小谷　2時間24分

大阪ガス

		打	安	点
⑦	三室	3	1	0
R 7	井屋	3	0	0
D	本本	4	2	1
⑧	水本	4	2	1
⑨	内橋	4	2	1
③	田下	2	1	0
R 5	下橋	0	0	0
⑤	高林	3	1	0
H 2	澤波	0	0	0
④	袋	0	0	0
②	飯	0	0	0
H	山	0	0	0
R	橋	0	0	0
R 3	清花	0	0	0
⑥	杉石	0	0	0
6	梶城	0	0	0
	峰高	0	0	0
	戸下	0	0	0
	吉高	0	0	0
	島	0	0	0
計		32	8	3

東邦ガス

		打	安	点
⑧	浦	5	1	0
⑦	松宮	4	1	1
⑤	若柴	4	1	0
D	虎	3	0	0
③	佐	4	1	0
3	々	0	0	0
⑥	大	3	1	2
⑨	木	3	1	0
H 9	木	0	0	0
②	氷	4	2	0
R	金	0	0	0
④	高	3	1	0
H	向	1	0	0
計		35	8	3

大	9	4	0	2	1	6	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
東	7	2	0	0	1	7	0

投	手	回	安	責
大	宮	6	6	3
本	間	2	1	0
稲	垣	1	1	0
高	橋	9	8	3

▽本塁打　宮下（大宮）▽二塁打　間下（佐々木）▽2時間　38分

ENEOS

		打	安	点
⑥	松	3	1	0
⑤	山	3	2	0
R 5	瀬戸	3	0	0
④	川	4	0	0
③	口	3	0	1
⑨	山	3	0	0
D	上	3	1	0
H	村	0	0	0
⑦	渡	3	1	0
②	馬	4	0	0
⑧	山	3	0	0
計		30	4	1

鷺宮製作所

		打	安	点
⑦	藪	2	0	0
H	藤	0	0	0
7	竹	0	0	0
⑥	島	3	0	0
6	谷	0	0	0
④	中	4	1	0
⑨	野	4	1	1
D	村	4	0	0
③	木	3	1	0
⑤	千	3	1	0
②	花	3	1	0
⑧	西村	2	1	1
計		27	5	2

E	3	4	1	2	0	7	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
鷺	11	4	1	2	0	6	0

投	手	回	安	責
若	杉	5	3	0
林		1 ⅔	2	2
		⅓	0	0
楠	茂		0	0
柏	原	1	0	0
竹	丸	5	2	0
前	田	3	2	1
門	間	1	0	0

▽本塁打　野村（林）▽三塁打　村上（鷺）▽二塁打　畳間打　有馬▽2時間　25分

JR西日本

		打	安	点
③	田	5	2	0
⑥	杉	3	0	0
⑧	大土	4	1	0
⑤	戸	4	0	0
⑨	西	4	1	1
D	村	4	1	0
⑦	本	4	1	0
②	藤田	4	2	0
2	植	0	0	0
H	加	1	0	0
④	安	2	0	0
H	大	0	0	0
R 4	佐	0	0	0
	西	0	0	0
	櫻野	1	0	0
計		34	8	1

Honda鈴鹿

		打	安	点
⑧	長	3	1	1
⑥	中	4	1	1
④	藤	4	1	1
③	伊	4	0	0
⑦	田	2	0	0
D	近	3	1	0
⑨	中	3	0	0
H	畔	1	0	0
9	岡	0	0	0
②	岡	3	1	0
⑤	貞	2	1	0
計		29	6	3

J	7	3	0	2	1	9	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
H	8	4	1	1	0	6	1

投	手	回	安	責
中	岡	4 ⅔	5	3
京	極	⅓	0	0
真	城	3	1	0
井	村	6	4	1
花	城	1	1	0
岩	井	1	1	0
田	中	1	2	0

▽三塁打　長野▽二塁打　畳加藤▽暴投　岩井、中逸、捕澤▽2時間　36分

橋本と花本の適時打で追いつくと、2死満塁で高波が救援の福島から2点適時打を放ち、勝ち越した。ホンダは九回、辻野の二塁打で追い上げたものの届かなかった。

JR東日本4本塁打 打線の活躍で初勝利

▽Cブロック

JR東日本（1勝2敗）

	1	2	3						
	0	2	0		0	2	0	2	12
	0	0	1		4	0	0	2	7

トヨタ自動車東日本（1勝2敗）

JR東日本は一回、先頭打者の杉崎の本塁打で先制すると、五回までに計4本塁打で7点を奪い、流れをつかんだ。トヨタ自動車東日本も四回、下位打線の連打などで反撃したが、失点が大きすぎた。

NTT投手戦を制す 2投手で14奪三振

茨城トヨペット（1勝2敗）

	0	0	0		0	0	1		1
	0	0	0		1	1	0		2

NTT西日本（3勝）

NTT西日本は四回に徳丸の二塁打、五回には成瀬の内野安打でそれぞれ1点を奪い、先発の高井から大江の継投で逃げ切った。茨城トヨペットは九回2死満塁のチャンスを迎えたが後続なく、伊藤の本塁打による1点に終わった。

○…等々力球場…○

JFE東そつない攻撃 2番手の立石が好救援

▽Dブロック

三菱自動車岡崎（3敗）

	3	0	1		1	0	0		5
	3	0	0		0	1	2		6

JFE東日本（3勝）

JFE東日本は六回、中澤の右中間三塁打で追いつくと、田村の犠飛で勝ち越した。2番手の立石が3回を無安打に抑えた。三菱岡崎は六回1死二塁で、大手が左中間に二塁打を放ったが、二塁走者が本塁で刺された。

大阪ガス

	打	安	点
⑦	三室吉	1	2
7	橋清花	0	0
⑤	石山梶	1	1
⑧	峰戸高	1	0
⑨	井屋澤	0	0
③	本水本	0	0
D	橋本田	0	0
H	下高波	0	0
H	DD	0	0
④	3	2	0
②	3	0	0
⑥	3	2	2
	計	9	6

Honda

	打	安	点
⑧	鈴木	1	1
8	金城	0	0
④	檜村	1	0
R	4三浦	0	0
H	岩本	0	0
②	辻野	3	3
R	峯村	0	0
⑤	山下	2	1
⑨	井上	1	0
③	藤野	1	0
D	坂口	0	0
H	D山中	1	0
⑥	本村	2	0
⑦	右田	0	0
	計	11	5

	大	振	H
11	6	0	1
球	0	1	1
犠	1	0	0
盗	0	9	9
失	9	1	0
残	1	0	0
併	1	0	0

	投	秋	本	大
手	手	山	間	宮
回	回	2	6	⅓
安	安	⅔	7	0
責	責	4	4	0
		1	0	

	片	福	中
	山	島	村
	5	1	2
	⅔	⅓	
	5	2	2
	4	0	2

▽本塁打　鈴木（本間）▽三塁打　三井▽二塁打　橋本、高波、吉澤、峰下、辻野▽ボーク　本間▽3時間25分

JR東日本

	打	安	点
③	杉崎	1	1
⑥	海菅高	0	0
⑦	崎田橋	0	3
⑤	4内石	1	2
⑨	8倉渡岩	0	1
D	D篠栗	0	3
H	D小福	0	2
R	8本部	0	0
⑧	9藤武	0	0
H	辺林藤	2	3
②	本田原	3	2
④	内山草	0	0
H	石辺部	0	0
4	4	0	0
	計	11	12

トヨタ東

	打	安	点
⑥	佐々木麗	2	1
⑤	齋藤大	1	0
D	瀬戸本	2	2
⑨	植山崎	1	1
⑧	山田中	1	0
⑦	田々木一	1	0
④	佐木塚	2	1
③	夷塚来	2	0
②	根来	2	2
	計	15	7

	投	山	谷	坂	諸	石	高	古
	手	崎	野	根	隈	上	山	谷
	回	3	1	1	⅔	⅔	⅓	1
	安	4	5	⅓	1	3	0	0
	責	1	4	0	0	0	0	0

	内	古	齋	小
	山	川	藤	小
	2	⅔	⅔	1
	⅓	⅔	⅔	⅓
	3	3	6	0
	4	0	2	2

▽本塁打　杉崎（内山）　小藤（内山）　高橋（内山）▽二塁打　菅田、齋藤智、齋藤大、佐々木一、山本▽暴投　内山▽捕逸　根来▽3時間20分

茨城トヨペ

	打	安	点
⑤	松本	3	0
H	所	1	0
5	牧	0	0
④	伊藤	4	2
⑥	斎藤	3	1
③	酒巻田	4	1
R	織里	0	0
D	宮比留	4	0
⑨	武峯藤	3	0
⑧	峯上尾	4	2
②	上杉松	2	1
H	大近藤	1	0
2	7	0	0
	計	31	5

NTT西

	打	安	点
⑦	天井	4	1
④	成瀬	4	1
⑥	水島	3	0
③	酒井	3	1
5	後藤	3	0
⑤	徳丸	3	2
5	3吉川	3	1
⑨	藤井	4	1
D	井上	4	0
H	D本泉	1	0
②	山小畑	3	0
⑧	串畑	1	0
	計	28	6

	投	菊	中	エ	高	大
	手	地	島	ーア	井	江
	回	2	3	3	6	3
	安	1	4	1	3	2
	責	0	2	0	1	0

▽本塁打　伊藤（高井）▽二塁打　丸山、徳永▽2塁打　酒巻、酒井、大江▽暴投　大江▽2時間28分

三菱岡崎

	打	安	点
⑤	菅	2	0
⑧	中古	2	0
④	山橋	1	0
②	下爪	1	0
H	東	1	0
⑦	藤上藤	1	0
③	伊井内	0	3
D	里斎茂	0	0
⑥	見藤木	0	0
H	6	0	0
⑨	H9大	0	0
	計	10	5

JFE東

	打	安	点
⑥	4山	1	0
⑧	9櫻	1	0
⑤	3岡	1	1
D	梁山	1	0
H	D山平	1	1
③	5大	0	1
5	関	1	0
⑦	R8大	2	0
R	7中志	1	1
⑨	2下	0	0
②	2田	0	1
④	6田	2	0
	計	9	6

	三	振	J
	8	3	6
	5	1	3
	3	0	2
	1	5	1
	0	3	0
	8	0	5
	0	1	0

	投	秋	田	一	秋
	手	山	中	井	山
	回	翔	中	井	凌
	安	6	2	0	0
	責	4	2	0	0

	中	立
	村	石
	6	3
	10	0
	5	0

▽三塁打　中澤▽二塁打　菅原2、大手、山田、山城▽2時間45分

Honda熊本

	打	安	点
⑨	8山本	4	2
④	4崎垣	4	0
⑧	4江稲	2	0
9	2林寺	2	0
③	5島根	3	1
⑦	3古中	3	0
D	1山宮	3	1
H	0川柳	0	0
R	D青森	0	0
⑤	4上頭	2	0
R	6井江	1	0
⑥	5井江	3	0
②	1竹葉	1	0
	計	32	4

セガサミー

	打	安	点
⑤	藤山	3	1
⑧	加神	4	1
⑨	7植田	4	0
⑦	笠松	2	0
9	高島	2	0
③	高本	2	1
R	3宮浦	1	0
3	宮川	1	0
D	福森	2	1
H	D竹谷	2	0
⑥	中川	2	1
②	須田	2	0
H	2廣岡	1	0
④	片岡	2	2
	計	30	8

	H	振	セ
	3	5	5
	7	1	1
	4	2	2
	0	0	0
	0	0	0
	12	4	4
	1	0	0

	投	肥	武	田	草
	手	沼	富	中	海
	回	3	2	1	2
	安	⅔	⅓		
	責	6	2	1	2
		3	0	0	1

▽本塁打　中川（中村）　三塁打　山本▽二塁打　高島、中森▽2時間36分

ホンダ熊本逃げ切る 3番手片山が好救援

ホンダ熊本（2勝1敗）

	0	1	0	2	0	0	1	0	4
	0	0	0	0	1	0	0	1	2

セガサミー（1勝2敗）

ホンダ熊本は二回に江頭の左前打で先制し、四回には山本の二塁打でリードを3点に広げた。先発の寺澤が7回を被安打5の好投を見せ、3番手の片山も八回、1死二、三塁のピンチを抑えて逃げ切った。

○…大田スタジアム…○

鷺宮製作所15安打 前半で大量リード

▽Aブロック

鷺宮製作所（3勝）

	1	2	1	0	3	0	2	0	9
	0	0	0	0	0	0	1	2	3

JR西日本（3敗）

鷺宮製作所は五回、米田が左越えに2点本塁打を放つなど、打線が好機を確実に生かした。九番の村上が2本の適時打で計3打点の活躍を見せた。JR西日本は前半の大量失点が響いた。

鷺宮製作所

		打	安	点
⑦	藪扇島谷	3	0	0
H	井谷野	3	1	0
⑥	6	2	0	0
H	谷	3	1	0
④	中木野藤千花米保佐村	3	0	1
H	4	2	0	0
⑨	藤原葉崎田田藤上	3	0	0
9	3	3	1	2
③	島代村	3	1	0
H	3	4	2	2
⑤	戸	4	2	3
D		3	2	1
②		4	2	3
⑧		3	2	3
	計	38	15	9

JR西日本

		打	安	点
③	田	5	1	1
⑥	村杉大土戸西大西植加安櫻	5	1	0
⑧	本倉居田村江野本藤田井	4	1	0
⑤	3	5	0	0
⑨	4	4	1	0
D	1	4	1	0
⑦	7	4	2	0
H	1	1	0	0
R	7	1	0	0
②		1	0	0
2		3	3	0
④		3	2	2
	計	37	11	3

鷺	3	2	1	3	0	5	0		0
	振	球	犠	盗	失	残	併		
J	6	3	1	0	1	11	1		

投	手	回	安	責
菊	地	4	2	0
山	越	1	2	0
岩	瀬	1	0	0
木	村	1	3	1
渡	邊	2	4	2
大	畑	3	7	4
大	山	2	3	3
京	極	3	5	2
辰	己	1	0	0

▽本塁打　米田（大山）▽二塁打　村上、戸田、岩瀬、大山▽暴投　岩瀬▽2時間38分

Honda鈴鹿

		打	安	点
⑧	長	5	0	0
⑥	中藤	3	1	0
④	伊田	4	2	0
③	藤野	4	1	0
⑦	9 野	3	0	0
⑨	岡栗	4	0	0
7	内	2	1	0
D	岡	4	2	1
②	佐藤	4	0	1
2	西	2	1	0
R	貞	0	0	0
⑤	畔	0	0	0
H	阿	1	0	0
5		1	0	0
	計	34	8	2

ENEOS

		打	安	点
⑥	松	5	2	1
⑤	浦山丸村姫篠川瀬与有飯	3	3	1
③	田	3	1	0
⑨	山	5	1	0
D	丸	4	0	0
H	村	4	1	0
④	姫	4	1	0
H	D 篠	1	1	0
⑦	川	1	0	0
②	4 瀬 戸	2	0	0
2	西	1	0	0
⑧	与	5	3	3
	倉	2	0	0
	有	2	0	0
	植	2	0	0
	飯	4	2	1
	計	38	13	7

H	14	3	0	1	2	7	1	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
E	9	6	0	2	2	12	1	

投	手	回	安	責
漢	人	2 ⅓	8	3
佐	藤智	2 ⅔	2	0
花	城	2	1	0
藤	本	1	2	1
関	根	5	4	1
加	藤原	3	2	0
柏		1	2	1

▽二塁打　藤江、内海、佐藤海、丸山、飯山2、与倉▽2時間49分

ENEOS打線好調 序盤に大量点リード

ホンダ鈴鹿（1勝2敗）

	0	2	0	0	0	0	0	1	3
	3	0	4	0	0	0	0	1	8

ENEOS（2勝1敗）

ENEOSが立ち上がりの速攻で序盤にリードを奪った。一回に7番与倉の2点適時打などで3点、三回には9番飯山の適時打などで4点を挙げた。2番手の加藤が六回からの3イニングを無失点に抑え、反撃を許さなかった。

▽Bブロック

東邦ガス（1勝1分け1敗）

不戦勝

日本製鉄かずさマジック（3敗）

大阪ガス

		打	安	点
⑦	三山橋清花吉峰高戸高	2	1	0
D	井	5	0	0
⑧	本	5	1	0
⑨	水本澤下橋高波	3	0	0
③	本	2	2	1
⑤	澤	3	1	1
④	下	4	1	0
②	橋	1	0	0
H	高	4	2	2
⑥	2 波	4	2	2
	計	33	11	8

NTT西

		打	安	点
⑦	天成水酒藤吉後井小中辻串	5	2	0
④	井瀬	5	1	0
⑥	島	5	1	0
③	井	2	1	1
⑨	井	4	2	0
⑤	川	3	0	0
H	藤	3	0	0
D	上	3	3	0
②	泉	3	0	0
H	村	1	0	0
2	本	3	0	0
⑧	畑	3	2	0
	計	34	12	4

大	6	3	3	3	0	4	1	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
N	5	4	3	1	1	10	2	

投	手	回	安	責
稲	垣	6	7	2
小	松	1 ⅔	4	1
秋	山	1 ⅓	1	1
松	井	5	4	0
茨	木	⅔	1	1
井	澤	⅔	1	1
渡	邉	1 ⅔	1	1
島	田	⅓	3	5
前	田	⅔	1	0

▽三塁打　下、三島▽二塁打　峰井、茨木井、井上▽高波▽暴投　酒井▽2時間50分

JFE東

		打	安	点
⑥	小本志田猪梁平山中山折大	0	0	0
⑧	本	0	0	0
H	志	4	0	0
⑦	田	3	0	0
③	猪	5	0	1
D	梁	4	1	0
⑤	平	4	1	0
⑨	山	4	1	0
②	中	4	0	0
④	山	4	0	0
R	折	3	0	0
8	大	0	0	0
	計	36	12	2

鷺宮製作所

		打	安	点
⑦	藪藤島中野千木西花米保竹村	3	0	0
H	井原野優村葉代浦崎田田原上	1	0	0
⑥	島	4	1	0
④	4	4	1	0
⑨	3	4	3	1
③	野	3	1	0
H	千	4	1	1
②	木	3	1	0
⑤	西	4	3	1
R	花	4	0	1
D	米	4	0	2
R	保	4	0	1
⑧	竹村	4	0	0
	計	36	8	3

J	5	2	2	0	2	10	0	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
鷺	13	2	2	1	0	10	3	

投	手	回	安	責
宇	神	4 ⅔	4	2
本	賀定	1 ⅓	0	0
福	山	3	3	0
	林	⅓	1	0
竹	丸隼	8	10	2
中	島	2	2	0

▽打撃妨害　神（大阪ガス）▽本塁打　賀（宇部）▽2時間24分

大阪ガス九回に突き放す

NTT西粘り及ばず

◇最終日（3月11日）

○…神宮球場…○

（決勝トーナメント）

▽準決勝

大阪ガス		0	0	0	0	0	1	2	5
NTT西日本		0	1	0	1	0	0	1	1

死満塁から高波、三井の連続二塁打で4点を挙げ、突き放した。NTT西日本は先発の松井が5回を無失点と好投したが、救援陣が捕まった。

同点の九回、大阪ガスは吉澤の適時打で勝ち越すと、1

鷺宮の中島優サヨナラ打

JFE東の継投を崩す

死一、二塁で、鷺宮製作所は送りバントが敵失を誘い満塁となり、1死後、3番中島が右中間を破りサヨナラ勝ち。NTT西日本は十回1死満塁に次打者が併殺に倒れた。

JFE東日本　100 001 000 0＝2
鷺宮製作所　010 010 000 1＝3
（延長十回）

タイブレークの延長十回無

鷺宮製作所が初優勝

野村サヨナラ本塁打

球目に泣いた。

▽決勝
大阪ガス　001 000 010＝2
鷺宮製作所　001 001 003＝5

鷺宮製作所　同点の九回、鷺宮製作所は2四球でつかんだ1死一、二塁のチャンスに、4番の野村が右越えに3点本塁打を放ち、準決勝に続く2試合連続のサヨナラ勝ちを収めた。大阪ガスの先発大宮は最後の115球目に泣いた。

大阪ガス	打	安	点
⑦ 三山	4	0	1
Ⓓ 井本	5	1	0
⑧ 橋本	4	1	0
⑨ 清水	4	2	1
③ 花本	4	2	0
⑤ 吉澤	4	1	0
④ 峰下	4	2	0
② 橋本	2	2	0
ＨＲ 高戸	1	0	0
２ 杉内	0	0	0
⑥ 城下	3	2	0
計	34	8	2

鷺宮製作所	打	安	点
⑦ 藤原	2	0	0
⑥ 島野	2	1	1
④ 島中優	3	1	0
⑨ 野村	4	1	3
③ 千葉	4	0	0
⑤ 花崎	3	0	0
５ 米田	3	0	0
Ｄ 保戸田	3	0	0
② 佐藤	3	0	0
⑧ 村上	3	2	1
計	27	6	5

	大	振	鷺
９	4	0	1
球	2	3	0
犠	0	1	0
盗	1	0	9
失	0	0	1
残	9	1	1
併	1	1	1

投手	回	安	責
大宮	8⅓	6	5
渡部	3	3	1
門間	4	2	0
菊地	⅓	2	1
中島隼	1⅔	1	0

▽本塁打　村上（大）
（大宮）野村（高）
宮）▽三塁打　橋本、清水、
波）▽二塁打　花本、時間32分
村上）▽２時

◇…表彰選手…㊫

◇**最高殊勲選手**
中島　隼也（投手・鷺宮製作所）

◇**敢闘賞**
大宮　隆寛（投手・大阪ガス）

◇**首位打者賞**
村上　公康（外野手・鷺宮製作所）＝14打数8安打、打率5割7分1厘

◇**打撃賞**
猪田　和希（外野手・JFE東日本）

◇**新人賞**
島野　圭太（内野手・鷺宮製作所）
井上　幹太（外野手・NTT西日本）
高井　駿丞（投手・NTT西日本）

◇**監督賞**
幡野　一男（鷺宮製作所）

◇**大会優秀選手**

◇**投手**
中島　隼也（鷺宮製作所）
松井　大輔（NTT西日本）
大宮　隆寛（大阪ガス）

◇**捕手**
山本健太朗（JFE東日本）

◇**一塁手**
梁瀬慶次郎（JFE東日本）

◇**二塁手**
中島　優仁（鷺宮製作所）
峰下　智弘（大阪ガス）

◇**遊撃手**
高波　寛生（大阪ガス）

◇**外野手**
村上　公康（鷺宮製作所）
猪田　和希（JFE東日本）
藤井　健平（NTT西日本）
天井　一輝（NTT西日本）

◇**指名打者**
井上　幹太（NTT西日本）

◇**特別賞**
野村　工（鷺宮製作所）

第79回大会・熱戦の軌跡

Aブロック	ＥＮＥＯＳ	鷺宮製作所	ＪＲ西日本	Honda鈴鹿	勝	敗	順位
ＥＮＥＯＳ	㊫	●1－2	○7－2	○8－3	2	1	2
鷺宮製作所	○2－1	㊫	○9－3	○5－4	3	0	1
ＪＲ西日本	●2－7	●3－9	㊫	●1－4	0	3	4
Honda鈴鹿	●3－8	●4－5	○4－1	㊫	1	2	3

Bブロック	日本製鉄かずさマジック	Ｈｏｎｄａ	大阪ガス	東邦ガス	勝	敗	順位
日本製鉄かずさマジック	㊫	×0－1	×0－1	×0－1	0	3	4
Ｈｏｎｄａ	◎1－0	㊫	●5－6	○6－3	2	1	2
大阪ガス	◎1－0	○6－5	㊫	△3－3	2	0	1
東邦ガス	◎1－0	●3－6	△3－3	㊫	1	1	3

Cブロック	茨城トヨペット	ＪＲ東日本	トヨタ自動車東日本	ＮＴＴ西日本	勝	敗	順位
茨城トヨペット	㊫	◎12－3	●1－3	●1－2	1	2	2
ＪＲ東日本	×3－12	㊫	○12－7	●1－3	1	2	4
トヨタ自動車東日本	○3－1	●7－12	㊫	●0－3	1	2	3
ＮＴＴ西日本	○2－1	○3－1	○3－0	㊫	3	0	1

Dブロック	セガサミー	ＪＦＥ東日本	三菱自動車岡崎	Honda熊本	勝	敗	順位
セガサミー	㊫	×1－8	○10－1	●2－4	1	2	3
ＪＦＥ東日本	◎8－1	㊫	○6－5	○6－5	3	0	1
三菱自動車岡崎	●1－10	●5－6	㊫	●4－5	0	3	4
Honda熊本	○4－2	●5－6	○5－4	㊫	2	1	2



東京スポニチ大会・決勝戦一覧

	優勝	準優勝	線線川業紙ス命瀬紙瀬油所道油ル命紙芝命山油油一車所崎器機機輸行芝組油命東屋ス命研ス東芝業芝芝ル運本崎京中研器ハ所崎ススス鹿本浜
第１回 (昭21年)	自動ゞす	藤藤鐘大大東日日大日日日盛丸日日日大東日倉日日リい日三日三西北東熊日日電国東明本大Ｎ東富東東ププ日Ｊ三Ｎ東本松ヤ日三シシＨＪ三	運Ｓ
第２回 (〃22年)	ク港	倉倉紡洋	通
第３回 (〃23年)	知	製	本
第４回 (〃24年)	製口	電電淀漁	製
第５回 (〃25年)	藤	和	製
第６回 (〃26年)	本	昭京	本
第７回 (〃27年)	生製	ガ生二	作
第８回 (〃28年)	幡	本鉄	一
第９回 (〃29年)	和	昭	製
第10回 (〃30年)	鐘	和	作
第11回 (〃31年)	本	昭鉄	川
第12回 (〃32年)	生	二石	銀
第13回 (〃33年)	島	鉄	動
第14回 (〃34年)	児	立岡善	作
第15回 (〃35年)	ネ	石	製
第16回 (〃36年)	カ	本本	ビ
第17回 (〃37年)	化	本	本
第18回 (〃38年)	カ	昭	和
第19回 (〃39年)	本	自動ゞす	製
第20回 (〃40年)	鋼	立	作
第21回 (〃41年)	生	本レ	所
第22回 (〃42年)	鋼	石生岡	油
第23回 (〃43年)	生	日石石	立
第24回 (〃44年)	鋼	本本カ	命
第25回 (〃45年)	石	本ッゞ	器
第26回 (〃46年)	石	日す	運
第27回 (〃47年)	本	生立	機
第28回 (〃48年)	本	精菱	組
第29回 (〃49年)	協	自動	芝
第30回 (〃50年)	谷	本協	組
第31回 (〃51年)	谷	協濃	京
第32回 (〃52年)	電	東道	芝
第33回 (〃53年)	東	拓海	紙
第34回 (〃54年)	和	谷	芝
第35回 (〃55年)	製	本	組
第36回 (〃56年)	谷	石	芝
第37回 (〃57年)	本	本電	油
第38回 (〃58年)	石	古	芝
第39回 (〃59年)	テ	鉄名	ル
第40回 (〃60年)	ス	京ガ	管
第41回 (〃61年)	ホ	治生	組
第42回 (〃62年)	鋼	田技	運
第43回 (〃63年)	谷	阪ガ	油
第44回 (平１年)	通	Ｔ関	ル
第45回 (〃２年)	石	Ｔ	組
第46回 (〃３年)	ホ	士重	油
第47回 (〃４年)	テ	工	海
第48回 (〃５年)	本	本	所
第49回 (〃６年)	石	石	油
第50回 (〃７年)	本	本	油
第51回 (〃８年)	東	Ｒ	Ｊ
第52回 (〃９年)	生	菱自	芝
第53回 (〃10年)	通	菱Ｔ	運
第54回 (〃11年)	東	芝	芝
第55回 (〃12年)	動	田	車
第56回 (〃13年)	日	下	本
第57回 (〃14年)	動	電	車
第58回 (〃15年)	東	立	芝
第59回 (〃16年)	東	菱ふ	芝
第60回 (〃17年)	日	そッ	本
第61回 (〃18年)	動	ダダ	車
第62回 (〃19年)	九	ｏｎ	州
第63回 (〃20年)	ＥＮＥＯＳ	ＲＥＯＳ	油
第64回 (〃21年)	石油ＥＮＥＯＳ	菱重工横	本
第65回 (〃22年)	工	日本石油ＥＮＥＯＳ	業
第66回 (〃23年)	ＮＴＴ西日本、ＪＸ-ＥＮＥＯＳ両者優勝（東日本大震災のため決勝戦中止）		
第67回 (〃24年)	ＦＥ東日	本通	本
第68回 (〃25年)	ｏｎｄ	Ｘ－ＥＮＥＯ	Ｊ
第69回 (〃26年)	ＦＥ東日	本製紙石	日
第70回 (〃27年)	士重工	ｏｎｄ	本
第71回 (〃28年)	本新	日鐵かずさマジッ	新
第72回 (〃29年)	ヨタ自動	ｏｎｄ	Ｈ
第73回 (〃30年)	ｏｎｄ	ｏｎｄａ熊	Ｈ
第74回 (〃31年)	本新	治安田生	日
第75回 (令３年)	三菱自動車倉敷オーシャンズ	明	東
第76回 (〃４年)	東	ＲＪ九	州
第77回 (〃５年)	東	ｏｎｄ	Ｈ
第78回 (〃６年)	Ｈｏｎｄａ所	日本通ガ	大
第79回 (〃７年)	鷺宮製作所	大阪	ス

※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

JR東海が2度目の優勝

第71回　JABA静岡大会

トヨタ自動車を破り11大会ぶり
MVPは水谷祥平外野手（JR東海）

第71回ＪＡＢＡ静岡大会は４月２日から８日まで、浜松球場と清水庵原球場で行われ、決勝でＪＲ東海がトヨタ自動車を９―６で破り、11大会ぶり２回目の優勝を果たした。

16チームを４ブロックに分けて予選リーグを行い、各ブロック１位のヤマハ、東海理化、トヨタ自動車、ＪＲ東海が準決勝に進んだ。ＪＲ東海が東海理化、トヨタ自動車はヤマハを退け、それぞれ決勝進出を決めた。

最高殊勲選手賞には、決勝でも４打点の活躍を見せたＪＲ東海の水谷祥平外野手、敢闘賞にはトヨタ自動車の増居翔太投手が選ばれた。水谷外野手は14打数８安打で首位打者賞にも輝き、最優秀新人賞にはＪＲ東海の山澤太陽内野手が選出された。

ブロック分けは次の通り。なお、ＪＦＥ東日本は複数の体調不良者が出たため、１試合を終えた時点で棄権した。

【Ａ】明治安田、日本製鉄東海ＲＥＸ、ヤマハ、沖縄電力

【Ｂ】日本製鉄鹿島、東海理化、ＪＲ東日本東北、王子

【Ｃ】ＮＴＴ西日本、トヨタ自動車、東京ガス、ジェイプロジェクト

【Ｄ】ＩＭＦ　ＢＡＮＤＩＴＳ富山、ＪＦＥ東日本、西濃運輸、ＪＲ東海

◇第１日（４月２日）（予選リーグ）
○…浜松球場…○

東海ＲＥＸ完封勝ち
明治安田三塁踏めず

▽Ａブロック

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
明治安田（１敗）	000	000	000							0
日本製鉄東海ＲＥＸ（１勝）	020	000	00×							2

日本製鉄東海ＲＥＸは二回、９番宮本の適時打と押し出しで２点を先制すると、先発の吉川が被安打３に抑えて完封勝ちした。明治安田は救援陣が頑張ったものの、三塁まで走者を進めることすらできなかった。

ヤマハの小林３打点
沖縄電力先制及ばず

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
沖縄電力（１勝）	010	001	000							2
ヤマハ（１勝）	000	230	00×							5

ヤマハは四回、小林と土山の連続適時打で逆転すると、五回にも２死満塁から、死球と小林の適時打で、リードを広げた。沖縄電力は二回、田場の本塁打で先制したものの、

明治安田

	打	安	点
⑧	伊藤	0	0
④	新城	0	0
⑥	高瀬	0	0
Ｄ	尾藤	0	0
⑨	永瀬	0	0
③	福廣	0	0
⑤	橘岡	0	0
②	森内	0	0
⑦	齋川藤	0	0
計		29	3

東海REX

	打	安	点
Ｄ	山本	3	0
⑥	吉村	3	1
⑧	大塚	3	0
③	筒井	3	0
⑦	長南	4	2
⑨	勝盛	4	0
⑤	平野	4	0
②	室木	3	0
④	宮本	3	1
計		30	4

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
明治安田	000	000	000							0
日本製鉄東海ＲＥＸ	020	000	00×							2

	5	4	0	0	0	6	0	0
	振	球	犠	盗	失	残	併	
東	5	3	3	1	0	10	1	

投	手	回	安	責
小	玉	1⅔	4	2
竹	田	1⅓	1	0
中	尾	4	5	0
吉	川	9	3	0

▽本塁打　山口（２回）
▽時間34分

沖縄電力

	打	安	点
⑨	川端	1	0
Ｄ	山城	0	0
⑥	小濱	0	0
⑤	田場	1	1
⑧	宮城	0	0
③	安里	0	0
Ｈ	平良	0	0
④	與那	0	0
⑦	大城	0	0
Ｈ	金城	0	0
Ｈ	嘉数	0	0
Ｈ	石原	0	0
Ｈ	山川	0	0
計		31	2

ヤマハ

	打	安	点
⑨	舟久保	1	0
③	秋利	0	0
⑦	網谷	1	0
Ｄ	森川	1	0
④	永濱	2	0
６	相羽	1	0
②	大本	2	1
⑤	小林	4	1
⑥	土山	4	1
⑧	西村	3	1
Ｈ	桃谷	1	0
８	前野	0	0
計		31	5

	8	3	1	0	0	6	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
ヤ	5	5	1	0	0	8	0

投	手	回	安	責
当	山	4	6	3
新	垣	1⅓	4	2
安	里	2	0	0
佐	藤	7	7	2
寺	沢		1⅓	0
梅	田		2⅔	0
水	野	1	0	0

▽本塁打　田場（２回）
▽二塁打　小林（２回）
▽佐藤、小濱、小林時間45分

日鉄鹿島

	打	安	点
④	崎村	3	0
⑤	里山	3	0
③	目田	4	0
Ｒ	田口	2	0
⑦	間村	4	0
５	山	4	2
Ｄ	池	4	1
⑨	揚平	4	2
⑥	田	4	1
②	木	4	0
⑧	鈴	2	0
計		30	7

東海理化

	打	安	点
⑧	村木	4	1
⑨	本藤	3	0
Ｈ	齋藤	2	1
③	武門	4	1
Ｄ	井河	2	0
Ｈ	川中	3	1
⑦	池近	2	2
９	上野	4	2
⑤	間藤	4	2
④	西	2	0
２	木	1	0
⑥	鈴	0	0
Ｈ		1	0
Ｒ		0	0
計		33	12

	5	3	3	0	1	6	1
	振	球	犠	盗	残	併	
日	10	5	2	0	1	10	2

投	手	回	安	責
土	屋	5	7	2
金	城	1⅓	1	0
塙		1⅓	1	0
佐	田	⅔	3	2
金	田	6	4	2
池	田	3	3	1

▽本塁打　山口（３回）
▽二塁打　西（２回）
▽上、川、間27分

その後はヤマハの投手陣を打ちあぐんだ。

東海理化サヨナラ勝ち 日鉄鹿島は逃げ切れず

▽Bブロック

日本製鉄鹿島（1敗）

000 002 010 3
001 001 002 4

東海理化（1勝）

東海理化は九回、無死一、三塁から齋藤の右前打で追いつき、井貝の犠飛で木村が三塁から還りサヨナラ勝ち。

日本製鉄鹿島は八回に松田の適時打で勝ち越したが、九回から登板した佐田が東海理化打線につかまった。

○…清水庵原球場…○

トヨタ自動車集中打 NTT西の反撃遅く

▽Cブロック

トヨタ自動車（1勝）

000 130 101 6
000 000 003 3

NTT西日本（1敗）

トヨタ自動車は四回、逢澤のソロ本塁打で先制すると、五回には2死二塁から、上位打者の4連打で3点を追加した。NTT西日本は九回、井上の二塁打など5安打で3点を挙げる意地を見せたが、反撃が遅かった。

東京ガス2投手で零封 ジェイプロ1安打のみ

東京ガス（1勝）

000 200 000 2
000 000 000 0

ジェイプロジェクト（1敗）

東京ガスは四回、3連続四球で得た無死満塁の好機に、4番の内海が右前に2点適時打。これを2投手の零封リレーで守り切った。ジェイプロジェクトは一回1死から、上宮田が左前に放った1安打に終わった。

JFE東20安打の猛攻 IMF富山投手崩れる

▽Dブロック

JFE東日本（1勝）

340 000 106 14
110 000 200 4

IMF BANDITS富山（1敗）

JFE東日本は一回に4番梁瀬からの3連打で3点を挙げると、二回には小松と大森が連続本塁打を放つなど、3本塁打を含む20安打で大量点を奪った。IMF BANDITS富山も食い下がったが、投手陣がもたなかった。

◇第2日（4月4日）

（予選リーグ）

○…浜松球場…○

JR東北逃げ切れず 王子九回に追いつく

▽Bブロック

JR東日本東北（1分け）

201 000 000 3
000 000 012 3

王子（1分け）

2点をリードされた王子は九回、横井の適時打と押し出しの四球で追いついたが、2死満塁のサヨナラのチャンスに、八回に適時打を放った柴崎が右飛に倒れた。JR東日本東北は、先発の竹本が8回を1失点の好投を見せたが、逃げ切りに失敗した。

ヤマハが速攻で大勝 明治安田2安打のみ

▽Aブロック

明治安田（2敗）

000 000 0 0
150 010 × 7

ヤマハ（2勝）

（七回コールド）

ヤマハは二回2死満塁から、3番網谷以下クリーンアップが3連続適時打を放つなど5点を追加し、序盤で大量点を奪った。投げては、先発の沢山が5回を1安打に抑えるなど、3投手で明治安田を零封した。明治安田は2安打に終わった。

沖縄電力が八回集中打 東海REX守備乱れる

沖縄電力（1勝1敗）

003 000 150 9
010 200 100 4

日本製鉄東海REX（1勝1敗）

沖縄電力は同点の八回、相手守備の乱れに乗じて犠飛で勝ち越すと、さらに3番小濱

トヨタ

	打	安	点
⑤	熊北佐逢小和福坂徳	2	0
③	田村藤澤畑田井巻本	2	1
④	5	2	2
⑧	4	2	1
D	5	2	1
⑥	4	3	1
②	3	2	1
⑨	4	1	0
⑦	4	2	0
	4	2	0

計 38 13 6

NTT西

	打	安	点
⑥	成瀬井井田村上畑目泉本藤本	4	0
⑨	藤井井田村上畑目泉本藤本	4	0
③	4	4	1
⑤	4	1	0
⑦	4	1	1
D	3	1	0
⑧	4	2	0
H	3	1	0
②	3	1	0
H	2	2	0
④	2	2	1
H	3	1	0
	1	0	0

計 35 8 3

	責	安	併
トヨタ	6	10	0
	4	9	0
	1	6	1
NTT西	2	4	1
	0	1	0
	1	1	0

	責	安	打
投増山嘉	回	3	0
	7	5	3
	1 ⅔	0	0
	⅓	0	0
松茨田井渡島	4 ⅔	7	4
	⅔	1	0
	⅓	1	0
	1 ⅓	2	1
	⅔	1	0
	1	1	1

▽本塁打 逢澤（松井）▽二塁打 北村、熊谷（小畑、井上）▽2時間53分

東京ガス

	打	安	点
D	石中仲内冨小相馬北楠山崎	0	0
⑧	川尾俣海岡田馬場本	0	0
⑤	3	0	2
③	2	2	0
⑦	3	3	0
⑨	4	4	0
④	3	0	0
②	4	1	0
⑥	4	0	0
H	3	0	0
6	1	0	0
	0	0	0

計 31 6 2

ジェイプロ

	打	安	点
④	片平大上宮橋富木神宮岡	3	0
DH	岡田田本川内農内田	1	0
⑨	1	1	0
⑦	4	1	0
③	3	0	0
⑤	3	0	0
②	3	0	0
⑥	3	0	0
⑧	3	0	0

計 27 1 0

	責	安	併
東京ガス	2	5	0
	0	0	0
	0	7	0
ジェイプロ	5	7	0
	0	4	0
	1	0	0

	責	安	打
投伊寺	回	7	1
	手東沢	1	0
	2	0	0
笈鶴菅	川我原	4	2
		4	4
		1	0

▽二塁打 伊東（松井）▽2時間20分

JFE東

	打	安	点
⑥	小大猪梁内山本中山折	3	3
⑨	3	3	0
⑦	3	1	4
③	4	0	0
D	3	2	0
⑤	3	1	0
⑧	3	2	0
8	3	2	0
②	3	3	0
④	3	3	0
	3	3	0

計 43 20 14

BANDITS

	打	安	点
④	高橋川丸藤田弘辻本村貝	1	1
②	5	2	1
⑤	5	3	2
③	4	3	2
⑨	3	4	0
D	4	0	0
⑥	4	3	1
6	3	4	0
⑧	4	0	0
⑦	3	4	3
	3	3	1

計 35 11 4

	責	安	併
JFE東	8	12	2
	7	9	1
	3	8	1
BANDITS	1	1	1
	1	0	0
	3	1	0

	責	安	打
投山新加	回	5	3
	手田谷藤	3	0
	3	2	0
	林	1	0
水五元	口味木	6 ⅔	7
		13 ⅔	7
		1 ⅓	0

▽本塁打 森（水口）大松（水口）丸山（味方）西塁打 小城（山田）▽三塁打 瀬川（水口）▽二塁打 山城（山田）▽3時間19分

以下の5連続安打で大量点を奪い、試合を決めた。東海REXは2度にわたり追いつく粘りは見せたものの、7失策が響いた。

○…清水庵原球場…○

JR東海五回に集中打 西濃摺石は完投及ばず

▽Dブロック

西濃運輸（1敗）									
	0	0	0	1	0	0	0		1
	0	0	0	0	4	0	0	1×	5

JR東海（1勝）

1点を追うJR東海は五回、連打と敵失でつかんだ2死満塁から、吉田と山澤の連続適時打などで4点を挙げ逆転。投手陣も3選手の継投で、五回以降は連打を許さなかった。西濃運輸先発の摺石は被安打5で完投しただけに、五回の乱れが惜しまれる。

NTT西の高井完投 東京ガス打線振るわず

▽Cブロック

NTT西日本（1勝1敗）									
	1	0	0	2	2	0	0		5
	1	0	0	0	0	0	0		1
東京ガス（1勝1敗）									
	0	0	0	0	0	0	0		0
	0	0	0	0	0	0	1		1

NTT西日本は四回、山田の適時二塁打などで2点を勝ち越すと、五回にも藤井、山田の二塁打で追加点を挙げた。先発の高井は一回に3連打で1点を失ったものの、二回以降は散発の4安打に抑え、完投勝ちを収めた。

トヨタの熊田が決勝打 ジェイPは粘り及ばず

ジェイプロジェクト（2敗）									
	1	0	0	0	0	3	0	0	4
	2	0	2	0	0	0	0	1×	5

トヨタ自動車（2勝）

トヨタ自動車は同点の八回、二塁打の福井が内野ゴロで三塁に進み、1番熊田の右前打で決勝点を奪った。ジェイプロジェクトは七回、3番の上宮田の2点適時打や犠飛で追いついたが、最後はトヨタの3番手、渕上に抑えられた。

◇**第3日**（4月5日）

（予選リーグ）

○…浜松球場…○

JR東北一挙に逆転 日鉄鹿島継投に失敗

▽Bブロック

日本製鉄鹿島（2敗）									
	0	0	0	0	0	4	0	0	4
	0	0	0	1	0	0	7	0×	8

JR東日本東北（1勝1分け）

JR東日本東北は八回1死

JR東北

	打	安	点
④ 浦工金橋丸大小瀬古小	4	3	0
⑤ 林藤沢本山西鷹川山山	4	1	0
⑨	4	2	0
⑧	4	1	0
⑦	4	1	1
③	4	0	0
②	4	2	0
D D	3	0	0
H ⑥	3	1	0
計	35	11	1

王子

	打	安	点
⑧ 柴崎	5	2	1
⑥ 中川	4	0	0
⑦ 吉岡	3	0	0
R ノ山井	0	0	0
③ 宝島	3	1	0
R 大杉	0	0	0
D 神鳥	4	0	0
⑨ 横井	4	1	1
R 廣部	0	0	0
⑤ 山口	3	0	0
② 細川	2	1	0
④ 前田	3	1	1
計	31	6	3

	捕	刺	盗	失	残	併
J振	9	1	0	0	1	0
王	4	6	0	0	2	0

投	手	回	安	責
竹	本	8	5	1
津	髙	1	1	0
登	坂	3	6	1
宮	崎	3	2	0
樋	口	2	2	0
九	谷	1	1	0

▽二塁打　金沢、浦林、柴崎2　時間42分

明治安田

	打	安	点
⑧ 伊藤	3	1	0
④ 新城	2	0	0
4 金子	2	0	0
⑥ 高瀬	3	0	0
D 尾藤	3	0	0
⑨ 永廣	3	0	0
③ 福岡	3	1	0
H 日置	1	0	0
⑤ 橘内	2	0	0
② 森川	2	0	0
⑦ 齋藤	2	0	0
計	23	2	0

ヤマハ

	打	安	点
⑨ 舟久保	2	1	0
③ 秋利	4	2	0
⑦ 網谷	4	1	2
D 森川	3	3	2
④ 永濱	2	2	1
5 藤岡	0	0	0
⑤ 4 小林	3	0	0
② 大本	3	3	1
⑥ 相羽	3	2	0
⑧ 西村	2	0	0
H 清水	1	0	0
8 前野	0	0	0
計	27	14	6

	捕	刺	盗	失	残	併
明振	6	2	0	0	1	1
ヤ	6	2	1	1	0	0

投	手	回	安	責
岡	田	1⅔	7	5
三	宮	4⅓	7	1
沢	山	5	1	0
清	水蓮	1	0	0
佐	藤	1	1	0

▽二塁打　伊藤、日置、森川、大本、秋利▽暴投　岡田▽1時間56分

沖縄電力

	打	安	点
⑧ 宮山石小田平與大金石嘉山	5	1	1
D 國城垣濱場良谷城城原數川	4	2	0
H	1	0	0
⑥	5	3	1
⑤	3	3	2
③	4	2	2
④	5	3	2
⑨	5	2	1
⑦	5	2	0
②	0	0	0
H 2	1	0	0
計	39	18	8

東海REX

	打	安	点
D 山吉市大筒長勝宮岡平中阿室宮	4	0	0
⑥ 本村丸塚井南盛坂田野川保本本	3	1	0
H	4	0	0
⑧ 9	4	0	1
③	1	0	0
⑦ 8	4	2	0
⑨	4	2	0
H 7	1	0	0
⑤	0	0	0
② H 2	4	1	1
④	2	0	0
	0	0	0
	1	0	0
	3	0	0
計	30	5	4

	捕	刺	盗	失	残	併
沖振	6	3	5	2	11	1
東	6	8	1	0	8	2

投	手	回	安	責
内	間	5	3	3
新	垣	1	1	0
元		⅔	0	1
安	里	1⅓	0	0
亀	里	1	1	0
荒	木	4	⅓ 9	3
浦	本	2	⅓ 3	1
奥	田		⅔ 1	0
池	戸		⅔ 5	0
徳	永		⅔ 0	0
佐	伯	1	0	0

▽二塁打　長南2▽3時間17分

西濃運輸

	打	安	点
⑦ 福島	4	1	0
⑨ 佐向	4	1	0
D 野崎	4	0	0
⑤ 小中	4	0	0
⑧ 原田	4	1	0
② 城野	4	2	0
⑥ 北田	4	0	0
④ 宮田	3	1	0
H ③ 河福山	3	2	0
計	35	8	1

JR東海

	打	安	点
⑥ 吉田	3	1	2
⑤ 山澤	3	1	1
⑨ 三村	3	0	0
⑧ 水谷	3	1	0
③ 平野	3	0	1
② 牛場	4	1	0
D 富田	3	1	0
④ 山崎	3	0	0
⑦ 松野	3	0	0
計	28	5	4

	捕	刺	盗	失	残	併
西振	9	0	0	1	2	1
J	5	3	2	0	4	0

投	手	回	安	責
摺	石	8	5	5
柳	橋	4	4	1
辻	井	4	3	0
喜久	川	1	1	0

▽二塁打　城野▽2時間29分

NTT西

	打	安	点
⑥ 成藤酒山中井串小後	4	0	0
⑨ 瀬井井田村上畑泉藤	4	2	1
③	4	2	2
⑤	4	5	2
⑦	3	3	0
D	3	1	0
⑧	4	1	1
②	4	0	0
④	4	2	0
計	34	9	5

東京ガス

	打	安	点
D 加藤	4	0	0
⑨ 楠	4	2	0
⑤ 仲侯	4	2	0
③ 内海	4	1	1
⑦ 冨岡	4	1	0
⑧ 中尾	4	1	0
④ 相馬	3	0	0
H 竹村	1	0	0
② 馬場	3	0	0
⑥ 山崎	3	0	0
計	34	7	1

	捕	刺	盗	失	残	併
N振	8	4	2	1	1	8
東	7	0	0	0	0	6

投	手	回	安	責
高	井	9	7	1
高	橋	4	⅓ 7	5
稲	葉	2	⅔ 2	0
村	上	2	0	0

▽本塁打　酒井（高橋）▽二塁打　楠、山田2、藤井、藤▽2時間35分

満塁から鈴木の適時打などで追いつき、再度の満塁から金沢の走者一掃三塁打で勝ち越した。日本製鉄鹿島は先発の山口が7回を1失点と好投したが、救援陣が乱れた。

東海理化集中打光る 王子投手踏ん張れず

王子（1敗1分け）
001 100 0 — 2
000 400 5 — 9
東海理化（2勝）

（七回コールド）

東海理化は七回1死満塁から、3連続長短打を集め、さらに敵失が絡んでこの回、一挙に5点を挙げてコールド勝ち。王子は2点をリードしたものの、四回に先発の中島が急に崩れ、七回には守備の乱れも出てしまった。

沖縄電力の平良が全打点 明治安田3連続零封負け

▽Aブロック
沖縄電力（2勝1敗）
000 001 010 — 2
000 000 000 — 0
明治安田（3敗）

沖縄電力は六回1死一、三塁から平良の犠飛で均衡を破ると、八回にも平良の右前適時打で貴重な追加点を挙げた。投げては山城以下3投手で相手を零封した。明治安田は打線に元気なく3試合連続の無得点負け。

○…清水庵原球場…○

西濃運輸18安打の猛攻 小中サイクル安打達成

▽Dブロック
西濃運輸（1勝1敗）
104 122 0 — 21
000 000 0 — 0
IMF BANDITS富山（2敗）

（七回コールド）

西濃運輸打線がIMF BANDITS富山の3投手に、3本塁打を含む18安打を浴びせてコールド勝ち。4番の小中が五回に本塁打を放ち、サイクル安打を達成、6打点と活躍した。IMF BANDITS富山は投手陣が12四死球と乱れた。

JR東海（2勝）
不戦勝（1―0）
JFE東日本（1勝1敗）

NTT西終盤に集中打 ジェイプロ打線振るわず

▽Cブロック
NTT西日本（2勝1敗）
020 010 06 — 9
001 000 00 — 1
ジェイプロジェクト（3敗）

（八回コールド）

NTT西日本は八回2死満塁から、9番後藤が走者一掃の三塁打を放つなど、一挙6点を挙げて試合を決めた。

ジェイプロジェクトは四回以降2安打のみ。七回まで好投した先発の鶴我に応えられなかった。

◇**第4日**（4月6日）
（予選リーグ）

○…清水庵原球場…○

▽Dブロック
西濃運輸（2勝1敗）
不戦勝（1―0）
JFE東日本（1勝2敗）

ジェイプロ

	打	安	点
④ 片平	5	2	0
D 岡田	3	1	0
⑨ 上橋	4	3	2
⑦ 宮富	3	3	2
③ 橋木	4	3	0
⑤ 富神	3	4	2
② 木宮	4	2	0
⑥ 神内	3	4	0
⑧ 宮農	4	4	1
計	32	8	4

トヨタ

	打	安	点
④ 熊	2	1	0
田	2	0	1
5 泉	3	0	1
⑤ 4 佐藤	3	4	1
⑨ 宮崎	4	1	2
⑧ 逢澤	4	2	0
③ 北村	2	1	0
⑥ 和田	2	1	0
D 八木	1	0	0
H D 三塚	1	0	0
② 福井	1	4	2
⑦ 徳本	4	4	1
計	27	6	5

	6	4	2	1	0	7	1
	ジ	振	球	犠	盗	失	残	併
	ト	8	9	1	0	0	8	0

	投	手	回	安	責
鎌	鎌田	片	2	3	3
満	満中	菅	4	2	1
後	後	藤	5	5	1
渕	細渕	上	2	3	0

▽本塁打 ジェイプロ＝宮崎（鎌田）
▽二塁打 岡、福井、片村、北村、満田
▽暴投 後藤
▽時間 2時間56分

日鉄鹿島

	打	安	点
④ 崎	5	3	2
⑤ 村	4	0	0
③ 里	4	0	0
⑦ 目	4	1	0
D 田	3	0	0
R ⑨ 山	0	1	1
⑥ 駿	4	1	0
② 間	4	2	0
⑧ 村	4	1	0
H 山田	3	0	0
計	35	10	4

JR東北

	打	安	点
④ 6 浦	4	2	0
⑤ 林	5	2	1
⑨ 藤	4	1	3
⑧ 波	4	3	0
⑦ 沢	3	0	0
③ 本	3	3	1
D 山	3	0	2
R ⑥ 西	3	1	0
H ② 木	4	3	1
計	33	9	7

	日	5	2	0	1	1	6	0	0
		振	球	犠	盗	失	残	併	
	J	9	7	0	0	2	1	8	2

	投	手	回	安	責
投	投山	直	7	5	1
口	口坂	本	⅓	0	2
城	金佐	城	⅔	2	2
田	佐工	藤藤	6⅔ 2⅓	9 1	4 0

▽本塁打 西山（山口）大三塁打 打間
▽二塁打 墨田、池間
▽時間 2時間31分
▽暴投 宮崎

王子

	打	安	点
⑧ 崎	4	0	0
⑥ 川	4	0	0
D 岡	4	0	0
③ 島	3	1	0
⑨ 井	2	2	0
⑦ 口	2	1	0
⑤ 杉	1	3	1
② 川	3	2	1
④ 前	3	2	1
5	0	0	0
②	0	0	0
④	0	0	0
計	28	8	0

東海理化

	打	安	点
⑧ 木	4	0	0
⑨ 村	3	1	0
③ 本	3	1	0
D 藤	4	0	0
R ⑦ 叶	3	2	1
⑤ 木	4	2	4
④ 田	4	2	0
② 上	4	3	3
⑥ 野	3	0	0
H 間	1	0	0
6 貝	0	0	0
藤	0	0	0
計	30	12	8

	王	0	1	1	0	2	7	0
		振	球	犠	盗	失	残	併
	東	7	5	2	0	2	11	2

	投	手	回	安	責
投	投中	島	3	5	4
田	田中	中崎	⅓ ⅓	1 0	0 0
宮	宮登	坂	2 ⅓	3 0	2 2
浅	浅	井	⅓	3	1
新	新生	地目	4	1	2 0
高	高	橋田	1	1	0 0
池	池	田	1	2	0

▽二塁打 墨田、池間、横井、川崎3
▽暴投 宮崎2
▽ボーク 宮崎
▽時間 36分

沖縄電力

	打	安	点
⑧ 宮	5	0	0
山	2	0	0
小	3	2	0
田	2	1	0
平	3	1	2
與	4	3	0
大	3	1	0
嘉	3	0	0
金	1	0	0
上	3	0	0
石	4	1	0
計	30	5	2

明治安田

	打	安	点
⑧ 伊	4	2	0
④ 新	3	0	0
H 岸	1	0	0
4 金	4	0	0
⑥ 高	4	0	0
D 尾	4	0	0
⑨ 永	3	1	0
H 生	3	1	0
③ 福	2	2	0
⑤ 橘	2	2	0
H 5 日	2	2	0
② 森	3	2	0
⑦ 齋	3	2	0
H 7 森	2	1	0
計	32	7	0

	沖	4	4	3	0	1	8	1
		振	球	犠	盗	失	残	併
	明	8	2	0	0	1	7	0

	投	手	回	安	責
投	投山	城	7	7	0
安	安亀	里	1	0	0
松	松中	下崎	7	⅔ ⅔	4 1
石	石	毛		⅔	0

▽二塁打 墨田2、原田11
▽暴投 伊藤
▽時間 2時間

◇**第5日**（4月7日）
（予選リーグ）
○…浜松球場…○

ヤマハ12安打で快勝 REX投手陣粘れず

▽Aブロック
ヤマハ（3勝）
030 004 012 10
000 100 100 2
日本製鉄東海REX（1勝2敗）

ヤマハは六回、3連打で1点を追加した後、網谷が左翼へ3ラン。八回には小林も左翼へソロを放つなど、12安打で10点を奪った。東海REXは先発の佐伯を含め、4投手がいずれも不調に終わった。

王子2死から集中打 3投手で鹿島を零封

▽Bブロック
王子（1勝1敗1分け）
000 030 300 6
000 000 000 0
日本製鉄鹿島（3敗）

王子は五回2死無走者から、宝島と横井の連打で先制すると、押し出しなどで計3点をリード。七回にも横井の本塁打などで追加点を挙げた。日本製鉄鹿島は毎回走者を出したが、打線につながりを欠いた。

投手陣ともに好投 終盤は双方無安打

東海理化（2勝1分け）
000 100 000 1
000 100 000 1
JR東日本東北（1勝2分け）

東海理化が四回に9番角田の適時打で先制すると、JR東日本東北もその裏、連打と野選で追いついた。その後は東海理化の池田、JR東日本東北の武田、津高の各投手が好投した。

○…清水庵原球場…○

トヨタ1点を守り切る 池村と嘉陽零封リレー

▽Cブロック
トヨタ自動車（3勝）
001 000 000 1
000 000 000 0
東京ガス（1勝2敗）

トヨタ自動車は三回、1死満塁から小畑の中犠飛で先制した。

西濃運輸

		打	安	点
⑧	河佐	5	2	3
⑨	渡野	3	2	0
9	角小	1	0	0
D	大原	3	1	1
H	修譽	1	0	0
⑤	業北	1	0	0
H	長宮	3	2	1
⑦	福河	3	2	1
H	田向	3	2	1
②	邉崎	3	2	0
H	尾中	1	0	0
⑥	山田	3	2	1
6	行田	3	2	1
5	天野	3	2	1
6	屋田	3	1	0
④	山西	1	0	0
③	3	1	0	0
	計	38	18	17

IMF富山

		打	安	点
④	高	3	0	0
②	大	3	0	0
⑤	西	3	3	0
R	松	0	0	0
③	須	3	0	0
D	北	2	0	0
H	徳	0	0	0
⑥	小	3	0	0
⑨	園	3	0	0
⑧	中	2	1	0
⑦	小	1	0	0
	計	23	4	0

	1	12	1	4	0	9	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
I	8	2	0	0	2	4	2

投	手	回	安	責
森	岡	5	3	0
川	井	1	0	0
庄	司	1	1	0
須	田	2 ⅔	6	5
元	木	⅔	3	5
水	口	3 ⅔	9	11

▽本塁打　原田（須田）誉田（水口）小中（水口）
▽三塁打　小中▽二塁打　佐向、小中、河田、業天、西丸▽暴投　須田、元木▽2時間30分

NTT西

		打	安	点
⑥	成	4	1	0
⑨	瀬	4	1	0
③	井井	2	1	1
R	5 丸	0	0	0
⑤	3 田	4	2	0
⑦	村	2	1	0
D	上	4	0	1
⑧	畑	3	1	1
②	本	4	2	1
④	後藤	2	1	3
	計	29	9	7

ジェイプロ

		打	安	点
④	片岡	4	0	0
D	平田	3	1	1
⑨	上宮田	3	1	0
⑦	橋本	3	2	0
③	富川	3	0	0
⑤	木内	3	0	0
②	神農	3	0	0
⑥	宮内	2	1	0
⑧	岡田	2	0	0
	計	26	5	1

N	5	7	1	0	0	4	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
ジ	7	2	1	0	1	4	3

投	手	回	安	責
濱	崎	5 ⅔	4	1
大	江	2 ⅓	1	0
靏	我	7 ⅔	8	7
大久保		⅓	1	0

▽三塁打　山田、農
後藤▽捕逸　神2▽2時間21分

▽本塁打　網谷（浦本）小林（荒木）筒井（金原）
▽三塁打　秋利▽二塁打　大塚▽3時間6分

ヤマハ

		打	安	点
⑨	舟	2	1	1
9	中	1	0	3
③	秋	3	2	0
R	4 土	3	0	0
⑦	網	2	1	3
D	森	5	2	0
⑥	永	1	0	0
6	相	4	1	0
②	大	4	1	0
2	清	3	1	0
⑤	3 藤	3	2	0
⑧	西	3	1	0
H	前	3	1	0
④	8 小	2	1	2
5	久保	5	2	1
	計	39	12	10

東海REX

		打	安	点
⑨	山	3	1	0
⑥	本々	3	1	0
H	6 村	1	0	0
⑧	吉塚	4	1	0
D	大筒	3	2	1
⑦	長井	3	2	0
③	宮南	2	0	0
H	市坂	3	0	0
3	岡丸	1	0	0
⑤	平田	1	0	1
②	室野	4	2	0
H	阿木	1	0	0
4	宮保	4	0	0
	計	32	7	2

ヤ	6	6	0	0	0	8	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
東	11	4	0	0	1	7	1

投	手	回	安	責
金	原	5	4	1
吉	山沢	2	2	1
寺	田	1	1	0
梅			0	0
佐	伯	2	2	3
池	戸	2 ⅔	5	3
浦	本木	1 ⅓	2	1
荒		2	3	3

▽本塁打　横井（塩）二塁打　井打▽暴投　三塁▽塩島、樋口、宝島2分
時間7分

王子

		打	安	点
⑧	柴	5	0	0
⑥	中	4	1	0
D	吉	4	0	0
H	廣	4	1	0
③	宝	5	4	2
⑨	横	4	1	3
⑦	山ノ	3	0	0
H	神	1	0	0
R	7 賀	4	3	1
⑤	大	3	0	0
②	細	3	1	0
2	石	3	0	0
H	2 鈴	1	0	0
④	前	0	0	1
4	木	2	2	1
	計	34	11	4

日鉄鹿島

		打	安	点
⑥	田	5	0	0
⑤	樫	4	2	0
D	松	2	0	0
H	D 山	3	2	0
⑦	田生	4	0	0
③	今	4	1	0
⑧	山	1	3	2
②	穴	3	3	0
H	2 揚	3	0	0
④	冨	3	1	0
9	山	3	1	0
	計	31	7	0

王	5	10	3	1	1	14	3
	振	球	犠	盗	失	残	併
日	8	7	1	1	1	12	3

投	手	回	安	責
九	谷	5	4	0
三	島	1	0	0
樋	口	3	3	0
楠	本	4	7	3
坂	本	⅔	0	0
古	川	⅓	0	0
	塙	2	3	3
土	屋	2	1	0

▽本塁打　打（塙）▽暴投　二塁▽宝島、樋口、塙
時間7分

東海理化

		打	安	点
⑧	木	4	1	0
⑨	福	3	1	0
③	武	3	0	0
D	門	2	0	0
H	井	2	0	0
⑦	河	3	0	0
H	7 齋	1	0	0
⑤	川	4	2	0
④	中	4	1	0
②	池	3	0	0
6	角	3	1	1
	計	32	6	1

JR東北

		打	安	点
⑥	浦	4	1	0
⑤	工	4	1	0
⑨	金	2	2	0
⑧	橋	4	1	0
⑦	丸	4	0	1
③	大	4	0	0
D	鈴	4	1	0
②	小	3	0	0
H	矢	3	0	0
④	山	3	0	0
	計	33	6	1

投	手	回	安	責
池	田	9	6	1
武	田	7	6	1
津	髙	2	0	0

▽二塁打　木村▽2時間8分
暴投　池田▽2

すると、先発の池村から八回には嘉陽につなぎ、1点を守り切った。東京ガスは九回、連打で1死一、二塁の好機を作ったが、後続が抑えられた。

JR東海の平野が活躍 IMF富山3安打のみ

▽Dブロック

IMF BANDITS富山（3敗）
001 000 000 1
100 110 00×
3

JR東海（3勝）

JR東海は四回、平野の右越えソロで勝ち越すと、五回にも平野が無死一、三塁から中前に適時打を放ち追加点を挙げた。IMF BANDITS富山は三回、大川の犠飛で追いついたが、それ以降は1安打に抑えられた。

JR東海牛場逆転3ラン

東海理化打線4安打のみ

◇最終日（4月8日）

（決勝トーナメント）

○…清水庵原球場…○

▽準決勝

東海理化
001 000 000 1
000 003 30×
6

JR東海

JR東海は六回2死一、三塁から、牛場の3ランで逆転。続く七回にも3番三村、4番水谷祥の連続適時打で突き放した。東海理化は三回、3連打で先制したものの、その後は1安打に終わった。

トヨタ序盤に大量点

ヤマハ投手陣が乱調

トヨタ自動車は一回1死満塁から暴投で先制すると、3本の適時打で5点を先取。追い上げられた六回には6安打を集めて試合を決めた。ヤマハ
000 004 0
530 005 ×
13 4
トヨタ自動車

（七回コールド）

トヨタ

		打	安	点
⑦	徳	4	1	0
③	本村	4	3	1
④	佐藤	4	2	0
⑧	逢澤	3	0	0
D	小畑	3	0	1
⑥	和田	3	0	0
②	福井	4	2	0
⑤	今泉	4	2	0
⑨	坂巻	3	1	0
	計	31	7	1

東京ガス

		打	安	点
⑧	中尾	4	1	0
④	相馬	3	0	0
6	山崎	3	0	0
H	飯内	3	1	1
⑤	仲森	4	2	0
③	北侯	4	0	0
⑥	竹本	2	0	0
H 4	冨村	2	0	0
⑦	藤岡	3	0	0
⑨	澤楠	3	1	0
D	原	3	0	0
②	津	3	1	0
	計	32	6	0

ト	8	3	1	1	0	7	0	0
	振	球	犠	盗	失	残	併	
東	8	0	0	0	1	5	0	

投	手	回	安	責
池	田	7	4	0
嘉	陽	2	2	0
野	澤	2	⅔ 4	1
寺	沢	3	⅓ 1	0
臼	井	3	2	0

▽2時間34分

IMF富山

		打	安	点
④	高橋	3	0	0
H	園田	1	0	1
②	大西	3	0	1
⑤	須藤	4	1	0
③	弘辻	3	1	0
D	徳上	3	0	0
⑥	小坂	3	0	0
⑨	中村	3	0	0
⑧	小貝	3	1	0
⑦		3	0	0
	計	29	3	1

JR東海

		打	安	点
⑥	吉田有	2	0	0
4	佐々木	1	0	0
⑤	山澤	4	0	0
⑨7	三村	2	0	0
H 9	山本	2	0	0
⑧97	水谷祥	4	2	1
③	平野場	4	3	2
②	牛須	1	0	0
2	富永田	1	1	0
D	堀尾	1	0	0
HD	下山	0	0	0
RD 6	山崎	4	0	0
④	松野	2	0	0
⑦	吉田隼	2	1	0
H 8				
	計	31	8	3

I	1	1	0	1	0	1	2	0
	振	球	犠	盗	失	残	併	
J	5	6	2	0	0	12	1	

投	手	回	安	責
高	根澤	3 ⅔	2	2
五	味	5	6	1
辻	井	3	2	1
林	山	2	1	0
水谷	健	3	0	0
戸	田	1	0	0

▽本塁打 平野（高根澤）▽二塁打 西丸、中村▽暴投 高根澤▽2時間11分

東海理化

		打	安	点
⑧	木村	4	2	0
⑨	本藤	4	1	1
③	川叶	4	0	0
D	田藤	4	2	0
⑦	上野	4	1	0
H	木間	3	1	0
⑤	辻村	3	0	0
④	上貝	3	1	0
H	木間	1	0	0
②	池角	3	1	0
⑥	田			
	計	31	4	1

JR東海

		打	安	点
⑥	吉田有	4	0	0
⑤	山澤	4	3	0
⑨	三村	3	1	1
⑧	水谷祥	3	2	2
③	平野場	4	1	0
②	牛富田	3	1	3
D	山本	3	0	0
HD	山崎	1	0	0
④	崎	3	0	0
⑦	松野	2	1	0
	計	30	9	6

東	9	3	0	1	0	6	1	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
J	2	3	1	1	0	4	0	

投	手	回	安	責
金	田	5	3	0
高	橋	1	2	3
生	田目		⅔ 3	3
近	藤		⅓ 1	0
北	添	1	0	0
不	後	9	4	1

▽本塁打 牛場（高橋）▽二塁打 村▽暴投 三村、平野▽2時間25分

ヤマハ

		打	安	点
⑨	舟久保	4	1	0
③	秋網	4	2	0
⑦	谷川	4	1	0
D	森永	4	3	0
④	廣本	3	2	0
②	大小	3	2	0
⑤	林羽	3	3	1
⑥	小相	3	1	0
⑧	西村	3	1	0
	計	30	10	4

トヨタ

		打	安	点
⑤	熊田	4	1	1
③	北佐	1	0	1
④	藤澤	5	2	2
⑧	逢小	3	3	0
D	和畑	3	1	2
⑥	宮田	2	1	0
⑨	崎	3	2	2
②	福井	4	2	3
⑦	徳本	4	1	1
	計	29	13	12

ヤ	5	0	0	0	0	5	0	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
ト	4	9	1	0	1	8	2	

投	手	回	安	責
清	水田	1	3	5
北	山		⅔ 2	3
沢	藤	3	⅓ 2	0
佐		1	6	5
増	居	6	9	4
山	内	1	1	0

▽本塁打（増居）▽暴投 清水2▽時間 2時間50分

トヨタ

		打	安	点
⑤	熊田	4	1	3
③	北佐	3	0	0
④	佐藤	5	2	2
⑧	逢澤	3	1	1
D	小畑	5	2	0
⑥	和田	4	3	0
⑨	宮崎	4	3	2
②	福井	4	3	1
⑦	徳本	4	3	2
H 8	八木	1	1	0
	計	35	13	6

JR東海

		打	安	点
⑥	吉田有	4	2	1
⑤	山澤	4	1	0
⑨	三村	4	3	1
⑧	水谷祥	4	3	4
③	平野	5	1	1
②	牛場	1	1	0
R 2	須永	2	1	0
D	富田	3	1	1
HD	山本	1	0	0
④	山崎	3	0	0
H	下々木	0	0	0
4	佐山	0	0	0
⑦	松野	2	0	0
	計	33	13	8

ト	8	5	2	0	1	9	1	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
J	7	5	3	0	0	8	2	

投	手	回	安	責
後	藤	⅓	5	4
加	藤	2 ⅔	2	2
細	川	2	2	0
渕	上	3	4	3
川	本	5	⅓ 7	3
林	山		⅔ 1	0
辻	井	1	3	2
喜	久川	2	2	1

▽三塁打 村▽二塁打 徳本、三村▽佐藤、逢澤、徳澤、後藤▽3時間2分
▽暴投 川本

JR東海打力で栄冠

トヨタ追い上げ及ばず

ハは一回、四死球や暴投が失点に絡むなど、投手陣の不調が誤算だった。

▽決勝

トヨタ自動車　001 020 210 6
JR東海　420 001 02× 9

1点差に追い上げられたJR東海は八回、4番水谷祥のこの試合3本目の適時打などで突き放した。水谷祥は4打点の活躍。トヨタ自動車は序盤の大量失点を粘り強く追いかけたが及ばなかった。

㊫…表彰選手…㊫

◇最高殊勲選手賞
水谷　祥平・外野手（JR東海）

◇敢闘賞
増居　翔太・投手（トヨタ自動車）

◇首位打者賞
水谷　祥平・外野手（JR東海）＝14打数8安打、打率5割7分1厘

◇最優秀新人賞
山澤　太陽・内野手（JR東海）

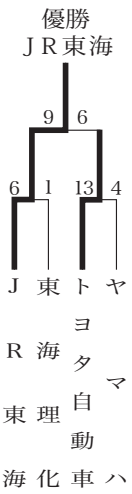
第71回大会・熱戦の軌跡

Aブロック	明治安田	日本製鉄東海REX	ヤマハ	沖縄電力	勝	敗	順位
明治安田	㊫	●0－2	×0－7	●0－2	0	3	4
日本製鉄東海REX	○2－0	㊫	●2－10	●4－9	1	2	3
ヤマハ	◎7－0	○10－2	㊫	○5－2	3	0	1
沖縄電力	○2－0	○9－4	●2－5	㊫	2	1	2

Bブロック	日本製鉄鹿島	東海理化	JR東日本東北	王子	勝	敗	順位
日本製鉄鹿島	㊫	●3－4	●4－8	●0－6	0	3	4
東海理化	○4－3	㊫	△1－1	◎9－2	2	0	1
JR東日本東北	○8－4	△1－1	㊫	△3－3	1	0	2
王子	○6－0	×2－9	△3－3	㊫	1	1	3

Cブロック	NTT西日本	トヨタ自動車	東京ガス	ジェイプロジェクト	勝	敗	順位
NTT西日本	㊫	●3－6	○5－1	◎9－1	2	1	2
トヨタ自動車	○6－3	㊫	○1－0	○5－4	3	0	1
東京ガス	●1－5	●0－1	㊫	○2－0	1	2	3
ジェイプロジェクト	×1－9	●4－5	●0－2	㊫	0	3	4

Dブロック	IMF BANDITS富山	JFE東日本	西濃運輸	JR東海	勝	敗	順位
IMF BANDITS富山	㊫	●4－14	×0－21	●1－3	0	3	4
JFE東日本	○14－4	㊫	×0－1	×0－1	1	2	3
西濃運輸	◎21－0	◎1－0	㊫	●1－5	2	1	2
JR東海	○3－1	◎1－0	○5－1	㊫	3	0	1



Mizuno

静岡大会・決勝戦一覧

	優勝チーム	優勝	預かり	準優勝チーム	開催地
第１回（昭28年）					静岡県営
第２回（〃29年）		〃			〃
第３回（〃30年）	大昭和製紙	12―2		熊谷組	〃
第４回（〃31年）	日本石油	4―0		大昭和製紙	〃
第５回（〃32年）	全鐘紡	6―5		大昭和製紙	〃
第６回（〃33年）	大昭和製紙	1―0		日本鋼管	〃
第７回（〃34年）	電電東京	4―0		いすゞ自動車	〃
第８回（〃35年）	リッカーミシン	7―0		三協精機	〃
第９回（〃36年）	日本ビール	5―0		大昭和製紙	沼津市営
第10回（〃37年）	東レ滋賀	5―2		日本軽金属	〃
第11回（〃38年）	東レ滋賀	4―0		大昭和製紙	〃
第12回（〃39年）	日本通運	4―2		積水化学	〃
第13回（〃40年）	大昭和製紙	1―0		日本軽金属	〃
第14回（〃41年）	大昭和製紙	7―1		日本楽器	〃
第15回（〃42年）	松下電器	7―0		日本生命	静岡県営
第16回（〃43年）	日本通運	1―0		昭和製紙	〃
第17回（〃44年）	河合楽器	6―2		日本通運	〃
第18回（〃45年）	大昭和製紙	6―2		大昭和北海道	〃
第19回（〃46年）	熊谷組	7―4		三協精機	〃
第20回（〃47年）	日立製作所	4―1		三協精機	沼津市営
第21回（〃48年）	日本楽器	7―2		本田技研鈴鹿	浜松市営
第22回（〃49年）	大昭和北海道	6―3		三協精機	静岡県営
第23回（〃50年）	日本鋼管	3―2		大昭和製紙	〃
第24回（〃51年）	大昭和北海道	5―0		日本鋼管福山	静岡・浜松
第25回（〃52年）	三協精機	3―2		西濃運輸	〃
第26回（〃53年）	いすゞ自動車	5―4		電電信越	静岡・磐田
第27回（〃54年）	大昭和製紙	1―0		大昭和北海道	〃
第28回（〃55年）	大昭和製紙	2―1		電電東京	静岡・浜松
第29回（〃56年）	富士重工業	4―1		大昭和製紙	浜松・富士
第30回（〃57年）	河合楽器	4―2		ヤマハ発動機	静岡・浜松
第31回（〃58年）	日本鋼管	2―1		電電信越	〃
第32回（〃59年）	日本鋼管	4―3		日本楽器	〃
第33回（〃60年）	河合楽器	8―1		リンスホテル	〃
第34回（〃61年）	日産自動車	3―2		NTT四国	〃
第35回（〃62年）	NTT東京	7―6		日産自動車	〃
第36回（〃63年）	富士重工業	3―1		ヤマハ	〃
第37回（平１年）	プリンスホテル	4―2		日立製作所	浜松・富士
第38回（〃２年）	日産自動車	6―2		河合楽器	〃
第39回（〃３年）	日産自動車	8―1		NTT東京	〃
第40回（〃４年）	三菱重工神戸	8―4		NTT信越	浜松・静岡
第41回（〃５年）	ヤマハ	6―2		リンスホテル	浜松・富士
第42回（〃６年）	プリンスホテル	6―2		NTT北陸	〃
第43回（〃７年）	日産自動車	4―3		西濃運輸	〃
第44回（〃８年）	本田技研鈴鹿	7―6		三菱重工長崎	〃
第45回（〃９年）	日産自動車	14―1		JR東海	浜松・静岡
第46回（〃10年）	JR九州	10―3		河合楽器	〃
第47回（〃11年）	新日鐵八幡	7―3		松下電器	〃
第48回（〃12年）	日産自動車	11―4		東芝	〃
第49回（〃13年）	日産自動車	14―4		河合楽器	〃
第50回（〃14年）	ヤマハ	9―5		一光	〃
第51回（〃15年）	三菱重工神戸	6―5		新日本石油	〃
第52回（〃16年）	日産自動車	10―8		Honda鈴鹿	〃
第53回（〃17年）	三菱重工名古屋	4―1		一光	〃
第54回（〃18年）	日産自動車	11―4		三菱重工神戸	〃
第55回（〃19年）	Honda	2―0		かずさマジック	〃
第56回（〃20年）	Honda	4―3		ヤマハ	〃
第57回（〃21年）	JR東日本	6―5		Honda	〃
第58回（〃22年）	セガサミー	3―0		三菱自動車岡崎	浜松・静岡・清水
第59回（〃24年）	トヨタ自動車	4―2		日立製作所	〃
第60回（〃25年）	JR東海	3―2		富士重工業	浜松・清水
第61回（〃26年）	鷺宮製作所	7―0		三菱重工長崎	浜松・静岡・清水
第62回（〃27年）	Honda	2―0		トヨタ自動車	浜松・静岡・清水・磐田
第63回（〃28年）	東邦ガス	2―0		三菱自動車岡崎	浜松・静岡
第64回（〃29年）	東京ガス	6―4		ヤマハ	浜松・清水
第65回（〃30年）	三菱重工名古屋	5―4		JR東日本	〃
第66回（〃31年）	王子	13―2		鷺宮製作所	〃
第67回（令３年）	東海理化	3―2		ヤマハ	〃
第68回（〃４年）	日本製鉄鹿島	2―1		王子	〃
第69回（〃５年）	ヤマハ	7―2		NTT東日本	〃
第70回（〃６年）	NTT東日本	4―0		ヤマハ	〃
第71回（〃７年）	JR東海	9―6		トヨタ自動車	〃

第１回大会：参加４チーム、リーグ戦形式で行われ、大昭和製紙、三重交通は２勝１敗で優勝預かりとなった。
第２回大会：参加６チーム、トーナメント戦で行われ、決勝は大昭和製紙―日本鋼管の対戦となったが、延長11回、１―１で日没引き分けとなり優勝預かりとなった。
※平成23年は東日本大震災のため大会中止
※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

JFE西日本が初優勝

第53回　JABA四国大会

決勝で東芝を零封

筒井投手（JFE西日本）がMVP

第53回JABA四国大会は4月4日から8日まで、徳島・JAアグリあなんスタジアム、むつみスタジアムで行われ、JFE西日本が決勝で東芝を破り、初優勝を果たした。

大会には16チームが参加し、4ブロックに分かれて予選リーグを戦い、各組1位が決勝トーナメントに進出した。

準決勝ではJFE西日本がホンダ熊本を6―3で降し、日本生命を8―3で退けた東芝と決勝で対戦。JFE西日本が一回に挙げた2点を守り切った。

最高殊勲選手賞には決勝で好投したJFE西日本の筒井恒匡投手、敢闘賞は東芝の北村智紀投手、首位打者賞にはJFE西日本の原俊太内野手（22打数9安打、打率4割9厘）が選ばれた。

各ブロックは次の通り。

【A】アークバリア、日本通運、シティライト岡山、ホンダ熊本

【B】JR四国、三菱自動車岡崎、日本生命、日本製鉄山口

【C】四国銀行、東芝、ミキハウス、KMG

【D】徳島IS、NTT東日本、JFE西日本、JR九州

◇第1日（4月4日）

（予選リーグ）

○…JAアグリあなんスタジアム…○

ミキハウス猪原3ラン KMG守備のミス響く

▽Cブロック

ミキハウス（1勝）				
000	411	2		8
000	000	1		1
KMG（1敗）				

（七回コールド）

ミキハウスは四回、相手失策で先制した後、猪原が3ラン。七回には1死満塁から菊田の2点適時打で試合を決めた。KMGは守備の乱れから先取点を許し、七回に一矢を報いるのがやっと。

日本通運辛くも逃げ切る シティライト制球難響く

▽Aブロック

日本通運（1勝）				
201	041	000		8
210	020	020		7
シティライト岡山（1敗）				

日本通運は五回、横山の二塁打で勝ち越すと、北川、磯網にも適時打が出てリードを広げ、継投で逃げ切った。シティライト岡山も一度は逆転するなど粘りを見せたが、投手陣の9四死球が痛かった。

JR四国救援陣好投 日鉄山口一歩及ばず

▽Bブロック

JR四国（1勝）				
210	310	000		7
300	300	000		6
日本製鉄山口（1敗）				

同点の五回、JR四国は笹田が中前打から二盗を決め、吉岡の右前打で勝ち越した。日本製鉄山口も食い下がったが、中盤以降は救援陣に抑えられた。

○…むつみスタジアム…○

ホンダ熊本猛攻 11安打で13打点

▽Aブロック

アークバリア（1敗）				
000	000	1		1
103	146	×		15
ホンダ熊本（1勝）				

（七回コールド）

ホンダ熊本は4番の古寺が三回に3ランを放つなど、5番の稲垣とともに4打点の活躍。打線が畳みかけて大量点を奪った。アークバリアは七回、田上のソロで零封を免れた。

東芝4投手で零封リレー 四国銀行打線つながらず

▽Cブロック

四国銀行（1敗）				
000	000	000		0
010	101	10×		4
東芝（1勝）				

東芝は二回に齊藤のソロで先制すると、六回にも光本がソロを放つなど小刻みに得点し、4投手のリレーで四国銀行を零封した。四国銀行はいずれも単打の散発5安打に終わった。

徳島ISがサヨナラ勝ち 池田殊勲の中越え二塁打

▽Dブロック

JR九州（1敗）				
100	200	000		3
000	020	002		4
徳島IS（1勝）				

徳島ISは九回2死三塁から、森高の適時打で同点とし、

ミキハウス

点	0	1	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0
安	1	1	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0
打	3	3	3	3	3	2	4	3	1	3	1	0

⑥	④	⑦	③	D	⑨	⑤	②	H	⑧
浦藤澤	中尾原	田上井	内西野	河					
田伊島	田松猪	菊井坂	小大浅						
8									
2									

計　29　7　6

KMG

点	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
安	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0
打	3	2	3	3	3	3	2	1	3	3	2

④	⑤	⑦	③	⑧	D	H	②	⑥	⑨	
原岡野	野木	峯林	岡中島田							
三風河仁	吉田中角									

計　25　6　1

1	1	1	0	2	0	2	2			
併	責	残	安	盗	失	回	犠	球	振	
0	0	4	2	0	1	1	1	0	3	
	1	4	2	2	0	6	0	7	3	
						1				
						⅔				
手井	野原田崎									
投桜	平荻福川									

打投時
原墨暴2
猪二▽岡田
▽吉福
打）
墨野、分
本平田野、11
▽（
角平間

池田の中越え二塁打で代走の岩本が一塁から還り逆転サヨナラ勝ち。ＪＲ九州は八回、１死満塁の好機を逃したことが悔やまれる。

◇**第2日**（４月５日）
（予選リーグ）
○…ＪＡアグリあなんスタジアム…○

日本生命好機に長打 三菱岡崎投手粘れず

▽Ｂブロック
三菱自動車岡崎（１敗）
０００　１００　０１１　３
３００　０１１　２０×　７
日本生命（１勝）

日本生命は一回１死一、三塁から竹中の二塁打と高田の適時打で先制。七回にも木倉、池上の長打で突き放した。三菱岡崎も八回の菅原のソロなどで反撃したが、投手陣が踏ん張れなかった。

シティライト岡山集中打 ８番稲林が４打点の活躍

▽Ａブロック
シティライト岡山（１勝１敗）
０１０　１００　７　９
０００　０００　０　０
アークバリア（２敗）
（七回コールド）

シティライト岡山は七回、先頭の稲林がソロ本塁打を放つと、谷本の三塁打、打者一巡した稲林の二塁打などで７点を挙げ、突き放した。アークバリアは序盤の得点機を逃し、リズムをつかめなかった。

ホンダ熊本効率良く得点 日本通運好機を生かせず

日本通運（１勝１敗）
０００　１００　００１　２
０２０　０１０　００×　３
ホンダ熊本（２勝）

ホンダ熊本は二回、連続四球の後、養尾の適時打と江崎の犠飛で先制。五回も江頭に適時打が出て、３安打ながら効率よく得点した。日本通運は沓澤に本塁打は出たが、チャンスを生かせなかった。
○…むつみスタジアム…○

ＮＴＴ東日本が零封勝ち ＪＦＥ西日本４安打のみ

▽Ｄブロック
ＪＦＥ西日本（１敗）
０００　０００　０００　０
００２　０００　１０×　３
ＮＴＴ東日本（１勝）

ＮＴＴ東日本は三回、３番内山、４番石井の連続二塁打などで先制すると、七回には

日本通運

		打	安	点
⑦	横添	2	1	1
④	山田	2	1	0
⑧	川澤	2	1	1
⑨	銭里	4	1	2
9	網村	0	0	0
8	手西	5	0	0
③	磯木	5	1	2
D	稲山	5	1	0
⑥	垣本	5	0	0
⑤	本	4	3	0
②				
	計	34	9	6

岡山

		打	安	点
⑨	森	5	1	0
④	濱田	5	2	0
⑦	中松	5	3	2
D	小山	5	2	2
③	谷竹	5	2	1
⑧	本	4	1	2
②	東林	4	2	0
⑤	平野	5	2	0
③	稲林	3	1	0
④	田中	3	0	0
⑨	井瀬	1	1	0
H	石野	0	0	0
5	大増	0	0	0
R	野	0	0	0
⑥	田	1	0	0
H				
	計	38	13	7

日	9	9	1	3	0	9	0			
	振	球	犠	盗	失	残	併			
岡	9	6	1	1	2	11	2			

		回	安	責
投	手			
前	田	4	⅔	9	5
清	水	2	⅓	1	0
冨	士	1		2	2
松	澤	1		1	0
水	谷	4	⅔	4	6
金	津	1	⅔	2	1
藤	好	1	⅓	1	0
荒	田	2		2	0

▽本塁打　東海林（前田）▽二塁打　林（前田）、森田、稲山▽３時間15分

ＪＲ四国

		打	安	点
⑧	井	5	1	0
⑥	山	5	3	0
⑦	脇田	5	3	1
D	根崎	4	4	2
④	濃	4	0	0
③	田	3	1	0
⑨	岡下	4	2	1
②	野	4	3	1
⑤	神	4	1	3
	計	37	13	7

日鉄山口

		打	安	点
⑧	林	5	1	0
⑥	中	4	2	1
H	近石	3	1	0
⑦	野々	4	2	0
7	横	4	1	0
D	寺	4	0	0
②	坂	4	1	1
⑤	橋	4	1	3
③	坂	4	1	0
④	甲	4	2	0
⑨	山	3	0	0
H		3	3	0
		1	0	0
	計	35	10	6

Ｊ	8	2	0	2	1	5	0			
	振	球	犠	盗	失	残	併			
日	4	1	2	0	0	5	0			

		回	安	責
投	手			
川	合	5	⅔	10	6
桑	嶋	1		0	0
山	本	2	⅓	0	0
庄	田	3	⅓	7	6
加	納	2	⅔	6	1
下	江	2		0	0
	畝	1		0	0

▽本塁打　山根（庄田）森下（庄田）神野（庄田）寺嶋（川合）▽二塁打　甲斐（川合）▽２時間42分
森下▽２時間

アークバリア

		打	安	点
②	少	3	1	0
④	路	3	0	0
③	田	3	1	1
⑨	上	3	3	1
⑧	水	3	1	0
D	邉	3	1	0
⑤	本	3	0	0
⑦	田	3	0	0
⑥	嶋野	3	2	0
	計	24	6	1

Honda熊本

		打	安	点
⑨	山	1	1	0
R	本林	1	2	1
⑤	正江	1	1	0
H	頭	1	0	0
D	5 森	3	0	0
R	宮古	3	3	1
⑧	3 和	3	2	4
⑦	稲中	4	2	1
②	竹	4	2	1
H	7 葺	4	2	0
④	山江	2	2	0
⑥	高井	2	2	0
	計	30	11	6

ア	7	2	0	0	4	4	0			
	振	球	犠	盗	失	残	併			
H	3	8	2	2	1	7	2			

		回	安	責
投	手			
井	上	4	3	5	0
河	野		⅓	2	0
山	本		⅔	3	2
栗	山		⅔	2	1
坂	本	1		1	0
柳	澤	5		4	0
中	西	2		2	1

▽本塁打　田上（中西）古寺（井上）▽二塁打　大田（和水、山根、２時間13分

四国銀行

		打	安	点
⑦	大	3	1	0
④	神	4	1	0
D	谷野	4	2	0
9	南	2	0	0
⑥	田	1	0	0
⑨	北	4	2	0
⑤	柴大橋	3	0	0
H	3 川	3	1	0
③	村	3	1	0
②	瀬	3	1	0
⑧	井	3	1	0
1	河	3	1	0
	藤	0	0	0
	大	0	0	0
	真田	3	0	0
	計	31	5	0

東芝

		打	安	点
⑥	山	2	0	0
⑨	太	4	0	0
③	下	4	1	0
④	齊	4	1	1
⑧	光荻	3	1	1
②	中	2	1	1
2	村	0	0	0
⑦	南	2	0	0
H	水	0	0	0
R	7 中	0	0	0
D	天	1	0	0
⑤	大田	1	0	0
H	5 中	1	0	0
	計	24	4	3

四	6	2	0	0	1	6	3			
	振	球	犠	盗	失	残	併			
東	4	6	2	1	1	4	2			

		回	安	責
投	手			
井	池		⅓	0	0
菊	田	2		1	1
田	中	3		1	1
佐	井	1		2	1
藤		2		0	0
北	村	6		4	0
浅	野	1		0	0
工	藤	1		1	0
神	野	1		0	0

▽本塁打　齊藤（田井）光本（佐田）▽二塁打　荻原▽２時間12分

ＪＲ九州

		打	安	点
⑦	山	2	0	0
⑥	吉	0	0	0
④	七山	0	0	0
⑧	是	1	2	0
⑤	友	2	0	0
D	美	2	0	0
⑨	藤	1	0	0
②	平	3	0	0
③				
	脇	4	4	0
	田	4	0	0
	條	4	1	0
	田	4	2	0
	枝	4	3	0
	利	4	3	0
	澤	4	1	0
	江	3	0	0
	松	3	0	0
	計	29	7	2

徳島IS

		打	安	点
⑦	笹	4	1	0
⑤	中	3	0	0
③	楠	4	1	0
R	藤	4	0	0
⑧	今	4	0	0
⑨	加	4	0	0
D	森	2	1	1
R	岩	0	0	0
⑥	池	4	2	1
②	江	4	1	1
H	2 竹	1	0	0
④	岸	3	1	0
	浪	4	1	0
	川	3	0	0
	田	4	1	0
	原	4	0	0
	村	4	0	0
	田	3	0	0
	高	2	1	0
	本	0	0	0
	田	1	0	1
	口	1	0	1
	石	1	0	0
	本	3	1	0
	計	29	6	3

Ｊ	4	5	4	1	0	8	0			
	振	球	犠	盗	失	残	併			
徳	6	2	3	1	1	4	1			

		回	安	責
投	手			
井	上	6		3	2
足	立	2	⅔	3	2
杉	本	3	⅔	4	2
田	代	1	⅓	0	0
武	藤	1		0	0
斎	藤	1		2	0
山	崎	2		1	0

▽本塁打　枝（杉本）是二（投手）井（池上）▽暴投　▽２時間27分

◇**第3日**（4月6日）
（予選リーグ）
○…JAテグリあなんスタジアム…○

JFE西日本乱打戦制す 徳島IS3本塁打及ばず

▽Dブロック

徳島IS（1勝1敗）									
				5	0	0	3	0	1	0	9
				0	2	0	3	7	1	0×	13
JFE西日本（1勝1敗）									
				0	0	0	1	0	2	0	3
				0	0	1	0	0	0	0	1

JFE西日本は5点差を追いつき、再びリードされた六回には綿屋の3ランなどで逆転、打ち勝った。徳島ISは3本塁打を放つも、投手陣が崩壊した。

JR九州の鷲崎完投勝利 NTT東打線つながらず

JR九州（1勝1敗）									
				0	0	0	0	1	0	2	3
				0	0	1	0	0	0	0	1
NTT東日本（1勝1敗）									

JR九州は五回に犠飛で追いつくと、八回には是枝の二塁打で2走者を迎え入れて勝ち越した。先発の鷲崎は被安打7で完投した。NTT東日本は打線がつながらなかった。

KMG終盤に逆転 四国銀行救援失敗

火ノ浦のソロで追加点を挙げた。JFE西日本は相手4投手に4安打に抑えられ、二塁を1度しか踏めなかった。

ミキハウスがミス逃さず 四国銀行は制球難に泣く

▽Cブロック

四国銀行（2敗）									
				0	0	0	0	0	0	1	1
				0	0	0	2	0	0	1×	3
ミキハウス（2勝）									
				0	0	0	2	0	0	0	2
				1	0	0	0	1	0	0	2

ミキハウスは四回、2四死球などで得た1死満塁から、浅野の適時打で2点を先制。八回には四球や暴投で、労せず1点を加えた。四国銀行は九回2死満塁で、1点にとどまった。

KMG西山5安打完投 東芝も3投手で譲らず

KMG（1敗1分け）									
				0	0	0	2	0	0	0	2
				1	0	0	0	1	0	0	2
東芝（1勝1分け）									

KMGが四回に風岡、峯の連続適時打で逆転すると、東芝もすぐに大庭の犠飛で追いついた。その後はKMG先発の西山、東芝は救援陣が好投し、引き分けに終わった。

三菱岡崎

	打	安	点
⑤	菅	3	1	1
⑧	中里	3	0	0
H	村見	3	1	0
9	手川	1	0	0
④	大古	3	0	0
D	岳原	3	0	0
9⑦	東	4	3	0
③	室田	4	2	0
⑦	小山	2	0	1
H98	茂木川	2	0	1
②	西宮	3	0	0
H	斎伊	3	0	0
⑥	藤藤	1	0	0
計		33	7	3

日本生命

	打	安	点
⑧	中津	5	2	0
⑦	松本	2	0	0
⑨	竹村	4	2	0
9	藤本	4	0	0
D	竹中	4	0	2
⑤	山田	4	2	0
⑥	高田	3	1	1
③	木倉	4	2	1
②	三島	3	0	0
④	池上	4	2	2
計		33	13	6

	投	手	回	安	責
三	6	3	0	0	0	6	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
日	5	3	4	0	0	9	1
近	藤		4	⅓	7	4
秋	山	木	1	⅓	3	1
鈴	木			⅓	0	0
笠	井		1		3	2
清	川		1		0	0
谷	脇		9		7	3

▽本塁打　菅原（谷脇）▽三塁打　小竹木倉▽二塁打　津2、倉、藤室中、竹村2、木池上▽暴投　近東▽守備妨害　2時間45分

シティ岡山

	打	安	点
⑨	森濱	4	0	0
④	田松	4	1	0
⑦	松山	4	2	0
D	竹本	4	3	2
③	林井	4	3	2
⑧	海中	3	1	1
②	東筒	3	1	1
H 2	田平	1	0	0
⑤	稲野	3	2	1
⑥	大野	3	1	0
計		32	12	8

アーク

	打	安	点
④	山田	3	0	0
⑧	渡邉	3	1	0
③	田上	3	1	0
⑨	大杉	3	0	0
D	本路	2	1	0
②	野嶋	2	1	0
⑥	豊田	2	0	0
⑦	高藤	2	0	0
⑤	藤	2	0	0
計		21	4	0

	投	手	回	安	責
シ	4	4	1	3	0	7	2
	振	球	犠	盗	失	残	併
ア	8	0	1	0	1	1	0
投	手	回		安	責
野	林	7		4	0
太	田	6	⅔	10	8
上	田		⅓	2	0

▽本塁打　稲林（太田）▽三塁打　遵谷、渡本▽二塁打　東中、暴林、稲林▽暴投　太ボーク　2時間9分

日本通運

	打	安	点
⑦	横	0	0	0
④	添	0	1	0
⑨	北	0	2	0
8	沓	1	2	1
D	西	0	1	0
③	木	0	1	0
⑥	稲	0	1	0
⑤	手	0	1	0
⑧	磯	0	0	0
H	宮	0	0	1
9	木	0	1	0
HR	近	0	1	0
②	山	0	0	0
計		34	9	2

Honda熊本

	打	安	点
⑨	山	4	0	0
⑤	江	4	2	1
D	宮	3	0	0
③	古	4	0	0
⑧	稲	2	2	0
⑦	中	2	0	0
②	蓑	3	1	1
④	江	1	0	1
⑥	井	2	0	0
計		25	3	3

	投	手	回	安	責
日	6	2	1	0	1	8	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
H	7	6	2	0	0	6	0
投	手	馬	回		安	責
相	平	元	4	⅔	3	3
松	澤		2	⅓	0	0
			1		0	0
寺	澤	山	5		3	1
片	山		4		6	1

▽本塁打　沓澤（寺澤）▽二塁打　里西▽三塁打　打時木村、西間42分

JFE西

	打	安	点
⑥	河	3	0	0
H	内	1	1	0
⑨	岡	4	2	0
⑦	西	3	1	0
⑧	西中	3	2	0
⑤	田屋	3	0	0
D	井	3	0	0
③	上	3	0	0
④	大田	3	2	0
H	古綿	1	0	0
②	土	2	0	0
H	原	1	0	0
	田原	2	1	0
	高篠	0	0	0
	鳥井	1	0	0
計		29	4	0

NTT東

	打	安	点
⑧	直	4	2	0
④	伊東	4	0	0
③	内山	4	2	0
⑥	石井	4	1	1
⑤	中村	4	0	0
⑨	井上	3	2	1
②	大柿	3	2	0
D	火浦	3	1	0
⑦	道原	3	1	0
計		31	9	3

	投	手	回	安	責
J	7	0	0	1	2	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
N	4	0	1	2	1	5	2
投	手	回		安	責
長	野	7		9	3
筒	井	1		0	0
長	久保	5		2	0
上	出	2		1	0
吉	松	1		0	0
多	田	1		1	0

▽本塁打　火ノ浦（長野）▽二塁打　井上▽三塁打　浦打時石山、内間58分

四国銀行

	打	安	点
⑤	元	4	1	0
⑥	大福	3	0	0
③	岡谷	4	2	0
⑦	3大	4	2	0
D	南	4	1	0
R	大神	0	0	0
④	橋	4	3	0
9	川	0	0	0
R	田	0	0	0
9	村	0	0	0
②	河	0	0	0
H	田	0	0	0
2	崎	0	0	0
H	瀬	1	1	0
⑧	田	4	0	0
計		33	8	1

ミキハウス

	打	安	点
⑥	浦	4	0	0
④	藤	3	1	0
⑦	澤	2	0	0
③	中	4	0	0
D	尾	4	1	0
RD	本	0	0	0
9	原	2	1	0
⑤	田	3	0	0
②	野	4	2	0
⑧	内	3	0	0
H	野	1	0	0
8	殿	0	0	0
計		27	4	2

	投	手	回	安	責
四	7	3	0	0	0	8	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
ミ	7	8	1	1	1	9	2
投	手	回		安	責
田	井	5		3	2
田	中	2		1	0
藤	井	1		0	1
野	口	7		3	0
仲	尾	1		2	0
高	橋	1		3	1

▽暴投　田井、藤井▽2時間28分

▽Cブロック
四国銀行（3勝）
000 500 00 5
002 001 13 7
KMG（1勝1敗1分け）
（八回打ちきり）

KMGは八回2死一、三塁から、河野の中前打で追いつき、四球をはさんで仁木の右前打で勝ち越した。四国銀行は四回にいったんは逆転したものの、それ以降は2安打に抑えられた。

○…むつみスタジアム…○

日本生命着実に加点 JR四国打線振るわず

▽Bブロック
日本生命（2勝）
001 140 003 9
000 000 000 0
JR四国（1勝1敗）

日本生命は三回にスクイズで先制すると、四回には高田のソロ、五回には1番からの4連続長短打などで突き放した。JR四国は三回以降1安打に抑えられた。

三菱岡崎16安打の猛攻 日鉄山口反撃断たれる

三菱自動車岡崎（1勝1敗）
310 310 000 8
000 310 000 4
日本製鉄山口（2敗）

4点をリードした三菱岡崎は四回にも、3番古川、4番岳原の連続二塁打で3点を奪うなど、計16安打で8点を挙げた。日鉄山口は六回以降、無安打に終わった。

ホンダ熊本速攻光る 岡山打線つながらず

▽Aブロック
シティライト岡山（1勝2敗）
000 010 000 1
114 000 00× 6
ホンダ熊本（3勝）

ホンダ熊本は一回に古寺、二回には山本が適時打を放つなど、序盤に6点をリード。4投手の継投で反撃を抑えた。シティライト岡山は走者を出すものの、五回の犠飛による1点にとどまった。

◇**第4日**（4月7日）
（予選リーグ）
○…JAテグリあなんスタジアム…○

東芝再逆転で準決勝へ ミキハウス逃げ切れず

▽Cブロック
ミキハウス（2勝1敗）
001 010 300 5
001 002 03× 6
東芝（2勝1分け）

東芝は八回1死一、二塁から代打諸橋の三塁打で追いつき、中村のスクイズで逆転した。ミキハウスは七回に5安打を集中してリードを奪ったものの、救援の高橋康がつかまった。

JFE西終盤突き放す 継投でJR九州を零封

▽Dブロック
JFE西日本（2勝1敗）
000 000 031 4
000 000 000 0
JR九州（1勝2敗）

JFE西は八回、上西の犠飛などで3点をリードすると、九回にも上西の犠飛で突き放した。先発の西野が7回を4安打に抑える好投を見せ、本田につないでJR九州を零封した。

三菱岡崎の田中が好投 JR四国は4安打のみ

▽Bブロック
JR四国（1勝2敗）
000 000 000 0
100 010 00× 2
三菱自動車岡崎（2勝1敗）

三菱岡崎は一回2死満塁から茂木の四球で先制。五回には古川の適時打で2点をリードした。先発の田中が八回まで4安打に抑え、九回も神原が走者を許さなかった。JR四国は投手陣の好投に報えなかった。

○…むつみスタジアム…○

日本通運序盤に大量点 アークバリア失策響く

▽Aブロック
アークバリア（3敗）
000 000 0 0
193 110 × 15
日本通運（2勝1敗）
（七回コールド）

日本通運打線がアークバリア投手陣に13安打を浴びせ、15点を奪って快勝した。アークバリアは二回、失策も絡んで、大量点を許してしまった。

日本生命代打策的中 日鉄山口反撃及ばず

▽Bブロック
日本製鉄山口（3敗）
001 000 020 3
000 032 00× 5
日本生命（3勝）

日本生命は五回2死一、二塁から越智、早野の代打連続適時打で逆転。六回には途中出場の吉安の二塁打でリード

2今田武笹浪（古加原暴▽時笹井）屋打篠▽井3筒龍綿塁打、井筒▽打、本三塁本土、口塁山岩井）▽二山、2江本津（石2藤▽村（藤）▽田原武逸17分

KMG

	点	安	打	
⑧	1	2	4	原野
④	0	0	5	三河仁
⑦	0	1	2	林
⑤	0	1	4	吉三田角風
D	0	0	4	岡嶋中田岡
③	0	0	4	峯
6	0	0	3	原野木
②	0	0	3	
⑨	0	0	3	
⑥	1	1	3	
5				
計	2	8	33	

東芝

	点	安	打	
⑥	0	0	3	山太岡下齊光荻
⑨	0	0	3	田田部山藤本原
H	0	0	1	
③	1	1	3	
④	0	1	4	南
⑧	0	1	4	
②	0	1	2	野沢庭
⑦	0	0	0	
D	0	0	1	天長大
R	0	0	1	D
⑤	1	1	0	
計	2	5	28	

	併	残	失	責
K	2	5	0	2
東	0	0	0	0
	9	5	0	2

	球	盗	犠	振
K	7	0	0	4
東	5	0	3	3

投		回	安	責
西	手山	9	5	2
吉	鶴川村	4	5	2
谷		3	2	0
西		2	1	0

▽時間2、3塁打▽藤、齊野、河本▽2打▽二塁打▽南、24分

徳島IS

	点	安	打	
⑦	2	3	6	笹池山今加中楠寺江竹森岸
⑥	0	1	4	
⑧	1	2	1	
D	2	2	5	
⑨	1	2	4	
⑤	0	1	5	
③	0	0	4	
H	1	0	3	
②	0	1	3	
2				
H	0	0	1	
④	1	0	3	
計	9	12	38	

JFE西

	点	安	打	
④	1	3	6	原
⑨	1	3	4	
R	0	0	1	上永大高鳥田古綿土河
⑦	0	1	2	西山西田井中田屋井内
H	0	1	3	
H	1	3	4	
⑧	3	4	5	
⑤	1	1	3	
D	1	1	3	
③	0	0	2	岡
⑥	0	0	2	
H	0	1	0	原藤
②	0	0	4	
H	2	2	0	篠後
計	11	15	38	

	併	残	失	責
徳	0	8	3	2
J	0	11	4	3

投		回	安	責
高	手橋井誠藤隆崎	3	3	2
石		2	3	1
荒	木		⅓	2
武	木		⅔	1
荒		1	1	0
篠			⅓	0
			⅔	0
津	山賢龍田井	3	2	1
岩	本本	2	1	2
本				
筒	津岩岩本筒			

	球	盗	犠	振
徳	1	1	2	1
J	5	3	1	10
	8	4	2	7

を広げた。日鉄山口は八回、寺嶋のソロ本塁打などで追い上げたが届かなかった。

徳島2死から追いつく NTT東は逃げ切れず

▽Dブロック

徳島IS（1勝1敗1分け）	1	0	0	0	0	2	0	3
NTT東日本（1勝1敗1分け）	0	1	0	1	1	0	0	3

2点を追う徳島ISが八回2死無走者から、中川のソロ、江口の適時二塁打で追いつき、そのまま引き分けた。NTT東は三番手の紫藤があと一歩、粘れなかった。

JFE西の原決勝3ラン

ホンダ熊本好機生かせず

◇最終日（4月8日）（決勝トーナメント）

○…JAグリあなんスタジアム…○

▽準決勝

JFE西日本	2	0	0	0	1	0	0	0	3
ホンダ熊本	0	0	0	0	0	3	0	0	0

（延長十回）

タイブレークの延長十回、JFE西日本は2死二、三塁から1番の原が左越えに決勝の3ランを放った。ホンダ熊本も六回に古寺の3ランで追いついたものの、その後は好機にあと1本が出なかった。

東芝北村が完投勝利

日生二回以降1安打

東芝	0	2	0	0	2	0	0	2	8
日本生命	3	0	0	0	0	0	0	0	3

東芝は五回、代打諸橋の2点適時打で逆転すると、終盤にも効果的に追加点を奪った。日本生命は二回以降、立ち

JR九州

	打	安	点
⑦ 山吉	4	1	1
⑥ 脇田	4	4	0
④ 七條	4	3	0
⑧ 山田	4	2	0
⑤ 是枝	4	1	2
② 藤江	4	1	0
D 友利	4	1	0
③ 平松	4	1	0
⑨ 美澤	4	2	0
計	36	13	3

NTT東

	打	安	点
⑧ 直井	4	1	1
④ 伊東	3	0	0
H 4 丸山	1	0	0
③ 内山	4	0	0
⑥ 石井	4	2	0
⑤ 中村	3	0	0
H 中向	1	0	0
⑨ 井上	4	2	0
② 大ノ火	4	2	1
D 柿浦	2	0	0
D 保道	1	0	0
⑦ 坂原	3	1	0
計	32	7	1

	振	球	犠	盗	失	残	併
J	8	0	1	0	1	7	0
N	4	0	1	2	2	5	1

投	手	回	安	責
鷲	崎	9	7	0
寺	嶋	3	5	0
稲	毛田	1 ⅓	3	1
山	内	⅔	1	0
	堀	3	3	1
紫	藤	1	1	0

▽二塁打 友利、是枝、直井▽2時間41分

四国銀行

	打	安	点
③ 福元	4	2	1
大 岡山北	3	0	0
大 谷野	3	0	1
神 南	2	0	0
H 川下	0	0	0
R 4	0	0	0
⑨ 柴橋	1	0	0
9 1 藤大	1	0	0
D 河田	3	0	0
② 真	3	1	2
⑧			
計	25	5	4

KMG

	打	安	点
⑤ 風	5	0	0
④ 三野	5	3	0
⑦ 河野	5	2	1
⑧ 峯	4	1	0
③ 仁木	3	3	3
D 林	5	2	1
⑨ 伊藤	2	1	1
H 吉岡	1	0	0
9 濱中	0	0	0
② 入江	2	1	0
H 田三中	1	1	0
⑥ 嶋	4	1	0
計	37	15	6

	振	球	犠	盗	失	残	併
四	9	9	1	5	2	6	0
K	5	2	3	1	0	11	3

投	手中	回	安	責
田	中田	5 ⅔	8	1
佐	藤	2	6	4
藤	井	⅓	1	0
牟	田	3 ⅔	2	5
福	田	⅓	1	0
	中	2	1	0
荻	原	2	1	0

▽二塁打 大谷▽暴投 牟田▽守備妨害 風岡▽2時間51分

日本生命

	打	安	点
⑧ 中	5	3	0
⑦ 松	4	1	1
⑨ 竹	3	2	1
D 竹	4	2	1
D R 多	0	0	0
⑤ 山	4	1	0
⑥ 高	4	2	2
③ 木	5	2	2
② 山	5	1	2
④ 池	3	1	0
H 藤	1	0	0
4 船	1	0	0
計	40	15	9

JR四国

	打	安	点
⑦ 山	4	0	0
⑧ 高	4	1	0
⑨ 吉	4	0	0
D 篠	3	1	0
⑤ 仲	3	1	0
③ 北	3	0	0
⑥ 有	3	0	0
② 小	3	0	0
④ 高	3	0	0
計	30	3	0

	振	球	犠	盗	失	残	併
日	8	4	1	1	0	9	0
J	8	0	0	0	0	3	0

投	手	回	安	責
齋	藤	6	3	0
佐	伯	1	0	0
	辻	2	0	0
鈴	木	4 ⅓	7	5
桑	嶋	⅔	3	1
寺	崎	4	5	3

▽本塁打 高田（鈴木）▽二塁打 倉木、中津、松本▽2時間32分

三菱岡崎

	打	安	点
⑤ 菅	2	0	0
⑧ 中古	1	0	2
④ 村川	3	2	1
⑦ 原手	2	1	0
7 大	0	0	0
⑨ 東	4	0	1
D 室	4	1	0
③ 小藤	4	0	1
② 伊川	5	1	2
⑥ 西藤	3	2	0
計	42	16	4

日鉄山口

	打	安	点
⑨ 甲斐	5	1	0
⑥ 中島	3	1	0
⑧ 林	4	2	0
D 横田	3	2	1
② 寺嶋	4	1	1
⑤ 坂田	4	1	2
③ 橘田	4	0	0
④ 坂本	4	1	0
H 木下	1	0	0
⑦ 野々	4	1	0
計	34	9	4

	振	球	犠	盗	失	残	併
三	7	7	2	0	0	16	1
日	4	3	0	0	1	6	0

投	手	回	安	責
秋一	山井	5	9	4
清	川	1	0	0
神	原	1	0	0
武	藤	2	6	4
加	納	1 ⅓	4	3
山	久田	1 ⅔	1	1
疋	田	1	1	0
下	江	2	3	0
	畝	1	1	0

▽三塁打 小室▽二塁打 東、横田、岳原、暴投 武藤、寺嶋▽捕逸 寺嶋▽時間55分

シティ岡山

	打	安	点
⑨ 森濱	4	3	0
④ 6 田中	3	1	0
⑦ 松山	3	2	0
D 竹本	3	2	1
③ 4 小谷	4	3	0
⑧ 東海	4	3	0
② 平野	3	1	0
H 2 増筒	0	0	0
⑤ 稲井	4	1	0
⑥ H 3 大田林	1	0	0
計	31	8	1

Honda熊本

	打	安	点
⑧ 山	5	1	1
⑤ 江	5	2	0
D 宮	3	1	0
③ 古	3	2	2
3 和田	3	1	0
⑨ 山中	2	2	0
⑦ 根尾	3	1	0
② 2 葉崎	2	1	0
④ 竹	2	2	1
⑥ 江井	3	0	1
計	30	10	5

	振	球	犠	盗	失	残	併
シ	9	4	3	0	0	10	0
H	5	5	3	1	0	8	0

投	手	回	安	責
藤	好	2 ⅔	6	5
金	津	1	1	1
大荒	谷田	4	3	0
		1	0	0
藤	江	4 ⅔	3	1
米	倉	2 ⅓	3	0
高	橋名	1	1	0
新		1	1	0

▽二塁打 江頭、山本、古寺▽暴投 荒田▽2時間47分

JFE西逃げ切る

東芝わずか2安打

直った東芝の北村を捉えられず、完投を許した。

▽決勝
JFE西日本　200　000　000
東芝　000　000　000　000　0　2

JFE西日本は一回、相手失策も絡んだ1死満塁から、古田の犠飛、綿屋の適時打で先制。先発の筒井から本田につなぎ、逃げ切った。東芝はチャンスを作れず、わずか2安打に終わった。

◇最高殊勲選手賞
筒井　恒匡・投手（JFE西日本）

◇敢闘賞
北村　智紀・投手（東芝）

◇打撃賞
原　俊太・内野手（JFE西日本）＝22打数9安打、打率4割9厘

㊫…表彰選手…㊫

ミキハウス

		打	安	点
⑥	田浦	4	2	0
④	伊藤	2	1	0
③	田中	5	1	1
D	松尾	5	4	1
⑨	猪原	4	1	0
⑦	島澤	3	1	1
⑤	菊田	3	0	0
H 5	大西	0	0	1
②	井上	3	0	0
⑧	小河内	4	1	1
	計	33	11	5

東芝

		打	安	点
⑥	山田	4	1	0
⑨	太田	4	0	1
③	下山	4	0	0
④	齊藤	3	1	0
⑧	光本	2	1	2
②	荻原	1	0	0
H 5	田中	1	1	0
⑦	南	2	1	0
H	諸橋	1	1	2
R 7	長沢	0	0	0
D	天野	1	0	0
⑤	大庭	1	0	0
H	水谷	1	0	0
2	中村	0	0	1
	計	25	6	6

	ミ	4	5	4	0	0	10	2
	振	球	犠	盗	失	残	併	
東	4	11	2	3	1	8	2	

投	手	回	安	責
高橋優		5⅔	3	3
高橋康		3	3	3
松	山	5	5	2
浅	野	1	0	0
西	村	1	5	3
神	野	2	1	0

▽本塁打　小河内（松山）　光本（高橋優）▽三塁打　諸橋▽二塁打　松尾、田浦▽3時間7分

JFE西

		打	安	点
④	原	5	2	0
⑨	上島	3	1	2
⑦	西井	4	1	0
⑧	田中	2	0	0
H	大西	1	0	0
8	永山	1	1	1
⑤	古田	4	1	1
D	綿屋	4	1	0
③	土井	3	1	0
⑥	岡	3	0	0
②	篠原	2	0	0
H	高田	1	1	0
2	後藤	0	0	0
	計	33	9	4

JR九州

		打	安	点
⑦	山脇	4	0	0
⑥	吉田	4	0	0
④	七條	4	2	0
⑧	山田	4	1	0
⑤	是枝	4	0	0
②	藤江	4	2	0
R	村上	0	0	0
D	友利	1	0	0
H	岩切	1	0	0
③	平松	4	1	0
⑨	美澤	2	0	0
	計	32	6	0

西	6	2	4	0	1	8	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
九	5	2	1	0	2	8	0

投	手	回	安	責
西	野	7	4	0
本	田	2	2	0
平	野	4	3	0
今	村	2	1	0
足立	川	1⅔	4	2
浦	崎	2⅔	1	0
鷲		⅔	0	0

▽三塁打　永山▽二塁打　原、古田▽暴投　平野▽2時間34分

JR四国

		打	安	点
⑧	井山	4	0	0
⑥	脇田	4	1	0
⑦	山根	4	1	0
D	篠崎	4	1	0
④	美濃	3	1	0
③	笹田	3	0	0
⑨	吉岡	3	1	0
②	森下	2	0	0
⑤	神野	2	0	0
H 5	仲村	1	0	0
	計	30	4	0

三菱岡崎

		打	安	点
④	菅原	3	0	0
⑧	中村	4	2	0
③	川原	4	1	1
D	岳東	3	0	0
⑦		4	0	0
⑨	茂荒	2	0	1
⑤	内西	3	0	0
⑥	内西	2	0	0
②	橋爪	1	0	0
H 2		1	0	0
	計	27	3	2

J	7	0	1	0	3	4	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
三	7	4	1	0	2	6	2

投	手	回	安	責
石	丸	4⅔	2	1
近	藤	3⅓	1	0
田	中	8	4	0
神	原	1	0	0

▽暴投　近藤▽2時間33分

アーク

		打	安	点
⑤	3田少杉	3	0	0
⑥	2上路本	3	1	0
⑦	9上本水	3	0	0
②	9水大坂	1	0	0
8	本遵渡	0	0	0
⑧	1遵渡山	3	0	0
④	田野田	2	1	0
⑨	6上高	2	1	0
D	5豊嶋	2	0	0
③	57豊上	2	0	0
	計	21	3	0

日本通運

		打	安	点
⑦	横山	4	1	0
7	宮崎	1	1	0
④	添田	2	0	1
R 3	楠本	2	0	0
⑧	北川	2	1	2
R 8	手銭	2	1	1
⑨	沓澤	4	2	3
③	46西里	2	0	0
D	磯網	2	1	0
H D	木下	2	2	0
⑥	木村	2	1	2
H 4	近岡	1	0	0
⑤	稲垣	3	2	2
②	沼生	3	1	0
	計	32	13	11

ア	7	1	0	0	3	1	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
日	6	8	1	3	0	8	1

投	手	回	安	責
井	上本	1⅔	6	10
山	野本	1⅓	4	3
河	本	1⅔	2	2
坂	遵	⅓	0	0
渡		1	1	0
ジャクソン		5	3	0
西	村	1	0	0
川	船	1	0	0

▽三塁打　磯網、手銭▽二塁打　稲垣、沓澤、北川▽2時間5分

日鉄山口

		打	安	点
⑨	甲斐	3	1	0
⑥	中島	4	0	0
⑧	林	4	1	0
D	横田	5	1	1
②	寺嶋	4	1	1
⑤ 4	坂田	4	1	0
③	橘本	2	2	0
④	坂本	2	0	0
H	小山	1	0	0
5	下池	0	0	0
⑦	野々下	3	1	1
	計	32	8	3

日本生命

		打	安	点
⑧	中津	2	0	0
H 8	藤本	2	1	0
⑦	松本	1	0	0
H 7	越智	2	1	1
⑨	竹村	2	0	0
H 9	早野	2	1	2
D	竹中	2	0	0
H D	上西	2	1	0
⑤ 3	山田	3	0	0
⑥	高田	1	0	0
6	船山	1	0	0
③	木倉	1	0	0
H 5	多田	1	0	0
②	山崎	1	0	0
H	松葉	1	1	0
2	吉安	1	1	2
④	池上	0	0	0
H 4	梅村	2	1	0
	計	27	7	5

山	5	6	3	0	0	11	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
生	3	5	1	1	1	4	1

投	手	回	安	責
中	里	5	4	3
疋	田	⅔	2	2
加	納	⅓	0	0
武下	藤江	1	1	0
武	次	3	3	1
水	江	2	1	0
吉	高	1	0	0
小	向	1⅓	3	2
	辻	2	1	0

▽本塁打　寺嶋（小向）▽二塁打　安早野、吉田▽2時間36分

JFE西

		打	安	点
④	原	4	2	0
⑨	上西	4	1	0
⑦	鳥井	3	0	0
⑧	田中	3	1	0
H8	永山	1	0	0
⑤	古田	3	0	1
D	綿屋	4	1	1
③	土井	4	1	0
⑥	岡	3	0	0
②	篠原	3	0	0
	計	32	6	2

東芝

		打	安	点
⑥	山田	3	1	0
⑨	太田	4	0	0
③	下山	4	0	0
④	齊藤	3	0	0
⑧	光本	4	0	0
②	荻原	2	0	0
2	中村	1	0	0
⑤	田中	3	0	0
D	天野	3	0	0
⑦	中妻	3	1	0
	計	30	2	0

J	9	0	2	0	1	5	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
東	3	3	0	0	1	6	0

投	手	回	安	責
筒	井	7	2	0
本	田	2	0	0
谷	川	7⅓	6	0
神	野	1⅔	0	0

▽２時間18分

東芝

		打	安	点
⑥	山田	5	4	2
⑨	太田	6	2	0
③	下山	3	1	0
④	齊藤	5	2	0
⑧	光本	1	1	1
R	金井	0	0	0
8	長沢	0	0	0
②	荻原	3	2	2
⑦	南	2	0	1
H	諸橋	1	1	2
R7	岡部	2	0	0
D	天野	2	0	0
RD	中妻	1	1	0
⑤	大庭	2	1	0
5	田中	0	0	0
	計	33	15	8

日本生命

		打	安	点
⑧7	中津	3	0	0
⑦	松本	2	0	0
H8	上西	1	0	0
⑨	竹村	4	1	1
D	竹中	3	1	0
⑤	山田	3	1	1
⑥	高田	2	0	0
③	木倉	3	1	0
②	山崎	3	0	1
④	池上	2	0	0
H	越智	1	0	0
4	船山	1	0	0
	計	28	4	3

東	4	13	5	0	1	16	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
日	1	5	3	0	1	6	3

投	手	回	安	責
北	村	9	4	3
谷	脇	4⅔	8	4
武	次	1⅔	3	0
辻		2	4	4
齋	藤	⅔	0	0

▽二塁打　荻原、山田（東）、竹村、木倉▽３時間６分

JFE西

		打	安	点
④	原	5	2	4
⑨	上西	5	2	0
⑦	鳥井	5	2	2
⑧	田中	4	0	0
8	永山	0	0	0
⑤	古田	4	0	0
D	綿屋	3	0	0
③	土井	3	0	0
⑥	岡	3	0	0
②	篠原	3	1	0
H	高田	1	0	0
2	後藤	0	0	0
	計	36	7	6

Honda熊本

		打	安	点
⑨	山本	4	1	0
⑤6	江頭	3	0	0
D	宮古	4	1	0
③	古寺	4	2	3
⑧	稲垣	3	1	0
⑦	中島	3	0	0
②	蓑尾	4	1	0
④	江崎	3	0	0
⑥	井上	2	0	0
H	山根	1	0	0
5	高垣	0	0	0
	計	31	6	3

J	10	2	1	1	0	5	2
	振	球	犠	盗	失	残	併
H	5	5	3	1	0	8	0

投	手	回	安	責
大	石	5⅓	3	3
尾	田	1⅓	0	0
長	野	2	3	0
岩本龍		⅓	0	0
筒	井	1	0	0
島	袋	6	4	3
中	村	⅓	0	0
片	山	3⅔	3	1

▽本塁打　鳥井（島袋）原（片山）古寺（大石）▽二塁打　篠原▽２時間42分

徳島IS

		打	安	点
⑦8	笹浪	4	1	0
⑥	池田	3	0	0
H6	森高	2	0	0
R7	藤原	0	0	0
⑧	山本	4	1	0
6	岩本	0	0	0
D	今村	3	0	0
⑨	加田	4	1	1
⑤	中川	4	2	1
③	寺井	2	0	0
H3	佐伯	1	0	0
H3	小野	1	1	0
②	江口	2	1	1
④	岸本	3	0	0
	計	33	7	3

NTT東

		打	安	点
⑧	直井	5	1	0
⑥	石井	4	1	0
⑨	井上	5	1	0
D	内山	4	2	1
⑦	道原	3	0	0
⑤	池本	2	0	0
H5	下川	1	1	0
③	中村	3	1	2
②	大柿	2	0	0
H	火ノ浦	1	0	0
2	保坂	0	0	0
④	伊東	4	1	0
	計	34	8	3

徳	9	9	0	2	1	12	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
N	6	4	2	1	1	10	1

投	手	回	安	責
田	代	4	3	1
斎	藤	1	2	1
篠	崎	1	1	0
山	崎	3	2	0
森		3⅓	3	1
山	内	3⅔	1	0
紫	藤	2	3	2

▽本塁打　中川（紫藤）▽二塁打　山本、江口、小野、中村▽暴投　森▽捕逸　大柿▽３時間３分

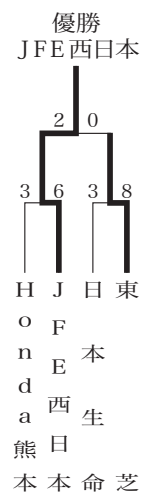
第53回大会・熱戦の軌跡

Aブロック	アークバリア	日本通運	シティライト岡山	Honda熊本	勝	敗	順位
アークバリア	㊡	×0−15	×0−9	×1−15	0	3	4
日本通運	◎15−0	㊡	○8−7	●2−3	2	1	2
シティライト岡山	◎9−0	●7−8	㊡	●1−6	1	2	3
Honda熊本	◎15−1	○3−2	○6−1	㊡	3	0	1

Bブロック	JR四国	三菱自動車岡崎	日本生命	日本製鉄山口	勝	敗	順位
JR四国	㊡	●0−2	●0−9	○7−6	1	2	3
三菱自動車岡崎	○2−0	㊡	●3−7	○8−4	2	1	2
日本生命	○9−0	○7−3	㊡	○5−3	3	0	1
日本製鉄山口	●6−7	●4−8	●3−5	㊡	0	3	4

Cブロック	四国銀行	東芝	ミキハウス	KMG	勝	敗	順位
四国銀行	㊡	●0−4	●1−3	●5−7	0	3	4
東芝	○4−0	㊡	○6−5	△2−2	2	0	1
ミキハウス	○3−1	●5−6	㊡	◎8−1	2	1	2
KMG	○7−5	△2−2	×1−8	㊡	1	1	3

Dブロック	徳島IS	NTT東日本	JFE西日本	JR九州	勝	敗	順位
徳島IS	㊡	△3−3	●9−13	○4−3	1	1	3
NTT東日本	△3−3	㊡	○3−0	●1−3	1	1	2
JFE西日本	○13−9	●0−3	㊡	○4−0	2	1	1
JR九州	●3−4	○3−1	●0−4	㊡	1	2	4



四国大会・決勝戦一覧

	優勝チーム		準優勝チーム	開催地
第１回（昭46年）	丸善石油	4－1	四国電力	高松
第２回（〃47年）	鷺宮製作所	3－1	電電東海	松山
第３回（〃48年）	電電四国	5－0	四国銀行	高知
第４回（〃49年）	丸善石油	9－2	新日鐵堺	松山
第５回（〃50年）	国鉄四国	2－1	新日鐵堺	〃
第６回（〃51年）	新日鐵名古屋	5－0	熊谷組	〃
第７回（〃52年）	丸善石油	2－1	新日鐵名古屋	徳島・鳴門
第８回（〃53年）	日本生命	5－0	川崎製鉄	高知
第９回（〃54年）	四国銀行	8－1	丸善石油	松山
第10回（〃55年）	プリンスホテル	6－0	丸善石油	徳島
第11回（〃56年）	日本通運	1－0	日本生命	高知
第12回（〃57年）	日本通運	7－6	神戸製鋼	松山
第13回（〃58年）	日本通運	1－0	電電四国	高松
第14回（〃59年）	日本通運	11－7	電電四国	徳島
第15回（〃60年）	新日鐵広畑	2－1	日本通運	高知
第16回（〃61年）	大阪ガス	6－5	日本通運	松山
第17回（〃62年）	日本通運	7－6	大阪ガス	徳島
第18回（〃63年）	日本生命	7－4	トヨタ自動車	高松
第19回（平１年）	東芝	10－6	ＮＴＴ東北	松山
第20回（〃２年）	大阪ガス	2－1	ＮＴＴ四国	高知
第21回（〃３年）	大阪ガス	9－4	ＮＴＴ四国	徳島
第22回（〃４年）	日産自動車九州	7－4	ＮＴＴ関西	松山
第23回（〃５年）	日本生命	17－3	トヨタ自動車	高知
第24回（〃６年）	日本生命	8－3	大和銀行	高松
第25回（〃７年）	ＮＴＴ九州	14－9	ＮＴＴ四国	松山
第26回（〃８年）	四国銀行	11－1	ＮＴＴ四国	高知
第27回（〃９年）	松下電器	9－6	大阪ガス	徳島
第28回（〃10年）	ＮＴＴ東京	10－4	ＮＴＴ関西	高松
第29回（〃11年）	ＮＴＴ四国	7－6	日産自動車九州	高知
第30回（〃12年）	西濃運輸	9－6	大阪ガス	松山
第31回（〃13年）	松下電器	10－5	日本通運	〃
第32回（〃14年）	西濃運輸	4－1	東京ガス	高松
第33回（〃15年）	ＮＴＴ西日本	9－2	ミキハウス	松山
第34回（〃16年）	日本通運	5－0	ＪＲ九州	高松
第35回（〃17年）	ＮＴＴ西日本	1－0	ＪＲ九州	高知
第36回（〃18年）	ＪＲ東日本東北	6－5	大阪ガス	徳島
第37回（〃19年）	ＪＲ九州	7－4	東海理化	松山
第38回（〃20年）	住友金属鹿島	1－0	新日本石油ＥＮＥＯＳ	高松
第39回（〃21年）	パナソニック	2－1	ＮＴＴ西日本	高知
第40回（〃22年）	ＪＲ九州	6－1	三菱重工長崎	愛媛
第41回（〃24年）	ＪＸ－ＥＮＥＯＳ	2－1	ＮＴＴ西日本	徳島
第42回（〃25年）	ＪＲ東日本	3－1	ＮＴＴ西日本	愛媛
第43回（〃26年）	東邦ガス	7－1	日本生命	高知
第44回（〃27年）	新日鐵住金かずさマジック	7－0	セガサミー	香川
第45回（〃28年）	東京ガス	3－0	ＪＸ－ＥＮＥＯＳ	徳島
第46回（〃29年）	日本新薬	2－1	伯和ビクトリーズ	愛媛
第47回（〃30年）	Ｈｏｎｄａ	7－2	トヨタ自動車	高知
第48回（〃31年）	東芝	4－2	Ｈｏｎｄａ鈴鹿	香川
第49回（令３年）	東芝	6－1	ＮＴＴ西日本	徳島
第50回（〃４年）	日本通運	8－0	三菱重工Ｅａｓｔ	高知
第51回（〃５年）	ＥＮＥＯＳ	9－1	明治安田生命	愛媛
第52回（〃６年）	ＮＴＴ西日本	3－2	王子	香川
第53回（〃７年）	ＪＦＥ西日本	2－0	東芝	徳島

※平成23年は東日本大震災のため大会中止
※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

トヨタ自動車が2度目の優勝

第67回　JABA岡山大会

JFE西日本を決勝で破り8大会ぶり
増居投手（トヨタ自動車）にMVP

第67回JABA岡山大会は4月14日から18日まで、マスカットスタジアム、倉敷市営球場で行われ、トヨタ自動車が決勝でJFE西日本を4―0で破り、8大会ぶり2回目の優勝を達成した。

出場16チームを4ブロックに分けて予選リーグを戦い、各1位が決勝トーナメントに進出した。

準決勝ではJFE西日本が9―8で三菱自動車倉敷を、トヨタ自動車は7―1で三菱重工Westを退けた。決勝ではトヨタ自動車が3投手の継投でJFE西日本の打線を封じた。

最高殊勲選手賞と最優秀投手賞はトヨタ自動車の増居翔太投手、敢闘賞はJFE西日本の岩本龍之介投手が獲得した。首位打者賞にはトヨタ自動車の熊田任洋内野手（16打数7安打、打率4割3分8厘）が輝いた。

ブロック別チームは次の通り。

【A】シティライト岡山、三菱重工West、かずさマジック、伯和ビクトリーズ

【B】パナソニック、ツネイシ、西部ガス、トヨタ自動車

【C】JR北海道、エナジック、三菱自動車倉敷、JR西日本

【D】四国銀行、日本新薬、JFE西日本、ホンダ

◇第1日（4月14日）

（予選リーグ）

○…マスカットスタジアム…○

西部ガス守備の乱れつく　パナソニック11安打も

▽Bブロック

パナソニック（1敗）

000 100 001 ― 2
301 100 00× ― 5

西部ガス（1勝）

西部ガスは一回、相手守備の乱れに乗じて犠飛と八木の適時打などで3点を先制すると、四回には足を生かして追加点を奪うなど6安打で5点を挙げた。パナソニックは11安打を生かせなかった。

JFE西の大西決勝打　ホンダ打線つながらず

▽Dブロック

ホンダ（1敗）

001 000 100 ― 2
100 001 10× ― 3

JFE西日本（1勝）

JFE西日本は七回、四球の原をバントで二塁へ送り大西の二塁打で勝ち越した。2番手の岩本龍がホンダの反撃を抑えた。ホンダは二回以降の毎回走者を生かせなかった。

トヨタ序盤に大量点　ツネイシ反撃届かず

▽Bブロック

ツネイシ（1敗）

100 010 102 ― 5
320 010 01× ― 7

トヨタ自動車（1勝）

トヨタ自動車は一回、小畑の適時二塁打などで逆転すると、二回にも宮崎の右前打で2者を迎え入れ、序盤で大量リードを奪った。ツネイシは九回、工の三塁打で追い上げたが、届かなかった。

パナソニック

	打	安	点
⑦	山下恭平	1	0
⑥	塚本秀一	2	0
H	田浦路上	0	0
⑧	崎保兼	0	0
D	間田	0	0
H	浦	0	0
⑨	宅	0	0
⑤	本	0	0
H	松久山法川上	0	0
④	4	1	0
H	8	1	0
計		36	11	2

西部ガス

	打	安	点
⑨	樋永井安金八笹柴古平横	0	0
⑦	3	0	0
⑤	5	2	1
D		1	1
②		1	1
⑥		0	1
③		1	1
H	5	0	0
④		0	0
⑧	8	0	0
H		0	0
計		29	6	4

	併	残	失	盗	犠	球	振
パ	1	9	2	0	0	2	10
西	0	8	0	4	1	7	7

	責	安	回
投	2	7	5⅔
片	1	3	2
岡	0	0	⅓
千			
葉			
手			1
山	2	7	6⅓
野	1	1	⅔
龍	0	0	
津	0	0	
岩	0	0	
本	0	0	

▽二塁打　井上（パ）、岩本（西）
▽暴投　三間（パ）
▽時間　2分42

Honda

	打	安	点
③	峯	0	0
④	檜	1	0
H	三	0	0
4	津	1	0
②	辻	0	0
⑤	山	0	0
⑨	井	0	0
7	村	0	0
D	村	0	0
H	坂	0	0
⑧	小	0	0
⑥	中	0	0
⑦	金	0	0
H	三	0	0
9			
計		32	8	1

JFE西

	打	安	点
④	原	0	0
⑨	上	1	0
⑦	大	1	1
D	綿	2	1
⑤	古	1	0
③	土	0	0
H	高	0	0
3	永	0	0
⑧	河	0	0
⑥	後	1	0
②	岡	0	0
H	篠	0	0
H	原	0	0
2			
計		30	10	3

	併	残	失	盗	犠	球	振
H	1	10	0	1	2	5	5
J	1	9	1	1	3	3	9

	責	安	回
投	2	7	⅓
手	1	3	2⅔
山	0	0	⅔
野	0	0	⅓
葉			
山	2	7	6⅓
龍	1	1	⅔
本	0	0	2

▽二塁打　打井、岩本
▽暴投　三間
▽時間　2分

○…倉敷市営球場…○

三菱倉敷山下先制3ラン JR西日本九回満塁逃す

▽Cブロック

JR西日本（1敗）

001 000 001 2
310 010 00× 5

三菱自動車倉敷（1勝）

三菱自動車倉敷は一回、4番山下の3ランで先制すると、先発の彦坂が7回を1失点と好投した。JR西日本は九回1死満塁に、犠飛による1点に終わった。

かずさ吉田サヨナラ打 岡山中盤以降は無得点

▽Aブロック

シティライト岡山（1敗）

041 000 000 5
021 000 003 6

かずさマジック（1勝）

かずさマジックは九回1死満塁から下山の適時打で1点差とし、吉田の二塁打で2者が還りサヨナラ勝ち。三回途中から登板の渡邊の好投が逆転に結びついた。

三菱W2本塁打 伯和2安打のみ

三菱重工West（1勝）

100 000 030 4
000 000 000 0

伯和ビクトリーズ（1敗）

三菱Westは一回に田中の先頭打者本塁打で先制し、八回には西岡の3ランで突き放した。伯和ビクトリーズは2安打に終わり、平岡の好投を生かせなかった。

◇**第2日**（4月15日）

（予選リーグ）

○…マスカットスタジアム…○

JFE西着実に加点 四国銀行反撃ならず

▽Dブロック

JFE西日本（2勝）

002 130 003 9
000 002 000 2

四国銀行（1敗）

JFE西日本は三回、高田の2点適時打で先制すると、五回には1死満塁から敵失と後藤の適時打でリードを広げた。四国銀行は六回に大北の二塁打などで反撃したが、散発の6安打に終わった。

救援陣が好投 互いに譲らず

日本新薬（1分け）

010 100 000 2
110 000 000 2

ホンダ（1敗1分け）

ホンダが一回、井上の適時打で先制すると、日本新薬も二回に若林のソロで追いつくなど、互いに譲らなかった。九回はともに走者を二塁へ進めたが、後続がなかった。

トヨタ連打で勝ち越し パナソニック後半沈黙

▽Bブロック

パナソニック（2敗）

011 200 000 4
021 100 03× 7

トヨタ自動車（2勝）

同点の八回、トヨタ自動車

ツネイシ

	打	安	点
④	中立	5	3	1
	里花工	5	0	0
⑥		4	2	0
⑦	前	5	0	1
③	小	4	0	0
⑨	河	3	0	0
R 9	若	0	0	0
D	岡	4	1	0
⑧	新	4	2	0
②	小	3	2	0
⑤	大	4	0	0
	計	36	10	5

トヨタ

	打	安	点
④	熊	5	2	0
③	北	3	0	0
⑨	宮	4	1	0
H 9	西	0	0	0
⑧	坂	4	0	0
D	逢	4	0	0
⑥	小	4	3	0
⑤	和	4	3	1
②	今	3	3	2
2	高	3	0	0
⑦	福	4	1	0
	計	35	12	6

	打	振	球	犠	盗	失	残	併
ツ	7	2	1	0	3	7	0	0
ト	4	4	2	1	0	1	0	0

投	手	回	安	責
	原	1⅔	4	2
深	田	3	3	0
田	代	⅔	3	1
松	尾	2⅓	1	0
井	本	1	1	1
増	居	5	6	2
細	川	4	4	3

▽本塁打 今泉（田代）▽三塁打 小田（工）▽二塁打 熊谷、小林▽暴投 原▽2時間43分

JR西日本

	打	安	点
③	田	5	2	0
	村	4	1	0
D	戸	2	0	0
⑧	大	4	0	0
⑤	土	5	1	0
⑨	岡	3	0	0
④	櫻	4	0	0
②	加	3	0	0
H ⑥	西	1	0	0
⑦	佐	1	1	0
	植	1	1	0
	計	31	6	2

三菱倉敷

	打	安	点
⑨	岑	4	1	0
⑥	小	2	0	1
④	榎	4	2	0
③	山	3	1	0
R 5	洲	0	0	0
⑤ 3	杉	0	0	0
D	種	4	3	0
D R	子	3	2	0
⑦	尾	0	0	0
②	中	3	0	0
⑧	福	3	0	0
	谷	3	3	0
	猪	3	2	0
	計	29	8	4

	打	振	球	犠	盗	失	残	併
J	9	7	1	1	1	10	2	
三	8	2	1	0	0	3	1	

投	手	回	安	責
花	村	4⅓	7	4
大	畑	3⅔	1	0
彦	坂	7	3	1
岡	田	1	1	0
末	野	1	2	1

▽本塁打 山下（花村）▽三塁打 下戸（猪田）▽二塁打 西村▽2時間34分

シティ岡山

	打	安	点
⑧	海	林	4	0	0
④	東	濱	4	1	0
⑦	中	小	4	2	0
D	田	丸	3	1	0
③	筒	野	3	1	0
⑨	平	稲	3	0	0
②	大	林	3	0	0
H 2	松	山	3	1	0
⑤	竹	中	3	1	0
⑥	山	井	3	1	0
	瀬	野	3	0	0
	計	31	9	5

かずさ

	打	安	点
⑥	内	山	5	1	0
④	大	内	4	1	0
H R	勝	俣	0	0	0
⑤	奈	原	0	0	0
⑨ 7	下	山	4	2	1
⑦	吉	田	3	1	3
R 9	須	田	3	1	0
⑧	岡	良	0	0	0
③	眞	崎	2	0	0
D	戸	堀	4	0	1
②	木	川	4	2	1
H	上	村	3	0	0
	真	野	0	0	0
	計	32	8	6

	打	振	球	犠	盗	失	残	併
シ	4	4	1	0	1	4	0	
か	4	6	2	3	0	9	1	

投	手	回	安	責
金	津	5	4	3
藤	好	3⅓	4	3
瀬	崎	2⅔	5	5
渡	邊	7	4	0

▽本塁打 稲林（瀬崎）▽二塁打 山下（内田、瀬崎）▽ボーク 吉ク▽2時間42分

三菱重工W

	打	安	点
⑦	田	1	0	0
⑨	湯	0	0	0
⑧	杉	0	0	0
H ③	根	0	0	0
3 ④	西	0	0	0
⑥ D	和	0	0	0
D H ⑤	北	0	0	0
②	朝	0	0	0
	山	0	0	0
	坂	0	0	0
	中	1	0	0
	石	0	0	0
	計	3	1	0
	中	4	3	0
	口	3	2	0
	浦	3	0	0
	来	2	2	0
	岡	3	0	0
	気	3	1	0
	條	3	0	0
	日	3	0	0
	下	3	0	0
	山	3	0	0
	井	4	1	0
	計	31	5	4

伯和

	打	安	点
⑤	新	4	0	0
④	徳	3	0	0
⑥	福	4	0	0
③ D	中	4	0	0
D H ⑧	大	2	0	0
⑦	古	1	0	0
H 9	向	3	0	0
②	山	2	0	0
H ⑨	好	1	0	0
2 7	橋	2	1	0
	阿	1	0	0
	山	2	1	0
	本	1	0	0
	吹	2	1	0
	本	1	0	0
	計	29	2	0

	打	振	球	犠	盗	失	残	併
三	4	7	1	1	0	8	0	
伯	7	2	0	1	0	4	0	

投	手	回	安	責
中	澤	8	2	0
川	上	1	0	0
平	岡	6⅔	2	1
	谷	1⅔	3	3
下	沢	1⅓	0	0

▽本塁打 田中（平谷）▽三塁打 岡崎（谷）▽2時間37分 守備妨害 新倉

は1死二塁からの3連打などで3点を勝ち越し、4番手の嘉陽が反撃を抑えて逃げ切った。パナソニックは五回以降、2安打のみだった。

○…倉敷市営球場…○

JR北海道2本塁打 三菱倉敷反撃できず

▽Cブロック

三菱自動車倉敷（1勝1敗）
000 030 000 3
000 140 00× 5

JR北海道（1勝）

JR北海道は四回、南木が先制のソロを放ち、リードを許した五回には、松井の3ランで逆転した。三菱倉敷は相手継投の前に、反撃できなかった。

JR西連打でサヨナラ エナジック逃げ切れず

▽Cブロック

エナジック（1敗）
000 100 320 6
100 002 022 7

JR西日本（1勝1敗）

JR西日本は1点を追う九回2死二、三塁から、西村の適時打で追いつき、続く櫻井が遊撃へサヨナラ打を放った。

エナジックは終盤を託した大嵩が打たれた。

伯和小刻みに突き放す 岡山好機につながらず

▽Aブロック

伯和ビクトリーズA（1勝1敗）
002 020 101 6
001 000 000 1

シティライト岡山（2敗）

伯和ビクトリーズは三回、徳吉の適時打と犠飛で先行すると、五回にも徳吉が適時二塁打を放つなど小刻みに加点した。シティライト岡山は9安打もつながりを欠いた。

◇第3日（4月16日）

（予選リーグ）

○…マスカットスタジアム…○

三菱重工W西岡4打点 かずさ2度追いつくも

▽Aブロック

かずさマジック（1勝1敗）
003 011 000 5
000 413 00× 8

三菱重工West（2勝）

三菱重工Wは六回2死満塁から、杉浦、西岡の連続適時打で3点を勝ち越した。西岡は2ランを含む4打点。かずさマジックは終盤に好機を作りながら、一押しがなかった。

1点を追う三菱倉敷は九回2死満塁から、岑が右越えに逆転サヨナラ二塁打を放った。エナジックは八回、佐久田の適時打で勝ち越したが、好投していた仲宗根が九回にピンチを招いてしまった。

○…倉敷市営球場…○

ホンダ小刻みに得点 四国銀行5安打のみ

▽Dブロック

四国銀行（2敗）
000 000 000 0
000 110 01× 3

ホンダ（1勝1敗1分け）

ホンダは四回、右田の三塁打で先制すると、五回には岩本、八回には三井の適時打でリード。先発の有村以下3投手が四国銀行打線を散発の5安打に抑え、零封した。

西部ガス投手戦制す 大畑が8回を2安打

▽Bブロック

ツネイシ（2敗）
000 000 000 0
001 001 00× 2

西部ガス（2勝）

西部ガスは先発の大畑が8回を2安打に抑え、三回井手、六回松山の適時打による2点で逃げ切った。ツネイシも藤原、東田が好投したが、打線が奮わなかった。

JFE西継投奏功 4投手で新薬零封

▽Dブロック

JFE西日本（3勝）
002 001 000 3
000 000 000 0

日本新薬（1敗1分け）

JFE西日本は三回、大西の犠飛と古田の適時打で先制し、六回には河内のソロで加点した。先発西野以下4投手をつなぎ相手打線を零封した。日本新薬は七回に連打でようやくチャンスを作ったが、後続がなかった。

日本新薬

打		点	安	打
⑧	根武	0	2	4
④	柳濱	0	0	3
⑤	若舩	0	0	4
③	大植	1	1	4
⑦	橋笹	0	2	3
R	西梅	0	0	0
9	竹	0	0	0
D		0	0	0
⑥	路	0	0	0
②	銘田	0	0	3
⑨	舘田	0	0	4
H	林曳	1	2	3
9	石田	0	0	0
7	本原	0	0	0
	川田内	0	0	0
	計	2	8	32

Honda

打		点	安	打
③	峯辻	1	2	4
②	山井	0	0	4
⑤	村村	0	1	3
⑦	山金	0	0	4
D	小三	0	0	4
H	檜中	0	1	3
R	下上	0	0	3
D	田本	0	1	4
⑧	城口	0	0	4
⑨	浦村	0	1	3
④	村村	0	0	1
⑥	本	0	0	1
H	岩	0	0	0
	計	2	10	34

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9
本	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日	0	0	0	0	0	2	0	1	2

日	打	安	点	責
本	3	3	0	0
日	3	3	2	2

日	併	残	失	盗	犠	球	振
本	0	10	1	1	2	3	4
日	1	6	1	0	2	1	8

日	回	安	責
本	6⅔	8	2
日	2⅔	1	0
日	1⅔	1	0

▽本塁打　若二（本）

▽二塁打　林（岩）

▽三塁打　野（東田）

▽犠打　本（濱田）

▽併殺打　2

▽残塁　日本新薬10、Honda10

▽失策　日本新薬1、Honda1

▽暴投　日本新薬2

▽捕逸　日本新薬1

▽審判　（球）岩本、（塁）藤本、（線）遠藤

▽時間　2時間39分

JFE西

打		点	安	打
④	西屋	0	1	4
⑨	田井	0	2	4
⑦	山内	0	1	4
H	藤	0	0	4
D	原	0	2	4
⑤	岡	1	0	4
③	上大	0	1	3
⑧	綿高	0	0	3
⑥	土永	0	1	3
②	河後	2	2	3
	計	5	11	38

四国銀行

打		点	安	打
⑨	田野	0	0	3
④	北谷	0	2	3
⑥	田井	0	0	4
⑦	川河	0	1	4
⑧	村	0	2	3
D	神大	0	1	2
③	大真	0	0	0
②	藤橋	0	0	0
⑤	大下	0	0	0
	計	1	6	31

日	1併	8残	5失	1盗	4犠	0球	6振
本	1	5	2	1	2	1	9
日	1	5	0	0	1	0	3

日	責	安	回
本	0	4	5
日	1	0	1
日	0	⅓	⅓
日	1	4	4
日	0	⅓	⅔
日	1	3	3

▽二塁打　屋田（本）

▽三塁打　綿（投）

▽暴投　中（打）

▽捕逸　田（塁）

▽審判　二塁▽大井、北田

▽時間　2時間47分

◇**第4日**（4月17日）
（予選リーグ）
○…マスカットスタジアム…○

三菱重工W杉浦サヨナラ打 シティライト岡山粘り及ばず

▽Aブロック

シティライト岡山（3敗）	0	0	1	1	0	0	1	3	0	6
三菱重工West（3勝）	1	1	0	0	2	0	1	0	2	7

三菱重工Westは九回2死満塁から押し出しの四球で追いつき、杉浦が左前にはじき返してサヨナラ勝ち。八回に逆転したシティライト岡山だったが、4番手の荒田が九回2死無走者から崩れた。

かずさ終盤突き放す 伯和2安打に終わる

かずさマジック（2勝1敗）	1	0	0	0	0	0	2	3	0	6
伯和ビクトリーズ（1勝2敗）	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

1点をリードするかずさマジックは八回、山田が2点適時打を放ち、九回には真野の3ランで突き放した。伯和ビクトリーズは2安打に抑えられ、先発高橋の好投を生かせなかった。

エナジックが三回に集中打 JR北海道追い上げ及ばず

▽Cブロック

エナジック（1勝2敗）	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
JR北海道（1勝2敗）	0	0	0	1	0	0	1	1	1	4

エナジックは三回、宮平の2点適時打など6安打で5点を奪い、4投手のリレーで逃げ切った。JR北海道は終盤に反撃し、九回も1点差に詰め寄ったが及ばなかった。
○…倉敷市営球場…○

パナソニック逃げ切る ツネイシ工のソロのみ

▽Bブロック

ツネイシ（3敗）	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
パナソニック（1勝2敗）	0	1	0	0	1	1	0	0	×	3

パナソニックは五回、押し出しの四球で勝ち越すと、先発の北畑以下4投手の継投で逃げ切った。ツネイシは五回、工のソロで追いついたが、打線がつながらなかった。

トヨタ好機に畳みかける 西部ガス投手陣が捕まる

トヨタ自動車（3勝）	0	0	3	3	0	6	0			12
西部ガス（2勝1敗）	0	2	0	1	0	0	0			3

（七回コールド）

トヨタ自動車は三回、逢澤の適時打や犠飛で逆転すると、好機に畳みかける攻めで大量12点を奪った。西部ガスは先制したものの、投手陣が打ち込まれてしまった。

四国銀行乱打戦制す 日本新薬投手陣崩壊

▽Dブロック

四国銀行（1勝2敗）	0	2	0	0	3	3	0	2	3	13
日本新薬（2敗1分け）	0	0	0	4	0	2	1	2	0	9

四国銀行が大谷の先制ソロ

パナソニック

	打	安	点
⑦ 宮崎	5	1	0
⑥ 秀下	3	1	0
⑥ 坂浦	3	0	0
③ 上三	4	1	0
⑧ 田宅	4	1	0
⑨ R 9 植田	4	0	0
② 山	0	0	0
D 保	3	1	1
④ 久山	3	1	0
⑤ 法本	3	0	0
5 松浦	4	1	0
計	37	7	4

トヨタ

	打	安	点
⑤ 熊	4	2	3
③ 北佐	4	1	0
④ 藤	4	0	0
⑧ 逢澤	3	1	1
D 小八	4	1	0
RD 和	4	0	0
⑥ 高	3	0	0
② 坂	4	1	0
⑨ 祖	3	3	1
⑦ 徳	4	1	1
計	33	10	6

	投	手	回	安	責
投	榎	本	5	5	2
投	定	本	3	5	3
池	村		3 ⅔	5	4
加	藤		1 ⅓	1	0
渕	上		2	0	0
嘉	陽		2	1	0

▽三塁打 坂巻（秀、崎）▽二塁打 宮崎（坂巻）▽暴投 池澤、坂巻▽本、定本、榎本▽2時間42分

三菱倉敷

	打	安	点
⑨ 岑	5	2	0
⑥ 小	5	1	1
④ 榎	4	1	1
③ 山	4	1	1
⑤ 種	4	1	0
D 子	2	1	0
⑦ 尾	1	0	0
H 7 福	0	0	0
② 中	3	2	0
H 谷	1	0	0
⑧ 日	1	0	0
2 森	1	0	0
猪	4	1	0
計	31	8	3

JR北海道

	打	安	点
④ 石	3	1	1
⑤ 山川	3	1	0
⑦ 本	3	0	0
③ 波井	4	1	3
② 松南	3	1	1
⑨ 俵内	3	0	0
⑧ 小	4	2	0
D 冨	3	0	0
HD 西	2	0	0
⑥ 山	2	0	0
計	26	5	5

	投	手	回	安	責
投	岩	井	4 ⅓	3	3
長	谷	川	2 ⅔	2	2
岡		田	1	0	0
夏		井	4 ⅓	4	3
伊	藤		⅔	1	0
内	沢		2	0	0
大		崎	2	2	0

▽本塁打 南木（岩井）松井（長谷川）▽二塁打 川谷（尾崎）▽捕逸 堂▽2時間52分

エナジック

	打	安	点
⑥ 小	2	1	1
④ 西	1	1	1
② 佐	1	1	1
⑨ 田	1	1	0
⑦ 古	1	0	0
⑧ D 宮	0	0	0
DH 新	0	0	0
③ H 5 大福	0	0	0
⑤ 藤今	2	3	1
計	31	9	6

JR西日本

	打	安	点
③ 田	3	1	0
D 村	3	1	0
⑧ 田	3	3	0
⑤ 倉	3	2	0
⑨ 居	4	2	0
H 野	2	1	1
R 7 村井	1	1	1
④ 藤	4	2	1
② 田	2	1	0
H 田	1	0	0
2 藤	3	1	0
⑥ 本	3	0	0
⑦ 9 植	4	0	0
計	33	10	7

	投	手	回	安	責
投	宮	城	7	7	4
大		嵩	1 ⅔	3	4
真	一ノ	城	5	2	1
中	大	瀬	1	0	3
大		山		1 ⅓	2
大		畑	1	⅔ 2	0

▽本塁打（大嵩）▽打二塁 土居（池嵩）▽暴投 加藤▽捕逸 小▽2時間14分

伯和

	打	安	点
⑤	0	0	2
④	3	2	2
⑥	4	1	1
③ 新徳福中	2	0	0
D 古盛向山	2	1	0
HD 白橋山	2	0	0
⑧ 倉吉元川	2	1	0
⑦ 本田井上	3	2	0
② 澤本本	4	4	0
⑨	0	0	0
計	37	12	6

シティ岡山

	打	安	点
⑧ 海林	5	2	0
④ 6 松山	4	1	1
⑦ 竹中	4	2	0
D 中山井井	4	0	0
③ 林	4	1	0
⑨ 田	3	0	0
② 丸筒石稲	3	1	0
H ⑤ 林野田	3	0	0
⑥ 東濱中小田	1	0	0
H 4 大増	2	2	0
計	35	9	1

	投	手	回	安	責
投	手	田	7	7	1
飯	谷		1	1	0
下		沢	1	1	0
		林	5	6	2
		島	1 ⅓	2	0
		谷田	⅔	1	0
			2	3	1

▽本塁打 畳中（二、吉本）、打点3▽2時間43分

	伯	10	3	3	3	0	10	0	0
		振	球	犠	盗	失	残	併	
	シ	6	1	1	1	5	9	0	
エ	6	6	4	1	2	8	2		
	振	球	犠	盗	失	残	併		
J	4	7	2	1	0	9	1		
三	5	5	2	0	0	8	0		
	振	球	犠	盗	失	残	併		
J	8	7	1	4	0	5	1		
パ	5	4	2	1	3	6	2		
	振	球	犠	盗	失	残	併		
ト	6	4	1	4	0	7	1		

を含む3本塁打など、計14安打で打ち勝った。日本新薬も六回に大石が2ランを放つなど粘りを見せたが、投手陣が打ち込まれた。

JFE西4点差逆転

三菱倉敷終盤崩れる

◇**最終日**（4月18日）（決勝トーナメント）

○…マスカットスタジアム…○

▽準決勝

JFE西日本　002 001 042 | 9

三菱自動車倉敷　110 005 010 | 8

JFE西は八回、大西の適時二塁打を皮切りに押し出しなどで追いついた。再びリードされた九回には、河内の右前打で勝ち越した。三菱倉敷は終盤、投手陣も含め守りが乱れた。

トヨタ小畑が4打点の活躍

三菱重工W田中のソロのみ

三菱重工West　000 001 000 | 1

トヨタ自動車　103 002 01× | 7

トヨタ自動車は一回、小畑の適時打で先制すると、三回には小畑が左越えに3ランを放った。先発の増居が七回まで好投し、細川につないで反撃を封じた。三菱重工Wは田中のソロのみに終わった。

かずさ

		打	安	点
⑥	内大下吉須眞	4	2	1
④	山内山田田崎	5	2	3
⑤	5 5 4 5 2	0	0	0
⑨	1 2 0 0 0	0	0	0
⑦	0 0 2 1 0	0	0	0
⑧	岡	1	0	0
H	8 戸山木上勝山	3	2	0
③	堀田川村俣崎	3	2	0
H	3	0	0	0
D		2	2	1
②		2	1	0
H		0	0	0
2		0	0	0
	計	37	12	5

三菱重工W

		打	安	点
⑦	田中	3	0	0
H	7 根湯笹杉西和北朝	2	0	0
⑨	来口治浦岡気條日	3	1	0
9	0 0 0 4 5 0 4	0	0	0
⑧	2 3 3 2 3 1 1	2	1	1
③	山下藤山佐中石	3	0	0
3		0	2	1
④		1	2	1
⑥		1	1	0
D		3	0	0
HD		1	0	0
⑤		2	1	0
②		4	3	2
	計	33	12	8

か	5	5	1	0	0	1	1	2
	振	球	犠	盗	失	残		併
三	6	6	1	0	1	8		1

投	手	回	安	責
金	田	3 ⅔	5	4
塚	本	1	3	1
山	本	1 ⅓	4	3
瀬	崎	2	0	0
鷲	尾	3	3	3
藤	居	1 ⅓	3	1
	西	1 ⅔	2	1
辻	垣	1	0	0
太	田	1	1	0
川	上	1	3	0

▽本塁打　大内（鷲尾）西岡（金田）▽二塁打　内山、上村、北條▽暴投　山本▽３時間23分

JR北海道

		打	安	点
④	石川	4	1	0
⑤	山本	4	2	0
⑧	大槻	3	2	1
D	松井	3	1	0
③	南木	4	0	0
⑨	俵藤	3	0	0
H	南	1	0	0
⑥	冨田	2	0	0
②	村北	4	1	0
⑦	川波	3	1	0
H	西山	1	0	0
	計	32	8	1

JR西日本

		打	安	点
③	田村	5	2	0
D	戸田	5	1	0
⑧	大土倉	5	2	0
⑤	岡居	5	1	0
⑨	西野	4	3	1
⑦	村村	3	1	0
④	櫻井	2	1	2
②	加藤	4	2	1
⑥	佐藤	3	0	0
	計	36	13	4

北	7	4	0	0	5	8	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
西	7	3	3	1	0	12	2

投	手	回	安	責
内	沢田	4 ⅓	9	1
山	田	⅔	1	0
ユ	エン	1	1	1
	巻	1	1	0
大	崎	1	1	0
中	岡	6 ⅓	7	1
辰	己	2 ⅔	1	0

▽二塁打　山本、大倉▽暴投　ユエン▽２時間57分

エナジック

		打	安	点
⑥	小池	3	1	0
④	西表	2	0	1
②	佐久	4	1	0
⑨	田中	3	0	0
⑤	大原	4	1	0
⑦	古堅	4	0	0
⑧	宮平	4	0	0
③	田尾	3	2	0
R	金城	0	0	0
3	外間	0	0	0
D	今吉	2	0	0
H	上原	1	0	0
R	藤原	0	0	0
	計	28	4	1

三菱倉敷

		打	安	点
⑨	岑	4	2	2
⑥	小川	4	2	0
④	榎木	3	0	0
③	山下	3	0	1
⑤	種子島	4	0	0
D	尾堂	2	0	0
HD	日向	1	0	0
R	洙田	0	0	0
⑦	福島	4	1	0
②	谷川	4	4	0
⑧	猪崎	3	0	0
	計	32	9	3

エ	5	3	3	0	0	5	2
	振	球	犠	盗	失	残	併
三	3	4	1	0	2	8	0

投	手	回	安	責
大	嵩	2 ⅔	3	1
仲	宗根	5 ⅔	5	2
宮	城	⅓	1	0
染	川	1	0	0
長	谷川	4	1	0
平	野	2 ⅔	3	0
末	野	1 ⅓	0	0

▽二塁打　田尾、岑▽２時間40分

四国銀行

		打	安	点
⑨	柴田	4	2	0
③	橋川	4	1	0
⑥	大北	3	1	0
⑦	下谷	4	1	0
⑤	藤村	3	0	0
D	1 井井	3	0	0
1	神野	0	0	0
④	大河	3	1	0
②	南	1	0	0
H	岡崎	0	0	0
2	真田	3	0	0
⑧				
	計	30	5	0

Honda

		打	安	点
⑥	峯村	3	0	0
②	岩本	4	1	1
⑨	三浦	3	1	0
③	山下	4	1	0
⑤	坂口	4	1	0
D	三井	4	2	1
R	D 小口	0	0	0
⑦	右田	3	1	1
④	中村	3	0	0
⑧	金城	3	1	0
	計	31	8	3

四	13	1	0	0	1	4	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
H	5	2	1	5	0	7	2

投	手	回	安	責
佐	田	5	6	2
藤	井	2 ⅔	2	1
田	中	⅓	0	0
有	村	6	4	0
村	上	2	0	0
本	田	1	1	0

▽三塁打　右田▽二塁打　山下、井▽２時間14分

ツネイシ

		打	安	点
D	中里	4	1	0
④	工	3	1	0
⑦	8 前本	4	0	0
③	小南	3	0	0
⑨	中村	2	0	0
9	河野	1	0	0
⑤	新田	3	2	0
⑧	7 新地	3	0	0
②	小林	3	1	0
⑥	大内	3	0	0
	計	29	5	0

西部ガス

		打	安	点
⑨	樋口	4	0	0
⑦	永利	3	0	0
③	井手	3	1	1
D	安永	2	0	0
HD	野中	1	0	0
②	松山	4	1	1
⑥	八木	4	1	0
⑤	柴田	3	1	0
④	古川	3	2	0
H	4 原田	1	1	0
⑧	正木	3	2	0
	計	30	7	2

ツ	6	1	0	0	3	0	
	振	球	犠	盗	失	残	併
西	6	3	0	2	0	7	2

投	手	回	安	責
藤	原	5	4	1
東	田	3	3	1
大	畑	8	2	0
村	田	1	3	0

▽二塁打　松山▽暴投　東田▽２時間22分

トヨタ投打に危なげなく

JFE西は内野安打1本

▽決勝
JFE西日本　000 000 000 0
トヨタ自動車　210 010 00× 4

トヨタ自動車は一回1死満塁から、押し出しの四球と犠飛で2点を先制。二回には熊田の適時二塁打で追加点。4投手の継投で、相手打線を零封した。JFE西日本は、五回の永山の内野安打1本に抑えられた。

㊊…表彰選手…㊊

◇最高殊勲選手賞
増居翔太・投手（トヨタ自動車）

◇敢闘賞
岩本龍之介・投手（JFE西日本）

◇首位打者賞
熊田任洋・内野手（トヨタ自動車）＝16打数7安打、打率4割3分8厘

◇最優秀投手賞
増居翔太・投手（トヨタ自動車）

JFE西

		打	安	点
③	原	4	0	0
D	上西	3	1	0
HD	新田	1	0	0
⑨	田高	3	0	0
⑦	大西	3	0	1
⑤	古田	3	2	1
⑥	岡	2	0	0
④	河内	2	1	1
⑧	永山	4	0	0
②	後藤	3	1	0
	計	28	5	3

日本新薬

		打	安	点
⑧	根路銘	3	0	0
④	武田	3	0	0
⑦	若林	4	1	0
③	濱田	4	1	0
⑤	柳舘	3	0	0
H	大畑	1	0	0
⑥	橋本	4	1	0
D	大石	3	1	0
②	笹原	2	0	0
H2	植田	1	0	0
⑨	西川	2	1	0
H9	舩曳	1	0	0
	計	31	5	0

	振	球	犠	盗	失	残	併
J	4	5	3	0	0	6	0
日	4	1	1	0	0	6	0

投	手	回	安	責
西	野	2	1	0
岩	本龍	4	2	0
津	山	1	2	0
筒	井	2	0	0
戸	根	7	4	3
木	村	2	1	0

▽本塁打　河内（戸根）▽二塁打　後藤▽2時間14分

シティ

		打	安	点
⑨7	中増	5	1	1
④	山田	4	1	0
⑧9	丸山	5	1	0
⑦	野瀬	2	0	1
H8	海林	2	0	0
③	東中	5	2	0
D	田井	4	2	0
②	石野	2	1	0
H	平竹	0	0	0
2	小井	0	0	1
⑤	筒林	3	3	0
⑥	稲野	3	0	1
H6	大濱	0	0	1
	計	35	11	5

三菱重工W

		打	安	点
⑨7	田中	3	1	0
⑦	根来	2	0	0
H9	笹治	2	0	1
⑧	杉浦	6	4	3
③	岡西	2	1	1
3	古川	1	0	0
R4	吉田	0	0	0
④	北條	2	0	0
43	和気	2	0	0
⑥	朝日	3	1	0
D	坂之下	2	0	0
HD	佐藤	2	0	0
⑤	中山	5	4	1
R	青木	0	0	0
②	石井	3	2	1
H	山下	0	0	0
	計	35	13	7

	振	球	犠	盗	失	残	併
シ	8	5	2	0	0	9	1
三	6	11	2	0	2	15	2

投	手	回	安	責
大	谷	4⅔	8	4
金	津島	1	0	0
中	荒田	2	2	1
		1⅔	3	2
藤	井尾	2	3	0
坂	田	5	3	2
塩	田	1	4	3
	西	1	1	0

▽三塁打　稲林
▽二塁打　石井（シ）田中2（シ）、杉浦、石井（三）、中山3
▽3時間30分

かずさ

		打	安	点
D	木大	5	2	0
④	真内	2	1	0
H6	福吉	2	2	3
⑦	下勝	3	1	0
H	山内	2	1	0
9	野山	3	1	0
7	田開	2	1	1
H	内侯	4	1	0
9	山田	5	2	0
⑤	原崎	2	2	0
③	崎関	4	1	0
H3	良	4	1	0
4	奈眞	4	1	0
⑧	山小	2	0	0
②	小	0	0	0
	計	37	13	6

伯和

		打	安	点
⑤	新倉	4	1	1
④	徳吉	4	0	0
⑥	福元	4	0	0
③	中川	4	0	0
D	古本	2	0	0
H	宇宮	1	0	0
⑧	都井	2	1	0
⑦	向上	2	0	0
7	山上	2	0	0
②	白澤	1	0	0
H2	橋本	2	0	0
⑨	阿吹	1	0	0
H9	山川	2	0	0
	好	0	0	0
	計	29	2	1

	振	球	犠	盗	失	残	併
か	8	3	1	1	1	8	0
伯	7	3	0	0	1	4	0

投	手	回	安	責
山	本	2	1	0
渡邊	力	2	0	0
渡邉	匠	1	0	0
塚	本	1	0	0
吉	田哉	1	0	0
森	本	1	0	0
瀬	崎	1	0	0
高	橋	7	8	1
阿	部	1	4	2
中	尾	1	1	2

▽本塁打　真野（中尾）▽二塁打　吉田開▽2時間26分

エナジック

		打	安	点
⑥	小池	4	0	0
④	西表	4	2	0
②	佐久	4	2	1
⑨	田中	5	1	1
⑤	大原宗	3	1	0
⑦	堅	3	2	0
⑧	古宮平	4	1	2
③	田福尾	2	1	1
3	大古吉	1	0	0
H	今藤原	0	0	0
D	外間	3	1	0
HD	野原	1	0	0
	計	36	11	5

JR北海道

		打	安	点
④	石川	5	0	0
⑤	山本	3	2	0
⑦9	大槻	4	0	0
③	松井	4	2	1
②	南木	4	1	0
D	村北	3	1	1
⑧	内藤	4	1	0
⑨	俵藤	2	0	0
H	小林	1	0	0
7	川波	1	0	1
⑥	西山	2	0	0
H6	冨田	1	0	0
	計	34	7	3

	振	球	犠	盗	失	残	併
エ	4	6	1	3	4	11	0
J	11	2	1	1	1	6	1

投	手	回	安	責
古	堅瑞	6	3	1
平	安山	⅔	2	1
上	間	1	0	0
大	嵩	2	2	2
木	島	2⅓	6	5
山	田	2⅔	2	0
ユ	エン	1	0	0
	巻	1	1	0
伊	藤	2	2	0

▽二塁打　松井2伊▽暴投　木島、藤▽3時間

ツネイシ

		打	安	点
D	中	3	2	0
④	工	3	1	1
⑦9	河	4	0	1
③	野小	4	2	0
②	南草	3	0	0
⑨	中	2	2	0
H7	前本	2	1	0
⑧	新地	3	0	0
⑤	新田	4	3	0
⑥	大内	3	1	0
	計	31	7	1

パナソニック

		打	安	点
⑦	宮崎秀	1	0	0
H7	植田	2	1	0
⑥	坂下	4	0	0
③	浦	3	0	0
⑧	上田	1	0	0
⑨	三宅	3	1	2
④	永江	2	0	0
H	山路	1	0	0
4	法兼	1	0	0
D	宮崎恭	2	0	0
HD	小山	1	0	0
②	川上	4	1	0
⑤	松浦	3	2	1
	計	27	5	3

	振	球	犠	盗	失	残	併
ツ	11	3	1	2	2	7	1
パ	6	8	0	2	0	8	2

投	手	回	安	責
深	田	2⅓	3	1
大	中	2⅓	0	1
	原	⅔	1	1
東	田尾	1⅔	1	0
松		1	0	0
北	畑	3	2	0
奥	座奥	4	3	1
井	田	⅔	1	0
定	本	1⅓	1	0

▽本塁打　工（奥座）▽二塁打　三間宅、川上▽2時間42分

JFE西			打	安	点
④		原	4	0	0
⑨	上	西	2	0	0
H9	高	田	1	0	0
D	新	田	4	0	0
⑦	大	西	3	0	0
H	鳥	井	1	0	0
⑤	古	田	3	0	0
③	土	井	3	0	0
⑥	河	内	3	0	0
⑧	永	山	3	1	0
②	後	藤	1	0	0
H	末	田	1	0	0
2	篠	原	0	0	0
		計	29	1	0

トヨタ			打	安	点
⑤	熊	田	3	1	1
③	北	村	5	1	0
④	佐	藤	4	2	0
⑧	逢	澤	4	1	0
D	小	畑	1	1	1
⑥	和	田	3	2	2
②	和	井	4	0	0
⑨	坂	巻	4	1	0
⑦	徳	本	3	1	0
		計	31	10	4

	J	9	3	0	0	2	5	1
	振	球	犠	盗	失	残	併	
ト	2	6	1	0	1	1	0	0

投	手	回	安	責
岩本龍		1⅓	4	1
濱	岡	3⅓	4	1
岩本賢		1	0	0
安	岡	⅔	2	0
尾	田	1⅔	0	0
池	村	5	1	0
渕	上	2	0	0
嘉	陽	2	0	0

▽二塁打　熊田▽暴投　池村▽２時間40分

三菱重工W			打	安	点
⑦	田	中	2	1	1
⑨	湯	口	4	0	0
⑧	杉	浦	4	2	0
③	西	岡	4	0	0
④	北	條	4	1	0
⑥	朝	日	4	0	0
D	山	下	2	0	0
HD	笹	治	1	0	0
H	根	来	1	0	0
⑤	中	山	3	1	0
②	石	井	2	0	0
H	古	川	1	0	0
2	拾	尾	0	0	0
		計	32	5	1

トヨタ			打	安	点
⑤4	熊	田	3	2	0
③	北	村	2	1	1
④	佐	藤	3	1	2
H5	今	泉	1	0	0
⑧	逢	澤	4	0	0
D	小	畑	4	2	4
⑥	和	田	4	1	0
②	高	祖	3	0	0
⑨	坂	巻	3	0	0
H9	宮	崎	1	0	0
⑦	徳	本	4	2	0
		計	32	9	7

三	4	2	0	0	1	6	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
ト	7	7	0	0	0	8	0

投	手	回	安	責
中	澤	3	5	4
藤	井	2⅔	3	2
辻	垣	2	0	0
	西	⅓	1	0
増	居	7	5	1
細	川	2	0	0

▽本塁打　田中（増居）小畑（中澤）▽２時間44分

JFE西			打	安	点
④		原	4	1	1
⑨	上	西	5	2	0
D	高	田	2	0	0
HD	新	田	2	2	0
⑦8	大	西	5	1	3
⑤	古	田	3	0	0
③	土	井	4	1	1
⑥	河	内	5	3	2
⑧	永	山	4	2	0
R7	鳥	井	1	0	0
②	後	藤	3	0	0
		計	38	12	7

三菱倉敷			打	安	点
⑦		岑	5	2	0
⑨	安	藝	3	1	1
④	榎	木	5	3	4
③	山	下	5	2	0
D	日	向	5	1	0
⑤	尾	堂	5	1	2
⑥	杉	村	5	2	1
②	谷	川	4	2	0
⑧	猪	崎	4	3	0
		計	41	17	8

J	6	4	2	1	1	8	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
三	6	1	1	0	2	8	0

投	手	回	安	責
本	田	1⅔	6	2
尾	田	⅓	0	0
筒	井	3⅓	5	3
岩本賢		1	3	2
長	野	2	3	1
津	山	⅔	0	0
彦	坂	7⅓	8	5
岡	田	⅔	0	0
末	野	1⅔	4	2

▽本塁打　杉村（筒井）尾堂（筒井）▽二塁打　大西、岑、安藝▽２時間57分

四国銀行			打	安	点
⑨	柴	田	5	2	1
⑥	大	北	4	3	4
D		南	4	0	1
⑦	大	谷	4	2	2
⑤3	下	村	5	3	1
③	橋	川	4	1	0
H5	平	瀬	1	0	0
④	神	野	4	1	1
⑧	真	田	1	0	0
R8	川	田	2	1	1
②	大	河	3	1	1
		計	37	14	12

日本新薬			打	安	点
⑧	根路銘		4	1	0
④	田	中	2	0	0
H3	大	畑	2	0	0
⑨	大	石	4	2	4
H	舩	曳	1	0	0
D	濱	田	5	2	0
③6	橋	本	4	2	0
⑤	柳	舘	5	2	0
⑥4	高	原	5	2	0
②	後	藤	2	0	1
H	梅	田	1	0	0
2	笹	原	0	0	0
H2	植	田	1	0	0
⑦	竹	内	3	2	1
7	西	川	2	1	1
		計	41	14	7

四	3	5	3	3	2	5	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
日	7	6	1	1	1	12	0

投	手	回	安	責
田	中	3⅔	6	3
藤	井	2⅔	6	3
田	井	2⅔	2	2
小	松	2	3	2
奥	村	2⅓	2	3
木	村	⅓	1	0
藤	本	1⅓	2	3
木	下	1⅓	1	1
齋	藤	⅔	4	2
山	上	1	1	1

▽本塁打　大谷（小松）大北（藤本）川田（山上）大石（藤井）▽二塁打　橋川、神野、大谷、竹内、柳舘２、西川、高原▽暴投　田井▽３時間26分

トヨタ			打	安	点
⑤	熊	田	1	0	2
③	北	村	4	3	3
④	佐	藤	3	1	0
⑧	逢	澤	4	2	4
D	小	畑	2	0	1
HD	三	塚	1	1	0
⑥	和	田	4	1	0
②	高	祖	4	2	1
⑨	坂	巻	2	1	1
9	西	村	0	0	0
⑦	徳	本	3	1	0
		計	28	12	12

西部ガス			打	安	点
⑨	樋	口	3	0	1
H	園	田	1	0	0
⑦	永	利	3	1	0
H	古	川	1	0	0
③	井	手	3	1	0
H	野	中	1	0	0
D	安	永	1	0	0
②	松	山	2	0	0
⑥	八	木	2	2	0
⑤	柴	田	3	1	0
④	原	田	3	1	1
⑧	正	木	1	0	0
		計	24	6	2

ト	2	11	4	0	1	10	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
西	6	5	1	0	0	6	0

投	手	回	安	責
山	内	3⅔	3	1
後	藤	2	2	1
加	藤	2	1	0
松	本	3	2	3
田	中	2⅔	4	6
岩	崎	⅓	3	3
山	田	⅔	1	0
村	田	1	2	0

▽二塁打　高祖、逢澤、井手▽暴投　松本▽２時間50分



岡山大会・決勝戦一覧

	優勝チーム		準優勝チーム
第1回（昭32年）	大昭和製紙	2－0	明電舎
第2回（〃33年）	倉敷レイヨン	3－1	三井造船玉野
第3回（〃34年）	日本生命	8－2	米子鉄道管理局
第4回（〃35年）	日本生命	7－4	日本石油
第5回（〃36年）	日本生命	3－0	リッカーミシン
第6回（〃37年）	三井造船玉野	1－0	日本楽器
第7回（〃38年）	全鐘紡	5－0	日本楽器
第8回（〃39年）	全鐘紡	7－2	倉敷レイヨン岡山
第9回（〃40年）	松下電器	4－3	東洋紡岩国
第10回（〃41年）	日本石油	3－0	大昭和製紙
第11回（〃42年）	日本石油	3－1	三協精機
第12回（〃43年）	日本石油	7－1	クラレ岡山
第13回（〃44年）	小西酒造	5－2	日本軽金属
第14回（〃45年）	クラレ岡山	4－2	小西酒造
第15回（〃46年）	日本楽器	4－0	日本石油
第16回（〃47年）	日本生命	7－0	いすゞ自動車
第17回（〃48年）	クラレ岡山	2－0	リッカーミシン
第18回（〃49年）	本田技研	2－1	鐘淵化学
第19回（〃50年）	東京ガス	2－0	大昭和製紙
第20回（〃51年）	日本鋼管福山	5－3	富士重工業
第21回（〃52年）	日本鋼管福山	3－1	大昭和製紙
第22回（〃53年）	三菱重工広島	5－0	新日鐵名古屋
第23回（〃54年）	日鉱佐賀関	4－1	新日鐵光
第24回（〃55年）	東芝	3－1	日本鋼管福山
第25回（〃56年）	東芝	6－4	日本石油
第26回（〃57年）	東芝	8－1	川崎製鉄水島
第27回（〃58年）	東芝	3－2	電電中国
第28回（〃59年）	日本生命	5－4	日本鋼管福山
第29回（〃60年）	東芝	7－1	三菱自動車水島
第30回（〃61年）	日本生命	9－8	三菱自動車水島
第31回（〃62年）	NTT北海道	11－2	川崎製鉄神戸
第32回（〃63年）	日本新薬	8－7	三菱重工広島
第33回（平1年）	神戸製鋼	7－6	日本石油
第34回（〃2年）	NTT東北	9－2	日本石油
第35回（〃3年）	東芝	5－3	川崎製鉄水島

	優勝チーム		準優勝チーム
第36回（〃4年）	日本石油	8－3	NTT東北
第37回（〃5年）	東芝	4－3	日本石油
第38回（〃6年）	神戸製鋼	5－4	新日鐵名古屋
第39回（〃7年）	日本石油	6－0	東芝
第40回（〃8年）	日本石油	4－3	三菱自動車水島
第41回（〃9年）	日本石油	9－3	JR東日本
第42回（〃10年）	神戸製鋼	14－7	NTT東海
第43回（〃11年）	NKK	11－7	神戸製鋼
第44回（〃12年）	三菱自動車水島	5－3	神戸製鋼
第45回（〃13年）	松下電器	4－3	三菱重工長崎
第46回（〃14年）	日本IBM野洲	1－0	三菱重工長崎
第47回（〃15年）	日本生命	6－2	JFE東日本
第48回（〃16年）	日本生命	4－1	かずさマジック
第49回（〃17年）	三菱重工長崎	7－4	王子製紙
第50回（〃18年）	東芝	4－3	JFE西日本
第51回（〃19年）	日産自動車	12－0	日産自動車九州
第52回（〃20年）	JR東海	3－1	松下電器
第53回（〃21年）	新日本石油ENEOS	8－1	セガサミー
第54回（〃22年）	JR北海道	5－3	三菱重工横浜
第55回（〃24年）	JFE西日本	3－0	JFE東日本
第56回（〃25年）	JR東日本	5－4	伯和ビクトリーズ
第57回（〃26年）	三菱重工広島	3－1	JR東日本
第58回（〃27年）	パナソニック	3－2	JX-ENEOS
第59回（〃28年）	トヨタ自動車	2－0	三菱重工長崎
第60回（〃29年）	Honda	4－0	ヤマハ
第61回（〃30年）	大阪ガス	4－2	日本通運
第62回（〃31年）	JFE西日本	8－7	シティライト岡山
第63回（令3年）	日本製鉄広畑	8－1	三菱自動車倉敷オーシャンズ
第64回（〃4年）	Honda熊本	3－1	パナソニック
第65回（〃5年）	JFE西日本	3－0	JR東海
第66回（〃6年）	西部ガス	4－3	Honda熊本
第67回（〃7年）	トヨタ自動車	4－0	JFE西日本

※平成23年は東日本大震災のため大会中止
※令和2年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

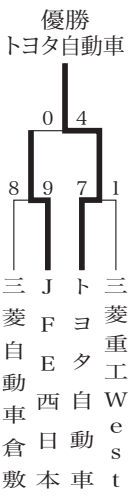
第67回大会・熱戦の軌跡

Aブロック	シティライト岡山	三菱重工West	日本製鉄かずさマジック	伯和ビクトリーズ	勝	敗	順位
シティライト岡山	㊫	●6－7	●5－6	●1－6	0	3	4
三菱重工West	○7－6	㊫	○8－5	○4－0	3	0	1
日本製鉄かずさマジック	○6－5	●5－8	㊫	○6－1	2	1	2
伯和ビクトリーズ	○6－1	●0－4	●1－6	㊫	1	2	3

Bブロック	パナソニック	ツネイシブルーパイレーツ	西部ガス	トヨタ自動車	勝	敗	順位
パナソニック	㊫	○3－1	●2－5	●4－7	1	2	3
ツネイシブルーパイレーツ	●1－3	㊫	●0－2	●5－7	0	3	4
西部ガス	○5－2	○2－0	㊫	×3－12	2	1	2
トヨタ自動車	○7－4	○7－5	◎12－3	㊫	3	0	1

Cブロック	JR北海道硬式野球クラブ	エナジック	三菱自動車倉敷オーシャンズ	JR西日本	勝	敗	順位
JR北海道硬式野球クラブ	㊫	●4－5	○5－3	●1－6	1	2	4
エナジック	○5－4	㊫	●2－3	●6－7	1	2	3
三菱自動車倉敷オーシャンズ	●3－5	○3－2	㊫	○5－2	2	1	1
JR西日本	○6－1	○7－6	●2－5	㊫	2	1	2

Dブロック	四国銀行	日本新薬	JFE西日本	Honda	勝	敗	順位
四国銀行	㊫	○13－9	●2－9	●0－3	1	2	3
日本新薬	●9－13	㊫	●0－3	△2－2	0	2	4
JFE西日本	○9－2	○3－0	㊫	○3－2	3	0	1
Honda	○3－0	△2－2	●2－3	㊫	1	1	2



SUBARUが17大会ぶりの優勝

第47回　JABA日立市長杯選抜野球大会

日立製作所に決勝でコールド勝ち

MVPは決勝で零封の八野田投手（SUBARU）

第47回ＪＡＢＡ日立市長杯は４月17日から21日まで日立製作所野球場、大宮市民球場、ひたちなか市民球場で行われ、決勝でＳＵＢＡＲＵが日立製作所を７―０で破り、17大会ぶり３回目の栄冠に輝いた。

大会には16チームが出場し、各４チームの４ブロックで予選リーグを戦い、各ブロック１位が準決勝に進んだ。

準決勝では、日立製作所が９―６でＪＲ東日本に逆転勝ち、ＳＵＢＡＲＵも投手陣の好投でＪＲ東海を４―１で退けた。決勝ではＳＵＢＡＲＵが立ち上がりから主導権を握り、七回コールド勝ちを収めた。

最高殊勲選手賞には決勝で完投したＳＵＢＡＲＵの八野田龍司投手、敢闘賞には日立製作所の宮慎太朗内野手が選ばれ、ＳＵＢＡＲＵの外山優希内野手が首位打者賞（17打数８安打、打率４割７分１厘）を獲得した。

ブロック分けは次の通り。

【Ａ】日立製作所、セガサミー、ニチダイ、日本製鉄東海ＲＥＸ

【Ｂ】日本製鉄鹿島、ＥＮＥＯＳ、トヨタ自動車東日本、ＪＲ東海

【Ｃ】ＳＵＢＡＲＵ、日本通運、大和高田クラブ、沖データコンピュータ学院

【Ｄ】エイジェック、ＪＲ東日本、日本製紙石巻、ジェイプロジェクト

◇第１日（４月17日）（予選リーグ）

○…日立製作所野球場…○

セガサミー逆転勝利　須田が殊勲の３ラン

▽Ａブロック

ニチダイ（１敗）　000 030 000　3

セガサミー（１勝）　000 000 41×　5

セガサミーは七回、中川の適時打の後、須田が逆転の３ランを左越えに放った。ニチダイは道井の２ランなどで先制したが、後半はセガサミー救援陣に抑えられた。

日立先発全員19安打　東海ＲＥＸ投手陣乱調

日立製作所（１勝）　311 300 5　13

日本製鉄東海ＲＥＸ（１敗）　000 000 0　0

（七回コールド）

日立製作所は一回、１死からの４連打などで３点を先制

ニチダイ

	打	安	点
Ｄ	東	0	0
⑨	西	0	0
④	岩	1	1
⑤	馬	0	0
⑦	城	0	0
⑧	宮	0	0
③	西	0	0
②	井	0	0
⑥	道	0	0
	計	2	2

	打	安	点
⑨	門	1	0
④	尾	1	0
⑤	本	0	0
⑦	場	1	0
⑧	島	0	0
③	坂	1	0
②	元	0	0
⑥	上	1	0
	井	0	0
	計	6	1

セガサミー

	打	安	点
⑨	植	1	0
９	谷	0	0
⑧	神	0	0
⑤	加	0	0
③	黒	1	0
⑦	竹	0	0
７	高	0	0
ＤＨ	高	0	0
ＲＤ	宮	0	0
ＨＤ	宮	0	0
⑥	笠	0	0
②	中	1	0
２	吉	0	0
④	須	0	0
	北	0	0
	計	3	0

	打	安	点
⑨	田	1	0
⑥	口	0	0
Ｈ	山	0	0
⑤	藤	2	0
Ｄ	川	2	0
⑦	谷	2	0
⑧	島	1	0
８	本	0	0
③	川	1	0
②	浦	0	0
Ｈ	松	1	0
２	川	3	0
④	田	0	0
	川	3	0
	計	28	7

	責	安	残	失	盗	犠	振	球	併
ニ	0	0	0	0	0	0	9	3	0
セ	1	4	4	1	0	1	9	4	1

	責	安	残	失	盗	犠	振	球	併
立	6	4	1	1	0	1	6	4	0
東	6	0	0	1	0	0	9	3	0

	責	安	打	回	手	
投	3	6	⅓	6	本倉井	小井
吹	1	1	⅔			間
小	1	0		1	酒	時
酒			⅔	4	井	道
井	0	1	⅓	2	田	須
田	0	0		1	武	墨
武	0	0		1	伊	▽
伊	0	1		1	草	2
草	0	0		1	海	

▽本（田）墨中、打二川、黒倉上、20分

日立製作所

	打	安	点
⑧	鵜	2	1
④	森	1	0
⑨	清	4	1
⑤	谷	2	4
R5	永	0	0
⑥	宮	3	1
⑦	竹	1	0
D	野	2	2
HD	山	1	3
②	鮎	2	1
③	吉	1	0
	計	19	13

東海REX

	打	安	点
⑨	山	0	0
⑥	本	0	0
Ｈ	木	1	0
⑤	村	3	0
Ｄ	丸	0	0
⑦	井	0	0
⑧	南	0	0
８	塚	0	0
③	盛	2	0
②	坂	0	0
Ｈ	木	0	0
２	保	0	0
④	川	0	0
	本	0	0
	計	10	0

	責	安	打	回	手	
投	0	1		7	爪	北
北			⅔			
吉	5	10		3	川	
浦	3	4		1	本	
池	0	0		2	戸	
徳	5	5	⅔		永	
佐	0	0	⅓		伯	

▽本（浦）墨中、打三浦水、本清下、投２時、暴32分

JR東海

	打	安	点
Ｄ	下	3	1
⑤	山	1	0
⑨	三	1	0
⑧	水	0	0
③	平	0	0
⑥	山	0	0
④	佐	0	0
②	須	0	0
⑦	松	0	0
	計	32	8

ENEOS

	打	安	点
⑥	浦	4	0
④	口	4	1
⑤	田	4	0
③	山	3	0
⑨	上	4	0
ＤＨ	澤	2	0
Ｄ	田	1	0
⑦	倉	3	0
②	馬	2	0
⑧	山	3	1
	計	30	4

	責	安	残	失	盗	犠	振	球	併
Ｊ	9	11	3	1	0	1	9	1	1
Ｅ	7	2	5	0	0	0	7	2	1

	責	安	打	回	手	
投	4	4	⅓	8	後川	不喜
不	0	0	⅔			
喜	0	0			久	
加	4	8		5	藤	
飯	0	0		2	田	
関	0	0		2	根	

▽本（加）墨藤、打下二倉▽与、山打暴間▽時２、後不２、投松野21分

すると、四回の野中の2ランなど計19安打の猛攻でコールド勝ち。日本製鉄東海REXは1安打に終わった。

○…大宮市民球場…○

JR東海が快勝 下山先制3ラン

▽Bブロック

JR東海（1勝）

003 010 000 4
000 000 000 0

ENEOS（1敗）

JR東海は三回、下山の3ランで先制し、五回には山澤の適時打で追加点。先発の不後が九回途中まで好投し、喜久川へつないでENEOSを零封した。

鹿島2本塁打で突き放す トヨタ東日本4安打のみ

トヨタ自動車東日本（1敗）

002 000 000 2
013 020 00× 6

日本製鉄鹿島（1勝）

日本製鉄鹿島は三回、山口の3ランで逆転し、五回には今里の2ランで突き放した。トヨタ自動車東日本は中盤以降、打線につながりを欠いた。

大和高田ク西が完封 七回以降走者出さず

▽Cブロック

日本通運（1敗）

000 000 000 0
200 100 00× 3

大和高田クラブ（1勝）

大和高田クラブの先発、西が6安打に抑え完封勝利。六回まで毎回、走者を許したが、それ以降は一人も塁に出さなかった。日本通運は救援陣の頑張りに応えられなかった。

SUBARU完勝 二回以降毎回得点

沖データコンピュータ学院（1敗）

000 000 0 0
021 132 × 9

SUBARU（1勝）

（七回コールド）

SUBARUは二回、中里の適時打で先制すると、森下や外山の本塁打などで小刻みに追加点を奪った。投手陣も、

トヨタ東

		打	安	点
⑦	山崎	3	0	0
⑤	齋藤大	4	2	2
③	瀬戸	4	0	0
⑨	植本	4	1	0
⑥	佐々木麗	2	0	0
④	佐々木一	4	0	0
D	田中	2	0	0
②	根来	2	0	0
⑧	瀬川	3	1	0
	計	28	4	2

日鉄鹿島

		打	安	点
D	田崎	5	2	0
⑧	陶山	5	0	0
⑤	樫村	3	1	0
⑦	生目	4	1	0
③	今里	3	2	2
⑨	口平	3	2	3
R 9	松山	0	0	0
②	田冨	4	2	0
④	松田	3	0	0
⑥	池間	2	1	1
6	小林	1	1	0
	計	33	12	6

ト	8	6	0	0	0	0	5	2	
	振	球	犠	盗	失	残	併		
日	3	6	0	1	0	9	2		

投	手	回	安	責
中村	隆	4	6	4
中村	彪	2	3	2
小	谷	⅔	0	0
齋藤	智	1 ⅓	3	0
佐	田	5	2	2
塙		4	2	0

▽本塁打 山口（中村隆）今里（中村彪）▽三塁打 齋藤大▽二塁打 瀬川、松田、生目▽暴投 齋藤智▽2時間24分

日本通運

		打	安	点
⑦	横添	4	0	0
④	山田	4	2	0
⑨	北沓	4	1	0
D	川澤	4	0	0
③	西木	4	1	0
⑥	村垣	3	1	0
⑤	稲山	3	0	0
②	手銭	3	1	0
⑧		3	0	0
	計	33	6	0

大和高田ク

		打	安	点
③	口分田	3	0	0
⑤	中川	4	2	0
⑨	松下	4	0	0
②	深尾	2	0	0
D	三藤	2	1	1
⑦	犬飼	3	1	0
④	西浦	1	0	1
⑥	井上	3	0	0
⑧	岡	3	0	0
	計	25	4	2

日	7	1	0	2	1	7	1		
	振	球	犠	盗	失	残	併		
大	10	6	2	2	0	6	0		

投	手	回	安	責
冨川	士船	4	3	2
平中	元田	2 1 ⅓	0 1	0 0
西		9	6	0

▽二塁打 木村▽2時間20分 暴投 平▽

沖データ

		打	安	点
⑨	早山	3	0	0
⑤	黒下	3	0	0
⑦	三田	3	0	0
⑧	前谷	3	1	0
D	平田	2	2	0
H	岸田	1	0	0
④	植田	4	0	0
H	本村	2	1	0
②	森口	1	1	0
H	倉田	1	0	0
R	中村	0	0	0
③	郷司	2	1	0
⑥		0	0	0
	計	22	4	0

SUBARU

		打	安	点
⑨	江藤	4	0	0
⑦	原	4	1	0
⑧	古川	3	1	1
R 8	海老根	3	0	0
③	外山	3	3	3
D	小玉	3	1	0
⑥ 5	中里	3	2	2
⑤	森下	3	1	1
R 6	田	0	0	0
②	新出	2	0	0
H	山田	1	1	0
2	馬場	0	0	0
④	日置	3	0	0
	計	29	10	8

沖	6	2	1	0	2	4	0		
	振	球	犠	盗	失	残	併		
S	2	0	0	3	2	2	1		

投	手	回	安	責
竹ノ	上	4	⅔ 8	4
小	川	1	⅓ 2	1
三	浦	5	3	0
田箱	嶋山	1 1	0 1	0 0

▽本塁打 森下（竹上）外山（竹ノ上）▽暴投 小川▽守備妨害 前田▽1時間59分

日本製紙

		打	安	点
⑦	金橋	4	0	0
④	井本	4	1	0
5 ⑨	林呉	1	0	0
⑤	中野	2	0	0
4	本川	0	0	0
H	藤野	1	0	0
D	口山	3	1	0
③	坂杉	3	1	0
⑧		3	0	0
②		0	0	0
⑥		0	0	0
	計	30	5	4

エイジェック

		打	安	点
⑧	杉本	3	0	0
R	竹花	0	0	0
④	高岡	5	2	1
⑦	渡辺	5	1	1
③	田島	4	1	1
H	田恋	1	0	0
⑤	井和	3	0	0
D	野河	4	2	1
⑨	本草	3	1	0
②	木鈴	1	0	0
H	濃小	1	0	0
2	島岡	1	1	0
H	橋高	1	0	0
R ⑥	神石	0	0	0
	計	34	10	4

日	10	3	1	3	0	3	1		
	振	球	犠	盗	失	残	併		
エ	8	4	2	1	0	9	1		

投	手	回	安	責
鈴相	木内	5	⅔ 7 ⅓ 0	2 0
秋小	田野		⅔ 1 ⅓ 0	1 0
星川	野合	1 1	0 2	0 1
河安	北藤	3 ⅓	⅔ 3	3 1

▽本塁打 佐藤（谷内）▽二塁打 塁島、田辺▽2時間56分 坂口、渡井

JR東日本

		打	安	点
③	杉崎	5	0	0
D	菅成田	3	0	0
R D	山本輝	0	0	0
④	杉崎成	4	2	0
⑤	高橋内	3	1	0
⑨	山野石	3	0	1
H 7	内倉崎	0	0	0
⑥	海篠田	4	3	1
⑧	篠小藤	3	2	3
②	岩栗本	3	0	0
H	栗田	1	0	0
2	田林	0	0	0
⑦ 9	栗	4	0	0
	計	33	8	5

ジェイプロ

		打	安	点
④	片岡	4	1	0
D	平田	3	1	0
⑨	上宮	4	1	0
⑦	橋本	4	0	0
③	富川	4	2	0
R	満田	0	0	0
⑥	宮内	4	2	0
⑤	木内	2	0	0
5	岡本	1	0	0
②	神農	3	0	0
H	浅野	3	0	0
⑧	岡田	4	0	0
	計	33	7	0

J	5	10	2	0	1	13	0		
	振	球	犠	盗	失	残	併		
ジ	4	2	1	1	1	9	2		

投	手	回	安	責
古	谷	6 ⅔	5	0
小	野	1 ⅓	0	0
	谷	1	2	0
鶴	我	6 ⅔	7	2
満	慎	⅔	0	2
笈	川	1	1	0
中	川	1	0	0
伊	藤	1	0	0

▽二塁打 塁島▽3時間2分 海崎、間

日本製鉄鹿島

		打	安	点
⑦	成田	5	3	0
D	本輝	0	0	0
R D	成	0	0	0
④	橋内	4	3	0
⑤	内野	3	3	0
⑨	野石	3	0	0
H R 7	石崎	0	0	0
⑥	崎田	4	3	2
⑧	田藤	4	3	3
②	藤本	3	1	0
H	本田	1	0	0
2	田林	0	0	0
⑦ 9	栗	4	0	0
	計	33	8	5

日	10	3	1	3	0	3	1		
	振	球	犠	盗	失	残	併		
製	8	4	2	1	0	9	2		

投	手	回	安	責
竹ノ	上	4	⅔ 8	4
小	川	1	⅓ 2	1
三	浦	5	3	0
田箱	嶋山	1 1	0 1	0 0

▽本塁打 森下（竹上）外山（竹ノ上）▽暴投 小川▽守備妨害 前田▽1時間59分

◇**第2日**（4月18日）
（予選リーグ）
○…日立製作所野球場…○

竹内逆転2ラン 日立が逃げ切る

▽Aブロック

セガサミー（1勝1敗）

	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	0	0	0	0	2	0	0	0	2

日立製作所（2勝）

日立製作所は五回、四球の宮を一塁に置き、竹内が右中間に逆転の2ランを放つと、六回以降を岡と生井が抑えて逃げ切った。セガサミーは犠飛による1点に終わった。

ENEOS村上先制3ラン 日本製鉄鹿島は4安打のみ

▽Bブロック

日本製鉄鹿島（1勝1敗）

	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	3	1	0	0	1	0	0	×	5

ENEOS（1勝1敗）

ENEOSは一回、村上の3ランで先制すると、六回にも飯山のソロで追加点を挙げた。日本製鉄鹿島は4安打に抑えられ、山口のソロのみにとどまった。

先発の新人、三浦以下計3投手で相手打線を封じた。

日本製紙石巻逃げ切れず エイジェック2度同点に

▽Dブロック

日本製紙石巻（1分け）

	0	0	0	3	0	0	0	1	4
	1	0	0	0	0	1	1	0	4

エイジェック（1分け）

九回、日本製紙石巻が佐藤の本塁打で勝ち越すと、エイジェックも高岡の適時打で追いついた。エイジェックは2度、リードを許したが、3番手谷内の好投が引き分けに結びついた。

JR東七回に突き放す 投手陣も相手打線零封

JR東日本（1勝）

	0	1	0	0	0	0	4	0	5
	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ジェイプロジェクト（1敗）

JR東日本は七回無死満塁から、二つの押し出し四球と適時打で一挙4点を挙げ、試合を決めた。ジェイプロジェクトは先発の鷲我が好投している間に、反撃したかった。

セガサミー

	打	安	点
④ 北川	4	1	0
D 谷川	1	1	1
HD 竹内	1	0	0
⑤ 宮加	4	0	0
③ 黒川	3	2	0
⑨ 高島	3	0	0
⑥ 中川	4	1	0
⑦ 笠松	3	0	0
7 谷口	1	0	0
② 須田	4	1	0
⑧ 神山	3	1	0
H 高本	1	0	0
計	32	7	1

日立製作所

	打	安	点
⑧ 鵜沼	4	0	0
④ 森田	4	1	0
⑨ 清水	4	0	0
⑤ 谷内	4	1	0
⑥ 宮	2	0	0
⑦ 竹内	2	1	2
D 野中	3	1	0
② 鮎ヶ瀬	2	0	0
③ 吉川	3	1	0
計	28	5	2

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失	併
セ	0	0	2	2	1	1	0	0	0	8	8	0	2
日	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5	8	2	1

投	手	回	安	責
尾	崎	5	3	2
武	冨	1⅔	2	0
伊	波	1⅓	0	0
田	川	5	5	1
岡		2	2	0
生	井	2	0	0

▽本塁打　竹内（尾崎）▽2時間24分

日鉄鹿島

	打	安	点
D 田	3	0	0
⑧ 陶山	3	0	0
H 山本	0	0	0
H 田山	1	0	0
8 村目	4	0	0
⑤ 平樫	4	0	0
⑦ 生田	4	1	0
③ 今里	4	0	0
⑨ 山口	3	1	1
② 揚村	2	1	0
④ 冨田	3	1	0
⑥ 池間	2	0	0
H 松田	1	0	0
6 小林	0	0	0
計	30	4	1

ENEOS

	打	安	点
⑥ 松浦	5	1	1
⑤ 川口	4	1	0
⑨ 村上	2	1	3
③ 丸山	4	2	0
② 植田	3	0	0
D 瀧澤	4	0	0
⑦ 与倉	2	1	0
⑧ 飯山	3	2	1
④ 瀬戸内	3	1	0
計	30	9	5

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失	併
日	6	0	0	0	0	0	4	0	0	4	7	2	0
E	6	5	3	0	1	9	2						

投	手	回	安	責
山	口	1⅓	4	4
諸見里		2⅔	2	0
金	城	3	3	1
古	川	1	0	0
阿	部	7⅔	4	1
飯	田	1⅓	0	0

▽本塁打　山口（阿部）村上（山口）飯山（金城）▽二塁打　丸山、飯山▽2時間22分

エイジェック

	打	安	点
④3 高草	5	4	2
⑨ 岡野	4	3	2
⑦ 渡竹	4	3	1
7 和小	1	0	0
⑤ 花田	2	1	3
H5 吹井	1	1	0
HD 原濃	4	2	0
HD2 島木	4	1	0
③ 高岡	0	0	0
⑥ 神島	5	2	1
② 河小	4	1	0
H 田高	0	0	0
HR4 神高	3	1	0
⑧ 杉本	3	0	1
8 石神	3	0	0
計	35	14	13

ジェイプロ

	打	安	点
④ 片岡	4	2	0
⑦ 橋本	4	3	1
⑨ 上宮田	4	2	1
③ 富川	4	2	1
3 大平	1	0	0
D 宮田	3	0	0
⑥ 宮内	2	0	0
② 神農	2	1	0
H2 浅野	1	0	0
⑤ 木内	1	0	0
H 岡本	1	1	0
⑧ 岡田	2	0	0
H 満颯	1	0	0
計	28	10	3

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失	併
エ	4	7	2	0	0	1	0	3		17	10	3	
ジ	6	3	0	0	1	6	0						

投	手	回	安	責
川	端	2⅓	6	2
坂	主	2⅔	1	0
湯	浅	1	0	0
金	城	1	3	2
鎌	田	3	6	4
笈	川	⅔	3	4
満田	慎	⅓	0	0
伊	藤	2	4	3
大久保		1	1	0

▽本塁打　和田（伊藤）▽三塁打　渡辺▽二塁打　草野、高木、河原井、神農、橋本、上宮田▽2時間51分

日本製紙

	打	安	点
⑨ 小林	4	2	0
⑦ 宮川	4	0	0
⑧ 水野	3	1	0
⑤ 丹呉	3	2	0
D 中嶋	3	3	0
③2 佐藤	3	1	0
④ 橋本	3	1	0
② 坂口	4	2	0
H 東本	1	1	0
3 小倉	0	0	0
⑥ 杉山	0	3	0
計	28	7	0

JR東日本

	打	安	点
③ 杉崎	成	4	2	1
⑦ 菅田		4	0	0
④ 杉崎	成輝	4	2	0
⑤ 高橋		4	1	0
⑥ 海崎		3	2	1
⑨ 山内		2	0	0
H9 倉石		2	1	0
⑧ 篠田		4	3	2
② 小藤		3	1	2
D 栗林		2	0	0
HD 山本		1	0	0
H 渡辺		1	1	1
計		34	13	7

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失	併
日	6	0	1	0	0	5	1			13	7	1	
J	0	2	0	1	0	7	2						

投	手	回	安	責
塚	本	4	7	3
小	寺	1	⅔ 1	0
相	内		⅓ 0	0
小野	寺	1	0	0
柳	沼	⅓	4	4
星	野	⅔	1	0
児	玉	4	⅓ 6	0
諸	隈		⅔ 0	0
森	畑	3	1	0

▽本塁打　杉崎成（塚本）小藤（塚本）▽三塁打　篠田▽二塁打　小林、高橋、杉崎成、杉崎成輝▽暴投　塚本、児玉

ニチダイ

	打	安	点
D 東	5	4	4
⑦ 城岩	4	1	2
④ 門島	4	1	0
4 本蓮	4	0	0
⑤ 濱馬	5	0	0
⑧ 田場	4	1	0
⑨ 宮坂	4	2	0
③ 松西	4	2	1
② 吉元	3	2	1
⑥ 薬寺	3	1	1
師道 井			
計	34	13	8

東海REX

	打	安	点
⑨ 山本	4	0	0
⑧ 勝盛	4	1	0
⑥ 吉村	3	1	0
D 筒井	2	0	1
⑦ 長南	4	1	0
⑤ 市丸	3	2	0
③ 宮坂	3	0	0
② 中川	3	0	0
④ 宮本	3	2	0
計	29	7	1

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失	併
ニ	5	3	3	1	0	8	2			22	13	8	
東	4	3	0	0	0	7	0						

投	手	回	安	責
濱田	陸	5⅔	5	1
小	倉	1⅓	1	0
戊	亥	1	1	0
加	藤	4	6	2
長	倉田	2	4	3
奥	伯	1⅓	2	3
佐		⅔	1	0

▽三塁打　宮坂、東門▽二塁打　松本、東門▽2時間27分

▽2時間14分

○…大宮市民球場…○

エイジェック逆転勝ち ジェイP投手陣崩れる

▽Dブロック
エイジェック（1勝1分け）
004 603 0 — 13
101 000 2 — 4
ジェイプロジェクト（2敗）
（七回コールド）

エイジェックは三回、草野と渡辺の連続長打などで逆転すると、四回には5長短打を集めて試合を決めた。ジェイプロジェクトも10安打を放ったが、投手陣が崩れた。

JR東打線好調 石巻は後続なく

▽Dブロック
日本製紙石巻（1敗1分け）
000 000 00 — 0
120 000 04 — 7
JR東日本（2勝）
（八回コールド）

3点をリードするJR東日本は八回、篠田の三塁打や代打渡辺の適時打などで4点を加えてコールド勝ち。日本製紙石巻は走者を出しながらも後続がなかった。

ニチダイ東門4打点 東海REX好機逃す

▽Aブロック
ニチダイ（1勝1敗）
001 103 03 — 8
000 001 00 — 1
日本製鉄東海REX（2敗）
（八回コールド）

ニチダイは1番の東門が六回に三塁打、八回には二塁打で計4打点を挙げるなど、計13安打で快勝した。東海REXは六回1死満塁の好機に、押し出しの1点にとどまった。

○…ひたちなか市民球場…○

JR東海打線12安打 三回には連続本塁打

▽Bブロック
JR東海（2勝）
207 201 0 — 12
000 001 2 — 3
トヨタ自動車東日本（2敗）
（七回コールド）

JR東海は三回、4番水谷の3ランに続き、5番平野がソロを放つなど打線が機能し、12安打で大勝した。トヨタ東は佐々木一の本塁打などで後半に反撃したが、序盤の失点が大きすぎた。

JR東海

	打	安	点
D 下	堀	2	1	1
山	尾澤	0	2	1
D5	村	4	2	0
7	井	2	0	0
7	谷	4	1	0
8	水	2	1	0
5	吉平	2	1	0
4	々	2	1	0
3	田	3	2	0
6	山	3	3	0
2	須	3	2	1
H 2	永	1	1	0
7	松	0	1	0
H 9	山	2	1	0
計		30	12	10

トヨタ東

	打	安	点
7 山	崎	4	1	0
5 齋	藤	4	2	2
3 瀬	戸	4	0	0
9 植	本	2	2	0
6 佐々木	麗	3	0	0
4 佐々木	一	3	1	1
D 田	中	2	0	0
H 渡	部	1	1	0
2 根	来	3	1	0
8 瀬	川	3	1	0
計		29	9	3

	投	回	安	責
宮	島	5	2	0
林	山	1	3	1
水谷	健	1	4	2
古川	原	2⅓	5	4
古中	村	⅔	2	3
小	谷	⅔	0	0
小	田	4	5	3

J	2	7	4	3	2	8	2
	振	球	犠	盗	失	残	併
ト	5	1	0	1	2	6	0

▽本塁打 水谷祥（古川原） 平野（古川原） 佐々木一（水谷健）
▽三塁打 山本陸
▽二塁打 下山、平野、瀬川、渡部
▽2時間48分

沖データ

	打	安	点
④ 岸	中	3	0	0
③ 本	村	3	0	0
⑦ 田	谷	3	0	0
⑧ 黒	三	3	1	0
⑤ 山	下	3	1	0
D 山	口	3	0	0
② 森		2	0	0
⑥ 郷	早	2	0	0
⑨ 司	田	2	0	0
9 窪	田	2	1	0
計		24	4	0

日本通運

	打	安	点
⑦ 横	山	5	3	1
④ 田	添	2	2	1
⑧ 北	川	4	2	3
⑨ 沓	澤	2	0	0
③ 西	里	2	0	1
D 本	下	3	0	0
R 宮	崎	3	0	0
⑥ 木	村	4	2	0
⑤ 稲	垣	2	0	1
② 沼	生	3	1	0
計		27	10	7

沖	5	0	0	1	1	3	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
日	4	8	2	2	6	11	0

	投	手	回	安	責
投	押	川	3	⅔ 7	5
松		尾	2	⅔ 3	2
ジャクソン			7	4	0

▽三塁打 北川 ▽沼間二生、北川 ▽2時間6分

大和高田ク

	分	点
③ 口	中	0	0
⑤ 松	深	1	0
⑨ 三	犬	1	0
② 西	松	2	0
D ⑦	井	1	0
④ 森	今	1	0
H ⑥	安	0	0
H 6	岡	0	0
⑧ H		0	0
計		34	9	0

SUBARU

	打	安	点
⑨ 江	川	1	0	0
H ⑦ 山	原	1	0	1
⑧ 藤	川	4	1	0
③ 古	山	4	3	0
D ⑥ 外	玉	3	3	0
⑤ 小	里	3	1	0
② 中	下	3	0	0
2 森	藤	2	0	0
④ 後	場	0	2	0
馬	置	3	0	0
日		0	0	0
計		27	6	1

大	6	1	1	3	1	9	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
S	4	2	2	3	1	6	1

	投	手	回	安	責
投 大	松	森	5	3	1
松	楠	林	2	⅔ 1	0
井		本田		⅔ 1	0
		野田	7	7	0
八	手	塚	1	1	0
小		澤	1	1	0

▽2時間30分

日本通運効率良い攻め 先発ジャクソンも好投

▽Cブロック
沖データコンピュータ学院（2敗）
000 000 0 — 0
300 200 2 — 7
日本通運（1勝1敗）
（七回コールド）

日本通運は一回、連続適時打と犠飛で3点を先制。七回には満塁から犠飛と適時打で試合を決めた。先発のジャクソンが相手打線を4安打に抑えた。

SUBARU投手戦制す 大和高田クは1点が遠く

大和高田クラブ（1勝1敗）
000 000 000 — 0
001 000 00× — 1
SUBARU（2勝）

日本通運で三塁に進み、内野ゴロの間に唯一の得点を挙げた。先発の八野田が七回まで好投し、さらに手塚、小澤とつないで1点を守り切った。

SUBARUは三回、内野安打の日置が盗塁と送りバント

◇第3日（4月19日）
（予選リーグ）

○…日立製作所野球場…○

ENEOS逃げ切る トヨタ東一歩及ばず

▽Bブロック
トヨタ自動車東日本（3敗）
000 000 002 — 2
000 021 00× — 3
ENEOS（2勝1敗）

ENEOSは五回、3連打

と犠飛で2点を先取。六回には瀬戸西の適時二塁打でリードを広げた。トヨタ東は九回無死満塁から追い上げたが、細かな継投に交わされた。

SUBARU逆転勝ち 中山起死回生の3ラン

▽Cブロック

日本通運（1勝2敗）

400	000	001		5
000	010	60×		7

SUBARU（3勝）

SUBARUは七回、1点差に追い上げた後、代打中山の3ランで逆転した。日本通運は中盤以降、相手救援陣に抑えられ、九回に沓澤がソロを放つにとどまった。

○…大宮市民球場…○

大和高田が投手戦制す 沖の竹ノ上完投及ばず

▽Cブロック

沖データコンピュータ学院（3敗）

000	000	000		0
000	100	00×		1

大和高田クラブ（2勝1敗）

大和高田クラブは四回無死一、三塁から、内野ゴロの併殺の間に中川が還り先取点を奪うと、先発井田以下3投手をつないで逃げ切った。沖データ学院は被安打5で完投した竹ノ上に、打線が応えられなかった。

日立猛打で大量点 宮が4打点の活躍

▽Aブロック

日立製作所（3勝）

250	210	0		10
000	000	0		0

ニチダイ（1勝2敗）

（七回コールド）

日立製作所が序盤に大量点を奪うなど、15安打の猛攻で快勝した。5番の宮が3打数3安打4打点の活躍を見せた。ニチダイはわずか2安打に抑えられた。

JR東日本逃げ切れず エイジェック終盤粘り

▽Dブロック

JR東日本（2勝1分け）

521	020	000		10
001	030	132		10

エイジェック（1勝2分け）

序盤の大量失点を、エイジェックが終盤に追いついた。八回に高岡の3ランで追い上げ、九回には田島の適時打と犠飛で引き分けた。JR東日本は6投手をつぎ込んだが逃げ切れなかった。

○…ひたちなか市民球場…○

ともに初勝利成らず 投手陣が互いに好投

▽Dブロック

日本製紙石巻（1敗2分け）

001	000	000		1
000	010	000		1

ジェイプロジェクト（2敗1分け）

日本製紙石巻が三回、犠飛で先制すると、ジェイプロジェクトも五回1死一、三塁から重盗を仕掛けて追いついた。その後は両投手陣が好投し、引き分けた。

東海REXが守り切る セガサミー反撃届かず

▽Aブロック

日本製鉄東海REX（1勝2敗）

013	010	000		5
000	200	100		3

セガサミー（1勝2敗）

東海REXは二回に宮本の適時打で先制すると、三回にも平野の左前打などで追加点。先発の荒木が九回2死まで粘り強く投げた。セガサミーは八回を除き毎回走者を出しながら、ひと押しが足りなかった。

JR東海投打に圧倒 鹿島チャンス作れず

▽Bブロック

日本製鉄鹿島（1勝2敗）

000	000	0		0
070	300	×		10

JR東海（3勝）

（七回コールド）

JR東海は二回1死一、二塁から敵失で先制すると、須永の三塁打、松野の適時打などで、この回に7点を挙げた。日本製鉄鹿島は打線も振るわず、大量点をリードされた三

トヨタ東

	打	安	点
⑧	山	0	0
⑤	齋藤	0	0
D	瀬戸	0	0
⑨	植	1	0
⑥	佐々木	2	0
④	佐々木	1	0
H	渡部	1	0
②	根	0	0
③	夷	0	0
⑦	馬	0	0
H	田	0	0
7	中	0	0
計		6	2

ENEOS

	打	安	点
⑥	松	1	0
⑤	浦口	2	0
⑨	上	1	0
③	山田	0	0
②	馬倉	2	0
D	山西	2	0
⑦	戸	2	0
⑧	瀬	2	1
④	戸	2	0
計		11	1

併	残	失	盗	犠	球	振
0	6	0	0	1	1	10
0	10	0	0	2	3	10

	責	安	球	振
木戸	2	8	2	5
時間	1	2	1	3
佐瀬	0	1	0	0
打口、倉	2	1	0	2
墨川与	1	0	0	0
二、				

▽麗西、43分

日本通運

	打	安	点
⑦	横	0	0
④	添	0	0
⑧	北	0	2
⑨	沓	1	1
③	西	3	2
D	木	3	0
R	宮	0	0
H	磯	0	0
⑥	木	0	0
⑤	稲	0	0
②	沼	0	0
H	大山	0	0
2	田	0	0
計		8	5

SUBARU

	打	安	点
⑤	森	2	1
⑦	藤	1	0
⑧	古	1	0
③	外	0	0
D	小山	0	0
H	中	1	0
H	中	1	3
⑥	海	0	0
⑨	新	2	0
②	後	0	0
2	馬	2	1
2	日	0	0
4	横	0	0
H	瀬	2	0
計		13	6

併	残	失	盗	犠	球	振
0	6	0	0	0	1	10
0	10	0	0	2	1	10

	責	安	球	振
回	5	8	2	1
	⅓	2⅔		
田里智	2	1	0	2
杉	7	3	0	0
林	1	1	0	0
原茂根		⅔	0	0
		⅔	1	0
		⅓	0	0

	責	安	球	振
回	6	7	2	3
	⅓	⅓		
		⅓	0	0
		⅓		
馬澤田船田	1	3	0	0
部山嶋塚澤		3	2	0
箱田手小		2	1	1

沖データ

	打	安	点
⑥	郷	0	0
H	前	0	0
⑤	山	1	0
⑦	黒	2	0
H	山	0	0
⑧	三	0	0
④	岸	0	0
D	平	0	0
②	森	0	0
③	中	0	0
⑨	窪	0	0
H	内	0	0
9	中	0	0
計		6	0

大和高田クラ

	打	安	点
③	分	0	0
⑤	田	2	0
⑨	川	1	0
D	下	0	0
H	尾	0	0
⑧	藤	0	0
⑦	飼	0	0
H	脇	0	0
⑥	口	0	0
⑤	岡	0	0
H	浦	0	0
8	里	0	0
④	上	0	0
H	岡	0	0
4	上	0	0
②		0	0
⑥		0	0
計		5	0

併	残	失	盗	犠	球	振
1	4	0	2	0	2	5
0	1	3	0	1	0	4

	責	安	球	振
回	1	5	0	0
	½	⅔		
手上	5	5	1	0
田本林	3	3	0	0
	½	⅔		

▽川中、打墨間51分

▽二時1

▽本塁打　沓澤（小澤）中山（中田）▽二塁打　西里3、木下、外山、海老根、横瀬▽3時間4分

回以降は、二塁打の走者を一人出しただけに終わった。

◇**第4日**（4月20日）
（決勝トーナメント）
○…日立製作所野球場…○

日立製作所逆転勝ち

吉川勝ち越し3ラン

9番の吉川が左翼へ勝ち越しの3ランを放ち、八回には松下の適時二塁打で突き放した。JR東日本は二回、篠田が満塁本塁打を放ったが、投手陣がリードを守れなかった。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
日立製作所	100	133	010						9
JR東日本	050	001	000						6

▽準決勝
日立製作所
JR東日本
日立製作所は同点の六回、

SUBARU接戦制す

JR東海わずか3安打

を勝ち越し、2番手の川上が八回に続き、九回も3人で抑えた。JR東海は平野のソロで先制したが、五回以降は無安打に終わった。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
JR東海	010	000	000						1
SUBARU	010	000	03×						4

JR東海
SUBARU
SUBARUは八回1死満塁からスクイズと犠飛で3点

日立製作所

		打	安	点
D	鵜沼	3	0	1
HD	金原	1	1	0
④	森田	4	4	1
⑨	清水	4	2	1
⑤	谷内	2	0	0
H5	永戸	1	0	0
⑥	宮	3	3	0
6	斎藤	4	0	0
⑧	竹内	3	2	0
③	山下	4	3	0
②	佐藤	3	1	0
H	森	1	0	0
2	渡邉	0	0	0
⑦	松下	4	2	0
	計	32	15	10

ニチダイ

		打	安	点
D	東門	0	0	0
⑦	城島	3	0	0
④	岩本	2	0	0
H	濱田	1	0	0
6	川原	0	0	0
⑤	馬場	3	1	0
⑧	宮坂	3	0	0
⑨	松吉	3	0	0
③	西元	3	1	0
②	薬師寺	2	0	0
H	塚本	1	0	0
⑥4	道井	1	0	0
	計	22	2	0

日	1	3	1	1	1	5	1	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
ニ	5	4	0	0	0	5	2	

投	手	回	安	責
宮	下	6	2	0
多	間	1	0	0
家	城	1	⅓ 6	4
	原		⅓ 3	3
熊	沢	2	⅓ 4	2
戊	亥	2	2	1
一	文字	1	0	0

▽二塁打　宮2
竹内、金原▽暴投
家城、熊沢、戊亥
▽2時間4分

JR東日本

		打	安	点
③	杉崎成	4	1	0
⑥	海崎	2	0	0
H5	草部	2	1	0
④	杉崎成輝	1	0	1
2	栗田	1	0	0
⑤	高橋	2	2	0
H	内野	2	0	0
6	福武	1	0	0
⑦	菅田	0	0	0
7	倉石	3	1	1
D	渡辺	4	0	1
⑧	篠田	5	4	1
⑨	山内	5	2	3
②	小藤	3	1	2
R4	山本	0	0	0
	計	34	12	10

エイジェック

		打	安	点
④34	高岡	6	3	5
⑨	草野	4	0	0
⑦	渡辺	4	2	1
⑤3	和田	5	1	0
D	河原井	3	1	1
③2	田島	5	3	2
R	石神	0	0	0
⑥	高木	3	1	1
②	岡島	0	0	0
4	高橋	3	1	0
H5	小吹	1	0	0
⑧	杉本	2	0	0
H8	竹花	2	0	0
H	神宮	0	0	0
	計	38	12	10

J	6	8	2	6	1	7	0	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
エ	3	7	1	1	0	9	3	

投	手	回	安	責
小谷	野	2	⅓ 3	1
坂	根	2	4	2
諸	隈	1	2	1
森西	畑居	1	⅔ 1	1
西	田	1	⅓ 1	3
河	北		⅔ 3	5
坂	主	1	2	2
橋	本	2	⅓ 3	2
湯	浅		⅓ 2	1
安	藤		⅓ 0	0
金	城	4	⅓ 2	0

▽本塁打　高岡2（坂根、西居）
▽二塁打　山内、高橋2（J）、高岡、渡辺（エ）、田島▽暴投　坂根、坂主▽3時間29分

日本製紙

		打	安	点
⑥4	田中	3	1	0
③	田倉	3	0	1
⑨	小松	3	2	0
⑤	丹橋	3	1	0
5	今本	3	0	0
④	中呉	3	0	0
H	杉野	3	0	0
6	佐藤	4	1	0
②	小山	4	2	0
⑦	林尚	2	0	0
H	東本	1	0	0
7	宮川	0	0	0
D	坂口	2	0	0
HD	林俊	2	0	0
⑧	小井	3	1	0
	計	30	6	1

ジェイプロ

		打	安	点
⑦	平田	3	1	0
H	神農	1	1	0
R	満田	0	0	0
④	片岡	3	0	0
⑨	上田	4	0	0
D	宮本	4	1	0
③	橋川	3	0	0
⑥	富内	3	2	0
②	宮野	2	0	0
⑤	浅本	1	0	0
H	岡島	0	0	0
5	鮫田	0	0	0
⑧	大田	2	0	0
	計	27	5	0

日	6	3	2	1	1	7	0	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
ジ	5	4	0	3	0	3	1	

投	手	回	安	責
今	村	5	3	1
伊	藤		⅔ 0	0
平	間		⅓ 0	0
生	長	3	2	0
笈	川	3	3	1
中	川	4	2	0
菅	原	2	1	0

▽二塁打　宮内2
▽暴投　中川
▽2時間54分

東海REX

		打	安	点
⑨	山本	5	1	0
⑥	吉村	4	1	0
6	佐々木	0	0	0
D	市丸	5	2	0
③	筒井	4	2	0
3	宮坂	4	0	0
⑦	長室	0	0	0
②	平野	3	1	0
⑤	勝盛	3	0	1
⑧	宮本	4	1	0
④				
	計	33	8	5

セガサミー

		打	安	点
⑤	加藤	5	3	2
D	宮浦	2	0	0
HD	福森	2	0	0
⑦	竹谷	4	0	0
R7	笠松	1	0	0
③	黒川	5	1	0
⑥	中川	4	1	0
R	谷口	0	0	0
④	片岡	3	1	0
⑨	高島	3	1	1
②	廣岡	0	0	0
2	吉田	1	0	0
H	北川	1	0	0
2	須田	0	0	0
⑧	神山	3	0	0
	計	34	7	3

日	7	6	1	0	4	8	1	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
セ	6	7	2	1	0	13	1	

投	手	回	安	責
荒	木	8	⅔ 7	3
池	戸		⅓ 0	0
草	海	3	5	4
下	薗	1	⅔ 1	1
陶	久	2	⅓ 2	0
長	谷川	2	0	0

▽三塁打　市丸▽2時
暴投　下薗▽2
間42分

日鉄鹿島

		打	安	点
④6	田崎	3	1	0
⑤	樫村	3	0	0
③	今里	3	1	0
⑦	生田	3	1	0
D	松田	3	0	0
⑨	山口	3	0	0
⑥	間内	3	0	0
H4	池柳	1	0	0
H	穴水	1	0	0
②	揚村	2	1	0
⑧	杉山	2	0	0
	計	25	4	0

JR東海

		打	安	点
D	下山	3	1	0
⑤	澤村	4	2	0
⑨	三村	3	1	1
⑧	水谷	3	1	2
③	平野	3	2	2
⑥	山崎	3	2	1
④	佐々木	3	0	0
②	須永	3	1	2
⑦	松野	3	1	1
	計	28	11	9

日	10	0	0	0	1	4	0	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
J	4	2	1	0	0	3	0	

投	手	回	安	責
楠	本	1	⅔ 5	2
金	城	1	⅔ 5	4
	塙	1	⅓ 1	0
土	屋	1	0	0
戸	田	6	3	0
川	本	1	1	0

▽三塁打　須永
二塁打　生田
水谷祥▽1時間46分

◇**最終日**（4月21日）
（決勝トーナメント）

○…日立製作所野球場…○

SUBARU投打で圧倒

日立製作所は1安打のみ

▽決勝

日立製作所									
	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	1	1	0	3		
SUBARU									
	7	0							

（七回コールド）

SUBARUは一回、中軸の連続適時打で先制。七回には2死無走者からチャンスを作り、最後は海老根の二塁打でコールド勝ち。日立製作所は相手先発の八野田に抑えられ、無四死球の1安打に終わった。

㊊…表彰選手…㊊

◇**最高殊勲選手賞**
八野田龍司・投手（SUBARU）

◇**敢闘賞**
宮慎太朗・内野手（日立製作所）

◇**首位打者賞**
外山優希・内野手（SUBARU）＝17打数8安打、打率4割7分1厘

日立製作所

	打	安	点
⑦ 松下	3	1	0
④ 森田	3	0	0
⑨ 清水	3	0	0
⑤ 谷内	3	0	0
⑥ 宮	2	0	0
⑧ 竹内	2	0	0
D 野中	2	0	0
② 佐藤	2	0	0
③ 吉川	2	0	0
計	22	1	0

SUBARU

	打	安	点
⑨ 山田	3	0	0
H9 海老根	2	1	1
⑦ 藤原	3	2	0
⑤ 森下	3	0	0
③ 外山	4	3	1
⑧ 古川	3	1	2
D 小玉	2	1	0
④ 日置	4	1	0
② 後藤	3	2	3
⑥ 中里	3	1	0
R6 上田	0	0	0
計	30	12	7

日	2	0	0	0	0	1	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
S	3	6	1	2	0	10	0

投手	回	安	責
田川	4⅓	7	4
岡	2⅓	4	3
北爪	⅔	1	0
八野田	7	1	0

▽本塁打　後藤（田川）▽二塁打　外山、日置、海老根、後藤▽1時間51分

JR東海

	打	安	点
D 下山	4	0	0
⑤ 山澤	4	0	0
⑨ 三村	3	0	0
⑧ 谷祥	4	0	0
③ 平野	3	1	1
⑥ 山崎	2	1	0
④ 佐々木	3	1	0
② 須永	3	0	0
⑦ 松野	3	0	0
計	29	3	1

SUBARU

	打	安	点
⑤ 森下	3	0	0
⑦ 藤原	4	1	0
⑧ 古川	4	0	0
③ 外山	4	1	0
D 小玉	4	1	0
⑥ 中里	2	0	0
6 上田	0	0	0
⑨ 海老根	3	1	1
H9 山田	0	0	0
② 新江	1	0	0
H 馬場	1	1	0
2 日置	0	0	0
④	2	1	1
計	28	6	2

J	10	2	0	0	4	3	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
S	10	5	4	1	0	9	0

投手	回	安	責
川本	7	6	1
林山	⅓	0	0
辻井	⅔	0	0
山本	7	3	1
川上	2	0	0

▽本塁打　平野（山本）▽二塁打　山崎▽暴投　山本▽2時間22分

日立製作所

	打	安	点
⑧ 鵜沼	2	0	0
H7 松下	3	2	1
④ 森田	5	1	2
⑨ 清水	5	2	1
⑤ 谷内	4	0	1
⑥ 宮	5	2	0
⑦8 竹内	4	0	1
D 野中	2	0	0
HD 金原	1	0	0
② 鮎ヶ瀬	1	1	0
2 佐藤	3	2	0
③ 吉川	3	3	3
計	38	13	9

JR東日本

	打	安	点
⑧ 篠田	4	2	5
⑥ 海崎	4	0	0
H 栗林	1	0	0
6 福武	0	0	0
④ 杉崎成輝	4	1	0
⑤ 高橋	4	1	0
⑦ 菅田	5	3	0
③ 杉崎成	5	0	0
⑨ 山内	3	1	0
D 倉石	2	1	1
HD 渡辺	2	0	0
② 小藤	2	1	0
H2 草部	1	0	0
計	37	10	6

日	11	1	2	0	0	5	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
J	4	5	0	0	1	9	0

投手	回	安	責
北爪	4	5	5
岡	2	3	1
生井	3	2	0
古谷	4⅓	8	5
坂根	⅓	1	0
山崎	⅔	1	1
西居	2⅓	3	2
西田	1⅓	0	0

▽本塁打　清水（古谷）吉川（西居）篠田（北爪）▽三塁打　宮▽二塁打　森田、吉川、松下、菅田、小藤▽2時間38分

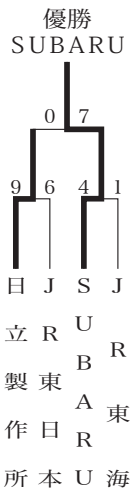
第47回大会・熱戦の軌跡

Aブロック	日立製作所	セガサミー	ニチダイ	日本製鉄東海REX	勝	敗	順位
日立製作所	㊊	○2－1	◎10－0	◎13－0	3	0	1
セガサミー	●1－2	㊊	○5－3	●3－5	1	2	2
ニチダイ	×0－10	●3－5	㊊	◎8－1	1	2	3
日本製鉄東海REX	×0－13	○5－3	×1－8	㊊	1	2	4

Bブロック	日本製鉄鹿島	ENEOS	トヨタ自動車東日本	JR東海	勝	敗	順位
日本製鉄鹿島	㊊	●1－5	○6－2	×0－10	1	2	3
ENEOS	○5－1	㊊	○3－2	●0－4	2	1	2
トヨタ自動車東日本	●2－6	●2－3	㊊	×3－12	0	3	4
JR東海	◎10－0	○4－0	◎12－3	㊊	3	0	1

Cブロック	SUBARU	日本通運	大和高田クラブ	沖データコンピュータ教育学院	勝	敗	順位
SUBARU	㊊	○7－5	○1－0	◎9－0	3	0	1
日本通運	●5－7	㊊	●0－3	◎7－0	1	2	3
大和高田クラブ	●0－1	○3－0	㊊	○1－0	2	1	2
沖データコンピュータ教育学院	×0－9	×0－7	●0－1	㊊	0	3	4

Dブロック	エイジェック	JR東日本	日本製紙石巻	ジェイプロジェクト	勝	敗	順位
エイジェック	㊊	△10–10	△4－4	◎13－4	1	0	2
JR東日本	△10–10	㊊	◎7－0	○5－0	2	0	1
日本製紙石巻	△4－4	×0－7	㊊	△1－1	0	1	3
ジェイプロジェクト	×4–13	●0－5	△1－1	㊊	0	2	4



日立市長杯大会・決勝戦一覧

	優勝チーム		準優勝チーム
第１回（昭52年）	電電東京		
第２回（〃53年）	電電東京		
第３回（〃54年）	東京ガス		
第４回（〃55年）	東京ガス		
第５回（〃56年）	大昭和製紙北海道		
第６回（〃57年）	日産自動車		
第７回（〃58年）	日産自動車		
第８回（〃59年）	日本鋼管		
第９回（〃60年）	日本楽器		
第10回（〃61年）	日本通運		
第11回（〃62年）	東芝		
第12回（〃63年）	日立製作所		
第13回（平１年）	熊谷組		
第14回（〃２年）	ヤマハ		
第15回（〃３年）	三菱重工横浜		
第16回（〃４年）	日産自動車		
第17回（〃５年）	いすゞ自動車		
第18回（〃６年）	松下電器		
第19回（〃７年）	NTT関東	11―9	三菱自動車川崎
第20回（〃８年）	NTT関東	11―2	日立製作所
第21回（〃９年）	三菱自動車川崎	14―4	住友金属鹿島
第22回（〃10年）	NTT関東	10―7	日立製作所
第23回（〃11年）	新日本製鐵君津	9―1	NTT東日本
第24回（〃12年）	住友金属鹿島	12―5	日本生命
第25回（〃13年）	日立製作所	8―7	三菱ふそう川崎
第26回（〃14年）	三菱ふそう川崎	9―4	日立製作所
第27回（〃15年）	住友金属鹿島	6―5	トヨタ自動車
第28回（〃16年）	富士重工業	4―1	トヨタ自動車
第29回（〃17年）	かずさマジック	7―4	日立製作所
第30回（〃18年）	富士重工業	4―3	ヤマハ
第31回（〃19年）	日立製作所	8―0	グッドウィル
第32回（〃20年）	日本通運	3―2	日立製作所
第33回（〃21年）	住友金属鹿島	7―4	富士重工業
第34回（〃22年）	JFE東日本	5―1	三菱重工神戸
第35回（〃24年）	Honda	7―5	日立製作所
第36回（〃25年）	三菱重工神戸	3―0	日立製作所
第37回（〃26年）	JR東日本	9―0	日立製作所
第38回（〃27年）	NTT東日本	3―0	日本通運
第39回（〃28年）	日立製作所	4―3	富士重工業
第40回（〃29年）	日立製作所	6―5	三菱日立パワーシステムズ
第41回（〃30年）	JR東海	11―6	日立製作所
第42回（〃31年）	鷺宮製作所	2―0	三菱重工名古屋
第43回（令３年）	日本通運	6―2	日立製作所
第44回（〃４年）	日本生命	5―4	SUBARU
第45回（〃５年）	日本製鉄鹿島	6―3	SUBARU
第46回（〃６年）	日本製鉄鹿島	4―1	三菱重工East
第47回（〃７年）	SUBARU	7―0	日立製作所

※平成23年は東日本大震災のため大会中止
※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

NTT西日本が6度目の栄冠

わかさ生活 第75回 JABA京都大会

決勝で東芝に競り勝ち7大会ぶり

MVPは東芝を完封した濱崎投手（NTT西日本）

わかさ生活　第75回ＪＡＢＡ京都大会は4月22日から28日まで、わかさスタジアム京都と湖東スタジアムで行われ、ＮＴＴ西日本が決勝で東芝を1―0で破り、7大会ぶり6回目の優勝を果たした。

出場16チームを4ブロックに分けて予選リーグを行い、各1位が準決勝に進出。東芝が11―4でミキハウスに勝ち、ＮＴＴ西日本は4―1で鷺宮製作所を降した。決勝ではＮＴＴ西日本の濱崎浩大投手が東芝打線を完封した。

最高殊勲選手賞にはＮＴＴ西日本の濱崎浩大投手、敢闘賞には東芝の松山仁彦投手がそれぞれ選ばれた。首位打者賞は東芝の太田英毅外野手（19打数9安打、打率4割7分4厘）が獲得した。

ブロック分けは次の通り。

【A】ＮＴＴ西日本、日本製鉄瀬戸内、東邦ガス、三菱自動車倉敷

【B】東芝、大阪ガス、日本新薬、ホンダ鈴鹿

【C】ミキハウス、アスミビルダーズ、ＮＴＴ東日本、日本製鉄九州

【D】日本生命、鷺宮製作所、三菱重工Ｗｅｓｔ、ツネイシブルーパイレーツ

◇**第1日**（4月22日）

（予選リーグ）

○…わかさスタジアム京都…○

ＮＴＴ西逃げ切る 3番手大江が好投

▽Aブロック

									計
ＮＴＴ西日本（1勝）	2	1	2	0	0	0	0	2	7
日本製鉄瀬戸内（1敗）	1	1	0	2	0	0	0	0	4

ＮＴＴ西日本は1点リードの六回から登板した3番手の大江が、4回を2安打に抑える好投。九回に暴投と犠飛で待望の追加点を奪い、逃げ切った。

東邦ガス連続本塁打 三菱倉敷は後続なく

三菱自動車倉敷（1敗）

									計
東邦ガス（1勝）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	3	0	0	0	0	3	0×	6

東邦ガスは二回、佐々木、大木の連続本塁打で先制すると、七回には野選や犠飛で3点を追加。3投手の継投で相手打線を零封した。三菱倉敷

東芝

		打	安	点
⑥	山田	4	1	0
H⑤	大下	0	0	0
③	齊光	3	1	0
④	中萩	4	0	0
⑧	中金	3	1	0
7	阿太	5	3	1
②	長	3	0	0
2	田中	3	0	0
D	庭山	3	0	0
DR	藤本	3	0	0
⑨	妻原	3	1	0
⑦8	村井	4	4	1
	部田	4	0	0
	沢	1	0	0
	計	35	13	6

大阪ガス

		打	安	点
D	三吉	2	1	0
④	橋山	4	0	0
⑧	花石	4	2	0
⑦3	清梶	4	2	0
③	室高	4	2	0
H5	田屋	1	0	0
⑨	波中	2	1	0
H	橋本	1	0	0
⑤	袋	2	0	0
H2	井	2	1	0
②	澤本	4	0	0
H7	川本	4	2	0
⑥	橋水	2	0	0
	計	32	9	2

	併	残	失	盗	犠	球	振
東	2	7	0	0	0	2	4
大	2	2	0	0	3	3	4

	責	安	回
投北	2	7	5
浅	0	0	⅓
松	0	2	⅔
神	0	0	2
稲	4	6	⅔
本	1	3	2
小	0	2	⅔
執	0	0	⅔
林	0	1	1
秋	0	1	1

▽本塁打　金本（稲）1号（稲垣）▽二塁打　光井（稲）、長井（稲）▽暴投　逸見2、金川2▽捕逸　54分　山田、松井、小橋

三菱倉敷

		打	安	点
⑦9	岑	5	0	0
⑨	安中	1	0	0
H7	榎山	1	0	0
④	日尾	4	1	0
③	杉橋	4	2	0
D	藝野	2	2	0
⑤	木下	3	1	0
⑥	向堂	4	0	0
H	村本	4	0	0
②	森崎	4	2	0
⑧	猪	4	2	0
	計	31	7	0

東邦ガス

		打	安	点
⑧	浦	4	1	1
⑦	松宮	3	0	0
⑤	若	3	1	0
③	柴	3	3	0
D	佐	3	1	1
⑥	々	3	4	0
⑨	大木	2	2	1
②	氷	4	1	1
④	高	4	1	1
	計	30	8	6

	併	残	失	盗	犠	球	振
三	0	10	1	0	1	5	8
東	2	6	1	2	1	7	5

	責	安	回
投平	3	4	⅓
長谷	0	2	⅔
香	1	1	⅓
岡	0	0	⅓
末	0	1	⅔
清	0	4	5
吐	0	2	1
榮	0	1	3

▽本塁打　木々（平）1号（佐尾）▽二塁打　木々（平）2号（佐尾）▽暴投　堂氷2▽捕逸　堂氷時　畠田、暴分　畠、投分　柴三38分　見間、浦口

NTT西

		打	安	点
⑧	串成	3	1	0
⑥	酒藤	1	0	0
⑦	山中	2	0	0
9	夏徳	0	0	0
③	辻後	1	1	0
⑨	7	0	1	0
D	畑瀬	4	1	0
⑤	井田	4	1	0
②	村目	4	0	0
④	丸本	4	2	1
	藤	4	2	1
	計	35	11	5

日鉄瀬戸内

		打	安	点
④	市遠	2	1	0
⑧	原藤	5	2	1
⑤	内倉	4	0	0
D	岡	4	0	0
⑨	川田	4	2	0
③	深田	4	1	0
⑦	上	4	0	1
②	戎	3	1	0
R	出	0	0	0
⑥	瀬	4	2	1
	計	36	9	3

	併	残	失	盗	犠	球	振
N	1	6	1	1	1	2	5
日	0	8	3	0	0	3	4

	責	安	回
投高	4	6	⅔
渡	0	1	⅓
大	0	2	⅔
手井	4	7	⅓
邊	1	4	0
江	0	0	⅔
藤神	1	4	2
野頭	0	0	6
下	0	0	⅔

▽本塁打　畑瀬（東）1号（串間）▽暴投　藤井2▽捕逸　深田、時　暴分　野、投48分

は5度の無死からの走者を生かせなかった。

東芝金井先制3ラン 大阪ガス継投崩せず

▽Bブロック
東芝（1勝）

			0	3	0	1	0	2	0	0	6
			0	0	0	0	0	2	0	0	2

大阪ガス（1敗）

東芝は二回1死二、三塁から金井が先制の3ランを放つと、四回には光本の中越えソロでリードを広げた。大阪ガスは六回、東芝先発の北村を捉えたが、救援陣にかわされた。

○…湖東スタジアム…○

ミキハウス19安打 アスミ二度逆転も

▽Cブロック
ミキハウス（1勝）

			1	0	0	2	3	0	6		12
			0	1	1	0	0	0	0		2

アスミビルダーズ（1敗）
（七回コールド）

ミキハウスは七回、猪原の2点適時打などで6点を挙げ、計19安打でコールド勝ち。アスミビルダーズは三回に一度はリードしたものの、投手陣が打ち込まれた。

ミキハウス	打	安	点
⑥	田 浦	4	1	2
④	藤 藤澤	5	2	3
⑦	島 田	5	3	3
③	田 松 猪	4	3	1
D	松 猪	4	4	1
⑨	猪 菊	5	2	2
⑤	菊 井	5	2	2
②	井 上	4	4	0
2	浅 野	4	0	0
⑧	小 河 内	2	1	0
	計	37	19	11

アスミ	打	安	点
⑧	河 野	3	0	0
④	木 村	3	0	0
⑨	中 西	3	1	0
D	中 垣	3	2	1
③	田 谷	3	1	0
H	3 水 中	1	0	0
⑤	田 渡	3	1	1
②	谷 川	3	0	0
⑥	高 木	2	1	0
H	永 尾	1	0	0
⑦	鈴 木	2	1	0
H	吉 田	1	0	0
	計	25	5	2

ミ	5	6	1	2	0	1	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
ア	10	2	0	1	0	4	1

投	手	回	安	責
桜	井	5	5	2
高	橋	1	0	0
松	永	1	0	0
内	海	4 ⅔	15	6
山	田	2	2	5
駒	井	⅓	2	1

▽二塁打 伊藤、井田▽三塁打 駒海▽ボーク 内海▽2時間33分

日鉄九州	打	安	点
④	中 貢	4	1	0
⑤	田 村	4	0	0
H	2 河	1	0	1
③	中 田	4	0	0
⑦	須 賀	4	1	0
H	7 山	1	1	0
⑧	工 田	3	1	0
D	長 藤	4	1	0
⑨	山 岡	4	2	0
9	吉 下	4	1	0
②	安 田	3	0	0
H	5 与 藤	2	0	0
⑥	南 座	3	1	0
	中 里	1	0	0
	田 颯	3	1	0
	計	26	7	5

NTT東	打	安	点
⑧	直 井	3	2	3
7	火 浦	3	0	1
⑥	石 井	1	1	0
6	池 本	1	1	0
③	内 山	1	0	1
3	下 川	2	2	0
⑨	向 山	3	2	1
⑤	中 村	3	1	1
5 4	丸 山	1	1	0
⑦	8 井 上	1	5	0
②	大 柿	5	2	5
2	佐 本	2	2	0
④	伊 光	2	0	0
5	久東	2	1	0
D	伊 嵩	2	1	0
H D	道 原	2	0	0
	山 下	1	0	0
	計	30	12	12

日	5	8	2	0	3	10	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
N	6	12	1	4	1	11	1

投	手	回	安	責
七	俵	2 ⅓	4	2
中	村	1 ⅔	4	2
油	布	2	4	2
吉	松	4	3	1
稲	田 毛	1	0	0
	宮	⅔	3	4
多	田	⅓	0	0
紫	藤	1	1	0

▽本塁打 井上（中田）（中村）直井打 二塁打 石▽（N）▽中村、中間39分

NTT東の井上5打点 日鉄九州投手陣崩れる

日本製鉄九州（1敗）										
			1	0	0	0	4	0	5	
			0	5	5	2	0	2	×	14

NTT東日本（1勝）
（七回コールド）

NTT東日本6番の井上が、2ランを含む3本の適時打で5打点を挙げる活躍を見せた。日本製鉄九州は一回、満塁から長岡の犠飛で先制点を挙げたが、投手陣が大誤算。

鷺宮製作所接戦制す 日本生命一歩及ばず

▽Dブロック
日本生命（1敗）

			0	0	0	1	0	0	0		1
			0	0	2	0	0	1	×		3

鷺宮製作所（1勝）

鷺宮製作所は三回、敵失と犠飛で2点を先取。7回を1失点と好投の竹丸から、継投で逃げ切った。日本生命は九回2死満塁で、代打の早野が左飛に倒れた。

◇第2日（4月24日）
（予選リーグ）

○…わかさスタジアム京都…○

東芝足を絡め逆転 日本新薬痛いミス

▽Bブロック
東芝（2勝）

			0	0	0	5	0	0	1	0	6
			0	3	0	0	0	1	0	0	4

日本新薬（1敗）

東芝は四回、敵失や重盗などでこの回5点を挙げ逆転。2番手の谷川の好投などで逃げ切った。日本新薬は橋本の3ランで先制したが、守りのミスが響いた。

大阪ガス投手戦制す 秋山が5安打で完封

大阪ガス（1勝1敗）

			0	0	0	0	0	0	4	0	1	5
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ホンダ鈴鹿（1敗）

投手戦で迎えた七回、大阪ガスは二つの暴投で先制点を奪うと、連続適時打で4点を先取。先発の秋山が被安打5で完封した。ホンダ鈴鹿は走

日本生命	打	安	点
⑧	中 上	0	0	0
H	松 竹 多	0	0	0
⑦	竹 越 早	0	0	0
⑨	山 高 木	0	0	0
R	田 倉 島	0	0	0
D	中 葉 上	0	0	0
H	智 野 本	0	0	0
H	野 田	0	0	0
⑤	田 藤	0	0	0
⑥	西 座	0	0	0
③	本 里	0	0	0
②	村 葉	0	0	0
H	8 D	0	0	0
④	8	0	0	1
H	藤 本	0	0	0
	計	33	6	1

鷺宮製作所	打	安	点
⑦	藪 井	4	1	0
⑥	島 野	3	1	0
④	島 戸	4	3	1
⑨	中 優	4	1	1
D	野 村	4	1	1
R	保 田	4	0	0
⑤	D 竹 原	2	0	0
③	3 木 代	3	0	0
H	5 千 葉	1	0	0
②	米 田	4	1	0
⑧	佐 上	4	4	0
	村 藤	4	4	0
	計	30	8	2

日	8	5	2	1	1	12	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
鷺	5	5	1	1	2	9	0

投	手	回	安	責
谷	脇 木	7 ⅔	8	1
高		1	0	0
竹	丸 地 隼	7	5	0
菊	島	1	0	0
中		1	1	0

▽二塁打 竹村、谷▽暴投 分33▽時間2分

者を出すものの、後が続かなかった。

NTT西9者連続安打 集中打でコールド勝ち

▽Aブロック

NTT西日本（2勝）

000 070 04 11
000 000 20 2

三菱自動車倉敷（2敗）

（八回コールド）

NTT西日本は五回1死後、後藤の内野安打を皮切りに、9連続長短打を浴びせ、八回には2連続適時二塁打で試合を決めた。三菱倉敷は先発彦坂の突然の乱れが悔やまれる。

○…湖東スタジアム…○

三菱重工W打者12人猛攻 日本生命2本塁打及ばず

▽Dブロック

日本生命（2敗）

000 020 202 6
008 000 01× 9

三菱重工Westは三回無死満塁から杉浦の適時打で先制すると、この回打者12人を送る猛攻で大量8点を挙げた。日本生命も2本塁打などで反撃したが失点が大きすぎた。

ツネイシが逃げ切る 河野勝ち越し二塁打

ツネイシブルーパイレーツ（1勝）

010 003 001 5
100 100 010 3

鷺宮製作所（1勝1敗）

ツネイシは六回、中村の適時打で追いつくと、河野が2者を迎え入れる二塁打を放ち勝ち越した。後半は細かな継投で鷺宮製作所の反撃を抑えて逃げ切った。

深野サヨナラ二塁打 日鉄九州逃げ切れず

▽Cブロック

日本製鉄九州（2敗）

100 030 000 4
200 010 011 5

ミキハウス（2勝）

ミキハウスは九回2死一、二塁から、代打深野の右越え二塁打でサヨナラ勝ち。救援の仲尾、松永の好投が勝利に結びついた。日鉄九州は六回以降、1安打に終わった。

東芝

	打	安	点
⑥	山田	4	2	1
⑤	大庭	4	1	0
③	下山	4	1	0
④	齊藤	4	1	0
⑧	光本	4	2	0
②	萩原	4	1	1
2	中村	1	0	0
DH	諸橋	2	0	0
D	南	2	0	0
⑨	太田	4	2	1
⑦	長沢	2	0	0
	計	35	10	3

日本新薬

	打	安	点
⑧	根路銘	5	1	0
④	武田	5	2	0
⑦	若林	4	0	0
③	濱田	4	3	0
D	植田	3	2	0
RD	舩曳	0	0	0
⑨	大石	3	0	0
⑥	橋本	3	1	3
②	笹原	3	1	0
H	田中	1	0	0
2	後藤	0	0	0
⑤	柳舘	4	0	0
	計	35	10	3

	投	手	回	安	責
東	笹谷	森	2	⅓	6	3
日	神	川野	4	⅓	3	1
			2	⅓	1	0
	遠藤		3	⅔	7	2
	藤木	本村	2		0	0
	齋戸	藤根		⅔	0	0
			2		2	1

東 10 5 3 3 0 10 1 併
日 7 2 1 0 2 7 0 残
振 球 犠 盗 失

▽本塁打 橋本（笹森）▽三塁打 太田（齋藤）▽二塁打 濱田2、萩原、植田▽暴投 谷川（神野）▽ボーク 戸根▽2時間58分

大阪ガス

	打	安	点
⑨	三山	4	2	1
⑦	井本	4	3	1
⑧	本山	4	2	2
③	橋山	4	1	0
D	花高	4	0	0
⑤	吉城	4	0	0
④	島袋	3	0	0
②	下袋	4	2	1
⑥		2	0	0
	計	33	13	4

Honda鈴鹿

	打	安	点
⑧	長野	4	0	0
⑥	中川	4	1	0
③	中伊藤	4	0	0
④	藤江	3	1	0
D	上山	2	1	0
RD	西近藤	0	0	0
HD	田栗原	1	0	0
⑨	野澤	3	1	0
⑦	本原	3	0	0
②	岡貞堀	3	0	0
⑤	澤光内	2	1	0
R5		1	0	0
	計	30	5	0

	投	手	回	安	責
大	秋	山	9	5	0
H					

	井	村	6	⅓	9	2
	花	城		⅔	2	1
	田	中	2		2	0

大 5 3 2 3 0 6 2 併
振 球 犠 盗 失 残 併
H 4 0 0 0 2 3 1 残

▽本塁打 橋本▽捕逸 二井▽時間2分
▽二塁打 岡澤▽暴投 村上

NTT西

	打	安	点
⑧	串畑	5	1	0
⑥	成瀬	4	2	2
D	夏目	3	1	0
HD	井上	2	1	2
③	山田	5	3	3
R3	本村	0	0	1
⑦	井井	5	4	1
⑨	丸藤	4	2	0
⑤	本藤	4	2	1
②		4	1	0
④	後			
	計	40	15	11

三菱倉敷

	打	安	点
⑦	岑	4	2	0
⑨	安藝	1	0	0
H9	福島	1	0	0
H	中野	1	1	0
⑥	榎木	4	2	0
③	山下	4	0	0
D	日向	4	0	0
⑤	尾堂	4	3	0
R5	洌田	0	0	0
④	杉村	0	0	0
②	種島	3	1	0
⑧	谷川	3	1	2
	猪崎	3	1	0
	計	31	9	2

	投	手	回	安	責
N	松渡	井邊	7	7	2	0
				⅓	2	0
	井	澤		⅔	0	0
	彦	坂	4	⅓	6	3
	長谷	川		⅔	4	2
	平	野	3		3	2
	末	野		⅔	2	1

N 5 2 0 1 0 7 1 併
振 球 犠 盗 失 残 併
三 5 1 0 0 3 6 0 残

▽本塁打 谷川（松井）▽二塁打 徳丸（成瀬、山田、中野）▽2時間43分

日本生命

	打	安	点
⑧	中津	3	0	0
⑦	松本	3	2	0
⑨	竹村	3	0	1
D	竹中	3	0	1
R	多田	0	0	0
⑤	山田	3	1	0
⑥	高倉	0	0	0
③	木島	3	1	0
②	三崎	1	2	2
④	山池上	2	3	2
	計	33	8	6

三菱重工W

	打	安	点
⑦	田中	5	2	3
D	根山	3	0	0
HD	杉西	1	1	1
⑧	浦岡	5	4	1
③	来下	4	0	0
R4	吉北	0	0	0
④	和朝	4	0	0
3	中湯	0	0	0
⑥	来石	4	1	2
⑤	田山	4	2	1
⑨	口井	3	1	0
②		2	0	1
	計	35	11	9

	投	手	回	安	責
日	齋藤		2	⅔	6	6
	山	本		⅓	1	2
	佐水	伯江	4		2	0
	高	木		⅔	2	1
				⅓	0	0
	鷲	尾	6	⅔	4	4
	西		1		1	0
	辻太	垣田	1		1	0
	川	上		⅓	2	2
				⅔	0	0

日 3 8 1 0 2 9 0 併
振 球 犠 盗 失 残 併
三 6 5 2 2 0 9 1 残

▽本塁打 池上（鷲尾）山崎（水江）山下（二中）▽二塁打 山田、太田▽暴投 6分
▽3時間

◇**第3日**（4月25日）
（予選リーグ）
○…わかさスタジアム京都…○

NTT東危なげなく 四番向山が先制ソロ

▽Cブロック
アスミビルダーズ（2敗）
002 000 0 2
013 131 × 9
NTT東日本（2勝）
（七回コールド）

NTT東日本は二回、向山のソロで先制すると、三回にも向山が適時打を放つなど小刻みに加点した。投げては先発の堀が失策絡みで失点したものの、安定した投球を見せた。

ツネイシ逃げ切る 九回深田が好救援

▽Dブロック
ツネイシブルーパイレーツ（2勝）
100 010 010 3
000 000 101 2
日本生命（3敗）

ツネイシは一回に小南の適時打で先制すると、先発の原も六回まで無失点の好投。九回の無死満塁のピンチでは、5番手の深田が三者連続で内野ゴロに抑え、逃げ切った。

鷺宮投打かみ合う 三菱W3安打のみ

三菱重工West（1勝1敗）
000 000 0 0
301 000 3 7
鷺宮製作所（2勝1敗）
（七回コールド）

鷺宮製作所は七回無死満塁から、4番野村が走者一掃の三塁打を右中間に放ち、コールド勝ち。三菱重工Wは相手先発の中島隼に、3安打に抑えられた。

○…湖東スタジアム…○

東邦ガス本塁打攻勢 瀬戸内6点リードも

▽Aブロック
日本製鉄瀬戸内（2敗）
023 010 010 7
000 035 20× 10
東邦ガス（2勝）

6点をリードされた東邦ガスは五回、大木の3ランで追い上げ、六回には佐々木が左越えに逆転の満塁本塁打を放った。日本製鉄瀬戸内は好投していた先発の川瀬航が、急に崩れてしまった。

日鉄瀬戸内

		打	安	点
④	市原	5	1	1
⑧	遠藤	4	0	0
H9	中井	0	0	0
⑤	内倉	4	3	1
D	岡	3	0	0
HD	々木	1	0	0
98	佐江	3	1	1
③	小深	3	1	1
⑦	広田	5	2	2
②	島上	0	0	0
H2	向井	0	0	0
H	福宮	0	0	0
⑥	重川	4	2	1
	計	36	12	7

東邦ガス

		打	安	点
⑧	浦	4	1	0
⑦	松井	3	1	0
⑤	宮下	4	0	0
③	若林	4	2	3
D	柴田	3	1	0
⑥	佐木	4	3	4
⑨	大木	4	1	3
②	永見	2	0	0
2	山田	2	0	0
④	高垣	3	0	0
	計	33	9	10

	振	球	犠	盗	失	残	併
日	12	7	1	0	1	10	1
東	9	2	0	1	0	1	2

投	手	回	安	責
川	瀬航	5⅓	5	7
下	堂	1⅔	3	2
西	本	1	1	0
辻	本	2⅔	5	5
柳	川	3	4	1
清	水	2	1	0
吉	田	2	2	1

▽本塁打　小深（川本）大木（川瀬航）佐々木（川瀬航）▽二塁打　田内倉2、江川、広田2、若林2▽3時間14分

三菱重工W

		打	安	点
⑦	田中	2	0	0
D	根来	1	0	0
HD	山下	1	0	0
⑧	杉浦	3	1	0
③	西岡	3	0	0
④	北條	1	0	0
⑥	朝日	3	1	0
⑤	中山	3	2	0
H5	坂下	1	0	0
⑨	湯口	2	0	0
②	石井	1	0	0
H2	拾尾	1	1	0
	計	21	3	0

鷺宮製作所

		打	安	点
⑦	藪井	3	1	0
⑥	島中	4	1	0
④	野優	3	2	0
⑨	村田	3	1	3
D	保戸	3	2	2
③	千葉	2	1	1
⑤	米田	2	0	1
②	佐藤	2	0	0
⑧	村上	2	0	0
	計	23	8	7

	振	球	犠	盗	失	残	併
三	8	4	0	0	0	4	0
鷺	4	7	1	3	0	6	2

投	手	回	安	責
中	澤	2⅓	5	4
西		2⅔	1	0
藤	居	1⅓	2	3
中	島隼	7	3	0

▽三塁打　野村（日、中時）▽二塁打　朝日（暴投2）▽島隼（中澤、9分）

ツネイシ

		打	安	点
④	中里	5	2	1
⑤	工	2	0	0
⑨	新地	4	1	0
③	小南	4	1	1
D	中村	4	1	0
RD	井本	0	0	0
HD	野内	1	0	0
⑦	河林	4	2	0
⑥	大小	3	0	0
②	若狭	4	2	1
	計	36	10	3

日本生命

		打	安	点
⑧	藤本	5	1	0
⑦	松本	4	1	0
⑨	竹村	3	0	0
D	竹中	3	0	0
HD	越智	1	0	0
⑤	山田	2	0	0
R	多田	0	0	0
⑥	高田	0	0	0
H	上西	2	1	0
6	船山	1	1	0
R	中津	0	0	0
③	木倉	2	0	0
②	山崎	3	2	2
R	梅村	0	0	0
④	池上	2	0	0
H	早野	1	0	0
	計	30	6	2

	振	球	犠	盗	失	残	併
ツ	4	4	1	3	1	11	2
日	16	2	1	2	9	1	1

投	手	回	安	責
	原	6	3	0
田	井代	1	2	1
大	中	1	0	0
深	田	⅓	1	1
齋	藤	1	0	0
高	木	4⅔	5	2
真	野	3	2	0
谷	脇	1	3	0
		1	0	0

▽二塁打　大内、藤本、山崎▽暴投　内原▽2時間52分

アスミ

		打	安	点
⑨	中西	2	0	0
④	木村	4	1	0
⑦	松山	4	3	1
D	田垣	2	1	0
③	水谷	2	0	0
⑧	河野	3	1	0
②	谷川	3	0	0
⑤	鈴木	3	0	0
⑥	高木	3	0	0
	計	26	6	2

NTT東

		打	安	点
⑧	直井	4	0	0
⑥	石井	3	0	0
4	丸山	1	0	0
DD	内山	1	0	0
HD	向下	1	1	1
⑨	中山	4	2	2
⑤3	下村	2	0	0
③	池川	2	1	2
R5	井本	0	0	0
⑦	大上	3	1	2
②	柿坂	2	1	0
2	保東	0	0	0
④6	伊	2	2	0
	計	25	8	7

	振	球	犠	盗	失	残	併
ア	1	4	0	0	2	7	0
N	3	6	0	3	1	4	2

投	手	回	安	責
三	尾	3	4	4
駒	井	1	1	1
大	石	2	3	1
	堀	7	6	0

▽本塁打　向山（大（三尾）井上（石）▽暴投　三井2▽2時間12分

日鉄九州

		打	安	点
⑨	安藤	4	2	1
⑤	河村	4	1	2
③	須賀	5	3	0
⑦	山田	4	1	1
7	工藤	0	0	0
⑧	長山	4	0	0
D	山下	4	0	0
④	田貢	4	1	0
②	中座	1	1	0
⑥	田中	4	0	0
	計	34	9	4

ミキハウス

		打	安	点
⑥4	田浦	5	1	0
⑤	伊藤	4	2	0
⑦	島澤	3	2	2
③	田中	3	2	1
R6	立花	0	0	0
H	深野	1	1	1
D	松尾	3	1	0
RD	坂井	0	0	0
⑨	猪原	3	0	0
H3	大西	0	0	0
④	松本	4	2	1
9	神殿	0	0	0
②	浅野	2	0	0
⑧	小河内	4	0	0
	計	32	11	5

	振	球	犠	盗	失	残	併
日	8	4	1	0	1	8	1
ミ	6	4	4	1	0	9	1

投	手	回	安	責
金	栗	7⅔	9	4
油	布	1⅔	2	1
野	口	4⅓	8	4
仲	尾	2⅔	1	0
松	永	2	0	0

▽本塁打　安藤（野口）島澤（金栗）▽二塁打　田中2村、島澤、深野（ミ）▽暴投　金栗▽2時間28分

畔上逆転サヨナラ2ラン 東芝は九回に勝ち越すも

▽Bブロック

東芝（2勝1敗）

2	0	0	1	0	0	1	1	0	5
0	0	0	0	2	2	0	0	2	6

ホンダ鈴鹿（1勝1敗）

1点を追うホンダ鈴鹿は九回、藤江を一塁に置き、5番畔上が左中間にサヨナラ2ランを放った。東芝は九回、下山のソロ本塁打で勝ち越したが、3番手の神野が最後に捕まった。

日本新薬猛打爆発 4番濱田が7打点

日本新薬（1勝1敗）

4	4	3		4	0	1		1	17
0	0	0		2	0	0		0	2

大阪ガス（1勝2敗）

（七回コールド）

日本新薬が3本塁を含む計20安打の猛攻で、コールド勝ちした。4番濱田が2本塁打、7打点の活躍を見せた。大阪ガスは投手陣の乱調が大誤算。

◇第4日（4月26日）

（予選リーグ）

○…わかさスタジアム京都…○

三菱重工W西岡2ラン ツネイシ粘りも及ばず

▽Dブロック

ツネイシブルーパイレーツ（2勝1敗）

0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
0	1	1	0	1	0	0	2×		5

三菱重工West（2勝1敗）

同点の八回、三菱重工Wの4番西岡が左翼へ決勝の2ランを放った。ツネイシは六回連打で作った無死二、三塁から敵失などで追いついたが、ここで畳みかけられなかった。

ミキハウス島澤勝ち越し打 NTT東は打線つながらず

▽Cブロック

NTT東日本（2勝1敗）

0	0	1	0	0	0	1	0		2
0	0	0	0	1	0	2	1×		4

ミキハウス（3勝）

東芝

打		安	点
⑥	山	3	0
⑤	大下	1	0
③	齊	4	0
④	光	2	1
⑧	萩	2	0
②	中	1	0
2	諸	0	0
D	太	0	0
⑨	長	1	0
⑦	畔	4	2
計		37	13

5

Honda鈴鹿

打		安	点
⑧	長	4	1
⑥	中	4	1
③	伊	4	0
④	藤	2	1
D	畔	4	2
9	7 田	3	0
②	長	3	0
⑦	栗	2	0
H	近	1	0
9	岡	0	0
⑤	貞	2	1
R	5 堀	0	0
計		29	6

5

東	5	3	1	1	1	9	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
H	6	3	0	0	0	1	0

投	手	回	安	責
松	山	5 ⅓	4	4
浅	野	1 ⅔	0	0
神	野	1 ⅓	2	2
川	原	6	9	3
田	中	2 ⅔	4	2
漢	人	⅓	0	0

▽本塁打　齊藤（川原）下山（田中）畔上2（松山、神野）▽三塁打　長沢▽二塁打　太田2、下山、光本、長野▽暴投　松山▽2時間31分

日本新薬

打		安	点
⑧	根路銘	4	3
H	8 舩	1	0
④	武	5	2
⑥	橋濱	4	2
③	5	4	3
D	R D	1	1
⑨	R 9	2	1
⑦		1	0
②		1	0
⑤	3	3	4
H	3	1	1
計		40	20

14

大阪ガス

打		安	点
⑨	三	3	1
H	清	1	0
⑦	山	1	1
⑧	室	3	0
③	橋	3	0
5	山	3	0
D	杉	3	1
⑤	4 高	3	1
④	3 吉	3	2
②		0	0
2	城	0	0
H	田	1	1
2	梶	1	0
⑥	高	2	0
H	島	1	0
計		28	7

1

日	5	7	0	1	2	9	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
大	4	0	1	1	2	6	2

投	手	回	安	責
下	本	6	7	1
木	岩	1	0	0
稲	垣	⅓	4	2
本	間	1	2	4
林		1 ⅔	5	3
江	越	1	4	4
執	行	2 ⅓	4	2
小	松	⅔	1	0

▽本塁打　濱田2（林、江越）高原（執行）▽三塁打　橋本、西川▽二塁打　植田、西川▽暴投　本間▽捕逸　城下▽2時間25分

ツネイシ

打		安	点
④	中 里	4	2
⑤	工	3	2
⑦	河	3	0
③	小	4	1
D	中	4	1
②	草	2	0
2	小	2	0
⑨	新	3	0
⑥	大	3	1
⑧	若	3	0
計		32	6

3

三菱重工W

打		安	点
④	吉	4	2
⑨	7 田	3	0
H	7 笹	1	0
⑧	杉	4	3
D	西	4	2
③	北	3	2
R	9 青	1	1
⑥	朝	2	1
⑦	山	1	1
3	二	1	0
⑤	中	3	0
H	5 和	3	0
②	拾	3	0
計		33	12

5

ツ	9	0	1	0	1	3	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
三	6	0	2	2	1	6	0

投	手	回	安	責
松	尾	6	9	3
田	代	1 ⅔	3	2
東	田	⅓	0	0
藤	井	5 ⅔	5	3
太	田	1	0	0
川	上	2	1	0
鷲	尾	1	0	0

▽本塁打　西岡（田代）▽二塁打　中村、工、中里、中朝▽暴投　松尾▽2時間34分

NTT東

打		安	点
⑧	直	0	0
④	丸	0	0
H	池	1	0
⑥	石	1	1
⑨	向	0	0
⑤	中	1	0
③	下	0	0
D	内	2	1
②	佐	0	0
⑦	井 久	0	0
計		30	5

2

ミキハウス

打		安	点
⑥	4 田	5	2
⑤	浦	2	0
⑦	藤	4	1
③	澤	3	1
3	中	0	0
D	西	3	0
H	D 尾	1	0
⑨	H 9 野	3	0
④	原	1	0
6	本	3	1
②	花	0	0
⑧	井 上	2	0
小	河 内	1	0
計		28	5

3

N	7	7	2	2	2	10	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
ミ	7	9	2	1	0	11	0

投	手	回	安	責
寺	嶋	5	2	0
上	出	1 ⅔	1	2
山	内	⅔	1	0
多	田	1 ⅓	1	1
高	橋	5	1	1
仲	尾	1 ⅔	1	0
桜	井	2 ⅓	3	1

▽二塁打　内山、池本▽ボーク　寺嶋▽2時間49分

アスミ

打		安	点
⑨	中	1	0
④	木	0	0
⑦	松	1	0
D	田	2	0
③	田	1	0
⑧	河	0	0
②	谷	0	0
H	吉	0	0
⑤	鈴	1	0
H	5 渡	0	0
H	水	1	0
R	入	0	0
⑥	高	0	0
計		32	9

2

日鉄九州

打		安	点
⑨	安 藤	1	0
9	吉 田	2	0
⑦	工 藤	5	2
③	須 賀	5	1
D	山 田	2	0
⑧	長 岡	2	1
⑤	南 里	4	1
④	河 村	2	0
②	与 座	2	0
⑥	田 中	2	0
計		27	5

4

ア	10	4	2	2	1	8	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
日	4	10	2	0	1	11	2

投	手	回	安	責
山	田	2	3	2
三	尾	4 ⅔	1	2
内	海	1 ⅓	1	0
木	村	4	6	1
鶴	橋	3 ⅓	1	0
中	村	1 ⅔	2	0

▽三塁打　田垣▽二塁打　高木、須賀、工藤▽3時間

ミキハウスは七回2死満塁から、島澤が勝ち越しの2点適時打。八回にも押し出しの四球で追加点を挙げ、逃げ切った。NTT東日本は打線につながりを欠いた。

日本製鉄九州初勝利 連続押し出しで逆転

アスミビルダーズ（3敗）

003	000	000	3
202	000	00×	4

日本製鉄九州（1勝2敗）

日本製鉄九州は三回2死満塁から、四球と死球の連続押し出しで逆転。救援陣の好投で初勝利を挙げた。アスミビルダーズも九回2死満塁と粘りを見せたが、生かせなかった。

○…湖東スタジアム…○

満塁の攻防明暗分ける ホンダ鈴鹿13安打及ばず

▽Bブロック

ホンダ鈴鹿（1勝2敗）

011	000	001	3
002	040	00×	6

日本新薬（2勝1敗）

日本新薬は三回、根路銘の2ランで追いつき、五回には1死満塁から、適時打や犠飛で勝ち越した。ホンダ鈴鹿は対照的に、三回1点追加後の満塁を逃し、日本新薬の戸根を崩せなかった。

NTT西接戦制す 辻本殊勲の適時打

▽Aブロック

東邦ガス（2勝1敗）

030	000	200	5
202	100	01×	6

NTT西日本（3勝）

同点の八回、NTT西日本は辻本の二塁打で勝ち越し、九回を4番手の松井が3人で抑え、競り合いを制した。東邦ガスは八回、右前打で勝ち越し点を狙った走者がホームで刺された。

瀬戸内13安打の猛攻 倉敷元気なく3連敗

日本製鉄瀬戸内（1勝2敗）

041	004	1	10
000	000	0	0

三菱自動車倉敷（3敗）

（七回コールド）

日鉄瀬戸内が13安打の猛攻を見せた。二回、小深田の先制ソロを皮切りに4点を奪うと、六回にも佐々木の適時二塁打などで試合を決めた。三菱倉敷は3連敗を喫した。

Honda鈴鹿

	打	安	点
⑧	野路	0	0
⑥	長中	0	0
③	伊近	1	0
H	西藤	0	1
R	藤藤	1	1
④	山江	2	1
D	上野	1	1
⑨	畔田	0	0
H	岡	1	0
9	長	1	0
②	野	0	0
⑦	栗貞	1	0
⑤	原光	2	0
R	堀内	0	0
	計	13	3

日本新薬

	打	安	点
⑧	根路	1	2
④	銘武	1	0
⑥	橋濱	1	1
③	植若	1	1
D	田西	1	1
⑦	林中	1	1
R	9 田	0	0
⑨	7 川	0	0
②	原藤	0	0
2	後高	2	1
⑤	原	0	0
	計	8	6

	振	球	犠	盗	失	残	併
H	6	1	0	1	2	10	2
日	4	5	4	0	0	7	1

	投	回	安	責
寺	手瀬	4	5	4
藤	本村	⅔	⅓	2
井	井城	2	1	0
岩			⅓	0
花			⅔	0
戸	根藤	7	9	2
遠		2	4	1

▽本塁打 畔上（戸根）根路銘2（寺瀬）林若原、栗間35分

東邦ガス

	打	安	点
⑧	浦	0	0
H	飯	1	0
⑦	松	0	1
H	比	0	0
7	金	1	0
H	宮	0	0
⑤	若	0	0
③	柴	0	0
D	佐	1	0
⑥	大	2	1
⑨	氷	3	1
②	高	1	0
④	木	0	0
8	々木	1	0
	計	7	5

NTT西

	打	安	点
⑧	畑	0	1
⑥	瀬	1	1
D	井	1	0
③	田	1	2
⑦	村	1	1
⑨	井	1	0
⑤	丸	0	1
②	本	2	0
④	藤	2	0
	計	11	6

	併	残	失	盗	犠	球	振
東	0	6	1	2	2	5	8
N	0	7	0	1	2	3	3

	投	回	安	責
大	手石	4	6	3
中	川	3	⅓ 4	1
柳	川		⅓ 1	0
吉	田		⅓ 0	0
濱	崎	5	4	3
渡	邊	1	⅓ 2	2
松	江井	1	⅔ 1	0
		1	0	0

▽本塁打 田山（大々）打二、石丸2（佐辻）徳永▽時間38分

日鉄瀬戸内

	打	安	点
④	原	3	1
4	井	0	0
⑧	藤	1	2
⑤	倉	3	3
D	木	1	0
⑦	川	3	1
③	田	2	1
3	宮	1	0
⑨	井	3	1
②	出	2	2
H	井	1	1
⑥	瀬	0	0
H	藝	1	0
R	川	0	0
6	戎	0	0
	計	30	13

三菱倉敷

	打	安	点
⑨	岑	3	0
⑥	川	3	0
④	木	2	0
H	川	1	0
③	下	3	0
⑤	島	3	1
D	堂	3	2
⑦	野	2	2
②	村	0	0
5	崎	1	1
⑧	杉	0	0
	計	27	6

	併	残	失	盗	犠	球	振
日	0	6	0	2	3	4	10
三	1	6	1	0	0	0	4

	投	回	安	責
投	手岡	3	2	0
吉	堂本	1	0	0
下		3	4	0
杉	西川	1	5	4
	井野	3	3	1
	谷	⅔	⅓	0
大	井	⅔	⅓	0
長	福	⅔	⅓	0
岩	小	1	3	2
平	佐井深			

▽本塁打 田安（大井、福小）妨時間23分

▽（中藝）害

東芝六回一挙に大量点

ミキハウス継投に失敗

◇第5日（4月27日）

（七回コールド）

（決勝トーナメント）

同点の六回、東芝は下山や齊藤の適時打、太田の2ランなどで一挙7点を挙げ、試合を決めた。ミキハウスも田中の3ランなどで粘ったが、継投に失敗した。

○…わかさスタジアム京都…○

▽準決勝

東芝

002	027	0	11
003	010	0	4

ミキハウス

NTT西効率良く

鷺宮九回一矢のみ

NTT西日本

040	000	000	4
000	000	001	1

鷺宮製作所

NTT西はチーム4安打中3本を二回に集め、辻本の二塁打で先制すると、押し出しや酒井の2点適時打で計4点を挙げた。鷺宮は相手を上回る7安打も、九回に1点を返しただけに終わった。

	打	安	妨
田	打	4	0
深	塁	5	4
小	二	3	1
木	守	3	1
▽々	▽田	2	0
打		1	0
（佐	井深	3	4
塁	西	2	1
本	井、	大	石▽
（大	福	小	時
中	藝	害	間

NTT西の濱崎完封

串畑が値千金のソロ

◇**最終日**（4月28日）
（決勝トーナメント）
○…わかさスタジアム京都…○
▽決勝

NTT西日本	001	000	000
東芝	000	000	000

0	1

NTT西は三回、串畑のソロ本塁打で先制すると、先発の濱崎が被安打3、奪三振11で東芝打線を完封した。東芝の笹森、松山も好投したが、三回以降は1安打に終わり、好機を作れなかった。

㊊…表彰選手…㊊

◇**最高殊勲選手賞**
濱崎浩大・投手（NTT西日本）

◇**敢闘賞**
松山仁彦・投手（東芝）

◇**首位打者賞**
太田英毅・外野手（東芝）
＝19打数9安打、打率4割7分4厘

NTT西

		打	安	点
⑧	串畑	4	2	1
⑥	成瀬	4	1	0
D	酒井	4	1	0
③	山田	4	0	0
⑦	中村	4	2	0
⑨	藤井	4	0	0
⑤	徳丸	3	2	0
②	辻本	3	0	0
④	後藤	3	0	0
	計	33	8	1

東芝

		打	安	点
⑥	山田	4	1	0
⑤	大庭	3	1	0
H	金井	1	0	0
R	田中	0	0	0
③	下山	3	0	0
④	齊藤	4	0	0
⑧	光本	4	1	0
②	萩原	3	0	0
D	南	2	0	0
⑨	太田	3	0	0
⑦	長沢	3	0	0
	計	30	3	0

	振	球	犠	盗	失	残	併
N	12	0	0	0	1	5	0
東	11	1	1	2	0	5	0

投	手	回	安	責
濱	崎	9	3	0
笹	森	4	6	1
松	山	5	2	0

▽本塁打　串畑（笹森）▽2時間18分

NTT西

		打	安	点
⑧	串畑	5	2	0
⑥	成瀬	2	0	1
D	酒井	3	1	2
③	山田	4	0	0
⑦	中村	2	0	0
⑨	藤井	3	0	0
⑤	徳丸	2	0	0
②	辻本	4	1	1
④	後藤	3	0	0
	計	28	4	4

鷺宮製作所

		打	安	点
⑦	藪井	4	0	0
⑥	島野	3	0	0
②	西浦	4	1	0
⑨	野村	4	2	0
D	保戸田	3	2	0
R	藤原	0	0	0
⑤	米千	4	1	1
③	葉谷	4	0	0
④	島優	2	0	0
H4	中竹	1	0	0
⑧	原	3	1	0
	計	32	7	1

	振	球	犠	盗	失	残	併
N	7	9	1	0	1	7	1
鷺	6	2	0	0	1	6	1

投	手	回	安	責
高	井	6⅔	5	0
大	江	2	0	0
松	井	1	2	1
渡	部	1⅔	3	4
木	村	1⅓	0	0
前	田	2	1	0
渡	邊	2	0	0
菊	地	2	0	0

▽二塁打　辻本、野村▽暴投　渡部2▽2時間46分

東芝

		打	安	点
⑥	山田	2	0	0
⑤	大庭	3	0	0
③	下山	4	2	1
④	齊藤	4	2	1
⑧	光本	4	3	2
②	萩原	4	1	1
D	南	4	2	4
⑨	太田	4	1	2
⑦	長沢	3	2	0
	計	32	13	11

ミキハウス

		打	安	点
⑥	田浦	2	0	0
⑤	伊藤	3	0	0
⑦	島澤	2	1	0
③	田中	3	1	3
D	松尾	3	2	1
⑨	猪原	2	0	0
④	松本	3	1	0
②	井上	2	0	0
⑧	小河内	2	0	0
	計	22	5	4

	振	球	犠	盗	失	残	併
東	1	9	1	1	0	10	1
ミ	6	4	4	4	0	5	1

投	手	回	安	責
北	村	3	2	3
谷	川	3	3	1
松	山	1	0	0
高	橋康	3	3	2
仲	尾	1⅔	2	2
浪	越	⅓	0	0
松	永	⅔	5	6
高	橋優	1⅓	3	1

▽本塁打　太田（高橋優）田中（北村）▽三塁打　下山▽二塁打　光本、南2▽2時間29分

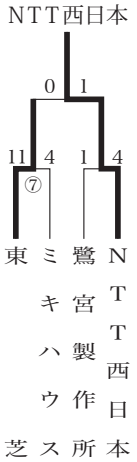
第75回大会・熱戦の軌跡

Aブロック	NTT西日本	日本製鉄瀬戸内	東邦ガス	三菱自動車倉敷オーシャンズ	勝	敗	順位
NTT西日本	㊊	○7－4	○6－5	◎11－2⑧	3	0	1
日本製鉄瀬戸内	●4－7	㊊	●7－10	◎10－0⑦	1	2	3
東邦ガス	●5－6	○10－7	㊊	○6－0	2	1	2
三菱自動車倉敷オーシャンズ	×2－11⑧	×0－10⑦	●0－6	㊊	0	3	4

Bブロック	東芝	大阪ガス	日本新薬	Honda鈴鹿	勝	敗	順位
東芝	㊊	○6－2	○6－4	●5－6	2	1	1
大阪ガス	●2－6	㊊	×2－17⑦	○5－0	1	2	3
日本新薬	●4－6	◎17－2⑦	㊊	○6－3	2	1	2
Honda鈴鹿	○6－5	●0－5	●3－6	㊊	1	2	4

Cブロック	ミキハウス	アスミビルダーズ	NTT東日本	日本製鉄九州	勝	敗	順位
ミキハウス	㊊	◎12－2⑦	○4－2	○5－4	3	0	1
アスミビルダーズ	×2－12⑦	㊊	×2－9⑦	●3－4	0	3	4
NTT東日本	●2－4	◎9－2⑦	㊊	◎14－5⑦	2	1	2
日本製鉄九州	●4－5	○4－3	×5－14⑦	㊊	1	2	3

Dブロック	日本生命	鷺宮製作所	三菱重工West	ツネイシブルーパイレーツ	勝	敗	順位
日本生命	㊊	●1－3	●6－9	●2－3	0	3	4
鷺宮製作所	○3－1	㊊	◎7－0⑦	●3－5	2	1	1
三菱重工West	○9－6	×0－7⑦	㊊	○5－3	2	1	3
ツネイシブルーパイレーツ	○3－2	○5－3	●3－5	㊊	2	1	2



京都大会・決勝戦一覧

第１回	(昭22年)	大日本土木	7―1	全大阪業業属学命属油器ン	西京極		
第２回	(〃23年)	鐘紡淀川業	4―3	洋漁〃〃〃〃〃〃	〃		
第３回	(〃24年)	大洋漁業	18―4	知産〃〃〃〃〃〃	〃		
第４回	(〃25年)	日本生命	8―2	全鐘紡ア属属学命属油器ン	衣笠		
第５回	(〃26年)	全鐘二業	3―2	日本コムビ〃〃〃〃〃〃	〃		
第６回	(〃27年)	全日鉄二	8―1	新扶金桑金〃〃〃〃〃〃	西京極		
第７回	(〃28年)	日崎重工	2―1	日本軽金〃〃〃〃〃〃	〃		
第８回	(〃29年)	全鐘紡業	8―1	鐘淵化学命属油器ン	〃		
第９回	(〃30年)	全鐘紡紡	5―0	日本生金属油器ン	〃		
第10回	(〃31年)	全鐘紡ン	4―0	日住友金属油器ン	〃		
第11回	(〃32年)	鐘化カネカロ	3―1	丸善石油器ン	〃		
第12回	(〃33年)	全鐘紡ン	4―0	松下電器ン	〃		
第13回	(〃34年)	東洋レーヨン	9―0	鐘化カネカロン	〃		
第14回	(〃35年)	(休止)					
第15回	(〃37年)	日本生命	10―2	鐘化カネカロン	日生		
第16回	(〃38年)	全鐘紡ン	4―2	電近〃〃〃〃〃〃	〃		
第17回	(〃39年)	日本石油	2―0	積水化〃〃〃〃〃〃	〃		
第18回	(〃40年)	全鐘紡油	4―0	熊谷〃〃〃〃〃〃	〃		
第19回	(〃41年)	日本石油	2―0	拓殖銀行命和油器ン	〃		
第20回	(〃42年)	日立製作	1―0	日本生浦石近電金属ン	〃		
第21回	(〃43年)	日本石ル	2―1	日日通本電下友属ン	〃		
第22回	(〃44年)	サッポロビール	2―1	日電本電下友属ン	〃		
第23回	(〃45年)	大昭和製紙	2―1	松住電金属ン	〃		
第24回	(〃46年)	大昭和製紙	3―2	住友電金属ン	〃		
第25回	(〃47年)	熊谷組一	8―0	松住友下電器属ン	〃		
第26回	(〃48年)	エアロスタ	4―3	松下電器属ン	〃		
第27回	(〃49年)	新日鐵広	1―0	和発酵防府ン	〃		
第28回	(〃50年)	日本鋼管	6―2	協和精機ン	〃		
第29回	(〃51年)	東京ガス	6―1	新日鐵生命ン	日生ほか		
第30回	(〃52年)	日本電器	3―1	日本生命ン	〃		
第31回	(〃53年)	松下電器	2―1	日本生命ン	〃		
第32回	(〃54年)	河合楽器	2―0	東日本生命ン	日生		
第33回	(〃56年)	電電四国	5―3	本生命ル	〃		
第34回	(〃57年)	松下電器	5―0	リスホテル	〃		
第35回	(〃58年)	住友金属	4―3	日本生命属ン	〃		
第36回	(〃59年)	松下電器	4―2	住友金属行ン	〃		
第37回	(〃60年)	本田技研	11―4	北海拓殖銀油ス	〃		
第38回	(〃61年)	富士重工	9―7	日本石ガス属ン	〃		
第39回	(〃62年)	プリンスホテル	5―3	大阪ガス属ン	〃		
第40回	(〃63年)	熊谷組	5―1	住友金電製鋼組ル	〃		
第41回	(平１年)	東芝	13―2	松下電器属ン	〃		
第42回	(〃２年)	熊谷組	8―6	神戸製鋼組ル	〃		
第43回	(〃３年)	日本生命	11―4	熊谷組ル	〃		
第44回	(〃４年)	日本生命	10―4	プリンスホテル	〃		
第45回	(〃５年)	日本生命	16―10	ププリンスホテル	〃		
第46回	(〃６年)	富士重工業	17―4	ヤハンジャパン属ン	〃		
第47回	(〃７年)	プリンスホテル	4―2	住友金ガス	〃		
第48回	(〃８年)	日本生命	13―12	大阪ガス	〃		
第49回	(〃９年)	松下電器	5―3	三菱重工神戸属ン	〃		
第50回	(〃10年)	新日鐵君津	8―7	NTT四国	舞洲ほか		
第51回	(〃11年)	シダックス	5―3	三菱重工広島ス	西京極		
第52回	(〃12年)	三菱自動車水島	2―1	大阪ガス車器	〃		
第53回	(〃13年)	NTT西日本	12―7	日産自動車器	〃		
第54回	(〃14年)	NTT西日本	3―2	松下電器	〃		
第55回	(〃15年)	日本生命	5―1	Honda鈴鹿ス	〃		
第56回	(〃16年)	三菱ふそう川崎	7―4	シダックス本	〃		
第57回	(〃17年)	大阪ガス	5―3	NTT西日本本	〃		
第58回	(〃18年)	日本生命	5―2	NTT東日本本	〃		
第59回	(〃19年)	JR東日本	6―1	三菱重工長崎所	〃		
第60回	(〃20年)	Honda鈴鹿	2―0	鷺宮製作所本	西京極・皇子山		
第61回	(〃21年)	パナソニック	5―4	NTT西日本一	わかさ・皇子山		
第62回	(〃22年)	ヤマハ	6―4	セガサミック	〃		
第63回	(〃24年)	NTT西日本	3―2	パナソニックス	〃		
第64回	(〃25年)	日本生命	7―0	パナソニック車器	〃		
第65回	(〃26年)	NTT西日本	7―6	トヨタ自動車ク	〃		
第66回	(〃27年)	日本生命	4―2	パナソニック	〃		
第67回	(〃28年)	三菱重工広島	9―8	三菱重工神戸・高砂島	〃		
第68回	(〃29年)	NTT西日ッ	9―0	三菱重工広	〃		
第69回	(〃30年)	パナソニッ	5―0	東NTT西日本	芝本子		
第70回	(令１年)	日本生命	1―0	NTT西日本	〃		
第71回	(〃３年)	三菱重工Westt	9―0	王三菱重工Eastス	〃		
第72回	(〃４年)	三菱重工Westt	2―1	三菱重工Eastス	〃		
第73回	(〃５年)	三菱重工Westt	4―0	大阪ガス	わかさ・皇子山・NTT滋		
第74回	(〃６年)	東芝	5―1	ヤマハ	わかさ・太陽が丘・皇子山		
第75回	(〃７年)	NTT西日本	1―0	東芝	わかさ・湖東		

※昭和36年・55年は休止、第15回から第50回までは大阪大会として開催
※平成23年は東日本大震災のため大会中止
※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

Honda鈴鹿が42大会ぶりの優勝

第77回　JABAベーブルース杯大会

決勝でJR東日本退け3度目

MVPに決勝でサヨナラ打の畔上内野手（Honda鈴鹿）

第77回JABAベーブルース杯争奪全国社会人野球大会は5月1日から7日まで、ぎふしん長良川球場と大垣市北公園野球場で行われ、ホンダ鈴鹿が決勝でJR東日本を5―4で破り、42大会ぶり3回目の優勝を達成した。

出場16チームを4ブロックに分けて予選リーグを戦い、各1位が決勝トーナメントに進出した。準決勝ではホンダ鈴鹿がホンダを8―7で退け、JR東日本は三菱自動車岡崎に5―3で勝った。

決勝ではホンダ鈴鹿が九回、畔上翔の二塁打でJR東日本にサヨナラ勝ちした。

最高殊勲選手賞にはホンダ鈴鹿の畔上翔内野手、敢闘賞にはJR東日本の菅田大介内野手が選ばれ、首位打者賞は畔上内野手が17打数8安打、打率4割7分1厘で獲得した。

ブロック分けは次の通り。

【A】ホンダ、JR東海、日本製鉄東海REX、JR北海道硬式野球クラブ

【B】ニチダイ、日本製鉄鹿島、西濃運輸、ホンダ鈴鹿

【C】日本製鉄かずさマジック、三菱自動車岡崎、JFE西日本、IMF BANDITS富山

【D】JR東日本、トヨタ自動車、東邦ガス、ロキテクノ富山

◇**第1日**（5月1日）（予選リーグ）

○…ぎふしん長良川球場…○

日鉄鹿島集中打で逆転　ニチダイ一回先制点も

▽Bブロック

ニチダイ（1敗）
100 000 00 1
020 500 01 8
日本製鉄鹿島（1勝）
（八回コールド）

日鉄鹿島は二回、陶山の適時二塁打で逆転。四回には池間や松田の二塁打など、5安打を集中して突き放した。先制したニチダイだが二回以降、日鉄鹿島の先発、佐田に抑えられた。

JR北海道ク競り勝つ　4番松井が勝ち越し打

▽Aブロック

日本製鉄東海REX（1敗）
000 000 010 1
000 100 01× 2
JR北海道硬式野球クラブ（1勝）

JR北海道クは八回1死三塁で、4番松井が右前に勝ち越し打を放ち、九回1死二、三塁のピンチをしのいで逃げ

ニチダイ

	打	安	点
⑦	3	3	0
④	3	0	0
D	3	2	0
⑤	3	1	0
⑧	3	0	0
③	3	0	0
⑨	3	1	0
H	2	0	0
②	2	1	0
6	2	1	0
計	28	8	1

日鉄鹿島

	打	安	点
④	4	0	0
4	1	0	2
6	4	1	1
6	3	1	0
⑦	3	0	1
③	3	1	2
②	4	2	1
⑤	3	0	0
⑨	3	0	0
R	3	1	0
D	3	3	2
⑧			
計	32	12	8

	投	手	本	字	城	田	塙
	回	3	⅔	⅓	⅔	7	1
	安	7	2	2	3	1	0
	責	5	2	1		1	0

| | 打 | 二 | 暴 | 投 | 捕 | 塁 | 塁 | 塁 | 打 | 打 | 打

切った。東海ＲＥＸは、被安打７で完投した荒木のがんばりを生かせなかった。

ホンダ鈴木満塁本塁打 ＪＲ東海反撃断たれる

ホンダ（１勝）

		０	０	４	０	０	１	０	２０	７
		０	０	０	１	０	１	０	００	２

ＪＲ東海（１敗）

ホンダは三回、３番鈴木の満塁本塁打で先制。八回には中村の適時打などで突き放した。ＪＲ東海は終盤、ホンダ２番手の岡野に抑えられた。

○…大垣市北公園野球場…○

ＪＲ東日本逆転勝ち トヨタ追加点奪えず

▽Ｄブロック

ＪＲ東日本（１勝）

１	０	０	０	２	０	５	２	０	１０
５	００	０	００	０	００	０	００	０	５

トヨタ自動車（１敗）

ＪＲ東日本は七回、敵失などで追いつき、４番の高橋が右翼へ勝ち越しの３ランを放った。トヨタ自動車は一回、６安打に２四球を集め、５点を奪う速攻を見せたが、二回以降は継投にかわされた。

ＩＭＦ富山逃げ切る 五味粘りの完投勝利

▽Ｃブロック

ＩＭＦ ＢＡＮＤＩＴＳ富山（１勝）

１	１	０	３	００	０	０	０	０	５
０	０	１	００	０	０	０	０	０	２

ＪＦＥ西日本（１敗）

ＩＭＦ富山の五味が、走者を出しながらも粘り強く投げ、被安打８で完投勝ち。中村のソロなどで奪った前半のリードを守り切った。ＪＦＥ西日本は継投に誤算。

三菱岡崎の近藤完封 かずさは好機作れず

三菱自動車岡崎（１勝）

２	００	０	００	０	００	０	００	０	２
０	００	０	００	０	００	０	００	０	０

日本製鉄かずさマジック（１敗）

三菱岡崎は一回、先頭の菅原が四球で出塁すると、３連打で２点を先制。先発の近藤が10奪三振の力投で完封した。日鉄かずさは三塁を踏んだのが七回の１度だけ。完全に抑えられた。

JR東日本

	打	安	点
⑧ 篠	５	１	２
菅 田田輝	５	４	０
④ 杉崎成	４	１	０
⑤ 高	４	１	０
⑨ 山 橋	４	１	０
⑥ 海 内	４	０	０
Ｈ６ 栗 崎	１	０	０
③ 山 林	０	０	０
⑦ 杉 本	３	１	０
② 佐 成	１	０	０
Ｈ Ｒ 小草 藤	０	０	０
２ 倉岩 藤部石本	０	０	０
計	33	9	8

トヨタ

	打	安	点
⑤ 熊	５	１	０
⑨ 田	３	１	０
Ｈ 宮 崎	１	０	０
④ 西村	０	０	０
⑧ 佐 友	４	１	０
Ｄ 逢 藤	５	３	２
⑥ 小 澤	５	２	０
② 和 畑	３	１	１
③ 福 田	４	０	１
⑦ 今 井	４	１	１
徳 泉本	４	１	１
計	38	10	5

	投	手	回	安	責
投児	手	玉	⅓	４	５
山西	崎	居	⅔	５	０
西	田		３	１	０
			２	０	０
池	村		６	⅓	５
細	川			⅔	３
山	内		１	２	２
磯	村		１	０	０

	振	球	犠	盗	失	残	併
Ｊ	９	７	２	２	１	５	０
Ｉ	９	３	３	０	０	６	１
トヨタ	７	３	０	０	１	９	１

▽本塁打 菅田（細川）高橋（細池村）▽二塁打 逢澤▽２時間58分

IMF富山

	打	安	点
⑤ 高	４	１	１
③ 須	５	３	１
⑥ 井	３	１	０
⑨ 西	４	０	０
② 大	３	１	０
ＤＨ 小	４	０	０
Ｄ 徳	３	１	０
④ 佐	４	２	１
⑧ 中	４	１	０
⑦ 北	３	０	０
Ｈ７ 園坂田上	０	０	０
計	32	8	5

JFE西

	打	安	点
③ 原	５	１	０
⑨ 上	５	１	１
⑧ 西	３	１	０
ＨＤ 中	３	１	０
⑤ 屋	３	０	０
④ 田	３	０	０
⑦ 井	４	１	０
⑥ 内	３	２	１
② 藤	１	０	０
Ｈ２ 田原井	１	０	０
Ｈ 綿古新鳥河後高篠土	１	０	１
計	34	8	2

	振	球	犠	盗	失	残	併
Ｉ	９	３	３	０	０	６	１
ＪＦＥ	６	４	０	３	１	９	０

	投	手	味	回	安	責
投五				９	８	２
岩	本	龍		３	４	２
西	野	岡		１	３	０
濱				５	１	０

▽本塁打 中村（岩本龍）▽三塁打 井▽二塁打 土木、綿屋▽２本塁打 佐々木▽時間28分

◇第２日（５月３日）

（予選リーグ）

○…ぎふしん長良川球場…○

東邦ガス大木２ラン ロキテクノ追いつく

▽Ｄブロック

東邦ガス（１分け）

０	１０	０	１０	０	０２	４
０	００	０	０３	０	０１	４

ロキテクノ富山（１分け）

東邦ガスは九回、大木の２ランで逆転したが、ロキテクノ富山もその裏、中井の適時打で追いついた。ロキテクノは五回まで毎回走者を出しながら、無得点に終わったことが悔やまれる。

ＪＦＥ西は打線活発 かずさ投手陣不安定

▽Ｃブロック

ＪＦＥ西日本（１勝１敗）

０	１３	２	０２	１	９
０	００	０	２０	０	２

日本製鉄かずさマジック（２敗）

（七回コールド）

ＪＦＥ西日本は三回、原の適時三塁打など、３本の長打で３点を奪うと、計13安打を浴びせて快勝した。日鉄かずさは継投でかわすことができなかった。

三菱岡崎

	打	安	点
⑤ 菅	４	０	０
⑧ 中	４	１	０
④ 古	４	２	０
⑦ 岳	３	１	０
９ 大	４	３	０
９ 内	３	１	０
Ｄ 大	４	２	０
③ 奈	４	１	０
⑧ 下	４	３	０
② 吉	４	１	０
Ｈ２ 須山木戸	３	１	０
６ 山内原山田田川堀	３	１	０
Ｈ 岡	０	０	０
５ 崎	３	１	０
９ 俣	１	０	０
７ 村	１	０	０
Ｈ６ 宮内斎藤野藤	０	０	０
計	34	8	2

日鉄かずさ

	打	安	点
⑥ 山	４	１	０
④ 内	４	０	０
Ｈ 大	３	０	０
⑤ 奈	４	０	０
⑨ 下	４	１	０
⑦ 吉	４	１	０
７ 須	３	１	０
ＨＤ 山	３	１	０
③ 木	３	１	０
⑧ 戸	３	１	０
② 岡	３	１	０
Ｈ２ 山勝上	２	０	０
計	29	4	0

	振	球	犠	盗	失	残	併
三	９	５	１	１	０	１	０
日	10	１	１	０	１	４	０

	投	手	回	安	責
投近		藤	９	４	０
金瀬山		田崎本	５２２	５１２	２００

▽２時間33分

三菱岡崎逃げ切る ＩＭＦ富山届かず

ＩＭＦ ＢＡＮＤＩＴＳ富山（１勝１敗）

０	００	０	００	０	０２	０	２
０	００	１	１０	１	１０×	３

三菱自動車岡崎（２勝）

三菱岡崎は七回、東のソロで３点目を奪い、八回途中まで好投した笠井から清川、神原とつなぎ、逃げ切った。ＩＭＦ富山も八回、中村の２ラ

ンで1点差としたが、追い上げもここまでだった。
○…大垣市北公園野球場…○

東海REX終盤逆転 ホンダは逃げ切れず

▽Aブロック
ホンダ（1勝1敗）
002 002 000 4
000 000 41× 5
日本製鉄東海REX（1勝1敗）

東海REXは七回、吉村のソロを皮切りに、大塚や宮本の適時打で追いつき、八回には満塁から平野が左前に運び、勝ち越した。ホンダは好投していた先発の東野が、七回に突如捕まった。

ホンダ鈴鹿畔上4打点 西濃運輸は後半粘れず

▽Bブロック
西濃運輸（1敗）
012 000 000 3
140 002 10× 8
ホンダ鈴鹿（1勝）

ホンダ鈴鹿は二回、畔上の2点適時打などで逆転すると、六回にも畔上が2ランを放った。西濃運輸も序盤、2本塁打で粘ったが、後半は継投にかわされた。

JR東海ミス逃さず JR北海道11四死球

▽Aブロック
JR北海道硬式野球クラブ（1勝1敗）
000 002 00 2
000 430 11 9
JR東海（1勝1敗）
（八回コールド）

JR東海は四回、松野の適時打や敵失で4点を先取。八回には1死二、三塁から吉田有の犠飛でコールド勝ちした。JR北海道は11四球を与え、失策も出るなど守りが崩れた。

◇第3日（5月4日）
（予選リーグ）
○…ぎふしん長良川球場…○

西濃庄司が完封 ニチダイ7安打

▽Bブロック
ニチダイ（2敗）
000 000 000 0
203 010 00× 6
西濃運輸（1勝1敗）

東邦ガス

		打	安	点
⑧	浦西	2	0	0
H	木松	1	0	0
8	比宮	0	0	0
⑦	若柴	3	0	0
H	金虎	1	0	0
7	佐々	4	0	0
⑤	木木	3	0	0
D	見垣	4	1	0
③	大氷	4	0	2
R	高	3	2	2
3	口脇	2	1	0
⑥	村井	0	0	0
⑨	嘉下	3	1	4
②	林田	4	3	2
④	田谷	0	0	0
	計	30	4	4

ロキテクノ

		打	安	点
⑦	河野	2	0	0
H	河原	3	2	1
7	杉山	4	1	1
⑨	福本	0	0	0
R	櫻吉	3	0	0
⑤	中井	5	0	2
③	水野	4	0	0
R	清水	0	0	0
④	横田	3	1	0
8	岡田	1	0	0
H	横山	2	0	0
D	金原	1	0	0
D	福田	3	2	0
H	合屋	3	0	0
D				
②				
⑥				
	計	34	11	4

東	8	5	0	0	2	4	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
ロ	3	5	3	0	0	11	1

投	手	回	安	責
大	石	5⅔	9	3
柳	川	⅓	1	0
吐	前	2⅓	0	0
吉	田	1	1	0
伊	藤	4	2	1
佐	藤	2	1	1
山	川	1	0	0
飯	塚	2	1	2

▽本塁打　高垣（佐藤）大木（飯塚）▽三塁打　杉山▽二塁打　河原木▽暴投　伊藤▽2時間43分

JFE西

		打	安	点
③	4 原	5	3	2
⑨	上西	2	1	2
⑧	7 大綿	4	1	1
D	古屋	4	2	1
⑤	新土	2	1	0
④	田井	3	1	1
3	鳥永	1	0	0
⑦	井山	3	0	0
8	内河	4	2	0
⑥	後藤	2	1	0
②				
	計	30	13	7

日鉄かずさ

		打	安	点
D	木川	3	2	1
③	戸堀	3	2	0
⑥	内山	3	0	0
6	真野	1	0	0
⑨	吉田開	4	0	0
⑦	山田	1	0	1
⑤	下山	3	0	0
2	山崎	0	0	0
④	奈良原	3	1	0
⑧	眞崎	3	1	0
②	上村	1	0	0
H	5 勝侯	2	1	0
	計	27	7	2

J	2	6	1	3	1	7	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
日	8	3	1	1	3	8	2

投	手	回	安	責
長	野	5⅓	7	1
尾	田	⅔	0	0
筒	井	1	0	0
瀬	崎	2⅓	6	4
塚	本	1	2	0
渡	邉	1⅓	2	0
吉	田	⅓	0	0
森	本	1	2	2
山	本	1	1	0

▽三塁打　原▽二塁打　新田、綿屋、上西、河内、原▽捕逸　山崎▽2時間41分

IMF富山

		打	安	点
③	高橋	4	0	0
②	須藤	4	2	0
⑥	井出	3	2	0
⑨	西丸	0	0	0
D	屋川	2	0	0
⑤	田辻	3	0	0
④	木貝	4	0	0
⑦	大弘	2	1	0
H	小村	0	0	0
R	佐上	0	0	1
7	々木	1	0	0
⑧	徳村	0	0	0
	北中	3	1	2
	計	30	4	2

三菱岡崎

		打	安	点
⑤	菅原	4	2	0
③	小室	4	0	0
④	古川	3	0	1
⑦	岳原	3	0	0
7	大手	0	0	0
⑨	東住	2	1	1
D	豊中	3	1	0
⑧	西村	3	0	0
②	内川	3	1	0
⑥				
	計	28	6	2

I	9	2	2	0	1	5	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
三	5	1	1	2	1	3	0

投	手	回	安	責
水	口	5	4	2
須	田	3	2	1
笠	井	7⅓	3	2
清	川	⅔	1	0
神	原	1	0	0

▽本塁打　中村（須田）▽2時間11分

Honda

		打	安	点
③	峯	4	1	0
⑨	小鈴	0	0	0
⑧	井岩	3	0	0
⑦	三坂	4	0	4
②	山三	3	2	0
④	中上	4	0	0
⑤	本浦	4	1	0
H	口本	4	2	0
D	井村	3	1	0
⑥		3	1	0
	計	32	5	4

東海REX

		打	安	点
⑨	山本	3	0	0
③	吉村	4	3	1
⑤	市丸	4	2	0
R	勝盛	0	0	0
6	佐々木	0	0	0
⑦	筒井	4	2	0
⑧	長南	3	1	0
D	宮坂	2	0	0
H	D 大塚	2	1	2
⑥	5 平野	3	1	1
②	室木	4	1	0
④	宮本	3	1	1
	計	32	12	5

H	6	2	0	2	1	3	4
	振	球	犠	盗	失	残	併
日	7	2	1	0	1	6	0

投	手	回	安	責
東	野	6⅔	7	4
福	島	⅔	2	0
千	葉	1⅓	3	0
吉	川	9	5	2

▽本塁打　井上（吉川）吉村（東野）▽二塁打　峯▽2時間35分

西濃運輸

		打	安	点
⑨	佐向	4	1	0
⑧	河田	3	2	0
⑤	野崎	3	1	0
D	小中	4	0	1
②	誉田	4	2	0
⑦	修行	3	0	0
H	福島	4	0	0
④	大山	3	1	0
⑥	宮田	2	1	0
H	河西	3	1	0
	福山	2	0	0
	計	32	10	3

Honda鈴鹿

		打	安	点
⑧	長野	5	2	1
⑥	中川	5	0	0
D	畔上	5	3	4
④	藤江	4	2	1
③	藤伊	4	3	1
⑨	田野	4	2	0
9	7 岡野	3	1	0
②	長	3	2	0
⑦	栗原	3	2	1
H	近藤	2	1	0
R	9 中野	1	0	0
⑤	貞光	4	0	0
	計	34	12	8

西	7	3	1	1	1	6	2
	振	球	犠	盗	失	残	併
H	6	4	1	1	0	7	2

投	手	回	安	責
投	岡	2	5	5
森	下	3	2	3
山	石	2	5	0
摺	田	1	0	0
井	村	5	6	3
花	城	3	2	0
田	中	1	2	0

▽本塁打　誉田（井村）河上（摺石）▽2時間39分

西濃運輸は一回、河田と野崎の適時打で先制し、三回にも2死からの3連打などで追加点。先発の庄司が被安打7で完封した。ニチダイは八回無死満塁の好機を逃した。

鈴鹿川原が完封勝利 長野先頭打者本塁打

ホンダ鈴鹿（2勝）

1	0	0	0	0	0	3	5		9
0	0	0	0	0	0	0	0		0

日本製鉄鹿島（1勝1敗）

ホンダ鈴鹿は一回、長野の先頭打者本塁打で先制。終盤にも突き放し、先発の川原が4安打で完封した。日鉄鹿島は連打も、走者が三塁に進んだのも、一度だけに終わった。

ホンダサヨナラ勝ち 辻野逆転満塁本塁打

▽Aブロック

JR北海道硬式野球クラブ（1勝2敗）

0	1	0	0	0	3	2	0	1	7
1	0	0	4	0	1	0	0	4	10

ホンダ（2勝1敗）

1点を追うホンダは九回2死満塁から、6番の辻野が右越えにサヨナラ満塁本塁打を放った。JR北海道クは九回に勝ち越して、逃げ切りを図って登板した大崎が捕まった。

JR東接戦制す 海崎が決勝ソロ

○…大垣市北公園野球場…○

▽Dブロック

東邦ガス（1敗1分け）

2	0	0	0	0	0	0	0		2
1	0	1	0	0	0	1	0	×	3

JR東日本（2勝）

JR東日本は七回、海崎が勝ち越しのソロ本塁打。5番手の西田が八、九回を無安打に抑えて逃げ切った。東邦ガスは二回以降、4安打に終わった。

トヨタ先制攻撃 6長短打集める

ロキテクノ富山（1敗1分け）

0	0	0	0	0	2	0			2
5	0	0	1	1	0	2			9

トヨタ自動車（1勝1敗）

（七回コールド）

トヨタ自動車は一回、6長短打を集めて5点を奪い、七

東邦ガス

	打	安	点
⑧ 木村	4	2	1
④ 高垣	3	1	0
H 西脇	4	0	0
4 飯田	3	0	0
⑤ 宮下	0	0	0
H 虎谷	4	1	0
D 若林	4	1	0
③ 柴田	4	1	0
⑥ 々木	4	1	1
⑨ 佐木	4	1	0
⑦ 大井	4	1	0
② 松田	2	0	0
H 山田	1	0	0
計	34	7	2

JR東日本

	打	安	点
⑧ 篠田	4	0	0
⑥ 海崎	3	2	1
D 菅田	4	2	0
⑤ 高橋	3	2	1
⑨ 山内	4	0	0
④ 杉崎成輝	2	1	0
⑦ 佐藤	2	0	0
H 渡辺	1	0	0
7 栗林	0	0	0
H 倉石	1	0	0
③ 杉崎成	4	0	0
② 小藤	4	2	0
計	32	9	3

東	9	1	1	0	0	7	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
J	3	4	0	1	1	9	0

投	手	回	安	責
	榮	5	7	2
中	川	3	2	1
児玉		4	⅔ 6	2
古西	谷	⅔	0	0
	居	2	1	0
	谷	⅓	0	0
西	田	2	0	0

▽本塁打 高垣（中川）（児玉）海崎（東）▽二塁打 橋本2（川村）▽三塁打 高橋2、村時間28分

JR北海道

	打	安	点
⑨ 山本	3	2	1
⑦ 冨山	3	1	0
1 大石	6	0	0
④ 崎川	0	0	0
③ 松井	5	0	0
② 南冨	4	2	0
⑤ 村木	4	1	0
D 北槻	4	3	0
RD 藤山	5	0	1
⑧ 大内	0	2	1
⑥ 西	4	2	0
計	37	12	5

Honda

	打	安	点
③ 峯村	5	1	0
⑨ 右田	4	0	0
H 三井	0	0	0
R 金城	0	0	0
⑧ 鈴木	5	2	0
⑦ 井上	5	3	1
RD 岩本	0	0	0
DHD 山下	3	0	0
② 村田	2	0	0
④ 辻野	5	3	5
⑤ 三浦	2	1	1
6 坂口	2	1	2
津田	1	0	0
中村将	4	1	1
計	38	12	10

J	8	9	1	1	2	13	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
H	8	2	2	1	0	6	1

投	手	回	安	責
内	沢	3 ⅔	7	5
山	田	3 ⅓	1	0
ユ	エン	1	1	0
大	崎	⅔	3	4
有	村	4 ⅓	4	1
村	上	1	3	3
本	田	⅔	2	1
中村	伊	1	0	0
岡	野	2	3	1

▽本塁打 辻野（大崎）▽三塁打 坂口▽二塁打 冨田▽暴投 辻内沢、南木、冨田▽捕逸 村北、中村伊野▽3時間18分

Honda鈴鹿

	打	安	点
⑧ 長野	3	1	1
⑥ 中畔	4	1	0
D 西藤	3	1	1
R D 山江	1	1	3
④ 藤伊	5	3	4
③ 藤部	4	0	0
3 阿栗	1	0	0
⑦ 近原	3	0	0
H 岡藤	1	0	0
9 長野	0	0	0
② 田光	4	1	0
⑨ 7 貞	3	0	0
⑤	2	0	0
計	34	8	9

日鉄鹿島

	打	安	点
④ 田崎	3	0	0
H 小林	1	0	0
⑥ 池間	4	1	0
⑦ 山口	3	0	0
H 菅谷	1	0	0
③ 今里	3	0	0
D 松田	3	2	1
R D 杉山	2	0	0
⑤ 樫村	3	0	0
⑨ 山田	3	0	0
② 揚村	3	1	0
⑧ 陶山	3	1	0
計	29	4	0

H	7	7	0	1	0	5	2
	振	球	犠	盗	失	残	併
日	3	1	0	0	1	3	0

投	手	回	安	責
川	原	9	4	0
諸見	里	6 ⅔	4	1
土	屋	1 ⅓	2	2
	塙	⅔	2	5
古	川	⅓	0	0

▽本塁打 野江（諸見里）藤本塁打（塙）▽二塁打 西上、藤江、松田▽暴投 畔山、塙▽2時間41分

ニチダイ

	打	安	点
⑦ 東	4	1	0
D 城	2	0	0
HD 塚	2	0	0
④ 岩	4	1	0
⑤ 馬	4	0	0
⑧ 宮	4	2	0
③ 西	4	1	0
⑨ 松	4	1	0
6 濱	3	0	0
② 師	1	2	0
⑥ 薬	2	1	0
H 道	2	0	0
9 西	1	1	0
計	33	7	0

西濃運輸

	打	安	点
⑨ 佐	3	1	0
H 9 修	1	0	0
⑧ 河	4	2	3
⑦ 福	5	2	0
⑤ 野	4	2	1
D 誉	4	1	0
RD 渡	0	0	0
HD 福	0	0	0
④ 小	4	2	0
③ 河	4	1	1
② 城	4	3	1
⑥ 宮	1	0	0
計	34	14	6

ニ	7	2	0	0	3	8	2
	振	球	犠	盗	失	残	併
西	0	6	3	0	0	13	1

投	手	回	安	責
濱	田	2 ⅔	6	4
戌	亥	⅔	0	0
中	上	1 ⅓	2	0
小	倉	1	3	1
熊	沢	2	2	0
酒	井	1	1	0
庄	司	9	7	0

▽二塁打 宮坂、河田、河西▽暴投 庄司▽2時間46分

JR北海道

	打	安	点
④ 石	4	2	0
D 村	3	0	0
H 北	3	0	0
D 俵	1	0	0
H 藤	3	1	1
9 5 本	3	1	0
③ 松井	3	1	0
② 南木	4	1	1
⑧ 内	4	1	1
⑤ 南藤	3	1	0
9 冨	3	0	0
⑦ 大山	3	0	0
⑥ 西槻	3	0	0
6 冨田	1	0	0
計	30	6	2

JR東海

	打	安	点
D 下	2	0	0
HD 冨	1	1	0
⑤ 山	4	2	1
⑥ 4 山	4	0	0
⑧ 9 水谷	3	1	0
③ 平	4	1	0
⑨ 堀	1	1	0
8 吉田	2	0	0
④ 佐々木	0	0	1
H 6 吉田	0	0	1
② 須	2	1	1
⑦ 松野	3	2	3
計	26	9	7

北	9	3	0	1	2	7	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
東	5	11	6	0	0	11	0

投	手	回	安	責
大	崎	4 ⅔	6	2
山	田	⅓	0	0
伊	藤	2 ⅔	3	2
川	本	5 ⅓	5	2
林	山	1 ⅔	1	0
辻	井	1	0	0

▽二塁打 山本、須永、平野▽暴投 川本▽2時間53分

回には今井の適時二塁打でコールド勝ち。ロキテクノ富山も六回、４番中井に適時打が出たが、失点を防げなかった。

日鉄かずさ本塁打攻勢 ４番吉田開が2本塁打

▽Ｃブロック

IMF BANDITS富山（1勝2敗）	000	003	000	3
日本製鉄かずさマジック（1勝2敗）	042	010	01×	8

日鉄かずさマジックは二回、吉田開、内山の本塁打などで先制すると、五回にも吉田開がソロ本塁打。５投手の継投で、ＩＭＦ富山の反撃を六回のみに抑えた。

◇**第４日**（５月５日）

（予選リーグ）

○…ぎふしん長良川球場…○

三菱岡崎守り切る 序盤に2ラン2本

▽Ｃブロック

ＪＦＥ西日本（1勝2敗）	001	000	020	3
三菱自動車岡崎（3勝）	220	000	00×	4

三菱岡崎は一回、古川が先制の２ランを放つと、二回にも菅原に２ランが出て、３投手のリレーでリードを守った。ＪＦＥ西は八回、永山の適時打で１点差に迫ったが、届かなかった。

ＪＲ東終盤突き放す ロキテクノ後半沈黙

▽Ｄブロック

ＪＲ東日本（3勝）	000	111	051	9
ロキテクノ富山（2敗1分け）	100	010	000	2

ＪＲ東日本は六回、佐藤の二塁打で勝ち越すと、八回には１死満塁から、押し出しの四球と栗林の三塁打などで突き放した。ロキテクノ富山は後半、打線が抑え込まれた。

トヨタ自動車快勝 今泉が先制3ラン

東邦ガス（2敗1分け）	000	101	0	2
トヨタ自動車（2勝1敗）（七回コールド）	304	100	1	9

トヨタ自動車は一回に今泉が先制３ランを放つなど序盤でリードを奪い、七回には西村の犠飛で試合を決めた。東邦ガスは立ち上がり、投手陣の制球難が響いた。

○…大垣市北公園野球場…○

西濃運輸が競り勝つ 鹿島痛い二回の逸機

▽Ｂブロック

日本製鉄鹿島（1勝2敗）	010	011	000	3
西濃運輸（2勝1敗）	010	130	00×	5

西濃運輸は五回、野崎、譽田の連続適時打などで３点をリード。３番手の内藤が八、九回を抑えて逃げ切った。日鉄鹿島は二回、先制した後の無死二、三塁から得点できなかった。

互いに譲らず 投手陣が好投

▽Ａブロック

ＪＲ東海（1勝1敗1分け）	000	000	100	1
日本製鉄東海ＲＥＸ（1勝1敗1分け）	100	000	000	1

ともに５安打のみと、互いの投手陣が好投を見せて引き分けた。東海ＲＥＸが一回、敵失で先制すると、ＪＲ東海は七回、平野の適時打で追いついた。

JFE西

点	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
安	0	1	2	0	1	1	0	0	1	2	9

打											
	原岡	3	3	3	4	4	4	1	1	0	32
③		1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
Ｈ	5	3	3	3	4	4	4	1	0	0	0
⑨	上大	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
⑧	永綿	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
Ｄ	8	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
⑤	古新	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
④	3	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
⑦	鳥河	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
⑥	後田	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
②	篠	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
Ｈ	2	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0

計　32 9 2

三菱岡崎

点	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4
安	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	8

打											
	菅	3	2	2	2	1	1	0	0	0	31
⑤	小古	2	1	2	2	1	1	0	0	0	8
③	岳茂	2	1	2	2	1	1	0	0	0	4
④		2	1	2	2	1	1	0	0	0	4
⑦	原室	2	1	2	2	1	1	0	0	0	4
Ｈ	9	2	1	2	2	1	1	0	0	0	4
⑧	8	2	1	2	2	1	1	0	0	0	4
Ｄ	7	2	1	2	2	1	1	0	0	0	4
⑥	川木	2	1	2	2	1	1	0	0	0	4
②	東	2	1	2	2	1	1	0	0	0	4
Ｈ	4	2	1	2	2	1	1	0	0	0	4

計　31 8 4

	投	高	元	須	五		塚	工	渡	佐	吉
責	3	2	2	1			2	2	0	0	0
安	5	4	2	3	2		2	1	0	0	0
回	1⅓	1	1	1			1	1	0	0	0
打	2⅔	3	1	1			5	1	0	0	0
塁		2	1					1	0	0	0
山	津	尾	濱	筒			秋	清	神		

▽本塁打　川原（津山）菅時20分

IMF富山

点	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
安	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3

打											
	出藤	2	4	3	4	3	2	2	3	2	28
⑥	丸川	1	0	0	1	0	0	0	1	0	3
③	橋辻	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
⑨	弘村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②	木田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤	井須	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ｄ	西大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ｈ	高小	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧	徳中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④	佐園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

計　28 4 2

日鉄かずさ

点	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
安	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	5

打											
	川野	3	2	4	3	2	4	2	1	0	32
Ｄ	木	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
Ｈ	真戸	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
③	勝下	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
⑤	吉山	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
Ｈ	5	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
⑨	須内	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
⑦	D	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
Ｈ	6	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
⑥	岡	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
⑧	田	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
②	上大	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
④	福奈	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
Ｈ	4	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2

計　35 11 7

	併	残	失	盗	犠	球	振	
	3	7	1	1	0	4	7	5
責	2	1	0	0	0	0	0	5
安	4	2	3	1	0	0	0	5
回	1⅔	1	1	0	0	0	0	2
打	2⅓	1	1	0	0	0	0	3
塁		1		1	0	0	0	1
手	澤	根	木	田	味			
投	高	元	須	五				

	併	残	失	盗	犠	球	振	
	2	1	0	0	0	0	0	5
責	1	1	0	0	0	0	0	5
安	2	1	0	0	0	0	0	3
回	⅔							
打	⅓							
塁								
本	藤	藏	田					
塚	工	渡	佐	吉				

▽本塁打　吉田（高打）、戸根山（高内）、木村（投手）3時間22分

ロキテクノ

点	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
安	3	1	0	1	1	0	0	0	0	0	6

打											
	前杉	4	3	3	3	3	2	1	1	1	27
⑨	櫻中	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
⑤	清河	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
③	横福	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
④	添合	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
⑦	金横	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
⑧	田	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
②	山吉	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
⑥	井水	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
Ｈ	6	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2

計　27 8 2

トヨタ

点	0	0	1	0	1	1	0	0	3	2	8
安	2	2	0	2	3	1	0	0	2	1	13

打											
	田村	4	4	4	4	3	2	2	3	1	33
⑥	熊北	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
⑤	佐逢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
④	八福	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
⑧	宮坂	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
Ｄ	三今	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
②⑨	徳	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
Ｈ	9	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
③	藤澤	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
Ⅰ	木井	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
Ⅱ	巻塚	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
⑦	井本	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2

	併	残	失	盗	犠	球	振	
	1	6	0	3	0	0	5	5
責	5	1	0	0	2			
安	6	3	1	0	3	⅔		
回	1	3	1	1				
塁								
手	川	田	田	川	藤			
投	帯	中	冨	山	佐			

嘉	加	陽	藤	6	1		7	1
							2	0

▽本塁打　打（塚田）、塚本（中井）、三井（時間）、川澤（投手）、二ノ宮（暴投）、八帯（熊井）2分

鈴鹿の寺瀬が〝完全試合〟 打者21人に82球8奪三振

▽Bブロック
ホンダ鈴鹿（3勝）
016 010 0 8
000 000 0
ニチダイ（3敗）
（七回コールド）

ホンダ鈴鹿の先発、寺瀬が7回ながら参考記録の〝準完全試合〟を達成した。投球数82で奪三振は8。打線も2本塁打を含む11安打で寺瀬を援護した。

JR東日本	打	安	点
③ 杉崎成	5	2	1
⑥ 海崎輝	3	0	0
H④ 杉崎成	2	0	0
⑧ 山篠渡	2	1	0
R⑤ 8 内橋辺	1	1	0
D 田藤野	2	0	0
DHD 中倉栗	1	1	0
HH⑨ 石林本	1	0	0
H⑦ 9 部本	2	2	1
② 林	3	1	3
H④ 2 岩山	1	0	0
6 本	4	2	0
計	35	11	9

ロキテクノ	打	安	点
D 前河	3	0	0
H 崎	1	0	0
⑨ 杉山	3	1	0
⑤ 櫻吉	4	0	0
③ 中井	4	2	2
④ 清水	4	2	0
⑦ 渡部	2	0	0
8 福本	2	0	0
⑧7 横田	3	0	0
② 添田	4	2	0
⑥ 横山	2	0	0
H 水野	1	0	0
6 合屋	1	0	0
計	34	7	2

J振	3	6	1	2	1	6	0	併
ロ	7	3	1	0	0	9	1	

投	手	回	安	責
森	畑	3	⅔ 4	1
坂	根		⅓ 0	1
小谷	野山	3	2	0
高	谷	1	1	0
大	坪	5	4	2
山本	雅川	1	2	1
帯	川	1	1	0
伊	藤		⅓ 1	4
飯	塚		⅔ 1	1
山本	奨	1	2	1

▽三塁打 栗林（JR東日本）
▽二塁打 高橋、佐藤、山添（ロキテクノ）
▽暴投 杉山、井本、中田
▽2時間44分

鈴鹿ホンダ対決制す
手堅い攻めで決勝点

◇最終日（5月7日）
（決勝トーナメント）
○…ぎふしん長良川球場…○
▽準決勝
ホンダ鈴鹿
100 220 010 2 8
200 003 001 1 7
ホンダ
（延長十回）

鈴鹿はタイブレークの十回、送りバントで1死二、三塁とし、栗原の適時打と犠飛で勝ち越した。ホンダは九回に鈴木のソロで追いついたが、七回以降の安打はこれだけ。鈴鹿の救援を崩せなかった。

東邦ガス	打	安	点
⑧9 木	4	0	0
④ 高	4	0	0
⑤ 宮	3	2	0
5 虎	3	1	0
D 若	3	1	1
③ 柴	3	0	1
⑥ 佐々	3	0	0
R6 金	3	0	0
⑨7 大	3	2	0
⑦ 松	2	0	0
H 西	1	0	0
8 浦	0	0	0
② 氷	3	0	0
計	30	9	2

トヨタ	打	安	点
④ 熊	3	1	2
4 河	0	0	0
③ 北	2	0	0
H3 三	1	0	0
⑤ 今	3	1	3
⑧ 逢	3	1	0
D 小	1	1	0
RD 西	0	0	0
⑥ 和	3	1	0
② 高	2	2	1
⑨7 坂	3	1	1
⑦ 徳	2	1	0
9 西	0	0	1
計	23	9	8

東	9	1	0	0	1	8	1
ト	振 4	球 10	犠 3	盗 3	失 0	残 8	併 0

投	手	回	安	責
清	水	2	⅔ 6	5
中	川	2	⅓ 2	1
中	村	1	0	0
吐	前		⅓ 1	1
後	藤	5	5	1
加	藤		⅓ 3	1
磯	村		⅔ 0	0
細	川	1	1	0

▽本塁打 若林（後藤）今泉（清水）
▽暴投 後藤
▽2時間25分

日鉄鹿島	打	安	点
⑥ 田	4	1	0
H 柳	1	0	0
④ 冨	1	0	0
⑦ 山	3	1	0
③ 今	4	0	1
D 生	2	1	0
② 田	4	2	0
⑤ 松	4	2	1
H5 樫	2	0	0
⑨ 福	1	0	1
H9 山	3	0	0
⑧ 平	1	0	0
陶	4	0	0
計	33	7	3

西濃運輸	打	安	点
⑨ 左	4	2	0
⑧ 河	3	0	1
⑦ 福	4	0	0
⑤ 野	3	1	1
D 誉	3	1	1
④ 小	3	1	1
4 大	3	1	0
③ 河	3	1	0
R3 福	3	1	0
② 城	2	1	0
⑥ 宮	4	2	0
計	31	7	4

日	5	3	2	1	1	8	0
西	振 5	球 4	犠 1	盗 0	失 1	残 7	併 0

投	手	回	安	責
山	口	4	⅓ 3	3
金	城	1	⅔ 4	1
坂	本	2	0	0
塩	本	5	4	1
奥		2	3	1
内	藤	2	0	0

▽本塁打 小中（山口）
▽二塁打 田（松田、譽田）
▽2時間53分

JR東海	打	安	点
⑥ 吉	4	0	0
⑤ 田	4	1	0
④ 有	3	0	0
4 山	3	0	0
⑧ 山	4	2	0
③ 佐	3	1	0
⑨ 々	3	1	0
D 木	3	0	0
② 谷	3	2	0
⑦ 水	3	1	0
計	30	5	1

東海REX	打	安	点
⑨ 山	3	2	0
③ 本	3	0	0
⑤ 吉	4	1	0
⑦ 市	4	0	0
⑧ 筒	4	0	0
D 長	3	1	0
RD 阿	0	0	0
RH 勝	1	0	0
⑥ 大	2	0	0
H 平	1	0	0
② 宮	4	1	0
④ 室	1	0	0
計	30	5	0

J振	4	2	1	1	5	1
日	振 5	球 4	犠 1	盗 0	失 0	残 7	併 1

投	手	回	安	責
宮	島	6	⅔ 5	1
林	山	1	⅓ 0	0
辻	井	1	0	0
加	藤	6	⅓ 4	1
池	戸	2	⅔ 1	0

▽二塁打 室木
▽2時間24分

Honda鈴鹿	打	安	点
⑧ 長	4	0	0
⑥ 中	4	0	0
D 畔	1	0	0
H 近	2	1	0
④ 藤	4	2	3
③ 藤	4	3	0
⑦ 岡	4	2	3
② 長	4	1	2
⑨ 田	1	0	0
H9 中	1	0	0
⑤ 貞	2	2	0
計	31	11	8

ニチダイ	打	安	点
⑦ 東	3	0	0
④ 道	3	0	0
③ 岩	3	0	0
D 馬	2	0	0
⑧ 宮	2	0	0
⑨ 西	2	0	0
⑤ 塚	2	0	0
②師 本	2	0	0
H 薬	1	0	0
2 松	1	0	0
6 濱	2	0	0
計	21	0	0

H	4	3	0	0	0	5	0
ニ	振 8	球 0	犠 0	盗 0	失 0	残 0	併 0

投	手	回	安	責
寺	瀬	7	0	0
家	城	2	⅔ 5	7
中	上		⅓ 1	0
熊	沢	2	3	1
小	倉	1	0	0
酒	井	1	2	0

▽本塁打 野岡（熊野）
▽二塁打 藤江（家城）藤本（沢）
▽2時間59分

JR東日本終盤逆転
三菱岡崎継投に失敗

JR東日本
010 000 040 5
020 001 000 3
三菱自動車岡崎

JR東日本は八回、2点差を追いついた後、山内の犠飛、杉崎成輝の適時打で勝ち越した。三菱岡崎は先発の近藤が八回途中まで好投したが、継投がうまくいかなかった。

鈴鹿サヨナラ勝ち

畔上殊勲の二塁打

ヨナラ勝ち。畔上は3打点の活躍。JR東日本は六回以降、鈴鹿の寺瀬、花城の救援陣を捉えられなかった。

▽決勝
JR東日本　100 030 000 4
　　020 200 001 5
ホンダ鈴鹿

ホンダ鈴鹿は九回、四球の長野をバントで二塁へ進め、3番畔上の右中間二塁打でサ

㊊…表彰選手…㊊

◇最高殊勲選手賞　畔上翔・内野手（ホンダ鈴鹿）

◇敢闘賞　菅田大介・内野手（JR東日本）

◇首位打者賞　畔上翔・内野手（ホンダ鈴鹿）＝17打数8安打、打率4割7分1厘

JR東日本

		打	安	点
⑧	山内	4	1	0
⑥	海崎	4	2	1
D	菅田	4	2	1
⑤	高橋	4	1	0
④	杉崎成輝	3	1	2
H	渡辺	1	0	0
4	山本	0	0	0
③	杉崎成	3	1	0
⑦	佐藤	3	0	0
⑨	栗林	4	0	0
②	小藤	4	1	0
	計	34	9	4

Honda鈴鹿

		打	安	点
⑧	長野	4	2	0
⑥	中川	2	1	0
D	畔上	4	2	3
④	藤江	4	0	0
③	伊藤	4	1	0
②	長	4	1	0
⑦	岡野	4	1	2
⑨	栗原	3	1	0
H	近藤	1	0	0
9	中野	0	0	0
⑤	貞光	4	1	0
	計	34	10	5

J	5	4	0	2	0	7	0
	振球		犠	盗	失	残	併
H	6	4	1	1	2	9	1

投	手	回	安	責
古谷		3⅔	7	4
坂根		⅔	1	0
山崎		⅓	0	0
諸隈		1	0	0
西居		3	1	0
西田		⅓	1	1
川原		4⅔	5	4
寺瀬		3	3	0
花城		2	1	0

▽本塁打　岡野（古谷）▽二塁打　山内、海崎、長野、畔上▽暴投　古谷▽2時間48分

JR東日本

		打	安	点
⑧	篠田	3	0	0
H9	倉石	2	1	1
9	栗林	0	0	0
⑥	海崎	5	3	0
D	菅田	4	0	0
⑤	高橋	3	1	1
⑨8	山内	3	0	1
④	杉崎成輝	4	2	1
⑦	佐藤	4	2	1
③	杉崎成	4	1	0
②	小藤	2	0	0
H	山本	0	0	0
2	岩本	1	0	0
	計	35	10	5

三菱岡崎

		打	安	点
⑤6	菅原	3	2	1
③	小室	3	0	1
④	古川	4	0	1
⑦	岳原	3	1	0
R9	茂木	0	0	0
H	大手	1	0	0
⑨7	東	4	1	0
D	豊住	4	0	0
⑧	中村	3	1	0
②	西川	4	1	0
⑥	内藤	2	0	0
H	山下	1	0	0
5	荒井	0	0	0
	計	32	6	3

J	7	3	1	0	1	7	1
	振球		犠	盗	失	残	併
三	5	7	1	3	1	10	1

投	手	回	安	責
児玉		1⅓	1	2
山崎		4⅔	3	1
小谷野		⅔	1	0
諸隈		⅓	0	0
西居		2	1	0
近藤		7	6	3
清川		⅓	2	2
鈴木		⅓	1	0
神原		1⅓	1	0

▽本塁打　佐藤（近藤）▽二塁打　海崎、倉石▽3時間5分

Honda鈴鹿

		打	安	点
⑧	長野	5	2	0
⑥	中川	4	0	0
D	畔上	4	2	2
④	藤江	4	2	1
③	伊藤	5	1	1
3	阿部	0	0	0
②	長	4	3	1
⑦	岡野	3	0	0
H	近藤	1	1	0
R7	栗原	1	1	1
⑨	田中	2	0	0
H9	野光	2	0	1
⑤	貞光	4	0	0
	計	39	12	8

Honda

		打	安	点
③	峯村	5	1	1
⑧	鈴木	5	1	1
⑤	山下	5	1	0
D	井上	5	2	2
R	口野	0	0	0
②	辻三右	4	1	0
④	浦田	4	1	0
⑨	田井	4	2	0
H	井村	1	0	0
⑥	中村	5	1	2
⑦	金城	3	1	0
	計	41	11	6

鈴	12	2	4	0	2	9	1
	振球		犠	盗	失	残	併
H	10	3	0	0	1	9	0

投	手	回	安	責
井村		5⅓	9	5
花城		3⅔	2	1
田中		1	0	0
片山		5	6	4
岡野		3	4	1
千葉		2	2	0

▽本塁打　畔上（片山）井上（井村）鈴木（花城）▽三塁打　畔上▽二塁打　長野、伊藤、長、山下、金城▽ボーク　片山▽3時間17分

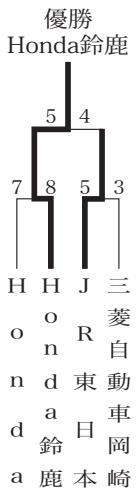
第77回大会・熱戦の軌跡

Aブロック	Honda	JR東海	日本製鉄東海REX	JR北海道硬式野球クラブ	勝	敗	順位
Honda	㊊	○7－2	●4－5	○10－7	2	1	1
JR東海	●2－7	㊊	△1－1	◎9－2	1	1	3
日本製鉄東海REX	○5－4	△1－1	㊊	●1－2	1	1	2
JR北海道硬式野球クラブ	●7－10	×2－9	○2－1	㊊	1	2	4

Bブロック	ニチダイ	日本製鉄鹿島	西濃運輸	Honda鈴鹿	勝	敗	順位
ニチダイ	㊊	×1－8	●0－6	×0－8	0	3	4
日本製鉄鹿島	◎8－1	㊊	●3－5	●0－9	1	2	3
西濃運輸	○6－0	○5－3	㊊	●3－8	2	1	2
Honda鈴鹿	◎8－0	○9－0	○8－3	㊊	3	0	1

Cブロック	日本製鉄かずさマジック	三菱自動車岡崎	JFE西日本	IMF BANDITS富山	勝	敗	順位
日本製鉄かずさマジック	㊊	●0－2	×2－9	○8－3	1	2	4
三菱自動車岡崎	○2－0	㊊	○4－3	○3－2	3	0	1
JFE西日本	◎9－2	●3－4	㊊	●2－5	1	2	2
IMF BANDITS富山	●3－8	●2－3	○5－2	㊊	1	2	3

Dブロック	JR東日本	トヨタ自動車	東邦ガス	ロキテクノ富山	勝	敗	順位
JR東日本	㊊	○10－5	○3－2	○9－2	3	0	1
トヨタ自動車	●5－10	㊊	◎9－2	◎9－2	2	1	2
東邦ガス	●2－3	×2－9	㊊	△4－4	0	2	3
ロキテクノ富山	●2－9	×2－9	△4－4	㊊	0	2	4



ベーブルース杯大会・決勝戦一覧

		優勝チーム			準優勝チーム		開催地
第１回	(昭22年)	八幡製鉄	10―0		鐘紡淀川		鳴海
第２回	(〃23年)	愛知産業	6―1		鐘明電舎		大阪
第３回	(〃24年)	八幡製化	6―5		鐘紡高砂		〃
第４回	(〃25年)	鐘淵化学	7―6		愛知産業		野生
第５回	(〃26年)	全八幡	11―1		富士鉄室蘭		長崎
第６回	(〃27年)	八幡製鉄	10―4		日本生命ア		須崎
第７回	(〃28年)	八幡製鉄	4―3		日本コロムビア		雍崎
第８回	(〃29年)	大昭和製紙	3―0		日八幡製鉄		雍崎
第９回	(〃30年)	日本石油	1―0		東洋紡富士		長崎
第10回	(〃31年)	日本石油	3―2		熊谷組		〃
第11回	(〃32年)	熊谷組	5―4		いすゞ自動車		富士
第12回	(〃33年)	八幡製鉄	2―0		日本生命シア		富士
第13回	(〃34年)	日本鋼管	10―6		リッカーミシンビ		富士
第14回	(〃35年)	トヨタ自動車	5―0		日本コロムビア		瀬崎
第15回	(〃36年)	新日本製鉄	3―2		三菱重工鋼管		雍崎
第16回	(〃37年)	全日本鐘紡	4―0		大丸石油		岡山
第17回	(〃38年)	大昭和製紙	8―5		日立製作所		井松き
第18回	(〃39年)	日本石油	13―3		日本生命		幌雍
第19回	(〃40年)	日本石油	3―2		日本石油		浜い
第20回	(〃41年)	日本楽器	3―0		三菱重工神戸		わ
第21回	(〃42年)	熊谷組	12―3		熊谷組ール常磐		札幌
第22回	(〃43年)	熊谷組	8―0		日本鋼管		草雍
第23回	(〃44年)	大昭和製紙	8―3		日本石油		熱海
第24回	(〃45年)	リッカーミシン	2―1		菱重工名古屋		〃
第25回	(〃46年)	トヨタ自動車	5―0		菱重工名古屋		〃
第26回	(〃47年)	日本軽金属	8―0		新日鐵釜石		〃
第27回	(〃48年)	富士重工業	3―2		日産自動車		〃
第28回	(〃49年)	富士重工業	6―3		電電四国		〃
第29回	(〃50年)	西濃運輸	3―2		日本楽器		〃
第30回	(〃51年)	三菱名古屋	2―1		日産自動車		〃
第31回	(〃52年)	本田技研鈴鹿	2―1		電電北海道		〃
第32回	(〃53年)	日本鋼管	5―0		西濃運輸		〃
第33回	(〃54年)	日産自動車	2―1		本田技研鈴鹿		〃
第34回	(〃55年)	日本鋼管	9―1		新日鐵釜石		〃
第35回	(〃56年)	本田技研鈴鹿	5―3		日本鋼管		〃
第36回	(〃57年)	東芝府中	2―0		東芝府中		〃
第37回	(〃58年)	河合楽器	7―2		東芝府中		〃
第38回	(〃59年)	日本鋼管	11―1		東電四国		〃
第39回	(〃60年)	川崎製鉄千葉	11―6		本田技研熊本		伊勢市営
第40回	(〃61年)	三菱名古屋	5―4		NTT東海		熱田・瑞穂
第41回	(〃62年)	東京ガス	6―4		日本通運		熱田・瑞穂 熱田・瑞穂・春日井市民
第42回	(〃63年)	大昭和製紙	5―4		河合楽器		熱田・瑞穂
第43回	(平１年)	西濃運輸	8―6		三菱名古屋		〃
第44回	(〃２年)	東京ガス	9―3		三菱自動車水島		熱田・小牧
第45回	(〃３年)	日産自動車	4―2		河合楽器		岐阜・大垣
第46回	(〃４年)	西濃運輸	2―1		NTT信越		〃
第47回	(〃５年)	日産自動車	5―3		中山製鋼		〃
第48回	(〃６年)	日産自動車	3―2		ヨタ自動車		〃
第49回	(〃７年)	NTT北陸	12―6		三菱自動車岡崎		〃
第50回	(〃８年)	中山製鋼	8―5		松下電器		〃
第51回	(〃９年)	日通名古屋	7―4		松下電器		〃
第52回	(〃10年)	日産自動車	12―3		西濃運輸		〃
第53回	(〃11年)	JR東海	8―5		日立製作所		〃
第54回	(〃12年)	三菱自動車川崎	6―4		プリンスホテル		〃
第55回	(〃13年)	三菱ふそう川崎	13―2		三菱自動車岡崎		〃
第56回	(〃14年)	三菱ふそう川崎	4―3		西濃運輸		〃
第57回	(〃15年)	シダックス	5―0		東海REX		〃
第58回	(〃16年)	ンワード貿易	4―0		東邦ガス		〃
第59回	(〃17年)	西濃運輸	10―0		東芝ロプ		〃
第60回	(〃18年)	西濃運輸	1―0		ユニプレ		〃
第61回	(〃19年)	かずさマジック	6―2		新日本石油ENEOS		〃
第62回	(〃20年)	西濃運輸	8―1		JR東海		〃
第63回	(〃21年)	中日ドラゴンズ(ファーム)	4―1		JR東海		〃
第64回	(〃22年)	中日ドラゴンズ(ファーム)	11―2		西濃運輸		〃
第65回	(〃24年)	西濃運輸	3―1		王子製紙		〃
第66回	(〃25年)	JR東海	6―0		NTT東日本		〃
第67回	(〃26年)	東邦ガス	8―5		中日ドラゴンズ		〃
第68回	(〃27年)	JFE西日本	3―0		中日ドラゴンズ		〃
第69回	(〃28年)	中日ドラゴンズ	2―1		NTT東日本		〃
第70回	(〃29年)	中日ドラゴンズ	4―3		東京ガス		〃
第71回	(〃30年)	西濃運輸	5―4		日立製作所		大垣・可児
第72回	(令１年)	日本通運	13―1		ヤマハ		岐阜・大垣
第73回	(〃３年)	トヨタ自動車	5―3		JFE西日本		〃
第74回	(〃４年)	鷺宮製作所	7―0		日立製作所		〃
第75回	(〃５年)	伏木海陸運送	5―2		三菱自動車岡崎		〃
第76回	(〃６年)	日本製鉄東海REX	5―1		日本製鉄かずさマジック		〃
第77回	(〃７年)	Honda鈴鹿	5―4		JR東日本		〃

※平成23年は東日本大震災のため大会中止
※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

王子が初優勝

第77回　JABA九州大会

決勝で日本通運を振り切る
完投勝利の九谷投手（王子）にMVP

第77回JABA九州大会は5月7日から12日まで、北九州市民球場、オーヴィジョンスタジアム下関で行われ、王子が決勝で日本通運を2―1で破り、初の栄冠に輝いた。

出場16チームを4ブロックに分けて予選リーグを戦い、各1位が決勝トーナメントに進出した。準決勝では日本通運が2―1で三菱重工Westに競り勝ち、王子は日本製鉄瀬戸内を8―2で退けた。決勝では王子が八回に勝ち越し点を挙げ、先発九谷の好投で逃げ切った。

最高殊勲選手賞には王子の九谷瑠投手、敢闘賞には日本通運の冨士隼斗投手がそれぞれ選ばれた。首位打者賞は王子の前田滉平内野手（17打数9安打、打率5割2分9厘）が獲得した。

ブロック分けは次の通り。

【A】ホンダ熊本、エナジック、エイジェック、日本製鉄瀬戸内

【B】西部ガス、宮崎梅田学園、王子、ENEOS

【C】JR九州、沖縄電力、三菱重工West、東京ガス

【D】KMGHD、JR西日本、東海理化、日本通運

◇**第1日**（5月7日）

（予選リーグ）

○…北九州市民球場…○

ホンダ熊本和田2ラン　エナジックを突き放す

▽Aブロック

エナジック（1敗）										
000	000	010	1
000	002	02×	4

ホンダ熊本（1勝）

ホンダ熊本は六回、和田と蓑尾の適時打で先制すると、八回には和田の2ランで突き放した。エナジックは八回、田中の右前打で追い上げたが、好機に1本が出なかった。

王子3本塁打で大量点　西部ガスは打線振るわず

▽Bブロック

王子（1勝）										
104	203	0	10
000	000	0	0

西部ガス（1敗）

（七回コールド）

王子は一回に柴崎のソロで先制すると、三回には、宝島の3ランと神島のソロと畳みかけ、前半で大量点をリードした。西部ガスは散発の4安打に終わった。

瀬戸内川瀬剛逆転2ラン　エイジェックが追いつく

▽Aブロック

エイジェック（1分け）										
101	000	010	3
000	001	200	3

日本製鉄瀬戸内（1分け）

日鉄瀬戸内が七回、川瀬剛の2ランで逆転すると、エイジェックも八回、田島の適時二塁打で追いつき引き分けた。エイジェックは序盤に先行したが、好投の谷内が後半に捕まった。

○…オーヴィジョンスタジアム下関…○

JR九州満塁生かす　沖縄電力2本塁打も

▽Cブロック

沖縄電力（1敗）										
201	010	200	6
220	201	00×	7

JR九州（1勝）

JR九州は二回1死満塁から、押し出しの四球と犠飛で勝ち越し、四回にも満塁から七條が2点適時打を放った。沖縄電力は2本のソロなどで粘ったが、一歩及ばなかった。

王子

	点	0	0	1	6	0	2	0	0	0	1	0	0	0
	安	2	2	3	2	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	打	5	3	4	2	0	4	0	0	1	0	1	4	4
④	前山柴宝	木	吉	山	横	大	神	鈴	細	中				
⑤	田口崎島	下	岡	井	井	杉	島	木	川	川				
⑧	9													
③	3													
⑦	7													
⑨	8													
D	H													
②	D													
⑥														

計　34　12　10

西部ガス

	打	3	3	2	3	3	3	3	2	1
	安	0	1	0	0	0	0	0	1	0
	点	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨	樋永井安松八柴古平									
⑦	口利手永山木田川野									
③										
D										
②										
⑥										
⑤										
④										
⑧										

計　24　4　0

	1併	6残	0犠	1盗	0失	3球	4振
王	0	4	0	0	2	1	5
西	0	6	1	0	4	0	1

	責	安	回	打	塁	本
投樋登	0	4	6			
手口坂	0	0	1			
大岩田高	7	10	4	柴島（大宝）	崎（大畑）島（畑神）	畑崎中椋
畑崎中椋	2	2	1⅓			
	0	0	1			
	0	0	1			

▽本（大畑）二時間2

エナジック

	点	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	安	0	1	0	0	3	0	2	1	0	0
	打	3	3	3	4	4	1	3	1	3	3
⑥	小西佐田大古藤外福田小										
④	久										
②	池表田中原堅原間元尾浜										
⑧											
⑨											
⑦											
DH	D										
③											
3											
⑤											

計　32　8　1

Honda熊本

	点	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1
	安	1	0	0	2	1	0	3	0	0	0
	打	3	3	3	3	2	1	3	1	2	4
⑦	中江稲古山正和							森	高蓑丸江		
⑥	島頭垣寺根林田							垣尾山崎			
⑧											
③											
⑨											
DH	D							D	5		
⑤											
H											
②											
2											
④											

計　28　8　4

	1併	8残	0犠	1盗	0失	3球	6振
エ	2	7	1	0	0	1	4
H	0	8	0	3	0	1	6

	責	安	回	打	塁	本
投宮仲	2	6	7			
手城次	2	2	1			
島片	0	5	6			
袋山	1	3	3			

投分
田暴12
和▽間
打次）時
▽2
本（仲山）
片

JR西日本逃げ切る KMGHD失策響く

▽Dブロック

KMGHD（1敗）
110 100 030 6
002 050 10× 8

JR西日本（1勝）

JR西日本は五回、西村の二塁打で追いつき、さらに敵失や大倉の2点適時打などで逆転した。KMGHDは八回、4連続長短打で追い上げたものの、五回の守りのミスを挽回できなかった。

東京ガス接戦制す 三菱重工W届かず

▽Cブロック

三菱重工West（1敗）
000 201 010 4
200 111 00× 5

東京ガス（1勝）

東京ガスは四回、津原の二塁打で勝ち越すと、五回は野選、六回は犠飛で追加点を奪い、逃げ切った。三菱重工Wは八回、北條のソロで1点差としたが、最後は東京ガスの臼井にかわされた。

◇**第2日**（5月8日）
（予選リーグ）
○…北九州市民球場…◯

東海理化齋藤2ラン JR西日本完投許す

JR西日本
▽Dブロック

東海理化（1勝）
120 000 201 6
000 000 001 1

JR西日本（1勝1敗）

東海理化は一回に犠飛で先制すると、二回には川上の2点適時二塁打、七回にも齋藤の2ランでリードを広げた。JR西日本は九回に一矢を報いたが、東海理化の池田に完投を許した。

日本通運コールド勝ち KMGHD投手陣誤算

KMGHD（2敗）
000 000 0 0
013 072 × 13

日本通運（1勝）
（七回コールド）

日本通運は五回1死満塁から、稲垣の二塁打、西里の2ランなどで7点を挙げ、勝負を決めた。KMGHDは投手陣が持ち味を出せなかった。

エイジェック

		打	安	点
④	高草	4	3	1
⑨	岡野	4	0	0
⑦	渡辺	4	1	0
②	島田	4	1	0
⑤	和田	4	0	0
⑥	高石	4	0	0
⑧	木神	3	1	0
H 8	杉本	0	0	0
H D	河井	2	0	0
H	原口	1	0	0
R D	久保	1	0	0
③	高橋	3	1	0
	計	34	8	2

日鉄瀬戸内

		打	安	点
④	市原	5	1	0
⑧	遠藤	3	0	0
⑤	内倉	2	1	1
D	岡	3	2	0
H D	井川	3	0	0
⑦ 9	江川	3	0	0
③	小田	3	0	0
⑨	中井	2	1	0
H	佐々木	1	0	0
7	広田	0	0	0
②	福井	0	0	0
⑥	川瀬	3	4	1
	計	30	6	3

エ	3	2	0	0	0	6	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
日	13	4	3	1	1	7	2

		回	安	責
投	手内	6	6	3
谷		⅓	⅔	
安	藤	⅔	0	0
金	城	2	0	0
川瀬	航	6	4	1
吉	岡	⅔	2	0
下	堂	⅓	0	0
神	頭	2	2	1

▽本塁打　高岡（川瀬航）▽二塁打　川瀬（谷内）▽暴投　谷田島▽2時間46分

沖縄電力

		打	安	点
⑦	山城	5	0	0
⑤ 3	平良	4	2	0
⑧	宮國	3	2	0
R	山城	0	0	0
8	金城	1	0	0
⑥	小濱	4	2	1
D	嘉数	4	2	2
③	安里	4	2	2
H 5	場谷	2	0	0
④	城垣	4	0	0
⑨	大石	2	1	0
H 9	新川	0	0	0
②	石原	1	0	0
	計	36	10	5

JR九州

		打	安	点
⑨	山吉	3	3	0
⑥	是山	3	0	1
⑤	枝田	4	2	1
⑧	田條	4	1	1
④	七菊	4	4	3
D	宮藤	4	3	0
H D	池崎	4	0	0
②	江切	1	0	0
⑦	友利	5	1	0
③		4	2	0
	計	34	11	6

沖	7	3	1	2	1	7	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
J	9	8	1	3	2	12	1

		回	安	責
投	手垣	3	6	4
新	俣	3	⅔ 5	2
狩	間	1	⅓ 0	0
鷲	崎	6	7	3
植	木	2	3	2
浦	川	1	0	0

▽本塁打　小濱（鷲崎）　濱平（宮崎）▽二塁打　脇田、山植（鷲崎）▽2時間59分

KMGHD

		打	安	点
⑧	峯	4	2	0
⑤	岡	4	3	1
④	野	4	1	2
③	原木	4	4	0
9	林	4	5	0
②	中島	4	3	1
D	田岡	3	1	3
⑦	嶋	3	2	2
H	田中角吉三			
⑥				
	計	36	13	5

JR西日本

		打	安	点
③	田村	4	1	2
D	戸田	4	1	0
⑧	大倉	5	2	1
⑤	土居	4	2	2
⑦ 9	植本	4	3	0
④	櫻井	3	3	0
②	安田	4	1	1
⑨	岡野	3	0	0
H 7	西村	3	2	1
⑥	佐藤	2	1	0
	計	31	9	7

K	10	5	3	0	3	11	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
J	3	4	3	1	0	6	0

		回	安	責
投	手山	4	⅓ 5	3
西	野田	1	⅔ 1	0
平		2	3	1
福	田		1	
中	岡	3	⅓ 9	3
花	村畑	3	⅓ 4	0
大	己	1	⅓ 0	0

▽本塁打　田村（西野）　村田三塁打（三林）▽二塁打　島、中戸（峯、暴投）▽2時間50分

三菱重工W

		打	安	点
⑦	中藤	3	0	0
H	口浦	1	0	0
⑨	岡條	4	2	0
⑧	日下	4	1	0
③	田尾	4	2	0
④	氣井	4	0	0
⑥	川井	4	1	0
D	田佐	4	2	1
⑤	湯杉	3	0	0
H	西北	0	0	0
②	朝山	1	0	0
H	吉拾	2	1	0
2	和碓古石	1	0	0
	計	34	8	3

東京ガス

		打	安	点
⑥	本山	2	1	0
6	崎飯	0	0	0
⑦	森仲	4	2	0
⑤	俣内	5	3	2
③	海加	2	0	1
D	藤冨	2	1	0
⑨	岡中	4	1	1
⑧	尾相	4	0	0
④	馬越	4	0	0
②	川津	3	1	1
2	原			
	計	31	10	4

三	10	4	0	1	0	7	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
東	7	5	3	1	0	10	0

		回	安	責
投	手井澤垣上	4	5	3
		1	⅓ 5	2
		1	⅔ 0	0
投	藤中辻川	1		0
		5	⅓ 6	3
			⅓ 1	0
			⅓ 0	0
		2	1	0
伊	稲村寺臼		0	0

▽本塁打　打（條）　碓上（北三）　尾中村（打）▽二塁打　中、上（北三）　村井、分（打）　2原、藤東間（昌沢）▽暴投　伊時（本寺）　津下（山井）▽3時間7分（暴澤）

三菱重工W六回集中打 沖縄電力後半は無安打

▽Cブロック

三菱重工West（1勝1敗）
210 005 02 10
200 100 00 3

沖縄電力（2敗）
（八回コールド）

同点の六回、三菱重工Wは1死満塁から主軸の3連打で一挙5点をリードした。沖縄電力は相手救援陣に抑えられ五回以降は無安打に終わった。

○…オーヴィジョンスタジアム下関…○

王子が接戦制す 2番手宮崎好投

▽Bブロック

王子（2勝）

			0	2	0	0	1	0	0	2	5
			1	1	0	0	1	0	0	0	1	4

ENEOS（1敗）

王子は九回、神島の適時打と犠飛で2点を勝ち越すと、ENEOSの反撃を失策による1点に抑えた。2番手の宮崎の好投が勝利に結びついた。

西部ガス連打で快勝 梅田学園投手陣崩壊

宮崎梅田学園（1敗）

			0	0	2	0	0	0	0		
			0	2	0	0	3	0	4	9	2

西部ガス（1勝1敗）

（七回コールド）

西部ガスは五回2死満塁から、金澤の2点二塁打で勝ち越すと、七回には4連打の後、笹井が押し出しの四球を選びコールド勝ち。梅田学園は三回に武者の2ランで追いついたが、投手陣が崩れた。

エイジェック大勝 下位打線が大活躍

▽Aブロック

エナジック（2敗）

			0	0	0	0	0	0	1		
			0	0	1	0	0	6	0	8	1

エイジェック（1勝1分け）

（八回コールド）

エイジェックは六回、8番高木の三塁打や、9番草野の2ランなどで6点を挙げ、八回には暴投で1点を加えてコールド勝ち。先発の中川が1失点に抑えた。

東海理化

	打	安	点
⑧ 福　本	3	1	0
⑤ 川　上	5	3	2
③ 武　齋	3	2	2
⑦ 千　藤	3	1	2
D 崔　西	3	0	0
HD 岡　叶	1	0	0
HD 門　田	1	0	0
⑨ 河　木	5	2	0
④ 鈴　野	2	0	0
② 中　間	3	1	0
⑥ 池　角	4	0	0
計	33	10	6

JR西日本

	打	安	点
③ 田　村	4	2	0
⑦ 西　村	2	0	0
H 加　藤	1	0	0
7 岡　野	0	0	0
H ⑧ 大　倉	4	1	1
⑤ 大土戸　居	4	0	0
D 田　田	3	0	0
⑨ 植　本	3	2	0
④ 櫻　井	3	0	0
② 安　田	2	0	0
H2 御　藤	1	0	0
⑥ 佐　藤	3	0	0
計	31	6	1

	振	球	犠	盗	失	残	併
東	4	7	2	1	0	9	1
J	7	2	0	0	1	5	1

投	手	回	安	責
池	田	9	6	1
辰ノ真京大中	己瀬城極山岡	1⅔ 1⅓ 1⅔ 1⅓ ⅓ 2⅔	2 2 2 0 2 1	2 1 0 0 2 1

▽本塁打　齋藤（大山）▽三塁打　川上▽二塁打　川上、植本、大江▽暴投　一ノ瀬▽2時間46分

KMGHD

	打	安	点
⑧ 峯	3	0	0
⑤ 風　岡	3	1	0
④ 野　原	3	2	0
③ 仁　木	3	2	1
⑨ 林	2	1	0
② 田	1	0	0
2 入　中	1	0	0
D 中　江	2	0	0
R 島　谷	2	0	0
⑦ 田　嶋	3	0	0
⑥ 角　中	2	0	0
6 三　濱	0	0	0
H 吉　岡	1	0	0
計	23	5	0

日本通運

	打	安	点
④ 添　田	5	3	1
⑦ 横　山	2	0	0
⑨ 北　川	3	1	1
D 沓　澤	3	1	2
⑥ 木　村	4	0	1
⑤ 稲　垣	2	1	3
③ 西　里	4	1	2
⑧ 手　銭	3	2	0
② 山　本	3	2	1
計	29	11	11

	振	球	犠	盗	失	残	併
K	6	4	1	0	3	7	0
日	1	9	1	3	0	8	2

投	手	回	安	責
平	野	3	4	3
中		1⅓	1	3
福	田	⅓	4	3
牟	田	1⅓	2	0
冨	士	6	5	0
川	船	1	0	0

▽本塁打　西里（福田）▽二塁打　暴投　沓澤、稲田▽守備妨害　福田▽2時間21分

三菱重工W

	打	安	点
⑦ 田　中	3	1	2
⑨ 湯　口	3	0	0
H 佐　藤	0	0	0
9 青　木	0	0	0
⑧ 杉　浦	3	0	0
H 根　来	2	2	0
8 西　岡	5	2	1
③ 坂　下	4	2	1
5 之　條	4	3	0
④ 北　日	4	2	3
⑥ 朝　下	2	2	3
D 山　尾	2	1	0
HD 拾　田	2	1	0
⑤ 吉　氣	2	1	0
H53 和　井	1	1	0
② 碓	1	1	0
計	31	14	10

沖縄電力

	打	安	点
⑧ 宮　國	4	2	0
③ 平　良	2	0	0
⑥ 小　濱	4	1	1
⑤ 田　場	2	0	0
R 石　垣	0	0	0
DH 嘉　数	3	1	1
⑦ 川　端	1	0	0
7 山　城	3	1	0
④ 新　城	1	0	0
H 與　谷	1	0	0
4 山　城	1	0	0
⑨ 上　原	0	0	0
② 金　城	3	1	1
山	1	0	0
計	26	6	3

	振	球	犠	盗	失	残	併
三	4	13	5	3	0	15	0
沖	7	4	3	2	1	6	0

投	手	回	安	責
鷲	尾	2	4	2
塩	田	⅔	0	0
川	上	3	2	1
西		2	0	0
安	里	5	6	4
内	間	2	7	4
新	垣	⅓	1	0

▽二塁打　和氣、北條、宮國、山城裕▽暴投　内間、新垣▽3時間3分

王子

	打	安	点
④ 前　田	4	3	0
⑤ 山　口	3	1	0
H 神　島	3	1	1
R 木　上	0	0	0
5 柴　山	1	0	0
⑧ 宝　本	3	0	1
③ 吉　崎	4	4	1
D 横　島	4	2	0
⑨ 大　岡	4	2	0
7 山　井	4	2	0
⑦ 細　井	3	1	0
9 ノ　川	3	2	2
② 中　川	3	1	0
⑥			
計	30	12	5

ENEOS

	打	安	点
⑦ 与　倉	5	1	0
⑤ 川　口	3	1	2
⑨ 村　上	3	0	0
③ 丸　山	3	0	0
② 植　田	4	1	1
⑧ 飯　山	3	0	0
D 猿　渡	2	0	0
HD 有　馬	2	1	0
R 神　里	0	0	0
⑥ 松　浦	3	1	0
④ 瀬　西	3	1	0
H 篠　戸	1	0	0
計	30	6	3

	振	球	犠	盗	失	残	併
王	9	5	6	0	1	9	0
E	6	6	2	2	0	7	0

投	手	回	安	責
九	谷	5	3	3
宮	崎	3	3	3
樋	口	⅓	0	0
加	藤	4	8	3
飯	田	2⅔	1	0
関	根	1	3	2
柏	原	⅓	0	0

▽本塁打　川口（九谷）▽二塁打　前田▽3時間15分

梅田学園

	打	安	点
⑧ 清　原	4	1	0
⑥ 武　者	3	2	2
⑤ 千　田	3	0	0
D 崔　原	3	3	1
⑦ 岡　崎	3	1	0
② 日　野	3	0	0
2 中　里	3	0	0
③ 片　山	2	0	0
H 江　藤	1	0	0
3 吉　田	2	0	0
④ 篠　原	3	0	0
⑨			
計	27	7	2

西部ガス

	打	安	点
⑨ 樋　口	3	1	0
H 横　田	1	1	0
⑦ 永　利	3	2	0
⑤ 井　手	4	1	1
D 安　永	3	1	2
R 園　田	0	0	0
② 金　澤	4	2	3
⑥ 柴　田	3	1	0
R 八　木	0	0	0
④ 古　川	1	1	0
③ 原　田	3	0	0
3 笹　井	3	0	1
⑧ 正　木	3	0	2
計	28	12	9

	振	球	犠	盗	失	残	併
宮	7	1	0	0	0	5	1
西	3	7	0	2	1	7	1

投	手	回	安	責
名	和	4⅔	8	5
田	中	⅓	0	0
大久保		1⅓	4	3
仲	道	⅔	0	0
村	田	6	7	2
高	椋	1	0	0

▽本塁打　武者（村田）▽二塁打　清原、柴田、逸見、井手、金澤、中里▽2時間11分

◇**第3日**（5月10日）
（予選リーグ）
○…北九州市民球場…○

王子2度の満塁生かす 梅田学園は4安打のみ

▽Bブロック
王子（3勝）
300 003 000 6
000 100 000 1
宮崎梅田学園（2敗）

王子は一回無死満塁から、犠飛や四球の押し出しなどで先制。六回には再び満塁から暴投などでリードを広げた。梅田学園は江藤にソロが出たものの、4安打に抑えられた。

瀬戸内の内倉殊勲打 ホンダ熊本後半沈黙

▽Aブロック
日本製鉄瀬戸内（1勝1分け）
000 040 010 5
000 100 000 1
ホンダ熊本（1勝1敗）

日鉄瀬戸内は五回、同点に追いついた後、2死満塁から、内倉の走者一掃の二塁打などで勝ち越した。ホンダ熊本は先制したが、五回以降は散発の3安打に終わった。

ENEOS丸山突き放す 西部ガス散発4安打のみ

▽Bブロック
ENEOS（1勝1敗）
000 021 003 6
000 010 000 1
西部ガス（1勝2敗）

ENEOSは九回2死満塁から、4番丸山の中越え三塁打で突き放した。西部ガスは4安打のみ。適失による1点に抑えられた。

○…オーヴィションスタジアム下関…○

日通投手戦制す 前田1安打完封

▽Dブロック
JR西日本（1勝2敗）
000 000 000 0
200 000 00× 2
日本通運（2勝）

日本通運先発の前田が被安打1、10奪三振で完封勝ち。

一回に沓澤の2ランによる得点を守り切った。JR西日本の大畑も八回途中まで好投したが、援護がなかった。

エナジック

		打	安	点
⑥	小池	4	0	0
④	西表田	4	2	0
②	佐久田	4	3	1
⑧	中原	4	0	0
⑨	大古堅	3	0	0
⑦	宗城	3	1	0
D	新藤原	3	0	0
HD	福元	1	0	0
③	田尾	2	0	0
3	今野	1	0	0
⑤	吉原	2	0	0
H	小浜	1	0	0
5		0	0	0
	計	32	7	1

エイジェック

		打	安	点
④	高岡	4	2	0
⑧	杉本	2	1	0
⑦	渡辺	4	2	2
②	島田	4	1	0
⑤	和田	3	0	0
③	高橋	3	0	0
D	小高	4	1	1
⑥	木草	4	2	2
⑨	野	3	2	2
	計	31	11	7

	振	球	犠	盗	失	残	併
エナ	11	1	1	0	0	9	0
エイ	2	6	1	1	2	8	0

投	手	回	安	責
古堅	瑞	4	2	1
大	嵩	2⅔	7	6
仲宗根		1⅓	2	1
中	川	8	7	1

▽本塁打　草野（大嵩）▽三塁打　渡辺、高木▽暴投　古堅瑞、仲宗根、中川▽2時間22分

王子

		打	安	点
④	前田	2	1	0
4	木山	1	0	0
⑤	下口	2	0	0
⑧	崎柴	3	1	0
③	島岡	4	3	3
D	部井	4	1	1
HD	賀横	3	1	0
⑨	大細	3	1	0
H	山鈴	3	2	0
7	ノ	3	1	1
⑦	井川	3	1	0
9	木川	3	1	0
②	中	3	0	0
H		2	1	0
2		0	0	0
⑥		0	0	0
	計	35	11	5

梅田学園

		打	安	点
⑧	清原	3	0	0
④	武者	3	0	0
③	江藤	3	2	1
D	窪田	4	0	0
⑦	岡崎	2	0	0
H	下栗	1	0	0
7	原篠	0	0	0
H	山片	1	0	0
②	中里	3	1	0
⑤	千原	3	0	0
H	日野	1	0	0
⑥	小柳	4	0	0
⑨	房野	3	1	0
	計	31	4	1

	振	球	犠	盗	失	残	併
王	5	5	2	0	0	9	0
宮	12	4	0	0	1	7	2

投	手	回	安	責
三	島島	5	2	1
中	島	1	1	0
田	中	1	0	0
浅	井	1	0	0
登	坂	1	1	0
仲	道	⅓	4	3
田	中	5	5	1
徳	永	1⅔	1	2
大久保		2	1	0

▽本塁打　江藤（三島）▽二塁打　房野▽暴投　徳永▽2時間42分

日鉄瀬戸内

		打	安	点
④	市原	4	1	0
⑧	遠藤	3	0	0
⑤	内倉	4	3	3
D	岡	3	1	0
⑦	江川	3	0	0
7	広田	3	0	0
③	小井	4	2	1
9	中深	3	1	0
②	福井	4	1	1
⑥	川瀬	4	1	0
	計	33	10	5

Honda熊本

		打	安	点
D	山本	4	1	0
⑥	江頭	3	0	0
⑧	稲垣	4	1	0
③	古寺	4	1	0
9	山根	2	0	0
H	正林	1	0	0
9	中島	4	2	0
⑦	森	3	0	0
⑤	蓑尾	3	0	0
②	丸山	1	0	0
2	宮川	1	0	0
H	江崎	1	0	0
④	高垣	2	2	0
H		0	0	0
4		0	0	0
	計	31	7	0

	振	球	犠	盗	失	残	併
日	8	5	1	1	1	7	2
H	8	3	1	0	0	7	2

投	手	回	安	責
杉	本	6⅔	7	0
下	堂	⅓	0	0
川	瀬航	2	0	0
寺	澤	4⅔	5	1
中	村	⅔	2	2
柳	澤	1⅓	1	0
米	倉	2	1	1
藤	江	1	1	0

▽二塁打　内倉▽捕逸　2、小深田▽2時間54分　蓑尾▽2時間

ENEOS

		打	安	点
⑦	与川	4	0	1
⑤	村	4	2	0
⑨	倉口	4	2	0
③	丸上	4	1	0
D	山田	3	0	0
HD	木山	1	0	0
⑧	植姫	0	0	0
②	飯有	1	1	0
④	篠	2	1	0
⑥	松原浦	4	2	0
	計	32	7	5

西部ガス

		打	安	点
⑨	樋口	4	1	0
⑦	永利	4	0	0
⑤	井手	0	0	0
5	柴田	3	1	0
③	安永	4	1	0
3	笹井	0	0	0
②	松山	2	1	0
H	金澤	1	0	0
⑥	八木	3	0	0
HD	横田	1	0	0
D	中	2	0	0
HD	野田	2	0	0
④	原川	3	0	0
⑧	古木	2	0	0
	計	31	4	0

	振	球	犠	盗	失	残	併
E	6	6	3	0	2	8	1
西	13	3	0	2	1	6	0

投	手	回	安	責
阿	部	5	3	0
関	根	3	1	0
飯	田	1	0	0
松	本	6	4	3
大	畑	2	0	0
山	田	1	3	3

▽三塁打　丸山▽暴投　二塁打　飯山▽2時間44分　投　松本

JR西日本

		打	安	点
③	田村	3	0	0
⑨	戸田	3	0	0
⑧	大倉	3	0	0
⑤6	土居	3	0	0
D	西野	3	1	0
RD	黒川	3	0	0
⑦	植本	3	0	0
④	櫻井	3	0	0
②	安田	3	2	0
H	本田	1	0	0
2	藤	0	0	0
⑥	加佐	1	0	0
H5	西藤村	2	0	0
	計	27	1	0

日本通運

		打	安	点
④	添田	4	2	0
⑦	横山	4	0	0
⑨	北川	4	0	0
D	沓澤	3	3	2
RD	宮崎	0	0	0
⑥	木村	3	0	0
⑤	稲垣	2	1	0
③	西里	4	0	0
⑧	手銭	3	0	0
②	山本	3	0	0
	計	30	6	2

	振	球	犠	盗	失	残	併
J	10	2	0	0	0	2	0
日	3	4	0	2	0	8	0

投	手	回	安	責
大	畑	7⅔	6	2
花	村	⅓	0	0
前	田	9	1	0

▽本塁打　沓澤（大畑）▽暴投　前田▽2時間9分

◇**第4日**（5月11日）
（予選リーグ）
○…北九州市民球場…○

ENEOSそつなく 梅田学園5安打のみ

▽Bブロック

宮崎梅田学園（3敗）
000 100 000 1
020 100 01× 4
ENEOS（2勝1敗）

ENEOSは二回、松浦の適時打と敵失で先制。四回には無死一、二塁から、送りバントと犠飛でそつなく突き放した。梅田学園は5投手の継投に、5安打に抑えられた。

三菱重工W下位活躍 JR九州三塁踏めず

▽Cブロック

三菱重工West（2勝1敗）
021 001 4 8
000 000 0 0
JR九州（2勝1敗）
（七回コールド）

JR九州逆転勝ち 東京ガス終盤崩れる

▽Cブロック

JR九州（2勝）
000 000 033 6
001 010 000 2
東京ガス（1勝1敗）

JR九州は八回、藤江のソロで反撃開始。さらに菊池と吉田の適時打で逆転し、九回には菊池の3ランで突き放した。東京ガスは七回まで好投の高橋が崩れた。

東海理化二回に集中打 救援陣好投で逃げ切る

▽Dブロック

KMGHD（3敗）
003 000 000 3
050 000 00× 5
東海理化（2勝）

東海理化は二回無死満塁から犠飛で先制し、さらに川上と武藤の適時打で5点を奪った。先発の高橋が三回に2点差とされたが、2番手の新地、3番手の生田目がKMGHDの反撃を封じた。

JR九州

		打	安	点
⑨	山	3	0	0
⑥	吉	3	0	0
⑤	是	5	2	1
⑧	山	3	0	0
④	七	4	2	0
D	藤	3	1	0
③	友	3	1	1
②	菊	4	2	0
⑦	岩	4	2	0
	計	32	11	6

東京ガス

		打	安	点
⑥	北	4	1	0
⑦	飯	3	0	0
⑤	仲	3	0	0
③	内	4	1	0
D	加	2	1	0
⑨	冨	4	3	1
⑧	中	3	0	0
④	相	3	0	0
H	小野	1	0	0
②	馬	3	1	0
H	楠	0	0	0
	計	30	7	1

J	3	2	4	0	1	5	3		
	振	球	犠	盗	失	残	併		
東	10	8	0	1	0	9	0		

投	手	回	安	責
稲	山	3	3	0
足	立	1⅔	3	1
平	野	3⅓	1	0
鷲	崎	1	0	0
高	橋	7⅔	5	3
寺	沢	1⅓	5	3
村	上	⅔	1	0

▽本塁打　藤江（高橋）菊池（寺沢）▽二塁打　菊池、内海、冨岡▽暴投　足立▽2時間39分

KMGHD

		打	安	点
⑧	峯	3	1	0
D	風	3	0	2
④	野	4	1	2
⑤	仁	4	2	1
⑨	林	4	1	0
③	田	3	0	0
H	中	3	1	0
⑥	角	2	0	0
H	吉	1	0	0
②	入	4	1	0
⑦	伊	3	0	0
	計	32	7	3

東海理化

		打	安	点
⑧	福	2	1	1
⑨	鈴	2	0	0
H	9 河	1	0	0
⑤	川	4	1	2
⑦	齋	3	2	0
③	武	4	1	2
D	門	3	0	0
H	D 西	1	0	0
④	中	2	1	0
4	杉	0	0	0
②	池	4	1	0
⑥	近	2	0	0
	計	28	7	5

K	8	2	1	0	1	5	1		
	振	球	犠	盗	失	残	併		
東	9	5	2	1	3	6	3		

投	手	回	安	責
牟	田	1⅔	4	1
西	山	6⅓	3	0
高	橋	3	5	3
新	地	2	0	0
生	田目	4	2	0

▽二塁打　仁木2、中野▽暴投　牟田▽2時間21分

梅田学園

		打	安	点
⑧	清	3	0	0
H	栗	1	0	0
8	篠	0	0	0
⑥	武	4	0	0
⑤	江	4	1	0
D	窪	4	1	0
⑦	藤	4	1	0
②	田	3	1	0
③	崎	3	1	0
H	3 里	3	2	0
④	山	3	0	0
⑨	原	3	1	0
	計	31	5	1

ENEOS

		打	安	点
⑥	松	4	2	1
⑤	川	4	0	1
⑧	飯	4	1	0
③	丸	2	0	0
②	有	4	3	0
D	瀧	4	1	0
⑨	村	4	2	0
H	片	1	1	0
R	7 与	0	0	0
④	篠	3	2	0
⑦	猿	3	1	0
H	9 姫	1	0	0
	計	32	11	2

宮	8	0	0	0	3	3	0		
	振	球	犠	盗	失	残	併		
E	8	2	4	0	1	10	0		

投	手	回	安	責
徳	永	7	10	3
大久保		1	1	0
若	杉	5	3	1
渡	部	1	0	0
	林	1	1	0
楠	茂	1	1	0
柏	原	1	0	0

▽二塁打　房野、江藤、岡崎、千原、片山（E）▽2時間28分

三菱重工W

		打	安	点
⑦	田	5	1	0
⑨	中	4	2	1
⑧	口	4	2	2
③	浦	5	3	1
④	岡	4	2	0
⑥	條	4	1	0
D	日下	4	0	0
⑤	氣	4	2	1
②	井	4	1	1
	計	34	15	7

JR九州

		打	安	点
⑨	7 山	2	0	0
⑥	吉	3	1	0
⑤	是	2	0	0
⑧	山	3	0	0
④	七	3	0	0
D	藤	2	1	0
③	友	3	0	0
②	菊	1	0	0
⑦	岩	1	0	0
H	9 美	1	0	0
	計	21	2	0

三	0	4	1	1	0	10	2		
	振	球	犠	盗	失	残	併		
J	5	4	0	0	2	4	1		

投	手	回	安	責
坂	尾	5	1	0
川	上	2	1	0
植	木	1⅔	3	0
足	立	1⅓	3	1
平	野	3⅔	7	5
鷲	崎	1	2	0

▽二塁打　北條、山下▽2時間10分

沖縄電力

		打	安	点
⑧	宮	3	1	0
⑤	國	3	1	1
⑥	良	3	4	2
D	濱	4	4	2
⑦	数	4	2	0
③	裕	3	0	0
H	3 城	3	0	1
⑨	垣	3	1	0
H	R 9 端	3	1	0
④	里	3	0	1
H	4 城	3	1	1
②	場	3	1	0
H	2 城	2	1	0
	計	33	13	6

東京ガス

		打	安	点
⑥	北	4	0	0
6	崎	0	0	0
H	尾	1	0	0
⑦	森	5	2	0
④	5 俣	5	0	0
③	海	1	1	0
⑧	澤	4	2	1
D	藤	3	2	2
H	D 川	1	0	0
⑨	田	3	0	0
⑤	川	3	0	0
4	村	1	0	0
②	原	1	0	0
H	2 岡	1	0	0
	計	33	7	5

沖	7	5	4	0	1	8	1		
	振	球	犠	盗	失	残	併		
東	4	6	0	3	1	7	0		

投	手	回	安	責
山	城悠	4⅓	7	4
狩	俣	⅔	0	0
新	垣	1	0	0
内	間	1	0	0
亀	里	2	0	0
野	澤	4	⅔	6	1
村	上	1	⅓	1	0
松	崎	1	⅔	2	2
稲	葉		⅔	4	2
清	水	1	⅓	0	0

▽本塁打　加藤（山城悠）▽二塁打　藤江真、山城海、藤澤裕、内海投、村上▽3時間

三菱重工Wは七回無死満塁から、下位打線の3連続適時打などで4点を挙げ、勝負を決めた。JR九州は2安打と打線に元気がなく、三塁も踏めなかった。

沖縄電力逆転勝ち 救援4投手が好投

沖縄電力（1勝2敗）
003 000 040 7
002 030 000 5
東京ガス（1勝2敗）

2点を追う沖縄電力は八回、同点とした後、9番具志頭の2点適時打で勝ち越した。救援の4投手が五回途中から無安打に抑え、逆転勝ちに結びつけた。

○…オーヴィジョンスタジアム下関…○

日本通運コールド勝ち 東海理化4失策が響く

▽Dブロック
東海理化（2勝1敗）
000 100 0 1
003 041 × 8
日本通運（3勝）
（七回コールド）

日本通運が東海理化の守備の乱れに乗じた。7点差とした六回の得点も、捕逸が絡んだ1死三塁から、相手中堅の失策によるもの。東海理化は8失点中、投手の自責点は1点だけで、4失策が響いた。

ホンダ熊本江頭逆転打 エイジェック継投失敗

▽Aブロック
エイジェック（1勝1敗1分け）
100 020 000 3
000 402 01× 7
ホンダ熊本（2勝1敗）

ホンダ熊本は四回、江頭の2点適時打などで逆転すると、六回には古寺の中越え二塁打で2点を追加した。エイジェックは救援陣が安定しなかった。

瀬戸内六回突き放す エナジック継投失敗

日本製鉄瀬戸内（2勝1分け）
100 005 100 7
100 000 100 2
エナジック（3敗）

日鉄瀬戸内は六回、川の三塁打で勝ち越すなど、一挙5点を挙げ、突き放した。エナジックは先発の仲尾次が好投したが、六回からの継投に失敗した。

日本通運継投で逃げ切る

三菱重工W一歩及ばず

◇最終日（5月12日）
（決勝トーナメント）
○…北九州市民球場…○
▽準決勝
三菱重工West
000 000 001 1
011 000 00× 2
日本通運

日本通運は二回、稲垣のソロ本塁打で先制し、三回には北川の二塁打で2点をリード。相馬、前田の継投で逃げ切った。三菱重工Wは九回に1点返し、さらに拾尾の安打で同点を狙った走者が、本塁で刺された。

王子強打で逆転勝利

瀬戸内後半は無安打

日本製鉄瀬戸内
020 000 000 2
010 102 04× 8
王子

王子は六回、宝島の適時打で勝ち越すと、さらに押し出しで2点をリード。八回には柴崎が満塁から走者一掃の二塁打を放った。日鉄瀬戸内は六回以降、無安打に終わった。

東海理化

	打	安	点
⑧	福河川齋武鈴中杉池戸角	0	0
⑦	本田上藤藤木野浦間丸田	0	0
⑤	3 2 3 2 1 1 1 1 0	0	0
D	0 1 0 0 0 0 0 0 0	0	0
③	3 2 3 2 1 0 0 0 0	1	1
⑨	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0	0
④	3 2 2 1 1 0 0 0 0	0	0
H	1 1 0 0 0 0 0 0 0	0	0
②	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0	0
H	1 0 0 0 0 0 0 0 0	0	0
⑥	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0	0
H	西		
	計	22	2

日本通運

	打	安	点
④	添横北沓木稲西手山	1	1
⑦	田山川澤村垣里銭本	1	0
⑨	4 3 4 3 3 3 3 2 2	1	1
D	1 1 0 0 0 0 0 0 0	0	0
⑥	3 3 2 2 3 3 3 2 2	2	2
⑤	3 2 3 3 3 1 1 2 0	1	1
③	3 3 3 3 3 1 1 0 0	0	0
⑧	2 2 2 2 2 0 0 0 0	0	0
②	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0	0
	計	27	10

	6	4	1	1	4	5	0
東	9	4	1	1	4	5	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
日	2	1	2	1	1	4	1

投	池	河	新	平	中	清	
投	池	河	新	平	中	清	
手	田	野	地	元	田	水	
回	4			4		2	
責	6	4	0	2	0	0	
安	⅔	⅔	⅔	⅓	⅔		
6	0	0	0	1	0	0	
1	0	0	0	2	0	0	

▽村木澤▽捕逸分
▽三塁打　沓野時間
▽二塁打　河2
暴投池間

エイジェック

	打	安	点
④	高杉竹渡田和草高石高岡河	2	0
⑦	岡本花辺島田野木神橋島井	0	0
H	4 2 2 4 4 3 4 3 1	1	1
D	2 2 2 3 4 4 4 3 2	0	0
②	0 0 0 0 0 0 0 1 0	0	0
⑤	2 2 2 3 4 4 3 1 2	0	0
⑨	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0	0
⑥	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0	0
⑧	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0	0
③	1 0 0 0 0 0 0 0 0	0	0
2	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0	0
H	原井		
	計	9	2

Honda熊本

	打	安	点
⑨	山本島垣寺田垣森蓑丸江	2	0
⑦	5 3 3 3 2 4 4 4 2	1	0
⑧	3 2 3 2 2 4 4 4 0	0	0
③	3 3 4 3 2 4 4 4 2	0	0
D	4 3 3 3 2 4 4 4 0	4	0
④	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0	0
⑤	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0	0
②	2 2 2 2 2 2 2 0 0	0	0
2	0 0 0 0 0 0 0 4 2	2	0
⑥	尾山頭		
	計	31	10

	7	1
	残	併
投	10	1
失	4	0
盗	0	0
犠	4	0
球	0	0
振	6	5
エ	6	0
H	5	6

投	橋	安	金	中	横	柳	島	片
手	本	藤	城	内	川	澤	袋	山
回	1			2	2	4		3
責	0	0	0	1	2	3	0	0
安	⅓	⅓	⅓	2	2	⅔	⅓	1
0	0	0	5	3	1	6	3	0
0	0	0	3	2	1	0	0	0
0	0	0	2	1	1	0	0	0

▽二塁打　渡辺、暴投
▽山本、古寺2時間31分
金城▽2

日鉄瀬戸内

	打	安	点
④	市遠内	0	0
⑧	原藤倉	2	2
⑤	4 2 5 1 1 2 0 0 2	1	1
D	岡々	0	0
H	5 1 3 1 3 1 4 0 3	1	0
⑦	木川田田宮井井井	0	0
7	深	0	0
③	3 2 1 0 0 3	0	0
3	出	0	0
⑨	戎	0	0
②	瀬	0	0
H	佐江広小重中福向	0	0
R	小	0	0
2	川	0	0
⑥			
	計	30	10

	7
	残
投	7
失	2
盗	1
犠	1
球	1
振	12
エ	

投	藤	神	仲	仲	宮		
手	野	頭	尾	宗	次	根	城
回	8	1		5			3
責	2	0	1	4	4	4	1
安	0	0	4	2	⅔	⅓	1

▽三塁打　江川▽
二塁打　大原▽2
時間35分

エナジック

	打	安	点
⑥	池表田中元原堅間城原尾吉浜	0	0
④	4 4 4 2 2 4 4 2 0	1	0
②	久	2	1
⑧	4 2 2 1 0 1 0 0 1	0	0
H	9 8	1	0
⑨	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0	0
⑦	0 0 0 0 1 0 0 0 0	0	0
D	D	0	0
R	0 1 3 2 2	1	0
H	0 0 0 0 0	0	0
③	0 0 0 0 0	0	0
⑤	1 0 1 0 1	1	1
5	小西佐田福大古外金藤田今小	0	0
	計	34	8

	2
	併
投	2
失	2
盗	1
犠	1
球	1
振	12
エ	

投	藤	神	仲	仲	宮		
手	野	頭	尾	宗	次	根	城
回	8	1		5			3
責	2	0	1	4	4	4	1
安	0	0	4	2	⅔	⅓	1

▽三塁打　江川▽
二塁打　大原▽2
時間35分

王子九谷5安打完投

日通後半好機作れず

発の九谷が一回に先制点を許しながらも立ち直り、日本通運の追加点を阻み、被安打5で完投した。

王子　王子は三回、山口の適時打で追いつき、八回には4番宝島の左前打で勝ち越した。先

▽決勝

日本通運	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
王子	0	0	1	0	0	0	0	1	×	2

㊧…表彰選手…㊨

◇最高殊勲選手賞
九谷瑠・投手（王子）

◇敢闘賞
冨士隼斗・投手（日本通運）

◇首位打者賞
前田滉平・内野手（王子）
＝17打数9安打、打率5割2分9厘

日本通運

		打	安	点
④	添田	4	1	0
⑦	横山	4	1	1
⑨	北川	3	1	0
D	沓澤	4	1	0
⑥	木村	3	0	0
⑤	稲垣	2	0	0
③	西里	2	0	0
⑧	手銭	3	0	0
②	山本	3	1	0
	計	28	5	1

王子

		打	安	点
④	前田	2	1	0
⑤	山口	3	1	1
⑧	崎柴	4	1	0
③	島宝	4	2	1
D	吉岡	3	0	0
⑨	横井	3	1	0
R7	大杉	1	0	0
⑦9	山ノ井	3	1	0
②	細川	2	0	0
⑥	中川	3	0	0
	計	28	7	2

	振	球	犠	盗	失	残	併
日	7	3	1	1	0	4	1
王	4	4	1	2	1	7	0

投手	回	安	責
冨士	6⅓	5	1
松澤	⅔	0	0
前田	⅔	2	1
中田	⅓	0	0
九谷	9	5	1

▽二塁打　横山、宝島、横井▽2時間22分

日鉄瀬戸内

		打	安	点
④	市原	2	1	2
⑧	遠藤	4	1	0
⑤	内倉	3	1	0
D	岡	3	0	0
HD	向井	1	0	0
⑦	江川	4	0	0
③	小深田	2	1	0
H	重宮	1	0	0
⑨	中井	2	0	0
H	佐々木	1	0	0
②	福井	2	1	0
R	戎	0	0	0
2	小出	1	0	0
⑥	川瀬剛	2	1	0
	計	28	6	2

王子

		打	安	点
④	前田	4	2	0
⑤	山口	5	2	0
⑧	崎柴	5	3	3
③	島宝	5	1	1
D	吉岡	3	2	1
⑨	横井	4	1	1
⑦	山ノ井	2	0	0
H	神鳥	1	0	0
7	大杉	1	0	0
②	細川	3	1	0
⑥	中川	3	1	2
	計	36	13	8

	振	球	犠	盗	失	残	併
日	5	5	2	0	1	6	1
王	12	4	0	3	0	8	3

投手	回	安	責
川瀬航	5⅔	8	4
下堂	1	0	0
西本	⅔	1	0
吉岡	⅓	0	0
神頭	1	4	3
樋口	8	6	2
宮崎	1	0	0

▽本塁打　吉岡（川瀬航）▽二塁打　柴崎2▽暴投　川瀬航▽3時間

三菱重工W

		打	安	点
⑦	田根	2	0	0
H7	中来	1	0	0
⑨	口浦	2	0	0
⑧	杉西	4	1	0
③	岡條	3	0	0
④	北朝	3	0	0
⑥	日下	3	1	0
D	山和	4	3	1
⑤	氣田	3	1	0
R	田	0	0	0
②	井川	2	0	0
H	吉碓	2	0	0
2	石井	1	0	0
H	拾尾	0	0	0
	計	29	7	1

日本通運

		打	安	点
④	添田	4	2	0
⑦	横山	4	1	0
⑨	北川	4	2	1
D	沓澤	4	0	0
⑥	木村	3	0	0
⑤	垣稲	3	1	1
③	西里	2	0	0
⑧	手銭	3	1	0
②	山本	3	0	0
	計	30	7	2

	振	球	犠	盗	失	残	併
三	5	6	1	0	0	8	0
日	2	2	0	1	0	6	1

投手	回	安	責
鷲尾	2⅔	5	2
川上	5⅓	2	0
相馬	7	5	0
前田	2	2	1

▽本塁打　稲垣（鷲尾）▽三塁打　杉浦▽二塁打　北川▽暴投　鷲尾▽2時間30分

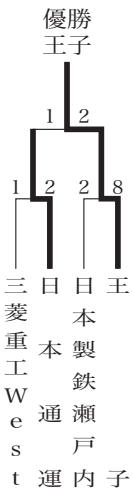
第77回大会・熱戦の軌跡

Aブロック	Honda熊本	エナジック	エイジェック	日本製鉄瀬戸内	勝	敗	順位
Honda熊本	㊧	○4－1	○7－3	●1－5	2	1	2
エナジック	●1－4	㊧	×1－8	●2－7	0	3	4
エイジェック	●3－7	◎8－1	㊧	△3－3	1	1	3
日本製鉄瀬戸内	○5－1	○7－2	△3－3	㊧	2	0	1

Bブロック	西部ガス	宮崎梅田学園	王子	ENEOS	勝	敗	順位
西部ガス	㊧	◎9－2	×0－10	●1－6	1	2	3
宮崎梅田学園	×2－9	㊧	●1－6	●1－4	0	3	4
王子	◎10－0	○6－1	㊧	○5－4	3	0	1
ENEOS	○6－1	○4－1	●4－5	㊧	2	1	2

Cブロック	JR九州	沖縄電力	三菱重工West	東京ガス	勝	敗	順位
JR九州	㊧	○7－6	×0－8	○6－2	2	1	2
沖縄電力	●6－7	㊧	×3－10	○7－5	1	2	4
三菱重工West	◎8－0	◎10－3	㊧	●4－5	2	1	1
東京ガス	●2－6	●5－7	○5－4	㊧	1	2	3

Dブロック	KMGホールディングス	JR西日本	東海理化	日本通運	勝	敗	順位
KMGホールディングス	㊧	●6－8	●3－5	×0－13	0	3	4
JR西日本	○8－6	㊧	●1－6	●0－2	1	2	3
東海理化	○5－3	○6－1	㊧	×1－8	2	1	2
日本通運	◎13－0	○2－0	◎8－1	㊧	3	0	1



九州大会・決勝戦一覧

	優勝チーム		準優勝チーム		
第１回 (昭21年)	八大星大	日日八日	愛星豊全協	4 — 2	業組産倉酵瀬局圧局鉄局松鉄局芝鉄局州京成属鉄関州東属器属芝器瀬器交運器属器国運一国器幡葉命薬幡島本州薬部崎芝Ｋ幡油芝油崎ａ車車州力本崎ａＵ本ズ力本ａ運運
第２回 (〃22年)	幡洋漁製		知野産	2 — 1	
第３回 (〃23年)	洋漁	鉄業業組紙鉄鉄瀬鉄瀬ア鉄松田油券関京器属紡紙紙ル東州器島芝幡芝鋼京幡分管運運属国芝芝芝芝芝崎崎芝芝幡本州幡車本油ス崎所車州ａ崎ク本ａ所本運ズスクＳス車子	岡野物	4 — 0	
第４回 (〃24年)	野		藤	3 — 2	
第５回 (〃26年)	昭和製		和発	3 — 2	
第６回 (〃27年)	幡製		鉄二管理	3 — 2	
第７回 (〃28年)	幡製二		児島鉄道高理	4 — 3	
第８回 (〃29年)	幡鉄		洋高管理	7 — 2	
第９回 (〃30年)	鉄コ		児島鉄道管理	2 — 1	
第10回 (〃31年)	本ロビ		児島幡鉄道製管理	5 — 0	
第11回 (〃32年)	炭製二ム		児島鉄道管理	9 — 3	
第12回 (〃33年)	幡高		炭高製	3 — 1	
第13回 (〃34年)	圧大牟		幡炭	1 — 0	
第14回 (〃35年)	善石		児島鉄道管理	6 — 1	
第15回 (〃36年)	和証賀			2 — 0	
第16回 (〃37年)	佐東楽金		幡製管理	2 — 1	
第17回 (〃38年)	鉱電本友		分鉄道	4 — 0	
第18回 (〃39年)	鐘		幡電九東化金製賀	3 — 1	
第19回 (〃40年)	和和製		電電菱友幡佐	3 — 1	
第20回 (〃41年)	昭昭製一		鉱電電九九関金電金	3 — 2	
第21回 (〃42年)	ッポ電電下		電電友下友	7 — 4	
第22回 (〃43年)	菱重工広		電電友下	2 — 0	
第23回 (〃44年)	日鐵八		電電住松住東松新日九日日住松Ｎ日ニＮ松新川日日新三ＪＪ日大三東Ｎ新新東新三Ｈトトｊ沖Ｎ三ＨＳＮ日日	10— 1	
第24回 (〃45年)	戸電製東八大		下鐵	2 — 1	
第25回 (〃46年)	日日鐵鐵		日本州本本友下Ｔ本ニコドＴ下日製鉄千本新生八水日Ｒ九新本式球倶楽重工長Ｋ鐵八本石石長本動石ガ長動ＲＲ熊ｄ長ｄ作ｄ通ＴＴ	3 — 2	
第26回 (〃47年)	本本鋼通通金		本州本本友下	0 — 3	
第27回 (〃48年)	本本友		本通楽金電四	7 — 5	
第28回 (〃49年)	Ｔ四		通	7 — 4	
第29回 (〃50年)	Ｔ		本	7 — 3	
第30回 (〃51年)	四		通	6 — 5	
第31回 (〃52年)			ド	8 — 1	
第32回 (〃53年)			四	7 — 5	
第33回 (〃54年)			電	8 — 5	
第34回 (〃55年)			八	16— 6	
第35回 (〃56年)			千	5 — 0	
第36回 (〃57年)			水	9 — 1	
第37回 (〃58年)			日	6 — 1	
第38回 (〃59年)			九新	26— 3	
第39回 (〃60年)			八	12— 7	
第40回 (〃61年)			日	11— 7	
第41回 (〃62年)			九	7 — 1	
第42回 (〃63年)			八	18—17	
第43回 (平１年)			日	5 — 4	
第44回 (〃２年)			楽	4 — 3	
第45回 (〃３年)			長	10— 7	
第46回 (〃４年)			動	7 — 5	
第47回 (〃５年)			日	3 — 0	
第48回 (〃６年)			八	5 — 3	
第49回 (〃７年)			石	5 — 3	
第50回 (〃８年)			長	5 — 0	
第51回 (〃９年)			動	6 — 4	
第52回 (〃10年)			ａ	3 — 1	
第53回 (〃11年)			動	8 — 3	
第54回 (〃12年)			熊	8 — 7	
第55回 (〃13年)			電	5 — 1	
第56回 (〃14年)			日	2 — 1	
第57回 (〃15年)			日	2 — 1	
第58回 (〃16年)			作	2 — 1	
第59回 (〃17年)			日	2 — 1	
第60回 (〃18年)			通	3 — 2	
第61回 (〃19年)			ＳＴＥＭ	5 — 1	
第62回 (〃20年)			ズ	2 — 0	菱日立パワーシステム
第63回 (〃21年)			ッ	5 — 2	
第64回 (〃22年)			Ｏ	6 — 0	
第65回 (〃24年)			ガ	7 — 0	
第66回 (〃25年)			動	10— 6	
第67回 (〃26年)			王	2 — 1	

※昭和25年は大会中止
※平成23年は東日本大震災のため大会中止
※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

ヤマハが２連覇

第55回　JABA東北大会 Supported by 仙台ターミナルビル株式会社

バイタルネットを決勝で破り４度目
ＭＶＰは網谷外野手（ヤマハ）

第55回ＪＡＢＡ東北大会Ｓｕｐｐｏｒｔｅｄ ｂｙ 仙台ターミナルビル株式会社は５月９日から14日まで、仙台市民球場と石巻市民球場で行われ、決勝でヤマハがバイタルネットを７―３で破り、２大会連続４回目の優勝を達成した。

出場16チームを４ブロックに分けて予選リーグを戦い、各１位が決勝トーナメントに進出した。準決勝ではヤマハがＴＤＫを６―１で退け、バイタルネットも３―２で七十七銀行に競り勝った。

決勝では先制したヤマハがその後も小刻みに加点し、バイタルネットを降した。

最高殊勲選手賞にはヤマハの網谷圭将外野手、敢闘賞にはバイタルネットの小川凌二外野手がそれぞれ選ばれた。首位打者賞はヤマハの土山翔生内野手（15打数８安打、打率５割３分３厘）が獲得した。

ブロック分けは次の通り。

【Ａ】ＴＤＫ、三菱重工Ｅａｓｔ、北海道ガス、トヨタ自動車東日本

【Ｂ】日本製紙石巻、ＳＵＢＡＲＵ、ヤマハ、日本製鉄室蘭シャークス

【Ｃ】七十七銀行、ＮＴＴ東日本、日本新薬、伏木海陸運送

【Ｄ】ＪＲ東日本東北、大阪ガス、オールフロンティア、バイタルネット

◇第１日（５月９日）（予選リーグ）

○…仙台市民球場…○

▽Ａブロック

トヨタ自動車東日本（１敗）									
	0	1	1	0	0	0	0	0	2
	0	0	2	0	0	1	0	0	3

三菱重工Ｅａｓｔ（１勝）

三菱重工Ｅは三回無死満塁から、犠飛と小柳の適時打で追いつき、六回に対馬の二塁打で勝ち越した。トヨタ東日本は四回以降、１安打に抑えられた。

三菱重工Ｅ競り勝つ　トヨタ東先制実らず

トヨタ東	打	安	点
⑥	0	0	0
④	0	1	0
⑤	3	4	1
⑨	4	3	0
③	3	4	0
⑦	3	3	0
Ｈ	1	2	0
②	3	3	0
Ｄ	3	3	0
⑧	2	3	1
計	30	5	2

三菱重工Ｅ	打	安	点
④	3	0	0
⑤	3	1	0
５	3	0	0
⑨	3	0	0
９	3	0	0
Ｄ	4	2	0
⑧	3	0	0
⑦	4	0	0
③	3	1	0
②	3	2	1
⑥	3	1	0
計	29	7	3

トヨタ東	6	4	1	1	0	6	0	0	1
三菱重工Ｅ	6	3	1	1	3	0	6	0	1

	責	安	回	手					
投中	3	7	7	里					
齋藤	0	0	1	智					
	2	4	⅓						
池	0	1	⅔	内					
川	0	0	1	和					
長野	0	0	1	田島中					

▽本塁打　藤里（トヨタ東）▽二塁打　齋藤（三菱重工Ｅ）▽暴投　中里（トヨタ東）▽時間　２時22分

ヤマハ終盤に逆転勝ち　ＳＵＢＡＲＵ先制失速

▽Ｂブロック

ヤマハ（１勝）									
	1	0	0	0	2	0	0	1	8
	1	1	0	0	0	2	0	0	4

ＳＵＢＡＲＵ（１敗）

ヤマハは八回、敵失や西村の２点適時二塁打などで４点を勝ち越した。ＳＵＢＡＲＵは古川のソロなどでリードしられた。

ヤマハ	打	安	点
⑧	2	1	1
③	4	1	1
⑦	3	1	0
Ｄ	3	2	0
④	5	3	0
⑤	3	2	0
Ｈ	3	2	0
Ｒ	5	2	1
６	3	0	0
⑥	4	3	1
⑨	4	3	2
計	34	12	6

SUBARU	打	安	点
④	4	1	0
⑦	3	0	0
Ｄ	3	0	1
③	4	1	1
⑧	4	1	0
⑥	3	1	0
⑤	3	2	1
②	2	0	0
９	2	1	0
Ｈ	1	0	0
計	30	6	4

ヤ	3	5	3	1	0	7	0	0	4
Ｓ	7	2	2	0	2	3	6	0	4

	責	安	回	手					
投佐	4	6	7	藤					
梅水	0	0	1	田野					
	3	8	⅔						
阿	0	0	1	部					
三	0	1	⅓	上					
川	1	3		田					
八手	4	0	1	塚					
田	0	0	1	嶋					

▽本塁打　古川（佐藤）▽三塁打　森（里）▽二塁打２　間（村）▽時間　２時51分

日鉄室蘭	打	安	点
④	3	0	0
⑥	4	1	0
⑧	4	1	0
③	4	1	1
Ｄ	4	1	1
⑤	4	2	0
⑨	3	2	0
②	4	2	1
⑦	3	2	0
計	31	8	3

日紙石巻	打	安	点
Ｄ	4	1	0
⑨	4	2	0
⑦	4	2	0
Ｈ	4	1	0
③	3	0	0
⑥	4	0	0
②	4	2	0
Ｒ	4	0	0
⑧	4	1	0
④	4	1	0
⑤	4	3	0
計	33	7	0

室	6	4	0	1	1	5	1	0	1
石	3	2	0	0	0	1	0	0	1

	責	安	回	手					
投岩	0	7	9	崎					
生	3	6	7	長					
秋	0	1	1	田					
川	0	1	1	合					

▽本塁打　林（生嶋）▽二塁打　小石（大松間）▽時間　２時21分

たが、後半は無安打に終わった。

日鉄室蘭岩崎完封 石巻7安打実らず

日本製鉄室蘭シャークス（1勝）
200 000 100 3
000 000 000 0
日本製紙石巻（1敗）

日鉄室蘭は一回、大石の二塁打や船曳の中前打で先制。七回には小林がソロを放った。先発の岩崎は単打のみの被安打7で完封した。

○…石巻市民球場…○

七十七銀行打線活発 日本新薬好機作れず

▽Cブロック
七十七銀行（1勝）
103 002 04 10
000 000 10 1
日本新薬（1敗）

（八回コールド）

七十七銀行は八回、3連続適時打で突き放すなど、好機に打線がつながった。日本新薬は相手先発の後藤に抑えられ、1点を返すにとどまった。

TDK3連続二塁打 北ガス好機に打てず

▽Aブロック
北海道ガス（1敗）
000 001 000 1
000 100 20× 3
TDK（1勝）

TDKは同点の七回、7番三浦から奥村、夏井の3連続二塁打で2点を勝ち越した。北海道ガスは走者を出すものの、打線につながりを欠いた。

伏木3投手零封 NTT東4安打

▽Cブロック
伏木海陸運送（1勝）
000 100 000 1
000 000 000 0
NTT東日本（1敗）

伏木海陸運送は四回2死一塁から、牧田の右中間を破る二塁打で決勝点を挙げた。投げては三宅以下、3投手のリレーで、NTT東打線を4安打で零封した。

七十七銀行

		打	安	点
⑨	河田	2	1	0
⑥	石崎	3	1	1
⑦	大上	1	0	0
D	宮井	3	2	2
②	三本	4	3	1
⑧	石川	3	2	1
⑤	根田	3	1	1
③	長谷	4	2	3
④	熱葉	2	2	2
H4	千松	2	0	0
	尾	0	0	0
	計	28	11	10

日本新薬

		打	安	点
⑧	銘路	4	1	1
⑤	舘柳	4	0	0
⑥	本橋	4	0	0
③	田濱	4	0	0
D	口植	3	0	0
H	江田	3	0	0
⑦	田中	3	1	0
⑨	林川	3	1	0
②	川原	3	2	0
H2	藤原	3	1	0
④	後高	3	1	0
	計	32	6	1

	七	十	七	銀	行	併
	6	5	3	2	2	0
	振	球	犠	盗	残	併
日	9	0	0	0	7	1

	責	安	回	手	投
投後渋	1	5	⅔	藤	手
	0	1	2	谷	後
戸木奥齋	6	7	⅔	根	木
	0	3	⅓	村	根
	2	2	⅓	藤	村
	1	1	⅔		齋

▽三塁打 長谷川（二）
▽二塁打 谷口、墨崎（投）、戸根川、大石（暴投）
▽2時間21分

北海道ガス

		打	安	点
⑥	武	3	1	0
⑨	井田	4	1	0
④	栗邊	4	1	0
⑤	田橋	3	1	0
H5	川賀	4	1	0
⑦	田中	4	2	1
⑧	藤	4	2	0
③	長浅	4	1	0
D	寺田	2	1	0
②	佐	0	0	0
H		0	0	0
	計	33	8	1

TDK

		打	安	点
⑧	北	4	0	0
⑤	畠田	3	0	0
H5	太口	1	0	0
⑨	関江	3	0	0
D	深田	4	1	0
⑦	齋川	4	0	0
④	打木	4	1	0
③	青村	3	2	1
②	植浦	3	2	1
⑥	三村	2	1	1
	奥井	1	1	1
	夏	0	0	0
	計	28	7	3

	北	海	道	ガ	ス	併
	2	3	0	1	0	1
	振	球	犠	盗	失	併
T	6	2	2	0	0	2

	責	安	回	手	投
投村武	3	7	⅓	上	村
	0	0	⅔	笠	武
小阿佐田	1	6		島	小
	0	1		部	阿
	0	1		藤	佐
	0	1		中	田

▽二塁打 川村、奥井、夏浦（植村、三井）
▽2時間21分

伏木海陸

		打	安	点
⑧	荒	3	0	0
⑥	木	3	0	0
⑨	竹	3	1	0
⑤	番	4	0	0
③	牧	4	1	0
④	吉	4	1	0
②	飯	4	2	1
⑦	久	3	1	1
H7	松	3	0	0
	佐	0	0	0
	池	0	0	0
	幸	0	0	0
	計	32	6	1

NTT東

		打	安	点
D	内	3	0	0
⑧	直	3	0	0
⑥	石	3	1	0
⑨	向	4	0	0
⑤	中	4	0	0
③	下	4	1	0
④	伊	4	2	1
②	保	4	1	0
⑦	井	3	1	0
H	山	1	0	0
	計	26	4	0

	伏	木	海	陸	運	併
	2	3	1	0	0	0
	振	球	犠	盗	失	併
N	5	4	3	1	0	0

	責	安	回	手	投
投三山西	0	4	⅓	宅	手
	0	0		田	宅
	0	0	⅔	納	田
長紫山上	1	3		保	久
	0	1	⅔	藤	
	0	1	⅓	内	
	1	1	⅓	出	

▽二塁打 牧田、伊東
▽2時間20分

◇**第2日**（5月11日）
（予選リーグ）
○…仙台市民球場…○

フロンティア逃げ切る JR東北は失策に泣く

▽Dブロック
オールフロンティア（1勝）
120 000 100 4
002 001 000 3
JR東日本東北（1敗）

オールフロンティアは七回、敵失で出た喜屋武が二盗を決め、さらに一塁手の失策でホームに還り決勝点を奪った。JR東北は先発の竹本が四回以降、立ち直っただけに痛いミスとなった。

NTT東丸山同点ソロ 九回は互いに満塁逃す

▽Cブロック
七十七銀行（1勝1分け）
000 011 000 2
000 001 010 2
NTT東日本（1敗1分け）

NTT東日本は六回に直井の二塁打で追い上げ、八回に代打の丸山が同点のソロを放った。九回はともに2死満塁の好機を作ったが、後が続かなかった。

日本新薬コールド勝ち 15安打12打点の猛攻

日本新薬（1勝1敗）
207 130 0 13
100 001 0 2
伏木海陸運送（1勝1敗）

（七回コールド）

日本新薬が序盤から猛攻を仕掛け、三回には根路銘が走者一掃の三塁打を放つなど、計15安打でコールド勝ち。伏

木海陸連送は投手陣が粘れなかった。
○…石巻市民球場…○

バイタル逆転勝ち 松田が1失点完投

▽Dブロック
大阪ガス（1敗）
010 000 000 1
000 030 01× 4
バイタルネット（1勝）
バイタルネットは五回、吉浦と西浦の適時打などで3点を挙げて逆転。先発の松田が犠飛で1点は先制されたものの、その後は安定した投球で完投勝ちした。

TDK齋田先制適時打 トヨタ東は打線振るわず

▽Aブロック
TDK（2勝）
002 100 000 3
000 010 000 1
トヨタ自動車東日本（2敗）
TDKは三回1死満塁から齋田の右前打で2点を先制。四回には兼子がソロを放った。
トヨタ東日本は2番手の齋藤が5回を無安打に抑えたが、打線が沈黙した。

三菱重工E二塁打6本 北海道ガス5安打のみ

北海道ガス（2敗）
000 000 000 0
220 020 00× 6
三菱重工East（2勝）
三菱重工Eは一回、中山と汐月の連続適時打で先制すると、二回にも中山が適時二塁打を放つなど、中山の3本を含む6二塁打で突き放した。
北海道ガスは九回無死一、二塁の好機を作ったが、後続がなかった。

◇第3日（5月12日）
（予選リーグ）
○…仙台市民球場…○

大阪ガス三井先制3ラン フロンティア好機のがす

▽Dブロック
大阪ガス（1勝1敗）
031 010 02 7
000 000 00 0
オールフロンティア（1勝1敗）
（八回コールド）
大阪ガスは二回、三井の3ランで先制すると、八回には橋本の三塁打や清水の右前打で2点を挙げゴールド勝ち。
オールフロンティアは7安打も、つながりを欠いた。

オール

		打	安	点
⑧	森	4	1	0
	岡	1	0	0
H9	川	1	0	0
⑦	屋	3	0	1
⑨8	武	4	0	0
③	嶋	4	0	0
⑤	石	4	0	0
	原	4	2	0
D	関	2	1	0
HD	笹	1	0	0
⑥	本	4	1	0
④	根	4	1	0
②	見	4	1	2
	鶴			
	原			
	島			
	田			
	計	35	7	3

JR東東北

		打	安	点
⑤6	浦	4	3	0
④5	林	4	2	2
⑨	工	3	0	0
⑧	藤	4	0	0
D	金	4	0	0
③	橋	4	0	0
⑦	鈴	4	0	0
R	木	4	0	0
⑥	大	2	0	0
H4	小	2	1	0
②	山	2	1	0
	本			
	小			
	山			
	鷹			
	計	33	9	2

オ	5	1	1	2	0	6	2
	振	球	犠	盗	失	残	併
J	4	2	0	0	2	5	0

投	手	回	安	責
手	島	6	7	3
川	遣	1	0	0
落	合	2	2	0
竹	本	9	7	3

▽二塁打　島田、工藤、浦林、丸山
▽暴投　落合▽2時間11分

七十七銀行

		打	安	点
⑨	河	4	1	0
⑥	大	4	2	0
⑦	宮	5	1	0
D	三	3	0	0
②	石	2	0	0
R2	越	1	0	0
⑧	根	4	2	0
⑤	長	3	0	0
③	熱	3	1	1
④	松	3	1	0
	谷			
	田			
	尾			
	計	32	8	1

NTT東

		打	安	点
⑧	直	4	2	1
⑥	石	4	0	0
D	内	4	1	0
⑨	向	3	0	0
R	伊	0	0	0
⑤	東	2	0	0
H5	村	1	0	0
H	ノ	0	0	0
H	浦	0	0	0
③	原	4	0	0
④	川	2	0	0
H4	光	2	0	0
②	山	1	1	0
⑦	坂	2	0	0
	池			
	火			
	道			
	下			
	伊			
	東			
	丸			
	保			
	井			
	上			
	計	31	6	2

七	8	6	1	0	1	10	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
N	5	3	1	1	0	6	1

投	手	回	安	責
柴	崎	7⅔	6	2
庭	田	1⅓	0	0
寺	嶋	6	6	2
多	田	3	2	0

▽本塁打　熱田（柴崎）丸山（寺嶋）
▽二塁打　松尾、直井2
▽暴投　寺嶋2
▽2時間41分

日本新薬

		打	安	点
⑤6	高	3	1	0
⑧	根	5	2	1
⑥	橋	3	2	1
H3	大	2	1	0
③	濱	2	2	0
35	柳	1	0	0
DHD	植	3	1	0
HD	舩	0	0	0
H	大	1	0	0
⑦	若	4	3	0
⑨	西	4	2	1
9	梅	1	1	1
②	笹	3	1	2
H2	後	1	0	0
④	田	3	0	0
	原			
	銘			
	本			
	畑			
	田			
	舘			
	田			
	曳			
	橋			
	林			
	川			
	田			
	原			
	藤			
	中			
	計	34	15	12

伏木海陸

		打	安	点
⑧	荒	3	1	0
⑥	木	2	1	0
⑨	竹	3	1	0
⑤	番	3	1	1
⑦	牧	2	1	1
④	島	1	0	0
H4	井	1	0	0
H3	青	1	0	0
HD	吉	2	0	0
③4	久	3	0	0
②	幸	2	0	0
2	松	1	0	0
	村			
	内			
	場			
	田			
	田			
	保			
	明			
	計	24	5	2

日	1	7	0	2	0	7	2
	振	球	犠	盗	失	残	併
伏	1	3	0	0	1	4	2

投	手	回	安	責
遠	藤	5	3	1
小	松	1	2	1
山	上	1	0	0
藤	原	2⅓	6	3
黒	田	⅓	2	3
高	橋	1⅓	6	5
與	座	3	1	1

▽本塁打　若林（高橋）
▽三塁打　銘路2
▽木笹原、根二塁打村
▽2時間13分

大阪ガス

		打	安	点
D	三	4	0	0
⑤	吉	4	1	0
⑧	橋	4	0	0
⑨	清	3	1	0
⑦	山	4	1	0
③	花	3	0	0
④	峰	3	2	1
②H2	高	2	1	0
⑥	島	2	0	0
H	石	1	0	0
R6	杉	0	0	0
	井			
	澤			
	水			
	川			
	本			
	下			
	橋			
	高			
	袋			
	橋			
	内			
	計	30	6	1

バイタル

		打	安	点
⑧	吉	3	2	1
⑤	西	4	2	1
⑥	津	4	0	0
D	浪	3	1	0
R7	松	3	0	0
③	大	4	1	0
⑦9	小	3	2	0
⑨	新	3	0	1
H	村	0	0	0
1	松	0	0	0
②	菅	0	0	0
④	後	4	1	0
	浦			
	浦			
	田			
	川			
	井			
	田			
	井			
	藤			
	計	28	6	3

大	9	1	2	0	1	5	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
バ	6	6	1	0	1	7	0

投	手	回	安	責
本	間	4⅔	4	2
稲	垣	3	2	1
執	行	⅓	0	0
松	田	9	6	1

▽二塁打　吉澤、山川、西浦
▽2時間29分

TDK

		打	安	点
⑧	北	4	1	0
⑦	畠	4	1	0
⑨	田	4	1	2
D	川	3	0	0
④	村	4	0	0
③	浦	3	0	0
②	子	4	1	0
⑤	藤	3	0	0
⑥	井	2	0	0
	太			
	齋			
	打			
	植			
	三			
	兼			
	伊			
	夏			
	計	31	4	3

トヨタ東

		打	安	点
⑥	佐々木	4	2	0
④	佐々木	4	0	0
⑤	齋藤	3	0	0
⑨	植	4	0	0
③	瀬	4	1	0
D	田	3	0	0
②	根	3	0	0
⑦	山	4	1	0
⑧	瀬	2	1	1
	麗			
	一			
	大			
	本			
	戸			
	中			
	来			
	崎			
	川			
	計	31	5	1

T	3	2	0	0	1	4	2
	振	球	犠	盗	失	残	併
ト	6	4	0	2	2	7	1

投	手	回	安	責
藤	井	6	3	0
川	原	⅓	1	0
高	森	⅔	1	0
佐	藤	1	0	0
田	中	1	0	0
古	原	4	4	3
齋	藤	5	0	0

▽本塁打（古川原）
▽2時間12分

バイタル終盤突き放す JR東北痛い押し出し

バイタルネット（2勝）
000 100 004 5
000 010 000 1
JR東日本東北（2敗）

バイタルネットは同点の九回2死満塁から、2連続四球と大橋の適時打で4点を挙げた。JR東北は相手の継投に抑えられ、5安打に終わった。

日本新薬先制攻撃 NTT東痛い四球

▽Cブロック
NTT東日本（2敗1分け）
000 021 000 3
220 000 00× 4
日本新薬（2勝1敗）

日本新薬は一回、3連続四球から敵失などで2点を挙げ、二回にも田中の二塁打などで主導権を握った。NTT東も1点差に迫ったが、最後は日本新薬の戸根に抑えられた。

○…石巻市民球場…○

ヤマハ矢幡がサヨナラ打 日鉄室蘭九回追いつくも

▽Bブロック
日本製鉄室蘭シャークス（1勝1敗）
000 001 001 2
001 010 001 3
ヤマハ（2勝）

ヤマハは九回、安打の土山をバントで二塁へ送り、代打の矢幡が右中間を破ってサヨナラ勝ち。日鉄室蘭は九回、大石のソロで追いついたが、粘りもここまで。

七十七銀行長打攻勢 伏木海陸後半打てず

▽Cブロック
七十七銀行（2勝1分け）
001 100 300 5
000 200 000 2
伏木海陸運送（1勝2敗）

七十七銀行は七回、河田の二塁打や宮崎の三塁打で勝ち越し、2番手後藤の好投で勝利をつかんだ。伏木海陸運送は3番手西納が、かわりばなに捕まったことが誤算。

北海道ガス

		打	安	点
⑨	菱小	2	1	0
④	田栗	4	0	0
⑥	井藤	3	1	0
H⑤	武佐	3	1	0
H⑦	渡竹	3	1	0
⑧	高長	4	1	0
③	谷浅	3	0	0
DHD	堀田	4	2	0
②	安田	1	0	0
H	寺中	2	0	0
2	田林	0	0	0
	計	30	5	0

三菱重工E

		打	安	点
④	矢	3	0	0
⑤	中野	4	4	2
5	中山	0	0	0
⑦	汐前	4	2	2
D	小月	3	1	1
HD	菅柳	1	0	0
⑧	武八	4	1	0
8	田戸	3	0	0
⑨	江越	3	0	0
9	白石	1	0	0
③	印出	3	2	0
3	田所	0	0	0
②	対馬	2	1	1
H	久木	1	0	0
2	友田	1	0	0
⑥	川久保	1	0	0
H6	江越	2	0	0
	計	33	11	6

	7	4	0	1	0	7	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
三	3	2	1	2	0	6	0

投	手	回	安	責
北	島	4	⅔	3
	畑		⅓	1
長	谷		⅔	0
大	城	3		2
本	間	5		1
大	野	1		1
畠	中	1		1
関	谷	2		2

▽二塁打 高橋、中山3、印出、汐月、小柳▽2時間31分

大阪ガス

		打	安	点
D	梶	5	0	0
⑤3	吉田	3	1	0
⑧	橋澤	5	2	1
⑨	清本	4	3	1
③	山水	4	3	0
R5	杉川	5	0	0
⑦	三内	4	4	3
R7	山井	4	0	0
④	峰本	4	1	0
②	戸下	4	1	1
⑥	島高	2	0	1
	計	36	15	7

オール

		打	安	点
⑧	森岡	3	0	0
H	利根	1	1	0
2	古川	1	0	0
⑦	喜屋	3	1	0
⑨8	高嶋	5	0	0
③	石原	4	0	0
⑤	関子	2	0	0
H	金笹	1	0	0
D	本	3	2	0
⑥	鶴見	3	1	0
④	原島	3	0	0
②	田田	2	1	0
H	吉中	1	1	0
R9	田川	0	0	0
	計	31	7	0

大	2	6	1	2	1	12	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
オ	4	2	0	1	0	8	0

投	手	回	安	責
小	松	8	7	0
落	合	1	⅓ 4	3
下	間	1	1	1
山	崎	1	⅔ 2	0
志	水	3	4	1
藤	下	1	4	2

▽本塁打 三井（落合）▽三塁打 吉橋本▽二塁打 吉澤、橋本、清水▽2時間31分

バイタル

		打	安	点
⑧	吉	5	1	0
⑤	西	3	0	0
R5	松	0	0	0
⑥	村	4	2	2
D	津	5	0	1
③	浪	4	1	1
⑦	大	5	1	2
⑨	小	5	1	2
②	新	4	0	0
H2	菅	3	0	0
④	宮	1	0	0
H	高	3	1	0
4	後	0	0	0
	三南			
	計	34	8	5

JR東北

		打	安	点
⑤	浦	4	0	1
④	工	3	1	0
⑨	金	3	0	0
H9	大	3	0	0
⑧	橋	3	1	0
D	鈴	3	1	0
③	大	3	2	0
3	瀬	2	0	0
⑦	丸	3	1	0
⑥	小	2	0	0
②	小	4	1	0
	計	29	5	1

バ	5	6	2	0	0	10	2
	振	球	犠	盗	失	残	併
J	8	5	2	0	1	8	0

投	手	回	安	責
江	村	7	⅓ 3	1
齋	藤	1	⅔ 2	0
早	坂	6	5	1
浦	野	1	2	0
佐	藤	1	⅓ 0	2
津	髙		⅓ 0	0
工	藤		⅔ 1	1
川	村		⅓ 0	0

▽二塁打 吉浦、津田▽3時間4分

NTT東

		打	安	点
D	火	5	1	0
⑧	直	5	2	1
⑥	石	5	2	1
⑨	向	5	0	0
③	下	4	1	0
⑤	池	2	1	0
R⑤	伊	0	0	0
④	伊	0	2	0
H	丸	0	0	0
②	保	2	0	0
⑦	井	3	2	0
H	佐	1	0	0
7	山	0	0	0
	ノ浦			
	井			
	計	34	9	2

日本新薬

		打	安	点
⑤	高	2	0	0
⑧	根	2	0	0
⑥	橋	3	1	1
③	濱	3	1	0
R3	柳	0	0	0
D5	植	3	0	0
DHD	舩	1	0	0
⑦	若	4	0	0
⑨	西	3	1	0
②	笹	2	1	0
④	田	3	2	1
	原路			
	銘			
	本			
	舘			
	田			
	曳			
	林			
	川			
	原			
	中			
	計	26	6	2

N	7	4	2	1	1	10	2
	振	球	犠	盗	失	残	併
日	6	6	1	0	0	5	0

投	手	回	安	責
吉	松	⅔	0	2
	堀	1	⅔ 3	2
山	内	3	⅓ 1	0
多	田	1		0
紫	藤	2		2
木	下	5	6	2
藤	本		⅓ 1	1
木	村		⅓ 0	0
齋	藤	1	⅓ 1	0
戸	根	2	1	0

▽二塁打 直井、ノ浦、下川、池本、田中▽暴投木村2▽2時間42分

日鉄室蘭

		打	安	点
④	青	4	2	0
⑥	松	3	0	1
⑧	松	4	1	1
③	大	4	1	1
DRD	船	3	0	0
⑤	鹿	3	0	0
⑨	小	4	0	0
②	小	2	0	0
H2	西	2	1	0
⑦	佐	3	0	0
	木嶋井石曳野林黒原川木田 々前			
	計	31	6	2

ヤマハ

		打	安	点
⑧	西	4	0	0
H	矢	1	1	0
③	秋	4	1	0
⑦	網	4	0	0
⑤	谷	4	0	0
④	川	4	1	0
②	濱	4	2	0
D	本	4	0	0
⑥	前	4	3	0
⑨	土	4	3	1
	村幡利森永大野山舟 山矢谷川濱本前山保久			
	計	34	8	2

日	6	1	1	1	3	4	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
ヤ	6	2	1	2	1	9	1

投	手	回	安	責
遠	藤	5	⅓ 4	1
石	澤	1	⅓ 2	0
松	田	1	⅓ 1	1
岩	崎		⅓ 1	0
金	原	8	⅓ 6	2
清	水		⅔ 0	0

▽本塁打 大石（金田）▽二塁打 石原、保田、舟前▽2時間37分

SUBARU逆転勝利 DH森下殊勲の三塁打

▽Bブロック

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
SUBARU（1勝1敗）	0	0	0	0	0	3	2	0	0	5
日本製紙石巻（2敗）	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2

SUBARUは六回2死満塁から、森下の三塁打で逆転し、小刻みな継投で逃げ切った。日紙石巻は先発の今村が好投したものの、救援陣が捕まった。

◇第4日（5月13日）
（予選リーグ）
○…仙台市民球場…○

TDK3投手零封 三菱重工E5安打

▽Aブロック

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
TDK（3勝）	0	1	0	0	0	1	1	0		3
三菱重工East（2勝1敗）	0	0	0	0	0	0	0	0		0

三菱重工East（2勝1敗）
TDKが先発鈴木ら3投手の継投で零封勝ち。二回に夏井の中前打で先制すると、八回にスクイズを決めるなど終盤にも加点した。三菱重工Eは5安打のみ。

日鉄室蘭一回先制攻撃 SUBARU零封許す

▽Bブロック

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
SUBARU（1勝2敗）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本製鉄室蘭シャークス（2勝1敗）	4	0	0	0	0	1×				5

日鉄室蘭は一回1死満塁から、犠飛や敵失などで4点を先制。八回には船曳が貴重なソロを放った。SUBARUは小刻みな継投に打線が封じられた。

トヨタ東初勝利 瀬戸サヨナラ打

▽Aブロック

七十七銀行

	打	安	点
⑨ 河田	5	1	1
⑥ 大宮	4	1	1
⑦ 三崎	4	1	2
D 上谷	2	0	0
⑤ 長川	5	0	0
⑧ 根本	4	1	0
③ 熱田	3	1	1
② 越村	4	1	0
④ 松尾	3	2	0
計	34	8	5

伏木海陸

	打	安	点
⑧ 荒井	5	0	0
⑥ 木村	5	2	0
⑨ 竹内	3	1	0
⑤ 番場	4	1	0
⑦ 牧田	4	1	0
④ 島	4	2	2
D 吉田	2	0	0
HD 青木	1	0	0
H 松田	1	0	0
③ 久保	2	0	0
H 飯嶌	0	0	0
② 幸明	3	1	0
計	34	8	2

	七	6	5	2	2	0	9	1
	振	球	犠	盗	失	残	併	
伏	7	4	0	2	1	9	0	

	投	手	回	安	責
洪	谷		3⅔	5	2
後	藤		5⅓	3	0
三	宅		5⅓	3	2
山	田		⅔	1	1
西	納		3	4	2

▽三塁打 宮崎▽二塁打 河田▽暴投 渋谷、後藤、間 2▽2時 三宅
56分

SUBARU

	打	安	点
④ 日置	5	1	0
⑦ 藤原	4	1	0
⑨ 山田	4	2	1
③ 外根	4	1	1
⑧ 老川	4	0	0
H 8 海里	4	0	0
⑥ 江山	2	1	0
H 6 中下	2	0	0
D 秋藤	3	3	3
② 森後	3	4	1
⑤ 横瀬	4	1	0
計	36	11	5

日紙石巻

	打	安	点
⑨ 小林 俊	4	2	0
⑧ 今野	5	2	0
⑦ 水野	4	0	0
H 小林 尚	1	0	0
D 東本	2	0	0
RD 松本	0	0	0
HD 小野	1	0	0
③ 佐藤	4	0	0
⑤ 丹呉	3	1	0
R 5 小田倉	1	0	0
④ 橋本	4	2	0
4 田中	0	0	0
② 坂口	2	1	2
⑥ 杉山	3	1	0
H 6 宮川	1	0	0
計	35	9	2

	S	7	5	1	2	2	10	2
	振	球	犠	盗	失	残	10	併
石	8	4	0	1	1	1	10	1

	投	手	回	安	責
山	本		5⅔	8	2
三	浦		1	0	0
手	塚		2	1	0
小	澤		1	0	0
今	村		5	⅓ 5	2
小	寺			⅓ 0	0
相	内			⅓ 1	1
鈴	木		1	3	2
星	野		1	1	0
川	合		1	1	0

▽三塁打 森下▽暴投 三浦▽捕逸
坂口▽3時間21分

TDK

	打	安	点
③ 三浦	4	3	1
⑧ 太田	4	0	0
⑨ 齋田	3	2	0
D 打川	2	0	0
⑤ 深江	2	0	1
④ 植村	3	1	0
⑦ 関口	4	2	0
② 奥村	3	0	0
⑥ 夏井	4	1	1
計	29	9	3

三菱重工E

	打	安	点
④ 矢野	4	0	0
⑤ 中山	3	0	0
R 5 南	0	0	0
⑦ 汐月	4	2	0
D 小柳	4	0	0
⑧ 武田	4	0	0
⑨ 江越海	4	1	0
③ 印出	3	0	0
② 対馬	3	1	0
⑥ 川久保	2	0	0
H 6 江越啓	1	1	0
計	32	5	0

	T	6	3	4	0	0	6	1
	振	球	犠	盗	失	残	6	併
三	5	1	0	0	0	6	0	

	投	手	回	安	責
鈴	木		7⅔	5	0
阿	部		⅓	0	0
田	中		1	0	0
森			5	6	1
長	島		2⅓	3	2
野	中		1⅔	0	0

▽二塁打 三浦
齋田、汐月2▽捕逸
逸奥村▽2時間
16分

SUBARU

	打	安	点
⑦ 江川	3	0	0
④ 横山	2	0	0
H 4 里	1	0	0
⑨ 田中	4	0	0
D 山玉	3	2	0
③ 川下	3	2	0
⑧ 場出	4	1	0
⑤ 森馬	3	0	0
② 新上	2	0	0
⑥ 田	3	0	0
計	31	6	0

日鉄室蘭

	打	安	点
④ 青木	2	0	0
⑥ 松嶋	4	2	0
⑧ 松永	3	1	0
H 9 大	4	1	0
③ 船小	3	1	2
D 林黒	3	0	0
⑤ 石原	4	0	0
⑨ 8 小前	3	1	1
② 田	2	0	0
⑦			
計	29	6	3

	S	4	4	0	2	2	8	0
	振	球	犠	盗	失	残	8	併
日	11	5	1	0	1	6	1	

	投	手	回	安	責
田	嶋		⅔	3	1
渡	部		⅓	0	0
三	浦	3		2	0
阿	部	3		0	0
川	上	1		1	1
石	澤	3		2	0
細	川	3		2	0
山		1		0	0
松	田	2		2	0

▽本塁打 船曳（川上）▽2時間
24分

北海道ガス

	打	安	点
⑨ 菱田	5	1	1
⑥ 武井	4	1	0
④ 3 栗邊	4	0	0
⑤ 小渡	4	2	0
H 5 安田	2	2	0
⑦ 高橋	3	3	1
⑧ 谷長	4	1	1
③ 浅賀	4	3	0
H 2 堀田	3	1	0
D 中林	0	0	0
D 佐藤	0	2	0
② 東海	3	2	0
R 4 竹林	3	0	0
計	33	8	3

トヨタ東

	打	安	点
⑦ 山崎	5	3	0
⑤ 齋藤大	3	1	1
D 瀬戸	5	2	2
⑨ 植本	3	0	0
⑥ 佐々木麗	4	1	0
③ 渡部	3	0	0
R 3 夷塚	0	0	0
② 根来	3	3	0
④ 佐々木一	4	0	1
⑧ 瀬川	4	0	0
計	34	10	4

	北	4	3	1	0	0	7	0
	振	球	犠	盗	失	残	10	併
ト	5	4	1	3	0	10	0	

	投	手	回	安	責
海	老原		2	3	1
武	笠		4⅔	5	2
長	谷		⅓	0	0
村	上		1⅓	2	1
小	田		6	6	3
中	村		1	0	0
齋	藤智		2	2	0

▽本塁打 高橋大（小田）齋藤二（武笠）▽三塁打 山川、武井、長谷、佐々木麗、投崎2、瀬戸、根来▽暴投 村上▽2時間30分

北海道ガス（3敗）

	020	001	000	3
	011	010	001	4

トヨタ自動車東日本（1勝2敗）

トヨタ東日本は九回1死二、三塁から、3番瀬戸の内野安打でサヨナラ勝ちし、初勝利を挙げた。北海道ガスは終盤、走者を出すものの打線がつながらなかった。

○…石巻市民球場…○

大阪ガスが逃げ切る JR東北打線振るわず

▽Dブロック

JR東日本東北（3敗）

	000	100	001	2
	010	010	10×	3

大阪ガス（2勝1敗）

大阪ガスは二回、清水のソロで先制。七回には三井の二塁打で突き放した。JR東日本は四回にいったんは追いつき、九回も粘りを見せたが届かなかった。

ヤマハ無安打で同点 石巻ミスで初勝利逃す

▽Bブロック

ヤマハ（2勝1分け）

200	020	010		5
100	030	100		5

日本製紙石巻（2敗1分け）

日本製紙石巻は七回、坂口のソロで勝ち越したが、ヤマハも八回、3四球による2死満塁から、暴投で追いついた。

バイタル平井が完投 フロンティア及ばず

▽Dブロック

オールフロンティア（1勝2敗）

001	000	000		1
002	000	00×		2

バイタルネット（3勝）

バイタルネットは三回、津田と浪川の連続適時打で逆転し平井が被安打7で完投した。オールフロンティアも、投手陣が被安打3に抑えたが、打線が振るわなかった。

JR東北

	打	安	点
⑥	浦	2	0
⑤	小	0	0
H	金	0	0
⑧	橋	1	0
⑦	丸	4	1
⑨	大	4	1
③	瀬	2	0
D	野	0	0
H	古	0	0
④	山	0	0
②	佐々木	0	0
	計	28	3

J振	2	1	2
大	5	1	1

	回	安	責
投 手	6	2	2
武 田	1	2	1
浦 野	1	1	0
川 村			

秋 山	6	⅓ 2	1
		⅓ 0	0
執 林		⅓ 0	0
稲 垣	2	1	1

▽本塁打 清水（武田）
▽二塁打 三井2
浦時間5分

大阪ガス

	打	安	点
D	山	2	0
H	石	2	0
D	吉	3	1
⑤	橋	0	0
⑧	澤	4	1
⑨	本	3	1
③	水	1	1
3	川	3	1
⑦	本	0	0
7	井	3	1
④	屋	0	0
②	下	2	0
⑥	橋	0	0
H	袋	1	0
6	高内	0	0
	計	28	5

振	2	球	1
盗	1	犠	1
失	0	残	3
併	2	0	

	回	安	責
投 手	6	4	2
沢 田	1	2	1
波 野	1	1	0
佐 村			

有 本	2	0	0
		⅔ 1	0
塚 本	5	5	3
		⅔ 1	0
小 野	1	⅓ 0	0
小 寺		⅓ 0	1
柳 沼		⅓ 0	0
相 内		⅔ 0	0
秋 田	1	⅔ 1	0

▽本塁打 村（沢）
（塚本）杉山（佐藤）
（坂口）西村（田）
▽二塁打 秋山、11分
暴投 ▽3時間

ヤマハ

	打	安	点
⑧	西	2	0
9	舟	0	0
D	秋	0	0
R	野	0	1
H	笠	0	0
⑦	網	0	0
③	森	0	0
3	藤	0	0
⑤	永	1	0
⑨	前	0	0
H	桃	0	0
②	中	0	0
2	清	0	0
⑥	高	0	0
④	相	0	0
5	土	0	0
	小	0	0
	計	33	7

振	4	球	6
盗	2	犠	0
失	2	残	6
併	0		

	回	安	責
投 手	5	6	3
沢 山	1	0	1
波 野		1	0
佐 藤		⅓ 0	0
寺 沢		⅔ 0	0
有 本	2	0	0

塚 本	5	5	3
小 野		⅔ 1	0
小 寺	1	⅓ 0	0
柳 沼		⅓ 0	1
相 内		⅔ 0	0
秋 田	1	⅔ 1	0

▽本塁打 打（沢）
（塚本）杉（佐藤）
（坂口）西（田）
▽二塁打 山、秋
投 ▽3時間11分

日紙石巻

	打	安	点
⑨	小	0	0
9	松	0	0
H	田	0	1
⑦	金	2	1
⑧	今	1	0
D	東	0	0
H	中	0	0
③	佐	1	0
④	橋	1	0
⑥	杉	1	2
②	水	1	1
2	坂	1	0
⑤	小田	1	0
	計	33	7

振	10	球	4
盗	2	犠	1
失	2	残	6
併	0		

	回	安	責
投 手	5	3	2
沢 山	1	0	0
波 野		1	0
佐 藤		⅓ 0	0
寺 沢		⅔ 0	0
有 本	2	0	0

塚 本	5	5	3
小 野		⅔ 1	0
小 寺	1	⅓ 0	0
柳 沼		⅓ 0	1
相 内		⅔ 0	0
秋 田	1	⅔ 1	0

▽本塁打 打（沢）
（塚本）杉（佐藤）
（坂口）西（田）
▽二塁打 秋山、11分
暴投 ▽3時間

オール

	打	安	点
⑧	森	2	1
H	原	0	0
D	利	0	0
H	山	0	0
⑨	高	0	0
③	石	0	0
4	飯	0	0
⑤	田	0	0
H	喜	0	0
⑦	辻	0	0
R	鶴	0	0
⑥	吉	0	0
9	金	0	0
④	古	0	0
2	藤	0	0
	計	29	7

振	3	球	1
盗	0	犠	1
失	0	残	3
併	2		

	回	安	責
投 手	3	2	2
問 三	1	0	0
岡 小	1	0	0
川			

平 井	9	7	1

▽1時間47分

バイタル

	打	安	点
⑧	浦	0	0
H	井	0	0
8	本	0	0
⑤	浦	0	0
⑥	田	1	1
D	川	1	1
③	橋	0	0
⑦	川	0	0
⑨	井	0	0
②	井	0	0
④	藤	0	0
	計	25	3

オ振	0	球	1
バ	3	犠	1
		盗	0
		失	0
		残	3
		併	2

	回	安	責
投 手	3	2	0
問 三	2	0	0
岡 小	1	1	0
川	1	1	0
平 井	9	7	1

▽1時間47分

ヤマハ小林走者一掃打

TDK3安打完投許す

◇最終日（5月14日）

（決勝トーナメント）

○…石巻市民球場…○

▽準決勝

TDK			
	001	000	000	1
ヤマハ	000	001	50×	6

ヤマハは六回に犠飛で追いつき、七回には1死満塁から小林の三塁打などで一挙5点を勝ち越した。先制したTDKだが、四回以降の走者は一人だけで、ヤマハの佐藤に完投を許した。

バイタル逃げ切る

七十七銀行届かず

七十七銀行			
	000	000	002	2
バイタルネット	000	002	01×	3

バイタルネットは六回、小川の2点三塁打で先制。八回には津田がソロを放った。九回、七十七銀行の三上の二塁打で1点差に迫られたが、救援の齋藤が抑えた。

ヤマハ小刻みに追加点

バイタル投手陣持たず

▽決勝

ヤマハ	3	0	0	1	0	0	1	1	7
バイタルネット	0	0	0	0	0	3	0	0	3

ヤマハは一回、敵失に乗じて先制すると、九回に森川がソロを放つなど、終盤にも小刻みに加点した。バイタルネットは六回、小川の走者一掃の三塁打で追い上げたが、投手陣が踏ん張れなかった。

㊧…表彰選手…㊨

◇**最高殊勲選手賞**
網谷圭将・外野手（ヤマハ）

◇**敢闘賞**
小川凌二・外野手（バイタルネット）

◇**首位打者賞**
土山翔生・内野手（ヤマハ）＝15打数8安打、打率5割3分3厘

TDK

	打	安	点
③ 三伊 浦	4	1	0
⑧ 藤	4	1	1
⑨ 齋 田	4	1	0
D 打 川	3	0	0
⑤ 深 江	3	0	0
④ 植 村	3	0	0
⑦ 関 口	2	0	0
H7 太 田	1	0	0
② 兼 子	3	0	0
⑥ 夏 井	1	0	0
H6 坪 山	1	0	0
計	29	3	1

ヤマハ

	打	安	点
⑧ 西秋 村	5	1	0
③ 利	5	0	0
⑦ 網 谷	4	3	0
D 森 永 川	4	0	0
④ 濱	4	2	1
② 本	2	0	0
⑤ 大小 林	4	3	3
⑥ 土 山	2	1	1
⑨ 舟久保	1	0	1
計	31	10	6

T	1	0	1	0	0	0	2	0	
ヤ	5	7	3	1	0	1	1	0	

投	手	回	安	責
小	島	6	5	1
高	森		⅓ 2	4
藤	井		⅔ 2	1
高	橋	1	1	0
佐	藤	9	3	1

▽三塁打　小林▽二塁打　網谷2、小林▽暴投　小島▽2時間43分

七十七銀行

	打	安	点
⑨7 河 田	3	0	0
⑥ 大 石	3	0	0
⑦ 宮 崎	0	0	0
H9 長 田	4	1	0
D 三 上	4	1	2
⑧ 根 本	4	0	0
③ 熱 田	3	0	0
H 長 嶋	1	0	0
⑤ 長谷川	3	1	0
② 越 村	2	0	0
④ 松 尾	3	0	0
計	30	3	2

バイタル

	打	安	点
⑧ 吉西 浦浦	4	2	0
⑤	4	0	0
⑥ 津 田	4	2	1
⑦ 浪 川	3	1	0
R7 松 本	0	0	0
③ 大 橋	3	0	0
⑨ 小 川	2	1	2
D 宮 内	1	0	0
④ 後 藤	4	1	0
② 菅 井	2	0	0
計	27	7	3

七	8	3	0	0	1	4	2		
バ	5	5	3	0	1	8	0		

投	手	回	安	責
柴	崎	5	⅓ 5	2
庭	田	1	⅔ 2	1
原	田		⅔ 0	0
渋	谷	1	0	0
松	田	8	⅓ 3	2
齋	藤		⅔ 0	0

▽本塁打　津田（庭田）▽三塁打　小川▽二塁打　長谷川、三上▽2時間22分

ヤマハ

	打	安	点
⑧ 西秋 村	2	1	0
③ 利	3	2	1
⑦ 網 谷	4	2	1
D 森 川	5	1	1
④ 永 濱	4	2	1
② 大 本	4	1	0
⑤ 小 林	5	1	1
⑥ 土 山	4	1	0
⑨ 舟久保	3	1	0
計	34	12	5

バイタル

	打	安	点
⑧ 吉 浦	4	2	0
⑤ 西 浦	4	0	0
⑥ 津 田	4	0	0
⑦ 浪 川	4	2	0
③ 大 橋	2	0	0
⑨ 小 川	4	2	3
D 宮 内	3	0	0
H 松 本	1	0	0
④ 後 藤	2	0	0
H4 三 井	1	0	0
② 菅 井	3	0	0
計	32	6	3

ヤ	6	8	1	2	0	9	1		
バ	9	3	0	0	2	5	2		

投	手	回	安	責
梅	田	5 ⅔	6	3
波多野		⅔	0	0
寺	沢	⅓	0	0
清	水	1 ⅓	0	0
水	野	1	0	0
江	村	1	2	3
酒	井	4	5	1
長	岡	1	0	0
南			⅓ 2	1
齋	藤	2 ⅔	3	2

▽本塁打　森川（齋藤）▽三塁打　小川▽二塁打　永濱▽暴投　江村、酒井▽2時間46分

第55回大会・熱戦の軌跡

Aブロック	T D K	三菱重工East	北海道ガス	トヨタ自動車東日本	勝	敗	順位
T D K	㊧	○3－0	○3－1	○3－1	3	0	1
三菱重工East	●0－3	㊧	○6－0	○3－2	2	1	2
北海道ガス	●1－3	●0－6	㊧	●3－4	0	3	4
トヨタ自動車東日本	●1－3	●2－3	○4－3	㊧	1	2	3

Bブロック	日本製紙石巻	SUBARU	ヤマハ	日本製鉄室蘭シャークス	勝	敗	順位
日本製紙石巻	㊧	●2－5	△5－5	●0－3	0	2	4
SUBARU	○5－2	㊧	●4－8	●0－5	1	2	3
ヤマハ	△5－5	○8－4	㊧	○3－2	2	0	1
日本製鉄室蘭シャークス	○3－0	○5－0	●2－3	㊧	2	1	2

Cブロック	七十七銀行	NTT東日本	日本新薬	伏木海陸運送	勝	敗	順位
七十七銀行	㊧	△2－2	◎10－1	○5－2	2	0	1
NTT東日本	△2－2	㊧	●3－4	●0－1	0	2	4
日本新薬	×1－10	○4－3	㊧	◎13－2	2	1	2
伏木海陸運送	●2－5	○1－0	×2－13	㊧	1	2	3

Dブロック	JR東日本東北	大阪ガス	オールフロンティア	バイタルネット	勝	敗	順位
JR東日本東北	㊧	●2－3	●3－4	●1－5	0	3	4
大阪ガス	○3－2	㊧	◎7－0	●1－4	2	1	2
オールフロンティア	○4－3	×0－7	㊧	●1－2	1	2	3
バイタルネット	○5－1	○4－1	○2－1	㊧	3	0	1



東北大会・決勝戦一覧

	優勝チーム		準優勝チーム
第１回（昭44年）	盛岡鉄道管理局	3―0	電電東北
第２回（〃45年）	いすゞ自動車	2―1	オールド常磐
第３回（〃46年）	いすゞ自動車	4―2	大昭和北海道
第４回（〃47年）	大昭和北海道	5―1	リッカーミシン
第５回（〃48年）	三菱自動車川崎	11―0	TD K
第６回（〃49年）	鷺宮製作所	3―1	電電東北
第７回（〃50年）	鷺宮製作所	1―0	三菱重工横浜
第８回（〃51年）	電電東北	4―1	TD K
第９回（〃52年）	電電東北	3―1	電電東京
第10回（〃53年）	新日鐵釜石	4―1	愛知トヨタ
第11回（〃54年）	新日鐵釜石	6―3	住友金属鹿島
第12回（〃55年）	電電東北	2―1	サンジルシ醸造
第13回（〃56年）	三菱自動車川崎	6―3	日立製作所
第14回（〃57年）	新日鐵釜石	6―1	川崎製鉄千葉
第15回（〃58年）	住友金属鹿島	9―2	三菱重工横浜
第16回（〃59年）	電電東北	6―1	住友金属鹿島
第17回（〃60年）	三菱自動車川崎	2―1	ヨークベニマル
第18回（〃61年）	ヨークベニマル	7―5	三菱自動車川崎
第19回（〃62年）	鷺宮製作所	11―2	朝日生命
第20回（〃63年）	鷺宮製作所	5―3	日産自動車
第21回（平１年）	日本通運	5―1	NTT北陸
第22回（〃２年）	ヨークベニマル	22―1	朝日生命
第23回（〃３年）	NTT東北	4―2	大昭和製紙北海道
第24回（〃４年）	鷺宮製作所	5―3	TD K
第25回（〃５年）	川崎製鉄千葉	6―2	NTT東北
第26回（〃６年）	住友金属鹿島	18―8	NTT東北
第27回（〃７年）	朝日生命	7―3	JR東日本東北
第28回（〃８年）	三菱自動車岡崎	9―4	J T
第29回（〃９年）	日本通運	6―5	川崎製鉄千葉
第30回（〃10年）	王子製紙苫小牧	12―3	NTT東北
第31回（〃11年）	住友金属鹿島	7―5	ヤマハ
第32回（〃12年）	日本通運	10―1	J T
第33回（〃13年）	ヤマハ	4―3	七十七銀行
第34回（〃14年）	川崎製鉄千葉	7―6	住友金属鹿島
第35回（〃15年）	JFE東日本	3―2	東京ガス
第36回（〃16年）	サンワード貿易	2―1	トヨタ自動車
第37回（〃17年）	NTT東日本	5―1	松下電器
第38回（〃18年）	七十七銀行	6―1	富士重工業
第39回（〃19年）	七十七銀行	3―2	TD K
第40回（〃20年）	JR東日本東北	6―1	七十七銀行
第41回（〃21年）	三菱重工横浜	5―3	バイタルネット
第42回（〃22年）	新日本石油ENEOS	2―0	七十七銀行
第43回（〃24年）	住友金属鹿島	3―2	JR東日本
第44回（〃25年）	JX－ENEOS	10―3	新日鐵住金鹿島
第45回（〃26年）	JR東日本東北	3―1	日本通運
第46回（〃27年）	日本生命	2―0	日本製紙石巻
第47回（〃28年）	JX－ENEOS	2―1	日本製紙石巻
第48回（〃29年）	日本製紙石巻	1―0	JR東日本東北
第49回（〃30年）	NTT東日本	4―3	JX－ENEOS

※第48回・第49回は北海道大会兼として開催

第50回（令１年）	日本製鉄鹿島	10―5	日本製紙石巻
第51回（〃３年）	ヤマハ	12―4	NTT東日本
第52回（〃４年）	大阪ガス	5―2	JR東日本東北
第53回（〃５年）	日本通運	5―0	セガサミー
第54回（〃６年）	ヤマハ	10―1	バイタルネット
第55回（〃７年）	ヤマハ	7―3	バイタルネット

※平成23年は東日本大震災のため大会中止
※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

ヤマハ2度目の優勝

第66回　JABA北海道大会

明治安田を決勝で破り19大会ぶり

MVPは相羽内野手（ヤマハ）

第66回ＪＡＢＡ北海道大会は８月６日から11日まで、旭川市スタルヒン球場、モエレ沼公園野球場で行われ、ヤマハが19大会ぶり２回目の優勝を果たした。

出場16チームを４ブロックに分けて予選リーグを戦い、各１位が準決勝に進んだ。準決勝ではヤマハが５―０で日本生命に完封勝ち。明治安田も８―１の七回コールドで日立製作所を降した。決勝は終盤にヤマハが明治安田の救援陣を捉え、６―３で栄冠を手にした。

最高殊勲選手賞はヤマハの相羽寛太内野手、敢闘賞には明治安田の竹田和真投手が選ばれた。首位打者賞は明治安田の高瀬雄大内野手（16打数９安打、打率５割６分３厘）、優秀投手賞はヤマハの佐藤廉投手が獲得した。

ブロック分けは次の通り。

【Ａ】王子、日本生命、北海道ガス、茨城日産

【Ｂ】ヤマハ、航空自衛隊千歳、ＴＤＫ、テイ・エステック

【Ｃ】ＪＲ北海道硬式野球クラブ、日本製紙石巻、ミキハウス、日立製作所

【Ｄ】日本製鉄室蘭シャークス、三菱重工Ｅａｓｔ、信越硬式野球クラブ、明治安田

◇**第１日**（８月６日）（予選リーグ）

○…旭川市スタルヒン球場…○

石巻小野決勝ソロ

ＪＲ北海道４安打

▽Ｃブロック

ＪＲ北海道硬式野球クラブ（１敗）	000	000	010	1
日本製紙石巻（１勝）	010	000	01×	2

日本製紙石巻は追いつかれた直後の八回、途中出場の小野が右越えにソロを放ち、九回を４人目の生長が抑えて逃げ切った。ＪＲ北海道は４安打に終わった。

ヤマハ大本が３ラン

空自千歳反撃及ばず

▽Ｂブロック

ヤマハ（１勝）	001	130	000	5
航空自衛隊千歳（１敗）	000	010	010	2

２点を先取したヤマハは五回、大本の右越え３ランでリードを広げ、３投手の継投

JR北海道

	打	安	点
⑨	山本	1	0
⑦	大槻	1	0
Ｄ	南木	0	0
⑥	石川	0	0
③	松井	0	0
⑧	内藤	0	0
⑤	佐藤	0	0
②	北山	0	0
④	山西	0	0
Ｈ	4	1	0
計	30	4	1

日紙石巻

	打	安	点
Ｄ	林	0	0
ＨＤ	嶋	0	0
④	中山	0	0
６	野呉	0	0
⑧	田倉	0	0
⑤	野本	0	0
Ｒ５	藤口	0	0
⑦	川野	1	0
⑨	本	1	0
③２	佐坂	1	0
②	宮小	0	1
Ｈ	3	1	0
⑥４	橋	1	0
計	30	7	2

	併	残	失	盗	犠	球	振
Ｊ	0	4	0	1	0	2	9
日	0	11	1	0	1	7	7

	責	安	回
投手	1	4	3
伊藤	0	1	3
中川	1	2	2
大崎			

鈴木	0	3	⅓
小寺	0	0	⅔
秋田	0	0	1
生長	1	1	2

▽本塁打　山口（大坂）冨野（二塁打）小間（二塁打）50分

ヤマハ

	打	安	点
⑧	西村	0	0
ＤＨ	中網	0	0
⑦	前森	0	0
９	永大	0	0
③	舟相	0	0
⑤４	土	0	0
②９	久藤	0	0
⑥	村	3	0
④	利	0	1
Ｈ５	田谷	1	0
計	36	10	4

空自千歳

	打	安	点
⑦	渡辺	0	1
⑥	堀越	0	0
Ｈ６	野口	1	0
⑨８	古谷	0	0
Ｄ	岡田	0	0
⑤	佐渡	0	0
④３	金口	0	0
③	山田	0	0
Ｈ４	濱口	0	0
②	石川	0	0
Ｈ２	筏	2	1
⑧	関	0	0
Ｈ９	秋稲	0	0
計	32	5	2

	併	残	失	盗	犠	球	振
ヤ	0	15	1	3	0	11	5
空	0	5	1	1	1	1	10

	責	安	回
投手	0	1	6
佐藤	0	1	1
吉山	1	3	2
梅田			

仙本	2	3	⅓
福田	3	4	⅔
杉山	0	3	4

▽本塁打　本田（大三）打土古谷（福田）打墨羽２、仙本（筏山）二相投２時間58分

▽暴投　山口２

ミキハウス

	打	安	点
④	浦	1	2
⑥	藤原	0	0
⑨	中尾	0	0
Ｄ	井田	0	0
⑦	西上	0	0
Ｈ７	内	0	1
③	田	0	0
⑤	坂	0	0
②	菊井	0	0
⑧	大小	0	0
計	30	5	3

日立製作所

	打	安	点
⑧	沼	1	1
⑦	川	2	1
⑥	宮	1	1
⑤	内	1	1
Ｄ	下	0	0
⑨	内	0	1
③	下	0	1
④	中	0	0
４	田	0	0
②	藤	0	0
計	30	8	4

	併	残	失	盗	犠	球	振
ミ	1	8	0	1	2	6	11
日	1	4	1	0	0	2	10

	責	安	回
投手	4	7	5
桜井	0	0	⅓
仲尾	0	1	⅔
高橋	1	0	2
宮下	2	4	7
生井	1	1	2

▽本塁打　浦（生野）打田（宮下）▽二塁打　井坂（宮吉）▽暴投　下川井中▽備時　守間25分

▽暴投　本田２

で空自千歳の反撃を抑えた。空自千歳は八回、犠飛で追い上げ、なお2死二、三塁としたが、後続がなかった。

日立が六回集中打 ミキハウス届かず

▽Cブロック
ミキハウス（1敗）
000 000 210 3
000 004 00× 4

日立製作所（1勝）

日立製作所は六回、3番宮、4番谷内の連続適時打などで4点を奪い、逃げ切った。ミキハウスは終盤、田浦、坂井の本塁打で追い上げたが、一歩届かなかった。

○…モエレ沼公園野球場…○

日本生命が零封勝ち 茨城日産4安打のみ

▽Aブロック
茨城日産（1敗）
000 000 000 0
011 200 02× 6

日本生命（1勝）

日本生命は二回、池上の適時打で先制すると、三回には高田のソロ、四回には高田の適時打や犠飛で加点した。先発の谷脇以下、3投手で茨城日産を4安打に抑えた。

王子上位打線が好調 北海道ガス後続なく

▽Aブロック
北海道ガス
000 000 0 0
012 020 2 7

王子

（七回コールド）

王子は序盤から得点を重ね。七回には柴崎、廣部の連続適時打でコールド勝ち。北海道ガスもチャンスは作ったものの、後続がなく得点できなかった。

三菱重工E打線活発 日鉄室蘭投手陣崩壊

▽Dブロック
三菱重工East（1勝）
120 700 3 13
200 000 0 2

日本製鉄室蘭シャークス（1敗）

（七回コールド）

三菱重工Eは二回、川久保と対馬の連続ソロで逆転すると、四回には打者12人の猛攻で7点を奪い、試合を決めた。日鉄室蘭は一回に松井が2ランを放ったが、投手陣が打ち込まれた。

茨城日産

	打	安	点
D	西	0	0
DH⑥	久	0	0
③	佐	1	0
⑦	藤	1	0
⑤	齋	0	0
②	川	0	0
⑨	青	0	0
H9	田	0	0
⑧	小	0	0
④	小佐々岩	1	0
	計	4	0

日本生命

	打	安	点
⑧	中	1	1
⑦	松	2	0
⑥	高	2	0
⑨	竹	1	0
⑤	山	1	0
③	木	1	0
D	竹	1	0
②	三	1	0
④	池	1	0
H	早	0	0
4	梅	0	0
	計	5	1

	投	手	回	安	責
茨	高	坂	2⅔	5	2
日	大	本	1⅓	2	2
	大	西	4	8	0
	谷	脇	6	3	0
	山	本	2	1	0
	小	向	1	1	0

茨 5 1 0 0 2 3 0併
振 5 8 1 球 1 0 犠 0 盗 1 0 失 0 残 17 2併
日 振 球 犠 盗 失 残 併

▽本塁打 高田（高木）
▽三塁打 三井（中島、坂本）
▽暴投 高木（高津）
▽時間 32分

北海道ガス

	打	安	点
⑥	武	2	0
D	井	2	0
⑨	田	2	0
⑦	田	2	0
⑤	橋	3	0
⑧	邊	3	0
③	川	3	0
④	賀	3	0
②	田	2	0
H2	林	1	0
	田	0	0
	中	0	0
	計	26	0

王子

	打	安	点
⑧	柴	3	1
D	崎	2	0
DH	野	1	0
④	部	1	0
③	口	3	0
⑦	島	3	1
R7	岡	1	0
⑨	井	1	0
9	井	1	0
⑤	部	1	0
②	川	3	0
⑥	木	2	1
	田	0	0
	計	27	3

	投	手	回	安	責
北	嶋		4⅓	7	5
長	谷		1	1	0
大	城		1⅓	3	2
	樋	口	4	3	0
	宮	崎	2	3	0
	登	坂	1	0	0

北 10 2 0 0 0 7 1
振 球 犠 盗 失 残 併
王 2 8 3 2 0 11 1

▽本塁打 島（北嶋）
▽二塁打 宝田、寺島、柴崎2
▽時間 2分

三菱重工E

	打	安	点
⑥	野	1	0
⑨	戸	1	0
⑧	田	1	0
R	石	0	0
D	柳	3	1
H⑦	啓	1	0
H⑤	海	3	1
5	月	1	0
③	山	1	0
H	前	1	0
R4	出	0	0
②	菅	1	0
2	南	0	0
	久	0	0
	保	3	1
	馬	4	0
	田	0	0
	計	36	3

日鉄室蘭

	打	安	点
④	野	1	0
⑥	嶋	0	0
⑧	井	2	0
D	曳	3	0
③	石	1	0
⑤	林	0	0
H⑨	辺	0	0
9	川	0	0
②	森	1	0
H⑦	木	0	0
	田	0	0
	計	8	0

	投	手	回	安	責
三	7	振	7	7	2
日	1	球	2	0	0
	2	盗	0	0	0
	0	失	1	2	0
	1	犠	0	1	0
	1	残	4	2	0
	0	併	0	0	0
	手	間	回	安	責
投	本	安	5	6	2
	森	達	1	0	0
	澤	川	3	7	4
	崎	藤	⅓	3	5
	田	岡	⅓	2	0
			⅓	3	3
			⅓	1	0
			⅔	1	1

三 2 5 6 10 1 0
振 球 犠 残 盗 失 併
日 7 7 0 4 0 1 0

▽本塁打 宝島（北嶋）
▽二塁打 鈴木、柴崎2
▽時間 32分

◇第2日（8月7日）

（予選リーグ）

○…旭川市スタルヒン球場…○

TDK連打で先制 5投手継投で零封

▽Bブロック
TDK（1勝）
200 002 000 4
000 000 000 0

テイ・エステック（1敗）

TDKは一回1死二、三塁から連続適時打で2点を先取。六回には夏井の二塁打などでリードを広げた。テイ・エステックは5投手を繰り出したTDKの継投に、4安打に抑えられた。

ミキハウス本塁打で追加点 JR北海道追い上げ及ばず

▽Cブロック
ミキハウス（1勝1敗）
001 220 100 6
000 003 000 3

JR北海道硬式野球クラブ（2敗）

3点をリードしたミキハウスは五回、4番田中が右翼へ2ラン。七回には田浦のソロで突き放した。JR北海道は六回、大槻のソロや、3連打で2点差としたが、最後は継投にかわされた。

▽本塁打 保久（石川）
▽三塁打 海馬（間）
▽暴投 越江（本）
▽時間 対川（石）
▽二塁打 井澤（松）
▽（石）三井打 細川（澤）
▽暴投 打 対
▽時間 32分

日立森下勝ち越しソロ　日紙石巻リード守れず

日本製紙石巻（1勝1敗）
000 110 000 2
000 002 12× 5

日立製作所（2勝）

日立製作所は六回1死満塁から吉川の適時打で追いつくと、七回には森下のソロで勝ち越した。日本製紙石巻は宮川のソロなどで先行したが、救援陣が捕まった。

○…モエレ沼公園野球場…○

明治安田好機に4連打　信越野球クl1三振喫す

▽Dブロック

信越硬式野球クラブ（1敗）
000 000 0 0
100 501 × 7

明治安田（1勝）

（七回コールド）

明治安田は四回1死満塁から、4連打で5点を追加。六回には伊藤のソロでコールド勝ちした。先発の松下も6回で9三振を奪う好投を見せた。信越野球クは11三振を喫し、3安打に終わった。

王子辛くも逃げ切る　茨城日産一歩及ばず

▽Aブロック

王子（2勝）
032 100 000 6
000 004 001 5

茨城日産（2敗）

王子は二回、犠飛と連続適時打で3点を先取。三回には宝島と廣部の連続ソロで主導権を握った。茨城日産は九回、久米の三塁打で1点差に迫る粘りを見せたが、後続が連続三振に打ち取られた。

北海道ガス三回猛攻　日本生命投手陣乱れ

▽Aブロック

日本生命（1勝1敗）
002 010 120 6
206 000 00× 8

北海道ガス（1勝1敗）

北海道ガスは三回、2番菱田以下が4連打、さらに浅賀が三塁打を放つなど、計6点をリード。七回から4投手をつぎ込んで逃げ切った。日本生命は序盤の投手の乱れが響いた。

◇**第3日**（8月8日）

（予選リーグ）

○…モエレ沼公園野球場…○

明治安田手堅く加点　三菱重工Eあと一歩

王子

		打	安	点
⑧	柴崎	2	0	0
H8	大杉	2	0	0
⑤	中川	2	1	0
④	山口	3	0	1
③	宝島	3	0	0
RH7	木下	3	1	0
HD	神部	1	0	0
⑨	廣部	2	0	1
⑦	賀山	3	0	0
H7	ノ井	1	0	1
②	井川	2	0	0
⑥	横細前田	3	2	1
	計	35	10	6

茨城日産

		打	安	点
⑧	佐々木	5	1	0
⑥	佐藤	1	0	0
③	藤江	4	0	0
⑦	藤齋	3	0	0
⑤	川崎	4	1	1
⑨	小甲	3	2	2
D	西野	2	0	0
HD	田中	2	1	1
②	木下	2	0	0
HR	久米	2	1	1
④	小林	0	0	0
H	岩三舘青木	1	0	0
	計	32	6	5

	王子	茨城日産
振	5	6
球	3	3
犠	1	2
盗	3	0
失	1	0
残	8	5
併	0	0

投	手	回	安	責
中	島	4	1	0
登	坂	3	4	0
九	谷	2	1	1
小林	嵩	3	6	5
高	木	6	4	1

▽本塁打　宝島（小林嵩）　廣部（小林嵩）▽三塁打　甲斐川、小甲、前打　細川、二塁打　佐々木▽犠打　中田、久米田、細川、小甲、木▽2時間53分

信越硬式クラブ

		打	安	点
⑧	藤澤	3	1	0
⑥	伊藤	3	0	0
⑦	樫山	3	0	0
⑤	中崎	3	0	0
③	永道	3	0	0
⑨	藤井	2	0	0
D	小池	2	0	0
④	今藤	2	0	0
②	東山	2	0	0
	計	24	3	0

明治安田

		打	安	点
④	新城	2	2	1
⑥	高瀬	3	1	1
⑦	森	2	0	0
③	福岡	3	2	0
⑨	永廣	3	1	0
D	岸本	3	1	0
⑧	伊藤	3	2	2
②	森川	3	1	1
⑤	橘内	3	1	2
	計	25	11	7

	信越硬式クラブ	明治安田
振	11	1
球	1	2
犠	0	0
盗	0	1
失	4	0
残	2	2
併	2	0

投	手	回	安	責
宮	野	3 ⅓	7	6
佐	渡	2 ⅔	4	1
松	下	6	3	0
中	崎	1	0	0

▽本塁打　伊藤（佐渡）▽二塁打　藤澤▽1時間39分

日紙石巻

		打	安	点
D	宮	5	2	1
③	小今	5	2	0
⑧	東金	3	0	0
H	丹中	1	0	0
R7	小水	3	1	0
⑤	松小	3	1	0
H9	佐橋	3	0	0
⑦8	杉田	3	0	0
⑨	本井	3	0	0
H	呉嶋倉野本林	3	0	0
②	藤本	4	0	0
④	山中	3	0	1
⑥	川野	3	0	0
H	本井	1	0	0
	計	34	7	2

日立製作所

		打	安	点
⑧	鵜沼	3	2	0
⑦	吉川	4	1	2
⑥	宮	3	0	0
⑤	谷内	4	0	0
D	森下	4	2	1
RD	金原	4	0	0
⑨	竹内	3	1	2
③	山下	4	1	0
④	森田	4	2	0
②	渡邉	3	0	0
	計	32	9	5

	本	立
振	5	9
球	3	3
犠	1	0
盗	0	1
失	0	2
残	9	6
併	1	1

投	手	回	安	責
今	村	5	⅓ 5	2
小	寺		⅓ 0	0
相	内		⅓ 0	0
川	合		⅔ 2	1
秋	田		⅓ 0	0
生	長	1	2	2
北	爪	6	4	1
田	川	1	⅔ 2	0
生	井	1	⅓ 1	0

▽本塁打　宮川（北爪）▽三塁打　竹下（川合）▽2時間55分

ミキハウス

		打	安	点
④	田	5	2	2
⑥5	伊坂	5	0	0
⑦8	坂田	4	2	0
③	立松	4	2	0
6	中花	3	0	0
D	尾原	3	0	0
⑨	猪菊	4	2	0
⑤	松田	4	1	0
R53	大本	3	0	0
②	西内	0	0	0
⑧	大上	3	1	0
H7	小河島	3	0	1
	内澤	2	1	0
	計	33	10	6

JR北海道

		打	安	点
⑨	山本	4	1	0
⑦	大槻	5	2	1
⑥	石川	5	0	0
D	南木	4	1	0
③	松井	4	3	0
⑤	冨田	3	1	0
⑧	内藤	4	4	2
②	村北	3	0	0
④	西山	3	0	0
H	冨山	1	0	0
4	南	0	0	0
	計	36	12	3

	ミキハウス	JR北海道
振	3	3
球	3	2
犠	3	2
盗	2	5
失	5	3
残	3	9
併	3	2

投	手	回	安	責
高	橋	5 ⅔	8	2
浪	越	⅓	0	0
仲	尾	1	0	0
松	永	⅓	2	0
桜	井	1 ⅔	2	0
夏	井	5	8	5
内	沢	4	2	1

▽本塁打　田中（夏井）　田浦（内沢）　大槻（高橋）▽2時間42分

TDK

		打	安	点
④	植	3	1	0
⑧	北村	3	1	0
⑨	齋畠	4	0	0
⑤	深田	4	1	1
7	伊江	5	0	0
D	藤木	0	0	0
③	青浦	5	2	1
7⑤	三田	4	2	0
②	太子	4	2	0
⑥	兼井	3	2	0
	夏子	3	2	1
	計	34	13	3

エステック

		打	安	点
⑦	鷲	4	0	0
⑨	荒田	4	0	0
④	阿保	4	1	0
D	深澤	4	2	0
⑤	友田	3	0	0
③	鈴木	3	0	0
3	小林	0	0	0
⑥	鳥井	3	0	0
⑧	大関	3	0	0
②	松本	1	1	0
H	古滝	1	0	0
2	青木	0	0	0
	計	30	4	0

	T	エ
振	4	5
球	5	2
犠	2	0
盗	0	0
失	0	0
残	10	5
併	1	0

投	手	回	安	責
川	原	4	2	0
佐	藤	2	2	0
藤	井	1	0	0
大	関	1	0	0
高	橋	1	0	0
山	崎	4	⅓ 8	2
森	本	1	0	0
三	田		⅓ 2	2
関	口	1	⅓ 2	0
尾	身	2	1	0

▽二塁打　青木、太田、夏井、阿保▽暴投　関口2▽2時間32分

▽Dブロック

明治安田（2勝）
113 100 000 6
300 000 200 5

三菱重工East（1勝1敗）

明治安田は三回、伊藤と高瀬の適時打で逆転すると、四回には犠打で確実に走者を進め、犠飛で得点した。三菱重工Eは先発投手の長島が調子に乗れなかった。

信越野球クラブ一時は逆転 日鉄室蘭佐々木同点打

▽Dブロック

信越硬式野球クラブ（1敗1分け）
000 000 300 3
000 001 200 3

日本製鉄室蘭シャークス（1敗1分け）

信越野球クラブは七回2死無走者から中込の二塁打を足がかりに、樫山の2点適時打などで3点を挙げ逆転した。日鉄室蘭もその裏、2死満塁から、佐々木の適時打で追いつき、引き分けた。

日本生命竹村逆転3ラン 王子先制もわずか4安打

▽Aブロック

王子（2勝1敗）
000 010 000 1
000 000 32× 5

日本生命（2勝1敗）

日本生命は七回、この回から登板した王子の浅井を攻め、竹村が逆転の3ランを放ち、八回にも中津の適時打などで突き放した。王子は4安打に終わり、先発三島の好投に応えられなかった。

◇第4日（8月9日）

（予選リーグ）

○…旭川市スタルヒン球場…○

日紙石巻逃げ切れず ミキハウス追いつく

▽Cブロック

日本製紙石巻（1勝1敗1分け）
010 030 000 4
111 000 100 4

ミキハウス（1勝1敗1分け）

日本製紙石巻が五回、金井の適時打やスクイズ、敵失で逆転すると、ミキハウスも七回、三塁打の大西が暴投で還

日本生命

	打	安	点
⑧ 中	津	3	0	0
Ｈ 早	野	1	0	0
8 藤	本	1	1	1
⑦ 松	本	4	1	1
⑥ 高	田	5	2	2
⑨ 竹	村	5	3	1
Ｒ 村	田	5	0	0
⑤ 田	倉	5	1	0
③ 木	中	4	2	1
Ｄ 竹	田	3	0	0
ＲＤ 多	葉	0	0	0
Ｈ 松	島	5	1	0
② 三	上	3	2	0
④ 池		3	2	0
計		41	14	6

北海道ガス

	打	安	点
⑥ 武	井	4	1	0
⑨ 田	菱	5	2	0
⑤ 渡	邊	3	1	0
5 安	田	3	0	0
⑦ 高	橋	3	2	2
Ｄ 寺	田	4	2	1
⑧ 長	谷	川	3	0	0
④ 小	栗	3	1	0
③ 浅	田	賀	4	3	2
②	中	2	0	1
計		31	12	6

	日	振	北
	6	3	3
球	2	3	3
犠	1	4	4
盗	0	0	0
失	1	2	2
残	1	6	6
併	0	0	0

	投	武	山	真	高	村	海	武	北	大
手	武	山	野	木	上	老	城	城	
回	2	2	3		6		1	1	
安	⅔		⅓	⅔		⅔			
責	6	2	3	1		3	3	2	0	0
4	3	2	0	0		0	0	0	0	0
3	3	2	3	0		2	0	0	0	0
0	0	0	0	0		0	0	0	0	0

▽三塁打　松本、浅賀▽二塁打　高田、本▽竹中、木倉、竹村、藤本、武次▽暴投　三島▽捕逸　三浦▽３時間１分

明治安田

	打	安	点
④ 新	城	3	0	0
⑥ 高	瀬	3	2	0
⑦	森	3	5	2
③ 福	岡	3	0	1
⑨ 永	岸	4	1	0
Ｄ 伊	藤	4	2	1
⑧ 伊	森	4	2	2
② 橘	内	3	2	0
⑤		3	0	0
計		29	8	6

三菱重工E

	打	安	点
⑥ 矢	野	4	2	1
⑨ 八	戸	1	0	0
Ｈ 江	越	啓	1	1	0
9 白	石	1	0	0
ＨＲ	菅	1	1	0
⑧ 友	田	4	1	1
Ｄ 武	小	柳	5	1	0
⑦ 越	海	2	0	0
Ｈ7 汐	月	2	0	0
⑤ 中	山	4	1	3
③ 印	出	4	1	0
Ｒ3	南	0	0	0
④ 川	久保	3	1	0
② 対		4	2	0
計		36	11	5

	明	三
	6	10
球	8	4
犠	5	0
盗	0	0
失	0	1
残	9	8
併	1	1

	投竹	石	中小	長安
手	田	毛	尾	玉	島	達	野
回	6			2	3	4	2
安	⅔	⅓	⅓	⅔			
責	4	2	0	0	5	1	0
4	1	1	0	0	5	2	0
3	2	0	0	0	5	1	0
0	1	0	0	0	5	0	0

▽二塁打　中山、矢野▽暴投　長島▽捕逸　森川、対馬▽３時間５分

信越野球ク

	打	安	点
⑧ 藤	澤	4	2	1
⑥ 伊	藤	5	1	1	0
⑦ 樫	山	4	1	1	0
⑤ 中	崎	3	1	0	0
③ 永	道	井	4	3	0	0
⑨	原	4	0	0	0
②	齋	藤	3	0	0	0
2	小	池	4	0	0	0
④ 中	込	4	4	2	0
Ｄ		4	4	2	0
計		34	7	3

日鉄室蘭

	打	安	点
④ 鹿	野	2	0	0
Ｈ4 青	木	2	1	1
⑥ 松	嶋	井	2	0	0	0
⑧ 松	船	小	4	1	0	0
Ｄ 八	大	永	4	1	0	0
⑤	3	4	1	0	0
③	3	2	0	0	0
⑨	7	4	1	1	0
⑦	2	3	1	0
② 佐	々	木	3	1	2
計		31	8	3

	信	日
	7	3
球	2	4
犠	2	2
盗	2	0
失	0	2
残	8	7
併	1	0

	投	松	田
手	井	田	藤	岡	田
回	5⅔	7	2	6	3
安	2			3	0
責	1	2	0	3	0
5	2	2	0	3	0
2	5	2	0	3	0
0	4	2	0	3	0

▽二塁打　伊藤、中込、前田▽２時間13分

王子

	打	安	点
⑧ 柴	中	山	4	1	1
⑤ 崎	川	口	4	0	0
④	島	4	1	0
③ 宝	廣	賀	4	0	0
Ｄ	部	細	3	0	0
⑨ Ｈ	部	川	4	0	0
⑦ Ｈ	ノ	井	3	1	0
②	井	山	2	1	0
⑥	田	2	1	0
計		27	4	1

日本生命

	打	安	点
⑧ 中	松	4	2	1
⑦ 高	竹	山	5	2	0
⑥ 田	村	4	2	0
⑨ 村	田	倉	4	1	1
⑤ 木	竹	早	4	3	1
③ Ｄ	越	山	3	0	0
② Ｈ	島	智	3	1	0
④ Ｈ	崎	上	2	1	0
4 Ｈ	葉	村	1	0	0
4	西	山	0	0	0
計		32	9	4

	王	日
	2	4
球	5	4
犠	2	2
盗	0	3
失	3	0
残	6	9
併	0	1

	投	三	浅	齋	高
手	島	井	藤	木
回	6	2	6	3
安				
責	4	5	3	1	0
0	3	2	1	0

▽本塁打　竹村（浅井）▽二塁打　柴崎、打　山口、西田、上井▽暴投　横山▽捕逸　浅井▽３時間１分

り、追いついた。ミキハウスは田中のソロなどによる序盤のリードを守り切れなかった。

ヤマハの4投手が好投 テイ・エステック連敗

▽Bブロック

テイ・エステック（2敗）

000	000	000	0
010	020	00×	3

ヤマハ（2勝）

ヤマハは二回、高杯のスクイズで先制すると、五回には3番網谷、4番森川の連続適時打で突き放した。テイ・エステックはヤマハの4投手に4安打で零封された。

TDK一挙に逆転 空自千歳あと一歩

航空自衛隊千歳（2敗）

000	000	300	3
000	001	06×	7

TDK（2勝）

TDKは八回1死満塁から、太田の三塁打、関口の3ランで一挙6点を挙げ逆転した。空自千歳は先発の杉山が6回を1失点と好投してTDKを追い詰めたが、救援が捕まった。

○…モエレ沼公園野球場…○

三菱重工E矢野決勝打 信越野球クあと粘り及ばず

▽Dブロック

信越硬式野球クラブ（2敗1分け）

000	020	201	5
012	100	20×	6

三菱重工East（2勝1敗）

三菱重工Eは七回1死二塁から、矢野の三塁打と八戸の右前打で勝ち越した。信越野球クは4点差をいったんは追いつき、九回も山崎の二塁打で1点差と粘った。

北海道ガス寺田7打点 茨城日産序盤大量失点

▽Aブロック

茨城日産（3敗）

000	000	0	0
340	000	×	7

北海道ガス（2勝1敗）

（七回コールド）

北海道ガスは一回1死満塁から、寺田の二塁打で3点を先制。寺田は二回にも満塁本塁打を放ち、計7打点の大活躍。茨城日産は毎回走者を出したが、後続がなかった。

日鉄室蘭ソロで同点 明治安田逃げ切れず

エステック

	打	安	点
⑦	鷲田	4	1	0
⑨	荒木	3	0	0
④	阿保	3	2	0
D	深澤	3	0	0
H	大友	1	0	0
⑤	小鳥	4	0	0
③	林井	3	0	0
⑥	木関	2	0	0
6	松木	0	0	0
⑧	大青	3	1	0
②	古滝	1	0	0
H	松本	0	0	0
2				
	計	29	4	0

ヤマハ

	打	安	点
⑧	西村	4	1	0
D	秋利	2	1	0
⑦	網谷	4	1	1
③	森川	4	2	1
⑤4	永濱	3	1	0
⑥	相羽	3	2	0
H5	小林	1	0	0
⑨	舟久保	2	1	0
②	高杯	2	0	1
④6	土山	2	1	0
	計	26	8	3

エ	5	3	0	0	0	5	0	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
ヤ	5	4	3	0	0	6	2	

投	手	回	安	責
八木橋		4⅓	7	3
森	本	2⅔	1	0
尾	身	1	0	0
沢	山	6	3	0
波多野		1	0	0
有	本	1	0	0
梅	田	1	1	0

▽三塁打　網谷▽二塁打　森川▽2時間25分

空自千歳

	打	安	点
④	濱野	4	1	0
⑤	渡岡	4	2	1
⑦	辺田	4	1	2
D	口谷	4	1	0
⑨8		4	1	0
②	筏	4	0	0
③	佐関	4	1	0
⑧	秋稲	4	2	0
H	堀釜	4	1	0
R9	童越	3	1	0
⑥	田丸	1	0	0
H	越蕊	2	1	1
	計	34	9	3

TDK

	打	安	点
⑤	太田	4	2	3
⑧	伊藤	3	1	0
⑨	齋田	5	2	0
D	関口	3	2	3
⑦	青木	4	1	0
③	三浦	5	3	1
②H2	奥子	3	0	0
④	下村	0	0	0
H	北沢	1	0	0
4	植畠	3	0	0
⑥	夏井	3	0	0
	計	32	12	7

空	9	4	1	0	0	9	1	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
T	2	9	1	1	0	11	0	

投	手	回	安	責
投杉	山本	6	4	1
仙	本田	1⅔	8	6
成		⅓	0	0
藤	井	3	2	0
阿	部	3⅔	5	3
川	原	⅓	1	0
高	橋	2	1	0

▽本塁打　関口（仙本）▽三塁打　渡辺、太田▽二塁打　三浦▽打　齋田、三2時間53分

信越野球ク

	打	安	点
⑧	藤澤	4	3	1
⑥	伊樫	5	0	0
⑦	山崎	4	3	0
⑤	中道	4	1	1
③	永井	5	1	2
⑨	込藤	3	0	0
D	中小	3	0	0
④	小齋	3	0	0
②	池藤	3	0	0
	計	35	9	4

三菱重工E

	打	安	点
⑥	矢野	4	1	1
⑨	戸田	4	2	2
⑧	武白	3	0	0
8	印出	1	0	0
③	久江	2	1	0
H3	木越	2	0	0
D	江越	3	0	0
⑦	中前	4	2	0
⑤	友田	2	0	1
②		2	0	1
④	南	1	1	1
	計	29	8	6

信	3	4	2	0	0	9	1	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
三	6	3	2	3	3	4	2	

投	手	回	安	責
投加	藤	3⅔	4	4
佐	藤	4	4	2
佐	渡	1	0	0
森		6	4	0
畠	中	1	3	2
川	和田	2	2	1

▽三塁打　八戸、山▽二塁打　田▽矢野▽捕逸　友崎▽2時間27分

茨城日産

	打	安	点
⑧	佐々木	4	0	0
⑥	藤田	4	1	0
③	江崎	4	2	0
⑦	藤甲	3	1	0
⑤	中野	3	2	0
⑨	名	1	0	0
9	米長	1	1	0
DH	館	1	0	0
②	齋藤	3	0	0
2	佐藤	3	1	0
④	川小田	3	0	0
	西芦久永岩			
	計	27	6	0

北海道ガス

	打	安	点
⑥	井	2	1	0
⑨	邊	4	1	0
⑤	橋	4	2	0
⑦	田	3	2	0
D	川	3	2	7
⑧	谷	3	1	0
④	栗	3	2	0
③	賀	3	0	0
②	林	3	1	0
	計	27	10	7

茨	11	4	0	0	2	10	1	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
北	3	3	1	2	1	6	1	

投	手	回	安	責
投杉	浦	⅓	3	3
坂	本	1⅔	3	0
濱	崎	4	4	0
長	谷	7	6	0

▽本塁打　寺田（坂本）▽二塁打　田▽時間2時間齋藤、寺▽長谷

明治安田

	打	安	点
④	新城	3	0	0
45	金子	2	1	0
⑥	高瀬	3	3	0
R6	水鳥	1	1	0
⑦9	日置	3	1	0
③	羽根	3	3	1
⑨8	永廣	3	2	1
D	岸本	3	2	0
DH	齋藤	2	2	0
⑧	伊藤	2	2	0
H7	南保	2	0	0
②	松岡	4	2	1
⑤	橘内	2	1	0
H4	生島	1	0	0
	計	33	10	2

日鉄室蘭

	打	安	点
④	鹿野	2	0	0
H4	青木	1	2	0
⑨	西川	2	0	0
9	永森	1	0	0
⑧	松井	3	2	2
D	船曳	4	1	0
⑤	小林	4	1	0
⑥	松嶋	3	0	0
H	坂本	1	0	0
③	八戸	2	0	0
H3	大石	1	0	0
②	佐木	3	0	0
⑦	前田	3	1	0
	計	30	5	2

明	4	4	0	0	0	8	0	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
日	6	2	1	0	0	4	3	

投	手	回	安	責
高	杉	7	3	1
玉	熊崎	1	1	0
中		1	1	1
山		5⅔	7	2
石	澤	2	2	0
工	藤	⅓	0	0
岩	崎	⅔	0	0
岡	田	1	1	0

▽本塁打　松井（中崎）▽二塁打　井▽暴投　松井▽時間2時間23分　高瀬、玉熊▽

▽Dブロック
明治安田（2勝1分け）
000 002 000 2
000 001 001 2
日本製鉄室蘭シャークス（1敗2分け）

日鉄室蘭は六回、3番松井の二塁打で1点差に追い上げ、九回には松井の右翼へのソロで追いついた。明治安田は六回、4番羽根、5番永廣の連続適時打で均衡を破ったが、逃げ切れなかった。

◇**第5日**（8月10日）
（予選リーグ）
○…旭川市スタルヒン球場…○

ヤマハ小刻みに得点 TDK先制も及ばず

▽Bブロック
ヤマハ（3勝）
011 131 001 8
200 010 000 3
TDK（2勝1敗）

ヤマハは四回、秋利の適時二塁打で勝ち越すと、その後も小刻みに追加点を挙げた。TDKは一回、ヤマハ先発の金原から2点を奪ったが、14三振を喫するなど攻めきれなかった。

日立製作所追いつく JR北海道勝利逃す

▽Cブロック
日立製作所（2勝1分け）
100 000 400 5
020 300 000 5
JR北海道硬式野球クラブ（2敗1分け）

日立製作所は七回1死一、二塁から、吉川の二塁打や森下の内野安打、押し出しの四球などで追いついた。JR北海道は四回、俵藤の3ランでリードを広げたが、好投の先発大崎が捕まった。

空自千歳投手戦制す 成田被安打6で完封

▽Bブロック
テイ・エステック（3敗）
000 000 000 0
000 001 00× 1
航空自衛隊千歳（1勝2敗）

空自千歳は六回に4番岡田の中前打で挙げた1点を、先発の成田が被安打6の完封で守り切った。テイ・エステックも3投手が好投したが、打線が振るわなかった。

ヤマハ	点	安	打
⑧ 西	3	3	1
D 秋	1	2	0
D 矢	0	0	0
⑦ 網	0	0	0
③ 森	0	2	0
⑤ 永	0	0	0
46 相	2	2	0
⑥ 小	0	0	0
5 清	0	1	0
4 舟	1	3	1
② 土	0	3	0
⑨ 藤	0	1	0
6 村	0	4	1
④ 利	0	1	0
5 幡	0	6	1
H 谷	0	4	0
川	0	3	0
濱	0	3	0
羽	0	1	0
林	0	5	0
水	0	5	0
保	0	2	0
山	0	1	0
岡	0	0	0
久	0	0	0
計	7	41	3

TDK	打	安	点
④ 植	5	2	1
⑧ 北	4	2	1
⑨ 齋	4	1	1
⑤ 深	3	0	1
③ 打	3	1	1
H 三	1	1	0
D 関	4	0	0
② 奥	3	0	0
H 青	0	0	0
R 坪	0	0	0
⑦ 伊	0	0	0
⑥ 夏	3	0	0
H 前	3	1	0
計	34	7	3

ヤ	10	5	2	4	0	13	0
振	球	犠	盗	失	残	併	
T	14	3	0	1	5	7	0

投	手	原	沢	田	水	本	鈴	木	関	島	橋	中
責	3	0	0	0	0	0	4	0	4	1	0	0
安	6	4	0	1	1	0	⅔	0	8	0	1	0
回	5	1	1	1	1	0	4	⅓	4	1	0	0
金寺北清有												

▽本塁打 羽田（小島）
▽二塁打 相川、三塁打 相川、北畠
▽暴投 秋利、森川、鈴木
▽時間 3分
▽3時間

日立製作所	点	安	打
③ 吉	2	2	5
⑥ 森	0	0	3
H 谷	1	1	2
⑨ 竹	0	2	4
D 森	1	0	5
⑤ 宮	0	1	3
6 下	0	0	2
⑦ 原	0	0	0
3 松	0	0	0
④ 金	0	0	0
8 森	0	0	0
② 水	0	0	0
2 清	0	0	0
⑧ 佐	0	0	0
H 藤	0	0	0
4 鮎	0	0	0
ケ	0	0	0
瀬	0	0	0
戸	0	0	0
藤	0	0	0
斎	0	0	0
計	5	7	35

JR北海道	点	安	打
⑤ 冨	0	0	3
H 西	0	0	1
D 冨	0	1	4
③ 大	0	0	3
⑥ 松	0	0	4
⑧ 石	0	1	4
⑨ 内	0	2	4
② 俵	3	1	3
H 村	0	0	1
4 山	0	1	3
南	2	2	3
計	5	6	33

日	5	6	0	1	9	1	0
振	球	犠	盗	失	残	併	
J	8	2	0	1	2	3	0

投	手	間	山	田	崎	川	井	川	藤	打	北	分
責	0	1	0	0	5	0	0	吉	打	相	川	木
安	3	2	0	0	⅔	5	0	俵	塁	打	村	分
回	3	⅔	2	4	6	⅓	1	二	塁	打	間	2
多片原												

▽本塁打 畠（大多）
▽二塁打 吉川、俵藤（宮）
▽暴投 畠崎、川井（南）
▽時間 2時間52分

ヤマハ佐藤無四球完封

日本生命好機を作れず

◇**最終日**（8月11日）
（決勝トーナメント）
○…旭川市スタルヒン球場…○
▽準決勝
ヤマハ 012 000 200 5
000 000 000 0
日本生命

ヤマハの先発佐藤が被安打4、無四球で完封した。ヤマハは二回、相羽の犠飛で先制すると、七回には相羽のソロなどで突き放した。日本生命は2度しか得点圏に走者を進めなかった。

明治安田長打攻勢

日立継投策が裏目

明治安田 001 020 5 8
000 001 0 1
日立製作所
（七回コールド）

明治安田は三回に高瀬、五回には森の本塁打でリードを奪い、七回には一挙5点を奪って勝負を決めた。日立製作所は六回に渡邉のソロで追い上げたが、継投に失敗した。

エステック	点	安	打
⑨ 鷲	0	1	4
⑦ 古	0	1	2
④ 阿	0	1	4
D 深	0	1	3
⑤ 友	0	0	3
③ 小	0	0	3
H 大	0	0	1
3 鈴	0	0	0
⑥ 松	0	0	0
⑧ 大	0	0	0
H 島	0	0	0
② 青	0	0	0
H 荒	0	0	0
計	0	6	30

空自千歳	点	安	打
⑤ 野	0	0	3
H 山	0	0	1
4 菊	0	0	4
④ 釜	0	1	3
5 ⑦ 渡	0	1	4
⑨ 岡	0	2	3
⑧ 古	0	0	3
D 秋	1	0	3
③ 佐	0	1	3
② 石	0	0	2
⑥ 堀	0	0	3
計	1	5	28

テ	6	4	2	0	3	9	0	併
空	振	6	球	犠	盗	失	残	1

投	熊	友	森	成
責	0	1	0	0
安	3	2	2	0
回	5	2	1	9
投熊友森成				

▽時間 2時間11分

ヤマハ打線好調15安打

明治安田反撃断たれる

▽決勝

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
明治安田	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3
ヤマハ	0	0	1	2	0	0	0	0	3×	6

ヤマハ　ヤマハが15安打で突き放した。同点の七回、笠松の適時打で勝ち越すと、八回にも小林のソロと相羽の適時打でリードを広げた。明治安田は七回以降、相手救援陣に抑えられた。

㊧…表彰選手…㊨

◇**最高殊勲選手賞**　相羽寛太・内野手（ヤマハ）

◇**敢闘賞**　竹田和真・投手（明治安田）

◇**首位打者賞**　高瀬雄大・内野手（明治安田）＝16打数9安打、打率5割6分3厘

◇**優秀投手賞**　佐藤廉（ヤマハ）

明治安田

	打	安	点
④ 新　城	4	0	0
⑥ 高　瀬	4	1	0
⑦ 森	4	2	0
③ 福　岡	3	0	0
⑨ 永　廣	3	1	1
D 岸　本	1	1	1
RD 水　鳥	0	0	0
HD 金　子	1	0	0
⑧ 伊　藤	4	0	0
② 森　川	2	0	1
H 齋　藤	1	0	0
⑤ 橘　内	3	0	0
H 日　置	1	0	0
計	31	5	3

ヤマハ

	打	安	点
⑦ 矢　幡	5	2	2
7 中　田	0	0	0
⑨ 舟久保	5	0	0
D 網　谷	3	3	0
⑧ 前　野	5	3	0
⑥ 相　羽	5	2	2
② 清　水	3	0	0
2 高　杯	2	1	0
③ 笠　松	4	2	1
⑤ 藤　岡	4	0	0
④ 小　林	3	2	1
計	39	15	6

	振	球	犠	盗	失	残	併
明	10	7	0	0	1	8	0
ヤ	5	3	0	0	0	12	1

投　手	回	安	責
沖　田	5	8	3
松　下	2⅔	6	3
小　玉	⅓	1	0
梅　田	5	4	1
寺　沢	⅓	1	2
吉　山	⅔	0	0
有　本	1	0	0
沢　山	1	0	0
波多野	1	0	0

▽本塁打　矢幡（沖田）小林（松下）▽二塁打　永廣、前野、笠松、相羽、網谷▽２時間44分

明治安田

	打	安	点
④ 新　城	4	2	0
⑥ 高　瀬	3	2	1
⑦ 森	3	2	2
③ 福　岡	4	1	2
⑨ 永　廣	4	1	0
D 岸　本	2	2	2
⑧ 伊　藤	3	0	0
② 森　川	4	1	0
⑤ 橘　内	3	0	0
計	30	11	7

日立製作所

	打	安	点
⑧ 鵜　沼	3	0	0
⑦ 吉　川	3	0	0
⑨ 竹　内	3	0	0
D 森　下	3	0	0
⑥ 宮	3	1	0
⑤ 谷　内	3	1	0
③ 山　下	2	1	0
④ 野　中	2	0	0
② 渡　邉	2	1	1
計	24	4	1

	振	球	犠	盗	失	残	併
明	6	5	1	0	0	7	1
日	1	0	0	0	2	2	2

投　手	回	安	責
竹　田	7	4	1
北　爪	6	7	3
原　田	⅔	2	3
青　木	⅓	2	1
田　川	⅓	0	0

▽本塁打　高瀬（北爪）森（北爪）渡邉（竹田）▽二塁打　岸本▽２時間1分

ヤマハ

	打	安	点
⑧ 西秋村	3	1	0
③ 利谷川	3	2	0
⑦ 網森永	4	2	1
D 大相舟	4	1	2
⑤4 永　濱	3	1	0
② 本　羽	4	0	0
⑥ 相　保	3	1	2
⑨ 久　野	3	1	0
9 前　山	1	1	0
④ 土　岡	1	1	0
⑤ 藤	3	0	0
計	32	11	5

日本生命

	打	安	点
⑧ 中　津	4	1	0
⑦ 松　本	4	0	0
⑥ 高　田	4	1	0
⑨ 竹　村	3	0	0
⑤ 山　田	3	0	0
③ 本　倉	3	0	0
D 越　智	3	1	0
② 三　島	3	0	0
④ 池　上	3	1	0
計	30	4	0

	振	球	犠	盗	失	残	併
ヤ	5	3	2	1	0	5	1
日	9	0	0	0	0	3	1

投　手	回	安	責
佐　藤	9	4	0
谷　脇	4⅓	6	3
武　次	2⅔	4	2
真　野	2	1	0

▽本塁打　相羽（武次）▽二塁打　永濱、前野▽暴投　佐藤、谷脇▽２時間19分

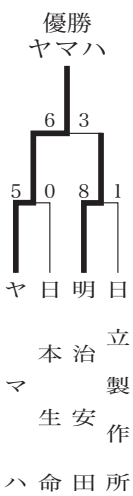
第66回大会・熱戦の軌跡

Aブロック	王子	日本生命	北海道ガス	茨城日産	勝	敗	順位
王子	㊧	●1－5	◎7－0	○6－5	2	1	2
日本生命	○5－1	㊧	●6－8	○6－0	2	1	1
北海道ガス	×0－7	○8－6	㊧	◎7－0	2	1	3
茨城日産	●5－6	●0－6	×0－7	㊧	0	3	4

Bブロック	ヤマハ	航空自衛隊千歳	TDK	テイ・エステック	勝	敗	順位
ヤマハ	㊧	○5－2	○8－3	○3－0	3	0	1
航空自衛隊千歳	●2－5	㊧	●3－7	○1－0	1	2	3
TDK	●3－8	○7－3	㊧	○4－0	2	1	2
テイ・エステック	●0－3	●0－1	●0－4	㊧	0	3	4

Cブロック	JR北海道硬式野球クラブ	日本製紙石巻	ミキハウス	日立製作所	勝	敗	順位
JR北海道硬式野球クラブ	㊧	●1－2	●3－6	△5－5	0	2	4
日本製紙石巻	○2－1	㊧	△4－4	●2－5	1	1	2
ミキハウス	○6－3	△4－4	㊧	●3－4	1	1	3
日立製作所	△5－5	○5－2	○4－3	㊧	2	0	1

Dブロック	日本製鉄室蘭シャークス	三菱重工East	信越硬式野球クラブ	明治安田	勝	敗	順位
日本製鉄室蘭シャークス	㊧	×2－13	△3－3	△2－2	0	1	3
三菱重工East	◎13－2	㊧	○6－5	●5－6	2	1	2
信越硬式野球クラブ	△3－3	●5－6	㊧	×0－7	0	2	4
明治安田	△2－2	○6－5	◎7－0	㊧	2	0	1



北海道大会・決勝戦一覧

	優勝チーム		準優勝チーム	開催地
第１回（昭29年）	全藤倉	5―1	富士製鉄室蘭	室蘭
第２回（〃30年）	富士製鉄釜石	7―6	富士製鉄室蘭	釜石
第３回（〃31年）	富士製鉄釜石	12―1	大昭和製紙	札幌中島
第４回（〃32年）	ニッポンビール	3―2	大昭和製紙	福島
第５回（〃33年）	日本通運	2―1	ニッポンビール	札幌中島
第６回（〃34年）	北海道拓殖銀行	9―1	東洋高圧砂川	仙台
第７回（〃35年）	北海道拓殖銀行	5―0	東洋高圧砂川	札幌中島
第８回（〃36年）	日本通運	4―1	大和証券	〃
第９回（〃37年）	大昭和製紙	2―0	富士製鉄室蘭	〃
	〈昭和38年は休止〉			
第10回（〃39年）	サッポロビール	4―1	大昭和製紙	札幌中島
第11回（〃40年）	北海道拓殖銀行	2―1	日産自動車	秋田
第12回（〃41年）	〈雨のため途中で中止〉			札幌中島
第13回（〃42年）	大昭和製紙	4―0	富士重工業	〃
第14回（〃43年）	本田技研	5―4	リッカー	会津若松
第15回（〃44年）	本田技研	3―2	日本軽金属	苫小牧
	〈第15回大会までは東日本選抜大会として開催〉			
第16回（〃45年）	〈雨のため途中で中止〉			札幌中島
第17回（〃46年）	北海道拓殖銀行	5―2	電電北海道	〃
第18回（〃47年）	電電北海道	4―3	小西酒造	〃
第19回（〃48年）	電電北海道	6―3	北海道拓殖銀行	〃
第20回（〃49年）	大昭和北海道	4―1	松下電器	札幌円山
第21回（〃50年）	大昭和北海道	1―0	新日本製鐵室蘭	札幌中島
第22回（〃51年）	大昭和北海道	5―0	日立製作所	室蘭
第23回（〃52年）	大昭和北海道	14―2	日本石油	〃
第24回（〃53年）	熊谷組	2―1	日本石油	〃
第25回（〃54年）	新日本製鐵室蘭	2―1	大昭和製紙	〃
第26回（〃55年）	リッカー	4―1	日本石油	札幌円山・札幌中島
第27回（〃56年）	王子製紙苫小牧	4―1	神戸製鋼	室蘭・苫小牧
第28回（〃57年）	電電関東	1―0	三菱自動車川崎	〃
第29回（〃58年）	日立製作所	8―5	王子製紙苫小牧	〃
第30回（〃59年）	本田技研鈴鹿	4―2	東鉄	〃
第31回（〃60年）	ＮＴＴ関東	5―4	ＮＴＴ北海道	〃
第32回（〃61年）	ＮＴＴ北海道	9―8	ＮＴＴ関東	〃
第33回（〃62年）	大昭和北海道	7―1	本田技研	〃
第34回（〃63年）	新日本製鐵室蘭	6―2	王子製紙苫小牧	〃
第35回（平１年）	大昭和北海道	3―2	三菱重工横浜	〃
第36回（〃２年）	大昭和北海道	8―5	北陸銀行	札幌円山
第37回（〃３年）	新日本製鐵室蘭			
第38回（〃４年）	東芝	7―4	ＮＴＴ北海道	室蘭・白老
第39回（〃５年）	日本石油	9―4	ＮＴＴ関東	札幌円山
第40回（〃６年）	新王子製紙苫小牧	8―5	たくぎんＶｉｇａｏｉ	〃
第41回（〃７年）	日立製作所	6―4	ＶＯＬＫＡＮ君津	〃
第42回（〃８年）	三菱自動車川崎	11―1	新日本製鐵君津	〃
第43回（〃９年）	王子製紙苫小牧	1―0	ＮＴＴ北陸	〃
第44回（〃10年）	王子製紙春日井	15―9	ＮＴＴ東北	苫小牧
第45回（〃11年）	王子製紙苫小牧	7―1	法政大学	札幌円山
第46回（〃12年）	ＪＲ東日本東北	4―3	三菱自動車岡崎	〃
	〈平成13年～15年は休止〉			
第47回（〃16年）	ヤマハ	5―3	ＪＲ東日本東北	札幌円山
第48回（〃17年）	日産自動車	3―2	サンワード貿易	〃
第49回（〃18年）	住友金属鹿島	6―4	ＴＤＫ	〃
第50回（〃19年）	日本通運	11―9	鷺宮製作所	札幌円山・千歳
第51回（〃20年）	日本通運	10―2	三菱重工名古屋	札幌円山・野幌
第52回（〃21年）	鷺宮製作所	4―2	三菱重工神戸	〃
第53回（〃22年）	トヨタ自動車	10―6	日本通運	〃
第54回（〃24年）	ＪＲ東日本	5―2	ＮＴＴ東日本	札幌円山・札幌ドーム
第55回（〃25年）	ＮＴＴ西日本	1―0	三菱重工名古屋	〃
第56回（〃26年）	ＮＴＴ東日本	4―0	室蘭シャーク	〃
第57回（〃27年）	ＪＲ東日本	8―4	大阪ガス	〃
第58回（〃28年）	日本通運	6―3	日本生命	札幌円山・野幌
第59回（〃29年）	日本製紙石巻	1―0	ＪＲ東日本東北	仙台・石巻
第60回（〃30年）	ＮＴＴ東日本	4―3	ＪＸ－ＥＮＥＯＳ	〃
	〈第59回、第60回大会は兼東北大会として開催〉			
第61回（令１年）	ＪＸ－ＥＮＥＯＳ	2―1	トヨタ自動車	札幌円山・岩見沢
第62回（〃３年）	三菱重工Ｅａｓｔ	8―6	ＪＦＥ東日本	札幌円山・野幌
第63回（〃４年）	Ｈｏｎｄａ熊本	2―1	ＴＤＫ	札幌円山・岩見沢
第64回（〃５年）	ＪＦＥ東日本	2―0	東京ガス	札幌円山・岩見沢
第65回（〃６年）	日本製鉄鹿島	5―4	三菱重工Ｗｅｓｔ	札幌円山・岩見沢
第66回（〃７年）	ヤマハ	6―3	明治安田	スタルヒン・モエレ沼

※平成23年は東日本大震災のため大会中止
※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

東京ガスが4度目の栄冠

第66回　JABA長野県知事旗争奪大会

決勝で三菱重工Eastに勝ち3大会ぶり
MVPには決勝で2ランの新人藤澤外野手（東京ガス）

第66回ＪＡＢＡ長野大会は4月23日から27日まで、長野オリンピックスタジアムと佐久総合運動公園野球場で行われ、東京ガスが3大会ぶり4回目の優勝を果たした。

16チームを4ブロックに分けて予選リーグを戦い、各1位が決勝トーナメントに進出した。準決勝では東京ガスが七十七銀行に14―1のコールド勝ち。三菱重工Eastも明治安田を12―10で破った。決勝では東京ガスが一回に2本の2ランで先制し、6―3で頂点に立った。

最高殊勲選手賞は東京ガスの藤澤涼介外野手、敢闘賞は三菱重工Eastの小柳卓也外野手、首位打者賞は東京ガスの楠研次郎外野手（15打数8安打、打率5割3分3厘）が獲得した。

ブロック分けは次の通り。

【A】西濃運輸、東京ガス、パナソニック、伏木海陸運送

【B】東海理化、ＪＦＥ東日本、七十七銀行、バイタルネット

【C】ロキテクノ富山、三菱重工East、ＹＢＳホールディングス、信越硬式野球クラブ

【D】ジェイプロジェクト、明治安田、ＴＤＫ、FedEx

◇第1日（4月23日）（予選リーグ）

○…長野オリンピックスタジアム…○

東ガス臼井完投
西濃運輸4安打

▽Aブロック

西濃運輸（1敗）
100 000 000 1
202 000 00× 4

東京ガス（1勝）

東京ガスは一回、藤澤、冨岡の連続適時打で逆転すると、三回には相手失策にも乗じて追加点を挙げた。先発の臼井は被安打4で完投した。西濃運輸は先取点を奪ったものの、二回以降はチャンスを作れなかった。

パナ定本完投
伏木8安打も

伏木海陸運送（1敗）
000 000 001 1
400 010 00× 5

パナソニック（1勝）

パナソニックは一回2死無走者からチャンスを作り、3本の適時打や捕逸で4点をリード。定本が九回の失策による1失点に抑え完投勝ちを

西濃運輸

	打	安	点
⑥	北野	0	0
4	大山	0	0
R⑨	佐向	1	0
⑤	野崎	0	0
D	誉田	0	1
⑧	河田	1	0
⑦	福島	0	0
②6	城野	0	0
④	宮田	2	0
③	福山	0	0
計		4	1

東京ガス

	打	安	点
D	石川	0	0
⑨	小田	2	0
⑤	仲俣	1	0
③	内海	2	1
⑧	藤澤	2	0
⑦	冨岡	2	0
②	馬場	0	0
④	相馬	0	0
6	北本	0	0
計		8	2

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
西	併2	責4	残6	失0	盗0	犠1	球1	振2	3
東	併2	責0	残9	失4	盗0	犠1	球3	振4	3

	投	回	安	責
▽	田誉	2	8	4
	石下	6	0	0
	井	9	4	1

▽打2分　▽二塁打　誉田、山崎、▽2時間25分

伏木海陸

	打	安	点
⑧	荒井	2	0
⑤	久保村	0	0
⑥	木内	0	0
⑨	竹場	0	0
③	番明	0	0
②	幸田	0	0
⑦	牧	1	0
④	島吉	2	0
D	田	1	0
計		8	0

パナソニック

	打	安	点
⑦8	崎下	1	0
⑥	宮坂	0	0
6	手塚	0	0
D	山本	0	0
⑧	上田	1	0
H7	植田	1	0
⑨	三宅	1	1
③	浦路	1	1
⑤	松山	1	1
④	小山	1	0
②		1	0
計		8	2

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
伏	併1	責4	残3	失1	盗0	犠0	球5	振5	1
パ	併2	責1	残5	失2	盗3	犠0	球4	振2	2

	投	回	安	責
▽	山小、幸	9	8	1
	座田	1⅔	6	4
	納	2⅔	0	0
	本定	4⅓	2	1

▽二塁打　誉田　▽捕逸　打撃　▽2時間25分

JFE東

	打	安	点
⑥	小松	4	1
⑨	大森	1	0
⑦	猪田	2	1
③	梁瀬	3	2
R	大松	0	0
D	内藤	1	0
⑧	山城	0	0
②	本間	1	1
④	折尾	1	0
H	櫻井	1	0
4	田村	1	0
計		42	17

東海理化

	打	安	点
⑧	福本	3	1
D	井貝	1	1
⑤	川上	1	1
⑦	齋藤	3	2
③	武藤	2	1
⑨	河田	1	0
②	池間	1	0
④	中野	2	1
R	杉浦	1	0
4	角田	0	0
⑥		4	2
計		38	16

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
J	併2	残9	失4	盗0	犠1	球3	振3		0
東	併2	残5	失2	盗3	犠0	球4	振2		1

	投	回	安	責
▽	梁瀬、▽貝井、21分	2⅔	6	2
	本間、猪田、3時間	1⅓	4	2
	田	1⅔	3	2
	林	2	1	2
	田	4	5	2
	田目	1⅔	7	4
	生田	3⅓	5	1

▽二塁打　三塁打　角▽藤齋、瀬二

収めた。伏木海陸運送は8安打も散発に終わった。

東海理化が打ち勝つ JFE東逆転むなし

▽Bブロック

JFE東日本（1敗）

	2	0	0	1	3	1	0	0	7
	0	1	1	2	0	3	0	2×	9

東海理化（1勝）

東海理化は同点の八回、4番齋藤の二塁打と5番武藤の右前打で2点を勝ち越し、競り勝った。JFE東は一時、逆転したが、救援陣が踏ん張れなかった。

○…佐久総合運動公園野球場…○

三菱E継投で逃げ切る ロキテクノ攻めきれず

▽Cブロック

ロキテクノ富山（1敗）

1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	1	1	0	0	0	×	2

三菱重工East（1勝）

三菱重工Eastは六回、この回先頭の2番中山が右翼越えに勝ち越しのソロを放ち、2番手の本間が要所を押さえて逃げ切った。ロキテクノは好機に適時打が出なかった。

YBS九回に突き放す 信越ク追い上げ及ばず

YBSホールディングス（1勝）

0	0	0	0	4	1	0	0	2	7
0	0	0	0	1	0	0	0	4	5

信越硬式野球クラブ（1敗）

YBSホールディングスは五回2死一塁から、3連続長短打などで4点を先取。九回にも石川の三塁打で突き放した。信越クは九回、5安打を集めて追い上げたが、失点が大きすぎた。

明治安田集中打で大量点 ジェイプロ投手陣乱れる

▽Dブロック

ジェイプロジェクト（1敗）

1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	6	0	3	0	×			9

明治安田（1勝）

（七回コールド）

明治安田は三回、尾藤の適時打、金子のツーランなどで6点を奪い、五回には福岡の2点適時打で試合を決めた。ジェイプロジェクトは先発の鷲我が三回、突然崩れてしまった。

◇第2日（4月24日）

（予選リーグ）

○…長野オリンピックスタジアム…○

ロキテクノ

	打	安	点
⑤ 櫻	4	2	0
吉	3	1	0
野	4	1	0
水	4	2	0
清	4	1	0
中	4	2	1
⑨ 杉	4	2	0
⑦ 河	4	1	0
⑧ 金	4	1	0
H 横	1	1	0
② 福	3	0	0
H 前	1	0	0
添	0	0	0
⑥ 横	3	0	0
H 岡	0	0	0
計	32	10	1

三菱重工E

	打	安	点
④ 矢	4	0	0
⑤ 野	4	2	1
中	0	0	0
5 南	3	1	0
D 白	4	0	0
⑦ 石	3	0	0
7 柳	4	0	0
⑧ 小	3	0	0
⑨ 汐	1	0	0
③ 武	3	1	0
② 江	3	1	0
⑥ 印	3	0	1
対	3	0	0
川	3	0	0
久	0	0	0
保	0	0	0
計	28	4	2

ロ	14	2	4	0	0	1	0	0	
	振	球	犠	盗	失	残	併		
三	9	3	0	0	0	5	1		

投	手	川	回	安	責
帯	佐	藤	5	3	1
佐	加	大	1	1	1
飯	塚		2	0	0
	森		5	6	1
本	間		4	4	0

▽本塁打　中山（佐藤）▽二塁打　帯川（杉山）▽暴投　間30分▽2時

YBS

	打	安	点
③ 米	4	2	1
⑧ 野	4	2	2
D 石	4	2	2
⑥ 北	5	2	0
⑤ 加	4	2	0
⑨ 高	2	0	0
H 泉	0	0	0
9 新	0	1	0
樫	0	1	0
② 平	3	1	0
計	35	10	5

信越硬式ク

	打	安	点
⑥ 伊	4	1	0
⑤ 藤	4	0	0
④ 山	3	0	1
D 小	4	1	1
⑦ 木	4	1	2
⑧ 樫	4	2	0
③ 永	4	2	0
R 中	3	0	0
② 宗	3	0	1
H 齋	1	1	0
⑨ 藤	4	1	0
計	35	8	5

Y	5	3	3	0	0	7	0	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
信	9	1	0	0	2	4	0	

投	手	原	回	安	責
柳	山	川	7	1	4
			2	7	
佐	藤	藤	5	5	2
加	大	澤	⅓ 3	⅔ 4	1 2

▽本塁打　井上（柳川）▽三塁打　永谷（原）▽二塁打　米木（石）▽暴投　新宅、木間（麦）28分▽2時

ジェイプロ

	打	安	点
④ 片	3	1	0
D 平	3	0	0
H 満	1	0	0
⑥ 上	3	0	0
⑧ 橋	3	0	0
⑤ 富	3	0	0
神	3	0	0
浅	3	0	0
宮	3	0	0
岡	3	0	0
木	2	0	0
計	26	2	0

明治安田

	打	安	点
尾	4	1	1
金	3	1	2
新	1	0	0
高	4	2	0
D 藤	3	0	0
④ 子	4	1	1
H 城	3	1	0
⑥ 瀬	4	2	0
⑦ 森	3	1	1
⑨ 廣	3	1	2
⑧ 藤	3	3	3
③ 岡	3	1	2
② 川	3	1	1
⑤ 鳥	2	1	0
計	26	12	8

ジ	3	2	1	0	0	7	2	
	振	球	犠	盗	失	残	併	
明	4	2	2	0	0	3	0	

投	我	川	回	安	責
鷲	中	伊	3	2	1
			2	9	6
松	中		1	6	1

▽本塁打　岡（鷲上）藤中片子（金子）打　尾（我）、藤（鷲）間59分▽二塁打　伊（投）▽1時

打撃戦ともに譲らず バイタル浪川4打点

▽Bブロック

七十七銀行（1分け）

1	0	0	0	4	1	0	2		9
2	0	0	4	0	0	3			9

バイタルネット（1分け）

双方、併せて27安打の打撃戦。七十七銀行が九回1死満塁から、大石の適時打とボークで突き放すと、バイタルネットもその裏、津田の2点適時二塁打など、3本の二塁打を集めて追いつき、引き分けた。

西濃福島が逆転2ラン パナソニック後半沈黙

▽Aブロック

西濃運輸（1勝1敗）

0	1	0	0	1	3	2	0	1	8
1	0	0	1	3	0	0	0	0	5

西濃運輸は七回、四球の走者を犠打で送り、代打の福島が右翼へ2ランを放ち逆転した。六回から登板の塩本が4回を無失点に抑えた。パナソニックは救援陣が誤算だった。

東京ガス楠が本塁打 伏木先発の西川好投

東京ガス（1勝1分け）

0	1	0	0	1	0	0	0		2
0	0	0	0	1	1	0	0	0	2

伏木海陸運送（1敗1分け）

互いに投手陣が好投し引き分けた。東京ガスは五回、楠のソロで2点差とした。伏木海陸運送は五回に番場の二塁打を足場に1点を返すと、六回には相手失策に乗じて追いついた。

○…佐久総合運動公園野球場…○

TDK北畠が3打点 5投手の継投で零封

▽Dブロック

FedEx（1敗）

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	1	3	0	1	0	0	×	5

TDK（1勝）

TDKの北畠は三回に先制の適時二塁打を放つと、四回にも適時二塁打。六回には犠飛で走者を迎え入れ、3打点の活躍を見せた。FedExは5投手に抑えられ、4安打に終わった。

YBS18安打の猛攻 4番北口が2本塁打

▽Cブロック

ロキテクノ富山（2敗）

1	0	0	0	0	0	2	0		3
0	0	0	3	0	1	5	1		10

YBSホールディングス（2勝）

（八回コールド）

YBSホールディングスが18安打の猛攻を見せた。八回には4番の北口がこの日2本目の本塁打を放ち、7点差をつけてコールド勝ちを決めた。ロキテクノは継投策が実らなかった。

七十七銀行

	打	安	点
⑤	石井寛	4	3	1
⑥	大宮三	5	4	2
⑧	石長越	5	5	2
③	崎上井	4	2	0
②	信川谷	5	3	1
DH	村	4	1	1
D7	葉	2	1	0
⑦	田	0	0	0
H	本	1	0	0
⑨	尾	2	0	0
④	松	2	1	0
	計	37	14	8

バイタル

	打	安	点
⑤	西	5	2	1
⑧	松	5	1	0
⑥	津	5	3	2
⑦	浪	4	2	4
R	吉	0	0	0
③	大	4	1	1
⑨	小三	4	0	0
DH	宮	3	0	0
④	後	1	1	0
②	菅	3	1	0
H	三	1	1	1
	計	39	13	9

七	6	11	2	4	0	14	1
	振	球	犠	盗	失	残	併
バ	10	2	0	0	0	5	0

投	手	回	安	責
庭	田	5	8	6
渋	谷	2	1	0
柴	崎	1	⅓	2	2
	沖		⅔	2	1
江	村	5	6	5
	南	1	1	1
酒	井		⅔	2	1
齋	藤	2	⅓	5	2

▽本塁打　浪川（庭田）▽三塁打　川長谷川▽二塁打　三上、石井寛、菅井、津田、宮内、三原▽ボーク　齋藤▽捕逸　菅井▽3時間13分

三菱重工E継投策成功 信越ク打線つながらず

信越硬式野球クラブ（2敗）

0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
0	0	0	1	3	0	0	0	×	4

三菱重工East（2勝）

三菱重工Eastは四回に川久保の三塁打で先制すると、五回には5安打を連ねて3点を追加した。信越硬式野球クラブは5投手による相手の継投に抑えられた。

◇**第3日**（4月25日）

（予選リーグ）

○…長野オリンピックスタジアム…○

七十七銀行九回逆転勝ち 東海理化2度勝ち越しも

▽Bブロック

七十七銀行（1勝1分け）

0	1	2	0	0	0	1	2	2	8
0	1	0	1	0	1	2	2	0	7

東海理化（1勝1敗）

七十七銀行は九回、石井寛の犠飛で追いつくと、宮崎の

西濃運輸

	打	安	点
⑨	佐	2	0	0
H8	向	3	1	2
④	田	3	0	0
⑦9	山	5	2	0
⑤	業	4	1	1
②	崎	4	1	1
D	田	4	1	1
DRD	西	3	1	0
⑧9	野	0	0	0
H7	遥	3	1	0
⑥	島	2	2	0
③	田	4	0	0
	計	37	9	6

パナソニック

	打	安	点
⑦	宮	4	0	0
⑥	坂	5	1	1
D	山	4	2	1
⑧	上	4	1	0
⑨	三	4	0	0
③	浦	3	2	1
⑤	松	2	0	0
H	植	1	0	0
5	手	0	0	0
④	山	0	0	0
4	法	0	0	0
②	小	3	2	0
	計	32	7	4

西	9	7	2	3	3	11	3
	振	球	犠	盗	失	残	併
パ	11	5	1	1	2	6	0

投	手	回	安	責
庄	司	5	6	5
森	岡		⅔	0	0
塩	本	4	1	0
柿	本	4	½	2	2
輿	座		⅔	1	0
小	倉		⅔	2	3
榎	本	2	⅔	3	3
北	畑		⅔	1	0
井	輿		⅔	0	0

▽本塁打　譽田（柿本）福島（榎本）▽三塁打　河田、小山▽二塁打　河西、山本▽暴投　小倉▽捕逸　譽田▽3時間23分

東京ガス

	打	安	点
④	相馬	4	0	0
D	楠	4	2	1
⑤	仲	4	0	0
③	内	4	0	0
⑧7	藤	4	2	0
⑨	冨	4	2	1
②	馬	1	0	0
H	竹	1	0	0
2	越	0	0	0
⑦	飯	0	0	0
H8	中	2	0	0
⑥	北	3	1	0
	計	32	7	2

伏木海陸

	打	安	点
⑧	荒井	4	1	0
⑤	久保	4	1	0
⑥	木村	4	1	0
⑨	竹内	4	1	0
③	番場	4	2	0
R	飯嶌	0	0	0
②	幸明	4	0	0
⑦	牧田	4	1	0
④	島	3	0	1
H	青木	1	0	0
D	吉田	3	0	0
	計	35	7	1

東	5	1	1	2	1	5	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
伏	7	0	0	1	0	6	1

投	手	回	安	責
伊	東	6	5	2
寺	沢	3	2	0
西	川	8	7	2
西	納		⅓	0	0
山	田		⅔	0	0

▽本塁打　楠（西川）▽二塁打　岡、番場▽2時間30分

FedEx

	打	安	点
⑨	河野	3	0	0
④	藤田	4	1	0
⑧	海東	4	1	0
③	荻伊	4	0	0
DR7	森古	3	1	0
②	石	4	0	0
⑦	橋	2	0	0
⑥	海野	2	0	0
⑤	城之内	2	1	0
	計	28	4	0

TDK

	打	安	点
⑦	青木	4	1	2
⑧	北畠	2	2	3
⑨	齋田	4	1	0
D	関口	3	0	0
③	打川	3	2	0
H3	三浦	1	0	0
④	植村	4	0	0
②	兼子	3	1	0
⑤	伊藤	4	2	0
⑥	夏井	4	2	0
	計	30	9	5

F	6	3	2	0	2	6	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
T	3	4	3	1	0	8	1

投	手	回	安	責
久	島	5	8	4
杉	内	2	0	1
金	井	1	1	0
小	島	5	4	0
阿	部	2	0	0
藤	井	1	0	0
佐	藤	1	0	0
田	中	1	0	0

▽二塁打　東海林、北畠2▽ボーク　久留島2▽2時間29分

ロキテクノ

	打	安	点
⑤	櫻吉	3	1	2
D	水野	1	0	0
DHD	渡部	1	0	0
④	清水	4	1	1
③	中井	3	1	1
⑨	杉山	4	1	0
⑦	野	1	0	0
H7	河原	1	0	0
⑧	横田	3	2	0
②	添田	2	1	0
H	前田	0	0	0
2	福田	0	0	0
⑥	合屋	3	1	0
	計	27	6	3

YBS

	打	安	点
③	米麦	5	4	3
⑧	野中	4	1	0
D	石川	5	0	0
⑥	北口	5	4	2
⑤	加藤廉	4	2	0
⑨	高田	4	2	0
H	鈴木	1	0	0
9	泉内	0	0	0
⑦	新宅	3	1	0
④	樫見	4	2	2
②	平石	4	4	2
	計	37	18	9

ロ	4	5	1	0	2	6	0
	振	球	犠	盗	失	残	併
Y	5	1	2	1	0	9	1

投	手	回	安	責
伊	藤	3	⅔	8	3
佐山	藤	1	⅓	1	0
中	川		⅓	1	1
飯	田		⅔	1	0
冨	塚	1		6	5
	田		⅓	1	1
加藤	響	6		2	1
西	出		⅓	2	2
右	田	2		2	0

▽本塁打　北口（伊藤）▽二塁打　中井、冨田、見、樫平▽2時間42分

バイタル浪川逆転3ラン JFE東は救援陣捕まる

JFE東日本（2敗）
000 400 401 9
011 212 03× 10

バイタルネット（1勝1分け）

バイタルネットは八回1死一、二塁で、4番の浪川が逆転の3ランを放ち、打撃戦を制した。JFE東日本は大森の2本塁打など相手を上回る14安打ながら、投手陣が捕まった。

西濃連続押し出しで決勝点 伏木海陸四回に攻めきれず

▽Aブロック

伏木海陸運送（2敗1分け）
020 100 000 3
200 001 20× 5

西濃運輸（2勝1敗）

西濃運輸は七回、満塁から2度の押し出し四球で勝ち越し、3番手の山下が4回を無失点に抑えて逃げ切った。伏木海陸運送は四回に勝ち越し、なお満塁の好機に追加点を奪えなかった。

○…佐久総合運動公園野球場…○

ジェイプロ片岡3ラン TDK追い上げ及ばず

▽Dブロック

ジェイプロジェクト（1勝1敗）
010 001 300 5
000 010 300 4

TDK（1勝1敗）

ジェイプロジェクトは七回、片岡の3ランで4点をリード。TDKもその裏、4連続長短打などで1点差に追い上げたが、ジェイプロジェクトの2番手、笈川が後続を断った。

FedEx競り勝つ 明治安田反撃届かず

FedEx（1勝1敗）
001 010 100 3
010 000 010 2

明治安田（1勝1敗）

FedExは七回、敵失で出た走者をバントで送り、森本のこの日、3本目の安打でリードを広げた。明治安田は相手2番手の金井を捉えきれなかった。

ロキテクノ15安打 信越硬式反撃遅く

▽Cブロック

信越硬式ク

		打	安	点
⑥	伊藤	4	0	0
⑤	山木	4	1	0
D	山谷	4	3	0
⑨	林道	4	1	0
⑦	若池	4	1	0
③	樫山	4	1	0
④	中小	4	1	0
②	原	3	1	0
⑧	藤澤	3	2	0
	計	31	7	1

三菱重工E

		打	安	点
④	矢野	4	0	0
⑤	中南	5	1	0
5		0	0	0
⑨7	汐月	4	2	0
⑦	小柳	5	3	0
R9	江越	0	0	0
⑧	武田	5	1	0
D	白石	4	1	0
③	印出	3	1	2
②	対馬	3	2	1
H	久木	1	1	0
2	友田	0	0	0
⑥	川久保	3	2	1
	計	37	14	4

	信	三
安	5	3
盗	0	4
失	2	0
残	0	0
併	1	1
責	5	3

	回	安	責
伊藤	4	3	2
酒井	4⅓	10	4
佐渡	3⅔	4	0
和田	5	4	0
島内	1	0	0
中中	1	1	1
野中	1	1	0

▽三塁打　中道、川久保▽二塁打　若林▽2時間40分

七十七銀行

		打	安	点
⑤	石井寛	3	0	1
⑥	大宮石	3	0	0
⑧	三崎上	4	2	2
③	石信川	5	3	1
②	長井谷	5	3	2
D	千根葉	4	1	0
⑦	松尾本	4	2	1
⑨		4	2	0
④		4	2	1
	計	36	14	8

東海理化

		打	安	点
⑧	福本	5	2	2
D	井貝	5	1	1
⑤	川上	5	0	0
⑦	齋藤	3	1	1
③	武河	4	1	0
⑨	門叶	3	0	0
H9	鈴木	2	1	1
9	池近	0	0	0
②	角田	4	2	0
⑥	西	2	1	0
④	浦	1	1	0
H		1	1	0
R4	杉	1	1	0
	計	37	11	6

	七	東
安	23	99
盗	20	20
失	16	11
残	0	4
併	0	0
責	4	0

	回	安	責
藤後	6	7	3
渋谷	⅔	1	2
沖	1⅓	2	2
柴崎	1	1	0
新地	2⅓	5	3
生田目	4⅔	4	1
池田	⅓	2	2
北添	1⅓	2	2
近藤	⅓	1	0

▽本塁打　門叶（沖）武藤（沖）▽三塁打　宮崎▽二塁打　根本、三上、石井信、松尾、宮崎、福本、池間▽暴投　角田渋谷▽走塁妨害　角田▽3時間6分

JFE東

		打	安	点
⑥	小大	5	1	0
⑨	猪梁	5	3	1
⑦	櫻山	5	4	2
③	中山志	5	5	4
D	山志折	4	5	2
⑤	田瀬井	5	4	2
⑧	城澤本	4	2	1
②	賀尾田	3	2	1
2		0	0	0
④	村	2	0	0
H	田			
4				
	計	41	14	8

バイタル

		打	安	点
⑤	西浦	4	2	3
R	吉浦	0	0	0
5	村本	0	0	0
⑧	津田	3	0	0
⑥	浪本	4	1	0
D	大田	3	3	3
③	小橋	3	2	1
⑨	三川	5	2	2
⑦	後原	4	2	2
④	藤井	2	0	0
H4	橋	1	1	0
②	高内	2	0	0
H	宮井	0	0	1
2	菅	1	0	0
	計	31	11	10

	J	バ
安	7	10
盗	4	10
失	0	2
残	1	0
併	9	1
責	1	0

	回	安	責
投高	4	3	4
本定		⅔	2	1
新谷		⅓	0	0	2
加藤	1		4	2
福山	2		2	3
松田	6	⅓	8	8
酒井		⅓	2	0
齋藤	2	⅓	4	1

▽本塁打　大森2（松田2）西浦（高根）浪川（福山）▽三塁打　大橋▽二塁打　西浦、浪川、梁瀬、山城、志賀▽暴投　本定▽3時間25分

伏木海陸

		打	安	点
⑧	荒久井	5	0	0
⑤	井保田	3	0	0
H	木竹番	1	0	0
⑥	村内場	5	2	0
⑨	木竹牧	3	0	0
③	幸明	2	0	0
②	牧田	4	1	0
⑦	島	3	1	2
④		3	1	0
D	吉田	3	0	0
	計	33	8	3

西濃運輸

		打	安	点
⑧	河田	2	0	0
3	福山	0	0	0
④	大山	2	1	1
⑨	修山	3	1	0
⑤	野行	3	2	3
D	誉崎	4	0	1
⑦	福田	4	0	0
③	河島	3	1	0
R8	渡西	3	0	0
②	業遣	3	1	0
R2	城天	1	0	0
⑥	宮野	4	0	0
	計	29	6	5

	伏	西
安	9	5
盗	5	1
失	1	1
残	9	0
併	0	0
責	5	4

	回	安	責
投三	6	⅓	6	5
山西		⅔	0	0	0
	1	⅔	0	0
川井	4		5	3
池田	1		1	0
山下	4		2	0

▽本塁打　牧田（川井）▽2時間42分

ジェイプロ

		打	安	点
④	片岡	4	2	3
D	平田	2	0	1
⑨	宮上	3	1	1
⑦	橋本	4	1	1
③	富川	4	0	0
⑥	宮内	4	1	0
②	神農	4	1	0
⑧	岡田	3	1	0
⑤	木内	4	0	0
	計	32	7	5

TDK

		打	安	点
⑦	青木	5	1	3
⑧	北畠	4	1	0
⑨	齋田	3	1	1
D	関口	3	0	0
HD	打川	1	0	0
⑤	深江	3	0	0
H5	太田	1	0	0
④	植村	4	0	0
③	三浦	4	2	0
②	奥村	3	0	0
R	伊藤	0	0	0
⑥	夏井	3	2	0
	計	34	10	4

	ジ	T
安	5	5
盗	2	2
失	2	2
残	0	0
併	4	7
責	0	0

	回	安	責
投菅	6	⅔	9	4
笈川	2	⅓	1	0
鈴木	5	⅓	4	2
川原	1	⅔	2	3
阿部	2		1	0

▽本塁打　橋本（鈴木）片岡（川原）▽三塁打　上宮田、青木▽二塁打　内、村岡田、北畠、奥原▽暴投　菅▽2時間52分

ロキテクノ富山（1勝2敗）
220 012 000 7
000 001 120 4

信越硬式野球クラブ（3敗）

ロキテクノ富山は一回、3番櫻吉の2ランで先制すると、櫻吉が4安打をマークするなど、計15安打で快勝した。信越硬式野球クも後半反撃したが、失点が大きかった。

◇**第4日**（4月26日）
（予選リーグ）
○…長野オリンピックスタジアム…○

東京ガス集中打 中尾満塁本塁打

▽Aブロック

東京ガス（2勝1分け）
030 070 3
000 000 4
4 13

パナソニック（1勝2敗）
（七回コールド）

東京ガスは五回2死無走者から満塁とし、押し出しの四球と適時打、中尾の満塁本塁打で試合を決めた。パナソニックは七回、ようやく4点を返しただけに終わった。

バイタル打ち勝つ 4番浪川2本塁打

▽Bブロック

バイタルネット（2勝1分け）
200 033 022 12
100 022 000 5

東海理化（1勝2敗）

バイタルネットは一回、浪川の2ランで先制すると、中盤には連打で加点。九回は浪川、小川の本塁打で突き放した。東海理化も粘り強く反撃したが、投手陣がこらえきれなかった。

七十七銀行接戦制す 2番手の庭田が好投

JFE東日本（3敗）
001 001 100
012 010 00×
4 3

七十七銀行（2勝1分け）

FedEx

	打	安	点
⑧ 森 本	4	3	2
⑦ 東海林	5	2	0
⑨ 河 野	4	1	0
③ 荻 田	4	1	0
D 伊達之	3	1	0
⑤ 城内	4	1	0
④ 藤 田	3	0	0
② 宮 川	3	2	0
⑥ 海 野	4	1	0
計	33	10	2

明治安田

	打	安	点
D 尾 藤	3	0	0
HD 新 城	2	1	0
④ 金 子	4	1	1
⑥ 高 瀬	4	1	0
⑦ 森	4	2	0
R7 齋 藤	0	0	0
⑨ 永 廣	4	0	0
⑧ 伊 藤	2	1	0
③ 福 岡	4	2	1
② 森 川	2	0	0
H 南 保	1	0	0
2 松 岡	0	0	0
H 日 置	1	0	0
⑤ 水 鳥	2	0	0
HR 岸 本	0	0	0
生 島	0	0	0
計	33	8	2

	振	球	犠	盗	失	残	併
F	2	2	3	0	0	8	1
明	5	4	0	0	2	8	2

投	手	回	安	責
山	登	6	5	1
金	井	3	3	1
小	玉	4	⅓ 7	2
三	宮	2	⅔ 2	1
石	毛	1	1	0
中	崎	1	0	0

▽三塁打　新城▽二塁打　森本2、伊達、海野、福岡▽暴投　小玉▽2時間30分

ロキテクノ

	打	安	点
⑧ 福 本	3	0	0
H 降 旗	1	0	0
7 野 山	3	0	0
⑨ 杉 吉	4	2	2
⑤ 櫻 井	4	1	1
③ 中 水	5	3	1
⑦ 清 原	4	1	0
④ 金 田	3	1	1
D 岡 田	3	1	1
HD 横 崎	1	0	0
8 福 田	4	2	2
② 横 山	3	0	0
H 河 添	1	0	0
2 合 屋	1	0	0
⑥ 横 山	2	1	1
H6 横	1	0	0
計	38	15	7

信越野球ク

	打	安	点
⑥ 伊 藤	2	1	0
⑤4 山 崎	3	0	0
D 樫 山	4	1	1
⑨ 若 林	4	0	0
③ 中 道	4	1	0
⑦ 永 井	5	2	0
⑧ 藤 澤	3	1	1
④ 小 谷	2	0	0
H5 木 藤	2	0	1
② 齋 藤	3	3	0
計	32	9	3

	振	球	犠	盗	失	残	併
ロ	7	4	2	0	0	10	2
信	3	8	2	2	1	11	0

投	手	回	安	責
佐	藤	4	2	0
飯	塚	1	2	0
山	本奨		⅔ 3	1
冨	田		⅓ 0	0
中	田	1	⅔ 2	3
山	本雅	1	⅓ 0	0
田	中	4	⅓ 9	5
大	澤	4	⅔ 6	2

▽本塁打　櫻吉（田中）▽三塁打　二合屋、金原▽二塁打　井、齋藤澤、永藤▽暴投　冨田、中田▽3時間8分

東京ガス

	打	安	点
⑥ 北 本	5	1	0
D 楠	3	1	0
HD 小野田	1	0	0
⑤ 仲 俣	3	2	0
③ 内 海	2	0	1
⑦ 藤 澤	4	3	2
⑨ 冨 岡	4	2	1
H 9 石 森	1	0	0
⑧ 飯 尾	4	2	6
④ 中 馬	3	1	1
② 相 場	3	0	1
H2 越 川	3	1	0
計	32	11	11

パナソニック

	打	安	点
⑧ 上 田	3	0	0
④ 本 間	3	0	0
H 宮 崎	1	0	0
D 山 本	4	2	1
③ 三 宅	4	1	1
⑨ 久 田	4	0	0
⑤ 保 浦	2	1	0
⑥ 松 浦	3	2	0
⑥ 手 塚	2	1	0
② 坂 下	3	2	2
計	30	9	4

	振	球	犠	盗	失	残	併
東	5	4	1	0	1	3	0
パ	5	2	0	0	1	7	0

投	手	回	安	責
野	澤	6	4	0
松	崎	1	5	4
榎	本	3	3	3
定	本	2	4	7
井	奥	1	0	0
北	畑	1	0	3

▽本塁打　中尾（定本）▽二塁打　山本、打冨岡、三宅▽暴投　小山、小山▽捕逸　榎本▽2時間25分

バイタル

	打	安	点
⑤ 西 松	2	1	0
⑧7 津 浪	4	1	1
⑥ 新 大	5	3	0
⑦ 小三治	5	3	1
9 後 宮	3	1	0
③ 宮 吉	3	2	2
⑨8 高 橋	3	1	1
D 浦 本	4	2	0
④ 川 端	3	1	1
② 井 内	3	0	0
HR 藤 川	2	1	0
2 浦 橋	1	0	0
計	41	18	12

東海理化

	打	安	点
⑧ 福 井	5	2	0
D 貝	5	1	0
HD 西	2	0	0
H 戸	1	0	0
⑤ 川	6	2	1
⑦ 齋 藤	3	2	2
③ 武 門	3	1	0
⑨ 河	3	0	0
H9 池	2	1	0
② 杉	4	2	2
④ 近	3	0	0
⑥ 鈴	3	0	0
H 角	1	1	0
6 田	1	1	0
計	38	13	5

	振	球	犠	盗	失	残	併
バ	7	2	2	0	0	6	1
東	10	9	1	4	0	16	1

投	手	回	安	責
平	井	5	6	3
南		1	4	2
佐々木			⅔ 2	0
酒	井	2	0	0
江	村	1	1	0
高	橋	5	7	5
生	目		⅔ 3	3
新	地	1	1	0
上	野	1	⅓ 4	2
近	藤	1	2	2
北	添		⅔ 1	0

▽本塁打　浪川2（高橋、近藤）▽三塁打　小藤（近藤）▽二塁打　後藤、松井、西浦、上川、小本、後藤、齋藤、川井▽時間2分

七十七銀行が庭田の好投で逃げ切った。八回無死一、二塁で交代すると続く3人を抑え、九回もピンチを併殺で切り抜けた。JFE東は走者を出しながら、あと一押しが足りなかった。

○…佐久総合運動公園野球場…○

三菱重工E終盤大量点 YBS一回先制するも

▽Cブロック

三菱重工East（3勝）

			0	0	0	1	0	0	1
			1	0	0	0	0	0	0
三菱重工E			0	0	0	1	0	0	1

			1	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0
YBS			1	0	0	0	0	0	0

三菱重工Eは七回、中山の二塁打で均衡を破り、小柳の3ランなどで5点を勝ち越した。YBSは一回に石川の適時打で先制したが、以降は相手3投手に抑えられた。

ジェイプロ打撃戦制す 3番手中川好リリーフ

▽Dブロック

FedEx（1勝2敗）

			2	2	2	0	0	0	6
			3	2	0	0	4	0	9
FedEx			2	2	2	0	0	0	6

			0	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0
ジェイプロ			0	0	0	0	0	0	0

ジェイプロジェクトは五回2死満塁から、暴投や2本の適時打で4点を奪い逆転。四回から登板の3番手中川が反撃を抑えた。FedExは3度のリードを投手陣が守れなかった。

明治安田集中打圧倒 伊藤先頭打者本塁打

明治安田（2勝1敗）

			4	1	0	0	1	7	0
			1	0	1	0	0	0	0
明治安田			2						13

TDK（1勝2敗）

（七回コールド）

三菱重工E終盤大量点 YBS一回先制するも

▽Cブロック

三菱重工East（3勝）

			0	0	0	1	0	0	1
			1	0	0	0	0	0	0
三菱重工E			0	0	0	1	0	0	1

			1	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0
YBS			1	0	0	0	0	0	0

三菱重工Eは七回、中山の二塁打で均衡を破り、小柳の3ランなどで5点を勝ち越した。YBSは一回に石川の適時打で先制したが、以降は相手3投手に抑えられた。

ジェイプロ打撃戦制す 3番手中川好リリーフ

▽Dブロック

FedEx（1勝2敗）

			2	2	2	0	0	0	6
			3	2	0	0	4	0	9
FedEx			2	2	2	0	0	0	6

			0	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0
ジェイプロ			0	0	0	0	0	0	0

ジェイプロジェクトは五回2死満塁から、暴投や2本の適時打で4点を奪い逆転。四回から登板の3番手中川が反撃を抑えた。FedExは3度のリードを投手陣が守れなかった。

明治安田集中打圧倒 伊藤先頭打者本塁打

明治安田（2勝1敗）

			4	1	0	0	1	7	0
			1	0	1	0	0	0	0
明治安田			2						13

TDK（1勝2敗）

（七回コールド）

三菱重工E乱戦制す

両チーム計6本塁打

◇**最終日**（4月27日）
（決勝トーナメント）
○…長野オリンピックスタジアム…○

▽準決勝

三菱重工East	2	2	1	0	0	1	0	2	4	12
明治安田	1	4	1	1	0	2	0	0	1	10

双方合わせて6本塁打を含む29安打の打撃戦。3点を追う三菱重工Eは八回、小柳、武田のソロで追い上げ、九回1死満塁から、小柳の適時打などで4点を挙げ逆転した。明治安田は逃げ切れなかった。

東京ガス15安打大勝

七十七銀2安打のみ

東京ガス	1	0	4	3	2	0	4		14
七十七銀行	0	0	0	0	1	0	0		1

（七回コールド）

東京ガスは一回に北本の先頭打者本塁打で先制すると、四回には内海が3ランを放つなど、計15安打で14点の猛攻を見せた。七十七銀行は投手陣の乱調がすべて。

明治安田は一回、伊藤の先頭打者本塁打で先制後、3本の適時打で計4点。六回には相手投手の制球の乱れを突き、試合を決めた。TDKは投手陣が10四球と乱れた。

東京ガス速攻逃げ切り

三菱重工E反撃届かず

▽決勝

三菱重工East	0	0	0	1	2	0	0	0	3
東京ガス	4	0	1	0	0	0	1	0	6

東京ガスは一回、楠と藤澤の2本の2ランで先制。七回には藤澤の犠飛で貴重な追加点を挙げた。三菱重工Eは中盤に追い上げたが、東京ガスの4番手、寺沢に最後は抑えられた。

㊧…表彰選手…㊨

◇**最高殊勲選手賞**
藤澤涼介・外野手（東京ガス）

◇**敢闘賞**
小柳卓也・外野手（三菱重工East）

◇**首位打者賞**
楠研次郎・外野手（東京ガス）＝15打数8安打、打率5割3分8厘

三菱重工E

	打	安	点
④ 矢野	3	0	0
⑤ 中山	4	1	0
D 汐月	3	0	0
HD 久木田	3	1	0
⑦ 小柳	3	2	0
⑧ 武田	4	3	2
⑨ 江越	4	1	0
③ 印出	3	0	1
② 対馬	4	1	0
⑥ 川久保	4	1	0
計	33	9	3

東京ガス

	打	安	点
⑥ 北本	1	1	0
R6 山崎	3	0	0
RD 楠	4	2	2
RD 竹村	4	0	0
⑤ 仲内	3	1	0
③ 海澤	2	0	0
⑧ 藤冨	3	1	3
⑦ 岡野	3	1	1
⑨ 小田	4	2	1
④ 相馬	3	1	0
② 馬場	3	1	0
計	30	10	6

三	7	2	1	0	0	6	0	0	併
	振	球	犠	盗	失	残	1	2	併
東	6	3	4	1	1	7	1	2	併

	投手	回	安	責
川和	田内	1	3	4
池本	内間	1⅓	1	1
野	中	4⅔	5	1
		1	1	0
伊	東	4⅔	6	3
稲	葉	⅓	1	0
村	上	1	0	0
寺	沢	3	2	0

▽本塁打　楠（川和田）藤澤（川和田）▽二塁打　武田2、対馬、川久保、馬場▽捕逸　対馬▽2時間34分

第66回大会・熱戦の軌跡

Aブロック	西濃運輸	東京ガス	パナソニック	伏木海陸運送	勝	敗	順位
西濃運輸	㊧	●1－4	○8－5	○5－3	2	1	2
東京ガス	○4－1	㊧	◎13－4	△2－2	2	0	1
パナソニック	●5－8	×4－13	㊧	○5－1	1	2	3
伏木海陸運送	●3－5	△2－2	●1－5	㊧	0	2	4

Bブロック	東海理化	JFE東日本	七十七銀行	バイタルネット	勝	敗	順位
東海理化	㊧	○9－7	●7－8	●5－12	1	2	3
JFE東日本	●7－9	㊧	●3－4	●9－10	0	3	4
七十七銀行	○8－7	○4－3	㊧	△9－9	2	0	1
バイタルネット	○12－5	○10－9	△9－9	㊧	2	0	2

Cブロック	ロキテクノ富山	三菱重工East	YBSホールディングス	信越硬式野球クラブ	勝	敗	順位
ロキテクノ富山	㊧	●1－2	×3－10	○7－4	1	2	3
三菱重工East	○2－1	㊧	○7－1	○4－1	3	0	1
YBSホールディングス	◎10－3	●1－7	㊧	○7－5	2	1	2
信越硬式野球クラブ	●4－7	●1－4	●5－7	㊧	0	3	4

Dブロック	ジェイプロジェクト	明治安田	TDK	FedEx	勝	敗	順位
ジェイプロジェクト	㊧	×1－9	○5－4	○9－6	2	1	2
明治安田	◎9－1	㊧	◎13－2	●2－3	2	1	1
TDK	●4－5	×2－13	㊧	○5－0	1	2	4
FedEx	●6－9	○3－2	●0－5	㊧	1	2	3



長野大会・決勝戦一覧

第１回	(昭33年)	大和証券	10―3	長鉄局		
第２回	(〃34年)	日本コロムビア	2―1	明電舎		
第３回	(〃35年)	本州製紙	2―0	川崎トキコ		
第４回	(〃36年)	熊谷組	6―1	三協精機		
第５回	(〃37年)	日本鋼管	10―7	日産自動車		
第６回	(〃38年)	大昭和製紙	3―1	電電東京		
第７回	(〃39年)	三協精機	1―0	電電東京		
第８回	(〃40年)	日本楽器	4―0	三協精機		
第９回	(〃41年)	日本楽器	2―0	電気化学		
第10回	(〃42年)	三協精機	4―0	電電東京		
第11回	(〃43年)	大昭和製紙	6―3	電気化学		
第12回	(〃44年)	大昭和製紙北海道	7―1	大昭和製紙吉原		
第13回	(〃45年)	日本楽器	10―1	東京ガス		
第14回	(〃46年)	日本楽器	5―3	大昭和製紙		
第15回	(〃47年)	三協精機	11―5	日本楽器		
第16回	(〃48年)	三協精機	9―2	キャタピラー三菱		
第17回	(〃49年)	三協精機	3―2	三菱自動車川崎		
第18回	(〃50年)	三協精機	5―0	電電信越		
第19回	(〃51年)	キャタピラー三菱	7―4	三協精機		
第20回	(〃52年)	三協精機	4―3	電電信越		
第21回	(〃53年)	三協精機	3―1	電電信越		
第22回	(〃54年)	日本楽器	3―0	リッカー		
第23回	(〃55年)	日本楽器	6―4	大昭和製紙		
第24回	(〃56年)	電電東京	5―2	トヨタ自動車		
第25回	(〃57年)	日本楽器	4―3	三菱重工横浜		
第26回	(〃58年)	東京ガス	5―3	川崎製鉄千葉		
第27回	(〃59年)	東京ガス	8―3	電電信越		
第28回	(〃60年)	NTT信越	16―3	関東自動車		
第29回	(〃61年)	三菱名古屋	11―8	国鉄名古屋		
第30回	(〃62年)	三菱名古屋	8―3	NTT信越		
第31回	(〃63年)	大仙	12―8	王子製紙春日井		
第32回	(平１年)	河合楽器	10―6	NTT信越		
第33回	(〃２年)	富士重工	8―4	河合楽器		
第34回	(〃３年)	本田技研鈴鹿	4―2	三菱名古屋		
第35回	(〃４年)	北陸銀行	8―7	NTT信越		
第36回	(〃５年)	NTT信越	13―2	大昭和製紙		
第37回	(〃６年)	NTT東海	10―9	日本通運		
第38回	(〃７年)	NTT東海	7―3	NTT信越		
第39回	(〃８年)	NTT信越	10―8	東海理化		
第40回	(〃９年)	NTT信越	15―6	阿部企業		
第41回	(〃10年)	NTT北陸	18―6	王子製紙春日井		
第42回	(〃11年)	プリンスホテル	11―3	本田技研		
第43回	(〃12年)	NTT東日本	6―3	西濃運輸		
第44回	(〃13年)	大阪ガス	6―5	NTT東日本		
第45回	(〃14年)	NTT東日本	11―0	NTT信越クラブ		
第46回	(〃15年)	NTT東日本	7―0	七十七銀行		
第47回	(〃16年)	大阪ガス	10―3	日本通運		
第48回	(〃17年)	七十七銀行	12―2	東邦ガス		
第49回	(〃18年)	かずさマジック	9―3	七十七銀行		
第50回	(〃19年)	新日本石油ENEOS	1―0	トヨタ自動車		
第51回	(〃20年)	トヨタ自動車	6―1	王子製紙		
第52回	(〃21年)	パナソニック	3―0	東京ガス		
第53回	(〃22年)	NTT東日本	3―2	富士重工業		
第54回	(〃24年)	東邦ガス	3―2	JR東日本		
第55回	(〃25年)	新日鐵住金かずさマジック	3―1	東京ガス		
第56回	(〃26年)	パナソニックブ	3―2	西濃運輸		
第57回	(〃27年)	信越硬式野球クラブ	5―3	NTT西日本		
第58回	(〃28年)	Honda鈴鹿	5―3	東芝		
第59回	(〃29年)	新日鐵住金かずさマジック	17―1	東海理化		
第60回	(〃30年)	トヨタ自動車	3―2	西濃運輸		
第61回	(〃31年)	トヨタ自動車	3―2	NTT東日本		
第62回	(令３年)	ENEO	5―3	東邦ガス		
第63回	(令４年)	東京ガス	4―1	ENEO		
第64回	(令５年)	三菱重工East	4―2	NTT東日本		
第65回	(令６年)	TD	5―3	王子		
第66回	(令７年)	東京ガス	6―3	三菱重工East		

※平成23年は東日本大震災のため大会中止
※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

2025年JABA地方大会

ロキテクノ富山2大会ぶり優勝

富山大会

◇第66回JABA富山大会（富山市長旗争奪）（4月11～14日、富山市民球場）

▽1回戦

島津製作所 002 010 000 3
340 001 00× 8
IMF BANDITS富山
（島）川口、角―安井

（Ⅰ）須田、元木―大川
▽本塁打　西丸（Ⅰ）
▽三塁打　材木（島）
▽二塁打　牧野（島）徳弘、西丸（Ⅰ）

ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校 100 003 1 5
千曲川硬式野球クラブ 100 301 × 14
（七回コールド）
（ル）橋本、益田、福井、外池、岡本―寺畑、塩川

（千）和田、桑原、村松、三石―永田
▽三塁打　花岡、関、長嶋2（千）
▽二塁打　麻田（ル）石渡、高城、永田、花岡（千）

▽2回戦

JR水戸 000 000 030 3
伏木海陸運送 010 000 010 2
（J）一條―阿部

（伏）西川、山田、藤原―幸明
▽本塁打　金（J）
▽三塁打　磯部（J）
▽二塁打　畠山（J）番場（伏）

ジェイグループ 100 022 020 7
Hard Ball Club金沢 300 010 100 5
（ジ）楠本、音琴、野田、片桐、志賀―野口
（H）山田、土田、櫻井―能崎
▽三塁打　吉浦（ジ）物部（H）
▽二塁打　砂川、児玉、西崎（ジ）物部（H）

IMF BANDITS富山 020 104 02 9
三重高虎B・C 000 100 00 1
（八回コールド）
（Ⅰ）高根澤、佐伯―伊藤、須藤
（三）畑口、上床、塚本、岡野―坂下
▽本塁打　徳弘（Ⅰ）
▽三塁打　北村（Ⅰ）
▽二塁打　伊藤、徳弘、西丸（Ⅰ）成瀬（三）

千曲川硬式野球クラブ 000 000 010 1
ロキテクノ富山 101 000 20× 4
（千）本多、森井、井関、名取―黒澤

（ロ）帯川、佐藤、飯塚、中田、山川、山本―福田
▽二塁打　櫻吉、清水2（ロ）
▽準決勝

IMF BANDITS富山 000 200 000 2
ロキテクノ富山 002 010 00× 3
（Ⅰ）五味、須田―大川
（ロ）伊藤、佐藤、飯塚―福田
▽二塁打　須藤（Ⅰ）清水、中井（ロ）

JR水戸 000 000 102 3
ジェイグループ 000 010 100 2
（J）鎮目、小泉―阿部

富山大会・優勝チーム一覧

第1回	（昭33年）	不二越
第2回	（〃34年）	北陸銀行
第3回	（〃35年）	北陸銀行
第4回	（〃36年）	倉敷レイヨン
第5回	（〃37年）	不二越
第6回	（〃38年）	トヨタ自動車
第7回	（〃39年）	ヤシカ
第8回	（〃40年）	電気化学工業
第9回	（〃41年）	金指造船所
第10回	（〃42年）	リッカー
第11回	（〃43年）	北陸銀行
第12回	（〃44年）	金指造船所
第13回	（〃45年）	金指造船所
第14回	（〃46年）	三協精機製作所
第15回	（〃47年）	電電信楽部
第16回	（〃48年）	電電信楽部
第17回	（〃49年）	三協精機製作所
第18回	（〃50年）	日本楽器
第19回	（〃51年）	西川協和
第20回	（〃52年）	三協精機製作所
第21回	（〃53年）	電電信楽部
第22回	（〃54年）	大昭和製紙
第23回	（〃55年）	電電信楽部
第24回	（〃56年）	電電信楽部
第25回	（〃57年）	明治生命
第26回	（〃58年）	河合楽器
第27回	（〃59年）	電電信楽部
第28回	（〃60年）	日本楽器
第29回	（〃61年）	河合楽器
第30回	（〃62年）	NTT信越
第31回	（〃63年）	NTT北陸
第32回	（平1年）	北日本通信名古屋
第33回	（〃2年）	トヨタ自動車
第34回	（〃3年）	NTT北信越
第35回	（〃4年）	NTTルネサス北陸
第36回	（〃5年）	NTT北陸
第37回	（〃6年）	NTT合同楽器
第38回	（〃7年）	河合楽器
第39回	（〃8年）	北陸銀行
第40回	（〃9年）	トヨタ自動車
第41回	（〃10年）	トヨタ自動車
第42回	（〃11年）	トヨタ自動車
第43回	（〃12年）	伏木海陸運送
第44回	（〃13年）	伏木海陸運送
第45回	（〃14年）	三菱重工名古屋
第46回	（〃15年）	東邦ガス
第47回	（〃16年）	東邦ガス
第48回	（〃17年）	東海理化
第49回	（〃18年）	JR東日本
第50回	（〃19年）	王子製紙
第51回	（〃20年）	東邦ガス
第52回	（〃21年）	東邦ガス
第53回	（〃22年）	三菱重工名古屋
第54回	（〃24年）	JR東海
第55回	（〃25年）	三菱重工名古屋
第56回	（〃26年）	Honda鈴鹿
第57回	（〃27年）	ミキハウスREDS
第58回	（〃28年）	三菱重工名古屋
第59回	（〃29年）	JR東海
第60回	（〃30年）	三菱重工名古屋
第61回	（〃31年）	伏木海陸運送
第62回	（令3年）	エヴェッサ
第63回	（〃4年）	バルクネッツ富山
第64回	（〃5年）	ロキテクノ富山
第65回	（〃6年）	伏木海陸運送
第66回	（〃7年）	ロキテクノ富山

※平成23年は東日本大震災のため大会中止
※令和2年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

ロキテクノ富山大勝 2本塁打含む15安打

▽決勝
ＪＲ水戸
001 000 0 1
264 043 × 19
ロキテクノ富山
（七回コールド）

ロキテクノ富山は一回、中井の2ランで先制すると、二回にも清水が満塁本塁打を放つなど、計15安打の猛打に加え、9盗塁の機動力も発揮して快勝した。ＪＲ水戸は投手陣が立ち直れなかった。

（ジ）大西、志賀、片桐、野田―野口
▽二塁打　堰口、日野（ジ）

日本製鉄山口（旧日鉄ステンレス）3連覇

徳山スポニチ大会

◇第54回ＪＡＢＡ徳山（スポニチ）大会（4月26～29日、津田恒実メモリアルスタジアム）

▽1回戦
岩国五橋クラブ
000 000 0 0
221 030 × 8
松山フェニックス
（七回コールド）

（日）庄田―西村
▽本塁打　林（日）
▽三塁打　野々下（日）
▽二塁打　大池（Ｍ）林2、石鳥、木村（日）

三原ヤッサベースボールクラブ
000 200 010 3
100 000 001 2
履正社スポーツ専門学校
（三）比嘉、松本―中村爽
（履）田中、高垣、飯田―岡崎

九州総合スポーツカレッジ
000 000 020 2
010 010 10× 3
山口防府ベースボールクラブ
（九）江藤、八田、森、松元―満潮
（山）森本―水本
▽三塁打　前原（山）
▽二塁打　満潮（九）山下、水本、前田、阿部（山）

広島鯉城クラブ
110 000 081 11
300 010 210 7
三和テクノイノベーション
（広）梶間、村島、田崎―外薗
（三）河合―金谷
▽三塁打　東（広）渡邉（三）
▽二塁打　外薗、東（広）

▽2回戦
福山ローズファイターズ
011 000 010 3
001 000 22× 5
松山フェニックス
（福）近藤、山田、末道、浜崎―吉田
（松）高松、荒木―塩見、古和田
▽三塁打　重松（松）
▽二塁打　横山（福）片山、池上（松）

日本製鉄山口
022 304 7 18
030 000 0 3
ＭＪＧ島根
（七回コールド）
（日）疋田、加納、澁谷―田中
（Ｍ）三角、三島、大濱―今

（広）
▽準決勝
松山フェニックス
000 000 000 0
000 200 00× 2
日本製鉄山口
（松）亀岡―古和田
（日）中里、下江―西村
▽二塁打　石鳥（日）

広島鯉城クラブ
000 070 00 7
053 102 21 14
ショウワコーポレーション
（八回コールド）
（広）梶間、中谷、佐藤、坂倉、田崎―外薗
（シ）引地、寺田、蒲、磯村―櫻木
▽三塁打　多和田（シ）
▽二塁打　石川（広）櫻木、間瀬場、西野（シ）

◇最高殊勲選手賞
中井　雄輝・内野手（ロキテクノ富山）

◇敢闘賞
磯部　晃喜・外野手（ＪＲ水戸）

◇打撃賞
清水　颯大・内野手（ロキテクノ富山）＝8打数6安打、打率7割5分

㊫…表彰選手…㊫

ＪＲ水戸	打	安	点
⑧	磯部	2	0	0
⑨	西田	2	0	0
⑤	大森	2	0	0
③	畠山	3	1	0
⑥	金	3	0	0
④	本	2	0	0
②	松阿部	1	0	0
ＨＤＨ	春日	1	0	0
⑦	鈴木留	2	0	0
	宇野沼	1	0	0
	柴	3	0	0
計		22	2	1

富山	打	安	点
⑤	櫻	2	1	1
⑥	吉山	2	1	0
⑨	横河	2	4	0
④	原木	3	0	2
4	清水	3	2	1
③	中野	2	1	1
3	岡井	3	1	2
ＤＨ	杉田	2	2	0
D	河山	3	2	0
⑧	横崎	2	2	2
②	福田	5	3	1
⑦	渡部	2	0	0
⑥	合屋	1	1	2
5	前田	1	1	0
計		33	15	17

	Ｊ振	3球	4犠	1盗	0失	2残	5併	1
ロ		5	9	0	9	0	5	0

投	手	回	安	責
一	條	⅔	1	1
鈴	木智	2	4	4
會	澤	1	4	3
郡	司	2	1	3
西	野	1	1	3
山	本	3	1	1
冨	田	1	0	0
中	川	1	0	0
山		1	0	0

▽本塁打　井清水（鈴木智）
▽三塁打　本（鈴木智）
▽二塁打　野（鈴木智）
▽暴投　岡崎、澤
▽時間　2分

徳山スポニチ大会・優勝チーム一覧

第１回	（昭46年）	新日鐵八幡
第２回	（〃47年）	東洋紡
第３回	（〃48年）	新日鐵光
第４回	（〃49年）	東洋紡
第５回	（〃50年）	新日鐵光
第６回	（〃51年）	電電中国
第７回	（〃52年）	新日鐵光
第８回	（〃53年）	大倉工業
第９回	（〃54年）	新日鐵光
第10回	（〃55年）	日石カルテックス
第11回	（〃56年）	新日鐵堺
第12回	（〃57年）	電電中国
第13回	（〃58年）	新日鐵光
第14回	（〃59年）	電電北陸
第15回	（〃60年）	ＮＴＴ関東
第16回	（〃61年）	ＮＴＴ北陸
第17回	（〃62年）	ＮＴＴ北陸
第18回	（〃63年）	新日鐵光
第19回	（平１年）	新日鐵光
第20回	（〃２年）	ＮＴＴ北陸
第21回	（〃３年）	ＮＴＴ北陸
第22回	（〃４年）	ＮＴＴ北陸
第23回	（〃５年）	ＮＴＴ北陸
第24回	（〃６年）	大阪ガス
第25回	（〃７年）	三菱自動車水島
第26回	（〃８年）	大阪ガス
第27回	（〃９年）	川崎製鉄水島
第28回	（〃10年）	大阪ガス
第29回	（〃11年）	日産自動車九州
第30回	（〃12年）	協和発酵
第31回	（〃13年）	本田技研熊本
第32回	（〃14年）	九州三菱自動車
第33回	（〃15年）	九州三菱自動車
第34回	（〃16年）	リーストキン
第35回	（〃17年）	光シーガルズ
第36回	（〃18年）	ワイテック
第37回	（〃19年）	熊本ゴールデンラークス
第38回	（〃20年）	熊本ゴールデンラークス
第39回	（〃21年）	光シーガルズ
第40回	（〃22年）	沖データコンピュータ教育学院
第41回	（〃23年）	苅田ビクトリーズベースボールクラブ
第42回	（〃24年）	山口きららマウントＧ
第43回	（〃25年）	光シーガルズ
第44回	（〃26年）	ＭＳＨ医療専門学校
第45回	（〃27年）	松山フェニックス
第46回	（〃28年）	山口防府ベースボールクラブ
第47回	（〃29年）	福山ローズファイターズ
第48回	（〃30年）	沖データコンピュータ教育学院
第49回	（令１年）	光シーガルズ
第50回	（〃３年）	日鉄ステンレス山口シーガルズ
第51回	（〃４年）	ビッグ開発ベースボールクラブ
第52回	（〃５年）	日鉄ステンレス
第53回	（〃６年）	日鉄ステンレス
第54回	（〃７年）	日本製鉄山口

※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

日鉄林がサヨナラ打 ショウワ粘り及ばず

▽決勝
ショウワコーポレーション　１００　０００　００４　１
日本製鉄山口　１００　０１０　２０１　２　６
（延長十回）

日鉄山口は延長十回２死満塁から、４番林の左中間二塁打で２者が還り、逆転サヨナラ勝ち。ショウワコーポレーションは九回、中田の適時打などで３点差を逆転したが、十回のタイブレークで、犠飛による１点にとどまった。

㊫…表彰選手…㊫

◇最高殊勲選手賞
林　拓馬・外野手（日本製鉄山口）

◇敢闘賞
平山　勇希・内野手（ショウワコーポレーション）

◇首位打者賞
野々下　雷基・外野手（日本製鉄山口）＝15打数９安打、打率６割

ショウワ

		打	安	点
⑤	辻　本浦田	３	０	０
Ｈ	福　和堀	２	１	０
⑦	多　山辺	５	１	０
Ｄ	和　木倉	４	１	０
③	堀　之本	４	０	０
④	平渡　藤田	４	０	０
⑥	高内　中	３	０	０
②	藤中　田	１	０	０
⑨	謝　花	２	０	０
Ｈ	９			
⑧	５			
計		３７	９	５

日鉄山口

		打	安	点
⑦	石　鳥	５	０	０
⑥	中　島	４	０	０
Ｄ	横　田	３	１	０
⑧	林	６	４	３
⑨	々下	３	２	１
９	野　斐	３	０	０
⑤	甲　田	２	０	０
③	坂　田	３	１	０
Ｈ	３			
④	黒　池	３	１	０
②	小　本	５	１	０
Ｒ	坂　中	４	０	０
２	田　村	２	０	０
	木　村	１	０	０
	西	０	０	０
計		３７	１２	７

	振	球	犠	盗	失	残	併
シ	８	２	２	３	３	７	２
日	10	９	３	１	２	15	０

		回	安	責
投	手	田	３	１
高	岸	川	３	０
橋	爪	本	２	１
橋	引	地	１	１
武	藤	敢	６	２
加	納		３	０

		回	安	責
投	手	田	４	３
高	岸	川	２	６
橋	爪	本	⅔	０
橋	引	地	１	２
武	藤	敢	８	６
加	納		１	３

		回	安	責
投	手	田	４	１
高	岸	川	２	３
橋	爪	本	⅔	０
橋	引	地	１	１

静岡硬式野球倶楽部
100 002 0 3
002 022 4 10
ＦｅｄＥｘ
（七回コールド）
（静）川里、小川、古牧―吉永
（Ｆ）小林―古川
▽三塁打　荻田（Ｆ）
▽二塁打　飯高、東海林（Ｆ）

ＦｅｄＥｘ
010 001 000 2
000 000 200 2
テイ・エステック
（Ｆ）久留島、杉内、金井―宮川
（テ）八木橋、関口―青木、伊澤
▽二塁打　城之内（Ｆ）青木（テ）

静岡硬式野球倶楽部
000 000 0 0
070 011 × 9
ＪＲ東日本東北
（七回コールド）
（静）島田、上村―吉永
（Ｊ）武田、佐藤、川村―佐々木、久保田
▽三塁打　上村（静）
▽二塁打　土屋、渡邉（静）
山本、古山、丸山（Ｊ）
▽Ｂブロック

マルハン北日本カンパニー
020 030 3 8
000 000 0 0
新潟コンマーシャル倶楽部
（七回コールド）
（マ）藤澤―落合（新）五十嵐樹、芦田、渡辺―久志田
▽三塁打　作本（マ）

日立製作所
000 000 000 0
001 001 00× 2
読売ジャイアンツ（三軍）
（日）北爪、生井―佐藤（読）園田、田村、ルシアーノ、富田―坂本勇
▽三塁打　三塚、北村（読）
▽二塁打　平山、浅野（読）
新潟コンマーシャル倶楽部
000 100 0 1
300 400 1 8
読売ジャイアンツ（三軍）
（七回コールド）
（新）五十嵐翔、芦田、丸山、渡辺―久志田、宮村（読）森本、吹田―坂本達
▽本塁打　三塚（読）
▽二塁打　増田、前川（新）浅野、平山２（読）

日立製作所
001 002 001 4
300 120 00× 6
マルハン北日本カンパニー
（日）多間、田川、宮下―渡邉、鮎ヶ瀬
（マ）粕谷、中村、山村、市川、鈴木―山口
▽本塁打　柄澤（マ）
▽二塁打　竹内（日）白石（マ）

読売ジャイアンツ（三軍）
330 012 002 11
500 300 000 8
マルハン北日本カンパニー
（読）鴨内、鈴木、西川、吉村、富田―坂本勇
（マ）林、山本、石坂、小松―落合、山口
▽三塁打　中田、村山（読）
▽二塁打　浅野、中田２、村山、平山（読）白石、柄澤、金井（マ）

新潟コンマーシャル倶楽部
000 100 0 1
009 300 × 12
日立製作所
（七回コールド）
（新）丸山、五十嵐翔、芦田、渡辺―久志田
（日）原田、山田、片山―佐藤
▽二塁打　前川（新）金原、佐藤（日）
▽Ｃブロック

ＪＲ秋田
000 100 0 1
026 010 × 9
バイタルネット
（七回コールド）
（Ｊ）熊谷、佐々木利、杉原―山田
（バ）長岡、近藤、武木田、佐々木―高橋
▽三塁打　吉浦（バ）
▽二塁打　新井２、三井、宮内（バ）

千曲川硬式野球クラブ
000 000 000 0
200 000 00× 2
全足利クラブ
（千）星野、村松、本多―永田皓
（全）山本―岩崎昂
▽三塁打　二村（全）
全足利クラブ
000 000 000 0
011 000 00× 2
バイタルネット
（全）佐藤―岩崎昂
（バ）南、江村―五十嵐、菅井
▽本塁打　松本（バ）

ＪＲ秋田
011 000 102 5
100 000 010 2
千曲川硬式野球クラブ
（Ｊ）鈴木雄、熊谷、杉原―山田
（千）三石、森井、井関、名取―永田皓
▽三塁打　長島（千）
全足利クラブ
300 002 203 10
030 010 040 8
ＪＲ秋田
（全）岩崎海、高橋、坪井、齋藤―岩崎昂
（Ｊ）登藤、小柳、沼田、熊谷、鈴木雄、杉原―山田、伊東
▽二塁打　八代、小野（全）菅原（Ｊ）

千曲川硬式野球クラブ
000 000 000 0
300 111 00× 6
バイタルネット
（千）本多、森井、井関、名取―永田皓
（バ）平井、久留野、近藤―菅井、五十嵐
▽三塁打　西浦（バ）
▽二塁打　吉浦（バ）
○…決勝トーナメント…○
▽準決勝

全足利クラブ
000 000 030 2 5
000 000 120 0 3
バイタルネット
（延長十回）



新潟大会・優勝チーム一覧

第１回（昭27年）福島日東紡組ン
第２回（〃28年）熊谷
第３回（〃29年）東洋レーヨン
第４回（〃30年）大昭和製紙油通券
第５回（〃31年）日本石
第６回（〃32年）新潟交
第７回（〃33年）大和証券
（昭和34年は休止）
第８回（〃35年）新潟交通紙
第９回（〃36年）大昭和製紙芝
第10回（〃37年）日本ビール
第11回（〃38年）東芝
第12回（〃39年）雨のため最終日中止
（昭和40年～42年は休止）
第13回（〃43年）雨のため最終日中止
（昭和44年は休止）
第14回（〃45年）電気化学
第15回（〃46年）電気化学属
第16回（〃47年）日本軽金製紙
第17回（〃48年）大昭和製紙京
第18回（〃49年）国鉄東局
第19回（〃50年）秋田鉄道管理
第20回（〃51年）西川物産紙
第21回（〃52年）大昭和製紙紙
第22回（〃53年）大昭和製紙越
第23回（〃54年）電電信越
第24回（〃55年）電電信越紙
第25回（〃56年）大昭和製紙陸
第26回（〃57年）電電北
第27回（〃58年）ヤマハ発動機越
第28回（〃59年）電電信芝
第29回（〃60年）東日生命
第30回（〃61年）朝日生輸
第31回（〃62年）西濃運ハ
第32回（〃63年）ヤマハハ
第33回（平１年）ヤマハハ
第34回（〃２年）ヤマハ器
第35回（〃３年）河合楽越
第36回（〃４年）ＮＴＴ信越
第37回（〃５年）ＮＴＴ信越
第38回（〃６年）ヤマハ輸
第39回（〃７年）西濃運輸所
第40回（〃８年）鷺宮製作井
第41回（〃９年）王子製紙春日ス
第42回（〃10年）シダックス輸
第43回（〃11年）西濃運輸器
第44回（〃12年）河合楽トト
第45回（〃13年）バイタルネッハ
第46回（〃14年）バイタルネット
第47回（〃15年）ヤマハ
第48回（〃16年）雨のため最終日中止ス光
第49回（〃17年）東邦ガ
第50回（〃18年）一光
第51回（〃19年）ＮＴＴ信越硬式野球クラブ
第52回（〃20年）トヨタ自動車
第53回（〃21年）三菱重工名古屋
第54回（〃22年）東海理化
第55回（〃24年）東海理化
第56回（〃25年）バイタルネットト
第57回（〃26年）新日鐵住金東海ＲＥＸ
第58回（〃27年）トヨタ自動車東日本
第59回（〃28年）バイタルネットト
第60回（〃29年）読売巨人軍ファーム
第61回（〃30年）バイタルネットト
第62回（令１年）Ｈｏｎｄａ
第63回（〃３年）オールフロンティア
第64回（〃４年）きらやか銀行
第65回（〃５年）バイタルネットト
第66回（〃６年）読売ジャイアンツ（三軍）
第67回（〃７年）読売ジャイアンツ（三軍）

※平成23年は東日本大震災のため大会中止
※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

（全）齋藤―岩崎昂
（バ）松田、武木田、久留野、南―高橋、五十嵐
▽二塁打　岩崎浩（全）西浦、津田（バ）

JR東日本東北　000 000 000 0
読売ジャイアンツ（三軍）　100 001 01× 3

▽本塁打　浅野（読）
▽二塁打　大津、浅野（読）

読売1点を守り抜く 全足利の佐藤好投も

▽決勝

全足利クラブ　000 000 000 0
読売ジャイアンツ（三軍）　100 000 00× 1

読売ジャイアンツは一回、四球で出塁の村山が二盗を決め、中田の中前打で生還した。この1点を先発の田村以下5投手の継投で守り切った。全足利クは佐藤が被安打6で完投する頑張りを見せたが、走者が二塁を踏んだのは1度だけと打線が抑えられた。

全足利クラブ

		打	安	点
⑦	二村	3	0	0
⑧	岩崎浩	3	1	0
Ｄ	八代斐	3	0	0
③	北間悠	3	0	0
⑨	松濤	3	0	0
④	宇神竜	3	2	0
⑤	八賀昂	3	0	0
②	岩崎	2	0	0
Ｈ	立石	1	0	0
⑥	小野	3	0	0
	計	27	3	0

読売

		打	安	点
⑧	船越	4	1	0
⑤	村山	3	0	0
⑥	中田	3	1	1
③	三塚	4	2	0
Ｄ	平山	4	1	0
④	北村	4	3	0
⑦	相澤	3	1	0
②	本勇	3	0	0
⑨	大城	2	0	0
Ｈ	大津	1	0	0
7				
	計	29	6	1

	振	球	犠	盗	失	残	併
全	6	1	0	1	2	1	1
読	4	2	1	2	0	7	2

		回	安	責
投	佐藤	8	6	1
	田堀	4	2	1
	村江	1	1	0
	花田	1	1	0
	直富			0

▽暴投　佐藤２▽2時間２分

㊀…表彰選手…㊁

◇**最高殊勲選手賞**
中田　歩夢・内野手（読売ジャイアンツ三軍）

◇**敢闘賞**
佐藤　良明・投手（全足利クラブ）

◇**最高打撃賞**
平山　功太・外野手（読売ジャイアンツ三軍）＝20打数10安打、打率5割

全府中倶楽部3回目優勝

一関市長旗争奪大会

◇**第36回ＪＡＢＡ一関市長旗争奪クラブ野球大会**（7月19、20日、一関運動公園野球場、室根球場、花泉運動公園野球場、東山球場）

▽1回戦

Ｂ－ｎｅｔ／ｙａｍａｇａｔａ　000 400 001 5
八千代Ａｇｅベースボールクラブ　100 001 013 6

（Ｂ）三浦、金原、先崎―深瀬、杉山
（八）木村、山上、三樹―佐藤聖

▽三塁打　早川（八）
▽二塁打　畑中（Ｂ）

一ノ関ベースボールクラブ　520 000 000 7
新潟コンマーシャル倶楽部　320 002 02× 9

（一）川崎、首藤―佐藤瑞
（新）丸山―松永

▽二塁打　三浦（一）

宇都宮大学ＯＢ野球クラブ　000 000 00 0
東北マークス　001 001 32 7

（八回コールド）
（宇）松本、古澤、関―小宮
（東）李、黒川―佐藤信
▽二塁打　小宮（宇）鈴木杜、大友（東）

オール江刺
300 000 060 9
203 201 02× 10

エフコムＢＣ
（オ）関、ヒンブル―大内
（エ）照井、佐藤一、佐藤翔、山形―大川、武藤、高野
▽三塁打　八百板卓、島崎（エ）
▽二塁打　松嶋（エ）

西多摩倶楽部
001 001 001 3
000 010 14× 6

水沢駒形野球倶楽部
（西）甲斐、川島、田中―楠木、南里
（水）阿世知―松岡
▽二塁打　片居木、武元（西）羽藤（水）

新座ダイヤモンドドッグス
022 010 002 7
000 133 001 8

盛友クラブ
（新）岩本、三船―三船、大久保
（盛）酒井、菊池、佐々木―舘洞
▽二塁打　松原（新）

全府中野球倶楽部
040 102 000 7
000 001 010 2

ゴールデンリバース
（全）中村、幡野―松坂、加藤祐
（ゴ）佐々木颯、與本、加藤、長谷川、岩見―加藤、中川、加藤
▽二塁打　加藤祐（全）永田（ゴ）

弘前アレッズ
000 200 100 3
001 120 20× 6

横浜中央クラブ
（弘）下山、葛西優―西谷
（横）今井、湊、山下起、塩田―小林
▽準々決勝

新潟コンマーシャル倶楽部
010 010 0 2
343 020 × 12

八千代Ａｇｅベースボールクラブ
（七回コールド）
（新）芦田、植木、本多―松永
（八）山上、三樹―佐藤聖、朝田
▽二塁打　吉田（新）早川（八）

東北マークス
000 014 000 5
004 320 01× 10

エフコムＢＣ
（東）加賀谷、佐藤隆、細川―久慈
（エ）大内、長根―高野
▽本塁打　吉田、八百板卓（エ）

水沢駒形野球倶楽部
100 200 001 4
050 000 00× 5

盛友クラブ
（水）村上真、松本智―松岡
（盛）新沼―舘洞
▽二塁打　銅城（水）

横浜中央クラブ
001 000 0 1
120 504 × 12

全府中野球倶楽部
（七回コールド）
（横）増尾、今井、山下結―小林、山口
（全）永野、平井、木村―松坂
▽三塁打　山下碧（横）
▽二塁打　田上（横）中屋（全）
▽準決勝

八千代Ａｇｅベースボールクラブ
210 000 0 3
430 001 2 10

エフコムＢＣ

エフコム

	打	安	点
⑦ 島崎	4	1	0
7 大河内	0	0	0
H7 大平	1	1	0
⑧ 八百板卓	4	2	0
⑥ 松嶋	5	3	0
D 八百板飛	5	0	1
⑨ 伊藤海	5	1	0
③ 渡邉翼	5	1	0
② 高野	3	0	0
⑤ 吉田	4	0	0
④ 茨木	4	1	0
計	40	10	1

全府中

	打	安	点
⑥ 坂本	5	2	1
③ 飯沼	3	0	0
⑦ 小野澤	5	0	0
④ 樋口	2	2	0
⑨ 岡部	3	1	0
9 石川	3	1	0
D 中屋	3	1	0
R DP 奥野	0	0	0
H DP 永田	1	0	0
R DP 大木	0	0	1
⑧ 太樂	4	1	0
② 松坂	3	1	0
⑤ 狩野	3	0	0
5 上杉	1	1	0
計	34	9	3

	振	球	犠	盗	失	残	併
エ	8	2	0	1	2	11	0
全	7	6	2	2	2	13	2

	投	手	回	安	責
山形	9		2/3	9	0
長根			1/3	0	0
永野			6	3	0
木村			5	7	0

▽二塁打　松嶋、岡部▽３時間17分

一関市長旗争奪大会・優勝チーム一覧

第１回（昭63年）一関三星倶楽部
第２回（平１年）水沢駒形野球倶楽部
第３回（〃２年）一関三星倶楽部
第４回（〃３年）釜石野球団
第５回（〃４年）全足利クラブ
第６回（〃５年）全足利クラブ
第７回（〃６年）全足利クラブ
第８回（〃７年）一関三星倶楽部
第９回（〃８年）一関三星倶楽部
第10回（〃９年）釜石野球団
第11回（〃10年）釜石野球団
第12回（〃11年）大月クラブ
第13回（〃12年）久慈クラブ
第14回（〃13年）全日立ドリームズ
第15回（〃14年）東京好球倶楽部
第16回（〃15年）大富士ＢＡＳＥＢＡＬＬ ＣＲＥＷ
第17回（〃16年）全浦和野球団
第18回（〃17年）西多摩倶楽部
第19回（〃18年）全足利クラブ
全日立ドリームズ
＝七回降雨引き分け、両チーム優勝＝
第20回（〃19年）オール日立ドリームズ
第21回（〃20年）地震により中止
第22回（〃21年）オール江刺
第23回（〃22年）全府中野球倶楽部
第24回（〃24年）水沢駒形野球倶楽部
第25回（〃25年）ＹＢＣフェニーズ
第26回（〃26年）全府中野球倶楽部
第27回（〃27年）水沢駒形野球倶楽部
第28回（〃28年）ＴＲＡＮＳＹＳ
第29回（〃29年）ＷＥＥＤしらおい
第30回（〃30年）東北マークス
第31回（令１年）富士通アイソテックベースボールクラブ
第32回（〃３年）ＷＥＥＤしらおい
第33回（〃４年）ジェイファム
第34回（〃５年）ハナマウイ
第35回（〃６年）八千代Ａｇｅベースボールクラブ
第36回（〃７年）全府中野球倶楽部

※平成23年は東日本大震災のため大会中止
※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

（七回コールド）
（八）山上、三樹―佐藤聖
（エ）渡邉拓―大川
▽本塁打　八百板卓（エ）
▽三塁打　渡邉翼（エ）
▽二塁打　八百板卓、松嶋（エ）

全府中野球倶楽部
8 1 4 1 0 0 3
0 0 2 0 0 0 0 0 0
2 17
盛友クラブ
（七回コールド）
（全）蛯原、船谷、簑―松坂、加藤祐
（盛）菊池、佐々木―舘洞
▽本塁打　岡部（全）
▽二塁打　岡部、小野澤、樋口、永田、松坂、大木（全）
橋本（盛）

全府中タイブレーク制すエフコム投手好投実らず

▽決勝
エフコムBC
0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1 2
全府中野球倶楽部
0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 2 3
（延長十一回、十回からタイブレーク）

両先発投手が好投して投手戦になった。全府中は十一回、無死満塁から野選で追いつき、大木の押し出し死球でサヨナラ勝ち。エフコムBCはタイブレークで2度リードを奪ったが、守備の乱れもあって粘りきれなかった。

㊫…表彰選手…㊫

◇最高殊勲選手賞
永野　将司・投手（全府中野球倶楽部）
◇敢闘賞
山形　胤舜・投手（エフコムBC）
◇首位打者賞
八百板　卓丸・外野手（エフコムBC）＝13打数8安打、打率6割1分5厘

JR西日本が5大会ぶり優勝

広島大会

◇第64回JABA広島大会
（7月25～29日、7回制　東広島アクアスタジアム、マツダスタジアム）

○…予選リーグ…○
▽Aブロック
JR西日本
3 0 0 2 3 3 7
0 0 4 1 0 0 0 5
18
三原ヤッサベースボールクラブ
（J）真城、松本、大山、中岡―御簗、安田
（三）松本、比嘉、原田―河野
▽本塁打　岡野、杉本2（J）
▽三塁打　開原（三）
▽二塁打　西村2、土居、植本、佐藤（J）
大和高田クラブ
0 0 2 0 2 1 0 5
0 0 0 0 0 0 1 1
三原ヤッサベースボールクラブ
（大）大森、日高―三藤
（三）比嘉、松本―河野
▽本塁打　三藤（大）
▽二塁打　口分田、深尾（大）
大和高田クラブ
0 0 0 2 1 0 0 3
0 1 2 4 1 1 × 9
JR西日本
（大）井田、溝尾、松林、日高、金村、古川―安岡
（J）大畑、辰己、松本、花村―加藤、安田
▽二塁打　戸田、黒川（J）

Bブロック
JFE西日本
0 0 0 1 1 1 0 3
0 0 0 1 0 1 0 2
日本製鉄山口
（五回コールド）
（広）坂倉、中谷、田崎、梶
（J）安岡、筒井―篠原
（日）山久、畝、下江―田中
▽三塁打　石島（日）
▽二塁打　新田、篠原、田中
（J）田中、甲斐（日）
広島鯉城クラブ
0 0 0 0 0 0
1 2 6 0 1
10

広島大会・優勝チーム一覧

第1回	（昭37年）	東洋高圧	彦島	国管			
第2回	（〃38年）	電電中鋼					
第3回	（〃39年）	日本鋼管	福山				
第4回	（〃40年）	日本コロムビア					
第5回	（〃41年）	日本コロムビア					
第6回	（〃42年）	日本コロムビア					
第7回	（〃43年）	いすゞ自動車					
第8回	（〃44年）	いすゞ自動車					
第9回	（〃45年）	※優勝預かり					
＝天候不順のため準決勝以降打ち切り＝							
第10回	（〃46年）	日本鉱業日立					
第11回	（〃47年）	電電中国					
第12回	（〃48年）	三菱重工広島					
第13回	（〃49年）	電電東京					
第14回	（〃50年）	三菱重工広島					
第15回	（〃51年）	新日鐵八幡					
第16回	（〃52年）	日本鋼管福山					
第17回	（〃53年）	三菱重工広島					
第18回	（〃54年）	日本鋼管福山					
第19回	（〃55年）	住友金属					
第20回	（〃56年）	日本鋼管福山					
第21回	（〃57年）	日本鋼管福山					
第22回	（〃58年）	日本鋼管福山					
第23回	（〃59年）	三菱重工広島					
第24回	（〃60年）	三菱重工広島					
第25回	（〃61年）	三菱重工広島					
第26回	（〃62年）	日本鋼管福山					
第27回	（〃63年）	三菱重工広島					
第28回	（平1年）	新日鐵名古屋					
第29回	（〃2年）	三菱重工三原					
第30回	（〃3年）	JR九州					
第31回	（〃4年）	NK					
第32回	（〃5年）	NTT中国					
第33回	（〃6年）	三菱重工三原					
第34回	（〃7年）	三菱重工広島					
第35回	（〃8年）	三菱重工広島					
第36回	（〃9年）	JR東プ					
第37回	（〃10年）	デュプロ					
第38回	（〃11年）	三菱重工三原					
第39回	（〃12年）	ヤマハ					
第40回	（〃13年）	日本IBM野洲					
第41回	（〃14年）	日本生命					
第42回	（〃15年）	広島東洋カープ（ファーム）					
第43回	（〃16年）	広島東洋カープ（ファーム）					
第44回	（〃17年）	デュプロ					
第45回	（〃18年）	伯和ビクトリーズ					
第46回	（〃19年）	伯和ビクトリーズ					
第47回	（〃20年）	広島東洋カープ（ファーム）					
第48回	（〃21年）	広島東洋カープ（ファーム）					
第49回	（〃22年）	広島東洋カープ（ファーム）					
第50回	（〃23年）	伯和ビクトリーズ					
第51回	（〃24年）	広島東洋カープ（ファーム）					
第52回	（〃25年）	広島東洋カープ（ファーム）					
第53回	（〃26年）	広島東洋カープ（ファーム）					
第54回	（〃27年）	伯和ビクトリーズ					
第55回	（〃28年）	広島東洋カープ（ファーム）					
第56回	（〃29年）	広島東洋カープ（ファーム）					
第57回	（〃30年）	JR西日本					
第58回	（令1年）	※優勝預かり					
＝天候不順のため準決勝以降打ち切り＝							
第59回	（〃2年）	JR西日本					
第60回	（〃3年）	JFE西日本					
第61回	（〃4年）	広島東洋カープ（ファーム）					
第62回	（〃5年）	JFE西日本					
第63回	（〃6年）	三菱自動車倉敷オーシャンズ					
第64回	（〃7年）	JR西日本					

間―岡田
（日）武藤―寺嶋
▽本塁打　國分（日）
▽二塁打　坂本、國分（日）
広島鯉城クラブ
000 000 0｜0
204 003 ×｜9
ＪＦＥ西日本
（広）梶間、西迫、福富、村島―岡田
（Ｊ）長野―後藤、末田
▽本塁打　原（Ｊ）
▽三塁打　鳥井、土井（Ｊ）
▽二塁打　大西、古田、後藤、福島（Ｊ）
▽Ｃブロック
ツネイシブルーパイレーツ
000 101 0｜2
100 000 2｜3
三菱自動車倉敷オーシャンズ
（ツ）原、大中、井本、田代―草薙、木村
（三）長谷川、末野―森、
▽二塁打　岑（三）
福山ローズファイターズ
000 000 0｜0
001 100 ×｜2
三菱自動車倉敷オーシャンズ
（福）山田、辰巳、高柳、末道、浜崎―吉田、山根
（三）末野―森
▽二塁打　森（三）

ツネイシブルーパイレーツ
010 100 0｜2
000 140 ×｜5
福山ローズファイターズ
（ツ）藤原、井本、大中―木村
（福）近藤、高柳、井上、浜崎、白井―吉田、山根
▽三塁打　横山（福）
▽二塁打　岡本（ツ）児玉（福）
▽Ｄグループ
伯和ビクトリーズ
000 412 0｜7
000 110 0｜2
四国銀行
（伯）中尾、阿部、成田、下沢―阿吹
（四）田井、田中、菊池―大河、岡崎
▽三塁打　福元（伯）
▽二塁打　大北２、真田（四）
四国銀行
000 030 0｜3
001 350 ×｜9
シティライト岡山
（四）藤井、田中、田井―大河、岡崎
（シ）荒田、大谷、稲葉―筒井
▽三塁打　田中（シ）

伯和ビクトリーズ
000 000 0｜0
000 000 0｜0
シティライト岡山
（伯）飯田、谷―阿吹、橋本（シ）金津―平野、筒井
▽二塁打　徳吉（伯）中山（シ）
▽準決勝
伯和ビクトリーズ
100 210 0｜4
205 040 ×｜11
ＪＦＥ西日本
（伯）高橋、平岡―橋本、阿吹
（Ｊ）安岡、津山、本田―末田、篠原
▽本塁打　大西（Ｊ）
▽三塁打　新倉（伯）
▽二塁打　白澤、大濱（伯）
原（Ｊ）
ＪＲ西日本
400 200 0｜6
220 000 0｜4
三菱自動車倉敷オーシャンズ
（Ｊ）京極、松本、花村―御

ＪＦＥ西　打安点
原岡　4 1 0
高新綿土田篠後大上永鳥　3 5 8 9 9 7　0 0 0 0 2 0 0 0 0 0 1 0 0
田田屋井中原藤西西山井　1 2 3 4 3 3 2 0 2 1 2 1 1　0 0 1 1 0 1 0 0 1 1 0 0
計　28 8 3

ＪＲ西　打安点
杉植岡大土西戸加西安黒本田佐　7 9 3　2 3 3 0 3 2 1 0 0 3 1 1 2　0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1
本本野倉居村田藤野田川田村藤　2 3 0 0 3 2 2 1 2 1 0 0 2　0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
計　24 8 3

F 5 2 1 1 1 7 1
振球犠盗失残併
R 1 2 1 1 2 5 1

投本岩筒　手田賢井　回 4 2⅔ 1⅓ 1　安 6 1 1　責 2 1 1
一ノ松辰大　瀬本己畑　4 2⅔ 2⅔ 2⅔ 1　5 2 1 0 0　2 1 0 0

▽本塁打　黒川（筒井）
▽二塁打　打田（上西、田中、戸田）
▽２時間10分

㊫…表彰選手…㊪

◇**最高殊勲選手賞**
黒川　直哉・捕手（ＪＲ西日本）

◇**敢闘賞**
綿屋　樹・内野手（ＪＦＥ西日本）

◇**首位打者賞**
戸田　航史・外野手（ＪＲ西日本）＝12打数９安打、打率７割５分

高山大会

◇**第39回ＪＡＢＡ高山市長旗・飛騨市長杯争奪大会**（８月８～９日、高山市中山公園野球場、飛騨市サン・スポーツランドふるかわ野球場）
○…予選リーグ…○
▽Ａブロック
日本大学国際関係学部
000 000 002｜2
100 100 22×｜6
西濃運輸
（日）林、高田、竹内、田中、川勾―土橋
（西）森岡、照屋、池田―城野

天候不良により2日で中止

▽本塁打　左向（西）
▽二塁打　河田（西）
三菱自動車岡崎
411 000 32｜11
020 200 00｜4
ロキテクノ富山
（八回コールド）
（三）秋山翔、笠井、一井、清川―西川、橋爪
（ロ）佐藤、中田、飯塚、山本雅、山川―添田、福田
▽本塁打　里見、東、古川、伊藤、斎藤２（三）中井、渡部（ロ）
▽二塁打　茂木、中村奎（三）杉山（ロ）

JR黒川逆転2ラン JFE逃げ切り失敗

▽決勝
ＪＦＥ西日本
000 021 0｜3
100 102 ×｜4
ＪＲ西日本
１点を追うＪＲ西日本は六回、この回先頭の代打の戸田が中越え二塁打。１死後、黒川が左翼へ２ランを放ち、七回を大畑が３人で打ち取り逆転勝ちした。ＪＦＥ西日本は五回、綿屋の適時打で追いつき、六回には上西の二塁打でリードを奪ったが、救援陣が長打を許して逃げ切りに失敗した。

日本大学国際関係学部
000 000 000 0
200 100 01× 4
ロキテクノ富山
（日）佐藤、竹内、高田、根本、川勾、林―土橋
（ロ）伊藤―福田
▽二塁打　河原木、杉山（ロ）

西濃運輸
000 000 000 0
001 200 00× 3
三菱自動車岡崎
（西）奥、池田、摺石、内藤―譽田、業天
（三）秋山凌、鈴木、笠井、坂巻、神原―西川、橋爪
▽二塁打　中村奎（三）
▽Bブロック

朝日大学
000 000 0 0
210 033 × 9
東海理化
（七回コールド）
（朝）川渕、下里、水谷、駒井―坂田
（東）新地―戸丸
▽本塁打　河田、門叶、武藤、木村、川上（東）
▽二塁打　武藤（東）

東邦ガス
110 022 012 9
102 000 000 3
皇學館大学
（東）吉田、高橋、大石―氷見、山田
（皇）若松、工藤、山田、中川―飯盛、藤田
▽本塁打　飯田（東）
▽二塁打　若林、高垣、虎谷（東）若林2、濱野（皇）

皇學館大学
011 040 000 6
101 010 000 3
朝日大学
（皇）伊達、中川、箕浦、八木、阪本―森、飯盛
（朝）清水、岩佐、比嘉、モリヨ、渡邊、桂川―坂田、木曽
▽二塁打　三島、出口（皇）江口、片野（朝）

東邦ガス
001 000 002 3
000 100 200 3
東海理化
（ガ）中村、清水、柳川、高橋―山田
（理）北添、上野、池田大、生田目―戸丸、池間
▽本塁打　金田（ガ）武藤、福本（理）
▽二塁打　比嘉、松井2（ガ）
※悪天候が予想されるため大会は2日間で打ち切り

ショウワコーポレーションが初優勝

高砂大会

◇第49回JABA高砂大会（10月7～10日、13日、7回制　G7スタジアム神戸）
○…予選リーグ…○

▽Aグループ

JFEシステムズ
200 00 2
279 0× 18
マツゲン箕島硬式野球部
（五回コールド）
（J）鍛冶、高尾、原田、鍛治―原田、鍛治、原田
（マ）川畑、石橋―宮崎
▽三塁打　島田、山城、松本（マ）森（J）

徳島野球倶楽部
000 00 0
203 5× 10
マツゲン箕島硬式野球部
（五回コールド）
（徳）岡野、樋口―青木
（マ）坂本、森―櫻井
▽三塁打　松本（マ）
▽二塁打　岡（マ）

JFEシステムズ
300 10 4
334 1× 11
徳島野球倶楽部
（五回コールド）
（J）高尾、鍛治、松島―原田、入野
（徳）岡野、樋口―青木
▽三塁打　樋口（徳）
▽二塁打　秦（徳）

▽Bブロック

兵庫県警桃太郎
100 020 1 4
200 010 0 3
関西硬式野球クラブ
（兵）井上、田中―江端
（関）下津浦、松本、井上―圓藤聖
▽三塁打　山口、岩田（兵）
保田（関）

日本プロスポーツ専門学校
000 600 1 7
020 021 0 5
関西硬式野球クラブ
（日）高野、木和田―山門
（関）新田、下津浦―武田

高山大会・優勝チーム一覧

第1回（昭61年）ＮＴＴ信越
第2回（〃62年）ＮＴＴ信越
第3回（〃63年）西濃運輸
第4回（平1年）ヤマハ
第5回（〃2年）大昭和製紙
第6回（〃3年）トヨタ自動車
第7回（〃4年）トヨタ自動車
第8回（〃5年）西濃運輸
第9回（〃6年）新日鐵名古屋
第10回（〃7年）昭和コンクリート
第11回（〃8年）昭和コンクリート
第12回（〃9年）ＮＴＴ東海
第13回（〃10年）昭和コンクリート
第14回（〃11年）昭和コンクリート
第15回（〃12年）東邦ガス
第16回（〃13年）本田技研鈴鹿
第17回（〃14年）Ｈｏｎｄａ鈴鹿
第18回（〃15年）東邦ガス
第19回（〃16年）トヨタ自動車
第20回（〃17年）東邦ガス
第21回（〃18年）東芝
第22回（〃19年）富士重工業
第23回（〃20年）ＪＲ東日本
第24回（〃21年）王子製紙・新日本石油ＥＮＥＯＳ
（雨天中止のため、両チーム優勝）
第25回（〃22年）ヤマハ
第26回（〃23年）西濃運輸
第27回（〃24年）トヨタ自動車
第28回（〃25年）西濃運輸
第29回（〃26年）東海理化
第30回（〃27年）ジェイプロジェクト
第31回（〃28年）西濃運輸
第32回（〃29年）西濃運輸
第33回（〃30年）西濃運輸
第34回（令1年）三菱重工名古屋
第35回（〃3年）悪天候のため打ち切り
第36回（〃4年）ヤマハ
第37回（〃5年）トヨタ自動車
第38回（〃6年）西濃運輸
第39回（〃7年）悪天候のため打ち切り

※令和2年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

高砂大会・優勝チーム一覧

第１回（昭49年）エアロマスター
第２回（〃50年）住友金属
第３回（〃51年）住友金属
第４回（〃52年）神戸製鋼
第５回（〃53年）神戸製鋼
第６回（〃54年）神戸製鋼
第７回（〃55年）三菱重工神戸
第８回（〃56年）川崎重工
第９回（〃57年）新日鐵八幡
第10回（〃58年）住友金属
第11回（〃59年）川崎製鉄神戸
第12回（〃60年）本田技研鈴鹿
第13回（〃61年）住友金属
第14回（〃62年）大阪ガス
第15回（〃63年）松下電器
第16回（平１年）松下電器
第17回（〃２年）大阪ガス
第18回（〃３年）大阪ガス
第19回（〃４年）三菱重工長崎
第20回（〃５年）西濃運輸
第21回（〃６年）新日鐵大分
第22回（〃８年）ＪＲ東日本
第23回（〃９年）川崎製鉄水島
第24回（〃10年）神戸製鋼
第25回（〃11年）ＮＴＴ九州
第26回（〃12年）神戸製鋼
第27回（〃13年）三菱重工三原
第28回（〃14年）日本生命
第29回（〃15年）三菱重工名古屋
第30回（〃16年）全播磨硬式野球団
第31回（〃17年）アスピア学園
第32回（〃18年）ＮＯＭＯベースボールクラブ
第33回（〃19年）中山製鋼野球クラブ
第34回（〃20年）ＯＢＣ高島
第35回（〃21年）エイデン愛工大ＯＢ ＢＬＩＴＺ
第36回（〃22年）滋賀・高島ベースボールクラブ
第37回（〃23年）滋賀・高島ベースボールクラブ
第38回（〃24年）和歌山箕島球友会
第39回（〃25年）和歌山箕島球友会
第40回（〃26年）和歌山箕島球友会
第41回（〃27年）大和高田クラブ
第42回（〃28年）和歌山箕島球友会
第43回（〃29年）和歌山箕島球友会
第44回（〃30年）和歌山箕島球友会
第45回（令３年）マツゲン箕島硬式野球部
第46回（〃４年）マツゲン箕島硬式野球部
第47回（〃５年）マツゲン箕島硬式野球部
第48回（〃６年）マツゲン箕島硬式野球部
第49回（〃７年）ショウワコーポレーション

※平成７年は阪神・淡路大震災のため大会中止
※令和１年は大会中止
※令和２年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

▽三塁打　山門（日）
▽二塁打　小野、山門（日）

山中（関）
兵庫県警桃太郎

			1	0	1		0	9	11
			0	0	0		0	0	0

日本プロスポーツ専門学校
（五回コールド）
（兵）林―江端、清家
（日）木和田、鈴木、小野―山門

▽三塁打　岩田、後藤（兵）
▽二塁打　山岡、山口、高橋

（兵）
▽Ｃブロック

ＪＲＳレールスターズ

			0	2	0		0	0	2
			1	0	2		3	0	0
		×	6						

ＮＳＢベースボールクラブ
（Ｊ）山崎、中村―大石晃
（Ｎ）橋本―井藤

▽三塁打　西川（Ｎ）
▽二塁打　黒田、松平（Ｊ）

嶋田、西川（Ｎ）
ＮＳＢベースボールクラブ

			0	0	0		0	0	0
			0	0	0		0	0	0
			0	0	1		0	0	1
			1	0	0		0	0	1

ショウワコーポレーション
（Ｎ）早川―井内、井藤
（シ）岸川―岩崎

▽二塁打　堀３、中田（シ）

ＪＲＳレールスターズ

			1	0	0		0	0	1
			11	11	5		2	×	29

ショウワコーポレーション
（五回コールド）
（Ｊ）古川、中村、山崎、榮喜―大石晃

（シ）高田、橋本、寺田、福島章―内之倉、櫻木

▽本塁打　堀２、謝花、西野（シ）

▽二塁打　中田、福浦、渡辺、間瀬場、内之倉（シ）

▽Ｄブロック

ＯＢＣ高島

			1	1	0		0	2	6
			4	0	0		3	0	5
		×	12						

履正社ベースボールクラブ
（Ｏ）橋本、山崎―金山
（履）大浦―山原

▽本塁打　船生（履）
▽三塁打　船生（履）
▽二塁打　谷岡（Ｏ）山原

（履）

ＭＪＧ島根

			1	0	2		0	0	1
			0	0	0		0	0	0
			0	0	0		0	0	0

ＯＢＣ高島

			0	0	0		0	0	0
			0	0	0		0	0	0
			0	0	0		0	0	0

（Ｍ）三角、谷―今福
（Ｏ）酒井、児島―金山

▽三塁打　井上（Ｍ）

ショウワ

打	安	点
⑥ 高木辺	3	2	1
④ 渡堀	3	0	0
⑧ 山浦	3	0	0
③ 木政	4	0	0
⑤ 平福櫻	4	2	1
Ｄ 武西内	4	2	0
⑦ 野倉本	4	1	0
Ｈ 之崎	2	1	0
② 藤岩	3	0	0
Ｒ 謝	1	0	1
９ 花	3	1	1
計	31	9	5

マツゲン

打	安	点
⑨ 島	2	0	0
Ｈ 田	1	0	0
２ 中	0	0	0
⑧ 木	3	0	1
⑦ 松	4	2	1
⑤ 竹	4	1	0
Ｄ 冨	3	1	1
④ 藤	3	1	0
③ 山	4	1	1
② 宮	1	0	0
Ｒ 山	0	0	0
２ 櫻	0	0	0
Ｈ 浅	0	0	0
⑥ 吉	3	1	0
計	29	6	4

	6	4	4	0	1	11	0
シ	振	球	犠	盗	失	残	併
マ	9	6	1	1	1	9	0

投	手	回	安	責
高	田	5	2	0
福島	章	2	2	2
橋	本	⅔	2	0
寺	田	⅓	0	0
上	羽	3	2	1
橋	本	⅓	3	1
後	藤	⅔	1	0
服	部	2	3	0

▽本塁打　松本（福島章）
▽二塁打　謝花、高木、山本
▽２時間43分

○…決勝トーナメント…○

▽準決勝

マツゲン箕島硬式野球部

			0	0	0		1	3	0	0
			2	0	0		0	0	0	0

履正社ベースボールクラブ
（Ｍ）三島、安達、森本―神田
（履）西田、宇都宮―山原

▽二塁打　神田、三原耕

（Ｍ）家本、船生（履）

ＭＪＧ島根

			0	1	1		1	3	2	0
			0	0	2		0	0	0	0

兵庫県警桃太郎
（Ｍ）川畑、山元―宮崎、櫻井
（兵）今津―江端

▽三塁打　島田（Ｍ）

▽二塁打　山本（Ｍ）尾崎（兵）

ショウワコーポレーション　0 2 2　1 2　7
MJG島根　0 0 0　0 0　0
（五回コールド）
（シ）寺田、橋爪、磯村―岩崎、櫻木
（M）三島、谷、三角、安達―神田
▽三塁打　岩崎、謝花（シ）
▽二塁打　高木（シ）

ショウワコーポレーション初V　マツゲン箕島の8連覇を阻止

▽決勝
ショウワコーポレーション　1 0 0　1 0 0　0 4　6
マツゲン箕島硬式野球部　0 0 0　0 0 1　1 3　5
（延長八回）
延長タイブレークの八回、ショウワコーポレーションは西野の適時打や犠飛などで4点を挙げ、その裏に1点差に詰め寄られたものの、寺田が2死二、三塁のピンチを抑えて逃げ切った。マツゲン箕島硬式野球部は七回に追いつく粘りを見せたが、一歩及ばなかった。

㊧…表彰選手…㊨

◇最優秀選手賞
高田　萌生・投手（ショウワコーポレーション）
◇敢闘賞
吉村　拓貢・内野手（マツゲン箕島硬式野球部）

NTT西日本2回目の優勝

伊勢・松阪大会

◇伊勢神宮奉納第73回JABA伊勢・松阪大会（10月15～21日、ダイムスタジアム伊勢、ドリームオーシャンスタジアム）
○…予選リーグ…○
▽Aブロック
日本製鉄東海REX　0 0 0　1 0 0　0 0 0　1
トヨタ自動車　0 1 2　0 0 2　0 0 ×　5
（日）浦本、池戸、長倉、吉川―中川
（ト）池村、後藤、渕上―高祖
▽三塁打　北村（ト）
▽二塁打　大塚（日）
JR東日本　0 4 3　0 0 1　0 0 0　8
日本製鉄東海REX　1 1 1　0 0 0　0 0 0　3
（J）谷、諸隈、小谷野、坂根、高山―栗田、草部
（日）中山、佐伯、池戸、吉川―中川
▽本塁打　海崎、栗林（J）
宮本（日）
▽二塁打　高橋、山内、杉崎成輝（J）山本（日）
FedEx　0 0 0　0 0 0　0 0　0
トヨタ自動車　0 0 3　0 0 6　×　9
（七回コールド）
（F）久留島、山根、平良、杉内、山登―宮川
（ト）増居―高祖
▽本塁打　逢澤（ト）
▽二塁打　今泉（ト）
FedEx　1 0 0　0 0 3　0 0 0　4
JR東日本　3 0 0　0 0 0　1 0 1　5
（F）金井、小林、山根―飯高
（J）児玉、森畑、西居、小谷野、西田―栗田、草部
▽本塁打　森本（F）杉崎成輝（J）
▽二塁打　古川、東海林
（F）高橋、菅田2（J）
FedEx　1 0 0　1 0 0　0 0 0　2
日本製鉄東海REX　0 0 0　6 0 0　1 0 ×　7
（F）久留島、小林秀、杉内、金井―宮川
（日）加藤、奥田、長倉―中川、室木
▽本塁打　鈴木（F）
▽二塁打　鈴木（F）宮本、岡田（日）
JR東日本　0 0 0　0 0 1　0 0 1　2
トヨタ自動車　0 0 0　0 0 5　0 0 ×　5
（J）古谷、高山、西居、小谷野、山崎、諸隈、谷―栗田、草部
（ト）嘉陽、後藤、渕上―福井
▽本塁打　山内（J）三塚（ト）
▽二塁打　菅田（J）
▽Bブロック
王子　0 2 0　0 0 4　0 1 0　7
ホンダ鈴鹿　1 0 0　0 1 4　0 1 0　7
（王）九谷、三島、宮崎、浅井―細川
（ホ）井村、漢人、花城、田中―長
▽本塁打　吉岡、山ノ井
（王）長野、岡野、藤江2
（ホ）
▽二塁打　柴崎、山ノ井、細川（王）中川（ホ）
王子　1 0 0　1 0 0　1 0 3
NTT西日本　0 0 0　0 0 0　0 0 0　0
（王）樋口、中島、浅井―石崎
（N）高井、茨木、井澤、大江―辻本、小泉、夏目
▽本塁打　山口、柴崎（王）
テイ・エステック　0 2 0　0 0 0　0 0 0　2
ホンダ鈴鹿　3 1 0　2 0 0　0 1 ×　7
（テ）八木橋、森本、関口、西山、友利―松本
（ホ）川原、花城、田中―岡澤
▽本塁打　畔上、藤江、堀内（ホ）



伊勢・松阪大会・優勝チーム一覧

第１回	（昭24年）	星野	組
第２回	（〃25年）	鐘淵化	学
第３回	（〃26年）	鐘淵化	学
第４回	（〃27年）	鐘淵化	学
第５回	（〃28年）	富士鉄広	畑
第６回	（〃29年）	富士鉄広	畑
第７回	（〃30年）	電電東	海
第８回	（〃31年）	日本ビー	ル
第９回	（〃32年）	川崎紡	績
第10回	（〃33年）	東レ愛	知
第11回	（〃36年）	丸善石	油
第12回	（〃38年）	住友金	属
第13回	（〃39年）	三重交	通
第14回	（〃40年）	マツダオート名古	屋
第15回	（〃41年）	三菱名古	屋
第16回	（〃42年）	電気化	学
第17回	（〃43年）	日本コロムビ	ア
第18回	（〃44年）	日本コロムビ	
第19回	（〃45年）	電電東	海
第20回	（〃46年）	日本楽	器
第21回	（〃47年）	日本楽	器
第22回	（〃48年）	西濃運	輸
第23回	（〃49年）	西濃運	輸
第24回	（〃50年）	西濃運	輸
第25回	（〃51年）	新日鐵名古	屋
第26回	（〃52年）	三協精	機
第27回	（〃53年）	三協精	機
第28回	（〃54年）	日本楽	器
第29回	（〃55年）	天候不順（台風）のため中止	
第30回	（〃56年）	本田技研鈴	鹿
第31回	（〃57年）	日本楽	器
第32回	（〃58年）	河合楽	器
第33回	（〃59年）	電電北	陸
第34回	（〃60年）	河合楽	器
第35回	（〃61年）	ＮＴＴ信	越
第36回	（〃62年）	日本ＩＢＭ野	洲
第37回	（〃63年）	ＮＴＴ四	国
第38回	（平１年）	トヨタ自動車	輸
第39回	（〃２年）	西濃運	輸
第40回	（〃３年）	東邦ガ	ス
第41回	（〃４年）	東邦ガ	ス
第42回	（〃５年）	ＪＲ東	海
第43回	（〃６年）	大	仙
第44回	（〃７年）	昭和コンクリー	ト
第45回	（〃８年）	東芝府	中
第46回	（〃９年）	王子製紙春日	井
第47回	（〃10年）	王子製紙春日	井
第48回	（〃11年）	ＪＲ東	海
第49回	（〃12年）	昭和コンクリー	ト
第50回	（〃13年）	サンジルシ醸造	崎
第51回	（〃14年）	三菱自動車岡	崎
第52回	（〃15年）	ヤマハ	
第53回	（〃16年）	東海ＲＥＸ	
第54回	（〃17年）	東海ＲＥＸ	
第55回	（〃18年）	ＪＲ東	海
第56回	（〃19年）	トヨタ自動車	
第57回	（〃20年）	ＮＴＴ信越硬式野球クラブ	
第58回	（〃21年）	Ｈｏｎｄａ鈴	鹿
第59回	（〃22年）	ＪＲ東	海
第60回	（〃24年）	三菱重工名古	屋
第61回	（〃25年）	Ｈｏｎｄａ	
第62回	（〃26年）	雨天のため大会打ち切り	
第63回	（〃27年）	ＪＲ東日	本
第64回	（〃28年）	ＮＴＴ西日	本
第65回	（〃29年）	日本新	薬
第66回	（〃30年）	雨天のため大会打ち切り	
第67回	（令１年）	東	芝
第68回	（〃２年）	ＪＲ東日	本
第69回	（〃３年）	ＮＴＴ東日	本
第70回	（〃４年）	東	芝
第71回	（〃５年）	Ｈｏｎｄａ鈴	鹿
第72回	（〃６年）	東	芝
第73回	（〃７年）	ＮＴＴ西日	本

※平成23年は東日本大震災のため大会中止

▽二塁打　三口（テ）岡野、長野（ホ）

テイ・エステック
004 000 100 — 5
011 420 20× — 10

王子
（テ）熊谷、森本、西山、関口、穂坂、友利―青木
（王）三島、中島、宮崎―鈴木、石崎

▽本塁打　阿保（テ）吉岡（王）

▽二塁打　平野、柴崎２、中川（王）

NTT西日本
000 020 030 — 5
001 000 000 — 1

ホンダ鈴鹿
（N）渡邊、茨木、大江―辻本

▽二塁打　三口（テ）岡野、長野（ホ）

テイ・エステック
001 040 000 — 5
203 100 01× — 7

NTT西日本
（テ）尾身、森本、関口、西山、友利、八木橋―青木、松本
（N）田村、前田、島田―小泉

▽本塁打　松木（テ）

▽二塁打　阿保（テ）徳丸（N）

▽Ｃブロック

ヤマハ
000 000 002 — 2
100 001 001 — 3

ＪＲ東海
（ヤ）清水蓮、吉山、有本、佐藤大、水野、波多野―清水智、高林
（J）柳橋、川本―須永

▽二塁打　小林、舟久保（ヤ）水谷祥、冨田（J）

ENEOS
101 000 201 — 5
002 100 000 — 3

三菱重工West
（E）阿部、柏原、ハップス、渡部―植田
（三）鷲尾、川上、中澤、藤井、西―碓井

▽本塁打　飯山、山田（E）碓井（三）

▽三塁打　猿渡（E）

▽二塁打　篠原（E）

ヤマハ
000 000 130 — 4
002 010 002 — 5

三菱重工West
（ヤ）沢山、吉山、波多野、金原―高林、大本
（三）坂尾、西、川上―碓井、拾尾

▽本塁打　中田、矢幡（ヤ）笹治（三）

▽二塁打　相羽、大本（ヤ）

JR東海
100 000 0 — 1
000 042 2 — 8

ENEOS（七回コールド）
（J）不後、喜久川、辻井―須永
（E）関根、渡部、柏原―有馬

▽本塁打　水谷祥（J）村上、丸山（E）

▽二塁打　山田２、村上

王子

	打	安	点
④ 山中	4	1	0
⑥ 柴吉	5	1	1
⑧ 宝大	3	1	0
⑦ 横廣	4	1	0
③ 平細	4	2	0
R 3 山	0	0	0
D 杉井	2	0	0
H 部野	0	0	0
H DD 川井	1	1	0
H ⑨ 木鳥	3	2	0
② 山鈴	2	0	0
H 神石	1	0	0
２ 前田	0	0	0
⑤	3	0	0
計	33	8	1

ＮＴＴ西

	打	安	点
④ 吉	5	2	3
⑧ 天	5	2	0
7 水	3	1	0
D 徳	5	2	1
③ 井	4	1	0
⑦ 串	0	0	0
８ 成	4	0	0
⑥ 山	4	2	1
⑨ 小	1	0	0
② 後	1	1	0
⑤ 酒	1	0	0
H 藤	1	1	0
R 3 山	0	0	0
計	28	9	4

王	振	球	犠	盗	失	残	併
	4	4	1	1	0	10	1
Ｎ	6	7	4	0	0	10	1

	投	回	安	責
王	手口	5	3	0
樋	島	1⅓	2	3
三	井	1⅔	4	2
浅				
高	井	4	4	1
前	田	1	0	0
茨	木		2⅔ 1	0
田	村		1⅓ 1	0
渡	邊	1	2	0
大	江	1	0	0

▽二塁打　柴崎、吉川▽２時間43分

（E）
ENEOS　000 001 200　3
021 002 10×　6
ヤマハ
（E）若杉、林、ハッブス、楠茂、加藤―菅原、植田
（ヤ）梅田、水野、佐藤廉―清水智、大本
▽本塁打　菅原、丸山（E）清水智2（ヤ）
▽三塁打　清水智（ヤ）
▽二塁打　神里、姫木（E）舟久保（ヤ）
JR東海　011 000 030　5
101 104 00×　7
三菱重工West
（J）宮島、林山、川本―須永
（三）藤井、辻垣、藤居、中澤、太田―碓井、拾尾
▽二塁打　藤井（J）湯口、山下（三）
▽準決勝
NTT西日本　201 010 200　6
210 000 010　4
トヨタ自動車
（N）井澤、茨木、島田―夏目
（ト）山内、細川、加藤、渕上―福井、箱山
▽本塁打　佐藤、今泉（ト）
▽三塁打　坂巻（ト）
▽二塁打　天井、水島2、山田、徳丸（N）
王子　000 100 001　2
000 100 000　1
ENEOS
（王）中島、宮崎―石崎
（E）阿部、渡部、ハッブス、柏原―有馬
▽本塁打　吉岡2（王）
▽二塁打　山口（王）山田（E）

NTT西の吉川逆転打 王子終盤に救援捕まる

▽決勝
王子　001 000 000　1
000 000 32×　5
NTT西日本
NTT西日本は七回1死満塁から、吉川が逆転の二塁打を放ち、さらに暴投で計3点を奪った。八回にも酒井、吉川の連続適時打で突き放した。王子は先発の樋口が好投したものの、終盤に救援陣が捕まった。

㊫…表彰選手…㊫

◇最高殊勲選手賞
徳丸　天晴・内野手（NTT西日本）
◇敢闘賞
吉岡　郁哉・外野手（王子）
◇首位打者賞
徳丸　天晴・内野手（NTT西日本）＝13打数7安打、打率5割3分8厘

大和高田クラブ12回目の優勝

びわこ杯大会

◇第42回JABAびわこ杯社会人野球大会（10月17～20日、予選リーグ7回制　カローラ滋賀はちまんスタジアム、湖東スタジアム）
○…予選リーグ…○
▽Aブロック
OBC高島　011 36　11
BｰBACKS　000 00　0
（五回コールド）
（O）酒井―金山
（B）等々力、亀田―中嶋
▽本塁打　椋本（O）
▽二塁打　谷岡、橋野2（O）
焼津マリーンズ　1022 30　17
BｰBACKS　000 00　0
（五回コールド）
（焼）澤田―増田
（B）豊嶋、小林、等々力、亀田―今西
▽本塁打　望月（焼）
▽二塁打　望月（焼）
OBC高島　000 000 1　1
焼津マリーンズ　100 040 ×　5
（O）橋本、山崎―金山
（焼）山本―戸崎
▽三塁打　新鞍（O）谷藤（焼）
▽二塁打　谷藤（焼）
▽Bブロック
マツゲン箕島硬式野球部　000 051 1　7
ゴールドジムベースボールクラブ　090 010 ×　10
（マ）山元、後藤、近藤―湯浅
（ゴ）保田―安齊
▽本塁打　岡（マ）安齊（ゴ）
▽二塁打　藤田、中谷、白瀧（マ）
MSH　100 200 0　3
500 100 ×　6
マツゲン箕島硬式野球部
（M）田中、廣谷―砂田
（マ）服部、上羽―林、木村
▽本塁打　今井（M）
▽二塁打　大鳴（M）
MSH　101 00　2
0120 0×　13
ゴールドジムベースボールクラブ
（五回コールド）
（M）森、古川、前田―砂田
（ゴ）阿部―安齊
▽本塁打　梶（ゴ）
▽二塁打　小野（ゴ）
▽Cブロック
金次郎・関西　221 100 0　6
大阪ホークスドリーム　000 000 0　0
（金）佐藤、松田―新谷
（大）杉本、下、中村、渡辺―澤田
▽三塁打　合田（金）
▽二塁打　新谷、辻野、辻村（金）
矢場とんブースターズ　130 101 0　6
金次郎・関西　000 101 0　2
（矢）田中―木村

㊫日本野球連盟公認ボール店㊫
Sun-up
株式会社 サン・アップ
〒466-0855 名古屋市昭和区川名本町1丁目45-4
TEL(052) 784－5775　FAX(052) 784－5776
E-mail:sunup@poppy.ocn.ne.jp

（金）藤、上中―汾山
▽本塁打　原、来田（金）
▽三塁打　市瀬（矢）
▽二塁打　辻野（金）

矢場とんブースターズ
100 205 08
201 050 19

大阪ホークスドリーム
（矢）山本、羽田、野元、後根、島田―難波、木村
（大）宝来、渡辺、中村、下、杉本―澤田
▽三塁打　木村（矢）
▽二塁打　岡久、難波、山田、木村（矢）澤田、山根、鐘ヶ江（大）

▽Dブロック

山口防府ベースボールクラブ
100 000 01
001 020 ×3

YBC柏
（山）佐伯―山下
（Y）小山―相茶、亀田
▽二塁打　山下（山）

YBC柏
100 001 02
103 000 ×4

大和高田クラブ
（Y）大森、遠藤、樋熊―相茶
（大）楠本、尾崎―三藤
▽本塁打　小笠原（Y）
▽三塁打　山本（大）

山口防府ベースボールクラブ
000 000 00
120 000 ×3

大和高田クラブ
（山）森本―山下
（大）溝尾、江本、金村―石田
▽二塁打　口分田2、井上（大）
▽準決勝

ゴールドジムベースボールクラブ
100 000 025 8
000 001 021 4

焼津マリーンズ　（延長九回）
（ゴ）峯田、堀込、保田、阿部―安齊
（焼）嶋村、澤田、山本、池田、梅谷、石田―戸崎
▽三塁打　近藤、梶（ゴ）
▽二塁打　八木澤、安齊、前田（ゴ）

金次郎・関西
000 000 0
205 0× 7

大和高田クラブ　（五回コールド）
（金）佐藤、松田、藤―汾山
（大）松林―安岡

大和高田攻守に圧倒 山本ダメ押し3ラン

▽決勝

大和高田クラブ
025 03 10
010 00 1

ゴールドジムベースボールクラブ　（五回コールド）

大和高田クラブは二回、安岡の適時打と押し出しで先手を取ると、三回にも押し出しや松下の適時打で突き放した。五回には山本の3ランで勝負を決めた。ゴールドジムベースボールクラブは安齊がソロを含む2本の長打で気を吐いたが、投手陣が持たなかった。

㊫…表彰選手…㊫

◇最高殊勲選手賞
山本　晴登・外野手（大和高田クラブ）

◇殊勲賞
安齊　颯一郎・捕手（ゴールドジムベースボールクラブ）

◇首位打者賞
山本　晴登・外野手（大和高田クラブ）＝11打数6安打、打率5割4分5厘

大和高田ク	打	安	点
⑥	井上	4	1	0
④	川中	3	1	2
③	口分田	3	1	1
⑦	本山	3	3	0
D	藤本	3	0	0
H	脇宮	1	0	0
⑤	里山	2	0	0
H5	今松	1	0	0
⑧	岡	2	0	1
⑨	下松	2	1	2
②	安岡	2	1	1
計		26	9	10

ゴールド	打	安	点
⑧	前田	3	1	0
⑦	磯田	2	0	0
⑥	梶	2	0	0
②	安齊	2	2	1
③	八木澤	2	0	0
⑨	近藤	2	1	0
④	本田	2	0	0
⑤	三浦	2	0	0
D	中村	2	1	0
計		19	5	1

	大	振	球	犠	盗	失	残	併
	16	11	1	0	8	1	1	
ゴ	5	0	0	0	3	3	0	

		回	安	責
投	井江	4	4	1
手	田本	1	1	0
堀	込	2	⅔ 5	4
阿	部	2	⅔ 3	4
保	田		⅓ 1	0

▽本塁打　山本（井上、安齊（阿部）
▽二塁打　安齊（井田）
▽1時間35分

びわこ杯大会・優勝チーム一覧

第1回	（昭58年）	全大津野球団
第2回	（〃59年）	近江八幡野球クラブ
第3回	（〃60年）	全大津野球団
第4回	（〃61年）	オール三重クラブ
第5回	（〃62年）	奥伊勢野球クラブ
第6回	（〃63年）	五大化学クラブ
第7回	（平1年）	全府中野球倶楽部
第8回	（〃2年）	全足利クラブ
第9回	（〃3年）	全府中野球倶楽部
第10回	（〃4年）	オール櫛形
第11回	（〃5年）	オール櫛形
第12回	（〃6年）	防府クラブ
第13回	（〃7年）	オール三重クラブ
第14回	（〃8年）	防府クラブ
第15回	（〃9年）	大和高田クラブ
第16回	（〃10年）	大阪ペーシェンスクラブ
第17回	（〃11年）	大阪ペーシェンスクラブ
第18回	（〃12年）	大和高田クラブ
第19回	（〃13年）	全播磨硬式野球団
第20回	（〃14年）	大和高田クラブ
第21回	（〃15年）	大和高田クラブ
第22回	（〃16年）	和歌山箕島球友会
第23回	（〃17年）	大和高田クラブ
第24回	（〃18年）	和歌山箕島球友会
第25回	（〃19年）	大和高田クラブ
第26回	（〃20年）	大和高田クラブ
第27回	（〃21年）	OBC高島
第28回	（〃22年）	滋賀・高島ベースボールクラブ
第29回	（〃23年）	ミキハウスREDS
第30回	（〃24年）	OBC高島
第31回	（〃25年）	雨天中止
第32回	（〃26年）	ミキハウスREDS
第33回	（〃27年）	和歌山箕島球友会
第34回	（〃28年）	和歌山箕島球友会
第35回	（〃29年）	天候不順のため大会中止
第36回	（〃30年）	和歌山箕島球友会
第37回	（令1年）	大和高田クラブ ショウワコーポレーション （大会打ち切りのため両チーム優勝）
第38回	（〃3年）	大和高田クラブ
第39回	（〃4年）	大和高田クラブ
第40回	（〃5年）	大和高田クラブ
第41回	（〃6年）	矢場とんブースターズ
第42回	（〃7年）	大和高田クラブ

※令和2年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

U-12日本代表準優勝

第８回 WBSC U-12ワールドカップ



アメリカに善戦

悲願の初優勝に一歩届かず

「第８回 WBSC U-12 ワールドカップ」は、７月25日から８月３日の間、チャイニーズタイペイ・台南市で開催された。日本は、オープニングラウンドＡグループ１位で、スーパーラウンドへ進んだ。スーパーラウンドでは、アメリカに敗れ２位で決勝戦に進出。決勝戦は、再びアメリカと対戦、初回に１点を先制したが、アメリカに逆転を許し、打線もアメリカ投手陣に抑え込まれ、準優勝となった。このカテゴリーでは、過去７回のうちアメリカとチャイニーズタイペイの２強が優勝を分け合い、他の追随を許さなかったが、大久保秀昭監督（ＥＮＥＯＳ野球部チームディレクター）のもと、短期間でのチーム作りが功を奏し、チャイニーズタイペイに一矢を報いたことは大きな成果であった。なお、キューバ、韓国を相手に連続完封勝利を挙げた橋本翔太朗投手は、最高勝率と最優秀防御率、そしてベストナイン（投手）を受賞、ドミニカ戦で特大の逆転３点本塁打を放つなど打撃面で存在感をみせた佐橋陸公選手（湘南ボーイズ）もベストナイン（一塁手）を受賞した。

㊗㊗㊗㊗㊗

1. 大会概要

大 会 名：ラグザス presents 第８回 WBSC U-12野球ワールドカップ２０２５（台湾・台南）

大会期間：７月25日（金）～８月３日（日）

◇予選ラウンド　７月25日（金）～７月29日（火）

◇スーパーラウンド　７月31日（木）～８月２日（土）

◇三位決定戦・決勝戦　８月３日（日）

参加国・地域：※（ ）内の数字は世界ランキング

◇グループＡ

日本（ＪＰＮ：①）、チャイニーズタイペイ（ＴＰＥ：②）、メキシコ（ＭＥＸ：④）、キューバ（ＣＵＢ：⑩）、オーストラリア（ＡＵＳ：⑫）、ドイツ（ＤＥＵ：⑰）

◇グループＢ

アメリカ（ＵＳＡ：⑤）、韓国（ＫＯＲ：⑥）、パナマ（ＰＡＮ：⑧）、ドミニカ共和国（ＤＯＭ：⑪）、チェコ（ＣＺＥ：⑮）、南アフリカ（ＺＡＦ：㉛）

㊗㊗㊗㊗㊗

2. 日本チーム試合結果

◇７月25日（金）　対　ドイツ

DEU	0	0	0	0	0	0	0	0	0
JPN	0	6	3	8	0	0	0	0	17

（４回コールド）

▽投・捕　佐橋（湘南ボーイズ）、○吉塚（狭山西武ボーイズ）、大原（糸島ボーイズ）、福山（多摩リトルリーグ稲城）―河津（糸島ボーイズ）

▽本塁打　丸山（新潟リトルリーグ）

▽二塁打　橋本（高崎ボーイズ）、佐橋（湘南ボーイズ）×２

◇７月26日（土）　対　キューバ

CUB	0	0	0	0	0	0	0	0	0
JPN	1	1	2	0	0	0	0	0	4

▽投・捕　○橋本（高崎ボーイズ）―河津（糸島ボーイズ）

▽三塁打　外山（福岡ベースボールポニー）

◇７月27日（日）　対　チャイニーズタイペイ

JPN 2 0 1 1 1 2 7
TPE 1 0 0 1 0 0 2

▽投・捕 阿部（埼玉イーストリトルリーグ川口）、○茨木（松戸中央ボーイズ）、福山（多摩リトルリーグ稲城）―河津（糸島ボーイズ）
▽本塁打 外山（福岡ベースボールポニー）
▽二塁打 寺田（千葉リトルリーグ船橋）、幸（奈良リトルシニア）、河津（糸島ボーイズ）

◇7月29日（火） 対 オーストラリア

JPN 0 0 0 0 2 3 10× 15
AUS 0 0 0 0 0 0

（4回コールド）
▽投・捕 丸山（新潟リトルリーグ）、清水（横浜リトルリーグ青葉緑東）、下平（武蔵嵐山ボーイズ）―大川（調布リトルリーグ）
▽二塁打 福山（多摩リトルリーグ稲城）

◇7月30日（水） 対 メキシコ

GUM 0 1 2 2 0 1 6
JPN 0 6 1 0 0× 7

▽投・捕 ●佐橋（湘南ボーイズ）、福山（多摩リトルリーグ稲城）、大原（糸島ボーイズ）、清水（横浜リトルリーグ青葉緑東）―河津（糸島ボーイズ）
▽本塁打 外山（福岡ベースボールポニー）

◇7月31日（木） 対 韓国

JPN 0 0 0 0 0 0 0 1
KOR 0 1 0 0 3× 4

▽投・捕 ○橋本（高崎ボーイズ）―河津（糸島ボーイズ）
▽二塁打 大原（糸島ボーイズ）

◇8月1日（金） 対 ドミニカ共和国

DOM 0 2 3 0 1 0 6
JPN 1 0 6 0 3× 10

▽投・捕 丸山（新潟リトルリーグ）、幸（奈良リトルシニア）、○佐橋（湘南ボーイズ）、大原（糸島ボーイズ）、茨木（松戸中央ボーイズ）、福山（多摩リトルリーグ稲城）―河津（糸島ボーイズ）
▽二塁打 吉塚（狭山西武ボーイズ）、福山（多摩リトルリーグ稲城）

◇8月2日（土） 対 アメリカ

USA 5 0 0 3 0 0 8
JPN 0 0 0 0 0 0 0

▽投・捕 ●佐橋（湘南ボーイズ）、幸（奈良リトルシニア）、吉塚（狭山西武ボーイズ）、下平（武蔵嵐山ボーイズ）、丸山（新潟リトルリーグ）―河津（糸島ボーイズ）

◇8月3日（日） 決勝戦対 アメリカ

JPN 1 0 0 0 0 0 1
USA 3 0 0 1 3× 7

▽投・捕 ●茨木（松戸中央ボーイズ）、福山（多摩リトルリーグ稲城）、清水（横浜リトルリーグ青葉緑東）―河津（糸島ボーイズ）

◇三位決定戦

KOR 2-0 TPE

◇決勝戦

USA 7-1 JPN

最終順位

〈1位〉USA 〈2位〉JPN
〈3位〉KOR 〈4位〉TPE 〈5位〉DOM 〈6位〉MEX 〈7位〉CUB 〈8位〉PAN 〈9位〉AUS 〈10位〉CZE 〈11位〉DEU 〈12位〉ZAF

（2）個人表彰

◇首位打者

・556 CHIKODROFF Christopher（USA）

◇最優秀防御率投手

0.00

3．大会成績
（1）チーム成績

【オープニングラウンド】

Aグループ

順位	チーム名	JPN	MEX	TPE	CUB	AUS	DEU	試合数	勝	負
1	JPN	㊧	●6-7	○7-2	○4-0	○15-0	○17-0	5	4	1
2	MEX	○7-6	㊧	●5-6	○3-0	○10-0	○9-1	5	4	1
3	TPE	●2-7	○6-5	㊧	○6-3	○13-0	○17-0	5	4	1
4	CUB	●0-4	●0-3	●3-6	㊧	○19-2	○7-1	5	2	3
5	AUS	●0-15	●0-10	●0-13	●2-19	㊧	○9-2	5	1	4
6	DEU	●0-17	●1-9	●0-17	●1-7	●2-9	㊧	5	0	5

Bグループ

順位	チーム名	KOR	USA	DOM	PAN	CZE	ZAF	試合数	勝	負
1	KOR	㊧	○6-2	○8-3	○4-2	○14-0	○17-0	5	5	0
2	USA	●2-6	㊧	○7-4	○8-2	○6-0	○26-0	5	4	1
3	DOM	●3-8	●4-7	㊧	○10-3	○14-8	○25-0	5	3	2
4	PAN	●2-4	●2-8	●3-10	㊧	○6-0	○11-1	5	2	3
5	CZE	●0-14	●0-6	●4-18	●0-6	㊧	○14-0	5	1	4
6	ZAF	●0-17	●0-26	●0-25	●1-11	●0-14	㊧	5	0	5

【スーパーラウンド】

順位	チーム名	USA	JPN	TPE	KOR	DOM	MEX	試合数	勝	負
1	USA	㊧	○8-0	○6-5	●2-6	○7-4	○7-1	5	4	1
2	JPN	●0-8	㊧	○7-2	○4-0	○10-6	●6-7	5	3	2
3	TPE	●5-6	●2-7	㊧	○11-5	○4-0	○6-5	5	3	2
4	KOR	○6-2	●0-4	●5-11	㊧	○8-3	○9-1	5	3	2
5	DOM	●4-7	●6-10	●0-4	●3-8	㊧	○9-4	5	1	4
6	MEX	●1-7	○7-6	●5-6	●1-9	●4-9	㊧	5	1	4

※「2位、3位、4位」及び「5位、6位」は、勝敗が並んでいるため、順位は大会規定による。

【プレイスメントラウンド】

順位	チーム名	CUB	PAN	AUS	CZE	DEU	ZAF	試合数	勝	負
1	CUB	㊧	○8-2	○19-2	○5-4	○7-1	○20-0	5	5	0
2	PAN	●2-8	㊧	○13-3	○6-0	－	○11-1	4	3	1
3	AUS	●2-19	●3-13	㊧	○11-2	○9-2	○13-1	5	3	2
4	CZE	●4-5	●0-6	●2-11	㊧	○12-2	○14-0	5	2	3
5	DEU	●1-7	－	●2-9	●2-12	㊧	○6-3	4	1	3
6	ZAF	－	●1-11	●1-13	●0-14	●3-6	㊧	4	0	4

◇ベストナイン
▽投　手
HASHIMOTO Shotaro（JPN）
◇最優秀選手
CHIKODROFF Christopher（USA）
◇最優秀守備
MIN Donghyeon（KOR）
◇最多得点
12得点
PARRA Luis（DOM）
◇最多盗塁
10盗塁
YANG Leo（KOR）
◇最多本塁打
4本
VALANDEZ Kristian（USA）
◇最多打点
14打点
VALANDEZ Kristian（USA）
◇最高勝率投手
2勝0敗
HASHIMOTO Shotaro（JPN）
▽捕　手
GAXIOLA Gastin（MEX）
▽一塁手
SAHASHI Riku（JPN）
▽二塁手
ARMENTA Jose（MEX）
▽三塁手
VALANDEZ Kristian（USA）
▽遊撃手
HSIEH Cheng-chun（TPE）
▽外野手
CHIKODROFF Christopher（USA）HU Chrng-chun（TPE）GARCIA Sean（CUB）

4. 日本選手個人成績

（1）投手成績

NO	選手名	所属	試合	勝	負	SP	回	被安	被本	奪振	与四死球	失点	自責	防御率
1	橋本翔太朗	高崎ボーイズ	2	2	0	0	12	4	0	8	1	0	0	0.00
2	丸山　峻輝	新潟リトルリーグ	3	0	0	0	3 2/3	2	0	5	1	0	0	0.00
3	清水　亮多	横浜リトルリーグ青葉緑東	3	0	0	0	3 2/3	0	0	4	0	0	0	0.00
4	吉塚真之介	狭山西武ボーイズ	2	1	0	0	2 2/3	2	0	3	1	0	0	0.00
5	福山　恒成	多摩リトルリーグ稲城	5	0	0	1	8 2/3	10	0	9	7	4	4	2.77
6	阿部　旭冴	埼玉イーストリトルリーグ川口	1	0	0	0	2	2	0	0	4	1	1	3.00
7	大原颯二郎	糸島ボーイズ	3	0	0	0	3 1/3	3	0	5	4	2	2	3.60
8	茨木雄之介	松戸中央ボーイズ	3	1	1	0	3 1/3	8	0	3	4	4	4	7.20
9	幸　大貴	奈良リトルシニア	2	0	0	0	1 2/3	3	1	2	0	2	2	7.20
10	下平　丞汰	武蔵嵐山ボーイズ	2	1	0	0	2 1/3	3	0	2	0	3	3	7.71
11	佐橋　陸公	湘南ボーイズ	4	1	2	0	4 2/3	11	1	5	5	14	8	10.29
計			9	6	3	1	48	48	2	46	55	30	24	3.00

（2）打撃成績

NO	選手名	所属	試合	打席	打数	得点	安打	本打	打点	盗塁	犠打	犠飛	四死	三振	打率
1	橋本翔太朗	高崎ボーイズ	7	22	19	5	3	0	2	0	0	0	3	3	0.158
2	大原颯二郎	糸島ボーイズ	9	27	21	8	6	0	4	4	0	0	6	3	0.286
3	佐橋　陸公	湘南ボーイズ	7	14	13	4	6	1	4	1	0	0	1	4	0.462
4	丸山　峻輝	新潟リトルリーグ	4	5	4	2	2	1	3	0	0	0	1	0	0.500
5	清水　亮多	横浜リトルリーグ青葉緑東	4	3	3	3	2	0	2	1	0	0	0	0	0.667
6	皆木　俊慧	埼玉イーストリトル浦和	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
7	大川幸太朗	調布リトルリーグ	2	4	4	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0.500
8	河津　勇誇	糸島ボーイズ	8	20	16	6	7	0	3	0	0	0	4	1	0.000
9	阿部　旭冴	埼玉イーストリトル川口	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.000
10	茨木雄之介	松戸中央ボーイズ	8	22	18	3	4	0	3	0	0	1	3	7	0.222
11	福山　恒成	多摩リトルリーグ稲城	7	13	12	3	3	0	1	1	0	0	1	0	0.250
12	寺田　大智	千葉リトルリーグ船橋	9	25	16	6	7	0	6	0	0	2	7	1	0.438
13	小俣　大空	千葉リトルリーグ千葉市	2	2	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0.500
14	小川　大良	湘南リトルリーグ平塚	7	21	15	5	5	0	3	3	0	0	6	3	0.333
15	幸　大貴	奈良リトルシニア	5	9	8	2	3	0	2	0	0	0	2	1	0.375
16	外山　泰基	福岡ベースボールボニー	8	28	27	9	10	2	7	3	0	0	1	4	0.370
17	下平　丞汰	武蔵嵐山ボーイズ	3	4	1	2	0	0	0	1	0	0	3	0	0.320
18	吉塚真之介	狭山西武ボーイズ	9	30	26	5	6	0	7	2	0	0	4	1	0.231
計			9	250	206	64	67	4	49	16	0	3	42	29	0.325

U-15日本代表準優勝

第12回 BFA U-15アジア選手権



準決勝は台湾に惜敗

2位を確保しW杯出場権獲得

「第12回ＢＦＡ　Ｕ－15アジア野球選手権」は、８月17日から８月23日の間、チャイニーズタイペイ・台南市で開催された。日本は、オープニングラウンドＡグループ１位で、スーパーラウンドへ進んだ。スーパーラウンドでは、チャイニーズタイペイに敗れ、韓国、チャイニーズタイペイ、日本が２勝１敗で並んだが、大会規定により決勝戦は、チャイニーズタイペイ対日本の対戦となった。決勝戦は、接戦となったが０―３で敗れ、準優勝となった。なお、個人賞は、舩山大翔選手（東名古屋ボーイズ）が最多打点、丹羽裕聖選手（愛知尾州ボーイズ）が最優秀守備選手、大会ベストナインは、上原優馬投手（苫小牧リトルシニア）、村橋照平一塁手（狭山西武ボーイズ）、倉田雄星二塁手（湖南ボーイズ）、中島辰徳外野手（熊本泗水ボーイズ）がそれぞれ受賞した。

㊗　㊗　㊗　㊗

1．大会概要

大会名：第12回ＢＦＡ　Ｕ―15アジア野球選手権（台湾・台南）

大会期間：８月17日（日）～23日（土）

◇**予選ラウンド**　８月17日（日）～19日（火）

◇**スーパーラウンド**　８月21日（木）～22日（金）

◇**三位決定戦・決勝戦**　８月23日（土）

参加国・地域：※（　）内の数字は世界ランキング

◇**グループＡ**

チャイニーズタイペイ（ＴＰＥ：②）、韓国（ＫＯＲ：⑥）、タイ（ＴＨＡ：㉞）、パキスタン（ＰＡＫ：㊳）

◇**グループＢ**

日本（ＪＰＮ：①）、フィリピン（ＰＨＩ：㉕）、香港（ＨＫＧ：㉙）、スリランカ（ＳＲＩ：㊶）

㊗　㊗　㊗　㊗　㊗

2．日本チーム試合結果

◇**８月17日（日）　対　香港**

HKG	0	0	1	3	3	1	7×		14
JPN	0	0	1						1

（５回コールド）

▽投・捕　三浦（新宿ボーイズ）、畠山（明石ボーイズ）、○上原（苫小牧リトルシニア）―駒（湖南ボーイズ）

▽三塁打　村橋（狭山西武ボーイズ）

▽二塁打　丹羽（愛知尾州ボーイズ）、佐々木（秋田北リトルシニア）、中島（熊本泗水ボーイズ）

◇**８月18日（月）　対　スリランカ**

JPN	1	0	0	0	0	0	0	0	1
SRI	1	9	0	0	0	0	0	0	24

（４回コールド）

▽投・捕　田渕川（東広島ポニー）、○葛本（芦屋ボーイズ）、成田（熊谷リトルシニア）―駒（湖南ボーイズ）、岩下（兵庫夙川ボーイズ）

▽本塁打　丹羽（愛知尾州ボーイズ）

▽三塁打　丹羽（愛知尾州ボーイズ）、倉田（湖南ボーイズ）

▽二塁打　舩山（東名古屋ボーイズ）、村橋（狭山西武ボーイズ）、畠山（明石ボーイズ）、工藤（狭山西武ボーイズ）×２、岡田（豊田リトルシニア）、駒（湖南ボーイズ）、岩下（兵庫夙川ボーイズ）

◇**８月19日（火）　対　フィリピン**

PHI
000 000 0
531 001 10
JPN
（6回コールド）
▽投・捕 梅村（愛知尾州ボーイズ）、○岡田（豊田リトルシニア）、畠山（明石ボーイズ）―駒（湖南ボーイズ）
▽三塁打 舩山（東名古屋ボーイズ）、倉田（湖南ボーイズ）、中島（熊本泗水ボーイズ）
▽二塁打 丹羽（愛知尾州ボーイズ）×2

◇8月21日（木） 対 韓国

KOR
000 100 0 1
030 020 × 5
JPN
▽投・捕 ○梅村（愛知尾州ボーイズ）、上原（苫小牧リトルシニア）、―駒（湖南ボーイズ）
▽三塁打 村橋（狭山西武ボーイズ）
▽二塁打 中島（熊本泗水ボーイズ）、小山（狭山西武ボーイズ）、岡田（豊田リトルシニア）

◇8月22日（金） 対 チャイニーズタイペイ

TPE
104 023 0 10
000 500 2 7
JPN
▽投・捕 岡田（豊田リトルシニア）、●三浦（新宿ボーイズ）、畠山（明石ボーイズ）―駒（湖南ボーイズ）
▽二塁打 丹羽（愛知尾州ボーイズ）

◇8月23日（土） 決勝戦対 チャイニーズタイペイ

TPE
000 002 1 3
000 000 0 0
JPN
▽投・捕 葛本（芦屋ボーイズ）、●成田（熊谷リトルシニア）、三浦（新宿ボーイズ）―駒（湖南ボーイズ）

◇三位決定戦

KOR 15-0 PHI

◇決勝戦

TPE 3-0 JPN
㊙
㊙
㊙
㊙

最終順位

〈1位〉TPE 〈2位〉
JPN 〈3位〉KOR
〈4位〉PHI 〈5位〉
HKG 〈6位〉PAK
〈7位〉SRI 〈8位〉
THA

（2）個人表彰

◇首位打者
・700
CHEN Bo You（TPE）

◇最優秀防御率投手
0.70
HU Kuan-Wei（TPE）

◇最高勝率投手
2勝0敗
ATIF Muhammad（PAK）

◇最多打点
10打点
FUNAYAMA Dito（JPN）

◇最多本塁打
1本
KIM Jun-woo（KOR）

◇最多盗塁
5盗塁
KO Shao-Chao-Chien（KOR）

◇最多得点
11得点
KO Shao-Chao-Chien（KOR）

◇最優秀守備
NIWA Yusei（JPN）

◇最優秀選手
CHEN Bo You（TPE）

◇ベストナイン

▽投 手
HU Kuan Wei（TPE）、UEHARA Yuma（JPN）

▽捕 手
YUN Junpchan（KOR）

▽一塁手
MURAHASHI Shohei（JPN）

▽二塁手
KURATA Yusei（JPN）

▽三塁手
JIANG Jin Cheng（TPE）

▽遊撃手
PARK Jaehyeon（KOR）

▽外野手
WEN Yi En（TPE）、NAKASHIMA Tatsunori（JPN）、AN Geonwoo（KOR）

▽指名打者
TSENG Yi-Che（TPE）

3．大会成績
（1）チーム成績

【オープニングラウンド】

Aグループ

順位	チーム名	KOR	TPE	PAK	THA	試合数	勝	負
1	KOR	㊙	○5-3	○24-0	○16-0	3	3	0
2	TPE	●3-5	㊙	○27-0	○18-0	3	2	1
3	PAK	●0-24	●0-27	㊙	○16-2	3	1	2
4	THA	●0-16	●0-18	●2-16	㊙	3	0	3

Bグループ

順位	チーム名	JPN	PHI	HKG	SRI	試合数	勝	負
1	JPN	㊙	○10-0	○14-1	○24-1	3	3	0
2	PHI	●0-10	㊙	○3-2	○11-1	3	2	1
3	HKG	●1-14	●2-3	㊙	○10-3	3	1	2
4	SRI	●1-24	●1-11	●3-10	㊙	3	0	3

【スーパーラウンド】

順位	チーム名	JPN	TPE	KOR	PHI	試合数	勝	負
1	JPN	㊙	●7-10	○5-1	○10-0	3	2	1
2	TPE	○7-10	㊙	●3-5	○4-0	3	2	1
3	KOR	●1-5	○5-3	㊙	○16-1	3	2	1
4	PHI	●0-10	●0-4	●1-16	㊙	3	0	3

※「1位、2位、3位」は、勝敗が並んでいるため、順位は大会規定による。

【プレイスメントラウンド】

順位	チーム名	PAK	HKG	SRI	THA	試合数	勝	負
1	PAK	㊙	○4-3	●5-9	○16-2	3	2	1
2	HKG	●3-4	㊙	○10-3	○12-2	3	2	1
3	SRI	○9-5	●3-10	㊙	○7-3	3	2	1
4	THA	●2-16	●2-12	●3-7	㊙	3	0	3

※「1位、2位、3位」は、勝敗が並んでいるため、順位は大会規定による。

4. 日本選手個人成績

（1）投手成績

NO	選手名	所属	試合	勝	負	SP	回	被安	被本	奪振	与四死球	失点	自責	防御率
1	葛本　瑛斗	芦屋ボーイズ	2	1	0	0	7	4	0	5	4	0	0	0.00
2	上原　優馬	苫小牧リトルシニア	2	1	0	1	5	4	0	2	1	0	0	0.00
3	梅村　　全	愛知尾州ボーイズ	2	1	0	0	6	3	0	4	5	1	1	1.17
4	三浦　大我	新宿ボーイズ	3	0	1	0	3 1/3	5	0	4	2	3	1	2.10
5	岡田宗一郎	豊田リトルシニア	2	1	0	0	6	4	0	4	3	5	3	3.50
6	畠山　颯志	明石ボーイズ	3	0	0	0	5 2/3	8	0	2	2	4	3	3.71
7	田渕川真朋	東広島ポニー	1	0	0	0	1	0	0	0	5	1	1	7.00
8	成田　遥喜	熊谷リトルシニア	2	0	1	0	2	2	0	2	1	2	2	7.00
計			6	4	2	1	36	30	0	23	23	16	11	2.14

（2）打撃成績

NO	選手名	所属	試合	打席	打数	得点	安打	本打	打点	盗塁	犠打	犠飛	四死	三振	打率
1	上原　優馬	苫小牧リトルシニア	2	2	1	1	1	0	2	0	0	0	1	0	1.000
2	倉田　雄星	湖南ボーイズ	6	21	16	10	9	0	4	2	0	0	5	0	0.563
3	中島　辰徳	熊本泗水ボーイズ	6	18	17	7	9	0	5	1	0	0	1	2	0.529
4	丹羽　裕聖	愛知尾州ボーイズ	6	23	21	7	11	1	5	1	0	0	2	1	0.524
5	畠山　颯志	明石ボーイズ	3	5	4	2	2	0	1	0	0	0	1	0	0.500
6	梅村　　全	愛知尾州ボーイズ	1	2	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0.500
7	工藤　未來	狭山西武ボーイズ	5	7	7	3	3	0	3	0	0	0	0	3	0.429
8	村橋　照平	狭山西武ボーイズ	6	18	17	6	7	0	6	1	0	0	1	1	0.412
9	舩山　大翔	東名古屋ボーイズ	6	21	15	6	6	0	10	3	0	1	5	0	0.400
10	小山　蓮心	狭山西武ボーイズ	6	16	15	3	5	0	5	1	0	0	1	2	0.333
11	岡田宗一郎	豊田リトルシニア	4	14	12	2	4	0	4	1	0	0	2	2	0.333
12	葛本　瑛斗	芦屋ボーイズ	1	3	3	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0.333
13	成田　遥喜	熊谷リトルシニア	3	3	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0.333
14	岩下　慶士	兵庫夙川ボーイズ	4	5	3	2	1	0	1	0	0	0	2	1	0.333
15	佐々木愛斗	秋田北リトルシニア	6	18	17	3	4	0	2	0	0	0	1	1	0.235
16	駒　　勇佑	湖南ボーイズ	6	20	17	5	4	0	3	0	0	1	2	5	0.235
17	田渕川真朋	東広島ポニー	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0.000
18	三浦　大我	新宿ボーイズ	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
計			6	199	172	60	69	1	54	10	0	2	25	19	0.401

社会人代表連覇

第31回 BFA アジア選手権



決勝は台湾に快勝

MVPは近藤壱来（JR四国）

「第31回ＢＦＡ　アジア野球選手権」は、９月22日から９月28日の間、中国・平潭県（福建省）で開催された。日本は、オープニングラウンドＡグループ１位で、スーパーラウンドへ進んだ。スーパーラウンドでは、チャイニーズタイペイには接戦を制したが、韓国に敗れたため、韓国、チャイニーズタイペイ、日本が２勝１敗で並んだ。大会規定により決勝戦は、チャイニーズタイペイ対日本の対戦となった。決勝戦は、序盤から日本の打線が相手投手を圧倒、投手陣も得点を許さず、11対０で勝利し、21回目の優勝を飾った。なお、個人賞は、近藤壱来選手（ＪＲ四国）に大会ＭＶＰが贈られた他、網谷圭将選手（ヤマハ）が最多打点、添田真海選手（日本通運）が最多得点、そして、増居翔太投手（トヨタ自動車）、矢野幸耶二塁手（三菱重工Ｅａｓｔ）、網谷外野手が大会ベストナインに選ばれた。

㊎ ㊎ ㊎ ㊎

1．大会概要

大会名：第31回ＢＦＡ　アジア野球選手権【中国・平潭県（福建省）】

大会期間：９月22日（月）～28日（日）

◇**予選ラウンド**　９月22日（月）～24日（水）

◇**スーパーラウンド**　９月26日（金）～27日（土）

◇**三位決定戦・決勝戦**　９月28日（日）

参加国・地域：※（　）内の丸囲み数字は世界ランキング（２０２５年９月19日現在）

◇**グループＡ**

日本（ＪＰＮ①）、中国（ＣＨＮ⑲）、フィリピン（ＰＨＩ㉔）、パキスタン（ＰＡＫ㉜）

◇**グループＢ**

チャイニーズタイペイ（ＴＰＥ②）、韓国（ＫＯＲ④）、香港（ＨＫＧ㉗）、パレスチナ（ＰＬＥ㊳）

㊎ ㊎ ㊎ ㊎

2．日本チーム試合結果

◇**９月22日（月）　対　フィリピン**

ＪＰＮ	1	3	6	4	0	4		18
ＰＨＩ	0	0	0	1	0	0		1

（６回コールド）

▽投・捕　○増居（トヨタ自動車）、秋山（三菱自動車岡崎）―辻本（ＮＴＴ西日本）

▽二塁打　熊田（トヨタ自動車）、網谷（ヤマハ）、吉川（日立製作所）、古川（三菱自動車岡崎）、松山（西部ガス）、矢野（三菱重工Ｅａｓｔ）

◇**９月23日（火）　対　パキスタン**

ＰＡＫ	2	0	0	0	0	2		2
ＪＰＮ	5	0	6	5	1	0		17

（５回コールド）

▽投・捕　○八野田（ＳＵＢＡＲＵ）、松田（日本製鉄室蘭シャークス）、岩本（ＪＦＥ西日本）―福井（トヨタ自動車）

▽本塁打　逢澤（トヨタ自動車）、網谷（ヤマハ）

▽三塁打　吉川（日立製作所）、水谷（ＪＲ東海）

▽二塁打　水谷（ＪＲ東海）、福井（トヨタ自動車）×２

◇**９月24日（水）　対　中国**

ＣＨＮ	0	0	0	0	0	0		0
ＪＰＮ	2	1	0	0	1	9	×	13

（７回コールド）

▽投・捕　○近藤（ＪＲ四

国）、不後（ＪＲ東海）―辻本（ＮＴＴ西日本）、松山（西部ガス）

▽本塁打　佐藤（トヨタ自動車）

▽三塁打　佐藤（トヨタ自動車）

▽二塁打　熊田（トヨタ自動車）、網谷（ヤマハ）、逢澤（トヨタ自動車）、矢野（三菱重工Ｅａｓｔ）、和田（トヨタ自動車）

◇９月26日（金）　対　チャイニーズタイペイ

TPE	1	1	0	0	0	0	0	0	2
JPN	0	0	0	0	2	0	0	1	3

▽投・捕　秋山（三菱自動車岡崎）、○渕上（トヨタ自動車）、嘉陽（トヨタ自動車）―辻本（ＮＴＴ西日本）

◇９月27日（土）　対　韓国

KOR	0	0	0	0	0	0	0	0	0
JPN	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▽投・捕　●増居（トヨタ自動車）、八野田（ＳＵＢＡＲＵ）、不後（ＪＲ東海）、岩本（ＪＦＥ西日本）、松田（日本製鉄室蘭シャークス）―福井（トヨタ自動車）、松山（西部ガス）

◇９月28日（日）決勝戦対　チャイニーズタイペイ

JPN	4	3	0	1	0	1	2	0	11
TPE	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▽投・捕　○近藤（ＪＲ四国）、○渕上（トヨタ自動車）、嘉陽（トヨタ自動車）―辻本（ＮＴＴ西日本）

▽二塁打　添田（日本通運）、網谷（ヤマハ）

◇三位決定戦

ＫＯＲ　４－３　ＣＨＮ

◇決勝戦

ＪＰＮ　11－０　ＴＰＥ

Ⓙ Ⓙ Ⓙ Ⓙ

最終順位

〈１位〉ＪＰＮ　**〈２位〉**ＴＰＥ　**〈３位〉**ＫＯＲ　**〈４位〉**ＣＨＮ　**〈５位〉**ＰＬＥ　**〈６位〉**ＰＨＩ　**〈７位〉**ＨＫＧ　**〈８位〉**ＰＡＫ

（２）個人表彰

◇首位打者

・６３２　ＤＥ　ＶＥＲＡ　Ｌｏｒｄ　Ａｒａｇｏｎ（ＰＨＩ）

◇最優秀防御率投手

０．００　ＨＯＮＧ　Ｍｉｎｇｙｕ（ＫＯＲ）

◇最高勝率投手

２勝０敗　ＨＯＮＧ　Ｍｉｎｇｙｕ（ＫＯＲ）

◇最多打点

９打点　ＡＭＩＹＡ　Ｋｅｉｓｈｏ（ＪＰＮ）

◇最多本塁打

２本　ＶＡＲＧＡＳ　Ｊｈｏｎ　Ｒｅｙｍｏｎｄ（ＰＨＩ）

◇最多盗塁

６盗塁　ＨＡＬＥＥＮ　Ｙｕｎｉｓ（ＰＬＥ）

◇最多得点

７得点　ＳＯＥＤＡ　Ｍａｎａｍｉ（ＪＰＮ）

◇最優秀守備

ＬＩＮ　Ｙｕ－Ｌｉ（ＴＰＥ）

◇最優秀選手

ＫＯＮＤＯ　Ｋａｚｕｋｉ（ＪＰＮ）

◇ベストナイン

▽投　手　ＭＡＳＵＩ　Ｓｈｏｔａ（ＪＰＮ）、ＱＩ　Ｘｉｎ（ＣＨＮ）

▽捕　手　ＲＹＵ　Ｈｙｅｏｎｊｕｎ（ＫＯＲ）

▽一塁手　ＫＨＡＴＲＩ　Ｓａｍｅｅｒ　Ａｈｍｅｄ（ＰＡＫ）

▽二塁手　ＹＡＮＯ　Ｙｕｋｉｙａ（ＪＰＮ）

▽三塁手　ＫＡＯ　Ｙｕ－Ｗｅｉ（ＴＰＥ）

▽遊撃手　ＤＥ　ＶＥＲＡ　Ｌｏｒｄ　Ａｒａｇｏｎ（ＰＨＩ）

▽外野手　ＡＭＩＹＡ　Ｋｅｉｓｈｏ（ＪＰＮ）、ＶＡＲＧＡＳ　Ｊｈｏｎ　Ｒｅｙｍｏｎｄ（ＰＨＩ）　ＷＥＮ　Ｔｓｚ　Ｙｉｎ　Ｊｏｒｄａｎ（ＨＫＧ）

◇指名打者

ＦＵＮＧ　Ａｎｓｏｎ（ＨＫＧ）

３．大会成績

（１）チーム成績

【オープニングラウンド】

Ａグループ

順位	チーム名	JPN	CHN	PHI	PAK	試合数	勝	負
1	ＪＰＮ	Ⓙ	○13-0	○18-1	○17-2	3	3	0
2	ＣＨＮ	●0-13	Ⓙ	○4-2	○10-0	3	2	1
3	ＰＨＩ	●1-18	●2-4	Ⓙ	○11-3	3	1	2
4	ＰＡＫ	●2-17	●0-10	●3-11	Ⓙ	3	0	3

Ｂグループ

順位	チーム名	TPE	KOR	PLE	HKG	試合数	勝	負
1	ＴＰＥ	Ⓙ	○10-0	○14-0	○11-0	3	3	0
2	ＫＯＲ	●0-10	Ⓙ	○9-0	○16-1	3	2	1
3	ＰＬＥ	●0-14	●0-9	Ⓙ	○5-2	3	1	2
4	ＨＫＧ	●0-11	●1-16	●2-5	Ⓙ	3	0	3

【スーパーラウンド】

順位	チーム名	TPE	JPN	KOR	CHN	試合数	勝	負
1	ＴＰＥ	Ⓙ	●2-3	○10-0	○4-0	3	2	1
2	ＪＰＮ	○3-2	Ⓙ	●0-1	○13-0	3	2	1
3	ＫＯＲ	●0-10	○1-0	Ⓙ	○8-6	3	2	1
4	ＣＨＮ	●0-4	●0-13	●6-8	Ⓙ	3	0	3

※「１位、２位、３位」は、勝敗が並んでいるため、順位は大会規定による。

【プレイスメントラウンド】

順位	チーム名	PLE	PHI	HKG	PAK	試合数	勝	負
1	ＰＬＥ	Ⓙ	○7-3	○5-2	●2-5	3	2	1
2	ＰＨＩ	●3-7	Ⓙ	○7-6	○11-3	3	2	1
3	ＨＫＧ	●2-5	●6-7	Ⓙ	○9-5	3	1	2
4	ＰＡＫ	○5-2	●3-11	●5－9	Ⓙ	3	1	2

※「１位、２位」及び「３位、４位」は、勝敗が並んでいるため、順位は大会規定による。

4. 日本選手個人成績

（1）投手成績

NO	選手名	所属	試合	勝	負	SP	回	被安	被本	奪振	与四死球	失点	自責	防御率
1	松田　航瑠	日本製鉄室蘭シャークス	2	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0.00
2	渕上　佳輝	トヨタ自動車	2	1	0	0	4	0	0	5	0	0	0	0.00
3	不後　祐将	JR東海	2	0	0	0	2	2	0	0	1	0	0	0.00
4	嘉陽宗一郎	トヨタ自動車	2	0	0	1	2	0	0	4	1	0	0	0.00
5	近藤　壱来	JR四国	2	2	0	0	12	8	0	14	0	0	0	0.00
6	岩本龍之介	JFE西日本	2	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0.00
7	増居　翔太	トヨタ自動車	2	1	1	0	10	9	0	11	1	2	2	1.80
8	秋山　翔	三菱自動車岡崎	2	0	0	0	7	6	1	5	0	2	2	2.57
9	八野田龍司	SUBARU	2	1	1	0	4	8	0	5	0	2	2	4.50
計			6	5	2	1	36	34	1	46	3	6	6	1.20

（2）打撃成績

NO	選手名	所属	試合	打席	打数	得点	安打	本打	打点	盗塁	犠打	犠飛	四死	三振	打率
1	和田　佳大	トヨタ自動車	4	2	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0	1.000
2	矢野　幸耶	三菱重工East	6	16	10	7	6	0	2	2	0	0	6	1	0.600
3	添田　真海	日本通運	6	27	24	9	12	0	4	2	0	0	3	2	0.500
4	福井　章吾	トヨタ自動車	2	5	4	2	2	0	2	0	0	0	1	1	0.500
5	吉川　海斗	日立製作所	4	4	4	1	2	0	3	0	0	0	0	0	0.500
6	水谷　祥平	JR東海	5	20	15	5	7	0	7	1	0	1	4	5	0.467
7	中川　拓紀	Honda鈴鹿	6	5	5	1	2	0	1	1	0	0	0	1	0.400
8	網谷　圭将	ヤマハ	6	25	21	5	8	1	11	1	0	1	3	0	0.381
9	佐藤　勇基	トヨタ自動車	6	22	16	7	5	1	3	0	0	0	6	4	0.313
10	西村進之介	ヤマハ	5	10	7	2	2	0	1	1	0	0	3	2	0.286
11	熊田　任洋	トヨタ自動車	6	26	22	8	6	0	1	2	0	0	4	3	0.273
12	逢澤　崚介	トヨタ自動車	6	25	23	4	6	1	9	0	0	1	1	2	0.261
13	松山　翔太	西部ガス	3	4	4	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0.250
14	辻本　勇樹	NTT西日本	4	17	13	5	3	0	3	1	0	0	4	3	0.231
15	古川　智也	三菱自動車岡崎	6	24	18	3	4	0	3	1	0	1	5	1	0.222
計			6	232	188	62	68	3	52	12	0	4	40	26	0.362

2019年以来6年ぶり2度目の優勝

2025アジアウインターリーグ

次代を担う社会人選手を派遣

試合結果と個人成績

◇11月15日（土）　JABA　対　CPBL-S

JABA

0	1	4	0	0	0	0	0	0	5
0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

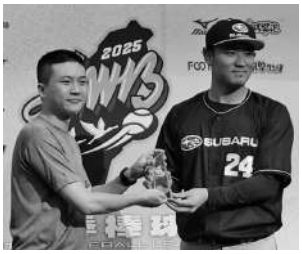
CPBL-S

▽バッテリー：川合（JR四国）、生井（日立製作所）、伊東（東京ガス）、中島（鷺宮製作所）―有馬（ENEOS）、印出（三菱重工East）

▽本塁打　外山（SUBARU）

▽二塁打　柴崎（王子）

※MVP　外山（SUBARU）



◇11月16日（日）　JABA　対　KBO

KBO

0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
2	0	1	0	0	0	2	0	0	5

JABA

▽バッテリー：長野（JFE西日本）、本間（大阪ガス）、中岡（JR西日本）、川原（Honda鈴鹿）―松山（西部ガス）、萩原（東芝）

▽二塁打　藤澤（東京ガス）

◇11月17日（月）　JABA　対　NPB

JABA

0	1	0	0	1	1	3	0	0	6
1	0	0	0	0	0	0	1	1	3

NPB



▽バッテリー：○伊東（東京ガス）、生井（日立製作所）、中島（鷺宮製作所）、梅田（ヤマハ）―印出（三菱重工East）、有馬（ENEOS）

▽二塁打　藤澤（東京ガス）×2、元山（四国銀行）

▽MVP　伊東（東京ガス）

◇11月19日（水）　JABA　対　CPBL・M

CPBL・M

0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
2	0	0	0	0	1	0	0	0	3

NPB

▽バッテリー：○川原（Honda鈴鹿）、本間（大阪ガス）、中岡（JR西日本）、川合（JR四国）―有馬（ENEOS）



▽二塁打　山田（日本生命）、仲俣（東京ガス）

▽MVP　川原（Honda鈴鹿）

◇11月20日（木）　JABA　対　NPB

NPB

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	1	0	×	1

JABA

▽バッテリー：梅田（ヤマハ）、○生井（日立製作所）、中島（鷺宮製作所）―松山（西部ガス）

▽二塁打　石飛（日産自動車）

▽MVP　藤澤（東京ガス）

◇11月21日（金）　JABA　対　CPBL・S

JABA

2	0	0	2	0	2	1	0	0	7
0	1	1	0	0	0	1	0	1	4

CPBL・S



▽バッテリー：○長野（JFE西日本）、本間（大阪ガス）、中岡（JR西日本）―印出（三菱重工East）、有馬（ENEOS）

▽二塁打　浪川（バイタルネット）、山田（日本生命）

▽MVP　浪川（バイタルネット）

◇11月22日（土）　JABA　対　KBO

JABA

0	1	4	2	6	0	1	0	3	17
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

KBO

▽バッテリー：○伊東（東京ガス）、川合（JR四国）、川原（Honda鈴鹿）、中岡（JR西日本）―萩原（東芝）

▽本塁打　仲俣（東京ガス）

▽三塁打　石川（JR北海道硬式ク）

▽二塁打　相羽（ヤマハ）、



仲俣（東京ガス）、外山（ＳＵＢＡＲＵ）、山田（日本生命）、藤澤（東京ガス）、萩原（東芝）、大森（ＪＦＥ東日本）

▽ＭＶＰ　仲俣（東京ガス）

◇11月24日（月）　ＪＡＢＡ対ＣＰＢＬ・Ｍ

ＪＡＢＡ

	1	1	0	2
	0	3	0	4
	0	3	0	4
	0	0	0	0
	1	3	0	6

ＣＰＢＬ・Ｍ

▽バッテリー：梅田（ヤマハ）、○生井（日立製作所）、中島（鷺宮製作所）―印出（三菱重工Ｅａｓｔ）、小鷹（ＪＲ東日本東北）

▽三塁打　柴崎（王子）

▽二塁打　柴崎（王子）、萩原（東芝）、山田（日本生命）、野村（鷺宮製作所）、相羽（ヤマハ）

▽ＭＶＰ　下山（東芝）



◇11月25日（火）　ＪＡＢＡ対ＣＰＢＬ・Ｓ

ＣＰＢＬ・Ｓ

	0	0	0	0
	0	0	0	0
	0	0	0	0
	0	0	1	1
	0	1	3	4

ＪＡＢＡ

▽バッテリー：樋口（王子）、長野（ＪＦＥ西日本）、高木（日本生命）、●秋山（三菱自動車岡崎）、柿本（パナソニック）―萩原（東芝）



◇11月26日（水）　ＪＡＢＡ対ＮＰＢ

ＮＰＢ

	2	0	0	2
	0	0	0	0
	0	0	1	1
	0	0	0	0
	2×	0	0	2

ＪＡＢＡ

▽バッテリー：柿本（パナソニック）、○長野（ＪＦＥ西日本）、生井（日立製作所）、中島（鷺宮製作所）―松山（西部ガス）、印出（三菱重工Ｅａｓｔ）、萩原（東芝）

▽本塁打　藤澤（東京ガス）

▽二塁打　山田（日本生命）、浪川（バイタルネット）

▽ＭＶＰ　藤澤（東京ガス）

◇11月27日（木）　ＪＡＢＡ対ＣＰＢＬ・Ｍ

ＪＡＢＡ

	1	2	0	3
	0	0	0	0
	0	0	4	4
	1	2	0	4
	2	0	1×	4

ＣＰＢＬ・Ｍ

▽バッテリー：伊東（東京ガス）、高木（日本生命）、●長野（ＪＦＥ西日本）―小鷹（ＪＲ東日本東北）、松山（西部ガス）

▽二塁打　藤澤（東京ガス）、野村（鷺宮製作所）、相羽（ヤマハ）



◇11月28日（金）　ＪＡＢＡ対ＫＢＯ

ＫＢＯ

	1	0	0	1
	0	0	0	0
	0	0	2×	2

ＪＡＢＡ

▽バッテリー：秋山（三菱自動車岡崎）、樋口（王子）、梅田（ヤマハ）、○生井（日立製作所）、中島（鷺宮製作所）―印出（三菱重工Ｅａｓｔ）

▽三塁打　下山（東芝）

▽二塁打　海崎（ＪＲ東日本）、藤澤（東京ガス）

▽ＭＶＰ　海崎（ＪＲ東日本）



◇11月30日（日）　ＪＡＢＡ対ＣＰＢＬ・Ｓ

ＣＰＢＬ・Ｍ

	1	0	0	1
	0	1	0	1
	3	0	0	3
	1	1	0	2
	0	0	0×	0
	5	2	0	10

ＪＡＢＡ

▽バッテリー：○梅田（ヤマハ）、高木（日本生命）、長野（ＪＦＥ西日本）、柿本（パナソニック）―萩原（東芝）、小鷹（ＪＲ東日本東北）、松山（西部ガス）

▽本塁打　野村（鷺宮製作所）、下山（東芝）

▽二塁打　山田（日本生命）、野村（鷺宮製作所）、三野原（ＫＭＧホールディングス）×２

▽ＭＶＰ　下山（東芝）



◇12月2日（火）　ＪＡＢＡ対ＮＰＢ

ＪＡＢＡ

	0	2	1	3
	0	0	0	0
	0	0	0	0
	0	0	0	0
	0	1	1	2
	0	0	0×	0
	0	4	2	6

ＮＰＢ

▽バッテリー：樋口（王子）、●伊東（東京ガス）、生井（日立製作所）―松山（西部ガス）、萩原（東芝）

▽二塁打　野村（鷺宮製作所）、外山（ＳＵＢＡＲＵ）



◇12月3日（水）　ＪＡＢＡ対ＣＰＢＬ・Ｓ

ＪＡＢＡ

	2	0	0	2
	0	0	0	0
	0	0	1	1
	4	0	0	4
	0	0	0×	0
	6	0	1	7

ＣＰＢＬ・Ｓ

▽バッテリー：●柿本（パナソニック）、長野（ＪＦＥ西日本）―小鷹（ＪＲ東日本東北）、印出（三菱重工Ｅａｓｔ）

▽本塁打　柴崎（王子）

▽三塁打　三野原（ＫＭＧホールディングス）

◇12月4日（木）　ＪＡＢＡ対ＣＰＢＬ・Ｍ

ＣＰＢＬ・Ｍ

	0	0	2	2
	0	0	0	0
	1	1	0	2
	0	1	0	1
	0	0	0×	0
	1	2	2	5

ＪＡＢＡ

▽バッテリー：秋山（三菱自動車岡崎）、生井（日立製作所）、中島（鷺宮製作所）―印出（三菱重工Ｅａ

st）
▽二塁打　柴崎（王子）
▽ＭＶＰ　秋山（三菱自動車岡崎）

◇12月5日（金）　ＪＡＢＡ　対　ＣＰＢＬ・Ｓ

ＪＡＢＡ	0	0	1	0	0	1	0	0	2	4
ＣＰＢＬ・Ｓ	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3

▽バッテリー：伊東（東京ガス）、高木（日本生命）―長野（ＪＦＥ西日本）―萩原（東芝）、松山（西部ガス）、小鷹（ＪＲ東日本東北）
▽本塁打　海崎（ＪＲ東日本）
▽二塁打　柴崎（王子）
▽ＭＶＰ　小鷹（ＪＲ東日本東北）

◇12月6日（土）　ＪＡＢＡ　対　ＣＰＢＬ・Ｍ



ＣＰＢＬ・Ｍ	0	0	0	0	0	0	2	3	0	5
ＪＡＢＡ	0	0	0	1	0	0	5	1	×	7

▽バッテリー：梅田（ヤマハ）、高木（日本生命）、長野（ＪＦＥ西日本）、生井（日立製作所）、中島（鷺宮製作所）―印出（三菱重工Ｅａｓｔ）
▽二塁打　藤澤（東京ガス）
▽ＭＶＰ　中島（鷺宮製作所）

◇12月7日（日）　ＪＡＢＡ　対　ＮＰＢ

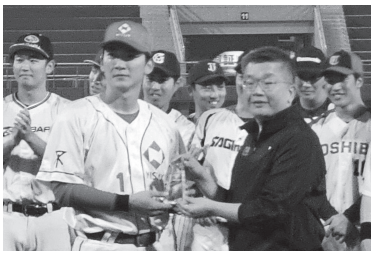
ＮＰＢ	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
ＪＡＢＡ	0	1	0	0	0	0	0	4	×	5

▽バッテリー：樋口（王子）、高木（日本生命）、長野（ＪＦＥ西日本）、中島（鷺宮製作所）―萩原（東芝）



▽三塁打　海崎（ＪＲ東日本）、山田（日本生命）
▽ＭＶＰ　山田（日本生命）
※ＪＡＢＡチームは2度目の優勝





Ⓙ Ⓙ Ⓙ Ⓙ Ⓙ

【準決勝】（12月6日）
ＮＰＢ　5―2　ＣＰＢＬ・Ｓ
ＪＡＢＡ　7―5　ＣＰＢＬ・Ｍ

【三位決定戦】（12月7日）
ＣＰＢＬ・Ｍ　5―4　ＣＰＢＬ―Ｓ

【決勝戦】（12月7日）
ＪＡＢＡ　5―2　ＮＰＢ

※最終順位
優勝：ＪＡＢＡ、2位：ＮＰＢ、3位：ＣＰＢＬ・Ｍ、4位：ＣＰＢＬ・Ｓ、5位：ＫＢＯ

Ⓙ…**個人成績**…Ⓙ

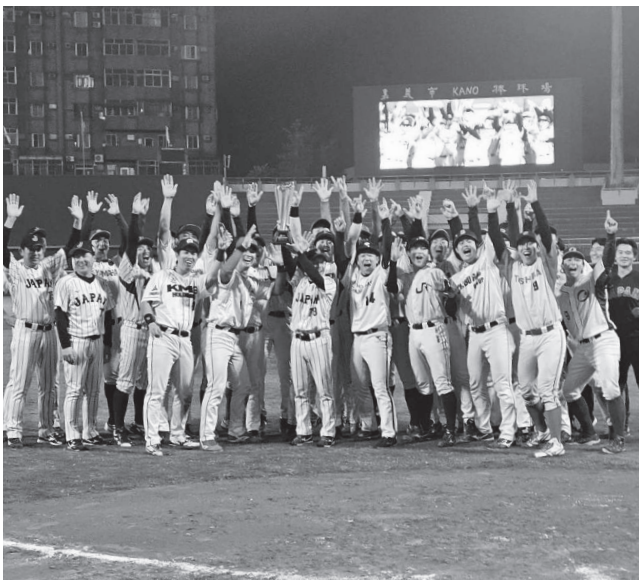
【最多勝利】
長野　健大（ＪＦＥ西日本）＝5勝

【最多セーブ】
中島　隼也（鷺宮製作所）＝7セーブ

【最多奪三振】
長野　健大（ＪＦＥ西日本）＝19

【最多打点】
藤澤　涼介（東京ガス）＝13点

【最多盗塁】
相羽　寛太（ヤマハ）＝8盗塁



【予選ラウンド】（１１月１５日～１２月５日）

順位	チーム名	試合数	勝	分	敗	勝率	JABA	NPB	CPBL-S	KBO	CPBL-M
1	JABA	17	12	1	4	0.750	Ⓙ	3-0-1	4-0-2	2-1-0	3-0-1
2	NPB	17	10	0	7	0.588	1-0-3	Ⓙ	3-0-1	2-0-1	4-0-2
3	CPBL-S	17	9	0	8	0.529	2-0-4	1-0-3	Ⓙ	2-0-1	4-0-0
4	KBO	12	4	1	7	0.364	0-1-2	1-0-2	1-0-2	Ⓙ	2-0-1
5	CPBL-M	17	4	0	13	0.235	1-0-3	2-0-4	0-0-4	1-0-2	Ⓙ

審判員の研修派遣

ＪＡＢＡ所属審判員の国際経験を積む場として、昨年に続き、審判員の研修派遣を行った。

規則・審判委員会により選考された以下の５名（当初６名派遣予定、１名けがのため辞退）が以下のとおり研修を行った。

【Ａグループ】
（11／15～11／22：８日間）
高橋　勝利（岩手）
武藤　英之（秋田）

【Ｂグループ】
（11／21～11／28：８日間）
奥津　祐太（神奈川）

【Ｃグループ】
（11／27～12／４：８日間）
大都　篤（大阪）
田村　光弘（東京）
以上（文責：日本野球連盟事務局　崎坂徳明）

※トレーナーの研修派遣

トレーナーは従来通り２名体制とした。派遣実績がある佐藤照己トレーナー（ＪＦＥ西日本）をチーフトレーナーに据え、１名は加盟チームに所属するトレーナーの研修（国際大会の経験を積む場）としてＪＡＢＡ加盟チームを対象に公募を行った。６名から応募があり、アスリート委員会坂口裕之委員長、川口朋保副委員長（監督）、可知芳則委員により選考を行い、以下のとおり３名を派遣した。

【チーフトレーナー】
佐藤　照己（ＪＦＥ西日本トレーナー）：11／12～12／８（27日間）

※11／12はトレーニング用具等の確認・準備作業。

【公募トレーナー】
西本　裕（伏木海陸運送トレーナー）：11／13～11／22（10日間）
後藤　隆志（東邦ガストレーナー）：11／21～11／30（10日間）
長井　優貴（東京ガストレーナー）：11／29～12／８（10日間）



左から佐藤（ＪＦＥ西日本）、西本（伏木海陸運送）後藤（東邦ガス）。（11／21）



左から佐藤（ＪＦＥ西日本）、長澤ドクター（宮崎大学）、長井（東京ガス）。（12／7）

JABA選抜チーム

（１）スタッフ及び選手

別添「JABA選抜チームメンバー表」参照



【前半チーム（11／15）】



【武蔵府中リトル訪問（11／25）】



【後半チーム（11／24）】



【決勝戦後（12／７）】

個人成績

投手成績

No	選手名	所属	試合	勝	敗	SP	回	被安	被本	奪振	与四死球	失点	自責	防御率
1	生井　惇己	日立製作所	9	3	0	0	12	13	2	9	3	7	4	3.00
2	中島　隼也	鷺宮製作所	9	0	0	7	15	10	0	16	2	2	2	1.20
3	伊東　佳希	東京ガス	6	2	1	0	22	22	0	13	11	9	7	2.86
4	梅田健太郎	ヤマハ	6	1	0	0	22	21	1	15	7	6	4	1.64
5	樋口　　新	王子	4	0	0	0	15 2/3	17	1	16	5	5	4	2.30
6	秋山　凌祐	三菱自動車岡崎	3	1	1	0	12	11	0	5	5	4	4	3.00
7	川原　嗣貴	Honda鈴鹿	3	1	0	0	7	8	0	5	2	1	1	1.29
8	本間　悠貴	大阪ガス	3	0	0	0	5	4	0	7	1	1	0	0.00
9	高木　寛斗	日本生命	6	0	0	0	8 2/3	14	0	8	2	6	6	6.23
10	柿本　晟弥	パナソニック	4	0	1	0	10	14	1	12	4	9	9	8.10
11	中岡　大河	JR西日本	4	0	0	0	6	6	0	8	1	1	1	1.50
12	長野　健大	JFE西日本	10	5	1	0	25 1/3	20	1	19	6	10	8	2.84
13	川合　慎磨	JR四国	3	1	0	1	8	6	0	10	3	0	0	0.00
計			19	14	4	8	168 2/3	166	6	143	52	61	50	2.67

打撃成績

No	選手名	所属	試合	打席	打数	得点	安打	本打	打点	盗塁	犠打	犠飛	四死球	三振	打率
1	小鷹　葵	JR東日本東北	5	8	6	1	1	0	1	0	0	0	2	2	0.167
2	有馬　　諒	ENEOS	4	8	5	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0.000
3	萩原　義輝	東芝	10	23	21	6	7	0	2	0	0	0	2	3	0.333
4	印出　太一	三菱重工East	9	24	21	2	7	0	2	1	0	1	2	1	0.333
5	松山　翔太	西部ガス	9	15	12	0	2	0	2	0	0	0	3	2	0.167
6	石川　楓雅	JR北海道硬式野球クラブ	5	16	14	2	4	0	2	0	0	0	2	2	0.286
7	外山　優希	SUBARU	18	64	59	7	18	1	9	0	0	1	4	14	0.305
8	海崎　雄太	JR東日本	12	46	39	6	7	1	3	2	0	1	6	8	0.179
9	仲俣慎之輔	東京ガス	7	26	23	3	10	1	6	1	0	0	3	2	0.435
10	下山　悠介	東芝	12	35	31	7	8	1	3	0	0	0	4	5	0.258
11	相羽　寛太	ヤマハ	18	81	61	13	16	0	11	8	0	2	18	8	0.262
12	山田　健太	日本生命	18	75	66	7	14	0	7	0	0	1	8	13	0.212
13	元山　晶斗	四国銀行	13	30	26	5	8	0	6	0	0	2	2	4	0.308
14	三野原愛望	KMGホールディングス	11	31	26	6	9	0	5	4	0	0	4	3	0.346
15	浪川　広之	バイタルネット	13	42	34	5	8	0	5	0	0	1	7	5	0.235
16	大森　廉也	JFE東日本	7	15	14	2	3	0	3	1	0	0	1	4	0.214
17	野村　　工	鷺宮製作所	11	37	33	6	8	1	8	1	0	0	4	13	0.242
18	藤澤　涼介	東京ガス	17	61	53	9	18	1	13	1	0	1	7	6	0.340
19	石飛　智洋	日産自動車	7	22	17	6	4	0	1	0	0	0	5	1	0.235
20	柴崎　聖人	王子	19	85	72	13	23	1	7	4	0	0	13	20	0.319
計			19	744	633	106	175	7	96	23	0	10	100	117	0.276

2025 アジアウインターベースボール　社会人選抜チームメンバー表

	役職	名前	所属
1	監督	川口　朋保	三菱自動車
2	コーチ	加藤　　徹	日鉄テクノロジー
3	コーチ	玉野　武知	TDK
4	コーチ	山田　幸二郎	大阪ガスネットワーク
5	コーチ	杉浦　正則	日本生命
6	コーチ	松本　洋介	西濃運輸
7	ドクター	可知　芳則	高島平中央総合病院
8	ドクター	吉田　雅人	名古屋市立大学
9	ドクター	長澤　誠	宮崎大学
10	トレーナー	佐藤　照己	JFE西日本
11	トレーナー	西本　裕	伏木海陸運送
12	トレーナー	後藤　隆志	東邦ガス
13	トレーナー	長井　優貴	東京ガス
14	ｸｵﾘﾃｨｰｺﾝﾄﾛｰﾙ	岡本　恵達	RAUD
15	ｸｵﾘﾃｨｰｺﾝﾄﾛｰﾙ	古田　椋大	RAUD
16	ﾌﾟﾚｲﾔｰｽﾞﾃﾞﾍﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ(総務)	崎坂　徳明	日本野球連盟

NO	背番号	ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ	氏名	所属	年齢	投	打	身長	体重	出身高校	出身大学
1	12	P	生井　惇己	日立製作所	25	左	左	178	78	慶應義塾	慶應義塾
2	16	P	中島　隼也	鷺宮製作所	27	右	右	180	81	仙台育英	城西国際
3	14	P	伊東　佳希	東京ガス	24	右	右	173	82	旭川北	星槎道都
4	19	P	梅田　健太郎	ヤマハ	23	右	左	181	90	横浜隼人	立正
5	17	P	樋口　新	王子	23	左	左	178	84	千葉経済大附属	愛知工業
6	11	P	秋山　凌祐	三菱自動車岡崎	24	右	左	175	81	愛工大名電	立命館
7	15	P	川原　嗣貴	Honda鈴鹿	21	右	左	189	96	大阪桐蔭	
8	19	P	本間　悠貴	大阪ガス	24	左	左	174	77	大冠	天理
9	14	P	高木　寛斗	日本生命	23	左	左	181	85	福井工大福井	同志社
10	18	P	柿本　晟弥	パナソニック	23	右	右	183	80	東洋大姫路	東洋
11	17	P	中岡　大河	JR西日本	23	右	右	177	74	広島商業	富士
12	20	P	長野　健大	JFE西日本	23	右	右	184	86	松商学園	天理
13	11	P	川合　慎磨	JR四国	23	右	右	172	70	高砂南	神戸学院
14	27	C	小鷹　葵	JR東日本東北	25	右	左	175	88	中越	青山学院
15	9	C	有馬　諒	ENEOS	24	右	右	181	88	近江	関西
16	9	C	萩原　義輝	東芝	24	右	左	180	85	東海大相模	流通経済
17	27	C	印出　太一	三菱重工East	23	右	右	185	90	中京大中京	早稲田
18	22	C	松山　翔太	西部ガス	25	右	右	182	85	鵬翔	宮崎産業経営
19	1	IF	石川　楓雅	JR北海道硬式野球クラブ	23	右	右	178	76	駒大苫小牧	大阪体育
20	24	IF	外山　優希	SUBARU	23	右	左	186	96	開星	専修
21	7	IF	海﨑　雄太	JR東日本	24	右	左	178	81	埼玉栄	法政
22	7	IF	仲俣　慎之輔	東京ガス	23	右	右	175	80	岩倉	中央学院
23	10	IF	下山　悠介	東芝	25	右	左	176	82	慶應義塾	慶應義塾
24	10	IF	相羽　寛太	ヤマハ	23	右	右	178	76	静岡	
25	1	IF	山田　健太	日本生命	25	右	右	183	87	大阪桐蔭	立教
26	4	IF	元山　晶斗	四国銀行	23	右	左	177	83	高知商業	大阪経済
27	3	IF	三野原　愛望	KMGホールディングス	26	右	左	182	84	東福岡	日本体育
28	7	OF	浪川　広之	バイタルネット	24	右	左	173	87	創価	城西国際
29	0	OF	大森　廉也	JFE東日本	23	左	左	183	80	市立船橋	駒澤
30	5	OF	野村　工	鷺宮製作所	27	右	右	175	84	日本航空石川	拓殖
31	24	OF	藤澤　涼介	東京ガス	23	右	右	187	87	佐野日大	横浜国立
32	2	OF	石飛　智洋	日産自動車	22	右	左	177	82	出雲西	天理
33	9	OF	柴崎　聖人	王子	23	右	左	173	85	岐阜第一	大阪経済

※年齢はAWB開幕日（2025年11月15日）時点の年齢。

ヤマハ佐藤廉15年ぶり2桁勝利で受賞

2025 社会人野球表彰



Ｈｏｎｄａ鈴鹿・畔上10年目で初受賞

社会人野球を統括する日本野球連盟（ＪＡＢＡ）が12月８日、２０２５年度の社会人野球表彰（毎日新聞社、スポーツニッポン新聞社共催、シチズン時計、ネクストベース協賛）の受賞者を発表し、10日に東京都内で表彰式を開いた。

日本選手権で優勝して最高殊勲選手賞（ＭＶＰ）に輝いたヤマハのエース左腕・佐藤廉が12試合で10勝を挙げ、最多勝利投手賞に輝いた。２桁勝利は15年ぶり。今季からコーチ兼任となったＨｏｎｄａ鈴鹿で10年目の畔上翔は、６本で最多本塁打賞を獲得した。２人はベストナインとのダブル受賞となった。

最優秀防御率賞は、都市対抗大会で21年ぶり優勝の原動力となった王子の新人左腕・樋口新が防御率１・25をマークして受賞。首位打者賞は、日本新薬の浜田竜之祐が打率４割１分３厘で獲得した。

指名打者を含むベストナインは、９人が初受賞した。ヤマハから佐藤投手を含む最多４人を選出。都市対抗で首位打者賞、日本選手権では打撃賞に輝いた相羽寛太遊撃手と新人の土山翔生二塁手が選ばれた。コーチ兼任で13年目の矢幡勇人外野手は、９年ぶり２度目の受賞となった。

王子は10年目の細川勝平捕手、都市対抗で若獅子賞を獲得した新人の柴崎聖人外野手が入った。

表彰は、都市対抗と日本選手権、全日本クラブ選手権、優勝チームに日本選手権出場権が与えられるＪＡＢＡ主要11大会の成績を基に選考した。

2025年度社会人野球表彰で受賞した選手たち



信頼のブランド
Pine®
Matsukan
松勘工業株式会社
埼玉県加須市土手1-4-27
TEL/0480-61-2211 FAX/0480-61-2044

◇２０２５年度・社会人野球ベストナイン◇

位置	氏　名	回数	生年月日 所　属	身長・体重 投・打	出身校	年間成績	選考理由
投手	サトウ　レン 佐藤　廉	初	1998年12月28日 ヤマハ	178cm・80kg 左・左	共栄大	10勝０敗 防御率1.62	83回１／３のイニング数と77奪三振はいずれも最多。日本選手権では先発、中継ぎ、救援とフル回転。全５試合で防御率０.９９と抜群の安定感を誇り、優勝の立役者となった。
捕手	ホソカワ　ショウヘイ 細川　勝平	初	1993年12月24日 王子	176cm・80kg 右・右	中部大	打率3割6分	リード面のみならず、バットでもチームを鼓舞する扇の要。都市対抗決勝では１点を追う八回、気迫あふれるヘッドスライディングによる二塁打で場内を沸かせ、逆転の流れを作った。
一塁手	キクラ　トモキ 木倉　朋輝	初	1999年８月19日 日本生命	180cm・88kg 右・右	亜細亜大	打率3割4分7厘	都市対抗は16打数６安打、日本選手権は19打数８安打と、安定した打率を残し、両大会とも優秀選手に選ばれた。主将の安定した働きが接戦を勝ち抜く原動力となった。
二塁手	ドヤマ　ショウセイ 土山　翔生	初	2002年11月11日 ヤマハ	171cm・75kg 右・右	國學院大	打率3割6分2厘	下位打線からチャンスを作り、大量得点につなげた。新人ながら即戦力として、優勝したJABA東北大会では15打数８安打で首位打者に輝き、日本選手権でも優秀賞に選ばれた。
三塁手	タカハシ　タカノリ 髙橋　隆慶	初	2001年12月21日 JR東日本	186cm・92kg 右・右	中央大	打率4割4厘	新人だった昨年に続き、４番として長打力を発揮。都市対抗では10打数５安打と安定感を誇った。ソフトバンクからドラフト５位指名を受け、来季はプロ野球界での活躍が期待される。
遊撃手	アイバ　カンタ 相羽　寛太	初	2002年９月21日 ヤマハ	178cm・76kg 右・右	静岡高	打率4割9厘	都市対抗は15打数７安打で首位打者に輝き、日本選手権は20打数８安打８打点で打撃賞を獲得した。JABA北海道大会でも最高殊勲選手に選ばれるなど今年度最多の27安打を重ねた。
外野手	ヤハタ　ハヤト 矢幡　勇人	②	1990年５月23日 ヤマハ	174cm・80kg 右・右	専修大	打率4割	35歳にして９年ぶり２回目の受賞となった。日本選手権では決勝で２点適時打を放ち、優勝に導いた。コーチ兼任でリードオフマンを務め、ここ一番で勝負強さを発揮した。
	シバサキ　マサト 柴崎　聖人	初	2002年４月４日 王子	173cm・85kg 右・左	大阪経済大	打率3割2分4厘	走攻守三拍子そろったルーキー。３番に座り、都市対抗では２試合連続本塁打を放って若獅子賞に選ばれた。俊足を飛ばし、重ねた二塁打９本は今年度最多。守りでは強肩ぶりを発揮した。
	マツモト　ショウ 松本　渉	初	2000年７月27日 日本生命	167cm・71kg 右・左	東洋大	打率3割2分	２番打者として俊足、小技を生かしてチャンスメークし、今年度最多の９盗塁、８犠打を記録した。左翼の守備範囲も広く、都市対抗、日本選手権とも優秀選手に選ばれた。
DH	アゼガミ　ショウ 畔上　翔	初	1993年５月20日 Honda鈴鹿	178cm・92kg 左・左	法政大	打率4割9厘	10年目で初受賞。８強入りした日本選手権では１本塁打を含む４安打と存在感を示し。優秀選手に選出。今季からコーチ兼任のベテランがバットでお手本を見せた。

◇２０２５年度・社会人野球個人賞◇

タイトル	氏　名	回数	生年月日 所　属	身長・体重 投・打	出身校	年間成績	選考理由
最多勝利 投手賞	サトウ　レン 佐藤　廉	初	1998年12月28日 ヤマハ	178cm・80kg 左・左	共栄大	10勝０敗 (12試合)	2010年に個人賞制定後、10勝での受賞は史上２人目。JABA３大会、都市対抗、日本選手権の計５大会ですべて勝ち星を挙げ、シーズンを通じて大活躍した。
最優秀 防御率賞	ヒグチ　シン 樋口　新	初	2002年6月28日 王子	178cm・84kg 左・左	愛知工業大	防御率1.25（12試合　50回１／３失点９　自責点７）	切れのある変化球で三振を奪う新人左腕。都市対抗では２回戦の西部ガス戦で10三振完封を成し遂げるなど計４試合で好投。黒獅子旗獲得に大きく貢献した。
首位 打者賞	ハマダリュウノスケ 濵田竜之祐	初	1993年4月24日 日本新薬	186cm・90kg 右・左	専修大	打率４割１分３厘 (12試合49打席 46打数19安打)	地元のJABA京都大会で打率５割４分５厘、８打点と大暴れ。NTT西日本の補強で出場した都市対抗でも全３試合で６安打を放ち、８強進出に貢献した。
最多 本塁打賞	アゼガミ　ショウ 畔上　翔	初	1993年5月20日 Honda鈴鹿	178cm・92kg 左・左	法政大	６本（14試合）	JABA京都大会で３本塁打を記録。最高殊勲選手賞と首位打者賞に輝いたJABAベーブルース杯でも２本塁打を放ち、チームを牽引した。
最多 打点賞	フルテラ　コウキ 古寺　宏輝	初	1998年7月21日 Honda熊本	175cm・85kg 右・右	関東学院大	18打点（14試合）	強力打線の４番を担う。JABA四国大会で９打点を叩き出し、日本選手権の２回戦では鷺宮製作所の竹丸から逆転の２点二塁打。勝負強さが光った。

◇２０２５年度社会人野球表彰（競技者）基準◇

１．対象大会	３．表彰基準	
第96回都市対抗野球大会、第49回全日本クラブ野球選手権大会、第50回社会人野球日本選手権大会、社会人野球日本選手権大会対象ＪＡＢＡ11大会の計14大会	表彰項目	表彰基準の考え方
	①最多勝利投手賞	上記大会に出場したプレーヤーの中、通算最多勝利を挙げた投手 同数の場合は、以下の順で決定する ・総投球イニング数が多い方が上位
	②最優秀防御率賞	上記大会を対象とし、規定投球回数以上で最高の防御率を挙げた投手 **"規定投球回数"の考え方"** 都市対抗本大会・・・・・・・・・・・・・・・・１試合以上登板 都市対抗本大会もしくは日本選手権本大会・・・・計２試合以上登板 上記を前提とし、計４０イニング以上を対象とする
２．表彰項目	③首位打者賞	上記大会を対象とし、規定打数以上で最高打率を挙げたプレーヤー **"規定打数"の考え方：** 試合数の前提を次のとおりとする。 都市対抗本大会・・・・・・・・・・・・・・・・１試合以上出場 都市対抗本大会もしくは日本選手権本大会・・・・計２試合以上出場 上記前提で、合計１２試合以上の出場を前提とする 規定打数：４０打数以上とし、小数点は第３位までとして、第４位を四捨五入とする。同率の場合、以下の順で決定する ・総安打数が多い方が上位　・長打率が高い方が上位　・両者を首位打者とする
・ベストナイン賞 ・最多勝利投手賞 ・最優秀防御率賞 ・首位打者賞 ・最多本塁打賞 ・最多打点賞	④最多本塁打賞	上記対象大会に出場したプレーヤーの中、通算最多本塁打を打ったプレーヤー 同数の場合は、打席数が最少のプレーヤーを上位とする
	⑤最多打点賞	上記対象大会に出場したプレーヤーの中、通算最多打点のプレーヤー 同数の場合は、打席数が最少のプレーヤーを上位とする

◇２０２５年度・社会人野球記録集◇

（同数の場合の並び順は表彰基準による）

投手成績【部門別】

最多勝利

氏名	チーム名	試合	回数	/3	勝	敗	勝率
佐藤　　廉	ヤマハ	12	83	1	10	0	1.000
九谷　　瑠	王子	11	52	0	5	1	0.833
増居　翔太	トヨタ自動車	6	39	1	5	0	1.000
齋藤　礼二	日本生命	12	35	0	5	2	0.714
大江　克哉	NTT 西日本	12	30	0	5	1	0.833
樋口　　新	王子	12	50	1	4	0	1.000
長野　健大	JFE 西日本	9	41	0	4	2	0.667
竹田　和真	明治安田	5	32	0	4	0	1.000
阿部　雄大	ENEOS	4	23	2	4	0	1.000
中島　隼也	鷺宮製作所	8	20	0	4	0	1.000
谷脇　弘起	日本生命	11	58	1	3	4	0.429
井村　勇介	Honda 鈴鹿	8	47	1	3	2	0.600
濵﨑　浩大	NTT 西日本	8	44	2	3	1	0.750
竹丸　和幸	鷺宮製作所	7	39	0	3	2	0.600
梅田健太郎	ヤマハ	11	37	1	3	1	0.750
臼井　　浩	東京ガス	6	37	0	3	0	1.000
髙井　駿丞	NTT 西日本	7	35	1	3	0	1.000
八野田龍司	SUBARU	6	31	1	3	1	0.750
秋山　凌祐	三菱自動車岡崎	8	29	2	3	1	0.750
桜井　俊貴	ミキハウス	7	24	1	3	2	0.600
本間　大暉	三菱重工 East	5	23	2	3	0	1.000
北村　智紀	東芝	4	23	1	3	0	1.000
杉本　壮志	日本製鉄瀬戸内	5	23	1	3	1	0.750
島袋　圭亮	Honda 熊本	5	21	1	3	0	1.000
花城　凪都	Honda 鈴鹿	9	17	1	3	0	1.000
岩本龍之介	JFE 西日本	8	16	0	3	2	0.600
生田目友貴	東海理化	6	13	2	3	0	1.000

最多奪三振

氏名	チーム名	試合	回数	/3	打者	奪三振
佐藤　　廉	ヤマハ	12	83	1	319	77
樋口　　新	王子	12	50	1	208	47
九谷　　瑠	王子	11	52	0	208	45
梅田健太郎	ヤマハ	11	37	1	146	37
濵﨑　浩大	NTT 西日本	8	44	2	176	37
竹丸　和幸	鷺宮製作所	7	39	0	155	36
片山　皓心	Honda	6	32	2	143	34
臼井　　浩	東京ガス	6	37	0	135	33
井村　勇介	Honda 鈴鹿	8	47	1	185	33
片山　雄貴	Honda 熊本	10	31	1	123	32
増居　翔太	トヨタ自動車	6	39	1	153	31
池田　大将	東海理化	9	40	2	167	31
髙井　駿丞	NTT 西日本	7	35	1	143	29
谷脇　弘起	日本生命	11	58	1	249	29
松田　賢大	バイタルネット	4	29	2	114	28
加藤　三範	ENEOS	6	20	2	82	28
中島　隼也	鷺宮製作所	8	20	0	86	27
西　陸和	大和高田クラブ	5	26	1	103	26
岡野　佑大	Honda	8	21	1	83	26
吉田　大喜	東邦ガス	6	21	1	88	24
齋藤　礼二	日本生命	12	35	0	144	24

防御率ランキング

	氏名	チーム名	試合	回数	/3	安打	本	振	球	失	責	防御率
1	樋口　　新	王子	12	50	1	42	0	47	20	9	7	1.252
2	佐藤　　廉	ヤマハ	12	83	1	58	4	77	10	17	15	1.620
3	濵﨑　浩大	NTT 西日本	8	44	2	27	2	37	11	9	9	1.813
4	長野　健大	JFE 西日本	9	41	0	44	2	21	6	11	9	1.976
5	九谷　　瑠	王子	11	52	0	44	2	45	11	14	14	2.423
6	井村　勇介	Honda 鈴鹿	8	47	1	42	4	33	9	16	15	2.852
7	池田　大将	東海理化	9	40	2	39	3	31	6	19	15	3.320
8	谷脇　弘起	日本生命	11	58	1	61	4	29	26	25	23	3.549

打者成績【部門別】

本塁打

氏名	チーム	成績
畔上　翔	Honda 鈴鹿	6
大本　拓海	ヤマハ	4
浪川　広之	バイタルネット	4
大森　廉也	JFE 東日本	4
平野　英丸	JR 東海	4
野村　工	鷺宮製作所	4
森川　凌	ヤマハ	3
相羽　寛太	ヤマハ	3
網谷　圭将	ヤマハ	3
矢幡　勇人	ヤマハ	3
田中　秀政	ミキハウス	3
髙岡　佳将	エイジェック	3
鈴木　薫	Honda	3
長野　勇斗	Honda 鈴鹿	3
藤江　亮太	Honda 鈴鹿	3

三塁打

氏名	チーム	成績
宮崎　大輔	七十七銀行	3

二塁打

氏名	チーム	成績
柴崎　聖人	王子	9
森川　凌	ヤマハ	8
相羽　寛太	ヤマハ	7
髙橋　隆慶	JR 東日本	7
矢幡　勇人	ヤマハ	6
中津　大和	日本生命	6
川上承太郎	東海理化	6
太田　英毅	東芝	6
逢澤　峻介	トヨタ自動車	6

安打

氏名	チーム	成績
相羽　寛太	ヤマハ	27
森川　凌	ヤマハ	26
網谷　圭将	ヤマハ	26
木倉　朋輝	日本生命	25
秋利　雄佑	ヤマハ	24
舟久保秀稔	ヤマハ	24
上西　嵐満	JFE 西日本	24
串畑　勇誠	NTT 西日本	24
松本　渉	日本生命	24
柴崎　聖人	王子	23
永濱　晃汰	ヤマハ	22
中津　大和	日本生命	22

打点

氏名	チーム	成績
古寺　宏輝	Honda 熊本	18
網谷　圭将	ヤマハ	18
畔上　翔	Honda 鈴鹿	17
宝島　史貴	王子	17
篠田　怜汰	JR 東日本	16
野村　工	鷺宮製作所	15
熊田　任洋	トヨタ自動車	15
相羽　寛太	ヤマハ	15
森川　凌	ヤマハ	15
沓澤　侑輝	日本通運	14
大本　拓海	ヤマハ	14
古川　智也	三菱自動車岡崎	14
浪川　広之	バイタルネット	13
西岡　武蔵	三菱重工 West	13
平野　英丸	JR 東海	13

得点

氏名	チーム	成績
舟久保秀稔	ヤマハ	18
網谷　圭将	ヤマハ	16
髙橋　隆慶	JR 東日本	16
串畑　勇誠	NTT 西日本	16
中津　大和	日本生命	15
光本　将吾	東芝	15
熊田　任洋	トヨタ自動車	15
北村　祥治	トヨタ自動車	15
森川　凌	ヤマハ	14
土山　翔生	ヤマハ	14
菅田　大介	JR 東日本	14
菅原　裕太	三菱自動車岡崎	14
木倉　朋輝	日本生命	13
伊藤　智也	明治安田	13
前田　滉平	王子	13

最多出塁

氏名	チーム	成績
永濱　晃汰	ヤマハ	37
秋利　雄佑	ヤマハ	37
舟久保秀稔	ヤマハ	36
網谷　圭将	ヤマハ	36
串畑　勇誠	NTT 西日本	36
木倉　朋輝	日本生命	36
森川　凌	ヤマハ	35
菅原　裕太	三菱自動車岡崎	35
前田　滉平	王子	35
北村　祥治	トヨタ自動車	35
大本　拓海	ヤマハ	34
熊田　任洋	トヨタ自動車	34
中津　大和	日本生命	33
山田　健太	日本生命	32
髙橋　隆慶	JR 東日本	31

最多犠打

氏名	チーム	成績
松本　渉	日本生命	8
江頭　且行	Honda 熊本	6
中川　壱生	王子	6
舟久保秀稔	ヤマハ	5
江崎　大輔	Honda 熊本	5
髙田　幸汰	日本生命	5
三島　有貴	日本生命	5
池上　颯	日本生命	5
遠藤　秀太	日本製鉄瀬戸内	5
大庭　樹也	東芝	5

最多塁打

氏名	チーム	成績
相羽　寛太	ヤマハ	45
森川　凌	ヤマハ	43
網谷　圭将	ヤマハ	41
柴崎　聖人	王子	41
畔上　翔	Honda 鈴鹿	40
髙橋　隆慶	JR 東日本	37
平野　英丸	JR 東海	35
木倉　朋輝	日本生命	35
大本　拓海	ヤマハ	33
矢幡　勇人	ヤマハ	33
中津　大和	日本生命	33
野村　工	鷺宮製作所	33
長野　勇斗	Honda 鈴鹿	32
菅田　大介	JR 東日本	31
宝島　史貴	王子	31

最多盗塁

氏名	チーム	成績
松本　渉	日本生命	9
舟久保秀稔	ヤマハ	7
田浦　由亮	ミキハウス	7
鈴木　薫	Honda	7
河内　愛哉	JFE 西日本	7
串畑　勇誠	NTT 西日本	7
藤原龍之介	SUBARU	7
柴崎　聖人	王子	7
中村　将己	Honda	6
江崎　大輔	Honda 熊本	6
篠田　怜汰	JR 東日本	6
道原　慧	NTT 東日本	6
中津　大和	日本生命	6
横山　陽樹	日本通運	6
添田　真海	日本通運	6
徳本健太朗	トヨタ自動車	6

打率ランキング（表彰基準対象選手上位 10 名）

No	氏名	チーム名	試合	打席	打数	安打	二	三	本	打点	盗塁	三振	四球	死球	犠打	犠飛	打率
1	濵田竜之祐	日本新薬	12	49	46	19	3	0	2	10	0	6	1	1	0	1	.413
2	河内　愛哉	JFE 西日本	14	57	46	19	1	0	1	6	7	4	7	2	2	0	.413
3	相羽　寛太	ヤマハ	20	74	66	27	7	1	3	15	3	5	2	1	3	2	.409
4	畔上　翔	Honda 鈴鹿	14	50	44	18	2	1	6	17	0	7	3	2	0	1	.409
5	髙橋　隆慶	JR 東日本	14	62	52	21	7	0	3	12	1	11	9	1	0	0	.404
6	矢幡　勇人	ヤマハ	12	49	45	18	6	0	3	11	1	10	3	1	0	0	.400
7	三井　健右	大阪ガス	12	50	43	17	4	1	1	11	1	7	6	1	0	0	.395
8	宝島　史貴	王子	14	54	47	18	4	0	3	17	0	6	4	1	0	2	.383
9	東　奏太	三菱自動車岡崎	15	55	47	18	2	0	1	1	3	9	5	2	1	0	.383
10	篠田　怜汰	JR 東日本	13	51	45	17	2	1	1	16	6	9	3	2	1	0	.378
11	串畑　勇誠	NTT 西日本	19	81	65	24	1	1	1	5	7	13	12	0	3	1	.369
12	上西　嵐満	JFE 西日本	17	73	65	24	1	0	0	8	3	9	4	0	1	3	.369
13	菅田　大介	JR 東日本	14	57	49	18	4	0	3	9	4	3	4	4	0	0	.367
14	中島　優仁	鷺宮製作所	14	54	49	18	1	1	0	5	5	5	4	0	1	0	.367
15	野村　工	鷺宮製作所	14	54	44	16	3	1	4	15	4	13	7	2	0	1	.364

■社会人野球ベストナイン一覧

	投手	捕手	一塁手	二塁手	三塁手	遊撃手	外野手			特別賞
第1回（昭和41年）	平松　政次（日本石油）	佐藤　政良（拓銀）	五十嵐晴男（日本石油）	枝松　道輝（日本石油）	今村　忠彦（大昭和製紙）	石山　健一（日本石油）	井上　弘昭（電電近畿）	高畠　導広（日鉱日立）	富永　重善（電電東京）	古田　昌幸（熊谷組）
第2回（42年）	田中　章（日本通運）	広瀬　幸司（日本石油）	川口　輝（サッポロビール）	枝松　道輝（日本石油）	竹之内雅史（日本通運）	鈴木　勝広（拓銀）	加藤　昭（大昭和製紙）	福本　豊（松下電器）	萩原　陸洋（大昭和製紙）	
第3回（43年）	三浦　健二（日本石油）	瀬藤　宣彦（新日鐵八幡）	堀内　嗣郎（河合楽器）	枝松　道輝（日本石油）	川嶋　勝司（日本楽器）	宮地　昭雄（住友金属）	木沢　忠史（日立製作所）	幕田　正力（日本石油）	上垣内　誠（河合楽器）	
第4回（44年）	小弓場　保（日本生命）	佐藤　文夫（電電関東）	秋元　国武（日本石油）	佐野　勝稔（河合楽器）	勝浦　完（サッポロビール）	西田　暢（熊谷組）	幕田　正力（日本石油）	加嶋　和彦（日本生命）	小松　健二（大昭和製紙）	山下　慶徳（河合楽器）
第5回（45年）	谷村　智博（鐘淵化学）	黒田　正宏（本田技研）	小田　義人（大昭和製紙）	田草川伸生（日本生命）	大木　国幹（日本通運）	小玉　孝（新日鐵広畑）	上垣内　誠（河合楽器）	小松　健二（大昭和製紙）	望月　充（日立製作所）	下田　鎮男（松下電器）
第6回（46年）	久玉　清人（丸善石油）	河村健一郎（日本石油）	佐々木恭介（新日鐵広畑）	土佐　秀夫（新日鐵広畑）	河野　弘和（丸善石油）	小玉　孝（新日鐵広畑）	小野寺重之（日立製作所）	山田　智千（日立製作所）	細川　昌俊（西濃運輸）	小野寺重之（日立製作所）
第7回（47年）	新美　敏（日本楽器）	中村　裕二（住友金属）	小田　義人（日産自動車）	鈴木　博昭（三菱自動車川崎）	船見　信幸（日本楽器）	望月　博（日本石油）	内藤　博（日本鋼管）	磯部　史雄（日立製作所）	星山　和久（新日鐵八幡）	高山　秀雄（日本通運）
第8回（48年）	久保田美郎（熊谷組）	須藤　和彦（日産自動車）	宇賀山　徹（日本鋼管）	鈴木　博昭（三菱自動車川崎）	板倉　丈二（日本通運）	幡野　正秋（三協精機）	四至本　博（新日鐵八幡）	工藤　博義（日立製作所）	前川　善裕（日本鋼管）	溝口　修（東芝）
第9回（49年）	荻野　友康（新日鐵八幡）	村上　忠則（大昭和北海道）	高梨　英夫（大昭和北海道）	福崎　克彦（いすゞ自動車）	佐々木幸治（三菱重工広島）	藤村　正美（鐘淵化学）	樋野　和寿（日本鋼管）	岡本　良一（川崎重工）	山本　文博（日本鋼管）	若松　茂樹（三菱重工広島）
第10回（50年）	早川　実（西濃運輸）	村上　忠則（大昭和北海道）	鈴木一比古（三協精機）	佐藤　治夫（鐘淵化学）	藤村　正美（鐘淵化学）	森貞　周治（熊谷組）	前川　善裕（日本鋼管）	磯部　史雄（日本鋼管）	林　龍郎（日本鋼管）	宇山　秀明（住友金属）
第11回（51年）	千藤　和久（拓銀）	竹内　昭文（拓銀）	湯野　清二（日鉱佐賀関）	福崎　克彦（いすゞ自動車）	樋野　和寿（日本鋼管）	川辺　邦好（三菱重工神戸）	前川　善裕（日本鋼管）	小林　貢（神戸製鋼）	長沢　和雄（大丸）	小林　晋哉（神戸製鋼）
第12回（52年）	増岡　義教（三菱重工神戸）	中村　裕二（住友金属）	大村　雅文（神戸製鋼）	原科　政市（電電東京）	岡本　良一（川崎重工）	高代　延博（東芝）	小林　貢（神戸製鋼）	長沢　和雄（大丸）	関　弘巳（日本鋼管福山）	
第13回（53年）	松沼　博久（東京ガス）	小原　寛明（東芝）	後藤　寿喜（東芝府中）	高岡　茂夫（拓銀）	樋野　和寿（日本鋼管）	山本　文博（拓銀）	菊地　恭一（東芝）	梅田隆比克（拓銀）	渡辺　茂（東京ガス）	
第14回（54年）	長谷部　優（松下電器）	大森　光生（三菱重工広島）	佐々木幸治（三菱重工広島）	山本　秀樹（大昭和製紙）	若松　茂樹（三菱重工広島）	森貞　周治（熊谷組）	西村　博巳（住友金属）	内山　仁志（日本楽器）	岩根　正也（熊谷組）	
第15回（55年）	田村　忠義（日本鋼管福山）	尾崎　清士（東芝府中）	武居　邦生（日本楽器）	中屋恵久男（プリンスホテル）	中島　克介（川崎製鉄千葉）	石毛　宏典（プリンスホテル）	岡村　隆則（河合楽器）	佐々木正行（大昭和製紙）	小林　貢（神戸製鋼）	
第16回（56年）	黒紙　義弘（東芝）	村上　忠則（大昭和北海道）	武智　勇治（東芝）	宮崎　剛（東芝）	坂本　照彦（電電関東）	村田　博幸（富士重工業）	菊地　恭一（東芝）	石野　康彰（電電東京）	金森　栄治（プリンスホテル）	
第17回（57年）	鈴木　政明（ヤマハ発動機）	嶋田　宗彦（住友金属）	武居　邦生（日本楽器）	野尻　正博（松下電器）	松隈　憲治（住友金属）	林　裕幸（日本石油）	三好　一幸（住友金属）	中本　龍児（住友金属）	岡田　吉富（日本通運）	
第18回（58年）	川端　順（東芝）	佐竹　政和（日本生命）	武智　勇治（東芝）	宮崎　剛（東芝）	土江　正人（新日鐵広畑）	新木　忠力（東芝）	福本　勝幸（東芝）	筒井　大助（住友金属）	鈴木　栄一（東芝）	
第19回（59年）	高橋　修二（住友金属）	嶋田　宗彦（住友金属）	伊藤由紀夫（日本通運）	正田　耕三（新日鐵広畑）	米田　保伸（日産自動車）	中山　淳（日本楽器）	荒井　幸雄（日本石油）	熊野　輝光（日本楽器）	前川　善裕（日本鋼管）	山中　正竹（住友金属）
第20回（60年）	伊東　昭光（本田技研）	安斉　定男（東芝）	入内島　保（本田技研）	山本　秀樹（本田技研）	花野　巧（日本生命）	広瀬　哲朗（本田技研）	荒井　幸雄（日本石油）	島田　行雄（松下電器）	梁原　修志（東芝）	

安藤　喜春（大昭和北海道）

	投手	捕手	一塁手	二塁手	三塁手	遊撃手	外野手			DH	特別賞
第21回（61年）	岡田 邦彦（日本石油）	中西 親志（ＮＴＴ東（ヤマハ）	新座 良一（ＮＴＴ北海）	小羽 保治（阿部企業）	石川 正之（日本石油）	中葉伸二郎（日本石油）	金久保孝治（日本鋼管）	鈴木 慶裕（日本石油）	清水 隆一（熊谷組）		
第22回（62年）	菊池 総（東芝）	佐藤 正則（東芝）	中島 輝士（プリンスホテル）	小川 博文（プリンスホテル）	辻 慶人（ＮＴＴ東海）	井上 雅晴（ＮＴＴ東（東芝）	松本 安司（三菱名古屋）	中村 和彦（ヤマハ）	雨堤 浩久（熊谷組）		川嶋 勝司（ヤマハ）
第23回（63年）	上原 勝男（ＮＴＴ北陸）	高見 泰範（東芝）	中島 輝士（プリンスホテル）	葛城 弘樹（東芝）	望山 一生（三菱重工横浜）	南淵 時高（ＮＴＴ東（東芝）	鈴木 慶裕（日本石油）	筒井 大助（住友金属）	佐藤 和弘（熊谷組）		
第24回（平成1年）	野茂 英雄（新日鐵堺）	瀬戸山満年（プリンスホテル）	佐藤 雄樹（住友金属）	十河 章浩（日本生命）	石井 浩郎（プリンスホテル）	久慈 照嘉（日本石油）	田辺 晃（プリンスホテル）	佐藤 真一（拓銀）	佐藤 和弘（熊谷組）	中本 浩	
第25回（2年）	吉田 篤史（ヤマハ）	定詰 雅彦（新日鐵広畑）	住吉 義則（プリンスホテル）	山本 秀樹（ヤマハ）	若林 重喜（日本石油）	原井 和也（松下電器）	内藤 雅人（ヤマハ）	五十嵐章人（日本石油）	鶴岡 昌宏（日産自動車）	中本 浩	
第26回（3年）	杉山 賢人（東芝）	高見 泰範（東芝）	丹波 健二（東芝）	葛城 弘樹（東芝）	若林 重喜（日本石油）	竹村 誠（大阪ガス）	小島 啓民（三菱重工長崎）	川畑伸一郎（住友金属）	坂口 裕之（日本石油）	梁原 修志（東芝）	
第27回（4年）	小檜山雅仁（日本石油）	高見 泰範（東芝）	向山 隆康（熊谷組）	大島 公一（日本生命）	若林 重喜（日本石油）	十河 章浩（日本生命）	高林 孝行（日本石油）	内匠 政博（日本生命）	佐藤 友昭（プリンスホテル）	大久保秀昭（日本石油）	西 正文（大阪ガス）
第28回（5年）	黒川 紀章（日本通運）	大久保秀昭（日本石油）	谷口 英功（東芝）	松本 尚樹（住友金属）	若林 重喜（日本石油）	波留 敏夫（熊谷組）	高林 孝行（日本石油）	田中 泰（日本通運）	諸積 兼司（日立製作所）	難波 貴司（日本通運）	
第29回（6年）	豊田 次郎（川崎製鉄千葉）	藤井 省二（川崎製鉄千葉）	近藤 博一（本田技研鈴鹿）	吉竹 正（西濃運輸）	渡辺 等（日産自動車）	仁志 敏久（日本生命）	高林 孝行（日本石油）	中村 大伸（ＮＴＴ東京）	與本 敏弘（本田技研鈴鹿）	松田 訓（日本通運）	
第30回（7年）	高橋 憲幸（日本石油）	大久保秀昭（日本石油）	西郷 泰之（三菱自動車川崎）	桑元 孝雄（三菱自動車川崎）	渡辺 博幸（三菱自動車川崎）	野島 正弘（日本石油）	高林 孝行（日本石油）	谷 佳知（三菱自動車岡崎）	児玉 誠（川崎製鉄千葉）	松中 信彦（新日鐵君津）	
第31回（8年）	川村 丈夫（日本石油）	大久保秀昭（日本石油）	松中 信彦（新日鐵君津）	木下 俊生（日本石油）	若林 重喜（日本石油）	田頭 欣士（三菱自動車水島）	藤井 辰文（三菱重工広島）	坪井 智哉（東芝）	西郷 泰之（三菱自動車川崎）	田口 浩司（本田技研）	杉浦 正則（日本生命）
第32回（9年）	杉浦 正則（日本生命）	九鬼 義典（松下電器）	キーナン・ティミィ（ＮＴＴ関東）	大関 誠（本田技研）	田中 敏弘（日本通運）	川中 基嗣（日産自動車）	金谷 康成（日産自動車）	梶山 義彦（三菱自動車）	天野 義明（日本生命）	大川 広誉（三菱重工）	
第33回（10年）	辻 太一（日本生命）	黒須 隆（日産自動車）	若林 重喜（日石三菱）	阿久根鋼吉（ＮＴＴ関東）	伊藤 祐樹（日産自動車）	鷹野 史寿（日産自動車）	清水 信也（三菱重工名古屋）	田中 泰（日本通運）	大宅 敦司（三菱重工）		
第34回（11年）	須田 喜照（東芝）	九鬼 義典（松下電器）	軽部 洋祐（三菱ふそう川崎）	工藤 賢二（東芝）	平馬 淳（シダックス）	伊藤 祐樹（日産自動車）	梶山 義彦（日産自動車）	斉藤裕次郎（三菱重工横浜）	伊藤 大輔（三菱重工）		
第35回（12年）	須田 喜照（東芝）	野田 浩輔（新日鐵君津）	西郷 泰之（三菱自動車川崎）	工藤 賢二（東芝）	斉藤 秋博（日本通運）	伊藤 祐樹（日産自動車）	沢多 弘也（大阪ガス）	上中 芳仁（松下電器）	天野 義明（日本生命）	杉浦 正則（日本生命）	
第36回（13年）	後藤 隆之（三菱重工長崎）	九鬼 義典（松下電器）	小山 豪（日産自動車）	村田 泰教（三菱自動車岡崎）	野波 尚伸（三菱自動車岡崎）	伊藤 祐樹（日産自動車）	奥村 幸司（河合楽器）	井上 大（三菱重工長崎）	小野田修司（ＪＲ東日本）		
第37回（14年）	丸尾 英司（松下電器）	安田 真範（東芝）	西郷 泰之（三菱ふそう川崎）	長谷高成泰（いすゞ自動車）	原田 能英（ＮＴＴ東日本）	稲田 直人（ＮＫＫ）	青山 真也（ＪＲ東海）	竹間 容祐（日立製作所）	矢口 健一		
第38回（15年）	野間口貴彦（シダックス）	高根澤 力（三菱ふそう川崎）	西郷 泰之（三菱ふそう川崎）	高橋 賢司（ＮＴＴ東（東芝）	玉城 一（ＮＴＴ東（七十七銀行）	伊藤 祐樹（日産自動車）	鈴木 貴光（日産自動車）	吉浦 貴志（日産自動車）	山内 弘一（三菱自動車）	オレステス・キンデラン（シンダックス）	
第39回（16年）	田中 明（ホンダ）	鈴木 賢一（王子製紙（三菱ふそう川崎）	西田 朋生（ＮＴＴ西（松下電器）	工藤 賢二（ＪＲ東日本）	高橋 利信（三菱ふそう川崎）	藤沢 英雄（シダックス）	中村 真人（新日本石油）	林 尚克（東海ＲＥ（ホンダ）	金子 洋平（日本生命）	安田 真範（東芝）	
第40回（17年）	坂本 保（ホンダ）	高根澤 力（三菱ふそう川崎）	梶原 康司（松下電器）	市場 靖人（ＪＲ東日本）	植山 幸亮（三菱ふそう川崎）	梵 英心（日産自動車）	池辺 啓二（シダックス）	開田 成幸（ホンダ）	佐々木正嗣（日本生命）	吉田憲一郎（松下電器）	垣野 多鶴（三菱ふそう川崎）野村 克也（シダックス）

社会人野球表彰

	投手	捕手	一塁手	二塁手	三塁手	遊撃手	外野手			DH	特別賞
第41回（18年）	野田　正義（ＴＤＫ）	松尾　貢史（富士重工業）	佐々木　弥（ＴＤＫ）	和田　貴範（かずさマジック）	岡野　勝俊（ホンダ）	渡辺　直人（三菱ふそう川崎）	佐々木正嗣（日本生命）	下窪　陽介（日本通運）	林　稔幸（富士重工業）	吉浦　貴志（日産自動車）	
第42回（19年）	服部　泰卓（トヨタ自動車）	澤　文昭（ＪＲ東日本）	西郷　泰之（三菱ふそう川崎）	佐野比呂人（トヨタ自動車）	平馬　淳（東芝）	沖津　大和（ＪＲ北海道）	長野　久義（ホンダ）	中尾　敏浩（ＪＲ東日本）	林　稔幸（富士重工業）		
第43回（20年）	田澤　純一（新日本石油ＥＮＥＯＳ）	山岡　剛（新日本石油ＥＮＥＯＳ）	宇多村典明（ＪＲ九州）	柳田　俊幸（新日本石油ＥＮＥＯＳ）	宮澤健太郎（新日本石油ＥＮＥＯＳ）	澤村　幸明（日本通運）	川端　崇義（ＪＲ東日本）	荻野　貴司（トヨタ自動車）	大島　洋平（日本生命）	新田　玄気（パナソニック）	
第44回（21年）	筑川利希也（ホンダ）	佐伯　亮（ホンダ）	田城　智博（三菱重工横浜）	佐野比呂人（トヨタ自動車）	多幡　雄一（ホンダ）	川戸　洋平（ホンダ）	小手川喜常（東芝）	長野　久義（ホンダ）	吉田　承太（日産自動車）	渡部　英紀（三菱重工横浜）	
2010年度（22年）	濱野　雅慎（ＪＲ九州）	中野　滋樹（ＪＲ九州）	的場　寛一（トヨタ自動車）	佐藤　二朗（ヤマハ）	坂田　篤彦（トヨタ自動車）	田中マルシオ敬三（ＪＲ九州）	藤島　琢哉（ＪＲ九州）	北道　貢（ＮＴＴ東日本）	松永　隆太（東芝）	池辺　啓二（ＪＸ－ＥＮＥＯＳ）	
2012年度（24年）	大城　基志（ＪＸ－ＥＮＥＯＳ）	山岡　剛（ＪＸ－ＥＮＥＯＳ）	梶原　康司（パナソニック）	田村　亮（ＪＲ九州）	宮澤健太郎（ＪＸ－ＥＮＥＯＳ）	田中　広輔（ＪＲ東日本）	松本　晃（ＪＲ東日本）	井領　雅貴（ＪＸ－ＥＮＥＯＳ）	松島　圭祐（伯和ビクトリーズ）	池辺　啓二（ＪＸ－ＥＮＥＯＳ）	
2013年度（25年）	吉田　一将（ＪＲ東日本）	小林　誠司（日本生命）	井上　晴哉（日本生命）	西野　真弘（ＪＲ東日本）	多幡　雄一（ホンダ）	田中　健（新日鐵住金かずさマジック）	松本　晃（ＪＸ－ＥＮＥＯＳ）	井領　雅貴（ＪＸ－ＥＮＥＯＳ）	柳　裕太（ＪＸ－ＥＮＥＯＳ）	伊東　亮大（日本製紙石巻）	
2014年度（26年）	佐竹　功年（トヨタ自動車）	戸柱　恭孝（ＮＴＴ西日本）	金丸　恭平（西濃運輸）	小川　信（富士重工業）	伊藤　匠（西濃運輸）	倉本　寿彦（日本新薬）	土井　翔平（大阪ガス）	友永　翔太（日本通運）	小島　宏輝（トヨタ自動車）	阪本　一成（西濃運輸）	
2015年度（27年）	藤井　貴之（日本生命）	古川　昌平（日本生命）	廣本　拓也（日本生命）	峰下　智弘（大阪ガス）	多幡　雄一（ホンダ）	山本　真也（日本生命）	上西　主起（日本生命）	山田　敏貴（ＪＸ－ＥＮＥＯＳ）	市原　一樹（三菱重工広島）	高橋　英嗣（日本生命）	
2016年度（28年）	佐竹　功年（トヨタ自動車）	山内　佑規（東京ガス）	佐藤　二朗（ヤマハ）	田中　俊太（日立製作所）	南　善規（東邦ガス）	源田　壮亮（トヨタ自動車）	矢幡　勇人（ＪＲ東日本）	多木　裕史（トヨタ自動車）	菅野　剛士（日立製作所）	林　稔幸（富士重工業）	
2017年度（29年）	田嶋　大樹（ＪＲ東日本）	山内　佑規（東京ガス）	喜納　淳弥（ＮＴＴ東日本）	法兼　駿（パナソニック）	北川　利生（日本通運）	福田　周平（ＮＴＴ東日本）	神里　和毅（日本生命）	近本　光司（大阪ガス）	伊藤　亮太（ＮＴＴ東日本）	関本憲太郎（日本通運）	
2018年度（30年）	藤井　貴之（日本生命）	辻野　雄大（ホンダ）	岡崎　啓介（日立製作所）	原田　拓実（日本生命）	森下　翔平（日立製作所）	東條　航（ＪＲ東日本）	那賀　裕司（三菱重工神戸・高砂）	今川　優馬（ＪＦＥ東日本）	三木　大知（ＪＦＥ西日本）	片山　勢三（パナソニック）	
2019年度（令和1年）	須田　幸太（ＪＦＥ東日本）	片葺　翔太（日本製鉄鹿島）	斉掛　祥和（トヨタ自動車）	峯本　匠（ＪＦＥ東日本）	原田　拓実（日本生命）	諸見里　匠（日本通運）	古川　昂樹（大阪ガス）	向山　基生（ＮＴＴ東日本）	茶谷　良太（鷺宮製作所）	内藤　大樹（ＪＦＥ東日本）	
2021年度（令和3年）	河野　佳（大阪ガス）	須田　凌平（ミキサー）	久木田雄介（三菱重工East）	峰下　智弘（大阪ガス）	吉田　潤（東芝）	中川　智裕（セガサミー）	大川　慶次郎（大阪ガス）	末包　昇大（ＮＴＴ東日本）	小柳　卓也（三菱重工East）	三井　健右（大阪ガス）	
2022年度（令和4年）	柏原　史陽（ＥＮＥＯＳ）	柏木　秀文（ＥＮＥＯＳ）	地引　雄貴（東京ガス）	佐藤　勇基（トヨタ自動車）	川口　凌（ＥＮＥＯＳ）	中村　迅（ＮＴＴ東日本）	内山　京祐（ＮＴＴ東日本）	度会　隆輝（ＥＮＥＯＳ）	多木　裕史（トヨタ自動車）	山崎　錬（ＥＮＥＯＳ）	侍ジャパンU-23日本代表
2023年度（令和5年）	嘉陽宗一郎（トヨタ自動車）	城野　達哉（西濃運輸）	丸山　壮史（ＥＮＥＯＳ）	石井　元（ホンダ熊本）	北村　祥治（トヨタ自動車）	北野　貴昭（西濃運輸）	網谷　圭将（ホンダ熊本）	山本　卓弥（ホンダ熊本）	清水　聖也（大阪ガス）	三井　健右（大阪ガス）	侍ジャパンU-23日本代表
2024年度（令和6年）	本間　大暉（三菱重工East）	対馬　和樹（三菱重工East）	山中　稜真（三菱重工日本）	佐藤　勇基（トヨタ自動車）	野崎　大地（西濃運輸）	和田　佳大（トヨタ自動車）	吉岡　郁哉（王子）	逢澤　峻介（トヨタ自動車）	網谷　圭将（ヤマハ）	下山　悠介（東芝）	侍ジャパンU-23日本代表
2025年度（令和7年）	佐藤　廉（ＪＲ東日本）	細川　勝平（王子）	木倉　朋輝（日本生命）	土山　翔生（ヤマハ）	髙橋　隆慶（ＪＲ東日本）	相羽　寛太（ヤマハ）	柴崎　聖人（王子）	矢幡　勇人（ヤマハ）	松本　渉（日本生命）	畔上　翔（Ｈｏｎｄａ鈴鹿）	

※2020年度は新型コロナウイルス感染拡大のため表彰なし
※2011年度は東日本大震災のため表彰なし

■社会人野球個人賞表一覧

最多打点賞	最多本塁打賞	首位打者賞	最優秀防御率	最多勝利投手賞	
北道貢 （NTT東日本） 17打点	該当者なし	落合成紀 （ＪＦＥ東日本） 打率４割４分２厘	藤田卓史 （東芝） 防御率0.７３	濱野雅慎 （ＪＲ九州） 10勝	2010
梶原康司 （パナソニック） 25打点	該当者なし	川戸洋平 （Ｈｏｎｄａ） 打率４割１分３厘	三橋尚文 （ＪＦＥ東日本） 防御率0.45	吉田一将 （ＪＲ東日本） ８勝	2012
井上晴哉 （日本生命） 25打点	該当者なし	高橋泰文 （ＪＸ- ＥＮＥＯＳ） 打率４割７厘	石川歩 （東京ガス） 防御率0.50	吉田一将 （ＪＲ東日本） ７勝	2013
松本晃 （ＪＲ東日本） 18打点	該当者なし	橋本駿介 （ＪＦＥ西日本） 打率４割４分２厘	佐竹功年 （トヨタ自動車） 防御率0.64	佐竹功年 （トヨタ自動車） ７勝	2014
高橋英嗣 （日本生命） 18打点	該当者なし	山田敏貴 （ＪＸ-ＥＮＥＯＳ） 打率４割４分２厘	浜崎浩大 （ＮＴＴ西日本） 防御率0.40	石橋良太 （Ｈｏｎｄａ） ７勝	2015
関本憲太郎 （日本通運） 17打点	該当者なし	東向誠 （ＪＲ九州） 打率４割５分７厘	佐竹功年 （トヨタ自動車） 防御率0.81	佐竹功年 （トヨタ自動車） ８勝	2016
関本憲太郎 （日本通運） 20打点	該当者なし	高本泰裕 （ＮＴＴ西日本） 打率４割１分９厘	福島由登 （Ｈｏｎｄａ） 防御率0.79	臼井浩 （東京ガス） ６勝	2017
岡崎啓介 （日立製作所） 20打点	岡崎啓介 （日立製作所） ６本	辻野雄大 （Ｈｏｎｄａ） 打率４割６分	大竹飛鳥 （ＮＴＴ東日本） 防御率0.44	勝野昌慶 （三菱重工名古屋） ５勝	2018
沓掛祥和 （トヨタ自動車） 20打点	沓掛祥和 （トヨタ自動車） ６本	廣本拓也 （日本生命） 打率４割３分４厘	岡野裕一郎 （東芝） 防御率0.87	須田幸太 （ＪＦＥ東日本） ７勝	2019
向山基生 （ＮＴＴ東日本） 20打点	向山基生 （ＮＴＴ東日本） ６本	久木田雄介 （三菱重工Ｅａｓｔ） 打率４割４分４厘	河野佳 （大阪ガス） 防御率0.21	河野佳 （大阪ガス） ６勝	2021
度会隆輝 （ＥＮＥＯＳ） 21打点	度会隆輝 （ＥＮＥＯＳ） ７本	吉岡郁哉 （王子） 打率４割７分１厘	柏原史陽 （ＥＮＥＯＳ） 防御率0.74	片山雄貴 （Ｈｏｎｄａ熊本） ６勝	2022
山本卓弥 （Ｈｏｎｄａ熊本） 22打点	城野達哉 （西濃運輸） ６本	三井健右 （大阪ガス） 打率４割８分９厘	與座健人 （パナソニック） 防御率1.33	片山雄貴 （Ｈｏｎｄａ熊本） ６勝	2023
逢澤峻介 （トヨタ自動車） 21打点	村上裕一郎 （ＥＮＥＯＳ） ５本	吉岡郁哉 （王子） 打率４割８分１厘	本間大暉 （三菱重工Ｅａｓｔ） 防御率1.04	東野龍二 （Ｈｏｎｄａ） ６勝	2024
古寺宏輝 （Ｈｏｎｄａ熊本） 18打点	畔上翔 （Ｈｏｎｄａ鈴鹿） ６本	濵田竜之祐 （日本新薬） 打率４割１分３厘	樋口新 （王子） 防御率1.25	佐藤廉 （ヤマハ） 10勝	2025

2025年、社会人野球を振り返る

都市対抗は王子、日本選手権はヤマハ、まさに「東海勢の年」

「打倒東海」。そんな言葉を耳にするようになった2025年は、まさに「東海勢の年」だった。春先からの主要JABA11大会のうち6大会を制すると、例年より1カ月ほど開幕が遅かった都市対抗野球では、4強のうち3チームが東海勢となった。そんな中、決勝は王子が三菱自動車岡崎に競り勝ち、21年ぶり2回目の頂点に立った。

優勝の原動力の一つとなったのは、クラブチーム「矢場とんブースターズ」から加入した右腕・九谷瑠投手だ。最速150㌔を超える切れのある速球に多彩な変化球を操り、先発、救援とフル回転でチームを支えた。そのスタミナはクラブチーム時代にみそカツ店のホールスタッフとして働きながら、プロを目指して深夜までトレーニングに励んで培われた。九谷投手と2本柱を形成した新人左腕・樋口新投手の存在や、5試合で失策1だった堅守も光った。主将の細川勝平捕手ら勝負強い打者もそろい、投打がかみ合った。


都市対抗優勝に貢献した王子の九谷

初優勝まであと一歩に迫った三菱自動車岡崎は、5試合でわずか5失点、防御率は唯一0点台で、秋山翔投手と秋山凌祐投手を左右二枚看板とした投手陣の安定感が際立った。

秋の日本選手権は、出場32チームのうち東海勢が約3分の1に当たる10チームも占める構図に。頂点に立ったのは、シーズンを通じて安定した強さを見せてきたヤマハだった。準決勝で同点2ランを放つなど打撃賞に輝いた相羽寛太選手を中心に、強力打線が力を発揮。大黒柱に成長した佐藤廉投手が決勝までの全5試合に登板し、圧倒的な安定感でチームを勝利に導いた。

また、1回戦ではHonda鈴鹿の7年目右腕・井村勇介投手が、JR西日本戦で史上2人目となる完全試合を達成した。テンポ良くストライクゾーンに投げ込み、どんどんアウトを奪っていった。

東海勢が席巻する中、近畿の日本生命が都市対抗で4強、日本選手権で準優勝と、「西の名門」の復権を印象づけた。

マツゲン箕島が史上5チーム目の連覇

愛媛県で開催された全日本クラブ選手権は、マツゲン箕島（和歌山）が史上5チーム目の連覇を果たした。MVPとなった松村亮汰投手や奥田貫太投手など、力のある投手がそろい、日本選手権でも強豪の東京ガスを相手に粘り強く好ゲームを繰り広げた。

15年の休部期間を経て活動を再開した日産自動車も輝きを見せた1年だった。16年ぶりの都市対抗出場を目指した西関東2次予選では、準決勝で劇的な満塁弾で一時4点差を追いつくなど、スタンドの社員やファンを大いに沸かせた。出場には届かなかったが、2人が補強選手として東京ドームの舞台に立った。


日本選手権で打撃賞に輝いたヤマハの相羽

アジア大会、32年ぶり頂点目指す

一方で、年末には名門・パナソニックの2026年限りでの休部が発表された。一時は減少の一途をたどっていた企業チームの数は回復傾向にあるものの、社会人野球の存在意義や魅力を常に問い直しながら、企業内外に発信し続ける必要があると改めて感じた。

2026年は秋にはアジア大会が愛知で開催される。社会人日本代表は32年ぶりの金メダルを目指す。川口朋保監督がどんなメンバーを選出するのか注目だ。

（毎日新聞社・円谷美晶）



「東海強し」の1年 ルーキーが躍動

JABAアスリート委員会委員長　坂口裕之

投手力光った王子が都市対抗制覇

２０２５年も「東海強し」の1年となりました。JABA主要11大会のうち半数以上の6大会を東海勢が制して迎えた都市対抗でも、勢いそのままベスト4のうち3チームを東海勢が占め、決勝も王子と三菱自動車岡崎の東海対決となりました。それぞれ東海地区では第6代表、第4代表と、下位のチームが本大会で勝ち上がりました。

都市対抗の開催時期が例年に比べて1カ月以上遅く、どのチームも準備が整い、接戦がとても多かった印象を受けました。その中でも決勝に進んだ両チームは投手陣の調整が非常にうまくいったのではないでしょうか。王子は樋口新、九谷瑠の両投手、三菱自動車岡崎は秋山翔、秋山凌祐の両投手を中心に、投手力の高さが際立っていました。

「打のヤマハ」が日本選手権優勝

日本選手権は、強打のヤマハと、粘りの日本生命、チームの特長を出して残るべくして残った両チームの決勝となりました。いずれも都市対抗では準決勝で敗退しており、その悔しさをバネに修正してきました。

日本生命は都市対抗で投手力を示していましたが、打撃面も強化していました。その日本生命を抑えて優勝したヤマハは打力に加えて、佐藤廉投手の「絶対に勝ちたい」との強い思いが伝わってきました。先発、中継ぎ、抑えと、全5試合にフル回転の働きでした。

社会人野球のレベルの高い投手陣をどう打ち崩すか。各チームは機器やアナリストを置くなどして、スイングスピードや打球角度など科学データも駆使して取り組んできました。今回のヤマハのような「打のチーム」の誕生を見ると、それら科学的アプローチの努力も実を結んできていると感じます。

ベストナイン、東海勢最多7人

ここ数年、東海勢の活躍が顕著ですが、JABA主要大会も2大会を制したヤマハを中心に２０２５年もその強さは際立っていました。その大会結果を反映し、年間表彰のベストナインも10人中7人が東海地区からの選出となりました。

若い投手陣をしっかりリードした王子の細川勝平捕手ら魅力ある選手が選ばれました。Ｈｏｎｄａ鈴鹿の畔上翔選手の10年目での初受賞は毎年成長を続けてきたことの証左です。13年目のヤマハの矢幡勇人選手も9年ぶりの受賞で衰えのないところを見せました。

一方、王子の柴崎聖人選手、ヤマハの土山翔生選手はルーキーイヤーから活躍しての受賞となりました。新人がバシッとピースにはまったチームが上位に来ました。柴崎選手は3番打者として自分の役割を果たしました。4番の吉岡郁哉、5番の神鳥猛流両選手と王子のクリーンアップがしっかりそろいました。土山選手と相羽寛太選手の若い二遊間がヤマハに勢いを与えました。年間最優秀防御率賞に輝いた王子のルーキー、樋口投手もしかりです。

世代交代の関東は26年期待

２０２４年のベストナインは近畿地区からの選出はありませんでしたが、２０２５年は日本生命から2人が選ばれました。50回の節目を迎えた地元大阪での日本選手権で決勝に進出して進化を示しました。

関東地区のチームは世代交代の時期を迎え、新たなチーム作りに取り組んでいる印象を受けました。新監督で臨んだチームも多く、全国で勝つことの難しさを肌で感じた1年になったと思います。ただ接戦が続いた都市対抗本大会がそうだったように、全国的にあまり大きなレベルの差はなく、２０２６年を楽しみにしています。休部から16年ぶりに活動再開した日産自動車も都市対抗の西関東予選で好ゲームを展開しました。全国優勝の実績を持つチームの伝統復活をうれしく思いました。

マツゲン箕島「常勝チーム」に

全日本クラブ選手権はマツゲン箕島硬式野球部が2連覇しました。日本選手権では東京ガスと互角に渡り合いました。限られた時間の中で練習を積み重ね、体つきを見ても、よく鍛え上げられています。常勝チームの誕生は、ほかのクラブの刺激となります。

都市対抗で橋戸賞に輝いた王子の九谷投手がクラブチームの「矢場とんブースターズ」出身であることが示すように、クラブのレベルは年々上がっています。２０２６年は節目の50回大会で準決勝、決勝の舞台は東京ドームです。さらなる盛り上がりに期待しています。

アジア競技大会に向け「成長」

愛知での自国開催となるアジア競技大会は２０２６年9月に開幕が迫っています。4年かけて社会人日本代表選手たちを選考し、メンバーを入れ替えながら国際大会も重ねてきました。選手選考が悩ましいぐらい選手たちは成長してくれています。

韓国、台湾、加えて侮れない中国がライバルとなります。韓国、台湾はプロの選手たちも選考してくると思います。１５０㌔を超える速球を持つ投手たち相手に、どう点を取っていくのか。金メダルを獲得できるように、サポートしていきたいと思います。

2025地区連盟だより

北海道地区連盟

◆闘いのあと2025

都市対抗野球大会は1927年（昭和2年）に第1回が東京・神宮球場で開かれた。職業野球が動き出す以前のトップクラスの力と技が闘いを繰り広げた。現代に至るアマチュア野球大会の中では、大正時代に始まり107回目まで進んだ夏の甲子園「全国高校野球選手権大会」（＝2025年現在、当初は全国中等学校野球大会）に次ぐ歴史を持つ。都市を代表するチームが争う発想の、米国で行われていた大会方式を参考に考え出された。2029年に100回目を迎えるが、1世紀の間には、中国大陸で戦火の拡大や太平洋戦争の激化によって合計4回の開催中止を余儀なくされた。戦後の1946年に復活。以後、一度も途切れることなく、筋書きのないドラマを毎年描いている。

北海道代表はすべての大会に一度も欠けることなく代表を送り込んでいる数少ない都道府県のひとつだ。推薦によって出場チームを決めた第1回大会では、推薦された「函館太洋倶楽部」のメンバーの多くが、市内で発生した大火の後処理作業で出場を辞退。急きょ出場した「札幌ワゴナー」が、ベスト4に進んだ。

戦後まもなく始まった補強制度で「最大10人」の〝補強枠〟を使って道内の各チームから10人を補強して快進撃した「札幌スターズ」。5強時代には〝北の暴れん坊〟大昭和北海道が都市対抗優勝1回準優勝2回、一度の出場で準優勝の成績を残した札幌トヨペットの名前もある。全国に強烈な印象を与えた道勢だが、21世紀になってからは本州勢に押されっぱなしで苦しい闘いが続いている。

1代表に戻ってからの勝利数は伸び悩み状態である。昨年は北海道ガス硬式野球部が悲願の道勢通算100勝を記録したものの、今年代表のJR北海道硬式野球クラブは初戦敗退。最近の10年間に限っていえば日本選手権、クラブ選手権でも道勢の初戦敗退が続いている。

今季の第96回都市対抗野球決勝リーグ（2次予選）の顔ぶれは、常連の日本製鉄室蘭シャークス、航空自衛隊千歳が敗退してFeatherHome HORNETS、WEEDしらおいのクラブ勢2チームが進出。北海道ガス硬式野球部、JR北海道硬式野球クラブとの代表権争いになった。リーグ戦は7月4日から3日間、札幌円山球場が舞台。熱い闘いはJR北クがベテランと若い選手の力がかみ合って頭一つ抜け出して北ガスの4連覇を阻止。5年ぶりの代表復帰を果たした。クラブ勢2チームは、初戦で企業チームには互角に戦いができても、連戦となる2、3戦目は苦しい展開になり、代表争いから脱落した。

JR北クの勝因は、10年目の左腕夏井のコントロールされたピッチングと南、南木ら若手の活躍だ。山本を中心とするベテランも、気持ちではライバルチームに負けていなかった。紙一重の差だった。北ガスは都市対抗予選当時、投打のリーダーが見当たらず、まとまりを欠いているように感じた。昨年まで得点の欲しい場面で目立っていた中心打者・寺田が今年絶不調。投手陣はエース格の大城の調子の波が大きく、軸となりえなかった。

決勝リーグの試合では各チームとも制球に苦しむ投手が目立った。投球数が増えると、守備についている野手は守りのリズムを取りにくい。悪天候や風の影響も重なると、ミスに繋がる。乱打戦や試合を長引かせる原因でもある。

野手にとって不満やイライラが集中力を欠如させ、次のプレーでミスを引き起こす原因のひとつと聞いたことがある。投手のコントロールが試合展開に影響するという結論にたどり着いた。「四死球が失点に結びつく」というのも理由だ。連投が難しい投手もいてチームスタッフは選手起用、特に投手の登板に苦労していたようだ。3日間とはいえスタミナ、技術、気力、体力ともに充実していなければ勝ち抜けないことを知った。

たとえば今年の決勝リーグ北ガス―JR北ク戦。JR北クの夏井は9イニング完投勝利し四死球は1。同じイニングの相手投手は4人で四死球は合計7個。自らのリズムでピッチングを続けた夏井が勝つのは当然の結果。日本選手権のJR北ク―室蘭シャークス戦だともっとはっきりする。JRは夏井が完投したが、与四死球1。非常にテンポよく投げていた。夏井は「入社当時からコントロールがよかったが4つのコーナーを狙った投球が回転の影響で真ん中に集まる確率が高かった」といい、修正できてからはピッチングに幅ができたという。

◇

今年4月、札幌市内にモエレ沼公園野球場がオープンしたが、球場の使用を巡る争奪戦が今シーズンも繰り広げられた。

新しい球場の運用が始まる一方で、大学連盟や高野連の春の道大会予選や春季リーグ戦は例年通りの日程。しかし、オープンから40年余りが経過し、手直しが必要になった札幌麻生球場（札幌市北区）の改修工事が始まり、昨年に比べると使うことができる球場の絶対数が減っている状態での開幕。不足分は札幌近郊の栗山、江別などに求めざるを得ない。今季の都市対抗1次予選、クラブ選手権予選は、例年に比べて波乱の展開。札幌市内の球場新設余波のひとつとは思わないが、球場の絶対数が不足しているのは事実。JABA関連の大会は栗山と江別・野幌に集中した。都市対抗本大会の日程が前年より1カ月後ろ倒しになったこともあり、変則的な日程の割り当てとなった。栗山、野幌で全日本クラブ選手権予選、都市対抗1次予選が行われるという日程だった。

決勝リーグから約1週間。ベスト4が出そろったあと、日程が先送りされていた全日本クラブ野球選手権道予選の準決勝と決勝が7月12日、岩見沢市野球場で行われた。WEEDしらおい―小樽野球協会、ウイン北広島―トッキュウブルーローズが準決勝を戦い、勝者が引き続いて決勝を戦った。結果はトッキュウが6点差を逆転して初優勝。練習と勝利への思いが生み出したといえる。

2026年は〝道勢の反攻〟のシーズンとしてほしい。全国大会での敗戦を分析して次のシーズンに臨むことで道勢のレベルアップに結実するはずだ。

2025年度ベストナインを表彰

◇2025年度ベストナイン

▽投手
夏井　康吉（JR北海道硬式野球クラブ）

▽捕手
村北　翔哉（JR北海道硬式野球クラブ）

▽一塁手
南木　寿也（JR北海道硬式野球クラブ）

▽二塁手
南　泰成（JR北海道硬式野球クラブ）

▽三塁手
俵藤　夏冴（JR北海道硬式野球クラブ）

▽遊撃手
武井　伽耶飛（北海道ガス硬式野球部）

▽外野手
大槻　龍城（JR北海道硬式野球クラブ）
長谷川　寛（北海道ガス硬式野球部）
菱田　万尋（北海道ガス硬式野球部）

▽指名打者
寺田　和史（北海道ガス硬式野球部）

▽優秀チーム賞
JR北海道クラブ

▽優秀監督賞
工藤　賢二（北海道ガス硬式野球部）

▽新人賞
【高卒部門】
門田　昊弥（ウイン北広島）
【大卒部門】
北嶋　洸太（北海道ガス硬式野球部）
南　泰成（JR北海道硬式野球クラブ）

▽敢闘賞
太田　裕也（WEEDしらおい）

▽特別賞
トッキュウブルーローズ

▽クラブチーム努力賞
【投手部門】
宮脇　弘一（WEEDしらおい）
【野手部門】
小山　力也（WEEDしらおい）
川瀬　啓太（WEEDしらおい）

▽功績賞
福山　雄（JR北海道硬式野球クラブ）
今野　晃将（小樽野球協会）
末本　雅之（札幌倶楽部）
廣濱　大輔（日本製鉄室蘭シャークス）



2025年度ベストナイン・連盟表彰式

北ガス3年ぶり4回目の優勝

◇第77回JABA北海道結成記念大会（7月20～21日　モエレ沼公園野球場）

2025年4月にオープンした夜間照明つき屋外グラウンド「札幌モエレ沼公園野球場」を会場として使用した。1回戦3試合は昨年と同じ7イニングス制、2日目の準決勝、決勝も7イニングス制を採用した。決勝は北海道ガス硬式野球部が3年ぶり4回目の優勝。

▽1回戦
ウイン北広島　000 000 0 — 0
JR北海道硬式野球クラブ　000 000 1 — 1
（ウ）河西、清藤、岩田、門田―笹原、拓己（江別ブルーインズ）
（J）伊藤、巻、ユエン、中川―今西

▽同
日本製鉄室蘭シャークス　021 06 9
FeatherHomeHORNETS　000 00 0
（五回コールド）
（日）松田―小原、佐々木
（F）伊藤、山岸、佐藤、徳橋―中島

▽本塁打　船曳2、大石（日）

▽同
WEEDしらおい　020 010 3
航空自衛隊千歳　022 411 10
（六回コールド）

（W）加川、北川、山崎、岡本―吉田、安岡
（航）杉山、仙本―筏、石川

▽準決勝
JR北海道硬式野球クラブ
000 30 3
313 03 10
日本製鉄室蘭シャークス
（五回コールド）
（J）山田、中川、ユエン―今西
（日）石澤―佐々木

▽同
航空自衛隊千歳
010 002 3
000 055 10
北海道ガス硬式野球部
（六回コールド）
（航）佐藤、田代、仙本―石川、筏
（北）村上―田中

オール江刺が初優勝

◇第10回JABA北海道・東北地区クラブ交流大会（10月11～12日　北海道・函館オーシャンスタジアム）

北海道・東北地区クラブ交流大会は第10回で最後となった。開催直前に1チーム辞退があり、北海道3、東北3チームの計6チームが7イニングス制で対戦。決勝は東北勢と北海道勢の対決となり、オール江刺（岩手県奥州市）がTRANSYSを破って初優勝した。

（北）（北）（北）（北）（北）

▽1回戦
オール江刺
102 000 0 3
000 000 0 0
ウイン北広島
（オ）新沼―及川
（ウ）清藤、門田―布施

▽同
TRANSYS
011 032 0 7
000 001 0 1
弘前アレッズ
（T）原田―大石
（弘）塩倉、小田島、小山内

▽決勝
北海道ガス硬式野球部
010 100 1 3
100 000 0 1
日本製鉄室蘭シャークス
（北）長谷―東海林
（日）山―大石広

（北）…表彰選手…（北）

◇最高殊勲選手賞
長谷隼兵（北海道ガス硬式野球部）

◇敢闘選手賞
船曳烈士（日本製鉄室蘭シャークス）

◇首位打者賞
松井惇（日本製鉄室蘭シャークス）＝11打席9打数5安打、打率5割5分6厘



第10回北海道・東北地区クラブ交流大会優勝・オール江刺

―西谷

▽準決勝
オール江刺
000 501 0 6
000 000 0 0
函館太洋倶楽部
（オ）関―大内
（函）二瓶―江口

▽同
TRANSYS
100 000 06 7
000 000 11 2
大崎トリプルクラウン
（延長八回、八回からタイブレーク）
（T）小林―松本
（大）渡辺、對馬―坂本

▽決勝
TRANSYS
000 000 0 0
100 004 × 5
オール江刺
（T）河合、小林―松本
（オ）新沼―大内

（T）…表彰選手…（T）

◇敢闘賞
小林　駿選手（TRANSYS）

◇首位打者賞
千葉　晴也選手（オール江刺）＝12打席11打数7安打、打率6割3分6厘



準優勝・TRANSYS

5―5で引き分け

◇2025プロ・アマ交流戦（8月15日）

北海道社会人・大学選抜と北海道日本ハムファイターズ（ファーム）によるプロ・アマ交流戦がエスコンフィールド北海道で開催。北海道アマ選抜は一回に1点先制するも二回に適時打やミスで4点を奪われ追う展開。四回に1点を返し、七回に無死一、三塁から航空自衛隊千歳の岡田昂大が左中間に3ランを放ち逆転。同回裏に押し出しで追いつかれ、最後は引き分けた。

北海道社会人・大学選抜	1	0	0	3	0	0	1	0	5
北海道日本ハムファイターズ（ファーム）	0	4	0	0	0	0	1	0	5

（ア）村上、石澤、松田、内沢、木村、工藤、高谷―村北、南木

（F）藤田琉、松岡、清水大、福田、川勝、堀、澁谷、北浦―進藤、梅林

▽本塁打　岡田（ア）

TRANSYSは5大会ぶり5回目の優勝

◇第11回北海道地区クラブ選手権大会（9月6～15日　栗山町民球場、野幌総合運動公園公式野球場）

※1、2回戦7イニングス制。準決勝と決勝9イニングス制。

同時期に開催される第49回全日本クラブ野球選手権大会の道代表トッキュウブルーローズを除く15チームが出場。TRANSYSが5大会ぶり5回目の優勝を果たした。

東北海道サンライズ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小樽野球協会	1	0	2	0	4	×			7

（六回コールド）

（東）堀籠―林

（小）藤山―緒方

帯広倶楽部VICROSS	0	0	0	0	0	1	0	0	1
旭川グレート・ベアーズ	0	1	2	0	0	1	×		4

（帯）竹本、杉本―武藤

（旭）高橋、松木―齋藤

江別ブルーインズ	0	1	0	0	0	0	0	0	1
FeatherHomeRNETS	0	0	2	0	2	2	×		6

（江）平野、登嶋、髙橋、高口、尾山―小山

（F）小野木、宮澤―中村

▽本塁打　大和（F）

札幌倶楽部	0	0	0	4	0	0	0	0	4
オール苫小牧	3	1	0	1	0	0	×		5

（札）濱田、野口―鈴木

（オ）井樫、浦崎―上野

ウイン北広島	0	0	0	2	3	0	5		
北海ブルーウェーブ	1	0	0	0	0	0	0		1

（ウ）清藤、門田―布施、笹原

（北）帰山、佐野―大原

▽本塁打　小川（ウ）

伊達ウォリアーズ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
TRANSYS	1	0	0	0	1	2	×		4

（伊）中村―森岡

（T）小林―大石、松本

ブレーブくしろ	0	0	0	0	3	0	1	4	
函館太洋倶楽部	0	0	0	0	0	2	0	2	

（ブ）山田、大洲―内田

（函）甲田―江口

▽2回戦

ブレーブくしろ	0	0	0	0	0	0	0	0	
TRANSYS（五回コールド）	2	7	4	4	×			17	

（ブ）山田、大洲、佐々木―内田

（T）原田―大石

ウイン北広島	4	4	0	0	0	0	0	8	
オール苫小牧（五回コールド）	1	0	0	0	0	0	0	1	

（ウ）葛西、坂本、岩田、出崎―布施、西川

（オ）片野、浦崎―上野

小樽野球協会	0	0	2	0	2	0	0	4	
WEEDしらおい	0	0	0	0	0	0	2	0	

（小）藤山―緒方

（W）宮脇、竹内―小山凪

旭川グレート・ベアーズ	0	0	0	0	0	0	0	0	
FeatherHomeHORNETS	0	0	0	0	0	1	0	1	

（旭）川邊、松木―齋藤

（F）宮澤、影山―中村

▽準決勝

FeatherHomeHORNETS	0	0	2	2	4	1	0	6	0
小樽野球協会	8	1	0	0	0	1	1	0	11



北海道地区クラブ選手権決勝を制して喜ぶTRANSYSナイン

（F）小野木、佐藤、櫻田、影山―中村
（小）清水、奥山、大坂、柴田―緒方

TRANSYS	1	1	3	0	0	0	0	0	2	7
ウイン北広島	0	0	1	1	0	1	0	0	0	3

▽本塁打　笹原（ウ）
▽決勝
（T）小林―大石
（ウ）門田、清藤―布施

TRANSYS	0	0	0	0	2	0	0	0	2
FeatherHoneHORNETS	0	0	0	0	0	1	0	0	1

（T）河合、藤原、原田―大石（F）小野木、櫻田―中村

㊧…表彰選手…㊨

◇最高殊勲選手賞
小林　駿選手（TRANSYS）
◇敢闘賞
中村　志輝選手（Feather Home HORNETS）
◇首位打者賞
堀田　惇生選手（ウイン北広島）＝11打席9打数6安打、打率6割6分7厘

東北地区連盟

野球ファン拡大の取り組み

２０２５年度の東北地区連盟は野球ファンの拡大を図る目的としてたくさんの取り組みにチャレンジしました。一つ目は社会人野球のメイン大会である都市対抗野球第二次予選東北大会の日程を大胆に変更しました。これまで平日を含む7日間連続で開催していた大会を、２週にわたる週末土日4日間を含む7日間に切り替えました。この結果、仕事・授業等が休みの土・日に多くの野球ファンとご家族連れで入場者数が大幅に増えました。更には地元のマーチングバンドを招き、試合開始前に活気のある演奏を行い球場内が大いに盛り上がりました。新たなジャンルの団体とのコラボで社会人野球の魅力を発信できたものと思います。

二つ目はＪＡＢＡ東北大会での「母の日感謝デー」のイベントです。この大会は毎年5月の第二日曜日に当たることから、審判員は「ピンク色」のユニホームを着用し、当該チーム・球場スタッフも「ピンクのドレスコード」で母の日に感謝の意を表しました。熱い闘いの中にほのぼのとした雰囲気を醸し出しました。三つ目は第50回社会人野球日本選手権最終予選において、スタメン選手と地元の少年野球チームの子供たちを一緒に紹介する「スターティングキッズ」です。スタメン選手と子供たちがスタンドに向けて楽しいパフォーマンスを繰り広げ、一緒に守備位置につき社会人野球グラウンドの臨場感を味わってもらいました。選手と触れ合うことでチームの仲間や親御さんもイベントから試合までを満喫していただきました。四つ目の取り組みとして、アフリカのベナンで青年海外協力隊として野球の普及を行っている元きらやか銀行野球部の伏見有史氏の支援として、東北地区連盟の各チームからグラブとボールを提供いただき支援しました。野球人口の減少は未来の野球界にとって危惧するところでありますが、東北地区連盟は野球人口の拡大と野球ファンの拡大の両輪に取り組むことで野球の楽しさや素晴らしさを発信していきます。







講習会の開催

◇第48回ＪＡＢＡ東北地区連盟審判講習会（２０２５年3月15日（土）～16日（日）　2日間　東北福祉大球場）
▽講師　日本野球連盟規則・審判委員会　桑原和彦、吉野弘則、高橋進也
▽受講者　33名

◇第23回アナウンス講習会【社会人・軟式関係　合同】（２０２５年3月29日（土）～30日（日）　2日間　石巻市民球場（第7回社会人・大学野球対抗戦））
▽講師　山田真利子、庄司美香、古川美香、藤原幸子、小坂忍、矢口美生、佐藤朱美
▽参加者　10名

◇第29回記録員講習会【社会人・軟式関係　合同】（２０２５年3月29日（土）～30日（日）　2日間　石巻市民球場（第7回社会人・大学野球対抗戦））
▽講師　静徹也、盛大聖
▽参加者　16名

◇第1回「ＬＩＶＥ中継操作」講習会（２０２５年3月29日（土）～30日（日）　2日間　石巻市民球場（第7回社会人・大学野球対抗戦））
▽講師　古澤吉正
▽参加者　12名

◇第11回クラブチーム技術向上研修会（２０２５年7月26日（土）　一関運動公園野球場）
▽講師　静徹也、盛大聖
▽参加者　16名

㊧㊨㊧㊨

◇第7回東北地区社会人・

大学野球対抗戦（3月29～30日　石巻市民球場）

▽29日
七十七銀行6―0東北学院大学
TD　K6―6八戸学院大学
JR東日本東北3―1富士大学

▽30日
日本製紙石巻4―4仙台大学
トヨタ自動車東日本3―2東日本国際大学
マルハン北日本カンパニー4―1東北福祉大学

◇第36回一関市長旗争奪クラブ野球大会（7月19～20日　一関運動公園野球場、東山球場、花泉運動公園野球場、室根球場）

▽1回戦
八千代Ag6―5Binet/yamagata
eBBC
新潟コンマーシャル倶楽部9―7一関BC
東北マークス7―0宇都宮大学OB野球クラブ
エフコムBC10―9オール江刺
水沢駒形野球倶楽部6―3西多摩倶楽部
盛友クラブ8―7新座ダイアモンドドックス
全府中野球倶楽部7―2ゴールデンバース
横浜中央クラブ6―3弘前アレッズ

▽2回戦
八千代Ag12―2新潟コンマーシャル倶楽部
eBBC
エフコムBC10―5東北マークス
盛友クラブ5―4水沢駒形野球倶楽部
全府中倶楽部12―1横浜中央クラブ

▽準決勝
エフコムBC10―3八千代Ag
eBBC
全府中野球倶楽部17―2盛友クラブ

▽決勝
エフコムBC
000 000 000 11 2
000 000 000 12 3
全府中野球倶楽部
（延長十一回）
（エ）山形、長根―高野
（府）永野、木村―松坂

▽二塁打　松嶋（エ）、岡部（府）

㊗…表彰選手…㊗

◇最高殊勲選手賞
永野　将司（府）

◇敢闘賞
山形　胤舜（エ）

◇首位打者賞
八百板　卓丸（エ）

◇第11回JABA東北クラブカップ野球大会（8月23～24日　さきがけ八橋球場、琴丘スカルパ野球場）

▽7イニングス制

▽1回戦
大崎トリプルクラウン13―0いわき菊田クラブ
秋田GLANZ4―1盛岡球友倶楽部
鶴岡野球クラブ2―0キングプリザード
オール江刺7―1能代松陵クラブ

▽準決勝
大崎トリプルクラウン13―3秋田GLANZ
オール江刺5―2鶴岡野球クラブ

▽決勝
オール江刺
202 010 0 5
000 021 0 3
大崎トリプルクラウン
（江）新沼、関―大内
（大）横山、池田、伊藤達、對馬―坂本

▽二塁打　菊池、岩城、藤野（江）、寺澤、坂本（大）

㊗…表彰選手…㊗

◇最高殊勲選手賞
新沼　晟（江）

◇敢闘賞
坂本　卓弥（大）

◇首位打者賞
千葉　晴也（江）

◇第31回JABA東北地区連盟会長旗争奪野球大会（10月18～19日　高田松原運動公園第一野球場、東北ヒロセ野球場）

▽7イニングス制
○…クラブの部…○

▽1回戦
片山商会BC2―1能代松陵クラブ
東北マークス12―2キングプリザード

▽準決勝
水沢駒形野球倶楽部5―1片山商会BC
エフコムBC6―4東北マークス

▽決勝
水沢駒形野球倶楽部
000 000 000 0
100 000 000 1
エフコムBC
（水）小沼―瀬川
（エ）渡邉、長根、大内―武藤

▽二塁打　佐々木誉（水）八百板飛（エ）

㊗…表彰選手…㊗

◇最高殊勲選手賞
渡邉　拓海（エ）

◇敢闘賞
小沼　直昭（水）

◇首位打者賞
八百板　飛馬（エ）

◇東北地区連盟会長賞
小口　優太郎（エ）

○…企業の部…○

▽1回戦
日本製紙石巻5―0JR盛岡
七十七銀行5―0JR秋田
TD　K2―1トヨタ自動車東日本
JR東日本東北6―3マルハン北日本カンパニー

▽準決勝
七十七銀行9―3日本製紙石巻
JR東日本東北4―3TD　K

▽決勝
JR東日本東北
000 000 000 12 3
001 000 000 00 1
七十七銀行
（J）工藤、浦野、竹本―小鷹
（七）庭田、森、後藤―越村

▽二塁打　石井寛（七）

▽三塁打　工藤波（J）

㊗…表彰選手…㊗

◇最高殊勲選手賞
古山　慎梧（J）

◇敢闘賞
庭田　恵地（七）

◇首位打者賞
小山　倭誠（J）

◇東北地区連盟会長賞
渡邉　雄太（七）

青森県

◇第11回JABA弘前市長杯野球大会（8月30～31日　岩木山総合運動公園野球場）

▽1回戦
秋田GLANZ4―1全弘前倶楽部

▽準決勝
弘前アレッズ7―1二戸桜陵クラブ
秋田GLANZ14―8キングリザード

▽決勝
秋田GLANZ
000 000 0 0
130 302 × 9
弘前アレッズ
（秋）今野―岸
（ア）小山内、塩倉、小田島―西谷

▽二塁打　土井（秋）、西谷、一戸（ア）

▽三塁打　西谷（ア）

㊗…表彰選手…㊗

◇最高殊勲選手賞
西谷　拓真（ア）

◇敢闘賞
今野　優月（秋）

◇首位打者賞
葛西　優太（ア）

秋田県

◇第77回JABA秋田春季大会（4月18～21日　さきがけ八橋球場）

▽7イニングス制

▽1回戦
秋田BC11―6秋田GLANZ

▽2回戦
JR秋田2―0能代松陵クラブ
秋田BC7―6互大設備DC
ゴールデンバース3―0秋田王冠クラブ
大曲BC不戦勝TD　K

▽準決勝
ＪＲ秋田６―５秋田ＢＣ
大曲ＢＣ６―３ゴールデンリバース
▽決勝
大曲ＢＣ　１００　２１０　０　４
　　１００　０００　０　１
ＪＲ秋田
（大）齊藤―藤原
（Ｊ）熊谷、登藤、鈴木雄―山田
▽二塁打　氏家、星野（大）、佐々木夢（Ｊ）

㊗…表彰選手…㊗

◇**最高殊勲選手賞**
齊藤　颯大（大）
◇**敢闘賞**
熊谷　郁哉（Ｊ）
◇**首位打者賞**
星野　日和（大）

◇**第11回ＪＡＢＡ東北クラブカップ秋田県大会**（７月５～６日　さきがけ八橋球場）
▽７イニングス制
▽１回戦
能代松陵クラブ２―１秋田ＢＣ
秋田ＧＬＡＮＺ５―２互大設備ＤＣ
▽準決勝
秋田ＧＬＡＮＺ14―12大曲ＢＣ
能代松陵クラブ７―５秋田王冠クラブ
▽決勝
秋田ＧＬＡＮＺ　１００　０１３　０　５
　　０００　００２　０　２
能代松陵クラブ
（秋）佐藤陽、佐藤嘉―岸
（能）河内、高桑―杉淵
▽二塁打　岸、石川（秋）杉淵（能）

㊗…表彰選手…㊗

◇**最高殊勲選手賞**
鎌田　朋芳（秋）
◇**敢闘賞**
河内　秀悟（能）
◇**首位打者賞**
石川　海都（秋）

◇**第42回魁星旗争奪社会人野球大会兼第75回ＪＡＢＡ秋季大会**（９月20～21日、23日　さきがけ八橋球場）
▽７イニングス制
▽１回戦
互大設備ＤＣ14―３秋田ＧＬＡＮＺ
▽２回戦
ＪＲ秋田10―１能代松陵クラブ
ゴールデンリバース15―３秋田ＢＣ
大曲ＢＣ８―１秋田王冠クラブ
ＴＤＫ11―０互大設備ＤＣ
▽準決勝
ゴールデンリバース４―１ＪＲ秋田
ＴＤＫ12―０大曲ＢＣ
▽決勝
ゴールデンリバース　０００　０００　０　０
　　０００　４１２　×　７
ＴＤＫ
（ゴ）佐々木、坂谷―加藤
（Ｔ）藤井、田中―兼子
▽二塁打　藤田（ゴ）三浦、打川（Ｔ）

㊗…表彰選手…㊗

◇**最高殊勲選手賞**
藤井　優矢（Ｔ）
◇**敢闘賞**
佐々木　颯大（ゴ）
◇**首位打者賞**
坪山　雄大（Ｔ）

◇**２０２５年度秋田県社会人ベストナイン表彰**
▽**投手**
長谷川　拓帆（ゴールデンリバース）
▽**捕手**
加藤　汰空（ゴールデンリバース）
▽**一塁手**
髙橋　翔（能代松陵クラブ）
▽**二塁手**
佐々木　夢叶（ＪＲ秋田）
▽**三塁手**
佐々木　颯太（ゴールデンリバース）
▽**遊撃手**
貝森　響貴（秋田ＧＬＡＮＺ）
▽**外野手**
関口　諒（ＴＤＫ）
野呂　祐太（互大設備Ｄ）
齊藤　颯大（大曲ＢＣ）
石井　将吾（ＴＤＫ）
天貝　音斗（秋田ＧＬＡＮＺ）
菅原　天空（ＪＲ秋田）
▽**特別賞**
ＴＤＫ、大曲ＢＣ
千葉　優雅（大曲ＢＣ）
▽**新人賞**
難波　颯大（ゴールデンリバース）
三浦　大（ＴＤＫ）
▽**優秀選手賞**

岩手県

講習会の開催

◇**第25回２０２５年度岩手県野球協会・ＪＡＢＡ岩手県野球連盟合同審判講習会**（２０２５年４月５日（土）　盛岡市「きたぎんボールパーク」）
▽講師　菅原和彦（ＪＡＢＡ東北地区連盟ブロック長）・髙橋勝利・田口直良（ＢＦＪ国際審判員）
▽受講者　32名

◇**第29回ＪＡＢＡ岩手県野球連盟記録員講習会**（２０２５年４月26日（土）　宮古市「東北ヒロセ野球場」（第５回ＪＡＢＡ三陸沿岸クラブ大会開催時））
▽講師　古川美香・藤原紫穂（ＪＡＢＡ岩手県野球連盟放送員）
▽受講者　10名

㊗㊗㊗㊗

◇**第５回ＪＡＢＡ三陸沿岸クラブ野球大会**（４月26～27日　東北ヒロセ野球場、山田町民総合運動公園野球場）
▽予選リーグ７イニングス制、決勝トーナメント９イニングス制または２時間
▽予選リーグ
○…Ａブロック…○
釜石野球団10―１宮古倶楽部
久慈クラブ15―４宮古倶楽部
釜石野球団２―１久慈クラブ
○…Ｂブロック…○
球住田硬式野クラブ17―１赤崎野球クラブ
高田クラブ６―４赤崎野球クラブ
球住田硬式野クラブ12―10高田クラブ
▽準決勝
釜石野球団12―８高田クラブ
久慈クラブ12―１球住田硬式野クラブ
▽決勝
釜石野球団　０１０　０１２　０　４
　　０００　１１３　０　５
久慈クラブ
（釜）廣崎、伊藤―山下
（久）佐々木武―鈴木
▽二塁打　山下、滝田、小笠原（釜）外舘、伊川（久）
▽三塁打　佐々木武（久）

◇最高殊勲選手賞
佐々木　武輝（久）
◇敢闘賞
菅原　昌也（釜）
◇首位打者賞
山崎　雄太（久）
◇第60回ＪＡＢＡ岩手県知事旗争奪大会（８月２～３日　洋野町オーシャンビュースタジアム）
▽１回戦
オール江刺13―１住田硬式野球クラブ
ＪＲ盛岡11―６岩手大学
▽準決勝
トヨタ自動車東日本７―２オール江刺
ＪＲ盛岡11―10水沢駒形野球倶楽部
▽決勝
トヨタ自動車東日本
312　101　002　10
000　100　300　4
ＪＲ盛岡
（ト）中村隆、齋藤智、小田―根来
（Ｊ）新沼、木下、高橋凌、坪井―湊
▽二塁打　齋藤大、佐々木麗、瀬戸、根来、馬躰（ト）高橋遥（Ｊ）
▽三塁打　瀬川（ト）
▽本塁打　馬躰（ト）
〰〰〰

倶楽部）
及川　駿斗（オール江刺）
▽**指名打者**
藤野　浩明（オール江刺）
▽**功労賞**
松川　誠（故：顧問、元会長）
▽**監督・コーチ・マネージャー**
橋本萌香（水沢駒形野球倶

宮城県

◇**第32回ＪＡＢＡ宮城県野球協会会長杯争奪野球大会企業の部**（７月16日　利府中央公園野球場）
▽７イニングス制
▽リーグ戦
七十七銀行12―0（マルハン北日本カンパニー）日本製紙石巻８―２（マルハン北日本カンパニー）日本製紙石巻３―２七十七銀行
最終結果
〈優　勝〉日本製紙石巻
〈準優勝〉七十七銀行
㊫…表彰選手…㊫
◇**最高殊勲選手賞**
宮川　将平（日本製紙石巻）
◇**敢闘賞**
宮崎　大輔（七十七銀行）
◇**首位打者賞**
宮崎　大輔（七十七銀行）

楽部）
▽**新人賞**
植本　拓哉（トヨタ自動車東日本）
▽**特別会長賞**
オール江刺
▽**渡邊学賞**
中村　隆一（トヨタ自動車東日本）

◇**第32回ＪＡＢＡ宮城県野球協会会長杯争奪野球大会クラブの部**（９月21日、23日　河南中央公園野球場、石巻市民球場）
▽７イニングス制
▽１回戦
ハクサン10―5石巻旧和倶楽部
ＴＦＵクラブ11―1スターダスト（大崎トリプルクラウン）
▽準決勝
東北マークス11―1ハクサン（大崎トリプルクラウン）
10―2ＴＦＵクラブ
▽決勝
大崎トリプルクラウン

100	010	0	2
160	101	×	9

東北マークス
（大）池田、渡辺、對馬―菱沼
（東）小野崎武、小野崎倭―佐藤信

▽二塁打　久慈（東）
▽三塁打　久慈（東）
㊫…表彰選手…㊫
◇**最高殊勲選手賞**
高田　修平（東）

山形県

◇**第11回ＪＡＢＡ東北クラブカップ山形県大会**（７月５日　新庄市民球場）
▽７イニングス制
▽リーグ戦
鶴岡野球クラブ13―0新庄球友クラブ
Ｂｉｎｅｔ／ｙａｍａｇａｔａ16―2新庄球友クラブ
鶴岡野球クラブ４―0Ｂｉｎｅｔ／ｙａｍａｇａｔａ
最終結果
〈優　勝〉鶴岡野球クラブ
〈準優勝〉Ｂｉｎｅｔ／ｙａｍａｇａｔａ
◇**敢闘賞**
寺澤　圭裕（大）
◇**首位打者賞**
高田　修平（東）

福島県

◇**第28回ＪＡＢＡ福島市長杯争奪野球大会**（５月３～５日　県営あづま球場）
▽７イニングス制
▽１回戦
Ｂｉｎｅｔ／ｙａｍａｇａｔａ７―２Ｆ　Ｋ　Ｃ
全新潟ブラックス２―１Ｔｓｕｋｕｂａ　Ｃｌｕｂ
鹿沼３９13―1郡山ＢＢＣ
盛岡球友倶楽部５―４ＡＬＬ北嶺
▽２回戦
大崎トリプルクラウン７―６Ｂｉｎｅｔ／ｙａｍａｇａｔａ
エフコムＢＣ９―０全新潟ブラックス
鹿沼３９11―7オールいわきクラブ
東北マークス12―2盛岡球友倶楽部
▽準決勝
エフコムＢＣ14―2大崎トリプルクラウン
東北マークス９―６鹿沼３９
▽決勝
エフコムＢＣ

101	09	11
000	01	1

東北マークス
（エ）山形、大内、長根―大川、佐藤敬
（東）黒川、鈴木天―久慈
▽二塁打　八百板卓、茨木、大川（エ）
▽本塁打　伊藤海（エ）
㊫…表彰選手…㊫
◇**最高殊勲選手賞**
山形　胤舜（エ）
◇**敢闘賞**
細川　雄心（東）
◇**首位打者賞**

◇**敢闘賞**
寺澤　圭裕（大）
◇**首位打者賞**
高田　修平（東）

◇**第16回ＪＡＢＡスポニチ福島支局杯社会人選抜野球大会**（９月20～21日　みちのく鹿島球場）
▽７イニングス制
▽１回戦
ＦＫＣ６―５ＡＬＬ北嶺
▽２回戦
郡山ＢＢＣ４―3（オールいわきクラブ）
エフコムＢＣ25―1ＦＫＣ
▽決勝
エフコムＢＣ

301	423	13
000	100	1

郡山ＢＢＣ
（エ）小川、長根、大内―武藤、大川
（郡）田中、三瓶、長尾―松川
▽二塁打　岩崎、島崎（エ）
松本（郡）
㊫…表彰選手…㊫
◇**最高殊勲選手賞**
小川　佳斗（エ）
◇**敢闘賞**
田中　涼有（郡）
◇**首位打者賞**
田中　涼有（郡）
◇**第19回ＪＡＢＡ毎日新聞社杯社会人選抜野球大会**（10月11～13日　県営あづま球場）

八百板　飛馬（エ）
◇**第16回ＪＡＢＡスポニチ福島支局杯社会人選抜野球大会**（９月20～21日　みちのく鹿島球場）
▽７イニングス制
▽１回戦
エフコムＢＣ６―1ＡＬＬ北嶺
エフコムＢＣ８―3（コットンウェイ硬式野球倶楽部）
3―1郡山ＢＢＣ
オールいわきクラブ24―1小峰クラブ
東北マークス11―1ＦＫＣ
▽準決勝
エフコムＢＣ８―3（コットンウェイ硬式野球倶楽部）
オールいわきクラブ７―6東北マークス
▽決勝
エフコムＢＣ

041	002	0	7
200	000	0	2

オールいわき
（エ）小口、渡邉拓、大内―武藤
（い）渡辺竹、国分、猪狩瑛、渡邉翔―岡部
▽二塁打　八百板卓、伊藤海（エ）
（い）鈴木裕
▽三塁打　吉田（エ）
▽本塁打　松嶋２（エ）
㊫…表彰選手…㊫
◇**最高殊勲選手賞**
松嶋　拓郎（エ）
◇**敢闘賞**
高木　陸（い）
◇**首位打者賞**
松嶋　拓郎（エ）

北信越地区連盟

◇第32回北信越地区連盟審判講習会

【主催】日本野球連盟北信越地区連盟

【期日】令和7年3月22（土）～23日（日）

【会場】セーレン・ドリームスタジアム（福井県）

【講師】日本野球連盟規則・審判委員会 桑原和彦（委員長）美濃正隆（委員）大都篤（委員）

【協力チーム】福井工業大学硬式野球部

この講習会は、２０２０年まで開催されていた日本野球連盟主催の全国審判講習会をオンライン開催とし、地区別の少人数講習による集中指導に重点を置いた地区講習会として毎年開催されています。北信越５県（福井県・石川県・富山県・長野県・新潟県）より、各県審判長・スーパーバイザー・インストラクター・国際審判員・都市対抗および日本選手権派遣予定者を含む受講者51名が２日間にわたり受講しました。

事前に1月18日（土）の午前と午後の二部制に分けてオンラインによる全国審判講習会が開催され、地区講習会のカリキュラム内容を共有化することで講習内容を事前に予習することができ、説明時間の短縮により、実技時間の充実を図ることができました。

２０２５年から新しく適用される「臨時代走」に伴う「負傷タイム」の確認をはじめ、これまでのメカニクス・フォーメーションを復習し、講師の的確な指導やアドバイスを受けながら、ほど良い緊張感のもとで受講できましたことは、各々の経験と自信に繋がり、より一層理解を深められたものと思います。

この講習会が北信越地区５県の持ち回りで開催されるようになってから、今回が福井県で初めての開催となりました。次回は石川県での開催予定です。北信越地区で開催を持ち回ることにより、社会人野球大会のない県においても社会人野球を身近に感じられ、チーム北信越地区として一体で審判技術を切磋琢磨でき、更なるスキルアップに繋げることができます。

引き続き、北信越地区連盟審判員の技術向上と各県の情報交換のため、意義ある機会となるよう講習会受講生が「真剣に厳しくも楽しく学び、審判員だけでなく北信越地区連盟の野球の発展」を目指して運営していきたいと思います。

第1回北信越地区アナウンス講習会

日本野球連盟にアナウンス委員会が発足し、その活動のひとつとして「第1回北信越地区アナウンス講習会」を４月5日・長野オリンピックスタジアムで開催した。

地区内のアナウンス業務に携わるスタッフ同士の交流や場内アナウンスの細かい確認とスキルアップ、新人育成を目的とし、北信越地区では初めての開催となった。

講師に日本野球連盟アナウンス委員会・赤荻福枝副委員長を迎え、午前中は座学、午後は実践のカリキュラムで行った。



座学の様子（講師：赤荻氏）



場面、場面に応じて質問や意見交換が行われた

〈座学〉

○アナウンスの基本
役割や流れについて
○アナウンスの注意点
スピード、タイミングのポイント
○正しいイントネーション、伝わりやすいアクセント

〈実践〉

参加者代表に信越硬式野球クラブのオープン戦のアナウンスを担当してもらい、言い回し、アクセント、タイミング等を確認しながら現場で役立つ情報を学んだ。

〈参加者の感想〉

○アナウンスに関わる一つ一つを再確認でき、今後の担当アナウンスに生かすことができる講習会だった。
○参加できなかった方へ伝えること（アウトプット）で得た知識の再確認ができる。
○今後もこのような講習会を開催してほしい。



講師を囲んで講習会参加のアナウンス部、記録部で記念撮影

○同日同場所で記録部も講習会を行っており、兼務される方もいた。アナウンス部、記録部と女性の活躍が目立った。

〈今後について〉

講習会の日程にもう少し余裕を持ち、懇親会等でゆっくり話ができる時間を持って、各県の情報交換ができるようにしたい。

北信越地区内の３大会（長野大会、富山大会、新潟大会）にそれぞれ派遣アナウンスを行うことで、各々の意識アップ、スキルアップへ繋がるので継続した事業として今後も取り組んでいきたい。

審判技術講習会を実施

◇第12回審判技術向上講習会

【主催】ＪＡＢＡ新潟県野球連盟【共催】新潟県野球協議会

【期日】２０２５年11月15日（土）～16日（日）

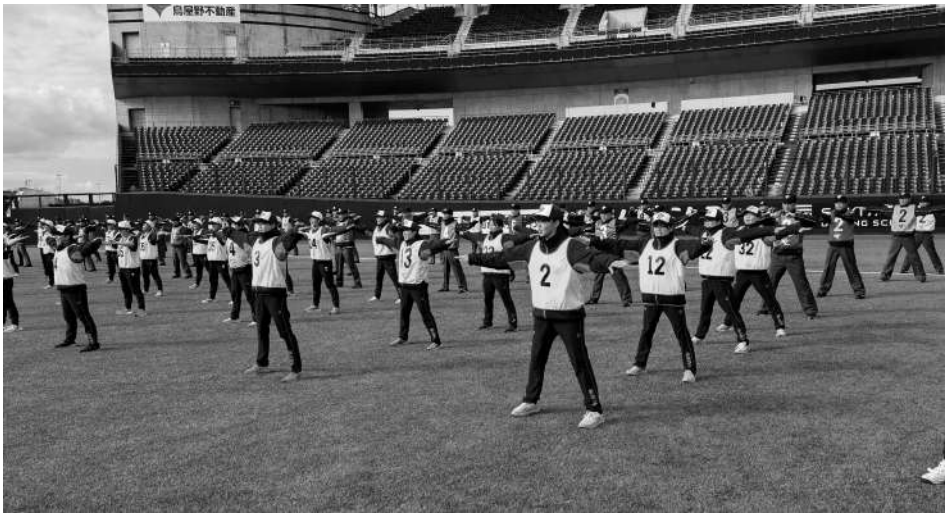
【会場】ハードオフエコスタジアム新潟

【講師】桑原和彦規則審判委員長、小出義則規則審判副委員長、深沢俊一規則審判委員

【協力チーム】新潟医療福祉大学硬式野球部、新潟大学硬式野球部・開志学園高等学校野球部

この講習会は、ＪＡＢＡ登録審判員は原則全員参加、友誼団体である、日本リトルシニア中学硬式野球協会、全日

本軟式野球連盟などの所属審判員からも多数の参加があり、講習会実行委員会スタッフを含め総勢１０４名が受講しました。



受講生と女子野球連盟所属選手によるゴーストップコール

今回は、いわゆるお父さん審判の方や県外から参加された方以外に新潟県女子野球連盟所属の女性審判や選手の方々の参加がありました。

この講習会は、ＪＡＢＡ地区連盟講習会カリキュラムを基本とし、受講生のレベルに合わせ、国際審判員、全国大会経験者等がインストラクターを務め、審判技術の向上のみならず参加頂いた審判員が相互に交流できる場となるよう班編制及びカリキュラムの工夫を行いました。

受講生にとっては、ＪＡＢＡ規則委員や国際審判員等からアマチュア野球最高レベルの審判技術を直接ご指導頂ける機会であることから、２日間にわたり、意欲的に講習を受けていたという印象が強く残っています。

今回で12回目の講習会を迎え、初めて新潟県女子野球連盟所属の女性審判員及び硬式女子野球部員から参加頂き野球審判技術等を学んでもらうことで、県内マチュア審判員のモチベーションと技術向上、そして審判組織の拡大に繋がっているとの評価を頂いています。

今後もこの講習会を継続していくことで、県内アマチュア審判の技術向上と審判組織の発展に繋がるものと信じ、さらなる創意工夫を凝らし、参加頂いた方々に満足頂けるような講習会事業を実施していきたいと考えています。

中３の夏　硬式野球にトライしてみよう!!

ＪＡＢＡ新潟県野球連盟
番場　省二

ＪＡＢＡ新潟県野球連盟は毎年８月20日前後に、中学３年生を対象に「中３の夏　硬式野球にトライしてみよう!!」とした野球教室を開催しております。

新型コロナウイルス感染の中でもＪＡＢＡ発信のコロナ感染防止のための感染対策マニュアルに沿って、生徒、保護者とも体温測定、体調の確認、手指消毒を行い密にならない体制を取り実施して行った。中学３年生は、全国中学校軟式野球大会が終われば、夏休みは試合もなく、時間に余裕があるため、ＪＡＢＡ新潟県野球連盟は毎年中学３年生のための野球教室を行っております。対象中学校は、新潟市内の中学校をメインとして行っております。

毎年10前後の中学校と生徒30名前後の参加があります。保護者の方も30名位の方々が付き添いに来られて見学されています。講師には、ＪＲ新潟野球部の監督、コーチ、選手に指導をお願いしております。夏の一番暑い時期に開催となり、連日35度を超える気温になるため、グラウンドの散水を多めにし、危険な暑さになることも予測して、何回かクーリングタイムを導入して実施をしております。

準備運動から始め、キャッチボール、トスバッティング、内外野に分かれてノック後、内外野の連係プレーを行った。前半は守備練習を主体的に行った。キャッチボールでは、相手の胸を目掛けて投げることやゴロ捕球の足の運び方やグラブの出し方の基本を指導した。

打撃練習では、初めて硬式ボールを打つ生徒がほとんどなので、バットの芯に当たらず手が痺れて痛そうであったが、慣れていくうちに鋭い打球打つようになり、保護者から拍手が湧き起こり、生徒からも「ナイス　バッティング」と声援が出るようになり打ち解けた様子も見受けられた。

今回参加された中学３年生の生徒代表者が挨拶の中で、「高校生になっても野球を続けていきたい」と言ってくれたことにとても感銘を受けました。

人口減や少子化問題で野球人口も減ってきている中ではありますが、少しでも野球人口が減っていくことを遅らせる活動にＪＡＢＡ新潟県野球連盟は努めて参りたいと思います。

短時間の野球教室でしたが、野球が好きで集まってもらい、高校に入っても野球を続けたいと思ってくれた生徒さんがたくさんいたことをとても嬉しく思いました。

今後も「中３の夏　硬式野球にトライしてみよう!!」を続けていきたいと思っております。

新潟医療福祉大学野球部が優勝

（八回タイブレーク）

㊊…表彰選手…㊊

◇**第5回髙橋勇四郎会長杯争奪野球大会**【7イニングス制】（10月4～10月5日の2日間　みどりと森の運動公園野球場）

▽1回戦

新潟クラブ野球団 9―0 五泉クラブ

佐渡軍団 2―1 JR新潟

▽準決勝

新潟コンマ14―1新潟クラブ野球団

新潟医療福祉大学野球部 8―0 佐渡軍団

▽決勝

新潟コンマーシャル倶楽部	0	0	0	0	0	2	0	1	3
新潟医療福祉大学野球部	0	0	0	0	0	0	2	2	4

◇**最高殊勲選手賞**

白鳥　佳亮・内野手（新潟医療福祉大学野球部）

◇**敢闘賞**

本多　汰久麻・外野手（新潟コンマーシャル倶楽部）

◇**最高打撃賞**

舘岡　春樹・内野手（新潟医療福祉大学野球部）＝7打数5安打、打率7割1分4厘

石川県

◇**第16回北陸3県社会人大学交流戦対抗戦**（7月5日　志賀町野球場）

◇**第1試合**

北陸大学	0	2	0	0	0	0	0	0	1
HBC金沢	0	0	1	1	0	2	3	×	7

◇**第2試合**

福井工業大学	0	0	2	3	0	0	0	0	1
金沢学院大学	1	1	0	1	0	0	0	0	3

◇**第3試合**

金沢学院大学	1	1	0	1	0	0	0	0	3
IMF BANDITS富山	0	0	2	1	0	0	0	0	3

◇**第14回北陸アマチュア野球オールスター戦**（7月5日　志賀町野球場）

◇**第1試合**

社会人選抜	0	0	0	0	0	1	0	0	1
北陸大学選抜	0	0	0	0	0	0	2	0	2

◇**第10回清水紀良杯争奪野球記念大会**（11月8日　金沢市民野球場）

◇**第1試合**

金沢星稜大学	0	0	0	0	0	1	3	0	4
金沢学院大学	0	0	0	1	0	0	2	0	3

◇**第2試合**

北陸大学	0	0	1	0	0	0	0	0	1
HBC金沢	0	1	3	0	0	0	2	0	6

【2日目雨天中止】

金沢星稜大学・HBC金沢

富山県

IMF BANDITS富山V

◇**第115回富山県社会人野球リーグ戦【7イニング制】**（3月29、31日　県営富山野球場）

◇**第1日**

ロキテクノ富山	0	0	0	0	1	2	1		4
IMF BANDITS富山	0	0	0	1	0	0	4	x	5

（ロ）帯川、伊藤、冨田、山川中田―福田、廣田

（I）水口、元木、佐伯―大川

▽本塁打　中井（ロ）、須藤（I）

伏木海陸運送　200 100 0＝3

IMF BANDITS富山　200 200 ×＝4

（伏）三宅、山田―幸明

（I）五味、須田―大川

▽三塁打　小辻（I）

▽二塁打　牧田（伏）、井田（伏）、大川（I）、西丸（I）、須藤（I）

富山ベースボールクラブ　000 00＝0

（五回コールドゲーム）　1140 0×＝15

伏木海陸運送

（富）竹内、田中、川腰―姫野、竹内

（伏）西川―松田

▽本塁打　木村（伏）

▽三塁打　木村（伏）、井田（伏）

▽二塁打　荒井（伏）、佐伯（伏）、新井（伏）、久保（伏）、竹内（伏）

◇**第2日**

富山ベースボールクラブ　000 00＝0

IMF BANDITS富山　322 8×＝15

（五回コールドゲーム）

（富）竹内、田中―姫野、竹内

（I）阿部、佐伯、田中、高根沢、岩崎―伊藤

▽本塁打　伊東（I）

▽二塁打　田中（富）、徳弘（I）、小貝（I）、小辻（I）

伏木海陸運送　020 000 0＝2

ロキテクノ富山　002 000 1x＝3

（伏）高橋、山田、西川―幸明

（ロ）飯塚、山本奨、佐藤、伊藤、山本雅―添田

▽本塁打　幸明（伏）

▽二塁打　河原木（ロ）、清水（ロ）、河野（ロ）

【不戦勝】

富山ベースボールクラブ 0―9 ロキテクノ富山

㊊㊊㊊㊊

【順位】

①IMF BANDITS富山（3勝）

②ロキテクノ富山（2勝1敗）

③伏木海陸運送（1勝2敗）

④富山ベースボールクラブ（3敗）

㊊…表彰選手…㊊

◇**最高殊勲選手賞**

須藤　誠太（IMF BANDITS富山）

◇**敢闘賞**

前田　聖矢（ロキテクノ富山）

姫野　竜成（富山ベースボールクラブ）

◇**最高打撃賞**

小辻　羅生（IMF BANDITS富山）＝7打席5打数4安打、打率8割

ロキテクノ富山V

◇**第115回金獅子旗争奪野球【リーグ戦】**（10月4日　魚津桃山運動公園野球場）

ＩＭＦ ＢＡＮＤＩＴＳ富山
100 021 101 6
000 100 002 3
伏木海陸運送
（Ⅰ）高根沢―大川
（伏）西川、與座、山川、高橋、藤原、三宅―松田
▽本塁打 藤川（伏）、中村（Ⅰ）、幸明（伏）
▽二塁打 中村（Ⅰ）
ＩＭＦ ＢＡＮＤＩＴＳ富山
010 500 000 6
024 000 20× 8
ロキテクノ富山
（Ⅰ）中田、平田、佐伯、須田、阿部、五味―須藤、大川
（ロ）大坪、山本雅、冨田、山川、山本奨、飯塚―福田
▽本塁打 小貝（Ⅰ）、合屋（ロ）、北村（Ⅰ）、福田（ロ）
▽三塁打 河原木（ロ）
▽二塁打 徳弘（Ⅰ）、渡辺（ロ）、高橋（Ⅰ）、合屋（ロ）
ロキテクノ富山
050 200 020 9
141 001 000 7
伏木海陸運送
（ロ）帯川、中田、伊藤、飯塚―福田
（伏）西納、山田、三宅、西川―幸明
▽本塁打 福田（ロ）、櫻吉（ロ）、久保（伏）、杉山（ロ）
▽二塁打 青木（伏）、杉山（ロ）
㊫ ㊫ ㊫ ㊫ ㊫
【順 位】
①ロキテクノ富山（2勝）
②ＩＭＦ ＢＡＮＤＩＴＳ富山（1勝1敗）
③伏木海陸運送（2敗）
㊫…表彰選手…㊫
◇最高殊勲選手賞
福田 晟央（ロキテクノ富山）
◇敢闘賞
中村 亮太（ＩＭＦ ＢＡＮＤＩＴＳ富山）
竹内 亮太（伏木海陸運送）
◇最高打撃賞
青木 龍星（伏木海陸運送）＝9打席9打数5安打、打率5割5分6厘

千曲川硬式野球クラブV

◇第11回ＪＡＢＡ北信越クラブカップ大会（10月18～19日 富山県営野球場）
◇第1日
新潟コンマーシャル倶楽部
501 119 3 20
010 000 0 1
佐久コスモスターズ硬式野球クラブ（七回コールドゲーム）
（新）丸山、芦田―久志田
（佐）林部、高橋稜―鈴木
▽三塁打 河野2（新）、渡辺（新）、前川（新）、屯所（新）
▽二塁打 渡辺2（新）、宮澤（佐）
野田サンダーズ
000 000 0 0
000 033 1× 7
千曲川硬式野球クラブ（七回コールドゲーム）
（野）小山、渡辺、瀧澤元―三村
（千）和田、森井―黒澤
▽三塁打 鈴木（千）
▽二塁打 佐々木（千）
◇第2日
▽準決勝
新潟コンマーシャル倶楽部
005 310 008 17
010 700 000 8
富山ベースボールクラブ
（新）塚野、芦田、丸山―久志田
（富）田中、川腰、片岡―姫野、竹内
▽本塁打 屯所（新）
▽三塁打 渡辺（新）
▽二塁打 河野（新）、屯所（新）
▽準決勝
Ｈａｒｄ Ｂａｌｌ Ｃａｌｌ金沢
010 000 0 1
322 003 × 10
千曲川硬式野球クラブ（七回コールドゲーム）
（金）土田、山田、多原―山崎
（千）本多、星野、桑原―黒澤
▽本塁打 関（千）
▽三塁打 高城（千）
▽二塁打 小林（金）、物部（金）、高城（千）、黒澤（千）
▽決勝戦
千曲川硬式野球クラブ
240 001 00 7
020 000 00 2
新潟コンマーシャル倶楽部（八回日没コールドゲーム）
（千）井崎、村松、森井、三石―黒澤
（新）五十嵐翔、渡辺―久志田
▽三塁打 関（千）
㊫…表彰選手…㊫
◇最高殊勲選手賞
圀府 寺輝（千曲川硬式野球クラブ）
◇敢闘賞
渡辺 泰成（新潟コンマーシャル）
◇最高打撃賞
圀府 寺輝（千曲川硬式野球クラブ）＝13打席10打数7安打、打率7割
◇富山県野球競技普及振興事業 ティーボール教室
①6月1日
奥田北小学校
参加者 小学生78名
②9月23日
氷見運動公園大芝生広場
参加者 小学生65名

関東地区連盟

◇第52回社会人・東京六大学対抗戦（3月29日～3日間 神宮球場）
▽3月29日
東 大（雨天中止）明治安田
早 大（雨天中止）日本製鉄かずさマジック
▽3月30日
慶 大1―2エイジェック
立 大0―15Ｈｏｎｄａ
▽4月1日
明 大3―0セガサミー
法 大2―1三菱重工East
◇第66回足利市長杯大会（4月4日～2日間 ジェットブラックフラワーズスタジアム）
▽1回戦
オールフロンティア 6―2ＪＲ水戸
茨城日産13―4ＪＲ千葉
▽2回戦
エイジェック 8―1SUNホールディングスEAST
ハナマウイ13―5全足利クラブ
オールフロンティア 7―0茨城トヨペット
テイ・エステック7―1茨城日産
▽準決勝
エイジェック10―2オールフロンティア
テイ・エステック7―0ハナマウイ
▽決勝
エイジェック5―4テイ・エステック
最終結果
〈優 勝〉エイジェック
〈準優勝〉テイ・エステック
㊫…表彰選手…㊫
◇最優秀選手賞
草野 里葵・外野手（エイジェック）

◇敢闘賞
阿保　楓真・内野手（テイ・エス　テック）
◇首位打者賞
小林　日出・内野手（テイ・エス　テック）＝12打席9打数5安打、打率5割5分6厘
◇第34回山梨県知事杯争奪社会人クラブ関東甲信越大会（10月11日～3日間　山日YBS球場・南アルプスジットスタジアム）
▽1回戦
甲斐府中クラブ5―4千葉熱血メイキング
リベラック小出原7―5METSO TOKYO
▽2回戦
浜松ケイ・スポーツBC8―3甲斐府中クラブ
鹿沼３９11―8上田硬式野球倶楽部
リベラック小出原10―3全浦和野球団
（八回コールド）
オール高崎野球倶楽部10―6AgeinBC
▽準決勝
浜松ケイ・スポーツBC7―0鹿沼３９
（七回コールド）
リベラック小出原９―６オール高崎野球倶楽部
▽決勝
浜松ケイ・スポーツBC11―5リベラック小出原

最終結果

〈優　勝〉浜松ケイ・スポーツBC
◇第18回関東連盟クラブ選手権大会（10月12日、18日　市営浦和球場・岩槻川通公園・三菱金沢グラウンド）
▽1回戦
ハナマウイ　000 000 000 0
　　000 000 02× 2
CLUB REBASE
（ハ）常世田、磯野、和田―鏑木
（C）川上―船木
全足利クラブ　510 130 2 12
　　000 000 0 0
茨城ゴールデンゴールズ
（七回コールド）
（全）山本、坪井―岩崎、立石
（茨）河原崎、荒張、倉持―臼井
▽本塁打　二村、北間（全）
太田暁工業硬式野球クラブ　010 000 000 1
　　000 000 000 0
川口ゴールデンドリームス
（太）小笠原―戸松
（川）水野、豊泉、須藤―小澤
Arts International Club　200 000 000 2
　　001 011 00× 3
横浜球友クラブ
（A）原口、鳴坂、岩本―富永
（横）林、大橋、澁谷―大庭
▽準決勝
全足利クラブ　011 010 100 4
　　010 010 03× 5
CLUB REBASE
（全）齋藤、岩崎海―岩崎昇
（C）川上―沢津橋
▽本塁打　松濤（足）
横浜球友クラブ　000 321 0 6
　　103 513 × 13
太田暁工業硬式野球クラブ
（七回コールド）
（横）澁谷、中山、大橋―大庭
（太）小笠原―田端
▽本塁打　覚田（横）、松本、田端（太）
▽決勝
CLUB REBASE　010 000 400 5
　　000 000 000 0
太田暁工業硬式野球クラブ
（C）キャンベル―中村
（太）熊倉―田端

最終結果

〈優　勝〉CLUB REBASE

㊗…表彰選手…㊗

◇最高殊勲選手賞
沢津橋　達也・内野手（CLUB REBASE）
◇敢闘賞
田端　優一郎・内野手（太田暁工業硬式野球クラブ）
◇首位打者賞
須永　幹士（CLUB REBASE）＝7打数4安打、打率5割7分1厘
◇春季神奈川県クラブ大会（3月20日～4日間　サーティーフォー相模原球場）
▽1回戦
横浜ベイブルース8―1全川崎クラブ
（七回コールド）
横浜球友クラブ6―0国際総合伊勢原クラブ
相模原クラブ7―4京浜野球倶楽部
WIEN BC8―7湘南ひらつかマルユウBC
（十回タイブレーク）
▽2回戦
横浜ベイブルース5―4リベラック小出原
（十回タイブレーク）
横浜球友クラブ8―1横浜中央クラブ
（七回コールド）
相模原クラブ8―1茅ヶ崎サザンカイツ
（七回コールド）
横浜金港クラブ6―2WIEN BC
▽準決勝
横浜球友クラブ7―0横浜ベイブルース
（七回コールド）
横浜金港クラブ8―7相模原クラブ
▽決勝
横浜金港クラブ6―3横浜球友クラブ

最終結果

〈優　勝〉横浜金港クラブ
〈準優勝〉横浜球友クラブ

㊗…表彰選手…㊗

◇最高殊勲選手賞
磯部　汐貴・内野手（横浜金港クラブ）
◇敢闘賞
中森　恵太・内野手（横浜球友クラブ）
◇首位打者賞
村上　大知・内野手（横浜金港クラブ）＝13打席11打数6安打打、率5割4分5厘
◇春季神奈川県企業大会（3月20日～3日間・リーグ戦　等々力球場）
▽3月20日
三菱重工East5―2日産自動車
ENEOS9―3東　芝
▽3月21日
三菱重工East4―3東　芝
ENEOS4―2日産自動車
▽3月22日
東　芝6―0日産自動車
ENEOS11―1三菱重工East
▽順位
〈1位〉ENEOS
〈2位〉三菱重工East
〈3位〉東芝
〈4位〉日産自動車

栃木県

◇第17回SLの走る街「コットンカップ」（10月18日、19日、11月1日、2日【7イニング制】　真岡ハイトラ運動公園野球場）
▽1回戦
UKクラブ11―4イワキ菊田クラブ
所沢グリーンBC8―2宇都宮大学OB野球倶楽部
南アルプス硬式野球倶楽部6―5BIGWINGS印西
鹿沼３９8―3エスプライド
横浜金港クラブ8―1全那北硬式野球クラブ
茨城ゴールデンゴールズ6―4TSK宇都宮
▽2回戦
コットンウェイ硬式野球倶楽部7―4UKクラブ
所沢グリーンBC11―0南アルプス硬式野球倶楽部
（六回コールド）
横浜金港クラブ6―2鹿沼３９
茨城ゴールデンゴールズ8―1太田暁工業硬式野球クラブ
▽準決勝
コットンウェイ硬式野球倶楽部2―1所沢グリーンBC
（九回タイブレーク）
茨城ゴールデンゴールズ3―0横浜金港クラブ
▽決勝
コットンウェイ硬式野球倶楽部3―1茨城ゴールデンゴールズ

最終結果

〈優　勝〉コットンウェイ硬式野球倶楽部
〈準優勝〉茨城ゴールデンゴールズ

㊍…表彰選手…㊍

◇最高殊勲選手賞
野澤　友彦（コットンウェイ硬式野球倶楽部）

◇敢闘賞
河原崎　達哉（茨城ゴールデンゴールズ）

◇首位打者賞
臼井　聖人（コットンウェイ硬式野球倶楽部）＝12打数7安打、打率5割8分3厘

◇第66回ＪＡＢＡ足利市長杯大会（4月5日～2日間　ジェットブラックフラワーズスタジアム（足利市総合運動場硬式野球場））
▽1回戦
オールフロンティア6―2ＪＲ水戸
茨城日産13―4ＪＲ千葉
▽2回戦
エイジェック8―1SUNホールディングスEAST
ハナマウイ13―5全足利クラブ
オールフロンティア7―0茨城トヨペット
テイ・エステック7―0ハナマウイ
▽準決勝
エイジェック10―2オールフロンティア
テイ・エステック7―0ハナマウイ
▽決勝
エイジェック5―4テイ・エステック

最終結果
〈優　勝〉エイジェック
〈準優勝〉テイ・エステック

㊍…表彰選手…㊍

◇最優秀選手賞
草野　里葵・外野手（エイジェック）

◇敢闘選手賞
阿保　楓真・内野手（テイ・エステック）

◇首位打者賞
小林　日出・内野手（テイ・エステック）＝12打席9打数5安打、打率5割5分6厘

◇第95回都市対抗野球大会栃木県予選（4月20日、21日、27日、28日　ジェットブラックフラワーズスタジアム（足利市総合運動場硬式野球場））
▽1回戦
鹿沼３９８―０ＵＫクラブ
全足利クラブ7―0コットンウェイ硬式野球倶
宇都宮大学ＯＢ野球クラブ11―9全那北硬式野球クラブ
▽2回戦
全足利クラブ16―1全栃木野球クラブ
コットンウェイ硬式野球倶9―1ＴＳＫ宇都宮
鹿沼３９６―１宇都宮大学ＯＢ野球クラブ
▽準決勝
エイジェック14―0鹿沼３９
全足利クラブ7―0コットンウェイ硬式野球倶
▽決勝
エイジェック5―1全足利クラブ

最終結果
〈優　勝〉エイジェック
〈準優勝〉全足利クラブ

㊍…表彰選手…㊍

◇最優秀選手賞
河北　将太（エイジェック）

◇敢闘選手賞
齋藤　康徳（全足利クラブ）

◇首位打者賞
長谷川　流星（全足利クラブ）12打席9打数5安打、打率5割5分6厘

◇第48回全日本クラブ野球選手権大会栃木県予選（6月15日、16日、22日　ジェットブラックフラワーズスタジアム（足利市総合運動場硬式野球場））
▽1回戦
全足利クラブ7―0宇都宮大学ＯＢ野球クラブ
コットンウェイ硬式野球倶21―0全那北硬式野球クラブ
全栃木野球ク8―4ＴＳＫ宇都宮
鹿沼３９９―１ＵＫクラブ
▽準決勝
全足利クラブ12―0コットンウェイ硬式野球倶
鹿沼３９９―1全栃木野球クラブ
▽決勝
全足利クラブ10―0鹿沼３９

最終結果
〈優　勝〉全足利クラブ
〈準優勝〉鹿沼３９

㊍…表彰選手…㊍

◇最優秀選手賞
山崎　竜馬（全足利クラブ）

◇敢闘選手賞
稲葉　政行（鹿沼３９）

◇首位打者賞
稲葉　政行（鹿沼３９）打率4割5分4厘

◇第17回関東連盟クラブ選手権大会栃木県予選（9月14日、15日、21日　ジェットブラックフラワーズスタジアム（足利市総合運動場硬式野球場））
▽1回戦
全足利クラブ10―3全那北硬式野球クラブ
ＵＫクラブ5―2全栃木野球クラブ
宇都宮大学ＯＢ野球クラブ4―3コットンウェイ硬式野球倶
鹿沼３９17―9ＴＳＫ宇都宮
▽準決勝
全足利クラブ22―7ＵＫクラブ
宇都宮大学ＯＢ野球クラブ9―7鹿沼３９
▽決勝
全足利クラブ15―0宇都宮大学ＯＢ野球クラブ

最終結果
〈優　勝〉全足利クラブ
〈準優勝〉宇都宮大学ＯＢ野球クラブ

群馬県

◇第48回群馬県クラブ野球選手権大会（8月23日～2日間　太田市運動公園野球場）
▽準決勝
太田暁工業硬式野球クラブ11―7伊勢崎硬式野球クラブ
（七回コールド）
オール高崎野球倶楽部6―1太田球友硬式野球倶楽部
▽決勝
太田暁工業硬式野球クラブ11―3オール高崎野球倶楽部
（八回コールド）

最終結果
〈優　勝〉太田暁工業硬式野球クラブ
〈準優勝〉オール高崎野球倶楽部

㊍…表彰選手…㊍

◇最優秀選手賞
小笠原　智一（太田暁工業硬式野球クラブ）

◇敢闘賞
塚越　剣（オール高崎野球倶楽部）

◇首位打者賞
金井　涼之助（太田暁工業硬式野球クラブ）＝8打数5安打、打率6割2分5厘

埼玉県

◇第4回クラブチャンピオンシップ（9月14日、15日、20日　市営浦和・岩槻川通公園）
▽1回戦
熊谷ＺＥＲＯＢＣ5―0全浦和野球団
所沢グリーンＢＣ7―4都幾川倶楽部野球団
新座ダイアモンドドックス4―3武州おおぞら野球団
INVENTIVE New wave5―3川口ゴールデンドリームス
▽2回戦
全三郷倶楽部野球団5―2熊谷ＺＥＲＯＢＣ
所沢グリーンＢＣ4―2レジェンズ
HOZEN nolimiteds10―3新座ダイアモンドドックス
全大宮野球団2―1INVENTIVE New wave
▽準決勝
所沢グリーンＢＣ7―6全三郷倶楽部野球団
HOZEN nolimiteds7―0全大宮野球団
（七回コールド）
▽決勝
HOZEN nolimiteds7―4所沢グリーンＢＣ

◇第33回ＪＡＢＡ埼玉県会長杯（10月5日～2日間【7イニング制】　岩槻川通公園野球場）
▽1回戦
HOZEN nolimiteds1―0SUNホールディングスEAST
テイ・エステック7―0所沢グリーンＢＣ
（六回コールド）
▽準決勝
HOZEN nolimiteds3―2日本通運
テイ・エステック6―0オールフロンティア

▽決勝
テイ・エステック7―0HOZEN noLIMITEDs
（五回コールド）

千葉県

◇**第7回千葉県クラブ春季大会**（3月8日、9日、15日、22日　長生の森公園野球場・ゼットエーボールパーク）

▽1回戦
ハナマウイ14―1Oceans
千葉熱血メイキング5―4ヌーベルBC
（十回タイブレーク）
八千代AgeBC13―0BIGWINGS品西
サウザンリーフ市原4―3ＹＢＣ柏

▽準決勝
ハナマウイ5―0千葉熱血メイキング
サウザンリーフ市原6―3八千代AgeBC

▽3・4位決定戦
八千代AgeBC14―7千葉熱血メイキング
（七回コールド）

▽順位決定1回戦
ヌーベルBC9―2Oceans
（七回コールド）
BIGWINGS品2―1ＹＢＣ柏

▽5・6位決定戦
ヌーベルBC8―6BIGWINGS品西

▽7・8位決定戦
ＹＢＣ柏8―1Oceans
（八回コールド）

▽決勝
ハナマウイ14―5サウザンリーフ市原
（七回コールド）

◇**千葉県知事杯争奪千葉県社会人野球クラブリーグ**（6月～7月　ナスパスタジアム・長生の森公園野球場）

▽1・2位決定戦
ハナマウイ2―1ＹＢＣ柏

▽3・4位決定戦
千葉熱血メイキング6―2サウザンリーフ市原

▽5・6位決定戦
ヌーベルBC7―3八千代AgeBC

▽7・8位決定戦
BIGWINGS品10―3Oceans

最終結果

〈優　勝〉テイ・エステック
〈準優勝〉HOZEN noLIMITEDs

東京都

◇**東京都企業春季大会**（3月20日～4日間　大田スタジアム）

▽1回戦
セガサミー6―5東京ガス
ＪＲ東日本14―1Honda
（七回コールド）
鷺宮製作所6―2明治安田

▽準決勝
ＪＲ東日本3―0セガサミー
鷺宮製作所3―0NTT東日本

▽順位決定リーグ戦
Honda6―3東京ガス
東京ガス3―0明治安田
Honda5―4明治安田

▽3位決定戦
セガサミー2―0NTT東日本

▽決勝
ＪＲ東日本　100 002 0　3
鷺宮製作所　005 020 3　10
（七回コールド）

最終結果

〈優　勝〉鷺宮製作所
〈準優勝〉ＪＲ東日本

Ⓨ…表彰選手…Ⓨ

◇**最高殊勲選手賞**
薮井　幹大・外野手（鷺宮製作所）

◇**敢闘賞**
山内　慧・外野手（ＪＲ東日本）

◇**首位打者賞**
薮井　幹大・外野手（鷺宮製作所）＝12打数7安打、打率5割8分3厘

◇**打撃賞**
菅田　大介・外野手（ＪＲ東日本）

◇**東京都クラブ春季大会**（4月5日、6日、12日、13日、5月18日　あきる野市民球場・NTT東日本G・セガサミーG）

▽1回戦
CLUB REBASE（不戦勝）警視庁野球部
※警視庁野球部出場辞退のためCLUB REBASE不戦勝
エスプライド16―0東京好球倶楽部
（五回コールド）
全府中野球倶楽部9―0全調布硬式野球倶楽部
（七回コールド）
西多摩倶楽部12―2夕凪SOBLUE
（五回コールド）
Hogrei BC6―0武蔵野クラブ
REVENGE995―3東京弥生クラブ
TOKYO METS9―2Nbuy
（七回コールド）

▽2回戦
CLUB REBASE10―3GOLDS GYM BC
（八回コールド）
全府中野球倶楽部12―1エスプライド
西多摩倶楽部7―3Hogrei BC
REVENGE995―1TOKYO METS

▽準決勝
CLUB REBASE1―0全府中野球倶楽部
西多摩倶楽部9―1REVENGE99
（七回コールド）

▽決勝
西多摩倶楽部　010 103 6　11
CLUB REBASE　001 001 2　4
（七回コールド）

最終結果

〈優　勝〉西多摩倶楽部
〈準優勝〉CLUB REBASE

Ⓨ…表彰選手…Ⓨ

◇**最高殊勲選手賞**
甲斐　凪砂・投手（西多摩倶楽部）

◇**敢闘賞**
山崎　大樹・投手（CLUB REBASE）

◇**首位打者賞**
佐藤　大翼・内野手（西多摩倶楽部）＝14打数7安打、打率5割

◇**東京都企業秋季大会**（10月6日～4日間　大田スタジアム）

▽1回戦
東京ガス9―2明治安田
（八回コールド）
ＪＲ東日本8―3NTT東日本
Honda3―1セガサミー

▽準決勝
ＪＲ東日本4―0東京ガス
Honda4―2鷺宮製作所

▽順位決定リーグ戦
NTT東日本5―2明治安田
明治安田3―3セガサミー
NTT東日本3―2セガサミー

▽3位決定戦
東京ガス2―1鷺宮製作所

▽決勝
Honda　011 100 021　6
ＪＲ東日本　100 000 001　2

最終結果

〈優　勝〉Honda
〈準優勝〉ＪＲ東日本

Ⓨ…表彰選手…Ⓨ

◇**最高殊勲選手賞**
野尻　幸輝・外野手（Honda）

◇**敢闘賞**
谷　幸之助・投手（ＪＲ東日本）

◇**首位打者賞**
山内　慧・外野手（ＪＲ東日本）＝12打数9安打、打

率7割5分

◇**打撃賞**
山内　慧・外野手（ＪＲ東日本）

◇**東京都クラブ秋季大会**
（10月3日、11月1～3日、8日、16日、24日　大田スタジアム・駒沢オリンピック公園硬式野球場・ＪＲ東日本Ｇ・ＮＴＴ東日本Ｇ）

▽1回戦
多摩ＳＯＢＬＵＥ13―5エスプライド
（七回コールド）
ＧＯＭＬＢＤＣＳ5―2警視庁野球部
Ｎｂｕｙ5―3Ｈａｇｅｒｉ ＢＣ
ＭＴＯＫＹＯＳ14―3武蔵野クラブ
（五回コールド）
ＲＥＶＥＮＧＥ９９４―1東京野球倶楽部
全府中野球倶楽部20―0全調布硬式野球倶楽部
（五回コールド）
西多摩倶楽部10―8東京弥生クラブ

▽2回戦
ＣＬＵＢＲＥＢＡＳＥ９―２Ｎｂｕｙ
（七回コールド）
ＲＥＶＥＮＧＥ９９８―1ＭＴＯＫＹＯＳＴＥＴＳ
（七回コールド）
全府中野球倶楽部12―7多摩ＳＯＢＬＵＥ
ＧＯＭＬＤＣＳ９―1西多摩倶楽部
（七回コールド）

▽準決勝
ＲＥＶＥＮＧＥ９９６―5ＣＬＵＢＲＥＢＡＳＥ
ＧＯＭＬＢＤＣＳ3―2全府中野球倶楽部

▽決勝
ＧＯＬＤＳ　ＧＹＭ　ＢＣ　000　000　001　1
ＲＥＶＥＮＧＥ９９　111　010　00×　4

〈優　勝〉ＲＥＶＥＮＧＥ９９

最　終　結　果

〈準優勝〉ＧＯＬＤＳ　ＧＹＭ　ＢＣ

㊫…表彰選手…㊫

◇**最高殊勲選手賞**
小屋　裕・投手（ＲＥＶＥＮＧＥ９９）

◇**敢闘賞**
保田　凌馬・投手（ＧＯＬＤＳ　ＧＹＭ　ＢＣ）

◇**首位打者賞**
髙田　脩平・内野手（ＲＥＶＥＮＧＥ９９）＝13打数6安打、打率4割6分2厘

◇**第40回東京都野球連盟表彰選手**
㊫…表彰選手…㊫

◇**ベストナイン**

▽**投手**
片山　皓心（Ｈｏｎｄａ）

▽**捕手**
佐藤　大雅（鷺宮製作所）

▽**一塁手**
杉崎　成（ＪＲ東日本）

▽**二塁手**
檜村　篤史（Ｈｏｎｄａ）

▽**三塁手**
髙橋　隆慶（ＪＲ東日本）

▽**遊撃手**
中村　将己（Ｈｏｎｄａ）

▽**外野手**
向山　基生（ＮＴＴ東日本）
山内　慧（ＪＲ東日本）
野村　工（鷺宮製作所）

▽**指名打者**
菅田　大介（ＪＲ東日本）

▽**優秀選手賞**
竹丸　和幸・投手（鷺宮製作所）
臼井　浩・投手（東京ガス）
福岡　高輝・内野手（明治安田）
薮井　幹大・外野手（鷺宮製作所）
植田　匡哉・外野手（セガサミー）

▽**新人賞**
伊東　光亮・内野手（ＮＴＴ東日本）
藤澤　涼介・外野手（東京ガス）

▽**クラブチーム優秀選手賞**
川上　鳳之・投手（ＣＬＵＢ　ＲＥＢＡＳＥ）
永野　将司・投手（全府中野球倶楽部）
船木　吉裕・捕手（ＣＬＵＢ　ＲＥＢＡＳＥ）
鈴木　貴大・内野手（ＣＬＵＢ　ＲＥＢＡＳＥ）
樋口　龍之介・内野手（全府中野球倶楽部）

▽**功労賞**
上田　祐介・コーチ（ＮＴＴ東日本）
末永　彰吾・コーチ（ＮＴＴ東日本）
井村　滋・コーチ（明治安田）
小林　昌樹・コーチ（明治安田）
三宮　舜・投手（明治安田）
小野田　俊介・外野手（東京ガス）

▽**特別功労賞**
西田　真二・監督（セガサミー）
岡村　憲二・監督（明治安田）
幡野　一男・監督　鷺宮製作所）
板倉　祥雄・審判部（東京都野球連盟）
渡辺　昌子・応援部（東京ガス）

▽**特別賞**
全府中野球倶楽部　95周年
全調布硬式野球倶楽部　70周年

神奈川県

◇**春季神奈川県クラブ大会**
（3月20日～4日間　サーティーフォー相模原球場）

▽1回戦
横浜ベイブルース8―1全川崎クラブ
（七回コールド）
横浜球友クラブ6―0国際総合伊勢原クラブ
相模原クラブ7―4京浜野球倶楽部
ＷＩＥＮ　ＢＣ8―7湘南ひらつかマルユウＢＣ
（十回タイブレーク）

▽2回戦
横浜ベイブルース5―4リベラック小出原
（十回タイブレーク）
横浜球友クラブ8―1横浜中央クラブ
（七回コールド）
相模原クラブ8―1茅ヶ崎サザンカイツ
（七回コールド）
横浜金港クラブ6―2ＷＩＥＮ　ＢＣ

▽準決勝
横浜球友クラブ7―0横浜ベイブルース
（七回コールド）
横浜金港クラブ8―7相模原クラブ

▽決勝
横浜金港クラブ6―3横浜球友クラブ

〈優　勝〉横浜金港クラブ

最　終　結　果

〈準優勝〉横浜球友クラブ

㊫…表彰選手…㊫

◇**最高殊勲選手賞**
磯部　汐貴・内野手（横浜金港クラブ）

◇**敢闘賞**
中森　恵太・内野手（横浜球友クラブ）

◇**首位打者賞**
村上大知・内野手（横浜金港クラブ）＝13打席11打数6安打、打率5割4分5厘

◇**春季神奈川県企業大会**
（3月20日～3日間・リーグ戦　等々力球場）

▽3月20日
三菱重工5―2日産自動車
Ｅａｓｔ
ＥＮＥＯＳ9―3東　芝

▽3月21日
三菱重工4―3東　芝
Ｅａｓｔ
ＥＮＥＯＳ4―2日産自動車

▽3月22日
東　芝6―0日産自動車
ＥＮＥＯＳ11―1三菱重工
Ｅａｓｔ

▽順位
〈1位〉ＥＮＥＯＳ
〈2位〉三菱重工Ｅａｓｔ
〈3位〉東芝
〈4位〉日産自動車

◇**秋季神奈川県企業大会**
（10月6日～3日間・リーグ戦　等々力球場）

▽10月6日
ＥＮＥＯＳ7―1日産自動車
三菱重工4―3東　芝
Ｅａｓｔ

▽10月7日
ＥＮＥＯＳ2―1東　芝
日産自動車6―5三菱重工
Ｅａｓｔ

▽10月8日
日産自動車3―1東芝
ENEOS4―2三菱重工East
▽順位
〈1位〉ENEOS
〈2位〉日産自動車
〈3位〉三菱重工East
〈4位〉東芝

山梨県

◇第52回山梨県春季大会兼南アルプス市長杯（4月26日～南アルプスジットスタジアム）
▽1回戦
南アルプス硬式野球倶楽部8―1TUKUMOBC
山梨球友クラブ7―3Arts International Club
※天候不良のため準決勝・決勝は来年へ持ち越し

東海地区連盟

2025年度各受賞者を表彰

◇2025年度東海地区連盟表彰
◇ベストナイン
▽投手
佐藤　廉（ヤマハ）
▽捕手
西川　尚希（三菱自動車岡崎）
▽一塁手
宝島　史貴（王子）
▽二塁手
藤江　亮太（ホンダ鈴鹿）
▽三塁手
熊田　任洋（トヨタ自動車）
▽遊撃手
和田　佳大（トヨタ自動車）
▽外野手
舟久保　秀稔（ヤマハ）
松井　涼太（東邦ガス）
福島　大輝（西濃運輸）
▽指名打者
畔上　翔（ホンダ鈴鹿）
▽武田賞
増居　翔太（トヨタ自動車）
▽優秀投手賞
樋口　新（王子）
▽新人賞
柴崎　聖人（王子）
土山　翔生（ヤマハ）
▽優秀監督賞
湯浅　貴博（王子）
梶山　義彦（三菱自動車岡崎）
申原　直樹（ヤマハ）
▽特別賞（チーム）
王子
三菱自動車岡崎
ヤマハ
▽侍ジャパン社会人野球代表
川口　朋保（三菱自動車工業）
渕上　佳輝（トヨタ自動車）
増居　翔太（トヨタ自動車）
不後　祐将（ＪＲ東海）
嘉陽宗一郎（トヨタ自動車）
秋山　翔（三菱自動車岡崎）
福井　章吾（トヨタ自動車）
熊田　任洋（トヨタ自動車）
古川　智也（三菱自動車岡崎）
佐藤　勇基（トヨタ自動車）
中川　拓紀（ホンダ鈴鹿）
和田　佳大（トヨタ自動車）
逢澤　崚介（トヨタ自動車）
網谷　圭将（ヤマハ）
西村　進之介（ヤマハ）
水谷　祥平（ＪＲ東海）
▽特別賞（個人）
九谷　瑠（王子）
秋山　翔（三菱自動車岡崎）
相羽　寛太（ヤマハ）
吉岡　郁哉（王子）
湯浅　貴博（王子）
柴崎　聖人（王子）
佐藤　廉（ヤマハ）
井村　勇介（ホンダ鈴鹿）
▽クラブチーム優秀選手
西村　竜馬（焼津マリーンズ）
本道　優作（寿々硬式野球クラブ）
佐々木　健吾（岐阜硬式野球倶楽部）
成瀬　要（三重高虎Ｂ．Ｃ）
▽最優秀審判賞
加藤　健太朗（ＪＡＢＡ東海審判員）
功労賞（順不同）
牛場　友哉（ＪＲ東海）
中田　亮二（ＪＲ東海）
堀尾　良馬（ＪＲ東海）
松田　智宏（東海理化）
飯田　裕太（東邦ガス）
若林　俊充（東邦ガス）
河原　右京（トヨタ自動車）
小室　和弘（三菱自動車岡崎）

審判講習会を実施

◇東海地区審判講習会（3月1日　岡崎レッドダイヤモンドスタジアム）
▽参加者
役　員：5名
指導者：東海指導員5名
受講生：41名

シーズンインに備え、ピッチクロック及びルール変更点の確認、基本技術の反復練習を行うと共に、投球判定、アウト・セーフの正確なジャッジなど技術向上のため、実戦練習形式で実技を行った。

大学対抗戦は社会人5勝1敗

◇第24回東海社会人・愛知大学野球対抗戦（3月13～15日　岡崎レッドダイヤモンドスタジアム）
愛知学院大学11―1東海理化
ＪＲ東海5―2名城大学
トヨタ自動車3―0愛知工業大学
日本製鉄東海REX1―0東海学園大学
王　子9―1中部大学
西濃運輸4―3中京大学
（社会人5勝1敗）

ＪＲ東海が6回目の優勝

◇2025年ＪＡＢＡ東海地区春季大会（3月22日～5日間　岡崎レッドダイヤモンドスタジアム）
▽1回戦
三菱自動車岡崎6―4西濃運輸
トヨタ自動車9―1ホンダ鈴鹿（七回コールド）
▽2回戦
東邦ガス3―1三菱自動車岡崎
王　子5―0東海理化
トヨタ自動車6―3ヤマハ（延長十一回）

ＪＲ東海３―１日本製鉄東海ＲＥＸ
▽準決勝
東邦ガス12―８王　子
ＪＲ東海７―６トヨタ自動車（延長十回）
▽決勝
ＪＲ東海５―４東邦ガス（ＪＲ東海２大会ぶり６回目）

㊤…表彰選手…㊦
◇最優秀選手賞
不後　祐将（ＪＲ東海）
◇敢闘賞
髙橋　佑輔（東邦ガス）
◇首位打者賞
吉田　有輝（ＪＲ東海）＝12打席11打数５安打、打率４割５分５厘

近畿地区・大阪府との交流戦を開催

◇近畿地区連盟・東海地区連盟Ｕ23選抜交流戦（７月29日　わかさスタジアム京都）
東海地区選抜２―１近畿地区選抜

㊤…表彰選手…㊦
◇優秀賞
福本　綺羅（東海理化）

◇第４回ＪＡＢＡ大阪府選抜・東海地区選抜クラブ交流戦（11月22日、23日　ぎふしん長良川球場）
静岡県選抜６―１大阪府選抜
愛知・岐阜・三重県選抜９―７大阪府選抜

各大会でボールパークイベント

第71回静岡大会、第77回ベーブルース杯、第96回都市対抗２次予選、第50回日本選手権大会最終予選において、それぞれボールパークイベントを開催。ボールパークを楽しむ大勢の来場者でにぎわった。各大会の実施内容は下記のとおり。

◇静岡大会
・キッチンカー
・スコアボードメッセージ

◇ベーブルース杯
・こども縁日（ヨーヨー釣り、アヒルのおもちゃすくい）
・バンド演奏
・警察車両展示・体験コーナー（パトカー、白バイ）
・チャレンジスポーツコーナー（ストラックアウト、ティーボール）
・キッチンカー
・駄菓子販売
・抽選会

◇都市対抗２次予選「社会人野球ファン感謝祭２０２５」（６月７日、８日　岡崎レッドダイヤモンドスタジアム）
・フィールドウォーク
・球場バックヤードツアー
・キッチンスポーツ（ストラックアウト、ティーバッティング）
・３社合同自動車展示会（三菱、トヨタ、ホンダ）
・はたらくくるま展示・試乗会（西濃運輸カンガルー便トラック、パトカー、消防車）
・抽選会
・コインケース作り
・駄菓子販売
・キッチンカー
・売店・スタンド販売

◇日本選手権最終予選
・抽選会





フィールドウォーク㊤ キッズチャレンジスポーツ㊦

フォトコンテストを開催

◇JABA東海フォトコンテスト2025

東海地区春季大会、都市対抗2次予選、日本選手権最終予選を対象にフォトコンテストを実施。ファンから3大会で合計31点の作品の応募が寄せられた。各大会5点ずつ優秀作品を選び、さらにその中から年間優秀作品3点を決定。受賞者をJABA東海納会（12月9日）に招待し、表彰を行った。

▽年間優秀作品

佐藤　友美さん「咆哮」

菅谷　佳央さん「見逃し三振！」

高橋　里美さん「ノックも全力で！」

静岡県

焼津マリーンズが優勝

◇2025年JABA静岡県クラブ野球大会（3月22日、23日、5月24日、8月23日、24日、9月20日、21日　静岡西ヶ谷球場）

○…リーグ戦…○

静岡硬式野球倶楽部6―1山岸ロジスターズ

焼津マリーンズ8―6浜松ケイ・スポーツBC

富士クラブ2―1ヤマハ発動機野球部

ヤマハ発動機野球部8―8静岡硬式野球倶楽部

（九回引き分け）

浜松ケイ・スポーツBC1―0富士クラブ

焼津マリーンズ7―2山岸ロジスターズ

焼津マリーンズ10―0ヤマハ発動機野球部

（五回コールド）

富士クラブ2―2静岡硬式野球倶楽部

（九回引き分け）

山岸ロジスターズ3―0富士クラブ

浜松ケイ・スポーツBC3―1ヤマハ発動機野球部

焼津マリーンズ4―2静岡硬式野球倶楽部

山岸ロジスターズ10―2ヤマハ発動機野球部

静岡硬式野球倶楽部5―4浜松ケイ・スポーツBC

焼津マリーンズ8―1富士クラブ

（七回コールド）

山岸ロジスターズ5―5浜松ケイ・スポーツBC

（15）…**結　果**…（15）

優　勝：焼津マリーンズ

準優勝：静岡硬式野球倶楽部

3　位：浜松ケイ・スポーツBC

4　位：山岸ロジスターズ

5　位：富士クラブ

6　位：ヤマハ発動機野球部

ヤマハが4連覇

◇第7回静岡県知事杯社会人・大学野球対抗戦（3月8～9日　日本大学国際関係学部グランド、ヤマハ豊岡球場）

▽1回戦

日本大学国際関係学部5―3焼津マリーンズ

山岸ロジスターズ9―0静岡大学

▽準決勝

日本大学国際関係学部9―4静岡産業大学

ヤマハ6―1山岸ロジスターズ

▽決勝

ヤマハ1―0日本大学国際関係学部

（ヤマハは4年連続6回目の優勝）

（15）…**表彰選手**…（15）

◇最優秀選手賞

清水　智裕・捕手（ヤマハ）

◇敢闘賞

真田　瑛広・投手（日本大学国際関係学部）

愛知県

三菱自動車岡崎が2連覇

◇第23回JABA愛知県野球連盟会長杯争奪野球大会（7月5日～3日間　東邦ガス空見球場、トヨタスポーツセンター）

▽1回戦

東海理化6―0Eiken Sun 硬式野球クラブCERVEAU BLANC

王　子6―2JR東海

JR東海10―0矢場とんブルースターズ

（五回コールド）

王　子6―2BASEBALL ONE BLITZ

日本製鉄東海REX11―0愛知ベースボール倶楽部

（五回コールド）

ジェイプロジェクト7―2ジェイグループ

三菱自動車岡崎13―1寿々硬式野球クラブ

（五回コールド）

▽2回戦

東海理化3―1東邦ガス

王　子8―2JR東海

トヨタ自動車4―3日本製鉄東海REX

三菱自動車岡崎11―0ジェイプロジェクト

▽準決勝

東海理化14―1王　子

（五回コールド）

三菱自動車岡崎9―3トヨタ自動車

▽決勝

三菱自動車岡崎9―0東海理化

（三菱自動車岡崎は2大会連続4回目の優勝）

（15）…**表彰選手**…（15）

◇最優秀選手賞

大手　晴・選手（三菱自動車岡崎）

◇敢闘賞

鈴木　滉世・選手（東海理化）

◇首位打者賞

門叶　直己・選手（東海理化）＝12打席12打数8安打、打率6割6分7厘

近畿地区連盟

大阪府

◇2025年度JABA大阪府・和歌山県連盟春季大会

※7イニング制

◇3月15日（パナソニックベースボールスタジアム）

大阪ホークスドリーム　101 200 0＝4

BASEBALL ONE YAO・BC　300 020 ×＝5

（六回コールド）

大阪ガス　100 010 0＝2

マツゲン箕島硬式野球部　100 003 ×＝4

大阪ウイング硬式野球クラブ　000 000 0＝0

NTT西日本　404 11×＝10

（六回コールド）

◇3月21日（パナソニックベースボールスタジアム）

関西硬式野球クラブ　000 000 0＝0

NSBベースボールクラブ　020 001 ×＝3

パナソニック　002 200 0＝4

日本生命　300 000 0＝3

◇3月22日（パナソニック

ベースボールスタジアム）

BASEBALL ONE YAO・BC									
000	000	0	0
005	001	×	6

マツゲン箕島硬式野球部
履正社スポーツ専門学校

000	000	0	0
002	040	×	6

NTT西日本

◇3月23日（パナソニックベースボールスタジアム）

NSBベースボールクラブ

000	000	0	0
201	200	×	5

パナソニック
NTT西日本

没収試合
9―0でNTT西日本の勝ち

マツゲン箕島硬式野球部
パナソニック

001	010	0	2
200	000	1x	3

NTT西日本

最終結果

〈優　勝〉NTT西日本
〈準優勝〉パナソニック

◇第17回JABAクラブリーグ大阪大会（2時間20分規定）

◇7月13日（神姫バスキッピースタジアム）

大阪ホークスドリーム

200	023	010	8
002	200	020	6

NSBベースボールクラブ
泉州大阪野球団

000	000	000	0
021	011	02×	7

BASEBALL ONE YAO・BC
履正社ベースボールクラブ

000	000	203	5
201	300	00×	6

関西硬式野球クラブ

◇7月19日（履正社箕面グラウンド）

NSBベースボールクラブ

000	001	000	1
000	010	10×	2

履正社ベースボールクラブ

◇7月20日（関電球場）

泉州大阪野球団

000	030	00	3
000	020	03	5

大阪ウイング硬式野球クラブ

◇7月24日（履正社箕面グラウンド）

履正社ベースボールクラブ

000	510	100	7
310	100	000	5

大阪ホークスドリーム

◇7月27日（寝屋川第2球場）

NSBベースボールクラブ

002	101	02	6
032	000	30	8

関西硬式野球クラブ

◇8月3日（寝屋川第2球場）

関西硬式野球クラブ

000	020	02	4
100	012	02	6

大阪ホークスドリーム

◇8月16日（履正社箕面グラウンド）

BASEBALL ONE YAO・BC

103	000	31	8
000	000	40	4

大阪ウイング硬式野球クラブ

◇8月17日（ひらかた東部スタジアム）

泉州大阪野球団

000	000	100	1
001	015	00×	7

NSBベースボールクラブ

◇8月31日（住之江公園野球場）

大阪ウイング硬式野球クラブ

000	030	03	6
030	100	00	4

関西硬式野球クラブ
BASEBALL ONE YAO・BC

001	000	60	7
001	000	10	2

大阪ホークスドリーム

泉州大阪野球団

001	000	00	1
003	001	4×	8

履正社ベースボールクラブ

◇9月14日（住之江公園野球場）

BASEBALL ONE YAO・BC

101	220	100	7
010	000	300	4

履正社ベースボールクラブ
泉州大阪野球団

000	000	1	1
102	110	3x	8

関西硬式野球クラブ
NSBベースボールクラブ

002	123	000	8
001	002	000	3

大阪ウイング硬式野球クラブ

◇9月23日（住之江公園野球場）

泉州大阪野球団

100	001	001	3
200	000	010	3

大阪ホークスドリーム
履正社ベースボールクラブ

003	140	00	8
205	000	20	9

大阪ウイング硬式野球クラブ
BASEBALL ONE YAO・BC

000	001	000	1
010	040	00×	5

NSBベースボールクラブ

◇9月28日（寝屋川第2球場）

大阪ウイング硬式野球クラブ

220	021	01	8
000	101	01	3

大阪ホークスドリーム
関西硬式野球クラブ

000	000	100	1
010	000	21×	4

BASEBALL ONE YAO・BC

最終結果

〈優　勝〉BASEBALL ONE YAO・BC
〈準優勝〉大阪ウイング硬式野球クラブ
〈第3位〉NSBベースボールクラブ

◇大阪市野球教室開催

・開催日　2025年11月23日（日）
・会場　南港中央野球場
・指導　大阪ガス硬式野球部、NTT西日本硬式野球部、日本生命硬式野球部
・参加人数　100名

小学生を対象に開催いたしました。

指導者は大阪ガス硬式野球部、NTT西日本硬式野球部、日本生命硬式野球部の選手が担当しました。経験者クラスと初心者クラスに分け、経験者クラスではノック・ピッチング・バッティング、初心者クラスではティーバッティング、ストラックアウト、ベースランニングを行い子供たちにとって大変有意義な教室となりました。なお、参加者は同伴者も含めると約200名となりました。

毎年の恒例行事として継続してまいります。また、今後はさまざまなイベントを企画し盛り上げていきたいと考えております。

京都府

三菱自動車京都ダイヤフェニックスが優勝

◇第16回京都クラブリーグ戦（5月18日、24日、8月2日、3日、10月19日、11月1日、8日、16日　横大路野球場他）

※7回制　2時間10分規定

B-BACKS			
010	001	0	2
000	100	2	3

DBグラッズ
山城ベースボールクラブ

301	000	1	5
015	210	×	9

京都フルカウンツ

三菱自動車京都ダイヤフェニックス
000 310 5 9
010 000 0 1
京都城陽ファイアーバーズ
B-BACKS
000 400 0 4
202 000 0 4
京都城陽ファイアーバーズ
DBグラッズ
001 000 1
631 001 11
京都フルカウンツ
（六回コールド）
京都ジャスティス
000 010 0 1
101 001 × 3
DBグラッズ
B-BACKS
040 000 2 6
000 700 × 7
山城ベースボールクラブ
B-BACKS
003 001 1 5
112 000 0 4
京都ジャスティス
山城ベースボールクラブ
200 011 2 6
000 110 2 4
DBグラッズ
三菱自動車京都ダイヤフェニックス
300 106 10
026 020 10
京都フルカウンツ
（六回時間切れコールド）
山城ベースボールクラブ
000 010 0 1
010 030 × 4
三菱自動車京都ダイヤフェニックス
京都城陽ファイアーバーズ
051 000 0 6
000 100 0 1
京都ジャスティス
京都ジャスティス
000 000 0 0
010 001 × 2
京都フルカウンツ
DBグラッズ
000 00 0
430 03 10
三菱自動車京都ダイヤフェニックス
（五回コールド）
京都城陽ファイアーバーズ
004 202 0 8
005 000 0 5
山城ベースボールクラブ
山城ベースボールクラブ
000 001 0 1
100 020 × 3
京都ジャスティス
B-BACKS
010 000 0 1
310 600 × 10
三菱自動車京都ダイヤフェニックス
京都城陽ファイアーバーズ
003 000 1 4
102 001 0 4
DBグラッズ
京都城陽ファイアーバーズ
000 000 0 0
200 010 × 3
京都フルカウンツ
B-BACKS
010 110 0 3
001 021 × 4
京都フルカウンツ
京都ジャスティス
000 00 0
254 3× 14
三菱自動車京都ダイヤフェニックス
（五回コールド）

最終結果

〈1位〉三菱自動車京都ダイヤフェニックス
〈2位〉京都フルカウンツ
〈3位〉京都城陽ファイアーバーズ
〈4位〉DBグラッズ
〈5位〉山城ベースボールクラブ
〈6位〉B-BACKS
〈7位〉京都ジャスティス

兵庫県クラブ選抜が優勝

◇第7回三府県クラブ選抜対抗戦（11月23日　わかさスタジアム京都）

※7回制　2時間10分規定

京都府選抜
003 010 1 5
100 300 0 4
大阪府選抜
大阪府選抜
000 000 0 0
220 101 × 6
兵庫県選抜
兵庫県選抜
006 000 0 6
000 000 0 0
京都府選抜

野球教室を開催

◇第10回少年野球教室
・開催日　2025年8月9日（土）
・会場　わかさスタジアム京都
・参加団体　NPO法人京都市右京区少年野球振興会
・指導　日本新薬硬式野球部
・参加人数　114名

例年、京都市右京区に所属する少年野球チームを対象に開催いたしております。

今回も同所属チームへの教室を開催いたしました。

6年生も卒業し、新たな選手、また、昨年参加いただいた選手も含め成長を見届ける機会となりました。指導者は日本新薬硬式野球部選手が担当しました。アップからダウン指導、打撃、守備練習（デモンストレーションと実技）と子供たちにとって大変有意義な教室となりました。

今年は昨年以上に酷暑となり体調面でのケアが難しい状況でしたが休憩時間を十分に取り飲料水、アイシングの氷、クーリング部屋を準備し十分に注意をして開催いたしましたが子供たちも真剣に取り組んでいただき無事終了することができました。

最後に日本新薬野球部より抽選会を実施しマスコットバット、バッティング手袋等提供、全員にはチーム応援タオルを配布いただきました。

午後から日本新薬VS九州共立大学のオープン戦を開催いただき子供たちにも観覧いただきました。実戦を生で見ていただけたことも大きな収穫となったとの感想をいただけました。

野球人気向上に向け来年以降も継続して開催を検討してまいります。

兵庫県

◇2025年度兵庫県社会人野球春季大会兼第70回神戸新聞杯争奪社会人野球大会
（2025年3月15日（土）～3月21日（金）　明石トーカロ球場）

KC兵庫
000 010 000 1
000 060 01× 7
NOMOベースボールクラブ
兵庫県警察硬式野球部県警桃太郎
001 140 000 6
000 100 000 1
金次郎・関西

JRSレールスターズ
010 000 1
221 006 11
ジェイエフエフシステムズ
（六回コールド）
関メディベースボール学院
000 000 001 1
102 000 00× 3
三菱重工West
NOMOベースボールクラブ
000 060 120 9
002 001 601 10
アスミビルダーズ
日本製鉄瀬戸内
304 101 1 10
000 000 0 0
兵庫県警察硬式野球部県警桃太郎

（七回コールド）

ジェイエフエフシステムズ	0	0	0	0	0	0	0	0
	1	3	1	0	5			10
YBSホールディングス								

（五回コールド）

アスミビルダーズ	0	2	0	1	0	0	0	3
	0	4	0	1	0	2	0	7
日本製鉄瀬戸内								

YBSホールディングス	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	9	0	×			11
三菱重工West								

（五回コールド）

▽決勝戦

日本製鉄瀬戸内	3	0	0	3	0	0	1	7
	0	1	0	4	0	1	0	2×
三菱重工West								8

㊫…表彰選手…㊫

◇最優秀選手賞

田中　大貴（三菱重工West）

◇敢闘賞

岡　勝輝（日本製鉄瀬戸内）

◇打撃賞

中山　将太（三菱重工West）

◇第57回姫路市長杯争奪社会人野球大会兼2025年度兵庫県社会人野球秋季大会

（2025年8月12日（火）～8月17日（日）　ウインク球場（姫路球場））

JRSレールスターズ	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	5	0	3	0	×	8
サムティ								

（七回コールド）

関メディベースボール学院	5	2	0	0	0	5		12
	0	0	0	0	0	2		2
ジェイエフエフシステムズ								

（六回コールド）

兵庫県警察硬式野球部県警桃太郎	5	2	0	2	0	0	0	9
	0	0	0	0	0	1		1
NOMOベースボールクラブ								

（七回コールド）

KC兵庫	0	3	0	1	0	0	2	6
	2	0	0	1	1	0	2	7
金次郎・関西								

（十回からタイブレーク）

サムティ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	0	0	0	0	3	0	0	1×		4
日本製鉄瀬戸内										
アスミビルダーズ	2	0	1	4	0	0	0			8
	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
関メディベースボール学院										

兵庫県警察硬式野球部県警桃太郎

	0	0	0	1	0	0	1	2
	0	0	0	0	1	3	2×	6
三菱重工West								

▽決勝戦

YBSホールディングス	0	0	0	0	2	0	3	5
	0	0	0	2	0	0	0	2
日本製鉄瀬戸内								

（七回コールド）

アスミビルダーズ	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	1	0	3	2	0	×	7
金次郎・関西								

YBSホールディングス	0	0	0	2	0	3	5	10
	0	0	0	0	0	1	0	1
三菱重工West								

▽決勝戦

三菱重工West	0	1	0	0	0	2	0	3
	2	0	0	4	0	3	0	9
日本製鉄瀬戸内								

㊫…表彰選手…㊫

◇最優秀選手賞

市原　脩平（日本製鉄瀬戸内）

◇敢闘賞

杉浦　有祐（三菱重工West）

◇打撃賞

岡　勝輝（日本製鉄瀬戸内）

◇第21回兵庫県知事杯争奪社会人・大学野球大会（2025年11月17日（月）～11月18日（火）　G7スタジアム神戸、2025年11月19日（水）～11月21日（金）　Reフィルスタジアム（旧淡路佐野第1野球場））

神戸大学	0	0	0	0	0	0	0	0
	1	3	2	0	1	0	×	7
関西国際大学								

（七回コールド）

甲南大学	1	1	1	0	0	0	0	3
	2	0	0	2	0	0	2×	6
神戸学院大学								

日本製鉄瀬戸内	0	0	0	0	1	3	4	
	0	2	0	0	0	0	0	2
関西国際大学								
YBSホールディングス	0	0	0	0	0	1	1	
	0	2	0	0	0	0	0×	2
関西学院大学								
神戸学院大学	0	0	1	0	0	0	1	
	3	2	0	×				13
三菱重工West								

（七回コールド）

アスミビルダーズ	0	0	0	0	0	1	0	1
	0	0	0	0	0	0	0	0
神戸医療未来大学								
関西学院大学	0	0	0	0	1	0	0	1
	0	0	1	1	×			6
日本製鉄瀬戸内								
アスミビルダーズ	1	0	0	1	0	0	1	3
	1	0	0	0	0	0	0	1
三菱重工West								

▽決勝戦

アスミビルダーズ	0	0	1	1	0	0	0	2
	0	0	1	3	3	0	0	7
日本製鉄瀬戸内								

㊫…表彰選手…㊫

◇最優秀選手賞

戎　雄也（日本製鉄瀬戸内）

◇敢闘賞

鈴木　智也（アスミビルダーズ）

◇打撃賞

小深田　大地（日本製鉄瀬戸内）

◇優秀選手賞

藤川　紘斗（日本製鉄瀬戸内）

吉田　翼（アスミビルダーズ）

森津　雄大（関西学院大学）

佐藤　悠輝（三菱重工West）

◇審判講習会

1. 日程：2025年2月22日（土）
2. 場所：（座学）日本製鉄瀬戸内労働会館会議室、（実技）日本製鉄瀬戸内グラウンド
3. 参加チーム：日本製鉄瀬戸内、NSBベースボールクラブ
4. 参加者：審判員30名、連盟役員2名
5. 講習内容

① 座学

・2025年度規則改正説明

・スピードアップ特別規定説明

② 実技

・日本製鉄瀬戸内対NSBベースボールクラブのオープン戦に、主審、各塁審を交代で配置し、判定を実施。

・審判交代の都度、班ごとに実技の反省、復習を実施。

③ 目的と成果

・年間大会日程並びに使用

球場予定を説明。
・審判員としての基本を再確認。

奈良県

◇奈良県知事杯第29回大学・社会人野球大会（2025年11月1日、8日、15日、16日、22日、23日）
※9回制　2時間30分規定

▽1回戦
GXAジェッツ　010 000 210　4
NARA Ambitions club NineForce　000 000 001　1

▽1回戦
奈良学園大学　000 000 002　2
近畿大学　002 838 ×　21
（七回コールド）

▽2回戦
GXAジェッツ　000 004 0　4
近畿大学　519 101 ×　26
（七回コールド）

京都先端科学大学　000 001 110 00　3
SUNホールディングスWEST　001 001 010 01　4
（十回よりタイブレーク）

大和高田クラブ　010 000 92　12
大阪学院大学　000 003 21　6
（八回時間切れコールド）

▽準決勝
近畿大学　010 000 000 1　2
SUNホールディングスWEST　000 000 001 0　1
（十回よりタイブレーク）

天理大学　001 000 012 0　4
大和高田クラブ　000 220 000 1　5
（十回よりタイブレーク）

▽決勝戦
大和高田クラブ　000 040 000　4
近畿大学　000 001 000　1

表彰一覧
〈優勝〉大和高田クラブ
〈準優勝〉近畿大学

㊥…個人表彰…㊦

◇最高殊勲選手賞
松林　勇志（大和高田クラブ）

◇最優秀投手賞
井田　寛太（大和高田クラブ）

◇敢闘選手賞
中辻　優斗（近畿大学）

◇打撃賞
山本　晴登（大和高田クラブ）

滋賀県

◇第13回滋賀県野球連盟社会人・大学野球交流大会（2025年11月1日（土）、2日（日）　龍谷大学瀬田キャンパス野球場）
※全試合7イニング制実施

▽1回戦
OBC高島　000 000 004　4
龍谷大学　000 004 1x　5
（五回コールド）

全大津野球団　000 00　0
大谷大学　005 2×　7
（六回コールド）

ムラチグループ　001 002 7　10
びわこ成蹊スポーツ大学　001 000 0　1
・滋賀大学の棄権により、ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校が不戦勝。

▽準決勝
龍谷大学　000 000 0　0
大谷大学　000 000 1x　1

ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校　100 100 0　2
ムラチグループ　010 201 ×　4
（五回コールド）

▽決勝
大谷大学　000 000 0
ムラチグループ　220 01 2x　7
（六回コールド）

最終結果
〈優勝〉ムラチグループ
（2年連続2回目の優勝）

中国地区連盟

◇2025年中国地区連盟表彰選手

▽最優秀選手賞
上西　嵐満（JFE西日本）

▽最優秀新人賞
長野　健大（JFE西日本）

▽特別表彰
田村　強（JR西日本）

◇ベストナイン

▽投手
花村　凌（JR西日本）

▽捕手
後藤　将太（JFE西日本）

▽一塁手
原　俊太（JFE西日本）

▽二塁手
櫻井　涼（JR西日本）

▽三塁手
新倉　伯斗（伯和ビクトリーズ）

▽遊撃手
杉本　涼（JR西本）

▽外野手
大倉　卓也（JR西日本）
甲斐　悠大（日本製鉄山口）
上西　嵐満（JFE西日本）

▽指名打者
横田　優輝（日本製鉄山口）

◇クラブチームベストナイン

▽投手
比嘉　幸宏（三原ヤッサB・B・C）

▽捕手
水本　雄也（山口防府B・B・C）

▽一塁手
前原　翔太（山口防府B・B・C）

▽二塁手
石丸　隆哉（三和テクノイノベーション）

▽三塁手
次藤　優翔（山口防府B・B・C）

▽遊撃手
山下　真広（福山ローズファイターズ）

▽外野手
前田　裕樹（山口防府B・B・C）
中村　浩嵩（三原ヤッサB・B・C）
政田　一成（倉敷ピーチジャックス）

▽指名打者
田畑　吏空也（福山ローズファイターズ）

◇中国・四国クラブ野球選手権大会
○…岡山県・島根県予選…◯

※7イニング制　リーグ戦
倉敷ピーチジャックス
402 000 0 6
110 110 0 4
MJG島根
（倉）早藤・石田―田邊
（M）三角・大濱・谷―今福
▽本塁打　南（倉）
ショウワコーポレーション
002 010 0 3
000 000 0 0
MJG島根
（シ）橋爪・橋本・磯村―内之倉・櫻木
（M）森本・三島―今福
▽本塁打　堀（シ）
倉敷ピーチジャックス
000 000 0
002 005 7
ショウワコーポレーション
（六回コールド）
（倉）黒瀬・長島―田邊
（シ）寺田―岩崎
※ショウワコーポレーションが決勝トーナメントに進出
○…広島県予選…○
MSH医療専門学校
100 120 000 4
220 000 001 5
広島鯉城クラブ
（M）豊田・竹ノ内・廣谷・坂本―砂田
（広）梶間・中谷・坂倉―外薗
○…山口県予選…○
岩国五橋クラブ
000 000 0 0
021 220 × 7
三和テクノイノベーション
（七回コールド）
（岩）白幡―渋田
（三）金谷―延命
三和テクノイノベーション
411 000 000 6
101 000 000 2
防府ベースボールクラブ
（三）原―延命
（山）森本・佐伯（和）―水本
※三和テクノイノベーションが決勝トーナメントに進出
○…決勝トーナメント…○
▽準決勝
三和テクノイノベーション
001 110 000 3
202 002 01× 7
ショウワコーポレーション
（三）原―延命
（シ）福島・蒲・橋爪―岩崎・内之倉
▽本塁打　内之倉（シ）
松山フェニックス
000 002 020 4
000 010 301 5
三原ヤッサベースボールクラブ
（松）高松―塩見
広島ベースボールクラブ
000 000 0 0
000 352 × 10
三原ヤッサベースボールクラブ
（七回コールド）
（広）梶山・城市・森・木山―廣森（雅）
（三）松本・比嘉・秋風・伊藤―中村（爽）
広島鯉城クラブ
100 000 00 1
100 060 01 8
福山ローズファイターズ
（八回コールド）
（広）村島・佐藤（耕）・中谷・田崎―外薗
（福）浜崎・白井・髙柳―吉田
三原ヤッサベースボールクラブ
040 010 010 6
010 000 001 2
福山ローズファイターズ
（三）比嘉・松本―中村（爽）
（福）山田・末道・井上・髙柳―吉田・山根
※三原ヤッサベースボールクラブが決勝トーナメントに進出
（三）松本・比嘉―河野・中村（爽）
▽決勝
三原ヤッサベースボールクラブ
010 010 000 2
001 000 12× 4
ショウワコーポレーション
（三）比嘉・原田・松本―中村（爽）・河野・古和田・井上・塩見
（シ）寺田・引地・橋本・磯村―櫻木・岩崎
▽本塁打　開原（三原）
（ショウワコーポレーション初優勝）

中国地区審判講習会を開催

第60回中国地区連盟審判講習会を3月1日・2日に岡山県で開催した。

初日の1日は15時より座学を2日目の2日は三菱自動車倉敷オーシャンズグラウンドにおいて実技を実施した。

桑原委員長をはじめ清水・美濃・西井3名の講師と4名のスーパーバイザーに各県から24名の審判員が参加してルールや動きについて質疑を重ね熱心に受講した。

今回は、規則改正をはじめ1塁フォース・ダブルプレイを中心に4人制メカニックスでの各塁審のポジショニングを丁寧に指導していただき確認を行った講習会であった。

2025年全日本ジュニア合宿

7月19日に中国地区・四国地区合同でツネイシスタジアムにおいて実施した。

将来の社会人日本代表候補選手の発掘及び潜在的能力可視化のためのデータ収集・分析を目的に、中国地区から20名、四国地区から6名の合計26名の選手が参加して、フィジカル測定や専用機器を用いた投球回転数・打球速度等の計測を行った。

冒頭のオリエンテーションにおいて、社会人代表川口監督より代表チームの方針や取り組みについて具体的に説明いただき、その映像を録画のうえ参加チームへ共有することにより、代表チームの取り組みへの理解促進を図った。

総評の際には、データ分析の専門家から意見をもらうことにより、参加選手の意識改革やモチベーション向上につながる非常に意義のある一日となった。

また、2025アジアウインターベースボールリーグメンバーに中国地区から長野健大投手（JFE西日本）、中岡大河投手（JR西日本）の2名が選出され、チームの優勝に貢献した。

㊗…表彰選手…㊗

◇最高殊勲選手賞
磯村　翔吾（ショウワコーポレーション）

◇敢闘賞
角田　頼威（三原ヤッサベースボールクラブ）

第3回中国地区選抜ＶＳ九州地区選抜交流戦を開催

8月9日（土）第3回交流戦を山口市の「山口マツダ西京きずなスタジアム」で開催した。毎年恒例となってきた交流戦、今年は球場名（さいきょう）にちなみ「最強X最強」とのキャッチフレーズを入れたポスターを作製し一層の盛り上がりを図った。また、地元の少年野球チームを招待し試合開始前に各ポジションの選手と一緒にそれぞれの守備位置まで走って行き、始球式という流れとし、全員に記念ボールをプレゼントした。選手をはじめ、保護者、一般観戦者の方々にも大好評であった。

都市対抗野球本大会前の開催となり、両チームともそれぞれの都市対抗野球本大会地区代表チームを中心としたメンバー編成としたため緊張感あふれる真剣勝負となり、観戦されたファンの方々に社会人野球の魅力を大いにアピール出来た。結果は九州地区選抜チームが勝利した。

また、同じ会場、時間で両地区の選手、スタッフ、役員が一堂に会しての夕食会となり交流、懇親、情報共有が一段と深められる有意義な機会となり、更なる社会人野球、両地区連盟の発展に繋げていくことを再確認した。なお、8月10日（日）も第2戦を開催予定であったが、雨天のため中止となった。

次回は、九州地区連盟主管で開催予定であるが、ＳＮＳやポスターなどメディアを利用して、より盛大な大会として発展させたい。

岡山県

社会人 4勝1敗

◇第28回社会人・大学対抗野球大会（3月15日、17日　マスカットスタジアム）

吉備国際大学
000 000 000 0
000 010 00× 1

三菱自動車倉敷オーシャンズ
シティライト岡山
300 000 003 6
001 000 000 1

環太平洋大学
ショウワコーポレーション
000 002 004 6
001 100 000 2

岡山商科大学
岡山理科大学
010 000 000 1 2
000 000 100 0 1

三菱自動車倉敷オーシャンズ
（延長十回）
倉敷ビーチジャックス・MJG島根連合
101 000 033 8
002 001 000 3

川崎医療福祉大学
三菱自動車倉敷オーシャンズ
2大会連続4回目の優勝

◇第15回岡山県・島根県社会人野球選手権大会（10月18～19日　美咲町エイコンスタジアム）

▽1回戦
ショウワコーポレーション
240 007 1 14
000 000 0 0

倉敷ビーチジャックス
（七回コールド）

▽2回戦
MJG島根
000 004 0 4
041 072 × 14

三菱自動車倉敷オーシャンズ
（七回コールド）
シティライト岡山
000 300 000 00 3
000 002 001 01 4

ショウワコーポレーション
（延長十一回タイブレーク）

▽決勝
三菱自動車倉敷オーシャンズ
020 010 000 1 4
020 000 010 0 3

ショウワコーポレーション
（延長十回タイブレーク）

㊫…表彰選手…㊪

◇最優秀選手賞
長谷川　康生（三菱自動車倉敷オーシャンズ）

◇敢闘賞
渡辺　颯真（ショウワコーポレーション）

広島県

ＪＦＥ西日本が優勝

◇第72回ＪＡＢＡ松本瀧蔵旗野球大会兼第60回ＪＡＢＡ三浦芳郎旗争奪野球大会（3月22日、23日、24日　やまみ三原市民球場）

▽1回戦
広島ベースボールクラブ
000 000 000 0
000 300 01× 4

ＭＳＨ医療専門学校
広島鯉城クラブ
000 200 000 2
000 001 02× 3

三原ヤッサベースボールクラブ

▽代表決定戦
ＭＳＨ医療専門学校
000 000 0 0
100 001 5 7

三原ヤッサベースボールクラブ
（七回コールド）

▽2回戦
伯和ビクトリーズ
000 001 020 3
010 000 010 2

福山ローズファイターズ
ツネイシブルーパイレーツ
100 110 000 3
000 100 000 1

三原ヤッサベースボールクラブ

▽準決勝
ＪＦＥ西日本
001 201 06 10
000 001 01 2

伯和ビクトリーズ
（八回コールド）
ツネイシブルーパイレーツ
211 411 10
000 000 0 0

ＪＲ西日本

（六回コールド）

▽決勝
ツネイシブルーパイレーツ
210 001 000 4
001 121 02× 7

ＪＦＥ西日本

㊫…表彰選手…㊪

◇最優秀選手賞
長野　健大（ＪＦＥ西日本）

◇敢闘賞
中里　壱成（ツネイシブルーパイレーツ）

◇首位打者賞
河内　愛哉（ＪＦＥ西日本）＝6打数3安打、打率5割0分0厘

プロ・アマ交流戦中止

◇2025年プロ・アマ交流戦
例年3月上旬に行っていたが、広島東洋カープとの日程

調整がつかないため2025年も開催を見送ることになった。

山口県

◇2025年度JABA毎日杯・知事杯争奪山口県野球大会（3月22日）

▽1回戦

岩国五橋クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山口防府ベースボールクラブ	2	0	0	0	0	0	0	0	2
三和テクノイノベーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日鉄ステンレス	2	1	2	1	2	2	0	0	10

（六回コールド）

▽決勝

山口防府ベースボールクラブ	0	0	1	0	0	0	0	0	1
日鉄ステンレス	0	0	1	0	1	1	4	0×	7

7割1分4厘

◇2025年度ティーボール教室実施

▽第1回

開催日　6月7日

会　場　航空自衛隊防府南基地

基地開庁記念日に併せて実施。基地来訪者に対して幅広い年代に（参加者216名）Tボール教室を通して野球の楽しさを広めることが出来た。

◇2025年度野球教室

▽第1回

開催日　12月13日

会　場　津田恒実メモリアルスタジアム

日本製鉄山口硬式野球部員指導のもと小学生を対象にスケジュールに沿って実施、参加者一人一人とのふれあいを通じ、野球の魅力や楽しさ、仲間との絆を深めることの素晴らしさを伝える一助となることが出来、大変有意義な時間となった。

㊫…表彰選手…㊫

◇最高殊勲選手賞

林　拓馬（日鉄ステンレス）

◇敢闘賞

佐伯　和哉（山口防府ベースボールクラブ）

◇首位打者賞

林　拓馬（日鉄ステンレス）＝7打数5安打、打率7割1分4厘

◇首位打者賞

石原　悠志・内野手（イワキテック）＝8打席8打数5安打、打率6割2分5厘

◇第49回全日本クラブ野球選手権大会四国、愛媛県開催

期日　2025年9月13日～4日間

場所　愛媛県松山市（坊っちゃんスタジアム）、愛媛県今治市（今治市営球場）

地区連盟所属2チーム出場

イワキテック（地区特別枠）

松山フェニックス（中・四国二次予選）代表として出場

両チームベスト8で敗退

マツゲン（近畿和歌山）5―3大和高田（近畿奈良）

マツゲン（近畿和歌山）が優勝

四国地区連盟

◇2025年四国地区連盟表彰監督・選手

◇監督

杉山　洋一（JR四国）

◇ベストナイン

▽投手

川合　慎磨（JR四国）

▽捕手

吉尾　竜一（イワキテック）

▽内野手

大北　海斗（四国銀行）

石原　悠志（イワキテック）

美濃　晃成（JR四国）

元山　雄志（四国銀行）

▽外野手

山根　一輝（JR四国）

井脇　将誠（JR四国）

大谷　雄志（四国銀行）

▽指名打者

篠崎　康（JR四国）

◇特別表彰

近藤　壱来（JR四国）

◇第51回四国地区連盟審判講習会（2025年2月2日（土）　香川県観音寺市の観音寺総合運動公園野球場で開催。

当日グラウンド状況が悪く室内体育館で役員4名、日本野球連盟規則委員長桑原和彦、吉野弘則、深沢俊一氏の指導のもと、香川県14名、愛媛県4名、高知県5名、徳島県10名、合計41名の参加でJR四国、アークバリア（社会人）、観音寺高校野球部（高校生）の協力のもと実施。グラウンド不良のため室内の講習であったが、きめ細かい重要な講習を受けられ今後の公式戦審判に役立つものと思われる。

◇第73回春季四国社会人野球大会

第73回春季四国社会人野球大会を3月23日（日）24日（月）初めて愛媛県今治市の今治市営球場で開催。本大会より新規登録クラブチーム、イワキテック（越智郡上島町）を加え四国銀行、JR四国、アークバリア、松山フェニックス、徳島野球倶楽部以上6チームでトーナメント方式実施。

▽1回戦

アークバリア4―10JR四国

徳島野球倶楽部0―30四国銀行

▽準決勝

イワキテック5―3四国銀行

松山フェニックス5―6JR四国

▽決勝戦

JR四国	1	1	2	0	3	3	2		12
イワキテック	2	0	0	0	0	0	0		2

（七回コールド）

㊫…表彰選手…㊫

◇最高殊勲選手賞

石丸　慶次郎・投手（JR四国）

◇敢闘賞

加藤　祥太・投手（イワキテック）

九州地区連盟

九州地区連盟は2026年2月7日、福岡市内で総会を開き、2025年度の九州地区連盟年間成績とベストナイン、新人賞を表彰した。

◇**2025年度九州地区の年間成績**

①西部ガス②Honda熊本③KMGホールディングス④JR九州⑤福岡トヨタFTサンダース⑥日本製鉄九州⑦宮崎梅田学園⑧ビッグ開発BC⑨エナジック⑩沖縄電力⑪佐伯市硬式野球団⑫日産自動車九州⑬熊本ゴールデンラークス⑭鹿児島ドリームウェーブ⑮宮崎福祉医療カレッジ⑯GENESIS FUKUOKA⑰シンバネットワークアーマンズBC⑱沖データコンピュータ教育学院⑲九州総合スポーツカレッジ⑳新海屋㉑佐賀魂㉒九州工科自動車専門学校㉓エーアールライノス㉔薩摩ライジング㉕嘉麻市バーニングヒーローズ㉖REXパワーズ㉗ARC九州㉘てるクリニック㉙クリード安仁屋BC㉚北九州市民硬式野球クラブ㉛BEZEL Sports Academy（大分）、SUNホールディングス長崎（長崎）、ビクトリークロウ（佐賀）

【新規加入】

宗像コンバージェンスクラブ（福岡）南薩ビクトリーズ（鹿児島）

【企業からクラブへ変更】

九州総合スポーツカレッジ

◇**九州地区連盟ベストナイン表彰**

▽**投手**

島袋　圭亮（Honda熊本）

▽**捕手**

松山　翔太（西部ガス）

▽**一塁手**

古寺　宏輝（Honda熊本）

▽**二塁手**

古川　朋樹（西部ガス）

▽**三塁手**

井手　隼斗（西部ガス）

▽**遊撃手**

風岡　賢汰（KMGホールディングス）

▽**外野手**

中島準矢（Honda熊本）

正木慎也（西部ガス）

山脇彰太（JR九州）

▽**指名打者**

該当者なし

▽**新人賞**

七條　太一（JR九州）

◇**2025年永年功労選手**

▽**25年**

林亮介（沖データコンピュータ教育学院）

内西純一（福岡クラブ）

▽**20年**

野母克彦（北九州市民硬式クラブ）

田中尚樹（北九州市民硬式クラブ）

照屋翔太郎（てるクリニック）

石川健太（てるクリニック）

▽**15年**

奥美佐雄（嘉麻市バーニンググヒーローズ）

緒方宏武（北九州市民硬式クラブ）

江口悟史（佐賀魂）

三浦俊範（BANBC）

平良大悟（沖縄電力）

山川大輔（沖縄電力）

照屋吐夢（沖縄電力）

照屋樹（てるクリニック）

▽**10年**

村田健（西部ガス）

浜砂義幸（北九州市民硬式クラブ）

森岡幸汰（日産自動車九州）

島袋圭亮（Honda熊本）

与座嵩平（日本製鉄九州）

山路篤史（BANBC）

佐々木智一（BANBC）

玉城修（ビッグ開発クラブ）

内間敦也（沖縄電力）

桃原源輝（クリード安仁屋クラブ）

◇**強化・普及**

◇**第2回九州・中国地区連携交流戦**

8月9日に山口マツダ西京きずなスタジアム（山口市）で第3回中国地区・九州地区選抜交流戦を実施した。両地区の選抜メンバーが対戦し、九州地区選抜が6―0で勝利した。

九州地区の選抜メンバーは以下の通り。

▽監督　松薗史敏▽コーチ　今村直樹、渡辺正健▽投手　高椋俊平、大畑蓮、岩崎皓介、寺澤神、島袋圭亮、西山大成、大久保啓、安里海▽捕手　松山翔太、丸山竜治、中里高郎▽内野手　井手隼斗、古寺宏輝、三野原愛望、高垣広大、田場亮平、小濱佑斗、仁木敦司、柴田恭佑▽外野手　安永元也、中島準矢、稲垣翔太、山田遼平、山脇彰太、安藤駿▽マネジャー　直江将也、菅沼賢一▽トレーナー　稲吉明

◇**JABA九州大会少年少女野球教室**

5月6日のJABA九州大会前日に北九州市民球場横のグラウンドで小学生を対象に野球教室を開催した。JR九州OBが講師を務め、参加チームの児童たちは講師の話等を真剣に聞き野球に取り組んでいた。また、JABA九州大会に出場するチームからグッズを提供してもらい配布し、子供たちから好評を博した。

◇**集客・広報**

◇**特産品抽選会**

都市対抗大会九州地区2次予選、日本選手権大会九州予選において、九州各県の特産物を抽選で観客に贈呈する抽選会を実施した。各都道府県連盟が趣向を凝らした土産物を準備し、代表決定戦の入場者に抽選で当たる試みは今年も好評だった。

9月に熊本市で開催した社会人野球日本選手権九州地区予選において第二代表決定戦の前に初めての試みとして女子硬式野球国府高校と秀岳館高校の試合を実施し、相互の交流を図りつつ、集客増につなげた。

◇**第20回JABA九州地区クラブ野球選手権大会**

◇**福岡県予選**（8月23～24日　広陵グリーンスタジアム）

▽1回戦

北九州市民硬式野球クラブ4―1GENESIS FUKUOKA

福岡トヨタ硬式野球クラブFTサンダース10―3KGアカデミー

REXパワーズ8―5福岡BC

嘉麻市バーニンググヒーローズ7―5ARC九州

▽代表決定戦

福岡トヨタFTサンダース8―1北九州市民硬式野球クラブ

REXパワーズ9―4嘉麻市バーニンググヒーローズ

◇**中九州予選**（9月13～15日　別大興産スタジアム）

▽1回戦

BANBC4－3BEZEL
佐賀　魂（不戦勝）SUNホールディングス

▽代表決定戦

九州工科自動車専門学校8－1BANBC
九州総合スポーツカレッジ11－4佐賀　魂

◇**南九州予選**（9月6～7日　アイビースタジアム）

▽代表決定戦

鹿児島ドリームウェーブ11－10薩摩ライジング
宮崎福祉医療カレッジ7－5鹿児島ドリームウェーブ
宮崎福祉医療カレッジ8－1薩摩ライジング

◇**沖縄県予選**

※沖縄は2チームの出場辞退により予選なし

◇**第20回九州クラブ選手権大会**（10月18～19日　ひぜしんスタジアム、花山球場）

▽1回戦

九州総合スポーツカレッジ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ビッグ開発BC	0	0	0	0	2	0	4×		6

（九）脇田、八田、森、富盛（ビ）大山

▽二塁打　森田（九）、山城、吉浜、田久見（ビ）

▽三塁打　山城（ビ）

REXパワーズ

	1	3	0	0	0	0	0	0	4
	0	1	0	0	2	1	0	1	5

鹿児島ドリームウェーブ
（延長十一回大会規定により十回からタイブレーク）

（R）織田、島尻、村濱（鹿）津波、早瀬、江口

▽二塁打　濱島、吉田（鹿）

クリード安仁屋BC	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福岡トヨタFTサンダース	0	0	0	1	1	0	1×		4

（ク）宮城

（福）藤崎、生田、江藤、竹内、杉山

▽二塁打　神谷（ク）、福島2（福）

▽本塁打　福島（福）

九州工科自動車専門学校	1	0	0	1	0	0	0		2
宮崎福祉医療カレッジ	0	0	0	2	0	1	3×		7

（九）迫、近藤、迫、黒田（宮）甲斐、正山、市野

▽二塁打　古閑、迫（九）

▽本塁打　下川（宮）

▽準決勝

鹿児島ドリームウェーブ	1	0	0	0	2	0	0		5
ビッグ開発BC	0	0	1	1	0	5	3×		11

（鹿）肝付、右田、津波、早瀬、小久保（ビ）宮城、國吉、護得久

▽二塁打　村松、吉田（鹿）仲程、山城、花城、田中（ビ）

▽三塁打　濱島（鹿）

▽本塁打　下池（鹿）

宮崎医療カレッジ	1	1	0	0	0	1	0		4
福岡トヨタFTサンダース	0	0	0	0	3	0	2×		5

（宮）甲斐、佐藤、竹中、市野（福）増木、生田

▽二塁打　三原、福島（福）

▽三塁打　松山（宮）

▽決勝

福岡トヨタFTサンダース	2	0	2	1	0	0	0	0	1	6
ビッグ開発BC	1	1	0	3	3	0	1	0×		9

（福）増木、竹内、生田、森田、江藤、恵良（ビ）大山、護得久

▽二塁打　棟田、東城、石田、三原（福）、吉浜、仲程、田久見（ビ）

▽三塁打　菅井（福）、仲程（ビ）

㊫…表彰選手…㊫

◇**最高殊勲選手賞**

護得久　廉（ビッグ開発BC）

◇**敢闘賞**

福島　悠介（福岡トヨタFTサンダース）

福　岡　県

◇**第71回福岡県野球連盟会長杯**（3月22～24日　SGマリンフィールド東浜、日産スタジアム）

※7イニングス制

▽1回戦

日産自動車九州6－0北九州市民硬式野球クラブ（KMGホールディングス）
福岡BC9－7エーアールライノス（沖データコンピュータ教育学院）
沖データコンピュータ教育学院9－3REXパワーズ

▽2回戦

西部ガス9－2KMGホールディングス（四回コールド）
日産自動車九州9－0ARC九州（五回コールド）
JR九州10－0福岡BC（五回コールド）

▽準決勝

西部ガス4－0沖データコンピュータ教育学院
日産自動車九州4－1JR九州

▽決勝

日産自動車九州

	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	3	2	×		5

西部ガス

㊫…表彰選手…㊫

◇**首位打者賞**

仲程　海琉（ビッグ開発BC）＝9打数6安打　打率6割6分7厘

◇**最高殊勲選手賞**

大畑　蓮（西部ガス）

◇**敢闘賞**

高比良　駿（日産自動車九州）

◇**首位打者賞**

松尾　泰起（日産自動車九州）＝11打数7安打　打率6割3分6厘

◇**第3回福岡県社会人野球秋季交流戦**（10月4～7日　SGマリンフィールド東浜、日産スターグラウンド）

※7イニングス制

▽1回戦

福岡トヨタFTサンダース	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
部硬式野球										
KMGホールディングス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（五回コールド）

◇**最優秀選手賞**

河野　太郎（KMGホールディングス）

◇**敢闘賞**

野中　翔太（西部ガス）

KMGホールディングス1－0ARC九州
エーアールライノス8－2福岡BC
JR九州9－0北九州市民硬式野球クラブ（六回コールド）
GENESIS FUKUOKA7－2CKGアカデミー
REXパワーズ9－2嘉麻市バーニングヒーローズ

▽2回戦

KMGホールディングス5－3JR九州
西部ガス11－0福岡トヨタFTサンダース硬式野球部（五回コールド）
REXパワーズ1－0エーアールライノス
日産自動車九州8－1GENESIS FUKUOKA

▽準決勝

西部ガス7－0REXパワーズ
KMGホールディングス7－5日産自動車九州

▽決勝

西部ガス

	1	0	0	0	0	0	0	1	2
	0	0	5	0	1	0	×		6

KMGホールディングス

㊫…表彰選手…㊫

大分県

◇第15回ＪＡＢＡ大分県選手権大会（11月2日、8日　明野球場）

※7イニングス制

▽1回戦

佐伯市硬式野球団10―0ＢＡＮＢＣ

日本製鉄九州6―3佐伯市硬式野球団

▽準決勝

日本製鉄九州18―0ＢＥＺＥＬ（四回コールド）

佐伯市硬式野球団3―2九州総合スポーツカレッジ

▽決勝

佐伯市硬式野球団	011	000	1	3
日本製鉄九州	000	114	×	6

㊫…表彰選手…㊫

◇最優秀選手賞

南里　健斗（日本製鉄九州）

◇敢闘賞

中矢　昴（佐伯市硬式野球団）

熊本県

◇第14回古田昌幸杯（3月22～23日　Ｈｏｎｄａ熊本野球場、山鹿市民球場）

※7イニングス制

▽1回戦

Ｈｏｎｄａ熊本3―1熊本大学

佐伯市硬式野球団（大分）13―5熊本学園大学

熊本ゴールデンラークス14―2崇城大学

東海大学8―1九州工科自動車専門学校

▽準決勝

Ｈｏｎｄａ熊本5―0佐伯市硬式野球団

熊本ゴールデンラークス3―2東海大学九州

▽決勝

熊本ゴールデンラークス2―0Ｈｏｎｄａ熊本

㊫…表彰選手…㊫

◇殊勲賞

松江　優作（熊本ゴールデンラークス）

◇敢闘賞

江口　晶大（東海大学九州）

宮崎県

◇第19回ＪＡＢＡ宮崎県野球連盟杯（7月27日　天福球場）

▽リーグ戦

宮崎梅田学園24―3宮崎医療カレッジ（五回コールド）

宮崎医療カレッジ5―2新海屋

宮崎梅田学園3―0新海屋

▽順位

〈1位〉宮崎梅田学園

〈2位〉宮崎医療カレッジ

〈3位〉新海屋

◇第16回宮崎市長杯社会人・大学野球選手権大会（11月30日　天福球場）

※7イニングス制

▽1回戦

宮崎産業経営2―1宮崎福祉医療カレッジ

宮崎梅田学園45―0南九州大（三回コールド）

▽決勝

宮崎産業経営大	000	000	1	1
宮崎梅田学園	110	000	×	2

㊫…表彰選手…㊫

◇最高殊勲選手賞

大久保　啓（宮崎梅田学園）

◇優秀選手賞

原田　武蔵（宮崎産業経営大）

鹿児島県

◇第9回鹿児島県社会人・大学交流野球大会（11月22～23日　姶良総合運動公園野球場）

▽1回戦

鹿児島ドリームウェーブ6―0鹿屋体育大

薩摩ライジング5―1第一工科大

▽決勝

薩摩ライジング	011	100	020	5
鹿児島ドリームウェーブ	211	002	03×	9

（薩）国生、武田、川添（鹿）津波、肝付、江口

▽三塁打　坂上将（薩）

▽二塁打　高木、坂上将（薩）、濱島、桂川、川口、吉田（鹿）

㊫…表彰選手…㊫

◇最優秀選手賞

川口　侑宏（鹿児島ドリームウェーブ）

沖縄県

◇第43回石川逢篤杯争奪公式野球大会（3月22～24日　ＡＮＡ　ＢＡＬＬ　ＰＡＲＫ浦添）

▽1回戦

沖縄国際大6―0てるクリニック

名桜大7―1クリード安仁屋

▽2回戦

ビッグ開発ＢＣ2―1沖縄国際大

沖縄大4―0シンバネットワークアーマンズＢＣ

沖縄電力11―0琉球大（五回コールド）

エナジック7―2名桜大

▽準決勝

ビッグ開発ＢＣ6―5沖縄大

沖縄電力3―1エナジック

▽決勝

ビッグ開発ＢＣ	000	01	1
沖縄電力	223	04	11

（五回コールド）

（ビ）護得久、大山（沖）内間

▽二塁打　吉浜（ビ）山川、川端、金城秀（沖）

▽本塁打　小濱（沖）

㊫…表彰選手…㊫

◇殊勲賞

内間　敦也（沖縄電力）

◇敢闘賞

大山　正剛（ビッグ開発ＢＣ）

◇首位打者賞

吉濱　稜人（ビッグ開発ＢＣ）＝6打数3安打、打率5割

◇第33回ＲＢＣ杯争奪硬式野球大会（10月25日　エナジックスタジアム名護）

▽準決勝

沖縄電力6―0沖縄国際大学

エナジック9―0シンバネットワークアーマンズＢＣ

▽決勝

エナジック	200	000	0	2
沖縄電力	100	203	×	6

（エ）宮城、仲尾次、大嵩、黒木（沖）安里海、山城悠

▽二塁打　古堅宗（エ）

▽三塁打　宮平（エ）

▽本塁打　小濱（沖）

㊫…表彰選手…㊫

◇殊勲賞

山城　悠輔（沖縄電力）

◇敢闘賞

大嵩　博斗（エナジック）

◇首位打者賞

小濱　佑斗（沖縄電力）＝5打数4安打、打率8割

全国一斉ティーボール教室、野球教室を全国で開催

日本野球連盟（ＪＡＢＡ）が野球競技の普及振興のために取り組む「全国一斉ティーボール教室」が全国約60カ所で実施された。このイベントは、ＪＡＢＡ設立70周年に合わせ、２０１８年秋に記念事業の一環として始まった。25年度の参加者は未就学児約３０００人で、約30の企業・クラブチームの関係者たちとともに「投げる・打つ・走る」の楽しさを体感した。

また、地区連盟などが中心になって展開する「野球教室・ティーボール教室」も、各地で行われ、社会人野球関係者たちが参加した子どもたちと一緒に体を動かした。

ティーボール教室などのイベントは26年度も実施。全国各地から野球の普及振興に向けた取り組みを続ける。

2025年度全国一斉ティーボール教室開催一覧

地区	都道府県	チーム名	種別	開催日	対象幼稚園名・開催場所等	参加人数
北海道	北海道	JR北海道硬式野球クラブ	クラブ	12/3	学校法人大藤学園　北都幼稚園	90
					北海道地区小計	90
東北	宮城	ＪＲ東日本東北	会社	11/12	利府幼稚園	70
	秋田	ＪＲ秋田	会社	11/5	南通りすこやか保育園	28
					東北地区小計	98
北信越	新潟	バイタルネット	会社	11/11	泉第二幼稚園	40
				1/17	遊コスモス小新保育園	16
	長野	信越硬式野球クラブ	クラブ	10/29	俊英幼稚園	21
		千曲川硬式野球クラブ	クラブ	12/18	上田北幼稚園	40
					北信越地区小計	117
関東	茨城	日本製鉄鹿島	会社	1/16	佐田保育園	18
				1/29	波野幼稚園	24
				1/20	宮下保育園	27
				1/23	高松幼稚園	19
				1/27	平井認定こども園	34
				1/28	三笠幼稚園	28
		ＪＲ水戸	会社	10/17	常磐大学こども園　遊戯室	6
	栃木	コットンウェイ硬式野球倶楽部	クラブ	3/28	真岡ふたば幼稚園	50
	千葉	日本製鉄かずさマジック	会社	1/14	狭山市立笹井保育所グラウンド	46
				1/15	狭山台南保育所グラウンド	43
		千葉熱血ＭＡＫＩＮＧ	クラブ	11/1	ケヤキッズ保育園	25
	東京	鷺宮製作所	会社	1/14	狭山市立笹井保育所グラウンド	46
				1/15	狭山台南保育所グラウンド	43
					関東地区小計	409






園児たちと一緒にボール遊びを楽しむ三菱自動車岡崎の選手たち

東海	愛知	王子	会社	1/14	春日井市立第一保育園	30
		三菱自動車岡崎	会社	12/3	山中保育園、八帖保育園、井田保育園、北野保育園、細川保育園、豊富保育園	184
		東海理化	会社	1/13	睦美保育園	20
				1/23	為当保育園	24
				1/16	大和保育園	12
				1/21	豊川北部保育園	35
				1/19	八幡保育園	24
				1/27	御油保育園	37
		東邦ガス	会社	12/3	野並保育園	90
				12/15	野並保育園	90
		ＪＲ東海	会社	11/21	米野公園	27
	岐阜	西濃運輸	会社	11/25	西濃運輸グラウンド	17
				12/9	西濃運輸グラウンド	34
	三重	Ｈｏｎｄａ鈴鹿	会社	1/14	玉垣幼稚園	26
				1/28	神戸幼稚園	24
					東海地区小計	674
近畿	大阪	大阪ガス	会社	11/27	社会福祉法人四恩学園 四恩るり保育園	28
				11/19	しおあなの森保育園	20
				12/11	学校法人阪急学園 段上幼稚園	74
				12/22	学校法人鈴蘭台学園 鈴蘭台幼稚園	36
	京都	日本新薬	会社	12/17	日本新薬本社グラウンド	50
	兵庫	三菱重工West	会社	12/9	三菱重工業㈱神戸造船所 スポーツセンター	20
				1/28	米田こども園	64
		兵庫県警察硬式野球部県警桃太郎	クラブ	11/13	こじかこども園	111
					近畿地区小計	403
中国	山口	日本製鉄山口	会社	12/3	三輪幼稚園（光市）	30
				12/5	東光保育園（光市）	50
				12/10	浅江東保育園（光市）	30
				12/17	須々万保育園（周南市）	45
	広島	ＪＦＥ西日本	会社	12/9	福山りじょう幼稚園	30
				1/19	青空認定こども園	34
				1/21	学校法人誠之学園 認定こども園 第二まこと幼稚園	75
		伯和ビクトリーズ	会社	12/13	ティーボール大会（アクアスタジアム）	300
				4/26	ティーボール大会（アクアスタジアム）	300
				12/10	入野光保育園	40
				1/21	三永太陽保育園	40
					中国地区小計	974
四国	香川	ＪＲ四国	会社	11/20	つくし幼稚園　グラウンド	80
	愛媛	松山フェニックス	クラブ	1/23	松山市立石井幼稚園 南園庭	95
					四国地区小計	175
九州	福岡	日産自動車九州	会社	1/27	日産スターグラウンド	35
		ＪＲ九州	会社	11/28	藤松保育園、こばと幼稚園	78
	大分	日本製鉄九州	会社	12/15	スマイスセレソンスポーツ幼児園三佐園庭	21
					九州地区小計	134
					合　計	3074





園児にティーボールを教える日本製鉄山口の選手

ティーボール・野球教室

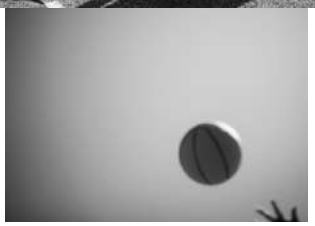
事業タイプ	団体名称	事業名	期間	会場	参加人数
野球教室・ティーボール教室	JABA岡山県野球連盟	第19回（令和7年）少年親善硬式野球大会	2025/12/7	日比熱錬スタジアム	63
野球教室・ティーボール教室	JABA岐阜県野球連盟	西濃運輸子ども野球教室	2025/8/6	サン・スポーツランドふるかわ	100
野球教室・ティーボール教室	JABA岐阜県野球連盟	高山市野球教室	2025/8/6	高山市中山公園野球場	130
野球教室・ティーボール教室	JABA岐阜県野球連盟	第5回ちびっこ野球体験教室	2025/12/21	岐阜協立大学第1体育館・第2体育館	178
野球教室・ティーボール教室	JABA京都府野球連盟	第10回JABA少年野球教室	2025/8/9	わかさスタジアム京都	114
野球教室・ティーボール教室	JABA山口県野球連盟	ティーボール教室	2025/6/7	航空自衛隊防府南基地	218
野球教室・ティーボール教室	JABA山口県野球連盟	野球教室	2025/12/13	津田恒実メモリアルスタジアム	50
野球教室・ティーボール教室	JABA新潟県野球連盟	中学3年生対象 硬式野球教室	2025/8/23	みどりと森の運動公園野球場	17
野球教室・ティーボール教室	JABA静岡県野球協会	野球競技普及振興事業	2026/1/16	沼津学園第一幼稚園	60
野球教室・ティーボール教室	JABA静岡県野球協会	野球競技普及振興事業	2026/1/26	浜松学院大学付属幼稚園	70
野球教室・ティーボール教室	JABA静岡県野球協会	野球競技普及振興事業	2026/1/29	うしづま保育園	40
野球教室・ティーボール教室	JABA石川県野球連盟	野球競技普及振興事業野球教室	2025/8/16	津幡町運動公園野球場	50
野球教室・ティーボール教室	JABA富山県野球連盟	野球競技振興事業	2025/6/1	奥田北小学校グラウンド	78
野球教室・ティーボール教室	JABA富山県野球連盟	野球競技普及振興事業	2025/9/23	氷見運動公園大芝生広場	65
野球教室・ティーボール教室	JR秋田	三種町スポーツ・地域振興推進協議会	2025/10/25	ことおか中央公園スカルパ野球場	10
野球教室・ティーボール教室	西部ガス	三苫保育園	2025/11/20	三苫保育園	25
野球教室・ティーボール教室	東邦ガス	ベースボールチャレンジイベント	2025/12/20	ららぽーと名古屋みなとアクルス	170
野球教室・ティーボール教室	日産自動車九州	京築地区高校野球	2025/12/6	日産スターグラウンド	35
野球教室・ティーボール教室	日本野球連盟東海地区連盟	野球競技普及振興事業	2025/6/7	岡崎レッドダイヤモンドスタジアム	236
野球教室・ティーボール教室	日本野球連盟東海地区連盟	野球競技普及振興事業	2025/6/22	岡崎レッドダイヤモンドスタジアム	68
野球教室・ティーボール教室	日本野球連盟北海道地区連盟	ベースボールフェスティバル	2025/7/15	日本製鉄室蘭球場	140
野球教室・ティーボール教室	日本野球連盟北海道地区連盟	ベースボールフェスティバル	2025/8/1	札幌円山球場	472
野球教室・ティーボール教室	伯和ビクトリーズ	ティーボール教室	2025/3/11	伯和グループテニスコート	40
野球教室・ティーボール教室	伯和ビクトリーズ	野球教室	2025/10/13	アクアスタジアム	300
野球教室・ティーボール教室	伯和ビクトリーズ	野球教室	2025/11/16	広島工業高校グラウンド	200

これからももっと、
私はスポーツを楽しむんだ。



卓球歴24年。バスケ歴1日。
卓球の200倍もの重さがあるボールは、
なかなか言うことを聞いてくれない。





それでも、体を動かすだけで気持ちがいい。
初対面でもあっという間に仲間になれる。
競技人生での楽しさとは違う、
スポーツの楽しさに出会えた。











スポーツを極める人も、楽しむ人も、
すべての人のために、
スポーツくじの収益は使われています。

スポーツくじ WINNER toto BIG

スポーツくじは、スポーツと人を育てる仕組み。

⑱19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

変わることと守ること～そして成長

公益財団法人日本少年野球連盟　会長　大冨　肇



２０２６年度のスローガンを「Ｃｈａｎｇｉｎｇ　ａｎｄ　Ｐｒｅｓｅｒｖｉｎｇ（変わることと守ること）～そして成長」としました。

昨年３月、在任４年間で大きな改革を進めた前任の惣田名誉会長からバトンを受けて会長に就任しました。改革を続けながら「変わること」は連盟にも、選手にも必要です。一方で連盟には大きな意味で「選手を守ること」という側面もあります。野球の伝統を守りつつ、改革を行う。いろいろな流行がありますが、本当に変えないといけないものか、守らないといけないものか、しっかり見極めることが重要だと考えます。成長期にある選手が、様々な経験を重ねたうえで大きく成長してもらえたら、と思います。

就任１年目の昨年は、鶴岡一人記念大会を宮崎県で開催し、良い球場や環境のもと選手やご家族も一緒に喜んでいただけたと感じました。世界少年野球大会、ＪＵＮＩＯＲ　ＡＬＬ　ＪＡＰＡＮの海外遠征も実施。世界大会では優勝という素晴らしい成績を残しました。ボーイズリーグでは様々な経験が出来る。頑張ればこんなに大きなチャンスがある。選手がそう、励みにしてくれたら嬉しいです。

今後に向け、小学生と女子野球には力を入れたいと考えています。春季全国大会では女子部門を新設しました。選手たちは本当に一生懸命に頑張っています。試合が出来れば良いという段階から一段、レベルアップしました。きちんと大会の形を取り、しっかり運営することで女子ばかりでなく、リーグとしても次のステージに上がることを目指していきます。

日本少年野球連盟
ブロック別チーム数・選手数

ブロック	小学生の部		中学生の部	
	チーム数	選手数	チーム数	選手数
東日本	22	431	206	7,940
中日本	16	241	111	4,573
関　西	21	489	133	5,491
中四国	17	294	53	1,698
九　州	4	41	103	3,179
合　計	80	1,496	606	22,881

2025年12月31日現在

愛知尾州Ｂが初の全国制覇
大阪都島Ｂも初の全国頂点

小学生　中学生

第55回春季大会

◇スターゼンカップ第55回日本少年野球春季全国大会（３月26～31日　大田スタジアムほか）

第55回春季全国大会が東京・大田スタジアムを中心に開催された。小学生の部は５ブロック代表として12チーム、中学生の部は各支部代表として45チーム、合計57チームが出場。

中学生の部は愛知尾州ボーイズ（愛知県西）が紀州ボーイズ（和歌山県）との決勝戦で初回から得点を重ねて計９得点で６回コールドＶ。春夏通じて初の全国制覇を果たした。準々決勝から３試合連続でのコールド勝ちと攻撃力を存分に発揮し頂点に立った。

小学生の部は大阪都島ボーイズ（関西）が稲沢中央ボーイズ（中日本）との決勝を制し、春夏通じて初めて全国の頂点に立った。決勝戦では両チーム合わせて17得点と激しい打撃戦を展開し、小学校でのボーイズリーグ生活を終了させた。

今大会では中学部の決勝前にボーイズリーガーの聖地、大田スタジアムで関西女子と中日本女子のエキシビションマッチが開催された。初回から点の取り合いとなり11対10で関西女子が勝利した。

なお大会の模様は、今年も全ての試合が『ＹｏｕＴｕｂｅ』で動画配信された。

○…中学生の部…○

▽決勝戦

愛知尾州ボーイズ	1	1	2	0	0	0	2		
紀州ボーイズ	0	0	4	0	0	0	0		

（六回コールド）

（愛）梅村、小川、神谷、板野―向島

（紀）江川、寺田、栗垣、河村―米倉

▽三塁打　丹羽裕（愛）

▽二塁打　早坂、小川（愛）

○…小学生の部…○

▽決勝戦

稲沢中央ボーイズ	0	0	0	6	2	0	8		
大阪都島ボーイズ	0	2	5	2	0	×	9		

（稲）北川、大隈、平尾―堀場梁

（大）西本、福田、山内、大塚、松岡―松岡、山内

▽二塁打　平尾、堀場梁、後藤（稲）大塚、山内（大）

○…**表彰選手**…○

◇ボーイズリーガー賞
丹羽裕聖（愛知尾州ボーイズ）
福田愛真（大阪都島ボーイズ）

◇スターゼンＭＶＰ
青木遼磨（愛知尾州ボーイズ）
大塚叶翔（大阪都島ボーイズ）

◇優秀選手賞
土居煌輝（紀州ボーイズ）
腰山潤人（稲沢中央ボーイズ）

◇グッドマナー賞～優賞～
愛知尾州ボーイズ（愛知県

東海中央Bが“悲願の夏“初制覇（中学生）
滋賀大津Bが“関西対決“を制す（小学生）

第56回選手権大会

◇エイジェックカップ第56回日本少年野球選手権大会

（8月2～7日　大阪シティ信用金庫スタジアムほか）

小学生の部12チームと、中学生の部48チーム（中日本ブロック推薦1チーム含）の合計60チームが参加して行われた。中学生の部は東海中央ボーイズ（愛知県中央）が決勝戦で12安打7得点、守っては最少失点と投打にかみ合い、松戸中央ボーイズ（千葉県）を破り2023年春以来の全国制覇、悲願の夏のボーイズリーグ日本一に輝いた。

さらに東海中央ボーイズは他4リーグの夏季大会優勝チームによる「3rdエイジェックカップ中学硬式野球グランドチャンピオンシリーズ」に出場し、ボーイズ勢として大会初優勝を果たした。

小学生の部の決勝戦は関西ブロック同士の戦いとなり滋賀大津ボーイズが大阪柴島ボーイズを下した。初回から得点を重ねて計8点。同じ関西のライバル相手に終始、主導権を握り続けてチーム悲願の全国制覇を成し遂げた。

今大会も開・閉会式及び全ての試合が『YouTube』で動画配信され、決勝戦は小・中ともに『アスリートチャンネル』でもライブ配信され大きな反響を得た。

○…中学生の部…○

▽決勝戦

東海中央ボーイズ

0	1	0	5	0	0	1		7
0	0	1	0	0	0	0		1

松戸中央ボーイズ

（東）河村、水野、金崎、高山、金本、安藤奏―近藤

（松）野澤謙、安斎、常田、田中―成

▽二塁打　近藤、戸松、河村、加藤（東）竹下、佐藤魅（松）

○…小学生の部…○

▽決勝戦

滋賀大津ボーイズ

2	1	3	0	0	2			8
0	0	4	0	0	0			4

大阪柴島ボーイズ

（滋）西澤、澤田、西澤―中根

（大）眞野、東、宮原―森根

▽二塁打　北角、三輪、河上、中根（滋）東（大）

○…表彰選手…○

◇ボーイズリーガー賞

加藤壱球（東海中央ボーイズ）

◇グッドマナー賞～良賞～

北杜ボーイズ（山梨県）

堺中央ボーイズ（関西）

◇グッドマナー賞～優賞～

鯖江ボーイズ（福井県）

黄城・諫早合同ボーイズ（九州）

◇グッドマナー賞～良賞～

湖南ボーイズ（滋賀県）

勝呂ボーイズ（東日本）

◇優秀選手賞

常田幸泰（松戸中央ボーイズ）

東奏佑（大阪柴島ボーイズ）

河上太亮（滋賀大津ボーイズ）

鳥取ボーイズ（中四国）



選手権大会で優勝　マウンド上で歓喜する東海中央ボーイズ



東海中央ボーイズの大応援団

中日本ブロックが連盟主催3大会を完全制覇（中学生）

第25回鶴岡一人記念大会

◇フクダ電子カップ第25回ボーイズリーグ鶴岡一人記念大会（8月22～24日　宮崎市ひなたサンマリンスタジアムほか）

全国5ブロックで選抜した中学部6チーム（主催ブロック2チーム出場）と小学部、中学生女子の部5チームの計16チームが、ブロックの栄誉をかけて戦った。

中学生の部は中日本選抜が2018年以来、7年ぶりの優勝。中日本ブロックとして春、夏に続き2025年の連盟主催大会を完全制覇した。

小学生の部は東日本選抜が初優勝を飾った。勝敗で並んだ関西選抜を得失点差で上回り悲願を果たした。

中学生女子の部は関西選抜が中日本選抜を相手に完封勝利し、4連勝の全勝V。2年ぶりの頂点に立った。

○…中学生の部…○

▽決勝戦

中日本選抜

中日本選抜	5	0	0	1	6	2		14
中四国選抜	2	2	0	0	3	7		

（六回時間切れ）

（日）阿部、河村、木倉、上田、金崎、上田―木村、向島

（四）和田、岩﨑、幡司、柴田、川嵜、北川―林、増田

▽三塁打　木村、青木（日）高橋（四）

▽二塁打　天野、木村、狩野（日）小倉、高橋、向井（四）

○…表彰選手…○

◇最優秀選手賞（中学生の部）
磯谷修汰（中日本選抜）

◇最優秀選手賞（小学生の部）
南雲隼（東日本選抜）

◇最優秀選手賞（中学生女子の部）
片岡明（関西選抜）

◇優秀選手賞（中学生の部）
林翼翔（中四国選抜）

◇優秀選手賞（小学生の部）
青山朝陽（関西選抜）

◇優秀選手賞（中学生女子の部）
福永亜花梨（九州選抜）

◇特別賞
内田篤人（小学部・九州選抜）

フクダ電子カップ第25回ボーイズリーグ鶴岡一人記念大会（小学生の部・順位表）

順位	チーム名	ポイント	勝	引き分	負	得点	失点	試合数
1	東日本選抜	6	3	0	1	24	8	4
2	関西選抜	6	3	0	1	30	23	4
3	中日本選抜	4	2	0	2	25	29	4
4	九州選抜	2	1	0	3	28	26	4
5	中四国選抜	2	1	0	3	23	44	4

フクダ電子カップ第25回ボーイズリーグ鶴岡一人記念大会（中学生女子の部・順位表）

順位	チーム名	ポイント	勝	引き分	負	得点	失点	試合数
1	関西選抜	8	4	0	0	32	8	4
2	九州選抜	6	3	0	1	17	10	4
3	中四国選抜	4	2	0	2	15	23	4
4	東日本選抜	2	1	0	3	16	22	4
5	中日本選抜	0	0	0	4	2	19	4

日本が2年ぶり世界一

◇2025世界少年野球大会（8月3～9日　米アラメダ）

ボーイズリーグの中学生日本代表メンバー『ボーイズ侍』が2年ぶりの世界一に輝いた。

日本のほかアメリカ3チーム、韓国2チーム、メキシコ、イタリアの計8チームが参加した大会で予選グループは3勝1敗の2位。

決勝トーナメントでは準々決勝、準決勝ともに完封で勝ち上がり、決勝は予選リーグで唯一の黒星を喫したアラメダと延長八回の死闘を逆転で制した。

▽決勝戦

日本	0	0	0	0	1	1	0	1		3
アラメダ	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2

（延長八回）

（日）内田、石本―岡村

元メジャーリーガーの野茂英雄氏が総監督を務めるチームにボーイズリーグから12選手が選出された。

現地ではMLBユースアカデミーと対戦した4試合は初戦こそ1点差で惜敗したが、そこから3連勝と本領を発揮し3勝1敗だった。

米国チームに3勝1敗

◇2025JUNIOR ALL JAPAN アメリカロサンゼルス遠征（8月14～21日）

大阪柴島Bが〝ボーイズ対決〟制して優勝

◇MLB CUP 2025 ファイナルラウンド（11月22～24日　マイネットスタジアム皇子山ほか）

硬式少年少女野球5団体による頂上決戦。ボーイズリーグが特別運営協力をしたこの大会には各ブロック予選を勝ち上がった勝呂ボーイズ（東日本）稲沢中央ボーイズ（中日本）大阪柴島ボーイズ（関西）松山ボーイズ（中四国・九州）が出場。4強のうち3チームがボーイズリーグと、初参戦の大会で大健闘した。

決勝戦はボーイズリーグ対決となり、大阪柴島ボーイズが延長七回タイブレークの激闘の末、勝呂ボーイズを破り、優勝した。

日本野球の発展にむけて

公益財団法人日本リトルリーグ野球協会　会長　坂谷内　実



２０２５年のリトルリーグでは、新たな取り組みとして、12歳以下のソフトボール部門において、日本ソフトボール協会と連携し代表を派遣する試みを開始しました。岩手県代表を中心とした東北リーグがアジア選手権でフィリピンを破り、８月にアメリカ・ノースカロライナ州で開催されたワールドシリーズに参加しました。アメリカ本部からも日本代表は大いに歓迎されました。結果は1勝2敗となりましたが、大きな第一歩をしるしました。

リトル年齢13歳以下の選手が出場可能なインターミディート選手権は、５月に茨城県で開催されました。千葉リーグが日本代表として台湾でのアジア太平洋中東選手権に参加しましたが、韓国の壁は高く、決勝で敗れる結果となりました。

12～10歳の選手が出場する「文部科学大臣杯　ＪＡ共済トーナメント第59回全日本選手権大会」は、７月末に東京都八王子市などで開催しました。この大会の優勝チームは、８月にアメリカで行われるワールドシリーズに参加することになります。大会の結果、東京連盟代表の城東リーグが文部科学大臣杯を獲得しました。城東リーグは世界大会でも健闘しましたが、世界一となったチャイニーズ・タイペイとの国際部門の試合で敗れる結果となりました。

小学校４、５年生の全国大会である「ＭＬＢ　ＣＵＰ」第９回大会は、例年通り宮城県石巻市で７月末に開催しました。結果は埼玉イースト（浦和）が優勝しました。

８月末には、松山市の坊っちゃんスタジアムをはじめとする４球場において、「ＪＡ共済杯全国選抜大会」を開催しました。結果は山陽リーグ（安芸・西）が見事優勝し、広島県勢が２連覇を果たしました。

本年もこれらの全国大会を開催し、日本野球界の将来を担う少年少女を育成し、日本の野球に貢献していきたいと念願しております。今後とも、野球に関わる皆様のご支援を賜りながら、リトルリーグの発展に努めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

メジャー部門全国大会

城東（東京1）が初優勝

◇文部科学大臣杯ＪＡ共済トーナメント第59回全日本選手権（７月18～20日　東京・八王子市スリーボンドベースボールパーク上柚木ほか）

城東（東京１）が決勝で横浜（神奈川）を破り、初優勝を果たした。城東は日本代表として世界大会に出場した。

○…予選リーグ…○

▽Ａ組順位
①城北（東京１）
②新潟（信越）
③兵庫（関西）

▽Ｂ組順位
①宮城（東北）
②静岡（東海）
③埼玉イースト（北関東）

▽Ｃ組順位
①横浜（神奈川）
②山陽（中国）
③九州北部（九州）

▽Ｄ組順位
①千葉（東関東）
②西都（東京２）
③愛媛中央（四国）



全日本選手権で初優勝を果たした城東リーグ

○…決勝トーナメント…○

▽準決勝

宮城
000 001 1
000 30× 3

城東
（宮）高橋―佐藤
（城）武内―山田

▽本塁打　矢澤（城）

千葉
001 000 1
000 011× 2

横浜

山陽リーグが初優勝

◇JA共済杯2025全国選抜大会（8月29～31日　愛媛・坊っちゃんスタジアムほか）

山陽リーグ安芸・西（中国1）が決勝で宮城リーグ（東北）を破って、リーグ創設1年目で初優勝を飾った。

▽1回戦

愛媛中央（砥部）5―3湘南
城北（東京中野）9―2三重
愛媛中央（港南）10―9上田南
山陽（安芸西）6―1関西南部
愛媛中央（北条）7―6望月
宮城　5―4茨城
城北（東練馬）7―6山陽（広島佐伯）
埼玉イースト7―1九州北部

▽2回戦

城北（東京中野）16―6愛媛中央（砥部）
（千）大島、臼井―坂本
（横）清水―大東

▽決勝

横浜
000 013 4
900 06× 15

城東
（横）田中、尾崎、神吉―大東
（北）矢澤、古里―山田、吉田

▽本塁打　増山（城）

山陽（安芸西）18―3愛媛中央（港南）
宮城　5―4愛媛中央（北条）
城北（東練馬）10―9埼玉イースト

▽準決勝

山陽（安芸西）10―3城北（東京中野）
宮城　5―3城北（東練馬）

▽決勝

山陽（安芸・西）
123 203 11
000 333 9

宮城
（武）和田、藤原―山根
（宮）長澤、金子―佐藤悠

全日本選手権歴代優勝・準優勝リーグ

回	年	優勝	準優勝
1	1967	阪神（関西）	東京（東京）
2	68	阪神（関西）	東京（東京）
3	69	阪神（関西）	東京（東京）
4	70	阪神（関西）	東京（東京）
5	71	阪神（関西）	東京（東京）
6	72	阪神（関西）	東京（東京）
7	73	阪神（関西）	東京（東京）
8	74	阪神（関西）	東京（東京）
9	75	阪神（関西）	東京（東京）
10	76	阪神（関西）	東京（東京）
11	77	阪神（関西）	東京（東京）
12	78	阪神（関西）	東京（東京）
13	79	阪神（関西）	東京（東京）
14	80	阪神（関西）	東京（東京）
15	81	阪神（関西）	東京（東京）
16	82	阪神（関西）	東京（東京）
17	83	阪神（関西）	東京（東京）
18	84	阪神（関西）	東京（東京）
19	85	阪神（関西）	東京（東京）
20	86	阪神（関西）	東京（東京）
21	87	阪神（関西）	東京（東京）
22	88	阪神（関西）	東京（東京）
23	89	阪神（関西）	東京（東京）
24	90	阪神（関西）	東京（東京）
25	91	阪神（関西）	東京（東京）
26	92	阪神（関西）	東京（東京）
27	93	阪神（関西）	東京（東京）
28	94	阪神（関西）	東京（東京）
29	95	阪神（関西）	東京（東京）
30	96	阪神（関西）	東京（東京）
31	97	阪神（関西）	東京（東京）
32	98	阪神（関西）	東京（東京）
33	99	阪神（関西）	東京（東京）
34	2000	阪神（関西）	東京（東京）
35	1	阪神（関西）	東京（東京）
36	2	阪神（関西）	東京（東京）
37	3	阪神（関西）	東京（東京）
38	4	阪神（関西）	東京（東京）
39	5	阪神（関西）	東京（東京）
40	6	阪神（関西）	東京（東京）
41	7	阪神（関西）	東京（東京）
42	8	阪神（関西）	東京（東京）
43	9	阪神（関西）	東京（東京）
44	10	阪神（関西）	東京（東京）
45	11	阪神（関西）	東京（東京）
46	12	阪神（関西）	東京（東京）
47	13	阪神（関西）	東京（東京）
48	14	阪神（関西）	東京（東京）
49	15	阪神（関西）	東京（東京）
50	16	阪神（関西）	東京（東京）
51	17	阪神（関西）	東京（東京）
52	18	阪神（関西）	東京（東京）
53	19	阪神（関西）	東京（東京）
54	20	阪神（関西）	東京（東京）
55	21	阪神（関西）	東京（東京）
56	22	阪神（関西）	東京（東京）
57	23	阪神（関西）	東京（東京）
58	24	阪神（関西）	東京（東京）
59	25	阪神（関西）	東京（東京）

各部門全国大会

城東・城南が初優勝

◇ジュニア部門アジア太平洋中東選手権日本地区予選（5月18日　埼玉・大宮北高グラウンド）

決勝で、城東・城南連合（東京）が北関東連合（北関東）を破って優勝した。4チームによる総当たりリーグ戦方式で開催予定だったが、1日目が雨天中止となり、ノックアウト形式に変更となった。

▽準決勝

城東・城南連合
201 010 1 5
000 010 0 1

新潟
（城）井上、四宮―杉谷
（新）水澤、横山、荒井―勝見

▽決勝

北関東連合
312 5 0 20
000 0 0 0

茨城・千葉連合
（北）小峰、富岡、出口―小相澤
（茨）松本、石井、小澤、金井琉―永島

▽決勝

北関東連合
000 001 0 1
200 200 × 4

城東・城南連合
（北）渋谷、大貫―杉谷
（城）小峰、富岡―小相澤

千葉（東関東1）が全国制覇

インターミディエット部門◇JA共済杯第13回インターミディエット全日本選手権（5月9～11日　茨城・牛久運動公園野球場ほか）

千葉（東関東1）が決勝で茨城（東関東2）を破って、全国制覇を果たした。

○…予選リーグ…○

▽A組順位

①茨城（東関東2）
②兵庫（関西）
③九州北部（九州）

▽B組順位

①宮城（東北）
②城北（東京）

③埼玉イースト（北関東）

▽C組順位

①千葉（東関東1）

②横浜（神奈川）

③新潟（信越）

○…決勝トーナメント準決勝…○

▽準決勝

千葉
021 100 0｜4
000 000 0｜0

宮城
（千）中垣、柳沢、中垣―池田

（宮）長澤、紀野國―紀野國、長澤

兵庫
000 10｜1
114 32｜11

茨城
（兵）堂本、世良、西迫、谷尻―塚本

（茨）御鳴、瀧―飯塚

▽本塁打　御鳴（茨）

▽決勝

千葉
200 451 1｜13
100 200 1｜4

茨城
（千）石井大、林―池田

（茨）瀧本、眞壁、後藤、瀧本―飯塚

▽本塁打　田所、石井大（千）

ワールドシリーズ

日本代表が歴史的1勝

◇リトルリーグワールドシリーズ・ソフトボール部門（8月3～10日　米ノースカロライナ州グリーンビル）

初めて参加した日本代表は初戦の2回戦でカナダ代表を破り、歴史的な1勝を挙げた。3回戦でノースカロライナ州に敗れ、敗者復活3回戦でもインディアナ州に敗れて敗退した。

▽2回戦

カナダ
001 000｜1
203 10×｜6

日　本

（日）新田、野崎―堀内、鈴木

日本代表は惜しくも敗退

◇リトルリーグワールドシリーズ・メジャー部門（8月14～24日　米ペンシルベニア州ウイリアムズポート）

日本代表・城東は国際組3回戦でベネズエラに敗れ、敗者復活戦に回った。同3回戦でメキシコを破ったが、4回戦でアルバに敗れて敗退した。

チャイニーズ・タイペイが29年ぶりの優勝を飾った。

▽国際組2回戦

チェコ
000 0｜0
291 ×｜12

日　本

（日）武内、古里、矢澤―山田

▽国際組3回戦

ベネズエラ
202 000 4｜8
000 000 0｜0

日　本

（日）矢澤、増山、林、窪田―山田

▽国際組敗者復活3回戦

日　本
400 020 6｜12
000 000 0｜0

メキシコ

（日）山本、古里―吉田

▽本塁打　矢澤、山本（日）

▽国際組敗者復活4回戦

日　本
000 000 0｜3
000 03× 3

アルバ

（日）武内―山田

マイナー大会

埼玉イーストが初優勝

◇MLB CUP 2025 リトルリーグ野球小学5年生・4年生全国大会（7月28～30日　宮城県石巻市・セイホクパーク石巻ほか）

埼玉イースト・浦和（関東四連盟1）が決勝で横浜（関東四連盟2）を下して、4度目の出場で初優勝を果たした。

▽1回戦

宮城・黒松 17―6 愛媛中央
横浜青葉緑東 12―0 関西北部
三　河 7―3 千　葉
宮城・宮城野 8―1 九州北部
埼玉イースト（浦和） 10―1 山　陽
城　北 19―3 札幌新琴似
埼玉イースト（川口） 13―2 ふくしま

上　田 南 5―4 湘　南

▽準々決勝

横浜青葉緑東 17―10 宮城仙台黒松
三　河 11―8 宮城・宮城野
埼玉イースト（浦和） 8―0 城　北
埼玉イースト（川口） 17―3 上　田 南

▽準決勝

横浜青葉緑東 10―0 三　河
埼玉イースト（浦和） 4―3 埼玉イースト（川口）

▽決勝

埼玉イースト・浦和
320 000 5
210 000 3

横浜・青葉緑東

（埼）吉田、小川、鈴木―曾田

（横）池田、佐藤―伊藤

加盟状況

（2025年2月現在）

チーム数：454

選手数：4934人

夏の選手権で休養日導入

一般財団法人日本リトルシニア中学硬式野球協会　会長　林　清一



猛暑対策は２０２５年も続きました。８月１日から神宮球場を中心に開催した日本選手権大会では準々決勝の翌日に初めて休養日を設けました。中学生の選手たちにとって夏休みと重なる夏季は各種大会が目白押しです。そのような環境で大会期間中に１日空けることは、日程的にも難しいものでした。しかし、選手の身体を守るためには必要だとの判断から実施に踏み切りました。

休養日明けの準決勝を戦った４チームの選手たちのはつらつとしたプレーは印象的でした。２０２６年も大会期間中に１日の休養日を設けます。球場確保の面からも、また経費の面からも、ナイター設備のある球場での開催が簡単ではない少年少女の大会では、休養日を設けて、選手だけでなく、指導者、審判、保護者の身体を守ることを常態化する必要があるかもしれません。

熱中症対策については、日本野球連盟様から送っていただいた指導者講習会用の動画の中にもあり、リトルシニアでは所属全チームの指導者に視聴してもらい、熱中症への理解と対応を共有しました。

初のフランス遠征

今年は初めてフランス遠征を実施しました。２０２４年にフランス代表チームが大阪を訪れ、リトルシニアのチームなどと試合を行ったことからフランス野球協会の招待を受けて実現しました。U15のフランス代表、オランダ代表とリトルシニア代表の３チームが参加して、それぞれ４試合ずつを行い、全勝しました。フランス、オランダともにレベル的には差がありましたが、身体は大きく強い選手たちでした。いずれライバルになり得ると感じました。球場はパリ近郊に３つあり、いずれも芝生の美しい立派な球場でした。２０２６年にはイタリア、ドイツ、イギリス、チェコなどが参加予定と聞いています。これまでの米国、台湾に加えてフランス遠征が始まったことで、欧州各国とも交流を深めたいと考えています。

１年生大会では他団体と交流

国内では３月下旬に大阪を中心に行われた第31回全国選抜大会では世田谷西リトルシニアが３年ぶり４回目の優勝を飾りました。７月下旬には第16回林和男旗杯兼第８回ガールズ・チャンピオンシップも予定通り行われ、第53回日本選手権では世田谷西リトルシニアが３年連続７回目の頂点に立ちました。12月には沖縄で１年生による全国大会ルーキーズ・ベースボールカップの第５回大会を開催しました。前回までの出場16チームから24チームに増やして、他団体からもボーイズ２チーム、ヤング、ポニーはそれぞれ１チームが参加して交流の輪を広げました。

普及と振興に絶好のチャンス

２０２５年のスポーツ界で最も大きな出来事は米大リーグ、ドジャースのワールドシリーズ連覇でしょう。大谷翔平、山本由伸、佐々木朗希の活躍はご承知の通りです。山本投手は第６戦に続き第７戦でも９回から登板するなどシリーズで３勝をマークする活躍でMVP。佐々木投手は救援投手としてチームのピンチを救う快投。大谷選手はシーズンでも３年連続４回目のMVPを獲得しました。

フランス野球協会が当協会を招待するきっかけは、大谷選手の活躍が目に留まったからだそうです。欧州ではプロスポーツ選手と言えばサッカー選手が定説ですが、それを超える注目度に野球熱がぐっと高まったと、フランス代表チームの監督は話していました。

今、野球界には風が吹いていると感じます。競技人口の減少や少子化と下を向くのではなく、今こそその風に乗る絶好のチャンスではないでしょうか。

当協会は日本野球連盟様のご指導を仰ぎながら、これからも野球の普及と振興に努めてまいりたいと考えております。

世田谷西３年ぶり４回目の優勝

◇ＪＡ共済杯第31回全国選抜野球大会

３月26日に大阪を中心に48チームが参加して開幕し、１日順延した決勝は４月１日に行われ、世田谷西リトルシニアが３年ぶり４回目の優勝を飾った。

【リトルシニアの現状】

連　盟	令和７年(2025年)	
	チーム数	選手数
北海道	33	1,211
東　北	61	1,794
関　東	210	9,710
信　越	40	1,135
東　海	48	1,651
関　西	133	4,453
九　州	32	1,111
計	557	21,065

最終成績

〈優　勝〉世田谷西
〈準優勝〉奈良西
〈第3位〉青森山田、堺泉北

㊀…表彰選手…㊀

◇最優秀選手
元木　瑛介（世田谷西）
◇敢闘賞
川村心太郎（奈良西）
◇優秀選手賞
鐘ヶ江勇人（世田谷西）
早志清太郎（奈良西）
江戸　碧大（青森山田）
森田　桜介（堺泉北）
◇ベストナイン
▽投手
木村圭一郎（奈良西）
▽捕手
尾崎　凱來（青森山田）
▽一塁手
佐伯旺志朗（奈良西）
▽二塁手
内椹　陽向（世田谷西）
▽三塁手
渡邊　颯太（堺泉北）
▽遊撃手
川村　亮惺（世田谷西）
▽外野手
川本　琉生（世田谷西）
掛川　隼（青森山田）
岡田　大我（堺泉北）

世田谷西が3年連続7回目の優勝



第53回日本選手権大会で3年連続7回目の優勝を飾った世田谷西リトルシニア（神宮球場）

◇エイジェックカップ第53回日本選手権大会

神宮球場を中心に8月1日から6日まで32チームが出場して行われ、世田谷西リトルシニアが3年連続7回目の優勝を飾った。世田谷西は春の全国選抜大会優勝に続く頂点に立った。

最終成績

〈優　勝〉世田谷西
〈準優勝〉橿原磯城
〈第3位〉浦安
　　五條

㊀…表彰選手…㊀

◇最優秀選手
福田　遊大（世田谷西）
◇敢闘賞
永野　彪牙（橿原磯城）
◇優秀選手賞
鐘ヶ江勇人（世田谷西）

草野　礼人（世田谷西）
石田　智暉（橿原磯城）
柏木　仁祐（浦安）
皆川　将大（浦安）
福島　佑和（五條）
近藤　潔仁（五條）
◇ベストナイン
▽投手
坂本　旺太（橿原磯城）
▽捕手
戸畑　和人（浦安）
▽一塁手
山口　颯太（橿原磯城）
▽二塁手
内椹　陽向（世田谷西）
▽三塁手
元木　瑛介（世田谷西）
▽遊撃手
川村　亮惺（世田谷西）
▽外野手
川本　琉生（世田谷西）
中山　展誠（橿原磯城）
田邊　隆都（五條）

仙台太白が優勝

◇JA共済トーナメント第16回林和男旗杯

7月24日から始まった大会は仙台市を中心に48チームが参加して行われ、仙台太白リトルシニアが優勝した。

最終成績

〈優　勝〉仙台太白
〈準優勝〉福山中央
〈第3位〉足利
　　秋田北



JA共済トーナメント第16回林和男旗杯
優勝チームの仙台太白リトルシニア

東北レディースが初の栄冠

◇第8回ガールズ・チャンピオンシップ

仙台市を中心に10チームが参加して7月24日から始まった大会は同27日に決勝戦を行い、東北レディースが初の優勝を飾った。

最終成績

〈優　勝〉東北レディース
〈準優勝〉関西レディース
〈第3位〉武蔵なでしこ
　　サザンガールズ



第8回ガールズ・チャンピオンシップ 出場10チーム

奈良西が優勝

◇JAL沖縄第5回ルーキーズ・ベースボールカップ

12月25日に沖縄セルラーパーク那覇で開会式を行い、翌26日から28日まで浦添市民球場を中心に行われた。出場チームは前回大会の16チームから24チームに増え、そのうち4チームは他団体からの参加だった。奈良西リトルシニアが1年生日本一に輝いた。

最終成績

〈優　勝〉奈良西
〈準優勝〉八重瀬ボーイズ
〈第3位〉東北楽天
　　熊本北

「新会長就任にあたって」
～創設者・前会長の逝去　遺志を胸に新たな一歩～

一般財団法人日本中学生野球連盟　会長　志太　勤一



当連盟の創設者で前会長の志太勤は、２０２５（令和７）年７月９日に90歳で逝去しました。生前は皆さまには大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

志太勤は野球少年でした。高校２年生のときに多発性関節炎を患い、一生野球ができないと医者に言われ、それまで野球に向けていた情熱をビジネスに切り替えて、今のシダックス株式会社を立ち上げました。

そして26年前に、「未来のこどもたちに、私と同じ辛い思いをしてほしくない」という強い願いから、大きさと重さが硬式球と同じで、外はゴム、中は空洞という、軟式と硬式の良いところを併せ持った「Kボール」を開発。その普及のために当連盟を創設しました。

当時の日本野球連盟の故・山本英一郎会長や、Kボールのメーカー、ナガセケンコー株式会社の故・長瀬二郎社長には、大変なご尽力を頂きました。

志太勤は、国内だけでなく、世界に野球を普及しようと努力しました。

野球がオリンピックの公式種目から外れそうな危機に立ち向かい、サッカーや他の競技に比べて野球は一部の強豪国に偏っており、それを打開しようと、少年野球の裾野を広げるために、まずはアジアの中学生以下の国際大会の使用球をKボールにしました。

さらに、アジアだけでなく、世界大会の使用球もKボールにするために、世界野球連盟の当時の会長に直談判したり、当連盟自身で世界大会の開催を計画したり、高い志をもってアグレッシブに活動してきました。

志太勤の逝去に伴い、副会長であった私が会長に就任し、11月に開催した「第23回全国中学生都道府県対抗野球大会in伊豆」は新体制のもとで催行しました。

今回も全国のブロック予選を勝ち抜いた16チームが志太勤の故郷である伊豆の地に集い、数々の熱戦が繰り広げられました。前日の開会式は大雨となり会場を室内練習場に変更して行いましたが、翌日からは晴天に恵まれ、優勝戦は新潟県選抜、復活戦は佐賀県選抜が優勝しました。出場チームの実力が年々拮抗し、ハイレベルで見ごたえのある試合ばかりでした。

「優勝戦」15試合をインターネットでＬＩＶＥ配信。

また、開催目的の一つである地域活性化への貢献活動の一環として、共催自治体の観光ＰＲチラシを参加者全員に配布し、伊豆の魅力をダイレクトに発信しました。

今後は志太勤の遺志を継ぎ、微力ではございますが野球界の更なる発展に貢献してまいる所存です。相変わらずのご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

優勝戦は新潟県選抜、復活戦は初出場の佐賀県選抜が制覇

第23回全国中学生都道府県対抗野球大会in伊豆

11月１～３日　伊豆志太スタジアム、伊東市営かどの球場。全国９ブロックの代表16チームが出場し、北信越ブロック第一代表の新潟県選抜（新潟）が優勝。

Ⓚ Ⓚ Ⓚ Ⓚ Ⓚ

【出場チーム】

◇北海道ブロック
西胆振ＢＢＣ（北海道）

◇東北ブロック
［第１］あぶくまベースボールクラブ（宮城）
［第２］オール気仙（岩手）

◇関東ブロック
［第１］オール東東京（東東京）
［第２］群馬ダイヤモンドペガサスJr.（群馬）
［第３］神奈川Ｋ－ＣＬＵＢ（神奈川）

◇北信越ブロック
［第１］新潟県選抜（新潟）
［第２］上伊那ブリポステラス（長野）

◇東海ブロック
［第１］ホワイトベアーズベースボールクラブ（愛知）
［第２］オール岐阜（岐阜）

◇近畿ブロック
［第１］大阪市選抜（大阪）
［第２］大和クラブ（奈良）

◇中国ブロック
広島市選抜（広島）

◇四国ブロック
高知県選抜（高知）

◇九州沖縄ブロック
［第１］長崎県選抜（長崎）
［第２］佐賀県選抜（佐賀）

Ⓚ Ⓚ Ⓚ Ⓚ Ⓚ

【試合結果】

※カッコ内の数字はタイブレークにおける得点数

◇第１日（11月１日）
［伊豆志太スタジアム］
○…優勝戦…○
▽１回戦
オール岐阜１－０あぶくまベースボールクラブ
上伊那ブリポステラス８－２大阪市選抜
オール気仙２－１西胆振ＢＢＣ
長崎県選抜６－１神奈川ＣＬＵＢ
［伊東市営かどの球場］
○…優勝戦…○
▽１回戦
高知県選抜２－１群馬ダイヤモンドペガサスJr.
オール東東京１－０佐賀県選抜
ホワイトベアーズベースボールクラブ４－１広島市選抜
新潟県選抜１－０大和クラブ

◇**第2日**（11月2日）
［伊豆志太スタジアム］
○…優勝戦…○
▽2回戦
オール岐阜10―3上伊那プリポステラス
長崎県選抜1―1オール気仙
（1）―（0）
オール東東京4―0高知県選抜
新潟県選抜0―0ホワイトベアーズベースボールクラブ
（1）―（0）
［伊東市営かどの球場］
○…復活戦…○
▽1回戦
あぶくまベースボールクラブ5―4大阪市選抜
神奈川K―CLUBBK9―0西胆振BBC
佐賀県選抜3―2群馬ダイヤモンドペガサスJr.
大和クラブ4―2広島市選抜
◇**第3日**（11月3日）
［伊豆志太スタジアム］
○…優勝戦…○
▽準決勝
オール岐阜3―2長崎県選抜
新潟県選抜6―0オール東東京
▽決勝
新潟県選抜1―0オール岐阜
［伊東市営かどの球場］
○…復活戦…○
▽準決勝
神奈川K―CLUBBK3―1あぶくまベースボールクラブ
佐賀県選抜3―2大和クラブ
▽決勝
佐賀県選抜4―1神奈川K―CLUBBK

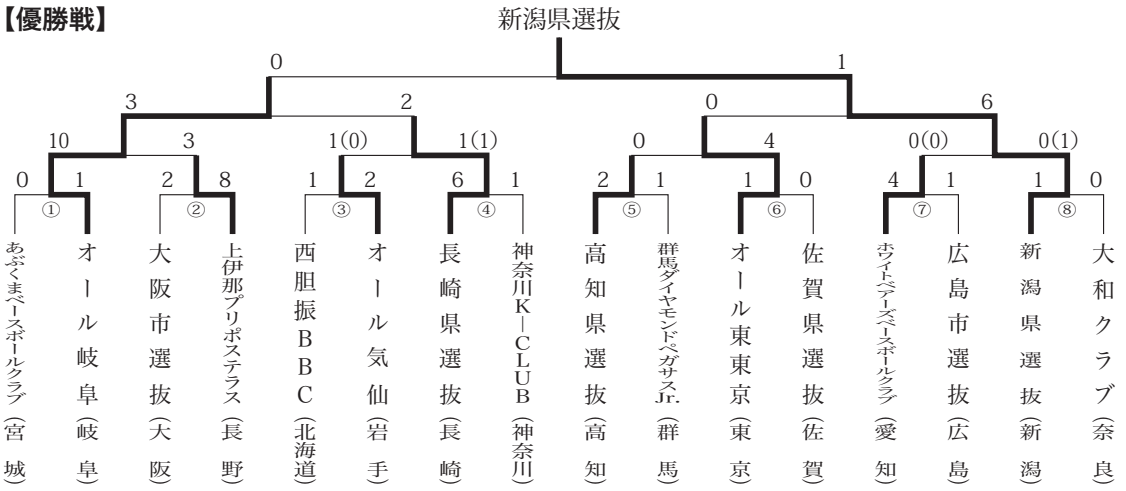
○…**表彰選手**…○
◇**志太勤賞（最優秀選手）**
浅井　隼（新潟県選抜・投手）
◇**山本英一郎賞（優秀選手）**
福田　皓太（オール岐阜・投手）


優勝した表彰式後の新潟県選抜ナイン

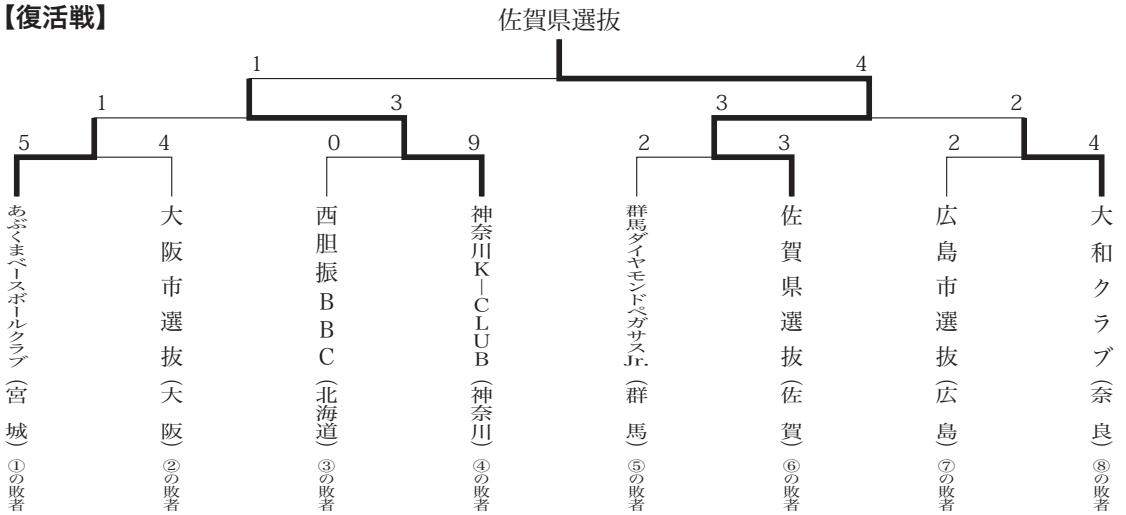
◇第23回 全国中学生都道府県対抗野球大会in伊豆 戦いの軌跡◇

（カッコ内の数字はタイブレークにおける得点数）

【優勝戦】



【復活戦】



選手が輝く舞台を

一般社団法人 全日本少年硬式野球連盟　理事長　鯛島　廣美



新型コロナウイルス感染拡大で足踏みしていた海外交流も再開し、昨年は海外交流を本格化させた年でした。アメリカや台湾との国際交流試合を通じて、選手たちは異なる野球文化に触れ、国際感覚を養う貴重な経験を得ることができました。グローバルな視野を持った選手の育成は、これからの時代に不可欠であり、今後も積極的に海外交流の機会を拡大していきたいと考えています。

また、組織として各部会を結成するなど、かねてからの構想を実現できました。企画部、運営部、拡大推進部、審査指導部、国際部を設置し、全国組織としてよりふさわしい体制となり、選手の後押しをすることにつながりました。多方面から選手たちの活動を支える環境が整ってきたことを実感しています。

大変喜ばしいことに、ヤンキース岡山Youngが記念すべき日本一を達成した。

グリーグ卒団生8名がドラフト会議に指名されました。1位指名の選手も出て、本当に素晴らしいことです。ヤングリーグ卒団生からは過去10年ほど、毎年ドラフト指名選手が輩出されています。これは、各チームの指導者の皆様、保護者の皆様、そして選手たち自身の努力の賜物であり、心から祝福するとともに、連盟としても大変誇らしく思います。引き続き子どもたちに夢を与えられる選手が育ってくれればと願っています。そのためにも、より夢のある企画を次々と実現し、選手たちが輝く舞台を整え、連盟の更なる飛躍を成し遂げてまいります。

ヤンキース岡山、支部対決制す

◇第33回ヤングリーグ春季大会 アシックス旗争奪倉敷水島ライオンズクラブ杯争奪（3月29～31日　倉敷市・マスカットスタジアムほか　参加32チーム）

チーム結成15周年の今春、同支部のライバルであるオール岡山ヤングを破り、ヤンキース岡山Youngが記念すべき日本一を達成した。

最終成績

〈優　勝〉ヤンキース岡山Young（岡山支部）
〈準優勝〉オール岡山ヤング（岡山支部）
〈第3位〉府中広島，2000ヤング（広島支部）

オール岡山、2度目の夏制覇

◇第33回ヤングリーグ選手権大会アルインコカップ争奪敬愛まちづくり財団旗争奪supported by エイジェック（7月26～29日　兵庫県・ほっともっとフィールド、淡路佐野運動公園ほか　参加32チーム）

オール岡山ヤングは決勝までの4試合中2試合をコールド勝利している攻撃力を発揮し、府中広島，2000ヤングを8－3で破り、18年ぶり2度目の夏制覇を果たした。

最終成績

〈優　勝〉オール岡山ヤング（岡山支部）
〈準優勝〉府中広島，2000ヤング（広島支部）
〈第3位〉ヤングJKB（広島支部）



2017年以来、3度目の優勝を飾ったヤンキース岡山Young

兵庫東選抜、昨年の雪辱果たす

◇第14回倉敷国際少年野球大会（8月23～25日　倉敷市・倉敷マスカットスタジアムほか　ヤングリーグ各ブロック・支部の選抜11チームとリトルシニアリーグからの招待1チーム、台湾2チーム、韓国1チーム、アメリカ1チームの計16チーム参加）

兵庫東ヤング選抜が昨年準優勝の雪辱を果たした。昨年決勝で敗れた兵庫西ヤング選抜との準決勝を接戦の末制し、勢いそのまま京滋・和歌山奈良ヤング選抜を7－0の五回コールドで下して初優勝に輝いた。

最終成績

〈優　勝〉兵庫東ヤング選抜
〈準優勝〉京滋・和歌山奈良ヤング選抜



優勝したオール岡山ヤング。岡山支部予選の敗者復活戦から出場権を獲得していた

府中広島、接戦制す

◇第13回ヤングリーグジュニア選手権大会 アルインコカップ争奪（8月23～25日　静岡県掛川市営球場ほか　中学部ジュニア（1・2年生で編成）16チーム参加）

府中広島，2000ヤングがヤング西福岡メッツとの接戦を制し、三度目の頂点に立った。準決勝、決勝ともに1点差の接戦を勝ち切った。投手の粘りでつかみ取った優勝だった。

最終成績

〈優　勝〉府中広島，2000ヤング（広島支部）
〈準優勝〉ヤング西福岡メッツ（九州第一支部）



優勝した兵庫東ヤング選抜

兵庫伊丹がSJの頂点に立つ

◇2025ヤングリーグスーパージュニアプレ大会（9月27日・28日　淡路市・淡路佐野運動公園　中学部スーパージュニア（1年生で編成）16チーム参加）

来年度から始まるスーパージュニア大会に向けて、プレ大会が開催された。決勝では地元兵庫県の兵庫伊丹ヤングが3－1で和歌山打田ヤングタイガースを破り、関西対決を制して記念すべき優勝を果たした。



第6回、7回大会の連覇以来、6年ぶりの頂点を勝ち取った府中広島’2000ヤング



優勝した兵庫伊丹ヤング

最終成績

〈優　勝〉兵庫伊丹ヤング
〈準優勝〉和歌山打田ヤングタイガース

オール岡山が2025年のグランドチャンピオンに

◇日刊スポーツ旗・山本一義旗争奪2025グランドチャンピオン大会（11月22日・23日　大阪シティ信用金庫スタジアムほか　春季・選手権上位、秋季優勝チーム、地元枠の合計16チーム参加）

オール岡山ヤングが大阪球道ヤング相手に21－1と圧倒的な力をみせつけ、2018年以来3度目のグランドチャンピオンの栄冠をつかみ取った。

最終成績

〈優　勝〉オール岡山ヤング
〈準優勝〉大阪球道ヤング

加盟状況

中学部チーム数：183
中学部選手数：6074
小学部チーム数：10
小学部選手数：97
（2025年12月末時点）



歓喜の輪をつくるオール岡山ヤング

「PROTECT OUR NATION'S YOUTH」
子供達を守り育てるのがポニーリーグの育成理念

一般社団法人日本ポニーベースボール協会　理事長　広澤　克実



日頃より、協会運営にご支援・ご協力を賜りましたこと心から御礼申し上げます。

協会創設以来、終始一貫変わらない信条が当協会の名称の由来となっている「PROTECT OUR NATION'S YOUTH」（我が国の若者の成長を守る）という理念です。

この理念は、野球を通じて「我が国の未来の宝」である子供達を選手としてはもちろん、社会に有益な人材としての成長を見守り続けることが当協会の最大の存在意義であるというものです。

スポーツには勝ち負けが付き物です。しかしながら、あくまでも成長過程にある小中学生期の子供達に対しては公平な野球環境を提供し、怪我をしにくい野球技術の指導と同時に、協調性、思いやり、感謝、挨拶、精神力等を身につけさせる指導こそ、社会に有益な人材となる為に子供達が学ぶべきことであると考えます。これは、私達の指導理念10ケ条でも「勝敗は目的ではなく手段である」と定義している通りです。

本年も、当協会においては嬉しいニュースが続きました。8月、アメリカで開催されたワールドシリーズにおいて、本年度より参加しましたPONY－13ディビジョン（中学2年生）で守りの野球を徹底し全戦無失点で初参加・初優勝いたしました。女子ワールドシリーズにおきましても15歳以下の部門で優勝と、ワールドシリーズ2部門で輝かしい成績を残すことができました。

2026年「午（うま）年」を迎えます。午は、力強く大地を駆け抜ける存在であり、前進・成長・挑戦の象徴でもあります。すべてのポニーファミリーが輝きつつ、野球に邁進できるよう、より一層尽力していく所存ですので、皆様のお力添え、ご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

最後に、公益財団法人日本野球連盟をはじめ各団体の皆様からの旧来からのご厚情に感謝を申し上げつつ、皆様のご健勝とご活躍を祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。

ポニー、ポニーブロンコ大会を開催

◇全日本選手権大会・ポニーブロンコ大会

ポニーリーグの聖地である江戸川区球場にて、ポニー大会、ポニーブロンコ大会を開催いたしました。2025年、第51回を迎えた全日本選手権大会は、北海道・東北・関東・東海・関西・中四国・九州・沖縄から64チームが参加。

熱戦の末、勝ち残った2チームは高崎中央ポニーGIANTS対愛知木曽川ポニー。決勝戦は死闘の末、1－0で高崎中央ポニーGIANTSが勝利し、初優勝を飾りました。

ポニーリーグ加盟状況
（チーム数・選手数）
選手数　4、187名
（2025年12月時点）
リーグ数　165リーグ
チーム数　253チーム



全日本選手権大会初優勝の高崎中央ポニーGIANTS

た。第49回ボニーブロンコ大会には、40チームが参加。高崎中央ボニーGIANTS Jr.が江東ボニージュニアを10―4で破り、高崎中央ボニーGIANTS Jr.がボニー大会に続き初優勝を飾りました。

高崎中央ボニーGIANTSが優勝

◇第51回全日本選手権大会

▽1回戦

友部ボニー5―4沖縄本部ボニー
（杉並中野ボニーGALAXYゴールド）
5―2三鷹ボニー
秋田NBAボニー13―5SKボニー
ボニー沖縄DBC13―0東東京ボニー
（高崎中央ボニーGIANTS）10―0小平ボニーズ
ボニー西海オーシャンズ2―1江東新砂ボニー
ボニー江東ライオンズ5―1ライオンズ岡山ボニー
（関メディベースボール学院Jrボニー）6―2ボニー江東メイヨー
千葉ジャガーズボニー10―0埼北ボニーペガサス
高松TSボニー8―1桐南赤城ボニー
宇都宮ボニー1―0佐賀ビクトリーボニー筑後リバーズ15―3
（高崎中央ボニーFUTURES）
つくばJwarriorsボニー10―0
（南大阪BBCネクストボニー）
ボニー大川カージナルス2―1習田アローズボニー
市原中央ボニー3―0宮城ジュニア/岩手ボニー
ボニー柳川ボーイズ6―3
（THB秦野中井ボニーA）
羽田アンビシャスボニー4―0さいたまボニー
東広島ボニー10―7桐南ボニー
米ボニー久留米ボーイズ7―1SKボニーB
仙台ボニー6―5南ボニー市川
南大阪BBCボニー19―0
（横浜みなとみらいボニーDragonWaiis）
愛知木曽川ボニー7―1埼北ボニーウィンズ
茅ヶ崎BCボニー15―1ボニー久留米ベトリーオッズ
市原ボニー11―1宮城県南ボニー
（関メディベースボール学院ボニー）16―0北千葉ボニー
ヤンキー謙早8―0
（横浜みなとみらいBaseballSurfers）
武蔵川越ブレーブスボニー11―2愛知稲沢ボニー
房州ボニー7―4関メディドリームスボニー
宜野湾ボニーズ9―5
（横浜港北ボニーBraves）
沖縄中央ボニー5―4墨田ボニー
北斗ボニー4―1神田Rebaseボニー
（高崎中央ボニーNEXT）15―0福山ボニーウエスト

▽2回戦

（杉並中野ボニーGALAXYゴールド）14―8友部ボニー
ボニー沖縄DBC12―2秋田NBAボニー
（高崎中央ボニーGIANTS）6―1ボニーシャンズ
ボニー江東ライオンズ5―0
（横浜みなとみらいボニーFUTURES）
千葉ジャガーズボニー8―1高松TSボニー
ボニー筑後リバーズ12―2宇都宮ボニー
つくばJwarriorsボニー12―0ボニー大川カージナルス
市原中央ボニー12―1ボニー柳川ボーイズ
羽田アンビシャスボニー8―2東広島ボニー
米ボニー久留米ボーイズ5―3仙台ボニー
愛知木曽川ボニー9―0南大阪BBCボニー
市原ボニー2―1茅ヶ崎BCボニー
（関メディベースボール学院ボニー）12―2ヤンキー謙早
武蔵川越ブレーブスボニー4―3房州ボニー
宜野湾ボニーズ12―3沖縄中央ボニー
（高崎中央ボニーNEXT）6―3北斗ボニー

▽3回戦

（杉並中野ボニーGALAXYゴールド）4―3ボニー沖縄DBC
（高崎中央ボニーGIANTS）5―0ボニー江東ライオンズ
ボニー筑後リバーズ6―2
（千葉ジャガーズボニー）
つくばJwarriorsボニー4―2市原ボニー
米ボニー久留米ボーイズ3―1羽田アンビシャスボニー
愛知木曽川ボニー4―2市原ボニー
（関メディベースボール学院ボニー）4―1
（武蔵川越ブレーブスボニー）
宜野湾ボニーズ7―5
（高崎中央ボニーNEXT）

▽準々決勝

（高崎中央ボニーGIANTS）15―0
（杉並中野ボニーGALAXYゴールド）
ボニー筑後リバーズ9―2
（つくばJwarriorsボニー）
愛知木曽川ボニー5―2米ボニー久留米ボーイズ
（関メディベースボール学院ボニー）10―4宜野湾ボニーズ

▽準決勝

（高崎中央ボニーGIANTS）8―5ボニー筑後リバーズ
愛知木曽川ボニー5―2
（関メディベースボール学院ボニー）

▽決勝

高崎中央ボニーGIANTS　000 010 0　1
愛知木曽川ボニー　000 000 0　0

（高）上原、三木―大澤
（愛）千田、阿部、小角、山口―加藤

○…表彰選手…○

団体表彰

◇優勝
高崎中央ボニーGIANTS

◇準優勝
愛知木曽川ボニー

◇第3位
関メディベースボール学院ボニー
ボニー筑後リバーズ

個人賞

◇最優秀選手賞
上原　達也（高崎中央ボニーGIANTS）

◇優秀選手賞
千田　夏誓（愛知木曽川ボニー）

◇殊勲賞
新田　凌大（関メディベースボール学院ボニー）
堤　悠星（ボニー筑後リバーズ）

◇敢闘賞
松延　公太（ボニー久留米ボーイズ）
栄枝　泰樹（杉並中野ボニーGALAXYゴールド）
外間　駿希（宜野湾ボニーズ）
大徳　瑠花（つくばJwarriorsボニー）

◇広澤克実賞
池野　要（ボニー筑後リバーズ）

◇HARTY賞
竹本蓮太朗（東京中央ボニー）

◇全日本選手権大会ボニー大会　歴代優勝・準優勝チーム◇

	優勝	準優勝
第1回大会	台東ドジャース	江戸川グリッタサンズ
第2回大会	台東ドジャース	那覇タイガース
第3回大会	千葉ジャガーズ	江戸川グリッタサンズ
第4回大会	江戸川グリッタサンズ	千葉ジャガーズ
第5回大会	江戸川グリッタサンズ	那覇タイガース
第6回大会	京都ベースボールクラブ	千葉ジャガーズ
第7回大会	江戸川グリッタサンズ	清瀬旭ヶ丘
第8回大会	京都ベースボールクラブ	江東ライオンズ
第9回大会	大田水門シャーク	江戸川グリッタサンズ
第10回大会	千葉ジャガーズ	清瀬旭ヶ丘
第11回大会	深川フェニックス	江戸川サンライズ
第12回大会	京都南ボニーベースボールクラブ	大田水門シャーク
第13回大会	千葉ジャガーズ	深川フェニックス
第14回大会	湘南クラブ	江戸川グリッタサンズ
第15回大会	千葉ジャガーズ	江東ライオンズ
第16回大会	千葉ジャガーズ	江戸川グリッタサンズ
第17回大会	湘南クラブ	江戸川グリッタサンズ
第18回大会	大田水門シャーク	市川北ボニー
第19回大会	千葉ジャガーズ	江戸川グリッタサンズ
第20回大会	宜野湾ボニーズ	江戸川グリッタサンズ
第21回大会	江東ライオンズ	宜野湾ボニーズ
第22回大会	札幌東ベースボールクラブ	江東ライオンズ
第23回大会	石川ボニーズ	宜野湾ボニーズ
第24回大会	宜野湾ボニーズ	小平ボニーズ
第25回大会	宜野湾ボニーズ	江東ライオンズ
第26回大会	江東ライオンズ	大田水門シャーク
第27回大会	江東ライオンズ	宜野湾ボニーズ
第28回大会	宜野湾ボニーズ	沖縄ボニーズ
第29回大会	八重山ボニーズ	市原ボニーベースボールクラブ
第30回大会	千葉ジャガーズ	葛飾ボニーズ
第31回大会	清瀬ロングコックス	札幌東ベースボールクラブ
第32回大会	千葉ジャガーズ	八重山ボニーズ
第33回大会	那覇国際ボニーズ	市川ボニー
第34回大会	千葉ジャガーズ	沖縄ボニーズ
第35回大会	江東ライオンズ	清瀬ボニーズ
第36回大会	那覇国際ボニーズ	札幌東ベースボールクラブ
第37回大会	札幌東ベースボールクラブ	那覇国際ボニーズ
第38回大会	千葉ボニー	江戸川ライジングサン
第39回大会	立川ボニー	沖縄ボニー
第40回大会	神戸エキスパート	千葉ボニーズ
第41回大会	札幌東ベースボールクラブ	北海ベアーズ
第42回大会	田川ホークス	千葉ジャガーズ
第43回大会	墨田ボニー	宇都宮ボニーベースボールクラブ
第44回大会	北海ベアーズ	宜野湾ボニーズ
第45回大会	宜野湾ボニーズ	沖縄中央ボニー
第46回大会	江東ライオンズ	江東ボニーズ
第47回大会	江東ライオンズ	福岡小郡ボニー
第48回大会	江東ライオンズ	宜野湾ボニー
第49回大会	ボニー佐賀ビクトリー、関メディベースボール学院ボニー（両チーム優勝）	
第50回大会	ボニー筑後リバーズ	関メディベースボール学院ボニー
第51回大会	高崎中央ボニーGIANTS	愛知木曽川ボニー

高崎中央ポニーGIANTS Jr.が優勝

◇第49回ポニーブロンコ大会

▽1回戦

江東ポニー ジュニア（不戦勝） 中国バンダポニー
仙台ポニー Jr. 9―5 立川ポニー イーグルス
ポニー佐賀ビクトリージュニア 13―2 武蔵川越フレーブスRookiesポニー
TH B秦野中井ポニーB 12―1 ベトレン東京ポニー
羽田アンビシャスポニー Jr. 8―0 香取ビクレッツポニー Jr.
横浜都築ポニー 6―3 つくばJwarriORS Jr.ポニー
房州ポニー Jr. 3―2 ポニー佐賀ネオビクトリー
東東京ポニー Jr. 3―2 桐南ポニー Jr.

▽2回戦

江東ポニージュニア 5―4 仙台ポニー Jr.
tsuzuki RYUMESTERS ポニー 3―0 桐南赤城ポニー Jr.
パイレーツⅡ 13―0 南マリーンズ ポニー横浜
ポニー佐賀ビクトリージュニア 13―0 出羽DAGUポニー
TH B秦野中井ポニーB 6―0 東京中央ポニージュニア
高崎中央ポニーNEXT Jr. 16―0 鹿沼宇都宮ポニー連合
SKポニー Jr. 11―1 墨田ポニー Jr.
市原ポニージュニア 7―0 北千葉ポニージュニア
羽田アンビシャスポニー Jr. 10―2 将門中央ポニー
杉並中野ポニーGALAXYシルバー 5―1 三鷹・小平ポニー連合
立川ポニーワイルドボア 7―0 横浜港北ポニー
茅ヶ崎BCポニー Jr. 4―3 横浜都築ポニー
房州ポニー Jr. 6―2 ポニー江戸川サンライズ
沖縄本部ポニー Jr. 3―2 埼北ポニーカルーキーズ
愛知木曽川チャレンジャーポニー 2―0 友部ポニー
高崎中央ポニーGIANTS Jr. 13―0 東東京ポニー Jr.

▽3回戦

江東ポニージュニア 11―1 tsuzuki RYUMESTERS ポニー
ポニー佐賀ビクトリージュニア
パイレーツⅡ 5―3 ポニー横浜
高崎中央ポニーNEXT Jr. 8―2 TH B秦野中井ポニーB
市原ポニージュニア 2―1 SKポニー Jr.
杉並中野ポニーGALAXYシルバー 5―1 羽田アンビシャスポニー Jr.
茅ヶ崎BCポニー Jr. 8―1 立川ポニーワイルドボア
房州ポニー Jr. 3―0 沖縄本部ポニー Jr.
高崎中央ポニーGIANTS Jr. 5―2 愛知木曽川チャレンジャーポニー

▽準々決勝

市原ポニージュニア 5―2 高崎中央ポニーNEXT Jr.
茅ヶ崎BCポニー Jr. 5―3 杉並中野ポニー Jr.

▽決勝

高崎中央ポニーGIANTS Jr.

	0	1	0	1	5	3	0		10
	0	2	1	0	1	0	0		4

江東ポニージュニア
（高）五十嵐、舘野、南場
―杉田
（江）園山、佐野、中井、加藤、吉田、三浦―方波見

○…表彰選手…○

団体表彰

◇優勝
高崎中央ポニーGIANTS

◇準優勝
江東ポニージュニア

◇第3位
茅ヶ崎BCポニー Jr.
市原ポニージュニア

個人賞

◇最優秀選手賞
舘野 銀嗣（高崎中央ポニーGIANTS Jr.）

◇全日本選手権 ポニーブロンコ大会 歴代優勝・準優勝チーム◇

	優勝	準優勝
第1回大会	小平ヤングジャガーズ	ブロンコ豊島
第2回大会	小平ヤングジャガーズ	北千葉ファミールズ
第3回大会	小平ヤングジャガーズ	北千葉ファミールズ
第4回大会	小平ヤングジャガーズ	葛飾ジュニアーズ
第5回大会	松戸バッファローズ	小平ヤングジャガーズ
第6回大会	松戸バッファローズ	北海ベアーズ
第7回大会	湘南クラブ	北海ベアーズ
第8回大会	大田水門シャーク	湘南クラブ
第9回大会	仙台卸町ファイターズ	北海ベアーズ
第10回大会	松戸バッファローズ	大田水門シャーク
第11回大会	保谷ドジャース	松戸バッファローズ
第12回大会	当別フォックス	仙台卸町ファイターズ
第13回大会	大田水門シャーク	札幌西区ダッシュマンズ
第14回大会	松戸バッファローズ	当別フォックス
第15回大会	松戸バッファローズ	大田水門シャーク
第16回大会	新潟ポニージュニアーズ	札幌東ファイターズ
第17回大会	保谷ドジャース	大田水門シャーク
第18回大会	新潟ポニージュニアーズ	大田水門シャーク
第19回大会	練馬キッズ	葛飾ジュニアーズ
第20回大会	葛飾ジュニアーズ	練馬キッズ
第21回大会	練馬キッズ	葛飾ジュニアーズ
第22回大会	新潟ポニージュニアーズ	葛飾ジュニアーズ
第23回大会	大田水門シャーク	葛飾ジュニアーズ
第24回大会	大田水門シャーク	葛飾ジュニアーズ
第25回大会	西東京ドジャース	多摩川ジェムストン
第26回大会	多摩川ジェムストン	葛飾ジュニアーズ
第27回大会	葛飾ジュニアーズ	松戸バッファローズ
第28回大会	葛飾ジュニアーズ	新潟ポニージュニアーズ
第29回大会	葛飾ジュニアーズ	新潟ポニージュニアーズ
第30回大会	松戸ポニージュニア	葛飾ジュニアーズ
第31回大会	練馬キッズ	松戸バッファローズ
第32回大会	葛飾ジュニアーズ	松戸バッファローズ
第33回大会	松戸バッファローズ	葛飾ジュニアーズ
第34回大会	松戸バッファローズ	葛飾ジュニアーズ
第35回大会	松戸バッファローズ	新潟ポニーリトルスターズ
第36回大会	新潟ポニーリトルスターズ	葛飾ジュニアーズ
第37回大会	滑川都ベースボールクラブ	松戸・栃木連合
第38回大会	滑川都ファイターズ	松戸バッファローズ
第39回大会	市原中央ポニージュニア	清瀬サンダーバード
第40回大会	市川東ポニー	羽田アンビシャスブロンコ
第41回大会	清砂ポニー	墨田ファルコン
第42回大会	清砂ポニー	市川東ポニー
第43回大会	清砂ポニー	江東スターズ
第44回大会	羽田アンビシャスブロンコ	市原中央ポニーJr.
第45回大会	佐賀ビクトリー	市原ポニーJr.
第46回大会	香取Pポニー Jr.	埼北ポニーPJr.
第47回大会	江東ポニーJr.	杉並中野ポニーギャラクシー
第48回大会	SKポニージュニア	羽田アンビシャスポニーブロンコ
第49回大会	高崎中央ポニーGIANTS Jr.	江東ポニージュニア



ポニーブロンコ大会初優勝の高崎中央ポニーGIANTS Jr.

◇**優秀選手賞**
三浦　歩斗（江東ポニージュニア）
◇**殊勲賞**
下笠　義斗（茅ヶ崎ＢＣポニーJr.）
安田　塁（市原ポニージュニア）
◇**敢闘賞**
畠山　凌（杉並中野ポニーGALAXYシルバー）
橋本　裕利（ポニー横浜パイレーツⅡ）
長沼　悠陽（高崎中央ポニーNEXT Jr.）
藤平　脩暉（房州ポニーJr.）

日本代表、ワールドシリーズで活躍

２０２５年のポニーワールドシリーズは、U―12ブロンコ（中学1年生）の部が米テキサス州、U―16コルトの部が米イリノイ州、さらに今年より初参加となりましたU―13 PONY―13（中学２年生）の部がカリフォルニア州で開催されました。

また、ブロンコの部においては、アジアパシフィックゾーン代表に選出された日本代表チームが決勝戦でアメリカ、プラセンシアに1―3で敗れ、準優勝となりました。しかし、今年度より初参加のPONY―13の部では、順調に勝ち進み決勝戦でプエルトリコと対戦。投手陣の力投と打線も繋がり9―0で見事勝利。初優勝となりました。

◇**U―13 PONY―13の部　初優勝**
＊ダブルエリミネーション方式
▽第1戦
日本代表12―0シカゴ代表
▽第2戦
日本代表9―0カールスバッド代表
▽第3戦
日本代表5―0カールスバッド代表
▽決勝戦
日本代表9―0プエルトリコ代表
◇**U―12ブロンコの部　準優勝**
＊ダブルエリミネーション方式
▽第1戦
日本代表10―0テキサス州代表
▽第2戦
日本代表16―3メキシコ代表
▽第3戦
日本代表13―3ラレド代表
▽決勝戦
日本代表1―3プラセンシア代表



PONY-13WSで初参加・初優勝した日本代表



2025年度事業計画実施報告

2025年3月1日から2026年2月28日まで

公益財団法人日本野球連盟

1．総括

２０２５年度は、社会人野球の価値向上を図るため、各委員会がその目的に基づき活発な活動を行った。特に、設置３年目となる事業委員会では、ＪＡＢＡの将来に向けた中長期的な視野に基づき、都市対抗野球大会や社会人野球日本選手権大会をはじめとする各種大会のあり方を抜本的に見直すべく協議を重ねた結果として、「日本野球連盟主催三大大会及び日本選手権対象大会運営改革（案）」をまとめ、日本野球振興世話人会全体会議をはじめ、各地区連盟や加盟チーム関係者に対する説明の機会を設けた。引き続き２０２６年度は、改革案の施行へ向けた重要な年と位置付けており、関係各所の理解と協力が得られるようさらに広く意見を聴取し、協議を重ねていくこととしている。

さて、第96回都市対抗野球大会では、「春日井市・王子」が第75回大会（２００４年）以来、21年ぶり２回目の優勝を飾った。公式入場者数は前回大会を約１万人上回り34万人を超えた。関連イベントも昨年に続き組合せ抽選会の一般公開や応援団コンクール、子供たちへのグランド開放、キューバ共和国への用具寄付活動等を実施した。社会人野球日本選手権大会は第50回の節目を迎え、記念式典やレジェンド始球式をはじめとする各種記念事業を実施した。また、例年行っている地元高校生による吹奏楽やチアリーディング、グラウンドの開放によるキッズイベントをはじめ、能登半島地震で被災した地域の小学生を京セラドーム大阪に招待し、試合観戦やグラウンド開放など行った。本大会は「ヤマハ」が８大会ぶりに制し、２回目のダイヤモンド旗獲得を果たした。初の四国開催となった第49回全日本クラブ野球選手権大会は、近畿地区代表の「マツゲン箕島硬式野球部」が２大会連続となる７回目の優勝となった。

国際大会では、社会人代表で臨んだ第31回ＢＦＡアジア野球選手権（平潭／中国）において見事に結果を残した。スーパーラウンドで韓国に敗れたが決勝戦ではチャイニーズタイペイを圧倒し、前回大会に続く21回目の優勝となった。社会人代表は、２０２６年度に予定されている第20回アジア競技大会（２０２６／愛知・名古屋）における金メダル獲得を最大の目標に掲げており、川口朋保監督のもと１９９４年の広島大会以来、32年ぶりの悲願達成を目指す。なお、社会人代表の礎となる全日本ジュニア合宿は７会場で行われ合計１８９名が参加した。また、台湾で行われたアジアウインターベースボール（ＡＷＢ）でも、33名の若手選手が実戦経験を積んでおり、次の世代の育成が結果に繋がっている。川口監督が就任した２０２３年度から２０２５年度に行われた国際大会（２度のアジア野球選手権と２０２４年度のU23W杯）３連覇は、アスリート委員会委員による発掘、育成、強化の成果である。

普及振興事業として、地区連盟選抜チームによる他地区との交流試合開催を掲げた。「北海道・東北」「東海・近畿」「中国・九州」で行われ、今後においてはクラブチームも含めた普及振興策の一つとして開催促進を図る。また、コロナ禍で開催数が減少した「全国一斉ティーボール教室」も徐々にではあるが増加傾向にある。普及振興策については、それぞれの地域で地道な活動を続けていくことが重要であり、本連盟は、東京ドームや京セラドーム大阪で行う全国大会期間中の普及振興イベント開催を継続するとともに、各地域で行われる活動も広くサポートする。各地区連盟、各加盟地方団体、加盟チームとともに各地域の試合会場をはじめ、多くの子供たちが野球の楽しさに接することができる機会の拡大を目指す。

2．本年度の事業内容

(1)公益目的事業　野球大会の開催・運営及び野球競技の普及振興等事業

ア．第96回都市対抗野球大会・・・・・（３４２頁参照）

期　間　8月28日（木）～9月8日（月）

球　場　東京ドーム

参加チーム　32チーム

※「春日井市・王子」（東海第６代表：３年連続20回目の出場）が第75回大会（２００４年）以来、21年ぶり２回目の優勝を飾り、黒獅子旗を獲得した。

※大会の開催に際し、各種関連イベントを実施した。

※各地区連盟並びに各加盟地方団体予選にかかる費用の一部を各地区連盟に支給した。

イ．第50回社会人野球日本選手権大会

・・・・・（３４２頁参照）

期　間　10月28日（火）～30日（木）、11月4日（火）～12日（水）

球　場　京セラドーム大阪

参加チーム　32チーム

※「ヤマハ」（３大会連続29回目の出場）が８大会ぶり２回目の優勝を飾り、ダイヤモンド旗を獲得した。

※近畿地区連盟が中心となり、各種関連イベントを実施した。

※第50回大会を記念して各種記念事業を実施した。

※日本選手権対象大会並びに全日本クラブ選手権大会に

各地区クラブ大会　2025年度開催状況

大会名	期　間	球　場	ﾁｰﾑ数	試合方法	優勝チーム	準優勝チーム
北海道地区クラブ選手権	9/6・7・13・14・15	栗山町民・野幌	15	ﾄｰﾅﾒﾝﾄ	TRANSYS	Feather Home HORNETS
東北クラブカップ	8/23～2日間	さきがけ八橋・琴丘スカルパ	8	ﾄｰﾅﾒﾝﾄ	オール江刺（岩手）	大崎トリプルクラウン（宮城）
北信越クラブカップ	10/18～2日間	県営富山	6	ﾄｰﾅﾒﾝﾄ	千曲川硬式野球クラブ（長野）	新潟コンマーシャルクラブ（新潟）
関東連盟クラブ選手権	10/12・18	市営浦和・岩槻川通・三菱重工金沢	8	ﾄｰﾅﾒﾝﾄ	CLUB REBASE（東京）	太田暁工業硬式野球クラブ（群馬）
東海地区クラブ選手権	11/1・2・15	トヨタスポーツセンター	8	ﾄｰﾅﾒﾝﾄ	寿々硬式野球クラブ（愛知）	静岡硬式野球倶楽部（静岡）
近畿クラブ会長杯	7/27・8/2・3・7・9	さとやくS・橿原運動公園	16	ﾄｰﾅﾒﾝﾄ	三菱自動車ダイヤフェニックス（京都）	履正社ベースボールクラブ（大阪）
中国･四国クラブ選手権	11/1（決勝ﾄｰﾅﾒﾝﾄ）	上下運動公園	4	ﾄｰﾅﾒﾝﾄ	ショウワコーポレーション（岡山）	三原ヤッサベースボールクラブ（広島）
九州クラブ選手権	10/18～2日間	ひぜしんS・江北町営花山	8	ﾄｰﾅﾒﾝﾄ	ビッグ開発BC（沖縄）	福岡トヨタ硬式野球部FTサンダース（福岡）

対し、予選費として一部運営経費を負担した。

ウ. 第49回全日本クラブ野球選手権大会
・・・・・（342頁参照）

期　日　9月13日（土）～9月16日（火）
球　場　坊っちゃんスタジアム、マドンナスタジアム（愛媛県松山市）、今治市営球場（愛媛県今治市）
参加チーム　16チーム

エ. その他大会事業費

■各地区クラブ大会・・・・・・・・・（342頁参照）
以下の通り「各地区クラブ大会」として8大会（中国地区と四国地区は合同開催）を実施した。
主　催　日本野球連盟、各開催地地区連盟、毎日新聞社
協　賛　ミズノ株式会社
※各大会の運営は開催地の地区連盟に委託。大会運営費は各地区連盟に支給した。

■2025年度各JABA公式大会結果
（主要大会のみ）・・・・・・・・（342頁参照）

■各種プログラムの維持・管理（上記の大会に共通する事業）
本連盟が所有するプログラムやソフトウエア等の維持管理を行った。

■クロックボードの管理（上記の大会に共通する事業）
2025年度は修理等実績はなし。

オ. 指導者育成事業

■ベースボールマネージャーミーティング
（指導者研修会）
期　日　1月10日（土）
会　場　TKPガーデンシティPREMIUM東京駅日本橋
参　加　者　105名（85チーム）
企画・運営　アスリート委員会

カ. 審判員育成事業

■審判員育成事業
全国審判講習会（全国アンパイアミーティング）
各地区連盟から推薦された審判員に対し座学研修を以下のとおりリモートで実施した。
期　日　1月17日（土）
参　加　者　392名（9地区連盟から参加）
企画・運営　規則・審判委員会

キ. その他研修事業

■コンプライアンス教育の実施
役職員、選手及び指導者、審判員等に対するコンプライアンス教育を実施した。

■コーチング研修事業の実施（全国展開）
野球人口拡大へ向けた指導内容の全国標準化及び中学校運動部活動の地域移行に対する協力のための準備を目的として以下のとおり3会場でコーチング研修を実施した。講師は、阿久根謙司理事が務めた。

・北信越地区連盟
期　日　12月14日（日）
会　場　松本市浅間温泉文化センター
受講者　124名
※内訳：監督・コーチ70名（小学軟式・硬式、中学軟式・硬式・女子、高校）、選手45名（大学）、役員9名

・東海地区連盟
期　日　1月25日（日）
会　場　中部大学室内練習場
受講者　105名
※内訳：大学3名、高校13名、中学74名、小学5名、連盟3名、その他7名

・九州地区連盟
期　日　12月　7日（日）

会　場　ホンダ室内練習場
受講者　30名
※内訳：少年野球指導者26名、連盟審判員2名、軟式野球連盟2名

ク．公式記録員実地研修の実施
■期　日　8月28日（木）～9月8日（月）
場　所　東京ドーム
参　加　者　各地区連盟推薦記録員11名、アドバイザー（公式記録部会委員）4名（第96回都市対抗野球大会において実地研修）
指　導　公式記録部会委員
■期　日　10月28日（火）～30日（木）、11月4日（火）～12日（水）
場　所　京セラドーム大阪
参　加　者　各地区連盟推薦記録員10名、アドバイザー（公式記録部会委員）4名（第50回社会人野球日本選手権大会において実地研修）
指　導　公式記録部会委員

ケ．場内アナウンス研修の実施
■期　日　8月28日（木）～9月8日（月）
場　所　東京ドーム
参　加　者　各地区連盟推薦アナウンス担当者　9名（第96回都市対抗野球大会において実地研修）
指　導　JABA推薦アナウンス担当者
■期　日　10月28日（火）～30日（木）、11月4日（火）～12日（水）
場　所　京セラドーム大阪
参　加　者　各地区連盟推薦アナウンス担当者　8名（第50回社会人野球日本選手権大会において実地研修）

コ．コンディショニングスタッフ研修の実施
加盟チームのトレーナーを対象に以下のとおり研修会をリモートで開催した。
期　日　2月4日（水）
参　加　者　加盟チームトレーナー　75名
指　導　アスリート委員会委員

サ．競技力向上事業
■全日本ジュニア強化合宿
・北海道地区
7月26日（土）　北ガスフレアスタジアム　参加者20名
・東北・北信越地区
8月3日（日）　JR東日本東北球場　参加者23名
・関東地区
7月27日（日）　東京ガス大森グラウンド　参加者31名
・東海地区
7月13日（日）　トヨタスポーツセンター　参加者29名
・近畿地区
7月20日（日）　NTT淀総合運動場（野球場）
参加者29名
・中国・四国地区
7月19日（土）　ツネイシスタジアム　参加者26名
・九州地区
8月8日（金）　SGマリンフィールド東浜（西部ガス）　参加者31名
※7会場の参加選手合計：189名

■全日本野球協会（BFJ）選手強化事業に対する協力
※BFJが実施する選手強化事業（国際大会派遣及び強化合宿等）については、JABA加盟チーム所属選手や指導者が多数参加することから、かかる事業費に対する負担金を支出した。

【国際大会派遣事業】
以下の国際大会派遣事業について、BFJからの要請に応じて、チームスタッフ（監督、コーチ等）及び大会運営スタッフ（審判員等）を派遣した。

・第8回WBSC　U－12野球ワールドカップ2025
期　間　7月25日（金）～8月3日（日）
開催地　台南・台湾
結　果　1位　USA、2位　JPN、3位　KOR、4位　TPE、5位　DOM、6位　MEX、7位　CUB、8位　PAN、9位　AUS、10位　CZE、11位　DEU、12位　ZAF

・第12回BFA　U－15アジア野球選手権
期　間　8月17日（日）～23日（土）
開催地　台南・台湾
結　果　1位　TPE、2位　JPN、3位　KOR、4位　PHI、5位　HKG、6位　PAK、7位　SRI、8位　THA

・第31回BFA　アジア野球選手権
期　間　9月22日（月）～28日（日）
開催地　中国・平潭県（福建省）
結　果　1位　JPN、2位　TPE、3位　KOR、4位　CHN、5位　PLE、6位　PHI、7位　HKG、8位　PAK

【社会人代表強化合宿】
国際大会へ向けて選手の選考・強化を目的として以下のとおり強化合宿を行った。

・第1回強化合宿（BFAアジア野球選手権選考合宿）
期　間　7月29日（火）～8月1日（金）
会　場　トヨタスポーツセンター、豊橋市民岡崎レッドダイヤモンドスタジアム

・第2回強化合宿（BFAアジア野球選手権派遣直前

合宿）
期　間　9月17日（水）～19日（金）
会　場　東京ガス大森グラウンド

■アスリート委員会活動
・情報収集活動
社会人日本代表候補選手の発掘を目的として、各地で行われる大会等にアスリート委員会委員を派遣し、選手に関する情報収集活動を行った。
・各地区連盟等主催クラブチーム所属競技者技術研修会等に対する講師の派遣
北海道地区新人研修会及びクラブチーム技術研修会、東北地区クラブチーム技術研修会、東海地区若手競技者技術研修の開催に対し、地元地区選出のアスリート委員が中心となり運営を行った。
・データ分析競技会の開催
全日本野球協会が提供するデータを基に、分析とアナリストの育成を目的として、データ分析競技会を開催した。費用について共催のＢＦＪと折半負担した。
期　間　2月14日（土）～15日（日）
会　場　Ｊａｐａｎ Ｓｐｏｒｔｓ Ｏｌｙｍｐｉｃ Ｓｑｕａｒｅ内「岸清一メモリアルルーム」

シ．国内普及振興事業
■各全国社会人野球大会事業補助
・日本選手権対象大会（11大会）に対して会長杯を贈呈した。
・審判員の技術向上を図るため、日本選手権対象大会へ派遣の機会が少ない加盟地方団体所属審判員の派遣数拡大を目的とし、東北大会、岡山大会、九州大会にかかる審判派遣費用の一部を支給した。

■加盟地方団体普及振興事業
各地区連盟・各加盟地方団体が行う普及振興事業に対し、費用の一部を負担した。
・対象事業（以下23件）

【北海道地区】
クラブチーム技術研修会
3月1日（土）～29日（土）（計6回）　北海道日本ハムF室内練習場
審判講習会
4月5日（土）～6日（日）　ＪＲ北海道恵庭球場他
公式記録講習会
8月6日（水）～10日（日）　札幌円山球場
北海道・東北交流試合
10月14日（火）～15日（水）　石巻市民球場

【東北地区】
審判講習会
3月15日（土）～16日（日）　東北福祉大学球場他
記録員・アナウンス
3月29日（土）～30日（日）　石巻市民球場
クラブチーム技術研修会
7月26日（土）　一関運動公園野球場
北海道・東北交流試合
10月14日（火）～15日（水）　石巻市民球場

【北信越地区】
審判講習会
3月22日（土）～23日（日）　福井県営球場
審判講習会（長野）
11月15日（土）～16日（日）　長野オリンピックＳ

【関東地区】
審判講習会
2月14日（土）　エイジェックさくら球場

【東海地区】
審判講習会
3月1日（土）　岡崎レッドダイヤモンドＳ
クラブチーム技術研修
11月22日（土）～23日（日）　ぎふしん長良川球場
東海・近畿Ｕ23交流試合
7月29日（火）　わかさスタジアム京都

【近畿地区】
審判講習会
3月1日（土）～2日（日）　関西大学千里山野球場
審判講習会（大阪）
3月9日（日）　パナソニックベースボールスタジアム
東海・近畿Ｕ23交流試合
7月29日（火）　わかさスタジアム京都

【中国地区】
審判講習会
3月1日（土）～2日（日）　三菱自動車倉敷グラウンド
審判講習会（広島）
3月9日（日）　ツネイシスタジアム
中国・九州交流試合
8月9日（土）～10日（日）　山口マツダ西京きずなスタジアム

【四国地区】
審判講習会
2月1日（土）　高知工科大学グラウンド

【九州地区】
審判講習会
2月21日（土）～22日（日）　Ｈｏｎｄａ熊本グラウンド
中国・九州交流試合

8月9日（土）～10日（日）　山口マツダ西京きずなスタジアム

■中学野球協議会事業

中学野球協議会事業として以下の事業を行った。

・第19回全日本中学野球選手権大会（ジャイアンツカップ）の開催

期　間　8月11日（月）～17日（日）

会　場　東京近郊

出　場　各地区予選を勝ち抜いた32チーム

優　勝　世田谷西リトルシニア

※読売新聞社との共催

・第12回ＢＦＡ　Ｕ―15アジア野球選手権に派遣する日本代表チームの編成・強化・派遣を行った。（結果は上記「国際大会派遣事業」参照）

・指導者研修の実施

小中学生チームの指導者向け研修用動画を制作し、配信した。中学硬式野球団体より申請があり受講した指導者１９００名に修了証を発行した。

・ＪＡＢＡ会長杯の贈呈

加盟全国団体が行う全国規模の大会に対し申請に基づき、ＪＡＢＡ会長杯を贈呈した。

■加盟全国団体普及振興事業

加盟全国団体が行う普及振興事業に対し、費用の一部を負担した。

・対象事業（以下6件）

【日本リトルシニア中学硬式野球協会】

審判講習会

1月24日（土）　関東村（調布リトルシニアG）

【日本少年野球連盟（ボーイズリーグ）】

審判講習会

2月7日（土）～8日（日）　大阪シティ信用金庫Ｓ

アナウンス講習会

1～8月（8回）　大田スタジアム他

【全日本少年硬式野球連盟（ヤングリーグ）】

審判講習会

2月7日（土）～8日（日）　ＳＧＬスタジアム尼崎

倉敷国際少年野球大会

8月23日（土）～25日（月）　倉敷スポーツ公園他

【日本中学生野球連盟】

全国中学生都道府県対抗野球大会

11月1日（土）～3日（月）　伊豆志太Ｓ他

■地方審判講習会指導者派遣

地区連盟・加盟団体が行う審判講習会に対し、講師を派遣し、かかる費用を負担した。

・対象事業（以下15件）

【地区連盟主催】

東海地区審判講習会　3月1日（土）　3名

近畿地区審判講習会　3月1日（土）　3名

中国地区審判講習会　3月2日（日）　3名

東北地区審判講習会　3月15日（土）～16日（日）　3名

北信越地区審判講習会　3月22日（土）～23日（日）　3名

北海道地区審判講習会　4月5日（土）～6日（日）　3名

四国地区審判講習会　2月1日（日）　3名

関東地区審判講習会　2月14日（土）　3名

九州地区審判講習会　2月21日（土）～22日（日）　3名

【加盟地方団体主催】

秋田県審判講習会　4月5日（土）～6日（日）　2名

新潟県審判講習会　11月15日（土）～16日（日）　3名

沖縄県審判講習会　1月30日（金）～31日（土）　1名

茨城県審判講習会　2月21日（土）　1名

【加盟全国団体】

リトルシニア審判講習会（関西）　1月18日（日）　2名

リトルシニア審判講習会（全国）　1月24日（土）　10名

■野球競技普及振興事業

・加盟団体が行う野球競技普及振興事業（野球教室・ティーボール教室）に対し、費用の一部を負担した。対象は以下のとおり。（21件）

【北海道地区連盟】

ティーボール教室

7月15日（火）　日本製鉄室蘭球場

野球教室

8月1日（金）～3日（日）　札幌円山球場

【新潟県野球連盟】

野球教室

8月23日（土）　みどりと森の運動公園野球場

【富山県野球連盟】

ティーボール教室

6月1日（日）　奥田北小学校

ティーボール教室

9月23日（火）　氷見運動公園大芝生公園

【石川県野球連盟】

野球教室

8月16日（土）　津幡町運動公園野球場

【東海地区連盟】

ティーボール教室

5月24日（土）・25日（日）　岡崎レッドダイ

ヤモンドS
ティーボール教室
6月1日（日）・8日（日）　岡崎レッドダイヤモンドS
ティーボール教室
6月22日（日）　岡崎レッドダイヤモンドS
【静岡県野球協会】
ティーボール教室
1月16日（金）　沼津市（沼津学園第一幼稚園）
1月26日（月）　浜松市（浜松学院大学付属幼稚園）
1月29日（木）　静岡市（うしづま保育園）
【岐阜県野球連盟】
野球教室
8月6日（水）　サン・スポーツランドふるかわ
野球教室
8月6日（水）　高山市中山公園野球場
ティーボール教室
12月21日（日）　岐阜協立大学体育館
【京都府野球連盟】
野球教室
8月9日（土）　わかさS京都
【岡山県野球連盟】
野球教室
12月7日（日）　日比製煉S
【山口県野球連盟】
ティーボール教室
6月7日（土）　航空自衛隊防府南基地
野球教室
12月13日（木）　津田恒実メモリアルスタジアム
【日本少年野球連盟（ボーイズリーグ）】
ティーボール教室
5月4日（日）・5日（月）　江戸川区北篠崎河川敷
ティーボール教室
11月23日（日）・11月24日（月）　坂戸市総合運動公園G
・全国一斉ティーボール教室
加盟チームに協力を呼びかけ、59箇所で実施した。
※ｔｏｔｏ助成対象事業

■年間表彰事業
①表彰選考
表彰選考委員会を開催し、主要大会の成績を基に協議した結果、（３５６頁参照）のとおり表彰者が決定した。
期　日　11月25日（火）
会　場　毎日ホール
②年間表彰式
期　日　12月10日（水）
会　場　ＫＫＲホテル東京
※表彰式並びに表彰者記者会見を実施した。表彰式は昨年に続きＷＥＢ配信を行った。

ス．海外研修派遣事業

■アジアウインターベースボール（ＡＷＢ）へのチーム派遣
期　間：11月15日（土）～12月7日（日）
開催地：台湾・高雄、嘉義
最終順位：優勝：ＪＡＢＡ、2位：ＮＰＢ、3位：ＣＰＢＬ-Ｍ、4位：ＣＰＢＬ-Ｓ、5位：ＫＢＯ
※国際審判員の研修を目的として5名を3クールに分けて派遣、それぞれ試合を担当した。

セ．国際普及振興事業

■世界少年野球大会
第31回世界少年野球大会・秋田大会は、世界少年野球推進財団（ＷＣＢＦ）との共催で以下のとおり実施した。本連盟から2名のインストラクターを派遣した。
期　間　7月30日（水）～8月7日（木）
会　場　秋田県大仙市　ふれあいスポーツランド・ソラーレ

■加盟全国団体国際大会出場費
加盟全国団体が国際大会出場にかかる費用の一部を負担した。
・対象事業（以下3件）
【日本リトルシニア中学硬式野球協会】
ＭＣＹＳＡ全米選手権大会　7月13日（日）～23日（水）　アメリカ・イリノイ州
【日本少年野球連盟（ボーイズリーグ）】
世界少年野球大会　8月1日（金）～12日（火）　アメリカ・サンフランシスコ
【全日本少年硬式野球連盟（ヤングリーグ）】
台南巨人杯国際ユースリーグ大会　1月1日（木）～7日（水）　台湾・台南

■アジア野球連盟加盟国支援
本年度の支援実績はなし。

ソ．広報活動事業

■グランドスラム誌発行協力
社会人野球情報誌「グランドスラム」（年2回発行）の制作並びに「週刊グランドスラム」のＷＥＢ配信（毎週金曜日）に協力した。

■２０２５年日本野球連盟報の発行、配布
本連盟における２０２４年度事業報告並びに２０２５年度事業計画等を記録としてまとめた。制作部数は80部、配布先は当連盟内のみ。デジタル版を制作し、公式ホームページ上に公開した。
※ｔｏｔｏ助成対象事業

■公式ホームページ・ＪＡＢＡファンクラブの運営管理
公式ホームページを通じて本連盟の概要や各種大会の速報等を発信した。またＪＡＢＡファンクラブ会員向けサービスの充実化を図った。

■デジタルニュースの制作・配信
毎週１回、ＪＡＢＡファンクラブ会員向け及び一般向けにそれぞれデジタルニュースを制作し、ＪＡＢＡ公式ホームページに掲載した。
※ｔｏｔｏ助成対象事業

■公式ＳＮＳからの情報発信
・ＪＡＢＡ公式ＹｏｕＴｕｂｅ「ＪＡＢＡ ｓｔａｔｉｏｎ」から配信する情報の充実化を図るため、動画の制作・配信を行った。配信した動画は以下のとおり。
【第96回都市対抗野球大会関連】
出場チーム紹介、組合せ抽選会ライブ配信、ハイライト（全31試合）など
・公式ＳＮＳ（Ｆａｃｅｂｏｏｋ、Ｘ、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ）から本連盟（社会人野球等）に関する情報配信を行った。

■ＪＡＢＡ公式大会に関する試合情報の発信
ＪＡＢＡ公式大会に関する情報量拡大を図るため、各地区連盟並びに各加盟地方団体の協力を得て、「一球速報．ｃｏｍ」（野球データ配信サービス：Ｏｍｙｕ Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ株式会社提供）を活用した試合情報発信を行った。

■ＪＡＢＡの広報活動に対するマネジメント
ＪＡＢＡが行う広報活動の充実化を図るため、ライトラック株式会社とマネジメント契約を締結し、サポートを受けた。同社との協力による主な実施事業は以下のとおり。
・ＪＡＢＡ公式ＳＮＳ及びメルマガ用配信情報のテンプレート作成
・各種イベントのプランニング
・都市対抗ＰＲ動画撮影時のディレクションに対する助言
・プレスリリース原稿素案作成
・年間表彰式バックボードデザインの制作
・選手画像を活用した商品の販売企画
・ＪＡＢＡ連盟報制作費見積の精査等
・ファンミーティングの運営サポート
タ．その他の事業

■公益財団法人日本スポーツ協会への加盟
日本スポーツ協会に対し代表者を選出し、加盟団体として必要とされる事業協力を行った。

■一般財団法人全日本野球協会（ＢＦＪ）への加盟
全日本野球協会に対し代表者を選出し、加盟団体として必要とされる事業協力を行った。

■公益財団法人野球殿堂博物館への加盟
野球殿堂博物館に対し代表者を選出し、加盟団体として必要とされる事業協力を行った。

■野球競技規則の制定に関する協議
規則・審判委員会において、野球競技規則に関する協議を行った。また、ＢＦＪアマチュア野球規則委員会に代表者を派遣し、野球競技規則制定に関する協議に参画した。

■野球競技の競技施設、用器具等の指導及び公認に関する協議
ＢＦＪアマチュア野球規則委員会に委員を派遣し、競技施設、用器具等の指導及び公認に関する協議に参画した。

■アオダモ資源育成の会に対する協力
選手が使用する木製バットの資源育成のため「アオダモ資源育成の会」の事業に協力した。

■一般財団法人世界少年野球推進財団（ＷＣＢＦ）の事業に対する協力
世界少年野球推進財団に対し代表者を派遣し、同財団に協力した。

(2)収益事業　野球大会のグッズ及び野球に関する書籍等の販売
ア．公式グッズ等販売
ＪＡＢＡ公式グッズ並びに各大会グッズやプログラム等の販売を行った。
イ．野球に関する書籍等の販売

■グランドスラム誌の販売
社会人野球情報誌「グランドスラム」（年２回発行）をＪＡＢＡ加盟団体や加盟チーム等関係先に販売した。また、ＪＡＢＡ公式大会開催球場においても販売を行った。

■公認野球規則の販売
公認野球規則をＪＡＢＡ加盟団体や加盟チーム等関係先に販売した。

(3)その他
ア．２０２５年度ＪＡＢＡ公式大会
２０２５年度ＪＡＢＡ公式大会は、本連盟並びに各地区連盟及び各加盟地方団体主催により行われた。
イ．野球競技の競技施設、用器具等の指導及び公認に関すること
２０２５年度におけるＪＡＢＡ公式大会で使用するボールは以下に掲げる「ＪＡＢＡ公認ボール店」10社とした。
イソノ運動具店、ミズノ、久保田運動具店、松勘工業、エスエスケイ、ゼット、一光スポーツ、ハイゴールド、サンアップ、大阪ホーマー
ウ．ＮＰＢ所属プロ球団との交流試合
「プロ・社会人交流試合の申し合わせ事項」に基づき実施した。
エ．国内独立リーグとの交流試合
国内独立リーグの球団との交流試合は協定書に基づ

き実施した。
オ．加盟チーム数の推移・・・（352・353頁参照）
カ．加盟チーム数及び登録者数
・・・・・・（354・355頁参照）
キ．加盟チームの変更事項・・・・・・（357頁参照）
ク．会議開催状況
■評議員会
第1回定時評議員会（ハイブリッド）
5月20日（火）TKPガーデンシティ神保町
臨時評議員会みなし決議
12月23日（火）
■理事会
第1回定時理事会（ハイブリッド）
4月22日（火）TKPガーデンシティ丸の内
第1回臨時理事会（ハイブリッド）
5月20日（火）TKPガーデンシティ神保町
第2回臨時理事会（ハイブリッド）
7月25日（金）TKPガーデンシティ丸の内
第3回臨時理事会（ハイブリッド）
10月22日（水）TKPガーデンシティ丸の内
第4回臨時理事会（ハイブリッド）
12月10日（水）KKRホテル東京
第2回定時理事会（ハイブリッド）
2月17日（火）TKPガーデンシティ丸の内
臨時理事会みなし決議
2月27日（金）
■業務執行会議
第1回業務執行会議（ハイブリッド）
4月15日（火）JABA事務所
第2回業務執行会議（ハイブリッド）
7月17日（木）JABA事務所
第3回業務執行会議（ハイブリッド）
10月14日（火）JABA事務所
第4回業務執行会議（ハイブリッド）
12月2日（火）JABA事務所
第5回業務執行会議（ハイブリッド）
2月5日（木）JABA事務所
■各委員会
【事業委員会】
第1回会議（ハイブリッド）
3月27日（木）TKPガーデンシティ神保町
第2回会議（ハイブリッド）
7月3日（木）TKPガーデンシティ神保町
第3回会議（ハイブリッド）
8月31日（日）東京ドーム内
第4回会議（ハイブリッド）
10月9日（木）TKPガーデンシティ神保町
第5回会議（ハイブリッド）
11月21日（金）TKPガーデンシティ神保町
第6回会議（ハイブリッド）
1月21日（水）TKPガーデンシティ神保町
※以下　各委員会活動報告参照
・・・・・・・（337～341頁参照）
【企画広報委員会】
第1回会議
8月29日（金）　東京ドーム内
第2回会議
10月28日（火）　京セラドーム大阪内
【規則・審判委員会】
第1回会議（オンライン）
9月11日（木）
・同公式記録部会
第1回会議
2月26日（木）　毎日新聞社会議室
【アスリート委員会（競技力向上委員会）】
第1回会議（オンライン）
5月13日（火）
第2回会議
8月30日（土）東京ドーム内
第3回会議
11月8日（土）京セラドーム大阪内
第4回会議（オンライン）
2月24日（火）
【コンプライアンス委員会】
第1回会議（オンライン）
10月6日（月）
第2回会議（オンライン）
2月25日（水）
【クラブ野球活性化委員会】
第1回会議（オンライン）
6月23日（月）
第2回会議
8月30日（土）東京ドーム内
第3回会議
10月28日（火）京セラドーム大阪内
第4回会議
2月17日（火）JABA事務所
【アナウンス委員会】
第1回会議（オンライン）
5月29日（木）
第2回会議（オンライン）
8月7日（木）
第3回会議（オンライン）
10月15日（水）
■第96回都市対抗野球大会運営委員会
第2回会議（ハイブリッド）
5月29日（木）JABA事務所
■第97回都市対抗野球大会運営委員会
第1回会議（ハイブリッド）

1月26日（月）ＪＡＢＡ事務所
■社会人野球日本選手権大会実行委員会
第１回会議
7月16日（水）毎日新聞大阪本社会議室
第２回会議（ハイブリッド）
10月15日（水）毎日新聞大阪本社会議室
■地区連盟会長懇談会
8月29日（金）東京ドーム内
■地区連盟選出理事会議
第１回会議（オンライン）
8月19日（火）
第２回会議（オンライン）
10月7日（火）
■各地区連盟・加盟地方団体事務局担当者会議
全体会議（オンライン）
2月20日（金）
■ＪＡＢＡ主催三大大会及び日本選手権対象大会運営改革（案）に関する説明会
北海道地区連盟
7月27日（日）ＴＫＰ札幌ビジネスセンター赤れんが前
東北地区連盟
7月12日（土）仙台サンプラザ
北信越地区連盟
7月18日（金）相鉄フレッサイン長野駅善光寺口
関東地区連盟
8月4日（月）ＴＫＰ東京駅カンファレンスセンター
東海地区連盟
7月10日（木）ＪＲゲートタワーカンファレンス
近畿地区連盟
7月15日（火）毎日新聞大阪本社
中国地区連盟
7月23日（水）福山ニューキャッスルホテル
四国地区連盟
7月11日（金）ホテルサンシャイン徳島
九州地区連盟
6月26日（木）ＪＲ博多シティ
■日本野球振興世話人会
全体会議
5月28日（水）ステーションコンファレンス東京

ケ．慶弔

■慶　事
第75回日本スポーツ賞（読売新聞社）「競技団体別優秀賞」
王子（第96回都市対抗野球大会優勝）
■逝　去
２０２５年７月９日（水）
志太　勤（日本野球連盟元評議員）
２０２５年10月19日（日）
柳　俊之（日本野球連盟元副会長）
２０２５年11月８日（土）
横井　信一（日本野球連盟理事）
２０２６年２月15日（日）
乙武　誠仁（日本野球連盟元評議員）

以上

〈２０２５年度事業報告　第２項⑶ク〉

２０２５年度事業委員会活動報告

1．議論した主要なテーマ
▽ＪＡＢＡ主催三大大会及び日本選手権対象ＪＡＢＡ大会の運営改革
・都市対抗野球大会の改革については２０２７年度から実施することで一致。
・社会人野球日本選手権大会および日本選手権対象ＪＡＢＡ大会の改革については継続審議とし、引き続き地区連盟、加盟地方団体、加盟企業・チームに説明していくことで一致した。
▽試合時間短縮に向けた取り組み
・ＪＡＢＡスピードアップ特別規程の改定（「ピッチクロック20秒で１回目からボールを宣告」「監督が投手交代を告げる場合はマウンドに行く前に審判に告げる」）を理事会に上程した。
▽今後の「７イニングス制」の方向性

2．委員会の開催
【第１回】３月27日（木）
▽主な議題
・ＪＡＢＡ主催三大大会及び日本選手権対象ＪＡＢＡ大会の運営改革
・日本選手権対象ＪＡＢＡ大会及び全日本クラブ野球選手権大会の今後の課題
・２０２５年度の事業委員会の主な議題
【第２回】７月３日（木）
▽主な議題
・ＪＡＢＡ主催三大大会等の運営改革（案）に関する説明
・試合時間短縮に向けた今後の取り組み
【第３回】８月31日（日）
▽主な議題

・ＪＡＢＡ主催三大大会等の運営改革（案）に関する説明
実施報告
・試合時間短縮に向けた今後の取り組み
【第４回】10月９日（木）
▽主な議題
・試合時間短縮に向けた今後の取り組み
・ＪＡＢＡ主催三大大会等の運営改革（案）の再検討
・スポーツ団体ガバナンスコードの自己説明・公表について
【第５回】11月21日（金）
▽主な議題
・ＪＡＢＡ主催三大大会等の運営改革（案）の再検討
・２０２６年度以降の７イニングス制試合の実施について
【第６回】１月21日（水）
▽主な議題
・ＪＡＢＡ主催三大大会等の運営改革（案）の再検討
・試合時間短縮に向けた取り組み
以上

２０２５年度企画広報委員会活動報告

1. 委員会の開催
【第１回】８月29日（金）
・今年度のＪＡＢＡ大会、都市対抗予選での各地区取り組みについて
・野球普及振興（コーチング）について
・広報・メディア取り組みについて（ＰＰＲ提案による企画を紹介）
【第２回】10月28日（火）
・７イニング制について
〈事業委員会への提案内容〉
・三大大会の予選・本選、日本選手権対象11大会以外で積極的に７イニング制を採用する。
・各地区盛り上げ施策の取り組みについて

2. 活動内容
①マーケティング・ブランディングについて
▽第96回都市対抗野球大会で実施したＰＰＲ提案による企画
・都市対抗ＰＲ動画制作（「推し活＋二刀流」）
・ＪＡＢＡファンクラブ会員専用ブース設置
・ファンクラブ始球式
・「プレーヤーカード」第５弾の製作および販売
▽第50回社会人野球日本選手権大会で実施したＰＰＲ提案による企画
・ＪＡＢＡファンクラブ会員専用ブース設置
・ファンクラブ始球式
▽ＪＡＢＡ応援カメラマンの各地区大会派遣
②地域活性
▽地区連盟主導による地域活性化
・地元行政との関係強化
・ＪＡＢＡ大会、都市対抗２次予選のボールパーク化
③野球振興
▽野球人口底辺拡大に向けた指導内容の全国標準化推進＝ＪＡＢＡのＯＢによる少年野球指導者へのコーチング指導
④プロ野球界との関係強化
▽ＰＬＭ（パシフィック・リーグ・マーケティング）との連携による都市対抗及び日本選手権のＰＲ
以上

２０２５年度規則・審判委員会活動報告

1. 委員会の開催
・規則・審判委員会　２０２５年９月11日（木）　ＷＥＢ会議
・公式記録部会　２０２６年２月26日（木）　パレスサイドビル地下１階毎日新聞社会議室

2. 事業の実施
(1)全国審判講習会（リモート講習会）
２０２６年１月17日（土）９地区連盟を午前と午後に分け、リモート講習会を実施した。
・規則審判委員会委員、各都道府県審判部長、国際審判員、地区別講習会参加予定者が参加。
午前の部＝近畿、中国、四国、九州
参加１８４名
午後の部＝北海道、東北、北信越、関東、東海
参加２０８名
講習内容
＊審判員のメンタルトレーニング講習
＊２０２６年度野球規則改正の概要、ＪＡＢＡ各種規程の改正事項等について、規則の解釈等を説明。
＊ＪＡＢＡスピードアップ特別規定の改正等。
＊ＢＦＪ各種マニュアルの改正等（アマチュア野球審判員に関連する事項、キャンプゲームマニュアル、講習会マニュアル等）。
＊２０２６年度各地区講習会参加者の取り決め事項、カリキュラムの解説。
＊２０２６年シーズンの試合における本部審判員等への依頼事項。
＊２０２５年都市対抗野球大会及び社会人野球日本選手権大会の振り返り。
＊その他確認事項
・捕手のキャッチング調査結果
・捕手のフレーミングに関するＪＡＢＡとしての今後の方針
・「ボナファイド・スライド」の適用解釈における整理
・ヒットバイピッチに関する考察
(2)都市対抗野球大会、社会人野球日本選手権大会出場審判員事前ミーティングの実施
＊第96回都市対抗野球大会事前ミーティング

7月11日（金）18：30～
＊第50回社会人野球日本選手権大会事前ミーティング
10月2日（木）18：30～
事前ミーティングの主な内容
・審判員のメンタルトレーニング
・各種規程等の確認
・ピッチクロック用タイマーオペレーター体制
・ビデオ検証の確認
・クルーチーフ制、サブプレートアンパイア制、控え審判員制の採用
・試合前後のアンパイアミーティング
・試合開始前の各自の確認事項

(3) ２０２５～２０２６年度各地区連盟主催審判講習会の開催
２０２５年度
＊四国地区　２月１日　高知工科大学香美球場（高知県香美市）
＊関東地区　２月14日　エイジェックさくら球場（栃木県栃木市）
＊九州地区　２月21日　Ｈｏｎｄａ熊本 野球部グラウンド（熊本県大津町）
＊中国地区　２月28日・３月１日　ツネイシスタジアム（広島県福山市）
２０２６年度
＊近畿地区　３月７日　関西大学千里山グラウンド（大阪府吹田市）
＊東海地区　３月７日　岡崎レッドダイヤモンドスタジアム（愛知県岡崎市）
＊東北地区　３月14日・15日　東北福祉大学野球場（宮城県仙台市）
＊北信越地区　３月28日・29日　金沢市営球場（石川県金沢市）
＊北海道地区　４月４日　ＪＲ北海道野球場（北海道恵庭市）

(4) 審判員評価
審判技術のレベルアップを目的に第96回都市対抗野球大会、第50回社会人野球日本選手権大会に出場した審判員１００名（都市対抗50名、日本選手権50名）に対し、規則・審判委員会委員がそれぞれの審判技術に対する評価を行い、フィードバックを行った。

(5) 大会における心理面のサポート
第96回都市対抗野球大会、第50回社会人野球日本選手権大会において、スポーツメンタルトレーニング指導士（規則・審判委員会特別委員）が帯同し、審判員の心理面のサポートを行った。

3. 規則・審判委員会協議事項
(1) ２０２６年度公認野球規則改正事項の検討
(2) ２０２６年度アマチュア野球内規の改正事項の検討
(3) 社会人及び大学野球における試合のスピードアップに関する特別規則の改正についての検討
(4) 規則５．10（ℓ）【注２】『代打者に１球と投じた後』の解釈について協議
(5) 規則５．10（ｂ）【原注】ダブルスイッチの解釈について協議

4. 公式記録部会協議事項
(1) ２０２６年度公認野球規則等の改正について
(2) 日本野球連盟（社会人野球）内規の改正ついて
(3) 日本野球連盟（社会人野球）スピードアップ特別規程について
(4) 日本野球連盟（ＪＡＢＡ）公式大会に関する内規について
(5) 第97回都市対抗野球大会、第51回社会人野球日本選手権大会における公式記録員研修の実施
派遣公式記録員の本大会への推薦書・記録員チェックシートの導入について
(6) 第96回都市対抗野球大会、第50回社会人野球日本選手権大会、２０２５年各ＪＡＢＡ大会の記録に関する議論や意見交換があったプレーを題材に、記録を記入する際の考え方の解説を行った。

以上

２０２５年度アスリート委員会活動報告

1. 委員会の開催
第１回　５月13日（火）　ＷＥＢ会議
第２回　８月30日（土）　東京ドーム内会議室
第３回　11月８日（土）　京セラドーム大阪内多目的室
第４回　２月24日（火）　ＷＥＢ会議

2. 委員会の目的
(1) 野球界の普及、振興の原点に立ち返り、社会人野球から日本の野球界をリードする。
(2) 選手個々の能力を最大化するため「能動的な変革」を起こして、活性化のためのチャレンジを歓迎する。
(3) オープンシェアによる価値の公開（共有）により組織全体の安定と強化を図る。

3. 委員会（競技力向上事業に関する）の活動
(1) 都市対抗野球大会、社会人野球日本選手権大会及び各ＪＡＢＡ大会におけるスピードアップ特別規程のチェック（委員の各大会への派遣、視察・報告）
(2) 社会人野球の価値向上（科学的視点の可視化）アスリートの数値をデータ化
・都市対抗野球大会・社会人野球日本選手権大会計測データをテレビ中継で表示し発信（投球速度、投球回転数、打球速度、打球角度、飛距離の５項目）
・野球解説（都市対抗野球大会31試合）を担当
・データ解説者（チームＲＡＵＤ）によるデータ解説
・トラックマン（測定機器）による大会出場全選手のデータ収集
(3) 全日本ジュニア強化合宿の運営
・打球速度、投球回転数等のデータ取得（約２００名の

データ取得）
・ＰＨＹＳＩＣＡＬデータ、ＭＥＤＩＣＡＬデータ、ＰＳＹＣＨＯＬＯＧＹデータ取得
・全日本ジュニア強化合宿を、以下のとおり7地区に分けて開催（地域部会委員が運営を担当）
北海道地区　7月26日（土）　北ガスフレアスタジアム
東北・北信越地区　8月3日（日）　ＪＲ東日本東北グラウンド
関東地区　7月27日（日）　東京ガス大森グラウンド
東海地区　7月13日（日）　トヨタスポーツセンター
近畿地区　7月20日（日）　ＮＴＴ淀総合運動公園野球場
中国・四国地区　7月19日（土）　ツネイシスタジアム
九州地区　8月8日（金）　マリンフィールド東浜
・参加者：計１８９名（78チーム）、ポジション別内訳：Ｐ79、Ｃ21、ＩＦ50、ＯＦ39
・将来の日本代表候補選手の発掘
・潜在能力の可視化のためのデータ収集+コミュニケーションを通じた技術力向上へのきっかけ作り。

(4)第31回ＢＦＡアジア選手権大会強化合宿（選手選考）／第31回ＢＦＡアジア選手権大会直前合宿（派遣直前）の実施
①第31回ＢＦＡアジア選手権大会日本代表強化合宿（選手選考）を、以下のとおり開催
7月29日（火）～8月1日（金）
トヨタスポーツセンター、豊橋市民球場、岡崎レッドダイヤモンドスタジアム
②第31回ＢＦＡアジア選手権大会直前合宿（派遣直前）を、以下のとおり開催
9月17日（水）～9月19日（金）
東京ガス大森グラウンド

(5)地区連盟選抜チーム編成による他地区連盟との交流試合の実施
・近畿地区連盟選抜ＶＳ東海地区連盟選抜（7月27日）
・中国地区連盟選抜ＶＳ九州地区連盟選抜（8月9日、10日）
・北海道地区連盟選抜ＶＳ東北地区連盟選抜（10月14日、15日）

(6)選手に関する情報収集活動
・社会人日本代表候補選手の発掘、ピッチクロックの状況確認、各地区連盟役員・チーム指導者とのコンタクト、意見交換を目的として、各地区で行われた大会にアスリート委員を派遣し、情報収集活動等を行った。

(7)社会人日本代表選手の選考過程の透明性を図るため、ＰＲＯＳＰＥＣＴ ＬＩＳＴの公開・更新
・２０２６年9月に開催される第20回アジア競技大会（愛知・名古屋）に向け、第31回アジア選手権、２０２５年ウインターリーグに参加した選手を中心に95名をリストアップした。

(8)『第５回野球データ分析競技会』の開催　ＢＦＪ（一般財団法人全日本野球協会）との共催
２月14日（土）、15日（日）　Ｊａｐａｎ Ｓｐｏｒｔ Ｏｌｙｍｐｉｃ Ｓｑｕａｒｅ内
・これからの野球界を支えるデータと指導現場をつなぐアナリストやデータサイエンティスト、コーディネーター人材の育成を目的とした、野球データ分析競技会を開催。
・研究素材は、社会人野球（都市対抗野球大会、社会人野球日本選手権大会）にて収集したデータとし、現在の社会人野球の傾向について分析。決勝に進んだ６チームがプレゼンテーションを行い、社会人野球の競技力を高めるための発展的な議論が展開された。
・第２部では「野球データ分析を学び、現場で生きるキャリアを築く」をテーマにシンポジウムを開催した。聴講者は野球現場の指導者、コーチ、チームスタッフ、アナリスト、研究者、バイオメカニスト、データサイエンティストを目指す学生。

(9)試合のスピードアップに向けた取り組み
・従前から各チームが取り組んでいるスピードアップ（攻守交代やきびきびとしたプレー等）に加えて、試合運営（７イニングス制含む）と試合時間の短縮に向け、意見交換を行った。

(10)トレーナー／コンディショニングスタッフ研修会を、以下のとおり開催
２月４日（水）　オンライン研修会　参加75名
・ＪＡＢＡ加盟チームをサポートするトレーナー、コンディショニングスタッフの活動全般におけるレベルアップの一助とする。
・アンチドーピングに関する知識をアップデートし、全体の水準を一定以上にキープする。
・社会人野球の価値向上につながる活動について情報を共有。
・社会人日本代表チームの活動についての報告。

(11)ＥＡＰ（緊急時行動計画）の策定と展開
・ＥＡＰ（Ｅｍｅｒｇｅｎｃｙ Ａｃｔｉｏｎ Ｐｌａｎ）の再確認。
緊急時行動計画とは、緊急事態の際に最善の措置がスムーズにとれるよう、関係者の役割分担、流れを文書化・可視化した計画表
・目的は、選手が安全にプレーできる環境の確保と大会運営におけるリスク管理
・２大大会（都市対抗野球大会：東京ドーム、社会人野球日本選手権大会：京セラドーム）でＥＡＰを策定し、全ての試合前（メンバー交換時）に主審、チーム（マネージャー・トレーナー）、大会本部の３者で、緊急時の対

応について確認を行った。

⑿ベースボールマネージャーミーティングを、以下のとおり開催

1月10日（土）（TKP東京駅大手町カンファレンスセンター）

各加盟チームの監督またはコーチ（指導者）85チーム／105名が参加

研修内容

・清野会長挨拶

・2026年度野球規則改正とスピードアップ特別規程について（桑原規則・審判委員長）

・アスリート委員会の活動について（坂口委員長）

・講演：ビズネス界に実装されるスポーツ心理学の知見（布施委員）

・日本代表活動報告（川口副委員長）

以上

2025年度クラブ野球活性化委員会活動報告

1. 委員会開催

第1回　2025年　6月23日（月）　WEB会議

第2回　2025年　8月30日（土）　東京ドーム

第3回　2025年　10月28日（火）　京セラドーム大阪

第4回　2026年　2月17日（火）　JABA会議室

2. 協議事項

⑴第50回全日本クラブ野球選手権大会記念事業について協議し理事会に答申した。

記念事業内容は、別紙「2026年度 第50回全日本クラブ野球選手権大会記念事業計画」のとおり。

⑵第52回（2028年度）全日本クラブ野球選手権大会について選定し、理事会に答申した。

・開催地　石川県他

・主　管　JABA北信越地区連盟

・開催時期　2028年9月中旬

※今後について

開催要項案の作成に向けて、日程、球場等の詳細について、JABA事務局と北信越地区連盟間で協議し、2027年7月までに詳細をまとめる。

⑶クラブチームの振興策について協議し、今後、地区連盟間による選抜チームの交流試合の開催促進を図ることを確認した。

以上

2025年度アナウンス委員会活動報告

1. 委員会開催

第1回　2025年5月29日（木）　WEB会議

第2回　2025年8月7日（木）　WEB会議兼第96回都市対抗野球大会アナウンス説明会

第3回　2025年10月15日（水）　WEB会議兼第50回社会人野球日本選手権大会アナウンス説明会

その他

アナウンス技術小委員会　2025年4月14日（月）　JABA会議室

（出席：神保委員長、内匠副委員長、赤荻副委員長、太刀岡委員、藤野委員）

2. 事業の実施

2025年度地区連盟主催アナウンス講習会への講師派遣

・北信越地区　4月5日（土）　赤荻副委員長を派遣

・九州地区　5月6日（火）、7日（水）　赤荻副委員長を派遣

3. 協議事項

▽2025年度の委員会体制

▽都市対抗、日本選手権のオペレーション

▽地区連盟主催アナウンス研修会の運営

２０２５年度ＪＡＢＡ公式大会結果

回数	大会名	期間	球場	優勝チーム	準優勝チーム
96	都市対抗野球	8/28～12日間	東京ドーム	王子	三菱自動車岡崎
49	全日本クラブ野球選手権	9/13～4日間	坊っちゃんスタジアム・マドンナスタジアム・今治市営球場	マツゲン箕島硬式野球部	大和高田クラブ
50	社会人野球日本選手権	10/28～12日間	京セラドーム大阪	ヤマハ	日本生命

地区連盟主催大会

【日本選手権対象大会】

回数	大会名	期間	球場	優勝チーム	準優勝チーム
79	ＪＡＢＡ東京スポニチ	3/8～4日間	神宮・横浜S・大田Ｓ・等々力球場	鷺宮製作所	大阪ガス
71	ＪＡＢＡ静岡	4/2～5日間	浜松・ちゅ～るS清水	ＪＲ東海	トヨタ自動車
53	ＪＡＢＡ四国	4/4～5日間	アグリあなんS・むつみS	ＪＦＥ西日本	東芝
67	ＪＡＢＡ岡山	4/14～5日間	マスカットＳ・倉敷市営球場	トヨタ自動車	ＪＦＥ西日本
47	ＪＡＢＡ日立市長杯	4/17～5日間	日立製作所・常陸大宮市民球場・ひたちなか市民球場	ＳＵＢＡＲＵ	日立製作所
75	わかさ生活ＪＡＢＡ京都	4/22～6日間	わかさＳ京都・湖東S	ＮＴＴ西日本	東芝
66	ＪＡＢＡ長野県知事旗	4/23～5日間	長野オリンピックＳ・佐久総合運動公園野球場	東京ガス	三菱重工Ｅａｓｔ
77	ＪＡＢＡベーブルース杯	5/1～5日間	岐阜長良川・大垣北公園球場	Ｈｏｎｄａ鈴鹿	ＪＲ東日本
77	ＪＡＢＡ九州	5/7～5日間	北九州市民・オーヴィジョンＳ下関	王子	日本通運
55	ＪＡＢＡ東北	5/9～5日間	仙台市民・石巻市民球場	ヤマハ	バイタルネット
66	ＪＡＢＡ北海道	6/6～5日間	旭川スタルヒン・モエレ沼公園球場	ヤマハ	明治安田

【その他大会】

回数	大会名	期間	球場	優勝チーム	準優勝チーム
66	ＪＡＢＡ富山	4/11～4日間	富山市民アルペンＳ	ロキテクノ富山	ＪＲ水戸
54	ＪＡＢＡ徳山スポニチ	4/26～4日間	津田恒実メモリアルＳ	日本製鉄山口	ショウワコーポレーション
67	ＪＡＢＡ新潟	5/2～4日間	ハードオフエコS新潟・みどりと森の運動公園野球場	読売ジャイアンツ（三軍）	全足利クラブ
36	ＪＡＢＡ一関市長旗	7/19～2日間	一関・東山・花泉・室根球場	全府中野球倶楽部	エフコムベースボールクラブ
39	ＪＡＢＡ高山市長旗	8/7～4日間	高山市中山公園・飛騨ふるかわ球場	天候不良のため、大会打ち切り	
64	ＪＡＢＡ広島	7/25～5日間	東広島アクアS・マツダＳ	ＪＲ西日本	ＪＦＥ西日本
49	JABA高砂	10/7~10/10・10/13	G7S神戸	ショウワコーポレーション	マツゲン箕島硬式野球部
73	ＪＡＢＡ伊勢・松阪	10/15～5日間	ダイムＳ伊勢・ドリームオーシャンＳ	ＮＴＴ西日本	王子
42	ＪＡＢＡびわこ杯	10/17～3日間	カローラ滋賀はちまんスタジアム・湖東スタジアム	大和高田クラブ	ＴＨＩＮＫフィットネス・GOLD 'S GYMベースボールクラブ

【地区クラブ大会】

回数	大会名	期間	球場	優勝チーム	準優勝チーム
11	北海道地区クラブ選手権	9/6・7・13・14・15	栗山町民球場他・NOPPOROヤシマ商会野球場	TRANSYS	Feather Home HORNETS
11	東北クラブカップ	8/23・24	さきがけ八橋球場・琴丘スカルパ野球場	オール江刺	大崎トリプルクラウン
11	北信越クラブカップ	10/18・19	県営富山野球場	千曲川硬式野球クラブ	新潟コンマ―シャル倶楽部
18	関東連盟クラブ選手権	10/12・18	アイルS浦和・岩槻川通球場・三菱重工金沢総合グラウンド	CLUB　REBASE	太田暁工業硬式野球クラブ
11	東海地区クラブ野球選手権	11/1・２・15	トヨタスポーツセンター	寿々硬式野球クラブ	静岡硬式野球倶楽部
11	近畿クラブ会長杯	7/27・8/2・3・9・9/7	さとやくＳ・橿原運動公園硬式野球場	三菱自動車京都ダイヤフェニックス	履正社ベースボールクラブ
11	中国・四国クラブ野球選手権（決勝トーナメント）	11/1	上下運動公園野球場	ショウワコーポレーション	三原ヤッサベースボールクラブ
20	九州地区クラブ野球選手権	10/18・19	ひぜしんスタジアム・花山球場	ビック開発ベースボールクラブ	福岡トヨタ硬式野球クラブFTサンダース

第５回野球データ分析競技会　開催要項

【主催】　一般財団法人全日本野球協会（BFJ） 公益財団法人日本野球連盟（JABA）

【協力】　日本野球学会

【運営協力】　Baseball Analyst Team RAUD

【開催趣旨】

近年、社会のデジタル化が加速し、野球界にも大きな変化をもたらしています。データを積極的に活用することにより、野球のDX（デジタルトランスフォーメーション）が進みつつあります。日本のプロ野球チームにおいては、「アナリスト」や「バイオメカニスト」の採用が進み、その流れはアマチュア野球界にも浸透しつつあります。このような潮流の中、これまで4回、野球データ分析競技会を開催してきましたが、決勝進出チームの何名かがプロ野球チームのアナリストとして採用されるなど、本大会はスポーツアナリティクスの業界から注目を浴びるようになってきました。野球DXの拡大・拡張、そしてそれを支援する人材の育成の目的として、本年度も本競技会を開催致します。

【決勝日程および会場】

〈開催日時〉

１日目	2026年２月14日（土）	14：00 開会
		15：00 課題データ公開
		16：00 解散
２日目	2026年２月15日（日）	12：00 発表開始（６チーム）
		14：00 シンポジウム（100分）
		16：00 表彰式

〈会場〉

Japan Sport Olympic Square 岸清一メモリアルルーム（14階）

〈競技方法〉

・参加対象は高校生、大学生、大学院生で1チーム（１名～３名、全員が同じ学校でなくても構わない）での参加となります。
・参加希望チームは、主催者側の用意したテーマで課題を分析し、成果物を提出します。選考を経て、６チームが決勝に進出します。
・決勝１日目は６チームに課題データを貸与します。各チームは宿舎で検討・分析を実施し、翌日、12時よりプレゼンテーションを行います。
・プレゼン内容を審査委員およびプレゼンを聴講した参加者による審査を行い最優秀賞、優秀賞チームを決定し、表彰いたします。

第５回 野球データ分析競技会 聴講可能プログラムのご案内

2026年２月15日（日）　競技会２日目
12：00　決勝プレゼン（６チーム）
＊予備審査を通過した6チームが、前日15:00に公開されたデータを分析、その成果を競い合います。
14：00　シンポジウム（100分）
テーマ「野球データ分析を学び、現場で生きるキャリアを築く
― 大学からプロ球団へ、その選択と実際 ―」

〈概要〉
本シンポジウムは、野球現場で指導・育成・分析に携わる指導者、ならびに将来アナリストやデータ分析人材を目指す学生を主な対象とし、野球データ分析を軸としたキャリア形成の実例を共有することを目的として開催します。
NPBおよびMLB組織で実務に携わる登壇者2名を迎え、大学での学びからデータ分析との出会い、進路選択における意思決定、そして現在の立場に至るまでのプロセスを「キャリア」という共通テーマで掘り下げます。単なる技術紹介にとどまらず、現場で何が求められているのか、どのような準備や学びがキャリアにつながったのかを具体的に共有することで、参加者が自身の立場に引き寄せて考えられる実践的な知見を提供します。

〈目的〉
・アナリスト・データ分析人材のキャリア形成の実像を共有する
・将来を目指す学生に対し、具体的な学びと進路選択の指針を示す
・野球界におけるデータ活用とスポーツ科学の重要性を広く伝える

〈スケジュール〉
14：00－14：10　野球界におけるデータとスポーツ科学の現在地
登壇者：神事努（國學院大學、株式会社ネクストベース）[オンライン]
14：10－14：40　MLBにおけるアナリストとしての活動
登壇者：小笠原 孝斗（ワシントン・ナショナルズ）[オンライン]
14：40－15：10　NPBにおけるアナリストとしての活動
登壇者：矢沢 大智（千葉ロッテマリーンズ 打撃コーディネーター）
15：10－15：40　パネルディスカッション
「野球データ分析を学び、現場で生きるキャリアを築く」

〈対象聴講者〉
・野球現場の指導者・コーチ
・チームスタッフ、アナリスト、研究者
・アナリスト、バイオメカニスト、データサイエンティストを目指す学生

全日本ジュニア強化合宿　北海道地区メンバー

	所　属	ポジション	背番号	氏名	フリガナ	年齢	生年月日	出身高校	出身大学	身長	体重	投	打	在籍年数（年目）	参加実績（回目）
1	JR北海道硬式野球クラブ	P	13	木島　広輔	ｷｼﾞﾏ ｺｳｽｹ	23	2002/9/3	帯広大谷	札幌国際	181	82	左	左	1	1
2	JR北海道硬式野球クラブ	P	15	山田　翔太	ﾔﾏﾀﾞ ｼｮｳﾀ	23	2003/1/10	札幌第一	明治	178	87	右	右	1	1
3	JR北海道硬式野球クラブ	P	17	ユエン　賢	ﾕｴﾝ ｹﾝ	25	2000/7/19	ｾﾝﾄ･ｼﾞｮｾﾌ	早稲田	182	84	右	左	2	1
4	日本製鉄室蘭シャークス	P	11	山　優斗	ﾔﾏ ﾕｳﾄ	23	2002/7/8	駒大苫小牧	東海大札幌	177	80	右	右	1	1
5	日本製鉄室蘭シャークス	P	15	石澤　大和	ｲｼｻﾞﾜ ﾔﾏﾄ	24	2001/8/21	網走南ケ丘	東農大北海道オホーツク	176	75	左	左	2	2
6	日本製鉄室蘭シャークス	P	20	藤田　一希	ﾌｼﾞﾀ ｶｽﾞｷ	23	2002/6/8	本庄東	日大工学部	174	85	右	左	1	1
7	北海道ガス	P	16	長谷　隼兵	ﾊｾ ｼｭﾝﾍﾟｲ	23	2002/5/22	旭川龍谷	札幌	173	85	左	左	1	1
8	北海道ガス	P	17	北嶋　洸太	ｷﾀｼﾞﾏ ｺｳﾀ	23	2002/8/1	駒大苫小牧	亜細亜	174	86	右	右	1	1
9	JR北海道硬式野球クラブ	C	9	村北　翔哉	ﾑﾗｷﾀ ｼｮｳﾔ	24	2002/3/14	東邦	愛知学院	171	80	右	両	2	2
10	航空自衛隊千歳	IF	1	釜菟　大司	ｶﾏﾔﾁ ﾀｲｼ	24	2001/10/10	札幌大谷	同志社	171	73	右	左	1	1
11	JR北海道硬式野球クラブ	IF	1	石川　楓雅	ｲｼｶﾜ ﾌｳｶﾞ	24	2002/3/30	駒大苫小牧	大阪体育	178	76	右	右	2	2
12	JR北海道硬式野球クラブ	IF	25	南　泰成	ﾐﾅﾐ ﾀｲｾｲ	23	2002/10/17	札幌光星	北海学園	182	86	右	右	1	1
13	日本製鉄室蘭シャークス	IF	23	小林　大輔	ｺﾊﾞﾔｼ ﾀﾞｲｽｹ	25	2000/11/12	九里学園	八戸学院	173	76	右	左	3	1
14	日本製鉄室蘭シャークス	IF	31	船曳　烈士	ﾌﾅﾋﾞｷ ﾚﾂｼ	23	2002/10/5	大阪桐蔭	東洋	174	86	右	右	1	1
15	北海道ガス	IF	6	渡邊　浩伸	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｺｳｼﾝ	24	2001/6/12	秋田商業	桐蔭横浜	179	86	右	左	2	2
16	航空自衛隊千歳	OF	10	岡田　昴大	ｵｶﾀﾞ ｺｳﾀﾞｲ	25	2001/2/17	ｸﾗｰｸ記念国際	函館	174	80	右	右	3	2
17	JR北海道硬式野球クラブ	OF	24	川波　瑛平	ｶﾜﾅﾐ ﾖｳﾍｲ	23	2002/6/30	白樺学園	中央	183	82	右	左	1	1
18	北海道ガス	OF	4	菱田　万尋	ﾋｼﾀﾞ ﾏﾋﾛ	23	2003/2/13	松商学園	城西国際	175	77	右	左	1	1
19	TRANSYS	OF	55	守野　銀二	ﾓﾘﾉ ｷﾞﾝｼﾞ	21	2004/7/7	東海大札幌		179	80	左	左	3	2
20	トッキュウブルーローズ	OF	55	磯崎　太一	ｲｿｻﾞｷ ﾀｲﾁ	23	2003/1/14	北海道科学大	東海大札幌	187	96	右	左	1	1

全日本ジュニア強化合宿　東北・北信越地区メンバー

	所　属	ポジション	背番号	氏名	フリガナ	年齢	生年月日	出身高校	出身大学	身長	体重	投	打	在籍年数（年目）	参加実績（回目）
1	TDK	P	11	藤井　優矢	ﾌｼﾞｲ ﾕｳﾔ	23	2002/9/12	角館	東日本国際	178	81	右	右	1	1
2	七十七銀行	P	12	後藤　佑輔	ｺﾞﾄｳ ﾕｳｽｹ	23	2002/8/30	仙台育英	東北工業	176	84	左	左	1	1
3	七十七銀行	P	16	柴崎　　倭	ｼﾊﾞｻｷ ﾔﾏﾄ	25	2000/6/11	柴田	東北福祉	176	78	左	左	3	1
4	日本製紙石巻	P	16	今村　拓哉	ｲﾏﾑﾗ ﾀｸﾔ	23	2002/8/2	関東一	中央	181	86	左	左	1	1
5	日本製紙石巻	P	21	星野　健太	ﾎｼﾉ ｹﾝﾀ	25	2000/5/19	山梨学院	山梨学院	177	80	左	左	3	1
6	マルハン北日本カンパニー	P	15	山本　隆太	ﾔﾏﾓﾄ ﾘｭｳﾀ	23	2002/5/17	大垣日大	日大国際関係学部	175	70	右	右	1	1
7	マルハン北日本カンパニー	P	16	中村　伊吹	ﾅｶﾑﾗ ｲﾌﾞｷ	23	2002/6/1	宇治山田商業	中央	178	84	右	右	1	1
8	バイタルネット	P	19	近藤　想真	ｺﾝﾄﾞｳ ｿｳﾏ	23	2003/1/17	新潟第一	東京農業	176	76	右	右	1	1
9	伏木海陸運送	P	0	三宅　悠弥	ﾐﾔｹ ﾕｳﾔ	24	2001/5/21	作新学院	関東学院	178	83	右	両	2	1
10	ロキテクノ富山	P	17	帯川　瑠生	ｵﾋﾞｶﾜ ﾘｭｳｾｲ	24	2001/12/17	札幌国際情報	北海学園	175	80	左	左	2	1
11	ロキテクノ富山	P	20	大坪誠之助	ｵｵﾂﾎﾞ ｾｲﾉｽｹ	23	2002/10/28	土浦湖北	桜美林	182	91	右	右	1	1
12	JR東日本東北	C	26	佐々木　隼	ｻｻｷ ﾊﾔﾄ	23	2002/7/17	木更津総合	城西国際	173	75	右	右	1	1
13	JR東日本東北	IF	4	山本　晃聖	ﾔﾏﾓﾄ ｺｳｾｲ	23	2002/9/8	日大藤沢	帝京	174	74	右	左	1	1
14	七十七銀行	IF	1	石井　寛人	ｲｼｲ ﾋﾛﾄ	23	2002/5/22	明秀学園日立	東北福祉	175	74	右	左	1	1
15	日本製紙石巻	IF	1	今野　瑞暉	ｺﾝﾉ ﾐｽﾞｷ	24	2002/3/5	堀越	青森	181	82	右	右	2	1
16	マルハン北日本カンパニー	IF	5	千代松広大	ﾁﾖﾏﾂ ｺｳﾀﾞｲ	23	2002/10/2	初芝橋本	桜美林	178	85	右	左	1	1
17	バイタルネット	IF	4	西浦喬太郎	ﾆｼｳﾗ ｷｮｳﾀﾛｳ	24	2001/11/4	大阪桐蔭	国士舘	178	83	右	右	2	1
18	トヨタ自動車東日本	OF	2	植本　拓哉	ｳｴﾓﾄ ﾀｸﾔ	23	2002/8/17	明石商業	東海	181	84	右	左	1	1
19	TDK	OF	31	関口　　諒	ｾｷｸﾞﾁ ﾘｮｳ	26	1999/4/11	習志野	東京農業	184	88	右	左	4	1
20	JR東日本東北	OF	23	橋本　吏功	ﾊｼﾓﾄ ﾘｸ	24	2002/1/14	花咲徳栄	東洋	168	85	右	右	2	1
21	マルハン北日本カンパニー	OF	28	作本　想真	ｻｸﾓﾄ ｿｳﾏ	23	2002/9/27	大村工業	専修	191	90	右	右	1	1
22	バイタルネット	OF	7	浪川　広之	ﾅﾐｶﾜ ﾋﾛﾕｷ	25	2001/3/6	創価	城西国際	173	87	右	左	3	1
23	FedEx	OF	7	森本　修都	ﾓﾘﾓﾄ ｼｭｳﾄ	23	2002/8/8	光泉カトリック	大東文化	188	95	右	右	1	1

全日本ジュニア強化合宿　関東地区メンバー

	所　属	ポジション	背番号	氏名	フリガナ	年齢	生年月日	出身高校	出身大学	身長	体重	投	打	在籍年数（年目）	参加実績（回目）
1	日本製鉄鹿島	P	12	土屋　大和	ﾂﾁﾔ ﾔﾏﾄ	24	2001/12/1	関東一	立正	177	81	右	右	2	1
2	SUBARU	P	47	三浦　克暉	ﾐｳﾗ ﾖｼｷ	23	2003/2/27	土浦湖北	清和	182	85	左	左	1	1
3	エイジェック	P	46	谷内　隆悟	ﾔﾁ ﾘｭｳｺﾞ	25	2000/6/10	鳥羽	同志社	181	80	左	左	3	1
4	JFE東日本	P	17	加藤孝太郎	ｶﾄｳ ｺｳﾀﾛｳ	24	2001/11/20	下妻一	早稲田	180	79	右	右	2	1
5	日本製鉄かずさマジック	P	21	瀬崎　絢	ｾｻﾞｷ ｼｭﾝ	24	2001/9/30	日大豊山	国学院	180	82	右	右	2	1
6	日本通運	P	19	冨士　隼斗	ﾌｼﾞ ﾊﾔﾄ	24	2002/3/10	大宮東	平成国際	180	86	右	右	2	1
7	Honda	P	11	千葉　汐凱	ﾁﾊﾞ ﾕｳｶﾞ	23	2002/6/2	千葉黎明	明治	177	85	左	左	1	1
8	NTT東日本	P	16	山内　翔太	ﾔﾏｳﾁ ｼｮｳﾀ	23	2002/11/4	習志野	日本	170	82	左	左	1	1
9	鷺宮製作所	P	20	山越　健司	ﾔﾏｺｼ ｹﾝｼﾞ	24	2001/7/16	千葉明徳	拓殖	181	90	右	右	2	1
10	セガサミー	P	16	尾﨑　完太	ｵｻﾞｷ ｶﾝﾀ	24	2001/4/20	滋賀学園	法政	175	73	左	左	2	1
11	東京ガス	P	14	伊東　佳希	ｲﾄｳ ﾖｼｷ	24	2001/6/22	旭川北	星槎道都	173	82	右	右	2	1
12	明治安田	P	11	松下　瑛亮	ﾏﾂｼﾀ ｴｲｽｹ	24	2001/12/19	宮崎学園	専修	185	80	右	右	2	1
13	ENEOS	P	16	林　　翔大	ﾊﾔｼ ｼｮｳﾀ	23	2002/5/12	乙訓	大阪経済	176	83	右	右	1	1
14	東芝	P	18	神野　竜速	ｶﾐﾉ ﾘｭｳﾄﾞｳ	25	2001/2/19	西武台千葉	神奈川	180	85	右	右	3	1
15	日本通運	C	9	山本　　空	ﾔﾏﾓﾄ ｿﾗ	25	2001/2/22	下関商業	城西	164	74	右	右	3	2
16	鷺宮製作所	C	12	西浦　謙太	ﾆｼｳﾗ ｹﾝﾀ	24	2001/6/10	八尾	筑波	180	83	右	右	2	1
17	東芝	C	9	萩原　義輝	ﾊｷﾞﾊﾗ ﾖｼｱｷ	24	2001/4/6	東海大相模	流通経済	180	85	右	左	2	1
18	三菱重工East	C	27	印出　太一	ｲﾝﾃﾞ ﾀｲﾁ	23	2002/5/15	中京大中京	早稲田	185	90	右	右	1	1
19	SUBARU	IF	3	秋山　岳土	ｱｷﾔﾏ ｶﾞｸﾄ	24	2001/8/21	熊谷商業	桐蔭横浜	186	95	右	右	2	1
20	SUBARU	IF	24	外山　優希	ﾄﾔﾏ ﾕｳｷ	24	2002/1/16	開星	専修	186	96	右	左	2	2
21	エイジェック	IF	5	和田　泰征	ﾜﾀﾞ ﾀｲｾｲ	23	2003/2/14	習志野	東京農業	182	92	右	左	1	1
22	JR東日本	IF	7	海﨑　雄太	ｶｲｻﾞｷ ﾕｳﾀ	25	2001/2/22	埼玉栄	法政	178	81	右	左	3	1
23	NTT東日本	IF	5	伊東　光亮	ｲﾄｳ ｺｳｽｹ	23	2002/8/12	大阪桐蔭	国学院	176	79	右	左	1	1
24	鷺宮製作所	IF	9	中島　優仁	ﾅｶｼﾏ ﾕｳﾄ	24	2001/8/5	佐賀商業	日本体育	177	82	右	両	2	2
25	東京ガス	IF	7	仲俣慎之輔	ﾅｶﾏﾀ ｼﾝﾉｽｹ	24	2002/2/13	岩倉	中央学院	175	80	右	右	2	1
26	三菱重工East	IF	4	中前　祐也	ﾅｶﾏｴ ﾕｳﾔ	24	2001/9/23	浦和学院	中央	178	85	右	左	2	2
27	JFE東日本	OF	0	大森　廉也	ｵｵﾓﾘ ﾚﾝﾔ	24	2001/12/30	市立船橋	駒澤	183	80	左	左	2	2
28	東京ガス	OF	24	藤澤　涼介	ﾌｼﾞｻﾜ ﾘｮｳｽｹ	23	2002/6/4	佐野日大	横浜国立	187	87	右	右	1	1
29	ENEOS	OF	4	飯山　志夢	ｲｲﾔﾏ ﾓﾄﾑ	23	2003/2/13	中央学院	立正	178	78	右	左	1	1
30	東芝	OF	3	光本　将吾	ﾐﾂﾓﾄ ｼｮｳｺﾞ	25	2001/1/19	滋賀学園	帝京	182	84	右	右	3	1
31	日産自動車	OF	2	石飛　智洋	ｲｼﾄﾋﾞ ﾄﾓﾋﾛ	23	2002/12/1	出雲西	天理	177	82	右	左	1	1

全日本ジュニア強化合宿　東海地区メンバー

	所　属	ポジション	背番号	氏名	フリガナ	年齢	生年月日	出身高校	出身大学	身長	体重	投	打	在籍年数（年目）	参加実績（回目）
1	ヤマハ	P	19	梅田健太郎	ｳﾒﾀﾞ ｹﾝﾀﾛｳ	23	2002/10/27	横浜隼人	立正	181	90	右	左	1	1
2	トヨタ自動車	P	21	池村健太郎	ｲｹﾑﾗ ｹﾝﾀﾛｳ	24	2001/11/1	宇部鴻城	愛知学院	181	82	左	左	2	1
3	王子	P	15	登坂　真大	ﾄｻｶ ﾏｻﾋﾛ	24	2002/3/23	札幌光星	東海大札幌	170	73	右	右	2	1
4	王子	P	17	樋口　新	ﾋｸﾞﾁ ｼﾝ	23	2002/6/28	千葉経済大附属	愛知工業	178	84	左	左	1	1
5	JR東海	P	13	宮島　拓斗	ﾐﾔｼﾞﾏ ﾀｸﾄ	23	2002/10/8	興国	中部学院	180	77	右	右	1	1
6	東邦ガス	P	16	榮　龍騰	ｻｶｴ ﾘｭｳﾄ	23	2002/6/26	津田学園	帝京	175	78	左	左	1	1
7	日本製鉄東海REX	P	17	佐伯　成優	ｻｴｷ ﾅﾘﾏｻ	23	2003/1/3	高岡第一	東洋	187	89	右	右	1	1
8	三菱自動車岡崎	P	14	清川　大雅	ｷﾖｶﾜ ﾀｲｶﾞ	23	2002/10/3	花巻東	同志社	176	75	右	右	1	1
9	三菱自動車岡崎	P	20	近藤　愛斗	ｺﾝﾄﾞｳ ﾏﾅﾄ	20	2005/7/21	浜松開誠館		174	82	右	右	2	1
10	東海理化	P	15	高橋　一壮	ﾀｶﾊｼ ｶｽﾞﾏｻ	23	2003/3/6	愛産大三河	東海学園	173	80	右	右	1	1
11	ジェイプロジェクト	P	11	鎌田　温音	ｶﾏﾀ ﾊﾙﾄ	23	2002/11/29	聖愛	ノースアジア	180	83	右	左	1	1
12	ジェイプロジェクト	P	28	中川　知也	ﾅｶｶﾞﾜ ﾄﾓﾔ	23	2003/2/16	飯塚	九州共立	180	80	右	右	1	1
13	Honda鈴鹿	P	11	寺瀬　太紀	ﾃﾗｾ ﾀｲｷ	23	2003/3/25	小松商業	中部	180	81	左	左	1	1
14	Honda鈴鹿	P	24	田中　大聖	ﾀﾅｶ ﾔﾏﾄ	24	2002/1/29	鶴岡東	太成学院	178	95	右	左	2	1
15	西濃運輸	C	9	譽田　貴之	ﾎﾝﾀﾞ ﾀｶﾕｷ	23	2002/9/15	福岡工大城東	福岡工業	178	87	右	右	1	1
16	トヨタ自動車	C	23	箱山　遥人	ﾊｺﾔﾏ ﾊﾙﾄ	19	2006/4/26	高崎健康福祉大高崎		176	85	右	右	1	1
17	日本製鉄東海REX	C	31	室木　太陽	ﾑﾛｷ ﾀｲﾖｳ	23	2003/3/23	金沢商業	国学院	180	85	右	右	1	1
18	ジェイプロジェクト	C	9	神農　怜津	ｼﾝﾉ ﾚﾂ	23	2003/1/20	島原中央	九州共立	183	86	右	右	1	1
19	ヤマハ	IF	2	土山　翔生	ﾄﾞﾔﾏ ｼｮｳｾｲ	23	2002/11/11	岡山理科大附属	国学院	171	75	右	右	1	1
20	ヤマハ	IF	31	森川　凌	ﾓﾘｶﾜ ﾘｮｳ	23	2002/11/4	神戸国際大附属	神戸学院	178	92	右	左	1	1
21	トヨタ自動車	IF	9	今泉　颯太	ｲﾏｲｽﾞﾐ ｿｳﾀ	24	2001/12/18	中京大中京	法政	178	82	右	右	2	1
22	日本製鉄東海REX	IF	26	吉村　慶佑	ﾖｼﾑﾗ ｹｲｽｹ	24	2001/12/5	平塚学園	横浜商科	179	78	右	右	2	1
23	東海理化	IF	4	角田　勇斗	ｶｸﾀ ﾕｳﾄ	23	2002/4/24	習志野	日本	171	73	右	右	1	1
24	Honda鈴鹿	IF	8	近藤　遼一	ｺﾝﾄﾞｳ ﾘｮｳｲﾁ	24	2001/9/14	八戸学院光星	天理	176	86	右	右	2	1
25	西濃運輸	OF	26	河田　隆博	ｶﾜﾀﾞ ﾀｶﾋﾛ	24	2001/12/27	星城	名城	173	83	右	右	2	1
26	王子	OF	9	柴崎　聖人	ｼﾊﾞｻｷ ﾏｻﾄ	23	2002/4/4	岐阜第一	大阪経済	173	85	右	左	1	1
27	JR東海	OF	1	水谷　祥平	ﾐｽﾞﾀﾆ ｼｮｳﾍｲ	24	2001/5/31	龍谷大平安	東洋	175	85	右	右	2	1
28	三菱自動車岡崎	OF	1	東　奏太	ｱｽﾞﾏ ｿｳﾀ	24	2002/1/6	大商大堺	東京情報	179	83	右	右	2	1
29	東海理化	OF	28	福本　綺羅	ﾌｸﾓﾄ ﾋｶﾙ	22	2003/12/30	明石商		178	90	左	左	4	1

全日本ジュニア強化合宿　近畿地区メンバー

	所　属	ポジション	背番号	氏名	フリガナ	年齢	生年月日	出身高校	出身大学	身長	体重	投	打	在籍年数（年目）	参加実績（回目）
1	NTT西日本	P	21	高井　駿丞	ﾀｶｲ ｼｭﾝｽｹ	23	2002/5/21	広島商業	駒澤	186	86	左	左	1	1
2	大阪ガス	P	19	本間　悠貴	ﾎﾝﾏ ﾕｳｷ	24	2001/8/29	大冠	天理	174	77	左	左	2	1
3	日本生命	P	14	髙木　寛斗	ﾀｶｷﾞ ﾋﾛﾄ	23	2002/5/21	福井工大福井	同志社	181	85	左	左	1	1
4	パナソニック	P	18	柿本　晟弥	ｶｷﾓﾄ ｾｲﾔ	23	2002/5/9	東洋大姫路	東洋	183	80	右	右	1	1
5	三菱重工West	P	11	藤井　　基	ﾌｼﾞｲ ﾓﾄｷ	23	2003/1/21	神戸学院大附属	神戸学院	170	73	左	左	1	1
6	三菱重工West	P	15	中澤　　嶺	ﾅｶｻﾞﾜ ﾘｮｳ	24	2002/1/11	比叡山	龍谷	180	81	左	左	2	1
7	日本製鉄瀬戸内	P	14	下堂　翔史	ｼﾓﾄﾞｳ ｼｮｳｼ	23	2002/10/20	開新	日本文理	175	90	右	右	1	1
8	YBSホールディングス	P	14	石本　涼人	ｲｼﾓﾄ ﾘｮｳﾄ	26	1999/11/12	瀬戸内	広島経済	177	82	左	左	4	1
9	YBSホールディングス	P	19	加藤　　響	ｶﾄｳ ﾋﾋﾞｷ	23	2002/10/11	金足農業	八戸学院	180	86	右	右	1	1
10	日本新薬	C	23	笹原　愛斗	ｻｻﾊﾗ ﾏﾅﾄ	23	2002/7/4	真颯館	九州共立	181	88	右	右	1	1
11	NTT西日本	C	24	夏目　　大	ﾅﾂﾒ ﾀｲ	25	2000/6/7	常葉学園橘	専修	180	85	右	左	3	1
12	日本生命	C	27	三島　有貴	ﾐｼﾏ ﾕｳｷ	24	2001/7/4	享栄	愛知学院	169	79	右	右	2	1
13	日本製鉄瀬戸内	C	22	島上　眞綾	ｼﾏｶﾞﾐ ﾏｻﾔ	24	2001/5/28	盛岡大附属	東京情報	168	73	右	右	2	1
14	日本新薬	IF	1	柳舘　憲吾	ﾔﾅｷﾞﾀﾞﾃ ｹﾝｺﾞ	23	2002/11/25	日大三	国学院	180	83	右	左	1	1
15	ニチダイ	IF	6	濱田　　蓮	ﾊﾏﾀﾞ ﾚﾝ	23	2002/5/10	立花学園	関東学院	177	77	右	右	1	1
16	NTT西日本	IF	9	成瀬　脩人	ﾅﾙｾ ｼｭｳﾄ	24	2001/5/23	東海大菅生	東海	176	76	右	右	2	1
17	大阪ガス	IF	0	山本　大輔	ﾔﾏﾓﾄ ﾀﾞｲｽｹ	25	2000/4/28	大手前高松	国学院	178	86	右	左	3	1
18	大阪ガス	IF	2	島袋　皓平	ｼﾏﾌﾞｸﾛ ｺｳﾍｲ	23	2002/7/12	沖縄尚学	東北福祉	180	80	右	右	1	1
19	パナソニック	IF	4	山路将太郎	ﾔﾏｼﾞ ｼｮｳﾀﾛｳ	23	2002/9/20	鶴岡東	東北福祉	173	72	右	左	1	1
20	パナソニック	IF	5	本間颯太朗	ﾎﾝﾏ ｿｳﾀﾛｳ	23	2002/6/20	慶應義塾	慶應義塾	166	74	右	右	1	1
21	ミキハウス	IF	25	松尾　龍乃	ﾏﾂｵ ﾘｭｳﾀﾞｲ	25	2000/8/7	岩国商業	福岡	181	90	右	左	3	1
22	日本製鉄瀬戸内	IF	25	小深田大地	ｺﾌﾞｶﾀﾞｲﾁ	23	2003/3/25	履正社		176	92	右	左	1	1
23	YBSホールディングス	IF	7	北口　恭輔	ｷﾀｸﾞﾁ ｷｮｳｽｹ	24	2001/11/18	埼玉栄	東海	182	80	右	右	2	1
24	日本新薬	OF	9	西川　凱斗	ﾆｼｶﾜ ｶｲﾄ	23	2002/6/28	育英	亜細亜	180	85	右	右	1	1
25	NTT西日本	OF	25	井上　幹太	ｲﾉｳｴ ｶﾝﾀ	23	2002/4/11	神村学園	金沢学院	185	96	右	左	1	1
26	日本生命	OF	8	中津　大和	ﾅｶﾂ ﾔﾏﾄ	23	2002/10/2	小松大谷	法政	180	77	右	左	1	1
27	パナソニック	OF	3	宮﨑　秀太	ﾐﾔｻﾞｷ ｼｭｳﾀ	25	2000/6/21	天理	法政	167	73	左	左	3	1
28	日本製鉄瀬戸内	OF	24	江川輝琉亜	ｴｶﾞﾜ ｷﾙｱ	23	2002/5/24	熊本工業	東農大北海道オホーツク	173	75	右	左	1	1
29	アスミ ビルダーズ	OF	6	松山　侑生	ﾏﾂﾔﾏ ﾕｳｷ	24	2001/6/4	大阪偕星学園	東京情報	178	84	左	左	2	1

全日本ジュニア強化合宿　中国・四国地区メンバー

	所　属	ポジション	背番号	氏名	フリガナ	年齢	生年月日	出身高校	出身大学	身長	体重	投	打	在籍年数（年目）	参加実績（回目）
1	JFE西日本	P	20	長野　健大	ﾅｶﾞﾉ ｹﾝﾄ	23	2002/8/31	松商学園	天理	184	86	右	右	1	1
2	JFE西日本	P	21	本田　眞也	ﾎﾝﾀﾞ ﾏｻﾔ	23	2002/9/18	相洋	神奈川	176	82	右	右	1	1
3	JFE西日本	P	34	岩本龍之介	ｲﾜﾓﾄ ﾘｭｳﾉｽｹ	24	2001/10/10	岡山理科大附属	亜細亜	176	80	左	左	2	2
4	三菱自動車倉敷オーシャンズ	P	16	岩井　将吾	ｲﾜｲ ｼｮｳｺﾞ	23	2002/6/13	高田商業	関西	173	75	右	右	1	1
5	ツネイシ ブルーパイレーツ	P	12	東田　　翔	ﾋｶﾞｼﾀﾞ ｼｮｳ	24	2001/11/28	日大三島	神奈川工科	181	78	右	右	2	2
6	伯和ビクトリーズ	P	18	飯田　幸大	ｲｲﾀﾞ ｺｳﾀ	24	2002/1/14	酒田南	四日市	177	80	右	右	2	1
7	日本製鉄山口	P	17	武藤　祐介	ﾑﾄｳ ﾕｳｽｹ	21	2004/12/1	延岡学園		174	82	右	右	3	2
8	JR四国	P	11	川合　慎磨	ｶﾜｲ ｼﾝﾏ	24	2002/2/7	高砂南	神戸学院	172	70	右	左	2	2
9	JR四国	P	14	桑嶋　洋輔	ｸﾜｼﾞﾏ ﾖｳｽｹ	23	2003/2/7	津田	吉備国際	171	72	左	左	1	1
10	四国銀行	P	19	田中　大成	ﾀﾅｶ ﾀｲｾｲ	25	2001/2/16	八幡浜	亜細亜	182	80	右	右	3	3
11	シティライト岡山	C	29	筒井　一平	ﾂﾂｲ ｲｯﾍﾟｲ	26	2000/3/20	明徳義塾	神戸学院	170	76	右	右	4	1
12	JFE西日本	C	8	篠原　翔太	ｼﾉﾊﾗ ｼｮｳﾀ	26	1999/7/19	報徳学園	明治	180	83	右	右	4	1
13	日本製鉄山口	C	22	寺嶋　勇馬	ﾃﾗｼﾏ ﾕｳﾏ	23	2002/10/29	千葉明徳	桜美林	183	88	右	右	1	1
14	JR西日本	IF	4	西村　唯人	ﾆｼﾑﾗ ﾕｲﾄ	24	2001/7/29	高知	立命館	171	80	右	左	2	1
15	JFE西日本	IF	0	原　　俊太	ﾊﾗ ｼｭﾝﾀ	24	2001/10/15	済々黌	鹿屋体育	180	88	右	右	2	1
16	三菱自動車倉敷オーシャンズ	IF	6	榎木　貫太	ｴﾉｷ ｶﾝﾀ	24	2001/4/14	大阪桐蔭	近畿	177	83	右	左	2	1
17	ツネイシ ブルーパイレーツ	IF	6	中里　壱成	ﾅｶｻﾞﾄ ｲｯｾｲ	25	2001/1/15	関東学園大附属	共栄	169	71	右	左	3	1
18	伯和ビクトリーズ	IF	7	福元　収大	ﾌｸﾓﾄ ｼｭｳﾀﾞｲ	24	2001/10/16	神戸国際大附属	大阪工業	176	76	右	左	2	1
19	四国銀行	IF	4	元山　晶斗	ﾓﾄﾔﾏ ｱｷﾄ	23	2002/8/4	高知商業	大阪経済	177	83	右	左	1	1
20	シティライト岡山	OF	1	東海林航介	ｼｮｳｼﾞ ｺｳｽｹ	24	2001/10/24	星稜	東海	180	80	右	左	2	1
21	シティライト岡山	OF	24	稲林　隼人	ｲﾅﾊﾞﾔｼ ﾊﾔﾄ	25	2000/9/2	益田東	大阪体育	180	86	右	左	3	1
22	JR西日本	OF	8	岡野　翔海	ｵｶﾉ ｼｮｳｶ	23	2002/8/21	神戸国際大附属	佛教	180	88	右	右	1	1
23	JFE西日本	OF	24	大西　良来	ｵｵﾆｼ ﾘｸ	23	2002/6/26	福井工大福井	福井工業	178	83	右	右	1	1
24	日本製鉄山口	OF	24	林　　拓馬	ﾊﾔｼ ﾀｸﾏ	24	2001/5/6	大垣日大	日本	176	82	右	左	2	2
25	四国銀行	OF	6	川田　悠慎	ｶﾜﾀﾞ ﾕｳｼﾝ	24	2002/2/20	高知	京都産業	174	68	右	左	2	2
26	松山フェニックス	OF	33	重松　健人	ｼｹﾞﾏﾂ ｹﾝﾄ	23	2002/11/29	松山聖稜	松山	171	71	右	左	1	1

全日本ジュニア強化合宿　九州地区メンバー

	所　属	ポジション	背番号	氏名	フリガナ	年齢	生年月日	出身高校	出身大学	身長	体重	投	打	在籍年数（年目）	参加実績（回目）
1	JR九州	P	11	浦川　一心	ｳﾗｶﾜ ｲｯｼﾝ	23	2002/10/19	佐賀商業	環太平洋	179	79	右	左	1	1
2	KMGホールディングス	P	16	牟田　稔啓	ﾑﾀ ｼﾞﾝｹｲ	23	2002/6/26	香椎	神戸医療未来	180	81	右	右	1	1
3	日産自動車九州	P	21	蛭子凌太郎	ｴﾋﾞｽ ﾘｮｳﾀﾛｳ	23	2002/8/4	佐伯鶴城	日本経済	180	83	左	左	1	1
4	日本製鉄九州	P	11	木村駿太朗	ｷﾑﾗ ｼｭﾝﾀﾛｳ	23	2002/8/3	大分舞鶴	九州産業	184	90	右	右	1	1
5	Honda熊本	P	17	藤江　星河	ﾌｼﾞｴ ｾｲｶﾞ	23	2002/10/26	大阪桐蔭	明治	178	84	右	右	1	1
6	Honda熊本	P	20	中西　健登	ﾅｶﾆｼ ｹﾝﾄ	23	2002/8/26	国士舘	国士舘	186	80	右	右	1	1
7	熊本ゴールデンラークス	P	19	戸波　空土	ﾄﾅﾐ ｿﾖﾄ	23	2002/6/13	宗像	北九州市立	185	80	右	右	1	1
8	宮崎梅田学園	P	11	大久保　啓	ｵｵｸﾎﾞ ｹｲ	24	2002/1/15	東海大福岡	東海	178	87	右	右	2	1
9	沖データコンピュータ教育学院	P	17	轟　大駕	ﾄﾄﾞﾛｷ ﾀｲｶﾞ	19	2006/8/29	佐賀農業		169	71	右	右	1	1
10	沖縄電力	P	18	平　典士	ﾀｲﾗ ﾃﾝｼﾞ	24	2001/8/18	嘉手納	沖縄	173	78	右	右	2	1
11	エナジック	P	18	加島　優太	ｶｼﾏ ﾕｳﾀ	23	2002/5/17	鹿児島実業	福岡工業	175	78	右	右	1	1
12	佐伯市硬式野球団	P	20	前薗　渉	ﾏｴｿﾞﾉ ﾜﾀﾙ	23	2003/2/12	港	関西外国語	183	85	左	左	1	1
13	佐伯市硬式野球団	P	29	塩見　渉	ｼｵﾐ ﾜﾀﾙ	23	2002/10/18	倉吉北	神戸医療未来	176	77	右	左	1	1
14	JR九州	C	27	菊池　壮真	ｷｸﾁ ｿｳﾏ	23	2002/5/14	真颯館	九州産業	181	85	右	右	1	1
15	KMGホールディングス	C	22	入江　晴斗	ｲﾘｴ ﾊﾙﾄ	23	2002/8/11	岡山理科大附属	桐蔭横浜	172	77	右	右	1	1
16	宮崎梅田学園	C	9	中里　高郎	ﾅｶｻﾞﾄ ﾀｶｵ	25	2000/6/21	鹿町工業	別府	180	90	右	右	3	1
17	エナジック	C	27	新城　琉愛	ｼﾝｼﾞｮｳ ﾙｷｱ	20	2005/7/4	日本ウェルネス沖縄		180	72	右	右	2	1
18	西部ガス	IF	0	古川　朋樹	ﾌﾙｶﾜ ﾄﾓｷ	23	2002/7/10	神村学園	東京農業	165	67	右	右	1	1
19	西部ガス	IF	4	柴田　恭佑	ｼﾊﾞﾀ ｷｮｳｽｹ	23	2002/8/7	東明館	立教	178	75	右	左	1	1
20	JR九州	IF	1	七條　太一	ｼﾁｼﾞｮｳ ﾀｲﾁ	23	2003/1/7	文徳	佛教	178	79	右	左	1	1
21	日産自動車九州	IF	1	蔵田亮太郎	ｸﾗﾀ ﾘｮｳﾀﾛｳ	23	2002/10/12	聖望学園	立正	187	87	右	左	1	1
22	日産自動車九州	IF	31	山下晃之介	ﾔﾏｼﾀ ｺｳﾉｽｹ	23	2002/5/27	文徳	上武	180	83	右	右	1	1
23	日本製鉄九州	IF	25	南里　健斗	ﾅﾝﾘ ｹﾝﾄ	23	2002/10/19	中間	東海大九州	180	78	右	右	1	1
24	Honda熊本	IF	9	森　翔太郎	ﾓﾘ ｼｮｳﾀﾛｳ	23	2002/6/22	熊本工業	中部学院	183	89	右	左	1	1
25	宮崎梅田学園	IF	1	千原　彪雅	ﾁﾊﾗ ﾋｭｳｶﾞ	24	2001/5/15	鳥取城北	阪南	173	78	右	右	2	1
26	新海屋	IF	5	高吉　悠人	ﾀｶﾖｼ ﾕｳﾄ	23	2002/9/5	日本ウェルネス沖縄	日本ウェルネススポーツ大学・東京	170	70	右	右	1	1
27	佐伯市硬式野球団	IF	6	菊岡　愛輝	ｷｸｵｶ ｱｲｷ	23	2003/1/15	玉名	北陸	166	66	右	左	1	1
28	日産自動車九州	OF	2	山内陽太郎	ﾔﾏｳﾁ ﾖｳﾀﾛｳ	23	2002/11/10	米子東	明治	179	72	右	左	1	1
29	熊本ゴールデンラークス	OF	10	牛島　希	ｳｼｼﾞﾏ ﾉｿﾞﾐ	23	2002/4/16	九州学院	日本	175	82	右	右	1	1
30	熊本ゴールデンラークス	OF	24	菅原　大奨	ｽｶﾞﾜﾗ ﾀﾞｲｽｹ	24	2001/11/2	利府	金沢学院	189	95	右	左	2	1
31	エナジック	OF	1	宮平　陸	ﾐﾔﾊﾗ ﾘｸ	24	2001/5/6	宜野湾	平成国際	175	82	右	両	2	1

2025年度加盟チーム数の推移

H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
2	2	2	2	1	1	3	3	3	3	3	3	3	3
14	14	14	14	15	15	14	14	14	15	16	16	17	17
16	16	16	16	16	16	17	17	17	18	19	19	20	20
11	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	7	8	8
71	71	74	70	70	69	68	64	62	59	59	58	53	50
82	81	84	79	79	78	77	73	71	68	68	65	61	58
4	4	4	4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	6
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	19	17	17	17	17	19	18	18	16	15	14	14	14
22	23	21	21	21	21	23	22	22	22	21	20	20	20
18	18	18	19	20	20	23	24	24	26	25	25	26	25
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0
79	80	78	74	74	77	74	75	74	74	74	75	76	75
99	100	98	95	96	99	99	101	100	102	101	102	102	100
13	13	13	13	13	13	14	14	14	12	11	11	11	11
1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
14	15	14	14	16	17	17	18	16	16	15	16	16	16
28	29	28	28	30	31	32	33	31	28	26	27	27	27
9	9	10	10	10	10	10	11	11	12	12	13	15	16
3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
37	39	39	39	39	39	40	40	41	39	39	37	37	36
49	51	52	51	51	51	52	53	54	53	53	52	54	54
7	7	6	6	7	7	7	8	8	7	7	7	7	7
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0
13	13	12	12	10	10	10	9	10	11	11	10	11	11
21	21	19	19	18	18	18	18	19	19	19	18	18	18
2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
3	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	4	4
5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	7	7
9	9	9	9	9	8	9	9	11	10	11	11	14	14
5	5	5	5	6	6	6	6	5	4	4	4	4	3
19	18	18	18	19	20	20	20	17	17	17	20	19	19
33	32	32	32	34	34	35	35	33	31	32	35	37	36
75	75	75	75	76	75	82	85	87	88	87	86	93	93
12	12	12	11	12	12	12	12	11	9	9	9	6	5
268	271	268	260	262	266	264	261	255	250	249	249	247	242
355	358	355	346	350	353	358	358	353	347	345	344	346	340

		S24	S38	S53	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
北海道	会社	11	18	10	4	4	4	3	3	2	2	2	2
	クラブ	9	3	3	15	15	16	17	15	15	14	14	14
	合計	20	21	13	19	19	20	20	18	17	16	16	16
東北	会社	17	19	19	14	10	9	10	10	9	10	10	9
	クラブ	26	26	58	76	76	77	77	76	73	72	72	59
	合計	43	45	77	90	86	86	87	86	82	82	82	68
北信越	会社	12	21	7	4	4	4	4	5	5	4	4	4
	会社扱				0	1	1	1	1	1	1	0	0
	クラブ	22	8	16	19	19	22	21	21	20	19	19	19
	合計	34	29	23	23	24	27	26	27	26	24	23	23
関東	会社	52	47	49	19	18	18	20	20	21	20	18	18
	会社扱				1	1	1	1	1	1	1	2	2
	クラブ	36	18	30	66	69	75	81	80	81	79	80	77
	合計	88	65	79	86	88	94	102	101	103	100	100	97
東海	会社	17	30	19	14	13	14	14	13	11	12	12	13
	会社扱								1	1	1	1	1
	クラブ	11	8	12	15	13	14	15	14	13	13	13	14
	合計	28	38	31	29	26	28	29	28	25	26	26	28
近畿	会社	36	48	34	13	11	11	11	10	10	9	9	9
	会社扱				1	1	1	1	2	2	2	3	3
	クラブ	15	6	6	21	25	28	31	34	33	34	36	37
	合計	51	54	40	35	37	40	43	46	45	45	48	49
中国	会社	15	19	16	7	5	5	5	6	7	7	7	7
	会社扱				1	2	2	2	2	1	1	1	1
	クラブ	21	2	2	9	9	11	13	13	11	11	11	13
	合計	36	21	18	17	16	18	20	21	19	19	19	21
四国	会社	15	18	8	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	クラブ	1	1	3	2	2	2	3	3	3	3	3	3
	合計	16	19	11	4	4	4	5	5	5	5	5	5
九州	会社	21	17	17	7	6	8	7	7	7	9	8	8
	会社扱				2	3	3	3	4	4	5	4	4
	クラブ	5	4	1	3	4	6	18	19	19	18	19	18
	合計	26	21	18	12	13	17	28	30	30	32	31	30
合計	会社	196	237	179	84	73	75	76	76	74	75	72	72
	会社扱				5	8	8	8	11	10	11	11	11
	クラブ	146	76	131	226	232	251	276	275	268	263	267	254
	合計	342	313	310	315	313	334	360	362	352	349	350	337

※活動休止チームは除く
※会社扱は専門学校等

2025年度加盟チーム数及び登録者数

	加盟チーム			活動休止			登録者数		
	会社	クラブ	計	会社	クラブ	計	競技者	役員	計
日本野球連盟	-	-	-	-	-	-	-	35	35
北海道地区連盟	-	-	-	-	-	-	-	65	65
北海道野球連盟（札幌支部）	2	8	10	0	0	0	351	0	351
北海道野球連盟（室蘭支部）	1	3	4	0	0	0	135	0	135
北海道野球連盟（旭川支部）	0	5	5	0	0	0	133	0	133
北海道野球連盟（函館支部）	0	1	1	0	0	0	25	4	29
計	3	17	20	0	0	0	644	69	713
東北地区連盟	-	-	-	-	-	-	-	3	3
青森県野球連盟	0	3	3	0	0	0	83	41	124
岩手県野球連盟	2	20	22	0	3	3	681	225	906
宮城県野球協会	4	7	11	0	2	2	345	65	410
秋田県野球連盟	2	7	9	0	1	1	308	105	413
山形県野球連盟	0	4	4	1	0	1	141	154	295
福島県野球協会	0	9	9	0	5	5	280	125	405
計	8	50	58	1	11	12	1,838	718	2,556
北信越地区連盟	-	-	-	-	-	-	-	0	0
長野県野球連盟	1	5	6	0	0	0	197	49	246
新潟県野球連盟	2	7	9	0	1	1	301	57	358
富山県野球連盟	3	1	4	0	0	0	127	37	164
石川県野球連盟	0	1	1	0	0	0	26	36	62
福井県野球連盟	0	0	0	0	1	1	0	33	33
計	6	14	20	0	2	2	651	212	863
関東地区連盟	-	-	-	-	-	-	-	8	8
茨城県野球連盟	5	9	14	0	0	0	531	51	582
栃木県野球連盟	1	8	9	0	0	0	318	71	389
群馬県野球連盟	1	4	5	0	0	0	194	61	255
埼玉県野球協会	4	12	16	1	0	1	636	84	720
千葉県野球連盟	3	8	11	0	0	0	473	74	547
東京都野球連盟	7	15	22	1	1	2	870	84	954
神奈川県野球協会	4	12	16	0	1	1	649	84	733
山梨県野球協会	0	6	6	0	0	0	204	28	232
計	25	74	99	2	2	4	3,875	545	4,420

東海地区連盟	-	-	-	-	-	-	-	48	48
静岡県野球協会	1	6	7	2	0	2	271	34	305
愛知県野球連盟	8	6	14	0	0	0	527	12	539
岐阜県野球連盟	1	2	3	0	0	0	100	8	108
三重県野球連盟	1	2	3	0	0	0	108	13	121
計	11	16	27	2	0	2	1,006	115	1,121
近畿地区連盟	-	-	-	-	-	-	-	12	12
滋賀県野球連盟	3	5	8	0	0	0	190	46	236
京都府野球連盟	3	7	10	0	0	0	345	39	384
大阪府野球連盟	6	7	13	0	0	0	487	44	531
兵庫県野球連盟	5	7	12	0	0	0	414	22	436
和歌山県野球連盟	0	1	1	0	0	0	46	12	58
奈良県野球連盟	1	9	10	0	0	0	315	28	343
計	18	36	54	0	0	0	1,797	203	2,000
中国地区連盟	-	-	-	-	-	-	-	1	1
岡山県野球連盟	2	2	4	0	0	0	130	58	188
広島県野球連盟	4	5	9	0	0	0	324	34	358
鳥取県野球連盟	0	0	0	0	1	1	0	11	11
山口県野球連盟	1	3	4	0	1	1	136	30	166
島根県野球連盟	0	1	1	0	0	0	35	9	44
計	7	11	18	0	2	2	625	143	768
四国地区連盟	-	-	-	-	-	-	-	3	3
香川県野球連盟	2	0	2	0	0	0	60	36	96
愛媛県野球連盟	0	2	2	0	0	0	54	15	69
徳島県野球連盟	0	2	2	0	0	0	48	21	69
高知県野球連盟	1	0	1	0	0	0	24	16	40
計	3	4	7	0	0	0	186	91	277
九州地区連盟	-	-	-	-	-	-	-	9	9
福岡県野球連盟	6	8	14	0	0	0	536	72	608
大分県野球連盟	3	2	5	0	0	0	148	38	186
長崎県野球連盟	0	1	1	0	0	0	29	1	30
熊本県野球連盟	3	0	3	0	1	1	110	35	145
沖縄県硬式野球連盟	2	4	6	0	0	0	224	29	253
宮崎県野球連盟	3	0	3	0	1	1	92	31	123
鹿児島県野球連盟	0	2	2	0	1	1	69	26	95
佐賀県野球連盟	0	2	2	0	0	0	52	28	80
計	17	19	36	0	3	3	1,260	269	1,529
総合計	98	241	339	5	20	25	11,882	2,400	14,282

2025年度　社会人野球表彰者一覧

■2025年度社会人野球表彰　ベストナイン

ベストナイン	氏名	チーム名	年齢	受賞回数
投手	佐藤　　廉	ヤマハ	26	初
捕手	細川　勝平	王子	31	初
一塁手	木倉　朋輝	日本生命	26	初
二塁手	土山　翔生	ヤマハ	23	初
三塁手	高橋　隆慶	ＪＲ東日本	23	初
遊撃手	相羽　寛太	ヤマハ	23	初
外野手	矢幡　勇人	ヤマハ	35	2
外野手	柴崎　聖人	王子	23	初
外野手	松本　　渉	日本生命	25	初
指名打者	畔上　　翔	Ｈｏｎｄａ鈴鹿	32	初

■2025年度社会人野球表彰　個人記録

表彰	氏名	チーム名	年齢	成績
最多勝利投手賞	佐藤　　廉	ヤマハ	26	10勝０敗（12試合 83回⅓）
最優秀防御率賞	樋口　　新	王子	23	防御率1.25（12試合 50回⅓ 失点９ 自責点７）
首位打者賞	浜田　竜之祐	日本新薬	32	打率　0.413（12試合49打席46打数19安打）
最多本塁打賞	畔上　　翔	Ｈｏｎｄａ鈴鹿	32	６本（14試合50打席44打数18安打）
最多打点賞	古寺　宏輝	Ｈｏｎｄａ熊本	27	18打点（14試合59打席51打数17安打）

※年齢は2025年12月10日時点

2025年度加盟チームの変更事項

（1）新規加盟チーム・・・・・・6チーム

2025年2月28日現在

承認日	加盟チーム	種別	加盟地方団体	地区連盟
2025/3/11	福岡トヨタ硬式野球クラブ　FTサンダース	クラブ	福岡県	九州地区
2026/1/28	兵庫三菱自動車	会社	兵庫県	近畿地区
2026/2/2	NANKATSU BASE	クラブ	山梨県	関東地区
2026/2/6	備創ベースボールクラブ	クラブ	岡山県	中国地区
2026/2/9	山梨バンディッツクラブ	クラブ	山梨県	関東地区
2026/2/10	三協クリエイト	会社	岡山県	中国地区

（2）活動再開・・・・・・2チーム

承認日	加盟チーム	種別	加盟地方団体	地区連盟
2026/1/8	航空自衛隊防府クラブ	クラブ	山口県	中国地区
2026/2/6	東京LBC	クラブ	東京都	関東地区

（3）活動休止・・・・・・11チーム

承認日	加盟チーム	種別	加盟地方団体	地区連盟
2025/7/29	ビクトリークロウ	クラブ	佐賀県	九州地区
2025/12/10	BEZEL sports academy	クラブ	大分県	九州地区
2025/12/22	SUNホールディングス長崎	クラブ	長崎県	九州地区
2025/12/25	ジェイグループ	クラブ	愛知県	東海地区
2026/1/19	オール不来方	クラブ	岩手県	東北地区
2026/1/21	全栃木野球クラブ	クラブ	栃木県	関東地区
2026/2/1	桂倶楽部	クラブ	山梨県	関東地区
2026/2/5	滝沢スイカーズ	クラブ	岩手県	東北地区
2026/2/19	NOMOベースボールクラブ	クラブ	兵庫県	近畿地区
2026/2/20	TOKUSHIMA ASTROS	クラブ	徳島県	四国地区
2026/2/26	川俣クラブ	クラブ	福島県	東北地区

（4）解散・脱退・・・・・・7チーム

承認日	加盟チーム	種別	加盟地方団体	地区連盟
2025/10/7	スクールパートナー	会社	静岡県	東海地区
2026/2/9	一迫ベースボールクラブ	クラブ	宮城県	東北地区
2026/2/12	全新潟ブラックス	クラブ	新潟県	北信越地区
2026/2/19	鳥取PearKings	クラブ	鳥取県	中国地区
2026/2/24	きらやか銀行	会社	山形県	東北地区
2026/2/26	二本松クラブ	クラブ	福島県	東北地区
2026/2/27	B-NEXT	クラブ	山梨県	関東地区

（5）チーム名称変更・・・・・・5チーム

承認日	新チーム名	旧チーム名	加盟地方団体	地区連盟
2025/3/11	スターダスト	HOKUTO　Baseball　Club	宮城県	東北地区
2025/3/25	日本製鉄九州	日本製鉄九州大分	大分県	九州地区
2025/3/27	日本製鉄山口	日鉄ステンレス	山口県	中国地区
2026/1/19	CENTRAL ARCH	Fakie Style 硬式野球クラブCENTRAL ARCH	愛知県	東海地区
2026/2/2	甲斐府中オリオンズ	甲斐府中クラブ	山梨県	関東地区

（6）チーム種別変更・・・・・・2チーム

承認日	チーム名	新種別（会社･クラブ）	旧種別（会社･クラブ）
2025/11/9	ショウワコーポレーション	会社	クラブ
2026/1/21	九州総合スポーツカレッジ	クラブ	会社

2025年度中に改正した規程等

（2026年度第1回定時理事会において改正した規程等を含む）

1. 定款の改正

■2025年12月23日　評議員会（書面による）みなし決議

・役員の再任期間については、定款第33条（役員の任期及び定年）第1項ただし書きにより「連続して5期または10年を超えてはならない」と定めている。この最長期間（5期または10年）に達した役員が再び選任されるまでの経過期間について、スポーツ団体ガバナンスコード審査項目「9」における審査基準（下記参照）に基づき、定款第33条第2項に以下の内容の項目を挿入し、第2項以下を繰り下げた。

▽定款第33条第2項

2　前項、ただし書きによる再任期間を満了した者については、満了後4年以上経過した時点で再び理事候補者となることができる。

▽ガバナンスコード審査項目「9」における審査基準（抜粋）

(1)理事が原則として10年を超えて在任することのないよう、再任回数の上限を設けている。

(2)最長期間に達した者については、再び選任されるまでに必要な経過期間（少なくとも任期2期分）を合わせて定めている。

2. 各種規程等の制定及び改正

(1)登録規程の改正

■2025年12月10日　2025年度第4回臨時理事会決議

・活動中の加盟チームが年負担金等未納の状態のまま連絡が取れなくなった場合の取扱について、新たな規定を設けた。登録規程第47条第5項において、活動休止中の加盟チームが負担金等を2年間未納の場合、解散したものとみなす規定があったが、活動中のまま未納となるケースは想定されていなかったため、活動休止中のチームだけでなく「加盟チームが負担金等を2年間未納のときは解散したものとみなす」とし、また、「未納のチームが大会に出場した場合」だけでなく、活動中のまま負担金等を納付しないチームも含めて、「当該チームが所属する加盟地方団体が責任を持って納付する」に改正した。

▽第47条第5項から第7項（改正後・抜粋）

5　活動休止中の加盟チームの年負担金は半額とする。なお、活動休止中の加盟チームに所属する競技者は、競技者登録料を納めることを要しない。

6　負担金等未納の加盟チームがある場合は、当該チームが所属する加盟地方団体が責任をもって負担金等を納入するものとする。

7　年負担金等を2年間未納の加盟チーム（活動休止中の加盟チームを含む）は、解散したものとみなす。

(2)JABA公式大会に関する内規の改正

■2025年12月10日　2025年度第4回臨時理事会決議

・7イニングス制試合に関する検証期間（2023年度から3シーズン）を経て「2026年度以降の7イニングス制試合の実施に関する方針」（下記参照）を決議した。この方針を受けて、第2項の「(4)公認大会Ⅰ（地区連盟主催大会）」および「(5)公認大会Ⅱ（加盟地方団体等主催大会）」については「主催する地区連盟、加盟地方団体の判断において7イニングス制による実施を可とする」の一文を追加した。

▽「2026年度以降における7イニングス制試合の実施に関する方針」

1. JABA三大会（都市対抗野球大会、社会人野球日本選手権大会、全日本クラブ野球選手権大会）の予選・本選、および日本選手権対象JABA11大会は9イニングス制で行う。

2. 上記大会以外の大会では、各地区の判断によって7イニングス制による大会を開催できるものとする。

3. 上記2点の方針に伴い、「JABA公式大会に関する内規」を改正する。

▽JABA公式大会に関する内規第2項（抜粋）

1. JABA公式大会は次のとおりグループ分けする。

(1)日本野球連盟主催大会

(2)前記(1)の各地区予選

(3)日本選手権対象大会

(4)公認大会Ⅰ（地区連盟主催大会）

(5)公認大会Ⅱ（加盟地方団体等主催大会）

ただし上記(4)(5)に該当する大会は、主催する地区連盟、加盟地方団体の判断において7イニングス制による実施を可とする。

(3)ユニフォーム等の宣伝広告に関する取扱要領の改正

■2025年7月25日　2025年度第2回臨時理事会決議

・スポーツサングラスについて、「鏡面加工されたレンズは使用できない」としていたが、鏡面加工そのものに問題があるのではなく、反射によりプレイに影響が出ることを防ぐのが目的であり「著しく光を反射するなど試合の進行に妨げとなるレンズは使用できない」と改正した。

(4)日本選手権対象大会要項作成要領の改正

■2026年4月20日　2026年度第1回定時理事会決議

・「社会人および大学野球におけるスピードアップに関する特別規則」の廃止に伴い、規則名称が記載されている

部分を削除した。

(5) ＪＡＢＡクラブチーム運営ガイドラインの改正

■２０２６年４月20日　２０２６年度第１回定時理事会決議

・「社会人および大学野球におけるスピードアップに関する特別規則」の廃止に伴い、規則名称が記載されている部分を削除した。

3．競技に関連する規則等の改正

(1) 日本野球連盟（社会人野球）内規の改正

■２０２５年７月25日　２０２５年度第２回臨時理事会決議

・ダッグアウトへ電子機器を持ち込めないことは、暗黙の了解事項としてきたが、第49回（２０２４年度）社会人野球日本選手権大会において、試合中にチームがダッグアウトに持ち込んだ電子機器について審判の注意により持ち出させた事例があり、禁止事項であることを明文化することとした。試合中に外部との通信を認めないことが目的であるが、近年、チーム内の業務上で扱う電子情報量が非常に多くなっており、タブレット等の電子機器使用のニーズは高い。しかしながら、業務上の使用目的であってもタブレット等の持ち込みを認めると外部との通信も可能になってしまう。ＷＢＳＣ（世界野球・ソフトボール連盟）、ＮＰＢにおいても電子機器の持ち込みは認めていないことから本連盟としても認めないこととし、以下の内容の項目を挿入した。また、以降の項目を繰り下げた。

▽第３項に挿入する内容（抜粋）

３．試合中の電子通信機器の使用禁止について

監督、コーチ、選手、その他ベンチ入りを許可された者は、試合中、球場内においてスマートフォン、スマートウォッチ、パソコン、タブレット端末等の電子通信機器を使用することはできない。（違反した場合は、項番「12」の⑴⑥―Ｆを参照）

▽「第12項（１）⑥―Ｆ」（抜粋）

12．監督・プレーヤー等の退場処分について、次のとおりとする。

⑴退場処分

次の事項に該当し、審判員から退場を宣告された者は、ただちに試合から退き、試合場構内から去るか、あるいはスタンドに座る場合はユニフォームを脱ぎ、自チームのベンチまたはブルペンから離れたところに席を取らなければならい。そして、以後その試合にたずさわることはできない。

⑥審判員の警告が発せられた後、次の行為を繰り返した場合

Ｆ．試合中に電子通信機器を使用する行為

上記Ｆに関する行為は、当該チームの責任者である監督への警告とし、警告を受けた後、同一の大会で同様の行為があれば、その都度監督が退場を宣告される。ただし、警告を受けている監督が指揮をとらない場合や、すでに監督が試合から退いている場合には、代行として指揮をとる責任者が退場を宣告される。

■２０２５年12月10日　２０２５年度第４回臨時理事会決議

・「社会人および大学野球におけるスピードアップに関する特別規則」の廃止に伴い、規則名称が記載されている部分を削除した。また、アマチュア野球内規の改正に伴い、削除された項目や削除等に伴う項番の変更を反映した。

(2) 日本野球連盟（社会人野球）スピードアップ特別規程の改正

■２０２５年12月10日　２０２５年度第４回臨時理事会決議

・「社会人および大学野球におけるスピードアップに関する特別規則」の廃止に伴い、記載されていた事項を「日本野球連盟（社会人野球）スピードアップ特別規程」の中に追加した。また、第７項において「監督またはコーチがマウンドに行った際、投手交代する場合はファウルラインを越える前に交代を告げること」を新たに定めた。

(3) 日本野球連盟（社会人野球）７イニングス制特別規程の改正

■２０２６年２月17日　２０２５年度第２回定時理事会決議

・「社会人および大学野球におけるスピードアップに関する特別規則」の廃止に伴い、関係する項目を削除または変更した。また、アマチュア野球内規または日本野球連盟（社会人野球）内規の改正に伴い、削除された項目や削除等に伴う項番の変更を反映した。

以上

2025年度中（第1回定時評議員会後）に変更があった人事について

役　　職	取扱	名　　前	日　　付	備　　考
コンプライアンス委員会委員	辞任	遠藤　周子	2025年9月30日	
規則・審判委員会委員	辞任	鈴木　孝則	2025年9月30日	
規則・審判委員会委員	辞任	美濃　正隆	2025年9月30日	
理事 クラブ野球活性化委員会委員長 事業委員会委員	逝去	横井　信一	2025年11月8日	北信越地区連盟選出
クラブ野球活性化委員会委員長	選任	岸本　和彦	2025年12月10日	副委員長から昇格
クラブ野球活性化委員会副委員長	選任	有田　聖一	2025年12月10日	委員から昇格
クラブ野球活性化委員会委員 事業委員会委員	選任	番場　省二	2025年12月10日	北信越地区連盟選出
規則・審判委員会委員	選任	藤原　啓之	2025年12月10日	
規則・審判委員会委員	選任	三浦　和幸	2025年12月10日	
理事	選任	番場　省二	2025年12月23日	北信越地区連盟選出
評議員	辞任	大川　広誉	2025年12月31日	
コンプライアンス委員会委員	辞任	中島　典夫	2026年1月30日	関東地区連盟選出
コンプライアンス委員会委員	辞任	緒賀　克郎	2026年2月12日	四国地区連盟選出
コンプライアンス委員会委員	選任	真壁　　久	2026年2月17日	関東地区連盟選出
コンプライアンス委員会委員	選任	大西　浩司	2026年2月17日	四国地区連盟選出
理事 企画広報委員会委員 事業委員会委員 コンプライアンス委員会委員 アナウンス委員会委員 社会人野球表彰選考委員会委員 都市対抗野球大会運営委員会委員	辞任	藤野　智成	2026年2月18日	
コンプライアンス委員会委員	辞任	川島　　力	2026年2月21日	北信越地区連盟選出

事業委員会委員	選任	岸田　英志	2026年2月27日	
企画広報委員会委員	選任	和田　　崇	2026年2月27日	
コンプライアンス委員会委員				
アナウンス委員会委員				
社会人野球表彰選考委員会委員				
都市対抗野球大会運営委員会委員				
評議員	選任	中根慎一郎	※2026年3月13日	
理事	選任	岸田　英志	※2026年3月13日	
アスリート委員会委員	辞任	八角健太郎	※2026年4月20日	北海道地区連盟選出
顧問	選任	今井　敏之	※2026年4月20日	近畿地区連盟会長
顧問	選任	塩田　　実	※2026年4月20日	中国地区連盟会長
顧問	選任	木下　敬二	※2026年4月20日	四国地区連盟会長 顧問就任のため参与は外れる。
常務理事・業務執行理事	選定	岸田　英志	※2026年4月20日	
アスリート委員会委員	選任	加藤　宗之	※2026年4月20日	

【事務局人事】

役　　職	取扱	名　　前	日　　付	備　　考
次長	退任	遠藤　周子	2025年9月30日	
事務局長	発令	神保　忠弘	2025年12月1日	
主事	発令	倉本　千晴	2025年12月1日	新規採用
次長	発令	佐藤　栄一	※2026年3月1日	

※印は2026年度。

日本で生まれたボールを
未来へつなぐ。

SINCE 1934





KENKO
BALL

（公財）全日本軟式野球連盟公認球

ナガセケンコー株式会社
www.nagase-kenko.com

2026年度事業計画

2026年3月1日から2027年2月28日まで

公益財団法人日本野球連盟

1. 事業方針

定款第3条に掲げる目的を達成するため、以下の公益目的事業を実施する。

【公益目的事業】

野球大会の開催・運営及び野球競技の普及振興等事業

また、収益事業としては以下のとおりとする。

【収益事業】

野球大会のグッズ及び野球に関する書籍等の販売

これら事業の方針は以下のとおりとする。

(1) 公益目的事業　野球大会の開催・運営及び野球競技の普及振興等事業

【趣旨】

広範な国民が参加できる野球大会を主催することにより、最も国民に広く親しまれているスポーツである野球競技を通して、心身の健全な発達及び豊かな人間性の涵養を図ることを目的とした活動を実施する。また、幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対象に、野球競技の普及振興および野球選手、指導者、審判員、記録員等の養成を目的とした事業を実施し、活力あるスポーツ社会の実現に向け貢献する。

【事業内容と概要】

ア. 都市対抗野球大会

社会人野球を象徴する大会であり、加盟する全てのチームが予選に参加することができる。本連盟が運営する本大会は各地区の予選を勝ち抜いた高い競技力を持っているチームにより行われる。また、各地区予選で敗退したチームの中からも優れた選手を選出し補強選手として試合に出場させることができるため、どの試合も非常に高い技術レベルで行われる。一方で、各チームとも所在地をおく都市名で大会に参加することから、地域や母体となる企業との協力体制による応援組織が結成され、スタンドには多くの観客が詰め掛け、地域色豊かな応援が繰り広げられる。球場内には、試合展開による緊張感と相俟って独特の一体感がもたらされ、出場するチームの地元地域や母体となる企業には多大な士気高揚の効果を与えている。

また、都市対抗を目指すチームは、各都市のシンボルとしても認められる存在であることが重要な要素であり、日本野球連盟としては、基本理念と活動指針を定めて周知徹底を図り、常日頃より当該市町村や地域住民に対する様々な貢献策の実施や社会の模範となるべき行動の推進を求めている。

イ. 社会人野球日本選手権大会

社会人野球のその年度のチャンピオンを決する大会として位置付けている。都市対抗野球大会をはじめ、その年度中に行われる全国規模の大会で優勝したチーム並びに各地区の最終予選を勝ち抜いたチームが出場して行われる。従って、単独チームとして最も技術レベルの高い大会である。

ウ. 全日本クラブ野球選手権大会

日本野球連盟に加盟登録するチームの内、会社登録（会社等の法人が設立する）チーム以外のクラブ登録チームによる全国大会であり、各地区予選を勝ち抜いた代表チームが参加する。優勝チームには社会人野球日本選手権大会（前記イ.）の出場権が与えられる。

エ. 各地区クラブチーム大会

日本野球連盟に加盟登録するチームの内、会社登録（会社等の法人が設立する）チーム以外のクラブ登録チームを対象にしている。2000年以降、クラブ登録チーム数が急増したため、「前記ウ.」の大会への出場が「狭き門」となったことから、次のレベルのクラブチームの目標となる大会として2006年度に「東日本クラブカップ大会」、「中日本クラブカップ大会」、「西日本クラブカップ大会」の三大会を制定した。

2015年度からは、更なるクラブ野球の振興を図るため、クラブカップ三大会は発展的に解消とし、各地区クラブ大会としてそれぞれ各地区連盟との共催による八大会（中国と四国は合同）を制定、2016年度以降、クラブ登録チームの振興を目的に継続して実施している。

オ. 野球競技研修事業

・指導者育成事業

ア～エの各大会においてより高いレベルのチームを作り、トップレベルの選手を育成していくため、現場の指導に携わる指導者の資質向上を図ることを目的とする。高い技術と経験と知識に裏付けされた理論を学び、討論や実習、講演などでカリキュラムを構成する。参加対象は原則として加盟チームの指導者とするが、一般の指導者からの参加要望があれば受け付ける。また、各地域で開催する指導者講習会に対しても一定の規則に則り、講師の派遣や経費支援等も行う。加盟する少年野球団体が主催する指導者講習会に対しても講師の派遣や経費支援等も行う。

・審判員育成事業

ア～エの各大会など、技術レベルの高い試合を担当で

きる審判員の育成並びに審判の指導者育成を目的とする。野球規則や審判技術に関する講座並びに数多くの経験に基づく講話等のカリキュラムで構成する講習会の実施や各地域で開催する講習会に対しても一定の規則に則り、講師の派遣や経費支援等も行う。また、加盟する少年野球団体が主催する講習会に対しても講師の派遣や経費支援等も行う。

カ. 公式記録員育成事業

技術レベルの高い試合を担当できる公式記録員の育成並びに公式記録員の指導者育成を目的とする。各地域において経験を積んだ公式記録員を対象として都市対抗野球大会（前記ア.）並びに社会人野球日本選手権大会（前記イ.）において実地研修を行う。また、野球規則や技術講座並びに数多くの経験に基づく講話等のカリキュラムで構成する講習会の実施や各地域で開催する講習会に対しても一定の規則に則り、講師の派遣や経費支援等も行う。加盟する少年野球団体が主催する講習会に対しても講師の派遣や経費支援等も行う。

キ. アナウンス研修事業

ア～エの各大会など、技術レベルの高い試合や試合に関連して行われる各種イベント等を担当できるアナウンサーの育成並びにアナウンサー育成のための指導者を育成することを目的とする。実地研修や経験に基づく講話等のカリキュラムで構成する講習会の実施に加えて、各地域で開催する講習会に対する講師の派遣や経費支援等も行う。また、加盟する少年野球団体が主催する講習会に対しても講師の派遣や経費支援等も行う。

ク. コンディショニングスタッフ研修事業

ア～エの各大会に向けて、より高いレベルのチームを作り、トップレベルの選手を育成していくため、選手のコンディショニングの指導に携わるスタッフの資質向上を図ることを目的とする。高い技術と経験、知識に裏付けされた理論や新しい情報提供のためのカリキュラムで構成する研修会を実施する。参加対象は原則として加盟チームのコンディショニングスタッフとするが、一般の指導者からの参加要望があれば受け付ける。また、加盟する少年野球団体で開催する講習会に対しても講師の派遣や経費支援等も行う。

ケ. 普及振興事業

・野球教室、ティーボール教室の開催

野球競技に関係する団体やチームに参加している子どもたちだけに限らず、広く多くの子どもたちが野球競技に親しむことができる機会を提供することを目的とする。基本となる技術やルール、楽しみ方などを伝える。各地域やチーム、加盟する少年野球団体が開催する野球教室やティーボール教室に対しても用具や経費支援等も行う。

コ. 競技力向上事業

ア～エの各大会において、より高いレベルのチームにより競技が行われていくため、トップレベルの選手の育成を目的として以下の事業を実施する。また、各地域で行われる講習会等に対しても講師の派遣や経費支援等も行う。

・全日本ジュニア強化合宿

将来有望な若手選手を招集し、技術やコンディショニングに関する先端情報を提供し、連盟が指名する指導者による実践練習等を行う。

・社会人野球日本代表強化合宿及び国際大会派遣

社会人野球を代表するレベルの選手を招集し、技術やコンディショニングに関する先端情報を提供し、連盟が指名する指導者による実践練習等を行う。また、国際大会へ向けた代表チームのメンバー選考及び派遣等に関する事業を実施する。

・交流大会、親善試合の開催

指導者や選手等のレベル向上を目的とする交流大会や親善試合の実施並びにチームや選手の派遣を行う。また、各地区連盟選抜チームによる交流試合の開催促進を図る。

・小中学生に対する強化事業

野球競技レベルの底上げのため、小・中学生に対する研修会や国際試合に対する派遣等を行う。加盟する少年野球団体が開催する強化事業に対しても講師の派遣や経費支援等も行う。

サ. 海外研修派遣事業

・優秀選手及びチーム、又は選抜選手によるチームの海外研修派遣を実施する。

・指導者、審判員、記録員等の海外研修派遣を実施する。

シ. 国際的野球競技普及振興事業

・指導者や審判員等を指導員として海外へ派遣する。また、野球研修のために来日するチームや指導者、選手等の受入れや用具の支援等を実施する。

・国際野球大会並びに代表チームに関する情報発信や観客動員の促進を図るための事業を行う。

ス. 広報活動事業

・博物館等への展示により普及振興活動を実施する。

・野球競技に関わる情報発信

野球という国民的スポーツを更に多くの人に知ってもらい、競技に参加できる機会を増やすと同時にスポーツへの参加意識を高めることを目的として野球競技に関わる書籍や機関誌等を制作し配布する。また、公式ホームページ等を通じて情報を発信する。

(2) 収益事業

公式グッズ及び野球に関する書籍等の販売を行う。

2. 本年度の事業内容

(1) 公益目的事業　野球大会の開催・運営及び野球競技の普及振興等事業

ア. 第97回都市対抗野球大会

期　間　8月26日（水）～9月6日（日）

球　場　東京ドーム

参加チーム　32チーム
各地区予選　全国各地区で行われる予選には全ての加盟チームが参加することが出来る。各地区予選は、それぞれ当該地域の地区連盟又は都道府県連盟が運営にあたることとし、当連盟はかかる予選運営費について、一部経費を負担する。前年度優勝の春日井市・王子は推薦出場とする。

イ．第51回社会人野球日本選手権大会
期　間　10月31日（土）～11月10日（火）（11日間）
球　場　京セラドーム大阪
※プロ野球日本シリーズの日程が順延又は第9戦が追加となる場合、京セラドーム大阪での試合は、日本シリーズを優先とする。
参加チーム　32チーム
都市対抗野球大会、全日本クラブ野球選手権大会及び日本選手権対象大会の優勝チームに出場権を付与する。また、各地区連盟において最終予選を行う。
全日本クラブ野球選手権大会並びに日本選手権対象大会に対し、一部経費を予選費として負担する。
※社会人野球日本選手権大会の対象とする大会は以下の11大会とする。
北海道、東北、長野県知事旗、日立市長杯、東京スポニチ、静岡、ベーブルース杯、わかさ生活京都、岡山、四国、九州

ウ．第50回全日本クラブ野球選手権大会
※第50回を記念して出場チーム数を8チーム増の24とし、準決勝・決勝戦を東京ドームで開催する。
〔1回戦・2回戦・準々決勝（20試合）〕
期　間　8月8日（土）～10日（月）
球　場　等々力球場（神奈川県川崎市）
俣野公園・横浜薬大スタジアム（神奈川県横浜市）宇都宮清原球場（栃木県宇都宮市）
〔準決勝・決勝戦（3試合）〕
期　日　9月7日（月）
球　場　東京ドーム
参加チーム　24チーム
主　管　JABA関東地区連盟
第50回大会記念事業
事業内容は「第50回全日本クラブ野球選手権大会記念事業計画」のとおり。
※370頁から372頁参照
費用は「第50回全日本クラブ野球選手権大会記念事業基金（特定費用準備資金）」から充当する。
各地区予選　各地区連盟並びに各加盟地方団体が行う予選を勝ち抜いた代表24チームが本大会に出場する。

エ．その他大会事業費
■各地区クラブ大会
＊大会概要
主　催：日本野球連盟、当該地区連盟
名　称：各地区連盟が決定する。
運営費：大会運営費は、JABAが負担する。ただし、1大会に対する負担の上限は100万円とし、これを超える費用は当該地区連盟が負担する。
詳細は別途通知する。

＊各大会の開催予定

回数	大会名	期間	球場	チーム数（前回）	試合方式
12	北海道地区クラブ選手権	9／12～13・19～20 4日間	栗山町民 他	16（15）	T⑦
12	東北クラブカップ	8／1～2日間	調整中	8（8）	T
12	北信越クラブカップ	10／17～2日間	佐久総合運動公園	6（6）	T
19	関東連盟クラブ選手権	10／10～2日間	アイルS浦和・岩槻川通球場	8（8）	T
12	東海地区クラブ野球選手権	11／14～2日間	企業チーム球場	8（10）	T⑦
12	近畿クラブ会長杯	7／25～26・8／1～2・8～9・11	さとやくS・橿原運動公園球場	16（16）	T⑦
12	中国・四国クラブ野球選手権（決勝トーナメント）	10／31	津田恒実メモリアルS	4（4）	T
21	九州クラブ野球選手権	10／17～2日間	調整中	8（8）	T

※Tはトーナメント、⑦は7イニング制。

■各種プログラムの維持・管理（上記の大会に共通する事業）
本連盟が所有するプログラムやソフトウエア等の維持管理を行う。また、本年度より日本野球機構（NPB）が運営する「野球競技者登録システム」へ参加することとし、JABAが持つデータを連携するため、JABA登録システムの改修を行う。JABA登録システムの改修及びNPB野球競技者登録システムへの参加にかかる費用として以下の通り予算計上する。
・NPB競技者登録システム参加初期費用（22万円）
・JABA登録システムの改修（176万円：資産の取得）
※「NPB野球競技者登録システム」と「JABA登録システム」のデータ連携（373頁）参照

■クロックボードの管理（上記の大会に共通する事業）
2023年度及び2024年度に本連盟の資産として取得したクロックボードの管理、メンテナンスを行う。

オ．指導者育成事業

■ベースボールマネージャーミーティング
期　日　２０２７年１月９日（土）
場　所　東京都内
参　加　者　加盟チーム指導者等
企画・運営　アスリート委員会

カ．審判員育成事業

■全国審判講習会
各地区連盟並びに各加盟地方団体に所属する審判員を対象として、改正規則や各地域の審判講習会の実施、運営方法についてオンラインによる研修を行う。

キ．その他研修事業

■コンプライアンス教育の実施
役職員、選手及び指導者、審判員等に対するコンプライアンス教育を実施する。

■コーチング研修事業の実施（全国展開）
目　的　野球人口拡大へ向けた指導内容の全国標準化及び２０２５年度から施行される中学校運動部活動の地域移行に対する協力のための準備を目的とする。
実施内容　野球指導における「コーチング研修」
受講対象　ＪＡＢＡ各地区連盟関係者、各加盟チーム関係者（選手ＯＢ等）
開催場所　９会場（各地区連盟１会場）
※運営の詳細については、ＪＡＢＡから各地区連盟へ通知する。

■公式記録員育成事業
・公式記録員実地研修の実施（実地研修につき費用は大会運営費に計上）
第97回都市対抗野球大会並びに第51回社会人野球日本選手権大会において実地研修を行う。
期間及び会場　８月26日（水）～９月６日（日）
東京ドーム
10月31日（土）～11月10日（火）
京セラドーム大阪
参　加　者　各地区連盟推薦記録員
指　導　公式記録部会委員

■アナウンス研修事業
・場内アナウンス担当者の実地研修の実施（実地研修につき費用は大会運営費に計上）
第97回都市対抗野球大会並びに第51回社会人野球日本選手権大会において実地研修を行う。
期間及び会場　８月26日（水）～９月６日（日）
東京ドーム
10月31日（土）～11月10日（火）
京セラドーム大阪
参　加　者　各地区連盟推薦場内アナウンス
指　導　アナウンス委員会委員

■トレーナー／コンディショニングスタッフ研修事業
・加盟チームのトレーナー、フィジカル・メディカル担当者の知識・技術の向上を図ることやアンチ・ドーピング教育を実施する。
企画・運営　アスリート委員会

ク．競技力向上事業

■全日本ジュニア強化合宿
※全国７会場で開催する。
期日・場所　調整中
運　営　アスリート委員会
目　的　将来の社会人日本代表候補選手の発掘・育成（アスリート委員会で選考）

■全日本野球協会（ＢＦＪ）選手強化事業に対する協力
※ＢＦＪが実施する選手強化事業（強化合宿並びに国際大会派遣等）については、ＪＡＢＡ加盟チーム所属選手や指導者が多数参加することから、かかる事業費に対する負担金を計上する。
※ＢＦＪからの要請に応じて国際大会等への代表者等を派遣する。
日本代表チーム監督、コーチ及びチーム関係スタッフ
運営スタッフ（審判員、記録員等）
※ＢＦＪの事業計画は２０２６年３月開催のＢＦＪ理事会において承認される予定。

■国際大会派遣及び日本代表強化合宿
・第20回アジア競技大会（２０２６／愛知・名古屋）
野球競技実施期間　９月21日（月）～27日（日）
球　場　豊橋市民・岡崎中央総合公園
【強化合宿】
第１回
期　間　７月19日（日）～22日（水）
会　場　田辺スポーツパーク野球場（和歌山県田辺市）
第２回（派遣直前合宿）
期　間　９月16日（水）～18日（金）
会　場　（調整中）
・第６回ＷＢＳＣ Ｕ－23ワールドカップ
期　間　11月６日（金）～15日（日）
会　場　マナグア他・ニカラグア
※日本出国日：11月３日（火）、帰国日：11月18日（水）
【強化合宿】
第１回
期　間　７月23日（木）～26日（日）
会　場　（調整中）
第２回（派遣直前合宿）
期　間　10月31日（土）～11月２日（月）
会　場　東京近郊（調整中）
・第６回ＷＢＳＣ Ｕ－15ワールドカップ
期　間　８月下旬
会　場　メリダ・メキシコ
【編成・強化合宿】

デジタルトライアウト
期　間　未定
最終トライアウト
・第1回
期　日　未定
会　場　未定
・第2回
期　日　未定
会　場　未定
強化合宿（派遣直前合宿）
期　間　8月下旬
会　場　未定

■アスリート委員会活動
・社会人日本代表候補選手の発掘を目的として、各地で行われる大会等にアスリート委員会委員を派遣し、選手に関する情報収集活動を行う。
・各地区連盟が行う新人研修会及びクラブチーム技術研修会において、アスリート委員会委員が要請に応じて講師を務める。
・全日本ジュニア強化合宿の企画・運営を行う。
・トレーナー／コンディショニングスタッフ研修事業及びベースボールマネージャーミーティングの企画・運営を行う。

■野球データ分析競技会
・都市対抗野球大会並びに社会人日本選手権大会において収集したデータを基に社会人野球の競技の傾向など分析と人材の育成を目的として、ＢＦＪと共催で野球データ分析競技会を実施する。
期　日　未定
会　場　未定

ケ．国内普及振興事業

■各全国社会人野球大会事業補助
・日本選手権対象大会に対して会長杯を寄贈する。
・ＪＡＢＡ公式大会記念事業費について、２０２６年度に支給の対象となる大会は以下のとおり。
第80回ＪＡＢＡ東京スポニチ大会
第50回ＪＡＢＡ高砂大会
・審判員の技術向上を図るため、日本選手権対象大会への派遣の機会が少ない加盟地方団体所属の審判員の派遣数拡大を目的とし、かかる費用の一部を支給する。
対象とする地区連盟は、東北、中国、九州とする。
※３６９頁参照

■加盟地方団体普及振興事業
各地区連盟又は加盟地方団体が実施する以下の事業に対する一部事業費の負担、講師の派遣等を行う。
・審判員育成事業
・公式記録員育成事業
・指導者育成事業
・新人選手の育成またはクラブチームのレベルアップを目的とする事業
・場内アナウンス育成事業
・選抜チーム編成による他地区連盟との交流試合の実施
※３６９頁参照

■中学野球協議会事業
中学野球協議会事業として以下の事業を行う。
・第20回全日本中学野球選手権大会（ジャイアンツカップ）の開催
期　間　8月10日（月）～17日（月）
会　場　東京近郊（決勝戦は東京ドーム）
参加チーム　各地区予選を勝ち抜いた32チーム
※読売新聞社との共催
・指導者研修の実施
小中学生チームの指導者向け研修用動画を制作し、配信する。受講者には、修了証を発行する。
・ＪＡＢＡ会長杯の贈呈
加盟全国団体が行う全国規模の大会に対し、申請に基づきＪＡＢＡ会長杯を贈呈する。

■加盟全国団体普及振興事業
各加盟全国団体が実施する以下の事業に対する一部事業費の負担、講師の派遣等を行う。
・審判員育成事業
・公式記録員育成事業
・アナウンス研修事業
・その他（野球競技の普及振興を目的とする事業）
※３６９頁参照

■地方審判講習会指導者派遣事業
各地区連盟又は加盟団体が実施する審判員育成事業に対する講師の派遣を実施する。
※３６９頁参照

■野球競技普及振興事業の実施
各地区連盟又は加盟団体等が実施する野球教室、ティーボール教室に対する一部事業費の負担、講師の派遣等を実施する。
※加盟チームの協力を得て、幼稚園児を対象とするティーボール教室の全国一斉開催を実施する。
※３６９頁参照
※全国一斉ティーボール教室は、ｔｏｔｏ助成金の対象事業

■年間表彰事業
２０２６年度における優秀選手等を選考し、年間表彰式において表彰を行う。
期　日　12月９日（水）
会　場　ＫＫＲホテル東京

■能登半島地震・豪雨災害復興支援事業
２０２４年１月１日に発生した能登半島地震、同年９月23日から24日に発生した能登半島豪雨災害被災地の

復興の一助となることを目的とする事業を行う。

コ. 海外研修派遣事業

■アジアウインターリーグへのチーム及び審判員の研修派遣

ジュニア層のレベルアップを目的として選抜チームを派遣する。また、国際審判員の技術向上・研鑽を図るため、ＪＡＢＡ所属の国際審判員を派遣する。

期　間　11月中旬～12月中旬

開催地　台湾内各地

派　遣　ＪＡＢＡ選抜チーム（アスリート委員会が選考する）

国際審判員（規則・審判委員会が選考する）

サ. 国際的普及振興事業

■世界少年野球大会

一般財団法人世界少年野球推進財団（ＷＣＢＦ）との共催で実施する世界少年野球大会に際し、組織委員会及び実行委員会の要請に応じて、大会運営スタッフやインストラクターを派遣する。

期　間　調整中

会　場　調整中

■加盟全国団体国際大会等出場補助費

各加盟全国団体から国際大会にチームを派遣する事業に対する一部事業費の負担を行う。

※３６９頁参照

■アジア野球連盟加盟国等支援

世界野球ソフトボール連盟並びにアジア野球連盟加盟国等からの要請に応じて指導者の派遣や用具の支援を行う。

■国際野球大会等振興事業

国際野球大会並びに代表チームに関する情報発信や観客動員の促進を図るための事業を行う。

シ. 広報活動事業

■グランドスラム誌発行協力

社会人野球情報誌「グランドスラム」（年２回発行）の制作並びに週刊グランドスラム（毎週金曜日）の配信に協力する。

■２０２６年版日本野球連盟報の発行、配布

２０２５年度に実施した各大会や事業を中心にこの年度のＪＡＢＡに関わる情報を記録としてまとめる。制作部数は80部（予定）、配布先は当連盟関係先のみ。

デジタル版を制作し、公式ホームページ上に掲載する。

※ｔｏｔｏ助成金の対象事業

■公式ホームページ・ＪＡＢＡファンクラブの運営管理

インターネット公式ホームページを開設し、本連盟の概要や各種大会の速報等を発信する。また、ＪＡＢＡファンクラブ会員向け専用サイトを併せて設置し、会員向けサービスの充実化を図る。

※ｔｏｔｏ助成金の対象事業

■公式ＳＮＳからの情報発信

・ＪＡＢＡ公式ＹｏｕＴｕｂｅ「ＪＡＢＡ ｓｔａｔｉｏｎ」から配信する情報の充実化を図るため、動画の制作等を行う。

・公式ＳＮＳ（Ｆａｃｅｂｏｏｋ、Ｘ、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ）からの情報配信を行う。

ス. その他の事業

■公益財団法人日本スポーツ協会

日本スポーツ協会に対し代表者を選出し、加盟団体として必要とされる事業協力を行う。

■一般財団法人全日本野球協会（ＢＦＪ）

全日本野球協会に対し代表者を選出し、加盟団体として必要とされる事業協力を行う。

■公益財団法人野球殿堂博物館

野球殿堂博物館に対し代表者を選出し、加盟団体として必要とされる事業協力を行う。

■野球競技規則の制定に関する協議

規則・審判委員会を設置し、野球競技規則に関する協議を行う。また、ＢＦＪアマチュア野球規則委員会に代表者を派遣し、野球競技規則制定に関する協議に参画する。

■野球競技の競技施設、用器具等の指導及び公認に関する協議

ＢＦＪアマチュア野球規則委員会に委員を派遣し、競技施設、用器具等の指導及び公認に関する協議に参画する。

■アオダモ資源育成の会に対する協力

選手が使用する木製バットの資源育成のため「アオダモ資源育成の会」の事業に協力する。

■一般財団法人世界少年野球推進財団（ＷＣＢＦ）の事業に対する協力

世界少年野球推進財団に対し代表者を派遣し、同財団が主催する世界少年野球大会を共催で実施、また、その他の野球競技普及振興事業についても要請に応じて運営に協力する。

収益事業　公式グッズ及び野球に関する書籍等の販売

■公式グッズ等販売

ＪＡＢＡ公式グッズ並びに各大会グッズやプログラム等の販売を行う。

■野球に関する書籍等の販売

・グランドスラム誌の販売

社会人野球情報誌「グランドスラム」（年２回発行）をＪＡＢＡ加盟団体や加盟チーム等関係先に販売する。また、ＪＡＢＡ公式大会開催球場においても販売を行う。

・公認野球規則の販売

公認野球規則をＪＡＢＡ加盟団体や加盟チーム等関係先に販売する。

(3)　その他

■２０２６年度ＪＡＢＡ公式大会

・各地区連盟及び各加盟地方団体から届出のあった２０２６年度ＪＡＢＡ大会については、２０２５年12月10日開催の第４回臨時理事会において承認された。
※３７４頁から３８６頁参照

■野球競技の競技施設、用器具等の指導及び公認に関すること

２０２６年度における社会人野球の公式戦で使用するボールは以下に掲げる「ＪＡＢＡ公認ボール店」10社から申請があったボールとする。
イソノ運動具店、ミズノ、久保田運動具店、松勘工業、エスエスケイ、ゼット、一光スポーツ、ハイゴールド、サンアップ、大阪ホーマー以上10社とする。

■ＮＰＢ所属プロ球団との交流試合

「プロ・社会人交流試合の申し合わせ事項」に則り実施する。

■国内独立リーグ及びＮＰＢファーム参加球団との交流試合

国内独立リーグ球団並びにＮＰＢファーム参加球団との交流試合は、協定書に基づいて実施する。

■２０２６年度の各種負担金は以下のとおりとする。

①２０２６年度加盟団体負担金及び登録料

加盟地方団体負担金		
新加盟チーム加盟金		
加盟チーム負担金	会社登録チーム	20、000円
	クラブ登録チーム	10、000円
活動休止チーム負担金	会社登録チーム	20、000円
	クラブ登録チーム	10、000円
	会社登録チーム	10、000円
	クラブ登録チーム	5、000円
加盟全国団体負担金		
加盟全国団体加盟金		50、000円
加盟全国団体負担金		100、000円

登録料		
役員登録料		
競技者登録料		2、000円
		2、000円

②２０２６年度ＪＡＢＡ公式大会への参加料に関する件

２０２６年度におけるＪＡＢＡ公式大会に参加するチームの参加料は、主催する地区連盟又は加盟地方団体が定めることとする。ただし、他地区連盟の加盟チームの上限を１チーム15万円とする。

③ＪＡＢＡファンクラブの年会費

スタンダード会員：２、０００円
ゴールド会員：５、０００円

■加盟団体事務担当者会議の開催

事業計画の遂行及び普段の事務手続きや連絡調整業務の円滑化、登録システムの運用促進を図るため、各加盟団体事務担当者会議を開催する。

以上

2026年度各加盟団体補助費等の支給について

１．加盟全国団体（６団体）

⑴普及振興補助費　　各団体上限　20万円
※１事業に対する上限は10万円、複数の事業の申請がある場合の上限は20万円。

⑵国際大会出場補助費　　各団体　　10万円

⑶少年野球巡回指導　　要請に応じた人材を派遣する。

⑷中学硬式野球協議会関連事業
・各地区指導者講習会に対する支援
講演の動画配信、修了証を発行
・全国大会に対するＪＡＢＡ会長杯の贈呈

２．各地区連盟

⑴普及振興事業費　　各地区連盟の上限　50万円
※１事業に対する上限は10万円とする。
※支給の対象は、以下に掲げる事業内容とする。また、同じ目的の事業が複数ある場合の上限金額は、それぞれ記載のとおりとする。

※事業内容と支給の上限
①審判員、公式記録員、野球指導者の育成を目的とする事業　20万円
②新人選手の育成またはクラブチームのレベルアップを目的とする事業　10万円
③場内アナウンスの育成を目的とする事業　10万円
④地区連盟選抜チーム編成による他地区連盟との交流試合の実施　10万円

⑵都市対抗予選費
各地区連盟　160万円
各地区役員及び競技者登録料（2026年10月31日時点）合計×10％

⑶社会人野球日本選手権大会予選費
・日本選手権対象ＪＡＢＡ大会（11大会）に対し、支給する上限額はそれぞれ以下のとおりとする。
試合球　２打／試合
審判経費　２万円／試合
運営スタッフ費用　「一球速報.com」による試合速報の配信業務　２千円／試合
クロックボード操作業務　２千円／試合

⑷各地区クラブ大会開催費
１大会に対する支援費用の上限を100万円（税込）とする。（詳細は別途通知する。）

⑸ＪＡＢＡ大会記念事業費助成金
該当する大会の主催連盟は「ＪＡＢＡ大会記念事業費助成金の支給について」の要領に基づき申請することができる。
なお、２０２６年度の申請対象は２大会（東京スポニチ、高砂）。

⑹日本選手権対象大会派遣審判にかかる費用負担
審判員の技術向上を図るため、日本選手権対象大会への派遣の機会が少ない加盟地方団体所属の審判員の派遣数拡大を目的とし、かかる費用の一部を支給する。
対象とする地区連盟（東北、中国、九州）に別途通知する。

３．その他
⑴各地区連盟主催審判講習会に対するインストラクター派遣（各３名）
⑵各加盟地方団体審判講習会（地区連盟以外）へのインストラクター派遣（各１名）
⑶各地区連盟主催新人研修会への講師派遣（アスリート委員会委員２名まで）
⑷各地区クラブチーム技術研修会への講師派遣（アスリート委員会委員２名まで）
⑸各地区場内アナウンス講習会への講師派遣（アナウンス委員会委員１名）
⑹野球競技普及振興事業に対する支援
各地区連盟、各加盟団体、各加盟チームが実施するティーボール教室、野球教室に対する支援（詳細は別途通知する。）

以上

2026年度 第50回全日本クラブ野球選手権大会記念事業計画

１．基本方針
日本野球連盟では、第50回大会を記念大会と位置付けて、すべての地区及びクラブチームの士気向上に繋がる記念事業を実施する。

２．大会概要
出場チーム数を８増の24チームとし、準決勝・決勝を東京ドームで開催する。また、記念ロゴマークを活用した各種「ＰＲ企画」を通じて記念大会を盛り上げる。

⑴日程及び開催球場
■一回戦・二回戦・準々決勝（20試合）
【球場】
等々力球場（神奈川県川崎市）
俣野公園・横浜薬大スタジアム（神奈川県横浜市）
宇都宮清原球場（栃木県宇都宮市）
【期間】
2026年８月８日（土）～10日（月）（３日間）
■準決勝・決勝戦（３試合）

【球場】東京ドーム
【期日】2026年９月７日（月）
※都市対抗決勝戦の翌日。

⑵第50回大会記念ロゴマーク



３.「記念ロゴマーク」を活用した記念大会ＰＲ企画の実施

⑴趣旨

全日本クラブ野球選手権大会への出場を最大の目標に掲げているクラブチーム並びに所属選手、関係者に対し、第50回記念大会であることを強く認識してもらい、かつ、大会の注目度をより高めるため、「記念ロゴ」を制定し、本大会までの１年間をかけて様々な方法で多くの人々と共有し、つながりを深めることを目指す。

⑵記念大会ＰＲ企画内容

①大型ビジョンでの静止画掲出と場内アナウンス

東京ドーム（都市対抗期間中）のビジョンを通じて記念大会の概要（特に目玉となる準決勝・決勝は東京ドーム開催）をＰＲする。

②ステッカーの制作・貼付

クラブチームは2026年度シーズンから９月７日までの間、ヘルメットにステッカーを貼付する。

③記念大会概要ページ（ＰＤＦ版）の制作・展開

・ＪＡＢＡ公式サイトに掲載し、関係者がダウンロードできる環境に置く。

・パンフレット掲載

ＪＡＢＡ、各地区連盟、各加盟地方団体、各加盟チームが制作するプログラム等の印刷物に記載する。

・公式サイト及び公式ＳＮＳによる展開

各地区連盟、各加盟地方団体、各加盟チームが運営する公式サイトや公式SNSを通じて情報発信する。

④全クラブチームが参加できるイベントの実施

・キャッチフレーズの公募

キャッチフレーズをつけて大会をＰＲする。

・チームＰＲ動画コンテスト

30秒程度の動画を募集し、優秀作品はＪＡＢＡ公式サイトから公開する。

⑤クラブチームを支援する企業・団体等の参加企画

・記念ロゴマーク使用商品の制作・販売の募集

クラブチームを支援する企業や団体等を対象に記念ロゴマークを使用した商品の制作・販売を募集する。制作を希望する企業や団体等は、ＪＡＢＡに記念ロゴマーク使用申請を行い、許諾を受けることとする。（商品例：衣類、食糧品、飲料、お土産、イベントなど）ただし、記念ロゴマークの使用料は無料とする。

⑥ファンクラブコラボイベント

・クラブ野球レジェンド投票

クラブ選手権50年の中で印象に残っているチーム、選手、特定の場面など広く募集し、東京ドームで行われる準決勝・決勝において、披露する。または、決勝戦の始球式に招待する。

・記念大会使用球のゴム印のデザインの公募

第50回記念大会（23試合）で使用するボールに押印するゴム印のデザインを公募する。

４．費用について

記念大会にかかる概算費用は【別紙】のとおり。特定費用準備資金「第50回全日本クラブ野球選手権大会記念事業基金」を充当する。なお、同基金の2025年度期首残高は750万円。2025年度末までに積立額1000万円を目標としている。

以上

【別紙】

第50回全日本クラブ野球選手権大会記念事業費概算

収入の部	収入合計額見込(A+B)	通常開催収入(A)	記念事業関連収入(B)	備考
1 協賛金	400,000	400,000	0	
2 入場料	2,000,000	500,000	1,500,000	
⑴一回戦・二回戦・準々決勝	500,000	500,000	0	
⑵準決勝・決勝	1,500,000	0	1,500,000	※@1,000円×1500人で算定。
3 記念品・プログラム売上	300,000	300,000	0	
4 雑収入	100,000	100,000	0	
合　　計	2,800,000	1,300,000	1,500,000	

支出の部	費用合計額見込(A+B)	通常開催費用(A)	記念事業関連費用(B)	備考
1 参加チーム交通費補助	8,000,000	4,000,000	4,000,000	
⑴出場24チーム	6,000,000	4,000,000	2,000,000	8チーム増
⑵準決勝進出4チーム	2,000,000	0	2,000,000	準決勝進出4チームを対象
2 球場使用料	23,200,000	1,200,000	22,000,000	
⑴一回戦・二回戦・準々決勝	1,200,000	1,200,000	0	
⑵準決勝・決勝	22,000,000	0	22,000,000	
3 競技関係費	400,000	300,000	100,000	
⑴審判記録交通費	0	0	0	
⑵大会役員交通費	400,000	300,000	100,000	
⑶場内アナウンス交通費	0	0	0	
4 大会本部費	4,180,000	3,660,000	520,000	
(1)会議費	100,000	100,000	0	
⑵役員・スタッフ宿泊費等	1,300,000	1,200,000	100,000	
⑶理事日当	40,000	30,000	10,000	
⑷評議員日当	10,000	10,000	0	
⑸監事等日当	10,000	10,000	0	
⑹委員等日当	20,000	10,000	10,000	
⑺開催地地区連盟運営費(審判費用含む)	900,000	800,000	100,000	
⑻テレビ映像制作費	1,200,000	1,200,000	0	
⑼イベント運営費	600,000	300,000	300,000	記念ロゴを活用したPR企画含む
5 事務局費	200,000	200,000	0	
6 賞品・記念品	900,000	800,000	100,000	
7 傷害保険	200,000	200,000	0	
8 諸印刷費	900,000	800,000	100,000	
⑴プログラム制作費	600,000	600,000	0	
⑵その他印刷	300,000	200,000	100,000	入場券印刷
9 雑費	200,000	200,000	0	
合　　計	38,180,000	11,360,000	26,820,000	
収支差額	△35,380,000	△10,060,000	△25,320,000	

※東京ドームにおける入場料金は今後検討する。
※参加チーム交通費補助は、「実費×1/2」を社会人野球日本選手権大会予選費に計上し、クラブ選手権大会費用には残額「実費×1/2」の額を計上。
　また、準決勝に進出した4チーム分の交通費補助は全額を記念事業費に計上。
※特定費用準備資金「第50回全日本クラブ野球選手権大会記念事業基金」を充当する。

「NPB野球競技者登録システム」と「JABA登録システム」とのデータ連携について

日本野球機構（ＮＰＢ）は、2021年５月10日より運用している「ＮＰＢ野球競技者登録システム」（以下「ＮＰＢシステム」とする）の大規模改修（2026年度実施へ向けて計画中）に際して、ＪＡＢＡにデータ連携（社会人野球登録情報の提供）について協力を求めている。詳細は以下のとおり。

１．「ＮＰＢシステム」の概要と目的

「野球ねっと」と「野球手帳」で構成。日本における野球競技の振興を大目標として、国内の正確な野球人口の把握と属性（初めて野球チームに入ってから、成長していく過程でどのような経過を経ているか）のデータ化を目指している。

【野球ねっと】
団体、チーム、構成員（選手、指導者、スタッフなど）の登録を管理するシステム
⇒主な機能：チーム情報の登録管理、構成員情報の登録管理、大会エントリー、統計データ管理
【野球手帳】
「野球ねっと」に登録された個人（選手、指導者、スタッフなど）が自分で自分の記録を入力できるマイページシステム。
⇒主な機能：日誌・連絡機能、試合の記録、ケガ・検診・体力/技能テストの記録、スケジュール管理

２．ＮＰＢからＪＡＢＡへの要請事項

「ＮＰＢシステム」の目的から、ＪＡＢＡに登録している期間の情報の登録は不可欠であり、ＪＡＢＡが「ＪＡＢＡ登録システム」で管理している登録情報との連携（社会人野球の登録情報の提供）を要請している。

３．これまでの経緯の確認

・「ＮＰＢシステム」は、日本野球協議会が提唱しＮＰＢとして2016年から開発を開始。2021年より運用が始まった。2025年12月末時点で以下の７団体が参加している。
【参加中の７団体】
全日本野球協会、全日本大学野球連盟、日本高等学校野球連盟、全日本女子野球連盟、全日本軟式野球連盟、日本野球機構、日本リトルシニア中学硬式野球協会
・ＪＡＢＡは、ＮＰＢが開発を始めた時点で、すでに独自の登録システムにより登録情報管理が完了していたため、当初（第一段階）の運用には参加せず、その後の運用状況を見て将来的に検討することとした。
※「2018年度第２回臨時理事会（2018年７月13日開催）」において決議。
・ＮＰＢは、運用開始から５年経過し、７団体での運用が進んでいることもあり、次の段階へ向けた大規模改修を実施する計画である。また、この大規模改修においてＪＡＢＡの登録情報取り込みについてもシステム内に盛り込みたい意向があり、ＪＡＢＡに対し協議を申し入れたものである。

４．協議・確認事項

⑴「ＮＰＢシステム」参加（データ連携）後にＪＡＢＡとしての活用例
・統計データ閲覧
・野球手帳の利用

⑵ＪＡＢＡ登録システム改修及び作業内容
①ＮＰＢシステム側に必要な登録情報の配信
ＪＡＢＡ登録システム側にデータ抽出のためのシステム構築（改修）が必要。
②ＮＰＢシステムへのアクセス（統計データの閲覧、野球手帳アクセスＩＤの配布）
統計データ閲覧のために必要なＵＲＬの入手・共有。野球手帳アクセスのためのＩＤの配布。
※ＮＰＢシステムに初めて登録された個人に対して野球手帳のＩＤが発行される。発行されたＩＤをＪＡＢＡが受け取って当該チーム（または団体）を通じて本人に配布する。なお、高校・大学時代に発行されている者はすでにＩＤを持っているため新たな対応はない。

⑶ＪＡＢＡ登録システムから抽出・連携する情報（データ内容）
基本情報（連携スタート時点）発信
団体（ＪＡＢＡ・地区連盟・加盟地方団体）情報・階層構造

チーム情報・団体役員情報・競技者情報

変更情報発信（年１回の予定：ＮＰＢ内で検討中）

時期は、「６月中旬」（第１期登録期間完了後）または「９月中旬」（第２期登録期間完了後）のいずれかの時期に変更情報を発信。

※具体的な配信データの内容は、別途両団体のエンジニア間で確認する。

⑷個人情報の取扱について

データの連携にかかる個人情報については、競技者から同意書を申し受けの上、取り進める。

⑸ＪＡＢＡにかかる費用負担について

・ＪＡＢＡ登録システム側の改修費用

ＮＰＢシステムに必要とされるデータの抽出にかかるシステム構築の費用

・ＮＰＢシステムへの参加費用負担

１）初期費用（初年度のみ）：ＪＡＢＡが持つ基本情報の取り込みにかかる費用

２）ランニングコスト：年１回の抽出データの取り込みにかかる費用

※他の参加７団体はＮＰＢシステムが持つすべての機能を運用することから、登録者一人当たりの単価を設定し、人数に乗じた額を利用料という形で納付している。

※一方、ＪＡＢＡは、ＮＰＢシステム内のほとんどの機能がＪＡＢＡ登録システムの機能と重複しているため、利用する必要はない。統計データ閲覧及び野球手帳の活用のみとなる見込み。
ついては、利用料としてではなく、ＮＰＢシステムへの「ＪＡＢＡ登録情報の取り込み」にかかる作業費相当額がランニングコストとして提示される見込み。

※ＪＡＢＡ登録システムの改修にかかる費用は固定資産に計上、また、ＮＰＢシステムへの参加にかかる諸費用はプログラム維持費に計上する。

⑹今後の対応について

ＮＰＢシステムへの参加へ向けて、ＮＰＢと具体的な協議を開始する。

以上

2026年度JABA公式大会日程（2026年3月9日現在）

【1】ＪＡＢＡ主催大会

回数	大会名	期間	球場	チーム数（前回）
97	都市対抗野球	8/26～12日間	東京ドーム	32（32）
50	全日本クラブ野球選手権	8/8～3日間 9/7	１回戦～準々決勝：等々力球場、俣野公園・横浜薬大スタジアム、宇都宮清原球場 準決勝・決勝戦：東京ドーム	24（16）
51	社会人野球日本選手権	10/31～11日間※	京セラドーム大阪	32（32）

※11月11日（水）は予備日とする。また、日本シリーズの日程が順延又は第９戦が追加となった場合は、日本シリーズ開催が優先となる。

【2】ＪＡＢＡ各地区連盟主催大会

日本選手権対象ＪＡＢＡ大会

回数	大会名	期間	球場	チーム数（前回）	試合方式	組合せ発表予定
80	ＪＡＢＡ東京スポニチ	3/7～5日間	神宮球場・大田Ｓ・等々力球場	16（16）	ＬＴ	１月22日
72	ＪＡＢＡ静岡	4/2～5日間	浜松球場・ちゅ～るＳ清水	16（16）	ＬＴ	２月24日
54	ＪＡＢＡ四国	4/4～5日間	春野球場・日本トーター野球場	16（16）	ＬＴ	２月24日
68	ＪＡＢＡ岡山	4/13～5日間	マスカットＳ・倉敷市営球場	16（16）	ＬＴ	３月２日
48	ＪＡＢＡ日立市長杯	4/16～5日間	日立製作所Ｇ・常陸大宮市民球場・ひたちなか市民球場	16（16）	ＬＴ	３月２日

回数	大会名	期間	球場	チーム数（前回）	試合方式	組合せ発表予定
76	わかさ生活ＪＡＢＡ京都	4/21～6日間	わかさＳ京都・皇子山球場他	16（16）	ＬＴ	3月9日
67	ＪＡＢＡ長野	4/23～5日間	長野オリンピックＳ・佐久総合運動公園球場	16（16）	ＬＴ	3月9日
78	ＪＡＢＡベーブルース杯	4/27～5日間	ぎふしん長良川球場・大垣北公園球場	16（16）	ＬＴ	3月16日
78	ＪＡＢＡ九州	5/6～5日間	北九州市民球場・オーヴィジョンＳ下関	16（16）	ＬＴ	3月23日
56	ＪＡＢＡ東北 supported by 仙台ターミナルビル株式会社	5/9～5日間	仙台市民球場・石巻市民球場	16（16）	ＬＴ	3月23日
67	ＪＡＢＡ北海道	7/30～5日間	旭川スタルヒン球場・モエレ沼公園野球場	16（16）	ＬＴ	6月8日

各地区連盟主催ＪＡＢＡ大会（その他）

回数	大会名	期間	球場	チーム数（前回）	試合方式	組合せ発表予定
67	ＪＡＢＡ富山	4/10～4日間	富山市民アルペンＳ	12（10）	Ｔ	3月2日
68	ＪＡＢＡ新潟	5/1～4日間	ハードオフエコＳ新潟・みどりと森の運動公園野球場	12（12）	ＬＴ	3月23日
55	ＪＡＢＡ徳山	5/4～4日間	津田恒実メモリアルＳ	13（13）	Ｔ	3月23日
37	ＪＡＢＡ一関市長旗	7/18～2日間	一関・東山・花泉・室根各球場	16（16）	Ｔ	6月8日
65	ＪＡＢＡ広島	7月24～6日間	東広島アクアＳ	12（12）	ＬＴ⑦	6月15日
	ＪＡＢＡ高山市長旗	※球場改装のため中止。				
50	ＪＡＢＡ高砂	10/3～4・10～3日間	高砂市野球場	12（12）	ＬＴ⑦	8月24日
74	ＪＡＢＡ伊勢・松阪	10/14～5日間	ダイムＳ伊勢・ドリームオーシャンＳ	12（12）	ＬＴ	8月24日
43	ＪＡＢＡびわこ杯	10/23～4日間	調整中	16（12）	Ｔ⑦	8月24日

【3】ＪＡＢＡ各地区クラブ大会

回数	大会名	期間	球場	チーム数（前回）	試合方式
12	北海道地区クラブ選手権	9/12～13・19～4日間	栗山町民・モエレ沼・野幌各野球場	16（15）	Ｔ⑦
12	東北クラブカップ	8/1～2日間	調整中	8（8）	Ｔ
12	北信越クラブカップ	10/17～2日間	佐久総合運動公園野球場	6（6）	Ｔ
19	関東連盟クラブ選手権	10/10～2日間	アイルＳ浦和・岩槻川通公園野球場	8（8）	Ｔ
12	東海地区クラブ野球選手権	11/14～2日間	企業チーム球場	8（10）	Ｔ⑦
12	近畿クラブ会長杯	7/25～26・8/1～2・8～9・11	さとやくＳ・橿原運動公園野球場	16（16）	Ｔ⑦
12	中国・四国クラブ野球選手権（決勝トーナメント）	10/31	津田恒実メモリアルＳ	4（4）	Ｔ
21	九州クラブ野球選手権	10/17～2日間	調整中	8（8）	Ｔ

※Ｔ→トーナメント、Ｌ→リーグ戦、ＬＴ→リーグ戦・決勝トーナメント方式を採用、⑦→7イニング制を採用

JABA各地区連盟主催大会 出場チーム一覧

日本選手権対象ＪＡＢＡ大会

第80回JABA東京スポニチ大会		
3/7～5日間	神宮、大田S、等々力　16チーム	
東北	1	日本製紙石巻
関東	8	茨城日産、日本製鉄かずさマジック、JFE東日本、JR東日本、NTT東日本、セガサミー、明治安田、ENEOS
東海	2	JR東海、西濃運輸
近畿	3	パナソニック、YBSホールディングス、日本新薬
中国	1	JFE西日本
九州	1	西部ガス

第72回JABA静岡大会		
4/2～5日間	浜松、ちゅ～るS清水　16チーム	
東北	1	TDK
北信越	1	FedEx
関東	4	エイジェック、日本製鉄かずさマジック、Honda、東京ガス
東海	8	ヤマハ、東海理化、王子、三菱自動車岡崎、東邦ガス、日本製鉄東海REX、ジェイプロジェクト、Honda鈴鹿
近畿	1	日本製鉄瀬戸内
九州	1	沖縄電力

第54回JABA四国大会		
4/4～5日間	春野球場、日本トーター野球場　16チーム	
関東	3	日本通運、鷺宮製作所、三菱重工East
東海	1	西濃運輸
近畿	2	NTT西日本、日本生命
中国	3	日本製鉄山口、JR西日本、三菱自動車倉敷オーシャンズ
四国	3	四国銀行、JR四国、アークバリア
九州	3	JR九州、KMGホールディングス、Honda熊本
その他	1	高知ファイティングドッグス

第68回JABA岡山大会		
4/13～5日間	マスカットS、倉敷市営　16チーム	
関東	2	JFE東日本、JR東日本
東海	3	JR東海、トヨタ自動車、三菱自動車岡崎
近畿	2	三菱重工West、日本新薬
中国	6	三菱自動車倉敷オーシャンズ、シティライト岡山、JR西日本、JFE西日本、ツネイシブルーパイレーツ、伯和ビクトリーズ
四国	1	四国銀行
九州	2	西部ガス、日本製鉄九州

第48回JABA日立市長杯選抜野球大会		
4/16～5日間	日立製作所G、常陸大宮市民球場、ひたちなか市民球場　16チーム	
北海道	1	JR北海道硬式野球クラブ
東北	2	日本製紙石巻、トヨタ自動車東日本
関東	8	日立製作所、日本製鉄鹿島、SUBARU、エイジェック、NTT東日本、明治安田、テイ・エステック、東芝
東海	2	東邦ガス、東海理化
近畿	2	ニチダイ、ミキハウス
九州	1	佐伯市硬式野球団

わかさ生活第76回JABA京都大会		
4/21～6日間	わかさS京都・皇子山球場他　16チーム	
関東	3	Honda、セガサミー、ENEOS
東海	2	王子、ジェイプロジェクト
近畿	8	NTT西日本、日本生命、大阪ガス、パナソニック、日本製鉄瀬戸内、三菱重工West、YBSホールディングス、日本新薬
中国	2	ツネイシブルーパイレーツ、日本製鉄山口
九州	1	日産自動車九州

第67回JABA長野県知事旗争奪大会		
4/23～5日間	長野オリンピックS、佐久総合運動公園　16チーム	
東北	2	JR東日本東北、七十七銀行
北信越	5	FedEx、信越硬式野球クラブ、バイタルネット、ロキテクノ富山、IMF BANDITS 富山
関東	4	鷺宮製作所、東京ガス、日本通運、三菱重工East
東海	3	ヤマハ、日本製鉄東海REX、Honda鈴鹿
近畿	2	ミキハウス、アスミビルダーズ

第78回JABAベーブルース杯大会		
4/27～5日間	ぎふしん長良川、大垣北公園　16チーム	
北海道	1	北海道ガス
北信越	2	伏木海陸運送、IMF BANDITS富山
関東	4	SUBARU、日本製鉄かずさマジック、JR東日本、NTT東日本
東海	7	JR東海、トヨタ自動車、東邦ガス、三菱自動車岡崎、東海理化、ジェイプロジェクト、西濃運輸
近畿	1	ニチダイ
中国	1	JFE西日本

第78回JABA九州大会		
5/6～5日間	北九州市民、オーヴィジョンスタジアム下関　16チーム	
関東	4	日立製作所、Honda、日本通運、ENEOS
東海	2	王子、Honda鈴鹿
近畿	2	NTT西日本、日本製鉄瀬戸内
中国	1	JR西日本
九州	7	西部ガス、JR九州、KMGホールディングス、Honda熊本、宮崎梅田学園、日本製鉄九州、エナジック

第56回JABA東北大会 supported by 仙台ターミナルビル株式会社		
5/9～5日間	仙台市民、石巻市民　16チーム	
北海道	2	北海道ガス、日本製鉄室蘭シャークス
東北	5	日本製紙石巻、トヨタ自動車東日本、JR東日本東北、七十七銀行、TDK
北信越	2	バイタルネット、ロキテクノ富山
関東	4	日本製鉄鹿島、JFE東日本、鷺宮製作所、東芝
東海	1	ヤマハ
近畿	2	パナソニック、大阪ガス

第67回JABA北海道大会		
7/30～5日間	旭川スタルヒン、モエレ沼公園　16チーム	
北海道	4	JR北海道硬式野球クラブ、北海道ガス、日本製鉄室蘭シャークス、航空自衛隊千歳
東北	2	JR東日本東北、トヨタ自動車東日本
北信越	1	都市対抗出場チーム
関東	5	SUBARU、茨城トヨペット、東京ガス、三菱重工East、オールフロンティア
東海	2	トヨタ自動車、日本製鉄東海REX
近畿	2	日本生命、大阪ガス

JABA各地区連盟主催大会 出場チーム一覧

各地区連盟主催JABA大会（その他）

第67回JABA富山大会		
4/10～4日間	富山市民アルペンS　12チーム	
東北	1	エフコムBC
北信越	6	千曲川硬式野球クラブ、伏木海陸運送、ロキテクノ富山、IMF BANDITS富山、 Hard Ball Club金沢、佐久コスモスターズ硬式野球クラブ
関東	1	茨城トヨペット
東海	2	浜松ケイ・スポーツBC、岐阜硬式野球倶楽部
近畿	2	大和高田クラブ、ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校

第55回JABA徳山大会		
5/4～4日間	津田恒実メモリアルS　13チーム	
近畿	1	履正社スポーツ専門学校
中国	10	日本製鉄山口、山口防府ベースボールクラブ、三和テクノイノベーション、 航空自衛隊防府クラブ、岩国五橋クラブ、福山ローズファイターズ、 三原ヤッサベースボールクラブ、MSH医療専門学校、倉敷ビーチジャックス、MJG島根
四国	1	松山フェニックス
九州	1	熊本ゴールデンラークス

第68回JABA新潟大会		
5/1～4日間	ハードオフエコS新潟・みどりと森の運動公園　12チーム	
東北	3	TDK、マルハン北日本カンパニー硬式野球部、JR秋田
北信越	4	千曲川硬式野球クラブ、バイタルネット、IMF BANDITS富山、新潟選抜
関東	3	全足利クラブ、エイジェック、テイ・エステック
東海	1	寿々硬式野球クラブ
その他	1	調整中

第37回JABA一関市長旗争奪クラブ野球大会		
7/18～2日間	一関、東山、花泉、室根　16チーム	
東北	9	調整中
北信越	1	新潟コンマーシャル倶楽部
関東	6	日立ドリームス、CLUB　REBASE、西多摩倶楽部、調整中③

第65回JABA広島大会		
7月24～6日間	東広島アクアS　12チーム	
近畿	1	大和高田クラブ
中国	9	三菱自動車倉敷オーシャンズ、シティライト岡山、JFE西日本、伯和ビクトリーズ、 JR西日本、福山ローズファイターズ、ツネイシブルーパイレーツ、MSH医療専門学校、 日本製鉄山口
四国	1	四国銀行
九州	1	都市対抗九州地区予選代表チーム

JABA高山市長旗争奪大会
中止　※球場改装のため

第50回JABA高砂大会		
10/3～4・10～12　高砂　12チーム		
東海	1	寿々硬式野球クラブ
近畿	8	大阪ウイング硬式野球クラブ、NSBベースボールクラブ、マツゲン箕島硬式野球部、OBC高島、調整中④
中国	2	三原ヤッサベースボールクラブ、三和テクノイノベーション
四国	1	徳島野球倶楽部

第74回JABA伊勢・松阪大会		
10/14～5日間　ダイムS伊勢、ドリームオーシャンS　12チーム		
北信越	1	日本選手権出場チーム
関東	3	NTT東日本、調整中②
東海	6	ヤマハ、王子、東海理化、トヨタ自動車、Honda鈴鹿、西濃運輸
近畿	2	日本選手権出場チーム

第43回JABAびわこ杯大会		
10/23～4日間　調整中　16チーム		
北信越	1	Hard Ball Club 金沢
関東	2	全府中野球倶楽部、調整中①
東海	2	焼津マリーンズ、BASE BALL ONE BLITZ
近畿	8	BASEBALL ONE YAO.BC、マツゲン箕島硬式野球部、ムラチグループ、ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校、調整中④
中国	2	倉敷ピーチジャックス、山口防府ベースボールクラブ
四国	1	アークバリア

第97回都市対抗野球大会各地区予選

1次予選

地区･県	期　日	球　　場	参加数	代表数	試合方式
北海道	5/16～18･23～24	栗山･野幌･北ガス	20	4	トーナメント･敗者復活
青森	5/17	岩木山総合公園野球場	3	1	リーグ戦
秋田	5/16～17･23～24	さきがけ八橋球場･未定	11	2	トーナメント
岩手	5/9～10･16～17･22～24	花巻球場､きたぎんボールパーク他	19	3	トーナメント･敗者復活
山形	5/23	鶴岡ドリームスタジアム	4	1	トーナメント
宮城	4/18･5/30～3日間	名取市民球場､仙台市民球場	11	4	トーナメント･敗者復活
福島	5/9～10･16	県営あづま	9	1	トーナメント
長野	5/29～3日間	長野オリンピックスタジアム	6	3	トーナメント･敗者復活
新潟	5/23～24･30	みどりと森の運動公園	9	2	トーナメント
富山･石川	5/23～3日間	富山市民球場（アルペンスタジアム）	5	3	トーナメント･敗者復活
群馬	5/2～2日間	太田市運動公園	5	1	トーナメント
栃木	4/18～19･25～26	エイジェックさくら球場･ジェットブラックフラワーズスタジアム	8	2	トーナメント
茨城	5/23～24･30～31･6/20～22	常陸大宮市民	14	5	トーナメント
埼玉	4/25～26･29･5/2･9･19･21	アイルS･川通･県営	16	4	トーナメント
千葉	4/18～19･25～26･5/28～31	長生の森･県総合SC	11	4	トーナメント･敗者復活
東京	4/25･5/2～5	府中市民球場	16	2	トーナメント

地区・県	期　日	球　　場	参加数	代表数	試合方式
神奈川	4/25～26・29・5/3～4	等々力	12	4	トーナメント
山梨	4/4～2日間	山日YBS	6	2	トーナメント
静岡	4/18～2日間	静岡西ヶ谷球場	6	1	トーナメント
愛知	4/18～2日間	トヨタスポーツセンター	5	1	トーナメント
岐阜・三重	4/18	大垣北公園	4	1	トーナメント
滋賀	4/4～2日間	カローラ滋賀はちまんスタジアム	7	1	トーナメント
京都	4/4～5・11	太陽が丘	8	1	トーナメント
奈良	3/21～22・28～29・4/4	さとやくスタジアム、橿原市運動公園	10	1	トーナメント
京都・滋賀・奈良	5/7	わかさS京都	3	2	リーグ戦
大阪・和歌山	4/6～3日間	日本生命S	9	1	トーナメント
兵庫	4/4～6・11～12・14	G7スタジアム神戸・高砂市野球場	9	2	トーナメント・敗者復活
岡山・島根	5/29～5日間	マスカットS	7	2	トーナメント・敗者復活
広島	5/23～3日間	エブリイ福山市民	9	5	トーナメント
山口	5/23～2日間	津田恒美メモリアルS	5	1	トーナメント
四国	6/7～8・12～14	レクザムボールパーク丸亀	6	4	リーグ戦
福岡	4/11～12・25～27	日産スターグラウンド、タマホームスタジアム筑後	11	3	トーナメント
中九州 （佐賀・熊本・大分・長崎）	4/25～3日間	山鹿市民球場	7	4	トーナメント
南九州 （宮崎・鹿児島）	4/11～4日間	YOSHIKOUスタジアム伊集院	6	2	トーナメント・敗者復活
沖縄	4/20～5日間	ANA BALL PARK 浦添	6	2	トーナメント・敗者復活

２次予選

地区・県	期　日	球　　場	参加数	代表数	試合方式
北海道	6/2～3日間	大和ハウス プレミストドーム	4	1	トーナメント・敗者復活
東北	6/18～21・26～28	あづま球場、ヨーク開成山スタジアム、しらさわグリーンパーク野球場	12	2	トーナメント・敗者復活
北信越	6/25～4日間	三条パール金属スタジアム	8	1	トーナメント
北関東	7/6～7日間	日立市民球場	8	2	トーナメント・敗者復活
南関東	6/15～7日間	県営大宮	8	2	トーナメント・敗者復活
東京	6/12～13・15～18・20・22・29～30・7/1・6～7	大田スタジアム、明治神宮野球場	9	5	トーナメント・敗者復活
西関東	6/1～3・9～12	横浜S・等々力	10	2	トーナメント・敗者復活
東海	5/28～17日間	岡崎レッドダイヤモンドS	14	6	トーナメント・敗者復活
近畿	6/2～5・8～18・23～25	わかさS京都、大阪シティ信用金庫スタジアム	14	5	トーナメント・敗者復活
中国	6/22～6日間	電光石火きんさいスタジアム三次	8	2	トーナメント・敗者復活
四国	6/27～2日間	レクザムボールパーク丸亀	4	1	トーナメント
九州	5/30～7日間	リブワーク藤崎台・山鹿市民球場	12	2	トーナメント・敗者復活

第51回社会人野球日本選手権大会各地区最終予選

地区・県	期　日	球　　場	参加数	代表数	試合方式
北海道	10/2～3日間	大和ハウス プレミストドーム	4	1	トーナメント・敗者復活
東北	10/1～4日間	仙台市民、石巻市民	9	1	トーナメント
北信越	10/2～3日間	富山市民球場（アルペンスタジアム）	7	1	トーナメント
関東	10/1～5日間	等々力・ゼットエーBP	25	4	トーナメント
東海	9/24～10日間	ぎふしん長良川球場	11	3	トーナメント・敗者復活
近畿	調整中	わかさS京都 他（調整中）	18	4	トーナメント・敗者復活
中国	10/3～6日間	津田恒美メモリアルスタジアム	9	2	リーグ戦・トーナメント
四国	10/6～3日間	日本トーター野球場	2	1	3戦2勝方式
九州	10/3～5日間	北九州市民球場・オーヴィジョン下関	14	2	トーナメント・敗者復活

第50回全日本クラブ野球選手権大会各地区予選

1次予選

地区・県	期　日	球　　場	参加数	代表数	試合方式
青森	6/21	はるか夢球場	3	1	リーグ戦
秋田	6/6～2日間	調整中	8	1	トーナメント
岩手	5/30～31・6/6～7	一戸町総合運動公園、野田村ライジング・サン・スタジアム他	20	3	トーナメント・敗者復活
山形	6/6	新庄市民球場（予定）	4	1	トーナメント
宮城	6/6～7・13	石巻市民球場	7	2	トーナメント
福島	5/30～2日間	天狗山・ヨークいわき	9	2	トーナメント
長野	6/6	佐久総合運動公園野球場	3	2	トーナメント
新潟	5/9・16～2日間	みどりと森の運動公園	7	3	トーナメント
富山・石川	5/9	県営富山野球場	2	1	トーナメント
群馬	5/2～2日間	太田市運動公園	4	2	トーナメント
栃木	5/9～10・16～17	調整中	8	3	トーナメント
茨城	5/1～3日間	常陸大宮市民	9	2	トーナメント
埼玉	4/25～26・29・5/2～5	アイルS・川通	12	2	トーナメント
千葉	5/2～3日間	長生の森公園球場	8	2	トーナメント
東京	調整中	調整中	16	2	トーナメント
神奈川	都市対抗1次予選と兼ねる		12	3	トーナメント
山梨	6/6～2日間	山日YBS	6	2	トーナメント
静岡	5/16～2日間	調整中	6	3	トーナメント・敗者復活
愛知	5/16～2日間	企業チーム球場	5	3	トーナメント・敗者復活
岐阜・三重	5/16	大垣北公園野球場	4	2	トーナメント
滋賀	6/6～2日間	湖東スタジアム	5	1	トーナメント
京都	4/18～19・5/16～17	太陽が丘・横大路	7	1	トーナメント

地区・県	期　日	球　　場	参加数	代表数	試合方式
奈良	5/16～17・23・31・6/28	さとやくスタジアム、橿原市運動公園	9	1	トーナメント
大阪・和歌山	6/6・7・13・14・20	花園セントラル、久宝寺球場他	7	2	トーナメント・敗者復活
兵庫	5/2～5日間	高砂市野球場	6	2	トーナメント・敗者復活
岡山・島根	5/16	美咲町エイコンS	12	3	トーナメント
広島	5/30	調整中	12	3	トーナメント
山口	6/13	津田恒実メモリアルS	12	3	トーナメント
四国	1次予選の開催無し				
福岡	5/16～18・23～25	北九州市民球場	9	3	トーナメント
中九州（佐賀・熊本・大分・長崎）	5/17・24	日本製鉄九州明野球場	4	2	トーナメント
南九州（宮崎・鹿児島）	5/9 or 5/16	調整中	3	1	トーナメント
沖縄	5/16	沖縄セルラースタジアム那覇	4	2	トーナメント

２次予選

地区・県	期　日	球　　場	参加数	代表数	試合方式
北海道	6/13～14・20～21・27～28	栗山・モエレ・野幌	16	2	トーナメント
東北	7/3～3日間	石巻市民球場、女川町総合運動公園野球場	10	4	トーナメント・敗者復活
北信越	6/20～2日間	長野オリンピックスタジアム	8	2	トーナメント
関東	6/6～2日間	ジェットブラックフラワーS、エイジェックさくら、浦安市運動公園	18	6	トーナメント
東海	6/27～28・7/4～5	企業チーム球場	8	2	トーナメント
東近畿（京滋奈）	7/4	カローラ滋賀はちまんスタジアム	3	2	リーグ戦
西近畿（大和兵）	7/4～2日間	大阪ガス今津総合G	5	2	トーナメント・敗者復活
中国	7/11	佐伯総合スポーツ公園野球場	3	1	トーナメント
四国	7/11～3日間	マドンナS	3	1	リーグ戦
九州	7/4～3日間	佐賀みどりの森球場、嬉野総合運動公園みゆき球場	8	2	トーナメント

各地域（地区・都道府県）大会

《北海道》

主　催	大　会　名（正式名称）	期　　日	球　　場	チーム数	試合方式	7イニング制
北海道	第78回JABA北海道結成記念大会	7/11～2日間	千歳市民	8	トーナメント	○

《東北》

主　催	大　会　名（正式名称）	期　　日	球　　場	チーム数	試合方式	7イニング制
東北	第9回東北社会人・大学対抗戦	3/28～2日間	仙台市民	12	交流戦	
東北	第32回JABA東北地区連盟会長旗争奪大会	10/16～3日間	こまちスタジアム、さきがけ八橋球場	14	トーナメント	○（一部）

主　催	大　会　名(正式名称)	期　　日	球　　場	チーム数	試合方式	7イニング制
東北	JABA北海道地区・東北地区交流戦	10/20～2日間	石巻市民球場	2	交流戦	
青森	第37回JABA青森市長旗争奪野球大会	調整中	青森県営球場	6	トーナメント	○
青森	第12回JABA弘前市長杯野球大会	調整中	岩木山総合公園野球場	6	トーナメント	○
秋田	第78回JABA秋田春季大会	4/17～3日間	こまちスタジアム、 さきがけ八橋球場	11	トーナメント	○
秋田	第12回JABA東北クラブカップ秋田県大会	7/11～2日間	水林グリーンスタジアム、未定	7	トーナメント	○
秋田	第43回魁星旗争奪社会人野球大会 兼第76回JABA秋田秋季大会	9/11～3日間	調整中	11	トーナメント	○
岩手	第6回JABA三陸沿岸クラブ大会	4/25～2日間	東北ヒロセ、山田町民 運動公園	6	リーグ戦・ 決勝トーナメント	○
岩手	第12回JABA東北クラブカップ 岩手県予選 兼 第50回全日本クラブ選手権大会 岩手県1次予選代表決定と兼ねる(同大会準決勝敗退チームが東北クラブカップ代表)	5/30～5/31・ 6/6～7	一戸町総合運動公園、 野田村ライジング・サン・ スタジアム、洋野町オーシャン・ ビュー・スタジアム	20	トーナメント	
岩手	第61回JABA岩手県知事旗争奪大会	8/22～2日間	洋野町オーシャンビューS、 野田村ライジング・サン・ スタジアム	6～8	トーナメント	
岩手	第33回JABA岩手県定期リーグ戦大会	9/9	きたぎんボールパーク	3	トーナメント	
岩手	第32回JABA東北地区連盟 会長旗争奪岩手県予選大会(クラブ)	9/19～20・ 26～27	前沢いきいき、花泉、東山、 大東、室根	20	トーナメント	
岩手	第29回JABA北上市長杯争奪大会	10/10～2日間	きたかみしんきんボールパーク、 しんきん森山スタジアム	10	トーナメント	
岩手	第63回JABA毎日旗争奪 兼 第26回JABA岩手県 アマチュア王座決定戦	10/25～2日間	楽天イーグルス奇跡の一本松球場(高田松原運動公園第一野球場)	6	トーナメント	○
宮城	第34回JABA宮城県野球協会会長杯大会	7/24・9/12 ～2日間	名取市民球場、石巻市民	11	トーナメント	
福島	第29回JABA福島市長杯争奪大会	5/2～3日間	県営あづま	12	トーナメント	○
福島	第18回JABA福島県野球協会長杯 兼 第12回JABA東北クラブカップ 福島県予選	7/18～19	天狗山、ヨークいわき	8	トーナメント	○
福島	第17回JABAスポニチ福島支局杯 選抜大会	9/12～2日間	しらさわグリーンパーク	6	トーナメント	○
福島	第20回JABA毎日新聞社杯選抜大会	10/10～3日間	県営あづま	10	トーナメント	○

《北信越》

主　催	大　会　名(正式名称)	期　　日	球　　場	チーム数	試合方式	7イニング制
長野	第5回高山久男杯争奪長野県 社会人選手権大会	5/16～2日間	長野オリンピックスタジアム	6	トーナメント	○
長野	第12回北信越クラブ野球選手権 一次予選長野県大会	8/21～2日間	佐久総合運動公園野球場	4	トーナメント	
新潟	第12回JABA北信越クラブカップ大会 第1次新潟県予選	9/12～2日間	みどりと森	7	トーナメント	
新潟	第6回髙橋勇四郎会長杯争奪大会	9/26～2日間	みどりと森	8	トーナメント	○
富山	第116回JABA富山県リーグ戦	3/28	富山市民アルペンS	3	リーグ戦	○

主　催	大　会　名(正式名称)	期　　日	球　　場	チーム数	試合方式	7イニング制
富山	第12回JABA北信越クラブカップ 第一次予選石川・富山県大会	9/19	県営富山野球場	2	トーナメント	
富山	第116回JABA金獅子旗争奪 富山県大会	10/10	富山市民アルペンS	3	リーグ戦	
石川	第17回北陸3県社会人・大学交流戦	7/4	志雄球場または津幡球場	6	対抗戦	
石川	第15回北陸アマチュア野球オールスター戦	7/5	志雄球場または津幡球場	2	決定戦	
石川	第11回清水紀良杯争奪大会	11/7～8	金沢市民野球場	4	トーナメント・三位決定	

《関東》

主　催	大　会　名(正式名称)	期　　日	球　　場	チーム数	試合方式	7イニング制
関東	令和8年度・第53回社会人野球・ 東京六大学野球対抗戦	3/28～3日間	神宮球場	6	対抗戦	
関東	第67回JABA足利市長杯大会	4/3～3日間	ジェットブラックフラワーズS	8～10	トーナメント	
関東	第35回JABA山梨県知事杯争奪 社会人クラブ野球関東甲信越大会	10/10～3日間	山日YBS・南アルプスジットS	10	トーナメント	
群馬	第49回 群馬県クラブ野球選手権大会 兼第18回 JABA関東連盟クラブ選手権予選	8/29～2日間	太田市運動公園	4	トーナメント	
栃木	第18回SLの走る街「コットンカップ」 大会	10/24～25・31 ～11/1	真岡ハイトラ運動公園 市民球場	14～16	トーナメント	○
茨城	第19回JABA関東クラブ選手権大会 茨城県予選	9/11～3日間	調整中	9	トーナメント	
埼玉	埼玉県春季クラブ選手権	3/14～15・22	アイルS・川通	12	トーナメント	
埼玉	第19回関東連盟クラブ選手権埼玉県予選	6/13～14・27	アイルS・川通	12	トーナメント	
埼玉	第34回埼玉県会長杯・第5回クラブ チャンピオンシップ	9/12～13・19 10/3～4	アイルS・川通	16	トーナメント	
千葉	第8回JABA千葉県クラブ春季大会	3/14～15・21・ 28～29	長生の森公園 他	8	トーナメント・順位決定 戦	
千葉	第16回JABA千葉県知事杯 兼 第19回JABA関東連盟 クラブ選手権大会 千葉県予選	7月～8月	長生の森公園 他	8	リーグ戦・順位決定戦	
東京	2026年JABA東京都企業春季大会	3/19～4日間	大田S	7	トーナメント・リーグ戦	
東京	2026年JABA東京都クラブ春季大会 兼第50回全日本クラブ野球選手権大会東京予選	4/4～5・11～ 12・5/9	あきる野市民球場、 NTT東日本G	16	トーナメント	
東京	第19回関東クラブ選手権予選	4/25～26・29・ 5/2～3	府中市民球場	16	トーナメント	
東京	2026年JABA東京都企業秋季大会	9/14～4日間	調整中	7	トーナメント・リーグ戦	
東京	2026年JABA東京都クラブ秋季大会	調整中	調整中	16	トーナメント	
神奈川	2026年JABA春季神奈川県企業大会	3/17～3日間	等々力球場	4	リーグ戦	
神奈川	2026年JABA春季神奈川県クラブ大会	3/20～3日間	相模原球場・保土ヶ谷球場	12	トーナメント方式	
神奈川	第19回JABA関東クラブ選手権大会 神奈川県予選	調整中	相模原球場	12	トーナメント方式	
神奈川	第11回神奈川県交流戦	調整中	調整中	未定	未定	
神奈川	2026年JABA秋季神奈川県企業大会	調整中	等々力球場	4	リーグ戦	
山梨	第53回JABA春季大会 兼 南アルプス市長杯	5/9～2日間	南アルプスジットスタジアム	6	トーナメント	

主　催	大　会　名(正式名称)	期　　日	球　　場	チーム数	試合方式	7イニング制
山梨	第19回JABA関東連盟クラブ選手権大会 山梨県予選	8/22～2日間	富士北麓	6	トーナメント	
山梨	山梨県体育祭り	8/30･9/5～6	山日YBS	6	トーナメント	○

《東海》

主　催	大　会　名(正式名称)	期　　日	球　　場	チーム数	試合方式	7イニング制
東海	第25回東海社会人･愛知大学対抗戦	3/13～3日間	岡崎レッドダイヤモンドS	12	対抗戦	
東海	2026年JABA東海地区春季大会	3/19～5日間	岡崎レッドダイヤモンドS	11	トーナメント	
静岡	第8回静岡県知事杯 社会人･大学対抗戦	3/7～2日間	ヤマハ、ちゅ～るスタジアム清水	8	トーナメント	○
静岡	2026年JABA静岡県クラブ大会	3月～10月	静岡西ヶ谷、草薙、浜松	6	リーグ戦	
静岡	第12回JABA東海地区クラブ野球選手権大会 静岡県予選	9/12～2日間	調整中	6	トーナメント	○
愛知	第24回JABA愛知県野球連盟会長杯争奪大会	7/18～3日間	企業チーム球場	13	トーナメント	○
愛知	第12回JABA東海地区クラブ野球選手権大会 愛知県予選	9/12～2日間	企業チーム球場	5	トーナメント･敗者復活	○
岐阜	第12回JABA東海地区クラブ野球選手権大会 岐阜県･三重県予選	9/12	調整中	4	トーナメント	○
岐阜	第3回JABA岐阜クラブ強化交流戦	4月～11月	調整中	3	総当たり	
三重	第6回三重県知事杯争奪社会人･大学野球選手権大会	8/1～2日間	ホンダドリームS	8	トーナメント	○

《近畿》

主　催	大　会　名(正式名称)	期　　日	球　　場	チーム数	試合方式	7イニング制
滋賀	第12回 JABA近畿クラブ会長杯 兼第50回全日本クラブ野球選手権大会滋賀予選	6/6～2日間	湖東スタジアム　他	5	トーナメント	
滋賀	第8回　JABA西日本地区専門学校硬式野球大会	8/22～3日間	カローラ滋賀はちまんスタジアム　他	8	リーグ戦･決勝トーナメント	○
滋賀	第14回滋賀県野球連盟社会人･大学野球交流大会	11/7～2日間	カローラ滋賀はちまんスタジアム　他	8	トーナメント	○
京都	第157回社会人野球京都府春季大会	3/14～15･20～22	わかさスタジアム京都	12	トーナメント	
京都	第158回社会人野球京都府秋季大会兼府民総体	10/10～12･17	太陽が丘球場	8	トーナメント	
京都	第17回京都クラブリーグ	5月～11月	太陽が丘球場、横大路球場	7	リーグ戦	
奈良	奈良県知事杯第30回JABA大学･社会人野球大会	10/24～25･31･11/3･14～15･22･28	さとやくS、橿原運動公園	16	変則トーナメント	
大阪	2026年度 JABA大阪府･和歌山県連盟春季大会	3/14～15･20～22	パナソニックBBS	14	トーナメント	○
大阪	第18回 JABAクラブリーグ大阪大会	7月～11月	公営球場、履正社箕面G他	7	リーグ戦	
兵庫	2026年度JABA兵庫県春季大会 兼 第71回神戸新聞杯争奪大会	3/13～6日間	G7スタジアム神戸	11	トーナメント	
兵庫	第58回姫路市長杯 兼 2026年度JABA兵庫県秋季大会	8/10･12～6日間	ウインク球場（姫路）	13	トーナメント	
兵庫	第22回兵庫県知事杯争奪社会人･大学大会	11/7～5日間	明石トーカロ球場	10	トーナメント	

《中国》

主　催	大　会　名(正式名称)	期　　日	球　　場	チーム数	試合方式	7ｲﾆﾝｸﾞ制
岡山･島根	第29回社会人･大学対抗野球大会	3/14～3日間	マスカットS	14	対抗戦	
岡山･島根	第12回JABA中国･四国クラブ野球選手権大会 岡山･島根県予選	8/22	美咲町エイコンS	3	リーグ戦	○
岡山･島根	第16回JABA岡山県･島根県選手権大会	10/17～2日間	美咲町エイコンS	7	トーナメント	
広島	第73回JABA松本瀧蔵旗野球大会 兼 第61回JABA三浦芳郎旗争奪大会	3/20～3日間	やまみ三原市民	9	トーナメント	
広島	第12回JABA中国･四国クラブ野球選手権大会 広島県予選	9/12･19	佐伯総合スポーツ公園野球場	5	トーナメント	
山口	令和8年度JABA毎日杯･知事杯	3/20～2日間	津田恒実メモリアルS	5	トーナメント	
山口	第55回JABA徳山大会	5/4～4日間	津田恒実メモリアルS	13	トーナメント	
山口	第12回JABA中国･四国クラブ野球選手権山口県予選	9/5	津田恒実メモリアルS	4	トーナメント	

《四国》

主　催	大　会　名(正式名称)	期　　日	球　　場	チーム数	試合方式	7ｲﾆﾝｸﾞ制
四国	第54回春季四国社会人野球	3/7～2日間	むつみスタジアム	6	トーナメント	
四国	第22回子規杯	4/25～2日間	坊っちゃんスタジアム	4	トーナメント	
四国	第12回中･四国クラブ野球選手権四国予選	10月17日	マドンナスタジアム	3	リーグ戦	

《九州》

主　催	大　会　名(正式名称)	期　　日	球　　場	チーム数	試合方式	7ｲﾆﾝｸﾞ制
福岡	福岡県野球連盟会長杯	3/20～3日間	SGマリンフィールド東浜、日産スターG	15	トーナメント	
福岡	第21回JABA九州クラブ野球選手権福岡県予選	8月中旬～下旬	北九州市民	9	トーナメント	
福岡	第4回福岡県社会人野球交流戦	調整中	調整中		トーナメント	
熊本	第15回JABA古田昌幸杯	3/20～3日間	山鹿市民球場、Honda熊本G	8	トーナメント	
大分	第21回JABA九州クラブ野球選手権中九州予選	9/20	日本製鉄明野	4	トーナメント	
大分	第16回JABA大分県選手権大会	10/24	日本製鉄明野	4	トーナメント	○
佐賀	第21回九州クラブ野球選手権中九州予選	9/19 or 9/26	別大興産スタジアム(調整中)	4	トーナメント	
宮崎	第20回JABA宮崎県野球連盟杯	5/23	調整中			
宮崎	第17回宮崎市長杯社会人･大学野球選手権大会	11/21～3日間	調整中		トーナメント	
宮崎	第20回JABA宮崎県野球連盟杯	5/23	延岡市西階球場or宮崎市内球場	3	リーグ戦	
宮崎	第16回宮崎市長杯社会人大学野球選手権大会	11月21日～3日間	久峰球場	7	トーナメント	
鹿児島	第21回九州クラブ野球選手権大会南九州予選	9月中旬頃	調整中	3	トーナメント	
鹿児島	第10回鹿児島県社会人･大学交流野球大会	11/21～3日間	調整中	6	トーナメント	
沖縄	第44回JABA石川蓬篤杯争奪硬式大会	3/20～4日間	ANA BALL PARK浦添	11	トーナメント	
沖縄	第21回JABA九州クラブ選手権沖縄県予選	9月中旬予定	調整中	4	トーナメント	
沖縄	第34回JABA RBC杯争奪硬式大会	10月下旬予定	調整中	11	トーナメント	

写真提供

毎日新聞社
毎日フォトサービス

2026年日本野球連盟連盟報
【非売品】
2026年6月
発行人　清野　智
編　集　谷田部和彦　岸田　英志

発行所　公益財団法人　日本野球連盟
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
パレスサイド1階
電話03(3213)6776(代表)
制　作　毎日新聞社
印　刷　株式会社毎栄

マツゲン有田球場







所在地

特定非営利活動法人　和歌山箕島球友会
有田市社会体育施設　施設管理運営部門　事務局
〒649-0316
和歌山県有田市宮崎町2497-2 マツゲン有田球場内
TEL0737-82-0701　FAX0737-82-0702
※電話対応時間　午前 9 時～午後 5 時半
HP　https://w-minoshima.or.jp/yakyuu/
E-mail shisetukanri@w-minoshima.or.jp

規　模

両翼　98m
中堅　122m
スタンド収容人数　6，300人

仕　様

内野　黒土
外野　人工芝

付帯設備

本部　記録室　審判室　記者室　会議室
車いす専用観覧室　給湯室　更衣室(4室)
シャワールーム　スコアボード(電光掲示板)

設備器具

バッティングゲージ　防球ネット　収球ネット
投手用ネット　など

駐車場

170台(大型バス駐車可能)
料金無料

休場日

月曜日
年末年始(12月29日～1月4日)

使用時間

午前9時～午後 5 時
上記時間外を使用する場合はご相談ください

利用料

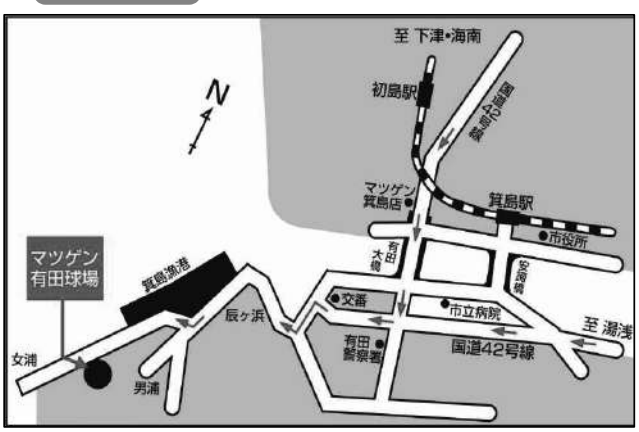
◆利用料金につきましては、上記事務所まで問い合わせ下さい。

使用申請

◆申請方法につきましては、上記事務所まで問い合わせ下さい。



案内図



駆けろ、
森とともに。



森は、私たちの原点です。
木を使う者は、木を植える。
100年以上、その約束を守り続けてきました。

地球の気候が変わりつつある今、
次なる力をくれるのは、森です。
再生可能な木質資源からつくりだす
プラスチックやパッケージ。
ほかにもきっと。これから、もっと。

化石資源に頼ってきた、
モノづくりそのものを変える。
本当に持続可能な社会へ。
世界の転換点は、今だ。

加速してゆく、成長を止めない、
駆けろ。私たちには、森がある。

王子ホールディングス

森からはじまる循環をつくる。

王子の“今”がわかる！
王子グループコミュニケーションフィールド
「OJI TODAY」